

**IBM DB2 10.1
for Linux, UNIX, and Windows**

**メッセージ・リファレンス
第 2 巻**

IBM

**IBM DB2 10.1
for Linux, UNIX, and Windows**

**メッセージ・リファレンス
第 2 巻**



ご注意

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、953 ページの『付録 B. 特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書には、IBM の専有情報が含まれています。その情報は、使用許諾条件に基づき提供され、著作権により保護されています。本書に記載される情報には、いかなる製品の保証も含まれていません。また、本書で提供されるいかなる記述も、製品保証として解釈すべきではありません。

IBM 資料は、オンラインでご注文いただくことも、ご自分の国または地域の IBM 担当員を通してお求めいただくこともできます。

- オンラインで資料を注文するには、IBM Publications Center (<http://www.ibm.com/shop/publications/order>) をご利用ください。
- ご自分の国または地域の IBM 担当員を見つけるには、IBM Directory of Worldwide Contacts (<http://www.ibm.com/planetwide/>) をお調べください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックslashと表示されたり、バックslashが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： SC27-3880-00
IBM DB2 10.1
for Linux, UNIX, and Windows
Message Reference Volume 2

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

第1刷 2012.4

© Copyright IBM Corporation 2012.

目次

第 1 部 メッセージの概要	1	第 21 章 SQL20500 - SQL20999	811
第 2 部 SQL メッセージ	5	第 22 章 SQL21000 - SQL21499	827
第 1 章 SQL0000 - SQL0499	7	第 23 章 SQL22000 - SQL22499	829
第 2 章 SQL0500 - SQL0999	107	第 24 章 SQL27500 - SQL27999	845
第 3 章 SQL1000 - SQL1499	187	第 25 章 SQL29000 - SQL29499	855
第 4 章 SQL1500 - SQL1999	305	第 26 章 SQL30000 - SQL30499	859
第 5 章 SQL2000 - SQL2499	379	第 27 章 SQL32500 - SQL32999	879
第 6 章 SQL2500 - SQL2999	423	第 3 部 SQLSTATE メッセージ	881
第 7 章 SQL3000 - SQL3499	473	第 4 部 通信エラー (メッセージ SQL30081N)	929
第 8 章 SQL3500 - SQL3999	523	第 5 部 付録	939
第 9 章 SQL4000 - SQL4499	543	付録 A. DB2 技術情報の概説	941
第 10 章 SQL4500 - SQL4999	557	DB2 テクニカル・ライブラリー (ハードコピーまたは PDF 形式)	942
第 11 章 SQL5000 - SQL5499	577	コマンド行プロセッサから SQL 状態ヘルプを表示する	944
第 12 章 SQL5500 - SQL5999	595	異なるバージョンの DB2 インフォメーション・センターへのアクセス	945
第 13 章 SQL6000 - SQL6499	597	コンピューターまたはイントラネット・サーバーにインストールされた DB2 インフォメーション・センターの更新	945
第 14 章 SQL6500 - SQL6999	621	コンピューターまたはイントラネット・サーバーにインストールされた DB2 インフォメーション・センターの手動更新	947
第 15 章 SQL7000 - SQL7499	629	DB2 チュートリアル	949
第 16 章 SQL8000 - SQL8499	633	DB2 トラブルシューティング情報	949
第 17 章 SQL9000 - SQL9499	639	ご利用条件	950
第 18 章 SQL10000 - SQL10499	641	付録 B. 特記事項	953
第 19 章 SQL16000 - SQL16499	645	索引	957
第 20 章 SQL20000 - SQL20499	703		

第 1 部 メッセージの概要

本書では、DB2[®] がインストールされたオペレーティング・システムの機能をよくご存じであることが前提となっています。以下の章に記載されている情報を使用すれば、エラーや問題を識別し、適切なりカバリー処置を行って問題を解決することができます。さらに、この情報を使用すると、メッセージが生成され記録される場所を理解することができます。

メッセージ構造

メッセージ・ヘルプは、メッセージの原因と、そのメッセージへの応答として行うべき処置を説明します。

メッセージ ID は、3 文字のメッセージ接頭部と、それに続く 4 桁または 5 桁のメッセージ番号と、それに続く 1 文字の接尾部から成り立っています。例えば、*SQL1042C* です。メッセージ接頭部のリストについては、2 ページの『メッセージ・ヘルプの呼び出し』 および 2 ページの『その他の DB2 メッセージ』を参照してください。1 文字の接尾部は、エラー・メッセージの重大度を示します。

一般に、メッセージ ID が *C* で終了するものは重大メッセージ、*E* で終了するものは緊急メッセージ、*N* で終了するものはエラー・メッセージ、*W* で終了するものは警告メッセージ、*I* で終了するものは情報メッセージであることを示します。

ADM メッセージの場合、メッセージ ID が *C* で終了するものは重大メッセージ、*E* で終了するものは緊急メッセージ、*W* で終了するものは重要メッセージ、*I* で終了するものは情報メッセージであることを示します。

SQL メッセージの場合、メッセージ ID が *C* で終了するものは重大なシステム・エラー、*N* で終了するものはエラー・メッセージ、*W* で終了するものは警告メッセージまたは情報メッセージであることを示します。

メッセージにはトークン (メッセージ変数と呼ばれることもある) が含まれている場合があります。トークンを含むメッセージが DB2 によって生成される場合、各トークンは検出されたエラー条件に固有の値によって置き換えられ、ユーザーがエラー・メッセージの原因を診断できるようにします。例えば、DB2 メッセージ *SQL0107N* は以下ようになります。

- コマンド行プロセッサから:

SQL0107N 名前 "<name>" が長すぎます。最大長は "<length>" です。

- DB2 インフォメーション・センターから:

SQL0107N 名前 *name* が長すぎます。最大長は *length* です。

このメッセージには、2 つのトークン "<name>" および "<length>" が含まれています。このメッセージが実行時に生成される場合、メッセージ・トークンはエラーの原因となったオブジェクトの実際の名前と、オブジェクトのタイプに許可される最大長にそれぞれ置き換えられます。

トークンがエラーの特定のインスタンスに該当しない場合は、代わりに値 *N が戻されます。例えば以下のようになります。

```
SQL20416N The value provided ("*N") could not be converted to a security label. Labels for the security policy with a policy ID of "1" should be "8" characters long. The value is "0" characters long. SQLSTATE=23523
```

メッセージ・ヘルプの呼び出し

メッセージ・ヘルプを呼び出すには、コマンド行プロセッサを開いて、以下を入力します。

```
? XXXnnnnn
```

ここで、XXX は有効なメッセージ接頭部、nnnnn は有効なメッセージ番号を表します。

SQLSTATE 値に関連したメッセージ・テキストは、次のコマンドを実行して検索できます。

```
? nnnnn
```

または

```
? nn
```

ここで、nnnnn は 5 桁の SQLSTATE (英数字) のことで、nn は 2 桁の SQLSTATE クラス・コード (SQLSTATE 値の最初の 2 桁) です。

注: db2 コマンドのパラメーターとして受け入れられるメッセージ ID では、大文字小文字の区別はありません。また、単一文字の接尾部はオプションであり、無視されます。

そのため、以下のコマンドの結果は同じになります。

- ? SQL0000N
- ? sql0000
- ? SQL0000w

UNIX ベースのシステムのコマンド行でメッセージ・ヘルプを呼び出すには、以下を入力します。

```
db2 "? XXXnnnnn"
```

ここで、XXX は有効なメッセージ接頭部、nnnnn は有効なメッセージ番号を表します。

メッセージ・テキストが長すぎて画面に収まらない場合、以下のコマンドを使用します (UNIX ベースのシステム、または 'more' をサポートする他のシステム)。

```
db2 "? XXXnnnnn" | more
```

その他の DB2 メッセージ

DB2 コンポーネントの中には、オンラインで使用不可であるメッセージや本書で解説されていないメッセージを戻すものもあります。メッセージ接頭部の中には、以下が入っていることがあります。

AUD DB2 監査機能によって生成されるメッセージ。

DIA 多くの DB2 コンポーネントによって生成される診断メッセージ。これらのメッセージは、DB2 診断 (db2diag) ログ・ファイルに書き込まれ、エラーの調査時にユーザーや DB2 サービス担当者に追加情報を提供することを目的としています。

ほとんどの場合、これらのメッセージから警告やエラーの原因を判別するのに十分な情報が得られます。メッセージを生成したコマンドやユーティリティーに関する詳細な情報は、該当するコマンドやユーティリティーに関して文書化されている適切な資料を参照してください。

その他のメッセージ・ソース

システムで他のプログラムを実行している場合は、本書で解説されていない接頭部が付いたメッセージを受け取ることがあります。

それらのメッセージについては、該当するプログラム製品の資料を参照してください。

第 2 部 SQL メッセージ

第 1 章 SQL0000 - SQL0499

SQL0000W ステートメントは正常に処理されました。

説明: 警告状態が発生していなければ、SQL ステートメントは正常に処理されました。

ユーザーの処置: SQLWARN0 をチェックして、ブランクであることを確認してください。ブランクの場合は、ステートメントが正常に実行されています。ブランクでない場合は、警告が発生しています。他の警告標識をチェックして、特定の警告状態を判別してください。たとえば、SQLWARN1 がブランクでない場合は、ストリングが切り捨てられています。

sqlcode: 0

sqlstate: 00000, 01003, 01004, 01503, 01504, 01506, 01509, 01517

SQL0001N バインド、またはプリコンパイルが正常に完了しませんでした。

説明: 前のメッセージ中に示された理由のために、バインドまたはプリコンパイル要求が失敗しました。

パッケージは作成されません。

ユーザーの処置: メッセージ・ファイル内のメッセージを参照してください。コマンドを再サブミットしてください。

サンプル・データベースをインストールしている場合は、それをドロップしてサンプル・データベースを再インストールしてください。

SQL0002N バインド・ファイル名が無効です。

説明: 前のメッセージ中に示された理由のために、指定されたバインド・ファイル名を使用できません。

パッケージは作成されません。

ユーザーの処置: メッセージ・ファイル内のメッセージを参照してください。コマンドを再サブミットしてください。

サンプル・データベースをインストールしている場合は、それをドロップしてサンプル・データベースを再インストールしてください。

SQL0003N データベース名が無効です。

説明: 前のメッセージ中に示された理由のために、指定されたデータベース名を使用できません。

パッケージは作成されません。

ユーザーの処置: メッセージ・ファイル内のメッセージを参照してください。コマンドを再サブミットしてください。

SQL0004N パスワードが無効です。

説明: パスワードに無効な文字が入っているか、またはパスワードが長すぎます。

パッケージは作成されません。

ユーザーの処置: 有効なパスワードを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL0005N メッセージ・ファイル名が無効です。

説明: 前のメッセージ中に示された理由のために、指定されたメッセージ・ファイル名を使用できません。

パッケージは作成されません。

ユーザーの処置: メッセージ・ファイル内のメッセージを参照してください。メッセージ・ファイルの名前をチェックしてください。メッセージ・ファイルがある場合にはその属性をチェックしてください。コマンドを再サブミットしてください。

SQL0006N `datetime format` パラメーターが無効です。

説明: `datetime format` パラメーターの値が 0 から 3 の有効な範囲内にありません。

パッケージは作成されません。

ユーザーの処置: 有効な `format` パラメーターを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL0007N `text` の後の文字 `character` が無効です。

説明: 指定された `character` は、SQL ステートメントでは有効な文字ではありません。「`text`」フィールドは、無効な文字の前にある 20 文字の SQL ステートメントを示します。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 一部のデータ・ソースは、`character` および `text` メッセージ・トークンの適切な値を提供しません。この場合、`character` および `text` は、“<data source>:UNKNOWN”の形式になります。これは、指定されたデータ・ソースの実際の値が不明であることを示しています。

SQL0008N • SQL0015N

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 無効な文字を取り除くか、または有効な文字で置き換えてください。

sqlcode: -7

sqlstate: 42601

SQL0008N ホスト変数宣言のトークン *token* が無効です。

説明: ホスト変数宣言に構文の誤りがあります。プリコンパイラーがホスト変数を識別できません。

ステートメントは処理できません。ステートメント (セミコロンまで) で宣言されたすべてのホスト変数が受け付けられません。

ユーザーの処置: ホスト変数宣言の構文を確認してください。

SQL0009W プリコンパイル・オプションをオーバーライドしようとしたますが、無視されました。

説明: プリコンパイラー・オプションのオーバーライドが試みられました。

オプションは無視されます。

ユーザーの処置: すべてのプリコンパイラー・オプションが正しく指定されていることを確認してください。

SQL0010N *string* で始まるストリング定数に、終わりの区切り文字がありません。

説明: ステートメントに、*string* で始まるストリング定数が入っていますが、正しく終了していません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメントを調べて、示されているストリング定数にアポストロフィが抜けていないことを確認してください。

sqlcode: -10

sqlstate: 42603

SQL0011N コメントが終了していません。

説明: コメントが正しく終了していません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメントを調べて、示されているコメントに区切り文字が抜けていないこと、または余分な区切り文字がないことを確認してください。

SQL0012W 列 *column* で修飾のない相関が発生しました。

説明: 示された列は SELECT ステートメント中にありますが、明示的に修飾されておらず、外部の SELECT ステートメントの FROM 節に指定されている表にあります。したがって、SELECT ステートメントの列に対する参照は外部参照と見なされ、相関が発生します。

ステートメントは、相関が指定されたものとして処理されました。

ユーザーの処置: 相関が必要であることを確認してください。外部参照を用いるときには、必ず明示的に修飾してください。

sqlcode: +12

sqlstate: 01545

SQL0013N 空の区切り ID は無効です。

説明: プリコンパイル時に、空のストリングとして指定された、カーソル名、ステートメント名、データベース名、または許可 ID が見つかりました。これは有効ではありません。ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 有効なカーソル名、ステートメント名、データベース名、または許可 ID を指定してください。

SQL0014N ソース・ファイル名が無効です。

説明: プリコンパイラーの呼び出しに指定したソース・ファイル名に無効な文字が入っているか、またはソース・ファイル名へのポインターが無効です。

パッケージは作成されませんでした。

ユーザーの処置: 正しいソース・ファイル名を使用してください。

SQL0015N ホスト変数のデータ・タイプ *token-1* が無効です。代わりに *token-2* を使用してください。

説明: WCHARTYPE CONVERT プリコンパイル・オプションが有効な場合には、GRAPHIC ホスト変数はデータ・タイプ 'sqldbchar'ではなく、'wchar_t'で宣言されていなければなりません。

WCHARTYPE NOCONVERT プリコンパイル・オプションが有効で (デフォルト)、'wchar_t'がこのプラットフォームに 4 バイト整数として定義されている場合には、GRAPHIC ホスト変数はデータ・タイプ 'wchar_t'ではなく、'sqldbchar'で宣言されていなければなりません。

ユーザーの処置: ホスト変数の現行のデータ・タイプ

を、メッセージに指定されたデータ・タイプと置き換えてください。

SQL0017N SQL 関数またはメソッドに RETURN ステートメントを指定して、実行する必要があります。

説明: SQL 関数またはメソッドが RETURN ステートメントを含んでいないか、あるいは関数またはメソッドが RETURN ステートメントの実行を終了していませんでした。

ユーザーの処置: 関数またはメソッドが RETURN ステートメントを実行していることを確認してください。

sqlcode: -17

sqlstate: 42632

SQL0020W ターゲット・データベースによってサポートされていないため、次のリストにある BIND または PRECOMPILE コマンドのパラメーターまたはパラメーター値は無視されました: *parameter-names-or-values*。

説明: BIND コマンドを使用すると、プリコンパイラーによって生成されたバインド・ファイルに保管されている SQL ステートメントを準備し、データベース内にパッケージを作成できます。PRECOMPILE コマンドを使用すると、組み込み SQL ステートメントが入ったアプリケーション・プログラムのソース・ファイルを処理し、データベース内にパッケージを作成できます。

この警告は次の状況の場合に返されます。

- PRECOMPILE コマンドか BIND コマンドで指定した 1 つ以上のパラメーターが、ターゲット・データベース・サーバーでサポートされていません。
- PRECOMPILE コマンドか BIND コマンドで指定した 1 つ以上のパラメーターの指定値が、ターゲット・データベース・サーバーでサポートされていません。

ユーザーの処置: ターゲット・データベース・サーバーでサポートされているパラメーターと値を指定して、BIND コマンドか PRECOMPILE コマンドを再実行します。

SQL0021W 無効なプリコンパイラー・オプション *option* が無視されました。

説明: メッセージに示されたオプションは、有効なプリコンパイラー・オプションではありません。

オプションは無視されます。

ユーザーの処置: すべてのプリコンパイラー・オプションが正しく指定されていることを確認してください。

SQL0022W 重複するプリコンパイラー・オプション *option* が無視されました。

説明: プリコンパイラー・オプション *option* が重複しています。

オプションは無視されます。

ユーザーの処置: すべてのプリコンパイラー・オプションが 1 回だけ指定されていることを確認してください。

SQL0023N データベース名が無効です。

説明: 指定されたデータベース名は、有効な名前ではありません。

プリコンパイルは終了します。

ユーザーの処置: データベース名のつづりが正しく、短 ID の規則にしたがっていることを確認してください。

SQL0024N データベース名が指定されませんでした。

説明: プリコンパイル時にデータベース名が指定されていませんでした。

プリコンパイルは終了します。

ユーザーの処置: データベース名を指定してください。

SQL0025W バインドまたはプリコンパイルが、警告付きで完了しました。

説明: バインドまたはプリコンパイルは成功しましたが、警告が出されました。パッケージとバインド・ファイルのいずれか、または両方が、コマンドで要求された通りに作成されました。

ユーザーの処置: メッセージ・ファイル内のメッセージを参照してください。必要に応じて、問題を訂正してコマンドを再サブミットしてください。

SQL0026N パスワードが無効です。

説明: 指定されたパスワードは、有効なパスワードではありません。

プリコンパイルは終了します。

ユーザーの処置: 指定したパスワードが、パスワードの規則にしたがっていることを確認してください。

SQL0028C バインド・ファイルのリリース番号が無効です。

説明: バインド・ファイルのリリース番号が、インストールされているバージョンのデータベース・マネージャーのリリース番号と互換ではありません。

SQL0029N

このバインド・ファイルは、現行バージョンのデータベース・マネージャーでは使用できません。コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 可能であれば、現在のデータベース・マネージャーを使用して、プリコンパイル処理を繰り返してください。または、互換リリース・レベルのデータベース・マネージャーで作成されたバインド・ファイルのみを使用してください。

SQL0029N INTO 節が必要です。

説明: アプリケーション・プログラムに組み込まれている非カーソル SELECT または VALUES ステートメントには、ステートメントの結果を入れる場所を指示するための INTO 節が必要です。動的 SELECT ステートメントには、INTO 節を使用できません。

ユーザーの処置: INTO 節を SELECT または VALUES ステートメントに追加して、もう一度アプリケーション・プログラムをプリコンパイルしてください。

sqlcode: -29

sqlstate: 42601

SQL0030N ソース・ファイル名が指定されませんでした。

説明: プリコンパイル時にソース・ファイル名が指定されていませんでした。

プリコンパイルは終了します。

ユーザーの処置: ソース・ファイル名を指定してください。

SQL0031C ファイル *name* がオープンできませんでした。

説明: ファイル *name* が指定されていますが、オープンできませんでした。

プリコンパイルは終了します。

ユーザーの処置: 示されたファイル名が正しく、ファイル・システム内に存在し、ファイル許可が正しいことを確認してください。

サンプル・データベースをインストールしている場合は、それをドロップしてサンプル・データベースを再インストールしてください。エラーが続く場合は、データベース・マネージャーを再インストールした後に、サンプル・データベースをインストールしてください。

SQL0032C ファイル *name* が使用できません。

説明: ファイル *name* の読み取りまたは書き込み中に、エラーが起きました。

プリコンパイルは終了します。

ユーザーの処置: もう一度プリコンパイルしてください。

SQL0033N *name* は、有効なバインド・ファイルではありません。

説明: 示されたバインド・ファイル *name* が、有効なバインド・ファイルではありません。

バインドは終了します。

ユーザーの処置: 正しいファイル名が指定されていることを確認してください。

SQL0034N バインド・ファイル名が指定されませんでした。

説明: バインド時にバインド・ファイル名が指定されていませんでした。

バインドは終了します。

ユーザーの処置: バインド・ファイル名を指定してください。

SQL0035N ファイル *name* がオープンできません。

説明: メッセージ・ファイル *name* がオープンできませんでした。

バインドまたはプリコンパイルは終了しました。

ユーザーの処置: システムがそのファイルにアクセスできることを確認してください。

SQL0036N ファイル名 *name* の構文が無効です。

説明: ファイルがプリコンパイラーへの入力の場合は、使用する言語に対する正しい拡張子を持っている必要があります。ファイルがバインド・プログラムへの入力の場合は、拡張子 *.bnd* を持っている必要があります。また、プラットフォームの最大長を超える完全に解決されたファイル名も、このエラーの原因となります。

プリコンパイルまたはバインドは終了します。

ユーザーの処置: 示されたファイル名が正しいことを確認してください。

SQL0037W メッセージ・ファイル *name* の構文が無効です。

説明: メッセージ・ファイル名 *name* は、この関数に対して構文的に正しくありません。

システムは出力を標準出力装置に切り替えます。

ユーザーの処置: 示されたファイル名が正しいことを確認してください。

SQL0038W BIND オプション SQLERROR CONTINUE は、この DB2 提供リスト・ファイルを DB2/MVS、SQL/DS、または OS/400 とバインドする時に必要となるために、アクティブ化されています。

説明: 次の DB2 提供リスト・ファイルをバインドする時には、SQLERROR CONTINUE BIND オプションが必要です。

- ddcsmvs.lst
- ddcsvm.lst
- ddcsvse.lst
- ddcs400.lst

このオプションは、バインド・ファイルに SQL ステートメントがある場合にも、これを無効と見なすために、DRDA サーバーにパッケージの作成を指示します。すべての DRDA サーバーが DB2 提供リスト・ファイルに入っているすべての SQL ステートメントをサポートしていないので、リスト・ファイルのすべてのバインド・ファイルに対してパッケージが作成されるように保証するためには、SQLERROR CONTINUE BIND オプションを使用しなければなりません。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。必要な BIND オプション SQLERROR CONTINUE が指定されています。今後、この警告の受信を回避するためには、SQLERROR CONTINUE BIND オプションを指定してください。

SQL0039N バインド・ファイルが無効なため、バインド・プログラムが処理を完了できませんでした。

説明: バインド・プログラムがバインド・ファイルを処理できませんでした。バインド・ファイルの内容が偶発的に変更されたため、そのバインド・ファイルは無効となっている可能性があります。

バインド・ファイルは処理されません。

ユーザーの処置: 可能であれば、新しいバインド・ファイルを作成するために、プリコンパイル処理を繰り返して

てください。または、バインド・ファイルの新しいコピーを取得してください。

SQL0040N リスト *name* の 1 つ以上のバインド・ファイルでエラーが発生しました。次のファイルはバインドされていません: *list*。

説明: メッセージ・ファイル内の前のメッセージに示された理由のため、1 つ以上のバインド・ファイルがバインドされませんでした。バインドされなかったファイルのリストは 1 から始まる数字で構成されており、その数字はリスト・ファイル内のバインドされなかったファイルの相対位置を示します。 *name* には、リスト・ファイルのパス情報が入っていません。

メッセージには、エラーがあった最初の 20 個のバインド・ファイルしかリストされません。20 より多いバインド・ファイルにエラーがあった場合は、リストの最後のバインド・ファイル名の後に、省略符号 (...) が挿入されます。

作成されなかったパッケージがあります。

ユーザーの処置: メッセージ・ファイル内のメッセージを参照してください。リスト・ファイルをチェックして、有効な名前が入っていることを確認してください。コマンドを再サブミットしてください。

SQL0041N 致命的エラーが発生して処理が終了されたため、リスト *name* のファイル番号 *number* に続くファイルでは、バインドが試行されませんでした。

説明: バインド処理中の一部のエラーは致命的なエラー(すなわち、システム・エラーまたはメモリー・エラー)と考えられます。リスト・ファイルのファイルの処理中にこれらのエラーの 1 つが発生した場合には、処理は終了されます。リスト・ファイルの残りのファイルをバインドする試みは行われません。

リスト内で指定されたバインド・ファイルをバインド中に、このようなエラーが発生しました。バインド・ファイルの識別に使用される数字が、リスト・ファイルのファイルの相対位置を示していることに注意してください。

ユーザーの処置: 発生したエラーを解決するためには、これに伴って出されたその他のメッセージを参照してください。コマンドを再サブミットしてください。

SQL0051N 単一プログラムのすべての SQL ステートメントを保留するために必要なスペースが、最大許可値を超えています。

説明: プログラムに必要なすべての SQL ステートメントに必要なスペースが、SYSIBM.SYSPLAN の列

SQL0053W

SECT_INFO に適合しません。

プリコンパイルは終了します。

ユーザーの処置: プログラムを単純にするか、個別の小さいプログラムに分割するか、またはその両方を行ってください。

SQL0053W プログラムに SQL ステートメントがありません。

説明: 指定されたソース・ファイルには、SQL ステートメントが入っていません。

バインドの場合には、空のパッケージが作成されます。

ユーザーの処置: プリコンパイルまたはバインド中のプログラムが正しいことを確認してください。

SQL0055N ソース入力ファイルが空です。

説明: プログラム・ソース入力ファイルに、データが入っていません。

プリコンパイルは終了します。

ユーザーの処置: 正しい入力ファイルが指定されていることを確認してください。

SQL0056N ネストされたコンパウンド・ステートメントに SQLSTATE または SQLCODE 変数宣言があります。

説明: SQLSTATE または SQLCODE 変数宣言が、SQL ルーチンで最外部のコンパウンド・ステートメントではなく、ネストされたコンパウンド・ステートメントにあります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: SQLSTATE および SQLCODE 変数は、SQL ルーチンで最外部のコンパウンド・ステートメントでのみ宣言してください。

sqlcode: -56

sqlstate: 42630

SQL0057N SQL 関数またはメソッド内の RETURN ステートメントには、戻り値が含まれていなければなりません。

説明: 返す値の指定なしで、RETURN ステートメントが SQL 関数またはメソッドに指定されています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: RETURN ステートメントに値を指定してください。

sqlcode: -57

sqlstate: 42631

SQL0058N SQL プロシージャにある RETURN ステートメントのデータ・タイプは INTEGER でなければなりません。

説明: INTEGER データ・タイプではない値または式で、RETURN ステートメントが SQL プロシージャに指定されています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: INTEGER のデータ・タイプを持つ RETURN ステートメントで値を指定してください。

sqlcode: -58

sqlstate: 428F2

SQL0060W *name* プリコンパイラが処理中です。

説明: このメッセージは、プリコンパイラの処理開始時に、標準出力装置に書き込まれます。トークン *name* は、呼び出された特定言語のプリコンパイラを示します。

処理を続行します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL0061W バインド・プログラムが処理中です。

説明: このメッセージは、バインド・プログラムの処理開始時に、標準出力装置に書き込まれます。

処理を続行します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL0062W ファイル *name* の INCLUDE 開始中です。

説明: INCLUDE ステートメントが指定されています。現在、プリコンパイラは INCLUDE ファイルを処理しています。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL0063W ファイル *name* の INCLUDE が完了しました。

説明: プリコンパイラが INCLUDE ファイルの処理を完了しました。INCLUDE ステートメントを含んでいるファイルの処理が再開されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL0064N ファイル *name* が直接または間接的に、自己 INCLUDE しています。

説明: 循環 INCLUDE が指定されています。プリコンパイラ入力ファイルはそのファイル自体を INCLUDE することはできず、そのファイルを INCLUDE するファイルに INCLUDE されることもできません。

示されたファイルは INCLUDE されません。

ユーザーの処置: INCLUDE ファイルのネストをチェックして、循環を取り除いてください。

SQL0065N ホスト変数宣言内で、予期しない行の終わりに達しました。

説明: ホスト変数宣言に構文の誤りがあります。宣言が完了する前に、行の終わりが見つかりました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ホスト変数宣言の構文を確認してください。

SQL0078N ルーチン *routine-name* にパラメーターを指定しなければなりません。

説明: ルーチン *routine-name* では、すべてのパラメーターについてパラメーター名が指定されていません。ルーチンが LANGUAGE SQL または SQLMACRO で定義されている場合、定義済みパラメーターごとにパラメーター名が必要です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 定義済みパラメーターすべてがパラメーター名を持っていることを確認してください。

sqlcode: -78

sqlstate: 42629

SQL0079N 宣言されたグローバル一時表または索引 *name* のスキーマ名は、*schema-name* ではなく、SESSION でなければなりません。

説明: 宣言された一時表、または宣言されたグローバル一時表の索引のスキーマ名 *name* は、SESSION でなければなりません。このステートメントは、宣言されたグローバル一時表または宣言されたグローバル一時表の索引の明示的スキーマ名 *schema-name* を指定しています。これは許可されません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの方法でステートメントを変更してください。

- スキーマ名を SESSION に変更する

- スキーマ名を除去し、DB2 にデフォルト値 SESSION を使用させる

sqlcode: -79

sqlstate: 428EK

SQL0081N プリコンパイル / バインド中に、SQLCODE *sqlcode* が返されました。

説明: プログラムのプリコンパイル中またはバインド中に、予期しない SQLCODE *sqlcode* がデータベース・マネージャーから返されました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: SQLCODE を調べて問題を判別し、適切なアクションを取ってください。

SQL0082C エラーが発生したため、処理は終了しました。

説明: 前に発生した非 SQL エラーのために、処理が終了しました。

プリコンパイル / バインド / 再バインドは終了しません。パッケージは作成されませんでした。

ユーザーの処置: 前のエラーの原因を訂正して、もう一度やり直してください。

SQL0083C メモリーの割り振りエラーが発生しました。

説明: 処理を実行するために必要なメモリーが足りなくなりました。

ユーザーの処置: 可能な解決方法は、以下のとおりです。

- システムに十分な実メモリーおよび仮想メモリーがあることを確認してください。
- バックグラウンド処理を除去してください。

提案されたソリューションの試行後もこのメッセージを受け取る場合は、IBM お客様サポートに連絡してください。

SQL0084N EXECUTE IMMEDIATE ステートメントに、SELECT または VALUES ステートメントが含まれています。

説明: SELECT または VALUES ステートメントが EXECUTE IMMEDIATE ステートメントで使用されています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 暗黙関数はサポートされていません。

SQL0085N • SQL0094N

SELECT または VALUES ステートメントを準備してください。その後、OPEN、FETCH、および CLOSE を使用してください。

sqlcode: -84

sqlstate: 42612

SQL0085N ステートメント名 *name* は、すでに定義されています。

説明: 今回の DECLARE ステートメント内で指定されたステートメント名は、前回の DECLARE ステートメントですでに使用されています。

今回の DECLARE ステートメントは処理できません。前回の DECLARE ステートメントの指定が、現在も有効です。

ユーザーの処置: 今回のステートメントには、別の名前を使用してください。

SQL0086C メモリーの割り振りエラーが発生しました。

説明: 処理を実行するために必要なメモリーが足りなくなりました。

ユーザーの処置: 可能な解決方法は、以下のとおりです。

- システムに十分なメモリーがあることを確認してください。
- バックグラウンド処理を除去してください。

SQL0087N NULL 値が、許可されないコンテキストに指定されました。

説明: 変数が NULL 値であってはならないコンテキストで使用されています。例えば、カーソル変数は OPEN または FETCH ステートメントで使用できますが、カーソル変数の値は NULL 値であってはなりません。ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 変数の値が、NULL 値を許可しないコンテキストで NULL でないことを確認し、要求を再試行してください。

sqlcode: -87

sqlstate: 22004

SQL0088N ホスト変数 *name* が未確定です。

説明: ホスト変数 *name* を一意的に識別できません。同じ修飾を持つ複数のホスト変数が検出される可能性があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ホスト変数の修飾を増やすか、またはすでに完全に修飾されたものが存在している場合は、名前変更してください。

SQL0089N エラーが 100 個に達したので、処理が終了しました。

説明: エラーが 100 個に達したので、プリコンパイラまたはバインド・プログラムが処理を終了します。

ユーザーの処置: メッセージ・ログに示されているエラーを修正して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL0091W プリコンパイルまたはバインドが、*number-1* エラーと *number-2* 警告で終了しました。

説明: プリコンパイルまたはバインドが、上記の番号の警告とエラーで終了しました。

プリコンパイルまたはバインドは終了します。

ユーザーの処置: 警告またはエラーが発生した場合は、必要に応じてプログラムを修正し、プリコンパイルまたはバインドを再試行してください。

SQL0092N 前のエラーにより、パッケージが作成されませんでした。

説明: 前のエラーのために、パッケージが作成されませんでした。

ユーザーの処置: エラーを修正して、プリコンパイルまたはバインドを再試行してください。

SQL0093N EXEC SQL のステートメント終止符の前に、入力ファイルの終わりを検出しました。

説明: SQL ステートメントの処理中、そのステートメントが終了する前にソースが終了しました。

プリコンパイルは終了します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントが正しく終了していることを確認してください。

SQL0094N ユーザーの割り込み要求で、バインドが終了しました。

説明: 割り込み要求 (ユーザーが割り込みキーを押した可能性があります) のために、バインドが終了しました。

処理は終了します。パッケージは作成されません。

ユーザーの処置: 必要な場合には、もう一度バインドのサブミットを行ってください。

サンプル・データベースをインストールしている場合は、それをドロップしてサンプル・データベースを再インストールしてください。

SQL0095N 前のエラーにより、バインド・ファイルが作成されませんでした。

説明: 前のエラーのために、バインド・ファイルが作成されませんでした。

バインド・ファイルは作成されません。

ユーザーの処置: エラーを訂正して、プリコンパイルを再試行してください。

SQL0097N **LONG VARCHAR** または **LONG VARGRAPHIC** データ・タイプの変数またはパラメーターは、**SQL** ルーチンではサポートされていません。

説明: **SQL** ルーチン (プロシージャ、関数、または方式) は、**LONG VARCHAR** または **LONG VARGRAPHIC** データ・タイプの変数またはパラメーターをサポートしていません。

ユーザーの処置: **LONG VARCHAR** または **LONG VARGRAPHIC** データ・タイプの変数またはパラメーターを **SQL** ルーチンで使用しないでください。 **LONG VARCHAR** の場合は、明示的な長さを持つ **VARCHAR** を使用してください。 **LONG VARGRAPHIC** の場合は、明示的な長さを持つ **VARGRAPHIC** を使用してください。

sqlcode: -97

sqlstate: 42601

SQL0100W **FETCH**、**UPDATE** または **DELETE** の対象となる行がないか、または照会の結果が空の表です。

説明: 以下に示す条件の 1 つが成立しています。

- **UPDATE** または **DELETE** ステートメントに指定された検索条件を満たす行が見つかりません。
- **SELECT** ステートメントの結果が空の表でした。
- 結果表の最後の行の後ろにカーソルを位置付けたときに、**FETCH** ステートメントが実行されました。
- **INSERT** ステートメントで使用された **SELECT** の結果が空です。

データの検索、更新、または削除は実行されませんでした。

ユーザーの処置: アクションは不要です。処理の続行は可能です。

sqlcode: +100

sqlstate: 02000

SQL0101N メモリ限度、**SQL** 限度、またはデータベース限度などの制限に達したため、ステートメントが処理されませんでした。

説明: このメッセージは、メモリ限度、**SQL** 限度、またはデータベース限度などの制限を上回る **SQL** ステートメントの作成または実行が試行されたときに返されることがあります。このコンテキストにおける「メモリ限度」の例を以下に示します。

- ステートメント・ヒープ (STMTHEAP)
- アプリケーション・ヒープ (APPLHEAPSZ)
- アプリケーション・メモリー (APPL_MEMORY)
- インスタンス・メモリー (INSTANCE_MEMORY)
- その他のプロセスまたはシステム・メモリー限度

例えば、以下の理由でこのメッセージが返されることがあります。

- ステートメント・ヒープが、ステートメントをコンパイルするのに十分な大きさではない。(ステートメント・ヒープは、**SQL** ステートメントまたは **XQuery** ステートメントのコンパイル時に、ワークスペースとして **SQL** コンパイラまたは **XQuery** コンパイラによって使用されます。)
- アプリケーション要求を処理するのに十分なアプリケーション・メモリーがない。
- ステートメントが、バックされた記述の作成または変更を行うものである場合に、新しくバックされた記述が、システム・カタログの対応する列に対して長すぎる可能性がある。

このメッセージは、複雑すぎてコンパイル不可能な **SQL** ステートメントの実行が試みられた場合にも返されることがあります。例えば、ステートメントが複雑になる要因には以下のものがあります。

- 制約 (表チェック制約や外部キー制約など)
- トリガー
- 行アクセス制御および列アクセス制御

フェデレーテッド環境:

フェデレーテッド環境では、このメッセージは、フェデレーテッド・サーバーまたはフェデレーテッド・データ・ソースのいずれかの制限をステートメントが超えた場合に返されることがあります。

コード・ページ変換:

2 つの異なるコード・ページ間で文字データが変換される場合、変換の結果得られるデータが制限を超えていると、(元のデータは制限を超えていなかったとしても) このメッセージが返されることがあります。

ユーザーの処置: 以下に示す 1 つ以上の処置を講じて、このエラーに対応してください。

- `stmtheap` データベース構成パラメーターを使用してステートメント・ヒープのサイズを引き上げるか、または `stmtheap` パラメーターを `AUTOMATIC` に設定してステートメント・ヒープが自動的に引き上げられるようにします。
- `appl_memory` データベース構成パラメーターを `AUTOMATIC` に設定することで、アプリケーション要求に割り振るメモリー量が自動的に引き上げられるようにします。
- ステートメントをより短い、またはより簡単な SQL ステートメントに分割します。
- 以下に示す種類の変更を 1 つ以上行って、ステートメントの複雑度を低下させます。
 - ステートメントに関わる制約 (表チェック制約や外部キー制約など) の数を減らします。
 - ステートメントのトリガーの数を減らします。
 - ステートメントに関わる行アクセス制御または列アクセス制御の数を減らします。

フェデレーテッド環境:

1. フェデレーテッド・データ・ソースによってエラーが返されているのか、それともフェデレーテッド・サーバーによってエラーが返されているのかを判別します。
2. 前述の一般的な処置を 1 つ以上講じます。例えば:
 - フェデレーテッド・サーバーによってエラーが返されている場合は、`stmtheap` データベース構成パラメーターを使用してステートメント・ヒープのサイズを引き上げるか、または `stmtheap` パラメーターを `AUTOMATIC` に設定します。
 - ステートメントの複雑度を低下させます。

sqlcode: -101

sqlstate: 54001

SQL0102N *string* で始まるストリング定数が長すぎます。

説明: 以下のいずれかが発生しました。

- `COMMENT ON` ステートメントのコメントが 254 バイトより大きくなっています。
- `SQL CONNECT` ステートメントに指定されるアプリケーション・サーバー名が、18 バイトより大きくなっています。
- *string* で始まるストリング定数の長さが 32672 バイトを超えています。32672 バイトを超える長さを持つ文字ストリング、または 16336 文字を超える長さを持つ `GRAPHIC` ストリングは、ホスト変数からの割り当てを通じてのみ指定することができます。DB2 ファミリーの他のサーバーが、文字ストリングに対して別のサイズ制限を指定している可能性があります。詳細については、該当する DB2 製品のマニュアルをご覧ください。
- XQuery 式において *string* で始まるストリング・リテラルの長さが 32672 バイトを超えています。限度は UTF-8 でエンコードされているストリング・リテラルで決定されます。長さが 32672 バイトを超えるストリングは、データにアクセスする XQuery 関数を使用して、あるいは `XMLQUERY`、`XML EXISTS`、または `XMLTABLE` のような SQL/XML 関数を使用して値が割り当てられる XQuery 変数を使用してのみ、データベースにある XML 値を使用して XQuery 式に指定できます。
- フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: データ・ソース特有の制限がパススルー・セッションで超えないようにしてください。たとえば、パススルー・セッションで DB2 for OS/390 に送信されるステートメントに 254 バイト以上の文字リテラルが含まれていると、上記のエラーが発生します。
- `INGEST` コマンドのジョブ ID ストリングが 128 バイトを超えています。
- `INGEST` コマンドのフィールド定義における日付、時刻、またはタイム・スタンプの形式のストリングが、最大長を超えています。日付形式ストリングの最大長は 10 バイトです。時刻形式ストリングの最大長は 8 バイトです。タイム・スタンプ形式ストリングの最大長は 32 バイトです。

これは、データ変換が行われて、その結果のストリングが長すぎる状態になる可能性があります。アプリケーションと、異なったコード・ページのもとで実行されるデータベースとの間の接続において、ストリング定数は、アプリケーション・コード・ページからデータベース・コード・ページに変換されます。特定の状況 (データベースが EUC コード・ページで作成された時など) で

は、GRAPHIC スtring定数は、データベース・コード・ページから UCS-2 (UNICODE) エンコードにさらに変換される場合があります。これは、入力Stringより長い結果のStringをもつ可能性があることを意味します。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 表のコメントまたは列のコメントの場合は、コメントのサイズを短くしてください。SQL CONNECT ステートメントの場合は、アプリケーション・サーバー名の長さを減らしてください。String定数の場合、要求された関数は対話式には使用できません。アプリケーション・プログラムに組み込まれているCONNECT SQL ステートメント以外でエラーが発生した場合は、ホスト変数に長Stringを割り当てて、SQL ステートメントのString・リテラルとその変数を置き換えてください。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: パススルー・セッションの場合、どのデータ・ソースがエラーの原因かを判別してください。データ・ソースでどの特定限度を超えたのか判別するために SQL ダイアレクトを調べ、失敗したステートメントを必要に応じて調整してください。

INGEST ユーティリティのユーザー: 129 バイトより小さい取り込みジョブ ID を指定するか、または最大長以下の形式Stringを指定してください。

sqlcode: -102

sqlstate: 54002

SQL0103N 数値リテラル *literal* が無効です。

説明: 示された *literal* は数字で始まっていますが、有効な整数、10 進数、または浮動小数リテラルではありません。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: パススルー・セッションで、データ・ソースに特定のリテラル表記エラーが生じました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 無効な数値リテラルを訂正してください。フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: エラーがパススルー・セッションで生じた場合、どのデータ・ソースがエラーの原因かを判別してください。データ・ソースでどのリテラル表示規則が違反しているのか判別するために SQL ダイアレクトを調べ、失敗したステートメントを必要に応じて調整してください。

sqlcode: -103

sqlstate: 42604

SQL0104N *text* に続いて予期しないトークン *token* が見つかりました。予期されたトークンに *token-list* が含まれている可能性があります。

説明: SQL ステートメントまたは SYSPROC.ADMIN_CMD プロシージャの入力コマンド・Stringの構文エラーが、テキスト *text* の後の示されたトークンに見つかりました。「*text*」フィールドは、無効なトークンの前にある 20 文字の SQL ステートメントまたは SYSPROC.ADMIN_CMD プロシージャの入力コマンド・Stringを示しています。

解決の手掛かりとして、*token-list* として、SQLCA の「SQLERRM」フィールドに有効なトークンの一部のリストが提供されます。このリストは、その時点までのステートメントが正しいと想定しています。

このメッセージが返されるのは、コマンド・モードでテキストがコマンド行プロセッサ (CLP) に渡されたものの、単一引用符や二重引用符など、オペレーティング・システム・シェルによって解釈される特殊文字が、エスケープ文字によって識別されずにテキストに含まれている場合です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの方法で、このエラーに対応します。

- 示されたトークンの領域内のステートメントを調べて、修正してください。
- コマンド・モードで CLP を使用しており、コマンド内に引用符などの何らかの特殊文字が含まれている場合には、円記号 (¥) などのエスケープ文字を使用して、オペレーティング・システム・シェルがそれらの特殊文字に対して特別なアクションをとらないようにします。また、対話モードまたはバッチ・モードで CLP を使用してステートメントを発行することにより、オペレーティング・システム・シェルによる特殊文字の処理を避けることもできます。

sqlcode: -104

sqlstate: 42601

SQL0105N *string* で始まるString定数が無効です。

説明: ステートメントに、*string* で始まる無効なString定数が入っています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 正しいフォーマットのString定数を指定してください。GRAPHIC String、対の区切り文字、およびString内の文字が偶数バイトであ

SQL0106N

ることをチェックしてください。

sqlcode: -105

sqlstate: 42604

SQL0106N SQL ステートメントは正しく開始されていますが、不完全です。

説明: SQL ステートメントは、入力が検出されなくなる点までは正しいものでした。これは、リテラルが正しく終わっていないことが原因である可能性があります。ストリング・リテラルには終わりの引用符が必要です。

この SQL ステートメントの処理が終了しました。

ユーザーの処置: 関数を完成するために必要なパーツのすべてをステートメントが持っているか、またすべての節が完了しているかを調べてください。

PL/I の場合: SQL ステートメントがセミコロンの前で終わっているかを確認してください。アセンブラの場合: 継続規則に正しく従っているかを確認してください。(ブランク以外の文字が 72 列目になければならず、継続行は 16 列目以降から開始されていなければなりません。)

COBOL の場合: SQL ステートメントが END-EXEC の前で終わっているかを確認してください。

sqlcode: -106

sqlstate: 42601, 42603

SQL0107N 名前 *name* が長すぎます。最大長は *length* です。

説明: *name* として戻された名前が長すぎます。このタイプの名前に許される最大の長さ (バイト数) は、*length* で示されています。エスケープ文字が存在する場合、このバイト数には含まれません。

フェデレーテッド・システムのユーザーの場合: パススルー・セッションでは、データ・ソースに特定の限度を超過していることがあります。

ステートメントは処理できません。

注: 異なったコード・ページのもとで実行されるアプリケーションおよびデータベースに対して文字データ変換が実行された場合には、変換の結果の長さが限界を超えたためにこのエラーが戻されることがあります。

ユーザーの処置: より短い名を使用するか、またはオブジェクト名のつづりを訂正してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: パススルー・セッションの場合、どのデータ・ソースがエラーの原因かを判別してください。データ・ソースでどの特定限度を超えたのか判別するために SQL ダイアレクト

を調べ、失敗したステートメントを必要に応じて調整してください。

sqlcode: -107

sqlstate: 42622, 10901

SQL0108N 名前 *name* の修飾子の数が正しくありません。

説明: 名前 *name* の修飾が正しくありません。

このコンテキストでは、*name* という名前のオブジェクトは、修飾子を 1 つしか持てません。

修飾子付きか修飾子なしの表名、または相関名で、列名は修飾されます。場合によっては、列名には表名修飾子が必要になります。

ALTER MODULE ステートメント・アクションのモジュール・オブジェクトの ID は、非修飾の 1 部構成の名前でなければなりません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: オブジェクトの名前が正しく修飾されていることを確認してください。

sqlcode: -108

sqlstate: 42601

SQL0109N *clause* 節は使用できません。

説明: 示された節は、SQL ステートメントまたはコマンド内では使用できません。

- 副照会、INSERT ステートメント、または CREATE VIEW ステートメントには、INTO、ORDER BY、または FOR UPDATE 節を指定できません。
- 組み込み SELECT ステートメントには、ORDER BY または FOR UPDATE 節を指定できません。
- 組み込み SELECT ステートメントには、副照会内を除いて、セット演算子を使用できません。
- カーソル宣言で使用される SELECT または VALUES ステートメントには、INTO 節を指定できません。
- RAISE_ERROR 関数は、CAST 指定でいくつかのデータ・タイプにキャストされている場合にのみ、選択リスト項目として使用できます。
- USE AND KEEP 節は、以下の照会で使用することはできません。
 - INHERIT ISOLATION LEVEL WITH LOCK REQUEST 節を指定して作成されたのではない SQL 関数または SQL メソッドを呼び出す照会
 - トリガーを呼び出す可能性のある照会
 - 親または子表を変更し、参照整合性検査を必要とする照会

- マテリアライズ照会表の増分メンテナンスを必要とする照会
- INITIALSIZE 節はシステム管理スペース (SMS) またはデータベース管理スペース (DMS) の表スペースで無効です。
- AUTORESIZE、INCREASESIZE、および MAXSIZE 節は、ロー・デバイス・コンテナを使用するように定義されているシステム管理スペース (SMS) 表スペースまたはデータベース管理スペース (DMS) の表スペースで無効です。
- AUTORESIZE、INITIALSIZE、INCREASESIZE、および MAXSIZE 節は、自動ストレージを使用して作成される TEMPORARY 表スペースで無効です。
- INCREASESIZE および MAXSIZE 節は、自動サイズ変更が可能になっていない表スペースで無効です。
- 自動サイズ変更が可能になっている表スペースに、ADD、ADD TO STRIPE SET、および BEGIN NEW STRIPE SET 節を使用してロー・デバイス・コンテナを追加することはできません。
- フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: パススルー・セッションの場合、データ・ソース特有の制約事項に違反している可能性があります。
- 非パーティション表での索引の作成時に、CREATE INDEX ステートメントに PARTITIONED または NOT PARTITIONED キーワードを指定することはできません。
- 作成済み一時表または宣言済み一時表の索引を作成するには、CREATE INDEX ステートメントで表スペース名を指定することはできません。
- REBALANCE 節は、REGULAR および LARGE 自動ストレージ表に対してのみ使用できます。
- CREATE TABLE、CREATE VIEW、または ALTER TABLE ステートメントには、分離節またはロック節を指定することはできません。
- 分離節またはロック節は、以下のような副選択では指定できません。
 - トリガーを呼び出す。
 - 参照整合性チェックを行う。
 - MQT の保守を行う。
- ロック節は、INHERIT ISOLATION LEVEL WITH LOCK REQUEST 節で宣言されていない SQL 関数を参照する副選択内では指定できません。
- 分離節またはロック節は、両方向スクロール・カーソル内の副選択の一部としては指定できません。
- 副選択分離またはロック要求節は、共通表式で競合分離またはロック・インテントを引き起こす可能性のあるコンテキストでは指定できません。

- 副選択分離またはロック要求節は、XML コンテキストには指定できません。
- WITH RETURN と宣言されたカーソルは、動的に準備されるコンパウンド SQL (コンパイル) ステートメント内で TO CALLER を指定できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 節を取り除いて、SQL ステートメントまたはコマンドを修正してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: パススルー・セッションの場合、どのデータ・ソースがエラーの原因かを判別してください。どの特定制約事項を違反したのか判別するためにそのデータ・ソースの SQL ダイアレクトを調べ、失敗したステートメントを必要に応じて調整してください。

sqlcode: -109

sqlstate: 42601

SQL0110N *string* は無効な 16 進定数です。

説明: 16 進定数 *string* が無効です。問題は以下のいずれかです。

- 無効な 16 進数が指定されています。'0 から 9'、'A から F'、および 'a から f' のみが使用できます。
- 偶数でない 16 進数が指定されています。
- 8000 を超える 16 進数が指定されています。

ユーザーの処置: 定数を訂正して、もう一度ステートメントのサブミットを行ってください。

sqlcode: -110

sqlstate: 42606

SQL0111N 列関数 *name* に、列名が指定されていません。

説明: 列関数 *name* (AVG、MIN、MAX、SUM、または COUNT(DISTINCT)) が指定されましたが、オペランドに列名が含まれていないため無効です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 列名を、列関数に対するオペランドである式に指定してください。

注: このエラーは、バージョン 2 以前の DB2 のリリースにのみ適用されます。

sqlcode: -111

sqlstate: 42901

SQL0112N 列関数 *name* のオペランドに、列関数、スカラー全選択、または副照会が含まれています。

説明: 列関数のオペランドは、以下を含むことはできません。

- 列関数
- スカラー全選択
- 副照会
- XMLQUERY または XMLEXISTS 式。ただし、XMLAGG 列関数のオペランドとして使用する場合を除く。

SELECT リストでは、算術演算子のオペランドは DISTINCT キーワードの入った列関数で使用できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 列関数の使用を訂正して無効な式を取り除き、もう一度やり直してください。

sqlcode: -112

sqlstate: 42607

SQL0113N *identifier* が許可されていない文字を含んでいるか、または文字を含んでいません。

説明: SQL 変数名、パラメーター名、セキュリティ・ラベル・コンポーネント・エレメント、または条件名 *identifier* に無効文字が入っています。

SQL 変数名、パラメーター名、および条件名の場合、許可されているのは、SQL の通常の ID として有効な文字だけです。ID が区切られているため、大文字への変換が行われず、大文字と小文字が互いに異なるものとして扱われることに注意してください。

セキュリティ・ラベル・コンポーネント・エレメントの場合、許可されているのはエレメント値として有効な文字だけです。

ユーザーの処置: ID を訂正して、ステートメントを再サブミットしてください。

sqlcode: -113

sqlstate: 42601

SQL0117N 割り当てられた値の数が、指定された列または変数の数、または暗黙に指定されている列または変数の数と同じではありません。

説明: 次のような場合、値の数が同じにならない可能性があります。

- INSERT ステートメントの値リスト内の挿入値の数が、明示的または暗黙的に指定された列数と等しくありません。列リストが指定されていない場合は、表またはビューのすべての列 (暗黙的に隠されているものを除く) の入った列リストが暗黙に指定されたものと見なされます。
- SET ステートメントまたは UPDATE ステートメントの SET 節の割り当ての右側の値の数が、左側の列または変数の数と一致しません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメントを修正して、指定した列または変数、または暗黙に指定されている列または変数ごとに 1 つの値を指定してください。

sqlcode: -117

sqlstate: 42802

SQL0118N INSERT、DELETE または UPDATE ステートメントのターゲットとなる表またはビューが、FROM 節でも指定されています。

説明: INSERT、DELETE または UPDATE ステートメントのターゲットとして指定された表またはビューが、ステートメント内の副照会の FROM 節中にも指定されています。

INSERT、UPDATE または DELETE のターゲットとなる表またはビューを使って、挿入される値を渡したり、または挿入、更新、削除される行を修飾することはできません。

ステートメントは処理できません。

このメッセージは、バージョン 1.2 以前のサーバーと、DB2 Connect を介してアクセスされるホストにのみ適用されます。

ユーザーの処置: 暗黙関数はサポートされていません。希望する結果を得るには、オブジェクトとする表またはビューの一時的なコピーを作成し、そのコピーへの副選択を指定してください。

sqlcode: -118

sqlstate: 42902

SQL0119N SELECT 節、HAVING 節、または ORDER BY 節に指定された *expression-start* で始まる式が、GROUP BY 節に指定されていないか、あるいは GROUP BY 節の指定されていない列関数のある SELECT 節、HAVING 節、または ORDER BY 節に入っています。

説明: SELECT ステートメントには、以下に示すエラーのいずれかがあります。

- 識別可能な式と列関数が、SELECT 節、HAVING 節、または ORDER BY 節に入っていますが、GROUP BY 節がありません。
- 識別可能な式が SELECT 節、HAVING 節、または ORDER BY 節に入っていますが、GROUP BY 節に入っていない。

識別可能な式は、*expression-start* で始まる式です。式は単一系列名にするのがよいでしょう。

NODENUMBER または PARTITION 関数を HAVING 節で指定した場合、基礎表のすべてのパーティション・キー列が HAVING 節にあると見なされます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: SELECT 節、HAVING 節、または ORDER BY 節の GROUP BY 節に列を組み込むか、あるいは列関数を SELECT 節から削除して、ステートメントを訂正してください。

sqlcode: -119

sqlstate: 42803

SQL0120N 集約関数または OLAP 関数の使用が無効です。

説明: 集約関数または OLAP 関数は、全選択の選択リストまたは HAVING 節でのみ、もしくは制限付きでのみ、WHERE 節または GROUP BY 節にて使用できます。

WHERE 節が HAVING 節の副照会で使用され、かつ関数の引数がグループに対する相関参照である場合にのみ、その WHERE 節に集約関数または OLAP 関数を入れることができます。

GROUP BY 節については、関数の引数が、GROUP BY 節の入った副選択とは異なる副選択の列に対する相関参照である場合にのみ、この節に集約関数または OLAP 関数を入れることができます。

OLAP 関数は、XMLQUERY または XMLEXISTS 式の引数リスト内では使用できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 集約関数または OLAP 関数が使用されないように、またはそれらの関数がサポートされる場所でのみ使用されるように、ステートメントを変更してください。

sqlcode: -120

sqlstate: 42903

SQL0121N ターゲット名 *name* が同じ SQL ステートメントの割り当てで 2 回以上指定されています。

説明: 同じターゲット名 *name* が、CALL ステートメントの OUT または INOUT 引数として、または INSERT ステートメントの列リスト、UPDATE ステートメントの SET 節の割り当ての左辺、または割り当てステートメントの左辺に 2 回以上指定されています。ターゲット名は、列、SQL パラメーター、または変数を識別します。

ビューの 2 つ以上の列が基本表の同じ列にもとづいているビューの更新または挿入を行うときに、このエラーが発生する可能性があることに注意してください。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメントの構文を修正し、各列名を 1 度だけ指定するようにしてください。

sqlcode: -121

sqlstate: 42701

SQL0122N GROUP BY 節のない SELECT ステートメントの SELECT 節に、列名または式と列関数が含まれているか、または SELECT 節に含まれている列名または式が、GROUP BY 節に含まれていません。

説明: SELECT ステートメントには、以下に示すエラーのいずれかがあります。

- 列名または式と列関数が SELECT 節中に入っていますが、GROUP BY 節がありません。
- 列名または式が SELECT 節中に入っていますが、GROUP BY 節中に入っていない。

列または式がスカラー関数の中に入っている可能性があります。

DATAPARTITIONNUM、DBPARTITIONNUM、NODENUMBER、HASHEDVALUE、または PARTITION 関数を SELECT 節で指定した場合、基礎表のすべてのデータベースまたは表パーティション・キー列が SELECT 節にあると見なされます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: SELECT 節内の GROUP BY 節に列または式を組み込むか、または SELECT 節から列または式を削除して、ステートメントを訂正してください。

sqlcode: -122

sqlstate: 42803

SQL0123N 関数 *name* の位置 *n* のパラメーターは、定数かキーワードでなければなりません。

説明: 関数 *name* の位置 *n* のパラメーターは、定数でなければならない場合に定数でなく、キーワードでなければならない場合にキーワードではありません。

ユーザーの処置: 関数の各引数を、対応するパラメーターの定義に一致させてください。

sqlcode: -123

sqlstate: 42601

SQL0125N ORDER BY 節の列番号が、1 より小さいか、または結果表の列数より大きくなっています。

説明: ステートメント内の ORDER BY 節に含まれる列の番号が、1 以下かまたは結果表の列数 (SELECT 節内の項目数) より大きくなっています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ORDER BY 節の構文を修正して、各列の ID が結果表の列を正しく識別するようにしてください。

sqlcode: -125

sqlstate: 42805

SQL0127N DISTINCT が 2 回以上指定されています。

説明: DISTINCT 修飾子は、以下のように使用することはできません。

- SELECT 節および列関数の両方で使用する。
- 同一の SELECT ステートメント内の複数の列関数で使用する。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: このエラーは、DB2 バージョン 2 以前の DB2 のリリースと、DB2 Connect を介してアクセスされるホストのみに適用されます。

sqlcode: -127

sqlstate: 42905

SQL0129N ステートメントに入っている表名が多すぎます。

説明: SQL ステートメントに入っている表名が多すぎます。1 個の SQL ステートメントが参照できる最大の表数は 255 です。参照される任意のビューの各表がこの限度内に含まれます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを複数の単純ステートメントに分割して、各ステートメントが 255 またはそれ以下の表参照となるようにしてください。

このメッセージは、DB2 Connect を介してアクセスされるホストにのみ適用されます。

sqlcode: -129

sqlstate: 54004

SQL0130N ESCAPE 節が単一文字でないか、またはパターン・ストリングに、エスケープ文字の無効なオカレンスが含まれています。

説明: エスケープ文字は、2 バイト以下の長さの単一文字でなければなりません。これがパターン・ストリングに現れるのは、エスケープ文字自身、パーセント記号、または下線が後に続く場合だけです。LIKE 述部の ESCAPE 節に関する詳細については、「SQL リファレンス」を参照してください。

ユーザーの処置: パターン・ストリングまたはエスケープ文字を訂正してください。

sqlcode: -130

sqlstate: 22019, 22025

SQL0131N LIKE 述部のオペランドに適合しないデータ・タイプが含まれています。

説明: LIKE または NOT LIKE の左側が文字タイプの場合は、右側も文字タイプでなければなりません。

左側が GRAPHIC 型の場合は、右側も GRAPHIC 型でなければなりません。

式の左側のタイプが BLOB の場合は、右側も BLOB タイプでなければなりません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: LIKE 述部をチェックし、同じデータ・タイプに修正してください。

sqlcode: -131

sqlstate: 42818

SQL0132N 最初のオペランドがストリング式でないか、または 2 番目のオペランドがストリングではないため、LIKE 述部、または POSSTR スカラー関数が無効です。最初のオペランドがストリングでないか、または 2 番目のオペランドがストリング式ではないため、LOCATE または POSITION スカラー関数が無効です。

説明: 最初のオペランドがストリング式でないか、または 2 番目のオペランドがストリングではないため、ステートメントの LIKE 述部または POSSTR スカラー関数が無効です。最初のオペランドがストリングでないか、または 2 番目のオペランドがストリング式ではないため、ステートメントの LOCATE スカラー関数または POSITION スカラー関数が無効です。

LIKE または NOT LIKE 述部の左側のオペランド、LOCATE の 第 2 オペランド、POSITION の 第 2 オペランド、または POSSTR の最初のオペランドは、ストリング式でなければなりません。述部の右側、LOCATE の最初のオペランド、POSITION の最初のオペランド、または POSSTR の 第 2 オペランドにある値は、以下のいずれでもかまいません。

- 定数
- 特殊レジスター
- ホスト変数
- LOCATE および POSITION の場合のみ、列参照
- 上記にリストされた項目のいずれかのオペランドを持つスカラー関数
- 上記にリストされた項目のいずれかを連結する式

以下の制約があります。

- 式の要素は LONG VARCHAR、CLOB、LONG VARGRAPHIC、または DBCLOB のタイプにはできません。さらに、BLOB ファイル参照変数にはできません。
- 式の実際の長さは、4000 バイトを超えることができません。

LIKE 述部、LOCATE スカラー関数、POSITION スカラー関数、または POSSTR スカラー関数は、DATE、TIME、TIMESTAMP では使用できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: LIKE、LOCATE、POSITION、または POSSTR の構文をチェックし、訂正してください。

sqlcode: -132

sqlstate: 42824

SQL0134N ストリング列、ホスト変数、定数、または関数 *name* の使用が不適切です。

説明: ストリング *name* の使用は許されていません。

以下では、結果が CLOB、DBCLOB、BLOB、LONG VARCHAR、または LONG VARGRAPHIC データ・タイプになる式は許可されていません。

- SELECT DISTINCT ステートメント
- GROUP BY 節

- ORDER BY 節
- DISTINCT を持つ列関数
- UNION ALL 以外のセット演算子の SELECT または VALUES ステートメント

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: パスルー・セッションの場合、データ・ソース固有の制約事項によってこのエラーが生じる可能性があります。障害のあるデータ・ソースについては、「SQL リファレンス」の資料を参照してください。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ストリングで要求された処理はサポートされていません。

sqlcode: -134

sqlstate: 42907

SQL0135N INSERT ステートメントまたは UPDATE ステートメントの長ストリング列の入力は、ホスト変数からのものか、またはキーワード NULL でなければなりません。

説明: UPDATE または INSERT は、NULL またはホスト変数を使用している定数、列名、または副照会を使用しています。

長ストリング列は LONG VARCHAR、LONG VARGRAPHIC、VARCHAR(n) のいずれか (n は 254 より大きく 32767 以下)、または VARGRAPHIC(n) (n は 127 より大きく 16383 未満) です。

ユーザーの処置: 長ストリングの使用に関しては、DB2 for VM Application Programming マニュアルを参照してください。ステートメントを訂正してください。もう一度やり直してください。

sqlcode: -135

sqlstate: 56033

SQL0137N *operation* の結果の長さが、*maximum-value* よりも長くなっています。

説明: 操作の結果として、実際の長さがその操作で許可されている最大長を超えているストリングが生成されました。

操作が CONCAT である場合、指定されたオペランドの連結結果が、結果タイプによってサポートされている長さを超えました。

いずれかのオペランドが CLOB で、その制限が 2 ギガバイトでない限り、文字ストリングの結果は 32,700 バイトに制限されます。

いずれかのオペランドが DBCLOB で、その制限が

SQL0138N • SQL0143W

1,073,741,823 (1 ギガバイトより 1 少ない値) 2 バイト文字でなり限り、GRAPHIC スtringの結果は 16,350 文字に制限されます。

バイナリー数Stringの結果 (オペランドは BLOB) は 2 ギガバイトに制限されます。

ユーザーの処置: その操作の資料を参照して、結果Stringがどのように生成され、操作の最大長がどのように決定されるのかを調べてください。操作の引数を変更することにより、結果の長さや最大長が変化するかどうかを検討してください。

操作が CONCAT である場合、オペランドの長さの合計が、サポートされている最大値を超えないようにして、操作を再実行してください。

sqlcode: -137

sqlstate: 22001, 54006

SQL0138N 組み込みString関数の数値引数が範囲外です。

説明: SUBSTR 関数の場合、下記のいずれかの状態が存在します。

- SUBSTR 関数の 2 番目の引数値が、値が 1 より小さいか M より大きい式である。
- SUBSTR 関数の 3 番目の引数値が、値が 0 より小さいか M-N+1 より大きい式である。

SUBSTRING 関数の場合、下記の状態が存在します。

- SUBSTRING 関数の 2 番目の引数値が、値が 1 より小さいか M より大きい式である。

LEFT または RIGHT 関数の場合、下記の状態が存在します。

- LEFT または RIGHT 関数の 2 番目の引数値が、値が 0 より小さいか 1 番目の引数の長さ属性より大きい式である。

INSERT 関数の場合、下記のいずれかの状態が存在します。

- INSERT 関数の 2 番目の引数値が、値が 1 より小さいか M + 1 より大きい式である。
- INSERT 関数の 3 番目の引数値が、値が 0 より小さい式である。

OVERLAY 関数の場合、下記のいずれかの状態が存在します。

- OVERLAY 関数の 3 番目の引数値が、値が 1 より小さいか M + 1 より大きい式である。
- OVERLAY 関数の 4 番目の引数値が、値が 0 より小さい式である。

固定長の場合、M は最初の引数の長さであり、可変長の場合、M は最初の引数の最大長です。N は 2 番目の引数の値です。

ステートメントは実行できません。

ユーザーの処置: 組み込みString関数のすべての数値引数が、このメッセージの説明に記載された規則に従っている正当な値であることを確認してください。

sqlcode: -138

sqlstate: 22011

SQL0139W 列 column の指定に重複した節があります。

説明: 列指定内の節が重複しています。

ステートメントは正常に処理されましたが、重複した節は無視されました。

ユーザーの処置: 列指定を訂正してください。

sqlcode: +139

sqlstate: 01589

SQL0142N この SQL ステートメントはサポートされていません。

説明: 他の SQL ダイアレクトで有効なプロシージャ型 SQL ステートメントがこのデータ・サーバーによりサポートされていないか、または他の IBM リレーショナル・データベースで有効な SQL ステートメントがこのデータ・サーバーによりサポートされていないか。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: SQL ステートメントをサポートしないデータ・ソースに対する SQL ステートメントになっていないか調べてください。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: SQL ステートメントの構文を変更するか、またはそのステートメントをプログラムから取り除いてください。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 理由が不明な場合には、問題を切り分けて要求失敗の原因となったデータ・ソースを突き止め、そのデータ・ソースの SQL ダイアレクトを調べてください。

SQL0143W この SQL ステートメントはサポートされず、無効な構文は無視されます。

説明: 他の IBM リレーショナル・データベース製品では、有効な組み込み SQL ステートメントかもしれませんが、データベース・マネージャーではサポートされていません。

このステートメントは一貫性がないか、または望ましくない結果を招く可能性があります。

ユーザーの処置: SQL ステートメントの構文を変更するか、またはそのステートメントをプログラムから取り除いてください。

SQL0150N INSERT, DELETE, UPDATE, MERGE, または TRUNCATE ステートメントのターゲットとなる全選択、ビュー、型付き表、マテリアライズ照会表、範囲がクラスター化された表、またはステージング表は、要求された操作が許可されていないターゲットです。

説明: INSERT、UPDATE、DELETE、MERGE、または TRUNCATE ステートメント内で指定されている全選択、ビュー、型付き表、マテリアライズ照会表、範囲がクラスター化された表、またはステージング表は、要求された挿入、更新、削除、または切り捨て操作が実行できないように定義されています。

ビューまたは全選択は、ビューまたは全選択の SELECT ステートメントに以下のいずれかがある場合にのみ、読み取り専用となります。

- DISTINCT キーワード
- SELECT リスト内の列関数
- GROUP BY または HAVING 節
- 以下のいずれかの項目を指定する FROM 節
 - 複数の表またはビュー
 - 読み取り専用のビュー (SYSCAT.VIEWS の READONLY 列が 'Y' に設定されています)
 - 期間の指定が後に続いているシステム期間テンポラ表
- セット演算子 (UNION ALL 以外)
- フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: ビューを更新不可能にするデータ・ソース特有の制限

上記の条件は SELECT ステートメントまたは全選択の副照会には適用されません。

NOT DETERMISTIC あるいは EXTERNAL ACTION で定義されている副照会かルーチンを参照する WHERE 節を、直接または間接に含むビューは、MERGE ステートメントのターゲットとして使用されません。

WITH ROW MOVEMENT 節で定義されたビューは、更新処理を含む MERGE ステートメントのターゲットとして使用できません。

UNION ALL を使用する全選択で定義されたビューは、変更操作で period 節が指定されている MERGE ステートメントのターゲットとして使用できません。

インスタンス化が可能でない構造化タイプに定義されている型付き表に、行を直接挿入することはできません。この表の副表では挿入が許可されています。

一般的に、システムが保守するマテリアライズ照会表およびステージング表に対して挿入、更新、削除、または切り捨て操作を行うことはできません。

切り捨て操作では、範囲がクラスター化された表を使用できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 要求された関数は全選択、ビュー、システムで保守されるマテリアライズ照会表、範囲がクラスター化された表、またはステージング表に対して実行できません。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 理由が不明な場合には、問題を切り分けて要求失敗の原因となったデータ・ソースを突き止め、そのデータ・ソースのオブジェクト定義と更新制限を調べてください。

sqlcode: -150

sqlstate: 42807

SQL0151N 列 name は更新できません。

説明: 以下のいずれかの状態のため、示された列は更新できません。

- オブジェクト表がビューであり、指定された列が、スカラー関数、式、キーワード、定数、または列を更新できないビューの列から派生した列である。
- 指定された列は、システム・カタログの更新不能列か、または明示的に READ ONLY とマークされた列です。
- 表の BUSINESS_TIME 期間に、更新対象として指定された列が含まれています。BUSINESS_TIME 期間の列をトリガー本体内で変更してはなりません。
- 表の BUSINESS_TIME 期間に、更新対象として指定された列が含まれています。データ変更ステートメントに期間節が含まれている場合は、BUSINESS_TIME 期間の列をトリガー本体内で変更してはなりません。

フェデレーテッド・システム・ユーザーは、他のデータ・ソース特有の制限が列の更新を妨げていないかを調べてください。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 示された列が、スカラー関数、式、キ

SQL0152N

ードワード、または更新できない列から派生した列である場合は、更新の SET 節の列または挿入の列を省略してください。更新可能カタログ (および更新可能列) のリストについては、「SQL リファレンス」を参照してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 理由が不明な場合には、問題を切り分けて要求失敗の原因となったデータ・ソースを突き止め、そのデータ・ソースのオブジェクト定義と更新制限を調べてください。

sqlcode: -151

sqlstate: 42808

SQL0152N 制約 *constraint-name* は、*expected-constraint-type* 制約ではなく、*actual-constraint-type* 制約です。

説明: 制約 *constraint-name* の変更またはドロップが試行されましたが、この制約は指定された *actual-constraint-type* 制約ではなく、*expected-constraint-type* として定義されています。

ユーザーの処置: 変更またはドロップしようとしている制約の名前とタイプを検証してください。

sqlcode: -152

sqlstate: 42809

SQL0153N 必要な列リストがステートメントにありません。

説明: 以下の場合には、CREATE VIEW ステートメント、共通表式、または AS 副照会節を含む CREATE TABLE ステートメントに列リストを指定する必要があります。

- 全選択の SELECT リストのすべてのエレメントが、列名以外で AS 節を使用して名前が指定されていません。
- AS 節を使用して名前が変更されていない同一の列名を持つ 2 つのエレメントが存在します。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: CREATE VIEW ステートメント、共通表式、CREATE TABLE ステートメントに列名リストを指定するか、または AS 節を使用して、全選択の SELECT リストに列の名前を指定してください。

sqlcode: -153

sqlstate: 42908

SQL0155N トリガー遷移表は変更できません。

説明: トリガーに、OLD_TABLE または NEW_TABLE が識別された REFERENCING 節が入っています。DELETE、INSERT または UPDATE トリガー SQL ステートメントが、変更する表として指定されている OLD_TABLE または NEW_TABLE と同じ名前を使用しました。

ユーザーの処置: DELETE、INSERT または UPDATE トリガー SQL ステートメントを、トリガー・アクションから取り除くか、または遷移表の名前を変更して、変更する表と矛盾しないようにしてください。

sqlcode: -155

sqlstate: 42807

SQL0156N この処理に使用されている名前は表名ではありません。

説明: SQL ステートメント ALTER TABLE、DROP TABLE、SET INTEGRITY、CREATE TRIGGER、CREATE INDEX、LOCK TABLE、および RENAME TABLE は表にのみ適用され、ビューには適用できません。RUNSTATS、LOAD、および REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION GROUP ユーティリティも、表にのみ適用可能で、ビューには適用できません。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: いくつかのユーティリティおよびステートメントは、フェデレーテッド環境ではサポートされていません。詳しくは、「管理ガイド」を参照してください。

ステートメントまたはユーティリティは処理されません。

ユーザーの処置: 正しい表名がステートメントに指定されていることを確認してください。別名を指定する場合は、別名が表名に解決されることを確認してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: オブジェクトがニックネームではないことを確認してください。

sqlcode: -156

sqlstate: 42809

SQL0157N 基本表を識別していないため、*name* は FOREIGN KEY 節では許可されていません。

説明: オブジェクト *name* が、CREATE または ALTER TABLE ステートメントの FOREIGN KEY 節に指定されました。FOREIGN KEY 節は基本表を識別していなければなりません。

ステートメントは処理できません。指定した表は作成または変更されません。

ユーザーの処置: ステートメントを修正して、FOREIGN KEY 節内に基本表名を指定してください。

別名を指定する場合は、別名が基本表名に解決されることを確認してください。

sqlcode: -157

sqlstate: 42810

SQL0158N *name* 用に選択した列数が、結果表にある列数と同じではありません。

説明: ID *name* は、次の中から識別できます。

- CREATE VIEW ステートメントで命名されたビュー
- 共通表式の表名
- ネストされた表の式の関連名
- CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントに指定されているマテリアライズ照会表
- CREATE FUNCTION ステートメントに指定されている関数
- CREATE METHOD ステートメントに指定されているメソッド
- CREATE STAGING TABLE ステートメントに指定されているステージング表名

指定された列名のは、関連した全選択の結果表内の列数と同じでなくてはなりません。 *name* がステージング表であり、関連するマテリアライズ照会表に GROUP BY 節がある場合、指定する列名のは、ステージング表が定義されているマテリアライズ照会表の列数より 2 つ多くなければなりません。 関連するマテリアライズ照会表に GROUP BY 節がない場合、指定する列名のはマテリアライズ照会表の列の数よりも 3 つ多くなければなりません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: *name* に定義されている列名のリストが結果表の各列に対して名前を指定するよう、構文を訂正してください。

sqlcode: -158

sqlstate: 42811

SQL0159N ステートメントは、*expected-object-type* よりむしろ *object-type* を識別する *object* を参照します。

説明: ステートメントまたはコマンドの一部として指定されているオブジェクト *object* は、予想されるタイプ

expected-object-type ではなく、*object-type* のオブジェクト・タイプを参照します。

ステートメントまたはコマンドで指定するオブジェクトのタイプは、*expected-object-type* で識別されるタイプと同じでなければなりません。例えば:

- ステートメントが DROP ALIAS *PBIRD.TI* の場合、*PBIRD.TI* は別名でなければなりません。
- *object-type* が TABLE の場合、発行したステートメントの表タイプが誤っている可能性があります。
- CREATE MASK または CREATE PERMISSION ステートメントにより、現行のサーバーに存在する基本表に名前が付けられる必要があります。

ユーザーの処置: *expected-object-type* で識別されるオブジェクトのタイプと、正しく一致するようステートメントまたはコマンドを変更します。

sqlcode: -159

sqlstate: 42809

SQL0160N WITH CHECK オプション節は指定されたビューには無効です。

説明: 以下の場合には、WITH CHECK OPTION 節をビュー定義で使用することはできません。

- このビューは読み取り専用として定義されています。SELECT ステートメントに、以下に示す項目のいずれかが入っている場合、ビューは読み取り専用となります。(これらの条件は SELECT ステートメントの副照会には適用されませんので、注意してください。)
 - DISTINCT キーワード
 - 選択リスト内の列関数
 - GROUP BY または HAVING 節
 - 以下のいずれかを示す FROM 節
 - 複数の表またはビュー
 - 読み取り専用ビュー
 - セット演算子 (UNION ALL 以外)
- 副照会の入った CREATE VIEW ステートメントの SELECT ステートメント (いくつかのカatalog表の特定の統計列を除く)
- 指定されたビュー定義が従属しているビューに、INSTEAD OF トリガーが定義されている
- 指定されたビュー定義が従属しているビューに、テキスト検索関数が含まれている

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: WITH CHECK オプション節は、更新可能なニックネームを参照するビューではサポートされていません。

SQL0161N

ステートメントは処理できません。指定したビューは作成されません。

ユーザーの処置: このメッセージにリストされた規則に従うように、WITH CHECK OPTION 文節を削除するか、またはビュー定義を変更してください。

sqlcode: -160

sqlstate: 42813

SQL0161N INSERT または UPDATE の結果の行が、ビュー定義に準拠していません。

説明: WITH CHECK OPTION 節が、挿入または更新処理、もしくはターゲットとしてビューを使用する挿入または更新処理で指定された FROM 節のオブジェクトである、ビュー定義で指定されました。その結果、処理結果がビュー定義に一致するように、そのビュー内の行に対する挿入または更新処理のすべてがチェックされます。

ビューをターゲットとする挿入または更新処理が FROM 節にある場合、挿入または更新処理は、そのビューに WITH CHECK OPTION 定義がなされているかのように常に処理されます。

ステートメントは処理できません。挿入または更新処理は実行されず、ビューおよび基本表の内容は変更されませんでした。

ユーザーの処置: ビュー定義を調べて、要求した挿入または更新処理が拒否された理由を判別してください。これは、データ固有の条件の場合があることに注意してください。

要求した挿入操作または更新操作によって、ターゲット列への範囲外の値の設定が試行された可能性があります。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 理由が不明な場合には、問題を切り分けて要求失敗の原因となったデータ・ソースを突き止め、そのデータ・ソースのオブジェクト定義とビュー定義を調べてください。

sqlcode: -161

sqlstate: 44000

SQL0170N 関数 name の引数の数が間違っています。

説明: 示されたスカラー関数 name 内の引数の数が、少なすぎるかまたは多すぎます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: そのスカラー関数に指定した引数の数が正しいことを確認してください。

sqlcode: -170

sqlstate: 42605

SQL0171N ルーチン name の位置 n にあるパラメータの引数のデータ・タイプ、長さ、または値が誤っています。パラメーター名: parameter-name。

説明: ルーチン name の引数のデータ・タイプ、長さ、または値が誤っています。引数は、ルーチン name 内のパラメーターが定義されている位置 n と、パラメーターに名前がある場合はパラメーターの名前 parameter-name により識別されます。

位置が適切でないかまたは不明の場合、値 0 が n に対して戻されます。パラメーター名が適切でないかまたは不明の場合、空ストリングが parameter-name に対して戻されます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ルーチンの引数が、説明どおりに、ルーチンのパラメーターの規則に従っていることを確認してください。

sqlcode: -171

sqlstate: 42815, 10608, 5UA05, 5UA06, 5UA07, 5UA08, 5UA09, 5UA0J

SQL0172N name は、有効な関数名ではありません。

説明: SQL ステートメントに、認識できないスカラー関数が入っています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 示された関数名のつづりが正しいことを確認してください。

sqlcode: -172

sqlstate: 42601

SQL0176N TRANSLATE スカラー関数の 2 番目、3 番目、または 4 番目の引数が間違っています。

説明: ステートメントが以下の 1 つ以上の理由により正しくありません。

- TRANSLATE スカラー関数では、異なるバイト数でエンコードされた他の文字による、文字の置き換えが許されない。たとえば、1 バイト文字が 2 バイト文字で置き換えられないだけでなく、2 バイト文字も 1 バイト文字で置き換えることができません。
- TRANSLATE スカラー関数の 2 番目と 3 番目の引数は、正しい形式の文字で終わる必要があります。

- TRANSLATE スカラー関数の最初の引数が CHAR または VARCHAR の場合、4 番目の引数は、正しい形式の 1 バイト文字でなければなりません。
- TRANSLATE スカラー関数の最初の引数が GRAPHIC または VARGRAPHIC の場合、4 番目の引数は、正しい形式の 2 バイト文字でなければなりません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: TRANSLATE スカラー関数の 2 番目、3 番目、4 番目の引数が正しい値を持っていることを確認してください。

sqlcode: -176

sqlstate: 42815

SQL0180N 日時値のストリング表記の構文が、間違っています。

説明: 日付、時刻、またはタイム・スタンプの値のストリング表記が、指定されたデータ・タイプまたは暗黙的なデータ・タイプの構文に合っていません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 日付、時刻、またはタイム・スタンプの値の構文が、そのデータ・タイプの構文にしたがっていることを確認してください。そのストリングを日付、時刻、またはタイム・スタンプの値として使用していない場合は、使用時に、そのデータ・タイプにならないことを確認してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 問題はデータ・ソースでの日付/時刻表示の問題が原因である可能性があります。理由が不明な場合は、問題を分離して要求失敗の原因となったデータ・ソースを突き止め、そのデータ・ソースの日時表示の制約事項を調べてください。

sqlcode: -180

sqlstate: 22007

SQL0181N 日時値のストリング表記が許容範囲を超えています。

説明: 日付、時刻、またはタイム・スタンプの値のストリング表記に、許容範囲を超える値が入っています。

このエラーは、アプリケーションが日時値の作成に使用したフォーマットとは異なる日時フォーマットのテリトリリー・コードを使って、アプリケーションから日時値にアクセスしたことが原因で発生した可能性があります。たとえば、dd/mm/yyyy のフォーマットで保管されたストリングの日付時刻値は、mm/dd/yyyy フォーマットを採用するアプリケーションを使用するときには無効になります。

日付、時刻、またはタイム・スタンプの値の有効な範囲は、以下のとおりです。

- 年の場合、0001 から 9999。
- 月の場合、1 から 12。
- 日の場合、1 から 31 (月が 1、3、5、7、8、10、12 の場合)。
- 日の場合、1 から 30 (月が 4、6、9、11 の場合)。
- 日の場合、1 から 28 (月が 2 (うるう年でない) 場合)。
- 日の場合、1 から 29 (月が 2 (うるう年) の場合)。
- 時間の場合、0 から 24。時刻が 24 の場合、他の表示データは 0 になります。時間フォーマットが USA の場合は、時刻は 12 以下でなければなりません。
- 分の場合、0 から 59。
- 秒の場合、0 から 59。
- 小数秒の場合、0 から 999999999999。
- 年間通算日の場合、001 から 365 (うるう年でない)。
- 年間通算日の場合、001 から 366 (うるう年)。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 問題はデータ・ソースでの日付/時刻表示の問題が原因である可能性があります。データ・ソースでの日付と時刻の値の範囲については、データ・ソースの資料を参照してください。理由が不明な場合は、問題を分離して要求失敗の原因となったデータ・ソースを突き止め、そのデータ・ソースの日時表示の制約事項を調べてください。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 指定した値が有効な範囲内にあることを確認してください。また、アプリケーションの日付時刻フォーマットがそのストリング値と同じであることを確認してください。

sqlcode: -181

sqlstate: 22007

SQL0182N 日時値またはラベル付き期間の表現が無効です。

説明: 指定された表現に、正しくない日付の値、時刻の値、タイム・スタンプの値、またはラベル付き期間が使用されています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを調べて問題の原因を判別し、ステートメントを訂正してください。

sqlcode: -182

sqlstate: 42816

SQL0183N 日時算術演算または日時スカラー関数の結果が、有効な日付の範囲を超えています。

説明: 演算処理の値が日付またはタイム・スタンプで、0001-01-01 から 9999-12-31 までの範囲を超えています。

ステートメントは実行できません。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを調べて、問題の原因を判別してください。問題がデータによるものであれば、エラーが発生した時点で処理されていたデータを調べてください。

sqlcode: -183

sqlstate: 22008

SQL0187N 現在の日付/時刻特殊レジスターに対する参照が無効です。

説明: 日付/時刻情報の検索時に、オペレーティング・システムがエラーを見つけました。

ユーザーの処置: システム TOD クロックと時間帯の設定が正しいことを確認してください。

sqlcode: -187

sqlstate: 22506

SQL0190N ALTER TABLE *table-name* が、既存の列と互換性のない列 *column-name* の属性を指定しました。

説明: ALTER TABLE ステートメントにある表 *table-name* の列 *column-name* で ALTER COLUMN 節に指定されている属性に、既存の列の属性との互換性がありません。以下のいずれかの理由で、エラーが返されました。

- 既存の列に SET DATA TYPE 節が指定されているが、以下のような場合。
 - データ・タイプが変更できるタイプではない
 - 既存のデータまたはデフォルト値のデータ・タイプを変換すると、オーバーフロー、許可されない切り捨て、またはキャスト・エラーが発生する可能性がある
 - データ・タイプを新しいデータ・タイプに変更できない
 - 現在のデータ・タイプが SYSPROC.DB2SECURITYLABEL で、変更できない
 - データ・タイプを SYSPROC.DB2SECURITYLABEL に変更できない

- SET EXPRESSION 節が指定されているが、既存の列が次のような場合。
 - 式を使用して生成されるよう定義されていない
 - 表パーティション・キーの一部である
- DROP COLUMN SECURITY オプションが指定されているが、列がまだセキュリティー・ラベルで保護されていない。
- DROP DEFAULT が指定されているが、列がデフォルトの属性を使用して定義されていない。
- DROP IDENTITY が指定されているが、列が ID 列として定義されていない。
- DROP EXPRESSION が指定されているが、列が生成式を使用して定義されていない。
- SET DEFAULT が指定されているが、列が生成の別の形式 (ID または式) で既に定義されていて、対応する DROP が同じステートメントに含まれていない。
- SET GENERATED ALWAYS AS (式) が指定されているが、生成の 1 つの形式 (デフォルト、ID、または式) を使用して列が既に定義されていて、対応する DROP が同じステートメントに含まれていない。
- SET GENERATED ALWAYS AS IDENTITY または SET GENERATED BY DEFAULT AS IDENTITY が指定されているが、生成の 1 つの形式 (デフォルト、ID、または式) を使用して既に列が定義されていて、対応する DROP が同じステートメントに含まれていない。
- SET GENERATED ALWAYS または SET GENERATED BY DEFAULT が指定されているが、列が ID 列でない。
- 列を行開始、行終了、またはトランザクション開始 ID 列に変更するために SET GENERATED を使用して ALTER COLUMN が指定されているが、列がすでに生成された列として定義されている。
- 列を行開始、行終了、トランザクション開始 ID 列に変更するために ALTER COLUMN が指定されているが、列がすでにユーザー指定のデフォルト値を使用して定義されている。
- ALTER COLUMN SET DATA TYPE が指定されているが、BUSINESS_TIME 期間の開始列または終了列の精度が減った。精度を減らすことはできません。
- ALTER COLUMN SET DEFAULT が指定されているが、列が生成された列である。
- DROP DEFAULT が指定されているが、列が行開始列、行終了列、またはトランザクション開始 ID 列である。
- DROP GENERATED が指定されているが、列が生成された列ではない。

- DROP NOT NULL が指定されているが、列が表の主キーで指定されているか、列が ID 列、行変更タイム・スタンプ列、行開始列、または行終了列である。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 指定された属性に既存の列との互換性を与え、属性指定を除去するか、または異なる列名を指定してください。SET DATA TYPE 節を指定した場合、通知ログを調べて、ALTER COLUMN 不能の原因となった可能性のある対立する行をリストしている項目があるかどうか確認してください。すでにユーザー定義のデフォルト値を持っている列に対して ALTER COLUMN が指定された場合、列定義を変更する前に、ALTER TABLE ステートメントを発行してデフォルトをドロップする必要があります。

sqlcode: -190

sqlstate: 42837

SQL0191N フラグメント化された MBCS 文字のためにエラーが発生しました。

説明: 可能性のある理由は、以下のとおりです。

1. ユーザー・データに正しくない形式のマルチバイト文字が入っていた。たとえば、DBCS 文字の最初のバイトは見つかったが、2 番目のバイトが見つからないというような場合です。
2. SUBSTR または POSSTR などのスカラー関数がマルチバイト・ストリングを不正に切り捨てた。これらの関数については、データベース・コード・ページのコンテキスト内で、開始および長さの値がバイト単位で正しくなければなりません。Unicode データベースについては、これと共通の原因として、UTF-8 ストリングの開始および長さが正しくない可能性があります。
3. TRANSLATE などのスカラー関数がマルチバイト・ストリングを変更した。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: この状態はデータ・ソースによっても検出できます。

ユーザーの処置:

1. 入力データを訂正して、もう一度やり直してください。
2. 文字がデータベース・コード・ページに変換されるときに開始および長さの値を変更して、マルチバイト文字が不正に切り捨てられないようにしてください。
3. エラーのある TRANSLATE を訂正してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: データが正しい場合には、問題を切り分けて要求失敗の原因と

なったデータ・ソースを突き止め、そのデータ・ソースの DBCS 制約事項を調べてください。データが正確であるようならば、IBM サービスに連絡してください。

sqlcode: -191

sqlstate: 22504

SQL0193N ALTER TABLE ステートメントでは、列 *column-name* が NOT NULL として指定されており、DEFAULT 節が指定されていないか、または DEFAULT NULL として指定されています。

説明: すでに存在する表に新しい列を追加する場合は、すべての既存の行の新しい列に対して、値を割り当てる必要があります。デフォルトでは、null 値が割り当てられます。ただし、列が NOT NULL として定義されているので、NULL 以外のデフォルト値を定義する必要があります。

ユーザーの処置: 列の NOT NULL 制約を取り除くか、または列に対して NULL 以外のデフォルト値を指定してください。

sqlcode: -193

sqlstate: 42601

SQL0195N *table-name* の最後の列をドロップできません。

説明: ALTER TABLE ステートメントを使用して、1 つ以上の列をドロップしようとしてきました。表を変更するときには、既存の列が少なくとも 1 つ保持されている必要があるため、表 *table-name* から列をドロップすることはできません。

ユーザーの処置: ALTER ステートメント完了後に、表 *table-name* に少なくとも 1 つの列があるようにしてください。いずれかの列の DROP を除去して要求を再試行するか、またはすべての列を削除する必要がある場合は、表をドロップし、表を作成し直してください。

sqlcode: -195

sqlstate: 42814

SQL0196N *table-name* の列 *column-name* をドロップできません。理由コード = *reason-code*。

説明: 列 *column-name* をドロップしようとしてきました。列をドロップできない理由を説明する理由コードを参照してください。

1

この列は、マルチノード分散キー、表パーティション・キー、または MDC 編成ディメンションの一部であるため、削除できません。

2

システム生成の列がこの列に依存しているため、この列をドロップすることはできません。

3

タイプ SYSPROC.DB2SECURITYLABEL の列はドロップできません。

4

この列は期間の定義で参照されているため、ドロップすることはできません。

5

この列は、システム期間テンポラル表の列であるため、ドロップすることはできません。

6

この列は、履歴表の列であるため、ドロップすることはできません。

ユーザーの処置:

1

表のキーまたはディメンションが変更されるまで、この列はドロップできません。

2

従属する列の生成式を変更してください

3

タイプ SYSPROC.DB2SECURITYLABEL の列を作成せずに表をドロップして再作成してください。

4

列のドロップを要求しているステートメントを変更してください。

5

システム期間テンポラル表から列をドロップするには、関連付けられている履歴表から列をドロップする必要もあります。以下のステップを使用すると、両方の表から列をドロップできます。

1. システム期間テンポラル表を変更し、バージョン管理をドロップします。これにより、表の間のリンクが切断されます。
2. システム期間テンポラル表を変更し、列をドロップします。

3. 履歴表であった表を変更し、列をドロップします。
4. 以前のシステム期間テンポラル表を変更し、バージョン管理を追加します。これにより、表の間のリンクが再設定されます。

6

履歴表から列をドロップするには、関連付けられているシステム期間テンポラル表から列をドロップする必要もあります。以下のステップを使用すると、両方の表から列をドロップできます。

1. システム期間テンポラル表を変更し、バージョン管理をドロップします。これにより、表の間のリンクが切断されます。
2. システム期間テンポラル表を変更し、列をドロップします。
3. 履歴表であった表を変更し、列をドロップします。
4. 以前のシステム期間テンポラル表を変更し、バージョン管理を追加します。これにより、表の間のリンクが再設定されます。

sqlcode: -196

sqlstate: 42817

SQL0197N 修飾された列名は、ORDER BY 節では許されていません。

説明: セット演算子 (UNION、EXCEPT、INTERSECT) の入った全選択の ORDER BY 節は、修飾された列名を持つことができません。

ユーザーの処置: ORDER BY 節のすべての列名が無修飾であることを確認してください。

sqlcode: -197

sqlstate: 42877

SQL0198N PREPARE または EXECUTE IMMEDIATE ステートメントのステートメント・ストリングが、ブランクまたは空です。

説明: PREPARE または EXECUTE IMMEDIATE ステートメントのオブジェクトであるホスト変数がすべてブランクであるか、または空のストリングです。

PREPARE または EXECUTE IMMEDIATE ステートメントは完了されません。

ユーザーの処置: プログラムの論理を修正して、ステートメントが実行される前に、PREPARE または

EXECUTE IMMEDIATE ステートメントのオペランドに有効な SQL ステートメントを指定してください。

sqlcode: -198

sqlstate: 42617

SQL0199N *text* に続く予約語 *keyword* の使用が無効です。予期されたトークンに *token-list* が含まれている可能性があります。

説明: 予約語 *keyword* が *text* の後に現れたときに、ステートメントのその位置で SQL ステートメントの構文エラーが検出されました。「*text*」フィールドは、予約語の前にある 20 文字の SQL ステートメントを示しています。ステートメント内の節が間違っただけになっている可能性があります。

プログラマーへの解決の手掛かりとして、*token-list* として、SQLCA の「SQLERRM」フィールドに有効なトークンの一部のリストが提供されます。このリストは、その時点までのステートメントが正しいと想定していません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: キーワード域のステートメントを調べてください。コロンまたは SQL 区切り文字が欠落している場合は、追加してください。節が正しい順序で指定されていることを確認してください。メッセージに示されている予約語が予約語としてリストされている場合は、その語を区切り ID にしてください。

注: このエラーは、バージョン 2 以前の DB2 のリリースにのみ適用されます。

sqlcode: -199

sqlstate: 42601

SQL0203N 参照する列 *name* が確定できません。

説明: 列 *name* がステートメントで使用されており、そのステートメントが参照可能な列が複数あります。これは、以下のいずれかによる可能性があります。

- FROM 節に指定された、同じ名前の列を持つ 2 つの表
- 選択リストの複数の列に適用される名前を参照する ORDER BY 節
- 指示するための関連名を使用しない CREATE TRIGGER ステートメントのサブジェクト表の列に対する参照（それが古いまたは新しい移行変数を参照する場合）

列名には、どの表の列なのかを明確にするために、より詳細な情報が必要です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 列名に修飾子を追加してください。修飾子は表名または関連名です。選択リストの列の名前の変更が必要になる場合があります。

sqlcode: -203

sqlstate: 42702

SQL0204N *name* は未定義の名前です。

説明: このエラーは、以下のいずれかが原因です。

- *name* によって示されているオブジェクトが、データベースに定義されていません。
 - *name* によって示されているオブジェクトが、モジュールに定義されており、公開されたモジュール・オブジェクトではなく、モジュールの外部から参照されていました。
 - *name* によって示されているデータ・パーティションが、表に定義されていません。
 - データ・タイプが使用されています。このエラーは、以下の理由で発生する可能性があります。
 - *name* が修飾されている場合は、この名前のデータ・タイプは、修飾子と一致するスキーマ、またはユーザーの SQL パスに基づいて最初に検出された修飾子と一致するモジュールのどちらにも存在しません。
 - *name* が修飾されていない場合は、ユーザーのパスに必要なデータ・タイプが属しているスキーマが入っていないか、または参照がモジュール・ルーチン内であれば、データ・タイプがモジュールで定義されていません。
 - パッケージがバインド時間より前の作成タイム・スタンプのデータベースには、データ・タイプはありません（静的ステートメントに該当します）。
 - データ・タイプが CREATE TYPE ステートメントの UNDER 節にある場合は、タイプ名は定義されたタイプと同じの可能性があります。これは有効ではありません。
 - 関数が以下のいずれかで参照されています。
 - DROP FUNCTION ステートメント
 - COMMENT ON FUNCTION ステートメント
 - CREATE FUNCTION ステートメントの SOURCE 節
- name* が修飾されている場合は、関数が存在しません。*name* が修飾されていない場合は、この名前の関数が現行パスのいずれのスキーマにも存在しません。
- 関数は、
COALESCE、DBPARTITIONNUM、GREATEST、

HASHEDVALUE、LEAST、MAX (scalar)、MIN (scalar)、NULLIF、RID、NVL、RAISE_ERROR、TYPE_ID、TYPE_NAME、TYPE_SCHEMA、または VALUE 組み込み関数から入手することはできないことに注意してください。

- *name* という名前のエレメントが CREATE SECURITY LABEL COMPONENT ステートメントの UNDER 節の右側で使用されていますが、ROOT としてまたは他のエレメントの UNDER であるとしてまだ定義されていません。
- セキュリティー・ラベル・コンポーネント・エレメント *name* がまだ定義されていません。
- 以下のいずれかのスカラー関数が、データベースで定義されていない *name* によって示されるセキュリティー・ポリシーを指定しました。
 - SECLABEL
 - SECLABEL_TO_CHAR
 - SECLABEL_BY_NAME

この戻りコードは、すべてのタイプのデータベース・オブジェクトに対して生成されます。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: *name* によって識別されるオブジェクトがデータベースで定義されていないか、または *name* が DROP NICKNAME ステートメントでニックネームになっていません。

一部のデータ・ソースは、*name* に適切な値を提供しません。この場合、メッセージ・トークンは "OBJECT:<data source> TABLE/VIEW" のフォーマットになります。これは、指定されたデータ・ソースの実際の値が不明であることを示します。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: オブジェクト名 (必須の修飾子を含む) が、SQL ステートメントに正しく指定されており、それが存在することを確認してください。名前がデータ・パーティションを指す場合は、カタログ表 SYSCAT.DATAPARTITIONS を照会して、表のすべてのデータ・パーティションの名前を検索してください。SOURCE 節にデータ・タイプまたは関数が抜けている場合は、オブジェクトが存在しない可能性があるか、またはオブジェクトはどこかに存在しているが、スキーマがパスに存在しない可能性があります。

CREATE または ALTER SECURITY LABEL COMPONENT ステートメントでは、新規のエレメント値のロケーションを位置指定するための、参照エレメント値として指定された各エレメントが、セキュリティー・ラベル・コンポーネントにすでに存在することを確認してください。

CREATE SECURITY LABEL COMPONENT ステートメントでは、各エレメントを、UNDER 節で親として指定する前に、ROOT としてまたは UNDER 節で子として指定されていることを確認してください。

スカラー関数 SECLABEL、SECLABEL_TO_CHAR、または SECLABEL_BY_NAME では、引数 security-policy-name に有効なセキュリティー・ポリシーが指定されていることを確認してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: ステートメントが DROP NICKNAME の場合は、オブジェクトが実際にニックネームであるかどうかを確認してください。オブジェクトはフェデレーテッド・データベースまたはデータ・ソースに存在しない可能性があります。フェデレーテッド・データベース・オブジェクトとデータ・ソース・オブジェクト (存在する場合) の存在を確認してください。

sqlcode: -204

sqlstate: 42704

SQL0205N 列、属性、または期間 *name* が *object-name* で定義されていません。

説明: *object-name* が表またはビューである場合は、*name* は *object-name* で定義されていない列または期間です。*object-name* が構造化タイプである場合は、*name* は、*object-name* で定義されていない属性です。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: *object-name* はニックネームを参照できます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: *object-name* が表またはビューである場合は、列または期間、および表またはビューの名前 (必須の修飾子を含む) が、SQL ステートメントに正しく指定されていることを確認してください。

object-name が構造化タイプの場合は、属性およびタイプ名 (必須の修飾子を含む) が SQL ステートメントに正しく指定されていることを確認してください。

また、REORG または IMPORT 時にこのエラーを受け取った場合は、索引の列名が「SQL リファレンス」で定義されているデータベース・マネージャー命名規則に違反している可能性があります。

sqlcode: -205

sqlstate: 42703

SQL0206N 使用されているコンテキストで、*name* は無効です。

説明: このエラーは、以下の場合に発生する可能性があります。

- INSERT または UPDATE ステートメントの場合は、指定された列が表の列でないか、あるいは挿入または更新のオブジェクトとして指定されたビューではありません。
 - SELECT または DELETE ステートメントの場合は、指定された列が、ステートメント内の FROM 節で識別された表またはビューの列ではありません。
 - 割り当てステートメントの場合、参照名は、列名または変数名には解決されません。
 - 行タイプ変数のフィールドを参照する場合、参照名は、行タイプ内のどのフィールドの名前にも解決されません。
 - ORDER BY 節については、指定した列が、許可されない副選択の相関列参照となっています。
 - パラメーター化カーソル・コンストラクター内の SELECT ステートメントの場合、*name* への参照は、列または有効範囲内の変数には一致しません。ローカル変数およびルーチン SQL パラメーターは、パラメーター化カーソルの有効範囲内とは見なされません。
 - スタンドアロン・コンパウンド SQL (コンパイル済み) ステートメントの場合は、以下のとおりです。
 - 参照 *name* は、有効範囲内の列またはローカル変数の名前には解決されません。
 - SIGNAL ステートメントに指定された条件名 *name* は、まだ宣言されていません。
 - 行タイプ変数のフィールドを参照する場合、参照名は、行タイプ内のどのフィールドの名前にも解決されません。
 - CREATE TRIGGER、CREATE METHOD、CREATE FUNCTION、または CREATE PROCEDURE ステートメントの場合は、以下のとおりです。
 - 参照名 *name* は、列名、ローカル変数、または遷移変数には解決されません。
 - 参照 *name* は、現在の有効範囲内で使用できないローカル変数の名前には解決されません。
 - SIGNAL ステートメントに指定された条件名 *name* は、まだ宣言されていません。
 - 行タイプ変数のフィールドを参照する場合、参照名は、行タイプ内のどのフィールドの名前にも解決されません。
 - CREATE TRIGGER ステートメントの場合は、以下のとおりです。
 - OLD または NEW 相関名を使用せずに、参照がサブジェクト表の列に対して行われました。
 - トリガー・アクションの SET 遷移変数ステートメントの割り当ての左側が、新しい遷移変数のみがサポートされる場所で、古い遷移変数を指定しました。
 - PREDICATES 節を指定された CREATE FUNCTION ステートメントの場合は、以下のとおりです。
 - SQL 関数の RETURN ステートメントが、パラメーターではない変数、または RETURN ステートメントの有効範囲にない他の変数を参照しています。
 - FILTER USING 節が、パラメーター名ではないか、または WHEN 節内の式名ではない変数を参照しています。
 - 索引指数規則の検索ターゲットが、作成中の関数のパラメーター名に一致していません。
 - 索引指数規則の検索指数が、EXPRESSION AS 節内の式名、または作成中の関数のパラメーター名に一致していません。
 - CREATE INDEX EXTENSION ステートメントの場合、RANGE THROUGH 節または FILTER USING 節が、節で使用できるパラメーター名ではない変数を参照しています。
 - パラメーター化カーソル変数参照の場合、パラメーター化カーソル変数の定義で使用される SELECT ステートメントで参照されるローカル SQL 変数または SQL パラメーターは、現在の有効範囲内では使用できません。
 - 期間参照の場合、指定した期間が、ステートメント内のソースまたはターゲットの表またはビューにありません。
- ステートメントは処理できません。
- ユーザーの処置:** 名前が SQL ステートメントに正しく指定されていることを確認してください。SELECT ステートメントの場合は、すべての必須の表が FROM 節に指定されていることを確認してください。ORDER BY 節の副選択については相関列参照がないので、注意してください。表に対して相関名を使用している場合は、後続の参照が、表名ではなく、相関名を使用していることを確認してください。
- CREATE TRIGGER ステートメントの場合は、新しい遷移変数のみが SET 遷移変数ステートメントの割り当ての左側に指定されており、サブジェクト表の列に対する参照に、相関名が指定されていることを確認してください。
- スタンドアロン・コンパウンド SQL ステートメント、CREATE FUNCTION、CREATE PROCEDURE、または CREATE TRIGGER ステートメントの場合は、列または変数が現在のコンパウンド SQL ステートメントの有効範囲内で使用可能であることを確認してください。
- db2-fn:sqlquery 関数を使用して XQuery に組み込まれた全選択の場合、全選択内の参照は、全選択のコンテキスト内の列、またはグローバル変数、あるいは db2-fn:sqlquery 関数の追加引数を使用して新しい SQL

SQL0207N

コンテキストに渡されるパラメーターのいずれかでなければなりません。

sqlcode: -206

sqlstate: 42703

SQL0207N セット演算子を使用する **SELECT** ステートメントの **ORDER BY** 節では、列名を使用できません。

説明: セット演算子を持つ **SELECT** ステートメントに、列名を指定する **ORDER BY** 節が入っています。この場合、**ORDER BY** 節の列のリストは、整数しか持つことができません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: **ORDER BY** 節の列リストの中には、整数のみを指定してください。

注: このエラーは、バージョン 2 以前の DB2 と DB2 Connect を介してアクセスされるホストにのみ適用されます。

sqlcode: -207

sqlstate: 42706

SQL0208N 列 *name* は結果表に含まれないので、**ORDER BY** 節は無効です。

説明: **ORDER BY** リスト中に指定されている列 *name* が、**SELECT** リスト中に指定されておらず、結果表にも無いため、ステートメントは無効ではありません。**SELECT** ステートメントの全選択が副選択でない場合、結果表の列のみが、その結果の順序付けに使用できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 示された列を結果表へ追加するか、または **ORDER BY** 節から削除して、ステートメントの構文を訂正してください。

sqlcode: -208

sqlstate: 42707

SQL0212N *name* は、重複した表指定子であるか、あるいはトリガー定義の **REFERENCING** 節に重複指定されています。

説明: *name* によって指定されている表、ビュー、別名、または関連名が、同一の **FROM** 節中にある表、ビュー、別名、または関連名と同じです。

ステートメントが **CREATE TRIGGER** の場合は、**REFERENCING** 節が、サブジェクト表と同じ名前を指定する場合が、あるいは **OLD** または **NEW** 関連名、あ

るいは **NEW_TABLE** または **OLD_TABLE ID** の複数に対して、同じ名前を持つ場合があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: **SELECT** ステートメントの **FROM** 節を訂正してください。 関連名を表名、ビュー名、別名に関連させて、表名、ビュー名、別名、または関連名が **FROM** 節内の他の表名、ビュー名、別名、または関連名と同じにならないようにしてください。

CREATE TRIGGER ステートメントの場合は、**REFERENCING** 節内の名前を、重複しないように変更してください。

sqlcode: -212

sqlstate: 42712

SQL0213N パラメーター *parameter-name* がルーチン *routine-name* 内にありません。

説明: 名前が *parameter-name* のパラメーターが、ルーチン *routine-name* 内に存在しません。

ユーザーの処置: ルーチンに対して存在するパラメーター名を指定してから、ステートメントを再サブミットします。

sqlcode: -213

sqlstate: 42703

SQL0214N **ORDER BY** 節の位置の式、または *clause-type* 節の *expression-start-or-order-by-position* で始まる式が無効です。理由コード = *reason-code*。

説明: 以下のような *reason-code* で示された理由で、*clause-type* 節の式 *expression-start-or-order-by-position* の最初の部分で定義した式が無効です。

- 1 **SELECT** ステートメントの全選択は、副選択ではありません。このタイプの **SELECT** ステートメントについては、**ORDER BY** 節に式は許可されません。 *clause-type* が **ORDER BY** である場合のみ、この理由コードが発生します。
- 2 **SELECT** 節に **DISTINCT** が指定され、**SELECT** リストの式にちょうど一致する式ではありません。 *clause-type* が **ORDER BY** である場合のみ、この理由コードが発生します。
- 3 **ORDER BY** 節に列関数があるため、グループ化が発生しています。 *clause-type* が **ORDER BY** である場合のみ、この理由コードが発生します。
- 4 **GROUP BY** 節の式はスカラー全選択を含める

ことはできません。 *clause-type* が GROUP BY である場合のみ、この理由コードが発生します。

- 5 GROUP BY 節では、間接参照演算子の左辺は可変関数にできません。 *clause-type* が GROUP BY である場合のみ、この理由コードが発生します。
- 6 ORDER BY 節の式に、XMLQUERY または XMLEXISTS を組み込むことはできません。 *clause-type* が ORDER BY である場合のみ、この理由コードが発生します。
- 7 GROUP BY 節の式に、XMLQUERY または XMLEXISTS を組み込むことはできません。 *clause-type* が GROUP BY である場合のみ、この理由コードが発生します。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 次のように *reason-code* が指定する理由に基づき、SELECT ステートメントを修正してください。

- 1 ORDER BY 節から式を除去してください。結果の列を参照する場合は、ソート・キーを単一整数または単一系列名の形式に変更してください。
- 2 SELECT 節から DISTINCT を除去するか、またはソート・キーを単一整数または単一系列名の形式に変更してください。
- 3 GROUP BY 節を追加するか、または ORDER BY 節から列関数を除去してください。
- 4 GROUP BY 節から、あらゆるスカラー全選択を除去してください。スカラー全選択に基づいた結果の列をグループ化させる場合は、ネストした表の式または共通の表の式を使用し、結果の列としての式で結果の表をまず提供してください。
- 5 GROUP BY 節で、間接参照演算子の左辺から任意の可変関数を除去してください。
- 6 ORDER BY 節から XMLQUERY または XMLEXISTS 式をすべて除去してください。XMLQUERY または XMLEXISTS 式に基づいた結果の列を順序付けする場合は、ネストした表の式または共通の表の式を使用し、その式を結果の列として結果表にまず提供してください。
- 7 GROUP BY 節から XMLQUERY または XMLEXISTS 式をすべて除去してください。XMLQUERY または XMLEXISTS 式に基づいた結果の列をグループ化する場合は、ネストし

た表の式または共通の表の式を使用し、その式を結果の列として結果表にまず提供してください。

sqlcode: -214

sqlstate: 42822

SQL0216N 述部演算子の両側にあるエレメントの数が一致しません。述部演算子は *predicate-operator* です。

説明: 述部には、述部演算子の右または左側（または両側）に、エレメントのリストが備えられています。エレメント数は両側で同じものでなくてはなりません。これらのエレメントは括弧で囲まれた式のリスト内に、または全選択にリストを選択するエレメントとして表示される可能性があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 述部演算子で、エレメント数が一致していない述部を訂正してください。

sqlcode: -216

sqlstate: 428C4

SQL0217W Explain 情報の要求だけが実行されており、このステートメントは実行されませんでした。

説明: いずれかの Explain 特殊レジスターの現行値が、EXPLAIN に設定されています。この値を使えば、動的 SQL ステートメントの準備と Explain を行うことはできますが、動的ステートメントを実行することはできません。

ユーザーの処置: この状態になったインターフェースまたはアプリケーションから、適切な SET ステートメントを発行して、EXPLAIN 以外を設定するように、該当する Explain 特殊レジスターの値を変更してください。

sqlcode: +217

sqlstate: 01604

SQL0219N 必須の Explain 表 *name* がありません。

説明: Explain 機能が呼び出されましたが、必須の Explain 表 *name* を見つけることができませんでした。Explain 機能を呼び出す前に、Explain 表を作成する必要があります。

ユーザーの処置: 必須の EXPLAIN 表を作成してください。Explain 表を作成するために必要な SQL データ定義言語ステートメントは、sqllib の下の misc ディレ

SQL0220N

クトリーの EXPLAIN.DDL というファイルの中にあります。

sqlcode: -219

sqlstate: 42704

SQL0220N Explain 表 *name*、列 *name2* には適切な定義がないか、あるいは抜けています。

説明: EXPLAIN 機能が呼び出されましたが、EXPLAIN 表 *name* の定義が予期されたものではありませんでした。以下の原因のため、定義が正しくありません。

- 正しくない列数が定義されています。(*name2* が数値の場合)
- 正しくないデータ・タイプが列に割り当てられています。(*name2* が列名の場合)
- 表の CCSID が間違っています。

ユーザーの処置: 示された Explain 表の定義を訂正してください。 Explain 表を作成するために必要な SQL データ定義言語ステートメントは、sqllib の下の misc ディレクトリーの EXPLAIN.DDL というファイルの中にあります。

sqlcode: -220

sqlstate: 55002

SQL0222N カーソル *cursor-name* を使用するホールに対して操作が試行されました。

説明: SQLSTATE が 24510 の場合、エラーが発生しました。 SENSITIVE STATIC と定義されているカーソル *cursor-name* を使って位置指定の更新または削除が試みられ、現在行は、削除ホールまたは更新ホールと識別されました。ホールが発生するのは、カーソル *cursor-name* の結果表の現在行に対応するデータベース内の行を DB2 が更新または削除しようとしたときに、それに対応する行がもう基礎表内に存在しない場合です。

SQLSTATE が 02502 の場合、これは警告です。カーソル *cursor-name* のフェッチの処理中に削除ホールまたは更新ホールが検出されました。ホールが発生するのは、カーソル *cursor-name* の結果表の現在行に対応する行をデータベースから DB2 が再フェッチしようとしたときに、それに対応する行がもう基礎表内に存在しない場合です。データは戻されません。

削除ホールが発生するのは、基礎表内の対応する行が削除されてしまっている場合です。

基礎表の対応する行が、カーソルの SELECT ステートメントで指定された検索条件を更新行がこれ以上満たさ

ないような仕方基礎表内で更新されたときに、更新ホールは発生します。

ステートメントは処理できません。カーソルはホール上に置かれたままになります。

ユーザーの処置: FETCH ステートメントを発行し、ホールではない行上にカーソルを位置付けます。

sqlcode: -222

sqlstate: 02502, 24510

SQL0224N 結果表がカーソル *cursor-name* を使用した基本表と一致しません。

説明: 位置指定 UPDATE または DELETE が、カーソル *cursor-name* (SENSITIVE STATIC として定義) を使用して、結果表の列の値が基本表行の現行値と一致しない行で試行されました。基本表の行が、結果表に取り出されたときから位置指定 UPDATE または DELETE が処理されたときまでに更新されたため、行は一致しません。

ステートメントは処理できません。カーソル位置は変更されません。

ユーザーの処置: 分離レベルを変更して、基本表の行をカーソル操作中に再度更新できないようにするか、あるいは FETCH INSENSITIVE を行うようにアプリケーションを変更して、位置付けされた UPDATE または DELETE を再試行してください。

sqlcode: -224

sqlstate: 24512

SQL0225N カーソルが SCROLL として定義されていないため、カーソル *cursor-name* の FETCH ステートメントが無効です。

説明: 順方向スクロール・カーソル *cursor-name* に対して、以下のいずれかの両方向スクロール・カーソル・キーワードと共に FETCH ステートメントが指定されました。 PRIOR、FIRST、LAST、BEFORE、AFTER、CURRENT、ABSOLUTE、または RELATIVE。順方向スクロール・カーソルに指定できるのは NEXT だけです。データは取り出されません。

ステートメントは処理できません。カーソル位置は変更されません。

ユーザーの処置: FETCH ステートメントの現在の取り出し方向キーワード (PRIOR または FIRST) を除去し、NEXT を指定してください。また、カーソルの定義を両方向スクロールに変更する方法もあります。

sqlcode: -225

sqlstate: 42872

SQL0227N カーソル *cursor-name* の位置が不明のため、**FETCH NEXT、PRIOR、CURRENT、または RELATIVE** は許可されません (*sqlcode*、*sqlstate*)。

説明: *cursor-name* のカーソル位置が不明です。カーソル *cursor-name* の直前の複数行 **FETCH** が、取り出された複数の行の処理中にエラー (*SQLCODE sqlcode*、*SQLSTATE sqlstate*) になっています。要求された 1 つ以上の行はエラーのためプログラムに戻すことはできず、カーソル位置は不明のままになりました。

標識構造が直前の複数行 **FETCH** で提供されていた場合は、正の *SQLCODE* が返され、取り出された行はすべてアプリケーション・プログラムに返されています。

ステートメントは処理できません。カーソル位置は変更されません。

ユーザーの処置: カーソルをクローズして再オープンし、位置をリセットしてください。両方向スクロール・カーソルの場合は、**FETCH** ステートメントを変更して、他の取り出しステートメント (**FIRST、LAST、BEFORE、AFTER、ABSOLUTE** など) の 1 つを指定し、有効なカーソル位置を設定して、データの行を取り出してください。

sqlcode: -227

sqlstate: 24513

SQL0228N **FOR UPDATE** 節が読み取り専用カーソル *cursor-name* に指定されました。

説明: カーソル *cursor-name* は **INSENSITIVE SCROLL** として定義されていますが、対応する **SELECT** ステートメントに **FOR UPDATE** 節が入っています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 読み取り専用カーソルを定義するには、**INSENSITIVE** を **DECLARE CURSOR** に指定しますが、カーソルの **SELECT** ステートメントの一部として **FOR UPDATE** 節を指定しないでください。

sqlcode: -228

sqlstate: 42620

SQL0231W カーソル *cursor-name* の現在位置が現在の行の **FETCH** には無効です。

説明: **FETCH CURRENT** または **FETCH RELATIVE 0** ステートメントが両方向スクロール・カーソル *cursor-name* に発行されました。カーソルが結果表の行に位置付けられていないため、操作は無効です。

FETCH BEFORE または **FETCH AFTER** ステートメントに続く、あるいは *SQLCODE* +100 になった **FETCH** ステートメントに続く現在の行の **FETCH** は許可されません。

ステートメントは処理できません。カーソル位置は変更されません。

ユーザーの処置: 現在の行の取り出しを行う前に、カーソルが結果表の行に位置付けられていることを確認してください。

sqlcode: +231

sqlstate: 02000

SQL0236W *SQLDA* が *integer1* *SQLVAR* 項目しか指定していません。 *integer2* *SQLVAR* 項目が *integer3* 列に必要です。 *SQLVAR* 項目が設定されていません。

説明: *SQLDA* の「**SQLN**」フィールドの値は、少なくとも結果セットの列数と同じ大きさでなければなりません。

データベース・マネージャーは *SQLVAR* 項目を設定しません (さらに、*SQLDOUBLED* フラグは "オフ" (すなわち、スペース文字) に設定されます)。

ユーザーの処置: *SQLDA* の「**SQLN**」フィールドの値を、メッセージに示されている値まで増やして (*SQLDA* がその容量をサポートするための十分な大きさになるように)、ステートメントの再サブミットを行ってください。

sqlcode: +236

sqlstate: 01005

SQL0237W *SQLDA* が *integer1* *SQLVAR* 項目しか指定していません。記述している列の少なくとも 1 つは特殊タイプであるため、 *integer2* *SQLVAR* 項目を指定する必要があります。 2 次 *SQLVAR* 項目が設定されていません。

説明: 結果セットの列の少なくとも 1 つが特殊タイプなので、結果セットの列数と同じ数の *SQLVAR* 項目について、スペースを 2 回指定する必要があります。データベース・マネージャーは基本 *SQLVAR* 項目のみを設定します (さらに、*SQLDOUBLED* フラグはオフ (すなわち、スペース文字) に設定されます)。

ユーザーの処置: 結果セットの特殊タイプに関する追加情報が必要でない場合は、アクションを行う必要はありません。特殊タイプの情報が必要な場合は、*SQLDA* の「**SQLN**」フィールドの値を、メッセージに示されている値まで増やして (その容量をサポートするのに十分な

SQL0238W

大きさの SQLDA があることを確認した後で)、ステートメントの再サブミットを行う必要があります。

sqlcode: +237

sqlstate: 01594

SQL0238W SQLDA が *integer1* SQLVAR 項目しか指定していません。記述している列の少なくとも 1 つが LOB または構造化タイプであるため、*integer3* 列に *integer2* SQLVAR 項目が必要です。SQLVAR 項目が設定されていません。

説明: 結果セットの列の少なくとも 1 つが LOB または構造化タイプなので、結果セットの列数と同じ数の SQLVAR 項目について、スペースを 2 回指定する必要があります。結果セットの 1 つ以上の列が特殊タイプである可能性にも注意してください。

データベース・マネージャーは SQLVAR 項目を設定しません (さらに、SQLDOUBLED フラグはオフ (すなわち、スペース文字) に設定されます)。

ユーザーの処置: SQLDA の「SQLN」フィールドの値を、メッセージに示されている値まで増やして (その容量をサポートするのに十分な大きさの SQLDA があることを確認した後で)、ステートメントの再サブミットを行ってください。

sqlcode: +238

sqlstate: 01005

SQL0239W SQLDA が *integer1* SQLVAR 項目しか指定していません。記述している列の少なくとも 1 つが特殊タイプまたは参照タイプであるため、*integer3* 列に *integer2* SQLVAR 項目が必要です。SQLVAR 項目が設定されていません。

説明: 結果セットの列が特殊タイプまたは参照タイプの場合、結果セットの列数と同じ数の SQLVAR 項目について、スペースを 2 回指定する必要があります。

データベース・マネージャーは SQLVAR 項目を設定しません (さらに、SQLDOUBLED フラグはオフ (すなわち、スペース文字) に設定されます)。

ユーザーの処置: 特殊タイプまたは参照タイプの情報が必要な場合は、SQLDA の「SQLN」フィールドの値を、メッセージに示されている値まで増やして (その容量をサポートするのに十分な大きさの SQLDA があることを確認した後で)、ステートメントの再サブミットを行う必要があります。結果セットの特殊タイプまたは参照タイプに関する追加情報が必要でない場合は、結果セットの列数に適合するのに十分な SQLVAR 項目のみを

指定して、ステートメントの再サブミットを行うことができます。

sqlcode: +239

sqlstate: 01005

SQL0242N タイプ *object-type* の *object-name* というオブジェクトが、オブジェクトのリストで複数回指定されました。

説明: タイプ *object-type* のオブジェクト名のリストで、*object-name* というオブジェクトが複数回指定されました。ステートメントの操作をオブジェクトで複数回実行することはできません。

ユーザーの処置: リスト内の重複したオブジェクトを訂正し、重複するオカレンスを取り除いてください。

sqlcode: -242

sqlstate: 42713

SQL0243N SENSITIVE カーソル *cursor-name* を指定された SELECT ステートメントに定義できません。

説明: カーソル *cursor-name* は SENSITIVE と定義されていますが、SELECT ステートメントの内容では、カーソルの一時結果表が DB2 で作成されなければならず、このカーソル外部で加えられた変更を必ず表示できるとは限りません。この状況は、照会の内容に応じて結果表が読み取り専用になったときに発生します。たとえば、照会に結合が入っている場合は、結果表は読み取り専用になります。これらの場合、カーソルは INSENSITIVE または ASENSITIVE として定義されている必要があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 結果表が読み取り専用でなくなるように照会の内容を変更するか、またはカーソルのタイプを INSENSITIVE または ASENSITIVE に変更してください。

sqlcode: -243

sqlstate: 36001

SQL0244N FETCH で指定された SENSITIVITY *sensitivity* がカーソル *cursor-name* では無効です。

説明: FETCH で指定されたセンシティブティティー・オプション *sensitivity* がカーソル *cursor-name* で有効になっているセンシティブティティー・オプションと矛盾しています。下のリストに、FETCH で指定可能なオプションが示されています:

```

DECLARE CURSOR
FETCH Statement
INSENSITIVE          INSENSITIVE
SENSITIVE STATIC    SENSITIVE
                     または INSENSITIVE
SENSITIVE DYNAMIC  SENSITIVE
SENSITIVE           SENSITIVE
ASENSITIVE         INSENSITIVE
                     または SENSITIVE
                     (カーソルの
                     有効な
                     センシティブティ
                     による)

```

順方向スクロール・カーソルの場合、センシティブティ
ー・オプションは指定できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: FETCH で指定されたセンシティブティ
ー・オプションを変更または除去してください。

sqlcode: -244

sqlstate: 428F4

SQL0245N ルーチン *routine-name* の呼び出しがあ
いまいです。位置 *position* の引数に最も適
合するものがありません。

説明: ルーチンが SQL ステートメントで参照される場
合、データベース・マネージャーは厳密にどのルーチン
を呼び出すかを決定しなければなりません。関数の場
合、このプロセスは関数解決と呼ばれており、組み込み
関数とユーザー定義関数の両方に適用されます。関数の
呼び出しがあいまいな場合には、このエラーが返されま
す。これは、関数解決の基準を満たす候補関数が複数存
在するような状況で発生します。

この場合、2 つの候補関数の位置 *position* にパラメータ
ーがありますが、2 つの候補関数のパラメーターのデー
タ・タイプは、同じデータ・タイプ優先順位リストに入
っていません。引数に最も適合するものを決定できませ
ん。詳しくは、DB2 インフォメーション・センターの
『関数』のトピックにある『最適な関数の判別』を参照
してください。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 候補関数のセットからあいまいさを取
り除くために、適切なデータ・タイプ、関数定義、また
は SQL パスに引数を明示的にキャストするよう SQL
ステートメントを変更します。その後、再試行してくだ
さい。

sqlcode: -245

sqlstate: 428F5

SQL0257N ロー・デバイス・コンテナはサポートさ
れていません。

説明: ロー・デバイス・コンテナの使用が試みられま
したが、以下に示す条件の 1 つが成立しています。

- ロー・デバイスは、このプラットフォームではサポー
トされていません。
- 自動サイズ変更表スペースの SET TABLESPACE
CONTAINERS コマンドを使用してロー・デバイス・
コンテナを指定することはできません。
- DB2 pureCluster 環境ではロー・デバイス・コンテナ
はサポートされていません。

ユーザーの処置: DB2 pureCluster 環境の場合:

応答は必要ありません。DB2 pureCluster 環境ではロ
ー・デバイス・コンテナを使用できません。

DB2 pureCluster 環境以外の環境の場合:

- 表スペースを作成している場合は、代わりにファイ
ル・コンテナまたはシステム管理表スペースを使用
してください。
- SET TABLESPACE CONTAINERS コマンドを指定し
ている場合は、代わりにファイル・コンテナを使用
してください。

sqlcode: -257

sqlstate: 42994

SQL0258N 表スペースのリバランスのペンディングま
たは進行中は、コンテナ操作または
REBALANCE を実行することはできませ
ん。

説明: 以下に示す条件の 1 つが成立しています。

- コンテナ操作または REBALANCE 節を含む
ALTER TABLESPACE ステートメントが、以前にこ
のアプリケーションまたは別のアプリケーションに
よって発行されましたが、まだコミットされていま
せん。
- リバランスが進行中です。

ユーザーの処置: 条件に適した以下の対応を実行してく
ださい。

- 可能であれば、コミットされていない作業単位をロ
ールバックし、単一の ALTER TABLESPACE ステ
ートメントを発行して、すべてのコンテナ操作を
発行してください。可能でない場合は、リバランス
が完了するまで待った後で、もう一度やり直してく
ださい。同じ ALTER TABLESPACE ステートメン

SQL0259N

トで、表スペースへのページの追加と、表スペースからのページの除去の両方を行うことはできません。

- リバランスが完了するまで待った後で、もう一度やり直してください。

sqlcode: -258

sqlstate: 55041

SQL0259N 表スペースのコンテナ・マップが複雑すぎます。

説明: マップ構造は、表スペースのアドレス・スペースがさまざまなコンテナにマップされる方法に関するレコードを保持しています。これが複雑になりすぎると、表スペース・ファイルに適合しなくなります。

ユーザーの処置: コンテナ間でデータをもっと均等に分散するために、表スペースのリバランスが必要になる場合があります。そうすれば、マッピングが簡潔になる可能性があります。

これがうまくいかない場合は、可能な限り同じサイズのコンテナを作成してください。表スペースをバックアップした後で、データベース管理ユーティリティーを使用してコンテナを変更すれば、既存のコンテナ・サイズを変更することができます。その後で、表スペースを新しいコンテナにリストアしてください。

sqlcode: -259

sqlstate: 54037

SQL0260N 列 *column-name* は、LONG 列、DATALINK 列、XML 列、または構造化タイプ列であるため、分散キーにも表パーティション・キーにも属することができません。

説明: 分散キーも表パーティション・キーも、LONG 列、DATALINK 列、XML 列、または構造化タイプ列を持つことができません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 分散キーにも表パーティション・キーにも、LONG 列、DATALINK 列、XML 列または構造化タイプ列を使用しないでください。

表を分散する必要がある場合、その表に LONG 列、DATALINK 列、XML 列、または構造化タイプ列だけが含まれるなら、分散キーに使用できる列を表に追加するか、単一パーティションから成るデータベース・パーティション・グループで分散キーなしの表を定義してください。

表をパーティション化する必要がある場合、その表に

LONG 列、DATALINK 列、XML 列、または構造化タイプ列だけが含まれるなら、表のパーティション・キーとして使用できる列を追加するか、非パーティション表を定義してください。

sqlcode: -260

sqlstate: 42962

SQL0262N 分散キーとして使用できる列が存在しないため、表 *table-name* をデータベース・パーティション・グループ *group-name* に作成できません。

説明: 表 *table-name* をデータベース・パーティション・グループに作成できません。この表には、分散キーとして使用できる少なくとも 1 つの列が存在している必要があります。以下のデータ・タイプの列は、分散キーで使用できません。

- BLOB
- CLOB
- DATALINK
- DBCLOB
- LONG VARCHAR
- LONG VARGRAPHIC
- XML
- 構造化タイプ
- 上記にリストされたデータ・タイプのいずれかに基づくユーザー定義データ・タイプ

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 分散キーに使用できる 1 つ以上の列を持つ表を作成するか、単一データベース・パーティション・グループにこの表を作成してください。

sqlcode: -262

sqlstate: 428A2

SQL0263N *member-number-1* から *member-number-2* までのメンバー範囲は無効です。2 番目のメンバー番号は、1 番目のメンバー番号以上でなければなりません。

説明: 指定されたメンバー範囲が有効ではありません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: このステートメント内のメンバー範囲を訂正し、要求を再試行してください。

sqlcode: -263

sqlstate: 428A9

SQL0264N 表が複数パーティションのデータベース・パーティション・グループ *name* で定義された表スペースに表が常駐しているため、パーティション・キーの追加またはドロップはできません。

説明: 単一データベース・パーティション・グループ内の表のパーティション・キーのみを追加またはドロップできます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 次の 1 つを実行し、要求を再試行してください。

- パーティション・キーを使用する同一表を定義してください。
- 単一のデータベース・パーティション・グループにデータベース・パーティション・グループを再配布してください。

sqlcode: -264

sqlstate: 55037

SQL0265N データベース・パーティション番号のリストに、重複したデータベース・パーティション番号が検出されました。

説明: CREATE DATABASE PARTITION GROUP ステートメントに対し、ON DBPARTITIONNUMS 節内で 1 度のみデータベース・パーティション番号の表示が可能です。

CREATE TABLESPACE および ALTER TABLESPACE ステートメントに対し、データベース・パーティション番号は 1 度のみ、1 つの ON DBPARTITIONNUMS 節でのみ表示可能です。

ALTER DATABASE PARTITION GROUP ステートメントまたは REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION GROUP コマンドで、以下のいずれかが発生しました。

- データベース・パーティション番号が ADD DBPARTITIONNUMS または DROP DBPARTITIONNUMS 節で複数回表示された。
- データベース・パーティション番号が ADD DBPARTITIONNUMS および DROP DBPARTITIONNUMS 節の両方で複数回表示された。
- 追加されるデータベース・パーティション番号は、すでにデータベース・パーティション・グループのメンバーである。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ON DBPARTITIONNUMS、ADD DBPARTITIONNUMS、または DROP

DBPARTITIONNUMS 節内のデータベース・パーティション名またはデータ・パーティション番号を必ず固有にしてください。CREATE TABLESPACE および ALTER TABLESPACE ステートメントに対し、データベース・パーティション番号が複数の ON DBPARTITIONNUMS 節で表示されていないかを確認してください。

さらに、ALTER DATABASE PARTITION GROUP ステートメントまたは REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION GROUP コマンドでは、次のようにしてください。

- ADD DBPARTITIONNUMS および DROP DBPARTITIONNUMS 節の両方でデータベース・パーティション番号を指定しないでください。
- データベース・パーティション番号がすでにデータベース・パーティション・グループに定義されている場合は、ADD DBPARTITIONNUMS 節からそのデータベース・パーティション番号を除去してください。

sqlcode: -265

sqlstate: 42728

SQL0266N 指定されたメンバー番号またはデータベース・パーティション番号 *member-number* が無効です。

説明: 指定されたメンバー番号またはデータベース・パーティション番号 *member-number* が以下のいずれかの理由のために無効です。

- メンバー番号またはデータベース・パーティション番号が 0 から 999 の有効範囲内にありません。
- メンバー番号またはデータベース・パーティション番号がノード構成ファイル内にありません。
- メンバー番号またはデータベース・パーティション番号がデータベース・パーティション・グループの一部ではないため、要求された操作を処理できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 次の条件に従います。

- 有効範囲内のメンバー番号またはデータベース・パーティション番号を指定してステートメント、コマンド、または API を発行します。
- メンバーまたはデータベース・パーティションをシステムに追加する手順に従います。
- ステートメント、コマンド、または API の指定されたメンバーまたはデータベース・パーティションからメンバーまたはデータベース・パーティションを除去します。

sqlcode: -266

SQL0268N

sqlstate: 42729

SQL0268N データベース・パーティション・グループを再配分している間は *operation* を実行できません。

説明: *operation* にしたがって、以下のいずれかが適用されます。

- データベース・パーティション・グループが再配分中であり、現行操作が完了するまで、このグループを変更、ドロップまたは再配分できません。
- 表のデータベース・パーティション・グループが再配分されている間は、表のパーティション・キーをドロップできません。
- このデータベース・パーティション・グループ内の古いデータベース・パーティションが REDISTRIBUTE によってすべてドロップされているため、新規オブジェクトは作成できません。
- このデータベース・パーティション・グループ内の古いデータベース・パーティションが REDISTRIBUTE によってすべてドロップされているため、新規列は ALTER TABLE で追加できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 再配分が完了するまで待ち、要求を再試行してください。

sqlcode: -268

sqlstate: 55038

SQL0269N データベースはパーティション・マップの最大数が入っています。

説明: データベースに最大数のパーティション・マップ (32,768) が入っているため、新規データベース・パーティション・グループの作成、データベース・パーティション・グループの変更、または既存のデータベース・パーティション・グループの再配布を行うことができません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: データベースの 1 つ以上のデータベース・パーティション・グループをドロップしてください。

注: データベース・パーティション・グループをドロップすると、データベース・パーティション・グループに常駐する表スペース、表およびビューなどのデータベース・オブジェクトがすべてドロップされます。

sqlcode: -269

sqlstate: 54033

SQL0270N 関数をサポートしていません (理由コード = *reason-code*)。

説明: 以下の理由コードによって示されている制限に違反しているため、ステートメントを処理できません。

1

主キー、各ユニーク制約、および各ユニーク索引には表の分散列 (列は任意の順序で表示できる) がすべて入っていなければなりません。

2

分散キー列の値の更新はサポートされていません。

3

外部キーが ON DELETE SET NULL で定義されているとき、NULL 可能な分散キー列をこの外部キーに組み込むことはできません。このような制約を定義した結果、分散キー列を更新することになるため、これは理由コード 2 の特殊事例です。

5

WITH CHECK OPTION 節で作成されたビューは、次の場合関数 (または関数を使用する参照ビュー) を使用できません。

- 非決定的の場合
- 副次作用がある場合
- データの配置に関連する場合。例えば、ノード番号またはパーティション関数。

これらの関数は、新しいビューが CASCADED チェック・オプションで作成された場合に参照ビュー内にあってはなりません。

6

ユーザー定義の特殊タイプに対してトランスフォームは定義できません。

7

長いフィールドは、4 KB のページ・サイズの表スペースを使用するときのみに、定義できません。LARGE TABLESPACE は、4 KB のページ・サイズを使用してのみ作成できます。

8

構造化タイプは、DB2 バージョン 7.1 以前の表または構造化タイプ属性データ・タイプの列としてサポートされていません。

9

トリガーは型付き表ではサポートされません。

- 10 4 KB のページ・サイズを持つ表スペースに配置する必要のある 1 つ以上の LOB 列が表にあり、表の行サイズまたは列数には 8 KB のページ・サイズを持つ表スペースが必要であるため、単一のデフォルト表スペースは選択できません。
- 11 型付き表あるいは型付きビューは、属性を持たない構造化タイプを使用して作成することができません。
- 12 ソース・キー・パラメーターのタイプは、ユーザー定義の構造化タイプか、または LOB、XML、LONG VARCHAR、または LONG VARCHARIC データ・タイプから生成されたのではない特殊タイプである必要があります。
- 13 チェック制約は型付き表で定義することができないか、または WITH CHECK OPTION 節が型付きビューで指定することができません。
- 14 参照制約は型付き表に定義することができないか、または型付き表である親表に定義することができません。
- 15 デフォルト値は参照タイプ列で定義されません。
- 16 参照データ・タイプあるいは構造化データ・タイプを、DB2 UDB バージョン 7.1 より前のパラメーター・データ・タイプまたはユーザー定義関数の戻りデータ・タイプとして使用することはできません。そうでない場合、有効範囲参照データ・タイプまたは配列データ・タイプをルーチンのパラメーター・データ・タイプまたは戻りデータ・タイプとして使用することはできません。構造化データ・タイプまたは配列データ・タイプを表または行関数の戻り列として使用することはできません。
- 17 SET INTEGRITY ステートメントは型付き表に対して使用することができません。
- 18
- 19 型付き表、型付きビュー、またはニックネームに対する列レベルの UPDATE および REFERENCES 特権を付与することはできません。
- 20 デフォルト値は、型付き表の列に対するデフォルト定義の時に指定する必要があります。
- 21 ALTER TABLE はマテリアライズ照会表ではサポートされていません。
- 22 マテリアライズ照会表の基本表である表では、列をドロップしたり、列の長さ、データ・タイプ、セキュリティ、NULL 可能性、または非表示属性を変更したりすることはできません。
- 23 マテリアライズ照会表は、CREATE SCHEMA ステートメントに定義できません。
- 24 REPLICATED は REFRESH DEFERRED で定義されたマテリアライズ照会表にのみ指定できます。
- 25 BEFORE トリガーで起動されたアクションは、REFRESH IMMEDIATE で定義されたマテリアライズ照会表を参照できません。
- 26 SET INTEGRITY ステートメントには、1 つのマテリアライズ照会表しか指定できません。
- 27 再配分されているデータベース・パーティション・グループに、複製されたマテリアライズ照会表が少なくとも 1 つ含まれています。
- 28 複製されたマテリアライズ照会表は、この複製された表を構成する 1 つ以上の列にユニーク索引が存在しない表には定義できません。
- 29 型付き表またはマテリアライズ照会表は名前変更できません。

- FOR EXCEPTION 節は、SET INTEGRITY ステートメントのマテリアライズ照会表には指定できません。
- 30 型付き表および型付きビューは CREATE SCHEMA ステートメントで定義できません。
- 31 分散キーは 500 を超える列では定義できません。
- 32 カタログ・パーティション以外の複数パーティション・データベース・パーティション・グループまたは単一パーティション・データベース・パーティション・グループを使用して定義された表は、FILE LINK CONTROL で定義された DATALINK 列をサポートしません。
- 33 REFRESH IMMEDIATE で定義されたマテリアライズ照会表の基礎表を、カスケード効果を持つ (つまり、ON DELETE CASCADE または ON DELETE SET NULL オプションを持つ) 参照制約の子にすることはできません。
- 34 基礎オブジェクトの関連機能は、現行リリースではサポートされていません。
- 35 シーケンス列または ID 列を、バージョン 7 マルチノード・データベース環境で作成することはできません。
- 36 順序または ID 列を含むマルチノード・バージョン 7 データベースのアクティブ化は許可されていません。
- 38 索引拡張子を使用する索引は、DB2 UDB バージョン 8.1 修正パッケージ 6 より前の複数パーティション・データベース・パーティション・グループではサポートされていません。
- 39 ニックネームまたは OLE DB 表関数は、SQL 関数または SQL メソッドの本体で直接的に、または間接的に参照できません。
- 40
- 41 IDENTITY_VAL_LOCAL 関数を、トリガーまたは SQL 関数で使用することはできません。
- 42 単一の SQL 変数ステートメントは、値をローカル変数と遷移変数の両方に割り当てることはできません。
- 42 マルチノード・データベース内で、SQL 制御ステートメントを使ったトリガー、メソッド、または関数の実行、および動的コンパウンド・ステートメントの実行は許可されません。
- 43 指定されたオプションの 1 つ以上は現在サポートされていません。
- 44 以下の EXPLAIN MODES は、MPP、SMP、および Data Joiner ではサポートされていません。
- COUNT CARDINALITIES
 - COMPARE CARDINALITIES
 - ESTIMATE CARDINALITIES
- 45 マルチディメンション・クラスタリング (MDC) 表または挿入時クラスタリング (ITC) 表では、APPEND モードはサポートされていません。
- 46 マルチディメンション・クラスタリング (MDC) 表または挿入時クラスタリング (ITC) 表では、INPLACE 表再編成はサポートされていません。
- 47 マルチディメンション・クラスタリング (MDC) 表または挿入時クラスタリング (ITC) 表では、索引拡張はサポートされていません。
- 48 マルチディメンション・クラスタリング (MDC) 表のディメンション仕様に対する変更は、サポートされていません。
- 49 マルチディメンション・クラスタリング (MDC) 表または挿入時クラスタリング (ITC) 表では、クラスター索引はサポートされていません。

- 50 ユーザー定義一時表は、マルチディメンション・クラスタリング (MDC) 表にも挿入時クラスタリング (ITC) 表にもすることはできません。
- 51 コーディネーター・データベース・パーティションではないデータベース・パーティションからの、LANGUAGE SQL を指定した CREATE PROCEDURE の使用はサポートされていません。
- 52 生成された列が分散キー列であるかまたは ORGANIZE BY 節、PARTITION BY 節、または DISTRIBUTE BY 節で使用されている場合、その列の式を変更したり、式を使用して生成されたのでない列に追加したりできません。
- 53 LONG VARCHAR、LONG VARCHAR、LOB、または XML タイプの列、このいずれかのタイプの特特殊タイプ、または構造化タイプは、両方向スクロール・カーソルの選択リストには指定できません。
- 54 指定されたシステム・カタログ表では、INPLACE 表再編成はサポートされていません。
- 55 フェデレーテッド・データベース・システム・サポートとコンセントレーター機能を同時にアクティブにすることはできません。
- 56 再ビルド・モードでのオンライン索引の再編成は、ALLOW WRITE モードの空間インデックスではサポートされていません。
- 57 ALLOW WRITE モードのマルチディメンション・クラスタリング (MDC) 表または挿入時クラスタリング (ITC) 表でオンライン索引再編成がサポートされるのは、CLEANUP オプションまたは RECLAIM EXTENTS オプションが指定されたときだけです。
- 58 バージョン 8 データベースの場合: XML データ・タイプは一時データ・タイプとしてしか使
- 用できず、データベースに保管したり、アプリケーションに戻したりすることはできません。
- 59 SQL ステートメントを含む関数またはメソッドは、パーティション・データベース環境では使用できません。
- 60 型付き表に依存する、型付きまたは非型付き VIEW のオブジェクトがあるため、ALTER TABLE ALTER COLUMN SET INLINE LENGTH ステートメントは許可されません。
- 61 テキスト検索関数をチェック制約または生成された列の式に使用することはできません。
- 62 WITH CHECK OPTION 節を、直接テキスト検索関数を参照しているビュー、またはテキスト検索関数を参照している他のビューに依存するビューと共に使用することはできません。
- 63 LOB タイプの列、LOB タイプ上の特殊タイプの列、LONG VARCHAR、LONG VARCHAR、DATALINK、LOB、XML タイプの列、これらのいずれかのタイプ上の特殊タイプの列、または構造化タイプの列は、インセンシティブ両方向スクロール・カーソルの選択リストには指定できません。
- 64 このプラットフォームでは、フェデレーテッド・プロセッシングはサポートされていません。
- 65 ニックネームのローカル・タイプを現行タイプから指定タイプに変更することはできません。
- 66 組み込みトランスフォーム・グループ SYSSTRUCT はサポートされていません。
- 67 ニックネームまたはニックネームのビューは、MERGE ステートメントのターゲットとして指定することができません。
- 68

パーティション・データベースでは、SQL ステートメントでサポートされる NEXT VALUE 式の明確な最大数は 55 です。

69

ビューから削除すると、複数のパスにより、下層表をビュー定義に現れる複数の表に連結削除します。下層表に定義されたチェック制約またはトリガーのどちらかを、不確定な最終結果に従って廃止する必要があります。

70

照会最適化が有効になっているビューの基本表である表では、列をドロップしたり、列の長さ、データ・タイプ、セキュリティ、および NULL 可能性を変更したりすることはできません。

71

パーティション・データベース環境において、トリガー、SQL 関数、SQL メソッド、または動的コンパウンド・ステートメントの中で CALL ステートメントを使用することはできません。

72

NULL 可能な列を ID 列となるように変更することはできません。

73

パーティション・データベース環境のバックアップ・イメージにログを含めることはできません。

74

タイム・スタンプによるリカバリー履歴ファイルの状況フィールドの更新は許可されていません。

75

自動統計プロファイルは、複数のデータベース・パーティション・システム、SMP が有効なシステム、およびフェデレーテッド・システム上でサポートされていません。

83

V9.7 より前のバージョンの DB2 データベースの場合、DATA CAPTURE CHANGES と COMPRESS YES には互換性がないため、ステートメントは処理できません。

87

型付き表、ステージング表、ユーザー一時表、および範囲がクラスター化された表の各表タイプは、パーティション表として定義することはできません。

88

DB2 データベース・サーバーのバージョン 9.7 GA 以前の場合、REORG INDEXES または REORG TABLE コマンドは、以下の状態の ALLOW WRITE モードまたは ALLOW READ モードのパーティション表でのみサポートされます。

- CLEANUP または ON DATA PARTITION が指定されている場合に、ALLOW WRITE および ALLOW READ が REORG INDEXES に対してサポートされている。
- ON DATA PARTITION が指定されており、INPLACE 節が指定されていない場合に、ALLOW READ が REORG TABLE に対してサポートされる。

89

REORG INDEX は、パーティション表上の非パーティション索引に対してのみサポートされます。

90

バージョン 9.7 より前のバージョンの DB2 データベース・バージョンの場合、パーティション化索引はサポートされていないため、PARTITIONED 節は CREATE INDEX ステートメントには指定できません。

91

V9.7 より前のバージョンの DB2 データベースの場合、コンプレッション・ディクショナリーを持つ表では DATA CAPTURE CHANGES はサポートされないため、ステートメントは処理できません。

92

強制された参照整合性制約の親である表からのデータタッチは許可されません。

93

LOAD INSERT を使用して付加されたデータを含むパーティション、付加されたデータに関して増分的にリフレッシュされていない従属マテリアライズ照会表または従属ステージング表を含むパーティションでは、パーティションのデータタッチは許可されません。

95

- 整合性の検証が済んでいないパーティションが接続されている表は、マテリアライズ照会表に変更できません。
- 97 マルチノード分散キー、データ分散キー、または MDC 編成ディメンションのエレメントでは、このデータ・タイプの変更はサポートされていません。
- 98 ID 列のタイプの変更はサポートされていません。
- 99 ALTER TABLE SET DATA TYPE により、チェック制約によって使用される外部 UDF が変更されました。
- 101 LOAD コマンドは、LARGE 表スペース内のタイプ 1 索引を持つ表ではサポートされません。バージョン 9.7 以降、タイプ 1 索引は使用されなくなり、タイプ 2 索引に置き換えられました。CONVERT パラメーターを指定して REORG INDEXES ALL コマンドを使用することにより、索引をタイプ 2 索引に変換できます。
- 102 型付き表にはセキュリティ・ポリシーは追加できません。
- 103 DB2 データベース・サーバーのバージョン 9.5 以前では、XML 列を持つ表に対する ALLOW WRITE モードのオンライン索引再編成はサポートされません。
- 104 表に XML 列の索引が定義されている場合は、インプレース表 REORG は許可されません。
- 105 REORG INDEX コマンドがサポートされるのは、CLEANUP モードまたは RECLAIM EXTENTS モードのブロック索引の場合のみです。
- 106 マテリアライズ照会表へのパーティションのタッチはサポートされていません。
- 109 テキスト検索関数がパーティション表を直接参照していない場合、またはテキスト検索関数が OUTER JOIN 節の含まれる副選択のメンバーである場合は、そのテキスト検索関数をパーティション表のテキスト索引に適用することはできません。
- 110 SECLABEL、SECLABEL_BY_NAME、および SECLABEL_TO_CHAR の場合は、セキュリティー・ポリシー名パラメーターはストリング定数でなければなりません。
- 111 監査ポリシーを型付き表に関連付けることができません。
- 112 非 root インストールの場合、ヘルス・モニターはアクションや通知の構成をサポートしていません。
- 113 コンパウンド SQL (コンパイル済み) ステートメントの、トリガー本体での使用は、パーティション・データベース環境ではサポートされていません。DB2 バージョン 9.7 フィックスパック 1 以前では、コンパウンド SQL (コンパイル済み) ステートメントの、SQL 関数本体としての使用は、パーティション・データベース環境ではサポートされていませんでした。
- 114 パーティション空間インデックスはサポートされていません。
- 115 このソース派生関数は v9.7 以前のリリースで作成されたため、再び妥当性検査を行うことができません。
- 116 同じ名前が、コンパウンド SQL (コンパイル済み) ステートメント内の動的に準備または実行された複数の名前付きパラメーター・マーカーで使用されています。
- 118 関数 ENV_GET_NETWORK_RESOURCES または ENV_GET_DB2_SYSTEM_RESOURCES がサポートしないプラットフォームまたはオペレーティング・システム上で、これらの関数のどちらかを実行しようとしていました。

119

ROW 変数のフィールドに ARRAY タイプがある場合、配列要素値を、ROW 変数フィールド参照にある要素の対応する索引値を指定して直接取り出すことができません。

ユーザーの処置: 理由コードに対応するアクションは、以下のとおりです。

1

CREATE TABLE、ALTER TABLE または CREATE UNIQUE INDEX ステートメントを訂正します。

2

複数パーティションの表の分散キー列を更新したり、分散列で削除した後新しい値を持つ行を挿入しようとしたりしないでください。

3

分散キー列を NULL 可能ではなくするか、別の ON DELETE アクションを指定するか、または表の分散キーを変更して、外部キーに分散キーの列が組み込まれないようにしてください。

4

DATA CAPTURE NONE を指定するか、あるいはカタログ・パーティションを指定する単一パーティション・データベース・パーティション・グループの表スペースに表があることを確認してください。

5

WITH CHECK OPTION 節を使用したり、ビュー定義から関数またはビューを除去したりしないでください。

6

トランスフォームはユーザー定義の特殊タイプに対して自動的に行われます。CREATE TRANSFORM ステートメントはユーザー定義の構造化タイプのみで使用してください。

7

長いフィールドの入った任意の表に対して、4 KB ページ・サイズの表スペースを使用してください。DMS 表スペースを使用する場合は、長いフィールドは 4 KB ページ・サイズの表スペースに配置し、他の表または索引データは異なるページ・サイズの表スペースに配置することができます。LARGE TABLESPACE を定義する場合は、PAGESIZE 4K を使用してください。

50 メッセージ・リファレンス 第 2 巻

8

DB2 UDB バージョン 7.1 より前のサーバーであれば、CREATE TABLE ステートメントまたは ALTER TYPE ADD COLUMN ステートメントに構造化タイプの列データ・タイプがないことを確認してください。CREATE TYPE ステートメントまたは ALTER TYPE ADD ATTRIBUTE ステートメントでのどの属性データ・タイプも構造化タイプでないことを確認してください。

9

型付き表ではトリガーを定義しないでください。

10

表の行サイズあるいは列数を減らすか、またはロング・データが 4 KB ページ・サイズの表スペースにあり、基本データが 8 KB ページ・サイズの表スペースにあるような 2 つの表スペースを指定してください。

11

型付き表あるいは型付きビューを作成する場合は、最低でも 1 つの属性を定義している構造化タイプを指定します。

12

ソース・キー・パラメーターのタイプには、ユーザー定義の構造化タイプか、または LOB、XML、LONG VARCHAR、あるいは LONG VARGRAPHIC タイプから派生していない特殊タイプだけを使用してください。

13

型付き表の CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントでは、チェック制約を指定しないようにします。型付きビューの CREATE VIEW ステートメントでは、WITH CHECK OPTION 節を指定しないでください。

14

CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントでは、型付き表を含む参照制約を指定しないようにします。

15

CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントで参照データ・タイプを指定した列に対して、DEFAULT 節を指定しないようにします。

16

- DB2 UDB バージョン 7.1 より前のサーバーであれば、ユーザー定義関数の作成時に構造化タイプ・パラメーターまたは戻りタイプを指定しないでください。また、有効範囲内参照タイプをパラメーターまたは戻りタイプとして指定しないでください。構造化タイプを表または行関数の戻り列として指定しないでください。
- 17 SET INTEGRITY ステートメントにある型付き表を指定しないようにします。
- 18 型付き表、型付きビュー、またはニックネームに対する REFERENCES または UPDATE 特権を付与するときに、特定の列名を組み込まないようにします。
- 19 型付き表の列で DEFAULT 節を指定する時に、特定の値を組み込むようにします。
- 20 マテリアライズ照会表をドロップし、任意の属性を指定して再作成します。
- 21 マテリアライズ照会表の基本表となっている表の列をドロップまたは変更するには、以下のステップを実行します。
1. 従属のマテリアライズ照会表をドロップします。
 2. 基本表の列をドロップするか、この列の長さ、データ・タイプ、NULL 可能性、または非表示属性を変更します。
 3. マテリアライズ照会表を再作成します。
- 22 CREATE SCHEMA ステートメントの外側で CREATE SUMMARY TABLE ステートメントを発行してください。
- 23 REPLICATED 指定を除去するか、またはマテリアライズ照会表の定義に REFRESH DEFERRED が指定されていることを確認します。
- 24 BEFORE トリガーのトリガー・アクションにあるマテリアライズ照会表への参照を除去します。
- 25 各マテリアライズ照会表ごとに、別々の SET INTEGRITY IMMEDIATE CHECKED ステートメントを発行します。
- 26 データベース・パーティション・グループにある複製されたマテリアライズ照会表をすべてドロップし、REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION GROUP コマンドを再発行します。複製されたマテリアライズ照会表を再作成します。
- 27 マテリアライズ照会表に定義された列のサブセットが、基本表のユニーク索引を構成する列セットでもあることを確認します。
- 28 型付き表あるいはマテリアライズ照会表名を変更するには、その表をドロップして、新しい名前で作成し直すしか方法がありません。表をドロップした場合、その表に依存する他のオブジェクトにも影響する可能性があり、その表に対する特権は失われます。
- 29 SET INTEGRITY ステートメントから FOR EXCEPTION 節を除去します。
- 30 CREATE SCHEMA ステートメントの外側で、型付きビューまたは型付き表の CREATE ステートメントを発行します。
- 31 分散キー内の列の数を減らします。
- 32 DATALINK 列に NO LINK CONTROL を指定するか、またはカタログ・パーティションを指定する単一パーティション・データベース・パーティション・グループの表スペースに表を配置してください。データを複数パーティション・データベース・パーティション・グループに再配分する場合は、再配分を継続するために表をドロップする必要があります。
- 33 以下のいずれかの方法を使用します。
- REFRESH IMMEDIATE を使って子として定義されているマテリアライズ照会表の基礎表に、カスケード効果を持つ (つまり、ON DELETE CASCADE または ON DELETE

- SET NULL オプションを指定した) 参照制約を定義しないでください。
- カスケード効果を持つ (つまり、ON DELETE CASCADE または ON DELETE SET NULL オプションを指定した) 参照制約の子である基礎表を持つ REFRESH IMMEDIATE マテリアライズ照会表を定義しないでください。
- 34 サポートされていないオブジェクトの関連機能の使用を除去してください。
- 35 GENERATED [ALWAYS | BY DEFAULT] AS IDENTITY ... 属性を作成あるいは除去しないでください。
- 36 新規ノードをドロップして、単一ノード構成に戻してください。さらにノードが必要な場合は、新規ノードを追加する前に順序または ID 列がある表をドロップしてください。
- 38 索引拡張子を使用する索引を、複数パーティション・データベース・パーティション・グループの表に作成することはできません。索引拡張子を使用する索引がデータベース・パーティション・グループ内の表に存在している間、そのデータベース・パーティション・グループを複数パーティション・データベース・パーティション・グループにすることはできません。このような索引をドロップしてパーティションをデータベース・パーティション・グループに追加する (この場合、索引を再作成できません) か、またはデータベース・パーティション・グループを未変更のままにしてください。
- 39 ニックネームまたは OLE DB 表関数への参照を除去するか、または間接的にこれらのいずれかを参照しているオブジェクトへの参照を除去してください。
- 40 IDENTITY_VAL_LOCAL 関数の呼び出しをトリガー定義または SQL 関数定義から除去してください。
- 41 割り当てを 2 つの別々のステートメントに分割します。一方のステートメントは SQL 変数にのみ値を割り当て、もう一方のステートメントは遷移変数にのみ値を割り当てなければなりません。
- 42 新規ノードをドロップして、単一ノード構成に戻してください。さらにノードが必要な場合は、制御ステートメントを含むトリガー、関数、またはメソッドをドロップしなければなりません。
- 43 RUNSTATS コマンドを再発行し、サポートされていないオプションをオフにしてください。
- 44 これらの EXPLAIN モードを、SMP、MPP、および Data Joiner 環境で使用することはできません。可能であれば、順次モードで照会を実行してください。あるいは、EXPLAIN モードを YES または EXPLAIN に設定して、実際のカーディナリティー以外については、同じ情報を提供してください。
- 45 マルチディメンション・クラスタリング (MDC) 表または挿入時クラスタリング (ITC) 表に対する ALTER TABLE ステートメントに、APPEND 節を指定しないでください。
- 46 INPLACE オプションを指定せずに、REORG コマンドを再発行してください。
- 47 マルチディメンション・クラスタリング (MDC) 表または挿入時クラスタリング (ITC) 表に対する CREATE INDEX ステートメントに、EXTENSION 節を指定しないでください。
- 48 マルチディメンション・クラスタリング (MDC) 表をドロップし、変更したディメンション指定を使って表を再作成してください。
- 49 マルチディメンション・クラスタリング (MDC) 表または挿入時クラスタリング (ITC) 表に対する CREATE INDEX ステートメントに、CLUSTER 節を指定しないでください。
- 50

- 宣言済みグローバル一時表に対し、CREATE TABLE ステートメントに ORGANIZE BY 節を指定しないでください。
- 51** コーディネーター・データベース・パーティションから LANGUAGE SQL 節を指定した CREATE PROCEDURE ステートメントを発行してください。
- 52** 式を変更したり、それを既存の列に追加したりしないでください。PARTITIONING KEY 節、ORGANIZE BY 節、PARTITION BY 節、DISTRIBUTE BY 節、または生成された列であるそのメンバーの生成式の構成を変更するには、表をドロップし、再作成して、表に再度データを追加してください。
- 53** これらのタイプの列を含めないように、両方向スクロール・カーソルの選択リストを変更してください。
- 54** INPLACE オプションを指定せずに、REORG コマンドを再発行してください。
- 55** コンセントレーターまたはフェデレーテッド・データベース・システム・サポートをオフにしてください。コンセントレーターをオフにするには、データベース・マネージャー構成パラメーター MAX_CONNECTIONS の値を、データベース・マネージャー構成パラメーター MAX_COORDAGENTS の値以下に設定してください。フェデレーテッド・データベース・システムのサポートをオフにするには、データベース・マネージャー構成の FEDERATED パラメーターを NO に設定してください。
- 56** ALLOW NONE または ALLOW READ を指定して、REORG INDEXES コマンドを再発行してください。
- 57** ALLOW NONE または ALLOW READ を指定して、REORG INDEXES コマンドを再発行してください。
- 58** バージョン 8 データベースの場合: XML 入力を受け入れる関数の 1 つに XML データを入力し (最後には XMLSERIALIZE)、関数の出力をデータベースに保管するか、またはアプリケーションに戻してください。
- 59** パーティション・データベース環境では、NO SQL オプションを指定して定義された関数とメソッドだけを使用してください。
- 60** 型付き表に依存するビューをドロップしてください。型付き表に対する ALTER TABLE ALTER COLUMN SET INLINE LENGTH ステートメントを再発行し、ドロップしたビューを再作成してください。
- 61** テキスト検索関数をチェック制約または生成された列の式に使用しないでください。可能であれば、CONTAINS ではなく LIKE 関数を使用してください。
- 62** このビューに WITH CHECK OPTION 節を指定しないでください。
- 63** これらのタイプの列を含めないように、両方向スクロール・カーソルの選択リストを変更してください。
- 64** このプラットフォームでは、フェデレーテッド・プロセッシングを実行しないでください。
- 65** ニックネームのローカル・タイプを現行タイプから指定タイプに変更しないでください。
- 66** SYSSTRUCT をトランスフォーム・グループとして指定しないでください。
- 67** ニックネームまたはニックネームのビューを、MERGE ステートメントのターゲットとして指定しないでください。
- 68** ステートメントの明確な NEXT VALUE 式の数を減らすか、または非パーティション・データベースに変更してください。
- 69**

- DELETE FROM ビュー名を使用しないでください。
- 70 照会最適化が有効になっているビューを無効にした後、基本表の列をドロップまたは変更してから、それらのビューの照会最適化を有効にしてください。
- 71 パーティション・データベース環境においては、トリガー、SQL 関数、SQL メソッド、または動的コンパウンド・ステートメントの中で CALL ステートメントを使用しないでください。
- 72 列が NULL 可能なら、それを ID 列にすることはできません。この変更を行うには、表をドロップした後、NULL 可能でない列を使用して再作成し、再びデータを入れる必要があります。新しい列を ID 列として追加することもできます。
- 73 INCLUDE LOGS オプションを指定しないで BACKUP コマンドを発行してください。
- 74 EID によってのみ、リカバリ履歴ファイルの状況フィールドを更新します。
- 75 以下のいずれかの方法を使用します。
データベース構成パラメーター AUTO_STATS_PROF および AUTO_PROF_UPD を OFF に設定することによって、このデータベースの自動統計プロファイルを無効にします。
システムを、有効な SMP がなくフェデレーテッドではない単一データベース・パーティション上のシステムに変更します。
- 83 DATA CAPTURE CHANGES と COMPRESS YES の両方が指定されている場合は、そのいずれか 1 つだけを指定する必要があります。DATA CAPTURE CHANGES または COMPRESS YES のいずれかが指定されている場合、表に対してすでに一方が有効であるので、他方を指定しないでください。
- 87 表を非パーティション表として作成してください。
- 88 デフォルトまたは ALLOW NO ACCESS モードを使用して REORG INDEXES または REORG TABLE コマンドを再発行してください。REORG TABLE が INPLACE 節を使用して指定された場合は、INPLACE 節を除去してください。REORG INDEXES が指定されている場合は、パーティション表での非パーティション索引のオンライン再編成に、REORG INDEX コマンドを使用することを考慮してください。
- 89 REORG INDEXES ALL コマンドを使用して、表またはデータ・パーティション上のすべての索引を再編成してください。
- 90 デフォルトを使用するか、または CREATE INDEX で NOT PARTITIONED を明示的に指定して、非パーティション索引を作成してください。
- 91 この表には DATA CAPTURE CHANGES を指定しないでください。
- 92 次のステートメントを使用して参照制約をドロップしてください。
ALTER TABLE 'child-table'
DROP CONSTRAINT ...
あるいは、次のように、外部キー制約が強制されないように外部キー・リレーションシップの子表を変更してください。
ALTER TABLE 'child-table'
ALTER FOREIGN KEY ... NOT ENFORCED
注: 外部キー制約で親表からのデータタッチの失敗ステートメントが実行されましたが、制約の強制は子表に対して実行されます。これらの 2 つの表は、外部キー制約が自己参照でない限り、別個のものです。次に ALTER TABLE ... DETACH PARTITION ステートメントを再サブミットしてください。これで、次のステートメントを使用することによって、子表を変更して外部キー制約を強制することができます。
ALTER TABLE 'child-table'

- ALTER FOREIGN KEY ... ENFORCED
- このステートメントは、表を再検査して外部キー・リレーションシップがまだ強制されていることを確実にします。
- 93** SET INTEGRITY ステートメントに IMMEDIATE CHECKED オプションを指定して発行し、LOAD INSERT を使用して付加されたデータに関して、従属マテリアライズ照会表または従属ステージング表を保守してください。
- 95** 表に対して SET INTEGRITY ステートメントに IMMEDIATE CHECKED または IMMEDIATE UNCHECKED オプションを指定して発行し、接続されているパーティションの整合性を検証してください。
- 97** 列データ・タイプは変更しないでください。
- 98** ID 属性をドロップし、タイプを変更してから、ID 属性を再び有効にしてください。
- 99** チェック制約をドロップしてから、ALTER ステートメントを再発行してください。
- 101** LOAD コマンドを発行する前に、CONVERT パラメーターを指定して REORG INDEXES コマンドを使用することにより、表に既に存在する索引をタイプ 2 索引に変換してください。
- 102** 型付き表にはセキュリティ・ポリシーを追加しないでください。
- 103** DB2 データベース・サーバーのバージョン 9.5 以前では、REORG INDEXES コマンドを再発行して ALLOW READ ACCESS または ALLOW NO ACCESS を指定してください。
- 104** INPLACE オプションを除去して REORG TABLE コマンドを再発行してください。
- 105** CLEANUP または RECLAIM EXTENT を指定して REORG INDEX コマンドを再発行するか、または REORG INDEXES ALL を発行して表のすべての索引（ブロック索引を含む）を再編成してください。
- 106** パーティションを表にアタッチしようとする前に、ALTER TABLE ステートメントを発行して表からマテリアライズ照会属性をドロップしてください。
- 109** テキスト索引が含まれるパーティション表を直接参照し、OUTER JOIN 節は含まない副選択内にテキスト検索関数が含まれるよう、照会を変更してください。
- 110** セキュリティー・ポリシー名パラメーターにストリング定数を指定してください。
- 111** 監査ポリシーを型付き表に関連付けしないでください。
- 112** 非 root インストールの場合、ヘルス・モニター用にアクションや通知を構成しようとししないでください。
- 113** 可能であれば、コンパウンド SQL (インライン化) ステートメントを使用してトリガーを定義するか、トリガー定義を除去してください。フィックスパック 1 を適用する前の DB2 パーティション 9.7 では、コンパウンド SQL (インライン化) ステートメントを使用して関数またはトリガーを定義するか、関数またはトリガー定義を除去してください。
- 114** CREATE INDEX ステートメントで NOT PARTITIONED 節を使用して、空間インデックスを非パーティション索引として作成してください。
- 115** SYSCAT.ROUTINEAUTH のソース派生関数に付与されている特権を記録してから、ソース派生関数をドロップし、再作成して、そのソース派生関数に特権を付与します。
- 116**

SQL0271N

コンパウンド SQL (コンパイル済み) ステートメントにおける、動的に準備または実行される名前付きパラメーター・マーカーそれぞれに固有の名前を付けます。

118

関数 ENV_GET_NETWORK_RESOURCES および ENV_GET_DB2_SYSTEM_RESOURCES は、現在のプラットフォームではサポートされていません。アプリケーションが現在のプラットフォームでこれらの関数を呼び出さないようにアプリケーションを変更してください。

119

ROW 変数のフィールドに ARRAY タイプがある場合、要素値を取り出す際に索引値を指定しないでください。

sqlcode: -270

sqlstate: 42997

SQL0271N *fid fid* を伴う表の索引ファイルがないか、または無効です。

説明: *fid fid* を伴う表の索引ファイルは処理中に要求されます。このファイルは無くなっているか、または有効でないかのいずれかです。

このステートメントを処理することができず、アプリケーションは、まだデータベースに接続されています。この条件は、この表の索引を使用しない他のステートメントには影響を及ぼしません。

ユーザーの処置: すべてのユーザーが、そのデータベースから切断されていることを確認し、すべてのノードに RESTART DATABASE コマンドを発行してください。その後、要求を再試行してください。

この索引 (または索引群) は、データベースの再始動時に再作成されます。

sqlcode: -271

sqlstate: 58004

SQL0276N リストア・ペンディング状態にあるため、データベース *name* に接続することはできません。

説明: 接続が完了する前にデータベースをリストアしてください。

接続は行われていません。

ユーザーの処置: データベースをリストアし、再度 CONNECT ステートメントを発行してください。

sqlcode: -276

sqlstate: 08004

SQL0279N データベース接続が COMMIT または ROLLBACK 処理中に終了しました。トランザクションが確定していない可能性があります。理由コード = *reason-code*。

説明: コミット処理がエラーを検出しました。このトランザクションは、コミット状態に入っていますが、コミット処理は完了していない可能性があります。このアプリケーションのデータベース接続は、終了していません。

エラーの原因は、*reason-code* に示されています。

- 1 トランザクションで呼び出されたノードまたはデータ・ソースが失敗しています。
- 2 ノードの 1 つに対してコミットが拒否されました。詳細については管理通知ログをチェックしてください。

ユーザーの処置: エラーの原因を判別してください。最も一般的なエラーの原因はノード障害または接続障害なので、システム管理者に連絡して援助を求める必要があります。RESTART DATABASE コマンドはこのトランザクションのコミット処理を完了します。

sqlcode: -279

sqlstate: 08007

SQL0280W ビュー、トリガー、またはマテリアライズ照会表 *name* が、既存の作動不能のビュー、トリガーまたはマテリアライズ照会表を置換しました。

説明: 既存の作動不能のビュー、トリガー、またはマテリアライズ照会表 *name* が以下のように置き換えられました。

- CREATE VIEW ステートメントの結果としての新しいビュー定義
- CREATE TRIGGER ステートメントの結果としての新しいトリガー定義
- CREATE SUMMARY TABLE ステートメントの結果としての新しいマテリアライズ照会表定義

ユーザーの処置: 必要ありません。

sqlcode: +280

sqlstate: 01595

SQL0281N 表スペース *tablespace-name* はシステム管理表スペースであるため、追加コンテナでは変更できません。

説明: 追加コンテナはシステム管理表スペースに追加できません。この場合に対する例外は、データベース・パーティション・グループが表スペースなしでノードを追加するように修正され、次にコンテナが ALTER TABLESPACE コマンドを使用して新規ノード上に一度追加された場合です。一般的に、追加のコンテナを加えるには、表スペースがデータベースに管理されている必要があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: システム管理表スペースにさらにコンテナを増やすには、それぞれのコンテナがコンテナ・サイズの限度と同じサイズであるか、あるいはそれより小さいサイズであるかを確認して、表スペースをドロップしてからコンテナを増やして表スペース再度作成するか、または DMS 表スペースに変更してください。

sqlcode: -281

sqlstate: 42921

SQL0282N 表スペース内の少なくとも 1 つの表 *table-name* が、他の表スペースに 1 つ以上の部分を持っているため、表スペース *tablespace-name* がドロップできません。

説明: 示された表スペースの表に、その表のすべての部分が入っているわけではありません。複数の表スペースが指定された場合は、指定された表スペースのいずれかにある表に、リスト内にその表のすべての部分が入っているわけではありません。基本表、索引、または長いデータが他の表スペースに存在する可能性があるため、表スペースのドロップによって表が完全にドロップされません。そのため、表が不整合状態に置かれ、そのために表スペースをドロップできません。

ユーザーの処置: 表スペースのドロップを試行する前に表スペース *tablespace-name* に入っているすべてのオブジェクトがこの表スペースのすべての部分を収容していることを確認するか、またはリスト内の部分の入ったこれらの表スペースをドロップに組み込みます。

これには、表スペースをドロップする前に、表 *table-name* のドロップが必要になる場合があります。

sqlcode: -282

sqlstate: 55024

SQL0283N SYSTEM TEMPORARY 表スペース *tablespace-name* だけが、データベース内で *page-size* ページ・サイズを持つ SYSTEM TEMPORARY 表スペースであるため、ドロップすることはできません。

説明: データベースには、カタログ表スペースのページ・サイズと同じページ・サイズの SYSTEM TEMPORARY 表スペースが少なくとも 1 つ入っている必要があります。表スペース *tablespace-name* をドロップすると、*page-size* ページ・サイズを持つ最後の SYSTEM TEMPORARY 表スペースがデータベースからドロップされます。

ユーザーの処置: この表スペースのドロップを試行する前に、データベースに他の *page-size* ページ・サイズの SYSTEM TEMPORARY 表スペースがあることを確認してください。

sqlcode: -283

sqlstate: 55026

SQL0284N 節 *clause* の後に続く表スペース *tablespace-name* が *tablespace-type* 表スペースであるため、表は作成されませんでした。

説明: CREATE TABLE、CREATE GLOBAL TEMPORARY TABLE、または DECLARE GLOBAL TEMPORARY TABLE ステートメントが、節 *clause* の後に、この節に有効な表スペースのタイプではない表スペース *tablespace-name* を指定しました。

これは以下の状況で発生します。

- 通常の表の場合、*tablespace-name* が IN 節に指定されていて、表スペースが REGULAR または LARGE 表スペースではありません。
- 作成済み一時表または宣言済み一時表の場合、*tablespace-name* が IN 節に指定されていて、表スペースが USER TEMPORARY 表スペースではありません。
- *tablespace-name* が LARGE 節に指定されていますが、表スペースが、データベースによって管理される LARGE ではありません。
- *tablespace-name* が INDEX IN 節に指定され、表スペースが、データベース、表スペースによって管理される REGULAR または LARGE ではありません。
- 挿入時クラスタリング (ITC) 表の作成時に *tablespace-name* が指定されましたが、この表スペースはデータベースによって管理される表スペースではありません。

ユーザーの処置: ステートメントを訂正して、*clause*

SQL0285N

節に適切なタイプで表スペースを指定してください。

sqlcode: -284

sqlstate: 42838

SQL0285N PRIMARY 表スペース *tablespace-name* がシステム管理表スペースであるため、表 *table-name* の索引と長い列のいずれか、または両方を、独立表スペースに割り当てることができません。

説明: PRIMARY 表スペースがシステム管理表スペースの場合は、表のすべての部分はその表スペースに入っている必要があります。PRIMARY 表スペース、索引表スペース、LONG 表スペースがデータベース管理表スペースの場合にのみ、表の部分を独立表スペースに持つことができます。

ユーザーの処置: PRIMARY 表スペースにデータベース管理表スペースを指定するか、または表の部分を他の表スペースに割り当てないでください。

sqlcode: -285

sqlstate: 42839

SQL0286N 許可 ID *user-name* が使用を許可されている少なくとも *pagesize* のページ・サイズを持つ表スペースが検出されませんでした。

説明: CREATE TABLE、CREATE GLOBAL TEMPORARY TABLE、または DECLARE GLOBAL TEMPORARY TABLE ステートメントで表スペースが指定されませんでした。また、許可 ID *user-name* が USE 特権を持っている、十分なページ・サイズ (*pagesize* 以上) の適切なタイプ (作成済み一時表または宣言済み一時表の場合は USER TEMPORARY) の表スペースが見つかりませんでした。

表に十分なページ・サイズがあるかどうかは、行のバイト数あるいは列の数で判別されます。

ユーザーの処置: *pagesize* 以上のページ・サイズがある正しいタイプ (REGULAR または USER TEMPORARY) の表スペースが存在すること、また、その表スペースに対して許可 ID *user-name* が USE 特権を持っていることを確認してください。

sqlcode: -286

sqlstate: 42727

SQL0287N SYSCATSPACE はユーザー・オブジェクトには使用できません。

説明: CREATE TABLE または GRANT USE OF TABLESPACE ステートメントが、カタログ表のために予約されている表スペース SYSCATSPACE を指定しました。

ユーザーの処置: 別の表スペース名を指定してください。

sqlcode: -287

sqlstate: 42838

SQL0288N MANAGED BY SYSTEM を使って LARGE 表スペースを定義することはできません。

説明: 定義される表スペースは、ラージ・オブジェクトと長ストリングで使用されます。これらは、データベース管理スペースに定義された表スペースにのみ格納することができます。したがって、システム管理スペースを使用するように、LARGE 表スペースを定義できません。

ユーザーの処置: キーワード LARGE を除去するか、または CREATE TABLESPACE ステートメントで MANAGED BY DATABASE に変更してください。

sqlcode: -288

sqlstate: 42613

SQL0289N 表スペース *tablespace-name* の新規ページを割り振れません。

説明: 1 つ以上のデータベース・パーティションで、以下に示す条件の 1 つが成立しています。

1

この SMS 表スペースに割り当てられたコンテナのいずれかが、最大ファイル・サイズに達しました。これが、エラーの原因である可能性があります。

2

この DMS 表スペースに割り当てられているすべてのコンテナがいっぱいです。これが、エラーの原因である可能性があります。

3

リバランスが進行中ですが、新しく追加されるスペースを使用できるようにするのに十分なものにまでは進んでいません。

4

- リダイレクト・リストアの実行先のコンテナ
が小さすぎます。
- 5
- リダイレクト・リストアに続いてロールフォ
ワードが実行されていますが、この表スペースに
割り当てられたコンテナはすべてフルです。
- 6
- コンテナ追加をスキップするロールフォワ
ードが実行され、この表スペースに割り当てられ
たすべてのコンテナがフルになっています。
- 7
- 使用できる 5 個未満のエクステントを使って
表スペースを作成しようとしてしました。
- 8
- 自動サイズ変更表スペースはその最大サイズに
達し、コンテナがすべてフルになっていま
す。あるいは、現行サイズと最大サイズの間
にコンテナを拡張または追加するための十分な
スペースがないため、スペースの自動増加を行
えません。
- 9
- コンテナ・スペースが等しく配分されない初
期サイズの値で自動ストレージ表スペースが作
成されています。そのため、高い方の値が使用
されており、この値は指定された最大サイズを
超えています。
- 10
- 自動サイズ変更が可能な DMS 表スペースはそ
の最大サイズに達していませんが、コンテナ
が存在するファイル・システムの 1 つがフル
で、コンテナを大きくすることができませ
ん。
- 11
- 自動サイズ変更が可能な DMS はその最大サイ
ズに達しておらず、表スペースが存在するファ
イル・システムがフルになっていません。ただ
し、コンテナ操作 (または後続のリバランス)
は進行中で、それが完了するまで自動サイズ変
更機能は中断されます。
- ユーザーの処置:** エラーの原因に対応するアクションを
実行してください。
- 1
- DMS TABLESPACE に切り替えるか、あるい
は (ディレクトリ数) >= (最大表サイズ / 最
大ファイル・サイズ) のようなディレクトリ
(パス) を使用して、SMS TABLESPACE を再
作成してください。最大ファイル・サイズはオ
ペレーティング・システムによって変わること
に注意してください。
- 2
- リ balancer が新しいページを使用できるよう
にした後で、新しいコンテナを DMS 表ス
ペースに追加して、操作をやり直してください。
- 3
- リ balancer が終了するのを待ってください。
- 4
- リダイレクト・リストアを大きなコンテナで
再度実行してください。
- 5
- リダイレクト・リストアを大きなコンテナで
再度実行してください。
- 6
- コンテナの追加を許可してロールフォワード
を再度実行するか、またはリダイレクト・リス
トアを大きなコンテナに対して実行してくだ
さい。
- 7
- 表スペースに使用できるエクステントが少なく
とも 5 個あることを確認して、CREATE
TABLESPACE ステートメントを再サブミット
してください。
- 8
- 表スペースの最大サイズを増やしてください。
- 9
- 初期サイズを減らすか、または表スペースの最
大サイズを増やしてください。
- 10
- 表スペースにコンテナの新規ストライプ・セ
ットを追加してください。既存のコンテナは
これ以上大きくなり、表スペースの最後の範
囲にあるそれらの新規コンテナのみ自動サイ
ズ変更の実行時に拡張されます。
- 11
- 操作および後続のリバランスが完了するのを待
ってください。
- sqlcode:** -289
- sqlstate:** 57011

SQL0290N 表スペース・アクセスが許されていません。

説明: 無効な状態にある表スペースへのアクセスが処理により試行されましたが、意図されたアクセスはその表スペースに対して許可されていません。

- 表スペースが静止状態 (「Quiesced: SHARE」、 「Quiesced: UPDATE」、または 「Quiesced: EXCLUSIVE」) の場合は、表スペースを静止状態に保留している処理のみが、その表スペースに対するアクセスを許されます。
- 表スペースが他のいずれかの状態の場合は、現在の表スペースの状態を生じさせたアクションを実行する処理のみが、その表スペースに対するアクセスを許されます。
- アクティブなシステム一時表、作成済み一時表、または宣言済み一時表の入った SYSTEM または USER TEMPORARY 表スペースはドロップできません。
- 表スペースが「リストア・ペンディング」状態でない限り、SET CONTAINER API はコンテナ・リストの設定に使用できません。

ユーザーの処置: 解決策は以下のとおりです。

- 表スペースが静止状態の場合は、その表スペースで静止共有または静止更新の取得を試みてください。あるいは、表スペースのリセットの静止を試みてください。
- 表スペースが他のいずれかの状態の場合は、アクセスする前に、その表スペースが通常の状態に戻るまで待ってください。

表スペースの状態に関する詳細については、「管理ガイド」を参照してください。

sqlcode: -290

sqlstate: 55039

SQL0291N 状態遷移は、表スペースでは許されていません。

説明: 表スペースの状態の変更が試みられました。新しい状態が表スペースの現在の状態との互換性がないか、または特定状態をオフにしようとしたが、表スペースがその状態ではありません。

ユーザーの処置: 表スペースの現在の状態に応じて、バックアップの完了、ロードの完了、ロールフォワードの完了などが発生すると、表スペースの状態が変わりません。表スペース状態に関する詳細については、「systems administration guide」を参照してください。

sqlcode: -291

sqlstate: 55039

SQL0292N 内部データベース・ファイルが作成できませんでした。

説明: 内部データベース・ファイルが作成できませんでした。

ユーザーの処置: そのファイルの入ったディレクトリーが、アクセス可能 (たとえば、取り付けられている) であること、およびデータベース・インスタンス所有者によって書き込み可能であることをチェックしてください。

sqlcode: -292

sqlstate: 57047

SQL0293N 表スペース・コンテナにアクセス・エラーが発生しました。

説明: このエラーは、以下のいずれかの条件によって発生した可能性があります。

- コンテナ (ディレクトリー、ファイルまたはロー・デバイス) が見つかりませんでした。
- コンテナに、適切な表スペースに所有されていることを示すタグが付いていません。
- コンテナ・タグが壊れています。

このエラーはデータベースの始動時および ALTER TABLESPACE SQL ステートメントの処理時に返されます。

ユーザーの処置: 次のアクションを試行してください。

1. ディレクトリー、ファイル、または装置が存在し、ファイル・システムがマウントされている (それが独立したファイル・システム上にある場合) ことを確かめてください。コンテナは、データベース・インスタンス所有者によって、読み書き可能でなければなりません。
2. 最新のバックアップがある場合は、表スペースまたはデータベースのリストアを試みてください。正しくないコンテナのためにリストアが失敗し、コンテナが DEVICE タイプでない場合は、まず手操作でそのコンテナを取り除いてください。

エラーが SWITCH ONLINE オプション付きの ALTER TABLESPACE SQL ステートメントの処理から返された場合は、問題を訂正した後にステートメントを再発行してください。

エラーが残る場合、IBM サービス担当者に連絡してください。

sqlcode: -293

sqlstate: 57048

SQL0294N コンテナはすでに使用中です。

説明: 表スペース・コンテナを共有できません。このエラーの原因として可能性のあるものは以下のとおりです。

- CREATE TABLESPACE または ALTER TABLESPACE ステートメントに、他の表スペースですでに使用中のコンテナが組み込まれていました。
- CREATE TABLESPACE または ALTER TABLESPACE ステートメントに、ドロップされている表スペースからのコンテナが組み込まれていましたが、DROP ステートメントはコミットされていませんでした。
- データベース・パーティションを追加するのに使用される ALTER DATABASE PARTITION ステートメントが、同じ物理データベース・パーティションにある LIKE データベース・パーティションのコンテナを使用していました。そのため、これらのコンテナはすでに使用中となっています。
- CREATE TABLESPACE または ALTER TABLESPACE ステートメントが、単一の物理データベース・パーティションの 2 つ以上の論理データベース・パーティションにある同じコンテナを使用しようとした。同じコンテナを、同じ物理データベース・パーティションの 2 つ以上のデータベース・パーティションに対して使用することはできません。
- ADD DATABASE PARTITION コマンドまたは API が、同じ物理データベース・パーティションにある LIKE データベース・パーティションの SYSTEM TEMPORARY 表スペースからコンテナを使用しました。そのため、これらのコンテナはすでに使用中となっています。
- CREATE TABLESPACE ステートメント、ALTER TABLESPACE ステートメント、または CREATE DATABASE コマンドに、もう存在していないけれども正しくドロップされていない、別のデータベースからの DMS コンテナが組み込まれていました。実際、このコンテナは使用されていませんが、使用中であるとタグ付けされています。そのため、タグが外されるまで、DB2 データ・サーバーはコンテナの使用を許可しません。ただし、タグが外されるときに、このコンテナが同じデータベースまたは別のデータベースによって使用中ではないことを確認することが重要です。タグを外したときにコンテナが使用中であれば、関係するデータベースは損傷を受けます。

- REORG は使用する DMS TEMPORARY 表スペースを自動選択しようとしたが、適切なページ・サイズのものがあるものの、それは現在別の REORG コマンドによって使用されています。
- データベース・パーティションを追加するのに使用された REDISTRIBUTE コマンドの ADD DBPARTITIONNUM オプションは、最も小さい番号のデータベース・パーティションにある表スペースの表スペース・コンテナ名に基づいて、新しく追加されたデータベース・パーティションの表スペース・コンテナ名を作成します。これらのコンテナ名が絶対パスを指定しており、新規のデータベース・パーティションが、同じコンテナ名を使用するデータベース・パーティションと同じ物理装置に存在する場合、新規のパーティションのコンテナはすでに使用されていることとなります。
- もはや存在しない、適切にドロップされなかったデータベースのコンテナが RESTORE DATABASE コマンドによって検出されました。
- トランспорт操作に一時ステーキング・データベースが作成された後で、この一時ステーキング・データベースがまだ存在するのにターゲット・データベース上に表スペースを作成しようとした。

ユーザーの処置: コンテナがユニークかどうか確認してください。

- CREATE または ALTER TABLESPACE ステートメントに対し、表スペースに別のコンテナを指定してください。
- ドロップされた表スペースに属するコンテナが組み込まれた CREATE または ALTER TABLESPACE ステートメントの場合、DROP ステートメントがコミットされてから再度試行するか、あるいは別のコンテナを指定してください。
- ALTER DATABASE PARTITION ステートメントに対し、WITHOUT TABLESPACES 節を使用してこのステートメントを再発行し、新規データベース・パーティションのユニーク・コンテナを作成するのに ALTER TABLESPACE ステートメントを使用してください。
- 物理データベース・パーティション上に複数の論理データベース・パーティションが組み込まれた環境にある CREATE または ALTER TABLESPACE ステートメントの場合、同じコンテナがこのような論理データベース・パーティションで指定されていないことを確認してください。
- ADD DATABASE PARTITION コマンドまたは API に対し、WITHOUT TABLESPACES 節を使用してステートメントを再発行し、SYSTEM TEMPORARY 表スペースの新規データベース・パーティションでユニ

ーク・コンテナを作成するのに ALTER TABLESPACE ステートメントを使用してください。

- もう存在しなくても正しくドロップされていないデータベースに属していた DMS コンテナの使用を試みている場合、db2untag ユーティリティを使用して DB2 コンテナ・タグを外すことができます。このタグが外されると DB2 はコンテナの解放を考慮し、このコンテナは CREATE TABLESPACE ステートメント、ALTER TABLESPACE ステートメント、または CREATE DATABASE コマンドで使用できます。

注: db2untag の使用には十分に気を付けてください。データベースによって使用されているコンテナに対して db2untag コマンドを発行すると、そのコンテナを使用していたデータベース、および現在でも使用しているデータベースの両方が損傷を受けます。

- REORG の場合、必要な表スペースを使用していた最初の REORG が完了した後にコマンドを再サブミットするか、または適切なページ・サイズの別の TEMPORARY 表スペースを使用できるように用意してください。
- REDISTRIBUTE コマンドの場合、ADD DBPARTITIONNUM オプションを使用するのではなく、REDISTRIBUTE コマンドを発行する前に WITHOUT TABLESPACES 節を使用して ALTER DATABASE PARTITION GROUP ステートメントを発行し、新規データベース・パーティションのユニーク・コンテナを作成するのに ALTER TABLESPACE ステートメントを使用してください。
- (もはや存在しない、適切にドロップされなかったデータベースに属するコンテナを扱う) RESTORE DATABASE コマンドの場合、コンテナを除去してください。

注: コンテナを除去する前に、他のデータベースによってそれが使用されていないことを確認してください。

- トランスポート操作の一時ステージング・データベースが作成されている場合は、不要になった後にその一時ステージング・データベースを除去してから、ステージング・データベースが存在していたためにブロックされたターゲットに対する操作を試行してください。

sqlcode: -294

sqlstate: 42730

SQL0295N 表スペースのすべてのコンテナ名を結合した長さが、長すぎます。

説明: コンテナのリストを格納するために必要な合計スペースが、表スペース・ファイルのこの表スペースに割り当てられたスペースを超えました。

ユーザーの処置: 以下の 1 つ以上を試みてください。

- シンボリック・リンク、マウント・ファイル・システムなどを使用して、新しいコンテナ名を短縮してください。
- 表スペースのバックアップを行った後で、データベース管理ユーティリティを使用して、コンテナの数と名前の長さ、またはそのいずれかを減らしてください。その後で、表スペースを新しいコンテナにリストアしてください。

sqlcode: -295

sqlstate: 54034

SQL0296N オブジェクトに対するデータベースの制限に達したため、CREATE ステートメントが失敗しました。制限: *limit-number*。オブジェクト・タイプ・キーワード: *object-keyword*

説明: データベースに対して定義された、そのタイプのデータベース・オブジェクトの最大数がすでに存在する場合に、データベース・オブジェクトを作成しようとすると、このメッセージが返されます。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの方法で、このエラーに対応します。

- 使用していない同じタイプのデータベース・オブジェクトのいずれかを削除して、CREATE ステートメントを再発行してください。
- 表スペースについては次のようにします。
 - 複数の小さい表スペースから、より大きな 1 つの表スペースにデータを移動してください。
 - 元の小さい表スペースを削除してください。
 - CREATE ステートメントを再発行してください。

sqlcode: -296

sqlstate: 54035

SQL0297N コンテナのパス名またはストレージ・パスが長すぎます。

説明: 以下に示す条件の 1 つが成立しています。

- コンテナ名を指定する絶対パスが、最大許容長 (254 文字) を超えています。データベース・ディレク

トリーに関連するパスとして、コンテナが指定されている場合は、それら 2 つの値の連結が最大長を超えてはなりません。管理通知ログで詳細を参照できます。

- ストレージ・パスは最大許容長 (175 文字) を超えています。

ユーザーの処置: パスの長さを短くしてください。

sqlcode: -297

sqlstate: 54036

SQL0298N コンテナ・パスが正しくありません。

説明: コンテナ・パスが、以下のいずれかの要件に違反しています。

- コンテナ・パスは、有効な完全修飾された絶対パス、または有効な相対パスでなければなりません。文字は、データベース・ディレクトリーに関連して解釈されます。
- EXTEND、REDUCE、RESIZE および DROP 操作に対し、指定されたコンテナ・パスが存在する必要があります。
- パスはインスタンス ID に対して読み取り/書き込み可能でなければなりません (UNIX ベース・システムのファイル許可をチェックしてください)。
- コンテナはコマンドに指定したタイプでなければなりません (ディレクトリー、ファイルまたは装置)。
- システム管理表スペースのコンテナ (ディレクトリー) は、コンテナとして指定された場合は空でなければならず、他のコンテナの下にネストしてはなりません。
- 1 つのデータベースに対するコンテナは、別のデータベースのディレクトリーの下に位置してはならず、別のデータベースに対して現れるディレクトリーの下にもなれない場合があります。この規則は、形式が SQLnnnnn ('n' は数字) のディレクトリーには適用されません。
- コンテナは、オペレーティング・システムのファイル・サイズ制限内でなければなりません。
- ドロップ済みデータベース管理表スペースのコンテナ (ファイル) は、すべてのエージェントが終了および開始した後で、システム管理表スペースのコンテナ (ディレクトリー) としてのみ再利用できます。
- リダイレクト・リストア中に、SMS コンテナが DMS 表スペースに指定されたか、あるいは DMS コンテナが SMS 表スペースに指定されました。
- EXTEND、REDUCE、RESIZE、または DROP 操作に対し指定されたコンテナ・タイプは、コンテナ

が作成されたときに指定されたコンテナ・タイプ (FILE または DEVICE) と一致しません。

このメッセージは、コンテナへのアクセスを DB2 に禁止する、その他の予期しないエラーが発生した場合にも返されます。

クラスター・マネージャーを使用している場合、DB2 データベース・マネージャーがデータベース・コンテナ・パスをクラスター・マネージャー構成に追加することを失敗したときに、このエラーが戻されることがあります。クラスター・マネージャーがこのパスにアクセスできない場合、クラスター・マネージャーはこのパスに関連したフェイルオーバーを正常に管理できません。クラスター・マネージャーからのエラー・メッセージは、db2diag ログ・ファイルに記録されます。

ユーザーの処置: 別のコンテナ・ロケーションを指定するか、またはコンテナを変更して DB2 に受け入れ可能にし (ファイル許可の変更など)、もう一度やり直してください。

クラスター・マネージャーを使用している場合、問題を訂正してコマンドを再サブミットしてください。

1. db2diag ログ・ファイルを見て、クラスター・マネージャーからのエラー・メッセージがあるかどうかを調べます。
2. db2diag ログ・ファイル内のクラスター・マネージャー・エラー・メッセージに回答することにより、DB2 データベース・マネージャーがパスをクラスター・マネージャー構成に追加することを妨げていた基本的な問題を訂正します。
3. コマンドを再サブミットしてください。

sqlcode: -298

sqlstate: 428B2

SQL0299N コンテナは、すでに表スペースに割り当てられています。

説明: 追加しようとしたコンテナが、すでに表スペースに割り当てられていました。

ユーザーの処置: 別のコンテナを選択して、もう一度やり直してください。

sqlcode: -299

sqlstate: 42731

SQL0301N 入力変数、式、またはパラメーター番号 *number* の値は、そのデータ・タイプのため、使用できません。

説明: *number* の位置にある変数、式、またはパラメーターは、そのデータ・タイプが、意図された値の使用法と非互換であるため、ステートメントに指定されたように使用できませんでした。

このエラーは、EXECUTE または OPEN ステートメント上の SQLDA 内に正しくないホスト変数または SQLTYPE 値を指定した場合に発生します。ユーザー定義構造化タイプの場合、ホスト変数または SQLTYPE の関連する組み込みタイプがステートメントのトランスフォーム・グループで定義された TO SQL トランスフォーム関数のパラメーターと互換性がないことが考えられます。文字データ・タイプと GRAPHIC データ・タイプ間で暗黙または明示的 cast を実行する場合、このエラーは、非 Unicode 文字または GRAPHIC スtring を使ってそのような cast が試行されたことを示しています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメント中のすべてのホスト変数のデータ・タイプがその使用法との間に互換性があることを確認してください。

sqlcode: -301

sqlstate: 07006

SQL0302N EXECUTE または OPEN ステートメント内のホスト変数の値が、対応する使用範囲外にあります。

説明: 入力ホスト変数値が、SELECT、VALUES、または準備されたステートメントに定義された使用範囲外にあることが検出されました。

以下のいずれかが発生しました。

- SQL ステートメントで使用されている対応するホスト変数またはパラメーター・マーカーがストリングとして定義されていますが、入力ホスト変数が長すぎるストリングを持っています。
- SQL ステートメントで使用されている対応するホスト変数またはパラメーター・マーカーが数値として定義されていますが、入力ホスト変数が範囲外の数値を持っています。
- 終了のための NUL 文字が C 言語の NULL で終了する文字ストリング・ホスト変数から欠落しています。
- フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: パススルー・セッションの場合、データ・ソース特有の制約事項に違反している可能性があります。

このエラーは、EXECUTE または OPEN ステートメント上の SQLDA に正しくないホスト変数、または正しくない SQLLEN 値を指定したときに発生します。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 入力ホスト変数値のタイプと長さが正しいことを確認してください。

入力ホスト変数でパラメーター・マーカーに値を与えている場合は、その値がパラメーター・マーカーの暗黙的なデータ・タイプと長さとも一致するようにしてください。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: パススルー・セッションの場合、どのデータ・ソースがエラーの原因かを判別してください。

どの特定制約事項を違反したのか判別するためにそのデータ・ソースの SQL ダイアレクトを調べ、失敗したステートメントを必要に応じて調整してください。

sqlcode: -302

sqlstate: 22001, 22003

SQL0303N データ・タイプに互換性がないため、SELECT、VALUES、FETCH、または割り当てステートメントのホスト変数に、値を割り当てられません。

説明: 組み込まれた SELECT、VALUES、FETCH、または割り当てステートメントが、ホスト変数に値を割り当てようとしたが、変数のデータ・タイプと、対応する SELECT-list、VALUES-list、または割り当てステートメントの右側のエレメントのデータ・タイプに互換性がありません。ユーザー定義のデータ・タイプの場合、ホスト変数は、ステートメントのトランスフォーム・グループで定義された FROM SQL トランスフォーム関数の結果タイプとは互換性のない関連した組み込みデータ・タイプを使用して定義される場合があります。たとえば、列のデータ・タイプが日付または時刻の場合は、変数のデータ・タイプは適切な最小長を持つ文字でなければなりません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 表定義が現在のものであり、ホスト変数が適切なデータ・タイプであることを確認してください。ユーザー定義のデータ・タイプの場合、ホスト変数の関連する組み込みタイプが、ステートメントのトランスフォーム・グループで定義された FROM SQL トランスフォーム関数の互換性のあるタイプと互換性があることを確認してください。

sqlcode: -303

sqlstate: 42806

SQL0304N 値がホスト変数のデータ・タイプの範囲外なので、その値をホスト変数に割り当てることができません。

説明: ホスト変数リストへの FETCH、VALUES、SELECT、または割り当ては、ホスト変数が検索された値を保留するのに十分な大きさでないため、失敗しました。

ステートメントは処理できません。データは取り出されませんでした。

ユーザーの処置: 表定義が現在のものであり、ホスト変数が適切なデータ・タイプであることを確認してください。SQL データ・タイプの範囲については、「SQL リファレンス」を参照してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: データ・ソースから返されたデータ・タイプの範囲については、そのデータ・ソースの資料を参照してください。

sqlcode: -304

sqlstate: 22001, 22003

SQL0305N 標識変数が指定されていないので、ホスト変数に NULL 値を割り当てられません。

説明: FETCH、代入、または組み込み SELECT または VALUES 操作の結果として、標識変数が指定されていないホスト変数に挿入される NULL 値を取り出しました。列が NULL 値を返す可能性がある場合は、標識変数を指定する必要があります。

ステートメントは処理できません。データは取り出されませんでした。

ユーザーの処置: FETCH または SELECT オブジェクト表の定義、VALUES リストの要素、または割り当てステートメントの右側を調べてください。それらの列の NULL 値を取り出すことができるすべてのホスト変数に対して、標識変数を指定するように、プログラムを修正してください。

sqlcode: -305

sqlstate: 22002

SQL0306N ホスト変数 *name* が定義されていません。

説明: ホスト変数 *name* が DECLARE SECTION で宣言されていません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ホスト変数が宣言されていること、またその名前が正しいことを確認してください。

SQL0307N ホスト変数 *name* はすでに定義されています。

説明: ホスト変数 *name* は、すでに DECLARE SECTION で定義されています。

定義は無視されます。代わりに、前回の定義が使用されます。

ユーザーの処置: ホスト変数のつづりが正しく、名前は 1 つのプログラムにつき 1 回だけ定義されていることを確認してください。

SQL0308N ホスト変数の数の制限に達しました。

説明: ホスト変数の数の制限は、SYSPLAN の HOST_VARS 列に指定された値によって異なります。この制限に達しました。

残りの変数宣言は無視されます。

ユーザーの処置: プログラムを単純にするか、または個別の小さいプログラムに分割してください。

SQL0309N OPEN ステートメントのホスト変数の値が NULL ですが、対応する他のステートメントでは NULL 値は使用できません。

説明: 入力ホスト変数の値が NULL でしたが、SELECT、VALUES、または準備されたステートメントでの対応する使用法に、標識変数が指定されていませんでした。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: USING 節を使用する必要があることを確認してください。別の方法としては、必要な場合にのみ標識変数が指定されていることを確認してください。

sqlcode: -309

sqlstate: 07002

SQL0310N SQL ステートメントに含まれるホスト変数が多すぎます。

説明: ステートメント中のホスト変数が最大数を超過しています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメントのホスト変数を減らすか、またはステートメントが複雑すぎないことを確認してください。

SQL0311N **ストリング・ホスト変数番号** *var-number* の長さが、負であるか、または最大を超えています。

説明: 評価時に、SQLDA の項目が <var-number> (1 に基づく) で示されるストリング・ホスト変数の長さ指定が負であるか、またはそのホスト変数に定義された最大長より長くなっています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: プログラムを訂正して、すべてのストリング・ホスト変数の長さが負の値ではないか、あるいは最大長より短くするようにしてください。

sqlcode: -311

sqlstate: 22501

SQL0312N **変数** *variable-name* が定義されていないか、または使用できません。

説明: 変数 *variable-name* が SQL ステートメントで使用されていますが、以下のいずれかの条件が存在しています。

- ホスト変数 *variable-name* が SQL ステートメントで使用されていますが、変数は動的 SQL ステートメントまたは DDL ステートメントで使用することができません。
- ホスト変数 *variable-name* が、構造参照が許されていない場所で使用された構造です。構造参照を SQL ステートメントで使用すると、そのコンポーネント・フィールドのコンマで区切られたリストが、その代わりに使用されたかのように扱われます。ホスト変数のリストは PREPARE などの SQL ステートメントで使用できないので、複数フィールドを持つ構造に対する参照にもなりません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 次の 1 つを実行し、要求を再試行してください。

- 動的 SQL ステートメントでは、ホスト変数の代わりに、パラメーター・マーカーを使用してください。
- DDL ステートメントでは、ホスト変数への参照を除去してください。
- 参照 *variable-name* を、構造体ではないホスト変数と置き換えてください。

sqlcode: -312

sqlstate: 42618

SQL0313N **EXECUTE** ステートメントの変数の数、**OPEN** ステートメントの変数の数、またはパラメーター化カーソルの **OPEN** ステートメントの引数の数が、必要な値の数と等しくありません。

説明: EXECUTE または OPEN ステートメントで指定されている変数の数が、SQL ステートメントのパラメーター・マーカーに必要なホスト変数の数と同じではありません。

パラメーター化カーソルが参照される場合、カーソル引数の数は予期される数と同じにはなりません。

ユーザーの処置: EXECUTE または OPEN ステートメントで指定されている変数の数と、SQL ステートメントのパラメーター・マーカーの数が同じになるように、アプリケーション・プログラムを訂正してください。

正しい数の引数が指定されるように、パラメーター化カーソル参照を訂正してください。

sqlcode: -313

sqlstate: 07001, 07004

SQL0314N **ホスト変数** *name* の宣言が正しくありません。

説明: ホスト変数 *name* の宣言が、以下のいずれかの理由により正しくありません。

- 指定したタイプがサポートされていません。
- 指定した長さがゼロか、負か、または大きすぎます。
- 初期化指定子を使用しています。
- 指定した構文が正しくありません。

変数は定義されません。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーがサポートする宣言のみを、正しく指定していることを確認してください。

SQL0315N **ホスト変数の宣言が正しくありません。**

説明: ホスト変数の宣言が、以下のいずれかの理由により正しくありません。

- 指定したタイプがサポートされていません。
- 指定した長さがゼロか、負か、または大きすぎます。
- 指定した構文が正しくありません。

変数は定義されません。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーがサポートする宣言のみを、正しく指定していることを確認してください。

SQL0317N BEGIN DECLARE SECTION の後に
END DECLARE SECTION がありません。

説明: DECLARE SECTION の処理中に、入力の終わりに達しました。

プリコンパイルは終了します。

ユーザーの処置: DECLARE SECTION を終了させるための END DECLARE SECTION ステートメントを追加してください。

SQL0318N 先行する BEGIN DECLARE SECTION
がない END DECLARE SECTION が見
つかりました。

説明: END DECLARE SECTION ステートメントが見つかりましたが、先行する BEGIN DECLARE SECTION がありません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: END DECLARE SECTION の前に
BEGIN DECLARE SECTION を入力してください。

SQL0324N usage 変数 name は間違ったタイプです。

説明: INDICATOR 変数 name が短整数でないか、または STATEMENT 変数 name が文字データ・タイプではありません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 変数が正しいタイプで、正しく指定されていることを確認してください。

SQL0327N 定義済みデータ・パーティションの範囲外
であるため、行を表 table-name に挿入で
きません。

説明: 操作が挿入または更新である場合、行の表パーティション・キーの値が定義済みデータ・パーティションの値の範囲に入っていません。操作が表を変更して範囲パーティション表にする場合、定義済みデータ・パーティションの値の範囲に入らない表パーティション・キー値を持つ行が、表に 1 つ以上存在します。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 挿入または更新操作の場合は、表パーティション・キー列が表のデータ・パーティションの指定範囲に入っているかどうか確認してください。追加データ・パーティションを表に追加する必要がある場合があります。表を変更して範囲パーティション表にする場合は、表のすべてのデータがデータ・パーティションの範囲に入るように必要な範囲が指定されているかどうか確認してください。

sqlcode: -327

sqlstate: 22525

SQL0329N パス名リスト string-constant-or-host-
variable が無効です。

説明: スtring定数または入力ホスト変数 string-constant-or-host-variable に、無効なパス名リストが含まれています。SQL パス (FUNCPATH BIND オプションまたは CURRENT PATH 特殊レジスター) またはパッケージ・パス (CURRENT PACKAGE PATH 特殊レジスター) のスキーマ名の最大数を超過しました。この限度について詳しくは、「SQL リファレンス」の限度に関する付録を参照してください。

ステートメントまたはコマンドが処理されません。

ユーザーの処置: 限度を超えないように、より少ないスキーマ名を指定してください。ユーザー定義関数、プロシージャ、メソッド、特殊タイプ、またはパッケージを統合してより少数のスキーマにすることを検討してください。

sqlcode: -329

sqlstate: 0E000

SQL0330N スtringは、処理不能なため、使用できません。理由コード = reason-code。コード・ポイント = code-point。ホスト変数位置 = host-variable-position。

説明: スtringを異なるコード化文字セットに変換中に変換エラーが発生したため、Stringを処理できません。エラーのタイプは reason-code に示されます:

- 8 長さ例外 (たとえば、PC MIXED データに必要な拡張がStringの最大長を超えている)。
- 12 無効なコード・ポイント (たとえば、SYSSTRINGS の ERRORBYTE オプションを使用している)。
- 16 形式例外 (たとえば、無効な MIXED データ)。
- 20 変換プロシージャ・エラー (たとえば、z/OS サーバー上の出口でStringの長さ制御フィールドが無効な値に設定された)。
- 24 wchar_t host 変数に含まれるStringで 1 バイト文字が見つかった。

reason-code が 12 の場合、code-point は無効なコード・ポイントです。それ以外の場合、code-point はブランクまたは出口から戻された追加の理由コードのどちらかです。Stringが入力ホスト変数の値である場合、position-number は SQLDA 内の変数の順序を表しま

SQL0332N

す。ストリングがホスト変数の値ではない場合、`position-number` はブランクです。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 理由コードに基づいて、以下のいずれかアクションを行ってください。

- 8 ストリング変換時に生じる拡張を見越して、ホスト変数の最大長を拡張してください。
- 12 変換表を変更してコード・ポイントを受け入れるか、またはデータを変更してコード・ポイントを除去します。
- 16 ストリングが MIXED データとして記述されている場合は、その記述を変更するか、または整形形式混合データの規則に準拠するストリングに変更します。
- 20 変換プロシージャを訂正してください。
- 24 グラフィック・ストリングから 1 バイト文字を削除してください。

sqlcode: -330

sqlstate: 22021

SQL0332N ソース・コード・ページ *source-code-page* からターゲット・コード・ページ *target-code-page* への文字変換はサポートされていません。

説明: *source-code-page* と *target-code-page* との間のコード・ページ変換はないため、操作は失敗しました。これは、以下のいずれかが理由である可能性があります。

1. ソース・コード・ページとターゲット・コード・ページの文字リポジトリが非互換であるため、ソース・コード・ページとターゲット・コード・ページとの間の変換時に、文字の消失および破損が引き起こされる可能性があります。
2. この特定のコード・ページ変換はサポートされていません。

このエラーの原因として考えられる操作には、以下が含まれます。

- クライアントのコード・ページがデータベース・コード・ページと異なる場合に、クライアントをデータベースに接続する。
- クライアントのコード・ページがデータベース・コード・ページと異なる場合に、SQL ステートメントを実行する。
- ファイルのコード・ページがデータベース・コード・ページと異なる場合に、IXF ファイルをインポートまたはエクスポートする。

- フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: データ・ソースは指定されたコード・ページ変換をサポートしません。

ユーザーの処置:

1. ソースとターゲットのコード・ページに互換性を持たせてください。サポートされる DB2 コード・ページの互換性については、DB2 インフォメーション・センター (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2luw/v9>) から、「コード・セットのテリトリー・コード」という句を使用して検索してください。クライアントのコード・ページを、データベース・コード・ページと互換性があるように設定するには、以下のようになります。
 - UNIX プラットフォーム上で、LANG、LC_CTYPE、または LC_ALL 環境変数を、データベース・コード・ページと互換性があるコード・ページを持つロケールに設定します。有効なロケール名およびそれぞれに関連したコード・ページについては、プラットフォームの資料を参照してください。
 - Windows プラットフォーム上では、DB2CODEPAGE レジストリー変数を設定して、クライアントのコード・ページをデータベース・コード・ページと互換性がある値でオーバーライドします。
2. データベース・マネージャーのコード・ページのサポートについては、DB2 インフォメーション・センター (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2luw/v9>) から、「コード・セットのテリトリー・コード」という句を使用して検索してください。フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合は、データ・ソースのコード・ページについて「連合システム・ガイド」を参照してください。ソースとターゲットのコード・ページに互換性がある場合、現在のところ DB2 はこの特定のコード・ページの変換をサポートしません。そのようなサポートが追加可能かどうかについては、技術サービス担当者にお問い合わせください。

DB2 UDB for System i ユーザーは、CCSID 65535 がある文字列またはグラフィック列はサポートされないことに注意してください。CCSID 65535 がある文字列またはグラフィック列は、DB2 Connect を使用してアクセスする前に、サポートされる CCSID に (CAST を使用して) 変換する必要があります。

sqlcode: -332

sqlstate: 57017

SQL0334N コード・ページ *source* からコード・ページ *target* への変換中にオーバーフローが発生しました。ターゲット域の最大サイズは、*max-len* でした。ソース・ストリングの長さは *source-len* で、その 16 進数表記は *string* でした。

説明: SQL ステートメントの実行中に、コード・ページ変換処理の結果が、ターゲット・オブジェクトの最大サイズより大きなストリングになりました。

ユーザーの処置: 以下を行って、状況に応じて、オーバーフロー条件が発生しないようにデータを修正してください。

- ソース・ストリングの長さを短くするか、あるいはターゲット・オブジェクトのサイズを大きくしてください (このリストに続いて記載された注を参照してください)。
- 操作を変えてください。
- 暗号化されたデータ値を暗号化解除関数で使用する前に、バイト数のより多い VARCHAR ストリングにキャストしてください。
- アプリケーション・コード・ページとデータベース・コード・ページが同じであることを確認してください。同じであれば、ほとんどの接続でコード・ページ変換は必要なくなります。

注: 文字変換の一部として文字または GRAPHIC ストリングのデータ・タイプの自動プロモーションが行われることはありません。結果のストリングの長さがソース・ストリングのデータ・タイプの最大長を超えた場合には、オーバーフローが発生します。この状況を訂正するには、ソース・ストリングのデータ・タイプを変更するか、または変換してストリング長を長くするためにデータ・タイプをキャストします。

sqlcode: -334

sqlstate: 22524

SQL0336N 10 進数の位取りをゼロにする必要があります。

説明: 10 進数は、位取りがゼロでなければならないコンテキストにおいて使用されます。これは、10 進数が START WITH、INCREMENT、MINVALUE、MAXVALUE、または RESTART WITH の CREATE または ALTER SEQUENCE ステートメントで指定されたときに発生します。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 10 進数の区切り文字の右側にある、ゼロ以外の数字を除去してください。

sqlcode: -336

sqlstate: 428FA

SQL0338N JOIN 演算子または MERGE ステートメントに関連付けられている ON 節が無効です。

説明: JOIN 演算子または MERGE ステートメントに関連した ON 節が、次の理由の 1 つのため、有効ではありません。

- ON 節には副照会を組み込むことはできません。
- ON 分節内の列参照は、ON 節の範囲内にある表の列のみを参照しています。
- スカラー全選択は、ON 節の式では使用できません。
- 全外部結合の ON 節で参照される関数は決定的なものであり外部アクションは不要です。
- 間接参照操作 (->) は使用できません。
- SQL 関数または SQL メソッドを使用できません。
- ON 節に XMLQUERY または XMLEXISTS 式を組み込むことはできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ON 節を訂正して、該当する列を参照するか、または他の副照会あるいはスカラー全選択を削除してください。間接参照操作、SQL 関数、または SQL メソッドを ON 節から除去してください。

全外部結合を使用する場合には、ON 節のすべての関数が決定的なもので外部アクションが必要のないことを確認してください。

sqlcode: -338

sqlstate: 42972

SQL0340N 共通表式 *name* が、同じステートメント内の共通表式定義の他のオカレンスと同じ ID を持っています。

説明: 共通表式名 *name* が、ステートメントの複数の共通表式の定義で使用されています。共通表式の記述に使用される名前は、同じステートメント内でユニークでなければなりません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 共通表式のいずれかの名前を変更してください。

sqlcode: -340

sqlstate: 42726

SQL0341N 共通表式 *name1* と *name2* の間に、循環参照が存在しています。

説明: 共通表式 *name1* が全選択内の FROM 節の *name2* を参照し、*name2* が全選択内の FROM 節の *name1* を参照しています。上記の形態の循環参照は許されていません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: いずれかの共通表式から循環参照を取り除いてください。

sqlcode: -341

sqlstate: 42835

SQL0342N 共通表式 *name* が再帰的なため、SELECT DISTINCT は使用できず、UNION ALL を使用する必要があります。

説明: 上記について、以下の 2 つの説明が考えられます。

- 共通表式が再帰的なため、共通表式 *name* 内の全選択は、SELECT DISTINCT で開始することができません。
- 共通表式 *name* 内の全選択が、再帰的な共通表式に必要な UNION ALL の代わりに、UNION を指定しています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: キーワード DISTINCT を共通表式から取り除いて、UNION の後にキーワード ALL を追加するか、または共通表式内の再帰参照を取り除いてください。

sqlcode: -342

sqlstate: 42925

SQL0343N 再帰共通表式 *name* には、列名が必要です。

説明: 再帰共通表式 *name* は、共通表式の ID の後に列名を指定する必要があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 共通表式の ID の後に、列名を追加してください。

sqlcode: -343

sqlstate: 42908

SQL0344N 再帰共通表式 *name* には、列 *column-name* に適合しないデータ・タイプ、長さ、コード・ページがあります。

説明: 再帰共通表式 *name* が、共通表式の繰り返し全選択で参照される列 *column-name* を持っています。データ・タイプ、長さ、およびコード・ページは、この列の初期化全選択にもとづいて設定されます。繰り返し全選択の列 *column-name* に対する式の結果が、その列に値を割り当てない可能性がある異なるデータ・タイプ、長さ、またはコード・ページになりました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 再帰共通表式的全選択で使用している列を、初期化列が繰り返し列と一致するように修正してください。

sqlcode: -344

sqlstate: 42825

SQL0345N 再帰的共通表式 *name* の全選択は、2 つ以上の全選択の UNION でなければならず、列関数、GROUP BY 節、HAVING 節、ORDER BY 節、または ON 節を含む明示的な結合を含むことはできません。

説明: 共通表式 *name* に、それ自体に対する参照が入っているため、以下のようになります。

- 2 つ以上の全選択の合併でなければなりません。
- GROUP BY 節を組み込むことはできません。
- 列関数を持つことはできません。
- HAVING 節を組み込むことはできません。
- 繰り返し全選択に ORDER BY 節を含むことはできません。
- ON 節との明示的な結合を組み込むことはできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 以下のように共通表式を変更してください。

- 2 つ以上の全選択の合併を作成する。
- 一部の列関数、GROUP BY 節、HAVING 節、ORDER BY 節、または ON 節を含む明示的な結合を除去する。
- 再帰参照を取り除く。

sqlcode: -345

sqlstate: 42836

SQL0346N 同じ FROM 節、または副照会の FROM 節に 2 回目のオカレンスがあるため、共通表式 *name* に対する無効な参照が最初的全選択で発生しました。

説明: 共通表式 *name* に、以下のいずれかによって記述されている、それ自体に対する無効な参照が入っています。

- UNION ALL セット演算子の前にある最初的全選択の再帰参照。最初的全選択は初期化でなければならず、再帰参照を組み込むことはできません。
- 同じ FROM 節の同じ共通表式に対する複数の参照。上記の参照は、再帰共通表式では許されていません。
- 副照会の FROM 節の再帰副照会。再帰循環は、副照会では定義できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを行ってください。

- 合併演算子の前にある全選択を、再帰参照を組み込まないように変更してください。
- 同じ共通表式に対する複数の参照の入った FROM 節を、ただ 1 つの参照に変更してください。
- 副照会の FROM 節を、共通表式を参照しないように変更してください。

sqlcode: -346

sqlstate: 42836

SQL0347W 再帰共通表式 *name* に、無限ループが含まれている可能性があります。

説明: *name* という名前の再帰共通表式が、完了しない可能性があります。この警告は、再帰共通表式の繰り返し部分の一部として、特定の構文が見つけれられないことに基づいています。予期されている構文は、以下のとおりです。

- 繰り返し選択リストの INTEGER 列の 1 ずつの増加
- "counter_col < constant" または "counter_col < :hostvar" 形式の繰り返し部分の節の WHERE 節の述部。

再帰共通表式にこの構文がないため、結果として無限ループになる可能性があります。再帰共通表式のデータまたは他の特性のおかげで、ステートメントが正常に完了する場合があります。

ユーザーの処置: 無限ループを避けるには、上記の構文を組み込んでください。

sqlcode: +347

sqlstate: 01605

SQL0348N *sequence-expression* はこのコンテキストでは指定できません。

説明: ステートメントに、無効なコンテキストで NEXT VALUE 式または PREVIOUS VALUE 式が入っています。以下のコンテキストには、NEXT VALUE 式および PREVIOUS VALUE 式を指定できません。

- 完全外部結合の結合条件
- CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメント内の列の DEFAULT 値
- CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメント内の生成された列定義
- CHECK 制約の条件
- CREATE TRIGGER ステートメント (NEXT VALUE 式が指定される可能性があります、PREVIOUS VALUE 式は指定されません)
- CREATE VIEW ステートメント、CREATE METHOD ステートメントまたは CREATE FUNCTION ステートメント

以下のコンテキストには、NEXT VALUE 式を指定できません。

- CASE 式
- 総計関数の引数リスト
- INSERT、UPDATE または VALUES INTO ステートメントの全選択を除く副照会
- 外部 SELECT に DISTINCT 演算子を備えた SELECT ステートメント
- 外部 SELECT に GROUP BY 節を備えた SELECT ステートメント
- 結合の結合条件
- 外部 SELECT ステートメントが、UNION、INTERSECT、または EXCEPT セット演算子を使用する別の SELECT ステートメントと結合した SELECT ステートメント
- ネストされた表の式
- 表関数の引数リスト
- XMLTABLE、XMLQUERY、または XMLEXISTS 式の引数リスト
- 最外部の SELECT ステートメント、DELETE、または UPDATE ステートメントの WHERE 節
- 最外部の SELECT ステートメントの ORDER BY 節
- UPDATE ステートメントの SET 節における、式的全選択の SELECT 節
- SQL ルーチンにおける IF、WHILE、DO...UNTIL、または CASE ステートメント

SQL0349N

- CONNECT_BY_ROOT 演算子および SYS_CONNECT_BY_PATH 関数の引数リスト
- START WITH および CONNECT BY 節

ステートメントは実行できません。

ユーザーの処置: シーケンス式への参照を除去して、ステートメントを再サブミットしてください。

sqlcode: -348

sqlstate: 428F9

SQL0349N 位置 *column-position* にある列の **NEXT VALUE** 式の指定は、すべての行の同じ列の他のすべての式の指定に一致していなければなりません。

説明: 複数行 INSERT ステートメントの VALUE 節または VALUE 式の位置 *column-position* にある列に指定された式に、NEXT VALUE 式が入っています。NEXT VALUE 式の入った式がこれらのいずれかにある列の値を指定するために使用されているとき、その同じ式がすべての行のその列に指定されていなければなりません。たとえば、以下の INSERT ステートメントは正常に処理されます。

```
INSERT INTO T1
VALUES(
  NEXT VALUE FOR sequence1 + 5, 'a'
),
(
  NEXT VALUE FOR sequence1 + 5, 'b'
),
(
  NEXT VALUE FOR sequence1 + 5, 'c'
)
```

ただし、以下の INSERT ステートメントは失敗します。

```
INSERT INTO T1
VALUES(
  NEXT VALUE FOR sequence1 + 5, 'a'
),
(
  NEXT VALUE FOR sequence1 + 5, 'b'
),
(
  NEXT VALUE FOR sequence1 + 4, 'c'
)
```

ユーザーの処置: 構文を訂正して、ステートメントを再サブミットしてください。

sqlcode: -349

sqlstate: 560B7

SQL0350N 列のデータ・タイプがサポートされないコンテキストで、列 *column-name* が暗黙的または明示的に参照されました。

説明: 以下のいずれかの理由で、ALTER ステートメント、CREATE ステートメント、または DECLARE GLOBAL TEMPORARY TABLE ステートメントが無効です。

- LOB、LONG VARCHAR、LONG VARGRAPHIC、XML、または構造化タイプの列は、キーでは使用できません。
- LOB、LONG VARCHAR、LONG VARGRAPHIC、XML、または構造化タイプの列は、ユニーク制約では使用できません。
- LOB、LONG VARCHAR、LONG VARGRAPHIC、XML、または構造化タイプの列は、生成された列では使用できません。
- LONG VARCHAR、LONG VARGRAPHIC、SYSPROC.DB2SECURITYLABEL、XML、または構造化タイプの列は、作成済み一時表では使用できません。
- LONG VARCHAR、LONG VARGRAPHIC、SYSPROC.DB2SECURITYLABEL、または構造化タイプの列は、宣言済み一時表では使用できません。
- LOB 列は索引定義では使用できません。
- XML 列のほかに列がなく、XMLPATTERN 節が指定されている場合にのみ、索引定義で XML 列を使用できます。
- 構造化タイプ列のほかに列がなく、関連する索引拡張子が指定されている場合にのみ、索引定義で構造化タイプ列を使用できます。
- 列マスクまたは行の許可の定義が LOB 列および XML 列を参照できません。
- LOB 列または XML 列について列マスクを定義できません。

また、基本データ・タイプが上記リストのいずれかの制約を受けるような特殊タイプ列にも、同じ制限が適用されます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: データ・タイプがサポートされないコンテキストから列を除去するか、列のデータ・タイプを変更します。XML 列または構造化タイプ列を索引付けする場合は、そのほかに列がなく、索引定義に適切な節が組み込まれていることを確認してください。

sqlcode: -350

sqlstate: 42962

SQL0351N サポートされていない **SQLTYPE** が出力
SQLDA (選択リスト) の位置
position-number で検出されました。

説明: 位置 *position-number* の **SQLDA** のエレメントは、アプリケーション・リクエスターまたはアプリケーション・サーバーがサポートしないデータ・タイプのためのもので、アプリケーションが **SQLDA** ディレクトリを使用していない場合は、*position-number* は選択リストまたは **CALL** ステートメントのパラメーターのエレメントの位置を表します。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメントを変更して、サポートされていないデータ・タイプを除去してください。**SELECT** ステートメントについては、サポートされていないデータ・タイプを持つ選択リスト内の列の名前を除去するか、または照会でキャストを使用して、サポートされているデータ・タイプに列をキャストしてください。

sqlcode: -351

sqlstate: 56084

SQL0352N サポートされていない **SQLTYPE** が入力
リスト (**SQLDA**) の位置 *position-number*
で検出されました。

説明: 位置 *position-number* の **SQLDA** のエレメントは、アプリケーション・リクエスターまたはアプリケーション・サーバーがサポートしないデータ・タイプのためのもので、アプリケーションが **SQLDA** ディレクトリを使用していない場合は、*position-number* は入力ホスト変数、パラメーター・マーカー、または **CALL** ステートメントのパラメーターの位置を表します。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメントを変更して、サポートされていないデータ・タイプを除去してください。

sqlcode: -352

sqlstate: 56084

SQL0355N 定義されている列 *column-name* が、ログ
に記録するには大きすぎます。

説明: ラージ・オブジェクト・データ・タイプ (**BLOB**、**CLOB**、**DBCLOB**) は、最大 2 ギガバイト (2,147,483,647 バイト) のサイズで作成される可能性があります。データ値のロギングは、サイズが 1 ギガバイト (1,073,741,823 バイト) 以下のオブジェクトに対してのみ許されています。したがって、サイズが 1 ギガ

バイトを超えるラージ・オブジェクトは、ログに記録することができません。

ユーザーの処置: 列の作成中に **NOT LOGGED** 句を使用して、明示的にデータのロギングが必要ないことを示すか、または列の最大サイズを 1 ギガバイトまたはそれ以下まで減らしてください。

sqlcode: -355

sqlstate: 42993

SQL0359N **ID** 列またはシーケンスで値の範囲がいつ
ばいになっています。

説明: **DB2** は **ID** 列またはシーケンス・オブジェクトに値を生成しようとしたが、すでにすべての許容できる値が割り当てられています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: **ID** 列の場合、**ID** 列の値の範囲を大きくして、表を再定義してください。値の範囲が列のデータ・タイプの範囲より小さくなるように制限する **MAXVALUE** または **MINVALUE** が指定されている場合、列を変更して有効値の範囲を拡張できます。これを行わない場合、**ID** 列を再作成する必要がありますが、そのためには表を再作成しなければなりません。最初に既存の表をドロップして、**ID** 列に異なるデータ・タイプを指定して表を再作成します。**ID** 列の現在のデータ・タイプより大きい値の範囲を持つデータ・タイプを指定してください。

シーケンス・オブジェクトの場合、値の範囲を大きくしてシーケンスを再定義してください。**MAXVALUE** または **MINVALUE** 節によって値の範囲がシーケンス・オブジェクトのデータ・タイプの範囲よりも小さくなるように制限されている場合、シーケンスを変更して有効値の範囲を拡張してください。これを行わない場合、シーケンス・オブジェクトをドロップし、より大きな値の範囲を許可するデータ・タイプを指定して **CREATE SEQUENCE** ステートメントを再発行してください。

sqlcode: -359

sqlstate: 23522

SQL0360W 表 *table-name* がデータ・リンク調整ペン
ディング (**DRP**) またはデータ・リンク調
整不可 (**DRNP**) 状態にあるため、
DATALINK 値が無効である可能性があります。

説明: 表がデータ・リンク調整ペンディング (**DRP**) またはデータ・リンク調整不可 (**DRNP**) 状態にあるため、表 *table-name* の **DATALINK** 値が無効である可能性があります。これらのいずれかの状態にある間は、**DB2**

SQL0361W

Data Links Manager でのファイルの制御は保証されません。

ステートメント処理が続行しています。

ユーザーの処置: データ・リンク調整ペンディング (DRP) およびデータ・リンク調整不可能 (DRNP) 状態で該当するアクションを取るための情報については、管理ガイドを参照してください。

sqlcode: +360

sqlstate: 01627

SQL0361W 操作は正常に実行されましたが、部分的に操作が失敗しました。操作 *msg-token3* に関する詳細がトークン *msg-token1* および *msg-token2* に示されています。

説明: 指定された操作は部分的に正常に完了しましたが、操作のいくつかの部分が失敗しました。

ユーザーの処置: 操作 *msg-token3* に応じて、取るべきアクションを次のように判別します:

SYSPROC.ADMIN_REVALIDATE_DB_OBJECTS - 妥当性再検査するよう指定されたいくつかのオブジェクトを正常に妥当性再検査できませんでした。理由: これらのオブジェクトで参照される少なくとも 1 つのオブジェクトが存在しないか、引き続き無効です。妥当性再検査されていない 1 つのオブジェクトは *msg-token1*、それが参照するオブジェクトは *msg-token2* です。妥当性再検査が完了していないオブジェクトを妥当性再検査する必要がある場合には、存在すべきオブジェクトをすべて作成してください。また、妥当性再検査されるオブジェクトによって参照される、引き続き無効なオブジェクトをすべて修正してください。無効なオブジェクトについての情報は SYSCAT.INVALIDOBJECTS カタログ・ビューに含まれています。*msg-token1* が許可またはマスクのオブジェクトを参照し、*msg-token2* に CREATE PERMISSION または CREATE MASK が含まれる場合、ADMIN_REVALIDATE_DB_OBJECTS を実行するユーザーに SECADM 権限があることを確認してください。

sqlcode: +361

sqlstate: 0168B

SQL0364W *operation* 操作中に、DECFLOAT 例外 *exception-type* が生じました。

説明: *operation-type* 操作をデータ・タイプが DECFLOAT のフィールドに対して行うときに、例外 *exception-type* が生じました。算術式の処理中に例外が生じました。

考えられる *exception-type* の値は、以下のとおりです。

- アンダーフロー例外を示す UNDERFLOW
- オーバーフロー例外を示す OVERFLOW
- 不正確な例外を示す INEXACT
- 無効演算例外を示す INVALID OPERATION
- ゼロによる除算の例外を示す DIVISION BY ZERO

考えられる *operation-type* の値は、以下のとおりです。

- 加算演算を示す ADDITION
- 減算演算を示す SUBTRACTION
- 乗算演算を示す MULTIPLICATION
- 除算演算を示す DIVISION
- 否定演算を示す NEGATION
- 組み込み関数演算を示す BUILT-IN FUNCTION

DECFLOAT 例外は、演算のために DECFLOAT に変換されたデータの一時的な内部コピーによって生じることがあります。

組み込み関数の処理中に、どの例外も生じる可能性があります。*operation-type* が FUNCTION の場合、入力、中間、または最終値の処理中に例外が生じています。その原因として、パラメーターの値が範囲外であった可能性があります。

ステートメント処理が続行しています。

ユーザーの処置: この警告が戻されないようにするには、警告の出された式を検討して、例外の原因、または原因の可能性が高い要素を調べてください。例外はデータ依存であることがあり、その場合には警告の発生時に処理されていたデータを検討する必要があります。DECFLOAT 値のサポートされる範囲については、「SQL リファレンス」を参照してください。

sqlcode: +364

sqlstate: 0168C

sqlstate: 0168D

sqlstate: 0168E

sqlstate: 0168F

SQL0365N 位置 *position* にある拡張標識変数値が無効です。

説明: 位置 *position* の拡張標識変数に関して、デフォルト値 (-5) または未割り当て値 (-7) が使用されました。このコンテキストでは、これらの値は許可されません。これらの値が許可されるのは、INSERT、UPDATE、および MERGE ステートメントにおいて列値のソースとして使用する場合だけです。デフォルト値または未割り当て値を表すホスト変数あるいは

パラメーター・マーカーを式で使用することはできません。ただし、単一の変数、または単一の変数の CAST として使用する場合は例外です。

また、以下の場合には、拡張標識変数にデフォルト値 (-5) または未割り当て値 (-7) を使用することはできません。

- 値の行を複数指定する VALUES 節の場合
- ニックネームの更新、またはニックネームへの挿入を行っている INSERT、UPDATE、または MERGE ステートメントの場合

position が 0 の場合、拡張標識サポートにおいて不一致が発生しています。動的に準備された UPDATE ステートメントで拡張標識サポートが明示的に有効/無効にされおらず、更新のターゲットとなる動的に準備された SELECT ステートメントに対して明示的に有効/無効にされた拡張標識サポートと、バインドまたはプリコンパイル用の拡張標識サポートの間に不一致がありました。

ユーザーの処置: 拡張標識変数の値を、それが使用されるコンテキストで許可されている値に変更してください。

position が 0 の場合、動的に準備された UPDATE ステートメントに関して拡張標識サポートを明示的に有効または無効にしてください。または、更新のターゲットとなる動的に準備された SELECT ステートメントに指定された拡張標識サポートが、バインドまたはプリコンパイル用の拡張標識サポートと同じであることを確認してください。

sqlcode: -365

sqlstate: 22539

SQL0368N DB2 Data Links Manager *dln-name* がデータベースに登録されていません。

説明: DB2 Data Links Manager *dln-name* がデータベースに登録されていません。データベース・マネージャー構成パラメーター DATALINK が NO に設定されている場合は、登録された DB2 Data Links Manager は無視されます。DB2 Data Links Manager は DROP DATALINKS MANAGER コマンドでドロップされた可能性があります。DB2 Data Links Manager が同じ名前でも新たに登録されていることが考えられます。この場合エラーは、その DB2 Data Links Manager の以前にドロップされた 1 つ以上の登録に関連しています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: データベース・マネージャー構成パラメーター DATALINK が YES に設定されていることを確認してください。以前にドロップされた DB2 Data Links Manager へのリンクである DATALINK 値を、調

整ユーティリティを使用してドロップする必要があります。詳細については、「コマンド・リファレンス」にある DROP DATALINKS MANAGER コマンドの使用上の注意を参照してください。

sqlcode: -368

sqlstate: 55022

SQL0370N 位置 *n* のパラメーターは、LANGUAGE SQL 関数 *name* の CREATE FUNCTION ステートメントで指定しなければなりません。

説明: LANGUAGE SQL で定義されたすべての関数パラメーターには、それぞれ *parameter-name* が必要です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 関数の各パラメーターにパラメーター名を組み込みます。

sqlcode: -370

sqlstate: 42601

SQL0372N ROWID、ID、セキュリティ・ラベル、行変更タイム・スタンプ、行開始、行終了、またはトランザクション開始 ID の列タイプは、1 つの表につき 1 回だけ指定できます。

説明: 以下のいずれかを試みました。

- 複数の ID 列を持つ表を作成
- すでに 1 つの ID 列を持つ表に同じ列を追加
- 複数の ROWID 列を持つ表を作成
- すでに 1 つの ROWID 列を持つ表に同じ列を追加
- 複数のセキュリティ・ラベル列を持つ表を作成
- すでにセキュリティ・ラベル列を持つ表にもう 1 つ追加
- 複数の行変更タイム・スタンプ列を持つ表を作成
- 既に行変更タイム・スタンプ列を持つ表にもう 1 つ追加
- 複数の行開始列を持つ表を作成
- すでに行開始列を持つ表にもう 1 つ追加
- 複数の行終了列を持つ表を作成
- すでに行終了列を持つ表にもう 1 つ追加
- 複数のトランザクション開始 ID 列を持つ表を作成
- すでにトランザクション開始 ID 列を持つ表にもう 1 つ追加
- 1 つの表で期間を複数回定義

SQL0373N

ROWID データ・タイプは、DB2 for z/OS および DB2 for System i でサポートされています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: CREATE TABLE ステートメントの場合、指定された属性を表に対して 1 回だけ指定してください。ALTER TABLE ステートメントの場合は、表に対して指定された列はすでに存在します。1 つの表で期間を複数回定義しようとしないでください。

sqlcode: -372

sqlstate: 428C1

SQL0373N 列または SQL 変数 *name* に対して DEFAULT 節を指定できません。

説明: 列または SQL 変数 *name* の定義または変更時に DEFAULT 節が指定されました。列定義または SQL 変数宣言のデータ・タイプでは、DEFAULT はサポートされません。以下の項目を定義する場合に、CREATE または ALTER TABLE ステートメントで DEFAULT 節を使用することはできません。

- ID 列
- ROWID 列
- XML 列
- 行変更タイム・スタンプ列
- セキュリティー・ラベル列
- 行開始列
- 行終了列
- トランザクション開始 ID 列

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: DEFAULT 節を除去して、ステートメントを再サブミットしてください。

sqlcode: -373

sqlstate: 42623

SQL0374N LANGUAGE SQL 関数 *function-name* の CREATE ステートメントが *clause* 節で指定されていませんが、関数本体ではこの指定を要求しています。

説明: 次の状態がエラーの原因だと思われます:

LANGUAGE SQL を指定して定義された関数の本文で SQL データを変更する可能性がある場合、または SQL データを修正する可能性のある関数またはプロシージャを呼び出す場合は、MODIFIES SQL DATA を指定する必要があります。

LANGUAGE SQL を指定して定義された関数の本文に

副選択が入っている、または SQL データを読み取れる関数を呼び出す場合は、READ SQL DATA を指定しなければなりません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 節を指定するか、または関数本体を変更してください。

sqlcode: -374

sqlstate: 428C2

SQL0385W SQL ルーチンで SQLSTATE または SQLCODE 変数への割り当てが上書きされたと思われるため、ハンドラーをアクティブ化しません。

説明: 値を SQLSTATE または SQLCODE 特殊変数に割り当てているステートメントが少なくとも 1 つ、SQL ルーチンに入っています。これらの変数には、SQL ルーチンでの SQL ステートメントの処理によって値が割り当てられています。そのため、SQL ステートメント処理の結果、割り当てられている値が上書きされたと考えられます。さらに、SQLSTATE 特殊変数への値の割り当ては、どのハンドラーもアクティブ化しません。

ルーチン定義は正常に処理されました。

ユーザーの処置: 必要ありません。この警告が出されないようにするには、SQLSTATE または SQLCODE 特殊変数への割り当てを除去してください。

sqlcode: +385

sqlstate: 01643

SQL0388N 関数 *function-name* の CREATE CAST ステートメントでは、ソース *source-data-type-name* およびターゲット *target-data-type-name* の両方が組み込まれたタイプかまたは同じタイプです。

説明: データ・タイプのどちらかがユーザー定義のタイプでなければなりません。ソース・タイプおよびターゲット・タイプの両方が同じデータ・タイプであってはなりません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ソースまたはターゲットのデータ・タイプを変更してください。

sqlcode: -388

sqlstate: 428DF

SQL0389N CREATE CAST ステートメントで識別された特定の関数インスタンス *specific-name* は、複数のパラメーターがあるか、ソース・データ・タイプと一致しないパラメーターがあるか、またはターゲットと一致しないデータ・タイプを戻しません。

説明: cast 関数には、

- 1 つのパラメーターがなければなりません。
- パラメーターのデータ・タイプがソース・データ・タイプと同じでなければなりません。
- 結果データ・タイプはターゲット・データ・タイプと同じでなければなりません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 別の関数を選択するか、またはソース・データ・タイプまたはターゲット・データ・タイプを変更してください。

sqlcode: -389

sqlstate: 428DG

SQL0390N 関数 *function-name* は、使用されているコンテキストの中では無効な特定の関数 *specific-name* に解決されました。

説明: 関数は、使用されているコンテキストの中で無効な特定の関数に解決されました。 *specific-name* が空ストリングの場合、関数は *function-name* で示される組み込み関数に解決されます。以下のリストでは、このメッセージが返される可能性のある状態の一部を示します。

- 特定の関数は、(ソース派生スカラー関数を作成するような) スカラー、列、あるいは行関数のみが予想される表関数です。
- 特定の関数は、(照会の FROM 節内のような) 表関数のみが予想されるスカラー、列、あるいは行関数です。
- 特定の関数は、スカラーあるいは列関数のみが予想される行関数です。
- 特定の関数は、制限されたコンテキスト内でのみ許可されていますが、関数に許可されていないコンテキストで参照されています。関数の説明で、関数が許可されているコンテキストが指定されています。
- 指定された関数に OUT または INOUT パラメーターが含まれています。この関数を使用されているコンテキストはサポートされていません。関数呼び出しが、コンパウンド SQL (コンパイル済み) ステートメント

内の SET 変数のステートメントの右側で唯一の式である場合にのみ、コンパイル済み関数を呼び出すことができます。

- 指定された関数はコンパイル済み SQL 関数です。この関数が使用されているコンテキストはパーティション・データベース環境ではサポートされていません。関数呼び出しが、コンパウンド SQL (インライン) ステートメント内ではない SET 変数ステートメントの右側で唯一の式である場合にのみ、コンパイル済み関数をパーティション・データベース環境で呼び出すことができます。
- 指定された関数は汎用表関数ですが、型付き相関節が指定されませんでした。
- 指定された関数は汎用表関数ではありませんが、型付き相関節が指定されました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 正しい関数名および引数が指定されていることと、現行パスに正しい関数が定義されているスキーマが入っていることを確認してください。関数名、現行パス (SET CURRENT FUNCTION PATH または FUNCPATH BIND オプション使用) を変更するか、あるいは関数を使用されているコンテキストを変更する必要があるかもしれません。

sqlcode: -390

sqlstate: 42887

SQL0391N 関数 *function-name* に基づいた行の使用が無効です。

説明: ステートメントは、次の理由のいずれか 1 つから、使用できない行ベースの関数 *function_name* を使用しています。

- 関数は GROUP BY または HAVING 節で使用されますが、選択リストには入っていません。
- 関数は、ステートメントの再帰的本質のため、このコンテキストで使用されません。
- 関数は、チェック制約で使用されません。
- 関数は、生成された列で使用されません。
- 関数は、WITH CHECK OPTION 節が指定されているビュー定義、または WITH CHECK OPTION 節を指定するようなビューに従属するビューでは使用されません。
- 関数には、基本表の行に解決されない引数があります。これは、NULL 生成行が可能な外部結合の結果列を伴う状態が含まれます。
- この関数は複製されたマテリアライズ照会表の行では使用できません。

SQL0392N

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: *function-name* が使用できないコンテキストから、これを除去してください。

sqlcode: -391

sqlstate: 42881

SQL0392N カーソル *cursor* に提供される **SQLDA** が、以前のフェッチ以降に変更されていません。

説明: アプリケーションが **DB2 規則** で実行されており、1 つの **FETCH** ステートメントの **LOB** として、また他の **FETCH** ステートメントのロケータとして **LOB** データを返すことを要求しています。これは許されていません。

ユーザーの処置: ステートメントは実行できません。

DB2 規則 を使用しないようにするか、または連続したフェッチ間で **LOB** から **SQLDA** のロケータへの (またはその逆の) データ・タイプ・コードの変更を行わないように、アプリケーションを変更してください。

sqlcode: -392

sqlstate: 42855

SQL0396N *Object-type object-name (特定名 specific-name)* が最終呼び出し処理中に、**SQL** ステートメントを実行しようとした。

説明: ルーチン *object-name* (特定名 *specific-name*) が **FINAL CALL** (呼び出しタイプ = 255) 処理中に、(カーソルの **CLOSE** 以外の) **SQL** ステートメントを実行しようとした。これは許可されません。

ユーザーの処置: **FINAL CALL** (呼び出しタイプ = 255) 処理中に **SQL** ステートメントを発行しないよう、ルーチンを変更してください。

sqlcode: -396

sqlstate: 38505

SQL0401N 演算 *operator* のオペランドのデータ・タイプが非互換または比較不能です。

説明: 以下のいずれかの理由で、*operator* を使用する操作を処理できません。

- オペランドのデータ・タイプは比較可能かつ互換でなければならないが、比較不能または互換性のないタイプの対が少なくとも 1 つある。
- オペランドのデータ・タイプが (それ自身またはその他のタイプと) 比較できない **XML** である。

- オペランドのデータ・タイプが (それ自身またはその他のタイプと) 比較できない **DATALINK** である。
- オペランドのデータ・タイプが (それ自身またはその他のタイプと) 比較できない構造化タイプである。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: このデータ・タイプ違反は、データ・ソースまたはフェデレーテッド・サーバーで発生した可能性があります。

一部のデータ・ソースは、*operator* に適切な値を提供しません。この場合、メッセージ・トークンは「<data-source>:UNKNOWN」のフォーマットになります。これは、指定されたデータ・ソースの実際の値が不明であることを示します。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: すべてのオペランドのデータ・タイプをチェックして、データ・タイプが比較可能であること、およびステートメント内の使用方法に互換性があることを確認してください。

SQL ステートメントのオペランドがすべて正しく、しかもビューにアクセスしている場合には、ビューのすべてのオペランドのデータ・タイプをチェックしてください。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 理由が不明な場合には、問題を切り分けて要求失敗の原因となったデータ・ソースを突き止め、そのデータ・ソースのデータ・タイプ制限を調べてください。

sqlcode: -401

sqlstate: 42818

SQL0402N 算術関数または演算 *operator* のオペランドのデータ・タイプが無効です。

説明: 無効なオペランドが、算術関数または演算子 *operator* に対して指定されています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: **SQL** ステートメントの構文を調べ、指定された関数または演算子のすべてのオペランドが有効となるように修正してください。

有効なオペランドは数値であるか、数値データ・タイプに暗黙的にキャスト可能です。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 理由が不明な場合には、問題を切り分けて要求失敗の原因となったデータ・ソースを突き止め、そのデータ・ソースに適用される演算子を調べてください。

sqlcode: -402

sqlstate: 42819


```
AND C.COLNO = n3
AND C.TABSCHEMA = T.TABSCHEMA
AND C.TABNAME = T.TABNAME
```

この照会で識別される表および列は、SQL ステートメントに障害があったビューの基本表だと考えられます。

表変更ステートメントの一部としてエラーが戻されると、列を NOT NULL に設定中である場合は、NULL 値を含む列のすべての行データを変更して、ステートメントを再試行してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 理由が不明な場合には、問題を切り分けて要求失敗の原因となったデータ・ソースを突き止め、そのデータ・ソースのオブジェクト定義を調べてください。デフォルト (NULL および NOT NULL) はデータ・ソースの間で同じである必要はないことに注意してください。

sqlcode: -407

sqlstate: 23502

SQL0408N 値には、その割り当てターゲットのデータ・タイプとの互換性がありません。ターゲット名は *name* です。

説明: SQL ステートメントによって列、パラメータ、SQL 変数、または遷移変数に割り当てられる値のデータ・タイプに、その割り当てターゲットの宣言されたデータ・タイプとの互換性がありません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメント (およびターゲット表またはビュー) を調べて、ターゲット・データ・タイプを判別してください。割り当てられている変数、式、またはリテラル値が割り当てターゲットとして正しいデータ・タイプであることを確認してください。

ユーザー定義の構造化タイプの場合、ステートメントに対するトランスフォーム・グループで定義された TO SQL トランスフォーム関数のパラメーターを、割り当て済みターゲットとしても考慮してください。

sqlcode: -408

sqlstate: 42821

SQL0409N COUNT 関数のオペランドが無効です。

説明: SQL ステートメントに指定されているような、COUNT 関数のオペランドは SQL 構文の規則に適合しません。COUNT(*) および COUNT(DISTINCT *column*) だけが許可されます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: COUNT(*) または COUNT(DISTINCT *column*) を指定します。

注: このメッセージは、バージョン 2 以前の DB2 のバージョンにのみ適用されます。

sqlcode: -409

sqlstate: 42607

SQL0410N 数値 *value* が長すぎます。

説明: 指定した値は長すぎます。浮動小数点ストリングの最大長は 30 文字です。10 進浮動小数点ストリングの最大長は 42 文字です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 指定したリテラルを短くしてください。

sqlcode: -410

sqlstate: 42820

SQL0412N 1 つの列しか許可されていない副照会から複数の列が返されました。

説明: SQL ステートメントのコンテキストでは、結果として 1 つの列だけを持つよう全選択が指定されています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: スカラー全選択が 1 つだけ許可されている場合は、1 つの列だけを指定してください。

sqlcode: -412

sqlstate: 42823

SQL0413N 数値データ・タイプの変換中にオーバーフローが発生しました。

説明: SQL ステートメントの処理中、ある数値タイプのデータを別のタイプへ変換するときにオーバーフローが発生しました。数値変換は SQL の標準規則に従って実行されます。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 数値変換は、フェデレーテッド・サーバー、データ・ソース、またはその両方で発生する可能性があります。

ステートメントは処理できません。データの検索、更新、または削除は実行されませんでした。

ユーザーの処置: SQL ステートメントの構文を調べて、エラーの原因を判別してください。問題がデータに依存する場合は、エラーが発生した時点で処理されていたデータを調べる必要があります。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 理由が

SQL0415N

不明な場合には、問題を切り分けて要求失敗の原因となったデータ・ソースを突き止め、そのデータ・ソースのデータ範囲制限を調べてください。

sqlcode: -413

sqlstate: 22003

SQL0415N 対応する列のデータ・タイプは、セット演算子を含む全選択または、INSERT または全選択の VALUES 節の複数行に互換性がありません。

説明: このエラーが発生する可能性のあるステートメントはたくさんあります。

- このエラーは、セット演算 (UNION、INTERSECT、または EXCEPT) の入った SELECT または VALUES ステートメント内で発生する可能性があります。SELECT または VALUES ステートメントを作成する副選択または全選択の対応する列は、互換性がありません。
- このエラーは、複数行に挿入している INSERT ステートメント内で発生する可能性があります。この場合、VALUES 節内で指定された行の対応する列は、互換性がありません。
- このエラーは、複数行を伴い使用される VALUES 節がある SELECT または VALUES ステートメント内で発生する可能性があります。この場合、VALUES 節内で指定された行の対応する列は、互換性がありません。

これは、配列コンストラクターで発生する可能性があります。コンストラクター内にリストされた 2 つの値のデータ・タイプに互換性がない場合です。

データ・タイプの互換性について、詳しくは SQL リファレンスの『割り当てと比較』を参照してください。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: SELECT ステートメントで使用される列名または VALUES 節の式を訂正し、対応するすべての列が互換タイプになるようにしてください。

sqlcode: -415

sqlstate: 42825

SQL0416N UNION ALL 以外のセット演算子で接続された SELECT または VALUES ステートメントには、254 バイトを超える結果列を指定できません。

説明: セット演算子で接続された SELECT または VALUES ステートメントのいずれかが、254 バイトより

長い結果列を指定しています。254 バイトより長い VARCHAR または VARCHARIC 結果列は、UNION ALL セット演算子とのみ使用することができます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: UNION 演算子の代わりに、UNION ALL を使用するか、または 254 バイトより長い結果列を、SELECT または VALUES ステートメントから取り除いてください。

sqlcode: -416

sqlstate: 42907

SQL0417N 準備されたステートメント・ストリングに、同じ演算子のオペランドとしてパラメーター・マーカが含まれています。

説明: PREPARE または EXECUTE IMMEDIATE のオブジェクトとして指定されたステートメント・ストリングに、CAST 指定のない同一の演算子のオペランドとして使用されているパラメーター・マーカを持つ述部または式が含まれています。例えば:

? > ?

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: このような構文はサポートされていません。CAST 指定を使用して、少なくとも 1 つのパラメーター・マーカをデータ・タイプに指定してください。

sqlcode: -417

sqlstate: 42609

SQL0418N ステートメントで、無効な型なしパラメーター・マーカ、DEFAULT キーワード、または NULL 値が使用されていません。

説明: 型なしパラメーター・マーカ、DEFAULT キーワード、または型なし NULL 値 (型なし式) を次のような方法で使用することはできません。

- SELECT リスト内 (ただしステートメントでの使用のコンテキストに基づいてタイプを解決できる場合を除く)
- 日時の算術演算における唯一の引数として
- 場合によっては、スカラー関数の引数として
- GROUP BY 節内の独立した引数として
- OLAP 仕様の集約指定の PARTITION BY 節における独立した引数として
- OLAP 仕様の集約指定の ORDER BY 節における独立した引数として

- CASE 式のすべての結果式が型なしである場合
- 単純な CASE 式で、CASE キーワードの後に続く式が型なしであり、WHEN キーワードの後に続くすべての式が型なしである場合
- 列の生成式の結果が型なしである場合
- いくつかの異なるコンテキストで同じ型なし式が参照され、異なるデータ・タイプに解決される場合。例えば、次のような表の場合、

```
CREATE TABLE order (ordered INT,
                    amount DECIMAL(6,2)
                    desc VARCHAR(100))
```

以下の照会によって、1 つのパラメーター・マーカが別々のデータ・タイプに解決されます。

```
MERGE INTO order USING (VALUES (?,?))
AS x(a1,a2) ON (ordered=a1)
WHEN MATCHED THEN UPDATE
SET amount=a2, desc=a2;
```

- XMLQUERY、XMLEXISTS、または XMLTABLE 式の引数として
- UNNEST、CARDINALITY、MAX_CARDINALITY の引数として、または TRIM_ARRAY の最初の引数として。または配列エレメント指定での使用。
- NULLIF スカラー関数の両方の引数が型なしである場合
- 割り当てステートメントの右側のデータ・タイプを判別できないときに、左側で。
- コンテキストに基づいて型なし式を解決できない場合
- ビューに対する期間の指定または期間節の中で

パラメーター・マーカは、以下で使用することはできません。

- 準備されたステートメントではないステートメント内
- CREATE VIEW ステートメントの全選択内
- CREATE TRIGGER ステートメントのトリガー・アクション内

XQuery 関数 db2-fn:sqlquery の第 1 引数での PARAMETER 関数の参照も、パラメーター・マーカとみなされます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメントの構文を訂正してください。型なしパラメーター・マーカまたは型なし NULL 値が許可されない場合は、CAST 指定を使って型なし式にデータ・タイプを与えてください。DEFAULT が許可されない場合、値を指定してください。

sqlcode: -418

sqlstate: 42610

SQL0419N 結果の位取りが負になるため、10 進数の除算は無効です。

説明: 指定された 10 進除算は、結果の位取りが負の値になるために有効ではありません。

10 進除算の結果の位取りを計算するために内部的に使用される公式は、以下のとおりです。

$$\text{Scale of result} = 31 - np + ns - ds$$

ここで、np は分子の精度、ns は分子の位取り、ds は分母の位取りを表します。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 10 進数除法は、フェデレーテッド・サーバー、データ・ソース、またはその両方で発生する可能性があります。指定された 10 進数除法の結果は、そのデータ・ソースの位取りが無効になります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 10 進除算で使用される可能性のあるすべての列の精度と位取りを調べてください。整数または短整数は、計算のために 10 進数に変換される場合があることに注意してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 理由が不明な場合には、問題を切り分けて要求失敗の原因となったデータ・ソースを突き止め、そのデータ・ソースのデータ範囲制限を調べてください。

sqlcode: -419

sqlstate: 42911

SQL0420N 無効文字が、関数 *function-name* の文字ストリング引数で見つかりました。

説明: 関数 *function-name* が、数値 SQL 定数では無効な文字の入った文字ストリング引数を持っています。関数は、ターゲット・データ・タイプとして *function-name* を使った CAST 指定の結果として呼び出されたか、引数が暗黙的に数値データ・タイプにキャストされるような場合に呼び出された可能性があります。SQL ステートメントに使用された関数またはデータ・タイプが、*function-name* の同義語である可能性があります。

10 進文字を DECIMAL 関数に指定する場合は、それがデフォルト 10 進文字の代わりに使用する必要がある文字になります。

ユーザーの処置: 指定する場合は、数値タイプに変換される文字ストリングが、10 進文字を使用する数値 SQL 定数に有効な文字のみを備えていることを確認してください。

sqlcode: -420

SQL0421N

sqlstate: 22018

SQL0421N セット演算子のオペランドまたは VALUES 節が、列数と同じ数ではありません。

説明: UNION、EXCEPT、INTERSECT などのセット演算子のオペランドは、列数と同じ数でなければなりません。VALUES 節の行は、列数と同じ数を持つ必要があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを修正して、各オペランドまたは VALUES 節の各行が、列数とまったく同じ数を持つようにしてください。

sqlcode: -421

sqlstate: 42826

SQL0423N ロケーター変数 *variable-position* は、現在、どんな値も表していません。

説明: ロケーター変数にエラーがあります。有効な結果セットロケーターまたはそれに割り当てられた LOB ロケーター変数値がないか、または変数と関連したロケーターが解放されているか、あるいは結果セット・カーソルがクローズされています。

variable-position が提供される場合には、エラーのある変数の序数位置が指定される変数セットに示されます。エラーを検出した時点によっては、データベース・マネージャーが *variable-position* を判別できないことがあります。

variable-position は序数位置の代わりに、関数名が識別したユーザー定義の関数から戻ったロケーター値がエラーであること示す "function-name RETURNS" 値を備えている可能性があります。

ユーザーの処置: ステートメントの実行の前に、SQL ステートメントで使用されるロケーター変数に有効な値があるように、プログラムまたはルーチンを訂正してください。

LOB 値は、SELECT INTO ステートメント、VALUES INTO ステートメント、あるいは FETCH ステートメントによって、ロケーター変数に割り当てることができません。

結果セット・ロケーターは、ASSOCIATE LOCATORS ステートメントから返されます。結果セット・ロケーター値は、基となる SQL カーソルがオープンしている場合にのみ有効です。コミットまたはロールバック操作が実行されると、カーソルと関連した結果セット・ロケーターはもはや有効ではありません。戻りカーソルであつ

た場合、割り振りの前にカーソルがオープンされていることを確認してください。

アプリケーション・コードについて以下のステートメントがすべて真の場合:

- アプリケーションに LOB 列を含む結果セットを定義する照会に対して宣言されたカーソルが含まれる
- カーソル宣言に WITH HOLD 節が含まれる
- LOB ロケーターがカーソルの結果セット内で LOB 値を参照するために使用される
- カーソルがクローズされる前に作業単位がコミットされる

アプリケーションのアップグレードが正常に行われるように、以下のいずれかのアクションを実行して、この警告の原因となった要素を除去してください。

- SQLRULES STD オプションを含めることに注意しながら、PREP コマンドを使用してアプリケーションを再びプリコンパイルします。
- 可能であれば、アプリケーションを変更して LOB 列がロケーターではなく値として検索されるようにします。
- 可能であれば、アプリケーションを変更してカーソルが WITH HOLD オプションと共に宣言されないようにして、カーソルがクローズされる前にコミットを除去します。

sqlcode: -423

sqlstate: 0F001

SQL0426N アプリケーションの実行環境では、動的コミットは無効です。

説明: CONNECT TYPE 2 環境 または CICS などの分散トランザクション処理 (DTP) 環境で実行中のアプリケーションが、SQL 動的 COMMIT ステートメントを実行しようとしてしました。SQL 動的 COMMIT ステートメントは、この環境では実行できません。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: SQL 動的 COMMIT ステートメントをパススルー・セッションで実行することはできません。

ユーザーの処置:

- DTP 環境によって提供されるコミット・ステートメントを使用して、コミットを実行してください。たとえば、CICS 環境の場合、これは CICS SYNCPOINT コマンドになります。
- このステートメントがストアード・プロシージャー内で実行された場合は、ステートメントを完全に削除してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合:
COMMIT ステートメントをコメント化するか、または
静的ステートメントとしてコーディングしてください。
その後、プログラムを再サブミットしてください。

sqlcode: -426

sqlstate: 2D528

SQL0427N アプリケーションの実行環境では、動的ロールバックは無効です。

説明: CONNECT TYPE 2 環境 または CICS などの分散トランザクション処理 (DTP) 環境で実行中のアプリケーションが、SQL 動的 ROLLBACK ステートメントを実行しようとした。SQL 動的 ROLLBACK ステートメントは、この環境では実行できません。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: SQL 動的 ROLLBACK ステートメントをパススルー・セッションで実行することはできません。

ユーザーの処置:

- DTP 環境によって提供されるロールバック・ステートメントを使用して、ロールバックを実行してください。たとえば CICS 環境の場合、これは CICS SYNCPOINT ROLLBACK コマンドになります。
- このステートメントがストアド・プロシージャ内で実行された場合は、ステートメントを完全に削除してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合:
ROLLBACK ステートメントをコメント化するか、または静的ステートメントとしてコーディングしてください。その後、プログラムを再サブミットしてください。

sqlcode: -427

sqlstate: 2D529

SQL0428N SQL ステートメントは、作業単位の最初のステートメントとしてのみ許可されています。

説明: この SQL ステートメントは、作業単位を開始する他の SQL ステートメントよりも前に実行する必要があります。以下の状況が考えられます。

- SQL ステートメントは作業単位の先頭になければならず、SQL が作業単位内の接続に対して発行されている
- SQL ステートメントは作業単位の先頭になければならず、WITH HOLD カーソルが接続に対してオープンされている

ステートメントが DISCONNECT ALL である場合、すべての接続に対して DISCONNECT が実行されるため、いずれかの接続が前述の制限に違反すると、要求が失敗することに注意してください。

ユーザーの処置: SQL ステートメント処理の前に、COMMIT または ROLLBACK を発行してください。WITH HOLD カーソルがある場合、それらをクローズする必要があります。ステートメントが SET INTEGRITY であれば、COMMIT THRESHOLD 節を除去してください。

sqlcode: -428

sqlstate: 25001

SQL0429N 並行 LOB ロケーター の最大数を超過しました。

説明: 作業単位ごとに、最大 4,000,000 の並行 LOB ロケーターが、DB2 ではサポートされています。

ユーザーの処置: 必要とされる並行 LOB ロケーターの数が少なくなるようにプログラムを修正して、もう一度プログラムを実行してください。例えば、アプリケーションで必要とされなくなった LOB ロケーターをただちに解放するために FREE LOCATOR ステートメントを使用します。

sqlcode: -429

sqlstate: 54028

SQL0430N ユーザー定義関数 *function-name* (特定名 *specific-name*) が異常終了しました。

説明: 示された UDF が制御されている間に、異常終了が発生しました。

ユーザーの処置: UDF を修正する必要があります。UDF の作成者またはデータベース管理者に連絡してください。修正されるまで、その UDF は使用するべきではありません。

sqlcode: -430

sqlstate: 38503

SQL0431N ユーザー定義関数 *function-name* (特定名 *specific-name*) が、ユーザーによって割り込まれました。

説明: 示された UDF に制御があるときに、ユーザー/クライアント割り込みが発生しました。

ユーザーの処置: これは、無限ループまたは待機などの UDF の問題を示している可能性があります。問題が続く場合 (すなわち、割り込みを行うことが必要になった場合に、同じエラー状態になる) は、UDF 作成者または

SQL0432N

データベース管理者に連絡してください。問題が修正されるまでは、その UDF を使用するべきではありません。

sqlcode: -431

sqlstate: 38504

SQL0432N パラメーター・マーカーまたは NULL 値が、ユーザー定義タイプ名、または参照ターゲット・タイプ名 *udt-name* を持つことができません。

説明: ステートメント内の型なし式 (パラメーター・マーカーまたは NULL 値) は、使用されているコンテキストに基づいて、ユーザー定義タイプ *udt-name*、またはターゲット・タイプ *udt-name* の参照タイプであると判断されました。型なし式のデータ・タイプとしてユーザー定義タイプまたは参照タイプを使用することはできません。ただし、これが割り当てに含まれる場合 (INSERT の VALUES 節または UPDATE の SET 節)、あるいは CAST 指定を使ってユーザー定義の特殊データ・タイプや参照データ・タイプに明示的にキャストされる場合を除きます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ユーザー定義特殊データ・タイプまたは参照データ・タイプへの明示的キャストを型なし式で使用します。あるいは、ユーザー定義特殊データ・タイプの列を対応するソース・データ・タイプにキャストするか、または参照データ・タイプの列を対応するタイプにキャストしてください。

sqlcode: -432

sqlstate: 42841

SQL0433N 値 *value* が長すぎます。

説明: 値 *value* が、その値をいくつかの方法でトランスフォームするために呼び出される、システム (組み込み) キャストまたは調整関数による切り捨てを要求しました。この値が使用されている場所では、切り捨てが許されていません。

トランスフォームされる値は、以下のいずれかです。

- ユーザー定義関数 (UDF) に対する引数
- UPDATE ステートメントの SET 節に対する入力
- 表に INSERT される値
- 他の特定のコンテキストでのキャストまたは調整関数に対する入力
- そのデータ・タイプおよび長さが再帰の初期化部分で判別され、再帰の反復部分で大きくできる、再帰的に参照される列

- XMLSERIALIZE 関数によって出力がシリアル化される XML データ値

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: *value* が SQL ステートメントのリテラル・ストリングの場合は、その使用目的に対して長すぎます。

value がリテラル・ストリングでない場合は、SQL ステートメントを調べて、トランスフォーメーションが行われる場所を判別してください。トランスフォーメーションに対する入力が長すぎるか、またはターゲットが短すぎます。

問題を訂正して、ステートメントを再実行してください。

sqlcode: -433

sqlstate: 22001

SQL0434W 節 *clause* のサポートされない値が、値 *value* で置き換えられました。

説明: 節 *clause* に指定された値はサポートされていないため、特定のサポートされている値 *value* で置き換えられました。

ユーザーの処置: 選択された値が受け入れ可能であれば、変更する必要はありません。そうでない場合は、*clause* に有効な値を指定してください。

sqlcode: +434

sqlstate: 01608

SQL0435N アプリケーション定義の無効な SQLSTATE *sqlstate* が指定されました。

説明: RAISE_ERROR 関数、SIGNAL ステートメント、または RESIGNAL ステートメントで指定された SQLSTATE の値は、アプリケーション定義 SQLSTATE の規則に従っていません。

ユーザーの処置: SQLSTATE に指定された値を訂正してください。SQLSTATE の値は、5 文字の文字ストリングでなければなりません。これは、長さ 5 で定義された CHAR タイプ、または長さ 5 以上で定義された VARCHAR タイプでなければなりません。SQLSTATE の値は、アプリケーション定義 SQLSTATE の規則に従う必要があります。

SIGNAL または RESIGNAL ステートメントに指定する SQLSTATE の値の規則は、以下のとおりです。

- 各文字は、数字のセット ('0' から '9')、またはアクセントの付かない大文字 ('A' から 'Z') でなければなりません。

- SQLSTATE クラス (最初の 2 文字) を '00' にすることはできません。

RAISE_ERROR 関数に指定する SQLSTATE の値の規則は、以下のとおりです。

- 各文字は、数字のセット ('0' から '9')、またはアクセントの付かない大文字 ('A' から 'Z') でなければなりません。
- エラー・クラスではないので、SQLSTATE クラス (最初の 2 文字) を '00'、'01'、または '02' することはできません。
- SQLSTATE クラス (最初の 2 文字) が文字 '0' から '6' または 'A' から 'H' で始まっている場合、サブクラス (最後の 3 文字) は 'I' から 'Z' までの文字で始まらなければなりません。
- SQLSTATE クラス (最初の 2 文字) が文字 '7'、'8'、'9' または 'I' から 'Z' で始まっている場合、サブクラス (最後の 3 文字) は '0' から '9' または 'A' から 'Z' のいずれでもかまいません。

sqlcode: -435

sqlstate: 428B3

SQL0436N C 言語の NULL 終了文字ストリング・ホスト変数から、終了の NULL 文字が欠落しています。

説明: C プログラミング言語の入力ホスト変数コードの値には、ストリングの最後に NULL 終止符が必要です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 入力ホスト変数の値が、NULL 終止文字で終了していることを確認してください。

sqlcode: -436

sqlstate: 22024

SQL0437W この複合照会のパフォーマンスが最適ではない可能性があります。理由コード:
reason-code

説明: 照会の最適化は、アプリケーション・パフォーマンスに影響を与える要因の 1 つです。SQL および XQuery コンパイラーは、いくつかのステップを実行して、実行可能なアクセス・プランを作成します。

このメッセージは通常、照会が複雑なために必要となるリソースが得られないか、または最適化境界条件が検出された場合に返されます。

以下の理由コードは、パフォーマンスが最適ではない可能性がある理由をより詳細に示すものです。

1

メモリーの制約のため、結合列挙メソッドが変更されました。

2

照会の複雑さのため、結合列挙メソッドが変更されました。

3

オブティマイザーのコスト・アンダーフロー

4

オブティマイザーのコスト・オーバーフロー

5

照会最適化クラスが低すぎました。

6

オブティマイザーが無効な統計を無視しました。

13

最適化ガイドラインは適用できませんでした。

15

選択されたプランによって中間結果セットがマテリアライズされますが、そのサイズがレジストリー変数 DB2_OPT_MAX_TEMP_SIZE によって課される制限を超える可能性があります。

16

データベース・パーティション環境では並列化されない XQuery 変換式が照会に含まれています。

ステートメントは処理されます。

ユーザーの処置: クエリーのパフォーマンスが最適でない場合は、以下の 1 つ以上のアクションを実行します。

- データベース構成ファイルのステートメント・ヒープ (stmtheap) の大きさを増やしてください。stmtheap 構成パラメーターを引き上げた後、ステートメントが再コンパイルされるようにしてください。(理由コード 1)
- ステートメントをより簡単な SQL ステートメントに分割してください。(理由コード 1、2、3、4)
- 述部に必要以上の応答セットを指定していないことを確認してください。(理由コード 3)
- 現在の照会最適化クラスを、低い値に変更してください。(理由コード 1、2、4)
- 照会に関連した表に対して、RUNSTATS を発行してください。(理由コード 3、4)

SQL0438N

- 現在の照会最適化クラスを、高い値に変更してください。(理由コード 5)
- 照会で呼び出された表およびその対応索引に対して、RUNSTATS を再発行します。つまり、表と索引の統計が一致するように、AND INDEXES ALL 節を使用します。(理由コード 6)
- Explain 診断機能を使用して、最適化ガイドラインが適用できなかった理由についての詳細情報を取得してください。(理由コード 13)
- ソート・スピルによってマテリアライズが起きる場合は、ソートを回避する索引を作成してみてください。警告を抑止するには、レジストリー変数 DB2_OPT_MAX_TEMP_SIZE で指定される値を大きくするか、または完全に設定解除します。(理由コード 15)
- サーバー・オプション CPU_RATIO、IO_RATIO、COMM_RATE、または関数マッピング・オプション IOS_PER_INVOC、INSTS_PER_INVOC、IOS_PER_ARGBYTE、INSTS_PER_ARGBYTE、PERCENT_ARGBYTES、INITIAL_IOS、INITIAL_INSTS を、高すぎることも低すぎることもない値に設定します。(理由コード 3、4)
- 変換式を並列化するように、クエリーを書き直してください。(理由コード 16)

sqlcode: +437

sqlstate: 01602

SQL0438N アプリケーションで次の診断テキストを持つエラーまたは警告が発生しました: *text*

説明: このエラーまたは警告は、トリガーの RAISE_ERROR 関数または SIGNAL SQLSTATE ステートメントの実行の結果として発生しました。'01' または '02' で始まる SQLSTATE 値は警告を示します。

ユーザーの処置: アプリケーションの資料を参照してください。

sqlcode: -438, +438

sqlstate: アプリケーション定義

SQL0439N ユーザー定義関数 *function-name* が関数 *source-function* によって間接的に実行され、その結果、エラー *sqlcode* が発生しました。

説明: 関数 *function-name* がユーザーのステートメント内で参照されていました。ただし、SOURCE 節がこの関数の定義に使用されていたため、関数 *source-function* が実際にその関数をインプリメントすることになりました。(*function-name* から *source-function* へは、直接ま

たは間接的な定義パスが存在する可能性があります。) コンパイル時に、*source-function* のカプセル化プログラム (関数に代わって作動する DB2 コード) が、*sqlcode* で示されるエラーを返しました。

ユーザーの処置: 修正を行う前に、実際のエラー状況を理解する必要があります。 *sqlcode* の説明を調べてください。 *source-function* が組み込み関数の場合、組み込み関数がユーザーのステートメントで直接参照されたときには、*sqlcode* が問題を示します。 *source-function* がユーザー定義関数の場合は、メッセージが、引数のいずれかまたは関数の結果を使用して、最も可能性のある問題を示します。

問題を訂正して再度試行してください。

sqlcode: -439

sqlstate: 428A0

SQL0440N 互換性のある引数を持つ、タイプ *routine-type* の *routine-name* という名前の許可されたルーチンが見つかりませんでした。

説明: これは、データベース・マネージャーが参照を実行するために使用できるルーチンを見つけられない場合、ルーチン *routine-name* への参照で発生します。原因は以下のとおりです。

- routine-name* が間違って指定されたか、またはデータベースに存在しません。
- 修飾付き参照が行われましたが、修飾子の指定が正しくありませんでした。
- ユーザーの SQL パスに、必要な関数またはメソッドが属しているスキーマが入っていなかったために、無修飾参照が使用されました。
- ユーザーの SQL パスには、必要なルーチンが属するモジュールが入っていません。
- モジュール修飾ルーチン参照はモジュールの外部で作成されますが、モジュール・ルーチンは公開されていません。
- 間違った数の引数が組み込まれていました。
- 正しい数の引数が関数またはメソッド参照に組み込まれていましたが、引数の 1 つ以上のデータ・タイプが正しくありませんでした。
- ルーチン *routine-name* のパラメーター名と一致しない名前付き引数が使用されました。
- 現行のコンパウンド・ステートメント内に、同じ名前および同じパラメーター数を持つ 1 つ以上のルーチンが宣言されています。
- 外部コンパウンド・ステートメント内に、同じ名前を持つ 1 つ以上のルーチンが宣言されています。その

外部コンパウンド・ステートメント内で、ルーチンを宣言している現行のコンパウンド・ステートメントがネストされています。

- ルーチンが、パッケージのバインド時に使用されたものと同じ関数 ID を持つデータベースに存在しません(静的ステートメントに該当します)。
- UPDATE ステートメントで使用されている属性割当てに対応する mutator メソッドが見つかりませんでした。属性の新しい値のデータ・タイプが、属性のデータ・タイプと同じ、またはプロモート可能なデータ・タイプではありません。
- ルーチンの起動側が、ルーチンを実行するよう許可されていません。
- サーバーの時刻がリセットまたは変更されています。
- 時刻または時間帯が異なるサーバー上にデータベースがリストアされています。
- 複数パーティション・データベース環境内のメンバーに関連付けられた時刻が同期していません。

ユーザーの処置: 問題を修正して、やり直してください。これには、カタログ・アクセス、ステートメントに対する変更、ルーチンの起動側への実行特権、新しい関数の追加、および SQL パスに対する変更も含まれません。

sqlcode: -440

sqlstate: 42884

SQL0441N *function-name* 関数を持つキーワード DISTINCT または ALL の使用が無効です。

説明: 可能性のある原因は、以下のとおりです。

- キーワード DISTINCT または ALL が関数 *function-name* を参照する括弧内で検出され、関数はスカラー関数として解決されました。スカラー関数でのキーワード DISTINCT または ALL の使用は無効です。
- キーワード DISTINCT が、サポートされていない列関数で使用されました。これらの関数には、COVARIANCE、CORRELATION、および REGR で始まる線形回帰関数が含まれます。
- 関数がキーワード ALL または DISTINCT をサポートしている列関数であるという前提でしたが、それが解決した関数は列関数ではありませんでした。

ユーザーの処置:

- スカラー関数を使用されている場合は、キーワード DISTINCT または ALL を除去してください。スカラー関数には無効です。

- 関数が DISTINCT または ALL キーワードをサポートしない列関数である場合は、キーワードを除去してください。
- 列関数を使用されている場合は、関数解決に問題があります。パスをチェックして必要な関数がいずれかのスキーマに存在するかどうかを調べ、関数名のつづり、パラメーターの数およびタイプについて SYSPFUNCTIONS カタログもチェックしてください。

エラーを訂正し、やり直してください。

sqlcode: -441

sqlstate: 42601

SQL0442N ルーチン *routine-name* の参照中にエラーが発生しました。引数の最大許容数 (90) を超えました。

説明: ルーチン *routine-name* への参照に指定された引数が多すぎます。最大許容数は 90 です。

ユーザーの処置: ステートメントに、正しい数の引数を使用されていることを確認して、もう一度やり直してください。

sqlcode: -442

sqlstate: 54023

SQL0443N ルーチン *routine-name* (特定名 *specific-name*) が、診断テキスト *text* とともにエラー SQLSTATE を返しました。

説明: 組み込みルーチンまたはユーザー定義ルーチン(プロシージャ、関数、メソッド) が失敗すると、このメッセージが返されます。

3 つ目のランタイム・トークン *text* の内容には、次のようなものがあります。

- ユーザー定義ルーチンの失敗によりこのメッセージが返された場合、3 つ目のランタイム・トークン *text* の内容は、ルーチンの作成者が実装したものです。
- 通常、組み込みルーチンの失敗によりこのメッセージが返された場合、3 つ目のランタイム・トークン *text* の内容には、次のような組み込みエラー・コードが含まれます。

例 1

この例では、*text* はメッセージ DBA7904 を参照します。

[IBM][CLI Driver][DB2/AIX64] SQL0443N ルーチン "SYSPROC.ALTOBJ" (特定名 "ALTOBJ") が、診断テキスト "DBA7904, DBAD" とともにエラー SQLSTATE を返しました。SQLSTATE=38553

SQL0444N

例 2

この例では、*text* は sqlcode -805 を参照します。

[IBM][CLI Driver][DB2/AIX64] SQL0443N ルーチン "SYSIBM.SQLTABLES" (特定名 "TABLES") が、診断テキスト "SYSIBM:CLI:-805" とともにエラー SQLSTATE を返し
ました。SQLSTATE=38553

- SYSFUN スキーマの組み込み関数の失敗によりこのメッセージが返された場合、3 つ目のランタイム・トークン *text* は、次の形式になります。

SYSFUN:nn

この nn は、以下の意味を持つ理由コードです。

01

数値が範囲外

02

ゼロによる除算

03

算術オーバーフローまたはアンダーフロー

04

無効な日付形式

05

無効な時刻フォーマット

06

無効なタイム・スタンプ・フォーマット

07

タイム・スタンプ期間の無効な文字表示

08

無効なインターバル・タイプ

09

ストリングが長すぎる

10

ストリング関数の長さまたは位置が範囲外になっている

11

浮動小数点数では無効な文字表示である

12

メモリー不足

13

予期しないエラー

ユーザーの処置: 以下のいずれかの方法で、このエラーに対応します。

- ユーザー定義のプロシージャ、関数、またはルーチンの失敗によりこのメッセージが返された場合は、3 つ目のランタイム・トークン *text* にある診断情報を確認し、プロシージャ、関数、またはルーチンの作成者と協力して、問題の原因についてトラブルシューティングしてください。
- DB2 組み込みプロシージャ、関数、またはルーチンの失敗によりこのメッセージが返された場合は、次のトラブルシューティング手順を実行してください。
 1. 3 つ目のランタイム・トークン *text* に、どのエラー・コードが組み込まれているか判断する。
 2. Information Center でメッセージ ID または sqlcode を検索して、組み込みエラー・コードの拡張メッセージを確認する。
 3. db2diag ログ・ファイルで、組み込みエラー・コードのランタイム・トークンの値など、その他の診断情報を確認する。

SQL0444N ルーチン *routine-name* (特定名 *specific-name*) が、アクセスできないライブラリーまたはパス *library-or-path*、関数 *function-code-id* のコードで実行されています。理由コード: *code*

説明: データベース・マネージャーが、ルーチン *routine-name* (特定名 *specific-name*) を実行するコードの本体にアクセスを試みましたが、理由コード *code* (下のリストで説明) によってアクセスできません。ルーチンを実行するファイルは *library-or-path* で、関数は *function-code-id* で示されています。

ライブラリー名、パス名、または関数名は、使用可能な最大トークン長の制限により切り捨てられる場合があります。以下の照会を使用して、システム・カタログ・ビューから完全なライブラリー・パスと関数名を入手できます。

```
SELECT implementation
FROM syscat.routines
WHERE specificname = 'specific-name'
```

1

パス名 *library-or-path* が、最大値 (255 バイト) を超えています。

2

DB2 インスタンス・パス名が DB2 から検索できませんでした。

3

パス *library-or-path* が見つかりませんでした。

4

以下のいずれかの理由で、*library-or-path* でファイルが見つかりませんでした。

1. ルーチンに関連したルーチン・ライブラリーは、ルーチン CREATE ステートメント定義内の EXTERNAL 節により指定されたロケーションでは入手できません。
2. ルーチン・ライブラリーは、位置指定できない共有ライブラリーに依存しています (UNIX ベース・システムでは LIBPATH 環境変数で、Windows システムでは PATH 環境変数で指定されたディレクトリーの連結内)。この理由コードの前に、複数レベルの間接原因がある場合があります。例えば、ルーチン本体 X が見つかった場合、共有ライブラリー Y が必要となります。Y はここで検出されるものです。しかし Y は、位置指定できない別の共有ライブラリー Z を必要とします。
3. これはパーティション・データベースで、ライブラリーはユーザー定義関数が実行されたパーティションのいずれかにはありません。

5

関数の入ったライブラリーをロードするためのメモリーが足りないか、または 1 つ以上のシンボルを解決できませんでした。理由コードは、以下のいずれかの状態を示しています。

1. 1 つ以上のシンボルが解決されていない可能性があります。ルーチン・ライブラリーは、位置指定できない共有ライブラリーに依存している可能性があります (UNIX ベース・システムでは LIBPATH 環境変数で、INTEL システムでは PATH 環境変数で指定されたディレクトリーの連結を使用)。
2. ルーチンに 32 ビット DB2 インスタンス内ではサポートされていない 64 ビット・ライブラリーがあるか、またはルーチンに、ルーチン定義と非互換の 64 ビット DB2 インスタンス内の 32 ビット・ライブラリーまたは DLL があります。
3. 関数の入ったライブラリーをロードするためのメモリーが足りませんでした。

6

関数 *function-code-id* が、指定されたライブラリーで見つかりませんでした。

7

関数名として指定された記号 (*function-code-id*) は、指定されたライブラリーにある有効な関数の名前ではありません。

8

このメッセージに示された理由以外で、"load" システム関数が失敗しました。オブジェクト・ファイルは、正しくリンクされていないか、またはまったくリンクされていない可能性があります。

9

メモリーが不足しているため、*library-or-path* で識別されるライブラリーの関数名 *function-code-id* を解決できません。

10

"loadquery" システム呼び出しが失敗しました。これは、UNIX オペレーティング・システムでのみ発生し、データベース・マネージャーが正しくインストールされていないという症状です。

11

エージェント処理が、libdb2.a library に存在しているべき特定のデータベース・マネージャー関数を検索していましたが、見つかりませんでした。これは、UNIX オペレーティング・システムでのみ発生し、データベース・マネージャーが正しくインストールされていないという症状です。

15

システムまたはネットワーク・アクセスが拒否されています。これが発生するのは、Windows 環境で、ルーチン定義ステートメントの EXTERNAL NAME 指定で絶対パスが指定されていない場合や、db2_installation_path¥function というディレクトリーに関数が存在しないため PATH 環境変数を使った検索が必要になる場合です。例えば、PATH で、関数の含まれるディレクトリーの前に LAN ドライブが含まれており、DB2 インスタンスが SYSTEM アカウントで実行されている場合、この理由コードの結果になることがあります。

その他:

未確認システム障害が発生しました。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: このユーザー定義関数が関数テンプレートである場合 (そのため、フェデレーテッド・サーバーに存在するためのコードが必要ない場合)、この関数がリモート・データ・ソ

ースで評価されるようにするために、SQL ステートメントまたは統計の変更を考慮してください。

ユーザーの処置: 各理由コードごとに、次のようになります。

1

ルーチン定義をもっと短いパスを指定するように変更する必要があるか、または DB2 インスタンス・パス名が長すぎます。DB2 カタログ・ビュー内のルーチン定義を分析して、取るべきアクションを判断してください。関数本体を、もっと短いパス名のディレクトリーに移動することが必要になる場合があります。

2、10、および 11

システム管理者に連絡して、該当する理由コードの全文を提供してください。

3、6、および 7

ルーチンの作成者またはデータベース管理者に連絡してください。該当する理由コードの全文を提供してください。ルーチン定義またはルーチンのロケーションを訂正しなければなりません。

4

可能なソリューションは、メッセージ説明で示される原因ごとにグループ化されています。

- 次のようにして、ルーチンに関連したルーチン・ライブラリーを使用可能にします。
 - ルーチン定義 EXTERNAL 節の値を訂正するか、またはルーチン・ライブラリーが EXTERNAL 節により指定されたロケーションにあることを検査してください。
 - 組み込みルーチンについては、データベースを別のフィックスバック・レベルに最近アップデートしたためシステム・カタログの更新が必要になった場合には、データベースを現在のリリースに更新するコマンドを発行することにより組み込みルーチンを含むシステム・カタログを更新した後、インスタンスを再始動します。
 - データベース・マネージャーからルーチン・ライブラリーにアクセスできることを検証します。fenced ルーチンの場合は、fenced プロセス所有者がライブラリーまたは DLL に対する実行アクセス許可を持っていることを検査してください。unfenced ルーチンの場合は、インス

タンス所有者がライブラリーまたは DLL に対する読み取りアクセス許可を持っていることを検査してください。

- ルーチンを再リンクするか、または従属ライブラリーが LIBPATH (UNIX) または PATH (INTEL) で使用可能であることをユーザーが検査する必要があります。db2set コマンドを使用して LIBPATH を更新し、ライブラリーまたは DLL があるパスを組み込んでください。例えば、db2set db2libpath=/db2test/db2inst1/sql1 とします。
- パーティション・データベースでは、ユーザー定義関数に関連付けられているライブラリーはデータベースのすべてのパーティションでライブラリーまたはパスとしてアクセス可能である必要があります。ルーチン・ライブラリーが、データベースのすべてのパーティション上の関数ディレクトリーにデプロイされていることを検査してください。

5

可能なソリューションは、メッセージ説明で示される原因に対応させて配列されています。

- この理由コードの前に、複数レベルの間接原因がある場合があります。例えば、ルーチン本体 X を検出でき、それはやはり検出できる共有ライブラリー Y を必要とするが、Y は検出できない別の共有ライブラリー Z を必要としているという場合があります。ルーチン・ライブラリーを再リンクするか、またはすべての従属ライブラリーが LIBPATH (UNIX) または PATH (INTEL) で使用可能であることをユーザーが検査する必要があります。db2set コマンドを使用して LIBPATH を更新し、ライブラリーがあるパスを組み込んでください。例えば、db2set db2libpath=/db2test/db2inst1/sql1 とします。
- サポートされるライブラリーを使用してください。
- メモリー不足と判別した場合は、DB2 に使えるメモリーを増やすようにシステム構成を変更する必要があります。

8

モジュールが正しくリンクされていることを確認してください。

9

ルーチンの作成者またはデータベース管理者に連絡して、関数の入ったライブラリーが正しくリンクされているかを確認してください。

DB2 サーバーがもっと多くのメモリーを使用できるように、システム構成の変更が必要になる場合があります。

15

ルーチン定義ステートメントの `EXTERNAL NAME` 節に絶対パスが含まれていること、または `db2_installation_path/function` というディレクトリーに関数が存在することを確認します。

これらの状態のいずれかが当てはまる場合に、`PATH` 環境変数内の当該関数を含むディレクトリーの前にある LAN ドライブにアクセスできないアカウントで DB2 インスタンスが実行されているためにエラーが発生する場合は、`PATH` 環境変数内のすべてのネットワーク・パスへのアクセス権があるユーザー・アカウントで実行されるように DB2 サービスを再構成する必要があります。

DB2 サービスにユーザー・アカウントを割り当てる場合は、必要なすべての拡張ユーザー権限をアカウントに付与してください。

その他:

コードを書き留めて、システム管理者に連絡してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: このユーザー定義関数が関数テンプレートである場合 (そのため、フェデレーテッド・サーバーに存在するためのコードが必要ない場合)、この関数がリモート・データ・ソースで評価されるようにするために、SQL ステートメントまたは統計の変更を考慮する必要があります。

sqlcode: -444

sqlstate: 42724

SQL0445W 値 *value* が切り捨てられました。

説明: 値 *value* は、システム (組み込み) キャスト、調整、またはコード・ページ変換機能などによる何らかの方法でトランスフォームされたときに切り捨てられました。これは警告状態です。

トランスフォームされた値は、以下のいずれかの可能性があります。

- ルーチン (ユーザー定義関数 (UDF) またはメソッド) の出力。ルーチン定義に `CAST FROM` の指定があるため、トランスフォームされています。

- ルーチン (ユーザー定義関数 (UDF) またはメソッド) の出力。これは別の関数にソース派生しており、結果をトランスフォームする必要があります。

- 例えばストリングの長さの単位の指定などが原因で、処理中にコード・ページ変換を実行する必要がある、組み込みストリング処理ルーチンの出力。

ユーザーの処置: 出力が予期されていること、および切り捨てが予期しない結果の原因とならないことを確認してください。

sqlcode: +445

sqlstate: 01004

SQL0447W ステートメントに、節 *clause* を含む重複指定があります。

説明: *clause* キーワードが、ステートメントに 2 回以上入っています。これは警告状態です。

ユーザーの処置: 冗長が意図されたものである場合、または重複が障害を引き起こさないと判断した場合は、対応する必要はありません。"障害" とは、例えば、他の必須キーワードが抜けていることを示しています。

sqlcode: +447

sqlstate: 01589

SQL0448N ルーチン *routine-name* の定義中にエラーが発生しました。パラメーターの最大許容数 (ユーザー定義関数およびメソッドの場合は 90、ストアード・プロシージャの場合は 32767) を超えました。

説明: ルーチン *routine-name* の定義中、指定されたパラメーターが多すぎます。ルーチン定義ステートメントは `CREATE FUNCTION`、`CREATE PROCEDURE`、`CREATE TYPE` (メソッド定義)、または `ALTER TYPE` (メソッド定義) だと思われます。

ユーザーの処置: ステートメントを変更して、パラメーターの数を減らしてください。

sqlcode: -448

sqlstate: 54023

SQL0449N ステートメント定義ルーチン *routine-name* で、無効なフォーマットのライブラリー/関数識別が `EXTERNAL NAME` 節に含まれています。

説明: ユーザー定義関数 (UDF)、ユーザー定義メソッド、またはプロシージャ *routine-name* の `CREATE` ステートメントの `EXTERNAL NAME` 節にエラーが検出

SQL0450N

されました。ライブラリー/関数識別の規則は、以下のとおりです。

LANGUAGE C の場合、名前の形式は '<a>' または '<a>!' です。ただし、

- <a> は、呼び出すルーチン (関数) を含むファイル名
- は、ルーチン本体として呼び出される <a> 内の入り口点 (関数)。 を省略した場合は、デフォルトの入力点として <a> が使用されます。

LANGUAGE OLE の場合、名前の形式は '<a>!' です。ただし、

- <a> は、OLE オブジェクトのプログラマチック ID または クラス ID
- は、呼び出すオブジェクトのメソッド

LANGUAGE JAVA および LANGUAGE CLR の場合、名前の形式は '<a>:!<c>' です。ただし、

- <a> は、クラスの存在する jar ID (LANGUAGE JAVA) またはアセンブリー・ファイル (LANGUAGE CLR) です。LANGUAGE JAVA の場合、'<a>' はオプションであり、それを省略した場合は、関数ディレクトリーか CLASSPATH の中に対応するクラスが存在していなければなりません。
- は、呼び出すメソッドを含むクラス
- <c> は、呼び出すメソッド。LANGUAGE JAVA の場合、'!<c>' の代わりに '!<c>' を使用できます。

どの言語でも、先頭や末尾にブランク文字を含めたり、単一引用符、オブジェクト ID、または分離文字の間にブランク文字を含めることはできません (例えば、' <a>! ' は無効)。一方、パス名とファイル名には、プラットフォームで許可されている限り、ブランクを含めることができます。

どのファイル名の場合も、ファイルは名前の短い形式 (例: math.a (UNIX)、 math.dll (Windows)) か、または完全修飾パス名 (例: /u/slick/udfs/math.a (UNIX)、 d:\udfs\math.dll (Windows)) を使用して指定できます。ファイル名の短い形式を使用する場合、そのファイルは次のようにして探索されます。

- UNIX プラットフォームの場合、またはルーチンが LANGUAGE CLR ルーチンの場合: 関数ディレクトリー
- プラットフォームが Windows の場合: システム PATH

ファイル拡張子 (例: .a (UNIX)、 .dll (Windows)) は、常にファイル名に含めてください。

ユーザーの処置: 問題を訂正して再度試行してください。原因として、ブランクが含まれているか、名前の先

頭または最後に '!' または ':' が入っている可能性があります。

sqlcode: -449

sqlstate: 42878

SQL0450N ルーチン *routine-name* (特定名 *specific-name*) が、長すぎる結果値、SQLSTATE 値、メッセージ・テキスト、またはスクラッチパッドを生成しました。

説明: ルーチン *routine-name* (特定名 *specific-name*) からの戻りにおいて、以下のいずれかに割り振られているバイト数を超えるバイト数を返されたことを DB2 が見つけました。

- 結果値 (ルーチン定義に基づきます)。可能性のある原因は、以下のとおりです。
 - 結果バッファーに移動したバイトが多すぎる。
 - データ・タイプは VARCHAR のようにデータ値を null で区切る必要があり、区切りの null は定義されたサイズの範囲内ではない。
 - DB2 はこの値の前に 2- あるいは 4- バイト長の値を予想し、この長さが結果に定義されたサイズを超過しています。
 - ルーチンが LOB ロケーターを戻しました。このロケーターに関連する LOB 値の長さが、結果のサイズとして定義された値を超えています。

ルーチンの結果引数の定義は、データ・タイプの要件に適合している必要があります。

- SQLSTATE 値 (NULL 終止符を含めて 6 バイト)
- メッセージ・テキスト (NULL 終止符を含めて 71 バイト)
- スクラッチパッドの内容 (CREATE FUNCTION で宣言された長さ)

これは許されていません。

また、スクラッチパッドの長さフィールドがルーチンによって変更された場合にも、このメッセージが返されます。

ユーザーの処置: データベース管理者、またはルーチンの作成者に連絡してください。

sqlcode: -450

sqlstate: 39501

SQL0451N ルーチン *routine-name* を定義するステートメント内の *data-item* 定義の中には、所定の言語で作成された非ソース・ルーチンまたは自立走行式として定義されたルーチンに適切でないデータ・タイプ *type* が含まれています。

説明: ルーチン *routine-name* を定義しているステートメントの *data-item* 部分でエラーが発生しました。ユーザーのステートメントに、無効なタイプ *type*、または無効なタイプ *type* に基づいているユーザー定義タイプ (UDT) が入っています。ルーチン定義は CREATE FUNCTION、CREATE PROCEDURE、CREATE TYPE (メソッド定義)、または ALTER TYPE (メソッド定義) だと思われます。

data-item は、ステートメントの問題の領域を識別するトークンです。例えば、"PARAMETER 2"、"RETURNS"、または "CAST FROM" です。

自律型トランザクションでは、トランザクション内のステートメントのブロックは、そのトランザクションがロールバックされた場合でもコミットできます。CREATE PROCEDURE コマンドに AUTONOMOUS キーワードを指定して使用し、ロールバックされた作業単位内から呼び出された場合でも、その作業をコミットするプロシージャを作成できます。

ユーザーの処置: どの状態が発生したかを判別して、修正してください。修正アクションには、以下が含まれます。

- ルーチン定義をサポートされているタイプに変更 (例えば DECIMAL から FLOAT) してください。ここには、ルーチン本体それ自身の変更がかかわってくる可能性があり、ルーチンの使用での cast 関数の使用も関与する可能性があります。
- 新しい (適切な) ユーザー定義タイプを作成するか、または既存の UDT の定義を変更してください。

sqlcode: -451

sqlstate: 42815

SQL0452N ホスト変数 *variable-position* によって参照されているファイルにアクセスできません。理由コード: *reason-code*

説明: "nth" (この場合、n は *variable-position*) ホスト変数によって参照されるファイルへのアクセスしようとしたとき、またはアクセス中にエラーが発生しました。理由は *reason-code* です。ホスト変数の位置を判別できなかった場合、<*variable-position*> は 0 に設定されません。可能性のある理由コードは、以下のとおりです。

- 01 - ファイル名の長さが無効か、またはファイル名とパスのいずれか、または両方のフォーマットが無効です。
- 02 - ファイル・オプションが無効です。以下のいずれかの値を持つ必要があります。
 - SQL_FILE_READ
 - 既存のファイルから読み込む
 - SQL_FILE_CREATE
 - 書き込み用に新しいファイルを作成する
 - SQL_FILE_OVERWRITE
 - 既存のファイルを上書きする
 - ファイルが存在しない場合は、ファイルを作成する
 - SQL_FILE_APPEND
 - 既存のファイルに追加する
 - ファイルが存在しない場合は、ファイルを作成する
- 03 - ファイルが見つかりませんでした。
- 04 - SQL_FILE_CREATE オプションが、既存のファイルと同じ名前を持つファイルに指定されました。
- 05 - ファイルへのアクセスが拒否されました。ユーザーが、ファイルをオープンするための許可を持っていません。
- 06 - ファイルへのアクセスが拒否されました。ファイルが非互換モードで使用中です。書き込まれるファイルが、排他モードでオープンされています。
- 07 - ファイルへの書き込み中に、ディスクがフルになりました。
- 08 - ファイルの読み取り中、予期しないファイルの終了が見つかりました。
- 09 - ファイルのアクセス中に、メディア・エラーが発生しました。
- 10 - ファイルから読み取り中に、不完全または無効なマルチバイト文字が検出されました。
- 11 - ファイル・コード・ページからアプリケーションの GRAPHIC 文字コード・ページにデータを変換中に、エラーが検出されました。

ユーザーの処置: 理由コード 01 の場合は、ファイル名の長さ、ファイル名およびパスを訂正してください。

理由コード 02 の場合は、有効なファイル・オプションを指定してください。

理由コード 03 の場合は、ファイルにアクセスする前に、指定したファイルが存在することを確認してください。

理由コード 04 の場合は、ファイルが必要ないときは、そのファイルを削除するか、または存在しないファイル名を指定してください。

理由コード 05 の場合は、ユーザーが、ファイルに対するアクセス (正しいファイル許可) を持っていることを確認してください。

理由コード 06 の場合は、別のファイルを使用するか、またはそのファイルにアクセスする必要があるときは、ファイルが同時にアクセスされないように、アプリケーションを変更してください。

理由コード 07 の場合は、不必要なファイルを削除して、ディスク・スペースを解放するか、または十分なディスク・スペースを持つ別のドライブ/ファイル・システムに常駐するファイルを指定してください。また、オペレーティング・システムまたはユーザー・ファイル・サイズの限界に達していないことを確認してください。ユーザーのアプリケーションのコード・ページがマルチバイト・エンコード・スキーマを使用していて、最後の文字の部分だけが書き込み可能な場合には、そのファイルに完全書式の文字だけが入っていることを確認してください。

理由コード 08 の場合は、ファイルが入力に使用されているときは、ファイル全体が読み取られる前に、そのファイルが変更されていないことを確認してください。

理由コード 09 の場合は、ファイルが常駐しているメディアのすべてのエラーを修正してください。

理由コード 10 の場合は、アプリケーションのコード・ページに基づいて有効なマルチバイト文字だけがファイルに入っていることを確認するか、あるいはファイルの内容と同じコード・ページのもとで実行している間にその要求を投入してください。

理由コード 11 の場合には、日本語 EUC などのファイルのコード・ページと、UCS-2 などのアプリケーションの図形文字コード・ページとの間の文字変換サポートがインストールされていることを確認してください。

sqlcode: -452

sqlstate: 428A1

SQL0453N ルーチン *routine-name* を定義しているステートメントの RETURNS 節で、問題が識別されています。

説明: ルーチン *routine-name* の結果をキャストする問題が識別されました。CAST FROM データ・タイプが、RETURNS データ・タイプにキャストできないので、問題が発生しました。データ・タイプ間のキャストの詳細については、「SQL リファレンス」を参照してください。

ユーザーの処置: RETURNS または CAST FROM 節を変更して、CAST FROM データ・タイプが RETURNS データ・タイプにキャストできるようにしてください。

sqlcode: -453

sqlstate: 42880

SQL0454N ルーチン *routine-name* の定義で与えられているシグニチャーが、他のルーチンのシグニチャーに一致しています。

説明: 関数のシグニチャーは、関数名、関数に定義されているパラメーターの数、およびパラメーターのタイプの順序リストによって構成されています。

メソッドのシグニチャーは、メソッド名、メソッドのサブジェクト・タイプ、メソッドに定義されているパラメーターの数、およびパラメーターのタイプの順序リストによって構成されています。

プロシージャのシグニチャーは、プロシージャの名前およびプロシージャに定義されているパラメーターの数 (データ・タイプは考慮されていません) から構成されています。

これは、次のような場合に発生します。

- 作成される関数またはプロシージャと同じシグニチャーを持つ関数またはプロシージャ (*routine-name*) が、すでにスキーマ、モジュール、またはコンパウンド SQL (コンパイル済み) ステートメントに存在する。モジュールを変更してルーチン本体を定義済みのルーチン・プロトタイプに追加する場合、ルーチンには既にルーチン本体定義があります。
- 宣言されるプロシージャと同じ名前を持つプロシージャ (*routine-name*) が、すでに外部コンパウンド SQL (コンパイル済み) ステートメントに存在する。
- 追加されるメソッド指定、または作成されるメソッド本体と同じシグニチャーを持つサブジェクト・タイプのメソッド (*routine-name*) がすでに存在する。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 既存のルーチンが必要な機能を提供しているかどうかを判別してください。提供していない場合、ルーチンのシグニチャーを変更しなければなりません。(例えば、ルーチン名を変更)

モジュールを変更してルーチン本体を定義済みのルーチン・プロトタイプに追加する場合、シグニチャーが一致しているか、またはシグニチャーも変更する必要があるかを確認してください。さらにルーチン名および固有名が、定義済みのルーチン・プロトタイプのルーチン名および固有名と一致することを確認してください。既存のモジュール・ルーチンのルーチン本体を変更する必要がある場合は、ルーチンをドロップするようにモジュールを変更し、さらに新規ルーチン本体を使用してルーチンを再作成するようにモジュールを変更します。

sqlcode: -454

sqlstate: 42723

SQL0455N ルーチン *routine-name* において、**SPECIFIC** 名として与えられているスキーマ名 *schema-name1* が、ルーチンのスキーマ名 *schema-name2* に一致していません。

説明: SPECIFIC 名が 2 つの部分の名前として指定されている場合、*schema-name1* 部分は、*routine-name* の *schema-name2* 部分と同じでなければなりません。*routine-name* の *schema-name2* 部分が、直接指定されている場合があること、またはステートメントの許可 ID に対するデフォルトを持っている場合があることに注意してください。ルーチンがメソッドであれば、*schema-name* は、そのメソッドのサブジェクト・タイプのスキーマ名を指します。

ユーザーの処置: ステートメントを訂正して、もう一度やり直してください。

sqlcode: -455

sqlstate: 42882

SQL0456N ルーチン *routine-name* の定義において、**SPECIFIC** 名 *specific-name* は既にスキーマまたはモジュールに存在しています。

説明: ユーザーは明示 SPECIFIC 名 *specific-name* をルーチン *routine-name* の定義に与えましたが、この名前はスキーマまたはモジュール内の関数、メソッド、またはプロシージャの SPECIFIC 名として存在しています。

ユーザーの処置: 新しい SPECIFIC 名を選択して、もう一度やり直してください。

sqlcode: -456

sqlstate: 42710

SQL0457N システム使用のために予約されているため、名前 *name* を関数、メソッド、ユーザー定義データ・タイプ、または構造化データ・タイプ属性に付けることはできません。

説明: 示されている名前はシステム使用のために予約されているので、ユーザー定義関数、メソッド、ユーザー定義データ・タイプ、または構造化データ・タイプを作成できません。関数名、特殊タイプ名、構造化タイプ名、あるいは属性名に対して使用されない名前には、以下のものがあります。

```
"=", "<", ">", ">=", "<=",
"&=", "&>", "&<",
"!=", "!>", "!<", "<>"
```

```
SOME, ANY, ALL, NOT, AND, OR,
BETWEEN, NULL, LIKE, EXISTS, IN,
UNIQUE, OVERLAPS, SIMILAR, and MATCH.
```

ユーザーの処置: システム使用のために予約されていない関数、メソッド、ユーザー定義データ・タイプ、あるいは構造化データ・タイプ属性の名前を選択してください。

sqlcode: -457

sqlstate: 42939

SQL0458N シグニチャーによるルーチン *routine-name* への参照において、一致するルーチンが見つかりませんでした。

説明: シグニチャーによる関数、メソッド、またはストアード・プロシージャ *routine-name* への参照において、一致する関数、メソッド、またはストアード・プロシージャが見つかりませんでした。

パラメーターを受け入れることができるデータ・タイプが使用されている場合、タイプ・パラメーターはオプションです。例えば CHAR(12) の場合、CHAR(12) とパラメーターを指定でき、また CHAR() とパラメーターを省略することができます。パラメーターを指定すると、DBMS は、データ・タイプとデータ・タイプ・パラメーターに完全に一致するものだけを受け入れます。パラメーターを省略すると、DBMS データ・タイプのみ一致するものを受け入れます。CHAR() 構文は、一致する関数が見つかったときにデータ・タイプ・パラメーターを無視するよう DBMS に指示する方法を提供します。

DROP FUNCTION/PROCEDURE、COMMENT ON FUNCTION/PROCEDURE、および TRANSFER OWNERSHIP FUNCTION/PROCEDURE/METHOD ステートメントでは、無修飾参照がステートメント許可 ID で修飾され、問題が見つかる可能性があるスキーマになることにも注意してください。CREATE 関数の SOURCE 節では、修飾は現行パスから作成されます。この場合、一致する関数はパス全体に存在しません。

関数は、

```
COALESCE, DBPARTITIONNUM, GREATEST,
HASHEDVALUE, LEAST, MAX (scalar), MIN
(scalar), NULLIF, NVL, RID, RAISE_ERROR,
TYPE_ID, TYPE_NAME, TYPE_SCHEMA, または
VALUE 組み込み関数から入手することはできません。
ステートメントは処理できません。
```

ユーザーの処置: 以下の対応を行ってください。

- 正しいスキーマが備わるように、パスを変更します。
- データ・タイプの指定からパラメーターを取り除きます。

SQL0461N

- SPECIFIC 名を使用して、シグニチャーの代わりに、関数あるいはプロシーチャーを参照します。

sqlcode: -458

sqlstate: 42883

SQL0461N データ・タイプ *source-data-type* を持つ値を、タイプ *target-data-type* に CAST できません。

説明: ステートメントに、データ・タイプ *target-data-type* にキャストされるデータ・タイプ *source-data-type* を持つ最初のオペランドが指定された CAST が入っています。このキャストはサポートされていません。

ユーザーの処置: キャストがサポートされるよう、ソースまたはターゲットのいずれかのデータ・タイプを変更してください。事前定義されたデータ・タイプについては、SQL リファレンスを参照してください。ユーザー定義特殊タイプの入ったキャストの場合、キャストは基本データ・タイプとユーザー定義の異なるタイプ間、または基本データ・タイプにプロモート可能なデータ・タイプから、ユーザー定義特殊タイプに対してのみ行われます。

sqlcode: -461

sqlstate: 42846

SQL0462W コマンドまたはルーチン *command-or-routine-name* (特定名 *specific-name*) が、診断テキスト *text* とともに警告 SQLSTATE を返しました。

説明: コマンドまたはルーチン *command-or-routine-name* (特定名 *specific-name*) が、メッセージ・テキスト *text* とともに形式 01Hxx の SQLSTATE を DB2 に返しました。*command-or-routine-name* がコマンドである場合は、*specific-name* に値 "*"N" が含まれます。

ユーザーの処置: 警告の意味を理解する必要があります。データベース管理者、またはルーチンの作成者に連絡してください。

sqlcode: +462

sqlstate: 有効な警告 SQLSTATE が、ユーザー定義関数、外部プロシーチャー CALL、またはコマンド呼び出しによって返されました。

SQL0463N ルーチン *routine-name* (特定名 *specific-name*) が、診断テキスト *text* とともに無効な SQLSTATE *state* を返しました。

説明: ルーチンが返すことができる有効な SQLSTATE は 38xxx (エラー)、38502 (エラー)、および 01Hxx (警告) です。このルーチン *routine-name* (特定名 *specific-name*) が、無効な SQLSTATE *state* をメッセージ・テキスト *text* とともに返しました。ルーチンはエラー状態です。

ユーザーの処置: ルーチンを修正する必要があります。データベース管理者、またはルーチンの作成者に連絡してください。間違った SQLSTATE のアプリケーション重要度をルーチンの作成者から得ることもできます。

sqlcode: -463

sqlstate: 39001

SQL0464W プロシーチャー *procedure-name* が *generated-nbr-results* 照会結果セットを返しました。このプロシーチャーは、定義された制限 *max-nbr-results* を超えています。

説明: *procedure-name* と名付けられたストアード・プロシーチャーが正常に完了しました。しかし、そのストアード・プロシーチャーは、プロシーチャーが返すことができる照会結果セットの数について定義された制限を超えていました。

generated-nbr-results

ストアード・プロシーチャーによって返された照会結果セットの数を示します。

max-nbr-results

ストアード・プロシーチャーの照会結果セット数について定義された制限を示します。

最初の *max-nbr-results* の照会結果セットのみが SQL CALL ステートメントを発行した SQL プログラムに返されます。

考えられる原因は、以下のとおりです。

- クライアントによって課された DRDA 制限のため、ストアード・プロシーチャーが *generated-nbr-results* 結果セットを返せない。DRDA クライアントが、MAXRSLCNT DDM コード・ポイントによってこの制限を確立した。
- プロシーチャーが C アプリケーションから呼び出された。C での結果セットの処理はサポートされないため、結果セットは C アプリケーションに戻される前にそのままクローズされます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントが成功しました。 SQLWARN9 フィールドが 'Z' に設定されました。

sqlcode: +464

sqlstate: 0100E

SQL0465N fenced モード処理の開始、初期化、または通信を実行できません。理由コード *code*

説明: fenced モード・ルーチン (ユーザー定義関数またはメソッド) の実行に関係する、システム関連問題があります。問題の正確な特質は、*code* で示されています。これは、ユーザーの問題ではありません。可能性のある理由コードは、以下のとおりです。

ルーチン処理エラー

- 21: 内部データまたはアプリケーション・データの初期化が失敗しました。
- 22: シグナル・ハンドラーの登録が失敗しました。
- 23: エージェント処理に、REQUEST QUEUE のアクセス授与を付与することに失敗しました。
- 24: ルーチン処理の共有メモリーへの接続が失敗しました。
- 25: REPLY QUEUE のオープンが失敗しました。
- 26: REPLY QUEUE への書き込みが失敗しました。
- 27: REQUEST QUEUE の作成が失敗しました。
- 28: REQUEST QUEUE からの読み取りが失敗しました。
- 29: ルーチン処理が停止しました。
- 30: ルーチン処理が USER INTERRUPT シグナルを受け取りました。
- 31: ルーチン・モジュールをアンロードできませんでした。
- 32: モジュールのロード/アンロードに使用される制御ブロックに対するストレージの割り振りが失敗しました。
- 33: エージェント処理からルーチン処理に SIGINT の送信できませんでした。
- 34: OLE ライブラリーの初期化に失敗しました。
- 35: OLE DB 初期化サービス・コンポーネントの初期化に失敗しました。
- 40: ルーチン処理で内部エラーが発生しました。

エージェント処理エラー

- 41: ルーチン処理を spawn できませんでした。
- 42: REPLY QUEUE の作成が失敗しました。
- 43: REPLY QUEUE からの読み取りが失敗しました。
- 44: REQUEST QUEUE のオープンが失敗しました。
- 45: REQUEST QUEUE への書き込みが失敗しました。
- 47: ルーチン処理に、UDFP 共有メモリー・セットに対するアクセス許可を付与できませんでした。
- 48: ルーチン処理に REPLY QUEUE に対するアクセス許可を付与できませんでした。
- 49: モジュールのロード/アンロードに使用される制御ブロックに対するストレージの割り振りが失敗しました。
- 50: ルーチン・コードまたはエージェント・コードの実行中にエージェント処理が消滅しました。
- 51: unfenced ルーチン・コードの実行中に、エージェント処理が USER INTERRUPT を受け取りました。
- 60: ルーチン処理で内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: データベースまたはシステム管理者に連絡してください。

sqlcode: -465

sqlstate: 58032

SQL0466W プロシージャ *procedure-name* が、ストアード・プロシージャから *number-results* の結果セットを返しました。

説明: このメッセージは、CALL SQL ステートメントの発行の結果として返されます。これは、ストアード・プロシージャ *procedure-name* に、関連する *number-results* の結果セットがあることを示しています。

ステートメントは正常に完了しました。

ユーザーの処置: 必要ありません。

sqlcode: +466

sqlstate: 0100C

SQL0467W プロシージャ *procedure-name* には、別の結果セットが含まれています。合計 *max-nbr-results* の結果セットがあります。

説明: このメッセージはカーソルのクローズの結果として戻されます。これは、ストアード・プロシージャ *procedure-name* に別の結果セットが存在し、次の結果セットでカーソルがオープンされたことを示しています。ストアード・プロシージャには、合計 *max-nbr-results* の結果セットがあります。

ステートメントは正常に完了しました。

ユーザーの処置: 必要ありません。フェッチは、次の結果セットで続行できます。

sqlcode: +467

sqlstate: 0100D

SQL0469N パラメーター・モード **OUT** または **INOUT** は、特定名 *specific-name* で *routine-name* という名前のルーチンのパラメーター (パラメーター番号 *number*、名前 *parameter-name*) には無効です。

説明: SQL プロシージャのパラメーターが **OUT** と宣言され、その対応する引数が有効な割り当てターゲットではありません。パラメーターが **OUT** または **INOUT** として宣言され、その対応する引数が SQL 変数、グローバル変数、または SQL パラメーターでないのは、関数の場合のみです。

定数または式が **OUT** または **INOUT** パラメーターに対して無効な引数の一例です。

たとえば、*my_function* という関数に **OUT** パラメーターが 1 つあるよう宣言された場合、**OUT** パラメーターに渡される引数には値を割り当てることができないため、以下の関数呼び出しは無効です。

```
SET my_variable = my_function( 1 + 2 );
```

ユーザーの処置: SQL プロシージャを呼び出す場合、出力引数を有効な割り当てターゲットに変更してください。関数を呼び出す場合、**OUT** または **INOUT** 引数を SQL 変数、グローバル変数、または SQL パラメーターに変更してください。

sqlcode: -469

sqlstate: 42886

SQL0470N ユーザー定義ルーチン *routine-name* (特定名 *specific-name*) には、パスされなかった引数 *argument* の **NULL** 値があります。

説明: ルーチンには **NULL** 標識を渡さないパラメーター・スタイルで定義された **NULL** 値のある入力引数が

入っているか、あるいはこのパラメーターのデータ・タイプは **NULL** 値をサポートしません。

ユーザーの処置: ルーチンが **NULL** 値で呼び出される場合は、パラメーター・スタイルと入力タイプが **NULL** 値を受け入れ可能であることを確認してください。関数の場合、"**RETURNS NULL ON NULL INPUT**" で関数を作成することができます。

sqlcode: -470

sqlstate: 39004

SQL0471N 理由 *reason-code* のためにルーチン *name* の呼び出しが失敗しました。

説明: ルーチン *name* の呼び出しが失敗しました。理由コード *reason-code* を使用して、失敗の原因の詳細を調べてください。

ユーザーの処置: 理由コードが "**DSNX9**" で始まっている場合は、以下のことが考えられます。

- DB2 Universal Database for z/OS サーバーでルーチンが呼び出されました。サーバーのシステム・コンソールにこのエラーを説明する **DSNX9xx** メッセージが表示される場合があります。DB2 UDB for z/OS サーバーの資料を調べて、理由コードで説明されている条件を正してください。

それ以外の場合、表示された理由コードに対応するアクションは、以下のとおりです。

- 1 SQL ルーチンが前のリリースの製品で作成されていて、DBMS はそれを現行リリースにマイグレーションできなかったために、呼び出しが失敗しました。ルーチンをドロップして、再び動作するように再作成する必要があります。

sqlcode: -471

sqlstate: 55023

SQL0472N 1 つ以上のカーソルが、関数またはメソッド *routine-name* (特定名 *specific-name*) によってオープンされたままでした。

説明: 関数またはメソッド *routine-name* (特定名 *specific-name*) は、呼び出しているステートメントが完了する前にすべてのカーソルをクローズしませんでした。呼び出しているステートメントが完了する前に、関数およびメソッドはすべてのカーソルをクローズする必要があります。

ユーザーの処置: 関数またはメソッドの開発者に問い合わせてください。呼び出しているステートメントが完了する前にすべてのカーソルがクローズされていることを

確認するために、関数またはメソッドを作成しなおす必要があります。

sqlcode: -472

sqlstate: 24517

SQL0473N 組み込みデータ・タイプと同じ名前のユーザー定義データ・タイプは許可されません。

説明: 組み込みデータ・タイプと同じ名前のユーザー定義データ・タイプを作成しようとしているか、そのような名前のユーザー定義データ・タイプを含むデータベースをアップグレードしようとしています。このリリースでは、データ・タイプの名前として

ARRAY、BINARY、CURSOR、DECFLOAT、ROW、VARBINARY、XML が含まれるようになりました。

組み込みデータ・タイプの名前を使ってユーザー定義データ・タイプを作成することはできません。また、区切り文字を追加した場合にもエラーが戻されます。

コマンドまたはステートメントは処理されませんでした。

ユーザーの処置: 以下の中から、適切ないずれかのアクションを行ってください。

- 非予約データ・タイプ名を使ってステートメントを再発行する。
- データベース・アップグレードの前に、このデータ・タイプ、およびこのデータ・タイプを参照するデータベース・オブジェクトをドロップした後、非予約データ・タイプ名を使って再作成する。その後、データベースのアップグレード先となる DB2 コピーから UPGRADE DATABASE コマンドを発行します。

sqlcode: -473

sqlstate: 42918

SQL0475N SOURCE 関数の結果タイプ (*type-1*) は、ユーザー定義関数 *function-name* の RETURNS タイプ (*type-2*) にはキャストできません。

説明: ソースであるユーザー定義関数 (UDF) の CREATE を有効にするには、ソース関数の結果タイプ (*type-1*) が作成される関数の RETURNS タイプ (*type-2*) にキャスト可能でなければなりません。これらのデータ・タイプ間でサポートされるキャストはありません。データ・タイプ間のキャストの詳細については、「SQL リファレンス」を参照してください。

ユーザーの処置: RETURNS データ・タイプまたは SOURCE 関数識別を変更して、SOURCE 関数の結果タ

イプが RETURNS データ・タイプにキャストできるようにしてください。

sqlcode: -475

sqlstate: 42866

SQL0476N ルーチン *function-name* への参照がシグニチャーなしで行われましたが、ルーチンはそのスキーマでユニークではありません。

説明: シグニチャーなしの関数あるいはストアード・プロシージャの参照は許可されていますが、示された関数あるいはストアード・プロシージャ *function-name* がそのスキーマ内でユニークではありませんでした。ルーチンがメソッドであれば、シグニチャーのない参照が許可されていますが、ここで示されているメソッドはデータ・タイプとしてユニークではありません。

DROP FUNCTION/PROCEDURE および COMMENT ON FUNCTION/PROCEDURE ステートメントでは、無修飾参照がステートメント許可 ID で修飾され、問題が見つかる可能性があるスキーマになることに注意してください。CREATE 関数の SOURCE 節では、修飾は現行パスから作成されます。この場合は、この名前を持つ関数の入ったパスの最初のスキーマが、同じ名前の別の関数を持っています。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: パススルー・セッションでは、ステートメントが CREATE FUNCTION MAPPING ステートメントの場合、このエラーは、関数のマッピングを 1 つのリモート関数から複数のローカル関数に作成しようとしたことを示します。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを行って、参照を訂正してください。

- シグニチャーを完了する
- 目的のルーチンの SPECIFIC 名を使用する
- SQL パスを変更する

その後で再試行してください。

sqlcode: -476

sqlstate: 42725

SQL0478N オブジェクト・タイプ *object-type1* は、このオブジェクトに從属するタイプ *object-type2* のオブジェクト *object-name* が存在するため、DROP、ALTER、TRANSFER OWNERSHIP、または REVOKE できません。

SQL0480N

説明: この *object-type1* には従属関係が存在するため、要求された DROP、ALTER、TRANSFER OWNERSHIP または REVOKE は処理できません。

タイプ *object-type2* (オブジェクト *object-name* はその一例) のオブジェクトに定義されている制約従属関係があります。

object-type1 が ALIAS の場合、DROP の従属関係には、この別名を参照する行許可または列マスクが含まれている可能性があります。

object-type1 が SYNONYM の場合、DROP の従属関係には、このシノニムを参照する行許可または列マスクが含まれている可能性があります。

object-type1 が TABLE の場合、DROP の従属関係には、この表を参照する行許可または列マスクが含まれている可能性があります。

object-type1 が VIEW の場合、DROP の従属関係には、このビューを参照する行許可または列マスクが含まれている可能性があります。

object-type1 が TABLE の場合、この表を対応する履歴表として使用する、システム期間テンポラル表が存在します。

object-type1 が TABLESPACE の場合、対応する履歴表がこの表スペース内にあるシステム期間テンポラル表が存在します。

DB2 for z/OS サーバーで、*object-type1* が DATABASE の場合、対応する履歴表がこのデータベース内にあるシステム期間テンポラル表が存在します。

オブジェクトに、間接的な従属関係がある可能性があります。システム・カタログの情報を参照することにより、オブジェクト *object-name* との直接的または間接的な従属関係を持つデータベース・オブジェクトがあるかどうか判別することができます。

例えば次のように、行許可が表と間接的な従属関係にあるため、その表でのドロップは失敗します。

- 表 T1 が作成される
- ビュー V1 が T1 を使って定義されている
- V1 を使用する許可 P1 が定義される
- P1 は V1 と、V1 は T1 と従属関係にあるため、P1 は T1 と間接的に従属関係にあり、表 T1 のドロップは失敗します

例えば次のように、他の関数との直接的な従属関係と、ビューとの間接的な従属関係があるため、その関数でのドロップは失敗します。

- 関数 F1 のソースが関数 F2 である
- ビュー V1 が F1 を使って定義されている

- F1 と F2 には直接的な従属関係があり、V1 と F2 には間接的な従属関係があるため、F2 のドロップは失敗します

ユーザーの処置:

1. システム・カタログを調べ、オブジェクト *object-name* との直接的または間接的な従属関係を持つオブジェクトを判別してください。
2. このオブジェクトに対する従属関係を除去してから、要求を再発行してください。

sqlcode: -478

sqlstate: 42893

SQL0480N プロシージャ *procedure-name* は呼び出されていません。

説明: ASSOCIATE LOCATORS ステートメントで識別されているプロシージャがアプリケーション処理内で呼び出されていないか、またはプロシージャは呼び出されていますが、ステートメントの前に暗黙的または明示的なコミットが行われました。

ユーザーの処置: CALL ステートメントにプロシージャ名を指定するための構文が、ASSOCIATE LOCATORS ステートメントの構文と同じになるよう、ステートメントを訂正してください。修飾されていない名前がプロシージャを呼び出すために使用されている場合、別のステートメントに 1 部構成の名前も指定しなければなりません。ステートメントを発行し直してください。

sqlcode: -0480

sqlstate: 51030

SQL0481N GROUP BY 節に、*element-2* 内でネストされている *element-1* が含まれています。

説明: 次のネストのタイプは、GROUP BY 節内で許可されていません:

- CUBE CUBE, ROLLUP, または GEL 内
- ROLLUP CUBE, ROLLUP, または GEL 内
- () CUBE, ROLLUP, または GEL 内
- GROUPING SETS GROUPING SETS, CUBE, ROLLUP, または GEL 内
- いずれかの関数、CASE 式、または CAST 指定内の CUBE, ROLLUP, (), GROUPING SETS。GEL は GROUP BY 節の構文図でグループ化式リストとして表示されるエレメントを表しています。

GEL は GROUP BY 節の構文図でグループ化式リストとして表示されるエレメントを表しています。

いくつかのインスタンスでは、値“---”が *element 2* について示されます。この場合、“---”は CUBE、ROLLUP、GROUPING SETS、または GEL のいずれかを表しています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ネストを除去する GROUP BY 節を修正してください。

sqlcode: -481

sqlstate: 428B0

SQL0483N ユーザー定義関数 *function-name* の CREATE のパラメーターの数が、SOURCE 関数のパラメーターの数と一致しません。

説明: 別の関数がソースであるユーザー定義関数 *function-name* の作成が試みられました。以下のいずれかの状態になっています。

- SOURCE 節が、関数名 (入力パラメーター・リスト) を使用してソース関数を識別しましたが、リスト内のタイプの数が、作成される関数のパラメーターの数と異なります。
- SOURCE 節が、異なる構文を使用してソース関数を識別しましたが、その関数のタイプの数が、作成される関数のパラメーターの数と異なります。

ユーザーの処置: SOURCE 関数と作成される関数のパラメーターの数は、同じでなければなりません。

SOURCE 関数の識別を、以下のように変更する必要があります。

- 入力パラメーター・リストを修正する。
- 適切な関数を識別するように、関数名または関数特定名を修正する。

関数の正しい解決が行われるように、パスの修正が必要になる場合もあります。

sqlcode: -483

sqlstate: 42885

SQL0486N BINARY および VARBINARY データ・タイプは現在内部的にのみサポートされています。

説明: ステートメントの 1 つ以上のデータ・タイプが BINARY または VARBINARY です。これは、DB2 の現行バージョンではサポートされていません。

ユーザーの処置: データ・タイプを変更して、ステートメントの再サブミットを行ってください。

sqlcode: -486

sqlstate: 42991

SQL0487N ルーチン *routine-name* (特定名 *specific-name*) が、SQL ステートメントを実行しようと試みました。

説明: ルーチンの本体を実行するためのプログラムは、SQL ステートメントの実行を許可されていません。このルーチン *routine-name* (特定名 *specific-name*) には、SQL ステートメントが入っているか、あるいはこのルーチンは、SQL ステートメントを使用するプロシージャ (SYSPROC.ADMIN_CMD プロシージャなど) を呼び出しています。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを除去した後で、プログラムを再コンパイルしてください。ルーチンを定義しているステートメントへの指定を許可されている SQL のレベルを調べてください。

sqlcode: -487

sqlstate: 38001

SQL0489N SELECT または VALUES リスト項目内の関数 *function-name* が、BOOLEAN 結果を作成しました。

説明: 関数 *function-name* が、ブール結果を戻す述部としての使用を定義されています。このような結果は、選択リストでは無効です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 関数名を訂正するか、または関数の使用を除去してください。

sqlcode: -489

sqlstate: 42844

SQL0490N SQL ステートメントまたはコマンドに直接指定されている数値 *number* は、このコンテキストにおける許容値 (*minval,maxval*) の範囲外です。

説明: 数値 (*number*) は、指定されたコンテキストで無効です。このコンテキストでの最小の許容値は、*minval* です。このコンテキストで許容される最大値は、*maxval* です。n は *minval* と *maxval* で指定された範囲内でなければなりません (*minval* =< n => *maxval*)。

表スペースを作成または変更している場合、最小値および最大値は表スペースのページ・サイズによって異なる場合があります。表スペースの限界について詳しくは、「SQL リファレンス」を参照してください。

ユーザーの処置: ステートメントまたはコマンドで、値

SQL0491N

n を有効な値に変更してください。

sqlcode: -490

sqlstate: 428B7

SQL0491N *routine-name* の定義に使用される **CREATE FUNCTION** または **ALTER MODULE** ステートメントは、**RETURNS** 節、さらに **EXTERNAL** 節 (他の必須キーワードとともに)、**SQL** 関数本体、または **SOURCE** 節のいずれかが必要です。

説明: 必要な節が、ルーチン *routine-name* の定義に見つかりません。 **EXTERNAL** が指定されている場合は、以下のいずれかの節も指定されている必要があります: **LANGUAGE**、**PARAMETER STYLE**。

SQL 関数を定義する場合は、**ALTER MODULE** の **PUBLISH** アクションを使用して **SQL** 関数プロトタイプを定義するのではない限り、**SQL** 関数本体を組み込まなければなりません。

ユーザーの処置: 足りない節を追加した後で、もう一度やり直してください。

sqlcode: -491

sqlstate: 42601

SQL0492N ユーザー定義関数 *function-name*、パラメーター番号 *number* の **CREATE** に問題があります。 **SOURCE** 関数との不一致になる場合があります。

説明: 関数 *function-name* の位置 *number* にあるパラメーターがエラーであるため、**CREATE** が実行できません。ソース関数の位置 *number* にあるパラメーターが、作成中の関数の対応するパラメーターにキャストできません。

ユーザーの処置: 以下の修正が考えられます。

- 別のソース関数を識別します。
- 作成中の関数のパラメーターのデータ・タイプを変更して、ソース関数のデータ・タイプがこのデータ・タイプにキャストできるようにします。

sqlcode: -492

sqlstate: 42879

SQL0493N ルーチン *routine-name* (特定名 *specific-name*) が、構文的または数値的に無効な日付、時刻、またはタイム・スタンプ値を返しました。

説明: ユーザー定義関数 (UDF) またはメソッド

routine-name (特定名 *specific-name*) の本体からが、無効な日付、時刻、またはタイム・スタンプ値が戻されました。

構文的に無効な日付の値の例は '1994-12*25' で、'*' を '.' にする必要があります。数知的に無効な時刻の値の例は '11.71.22' で、時間には 71 分は存在しません。

ユーザーの処置: ルーチンを修正する必要があります。データベース管理者、またはルーチンの作成者に連絡してください。

sqlcode: -493

sqlstate: 22007

SQL0494W 結果セットの数がロケーターの数よりも大きくなっています。

説明: **ASSOCIATE LOCATORS** ステートメントで指定された結果セット・ロケーターの数は、ストアード・プロシージャによって戻された結果セットの数未満です。最初の“n”個の結果セット・ロケーター値が戻されます。“n”は **SQL** ステートメントで指定された結果セット・ロケーター変数の数値です。

SQL ステートメントが成功しました。 **SQLWARN3** フィールドが 'Z' に設定されました。

ユーザーの処置: **SQL** ステートメントで指定された結果セット・ロケーター変数の数値を増やします。

sqlcode: +494

sqlstate: 01614

SQL0495N コスト・カテゴリー *cost-category* で、*estimate-amount1* プロセッサ秒の見積もられたプロセッサ・コスト (*estimate-amount2* サービス単位) が、*limit-amount* サービス単位のリソース制限エラーしきい値を超えています。

説明: 動的 **INSERT**、**UPDATE**、**DELETE**、または **SELECT SQL** ステートメントの準備の結果、リソース限定表 (RLST) で指定されたエラーしきい値を超えたコスト見積もりになりました。

DB2 のコスト・カテゴリー値が "B" になった場合もこのエラーが発行され、RLST の **RLF_CATEGORY_B** 列で指定されたデフォルトのアクションがエラーを発行します。

estimate_amount1

準備された **INSERT**、**UPDATE**、**DELETE** または **SELECT** ステートメントが実行される場合のコストの見積もり (プロセッサ秒)。

estimate_amount2

準備された INSERT、UPDATE、DELETE または SELECT ステートメントが実行される場合のコストの見積もり (サービス単位)。

cost-category

この SQL ステートメントについての DB2 のコスト・カテゴリー。可能な値は A または B です。

limit-amount

RLST の RLFASUERR 列で指定されたエラーしきい値 (サービス単位)。

動的 INSERT、UPDATE、DELETE、または SELECT ステートメントの準備に失敗しました。

ユーザーの処置: コスト・カテゴリー値が "B" であるためにこの SQLCODE が返された場合は、ステートメントがパラメーター・マーカを使用しているか、または参照される表と列について使用できない統計が存在する可能性があります。管理者が、参照された表でユーティリティー RUNSTATS を実行したことを確認してください。また、ステートメントが実行されるときに UDF が呼び出されるか、または INSERT、UPDATE、または DELETE ステートメントについては、変更された表にトリガーが定義されている可能性もあります。このステートメントについて DSN_STATEMNT_TABLE または IFCID 22 レコードをチェックして、この SQL ステートメントがコスト・カテゴリー "B" になった理由を判別してください。プログラムを変えられない場合、または統計を入手できない場合は、管理者に問い合わせ RLST の RLF_CATEGORY_B 列の値をステートメントを実行できるようにする "Y" に変更するか、またはエラーではなく警告を返す "W" に変更してください。

SQL ステートメントがプロセッサ・リソースを多く使用しすぎていることが警告の原因である場合は、ステートメントが効率良く実行されるために書き直してみてください。あるいは、管理者に RLST のエラーしきい値を増やすように依頼してください。

sqlcode: -495

sqlstate: 57051

SQL0499N カーソル *cursor-name* は、プロシージャ *procedure-name* から、この結果セットまたは別の結果セットに対して、すでに割り当てられています。

説明: 結果セットにカーソルを割り当てようとしたますが、複数のカーソルがすでにプロシージャ *procedure-name* に割り振られています。

ユーザーの処置: ターゲットの結果セットが以前にカーソルに割り当てられているか、判別してください。複数

のカーソルがプロシージャ *procedure-name* に割り振られている場合、1 つのカーソルだけが、ストアード・プロシージャの結果セットを処理するために使用されるようにしてください。

sqlcode: -499

sqlstate: 24516

第 2 章 SQL0500 - SQL0999

SQL0501N FETCH ステートメントまたは CLOSE ステートメントに指定されたカーソルがオープンしていないか、またはカーソル・スカラー関数参照内のカーソル変数がオープンしていません。

説明: プログラムが、以下のいずれかを実行しようとしていました。

- 指定されたカーソルがオープンされていないときに、プログラムが FETCH (カーソルを使用) を試みしました。
- 指定されたカーソルがオープンされていないときに、プログラムがカーソルの CLOSE を試みしました。
- OPEN ステートメントでカーソル変数を参照しましたが、カーソル変数がオープンしていませんでした。
- CURSOR_ROWCOUNT 関数などのカーソル・スカラー関数を参照しましたが、カーソル変数がオープンしていませんでした。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: カーソルをクローズした可能性がある前のメッセージの (SQLCODE) をチェックしてください。カーソルをクローズした後では、フェッチまたはカーソルをクローズするステートメントに、SQLCODE -501 が返されます。

前回の SQLCODE が発行されていない場合は、アプリケーション・プログラムを修正して、FETCH または CLOSE ステートメントが実行されるときに、カーソルがオープンされているようにしてください。

カーソル変数がカーソル・スカラー関数内で参照されている場合は、カーソルが非 NULL であり、定義済みで、オープンしていることを確認してください。あるいは、カーソル変数をその状態の別のカーソル変数と置き換えてください。

sqlcode: -501

sqlstate: 24501

SQL0502N OPEN ステートメントに指定されたカーソルは、すでにオープンしています。

説明: プログラムが、すでにオープンしているカーソルに対して OPEN ステートメントを実行しようとしていました。

ステートメントは処理できません。カーソルは変更されません。

ユーザーの処置: アプリケーション・プログラムを修正して、すでにオープンされているカーソルに対して OPEN ステートメントを実行しないようにしてください。

sqlcode: -502

sqlstate: 24502

SQL0503N カーソルの SELECT ステートメントの FOR UPDATE 節で列が識別されていないので、この列は更新できません。

説明: プログラムが、カーソル宣言または準備された SELECT ステートメント内の FOR UPDATE 節内で識別されていない表の列内の値を、カーソルを使用して更新しようとしていました。

更新される列は、カーソル宣言の FOR UPDATE 節内で識別される必要があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: アプリケーション・プログラムを修正してください。列の更新が必要な場合は、その名前をカーソル宣言の FOR UPDATE 節に追加してください。

sqlcode: -503

sqlstate: 42912

SQL0504N カーソル *name* が定義されていません。

説明: UPDATE または DELETE WHERE CURRENT OF *name* が指定されていますが、カーソル *name* がアプリケーション・プログラムに宣言されていません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: アプリケーション・プログラムが完全であることを確認して、カーソル名のつづりのエラーを訂正してください。

sqlcode: -504

sqlstate: 34000

SQL0505N カーソル *name* はすでに定義されています。

説明: DECLARE ステートメントに指定されているカーソル名は、すでに宣言されています。

SQL0507N • SQL0510N

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: カーソル名のつづりが正しいことを確認してください。

SQL0507N UPDATE または DELETE ステートメントに指定されたカーソルは、オープンしていません。

説明: 指定されたカーソルがオープンされていないときに、プログラムが UPDATE または DELETE WHERE CURRENT OF カーソル・ステートメントを実行しようとした。

ステートメントは処理できません。更新または削除は実行されません。

ユーザーの処置: カーソルをクローズした可能性がある前のメッセージの (SQLCODE) をチェックしてください。カーソルがクローズした後に、フェッチまたはカーソルをクローズするステートメントを使用すると、SQLCODE -501 を受け取り、更新または削除ステートメントを使用すると、SQLCODE -507 を受け取ります。アプリケーション・プログラムの論理を修正して、UPDATE または DELETE ステートメントが実行されたときに、指定したカーソルがオープンされているようにしてください。

sqlcode: -507

sqlstate: 24501

SQL0508N UPDATE または DELETE ステートメントに指定されたカーソルが、行を示していません。

説明: 指定されたカーソルがオブジェクト表の行を示していないときに、プログラムが UPDATE または DELETE WHERE CURRENT OF カーソル・ステートメントを実行しようとした。カーソルは、更新または削除する行を示している必要があります。

行が削除されるときに、カーソルが行を示しません。これには、ROLLBACK TO SAVEPOINT が実行されるときの保管点内のカーソルの使用も含まれます。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: リモート・データ・ソースのレコードが、別のアプリケーション (またはこのアプリケーション内の別なカーソル) によって更新および/または削除されたため、レコードは存在しません。

ステートメントは処理できません。更新または削除されるデータはありません。

ユーザーの処置: アプリケーション・プログラムの論理を修正して、UPDATE または DELETE ステートメントが実行される前に、カーソルがオブジェクト表の意図し

た行を正しく示すようにしてください。FETCH がメッセージ SQL0100W (SQLCODE = 100) を返した場合は、カーソルが行を示していないことに注意してください。

sqlcode: -508

sqlstate: 24504

SQL0509N UPDATE または DELETE ステートメントに指定された表が、カーソルの SELECT に指定された表と同じではありません。

説明: プログラムが UPDATE または DELETE WHERE CURRENT OF カーソル・ステートメントを実行しようとしたが、そのステートメントに指定された表名が、カーソルを宣言する SELECT ステートメントに指定された表の名前と一致しませんでした。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: アプリケーション・プログラムを修正して、UPDATE または DELETE ステートメントに指定した表とカーソル宣言に指定した表が同じになるようにしてください。

sqlcode: -509

sqlstate: 42827

SQL0510N 指定されたカーソルに対して、UPDATE または DELETE は許容されていません。

説明: 要求された更新または削除処理が許されていない表またはビュー定義に対して、プログラムが UPDATE または DELETE WHERE CURRENT OF カーソル・ステートメントを実行しようとした。たとえば、このエラーは読み取り専用のビューからの削除、またはカーソルが FOR UPDATE 節とともに定義されていない場合の更新で起きる可能性があります。

SELECT ステートメントに以下が含まれる場合、データベース・マネージャーにおいてビューが読み取り専用 (RO) になります。

- DISTINCT キーワード
- SELECT リスト内の列関数
- GROUP BY または HAVING 節
- 以下のいずれかの項目を指定する FROM 節
 - 複数の表またはビュー
 - 読み取り専用のビュー (SYSCAT.SYSVIEWS の READONLY 列が 'Y' に設定されています)
- セット演算子 (UNION ALL 以外)

これらの条件は SELECT ステートメントの副照会には適用されませんので、注意してください。

カーソルが FOR FETCH ONLY 節とともに宣言されています。

カーソルが未確定で、BLOCKING ALL BIND オプションが指定されています。

カーソルが INSTEAD OF UPDATE (または DELETE) トリガーを含むビューを参照しています。

カーソルは、WITH ROW MOVEMENT 節で定義され、UPDATE WHERE CURRENT OF CURSOR が試行されたビューを直接的または間接的に参照します。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーがステートメントを失敗して、カーソルが読み取り専用、SELECT または VALUES ステートメントに基づいている場合は、そのカーソルに対して、更新または削除ステートメントを発行しないでください。

データベース・マネージャーでステートメントが失敗し、カーソルが読み取り専用 SELECT または VALUES ステートメントに基づいておらず、FOR FETCH ONLY 節とともに定義されている場合は、この節をカーソル定義から除去するか、または更新または削除ステートメントを発行しないでください。

データベース・マネージャーがステートメントを失敗し、カーソルがフェッチ専用、あるいはその定義またはコンテキストから更新可能のどちらであるかを判別できない場合は、BLOCKING NO または BLOCKING UNAMBIG BIND オプションを使用して、プログラムを再バインドしてください。

データベース・マネージャーがステートメントを失敗して、カーソルが INSTEAD OF UPDATE (または DELETE) トリガーを持つビューに基づいている場合は、検索済み UPDATE (または DELETE) ステートメントを使用してください。

データベース・マネージャーがステートメントを失敗して、カーソルが WITH ROW MOVEMENT 節で定義されたビューを直接的または間接的に参照する場合は、更新ステートメントを発行しないでください。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 問題を切り分けて要求失敗の原因となったデータ・ソースを突き止めてください。データ・ソースの要求が失敗する場合、データ・ソースの制約事項をチェックして、問題の原因および解決を判別してください。データ・ソースに制約事項がある場合は、そのデータ・ソースの SQL リファレンスを参照して、オブジェクトがなぜ更新不可能かを判別してください。

sqlcode: -510

sqlstate: 42828

SQL0511N カーソルで指定された表が変更できないので、FOR UPDATE 節は使用できません。

説明: SELECT または VALUES ステートメントの結果表は更新できません。

カーソルが、以下を含む VALUES ステートメントまたは SELECT ステートメントにもとづいている場合、結果表は読み取り専用になります。

- DISTINCT キーワード
- SELECT リスト内の列関数
- GROUP BY または HAVING 節
- 以下のいずれかの項目を指定する FROM 節
 - 複数の表またはビュー
 - 読み取り専用ビュー
 - 型付き表あるいはビューで使用する OUTER 節
 - データ変更ステートメント
- セット演算子 (UNION ALL 以外)

これらの条件は SELECT ステートメントの副照会には適用されませんので、注意してください。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 指定されたように、結果表では更新を実行しないでください。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 問題を切り分けて要求失敗の原因となったデータ・ソースを突き止めてください。

データ・ソースの要求が失敗する場合、データ・ソースの制約事項をチェックして、問題の原因および解決を判別してください。

データ・ソースに制約事項がある場合は、そのデータ・ソースの SQL リファレンスを参照して、オブジェクトがなぜ更新不可能かを判別してください。

sqlcode: -511

sqlstate: 42829

SQL0512N リモート・オブジェクトを参照する 3 部構成の名前 *name* は、それが表示されるコンテキスト内でサポートされません。理由コード = *reason-code*。

説明: 以下のように *reason-code* によって示されている、リモート・オブジェクトを参照する 3 部構成の名

SQL0513W

前についての制限に違反しているため、ステートメントを処理できません。

1

IMPORT および EXPORT は、リモート・オブジェクトを参照する 3 部構成の名前に対してサポートされません。

2

リモート・オブジェクトを参照する 3 部構成の名前での CREATE ALIAS は、パーティション・データベースではサポートされません。

3

CREATE INDEX、GRANT、REVOKE、LOCK TABLE、ALTER NICKNAME、DROP NICKNAME、COMMENT、RENAME、CREATE VIEW、CREATE TABLE、CREATE TRIGGER、CREATE FUNCTION (SQL および外部)、CREATE PROCEDURE (SQL および外部)、CREATE METHOD および REFRESH TABLE は、リモート・オブジェクトを参照する 3 部構成の名前に対してサポートされません。

4

リモート・オブジェクトを参照する 3 部構成の名前は、静的 SQL ではサポートされません。

ユーザーの処置: リモート・オブジェクトを参照する 3 部構成の名前は、それがサポートされていない場合は指定しないでください。

sqlcode: -512

sqlstate: 56023

SQL0513W この SQL ステートメントは、表全体またはビュー全体を変更します。

説明: UPDATE または DELETE ステートメントには、WHERE 節が入っていないので、このステートメントが実行されると、表またはビューのすべての行が変更されます。

このステートメントは受け付けられます。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: すべてのデータ・ソースがこの警告状態を報告するわけではありません。フェデレーテッド・サーバーは条件が存在すればこの警告の発行を試行しますが、フェデレーテッド・サーバーが常にこの条件を検出できる保証はありません。UPDATE/DELETE 操作が全体表またはビューへ影響を及ぼすことを排除する目的で、この警告を使用しないでください。

ユーザーの処置: 実際にすべての表またはビューを修正する必要があることを確認してください。

sqlcode: +513

sqlstate: 01504

SQL0514N カーソル *name* が、準備された状態ではありません。

説明: このアプリケーション・プログラムが、準備状態ではないカーソルを使用しようとしていました。カーソルは、以下の条件に一致するステートメントに関連付けられています。

1. 準備が整っていない
2. パッケージの明示的または暗黙的な再バインドによって無効にされている
3. 以前のトランザクションで準備されており、アプリケーションのパッケージが KEEP DYNAMIC NO でバインドされている

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置:

1. 指定されているステートメントを DECLARE CURSOR ステートメントで準備してから、カーソルのオープンを試行してください。
2. カーソルの PREPARE を再発行する必要があります。
3. COMMIT または ROLLBACK の後にステートメントを再度準備する必要があります。または、パッケージを KEEP DYNAMIC YES でバインドするか、ALTER PACKAGE ステートメントを使用して KEEP DYNAMIC プロパティを YES に変更します。

sqlcode: -514

sqlstate: 26501

SQL0516N DESCRIBE ステートメントが、準備されたステートメントを指定していません。

説明: DESCRIBE ステートメントのステートメント名は、同一のデータベース・トランザクションで用意されたステートメントを指定する必要があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメント名が準備されたステートメントを指定していることを確認してください。

sqlcode: -516

sqlstate: 26501

SQL0517N このカーソル *name* は **SELECT** または **VALUES** ステートメントでない準備されたステートメントを識別しています。

説明: カーソル *name* は、カーソル宣言に指定されている準備されたステートメントが、**SELECT** または **VALUES** ステートメントではないために、指定された通りに使用できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメント名が、カーソル *name* の **PREPARE** ステートメントおよび **DECLARE CURSOR** ステートメントに、正しく指定されていることを確認してください。または、プログラムを修正して、準備された **SELECT** または **VALUES** ステートメントのみが、カーソル宣言との関連で使用されるようにしてください。

sqlcode: -517

sqlstate: 07005

SQL0518N **EXECUTE** ステートメントに指定されたステートメントが準備状態ではないか、あるいは **SELECT** または **VALUES** ステートメントです。

説明: アプリケーション・プログラムが、以下のいずれかの状態のステートメントの **EXECUTE** を試行しました。

1. 準備が整っていない
2. **SELECT** または **VALUES** ステートメントである
3. パッケージの明示的または暗黙的な再バインドによって無効にされている
4. 以前のトランザクションで準備されており、アプリケーションのパッケージが **KEEPDYNAMIC NO** でバインドされている

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置:

1. **EXECUTE** を試行する前にステートメントを準備します。
2. ステートメントが **SELECT** または **VALUES** ステートメントではないことを確認します。
3. カーソルの **PREPARE** を再発行する必要があります。
4. **COMMIT** または **ROLLBACK** の後にステートメントを再度準備する必要があります。または、パッケージを **KEEPDYNAMIC YES** でバインドするか、**ALTER PACKAGE** ステートメントを使用して **KEEPDYNAMIC** プロパティを **YES** に変更します。

sqlcode: -518

sqlstate: 07003

SQL0519N **PREPARE** ステートメントが、オープン・カーソル *name* の **SELECT** または **VALUES** ステートメントを識別していません。

説明: カーソルがすでにオープンされているときに、アプリケーション・プログラムが、指定されたカーソルの **SELECT** または **VALUES** ステートメントを準備しようとしました。

ステートメントは準備されません。カーソルは影響を受けません。

ユーザーの処置: アプリケーション・プログラムを修正して、オープン済みのカーソルに対して、**SELECT** または **VALUES** ステートメントを準備しないようにしてください。

sqlcode: -519

sqlstate: 24506

SQL0525N この **SQL** ステートメントはバインド時にエラーになったため実行できません。セクション = *section-number* パッケージ = *pkgschema.pkgname* 整合性トークン = *Xcontoken*。

説明: 以下のいずれかです。

- パッケージが **BIND** されたときにステートメントにエラーがありましたが、オプション **SQLERROR** (**CONTINUE**) が使用されたためエラーは無視されました。ステートメントにエラーが入っているため、実行できません。
- このステートメントはこのロケーションでは実行可能ステートメントでないか、または **DB2** アプリケーション・リクエストャーによってのみ実行可能である可能性があります。

contoken は 16 進数で指定される点に注意してください。

ステートメントは実行できません。

ユーザーの処置: **SQL** ステートメントが指定のロケーションで実行しない場合は、プログラムを訂正し、エラーのステートメントがそのロケーションで実行されないようにしてください。パッケージをプリコンパイル、コンパイル、およびバインド置換してください。この **SQL** ステートメントが示されたロケーションで実行されることになっている場合は、見つかった問題を訂正して、**ACTION(REPLACE)** を使って **PREP** または **BIND**

SQL0526N

を再発行してください。パッケージの複数のバージョンがバインドされている場合は、次の SELECT ステートメントを発行してどのバージョンがエラーになっているのかを判別してください。 SELECT PKGVERSION FROM SYSCAT.PACKAGES where PKGSCHEMA='pkgschema' AND PKGNAME = 'pkgname' and HEX(UNIQUE_ID) = 'contoken'

sqlcode: -525

sqlstate: 51015

SQL0526N 要求された関数は、一時表に適用されません。

説明: 実行されている SQL ステートメントは、作成済み一時表または宣言済み一時表を参照しています。作成済み一時表または宣言済み一時表は、このコンテキストでは使用できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 作成済み一時表または宣言済み一時表に対するオブジェクト参照が存在しないよう、SQL ステートメントを修正してください。

sqlcode: -526

sqlstate: 42995

SQL0528N 表またはニックネーム *tablename-or-nickname* には、制約 *name* と重複しているユニーク制約が既に存在します。

説明: UNIQUE 節は、PRIMARY KEY 節、別の UNIQUE 節または PRIMARY KEY と同一の列リストを使用するか、または表 *tablename* にすでに存在している UNIQUE 節を使用します。ユニーク制約の重複は許可されていません。

いずれかが指定または存在している場合は、*name* は制約名になります。制約名が指定されていない場合、*name* は、3 つのピリオドに続く UNIQUE 節の列リストで指定された最初の列名です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 重複 UNIQUE 節を除去するか、あるいは列リストをユニーク制約の一部でない列のセットに変更してください。

sqlcode: -528

sqlstate: 42891

SQL0530N FOREIGN KEY *constraint-name* の挿入または更新の値は、親表の親キーの値と同じではありません。

説明: オブジェクト表の外部キーに値を設定しようとしたのですが、この値は親表の親キーの値と同じではありません。

行を従属表へ挿入する時には、外部キーの挿入値は、関連するリレーションシップの親表の行の親キーの値と等しくしてください。

同様に、外部キーの値を更新する時には、外部キーの更新値は、ステートメント完了時の関係する親表の行の親キーの値と等しくしてください。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 制約がデータ・ソースに存在する可能性があります (子および親表がデータ・ソース上に存在する場合)。

一部のデータ・ソースは、*constraint name* に適切な値を提供しません。この場合、メッセージ・トークンは "<data source>:UNKNOWN" のフォーマットになります。これは、指定されたデータ・ソースの実際の値が不明であることを示します。

ステートメントは実行できませんでした。オブジェクト表の内容は変更されません。

ユーザーの処置: まず、外部キーの挿入値または更新値を調べた後で、親表の各親キーと比較をして、問題の判別と訂正を行ってください。

sqlcode: -530

sqlstate: 23503

SQL0531N リレーションシップ *constraint-name* の親行の親キーを更新できません。

説明: 操作は親表の行で親キーの更新を試行しましたが、指定行の親キーは *constraint-name* 制約において関連付けられる従属表の従属行を持っていました。

制約 *constraint-name* の更新規則が NO ACTION の時、親行にある親キーの値は、親行にステートメント完了時に従属行がある場合は、更新することはできません。

制約 *constraint-name* の更新規則が RESTRICT の時、親行にある親キーの値は、親行を更新しようとした時に、親行に従属行がある場合は、更新することはできません。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 制約がデータ・ソースに存在する可能性があります (子および親表がデータ・ソース上に存在する場合)。

一部のデータ・ソースは、*constraint name* に適切な値を提供しません。この場合、メッセージ・トークンは "<data source>:UNKNOWN" のフォーマットになります。

す。これは、指定されたデータ・ソースの実際の値が不明であることを示します。

ステートメントは実行できませんでした。対象表の内容は変更されません。

ユーザーの処置: オブジェクト表の親キーおよび従属表の外部キーを調べて親キーの指定行の値が変更されているかを判別してください。問題が明らかにならない場合は、オブジェクト表および従属表の内容を調べて、問題の判別と訂正を行ってください。

sqlcode: -531

sqlstate: 23001, 23504

SQL0532N リレーションシップ *constraint-name* が削除を制限しているため、親行が削除できません。

説明: 親表の指定行の削除する操作をしましたが、指定行の親キーには参照制約 *constraint-name* に従属行があり、NO ACTION または RESTRICT の削除規則がリレーションシップに指定されています。

制約 *constraint-name* の削除規則が NO ACTION のとき、従属行がステートメント完了時に親キーにまだ依存している場合は親表の行を削除できません。

制約 *constraint-name* の削除規則が RESTRICT のとき、親行が削除時に従属行を持っている場合は親表の行を削除できません。

削除によって、NO ACTION または RESTRICT の削除規則を持つ従属表で他の行がカスケードして削除される可能性があることに注意してください。このように、制約 *constraint-name* はオリジナル削除操作とは別の表にある可能性があります。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 制約がデータ・ソースに存在する可能性があります (子および親表がデータ・ソース上に存在する場合)。

一部のデータ・ソースは、*constraint name* に適切な値を提供しません。上記の場合、実際の値は不明であることを示す値 (たとえば“unknown”) が該当するフィールドに入ります。

ステートメントは実行できませんでした。表の内容は変更されません。

ユーザーの処置: すべての下層表の削除規則を調べて、問題の判別と訂正を行ってください。関係する特定の表は、リレーションシップ *constraint-name* から判別できます。

sqlcode: -532

sqlstate: 23001, 23504

SQL0533N リレーションシップが全選択の結果を 1 行に制限しているため、INSERT ステートメントは無効です。

説明: 全選択を使用する INSERT 処理が、同じ参照制約内で親と従属である表に、複数行を挿入しようとした。

INSERT 処理の全選択は、1 行のデータしか返すことはできません。

INSERT ステートメントを実行できませんでした。オブジェクト表の内容は変更されません。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 制約がデータ・ソースに存在する可能性があります (子および親表がデータ・ソース上に存在する場合)。

ユーザーの処置: 全選択の探索条件を調べて、1 行のデータのみが選択されていることを確認してください。

sqlcode: -533

sqlstate: 21501

SQL0534N 複数行の更新は無効です。

説明: UPDATE 処理が、主キーまたはユニーク索引に組み込まれた列の複数行更新を実行しようとした。

主キーまたはユニーク索引の列の複数行更新はサポートされていません。

UPDATE ステートメントは実行できませんでした。表の内容は変更されません。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 制約がフェデレーテッド・サーバーに存在するか (子および親表がフェデレーテッド・サーバーに表として存在する場合)、またはデータ・ソースに存在する (子および親表がデータ・ソースに存在する) 可能性があります。

ユーザーの処置: UPDATE ステートメントの探索条件を、オブジェクト表の 1 行のみを更新するようにしてください。

sqlcode: -534

sqlstate: 21502

SQL0535N 自己参照リレーションシップが削除を 1 行に制限しているため、DELETE ステートメントは無効です。

説明: WHERE 節付きの DELETE 処理が、RESTRICT または SET NULL 削除規則を持つ参照制約において同じリレーションシップにある親表と従属表から、複数行を削除しようとした。

SQL0536N

DELETE 処理の WHERE 節では、1 行のデータしか選択できません。

DELETE ステートメントは実行できませんでした。オブジェクト表の内容は変更されません。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 制約がデータ・ソースに存在する可能性があります (子および親表がデータ・ソース上に存在する場合)。

ユーザーの処置: WHERE 節の探索条件を調べて、1 行のデータのみが選択されていることを確認してください。

注: これは、バージョン 2 以前の DB2 のリリースのみに関する制約です。

sqlcode: -535

sqlstate: 21504

SQL0536N 表 *name* が処理に影響される可能性があるため、DELETE ステートメントは無効です。

説明: 副照会で参照される、示された表を使用する DELETE 処理が実行されようとしてしました。

以下のいずれかの理由で、DELETE ステートメントの副照会内で参照される、示された表が影響される可能性があります。

- CASCADE または SET NULL 削除規則と関係する DELETE のオブジェクト表の従属
- CASCADE または SET NULL 削除規則と関係する別の表の従属と、その表にカスケードしている可能性のある DELETE のオブジェクト表からの削除

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 制約がデータ・ソースに存在する可能性があります (子および親表がデータ・ソース上に存在する場合)。

一部のデータ・ソースは、*name* に適切な値を提供しません。上記の場合、実際の値は不明であることを示す値 (たとえば“unknown”) が該当するフィールドに入ります。

ステートメントを処理できませんでした。

ユーザーの処置: 表が DELETE ステートメントによる影響を受ける可能性がある場合は、DELETE ステートメントの副照会で、表を参照しないでください。

注: このエラーは、バージョン 2 以前の DB2 と DB2 Connect を介してアクセスされるホストにのみ適用されます。

sqlcode: -536

sqlstate: 42914

SQL0537N キー列リストに列 *column-name* が複数回示されています。

説明: キー列リストに列 *column-name* が複数回出現します。キー列リストは、CREATE または ALTER ステートメントの PRIMARY KEY 節、FOREIGN KEY 節、UNIQUE 節、DISTRIBUTE BY 節、ORGANIZE BY 節、PARTITION BY 節、または機能上の従属関係に現れることが考えられます。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 制約がデータ・ソースに存在する可能性があります (子および親表がデータ・ソース上に存在する場合)。

一部のデータ・ソースは、*column-name* に適切な値を提供しません。上記の場合、実際の値は不明であることを示す値 (たとえば“unknown”) が該当するフィールドに入ります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 重複した列名を除去してください。

sqlcode: -537

sqlstate: 42709

SQL0538N FOREIGN KEY *name* は表またはニックネーム *table-name-or-nickname* の親キーの記述と一致していません。

説明: 示された外部キーの定義は、表またはニックネーム *table-name-or-nickname* の親キーの記述と一致していません。

次のような理由が考えられます。

- 外部キーの列リストの列数が、親キーの列リストの列数と一致していません。
- 外部キーの列リストの列数が、親表または親ニックネームの主キーの列数と一致していません (親キーの列リストが指定されていません)。
- 対応する列の記述は互換性がありません。対応する列に互換データ・タイプがある (どちらの列も数値、文字ストリング、グラフ、日付/時刻であるか、あるいは同じ特殊タイプである) 場合、列の記述が互換になります。
- REFERENCES 節にある列名のリストは、BUSINESS_TIME WITHOUT OVERLAPS で定義されている親キーを参照できません。

name は FOREIGN KEY 節に指定される場合の制約名です。制約名を指定していない場合、*name* は、3 つのピリオドに続く節に指定された最初の列名です。

フェデレーテッド・システム・ユーザーは、一部のデータ・ソースが *name* および *table-name-or-nickname* に適

切な値を提供しないことに注意する必要があります。上記の場合、実際の値は不明であることを示す値（たとえば「unknown」）が該当するフィールドに入ります。

制約がデータ・ソースに存在する可能性があります（子および親表がデータ・ソースに存在する場合）。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 外部キーの記述が親キーの記述に一致するようにこのステートメントを訂正してください。

sqlcode: -538

sqlstate: 42830

SQL0539N 表またはニックネーム *name* には、*key-type* キーがありません。

説明: 以下のいずれかが発生しました。

- 表またはニックネーム *name* が、FOREIGN KEY 節内で親表として指定されていますが、その表またはが主キーを持っていないので、親表として定義できません。
- ALTER TABLE ステートメントはこの表 *name* の FOREIGN KEY を作成しようとしたますが、この表またはニックネームに主キーがありません。
- ALTER TABLE ステートメントはこの表 *name* の主キーをドロップしようとしたますが、この表は主キーを持っていません。
- ALTER TABLE ステートメントはこの表 *name* のパーティション・キーをドロップしようとしたますが、この表はパーティション・キーを持っていません。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 制約がデータ・ソースに存在する可能性があります（子および親表がデータ・ソース上に存在する場合）。

一部のデータ・ソースは、*name* および *key-type* に適切な値を提供しません。上記の場合、実際の値は不明であることを示す値（たとえば「unknown」）が該当するフィールドに入ります。

ステートメントは処理できません。システム・カタログは、参照制約の親表として定義できません。

ユーザーの処置: 参照制約の作成時には、外部キー（制約）を指定する前に、主キーを指定してください。

sqlcode: -539

sqlstate: 42888

SQL0540N 1 次索引または要求されたユニーク索引がないため、*table-name* 表の定義が不完全です。

説明: 指定された表は PRIMARY KEY 節または UNIQUE 節で定義されていました。その定義が不完全です。主キーに（1 次索引）および任意の UNIQUE 節の各列セット（必須のユニーク索引）に対してユニーク索引が定義されるまで使用できません。FOREIGN KEY 節の表、または SQL 操作ステートメントの表を使用しようとした。

ステートメントは実行できません。

ユーザーの処置: 参照する前に、1 次索引または必須のユニーク索引を表で定義してください。

sqlcode: -540

sqlstate: 57001

SQL0541W 参照、主キーまたはユニーク制約 *name* は、重複制約のため、無視されます。

説明: *name* が参照制約を参照する場合、FOREIGN KEY 節は別の FOREIGN KEY 節と同じ外部キーと親表、または同じ外部キーと親ニックネームを使用します。

name が主キーまたはユニーク制約を参照する場合、次の状況のいずれかが存在します。

- PRIMARY KEY 節はこのステートメントの UNIQUE 節と同じ列のセットを使用します。
- UNIQUE 節は、このステートメントの PRIMARY KEY 節または別の UNIQUE 節と同じ列のセットを使用します。
- 同じ列のセットにある PRIMARY KEY または UNIQUE 制約が、表にすでに存在しています。

指定された場合、*name* は制約名です。

制約名を指定しなかった場合、*name* は FOREIGN KEY または UNIQUE 節の列リストで指定された、3 つのピリオドに続く最初の列名になります。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 制約がデータ・ソースに存在する可能性があります（子および親表がデータ・ソース上に存在する場合）。

一部のデータ・ソースは、*name* に適切な値を提供しません。上記の場合、実際の値は不明であることを示す値（たとえば「unknown」）が該当するフィールドに入ります。

指示された参照制約またはユニーク制約は作成されませんでした。ステートメントは正常に処理されました。

SQL0542N

ユーザーの処置: アクションは不要です。処理の続行は可能です。

sqlcode: +541

sqlstate: 01543

SQL0542N *column-name* という名前の列は、NULL 値を含む可能性があるため、主キーおよびユニーク・キー制約の列にすることができません。

説明: PRIMARY KEY 節または UNIQUE 節で識別された、*column-name* という名前の列が NULL 値を許可するように定義されているか、または PRIMARY KEY または UNIQUE 制約の一部である列で NULL 値を許可するよう変更が試行されました。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 一部のデータ・ソースは、*column-name* に適切な値を提供しません。上記の場合、実際の値は不明であることを示す値 (たとえば「unknown」) が該当するフィールドに入ります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 列、主キーまたはユニーク・キーの定義を訂正してください。表変更ステートメントの一部としてこのエラーが戻された場合、NULL 値を許可するように列を変更する前に、PRIMARY KEY または UNIQUE 制約を除去する必要があります。

sqlcode: -542

sqlstate: 42831

SQL0543N チェック制約 *constraint-name* が削除を制限しているために、親表の行が削除できません。

説明: ターゲット表が親表であって、しかも参照制約を使用して、SET NULL の削除規則を持つ従属表に接続されているために、削除処理を実行できません。ただし、従属表にチェック制約が定義されているので、列への null 値の組み込みが制限されます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 外部キー、従属表の削除規則、矛盾するチェック制約を調べてください。相互矛盾がないように、削除規則またはチェック制約を変更してください。

sqlcode: -543

sqlstate: 23511

SQL0544N 制約に違反する行が表に含まれているために、チェック制約 *constraint-name* が追加できません。

説明: 表の少なくとも 1 つの既存の行が、ALTER TABLE ステートメントに追加されるチェック制約に違反しています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ALTER TABLE ステートメントに指定されているチェック制約定義および表のデータを調べて、制約の違反が存在する理由を判別してください。制約に違反しないように、チェック制約またはデータを変更してください。

sqlcode: -544

sqlstate: 23512

SQL0545N 行がチェック制約 *constraint-name* を満たしていないために、要求された処理は実行されません。

説明: チェック制約違反は、INSERT または UPDATE 処理で発生する可能性があります。結果の行が、その表のチェック制約定義に違反しました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: データとカタログ・ビュー SYSCAT.CHECKS のチェック制約定義を調べて、INSERT または UPDATE ステートメントが失敗した理由を判別してください。制約に違反しないように、データを変更してください。

sqlcode: -545

sqlstate: 23513

SQL0546N チェック制約 *constraint-name* が無効です。

説明: CREATE TABLE、CREATE NICKNAME、ALTER TABLE、または ALTER NICKNAME ステートメントのチェック制約が、以下の 1 つ以上の理由で無効です。

- 制約定義に副照会が入っている。
- 制約定義に列関数が入っている。
- 制約定義にホスト変数が入っている。
- 制約定義にパラメーター・マーカが入っている。
- 特殊レジスター、または特殊レジスターの値に依存する組み込み関数が制約定義に入っている。
- 制約定義にグローバル変数が入っている。
- 制約定義に可変ユーザー定義関数が入っている。

- 制約定義に外部処理を使用するユーザー定義関数が入っている。
- 制約定義に `scratchpad` オプションを使用するユーザー定義関数が入っている。
- チェック制約が列定義の一部で、そのチェック条件に、定義されている列以外の列名に対する参照が入っている。
- 制約定義に参照解除操作または `DEREF` 関数が入っており、その有効範囲参照引数がオブジェクト ID (OID) 列以外になっている。
- 制約定義で `TYPE` 述部が使用されている。
- 制約定義に `SCOPE` 節を指定した `CAST` が指定されている。
- 機能上の従属関係が、属性 `ENFORCED` を使って定義されている。
- 機能上の従属関係の子セット列で、`NULL` 可能列が指定されている。
- 制約定義にテキスト検索関数が入っている。
- 制約定義に `XML` 列が入っている。
- 制約定義に `XMLQUERY` または `XMLEXISTS` 列が入っている。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: エラーの原因に応じて、以下のいずれかを行ってください。

- リストされた項目を入れないように、チェック制約を変更してください。
- 表レベルの制約定義になるように、チェック制約定義を列定義の外側に移動してください。
- 機能上の従属関係が `ENFORCED` 属性を指定しないようにこの関係を変更してください。
- 機能上の従属関係の子セット列で、`NULL` 可能列を `NULL` 不能に変更してください。

sqlcode: -546

sqlstate: 42621

SQL0548N *check-condition-element* で定義されているチェック制約または生成された列が無効です。

説明: `CREATE TABLE`、`CREATE NICKNAME`、`ALTER TABLE`、または `ALTER NICKNAME` ステートメントのチェック制約が、以下の 1 つ以上の理由で無効です。

- 制約定義に副照会が入っている。
- 制約定義に列関数が入っている。

- 制約定義にホスト変数が入っている。
- 制約定義にパラメーター・マーカが入っている。
- 特殊レジスター、または特殊レジスターの値に依存する組み込み関数が制約定義に入っている。
- 制約定義にグローバル変数が入っている。
- 制約定義に、`deterministic` 関数ではない関数が入っている。
- 制約定義に外部処理を使用するユーザー定義関数が入っている。
- 制約定義に `scratchpad` オプションを使用するユーザー定義関数が入っている。
- 定義に、`CONTAINS SQL` (`SQL` を含む) または `READS SQL DATA` (`SQL` データの読み取り) オプションを使用するユーザー定義関数が入っている。
- 定義に、式に基づく生成された列への参照が入っている。
- チェック制約が列定義の一部で、そのチェック条件に、定義されている列以外の列名に対する参照が入っている。
- 生成された列の定義に、それ自身への参照が入っている。
- 制約定義に参照解除操作または `DEREF` 関数が入っており、その有効範囲参照引数がオブジェクト ID (OID) 列以外になっている
- 制約定義で `TYPE` 述部が使用されている
- 制約定義に `SCOPE` 節を指定した `CAST` が指定されている
- 制約または生成された列定義にテキスト検索関数が含まれている
- 制約定義に `XML` 列が入っている
- 制約定義に `XMLQUERY` または `XMLEXISTS` 列が入っている
- 生成された列式が、列マスクが定義されている列を参照している

エラー・メッセージのテキスト内のトークンが、無効な項目をリストしています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: エラーの原因に応じて、以下のいずれかを行ってください。

- リストされた項目を入れないように、チェック制約または生成された列を変更してください。
- 表レベルの制約定義になるように、チェック制約定義を列定義の外側に移動してください。

sqlcode: -548

sqlstate: 42621

SQL0549N BIND オプション DYNAMICRULES RUN は *object-type2* には無効なため、*statement* ステートメントは、*object-type1* *object-name1* に対して許可されません。

説明: プログラムが、実行動作を示すパッケージでのみ動的に準備できるいくつかの SQL ステートメントの 1 つである、示された SQL ステートメントを実行しようとした。この SQL ステートメントは以下のとおりです。

- 動的 GRANT ステートメント
- 動的 REVOKE ステートメント
- 動的 ALTER ステートメント
- 動的 CREATE ステートメント
- 動的 DROP ステートメント
- 動的 COMMENT ON ステートメント
- 動的 RENAME ステートメント
- 動的 SET INTEGRITY ステートメント
- 動的 SET EVENT MONITOR STATE ステートメント
- 動的 TRANSFER OWNERSHIP ステートメント
- 動的 CREATE USAGE LIST
- 動的 ALTER USAGE LIST

statement

エラーになっている SQL ステートメント

object-type1

PACKAGE または DBRM。DBRM は DRDA 接続でのみ有効です。

object-name1

object-type1 が PACKAGE である場合は、*object-name1* はフォーマット 'location-id.collection-id.package-id' のパッケージの名前です。*object-type1* が DBRM である場合は、*object-name1* はフォーマット 'plan-name DBRM-name' の DBRM の名前です。

object-type2

PACKAGE または PLAN。PLAN は DRDA 接続でのみ有効です。*object-type1* が PACKAGE である場合は、*object-type2* は PACKAGE または PLAN になります (DYNAMICRULES(BIND) でバインドされる場合)。*object-type1* が DBRM である場合は、*object-type2* は PLAN になります。

SQL ステートメントは実行できません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを行って、エラーを訂正してください。

- SQL ステートメントが組み込まれている場合は、それを除去し、再度アプリケーション・プログラムをブリコンパイルおよびコンパイルして、BIND コマンドを再発行してください。
- 該当する場合は、DYNAMICRULES(RUN) でバインドされるパッケージまたはプランを持つ SQL ステートメントを使用してください。
- SQL ステートメントがバインドされるプランまたはパッケージに対して、REBIND コマンドを DYNAMICRULES(RUN) オプション付きで発行してください。

sqlcode: -549

sqlstate: 42509

SQL0551N authorization-ID は、オブジェクト *object-name* で処理 *operation* を実行する必要な権限または特権を持っていません。

説明: 許可 ID *authorization-ID* は、適切な許可を持たずに *object-name* に対する示された操作 *operation* を実行しようとした。このメッセージは、以下のような状況で戻される可能性があります。

1. 参照制約を持つ表を作成または変更している場合、このメッセージは、外部キーを作成またはドロップするための REFERENCES 特権をユーザーが持っていないことを示している可能性があります。この場合は、*operation* が REFERENCES で、*object-name* が、制約が参照するオブジェクトです。
2. DB2 ユーティリティまたは CLI アプリケーションを実行しようとしている場合、データベースを作成したユーザー ID が存在しなくなったか、必要な特権を持たなくなったために、DB2 ユーティリティ・プログラムまたは CLI パッケージをデータベースに再バインドする必要があるかもしれません。EXECUTE 特権を付与する必要があるかもしれません。
3. このエラーが、呼び出し中またはルーチンの作成中に発生した場合には以下ようになります。
 - 呼び出し中: 許可 ID *authorization-ID* は、SQL パス内の候補ルーチンに対する EXECUTE 特権を持っていません。*object-name* は、SQL パスにある候補ルーチンの名前です。
 - 作成中: ルーチンのバインドに使われた許可 ID *authorization-ID* は、ルーチン内のすべてのステートメントを発行するために必要な特権を持って

いない可能性があります。たとえば、ルーチン内のステートメントが表 A を更新し、

authorization-ID には表 A に対する更新特権がない場合には、バインディング操作は失敗します。静的 SQL ステートメントのバインドでは、グループ特権は使われません。

4. このエラーが、保護表に対する REPLACE モードを使用した LOAD または IMPORT ユーティリティの実行中に発生した場合には、許可 ID *authorization-ID* には以下のいずれかの追加の権限または特権が必要です。
 - DATAACCESS 権限
 - ターゲット表またはビューに対する CONTROL 特権
5. *operation* が SET ROLE の場合、*authorization-ID* は役割 *object-name* 内にメンバーシップを持ちません。
6. *operation* が REVOKE ROLE である場合、WITH ADMIN OPTION 節付きで役割のメンバーシップを付与された許可 ID から役割 *object-name* が取り消されるなら、*authorization-ID* は SECADM 権限を持ちません。
7. スケジュールされたタスクを更新または除去しようとする場合、ユーザーはタスクの作成者であるか、DBADM、SYSADM、SYSCTRL、または SYSMOINT 権限を所有している必要があります。この場合は、*operation* が UPDATE または REMOVE で、*name* はタスク名です。
8. OR REPLACE オプションを使って既存のオブジェクトを置換している場合、ユーザーはオブジェクトの所有者でなければなりません。
9. FEDERATED システム・ユーザーの場合、以下の状況でこのメッセージが戻される可能性があります。
 - 必要な権限のないユーザーが REMOTE_PASSWORD ユーザー・マッピング・オプションを変更しようとした。
REMOTE_PASSWORD オプションの設定を変更するには、ユーザーは、更新されている行の許可 ID 列の値と一致する DBADM 権限または許可 ID (USER 特殊レジスター内の値) を持つ必要があります。
 - トラステッド・ユーザー・マッピングを持つ (USE_TRUSTED_CONTEXT オプションが「Y」に設定された) ユーザーが、ユーザー・マッピングを変更しようとした。トラステッド・ユーザー・マッピングを使用するとき、ユーザーは REMOTE_PASSWORD オプションの設定だけを変更できます。トラステッド・ユーザー・マッピ

ングの他のオプションを変更するには、ユーザーに DBADM 権限が必要です。

- ユーザーが FED_PROXY_USER ユーザー・マッピング・オプションまたは USE_TRUSTED_CONTEXT ユーザー・マッピング・オプションを変更しようとした。これらのオプションの値を変更するには、ユーザーに SECADM 権限が必要です。
 - ユーザーが、FED_PROXY_USER オプションまたは USE_TRUSTED_CONTEXT オプションを持つユーザー・マッピングを作成またはドロップしようとした。これらのオプションを持つユーザー・マッピングを作成またはドロップするには、ユーザーに SECADM 権限が必要です。
 - ユーザーが FED_PROXY_USER サーバー・オプションを変更しようとした。このオプションの設定を変更するには、ユーザーに SECADM 権限が必要です。
 - ユーザーが、FED_PROXY_USER オプションを持つサーバーを作成またはドロップしようとした。このオプションを持つサーバーを作成またはドロップするには、ユーザーに SECADM 権限が必要です。
10. 許可 ID *authorization-ID* を持つユーザーが ADMIN_MOVE_TABLE プロシージャを呼び出したときにこのメッセージ返される場合、その原因は、ユーザーがオンライン表移動操作を開始したユーザーと同じ許可 ID を持っていないためです。

一部のデータ・ソースは、*authorization-ID*、*operation*、および *object-name* に適切な値を提供しません。この場合、メッセージ・トークンは <data source> AUTHID:UNKNOWN、UNKNOWN、および <data source> :TABLE/VIEW のフォーマットになります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: それぞれの状況で推奨される解決方法は、次のとおりです。

1. ステートメント GRANT REFERENCES ON *object-name* TO *authorization-ID* を使用して REFERENCES 特権を付与します。
2. DB2 ユーティリティ・プログラムまたは CLI パッケージをデータベースに再バインドする必要がある場合、データベース管理者は、データベース接続中にインスタンスの bnd サブディレクトリーから以下のいずれかの CLP コマンドを発行できます。
 - DB2 ユーティリティの場合: DB2 bind @db2ubind.lst blocking all grant public
 - CLI パッケージの場合: DB2 bind @db2cli.lst blocking all grant public

パッケージへの EXECUTE 特権を付与するには、GRANT ステートメントを使用します。例えば次のようにします: GRANT EXECUTE ON PACKAGE NULLID.SYSH200 TO PUBLIC。

3. 呼び出し中にエラーが発生する場合、ステートメント GRANT EXECUTE ON *object-name* TO *authorization-ID* を使用して、ルーチンに対する EXECUTE 特権を *authorization-ID* に付与します。作成中にエラーが発生する場合、ルーチン内のステートメントがアクセスしようとするオブジェクトに対する明示的な特権を *authorization-ID* に付与します。
4. DBADM 権限あるいはターゲット表またはビューに対する CONTROL 特権を *authorization-ID* に付与します。
5. 役割内のメンバーシップ *object-name* を *authorization-ID* に付与します。
6. SECADM 権限を持つ 許可 ID を使用して、役割を取り消します。
7. タスクをスケジューリングしたのと同じユーザー、あるいは DBADM、SYSADM、SYSCTRL、SYSMAINT のいずれかの権限を持つユーザーであることを確認します。
8. ステートメントを発行するユーザーが、置換対象のオブジェクトの所有者であることを確認します。必要に応じて、(SECADM 権限を持つ) セキュリティー管理者は TRANSFER OWNERSHIP ステートメントを使ってオブジェクトの所有権を移転できません。
9. フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 必要な許可は、フェデレーテッド・サーバー、データ・ソース、またはフェデレーテッド・サーバーおよびデータ・ソースの両方に対して行うことができます。
10. オンライン表移動操作を開始したユーザーと同じ許可 ID を使用して、プロシーチャーを再度呼び出してください。

sqlcode: -551

sqlstate: 42501、5UA0K

SQL0552N *authorization-ID* は、操作 *operation* を実行する特権を持っていません。

説明: 許可 ID *authorization-ID* が、適切な許可を持たずに、示された *operation* を実行しようとしていました。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 一部のデータ・ソースは、*authorization-ID* および *<operation>* に適切な値を提供しません。この場合、メッセージ・ト

ークンは「<data source> AUTHID:UNKNOWN」および「UNKNOWN」のフォーマットになります。これは、指定されたデータ・ソースの許可 ID および操作の実際の値が不明であることを示します。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: *authorization-ID* が、処理を実行する許可を持っていることを確認してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: この許可は、フェデレーテッド・サーバー、データ・ソース、またはその両方に対して付与できます。

sqlcode: -552

sqlstate: 42502

SQL0553N スキーマ名 *schema-name* を持つオブジェクトは、作成できません。

説明: スキーマ名 *schema-name* が無効な理由は、そのスキーマ名が、作成されるオブジェクトのタイプに依存しているためです。

- 表、ビュー、索引、およびパッケージ・オブジェクトは、スキーマ名 SYSCAT、SYSFUN、SYSPUBLIC、SYSSTAT、SYSIBM、または SYSIBMADM を使用して作成することはできません。将来、SYS で始まる追加のスキーマが DB2 製品専用に予約される可能性があるため、スキーマ名をこれらの文字で始めないことを強くお勧めします。
- 他のすべてのタイプのオブジェクト (例えば、ユーザー定義関数、特殊タイプ、トリガー、スキーマ、別名、使用量リスト) は、文字 SYS で始まるスキーマ名を使って作成できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 有効なスキーマ名を使用するか、または明示スキーマ名を取り除いて、ステートメントを再実行してください。

sqlcode: -553

sqlstate: 42939

SQL0554N 許可 ID はそれ自体に特権または権限を付与できません。

説明: 許可 ID が特権または権限をそれ自体に付与するステートメントを実行しようとしていました。これが GRANT ステートメントの場合、許可 ID それ自体は、特権、権限、セキュリティ・ラベル、または免除が付与される許可 ID リスト内の項目の 1 つとして表示されます。これが CREATE TRUSTED CONTEXT または ALTER TRUSTED CONTEXT である場合、許可 ID そ

れ自体は SYSTEM AUTHID 属性の値または WITH USE FOR 節に指定された許可名の 1 つとして表示されます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 許可 ID をステートメントから除去するか置き換えてください。

sqlcode: -554

sqlstate: 42502

SQL0555N 許可 ID はそれ自体の特権は取り消しません。

説明: 許可 ID が、特権が取り消される許可 ID リスト内の項目であるにもかかわらず、REVOKE ステートメントを実行しようとした。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: リストから許可 ID を除去してください。

sqlcode: -555

sqlstate: 42502

SQL0556N *authorization-ID* はこの特権、セキュリティ・ラベル、免除、または役割を持っていないので、*authorization-ID* の特権、セキュリティ・ラベル、免除、または役割を取り消す試みは拒否されました。

説明: *authorization-ID* には特権、セキュリティ・ラベル、免除、または役割がないため、特権、セキュリティ・ラベル、免除、または役割を取り消すことができません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: REVOKE 規則に一致するように REVOKE ステートメントを変更して、ステートメントの再サブミットを行ってください。REVOKE ステートメントに、拒否する対象として複数の特権、セキュリティ・ラベル、免除、または役割のリストと、許可 ID のリストとが含まれている場合、各許可 ID に、指定されている特権、セキュリティ・ラベル、免除、または役割のうち少なくとも 1 つが付与されていることを確認してください。

sqlcode: -556

sqlstate: 42504

SQL0557N 指定された特権の組み合わせは、与えることも取り消すこともできません。

説明: 以下のいずれかが発生しました。

- GRANT または REVOKE ステートメントに、異なったクラスの特権の組み合わせが入っています。特権はすべて 1 つのクラスでなければなりません。例は DATABASE、PLAN、または TABLE です。
- GRANT ステートメントが、許可されていない特権をビューに付与しようとした。ALTER、INDEX、REFERENCES はビューに付与できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメントの訂正と再サブミットを行ってください。

sqlcode: -557

sqlstate: 42852

SQL0558N *authorization-ID* から特権を取り消そうとしましたが、*authorization-ID* は *control* 特権を持っているため、拒否されました。

説明: *authorization-ID* が *control* 特権を保留しています。取り消される特権は *control* 特権によって暗黙的に与えられるため、*control* 特権も取り消さない限り、これを取り消すことはできません。

control の有効な値は、以下のとおりです。

- DBADM
- CONTROL
- CREATE NOT FENCED ROUTINE

ステートメントは実行できません。取り消される特権はありません。

ユーザーの処置: 必要に応じて、*control* 特権を取り消してください。

sqlcode: -558

sqlstate: 42504

SQL0562N 指定されたデータベース特権は、役割を使用して直接または間接に、PUBLIC には与えられません。

説明: GRANT ステートメントが、役割を使用して直接または間接に、データベース特権を予約済み許可 ID PUBLIC に与えようとした。DBADM 権限は PUBLIC に付与することができません。

ステートメントは処理できません。

SQL0567N

ユーザーの処置: 管理権限 (例えば DBADM) を PUBLIC に付与した場合、すべてのユーザーが管理機能にアクセスできるようになるため、このような付与操作は不可能です。

sqlcode: -562

sqlstate: 42508

SQL0567N 指定された許可名が ID 命名規則に合致していないため、操作が失敗しました。許可名: *authorization-name*。

説明: すべてのデータベース・オブジェクト、ユーザー名や許可名、パスワード、グループ、ファイル、およびパスには、命名の規則が存在します。これらの規則の一部は、作業を行っているプラットフォームに固有のものです。

このメッセージは、指定された許可名が ID 命名規則を満たしていないときに返されます。例えば、a から z、A から Z、0 から 9、およびサポートされる特殊文字以外の文字が許可名に含まれている場合、このメッセージが返される可能性があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ID 命名規則を満たしている許可名を指定して、操作を再び実行してください。

sqlcode: -567

sqlstate: 42602

SQL0569N 許可 ID *authorization-name* は、システム内のユーザー、グループ、または役割を一意的に識別しません。

説明: GRANT または REVOKE ステートメントによって指定された許可 ID は、セキュリティ名前空間内のユーザー、役割、またはグループを一意的に識別しません。*authorization-name* への参照が未確定です。DCE セキュリティーを使用する場合、USER、GROUP、または ROLE キーワードは常に必須であることを注意してください。

ユーザーの処置: 指定された許可 ID を一意的に識別する USER、GROUP、または ROLE キーワードを明示的に指定するように、ステートメントを変更してください。

sqlcode: -569

sqlstate: 56092

SQL0570W タイプ *object-type* のオブジェクト *object-name* の要求した特権がすべて付与されたわけではありません。

説明: GRANT 操作がタイプ *object-type* のオブジェクト *object-name* で試行されましたが、付与されない特権があります。ステートメントを発行した許可 ID には、GRANT オプションで認められるすべての特権が備わっていないか、あるいは ACCESSCTRL または SECADM 権限がありません。

有効な要求された特権はすべて付与されました。

ユーザーの処置: 要求権限を入手し、操作を再試行してください。

sqlcode: +570

sqlstate: 01007

SQL0572N パッケージ *pkgname* は操作不能です。

説明: パッケージ *pkgname* は作動不能とマークされており、使用するためには、その前に (RESOLVE CONSERVATIVE を指定せずに、) 明示的に再バインドする必要があります。このパッケージが依存している 1 つ以上のユーザー定義関数がドロップされているので、このパッケージは使用できません。

ユーザーの処置: REBIND (RESOLVE CONSERVATIVE の指定なし) または BIND コマンドを使って、指定されたパッケージを明示的に再バインドしてください。

sqlcode: -572

sqlstate: 51028

SQL0573N 制約 *name* の参照節に指定された列リストが、親表または親ニックネーム *table-name* のユニーク制約を識別しません。

説明: *name* によって識別された制約の参照節で指定された列名のリストが、参照表 *table-name* の主キーまたはユニーク・キーの列名と一致しません。

指定された場合、*name* は制約名です。制約名を指定しなかった場合、*name* は FOREIGN KEY 節の列リストで指定された、3 つのピリオドが後に続く最初の列名になります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 参照節の列リストを訂正するか、またはユニーク制約を参照される表またはニックネームに追加してください。

sqlcode: -573

sqlstate: 42890

SQL0574N DEFAULT 値または IDENTITY 属性値は、表 *table-name* の列 *column-name* で有効ではありません。理由コード:
reason-code

説明: 表 *table-name* の列 *column-name* の DEFAULT 値または IDENTITY 属性値は有効ではありません。可能性のある理由コードは、以下のとおりです。

- 1 定数とそのデータ・タイプの定数についてのフォーマットに従っていないので、つまり値の長さ、または精度が正しくないか、または関数が間違っただデータ・タイプを戻したので、値が列に割り当て可能ではありません。
- 2 浮動小数点定数が指定され、列が浮動小数点データ・タイプになっていません。
- 3 10 進定数が指定され、非ゼロ桁が列への割り当て時に切り捨てられます。
- 4 値は、16 進定数の X、完全に修飾された関数名、および括弧のような接頭部文字や、ストリングについての引用符を組み込んで 255 バイト以上です。値の有効でないブランクは無視されます。等しくないコード・ページ環境では、データベース・コード・ページのストリングの拡張の結果、値は 255 バイト以上になります。
- 5 USER 特殊レジスターが指定され、文字ストリング・データ・タイプの長さ属性は、8 よりも小さくなります。
- 6 日付時刻特殊レジスター (CURRENT DATE、CURRENT TIME、または CURRENT TIMESTAMP) が指定され、列のデータ・タイプと一致しません。
- 7 サポートされていない関数が指定されました。指定される関数は、システム生成 cast 関数、または組み込み関数 BLOB、DATE、TIME、または TIMESTAMP の 1 つでなければなりません。
- 8 日時関数の引数が、ストリング定数、または対応する日時の特種レジスターではありませんでした。
- 9 システム生成 cast 関数が指定され、列がユーザー定義の異なるタイプとして定義されていませんでした。
- 10 非ゼロの位取りによる値が、ID 列の START WITH または INCREMENT BY オプションに指定されました。

11 DEFAULT 値として特殊レジスターが指定されており、文字ストリング・データ・タイプの長さ属性が 128 未満です。

12 10 進浮動小数点定数が指定され、列が 10 進浮動小数点データ・タイプになっていません。

< 0 ゼロより小さい理由コードは SQLCODE です。DEFAULT 値指定のエラーは、この SQLCODE に対応するエラー・メッセージのチェックによって判別することができます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 返された理由コードに基づいて、DEFAULT 値または IDENTITY 属性値を訂正してください。

sqlcode: -574

sqlstate: 42894

SQL0575N ビューまたはマテリアライズ照会表 *name* は作動不能とマーク付けされているため、使用できません。

説明: ビューまたはマテリアライズ照会表が従属する表、ビュー、別名、または特権が除去されたため、そのビューまたはマテリアライズ照会表 *name* は作動不能とマーク付けされました。ビューは、以下のいずれでもない SQL ステートメントでは使用できません。

- COMMENT ON
- DROP VIEW または DROP TABLE
- CREATE ALIAS
- CREATE VIEW または CREATE TABLE

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: *name* がビューの場合、作動不能のビューと同じビュー定義を使用する CREATE VIEW ステートメントを発行して、ビューを再作成してください。*name* がマテリアライズ照会表の場合は、作動不能のマテリアライズ照会表定義と同じマテリアライズ照会表の定義を使い、CREATE TABLE ステートメントを発行して、マテリアライズ照会表を再作成してください。

sqlcode: -575

sqlstate: 51024

SQL0576N 反復別名チェーンとなるため、別名 *name* を *name2* に対して作成できません。

説明: *name2* 上の *name* の別名定義は、解決されることのない反復別名チェーンになります。たとえば、"別名 A が、別名 A を参照する別名 B を参照する" ことは、解決されることのない反復別名チェーンです。

SQL0577N

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: *name* の別名定義を変更するか、または別名チェーンの他のいずれかの別名定義を改訂して、反復チェーンを回避してください。

sqlcode: -576

sqlstate: 42916

SQL0577N ユーザー定義ルーチン *routine-name* (特定名 *specific-name*) がデータを変更しようとしたが、**MODIFIES SQL DATA** (SQL データの変更) として定義されていませんでした。

説明: ルーチンの本体の実施に使用されたプログラムが、SQL データを変更することはできません。

ユーザーの処置: データを変更する SQL ステートメントを除去した後で、プログラムを再コンパイルしてください。ルーチンを定義する際に指定された、許可される SQL のレベルを調べてください。

sqlcode: -577

sqlstate: 38002

sqlstate: 42985

SQL0579N ルーチン *routine-name* (特定名 *specific-name*) がデータの読み取りを試行しましたが、このルーチンは **READS SQL DATA** (SQL データの読み取り) または **MODIFIES SQL DATA** (SQL データの変更) として定義されていません。

説明: ルーチンの本体のインプリメントに使用されるプログラムが、SQL データの読み取りを許可されていません。

ユーザーの処置: データを読み取る SQL ステートメントを除去した後、プログラムを再コンパイルしてください。ルーチンを定義する際に指定された、許可される SQL のレベルを調べてください。

sqlcode: -579

sqlstate: 38004

sqlstate: 42985

SQL0580N CASE 式の結果式を、すべて NULL にすることはできません。

説明: すべての結果式 (THEN および ELSE キーワードに続く式) がキーワード NULL で指定された CASE 式が、ステートメントに存在します。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: キーワード NULL 以外の結果式が少なくとも 1 つ入るように、CASE 式を変更してください。

sqlcode: -580

sqlstate: 42625

SQL0581N CASE 式または DECODE 関数の結果式のデータ・タイプに互換性がありません。

説明: 互換性のない結果式 (CASE 式の THEN および ELSE キーワードに続く式) を持つ CASE 式または DECODE 関数が、ステートメントに存在します。

CASE 式のデータ・タイプまたは DECODE 関数の結果は、結果式の "結果データ・タイプの規則" を使用して決定されます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 互換性を持つように、結果式を修正してください。

sqlcode: -581

sqlstate: 42804

SQL0582N VALUES 節、IN 述部、GROUP BY 節または ORDER BY 節の CASE 式に、比較述部、全選択を用いた IN 述部、または EXISTS 述部を含めることはできません。

説明: CASE 式の検索条件は以下のとおりです。

- 比較述部 (SOME、ANY、または ALL を使用)
- 全選択を使用する IN 述部
- EXISTS 述部

さらに、CASE 述部は以下の一部です。

- VALUES 節
- IN 述部
- GROUP BY 節または
- ORDER BY 節

上記の CASE 式はサポートされていません。CASE 式は SQL で書き込まれた関数の一部である可能性があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 比較述部、IN 述部、または EXISTS 述部の使用を、CASE 式から取り除いてください。

CASE 式が関数の一部である場合、照会エラーの原因となる関数を除いて書き込む必要があります。

sqlcode: -582

sqlstate: 42625

SQL0583N deterministic 関数ではないか、または外部アクションを含んでいるため、ルーチンまたは式 *name* の使用は無効です。

説明: ルーチン (関数またはメソッド) または式は、非決定的または外部アクションを持つものとして定義されます。これは、使用されているコンテキストではサポートされていません。無効になるコンテキストは、以下のとおりです。

- BETWEEN 述部の最初のオペランド。
- 単純-case-式の最初の WHEN キーワードの前の式の中。
- DECODE 関数の最初の引数。
- RATIO_TO_REPORT 関数の引数。
- GROUP BY 節の式の中。
- ORDER BY 節 (外部処理のみ) の式の中。
- PARTITION BY 節の式の中。
- ユーザー定義の述部指定、または索引拡張子定義の FILTER 節の中。
- プロシージャ定義のグローバル変数またはパラメーターのデフォルト式。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: deterministic ではないルーチンまたは外部アクション・ルーチンまたは式が使用されるよう意図していない場合、これらの特性のないルーチンに置き換えてください。deterministic ではないルーチンまたは外部アクション・ルーチンまたは式に関連する動作が意図したものである場合は、その意図を明示するステートメントの代替形式を使用してください。

- BETWEEN 述部の代わりに、比較述部の等価組み合わせ (a between b and c の代わりに、a>=b and a<=c) を使用する対応するステートメントを使用してください。
- 単純-when-文節または DECODE 関数の代わりに、ルーチンが探索条件ごとに指定される探索-when-文節を使用してください。
- RATIO_TO_REPORT 関数の引数をネストした照会にプッシュします。
- deterministic ではないルーチンまたは式、または外部アクション・ルーチンまたは式を、GROUP BY 節から除去してください。deterministic ではないルーチンまたは式、または外部アクション・ルーチンまたは式に基づいた結果の列をグループ化させる場合は、ネストした表の式または共通の表の式を使用し、結果の列としての式で結果の表をまず提供してください。

- ORDER BY 節から外部アクション・ルーチンを除去してください。列が照会の結果セットの一部である場合、ORDER BY 節の式を単一整数または単一系列名形式のソート・キーに変更してください。
- deterministic ではないルーチンまたは式、または外部アクション・ルーチンまたは式を、FILTER 節から除去してください。
- 非 deterministic または外部アクションのルーチン/式を、プロシージャ定義のグローバル変数またはパラメーターのデフォルト節から除去してください。

sqlcode: -583

sqlstate: 42845

SQL0584N NULL または **DEFAULT** の使用は無効です。

説明: DEFAULT は、それが INSERT または MERGE ステートメントの一部である場合にのみ、VALUES 節内で使用できます。

INSERT ステートメントに含まれない VALUES 節は、各列の少なくとも 1 行に非 NULL 値を持つ必要があります。ただし、ステートメントで使用されるコンテキストに基づいて NULL のデータ・タイプを解決できる場合を除きます。

DEFAULT を WHERE または HAVING 節の列名として使用する場合には、これを大文字にして、二重引用符で囲まなければなりません。

DEFAULT は、SQL プロシージャ、ホスト変数、またはパラメーター・マーカー内で SQL 変数または SQL パラメーターに割り当てを行っている、割り当てステートメント内では使用できません。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合:
DEFAULT は、オブジェクトがニックネームである INSERT ステートメントの VALUES 節では使用されません。

ユーザーの処置: VALUES 節の値を、NULL または DEFAULT 以外に置き換えてください。DEFAULT を列名として使用する場合には、これを大文字にして、二重引用符で囲まなければなりません。DEFAULT を、SQL プロシージャ、ホスト変数、またはパラメーター・マーカー内の SQL 変数または SQL パラメーターに割り当てないでください。

sqlcode: -584

sqlstate: 42608

SQL0585N スキーマ名 *schema-name* は、SET *special-register* ステートメントに複数回出現します。

説明: 特殊レジスター *special-register* の SET ステートメントに、スキーマ *schema-name* が複数個組み込まれています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 重複物のある SET ステートメント内のリストを調べてください。スキーマ名を誤って入力したために、たまたま別の入力と重複してしまったにすぎないエラーの場合、スキーマ名を正しいものに訂正してから、ステートメントを再発行してください。入力内容が実際に重複している場合、アクションは不要です。

sqlcode: -585

sqlstate: 42732

SQL0586N *special-register* 特殊レジスターの全長は *length* を超えることはできません。

説明: *special-register* は、SET ステートメントで指定した値よりも短い長さとして定義されています。ストリングの内容に、二重引用符で区切られ、コマンドで次のスキーマ名から分離されている各スキーマ名が入っています。特殊レジスター内のすべてのスキーマ名のストリングの全長は、特殊レジスターの最大長を超えてはなりません。SET PATH または SET CURRENT PACKAGE PATH ステートメントを使うと、このメッセージが表示されます。

ステートメントまたはコマンドが処理されません。

ユーザーの処置: スキーマ名を除去して、特殊レジスターの長さに収まるように合計長を削減してください。失敗したステートメントが SET PATH であって、しかもすべてのスキーマ名が必要である場合、いくつかのユーザー定義関数、プロシージャ、メソッド、または特殊タイプを統合して、SQL PATH に必要なスキーマ名を減らす必要があるかもしれません。

sqlcode: -586

sqlstate: 42907

SQL0590N コンテキスト *context-tag* で指定された名前 *name* がユニークではありません。

説明: 名前 *name* がパラメーター、SQL 変数、カーソル、ラベル、または条件として、*context-tag* によって定義されたコンテキストに指定されています。この名前は固有名ではありません。

context-tag が“BEGIN...END”の場合、エラーのコンテキ

ストは動的 SQL コンパウンド・ステートメントです。そうでない場合、エラーのコンテキストはトリガーまたはルーチンであり、*context-tag* はコンパウンド・ステートメントの入ったトリガー名またはルーチン名です。

- *name* がパラメーター名の場合、これはパラメーター・リストとルーチンの EXPRESSION AS 節内でユニークでなければなりません。
- *name* が SQL 変数名、カーソル名、または条件の場合、これはコンパウンド・ステートメント内でユニークでなければなりません。
- ラベルはコンパウンド・ステートメント内でユニークでなければならず、ネストされたステートメントのラベルとは異なっていなければなりません。

ユーザーの処置: 固有名になるように変更してください。

sqlcode: -590

sqlstate: 42734

SQL0593N ROW CHANGE TIMESTAMP 列、ROW BEGIN 列、ROW END 列、または期間の列に、NOT NULL を指定する必要があります。 *column-name*。

説明: 行変更タイム・スタンプ、行開始、および行終了列は NULL 値をサポートしません。そのような列が CREATE TABLE ステートメントまたは ALTER TABLE ステートメントで定義される場合、その列に NOT NULL 節を指定する必要があります。

期間の列は、NOT NULL として定義する必要があります。

ステートメントは実行できません。

ユーザーの処置: ステートメントを変更して、NOT NULL を列 *column-name* に指定します。

sqlcode: -593

sqlstate: 42831

SQL0595W 分離レベル *requested-level* が、*escalated-level* にエスカレートされました。

説明: 示された分離レベルは、DB2 ではサポートされていません。DB2 がサポートしている分離レベルの次に高いレベルになりました。

ユーザーの処置: この警告を防ぐには、DB2 がサポートしている分離レベルを指定してください。DB2 は、繰り返し可能読み取り (RR)、読み取り固定 (RS)、カーソル固定 (CS)、非コミット読み取り (UR) の分離レベルをサポートしています。

sqlcode: +595

sqlstate: 01526

SQL0597N DATALINK 値を検索できません。理由コード = reason-code。

説明: DATALINK 値を検索できません。可能性のある理由コードは、以下のとおりです。

- 01** DB2 Data Links Manager では、DATALINK 値参照ファイルを変更するための書き込みトークン付きで組み込まれた DATALINK 値を、DB2 ユーザーが検索することを許可しません。

ユーザーの処置: 理由コードに基づいたアクションは、以下のとおりです。

- 01** DB2 Data Links Manager 管理者に連絡し、このファイルに対する書き込みアクセスを付与してください。

sqlcode: -0597

sqlstate: 42511

SQL0598W 既存索引 name が主キーまたはユニーク・キーの索引として使用されます。

説明: 主キーまたはユニーク・キーを定義する ALTER TABLE 操作には索引が必要で、示された索引が必要な索引と一致しています。

非パーティション主キーまたは非パーティション・ユニーク・キー索引の索引記述が、主キーまたはユニーク・キーと同じ列セットを識別し (順序は問わない)、ユニークなものとして指定されている場合、それは昇順または降順の指定に関係なく、一致していると見なされます。

ただし、列が範囲パーティション・キー列のスーパーセットではないパーティション化索引は、一致していると見なされません。

ステートメントは正常に処理されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

sqlcode: +598

sqlstate: 01550

SQL0599W 長ストリング・データ・タイプに基づいた特殊タイプに対して、比較関数が作成されません。

説明: 長ストリング・データ・タイプ (BLOB、CLOB、DBCLOB、LONG VARCHAR、または LONG VARGRAPHIC) に基づいた特殊タイプに対しては、対応

する関数がこれらの組み込みデータ・タイプに対して使用できないために、比較関数が作成されません。

これは警告状態です。ステートメントは正常に処理されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

sqlcode: +599

sqlstate: 01596

SQL0600N 重複シグニチャーのため、あるいは既存のルーチンをオーバーライドするため、ルーチン routine-name を生成できませんでした。

説明: 同じ名前を持つ他の関数およびシグニチャーがスキーマにすでに存在するため、あるいはメソッドまたは関数が既存のメソッドをオーバーライドするため、CREATE または ALTER 操作中は、システム生成 cast 関数、observer メソッド、mutator メソッド、または constructor 関数を作成できませんでした。

ユーザーの処置: 競合の発生しているユーザー定義タイプ、属性、cast 関数に他の名前を選択するか、または生成できなかった関数またはメソッドと同じ名前を持つ関数またはメソッドをドロップしてください。

sqlcode: -600

sqlstate: 42710

SQL0601N 作成されるオブジェクト名が、タイプ type の既存の名前 name と同じです。

説明: CREATE または ALTER ステートメントが、タイプ type のオブジェクトが、その名前でアプリケーション・サーバー、または同じステートメントにすでに存在しているときに、オブジェクト name の作成または追加を行おうとしました。

type が FOREIGN KEY、PRIMARY KEY、UNIQUE、または CHECK CONSTRAINT の場合、name は、ALTER NICKNAME、ALTER TABLE、CREATE NICKNAME、または CREATE TABLE ステートメントに指定されている制約名であるか、あるいはシステムによって生成されます。

type が ROLE の場合、名前は CREATE または ALTER ROLE ステートメントで指定された役割名です。

type が DATA PARTITION の場合、name は ALTER TABLE または CREATE TABLE ステートメントで指定されているデータ・パーティション名です。

このエラーは、REGISTER コマンドまたは XSR_REGISTER、XSR_DTD、または XSR_EXTENTITY

のいずれかのプロシージャを使用して XML スキーマ・リポジトリ・オブジェクトを登録するときに発生することもあります。XSROBJECT の名前がすでに存在しているときに、エラーとなります。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 一部のデータ・ソースは、*name* および *type* メッセージ・トークンに適切な値を提供しません。このような場合、*name* と *type* は次のフォーマットになります。

「OBJECT:<data source> TABLE/VIEW」と

「UNKNOWN」。これは、指定されたデータ・ソースにある実際の値が不明であることを示しています。

type が *permission* の場合、*name* は CREATE PERMISSION ステートメントで指定された許可名です。

type が *mask* の場合、*name* は CREATE MASK ステートメントで指定されたマスク名です。

ステートメントは処理できません。新しいオブジェクトは作成されず、既存のオブジェクトは変更も修正もされません。

ユーザーの処置: 既存のオブジェクトをドロップするか、または新しいオブジェクトに別の名前を選択してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: ステートメントが CREATE FUNCTION MAPPING または CREATE TYPE MAPPING ステートメントの場合、ユーザーはタイプ・マッピング名を提供する必要はなく、システムが自動的にこのマッピングのための固有名を生成します。

sqlcode: -601

sqlstate: 42710

SQL0602N CREATE INDEX, CREATE INDEX EXTENSION, または ALTER INDEX
いずれかのステートメントで指定された列、期間、またはキー式が多すぎます。

説明: CREATE INDEX ステートメントで指定されている、列の数に指定期間数の 2 倍を足したものが、許可されている最大数を超えました。DB2 で許可されている最大数は 64 です。索引が型付き表に定義された場合は、指定された列の最大数を 63 に減らすための追加オーバーヘッドがあります。

CREATE INDEX EXTENSION ステートメントの場合、GENERATE KEY 関数は、索引内で許可されている最大 64 列を超えた列数を返します。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 他のデータ・ソースの制限が異なります。制限を超えている可能性があります。この問題はフェデレーテッド・サーバ

ーで検出されるか、またはデータ・ソースで検出される可能性があります。

ステートメントを処理できず、指定された索引は作成されませんでした。

ユーザーの処置: システムでの制限の 64 に適合するように、索引定義を変更してください。CREATE INDEX EXTENSION ステートメントの場合、異なる GENERATE KEY 関数を指定するか、または少ない列を返すよう関数を再定義してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 索引定義を変更して、データ・ソースの列数制限に適合するようにしてください。

sqlcode: -602

sqlstate: 54008

SQL0603N 索引項目が重複する原因となるデータが表に含まれているため、ユニーク索引は作成できません。

説明: CREATE INDEX ステートメントに定義されている索引は、指定された表が、識別された列および期間の値が重複する行をすでに含んでいるために、ユニークな索引として作成されませんでした。XML 列に索引を定義する場合、1 つの XML 文書から生成される索引値が重複することがあります。

パーティション表に新規にアタッチされたパーティション (つまり、SYSDATAPARTITIONS カタログ表の STATUS 列に値 'A' があるパーティション) がある場合、新規にアタッチされたパーティションに重複する索引項目が存在していることがあります。新規にアタッチされた表パーティション内のデータがまだ表示できない場合でも、CREATE INDEX ステートメントは、そのパーティションに対する索引パーティションを作成しません。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: この状態はデータ・ソースによって検出されることもあります。

ステートメントは処理できません。指定された索引は作成されません。

ユーザーの処置: データを調査して、重複データが有効であるかどうかを判断してください。または、非 UNIQUE 索引を作成することを考慮してください。

索引がパーティション化され、表に新規にアタッチされたパーティションがある場合は、SET INTEGRITY ステートメントを実行し、新規にアタッチされたパーティションをオンラインにしてください。重複データは他の制約に違反するため、SET INTEGRITY ステートメントにより除去される可能性があるため、CREATE INDEX ス

ステートメントを再度発行する必要があります。ユニーク索引が再び作成されない場合は、結果として重複索引項目になるデータを確認してください。

sqlcode: -603

sqlstate: 23515

SQL0604N 列の長さ、列の精度、列の桁数の属性、特殊タイプ、構造化タイプ、配列型、構造化タイプの属性、ルーチン、キャスト・ターゲット・タイプ、タイプ・マッピング、またはグローバル変数 *data-item* が無効です。

説明: CREATE または ALTER ステートメントのデータ・タイプ指定、または CAST 指定にエラーがあります。無効な長さ、精度、または桁数の属性が指定されている可能性があるか、あるいはこのコンテキスト内ではデータ・タイプ自体が正しくないか、または許されていない可能性があります。エラーのロケーションは *data-item* によって、以下のように示されます。

- CREATE または ALTER TABLE ステートメントの場合、*data-item* はエラーを含んでいる列の名前か、またはエラーを含んでいるデータ・タイプを示します。列データ・タイプが構造化タイプまたは XML データ・タイプであれば、INLINE LENGTH 値は少なくとも 292 で、32673 を超えることはできません。LOB データ・タイプの場合、INLINE LENGTH 値は少なくとも LOB 記述子のサイズである必要があります (CREATE TABLE ステートメントを参照)、32673 を超えることはできません。
- CREATE FUNCTION ステートメントの場合、*data-item* は、ステートメントの問題の領域を識別するトークンです。例えば、"PARAMETER 2"、"RETURNS"、または "CAST FROM" です。場合によっては、エラーのあるデータ・タイプになる可能性もあります。
- CREATE DISTINCT TYPE ステートメントの場合、*data-item* は定義されるタイプの名前か、またはエラーを含んでいるソース・データ・タイプの名前を示します。
- CREATE TYPE(array) ステートメントの場合、*data-item* はエラーを含んでいるデータ・タイプを示します。大括弧内に指定された整数値は、1 以上 2147483647 以下の整数でなければなりません。
- CREATE または ALTER TYPE ステートメントの場合、*data-item* はエラーを含んでいる属性のタイプ、またはインライン長の値が誤っている構造化タイプの名前を示します。インライン長を 292 よりも、また構造化タイプの constructor 関数によって返されたサイズよりも小さくすることはできません。

- CREATE VARIABLE ステートメントの場合は、*data-item* が正しくないデータ・タイプの変数の名前を示します。グローバル変数のデータ・タイプは、LONG タイプ、LOB、XML、ARRAY、および構造化タイプを除く任意の組み込みデータ・タイプとすることができます。特殊タイプおよび参照タイプはサポートされています。

- CAST(式 AS データ・タイプ) の場合、*data-item* は "CAST" またはエラーのあるデータ・タイプです。
- XMLCAST (式 AS データ・タイプ) の場合、*data-item* は "XMLCAST" またはエラーのあるデータ・タイプです。
- 反転タイプのマッピングの場合、リモート・データ・タイプに [p.p] 式を使用することはできません。たとえば、以下のステートメント (反転タイプ・マッピング) は誤っています。

```
CREATE TYPE MAPPING tm1
  FROM SERVER drdasvr TYPE CHAR([1..255])
  TO SYSIBM.VARCHAR
```

これに対して、以下のステートメント (順方向タイプ・マッピング) は正しいステートメントです。

```
CREATE TYPE MAPPING tm1
  TO SERVER drdasvr
  TYPE CHAR([1..255])
  FROM SYSIBM.VARCHAR
```

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: ステートメントが CREATE TYPE MAPPING ステートメントの場合に、ローカル・データ・タイプまたはリモート・データ・タイプのいずれかのタイプ属性が無効なタイプ・マッピングの作成が試行されました。次のような理由が考えられます。

- ローカルな長さ / 精度が 0 あるいは負の値にセットされている。
- 長さ / 精度属性が、日付 / 時間 / タイム・スタンプ、浮動、または整数のようなデータ・タイプに対して指定されている。
- 桁数の属性が、文字、日付 / 時間 / タイム・スタンプ、浮動、または整数のようなデータ・タイプに対して指定されている。
- FOR BIT DATA 節が、文字以外のタイプに対して指定されている。
- リモート精度が、Informix 日付以外のリモート・データ・タイプに対して 0 にセットされている。
- 無効なフィールド修飾子が Informix 日付タイプに対する入力マッピングで使用されている。
- 終了値が、精度 / 位取りの範囲での開始値より小さくなっている。

ステートメントは処理できません。

SQL0605W

ユーザーの処置: 構文を訂正し、再試行してください。

sqlcode: -604

sqlstate: 42611

SQL0605W 一致する定義を持つ索引 *name* がすでに存在しているため、索引は作成されませんでした。

説明: CREATE INDEX ステートメントは、既存の索引定義と一致する新規索引を作成しようとしていました。

列、列の順序、昇順または降順の指定が同じで、ユニークの強制が両方、または既存の方のみに指定されている場合、2つの索引の定義が一致すると判断されます。

また、列、列の順序が同じで、それらの索引キーの順序は昇順と降順が同じまたは逆で、かつ1つ以上の索引が順方向と逆方向スキンの両方をサポートする場合も、2つの索引の定義は一致すると判断されます。

パーティション表の場合、他のすべての指定が一致する場合でも、一方がパーティション表で他方が非パーティションの2つの索引定義は一致しません。他の点で類似の定義を持つパーティション索引と非パーティション索引は、同じ表上で共存できます。

新しい索引は作成されませんでした。

ユーザーの処置: 既存の索引 *name* が適切な索引である限り、アクションは不要です。たとえば、既存の索引が反転スキャンを許可しておらず、必要な索引がそれを許可している場合、既存の索引 *name* は適切な索引ではありません (その逆も同じです)。この場合、索引 *name* は必要な索引が作成される前にドロップされなければなりません。

sqlcode: +605

sqlstate: 01550

SQL0606N COMMENT ON または LABEL ON ステートメントが、指定された表または列が *owner* によって所有されていないために失敗しました。

説明: 存在しないか、またはメッセージ・テキストで示された所有者によって所有されていない表または列で、コメントまたはラベルに対する試行が行われました。

SQL ステートメントの処理は終了しました。

ユーザーの処置: ステートメントを訂正してください。もう一度やり直してください。

sqlcode: -606

sqlstate: 42505

SQL0607N *operation* は、システム・オブジェクトに定義されていません。

説明: SQL ステートメントに指定されている *operation* は、システム・オブジェクトでは実行できません。以下のいずれかが、試みられました。

- システム・カタログ表、組み込み関数、または組み込みデータ・タイプなどのシステム所有オブジェクトの ALTER、DROP、または TRANSFER OWNERSHIP。
- システム所有組み込み関数の COMMENT ON。
- システム・カタログ表の INSERT、DELETE、または TRUNCATE。
- システム・カタログ表での UPDATE ディレクトリ。システム・カタログ表のサブセットの一部の列は更新可能です。これらのカタログ表の UPDATE 操作では、SYSSTAT スキーマの更新可能なビューを使用する必要があります。更新可能なカタログ・ビュー (SYSSTAT ビュー) の記述については、「SQL リファレンス」を参照してください。
- システム表での索引の CREATE または DROP。
- システム表でのトリガーの CREATE。
- FOR UPDATE 節の入った SELECT ステートメントの FROM 節で更新不可のシステム表が識別されました。更新可能なシステム・カタログのリストについては、「SQL リファレンス」を参照してください。
- システム表スペースの DROP または ALTER。
- システムデータベース・パーティション・グループの DROP または ALTER。
- システム・デフォルト・ワークロードの DROP。
- ENABLE、DISABLE、POSITION、ADD、または DROP オプションが指定された、SYSDEFAULTUSERWORKLOAD の ALTER。
- COLLECT 以外のオプションが指定された、SYSDEFAULTADMWORKLOAD の ALTER。
- SYSDEFAULTADMWORKLOAD または SYSDEFAULTUSERWORKLOAD が POSITION BEFORE または AFTER オプションの値として指定された、ワークロードの ALTER。
- IBMCATGROUP または IBMTEMPGROUP データベース・パーティション・グループの REDISTRIBUTE。
- 名前が "SYS" で始まるスキーマの所有権を転送します。
- ワーク・アクション・セットの CREATE、またはデフォルトの管理ワークロード SYSDEFAULTADMWORKLOAD のしきい値の CREATE。

オンラインの ADMIN_MOVE_TABLE 操作は、予約済みスキーマの表に対しては実行できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 更新可能な SYSSTAT ビューを使って更新可能なシステム・カタログ表の列を除き、システム・オブジェクトの変更を試行しないでください。詳しくは、「SQL リファレンス」を参照してください。

sqlcode: -607

sqlstate: 42832

SQL0612N *name* は重複名です。

説明: 同じ名前のステートメントが発行され、重複が許可されていない箇所でも数回にわたって現れました。これらの名前の現れる場所は、ステートメントのタイプによって異なります。

- CREATE TABLE ステートメントは、2 つの列に定義された同じ列名を持つことができません。
- 表パーティションを指定する CREATE TABLE ステートメントは、2 つのデータ・パーティションに同一データ・パーティション名を定義することはできません。
- ALTER TABLE ステートメントでは、表にすでに存在するデータ・パーティションの名前と同じパーティション名を指定してデータ・パーティションを表に追加またはアタッチすることはできません。
- CREATE VIEW ステートメントまたは共通表式定義は、列名リストに同じ列名を持つことができません。列名リストを指定しない場合は、ビューの選択リストの列の列名をユニークにする必要があります。
- ALTER TABLE ステートメントは、すでに存在する列の名前、または追加する別の列と同じ名前を使用して、列を表に追加することはできません。さらに、列名は、単一 ALTER TABLE ステートメントの 1 つの ADD、DROP COLUMN、または ALTER COLUMN 節内でのみ参照することができます。
- CREATE INDEX は、索引キーまたは索引の INCLUDE 列の一部として複数回指定されている列名を持つことはできません。
- CREATE TRIGGER は、更新トリガーをアクティブ化する列のリストに複数回指定されている列名を持つことはできません。
- ステートメントの CREATE TABLE OF は、REF IS 列および構造化タイプの任意の属性に定義された名前と同じ名前を持つことはできません。
- CREATE TYPE ステートメントは、ROW データ・タイプの 2 つのフィールドまたは構造化タイプ内の 2 つの属性に定義されているものと同じ名前を持つこと

ができません。フィールド名および属性名は、タイプおよびすべてのスーパータイプ内でユニークでなければなりません。

- ALTER TYPE ステートメントは、タイプまたはサブタイプで別の追加属性としてすでに存在している属性の名前を使用して、構造化タイプに属性を追加することはできません。さらに、属性の名前は、構造化タイプが作成した任意の表の REF IS 列と同じでない可能性があります。さらに、属性名は、単一 ALTER TYPE ステートメントで、1 つのみの ADD または DROP ATTRIBUTE 節に参照することができます。
- CREATE INDEX EXTENSION ステートメントは、2 つのパラメーターに定義された同じ名前を持つことができません。
- 列名は、単一 ALTER NICKNAME ステートメントの 1 つの ALTER COLUMN 節でのみ参照できます。
- XMLQUERY、XMLEXISTS、または XMLTABLE 引数リストに、同じ名前の引数が 2 つ 含まれています。
- XMLTABLE 列リストには、同じ名前の列が 2 つ 含まれています。
- SELECT ステートメントの型付き相関節に同じ名前の列を 2 つ含むことはできません。
- CREATE または ALTER TABLE ステートメントで、ユニーク・キーに同一の期間を複数回指定することはできません。
- CREATE または ALTER TABLE ステートメントで、同じ名前を持つ期間および列を定義することはできません。
- 期間は同じ ALTER TABLE ステートメントで追加または変更されているため、同時にドロップすることはできません。例えば、同じ期間名を同じ ALTER TABLE ステートメントの DROP PERIOD 節と ADD PERIOD 節の両方に指定することはできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメントのタイプとして適切な固有名を指定してください。

sqlcode: -612

sqlstate: 42711

SQL0613N *name* によって識別される主キー、ユニーク・キー、または表パーティション・キーが長すぎるか列および期間が多すぎます。

説明: このエラーは、以下のいずれかが原因です。

- *name* によって識別された PRIMARY KEY 節または UNIQUE 節の列の内部長の合計が索引キーの長さ制限を超えているか、列の数に期間の 2 倍の数を足し

SQL0614N

たものが最大の 64 を超えています。また、主キーまたはユニーク・キーは、LONG VARCHAR 列を使用して定義できません。型付き表で主キーまたはユニーク制約が定義された場合は、指定された列の最大数を 63 に減らし、長さを 4 バイトに制限する追加の索引オーバーヘッドがあります。

- PARTITION BY 節内の列の数が最大の 16 を超えています。

指定された場合、*name* は主キーまたはユニーク制約の制約名です。制約名が指定されなかった場合は、*name* が 3 つのピリオドが後に続く主キーまたはユニーク制約節に指定された最初の列名になります。

索引キーの長さ制限は、索引が使用する表スペースのページ・サイズに基づいています。

キーの最大長 ページ・サイズ

-----	-----
1K	4K
2K	8K
4K	16K
8K	32K

表パーティション・キーの場合、*name* は制限を超えている列の列名です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 列数の制限である 64 およびキーの長さ制限に適合するように、1 つ以上のキー列または期間を削除して、主キー、ユニーク・キー、または表パーティション・キーの定義を変更してください。

sqlcode: -613

sqlstate: 54008

SQL0614N 指定された列を結合した長さが長すぎるため、索引または索引拡張子 *index-name* は作成されないか、または変更されません。

説明: キー列の内部長の合計が索引キーの長さ制限を超えたため、索引は作成または変更できませんでした。また、LONG VARCHAR、LONG VARGRAPHIC、または LOB 列を使用する索引は作成できません。索引が型付き表で定義された場合は、最大長を 4 バイトまで減らす追加の索引オーバーヘッドがあります。索引は、1 つまたはそれ以上の列のデータ・タイプを変更する ALTER TABLE または ALTER NICKNAME ステートメントによって変更可能です。

GENERATE KEY 関数によって戻された列の合計が索引キーの長さ制限を超えたため、索引拡張子を作成できませんでした。

索引キーの長さ制限は、索引が使用する表スペースのページ・サイズに基づいています。

キーの最大長 ページ・サイズ

-----	-----
1K	4K
2K	8K
4K	16K
8K	32K

ステートメントは処理できません。示されている索引または索引拡張子が作成されなかったか、または表またはニックネームを変更できませんでした。

ユーザーの処置: 索引定義を修正するか、または列を変更するには、1 つまたはそれ以上のキー列を除去して、キーの長さを許容最大長まで減らしてください。索引拡張子定義の場合、異なる GENERATE KEY 関数を指定するか、または返される行の長さが減るよう関数を再定義してください。

sqlcode: -614

sqlstate: 54008

SQL0615N 現在使用中のため、タイプ *object-type* のオブジェクト *object-name* をドロップできません。

説明: 使用中である場合、オブジェクトの DROP ステートメントを出すことはできません。

ステートメントは処理できません。このオブジェクトはドロップされません。

ユーザーの処置: オブジェクト *object-name* に直接的、または間接的に依存するカーソルをクローズし、ステートメントを再サブミットしてください。

TEMPORARY 表スペースの場合、表スペースが使用されていないときにステートメントを再サブミットしてください。

sqlcode: -615

sqlstate: 55006

SQL0620N CREATE TABLE ステートメントが、*user-id* に専用の、255 より少ない表を持つリカバリー可能な *dbspace* がないために失敗しました。

説明: *dbspace* 名が CREATE TABLE ステートメントで指定されていないため、データベース・マネージャーは、*user-id* が所有する専用 DB スペースを見つけようとしていました。このメッセージは、以下のいずれかの条件のもとで表示されます。

1. DB2 (VM データベース版) で検出された *user-id* の専用 DB スペースがありません。
2. 1 つ以上の専用 DB スペースが *user-id* で見つかりましたが、それぞれに 255 の表が入っています。

3. 専用 DB スペースが、リカバリー不能ストレージ・プールに配置されました。リカバリー可能ストレージ・プールに存在する専用 DB スペースのみが、CREATE TABLE ステートメントが `dbspace` 名を指定しなかった場合に使用できるようになります。

SQL ステートメントの処理は終了しました。

ユーザーの処置: 想定される 3 つの条件に対する提案は、以下のとおりです。

1. リカバリー可能ストレージ・プールで専用 DB スペースを取得します。データベース管理者の援助が必要になるかもしれません。
2. リカバリー可能ストレージ・プールの専用 DB スペースにある表をドロップして項目を解放するか、または (1) で示されたアクションを行います。
3. 表をリカバリー不能ストレージ・プールの既存の DB スペースに作成する場合は、CREATE TABLE コマンドで DB スペース名を指定します。それ以外の場合は、(1) で示されたアクションを行ってください。

その後、CREATE TABLE ステートメントを再実行します。

該当する場合は、ユーザーの専用 DB スペースを取得してください。

sqlcode: -620

sqlstate: 57022

SQL0622N 節 *clause* は、このデータベースには無効です。

説明: 示された節は、このデータベースで定義された特性と互換性がないため、無効です。

以下の理由が考えられます。

- Unicode コード・ページを使用して作成されたデータベースに接続する場合は、CCSID ASCII および PARAMETER CCSID ASCII を指定できません。
- Unicode 以外のコード・ページを使用して作成されたデータベースに接続する場合は、CCSID UNICODE および PARAMETER CCSID UNICODE を指定できません。最初に、代替照合シーケンスをデータベース構成に指定してください。
- Unicode 以外のコード・ページを使用して作成されたデータベースに接続する場合は、CCSID UNICODE または PARAMETER CCSID UNICODE を指定できません。

- FOR SBCS DATA は、単一バイト・コード・ページを使用して作成されたデータベースに接続する場合にのみ指定できます。
- FOR MIXED DATA は、2 バイトまたは Unicode コード・ページを使用して作成されたデータベースに接続する場合にのみ指定できます。
- アプリケーションが現在接続しているデータベースの名前と一致しないデータベース名を使用して、IN *database-name.table-space-name* または IN DATABASE *database-name* 節が指定されました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 節を変更または除去して、SQL ステートメントを再発行してください。

Unicode 以外のデータベースで Unicode オブジェクトを許可するには、データベース構成を更新し、代替照合シーケンス (ALT_COLLATE) を指定してください。

sqlcode: -622

sqlstate: 56031

SQL0623N クラスティング索引はすでに *name* 表で存在します。

説明: CREATE INDEX ステートメントは 2 番目のクラスティング索引を、指定された表に作成します。与えられた表には 1 つのみのクラスティング索引が有効です。

ステートメントは実行できません。

ユーザーの処置: 既存のクラスティング索引の ID と妥当性検査を *name* 表でチェックしてください。索引を CLUSTER 属性なしで作成することを考慮してください。

sqlcode: -623

sqlstate: 55012

SQL0624N 表 *name* にはすでに、指定した列および期間を使用した主キーまたはユニーク制約があります。

説明: 主キーまたはユニーク制約は、示された表にすでにあるため、ALTER TABLE ステートメントで定義することはできません。

ステートメントは実行できません。

ユーザーの処置: 1 つの表が複数の主キーを持つことはできません。1 つの表が既存の制約と重複するユニーク制約を持つことはできません。

sqlcode: -624

sqlstate: 42889

SQL0628N *clause-type* 節を含む、複数のキーワードまたは矛盾するキーワードが存在します。

説明: ステートメントについて、この状態が診断されるさまざまな理由が存在します。原因は、*clause-type* の値によって示されます。考えられる理由には、以下のものがあります。

- キーワードが、他のキーワードと同じステートメントに指定されていない可能性があります。
- キーワードが一連のキーワードの一部であり、そのキーワードの指定の順序が強制されていない可能性があります。このような順序のキーワードは、矛盾するキーワードとともに指定されている可能性があります。
- キーワードが、別の関連値で、複数回出現する可能性があります。
- このキーワードには、他の特定のキーワードが同じステートメントで指定されていることが必要なのに、それらが指定されなかった可能性があります。
- オブジェクトを変更するときに、オブジェクトの既存のプロパティと矛盾するキーワードが指定されました。
- パーティション表を変更するとき、ADD、ATTACH、および DETACH 節と他の節との同時指定はサポートされません。
- LIKE *table-name* 節 (*table-name* はニックネームを示す) を指定して表を作成または宣言する場合、INCLUDING COLUMN DEFAULTS 節に効果はなく、列のデフォルトはコピーされません。
- OUT および INOUT パラメーターをサポートしない関数内のパラメーターを定義するために、パラメーター・モード OUT または INOUT が使用されました。
- RETURNS GENERIC TABLE 節を指定した CREATE PROCEDURE ステートメントを使用して汎用表関数を作成しようとしたのですが、以下のいずれかのエラーが発生しました。
 - JAVA 以外の言語が LANGUAGE 節に指定されました。
 - DB2GENERAL 以外のパラメーター・スタイルが PARAMETER STYLE 節に指定されました。
- トリガーの CREATING のときに、同じトリガー・イベントが複数回指定されました。
- 表スペースの作成時に、'USING STOGROUP' 節を DMS または SMS 表スペースで使用できません。
- 表スペースの作成時に、STOGROUP を一時自動ストレージ表スペース用に変更できません。
- 表スペースの作成時に、DATA TAG を一時表スペース用に設定できません。

- 表スペースの作成時に、DATA TAG をシステム・カタログ表スペース用に設定できません。
- 表の作成または変更時に、LIKE を使用した VERSIONING を as-result-table または materialized-query-definition 用に指定できません。

ユーザーの処置: ステートメントが、そのステートメントに定義された構文と規則に一致していることをチェックしてください。重複または矛盾するキーワードの無効な分を訂正してください。

sqlcode: -628

sqlstate: 42613

SQL0629N 列または FOREIGN KEY *name* には NULL 値を含めることができないため、SET NULL は指定できません。

説明: ALTER TABLE ステートメントまたは示された FOREIGN KEY 節の SET NULL オプションは無効です。ALTER TABLE ステートメントの場合、列 *name* は外部キー制約の最後の NULL 可能な列であり、アクション・タイプが「ON DELETE SET NULL」に設定されていたため、この列を NULL 値を許可しないように変更することはできません。

FOREIGN KEY 節の場合、キーの列に NULL 値は許可されていません。指定された場合、*name* は制約名です。制約名を指定しなかった場合、*name* は FOREIGN KEY 節の列リストで指定された、3 つのピリオドが後に続く最初の列名になります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ALTER TABLE ステートメントの場合、外部制約を除去するか、またはこの制約の少なくとももう 1 つの列を NULL 可能に変更してください。FOREIGN KEY 節の場合、キー列を変更して NULL 値への割り当てを許可するか、または削除規則を変更してください。

sqlcode: -629

sqlstate: 42834

SQL0631N FOREIGN KEY *name* が長すぎるか、または列の数が多すぎます。

説明: CREATE TABLE ステートメントの FOREIGN KEY 節で識別された列の内部長の合計が索引キーの長さ制限を超えているか、または識別された列の数が 64 を超えています。また、外部キーは、LONG VARCHAR 列では定義できません。

FOREIGN KEY 節で指定すると、*name* は制約名になります。制約名を指定しなかった場合、*name* は FOREIGN KEY 節の列リストで指定された、3 つのピ

リオドが後に続く最初の列名になります。

索引キーの長さ制限は、索引が使用する表スペースのページ・サイズに基づいています。

キーの最大長 ページ・サイズ

キーの最大長	ページ・サイズ
1K	4K
2K	8K
4K	16K
8K	32K

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 外部キー定義を修正するには、1 つ以上のキー列を削除することによって、列の限界である 64 およびキーの長さの制限に合うようにしてください。

sqlcode: -631

sqlstate: 54008

SQL0632N 削除規則制限により、表を表 *table-name* の従属表として定義できないので、**FOREIGN KEY name** は無効です (理由コード = *reason-code*)。

説明: 以下のいずれかの理由コードのため、CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントのオブジェクト表が、表 *table-name* の従属表として定義することができないので、参照制約は定義できません。

- (01) リレーションシップが自己参照であり、SET NULL 削除規則を持つ自己参照リレーションシップはすでに存在しています。
- (02) リレーションシップが、表がそれ自体に連結削除されることとなるような 2 つ以上の表のサイクルを構成しています (サイクルの他のすべての削除規則は CASCADE になります)。
- (03) 表が、複数のリレーションシップを通じて示されている表に連結削除されることとなるようなリレーションシップであり、既存のリレーションシップの削除規則が SET NULL です。

エラーの原因は、CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメント内の FOREIGN KEY 節に指定されている削除規則ではなく、既存のリレーションシップの削除規則にあります。

FOREIGN KEY 節で指定すると、*name* は制約名になります。制約名を指定しなかった場合、*name* は FOREIGN KEY 節の列リストで指定された、3 つのピリオドが後に続く最初の列名になります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 可能であれば、CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントから特定の FOREIGN KEY 節を取り除いてください。

sqlcode: -632

sqlstate: 42915

SQL0633N FOREIGN KEY *name* の削除規則は *delete-rule* でなければなりません (理由コード = *reason-code*)。

説明: CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントの FOREIGN KEY 節内に指定された削除規則が無効です。以下の理由コードのために、示された削除規則が必要です。

- (01) 参照制約が自己参照で、既存の自己参照制約が示された削除規則 (NO ACTION、RESTRICT または CASCADE) を持っています。
- (02) 参照制約が自己参照で、表が CASCADE 削除規則とのリレーションシップにある従属表です。
- (03) リレーションシップが、複数のリレーションシップを通して表を同一表に連結削除しており、このようなりレーションシップは、同じ削除規則 (NO ACTION、RESTRICT または CASCADE) を持つ必要があります。

FOREIGN KEY 節で指定すると、*name* は制約名になります。制約名を指定しなかった場合、*name* は FOREIGN KEY 節の列リストで指定された、3 つのピリオドが後に続く最初の列名になります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 可能ならば、削除規則を変更してください。

sqlcode: -633

sqlstate: 42915

SQL0634N FOREIGN KEY *name* の削除規則は **CASCADE** であってはなりません (理由コード = *reason-code*)。

説明: CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントの FOREIGN KEY 節で指定された CASCADE 削除規則が、以下の理由コードのいずれかのために無効です。

- (01) SET NULL、NO ACTION または RESTRICT の削除規則を持つ自己参照制約が存在します。
- (02) リレーションシップが、表をそれ自体に連結削除しているサイクルを構成します。サイクル内の既存の削除規則の 1 つが CASCADE ではないので、削除規

則が CASCADE でない場合は、このリレーションシップが定義できる可能性があります。

- (03) リレーションシップが、異なる削除規則または SET NULL に等しい削除規則を持つ複数のパスを通して、別の表を同一表に連結削除しています。

FOREIGN KEY 節で指定すると、*name* は制約名になります。制約名を指定しなかった場合、*name* は FOREIGN KEY 節の列リストで指定された、3 つのピリオドが後に続く最初の列名になります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 可能ならば、削除規則を変更してください。

sqlcode: -634

sqlstate: 42915

SQL0636N データ・パーティション *partition-name* に指定された範囲は無効です。理由コード = *reason-code*。

説明: パーティション・キーに指定された範囲は、以下のいずれかの理由コードで無効です。

1

パーティションの STARTING 値が ENDING 値より大きくなっています。通常、パーティションの STARTING 値は ENDING 値より小さくなければなりません。ただし、両方の境界が包含的である場合は、開始値を終了値と等しくすることができます。MINVALUE または MAXVALUE を含む境界は排他的です。たとえば、STARTING (1, MINVALUE) ENDING (1, MINVALUE) として定義されたパーティションは正しくありません (理由コード 1)。なぜなら、境界値が等しく、両方とも排他的だからです。1 つの境界のみ (たとえば STARTING 境界のみ) が明示的に指定されている場合でも、(欠落している境界が生成された後の) 結果の境界がこの規則に違反すれば、この理由コードが戻されます。

3

最下位キーを持つパーティションに STARTING 値が指定されていません。

4

最上位キーを持つパーティションに ENDING 値が指定されていません。

5

直前の ENDING 値が指定されなかった場合、STARTING 値が指定されていません。

7

DB2 UDB for System i の場合のみ: データ・パーティションが昇順で指定されていません。

9

パーティションの STARTING 値または ENDING 値が長すぎます。表パーティション・キーのしきい値の合計の長さは、512 バイト以下でなければなりません。

10

範囲が別のパーティションとオーバーラップします。各データ・パーティションの開始と終了の境界は適切に定義されなければならず、各データ値はただ 1 つのデータ・パーティションに入らなければなりません。また、あるパーティションの終了境界と次のパーティションの開始境界に同じ値 (MINVALUE または MAXVALUE を除く) を使用する場合は、これらの境界の少なくとも 1 つを排他的として定義する必要があります。既存の表のパーティションの境界が包含的か排他的かを判別するには、次のようにして

SYSCAT.DATAPARTITIONS カタログ表を照会します ('table-schema' と 'table-name' は該当する値に置き換えてください)。

```
SELECT
  DATAPARTITIONID, DATAPARTITIONNAME,
  LOWINCLUSIVE, LOWVALUE, HIGHINCLUSIVE,
  HIGHVALUE
FROM SYSCAT.DATAPARTITIONS
WHERE TABSCHEMA='table-schema'
AND TABNAME='table-name'
ORDER BY SEQNO
```

11

EVERY 節を指定しているときに MINVALUE と MAXVALUE を指定することはできません。

12

EVERY 節に指定される値はゼロより大きく、かつユニークなパーティションを定義できるだけの大きさでなければなりません。

13

パーティションの STARTING 値または ENDING 値の MINVALUE または MAXVALUE の後に定数を指定することはできません。MINVALUE または MAXVALUE を指定した場合、後続の (有意性の低い) すべての列はそれぞれ MINVALUE または MAXVALUE でなければなりません。

14

10 進浮動小数点の特殊値は、EVERY 節が指定されている場合に、開始バウンド、終了バウンド、または増分として指定できません。

15

パーティションの STARTING 値および ENDING 値は NULL 値にできません。
varchar2_compat データベース構成パラメーターが ON に設定されている場合、長さゼロの文字ストリング値は NULL 値として扱われることに注意してください。

partition-name の値が "PARTITION=value" の形式のものである場合は、エラーが発生していてパーティション名を使用できませんでした。指定された値は、パーティション・リスト節内の問題のパーティションの開始値または終了値を示しています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: データ・パーティションの無効な範囲を訂正してください。

sqlcode: -636

sqlstate: 56016

SQL0637N キーワード *keyword* の使用法が無効です。

説明: SQL ステートメントに、示されたキーワードを持つ重複または競合指定の節が含まれます。例えば:

- DEFAULT、UNIQUE、および PRIMARY は列定義で 1 度しか指定できません。
- UNIQUE および PRIMARY を同じ列定義で両方指定することはできません。
- PRIMARY は CREATE TABLE ステートメントで 1 度しか指定できません。
- PREPARE ステートメントで指定される attribute-string ではオプションを複数回指定できません。または競合するオプションがあります。
- ACTIVATE または DEACTIVATE ROW ACCESS CONTROL は 1 度しか指定できません。
- ACTIVATE または DEACTIVATE COLUMN ACCESS CONTROL は 1 度しか指定できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 重複または競合指定の節を訂正してください。

sqlcode: -637

sqlstate: 42614

SQL0638N 列定義が指定されていないので、表 *name* が作成できません。

説明: CREATE TABLE ステートメントに、列定義が入っていません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 1 つ以上の列定義をステートメントに追加してください。

sqlcode: -638

sqlstate: 42601

SQL0644N ステートメント *statement-type* のキーワード *keyword* に指定された値が無効です。

説明: *statement-type* の記述で許可されているとおりのキーワード *keyword* の後に無効な値があります。数値の場合は、値が定義された範囲外にある可能性があります。その他のタイプの場合は、値が有効な値の定義セットにありません。

ユーザーの処置: *statement-type* の解説資料から、有効な値を判別し、適切な変更を行ってください。

sqlcode: -644

sqlstate: 42615

SQL0647N バッファース・プール *bufferpool-name* は現在アクティブではありません。

説明: バッファース・プール *bufferpool-name* は現在のデータベース環境ではアクティブになっていません。同じページ・サイズの別のバッファース・プールを検出しようとしたが、現在のデータベース環境ではこのようなバッファース・プールがアクティブになっていません。バッファース・プール *bufferpool-name* は最近定義されましたが、まだアクティブではありません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 要求されたバッファース・プールをアクティブ化するには、データベースを停止して、開始しなおしてください。

sqlcode: -647

sqlstate: 57003

SQL0648N 表 *owner1.table-name1* が、複数のパスを介した表 *owner2.table-name2* に連結削除されることになるため、この外部キーは定義できません。理由コード = *reason-code*。

説明: 以下のいずれかの理由コード = *reason-code* のために外部キーを定義できません。

SQL0650N

01 このリレーションシップによって、表 *owner1.table-name1* は、複数のパスを介した表 *owner2.table-name2* に、SET NULL の同じ削除規則によって連結削除されることになりません。

02 このリレーションシップによって、表 *owner1.table-name1* は、複数のパスを介した表 *owner2.table-name2* に、異なる削除規則によって連結削除されることになります。

SQL ステートメントの処理は終了しました。

ユーザーの処置: ステートメントを訂正してください。もう一度やり直してください。

sqlcode: -648

sqlstate: 42915

SQL0650N ALTER ステートメントは実行できません。理由コード = *reason-code*。

説明: 索引または表の ALTER は指定されたとおりに実行できません。理由は以下のように理由コードで示されます。

23

MDC ブロック索引、ITC ブロック索引、XML パス索引、SPECIFICATION ONLY 指定の索引には、圧縮は指定できません。

ユーザーの処置: 理由コードで示されることにしたがって ALTER ステートメントを修正し、ステートメントをもう一度発行してください。

sqlcode: -650

sqlstate: 56090

SQL0658N オブジェクト *name* は、明示的にドロップまたは変更できません。

説明: ID *name* は以下のいずれかを示しています。

- 特殊タイプでの使用を目的としてシステムによって作成されたため、DROP ステートメントではドロップできない cast 関数または比較関数
- ソース派生関数であるために変更できない関数
- 構造化タイプでの使用を目的としてシステムによって作成されたため、ALTER TYPE メソッドではドロップできないメソッド
- SQL プロシージャでの使用を目的としてシステムによって作成されたため、DROP ステートメントではドロップできないパッケージ。整合性トークン (ま

たは *unique_id*) は、"pkgschema.pkgname 0Xcontoken" の形式のパッケージ名の一部として 16 進数で指定されています。

- ワーク・アクション・セットのコンテキストで定義されたしきい値。
- LANGUAGE SQL を使って定義されているため変更できないルーチン
- マテリアライズ照会表定義の全選択内で参照されているため、キャッシング不許可に変更できないニックネーム
- DROP PERMISSION ステートメントを使用して明示的にドロップできない、デフォルトの行許可

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置:

- 関数 *name* は、この関数の定義の原因となった特殊タイプまたは構造化タイプをドロップすることでしかドロップできません。特殊タイプ名は、関数の名前、あるいは関数に対するパラメーターのタイプのいずれかに対応します。
- 関数 *name* は、ドロップしてから再作成することによってのみ変更できます。
- メソッド *name* は、このメソッドを定義した構造化タイプをドロップすることによってのみドロップできます。メソッド名は、構造化タイプの属性名に対応しています。
- パッケージ *name* は、このパッケージを定義した SQL プロシージャをドロップすることによってのみドロップできます。SQL プロシージャの特定名は、DSHEMA と DNAME を SYSIBM.SYSDEPENDENCIES カタログ表から検索して見つけることができます。この表の中で、BSHEMA、BNAME、および BUNIQUE_ID は *name* の関連する部分に一致し、BTYPE は 'K' で DTYPE は 'L' です。整合性トークン (または *unique_id*) は、同じスキーマと名前を共有するパッケージ・バージョンごとに区別されている必要があります。
- ALTER WORK ACTION SET または DROP WORK ACTION SET を使用して、しきい値を変更またはドロップします。
- このルーチン *name* を変更するには、ルーチンをドロップして、再定義する必要があります。
- あらゆるマテリアライズ照会表定義内のニックネームへの参照をすべてドロップすることによってのみ、ニックネーム *name* をキャッシング不許可に変更できます。
- DROP TABLE ステートメントを使用して関連する表をドロップした場合にのみ、デフォルトの行の許可を暗黙的にドロップできます。そうしない場合は、

ALTER TABLE ステートメントで DEACTIVATE ROW ACCESS CONTROL 節を使用して、デフォルトの行の許可をドロップできます。

SQL0659N 表オブジェクトの最大サイズを超えました。

説明: 表を構成する 1 つ以上のオブジェクトが、最大サイズに達しました。表を構成するストレージ・オブジェクトは、以下のとおりです。

- データ: これは、基本列データが格納される場所です。
- 索引: これは、表のすべての索引が格納される場所です。
- 長いデータ: これは、LONG VARCHAR と LONG VARGRAPHIC 列データが格納される場所です。
- Lob/Lob 割り振り: これは、BLOB、CLOB、DBCLOB 列データ、および制御情報が格納される場所です。
- XML: これは、XML データが格納される場所です。

ストレージ・オブジェクトは最大サイズまで大きくなると、それ以上は拡張できません。

ユーザーの処置: オブジェクト内の既存のスペースを、新しいデータが格納できるようにするには、以下のアクションが必要になる可能性があります。

- 表を再編成してください。
- 表から不必要な行を削除してください。
- 表から索引をドロップしてください。
- データ量が減るように行を更新してください (未使用ストレージを再利用するために、このアクションの後に REORG が必要になる可能性があります)。
- 不必要な XML 文書を削除してください。

sqlcode: -659

sqlstate: 54032

SQL0663N データ・パーティション *partition-name* のパーティション値の数が正しくありません。

説明: データ・パーティションの STARTING または ENDING 節で、誤った数のデータ・パーティション・キーのしきい値が指定されていました。データ・パーティションの指定に EVERY 節を含めた場合は、データ・タイプが数値または日時を表パーティション・キー列が 1 つだけ存在しなければなりません。 *partition-name* の値が "PARTITION=value" の形式のものである場合は、エラーが発生していてパーティション名を使用できません

でした。指定された値は、パーティション・リスト節内の問題のパーティションの開始値または終了値を示しています。

ユーザーの処置: STARTING または ENDING 節で指定する値の数を、表パーティション・キーの列の数と一致するように変更してください。あるいは、表パーティション・キーの列の数を変更してください。

sqlcode: -663

sqlstate: 53038

SQL0667N 表に、親表の親キーで検索できない外部キーの値が入っている行が含まれているため、FOREIGN KEY *name* を、作成することはできません。

説明: 変更された表が親表の親キーに一致しない外部キーがある行に少なくとも 1 つ入っているため、指示された外部キーの定義が失敗しました。

指定された場合、*name* は制約名です。制約名を指定しなかった場合、*name* は FOREIGN KEY 節の列リストで指定された、3 つのピリオドが後に続く最初の列名になります。

ステートメントは処理できません。指定した表は変更されません。

ユーザーの処置: 誤りのある表の行を取り除いて、外部キーを定義してください。

sqlcode: -667

sqlstate: 23520

SQL0668N 理由コード *reason-code* のため、表 *table-name* に対する操作は許可されません。

説明: 表 *table-name* へのアクセスは制限されています。原因は、次の理由コード *reason-code* に基づいています。

1

表は、SET INTEGRITY ペンディング・アクセスなし状態です。表の整合性が強制されておらず、表の内容が無効である可能性があります。従属表が SET INTEGRITY ペンディング・アクセスなし状態である場合は、SET INTEGRITY ペンディング・アクセスなし状態でない親表または基礎表に対する操作も、このエラーを受け取る可能性があります。

2

表はデータ移動なし状態です。この状態のときには、データ移動の原因となる操作は許可され

ません。データ移動操作には、**REDISTRIBUTE**、データベース・パーティション・キーの更新、多次元クラスタリング・キーの更新、範囲クラスタリング・キーの更新、表パーティション・キーの更新、および **REORG TABLE** などがあります。

3

表はロード・ペンディング状態です。この表に対する直前の **LOAD** 試行が失敗しました。この **LOAD** 操作の再始動または終了の時点まで、表へのアクセスは許可されません。

4

表は読み取りアクセス状態です。この状態は、オンライン **LOAD** 処理 (**READ ACCESS** オプションを指定した **LOAD INSERT**) 中、またはオンライン **LOAD** 操作後で、**SET INTEGRITY** ステートメントを使ってすべての制約が表の新しく付加された部分で妥当性検査される前に発生することがあります。この状態は、**SET INTEGRITY** ステートメントで整合性検査をオフにしているときに **READ ACCESS** 節が使用された場合にも発生することがあります。この表に対する更新アクティビティーは許可されません。

5

表はロード中状態です。現在この表に対して **LOAD** ユーティリティーの操作が実行中であり、この **LOAD** が完了するまではアクセスは許可されません。

6

ニックネームを参照するマテリアライズ照会表は **DB2 Enterprise Server Edition** 内では更新できません。

7

表は **REORG** ペンディング状態です。これは、**REORG** の推奨対象となる操作が含まれる **ALTER TABLE** ステートメントの後に発生する可能性があります。

8

表は変更ペンディング状態です。**REORG** の推奨対象となる操作が含まれる **ALTER TABLE** ステートメントと同じ作業単位で表を使用している場合に、この状態になることがあります。

9

表が再配分ペンディング状態にある。この表に対して **REDISTRIBUTE** ユーティリティーが完

了しておらず、**REDISTRIBUTE** が完了するまではアクセスは許可されません。

10

表は進行中の **ADMIN_MOVE_TABLE** 操作のソース表です。試行された操作は、移動が完了または取り消されるまで制限されます。

11

非パーティション索引がある表に新しいデータ・パーティションがあり、そのパーティションを作成した追加操作かアタッチ操作と同じトランザクション内の操作がアクセスしようとしたが、このトランザクションでは表は排他モードでロックされません。

ユーザーの処置:

1

表 *table-name* に対して **IMMEDIATE CHECKED** オプションを指定して **SET INTEGRITY** ステートメントを実行し、表を **SET INTEGRITY** ペンディング・アクセスなし状態から抜け出させます。ユーザーが保守するマテリアライズ照会表では、**IMMEDIATE CHECKED** ではなく **IMMEDIATE UNCHECKED** オプションを指定して、ステートメントを実行してください。

2

従属即時マテリアライズ照会表と表 *table-name* のステージング表に対して **REFRESH TABLE** ステートメントを実行します。これらの従属即時マテリアライズ照会表とステージング表の内容は、直前の **LOAD INSERT** 操作を通じて *table-name* の付加データから、および **ATTACH** 節を指定した前の **ALTER TABLE** ステートメントを通じて *table-name* の接続データから増分的に保守することができます。

3

直前に失敗したこの表に対する **LOAD** 操作を、**RESTART** または **TERMINATE** オプションを指定して **LOAD** を発行し、再始動または終了します。

4

LOAD のために読み取りアクセス状態だった場合は、**LOAD QUERY** コマンドを発行して、表がロード処理中であるかどうかを確認してください。ロード中の場合は、**LOAD** ユーティリティーが完了するまで待機するか、または必要に応じて、直前に失敗した **LOAD** 操作を再始動または終了してください。 **LOAD** が現在進

行中でない場合は、IMMEDIATE CHECKED オプションを指定して SET INTEGRITY ステートメントを発行し、表の新しくロードされた部分の制約を検証してください。

整合性検査をオフにしていたために読み取りアクセス状態だった場合は、IMMEDIATE CHECKED オプションを指定して SET INTEGRITY ステートメントを発行してください。

5

現在の LOAD 操作が完了するまで待機してください。LOAD QUERY コマンドを使って、ロードの進行状態をモニターすることができます。

6

MAINTAIN BY USER オプションを使用してマテリアライズ照会表を定義してください。その後、マテリアライズ照会表にデータを追加するために副照会と共に INSERT ステートメントを使用してください。

7

REORG TABLE コマンドを使用して、表を再編成してください。

REORG ベンディング状態の表の場合、以下の節は表の再編成で許可されないことに注意してください。

- INPLACE REORG TABLE 節
- 表に非パーティション索引が定義されている場合のパーティション表の ON DATA PARTITION 節

8

作業単位を完了し、コマンドを再発行してください。

9

REDISTRIBUTE ユーティリティが作動している場合、現在の表に対する作業が完了するまで待ってください。LIST UTILITIES コマンドを使って、REDISTRIBUTE ユーティリティの進行状態をモニターすることができます。以前の REDISTRIBUTE 操作が失敗し、表がこの状態のままになっている場合、CONTINUE または ABORT オプションを指定して REDISTRIBUTE ユーティリティを再度発行して、この表に対する操作を完了させてください。

10

表移動操作を完了するかまたは取り消して、コマンドを再発行してください。移動操作の状況に関する情報については、SYSTOOLS.ADMIN_MOVE_TABLE 表を照会できます。

11

非パーティション索引があるターゲット表の新しいパーティションにアプリケーションがアクセスする前に、そのパーティションの追加操作かアタッチ操作が含まれるトランザクションがコミットされるように、アプリケーションを変更してください。または、新しいパーティションを作成した追加操作かアタッチ操作と同じトランザクション内でそのパーティションがアクセスされる際に、非パーティション索引がありオンラインの追加操作やアタッチ操作の影響を受ける表が排他ロックされるように、アプリケーションを変更してください。

sqlcode: -668

sqlstate: 57007

SQL0669N システム必須索引のドロップはできません。

説明: DROP INDEX ステートメントがドロップする索引は、以下で必要なものです。

- 表で主キー制約を行う
- 表でユニーク制約を行う
- 型付き表階層のオブジェクト ID (OID) 列の固有性を適用する
- 複製されたマテリアライズ照会表を保守する
- 表の XML 列を保守する

システム必須索引は、DROP INDEX ステートメントを使用してドロップされません。

ステートメントは処理できません。指定された索引はドロップされません。

ユーザーの処置: 主キーまたはユニーク制約を保持しない場合は、ALTER TABLE ステートメントの DROP PRIMARY KEY 節または DROP CONSTRAINT 節を使用して、その主キーまたはユニーク制約を除去してください。索引が強制された主キーまたはユニーク・キーにのみ作成されている場合は、索引はドロップされます。そうでない場合は、DROP INDEX ステートメントが処理されます。

OID 列の索引は、表のドロップによってのみドロップされます。

SQL0670N

複製されたマテリアライズ照会表の保守に必要な索引は、複製されたマテリアライズ照会表を最初にドロップしないとドロップできません。

表内の 1 つ以上の XML 列に関連するシステム要求索引は、明示的にドロップできません。このような索引はデータベース・マネージャーによって保守されて、表の XML 列をサポートします。DROP INDEX ステートメントに指定された索引をドロップするには、表もドロップしなければなりません。

sqlcode: -669

sqlstate: 42917

SQL0670N 表の行の長さが *length* バイトの制限を超えています。(表スペースは *tablespace-name*。)

説明: データベース・マネージャーの表の行の長さは、以下のいずれかの制限の範囲にしてください。

- 4K ページ・サイズでは、4005 バイト
- 8K ページ・サイズの表スペースでは 8101 バイト
- 16K ページ・サイズの表スペースでは 16293 バイト
- 32K ページ・サイズの表スペースでは 32677 バイト

行の長さは、列の内部的な長さを加算した合計です。内部列の長さの詳細については、「SQL リファレンス」の CREATE TABLE を参照してください。

以下のいずれかの条件が存在する可能性があります。

- CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントに定義されている表の行の長さが、表スペースのページ・サイズ制限を超えています。REGULAR 表スペース名 *tablespace-name* は、ページ・サイズが行の長さ制限を決定するために使用される表スペースを示しています。
- CREATE GLOBAL TEMPORARY TABLE または DECLARE GLOBAL TEMPORARY TABLE ステートメントに定義されている表の行の長さが、表スペースのページ・サイズ制限を超えています。USER TEMPORARY 表スペース名 *tablespace-name* は、ページ・サイズが行の長さ制限を決定するために使用される表スペースを示しています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 原因にしたがって、以下のいずれかを実行してください。

- CREATE TABLE、ALTER TABLE、CREATE GLOBAL TEMPORARY TABLE の場合、あるいは DECLARE GLOBAL TEMPORARY TABLE の場合は、可能であればページ・サイズを大きくして表スペースを指定します。

- ページ・サイズを大きくできない場合、列を除去して行の長さを減らすか、または列の長さを短くします。

sqlcode: -670

sqlstate: 54010

SQL0672N DROP 操作は、表 *table-name* では許可されていません。

説明: 以下のいずれかの理由で、DROP 操作が失敗しました。

- ドロップ中の表に RESTRICT ON DROP 属性があります。
- ドロップ中の表スペースまたはデータベース・パーティション・グループに、RESTRICT ON DROP 属性を持つ表が入っています。

DROP ステートメントは実行できません。

ユーザーの処置: 問題が DROP TABLE ステートメントで発生する場合は、DROP RESTRICT ON DROP 節を使用して ALTER TABLE ステートメントを発行してください。その後、DROP TABLE ステートメントを再発行してください。

DROP TABLESPACE または DROP DATABASE PARTITION GROUP ステートメントで問題が発生した場合は、表スペースまたはデータベース・パーティション・グループ内に、RESTRICT ON DROP 属性を持つ表が他にないことを確認してください。以下の SELECT ステートメントは、表を識別するのに役立ちます。

```
SELECT TB.TABNAME, TB.TABSHEMA,
       TS.TBSPACE, TS.NGNAME
FROM SYSCAT.TABLES TB,
      SYSCAT.TABLESPACES TS
WHERE TYPE = 'T' AND
       DROPRULE = 'R' AND
       TB.TBSPACEID = TS.TBSPACEID
ORDER BY TS.NGNAME, TS.TBSPACE,
         TB.TABSHEMA, TB.TABNAME;
```

RESTRICT ON DROP 属性を持つ表を識別した後に、RESTRICT ON DROP 属性を持つ表ごとに、DROP RESTRICT ON DROP 節を使用して ALTER TABLE ステートメントを発行してください。次に、DROP TABLESPACE または DROP DATABASE PARTITION GROUP ステートメントを再発行してください。

sqlcode: -672

sqlstate: 55035

SQL0673N 主キーまたはユニーク・キー索引は、制約 *name* の識別された主キーまたはユニーク・キーの列の値と重複している行が表に含まれているため、作成されません。

説明: *name* によって識別される制約の主またはユニーク・キー定義が、PRIMARY KEY または UNIQUE 節の列の複製値を伴う行が、すでに変更されている表に入っているため失敗しました。

指定された場合、*name* は制約名です。制約名が指定されなかった場合は、*name* が 3 つのピリオドが後に続く主キーまたはユニーク制約節に指定された最初の列名になります。

ステートメントは処理できません。指定した表は変更されません。

ユーザーの処置: 主キーまたはユニーク・キーの定義を試行する前に表から誤った行を除去してください。

sqlcode: -673

sqlstate: 23515

SQL0678N リテラル *literal* は、列 *column-name* のデータ・タイプ *data-type* と互換性がなければなりません。

説明: STARTING、ENDING、または EVERY 節に指定されたリテラル *literal* は、列 *column-name* のデータ・タイプと互換性がありません。列のデータ・タイプは *data-type* です。EVERY 節で使用されるリテラルの値は、ゼロまたは負であってはなりません。

PARTITION BY 節で日時データ・タイプが指定される場合、EVERY 節で期間を指定する必要があります。

ユーザーの処置: STARTING、ENDING、または EVERY 節で有効なリテラルを指定してください。

sqlcode: -678

sqlstate: 53045

SQL0680N 表、ビュー、または表関数に指定されている列の数が多すぎます。またはユーザー定義行データ・タイプに指定されているフィールドの数が多すぎます。

説明: 表に許可されている列の最大数は、表スペースのページ・サイズと列のデータ・タイプに基づいています。

ページ・サイズに応じて、以下のようになっています。

- 4K: 許可されている列の最大数は 500 です。
- 8K、16K、または 32K: 許可されている列の最大数は 1012 です。

表の実際の列数は、次の公式で決定されます: 合計列数 * 8 + LOB 列の数 * 12 + データ・リンク列の数 * 28
 \leq ページ・サイズに関する行サイズの限度

ビューに許可されている列の最大数は 5000 です。

表関数に許可されている列の最大数は 255 です。これには、型付き相関節で列数が指定されている汎用表関数も含まれます。

ニックネームに許可されている列の最大数は 5000 です。

ユーザー定義行データ・タイプに許可されているフィールドの最大数は 1012 です。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 他のデータ・ソースは異なった最大列制限を持っている可能性があります。この制限を超えました。行タイプに許可されているフィールドの最大数は 1012 です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 列またはフィールドの数が制限を超えないようにしてください。

ページ・サイズが大きいと列の数表を作成する場合には、ページ・サイズを大きくして表スペースを指定してください。要求されたように、分離する表またはビューを作成して、制限を超えた追加情報を保留にしてください。

行データ・タイプを作成する場合、1 つ以上のフィールドを除去し、フィールドの合計数が許可されている最大数を超えないようにしてから、再試行してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 表列の数を、データ・ソースにサポートされた最大数に制限してください。要求されたように、分離表またはビューを作成して、データ・ソースがサポートする最大数を超えた列の追加情報を保留にしてください。

詳しくは、以下についての資料を参照してください: * CREATE TABLE、* CREATE VIEW、* CREATE FUNCTION、* CREATE TYPE。

sqlcode: -680

sqlstate: 54011

SQL0683N 列、属性、ユーザー定義・タイプ、または関数 *data-item* の指定に、非互換節が入っています。

説明: 汎用表関数を参照している CREATE ステートメント、ALTER ステートメント、XMLTABLE 式、または SELECT ステートメントの型付き相関節のデータ項目の指定にエラーがあります。"INTEGER と FOR BIT

DATA" などの非互換の指定が存在します。列がタイプ DB2SECURITYLABEL である場合、非互換の指定に NOT NULL WITH DEFAULT が含まれます。エラーのロケーションは *data-item* によって、以下のように示されます。

- CREATE TABLE ステートメント、ALTER TABLE ステートメント、XMLTABLE 式、または SELECT ステートメントの型付き相関節の場合、*data-item* はエラーを含んでいる列の名前を示します。
- CREATE FUNCTION ステートメントの場合、*data-item* は、ステートメントの問題の領域を識別するトークンです。たとえば、"PARAMETER 3"、"RETURNS"、または "CAST FROM" です。
- CREATE DISTINCT TYPE ステートメントの場合は、*data-item* が定義されているタイプの名前を示します。
- CREATE または ALTER TYPE ステートメントの場合、*data-item* は、エラーを含んでいる節を示すか、またはエラーを含んでいる属性の名前を示します。
- CREATE または ALTER TABLE ステートメントの場合、BUSINESS_TIME 期間の列を DATE または TIMESTAMP(p) として定義する必要があります。p は 0 から 12 までの値です。
- CREATE または ALTER TABLE ステートメントの場合、行開始、行終了、トランザクション開始 ID 列の *data-item* は TIMESTAMP(12) である必要があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 非互換性を取り除いて、もう一度ステートメントをやり直してください。

sqlcode: -683

sqlstate: 42842

SQL0695N 提供された値 (*seclabel*) をセキュリティ・ラベルに変換できませんでした。
policy-id のポリシー ID を持つセキュリティ・ポリシーでは、エレメント値 *element-value* は、序数位置 *ordinal* のコンポーネント内のどのエレメントにも対応しません。

説明: INSERT または UPDATE ステートメントは、タイプ DB2SECURITYLABEL の列に値を指定しました。その値は、表を保護しているセキュリティ・ポリシーの有効なセキュリティ・ラベルに変換できません。
seclabel 値が *N の場合、実際の値は db2diag ログ・ファイルに書き込まれています。

コンポーネント番号により示されたコンポーネントでの

値に問題があります。序数位置は、ポリシーを作成するために使用される CREATE SECURITY POLICY ステートメントの COMPONENTS 節にあるコンポーネントの位置を指します。示されているエレメント値はそのコンポーネント内の有効なエレメントに対応しません。

ユーザーの処置: 挿入または更新ステートメントを確認し、セキュリティ・ラベル列に設定されている値が表を保護するセキュリティ・ポリシーに対して有効であるようにしてください。ターゲット表と同じセキュリティ・ポリシーで保護されていない表から SELECT を実行すると、無効な値が生成されることもあります。セキュリティ・ラベルをコピーできるのは、同じセキュリティ・ポリシーで保護された表の間だけです。

特定のポリシー ID のセキュリティ・ポリシー名を取得するには、この SQL 照会を使用してください。

policy-id は、エラー・メッセージに示されているポリシー ID 番号に置き換えてください。

```
SELECT SECPOLICYNAME
      FROM SYSCAT.SECURITYPOLICIES
      WHERE SECPOLICYID = policy-id
```

sqlcode: -695

sqlstate: 23523

SQL0696N トリガー *trigger-name* の定義に、無効な相関名または遷移表名 *name* が使用されています。理由コード = *reason-code*。

説明: トリガー定義に、無効な *name* が使用されています。*reason-code* の値によって問題が識別されます。

1

コンパウンド SQL (コンパイル済み) ステートメントを使用して DELETE トリガーが定義されていない場合、NEW 相関名および NEW TABLE 名は DELETE トリガーでは使用できません。

2

コンパウンド SQL (コンパイル済み) ステートメントを使用して INSERT トリガーが定義されていない場合、OLD 相関名および OLD TABLE 名は INSERT トリガーでは使用できません。

3

OLD TABLE 名および NEW TABLE 名は BEFORE トリガーでは使用できません。

4

コンパウンド SQL (コンパイル済み) ステートメントを使用してトリガーが定義されている場

合、OLD TABLE 名および NEW TABLE 名はトリガーでは使用できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 先行するキーワードとともに、無効な相関名または遷移表名を除去してください。

SQL0697N OLD または NEW 相関名は、FOR EACH STATEMENT 節で定義されたトリガーでは使用できません。

説明: 定義されたトリガーに、OLD または NEW 相関名 (あるいは、その両方) が指定された REFERENCING 節、および FOR EACH STATEMENT 節が入っています。これらは一緒に指定できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: OLD または NEW 相関名を REFERENCING 節から取り除くか、または FOR EACH STATEMENT を FOR EACH ROW で置き換えてください。

sqlcode: -697

sqlstate: 42899

SQL0707N 指定された ID はシステム使用のために予約されているため、この名前 name は使用できません。

説明: 予約名と修飾子についての規則を以下にリストします。

- 表スペース名は SYS で開始できない
- ストレージ・グループ名は SYS で開始できない
- データベース・パーティション・グループ名は SYS または IBM で開始できない
- モジュール名は SYS で開始できない
- モジュール内で定義されているオブジェクトのオブジェクト名は、SYS_ で開始することはできません (ただし、モジュール初期化プロシージャを除く)。
- savepoint 名は SYS で開始できない
- 役割の名前を SYS で始めることはできず、ACCESSCTRL、DATAACCESS、DBADM、NONE、NULL、PUBLIC、SECADM、SQLADM、または WLMADM という名前にすることもできない。
- ワークロード管理オブジェクト名は SYS で開始できない

ユーザーの処置: 予約されていない名前を選択してください。

sqlcode: -707

sqlstate: 42939

SQL0713N special-register の置換値が無効です。

説明: SET special-register ステートメントに指定した値は、示された特殊レジスタの有効な値ではないか、指定した値が特殊レジスタには有効であっても現行のサーバーでは使用できないか、または指定した値が、標識変数の結果として NULL になったかのどちらかです。

ステートメントは実行できません。

ユーザーの処置: 置換値と標識変数の両方、またはいずれかを訂正してください。各特殊レジスタの有効な値の説明については、「SQL リファレンス」を参照してください。

sqlcode: -713

sqlstate: 42815

SQL0719N ユーザー auth-id に対するバインド・エラー。パッケージ package-name はすでに存在します。

説明: PRECOMPILE または BIND の ACTION ADD オプションを使って、すでに存在するパッケージを追加しようとした。'pkgschema.pgkname.pkgversion' の組み合わせは、SYSCAT.PACKAGES カタログ・ビューの中でユニークでなければなりません。

auth-id BIND または PREP の起動者の許可 ID

package-name

'pkgschema.pgkname.pkgversion' の形式によるパッケージの名前。パッケージ・バージョンが空のストリングの場合、'.pkgversion' は名前から省略されます。

パッケージは作成されていません。

ユーザーの処置: 重複する項目の追加を試行していないことを確認するには、次のような方法があります。

- 既存のアプリケーション・パッケージの名前について、SYSCAT.PACKAGES カタログ・ビューをチェックする。使用されていない 'pkgschema.pgkname.pkgversion' を指定して、PRECOMPILE または BIND を再度呼び出してください。
- ACTION ADD オプションを指定せずに PREP または BIND ステートメントを再発行する。これにより、既存のパッケージが置換されます。

sqlcode: -719

sqlstate: 42710

SQL0720N パッケージ *pkgschema.pkgname* **WITH VERSION** *pkgversion* を置換しようとしたが、このバージョンはすでに存在しません。

説明: ACTION REPLACE REPLVER オプションを使って、すでに存在するパッケージのバージョンを作成しようとしています。REPLVER キーワードに指定されたバージョンが、VERSION プリコンパイル・オプションに指定されたバージョンと異なっています。

VERSION プリコンパイル・オプションに指定されたバージョンは、すでにカタログに存在しています。

'pkgschema.pkgname.version' の組み合わせは、SYSCAT.PACKAGES カタログ・ビューの中でユニークでなければなりません。

作成されているバージョンが REPLVER キーワードに指定されているものであると、ユーザーが勘違いすることがよくあります。これは正しくありません。

REPLVER キーワードに指定されているバージョンは、置換されるバージョンの名前です。作成されるバージョンは、VERSION オプションでプログラムに渡されるバージョンです。

パッケージは作成されません。

ユーザーの処置: 作成されるバージョンがまだ存在していないことを確認してください。

この問題を解決するには、2 つの方法があります。

- 新しいバージョン名を使ってプログラムを再度プリコンパイルして、元の PREP または BIND コマンドを再発行します。
- もう 1 つの方法は、REPLVER 指定なしに ACTION REPLACE 節を指定して PREP または BIND コマンドを再発行します。この場合、REPLACE は VERSION オプションに指定されたバージョンに一致するバージョンを置換します。

sqlcode: -720

sqlstate: 42710

SQL0721N パッケージ *pkgschema.pkgname* (整合性トークン = 0X*contoken*) はユニークでないため、作成できません。

説明: そのパッケージに対してユニークでない整合性トークンを持つパッケージを追加または置換しようとした。'pkgschema.pkgname.contoken' の組み合わせは、すでに存在します。この原因としては、PRECOMPILE の LEVEL オプションを使って整合性トークンを指定したことが考えられます。

パッケージは作成されていません。

ユーザーの処置: SYSCAT.PACKAGES カタログ表で、示された整合性トークンを持つ既存のアプリケーション・パッケージの名前をチェックしてください。

'pkgschema.pkgname.contoken' がカタログ内でユニークになるように、PREP または BIND コマンドを再発行してください。カタログを照会するためには、以下の SQL ステートメントを使用することができます。

```
SELECT PKGSHEMA,PKGNAME
FROM SYSCAT.PACKAGES
WHERE HEX(UNIQUE_ID) = 'contoken';
```

プリコンパイルで LEVEL オプションが使用された場合、プリコンパイルを再発行して別の LEVEL 値を指定すると整合性トークンが変更されます。LEVEL オプションを使用しないことをお勧めします。プリコンパイルの LEVEL オプションを指定しない場合、整合性トークンは必ず現在のタイム・スタンプ値になります。

SQL0722N *auth-id* に対する *bind-command* の実行エラー。パッケージ *package-name* は存在しません。

説明: 存在しないパッケージに対してバインドまたは再バインドが発行されました。ACTION REPLACE が指定されており、REPLVER オプションが存在しないバージョンを指定した場合には、エラーが発生します。

bind-command

発行されたバインド・コマンド (BIND | REBIND) のタイプ。'BIND' という値は、プリコンパイルにも使用される点に注意してください。

auth-id

バインドまたは再バインドを発行した許可 ID。

package-name

'pkgschema.pkgname.pkgversion' の形式によるパッケージの名前。パッケージ・バージョンが空のストリングの場合、'pkgversion' は名前から省略されます。

パッケージはバインドまたは再バインドされませんでした。

説明: SYSCAT.PACKAGES カタログ・ビューで、REPLVER オプションに指定する正しい 'pkgschema.pkgname.pkgversion' をチェックしてください。

sqlcode: -722

sqlstate: 42704

SQL0723N トリガー *trigger-name* のトリガー SQL ステートメントでエラーが発生しました。エラーに関して戻された情報には、**SQLCODE** *sqlcode*、**SQLSTATE** *sqlstate* およびメッセージ・トークン *token-list* が含まれています。

説明: トリガー *trigger-name* の SQL ステートメントが、トリガーの実行中に失敗しました。
sqlcode、sqlstate、メッセージ・トークン・リスト (各トークンは縦線によって区切られています) が提供されず。メッセージ・トークンは切り捨てられる可能性があります。エラーの詳細な説明として、*sqlcode* に対応するメッセージを参照してください。

トリガーと、トリガーを実行させたオリジナル SQL ステートメントは、処理されません。

ユーザーの処置: 失敗した SQL ステートメントの **SQLCODE** に関連するメッセージをチェックしてください。メッセージで提案されているアクションに従ってください。

sqlcode: -723

sqlstate: 09000

SQL0724N タイプ *object-type* の *object-name* のアクティブ化は、間接的な SQL カスケードの最大レベルを超えます。

説明: 間接的 SQL のカスケードは、トリガーが別のトリガー (おそらく、参照制約の削除規則を介して) をアクティブ化したり、SQL を含むルーチンが別のルーチン呼び出した場合に発生します。このカスケードの深さは、トリガーの場合は 16、ルーチンの場合は 64 に制限されています。

再帰的狀態 (トリガーが、直接または間接的に同じトリガーをアクティブ化する、トリガー済み SQL ステートメントを組み込んだり、またはルーチンが直接または間接的にそのルーチン自身を呼び出す状態) は、カスケードが制限を超えるのを避けるための条件が存在しない場合に、このエラーの原因となる可能性の高い、カスケードの形式である点に気を付けてください。

object-type は、TRIGGER、FUNCTION、METHOD、または PROCEDURE のいずれかです。

指定された *object-name* は、カスケードの 17 番目のレベルでアクティブ化されるオブジェクトの 1 つです。

ユーザーの処置: このエラーを受け取ったステートメントによってアクティブ化または呼び出されるオブジェクトから開始します。このオブジェクトのいずれかが再帰的である場合は、制限を超えてそのオブジェクトをアクティブ化または呼び出さないようにするための条件が

存在することを確認してください。これが原因でない場合は、アクティブ化または呼び出されるオブジェクトのチェーンをたどって、カスケードの制限を超えるチェーンを判別してください。

sqlcode: -724

sqlstate: 54038

SQL0727N 暗黙的にシステム・アクション・タイプ *action-type* を実行中にエラーが発生しました。エラーに関して戻された情報には、**SQLCODE** *sqlcode*、**SQLSTATE** *sqlstate* およびメッセージ・トークン *token-list* が含まれています。

説明: ステートメントあるいはコマンドの処理によって、データベース・マネージャーが追加の処理を行う場合があります。この処理中にエラーが発生しました。試行されたアクションは、*action-type* によって表示されず。

1

パッケージの暗黙的な再バインド

2

キャッシュされた動的 SQL ステートメントの暗黙的な準備

3

オブジェクトの暗黙的な妥当性再検査

4

この戻りコードは、DB2 による使用のために予約されています。

5

静的 SQL ステートメントの増分バインドが、パッケージ・バインド時にバインドされていません。

6

ホスト変数、特殊レジスター、またはパラメーター・マーカの入った再最適化可能なステートメントの暗黙の準備。

7

トリガーの暗黙的再生成

8

関数の暗黙的再生成

9

チェック制約の暗黙的再生成

10

グローバル変数の暗黙的インスタンス化

11

モジュール初期化ルーチンの暗黙的呼び出し

sqlcode、sqlstate、メッセージ・トークン・リスト (各トークンは縦線によって区切られています) が提供されません。メッセージ・トークンは切り捨てられる可能性があります。エラーの詳細な説明として、*sqlcode* に対応するメッセージを参照してください。

action-type を引き起こすオリジナル SQL ステートメントあるいはコマンドは処理されず、暗黙的なシステム・アクションは成功しませんでした。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: パススルー・セッションで SQL ステートメントを動的に準備し、セッションがクローズされた後でこのステートメントの実行を試みたために、このメッセージを受け取ったと思われます。

ユーザーの処置: 失敗した SQL ステートメントの SQLCODE に関連するメッセージをチェックしてください。メッセージで提案されているアクションに従ってください。

無効なパッケージの場合、REBIND コマンドを使用してこのエラーを再作成またはすでにエラーの原因が解決されているこのパッケージを、明示的に有効にすることができます。

データベース・オブジェクトの妥当性再検査中に発生したエラーの場合:

1. 管理通知ログ内で妥当性再検査失敗のメッセージを見つけて、妥当性再検査できなかったデータベース・オブジェクトの名前を判別します。
2. 将来このエラーを回避するには、以下のいずれか 1 つを行うことができます。
 - このエラーの原因となっているデータベース・オブジェクトが不要になった場合は、そのデータベース・オブジェクトをドロップします。
 - このデータベース・オブジェクトの妥当性再検査の原因となったステートメントまたはコマンドが変更できる場合は、ステートメントまたはコマンドを変更して、次回にそのステートメントまたはコマンドが実行されるときに、データベース・オブジェクトが妥当性再検査されないようにします。
 - 以下のいずれかを行って、即時にデータベース・オブジェクトを妥当性再検査します。
 - データベース・オブジェクトを直接参照する SQL ステートメントを実行します。

- データベース・オブジェクトに対して ADMIN_REVALIDATE_DB_OBJECTS プロシージャを呼び出します。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 障害のあったステートメントがパススルー・セッションで動的に準備されていた場合、別のパススルー・セッションをオープンし、もう一度ステートメントを作成および準備し、セッションがオープンしている間に実行してください。

sqlcode: -727

sqlstate: 56098

SQL0740N ルーチン *routine-name* (特定名 *specific-name*) が **MODIFIES SQL DATA** (SQL データの変更) オプションを使って指定されています。これは、このルーチンが呼び出されるコンテキストでは無効です。

説明: ルーチン *routine-name* (特定名 *specific-name*) は **MODIFIES SQL DATA** (SQL データの変更) を使って定義されており、次の場合には許可されません。

- コンパウンド SQL (コンパイル済み) ステートメントを使用して定義されたのではない BEFORE トリガー
- 相関副照会
- 検索条件 (WHERE 節やチェック制約など)

モジュール関数、および関数本体としてコンパウンド SQL (コンパイル済み) ステートメントで定義された関数が、**MODIFIES SQL DATA** オプションで定義されている場合、それらは、コンパウンド SQL (コンパイル済み) ステートメント内の割り当てステートメントの右側で唯一の式としてのみ使用できます。

ユーザーの処置: ルーチンの解決が目的のルーチンに解決されていることを確認してください。失敗したステートメントからルーチンを除去するか、または **MODIFIES SQL DATA** (SQL データの変更) 以外の SQL アクセス標識を使ってルーチンを再定義してください。

sqlcode: -740

sqlstate: 51034

SQL0746N ルーチン *routine-name* (特定名 *specific-name*) が表 *table-name* に対して操作 *operation* の実行を試みたときに、ネストされた SQL ステートメント規則に違反しました。

説明: ルーチン *routine-name* (特定名 *specific-name*)

は、表 *table-name* に対して操作 *operation* を実行しようとした。この操作は、アプリケーション、あるいはそのアプリケーションから直接または間接的に呼び出されるルーチンによる表の使用と競合します。

この操作が“READ”の場合、表 *table-name* は現在、アプリケーションまたは他のルーチンによる書き込みが行われているところでは、

この操作が“MODIFY”の場合、表 *table-name* はすでに、アプリケーションまたは他のルーチンによる読み取りまたは書き込みが行われているところでは、

table-name が EXPLAIN 表を参照しており、このエラー・メッセージを受け取るステートメントが PREPARE ステートメントまたは EXECUTE IMMEDIATE ステートメントである場合は、EXPLAIN 情報を EXPLAIN 表に挿入するときに競合が発生します。

ユーザーの処置: この操作は、再試行すると正常に実行されることがあります。競合を回避するには、アプリケーションまたはルーチンを設計し直してください。

競合が動的ステートメントの EXPLAIN 情報の挿入時に発生した場合は、動的ステートメントの EXPLAIN を使用不可にして、再度 PREPARE ステートメントまたは EXECUTE IMMEDIATE ステートメントの実行を試行してください。

sqlcode: -746

sqlstate: 57053

SQL0750N 表または列を名前変更できないためにステートメントが失敗しました。

説明: 以下のいずれかの理由により、RENAME ステートメントのソース表を名前変更できません。

- 表が 1 つまたは複数のマテリアライズ照会表で参照されている。
- 表が親または従属表として、参照制約に入っている。
- 表が 1 つ以上の XSR オブジェクトの分解用のターゲット表である。
- 表がシステム期間テンポラル表である。
- 表が履歴表である。
- データベース・マネージャーの構成パラメーター `auto_reval` が `DISABLED` に設定され、以下のいずれかが生じている。
 - 表が既存のビューで参照されている。
 - 表が既存のトリガーで参照されている。これには、トリガー SQL ステートメントの表または参照上のトリガーを含みます。
 - 表が既存の SQL 関数または SQL メソッドで参照されている。

- 表にはチェック制約が定義されている。これには、生成された列が原因のチェック制約も含まれます。

ターゲット表が履歴表であるために、ALTER TABLE ステートメントのターゲット表の列を名前変更できません。

ユーザーの処置: エラーが RENAME ステートメントに関するものである場合、RENAME ステートメントを発行する前に、表に従属するビュー、マテリアライズ照会表、トリガー、SQL 関数、SQL メソッド、チェック制約、参照制約、または XSR オブジェクトをドロップしてください。カタログを照会することにより、表に従属するオブジェクトを判別できます。

- 表に従属するビューまたはマテリアライズ照会表の場合は、表が `BSCHEMA` 列と `BNAME` 列に一致する `SYSCAT.VIEWDEP` を照会してください。
- 表に従属するトリガーの場合、表が `BSCHEMA` および `BNAME` 列に一致する `SYSCAT.TRIGDEP` を照会してください。
- SQL 関数または SQL メソッドの場合、表が `BSCHEMA` 列および `BNAME` 列に一致する `SYSCAT.ROUTINEDEP` を照会してください。
- 表に対するチェック制約の場合、表が `TABSCHEMA` および `TABNAME` 列に一致する `SYSCAT.CHECKS` を照会してください。
- 表に従属する参照制約の場合、表が `TABSCHEMA` および `TABNAME` 列、または `REFTABSCHEMA` および `REFTABNAME` 列に一致する `SYSCAT.REFERENCES` を照会してください。
- ターゲットである表の分解用に有効な XSR オブジェクトの場合、表が `BSCHEMA` および `BNAME` 列に一致する `SYSCAT.XSROBJECTDEP` を照会してください。

エラーが ALTER TABLE ステートメントの RENAME COLUMN アクションに関するものである場合、ターゲット表が履歴表である間は、列を直接名前変更できません。以下のアクションのいずれかを実行して、列を名前変更できます。

- 履歴表を使用するシステム期間テンポラル表の名前を判別し、ALTER TABLE ステートメントのターゲットとしてその名前を使用して RENAME COLUMN 操作を実行してください。これにより、システム期間テンポラル表とそれに関連付けられている履歴表の両方の列が名前変更されます。
- システム期間テンポラル表の名前を判別し、ALTER TABLE ステートメントのターゲットとしてその名前を使用して DROP VERSIONING 操作を実行してください。これにより、履歴表とシステム期間テンポラル表が通常の表に変更されます。これで、元の

SQL0751N

ALTER TABLE ステートメントの表の列を名前変更できます。列を名前変更すると、表は、バージョン管理がドロップされた表の履歴表として機能できなくなります。

sqlcode: -750

sqlstate: 42986

SQL0751N ルーチン *routine-name* (特定名 *specific-name*) が、許可されていないステートメントを実行しようとしてしました。

説明: ルーチンの本体をインプリメントするために使用されるプログラムは、接続ステートメントの発行を許可されていません。ルーチンが関数またはメソッドの場合は、COMMIT および ROLLBACK (SAVEPOINT オプションなし) も許可されません。ルーチンがプロシージャであり、それがトリガー、関数、メソッド、または動的コンパウンド・ステートメントの中で呼び出される場合、そのプロシージャの中で COMMIT または ROLLBACK ステートメントは実行できません。

ユーザーの処置: 許可されないステートメントを除去して、プログラムを再コンパイルしてください。

sqlcode: -751

sqlstate: 38003, 42985

SQL0752N CONNECT タイプ 1 設定が使用されている場合、論理作業単位内でのデータベースへの接続は許可されていません。

説明: COMMIT または ROLLBACK ステートメントを発行する前に、別のデータベースまたは同じデータベースへの接続が試みられました。要求は、CONNECT タイプ 1 環境内では処理できません。

ユーザーの処置:

- 他のデータベースへの接続を要求する前に、COMMIT または ROLLBACK ステートメントのサブミットを行なってください。
- 作業単位内で複数データベースを更新する必要がある場合は、再プリコンパイル、またはアプリケーション内から SET CLIENT API の発行を行なって、接続設定を SYNCPOINT TWOPHASE と CONNECT 2 に変更してください。

sqlcode: -752

sqlstate: 0A001

SQL0773N CASE ステートメント用のケースが見つかりませんでした。

説明: ELSE 節のない CASE ステートメントが、SQL ルーチンのルーチン本体で見つかりました。CASE ステートメントに指定されている条件が一致しません。

ユーザーの処置: 可能性のある条件をすべて扱えるよう、CASE ステートメントを変更してください。

sqlcode: -773

sqlstate: 20000

SQL0774N このステートメントは、ATOMIC コンパウンド SQL ステートメント内では実行できません。

説明: ATOMIC コンパウンド SQL ステートメントのコンテキスト内で、COMMIT または ROLLBACK ステートメントを検出しました。これらのステートメントは、このコンテキストでは許可されません。

ユーザーの処置: COMMIT または ROLLBACK ステートメントを除去するか、または ATOMIC コンパウンド・ステートメントにならないように、コンテキストを変更してください。

sqlcode: -774

sqlstate: 2D522

SQL0776N カーソル *cursor-name* の使用は無効です。

説明: カーソル *cursor-name* が、SQL プロシージャの FOR ステートメントにカーソル名として指定されています。このカーソルは、FOR ステートメント内の CLOSE、FETCH、または OPEN ステートメントには指定できません。

ユーザーの処置: CLOSE、FETCH、または OPEN ステートメントを除去してください。

sqlcode: -776

sqlstate: 428D4

SQL0777N ネストされたコンパウンド・ステートメントは許可されていません。

説明: SQL プロシージャのルーチン本体の ATOMIC コンパウンド・ステートメントをネストすることはできません。

ユーザーの処置: ネストされた ATOMIC コンパウンド・ステートメントが SQL プロシージャに組み込まれていないことを確認してください。

sqlcode: -777

sqlstate: 42919

SQL0778N 終了ラベル *label* が開始ラベルと同じではありません。

説明: FOR、IF、LOOP、REPEAT、WHILE またはコンパウンド・ステートメントの末尾に指定されているラベル *label* が、ステートメントの先頭にあるラベルと異なっています。開始ラベルが指定されていない場合、終了ラベルを指定することはできません。

ユーザーの処置:

FOR、IF、LOOP、REPEAT、WHILE、およびコンパウンド・ステートメントで、終了ラベルが開始ラベルと同じであることを確認してください。

sqlcode: -778

sqlstate: 428D5

SQL0779N GOTO、ITERATE または LEAVE ステートメントに指定されているラベル *label* が無効です。

説明: GOTO、ITERATE または LEAVE ステートメントにラベル *label* が指定されています。このラベルは定義されていないか、またはステートメントの有効なラベルではありません。

ITERATE ステートメントのラベルは、FOR、LOOP、REPEAT、または WHILE ステートメントのラベルである必要があります。

LEAVE ステートメントのラベルは、

FOR、LOOP、REPEAT、WHILE、またはコンパウンド・ステートメントのラベルである必要があります。

GOTO のラベルは、GOTO ステートメントの有効範囲である必要があります。

- GOTO ステートメントが FOR ステートメントで定義されている場合、*label* は、ネストされた FOR ステートメントまたはネストされたコンパウンド・ステートメント以外の同一の FOR ステートメントで定義される必要があります。
- GOTO ステートメントがコンパウンド・ステートメントで定義されている場合、*label* は、ネストされた FOR ステートメントまたはネストされたコンパウンド・ステートメント以外の同一のコンパウンド・ステートメントで定義される必要があります。
- GOTO ステートメントがハンドラーで定義されている場合、*label* は、他の有効範囲の規則に準拠して同一のハンドラーで定義される必要があります。
- GOTO ステートメントがハンドラー外で定義されている場合、*label* はハンドラー内で定義してはなりません。

ユーザーの処置: GOTO、ITERATE、または LEAVE ステートメントに有効なラベルを指定してください。

sqlcode: -779

sqlstate: 42736

SQL0780N UNDO がハンドラーに指定されていますが、ATOMIC がコンパウンド・ステートメントに指定されていません。

説明: UNDO が SQL プロシージャーにあるコンパウンド・ステートメントのハンドラーに指定されていません。コンパウンド・ステートメントが ATOMIC でないかぎり、UNDO を指定することはできません。

ユーザーの処置: コンパウンド・ステートメントが ATOMIC になるよう指定するか、またはハンドラーに EXIT あるいは CONTINUE を指定してください。

sqlcode: -780

sqlstate: 428D6

SQL0781N 条件 *condition-name* が定義されていないか、定義が有効範囲内にありません。

説明: 条件 *condition-name* がハンドラー宣言、SIGNAL ステートメント、または RESIGNAL ステートメントで指定されましたが、条件参照を含むコンパウンド・ステートメントの有効範囲内で条件が定義されていないか、または条件を定義済みモジュール条件として見つけることができませんでした。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 条件参照を含むコンパウンド・ステートメント内で DECLARE CONDITION ステートメントを使用するか、または条件が参照されている可視のモジュール内で条件を定義することにより、条件を定義してください。別の方法として、条件参照を特定の SQLSTATE 値と置き換えるか、あるいは条件を参照するハンドラー宣言、SIGNAL ステートメント、または RESIGNAL ステートメントを除去することができます。

sqlcode: -781

sqlstate: 42737

SQL0782N ハンドラーに指定されている条件または SQLSTATE 値が無効です。

説明: 以下のいずれかの理由で、SQL ステートメントのハンドラーに指定されている条件または SQLSTATE 値が無効です。

- 条件または SQLSTATE 値が、すでに同じ有効範囲にある別のハンドラーによって指定されている

SQL0783N

- 条件または SQLSTATE 値が、同じハンドラーに SQLEXCEPTION、SQLWARNING、または NOT FOUND として指定されている
- エラー・トレラントな nested-table-expression の continue-handler 節に指定された条件、SQLSTATE 値または SQLCODE 値が無効である

ユーザーの処置: 条件、SQLSTATE 値、または SQLCODE 値をハンドラーから除去してください。

sqlcode: -782

sqlstate: 428D7

SQL0783N 重複する列名または無名列が、FOR ステートメントの DECLARE CURSOR ステートメントに指定されました。

説明: FOR ステートメントの選択リストには、ユニークな列名が入っていなければなりません。指定された選択リストに重複する列名、または名前のない式があります。

ユーザーの処置: FOR ステートメントに指定されている選択リストにユニークな列名を指定してください。

sqlcode: -783

sqlstate: 42738

SQL0784N 制約 *constraint-name* をドロップできないためにステートメントが失敗しました。

説明: BUSINESS_TIME 期間が定義されている場合に暗黙的に生成される制約は、DROP CHECK 節または DROP CONSTRAINT 節を指定した ALTER TABLE ステートメントでは除去できません。

ユーザーの処置: DROP CHECK 節または DROP CONSTRAINT 節を ALTER TABLE ステートメントから除去してください。制約をドロップする必要がある場合、ALTER TABLE ステートメントで DROP PERIOD 節を使って BUSINESS_TIME 期間をドロップできません。

sqlcode: -784

sqlstate: 42860

SQL0785N SQLSTATE または SQLCODE 変数の宣言あるいは使用は許可されていません。

説明: SQLSTATE または SQLCODE が SQL ルーチンのルーチン本体で変数として使用されましたが、以下のいずれかの理由で無効です。

- SQLSTATE が CHAR(5) として宣言されていない
- SQLCODE が INTEGER として宣言されていない

- 変数に NULL 値が割り当てられている

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: SQLSTATE 変数を CHAR(5) として、また SQLCODE 変数を INTEGER として宣言してください。変数を有効な値に設定してください。

sqlcode: -785

sqlstate: 428D8

SQL0787N RESIGNAL ステートメントがハンドラー内にありません。

説明: RESIGNAL ステートメントは、条件ハンドラー内でのみ使用できます。

ユーザーの処置: RESIGNAL ステートメントを除去するか、あるいは SIGNAL ステートメントを代わりに使用してください。

sqlcode: -787

sqlstate: 0K000

SQL0788N ターゲット表 *table-name* の同一行が、MERGE ステートメントの更新、削除、または挿入操作に対して、複数回確認されました。

説明: MERGE ステートメントの ON 検索条件が、ソース表参照の複数行を指定した指定ターゲット表からの単一行に一致しました。この結果、ターゲット行が、更新または削除操作で複数回操作されることとなりますが、これは許可されません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 検索条件を訂正して、ターゲット表の各行が、ソース表の 1 行にのみ一致することを確認してください。

あるいは、GROUP BY 機能を使用して、ターゲット表の行に一致するソース表の行を集約するか、または ROW_NUMBER() OLAP 式を使用してデータをクリアしてください。

sqlcode: -788

sqlstate: 21506

SQL0789N パラメーターまたは SQL 変数 *name* のデータ・タイプは、ルーチン、コンパウンド SQL ステートメント、またはカーソル値コンストラクターのパラメーター・リストでサポートされていません。

説明: SQL ルーチン (関数、メソッド、プロシージャ) またはコンパウンド SQL ステートメントは、

REFERENCE、LONG VARCHAR、LONG VARGRAPHIC、または構造化データ・タイプのパラメーターや SQL 変数をサポートしません。本体がコンパウンド SQL (コンパイル済み) ステートメントであるトリガーまたは関数、スタンドアロンのコンパウンド SQL ステートメント、または SQL メソッドであるルーチンは、XML データ・タイプのパラメーターと SQL 変数をサポートしません。ARRAY、ROW、または CURSOR タイプのパラメーターにデフォルト値を指定することはできません。

外部ルーチンは、構造化データ・タイプのパラメーターをサポートしません。

カーソル値コンストラクターのパラメーター・リストは、ARRAY、BOOLEAN、CURSOR、ROW、LONG VARCHAR、LONG VARGRAPHIC、REFERENCE、および構造化データ・タイプのパラメーターをサポートしません。

ユーザーの処置:

- SQL ルーチン定義またはコンパウンド SQL ステートメントでは、REFERENCE、LONG VARCHAR、LONG VARGRAPHIC、または構造化データ・タイプのパラメーターや SQL 変数を使用しないでください。
- 本体がコンパウンド SQL (コンパイル済み) ステートメントであるトリガーまたは関数、スタンドアロンのコンパウンド SQL ステートメント、または SQL メソッドであるルーチンでは、XML データ・タイプのパラメーターや SQL 変数を使用しないでください。
- 外部ルーチンでは構造化データ・タイプのパラメーターを使用しないでください。
- パラメーターまたは SQL 変数 *name* に異なるデータ・タイプを指定してください。
- ARRAY、ROW、または CURSOR タイプのパラメーターにデフォルト値を指定しないでください。
- カーソル値コンストラクターのパラメーター・リストでは、ARRAY、BOOLEAN、CURSOR、ROW、LONG VARCHAR、LONG VARGRAPHIC、REFERENCE、および構造化データ・タイプのパラメーターを使用しないでください。

sqlcode: -789

sqlstate: 429BB

SQL0796N 役割 *role-name1* を役割 *role-name2* に付与することは循環を作成するため、それは無効です。

説明: 役割が循環を作成する場合、役割を付与できません。役割 *role-name1* には、恐らくは別の役割を介した

役割 *role-name2* が含まれます。そのため、役割を *role-name2* に付与することはできません。

ユーザーの処置: 該当する場合、循環が作成されないようにするには、役割 *role-name2* を役割 *role-name1* から取り消すか、または *role-name2* が含まれている *role-name1* の中に含まれる役割から取り消してから、ステートメントを再サブミットしてください。

sqlcode: -796

sqlstate: 428GF

SQL0797N トリガー *trigger-name* が、サポートされていないトリガー SQL ステートメントで定義されています。

説明: 以下のリストのステートメントのみを含むトリガー SQL ステートメントでトリガーを定義する必要があります。

トリガーには、次の制御ステートメントを含めることができます。

- コンパウンド SQL (コンパイル済み) ステートメント
- コンパウンド SQL (インライン) ステートメント
- FOR ステートメント
- GET DIAGNOSTICS ステートメント
- IF ステートメント
- ITERATE ステートメント
- LEAVE ステートメント
- SIGNAL ステートメント
- WHILE ステートメント

AFTER トリガーまたは INSTEAD OF トリガーには、次のトリガー SQL ステートメントも含めることができます。

- INSERT ステートメント
- 探索済み UPDATE ステートメント
- 探索済み DELETE ステートメント
- MERGE ステートメント
- CALL ステートメント
- 全選択
- 割り当てステートメント (遷移変数の割り当てを除く)

SQL コンパウンド (コンパイル済み) ステートメントを使用して定義された BEFORE トリガーには、以下のトリガー SQL ステートメントを含めることもできます。

- INSERT ステートメント
- 探索済み UPDATE ステートメント
- 探索済み DELETE ステートメント

SQL0798N

- MERGE ステートメント
- CALL ステートメント
- 全選択
- 割り当てステートメント

SQL コンパウンド (コンパイル済み) ステートメントを使用して BEFORE トリガーが定義されたのではない場合、または SQL コンパウンド (コンパイル済み) ステートメントによって BEFORE INSERT トリガーが定義された場合に、トリガー操作が UNION ALL ビューに対する INSERT、または WITH ROW MOVEMENT ビューに対する UPDATE であれば、トリガー SQL ステートメントに以下のものを含めることはできません。

- SQL データを変更するコンパウンド SQL (コンパイル済み) ステートメントによって定義された表関数またはスカラー関数
- ネストされた DELETE、INSERT、MERGE、または UPDATE ステートメント

いくつかの場合には、*trigger-name* がこのメッセージに現れません。

ユーザーの処置: このトリガーのトリガー SQL ステートメントを確認して、このメッセージに記載されたリストに合致しないステートメントを見つけ、削除してください。

sqlcode: -797

sqlstate: 42987

SQL0798N GENERATED ALWAYS として定義されている列 *column-name* に値を指定することはできません。

説明: 表内の行を挿入または更新しているとき、GENERATED ALWAYS 列 *column-name* に値が指定されました。キーワード DEFAULT が指定されていないかぎり、GENERATED ALWAYS 列を INSERT のため列リストに、あるいは UPDATE のため SET 節に指定することはできません。

INSERT または UPDATE は実行されません。

ユーザーの処置: GENERATED ALWAYS 列を列リストまたは SET 節から除去するか、または列の値として DEFAULT を指定してください。

sqlcode: -798

sqlstate: 428C9

SQL0799W SET ステートメントがサーバー・サイトに存在しない特殊レジスターを参照しています。

説明: DB2 サーバーが理解不能な SET ステートメントを受け取りました。

SET SPECIAL REGISTER 要求は無視されます。

ユーザーの処置: この SQLCODE は、任意の SQL ステートメントのアプリケーションに戻せます。この SQLCODE は、SQL ステートメントが受信した他のネガティブ SQLCODE にマスクされている可能性があります。サーバーでの処理を続行します。

sqlcode: +799

sqlstate: 01527

SQL0801N ゼロによる除算が試みられました。

説明: 列関数または算術式の処理が、結果としてゼロによる除算となりました。

ステートメントは処理できません。

INSERT、UPDATE、または DELETE ステートメントの場合は、挿入も更新も実行されません。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを調べて、問題の原因を判別してください。問題がデータによるものであれば、エラーが発生した時点で処理されていたデータを調べてください。データ・タイプの有効範囲については、「SQL リファレンス」を参照してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: SQL ステートメントを調べて、問題の原因を判別してください。問題がデータによるものであれば、エラーが発生した時点でデータ・ソースで処理されていたデータを調べてください。

sqlcode: -801

sqlstate: 22012

SQL0802N 算術オーバーフロー、またはその他の算術例外が発生しました。

説明: 列関数または算術式の処理で、算術オーバーフローが発生しました。

ステートメントは処理できません。

INSERT、UPDATE、または DELETE ステートメントの場合は、挿入も更新も実行されません。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを調べて、問題の原因を判別してください。問題がデータによるものであれば、エラーが発生した時点で処理されていたデータを調べてください。データ・タイプの有効範囲については、「SQL リファレンス」を参照してください。

SQL ステートメントによって返された値を列関数が扱えない場合にも、このエラーが返されることがあります。たとえば、MAX_LONGINT_INT SQL 制限で定義されているよりも多い行を持つ表に対して SELECT COUNT ステートメントを出すと、算術オーバーフロー・エラーが発生します。2,147,483,647 を超える行を持つ表には COUNT_BIG 列関数を使用するよう考慮してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: SQL ステートメントを調べて、問題の原因を判別してください。問題がデータによるものであれば、エラーが発生した時点でデータ・ソースで処理されていたデータを調べてください。データ・タイプの有効範囲を判別するには、対応する SQL リファレンスでデータ・ソースを参照してください。

sqlcode: -802

sqlstate: 22003

SQL0803N INSERT ステートメント、UPDATE ステートメントの 1 つ以上の値、および DELETE ステートメントが原因で発生した外部キーの更新は無効です。これは、*index-id* で識別される主キー、ユニーク制約、またはユニーク索引が表 *table-name* が索引キーに対して重複する値を持つことを制限しているためです。

説明: INSERT または UPDATE のオブジェクトとなる表 *table-name* は、1 つ以上の UNIQUE 索引により、ある列または列のグループ内にユニークな値を持つように制約されています。あるいは、親表の DELETE ステートメントが、1 つ以上の UNIQUE 索引によって制約されている従属表 *table-name* 内の外部キーの変更を行いました。ユニーク索引は、表に定義されている主キーまたはユニーク制約をサポートしている可能性があります。要求された INSERT、UPDATE、または DELETE ステートメントを完了すると列の値が重複してしまうため、ステートメントを処理できません。索引が XML 列上にある場合、索引キーに対して重複する値が単一の XML 文書内から生成されることがあります。

または、INSERT または UPDATE ステートメントのオブジェクトがビューの場合には、そのビューが定義されている表 *table-name* が制約を受けます。

index-id が整数値である場合は、以下の照会を発行することによって SYSCAT.INDEXES から索引名を取得できます。

```
SELECT INDNAME, INDSHEMA
FROM SYSCAT.INDEXES
WHERE IID = <index-id>
AND TABSCHEMA = 'schema'
AND TABNAME = 'table'
```

'schema' は *table-name* のスキーマ部分で、'table' は *table-name* の表名部分を表しています。

ステートメントは処理できません。表は変更されません。

ユーザーの処置: *index-id* で識別される索引の定義を調べてください。

UPDATE ステートメントの場合は、指定した処理自体がユニーク制約との間に矛盾がないことを確認してください。それでもエラーの内容が不明な場合には、オブジェクト表の内容を調べて、問題の原因を判別してください。

INSERT ステートメントの場合は、オブジェクト表の内容を調べて、ユニーク制約に違反している指定した値リストの値を判別してください。または、INSERT ステートメントに副照会が入っている場合に問題の原因を判別するには、その副照会によって示される表の内容をオブジェクト表の内容と一致させる必要があります。表がセキュリティ・ポリシーを使用して保護されている場合、エラーの原因となっている行を参照することが LBAC 信用証明情報により許可されない場合があります。

索引が XML 列上にあり、ステートメントが INSERT または UPDATE のいずれかである場合、結果として単一の XML 文書内で値が重複することにならないか考慮してください。

DELETE ステートメントの場合、示された従属表について、外部キーのユニーク制約を調べ、規則 ON DELETE SET NULL で定義されているかを調べてください。この表には、示されたユニーク索引に組み込まれた外部キー列を持っています。この表の列に NULL がすでにあるために外部キー列を NULL に設定できません。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 問題を切り分けて要求失敗の原因となったデータ・ソースを突き止め、前にリストされた索引定義および条件のデータを調べてください。

sqlcode: -803

sqlstate: 23505

SQL0804N 現在の要求に対するアプリケーション・プログラムのパラメーターが無効です。理由コード *reason-code*SQLDA のホスト変数または SQLVAR が無効な場合、ホスト変数/SQLVAR 番号 = *var-number*、SQLTYPE = *sqltype*、SQLLEN = *sqlllen*、ホスト変数/SQLVAR タイプ = *input-or-output* です。

説明: 現行要求を処理中にエラーが発生しました。

SQL0805N

- 呼び出しパラメーター・リストはプリコンパイラーで作成されますが、アプリケーション・プログラマーがプリコンパイラーの出力を修正し、あるいは別の方法で呼び出しパラメーター・リストを上書きする場合には正しくない可能性があります。
- SQL 内の SQLDA あるいはホスト変数が無効である。
- 作成された要求がサポートされていないか、またはコンテキスト外にある。

理由コードは次のように解釈されます。

- 100** 作成された要求がサポートされていないか、またはコンテキスト外にある。
- 101** SQLDA.SQLN が SQLDA.SQLD より小さい。
- 102** SQLVAR.SQLTYPE が無効である。
フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 指定したデータ・タイプは、フェデレーテッド・サーバー、またはアクセスするデータ・ソースによってサポートされていません。
- 103** SQLVAR.SQLLEN あるいは SQLVAR2.SQLLONGLEN で指定した長さが SQLVAR.SQLTYPE で与えられた SQL タイプに対して間違っている。
- 104** SQLVAR を 2 倍することが予期されていたが、SQLDA.SQLDAID の SQLDOUBLED フィールドが '2' に設定されていない。ラージ・オブジェクト・タイプまたは構造化タイプのために、これが必要になる場合があります。
- 105** 2 バイト文字ラージ・オブジェクトには SQLVAR2.SQLDATALEN ポインターで示される奇数値があり、これが常にバイトで、DBCLOB に対してもそうである。
- 106** SQLDATA ポインターが無効であるか、あるいは不十分なストレージを示している。
- 107** SQLLIND ポインターが無効であるか、あるいは不十分なストレージを示している。
- 108** SQLDATALEN ポインターが無効であるか、あるいは不十分なストレージを示している。
- 109** 特定数のホスト変数/SQLVARS が、現在の SQL ステートメントに対して予期されていません。
- 110** LOB ロケーターが互換タイプの LOB に関連していない。
- 111** LOB が SQLVAR の SQLTYPE に示されているが、2 番目の SQLVAR は NULL である。
- 112** SQLDATATYPE NAME フィールドが無効。

データベース内で既存のユーザー定義タイプを識別するための形式に適合していません。既存のユーザー定義タイプを識別するための形式は、8 バイト、その後にピリオド、さらにその後には 18 バイトです。

- 113** SQLFLAG4 フィールドが無効。構造化タイプが指定されている場合、値は X'12' でなければなりません。参照タイプが指定されている場合、値は X'01' でなければなりません。その他の場合、値は X'00' でなければなりません。
- 114** DB2_TRUSTED_BINDIN レジストリー変数が有効になっていて、サポートされていないホスト変数データ・タイプが BINDIN の実行中に使用されます。DB2_TRUSTED_BINDIN レジストリー変数を設定解除するか、または入力するホスト変数のデータ・タイプを変更してください。
- 115** XML サブタイプ標識が、XML データを含むことができない SQLVAR.SQLTYPE の SQLVAR.SQLNAME フィールドで設定されません。

ホスト変数を指定した SQL ステートメントでは、ホスト変数番号を使用してステートメント (あるいはコンパウンド SQL の場合はサブステートメント) の最初からカウントし無効なホスト変数を探し出すことができません。SQLDA を使用したステートメントでは SQLVAR 番号が無効な SQLVAR の検出に使用されます。入力 SQLDA では入力ホスト変数あるいは SQLVAR をカウントするだけです。出力も同様です。この番号の基本は 1 であることに注意してください。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 示されたエラーについて、アプリケーション・プログラムを調べてください。プログラマーは、プリコンパイラー出力を変更するべきではないことに注意してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 理由コード 102 を受け取った場合、サポートされているデータ・タイプを指定してプログラムを再サブミットしてください。

sqlcode: -804

sqlstate: 07002

SQL0805N パッケージ *package-name* が見つかりませんでした。

説明: 必要なパッケージがカタログに見つからなかったため、ステートメントを完了できません。

`package-name` は、以下のいずれかの形式になります。

- 'pkgschema.pkgname 0Xcontoken'。この場合、整合性トークンは 16 進数で指定されます。
- 'pkgschema.pkgname.pkgversion'。パッケージ・バージョンが空ストリングの場合、'pkgversion' は名前から省略されます。
- CURRENT PACKAGE PATH が設定されている場合は '%.pkgname'。CURRENT PACKAGE PATH 内の一連のスキーマ名は、パーセント文字 (%) によって暗黙指定されます。

このメッセージ (SQLCODE) の原因として、以下のことが考えられます。

- パッケージがバインドされていなかったか、またはドロップされていた。
- DB2 ユーティリティまたは CLI アプリケーションの実行を試行中の場合、DB2 ユーティリティをそのデータベースに再バインドする必要がある。
- CURRENT PACKAGE PATH が設定されている場合は '%.pkgname'。ただし、CURRENT PACKAGE PATH 内のどのスキーマでも '%.pkgname' の名前の付いたパッケージが見つからない。

指定された `package-schema.package-name` に対してバージョン ID が使用されている場合、同じパッケージ・スキーマとパッケージ名を使って定義されたパッケージが存在するけれども、既存のパッケージが要求されたバージョンまたは整合性トークンと一致しないため、正しいパッケージが見つからない可能性があります。パッケージは、パッケージ名の 3 つの部分すべてが一致していなければなりません。複数のバージョンが使用されている場合、このメッセージが表示された原因として、さらに以下のことが考えられます。

- 実行されているアプリケーションのバージョンはプリコンパイルされ、コンパイルされ、リンクされているけれどもバインドされていないか、またはバインドされているけれども、パッケージのそのバージョンが後にドロップされている。
- アプリケーションはプリコンパイルされてバインドされているけれども、コンパイルとリンクが行われていないか、またはそのいずれかが行われていないため、実行されているアプリケーションが最新ではない。
- コンパイルされて、アプリケーション実行可能プログラムにリンクされた、変更済みソース・ファイルを作成したプリコンパイルとは別のソース・ファイルのプリコンパイルによって生成されたバインド・ファイルからパッケージがバインドされている。
- 新規アプリケーションが、既存のパッケージの名前 (およびバージョン) を使ってバインドされたため、既

存のパッケージが置換された。置換されたパッケージと関連したアプリケーションが実行された場合には、エラーが発生します。

このいずれの場合も、要求の整合性トークンが既存バージョンの整合性トークンと一致していないため、パッケージが検出されないと考えられています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 正しいパッケージ名を指定するか、またはプログラムをバインドしてください。実行中のアプリケーションがデータベースにバインドされていない場合は、データベース管理者に連絡して、バインドに必要な処置を行ってください。実行しているアプリケーションまたはオブジェクト・モジュールが、コンパイルされ、プリコンパイルおよびそのパッケージを生成したバインドと関連付けられた、リンクされた変更済みソース・コードであることを確認してください。

CURRENT PACKAGE PATH が設定されている場合は、このパッケージを収めたスキーマが、CURRENT PACKAGE PATH に指定されていることを確認してください。

別のバージョンのパッケージがあるかどうかを判別するには、以下の SQL ステートメントを使用してカタログを照会することができます。

```
SELECT PKGSHEMA, PKGNAME,
       PKGVERSION, UNIQUE_ID
FROM SYSCAT.PACKAGES
WHERE PKGSHEMA = 'pkgschema'
      and PKGNAME='pkgname'.
```

UNIQUE_ID 列は、整合性トークンに対応する点に気を付けてください。

DB2 ユーティリティ・プログラムがデータベースに再バインドされる必要がある場合、データベース管理者は、データベースへの接続中にインスタンスの `bnd` サブディレクトリーから以下のいずれかの CLP コマンドを発行することによって、これを実行することができます。

- DB2 ユーティリティの場合は "db2 bind @db2ubind.lst blocking all grant public"。
- CLI の場合は "db2 bind @db2cli.lst blocking all grant public"。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: フェデレーテッド・サーバーに必要なパッケージが、該当するデータ・ソースに確実にバインドされているようにしてください。データ・ソースへのパッケージのバインドに関する詳細については、「フェデレーテッド・システム・ガイド」を参照してください。

SQL0808N

sqlcode: -805

sqlstate: 51002

SQL0808N CONNECT ステートメント・セマンティクスに、他の既存の接続のセマンティクスとの整合性ありません。

説明: CONNECT ステートメントが、接続が存在するソース・ファイルの接続オプション (SQLRULES、CONNECT タイプ、SYNCPPOINT、または RELEASE タイプ) とは異なる接続タイプでプリコンパイルされたソース・ファイルから作成されています。

ユーザーの処置: すべてのソース・ファイルが、同じ CONNECT オプションでプリコンパイルされていることを確認するか、または確認できない場合は、最初の CONNECT ステートメントを発行する前に、SET CLIENT api を呼び出して、アプリケーション・プロセスに必要なオプションを設定してください。

sqlcode: -808

sqlstate: 08001

SQL0811N スカラー式全選択、SELECT INTO ステートメント、または VALUES INTO ステートメントの結果が複数行にまたがっています。

説明: 以下のいずれかがエラーの原因です。

- 組み込み SELECT INTO または VALUES INTO ステートメントの実行結果が、複数行の結果表になりました。
- スカラー全選択の実行結果が、複数行の結果表になりました。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: この状態は、フェデレーテッド・サーバーまたはデータ・ソースによっても検出されます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメントに適切な条件指定が入っていることを確認してください。条件指定が適切な場合には、1 行のみが想定されているときに、複数の行または値を返すデータの問題である可能性があります。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 問題を切り分けて要求失敗の原因となったデータ・ソースを突き止め、そのオブジェクトの選択基準およびデータを調べてください。

sqlcode: -811

sqlstate: 21000

SQL0817N SQL ステートメントは、ステートメントの結果が禁止された更新操作となるため、実行されません。

説明: アプリケーションは、実行結果がユーザー・データあるいはサブシステム・カタログへの更新となる SQL を実行しようとしていました。これは、以下のいずれかの理由から禁止されています。

- アプリケーションが IMS 照会専用トランザクションとして動作している
- アプリケーションが 2 フェーズ・コミットをサポートしないリモート DBMS でデータを更新しようとする IMS または CICS アプリケーションである
- アプリケーションが、複数のロケーションおよび 2 フェーズ・コミットをサポートしないロケーションのいずれかでデータを更新しようとした

SQL ステートメントには INSERT、UPDATE、DELETE、CREATE、ALTER、DROP、GRANT、および REVOKE が入っています。

ステートメントは実行できません。

ユーザーの処置: アプリケーションが IMS 照会専用トランザクションとして動作している場合、アプリケーション実行下での照会専用トランザクションの状況変更について、IMS システム・プログラマーを調べてください。

IMS または CICS アプリケーションがリモートの更新を行う場合、アプリケーションがサーバー DBMS でのローカル・アプリケーションとして動作するか、あるいはサーバー DBMS が 2 フェーズ・コミットをサポートするようにアップグレードされる必要があります。

アプリケーションが複数のロケーションでデータを更新しようとする場合、アプリケーションを変更するか、あるいはすべての DBMS が 2 フェーズ・コミットをサポートするよう、アップグレードされる必要があります。

sqlcode: -817

sqlstate: 25000

SQL0818N タイム・スタンプの矛盾が起きました。

説明: プリコンパイル時にプリコンパイラーによって生成されたタイム・スタンプが、バインド時にパッケージとともに格納されたタイム・スタンプと同じではありません。

この問題は、以下の状況で発生する可能性があります。

- アプリケーションはプリコンパイルされ、コンパイルされ、およびリンクされているけれども、バインドされていない。
- アプリケーションはプリコンパイルされてバインドされているけれども、コンパイルとリンクが行われていないか、またはそのいずれかが行われていないため、実行されているアプリケーションが最新ではない。
- コンパイルされて、アプリケーション実行可能プログラムにリンクされた、変更済みソース・ファイルを作成したプリコンパイルとは別のソース・ファイルのプリコンパイルによって生成されたバインド・ファイルからパッケージがバインドされている。
- 新規アプリケーションが、同じ名前と既存のパッケージを使ってバインドされたため、既存のパッケージが置換された。置換されたパッケージと関連したアプリケーションが実行された場合には、エラーが発生します。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 前にリストされた原因に加えて、必須パッケージをすべての適用可能なデータ・ソースにバインドするわけではないため、問題が発生する可能性もあります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: オブジェクト・モジュールと一致するプログラムのバインド・ファイルを使用して、もう一度アプリケーションをバインドしてください。または、データベース内に格納されているパッケージに対応するプログラムを実行してください。

サンプル・データベースをインストールしている場合は、このメッセージの番号とテキストを記録して、技術サービス担当者に連絡してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 前にリストされたアクションに加えて、フェデレーテッド・サーバーに必要なパッケージが適用可能なデータ・ソースにバインドされていることを確認してください。データ・ソースへのパッケージのバインドに関する詳細については、「フェデレーテッド・システム・ガイド」を参照してください。

sqlcode: -818

sqlstate: 51003

SQL0822N SQLDA に、無効なデータ・アドレスまたは標識変数のアドレスが含まれています。

説明: アプリケーション・プログラムによって、無効なアドレスが SQLDA に置かれました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: アプリケーション・プログラムを修正

して、有効なアドレスが SQLDA に置かれるようにしてください。

sqlcode: -822

sqlstate: 51004

SQL0840N SELECT リストに戻された項目が多すぎます。

説明: SELECT リスト内に返された項目数が、許容最大値を超えています。SELECT リストの最大値 (共通表式以外) は 1012 です。共通表式での SELECT リストの最大は 5000 です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: すべての情報が実際に必要かどうかを判別してください。(SQL ステートメント SELECT * from A, B, C の SELECT list * によって戻される項目数は、3 つの表すべての列数の合計です) 可能であれば、情報の必要な項目だけが戻されるように SQL ステートメントを書き直してください。すべての情報が必要な場合は、SQL ステートメントを 2 つ以上のステートメントに分割してください。

sqlcode: -840

sqlstate: 54004

SQL0842N サーバー *server-name* への接続はすでに存在しています。

説明: SQLRULES(STD) が実際あり、CONNECT ステートメントは既存 SQL 接続を識別します。

ユーザーの処置: エラーに対する処置は、以下のとおりです。

- サーバー名が意図した名前でない場合は、訂正してください。
- SQLRULES(STD) が有効で、CONNECT ステートメントが既存の SQL 接続を識別している場合は、CONNECT を SET CONNECTION に置き換えるか、またはオプションを SQLRULES(DB2) に変更してください。

アプリケーションのエラーを修正して、もう一度やり直してください。

sqlcode: -842

sqlstate: 08002

SQL0843N サーバー名は既存の接続に該当しません。

説明: ステートメント、コマンド、または API は、アプリケーション処理の既存の SQL 接続を識別しないサーバー名を指定しました。

次の使用で発生した可能性があります。

- SET CONNECTION ステートメント
- RELEASE ステートメント
- DISCONNECT ステートメント
- SET または QUERY CLIENT INFORMATION

ユーザーの処置: エラーに対する処置は、以下のとおりです。

- サーバー名が意図した名前でない場合は、訂正してください。
- サーバーへの接続が確立されており、接続の要求を発行する前に、現在または休止状態にあることを確認してください。

アプリケーションのエラーを修正して、もう一度やり直してください。

sqlcode: -843

sqlstate: 08003

SQL0845N PREVIOUS VALUE 式は、NEXT VALUE 式がシーケンス *sequence-name* の現行セッションで値を生成するまで使用できません。

説明: PREVIOUS VALUE 式がシーケンス *sequence-name* を指定していますが、値がまだこのシーケンスについて生成されていません。シーケンスの PREVIOUS VALUE 式を発行するためには、このシーケンスについて値を生成するために、NEXT VALUE 式をこのセッションで発行する必要があります。

ユーザーの処置: セッション内で同じシーケンスについて PREVIOUS VALUE 式を発行する前に、シーケンスに少なくとも 1 つの NEXT VALUE 式を発行してください。

sqlcode: -845

sqlstate: 51035

SQL0846N ID 列またはシーケンス・オブジェクト *object-type object-name* の指定が無効です。理由コード = *reason-code*。

説明: ID 列またはシーケンス・オブジェクトについて、CREATE または ALTER ステートメントの属性の

指定が、以下のいずれかの理由により無効である可能性があります。

1. ID 列の基礎となるデータ・タイプまたはシーケンス・オブジェクトがサポートされていません。ID 列とシーケンス・オブジェクトは、データ・タイプ SMALLINT、INTEGER、BIGINT、および位取りがゼロの DECIMAL (または NUMERIC) をサポートしません。
2. START WITH、INCREMENT BY、MINVALUE または MAXVALUE に対する値が、ID 列またはシーケンス・オブジェクトのデータ・タイプの範囲外です。
3. MINVALUE は MAXVALUE 以下でなければなりません。
4. 無効な値が CACHE に指定されました。この値は、最小値 2 の INTEGER でなければなりません。

ユーザーの処置: 構文を訂正して、ステートメントを再サブミットしてください。

sqlcode: -846

sqlstate: 42815

SQL0857N 指定されたオプションが矛盾しています (*option1*、*option2*)。

説明: 指定されたオプションが矛盾しています。*option1* と *option2* の両方を指定するか、または 2 つのオプションのどちらも指定しないかのいずれかでなければなりません。

列を定義する際に IMPLICITLY HIDDEN が指定される場合、その列を ROW CHANGE TIMESTAMP 列として定義する必要もあります。

ステートメントは実行できません。

ユーザーの処置: オプションに応じて、オプションを両方とも指定するか、またはどちらのオプションも指定しないかのいずれかにしてください。

sqlcode: -857

sqlstate: 42867

SQL0859N トランザクション・マネージャー・データベースに対するアクセスが、SQLCODE *SQLCODE* で失敗しました。

説明: アプリケーションが SYNCPOINT(TWOPHASE) でプリコンパイルされ、2 フェーズ・コミットを調整するために、トランザクション・マネージャー・データベースを必要としています。トランザクション・マネージャー・データベースが使用できない理由には、以下が考えられます。

- トランザクション・マネージャー・データベースが作成されていません。
- データベース・マネージャー構成ファイルの「*tm_database*」フィールドが更新されておらず、データベースの名前でアクティブになっています。
- データベースは存在しますが、データベースに対する通信が失敗しました。

ユーザーの処置: 解決策は以下のとおりです。

- このメッセージとともに返された **SQLCODE** を参照して、その **SQLCODE** に関する適切なアクションにしたがってください。
- *tm_database* が存在することを確認し、存在しない場合は、新しいデータベースを作成するか、または TM データベースとして使用できる既存のデータベースを選択してください。ディスク・ストレージに重大な制約が存在しない場合は、独立したデータベースを作成することが推奨されます。
- フィールド「*tm_database*」を使用した TM データベースのデータベース・マネージャー構成の更新を行っていない場合は、それを実行してください。
- *tm_database* への接続が作成可能なことを確認してください。たとえば、コマンド行プロセッサを使用して、接続を試みてください。
- 選択された *tm_database* が DB2 Connect を介してアクセスされたデータベースでないことを確認してください。

sqlcode: -859

sqlstate: 08502

SQL0863W 接続は成功しましたが、1 バイト文字しか使用できません。

説明: サーバー・データベースおよびクライアント・アプリケーションは異なる言語タイプのコード・ページを使用し、7 ビット ASCII 範囲外の文字は使用できません (7 ビット ASCII 内の文字のみがすべてのコード・ページに存在します)。たとえば、日本語とラテン 1 コード・ページ間の接続があっても、日本語文字はすべてラテン 1 コード・ページでは使用できません。そのため、これらの文字すべてを避ける必要があります (英語の文字は問題ありません)。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 可能性のある理由は、以下のとおりです。

- フェデレーテッド・データベースは単一バイトおよび 2 バイト文字の両方をサポートしていますが、データベース・クライアント・システムは単一バイト文字のみをサポートします。

- データ・ソースは 1 バイト文字と 2 バイト文字の両方をサポートしていますが、フェデレーテッド・システムは 1 バイト文字のみをサポートします。

ユーザーの処置: アプリケーションおよびデータベース・コード・ページ間で共通でない文字を使用する SQL ステートメントまたはコマンドを実行要求しないでください。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: クライアント・システム、フェデレーテッド・システム、およびデータ・ソース間で共通でない文字を使用する SQL ステートメントまたはコマンドをサブミットしないでください。

sqlcode: +863

sqlstate: 01539

SQL0864N 参照制約 *constraint-name* が全選択内の SQL データ変更ステートメントにより修正される表 *table-name* の行の修正を試行しました。

説明: SQL データ変更ステートメントが FROM 節に指定されましたが、SQL データ変更ステートメントのターゲット基本表に同じ表を修正する参照制約が含まれています。これは許可されません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: FROM 節内の SQL データ変更ステートメントの使用を回避するか、または SQL データ変更ステートメントのターゲットである表を修正しないように参照制約を変更してください。

sqlcode: -864

sqlstate: 560C6

SQL0865N *tm_database* の値が無効です。

説明: データベース・マネージャー構成で *tm_database* として選択されたデータベースが有効ではありません。データベースはレベル DB2 V2.1 またはそれ以降のレベルでなければならず、DRDA プロトコルで (DB2 Connect で) アクセスされるデータベースは使用できません。

ステートメントは実行できません。

ユーザーの処置:

1. データベース・マネージャー構成を更新して、*tm_database* パラメーターに、有効なデータベースを指定してください。
2. `db2stop` と `db2start` を発行して、変更を反映してください。

SQL0866N

sqlcode: -865

sqlstate: 08001

SQL0866N db2dsdriver.cfg ファイルの <alternategroup> セクションが無効なため、データ・サーバー・ドライバまたはデータ・サーバー・クライアントはデータベース名 *database-name* への接続を終了しました。

説明: データベースへの接続が失敗した場合に db2dsdriver.cfg ファイルの <alternategroup> セクションを使用し、自動クライアント・リルートに接続先となる複数の代替データベース・サーバーを指定できます。この機能は、DB2 for Linux, UNIX, and Windows サーバーおよび DB2 for z/OS サーバーでサポートされます。

DB2 for z/OS データベース・サーバーに接続する場合、db2dsdriver.cfg ファイルの <alternategroup> セクションの内容に関して制約事項がいくつかあります。db_A という名前のデータベースが DB2 for z/OS データベース・サーバー上にある場合、db_A の <alternategroup> セクションには 1 つしか <database> 項目を指定できません。

このメッセージは、以下のいずれかの状況が発生したときに戻されます。

1. データベース名 *database-name* に存在するデータベース・サーバー上で代替グループがサポートされていない場合。
2. db2dsdriver.cfg の内容が <alternategroup> セクションに関する DB2 for z/OS の制約事項を満たしていない場合。

ユーザーの処置: db2dsdriver.cfg ファイルで、該当するデータベース *database-name* の項目やセクションが <alternategroup> サポート制約事項を満たすように、関連する <alternategroup> セクションを変更します。

1. db2dsdriver.cfg ファイルの <alternategroup> セクションを除去します。
2. <alternategroup> セクションに 1 つのデータベース項目のみを指定します。

sqlcode: -866

sqlstate: 08001

SQL0868N USER/USING 節を使用する CONNECT が、接続がすでに存在するサーバーに対して試みられました。

説明: サーバーに対する現行または休止接続が存在するので、USER/USING 節を使用したこのサーバーへの

CONNECT (接続) が試みられました。

ユーザーの処置: 解決策は以下のとおりです。

- SET CONNECTION ステートメントを使用して、DORMANT 接続を現行接続にしてください。
- アプリケーションが SQLRULES(DB2) を使用している場合は、USER/USING なしの CONNECT ステートメントを使用してください。
- 既存の作業単位を完了して切断し、USER/USING を使用して再接続してください。

sqlcode: -868

sqlstate: 51022

SQL0873N 別のコード化スキームでエンコードされたオブジェクトを同じ SQL ステートメントで参照することができません。

説明: SQL ステートメントが参照するすべての表、SQL 関数、および SQL メソッドが同じコード化スキームで定義されていません。

この状態は、次のような場合に発生します。

- ASCII または Unicode コード化スキームのいずれかで作成された表が、異なるコード化スキームで作成された表のステートメントで参照されている場合。
- ASCII または Unicode コード化スキームのいずれかで作成された SQL 関数または SQL メソッドが、異なるコード化スキームで作成された表のステートメントで参照されている場合。
- 関数が、元となる関数とは異なるコード化スキームで作成されている場合。
- 例外表が、操作用の基本表とは異なるコード化スキームで作成されている場合。

ユーザーの処置: 同じコード化スキームで作成されたオブジェクトのみを参照するように SQL ステートメントを訂正してください。

sqlcode: -873

sqlstate: 53090

SQL0874N すべてのパラメーターの CCSID は、ルーチンの PARAMETER CCSID と一致する必要があります。

説明: ルーチンのすべてのパラメーターは、ルーチン自体と同じコード化スキームを使用する必要があります。パラメーターに CCSID を指定している場合、明示的または暗黙的に指定されたルーチンの PARAMETER CCSID オプションと一致する必要があります。

ユーザーの処置: パラメーターから CCSID オプション

を除去、またはステートメントを変更して全体に同じ CCSID 値を指定してください。

sqlcode: -874

sqlstate: 53091

SQL0880N SAVEPOINT *savepoint-name* が存在しないか、またはこのコンテキストでは無効です。

説明: RELEASE または ROLLBACK TO SAVEPOINT *savepoint-name* ステートメントを出した時点でエラーが発生しました。この名前を持つセーブポイントが見つからないか、または現在の ATOMIC 実行コンテキストの外側に設定されています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメントにあるセーブポイントの名前を訂正して、ステートメントを出し直してください。

sqlcode: -880

sqlstate: 3B001

SQL0881N 名前 *savepoint-name* の SAVEPOINT が存在しますが、このセーブポイント名は再利用できません。

説明: 名前 *savepoint-name* は SAVEPOINT ステートメントですでに使用されています。このセーブポイント名を使用している SAVEPOINT ステートメントの少なくとも 1 つが、名前がユニークでなければならないことを宣言している UNIQUE キーワードも指定しているため、この名前を再利用することはできません。

ステートメントは処理できません。新しいセーブポイントは設定されていません。同じ名前の古いセーブポイントが存在します。

ユーザーの処置: このセーブポイントに別の名前を選択し、SAVEPOINT ステートメントを出し直してください。既存のセーブポイント名を再利用する必要がある場合、RELEASE SAVEPOINT ステートメントを出して既存のセーブポイントを解放してください。ただし、指定されたセーブポイントが設定された後でトランザクションに設定されたセーブポイントも、この RELEASE SAVEPOINT ステートメントによって解放されるので注意してください。詳細については、SQL リファレンスを参照してください。

sqlcode: -881

sqlstate: 3B501

SQL0882N セーブポイントが存在しません。

説明: ROLLBACK TO SAVEPOINT ステートメントを出したときにエラーが発生しました。既存のセーブポイントがない場合、特定のセーブポイント名を指定せずに ROLLBACK TO SAVEPOINT を出すことは許可されていません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 異なるステートメントを出すか、または ROLLBACK ステートメントでトランザクション全体のロールバックを試みてください。

sqlcode: -882

sqlstate: 3B502

SQL0900N アプリケーションの状態にエラーがありません。データベース接続が存在しません。

説明: データベースに対する接続が存在しません。これは、以下のいずれかが理由である可能性があります。

- アプリケーション状態における重大エラーのため、データベース接続が失われました。
- アプリケーションがデータベースから切断された可能性があり、次の SQL ステートメントを実行する前に、新しい現行接続が確立されていません。
- トラストド接続のユーザーを切り替える要求が失敗しました。

ユーザーの処置: 既存の休止接続に切り替える (CONNECT TO または SET CONNECTION を使用) か、または新しい接続を確立 (CONNECT を使用) するか、あるいはトラストド接続の別のユーザーに適切に切り替えて、現行接続を再確立してください。

sqlcode: -900

sqlstate: 08003

SQL0901N データベース・システム・エラーのために SQL ステートメントまたはコマンドが失敗しました。(理由 *reason*)

説明: このメッセージが返される可能性のあるシナリオは数多くあります。以下に、このメッセージが返される可能性のあるシナリオの例を 2 つ示します。

- Windows オペレーティング・システム: Windows オペレーティング・システムでこのエラーが返されることがある理由の 1 つとして、DB2 データベース・マネージャーによる DB2 データベースまたはデータベース・マネージャー関連のファイルに対する読み取りまたは書き込みが、アンチウィルスまたはファイアウォール・ソフトウェアによって妨げられることが原因である場合があります。

- マイグレーションおよびアップグレードのシナリオ: 新しいバージョンの DB2 データベースへのアップグレード後、またはフィックスパックの適用後にこのエラーが返されることがある理由の 1 つとして、1 つ以上の表、関連する索引、または統計ビューに関する統計が最新でないことが原因である場合があります。

場合によっては、SQL ステートメントを実行するこの試みが失敗しても、後でこの SQL ステートメントまたは他のステートメントを実行する試みが成功することもあります。

ランタイム・トークン *reason* は空であるか、または IBM ソフトウェア・サポート担当者のみを対象にした英語のテキストが含まれている可能性があります。

ユーザーの処置: 以下のトラブルシューティング・ステップを実行して、このエラーに対応します。

Windows オペレーティング・システム:

アンチウイルスまたはファイアウォール・ソフトウェアを無効にします。

DB2 データベースがインストールされたコンピューターにアンチウイルスまたはファイアウォール・ソフトウェアをインストールして実行中である場合は、アンチウイルスまたはファイアウォール・ソフトウェアを無効にし、ステートメントを再実行することにより、アンチウイルスまたはファイアウォール・ソフトウェアが問題の原因でないかどうかを判別します。

アンチウイルスまたはファイアウォール・ソフトウェアを無効にすることで問題が解決する場合は、以下に示す DB2 データベース関連のディレクトリーに対する例外を追加してから、アンチウイルスまたはファイアウォール・ソフトウェアを再び有効にします。

- "IBM\¥sqlib" - DB2 データベース・アプリケーション・ファイル
- "IBM\¥DB2" - DB2 データベース・マネージャー・インスタンス
- "<install-drive>\¥DB2" - データベース・パーティション・ディレクトリー

マイグレーションおよびアップグレードのシナリオ:

RUNSTATS コマンドを使用して統計を更新した後、ステートメントを再実行します。

フェデレーテッド環境:

1. エラーを返しているフェデレーテッド・データ・ソースまたはフェデレーテッド・データベース・サーバーを判別します。

2. エラーを返しているデータ・ソースまたはフェデレーテッド・データベース・サーバーのために、診断情報を収集し、トラブルシューティング・ステップを実行します。

データ・ソースの問題判別手順にはさまざまなものがあるため、エラーを返しているデータ・ソースまたはフェデレーテッド・データベース・サーバーのための診断およびトラブルシューティングの参照情報を調べてください。

記載されたトラブルシューティング・ステップを実行した後もエラーが続く場合は、以下に示すように IBM ソフトウェア・サポートに連絡して支援を受けてください。

1. DB2 トレースおよび独立トレース機能などのトレース機能を使用して診断情報を収集します。
2. 以下の診断情報を収集します。
 - 問題の説明
 - SQLCODE
 - 理由 *reason*
 - SQLCA の内容 (ある場合)
 - トレース・ファイル (可能な場合)
3. IBM ソフトウェア・サポートに連絡します。

sqlcode: -901

sqlstate: 5UA0L, 58004

SQL0902C システム・エラーが発生しました。後続の SQL ステートメントは処理されません。IBM ソフトウェア・サポートの理由コード: *reason-code*。

説明: このメッセージは、データベースを引き続き使用することが不可能になり得るクリティカル・エラー (重大なオペレーティング・システム・エラー、またはストレージ・メディアへのアクセス・エラーなど) がデータベース・マネージャーで発生すると返されます。オペレーティング・システム・エラーまたは重大なメディア・エラーがデータベース・マネージャーで発生する可能性があるシナリオにはさまざまなものがあります。このメッセージが返される可能性があるシナリオの一例を以下に示します。

- データベース・マネージャー・リソースにセマフォアが必要なときに、その要求を満たすのに十分なセマフォアがないと、このメッセージが返されることがあります。

ランタイム・トークン *reason-code* は空のこともありますが、IBM ソフトウェア・サポート担当者の支援のみを目的としています。

ユーザーの処置: 以下のトラブルシューティング・ステップを実行して、このメッセージに対応します。

1. db2diag ログ・ファイル内の診断情報を調査して、このメッセージが返される前に発生したエラーを特定します。
2. 要求されたセマフォが多すぎること、またはデータベース・マネージャーの要求を満たすのに十分なセマフォが存在しないことを示すメッセージが db2diag ログ・ファイル内にある場合は、オペレーティング・システム・パラメーターを使用してセマフォの数を増やします。

記載されたトラブルシューティング・ステップを実行した後もエラーが続く場合は、以下に示すように IBM ソフトウェア・サポートに連絡して支援を受けてください。

1. DB2 トレースおよび独立トレース機能などのトレース機能を使用して診断情報を収集します。
2. 以下の診断情報を収集します。
 - 問題の説明
 - SQLCODE
 - 理由 *reason*
 - SQLCA の内容 (ある場合)
 - トレース・ファイル (可能な場合)
3. IBM ソフトウェア・サポートに連絡します。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 問題を切り分けて要求失敗の原因となったデータ・ソースを突き止め、そのデータ・ソースで必要な診断手順を実行してください。データ・ソースの問題判別手続きはそれぞれ違うので、適用できるデータ・ソース・リファレンスを参照してください。

sqlcode: -902

sqlstate: 58005

SQL0903N COMMIT ステートメントが失敗し、トランザクションはロールバックされました。
理由コード: *reason-code*

説明: 現在の作業単位に関連する 1 つ以上のサーバーが、コミットされるデータベースを準備できませんでした。COMMIT ステートメントは失敗し、トランザクションはロールバックされました。現在の作業単位に関するサーバーが 1 台のみである場合、トランザクションは代わりにコミットされた可能性があります。

可能性のある理由コードは、以下のとおりです。

01

作業単位に関連するいずれかのデータベースに対する接続が失われました。

02

作業単位に関連するデータベースまたはノードの 1 つがアクセスされましたが、コミットを準備できません。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 接続したデータベースが、ニックネームが使用されているフェデレーテッド・サーバー・データベースである場合、ニックネームに必要ないずれかのデータ・ソースがコミットを準備できません。

03

作業単位に関連する DB2 Data Links Manager がコミットを準備できませんでした。

04

1 つ以上の作成済み一時表または宣言済み一時表が、矛盾した状態にあります。

05

予期しないエラーが発生しました。詳細については管理通知ログをチェックしてください。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 接続したデータベースが、ニックネームが使用されているフェデレーテッド・サーバー・データベースである場合、ニックネームに必要なデータベース内のいずれかのデータ・ソースへの接続が失われました。

06

再同期情報を参加者のいずれかに送信できません。その参加者は IPv4 しかサポートしません。その参加者に対してデュアル・スタック・モードを有効にしてください。

ユーザーの処置: データベースに対する接続が失われた場合は、接続を再確立します。障害が接続に関連していない場合は、リモート・システムのエラー診断ログを参照して、障害の特質と必要なアクションを判別します。アプリケーションを再実行してください。

sqlcode: -903

sqlstate: 40504

SQL0904N 使用できないリソースのため、実行が失敗しました。理由コード: *reason-code*、リソースのタイプ: *resource-type*、およびリソース名: *resource-name*。

説明: タイプ *resource-type* のリソース *resource-name*

SQL0905N

は、*reason-code* に示された時刻に使用できなかったため、SQL ステートメントを実行できませんでした。リソース・タイプ・コードの解説には DB2 (MVS 版) の問題判別資料を参照してください。

ユーザーの処置: 使用できなかったリソースの ID をチェックしてください。リソースが使用できなかった理由を判別するには、指定された *reason-code* を参照してください。

sqlcode: -904

sqlstate: 57011

SQL0905N リソースの限界を超過しているため、実行が失敗しました。リソース名 = *resource-name*、制限 = *limit-amount1* CPU 秒 (*limit-amount2* サービス単位)、*limit-source* から導出。

説明: リソース制限を超えたため、SQL ステートメントの実行が終了しました。

制限を超えたりリソースの名前は *resource-name* です。これは、制限の派生元のリソース限定表の列名でもあります。超えた制限は、CPU 秒単位で *limit-amount1*、サービス単位で *limit-amount2* です。*resource-name* は、各 SQL ステートメントに許可されている CPU 秒の数値の、ASUTIME である可能性があります。許可される最大 CPU 秒数は、*limit-amount1* です。サービス単位での最大数は、*limit-amount2* です。

この制限量の導出元ソースは *limit-source* で、これはリソース限定表の名前か、または 'システム・パラメーター' の名前です。ソースがシステム・パラメーターの場合、表へのアクセス時に、リソース限定表に適用可能項目が入っていなかったか、またはエラーが発生しました。いずれかの場合において、制限はインストール (システム) パラメーターから取得されました。

ユーザーの処置: SQL ステートメントがなぜ長時間かかったかを判別して、適切なアクションをとってください。SQL ステートメントの単純化、表および索引の再作成、またはリソース限定表保守担当のインストール・グループに連絡することを考慮してください。

この戻りコードを受け取るアプリケーション・プログラムが追加 SQL ステートメントを実行できます。

sqlcode: -905

sqlstate: 57014

SQL0906N 以前のエラーのためにこの関数が無効になっているため、SQL ステートメントを実行できません。

説明: 前のエラーのため要求された関数が無効になって

いるため、SQL ステートメントの実行が失敗しました。この状態は、アプリケーション・プログラムが異常終了を代行受信した場合 (たとえば、ON ERROR PL/I プログラムで ON ERROR 条件)、および SQL ステートメントの実行を継続した場合に発生します。また、この状態は、DB2 CICS トランザクションでスレッド作成エラーが発生したにもかかわらず、SYNCPOINT ROLLBACK を最初に発行せずに、SQL 要求の発行を継続した場合に発生します。

ユーザーの処置: 一般には、アプリケーション・プログラムはこの戻りコードを受信した段階で終了する必要があります。この戻りコードで、アプリケーションが他の SQL ステートメントを実行するためのすべての試行が失敗します。DB2 CICS トランザクションの場合、SQLCA で SQLERRP フィールドがモジュール名 DSNCEXT1 を含む場合、トランザクションが SYNCPOINT ROLLBACK を発行して、処理を継続する可能性があります。トランザクションが ROLLBACK を選択して処理を継続する場合は、最初のスレッド作成エラーの原因となった状況を修正することが可能でなければなりません。

sqlcode: -906

sqlstate: 24514, 51005, 58023

SQL0907N MERGE ステートメントのターゲット表 *table-name* を、制約またはトリガー *name* によって変更しようとして失敗しました。

説明: MERGE ステートメントによって、制約またはトリガー *name* がアクティブ化します。これらはターゲット表または MERGE ステートメントの同じ表階層内の表でもある表 *table-name* の更新、挿入または削除を行うおうとします。これは許可されません。

ユーザーの処置: MERGE ステートメントを変更して、制約またはトリガーがアクティブ化する操作を除去するか、または制約またはトリガーのある表を変更して、ターゲット表への参照を除去してください。

sqlcode: -907

sqlstate: 27000

SQL0908N *auth-id* を使った *bind-type* エラー。権限 BIND、REBIND、または AUTO_REBIND 操作は許可されません。

説明: BIND と REBIND の場合、示された許可 ID は、示された *bind-type* を、プランまたはパッケージに対して実行することを許可されません。リソース限定表 (RLST) に入力することは、この許可 ID、またはすべての許可 ID によってのバインドおよび再バインドを禁止します。AUTO-REBIND の場合、AUTO-REBIND

操作を制御するシステム・パラメーターが AUTO-REBIND を禁止するように設定されています。

bind-type

バインド操作のタイプ (BIND、REBIND または AUTO-REBIND)。

auth-id BIND サブコマンドの起動者の許可 ID または AUTO-REBIND 操作に対する起動者の 1 次許可 ID。

ユーザーの処置: 指示された許可 ID がバインドに使用できる場合、アクティブ RLST 表を入力変更してください。AUTO-REBIND 操作が無効になった場合、パッケージを再実行する前に再バインドしてください。

sqlcode: -908

sqlstate: 23510

SQL0909N オブジェクトが削除されています。

説明: アプリケーション・プログラムは、(1) 表をドロップしてからアクセスしようとした、または (2) 索引をドロップしてからその索引を使用してオブジェクト表にアクセスしようとした。

ユーザーの処置: ドロップした後に、オブジェクトにアクセスまたは使用としないように、アプリケーション・プログラムの論理を訂正する必要があります。

アプリケーション・プログラム内で索引をドロップすることは特に危険です。なぜならば、アプリケーション (バインドまたは再バインドによって) に対して生成されたプランがオブジェクト表にアクセスするため、実際に特別な索引を使用していることを判別する方法はないからです。

sqlcode: -909

sqlstate: 57007

SQL0910N 変更がペンディングになっているオブジェクトには SQL ステートメントからアクセスできません。

説明: アプリケーション・プログラムが、以下のいずれかが行なわれたのと同じ作業単位内のオブジェクトにアクセスしようとした。

- アプリケーション・プログラムが、オブジェクトまたは関連オブジェクト (たとえば、表の索引) に対して DROP を発行した。
- アプリケーション・プログラムが、制約を追加またはドロップしたオブジェクトに対して、ステートメントを発行した。

- アプリケーション・プログラムが、直接または間接的にオブジェクトに影響を与える DROP TRIGGER または CREATE TRIGGER ステートメントを発行した。
- アプリケーション・プログラムが、オブジェクトを変更ペンディング状態にする ROLLBACK TO SAVEPOINT ステートメントを発行した。
- アプリケーション・プログラムが発行したステートメントが原因で、NOT LOGGED 作成済み一時表または宣言済み一時表のすべての行が削除された。
- アプリケーション・プログラムが、オブジェクト (この場合は表) に対して ALTER TABLE ... ADD PARTITION、ALTER TABLE ... ATTACH PARTITION、または ALTER TABLE ... DETACH PARTITION ステートメントを発行した。作業単位に ALTER TABLE ... ATTACH PARTITION が含まれる場合は、以降同じ作業単位内で同じ表に対して ALTER TABLE ... DETACH PARTITION を実行することはできません。
- アプリケーション・プログラムが DETACH を発行して、パーティション MDC 表内のデータ・パーティションからこのオブジェクトを作成した。
- アプリケーション・プログラムが、変更が保留中のトラステッド・コンテキスト・オブジェクトにアクセスしようとする SQL ステートメントを発行しました。SQL ステートメントは以下のいずれかである可能性があります。
 - ALTER TRUSTED CONTEXT
 - CREATE TRUSTED CONTEXT
 - DROP TRUSTED CONTEXT
- アプリケーション・プログラムが CREATE USER TEMPORARY TABLESPACE ステートメントまたは ALTER TABLESPACE ステートメントを発行しました。作業単位に CREATE USER TEMPORARY TABLESPACE ステートメントまたは ALTER STATEMENT ステートメントが含まれる場合は、以降同じ作業単位内で、表をインスタンス化する作成済み一時表への参照を行うことはできません。

または、アプリケーション・プログラムが、変更が保留中の WLM オブジェクトにアクセスしようとする SQL ステートメントを発行しました。SQL ステートメントは以下のいずれかである可能性があります。

- ALTER HISTOGRAM TEMPLATE
- ALTER THRESHOLD
- ALTER SERVICE CLASS
- ALTER WORK ACTION
- ALTER WORK CLASS
- ALTER WORKLOAD

SQL0911N

- CREATE HISTOGRAM TEMPLATE
- CREATE THRESHOLD
- CREATE SERVICE CLASS
- CREATE WORK ACTION
- CREATE WORK CLASS
- CREATE WORKLOAD
- 次のオブジェクトのいずれかの DROP: HISTOGRAM TEMPLATE、THRESHOLD、SERVICE CLASS、WORK ACTION、WORK CLASS、WORKLOAD
- GRANT (ワークロード特権)
- REVOKE (ワークロード特権)

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 以前にリストされた原因に加えて、オブジェクトへのアクセスを妨げる、データ・ソースに特有の他の制限が存在する可能性があります。

SQL ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 変更が行なわれたのと同じ作業単位内のオブジェクトにアクセスしないように、アプリケーション・プログラムを変更してください。通常は、データ定義言語 (DDL) ステートメントを、同じオブジェクトにアクセスするデータ操作言語 (DML) ステートメントとは異なる作業単位に分離します。

失敗したステートメントを正常に処理するためには、作業単位がコミットまたはロールバックを行う必要があります。コミットされた修正がオブジェクトをドロップする場合は、失敗した SQL ステートメントを正常に処理するために、オブジェクトの再作成が必要になる可能性があります。

オブジェクトが SAVEPOINT 内で変更されている場合、ROLLBACK TO SAVEPOINT ステートメントを発行した後でそのオブジェクトへのアクセスを試みないよう、アプリケーション・プログラムを変更してください。変更されたオブジェクトにアクセスし、ROLLBACK TO SAVEPOINT の時点でオープンされていたカーソルはアクセス不能になります。カーソルをクローズするようアプリケーションを変更してください。

NOT LOGGED 作成済み一時表または宣言済み一時表を扱う挿入、削除、または更新ステートメントが失敗すると、その表にある行はすべて削除されます。障害が発生した時点で、この表に対してオープンされていたカーソルはアクセス不能になるため、アプリケーションによってクローズされなければなりません。

ペンディング状態の ALTER TABLE ... ATTACH PARTITION が原因で ALTER TABLE ... DETACH PARTITION が失敗する場合は、2 つの別々の作業単位

を使用してこの 2 つの操作を行ってください。

SQL ステートメントでトラステッド・コンテキスト・オブジェクトにアクセスしようとした場合は、そのステートメントを後で再発行してください。

SQL ステートメントで WLM オブジェクトにアクセスしようとした場合は、そのステートメントを後で再発行してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 前のアクションで問題が解決されない場合は、要求を分離します。その後、データ・ソース上に対して存在するその他の制約のうち、オブジェクトへのアクセスを妨げる原因となっているものについて調べてください。アプリケーションがそれらの制約に違反しないことを確認してください。

sqlcode: -910

sqlstate: 57007

SQL0911N デッドロックまたはタイムアウトのため、現在のトランザクションがロールバックされました。理由コード *reason-code*

説明: 現在の作業単位が、オブジェクトの使用について、未解決競合状態になったために、ロールバックされました。

理由コードは以下のとおりです。

2

デッドロックのために、トランザクションがロールバックされました。

68

ロック・タイムアウトのために、トランザクションがロールバックされました。

72

トランザクション中の DB2 Data Links Manager エラーのために、トランザクションがロールバックされました。

73

CONCURRENTDBCOORDACTIVITIES しきい値などのキューイングしきい値が原因で 2 つ以上のアクティビティーがデッドロック状態になったため、トランザクションがロールバックされました。詳しくは、DB2 インフォメーション・センターの

『CONCURRENTDBCOORDACTIVITIES しきい値』を参照してください。

アプリケーションは直前の COMMIT にロールバックされました。

ユーザーの処置: 作業単位に関連する変更は、もう一度入力する必要があります。

デッドロックまたはロック・タイムアウトを防ぐには、可能であれば、長く実行されるアプリケーションまたは、デッドロックを引き起こしやすいアプリケーションに対して、頻繁に COMMIT を発行してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: デッドロックはフェデレーテッド・サーバーまたはデータ・ソースで発生する可能性があります。データ・ソースおよび潜在的にフェデレーテッド・システムをスパンするデッドロックを検出するメカニズムが存在しません。要求が失敗したデータ・ソースを識別することができます。(問題判別の手引きを参照して、SQL ステートメントの処理に失敗したデータ・ソースを判別してください。)

デッドロックはだいたい標準であるか、または決まった SQL の組み合わせを処理中に予期されます。可能な限りデッドロックを避けるために、アプリケーションを設計することをお勧めします。

CONCURRENTDBCOORDACTIVITIES しきい値などのキューイングしきい値のためにデッドロック状態になった場合は、キューイングしきい値の値を増やしてください。

sqlcode: -911

sqlstate: 40001

SQL0912N データベースに対するロック要求の最大値に達しました。理由コード = *reason-code*

説明: ロック要求のためのメモリーが十分でないため、データベースのロックの最大値に達しました。

理由コードは、制限に達したメモリーのタイプを示しています。

1

ローカル・ロック・マネージャー・メモリー。
これは LOCKLIST データベース構成パラメーターを使用して構成されます。

2

グローバル・ロック・マネージャー・メモリー。
これは CF_LOCK_SZ データベース構成パラメーターを使用して構成されます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: アプリケーションは、他の SQL ステートメントのサブミットを行う前に、COMMIT または ROLLBACK ステートメントのサブミットを行う必要があります。理由コードで示されているデータベース構成パラメーターの値を増やして、より多くのロック要求をサポートするようにします。

1

ローカル・ロック・マネージャーに割り振られたロック・メモリーを管理する LOCKLIST データベース構成パラメーターを増やしてください。

2

グローバル・ロック・マネージャーに割り振られたロック・メモリーを管理する CF_LOCK_SZ データベース構成パラメーターを増やしてください。

sqlcode: -912

sqlstate: 57011

SQL0913N 実行がデッドロックまたはタイムアウトによって失敗しました。理由コード *reason-code*

説明: 発行された要求が、オブジェクトの使用について未解決競合で呼び出されており、実行は失敗しました。

理由コードは以下のとおりです。

2

デッドロックのために、トランザクション・ブランチが正常に実行されていません。

68

ロック・タイムアウトのために、トランザクション・ブランチが正常に実行されていません。

72

トランザクションに関係する DB2 Data Links Manager に関連するエラーのために、トランザクションがロールバックされました。

80

タイムアウトのために、ステートメントが正常に実行されていません。

このメッセージのテキストとランタイム・トークンは、DB2 データベース・サーバーやクライアントのバージョンやプラットフォームに応じて変わることがあります。

ユーザーの処置:

- 理由コード 80 の場合、アプリケーションを終了せずに失敗したステートメントを再試行することができます。アプリケーションが複数のリモート・データベースにアクセスする場合、グローバル・デッドロックを防ぐために、トランザクションをロールバックするのはよい方法です。

SQL0917N

- その他の理由コードの場合、トランザクションをロールバックするように要求を出してください。トランザクションは現在のトランザクション・ブランチの障害のため、コミットできません。
- デッドロックまたはロック・タイムアウトを回避するには、可能であれば長時間実行アプリケーションで、または高速同時アクセスでデータを要求するアプリケーションで頻繁に COMMIT 操作を発行してください。

sqlcode: -913

sqlstate: 57033

SQL0917N パッケージのバインドが失敗しました。

説明: エラーが発生したため、パッケージを作成できませんでした。

この SQLCODE はバインドまたはコミット処理中に発行できます。これがコミット処理中に発行された場合は、データベースに対する変更がすべてロールバックされます。バインド処理中に発行された場合は、パッケージの作成が失敗するだけであり、作業論理単位内のその他の変更はコミット可能です。

ユーザーの処置: 多くの場合、この問題は、エラーが発生したために 1 つ以上の SQL ステートメントをバインドできなかったことが原因です。

エラーの原因となっているステートメントを特定し、それを訂正してください。コマンドを再発行して、パッケージを作成してください。

sqlcode: -917

sqlstate: 42969

SQL0918N アプリケーションがロールバックを実行する必要があります。

説明: データベースの作業単位はすでにロールバックされていますが、この作業単位に含まれている他のリソース・マネージャーはまだロールバックしていません。このアプリケーションの整合性を保証するために、アプリケーションがロールバックを発行するまで、すべての SQL 要求が拒否されます。

ユーザーの処置: アプリケーションがロールバックを発行するまで、すべての SQL 要求が拒否されます。たとえば、CICS 環境の場合、これは CICS SYNCPOINT ROLLBACK コマンドになります。

sqlcode: -918

sqlstate: 51021

SQL0920N データベース・クライアント・システムのデータは、他のデータベース・クライアント・システムからはアクセスできません。

説明: ワークステーションが、クライアントまたはローカル・クライアントを持つサーバーとして構成されています。このシステムで作成されたデータベースは、他のワークステーションとは共有できません。

関数は処理されません。

ユーザーの処置: サーバー・ワークステーションからのみデータを要求してください。

sqlcode: -920

sqlstate: 57019

SQL0925N アプリケーション実行環境の SQL COMMIT が無効です。

説明: 以下の場合には、COMMIT を実行できません。

- CICS などの分散トランザクション処理環境の場合、静的 SQL COMMIT ステートメントが試みられましたが、環境特有のコミット・ステートメントが必要です。たとえば、CICS 環境の場合、これは CICS SYNCPOINT コマンドになります。
- プリコンパイルされた、または非 TP モニター環境の CONNECT 2 を使用するように設定された DB2 アプリケーションが、静的 SQL COMMIT しか許されていないにもかかわらず、動的 SQL COMMIT を発行しました。
- ストアード・プロシージャから発行された場合、呼び出し側プログラムが分散作業単位または分散トランザクション処理環境で実行されているときは、SQL COMMIT も許可されません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを行って、問題を解決してください。

- COMMIT を発行するステートメントを取り除いて、環境に対して有効なコミットを行うステートメントで置き換えてください。
- 非 TP モニター環境の接続タイプ 2 の場合は、静的 COMMIT のみを使用してください。
- ストアード・プロシージャの場合は、COMMIT を取り除いてください。

sqlcode: -925

sqlstate: 2D521

SQL0926N アプリケーション実行環境の SQL ROLLBACK が無効

説明: 以下の場合には、ROLLBACK が実行できません。

1. CICS などの分散トランザクション処理環境で、静的 SQL ROLLBACK ステートメントが試みられましたが、環境特有のロールバック・ステートメントが必要です。たとえば CICS 環境の場合、これは CICS SYNCPOINT ROLLBACK コマンドになります。
2. プリコンパイルされた、または CONNECT 2 を使用するように設定された DB2 アプリケーションが、静的 SQL ROLLBACK しか許されていないにもかかわらず、動的 SQL ROLLBACK を発行しました。
3. ストアド・プロシージャから発行された場合、呼び出し側プログラムが分散作業単位 (CONNECT タイプ 2) または分散トランザクション処理環境で実行されているときは、SQL ROLLBACK も制限されます。

ユーザーの処置:

1. ROLLBACK を発行するステートメントを取り除いて、環境に対して有効なロールバックを行うステートメントで置き換えてください。
2. 接続タイプ 2 の場合は、静的 COMMIT のみを使用してください。
3. ストアド・プロシージャの場合は、それ自体を取り除いてください。

sqlcode: -926

sqlstate: 2D521

SQL0930N ステートメントを処理するためのストレージが足りません。

説明: 別のメモリー・ページを必要とする要求がデータベースに対して行われましたが、データベース・マネージャーが利用できるページがありません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 可能な解決方法は、以下のとおりです。

- システムに十分な実メモリーおよび仮想メモリーがあることを確認してください。
- バックグラウンド処理を除去してください。
- DUOW 再同期でエラーが発生した場合は、データベース・マネージャー構成パラメーターの値 RESYNC_INTERVAL を減らしてください。
- ルーチン (UDF、ストアド・プロシージャ、またはメソッド) を参照したステートメントでエラーが発

生している場合、引数と戻り値を入れるのに必要なストレージが、システムで使用できるメモリー量を超えている可能性があります。これは、このルーチンが、大きなサイズ (たとえば、2GB など) の

BLOB、CLOB、DBCLOB パラメーターまたは戻り値を使って定義されている場合に発生することがあります。

これらの解決方法を試しても問題が解決されない場合は、このルーチンの定義の変更を考慮する必要がある可能性があります。

sqlcode: -930

sqlstate: 5UA0L、57011

SQL0931C オペレーティング・システム・ファイル表がオーバーフローしました。後続の SQL ステートメントは処理されません。

説明: オペレーティング・システムの制限に達しました。アプリケーション・プログラムは、これ以上 SQL ステートメントを発行できません。データベースにはリカバリーが必要であるというマークが付けられ、このデータベースを使用しているすべてのアプリケーションは、このデータベースにアクセスできなくなります。

ユーザーの処置: データベースを使用しているすべてのアプリケーションを終了してください。データベースを再始動してください。

この問題の再発を防ぐには、以下のことを実行してください。

- MAXFILOP データベース構成パラメーターを小さな値に変更してください (これにより、DB2 のオペレーティング・システム・ファイル表の使用度が減少します)。
- できれば、システム・ファイルを使用しているアプリケーションを終了してください。
- オペレーティング・システム・ファイル表制限の増加方法については、オペレーティング・システムの資料を参照してください。ほとんどの UNIX 環境では、これはカーネル構成をより大きな値で更新することにより、行うことができます。(AIX の場合、これは、使用しているマシンのメモリー容量を増やすことによるのみ可能です。)

sqlcode: -931

sqlstate: 58005

SQL0949N 無効なオペレーティング・システム操作が UTL_FILE モジュール・ルーチンにより 試行されました。オペレーティング・システム・エラー = *error-text*。

説明: UTL_FILE モジュール・ルーチンにより試行された操作により、オペレーティング・システムは *error-text* で示されているエラーを返しました。

ユーザーの処置: オペレーティング・システムのエラー・メッセージ情報を参照し、*error-text* により報告された問題の訂正方法を判別してください。

sqlcode: -949

sqlstate: 58024

SQL0950N 表または索引は、現在使用中のため、ドロップできません。

説明: オープン・カーソルが現在表または索引を使用している場合は、DROP TABLE または DROP INDEX ステートメントを発行することができません。

ステートメントは処理できません。表または索引はドロップされません。

ユーザーの処置: 必要なカーソルをすべてクローズして、ステートメントの再サブミットを行ってください。

sqlcode: -950

sqlstate: 55006

SQL0951N 同じアプリケーション処理で使用されているため、タイプ *object-type* のオブジェクト *object-name* を変更できません。

説明: ロック状態または使用中のオブジェクトに対する ALTER ステートメント、SET INTEGRITY ステートメント、または TRUNCATE ステートメントを発行することはできません。

ステートメントは処理できません。このオブジェクトは変更されていません。

ユーザーの処置: オブジェクト *object-name* に直接的、または間接的に依存するカーソルをクローズし、ステートメントを再サブミットしてください。

sqlcode: -951

sqlstate: 55007

SQL0952N 割り込みにより、処理が取り消されました。

説明: ユーザーが割り込みキー・シーケンスを押した可能性があります。

ステートメントの処理は終了します。終了が発生する前の変更が、データベースに適用されている可能性があります。コミットされません。

また、照会がタイムアウトになったため Call Level Interface (CLI) が割り込みを発行した場合にも、このエラーを受け取る可能性があります。例えば、アプリケーションが SQLSetStmtAttr() 関数を使って SQL_ATTR_QUERY_TIMEOUT ステートメント属性を非ゼロ値に構成する場合、指定された時間内に SQL ステートメントまたは XQuery 式が完了しなければ、CLI は実行をキャンセルしてアプリケーションに戻るために割り込みを発行します。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: この状態はデータ・ソースによっても検出できます。

ユーザーの処置: アプリケーションを続行してください。

サンプル・データベースをインストールしている場合は、それをドロップしてサンプル・データベースを再インストールしてください。

照会タイムアウト時に CLI による割り込みの発行を防ぐには、db2cli.ini ファイルで

QUERYTIMEOUTINTERVAL=0 を設定することで、照会タイムアウトの動作を無効にすることができます。照会タイムアウトの動作を無効にすると、デッドロックまたはロック待機のタイムアウト値がサーバーで設定されていない限り、照会は完了するまで実行されます。

sqlcode: -952

sqlstate: 57014

SQL0954C ステートメントの処理に使用できる十分なストレージが、アプリケーション・ヒープにありません。

説明: アプリケーションの使用可能メモリーをすべて使いきってしまいました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: このメッセージを受け取ったアプリケーションを終了してください。 *applheapsz* データベース構成パラメーターが AUTOMATIC に設定される場合、APPL_MEMORY データベース構成設定または INSTANCE_MEMORY データベース・マネージャー構成設定を増やす必要があります。そうでない場合、より多くのアプリケーション・ヒープを使用できるようにするために、*applheapsz* データベース構成パラメーターを増やしてください。

構成パラメーターを更新する場合、エラー条件が解決されるまで、一度に現行サイズの 10% ずつ構成パラメーターを変更することが推奨されています。*applheapsz* を

変更するには、以下のようなコマンドを入力します。これは、データベース *sample* の *applheapsz* をサイズ 4000 に設定します。

```
db2 UPDATE DB CFG FOR sample USING APPLHEAPSZ 4000
```

関連したすべての構成パラメーターが **AUTOMATIC** または **COMPUTED** に設定された場合、インスタンスのメモリー要求はマシンに構成されているメモリーの容量を超過します。可能な解決方法には、データベース・ワークロードの削減、接続コンセントレーター・フィーチャーの使用可能化、マシンへのメモリー追加などがあります。

sqlcode: -954

sqlstate: 57011

SQL0955C このステートメントを処理するためのソート・メモリーを割り振れません。理由コード = *reason-code*。

説明: ソート処理を行うため、データベース・エージェントで使用できる仮想メモリーが不足しています。理由コードの説明

- 1 専用処理メモリーが不十分です。
- 2 ソート処理のためのデータベース広域共有メモリー域に共有メモリーが不十分です。

このステートメントは処理されませんが、他の SQL ステートメントは処理される可能性があります。

ユーザーの処置: 以下の中から 1 つ以上を行ってください。

- 対応するデータベース構成ファイル内のソート・ヒープ・パラメーター (*sorheap*) の値を小さくしてください。
- 理由コード 1 の場合、可能であれば、使用できる専用仮想メモリーを増やしてください。たとえば UNIX システムでは、*ulimit* コマンドを使用して処理用のデータ域の最大サイズを大きくすることができます。
- 理由コード 2 の場合は、データベース全体で共有されているソート処理用指定メモリー域のサイズを増やしてください。このサイズを増やすには、**SHEAPTHRES_SHR** データベース構成パラメーターの値を大きくします。

sqlcode: -955

sqlstate: 57011

SQL0956C ステートメントの処理に使用できる十分なストレージが、データベース・ヒープにありません。

説明: データベースの使用可能メモリーをすべて使いきってしまった。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: このメッセージを受け取ったアプリケーションを終了してください。

より多くのデータベース・ヒープを使用できるようにするために、*dbheap* データベース構成パラメーターを増やしてください。入出力サーバーの数が上限に近い場合は、この数を減らすことも役に立つ可能性があります。

dbheap データベース構成パラメーターが **AUTOMATIC** に設定される場合、**DATABASE_MEMORY** データベース構成設定または **INSTANCE_MEMORY** データベース・マネージャー構成設定を増やす必要があります。

構成パラメーターを更新する場合、エラー条件が解決されるまで、一度に現行サイズの 10% ずつ構成パラメーターを変更することが推奨されています。*dbheap* を変更するには、以下のようなコマンドを入力します。これは、データベース *sample* の *dbheap* をサイズ 2400 に設定します。

```
db2 UPDATE DB CFG FOR sample
USING DBHEAP 2400
```

データベースから切断されているときに *dbheap* を変更するには、以下のようなコマンドを入力します。

```
db2 CONNECT RESET;
db2 UPDATE DB CFG FOR sample
USING DBHEAP 2400
```

関連したすべての構成パラメーターが **AUTOMATIC** または **COMPUTED** に設定された場合、インスタンスのメモリー要求はマシンに構成されているメモリーの容量を超過します。可能な解決方法には、データベース・ワークロードの削減、接続コンセントレーター・フィーチャーの使用可能化、マシンへのメモリー追加などがあります。

sqlcode: -956

sqlstate: 57011

SQL0958C 開くことができるファイルの最大数に達しました。

説明: データベースが使用できるファイル・ハンドルの最大数に達しました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: データベースのロケーションに許され

SQL0959C

ているオープン・ファイルの最大数に影響を与えるパラメーターを増やしてください。これには、構成パラメーター (*maxfilop*) を増やして、インスタンスがもっと多くのファイル・ハンドルを使用できるようにすると、他のセッションを終了して、使用中のファイル・ハンドルを減らすことが含まれます。

sqlcode: -958

sqlstate: 57009

SQL0959C ステートメントの処理に使用できる十分なストレージが、サーバーのコミュニケーション・ヒープにありません。

説明: サーバーのコミュニケーション・ヒープの使用可能メモリーをすべて使いきってしまいました。

コマンドまたはステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: このメッセージを受け取ったアプリケーションを終了してください。サーバー・ワークステーションのデータベース・マネージャー構成ファイルのコミュニケーション・ヒープ (*comheapsz*) パラメーターのサイズを増やしてください。

注: このメッセージは、バージョン 2 より前の DB2 リリースにのみ適用されます。

sqlcode: -959

sqlstate: 57011

SQL0960C 最大数のオブジェクトが次の名前または ID を持つ表スペースに作成されました:
table-space-list.

説明: 表スペースでオブジェクトが最大数に達したため、表スペースに新しいオブジェクトを作成できません。

ユーザーの処置: オブジェクトまたは表を作成する別の表スペースを指定します。表スペースを SYSTEM TEMPORARY 表スペースにした場合、同時に使用される一時表が多すぎます。

sqlcode: -960

sqlstate: 57011

SQL0964C データベースのトランザクション・ログがいっぱいです。

説明: トランザクション・ログのすべてのスペースを使い切ってしまいました。

2 次ログ・ファイルを持つ循環ログが使用されている場合は、2 次ログ・ファイルの割り振り及使用が試みられています。ファイル・システムにスペースがない場合

は、2 次ログを使用することができません。

アーカイブ・ログが使用されている場合、ファイル・システムは、新しいログ・ファイルを収容するためのスペースを提供しません。

このメッセージは、可能なログ・シーケンス番号のほぼすべてをデータベースが使用済みであるために返されることもあります。データベース・マネージャーは、ログ・シーケンス番号 (LSN) と呼ばれる固有 ID を使用してデータベース・ログ・レコードを識別します。トランザクションに関連してデータベース・ログを書き込む必要があるたびに、データベースは新しい LSN 値を使用します。

アプリケーションは、データベースでのログ・レコード書き込みを伴うトランザクションを実行することができません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: このメッセージ (SQLCODE) を受け取った場合は、COMMIT または ROLLBACK を実行するか、またはもう一度やり直してください。

データベースが並行アプリケーションで更新されている場合は、もう一度やり直してください。他のアプリケーションがトランザクションを完了すると、ログ・スペースが解放される場合があります。

もっと頻繁にコミット処理を行ってください。トランザクションがコミットされていない場合は、そのトランザクションがコミットされたときに、ログ・スペースが解放される場合があります。アプリケーションの設計時に、更新トランザクションのコミット時期を考慮して、ログがフルにならないようにしてください。

デッドロックが発生している場合は、より頻繁にチェックしてください。これは、データベース構成パラメーター DLCHKTIME を減らせば可能です。そうすれば、デッドロックを見つけることができ、すみやかにデッドロックを解決 (ROLLBACK を使って) して、ログ・スペースを解放することができます。

この状態が頻発する場合は、より大きなログ・ファイルを使用できるようにするために、データベース構成パラメーターを増やしてください。より大きなログ・ファイルは容量を必要としますが、アプリケーションの再試行を減少させます。より大きなログ・ファイルは、より多くのスペースを必要としますが、再処理を行うためのアプリケーションの実行を減少させます。調整が必要になる可能性のあるトランザクション構成パラメーターは、LOGFILSIZ、LOGPRIMARY、LOGSECOND です。トランザクション・ログについての詳細は、DB2 インフォメーション・センターで、「トランザクション・ログ」などの語句を使用して検索してください。

サンプル・データベースをインストールしている場合

は、それをドロップしてサンプル・データベースを再インストールしてください。

可能な LSN 値のほぼすべてをデータベースが使用済みであるためにこのメッセージが返された場合は、以下のステップを実行することによって LSN 値をゼロにリセットできます。

1. データベースからすべてのデータをアンロードする
2. データベースをドロップして再作成する
3. すべてのデータをロードする

sqlcode: -964

sqlstate: 57011

SQL0965W このワークステーションのメッセージ・ファイルには、SQL 警告 *SQLCODE* に対応するメッセージ・テキストがありません。警告は、オリジナル・トークン *token-list* とともに、モジュール *name* から返されました。

説明: データベース・サーバーは、アプリケーションにコード *SQLCODE* を返しました。この警告コードは、このワークステーションの DB2 メッセージ・ファイルのメッセージに対応していません。

ユーザーの処置: 指定された *SQLCODE* についての詳細は、データベース・サーバーの資料を参照してください。

SQL0966N データベース接続サービス・ディレクトリに指定されたエラー・マッピング・ファイル *name* が見つからないか、またはオープンできません。

説明: 以下に示す条件の 1 つが成立しています。

- エラー・マッピング・ファイルが存在しません。
- エラー・マッピング・ファイルが、現在他のアプリケーションによってオープンされています。
- エラー・マッピング・ファイルが指定したパスに存在しません。
- エラー・マッピング・ファイルが壊れています。

エラー・マッピング・データは検索されませんでした。

ユーザーの処置: ファイルをオープンしているアプリケーションからファイルを解放するか、またはオリジナル・ファイルを再インストールまたはリストアしてください。

sqlcode: -966

sqlstate: 57013

SQL0967N データベース接続サービス・ディレクトリに指定されたエラー・マッピング・ファイル *name* のフォーマットが無効です。

説明: プログラムがエラー・マッピング・ファイルの読み取りを行っていたときに、エラーが発生しました。

エラー・マッピング・データは検索されませんでした。

ユーザーの処置: エラー・マッピング・ファイルのすべての構文エラーを訂正してください。

sqlcode: -967

sqlstate: 55031

SQL0968C ファイル・システムがいっぱいです。

説明: データベースを持っているファイル・システムのいずれかがいっぱいです。このファイル・システムには、データベース・ディレクトリ、データベース・ログ・ファイル、または表スペース・コンテナが入っている可能性があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 不要なファイルを消去して、システム・スペースに空きを作ってください。データベース・ファイルは消去しないでください。さらにスペースが必要な場合は、不要な表および索引のドロップが必要になる場合があります。

unix ベース・システムでは、カレント・ユーザー ID に許可されている最大ファイル・サイズを超えたために、このディスク・フル状態になる場合があります。 *chuser* コマンドを使用して、*fsize* を更新してください。リブートが必要になる場合があります。

コンテナのサイズ変化により、ディスクがフルになった可能性があります。ファイル・システムに十分なスペースがある場合は、表スペースをドロップしてコンテナを同じサイズで再作成してください。

処理できないステートメントが LOB データ・タイプを参照した場合:

- アプリケーションで使用されたカーソルが使用の直後にクローズされることを確認します。
- アプリケーション内で、COMMIT ステートメントが定期的に行われることを確認します。
- このステートメントの実行中に一時 LOB データを保持するためのコンテナをシステム一時表スペースにさらに追加します。

sqlcode: -968

sqlstate: 57011

SQL0969N このワークステーションのメッセージ・ファイルには、SQL エラー *error* に対応するメッセージ・テキストがありません。エラーは、オリジナル・トークン *token-list* とともに、モジュール *name* から返されました。

説明: このデータベース・サーバーは、ご使用のアプリケーションに SQLCODE *error* を戻しました。このエラー・コードは、このワークステーション上の DB2 メッセージ・ファイルのメッセージに対応していません。

ユーザーの処置: 指定された SQLCODE については、データベース・サーバーの資料を参照してください。データベース・サーバーの資料にある指定されたアクションを行い、この問題を修正してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 問題を切り分けて要求失敗の原因となったデータ・ソースを突き止めてください。データ・ソースのマニュアルで *error* を探してください。問題がデータに依存する場合は、エラー発生時にデータ・ソースで処理されていたデータを調べることが必要になるかもしれません。

SQL0970N システムが、読み取り専用ファイルへの書き込みを試みました。

説明: データベースによって使用されているファイルが読み取り専用とマークされているか、または存在しません。このファイルに対し、データベースには書き込みアクセスが必要です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: このメッセージ (SQLCODE) を受け取ったアプリケーションを終了してください。すべてのデータベース・ファイルが、読み取りと書き込みの両方のアクセスを許されていることを確認してください。指定されたファイル名に必要なないブランク・スペースがないかどうか調べてください。

sqlcode: -970

sqlstate: 55009

SQL0972N データベースのドライブに、正しいディスクケットが入っていません。

説明: ドライブ内のディスクケットが、データベース・ディスクケットではありません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 必要なディスクケットをドライブに挿入してください。そのドライブに存在するデータベースを使用するアプリケーションを始動した場合は、そのディスクケットを取り除かないでください。

sqlcode: -972

sqlstate: 57019

SQL0973N ステートメントの処理に使用できる十分なストレージが、*heap-name* ヒープまたはスタックにありません。

説明: このヒープの使用可能メモリーをすべて使いきってしまいました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: このメッセージ (SQLCODE) を受け取ったアプリケーションを終了してください。

heap-name 構成パラメーターを修正して、ヒープ・サイズまたはスタック・サイズを大きくしてください。

heap-name 構成パラメーターが AUTOMATIC に設定される場合、APPL_MEMORY データベース構成設定、DATABASE_MEMORY データベース構成設定、または INSTANCE_MEMORY データベース・マネージャー構成設定を増やす必要があります。そうでない場合、*heap-name* 構成パラメーター値を変更して、ヒープ・サイズを大きくしてください。

DATABASE_MEMORY データベース構成パラメーターを変更する場合:

- パラメーターを AUTOMATIC に設定すると、データベース・マネージャーにデータベース・メモリーを管理するように自動的に通知されます。
- パラメーターが現在ユーザー定義の数値に設定されている場合、値を 256 ページずつ大きくすると、問題が解決するはずです。

アプリケーション共有ヒープ・サイズの場合、APPL_MEMORY データベース構成設定、または INSTANCE_MEMORY データベース・マネージャー構成設定を増やす必要があります。

構成パラメーターを更新する場合、エラー条件が解決されるまで、一度に現行サイズの 10% ずつ構成パラメーターを変更することが推奨されています。

例えば、*heap-name* が UTIL_HEAP_SZ であり、データベース名が TORDB1 である場合、このデータベース構成パラメーターを 10000 に更新するには、以下のコマンドを発行してください。

```
db2 update db cfg
for TORDB1
using UTIL_HEAP_SZ 10000
```

データベース構成パラメーターのリストを表示するには、GET DATABASE CONFIGURATION コマンドを使用してください。

データベース・マネージャー構成パラメーター、つまり MON_HEAP_SZ を新規のサイズ 100 に更新するには、次のコマンドを発行します。

```
db2 update dbm cfg
using MON_HEAP_SZ 100
```

データベース・マネージャー構成パラメーターのリストを表示するには、GET DATABASE MANAGER CONFIGURATION コマンドを使用してください。

関連したすべての構成パラメーターが AUTOMATIC または COMPUTED に設定された場合、インスタンスのメモリー要求はマシンに構成されているメモリーの容量を超過します。可能な解決方法には、データベース・ワークロードの削減、接続コンセントレーター・フィーチャーの使用可能化、マシンへのメモリー追加などがあります。

sqlcode: -973

sqlstate: 57011

SQL0974N データベースの入っているドライブが、ロックされています。

説明: データベースの入ったドライブがロックされていることを、システムが報告しました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ドライブをロックできる他の処理 (たとえば、CHKDSK) が、システムで実行されていないことを確認してください。操作を再試行してください。

サンプル・データベースをインストールしている場合は、それをドロップしてサンプル・データベースを再インストールしてください。

sqlcode: -974

sqlstate: 57020

SQL0975N データベースまたはインスタンス *name* がユーザー *username* によって静止されているため、新しいトランザクションを開始できませんでした。静止タイプ: *type*

説明: 使用しようとしていたインスタンスまたはデータベースは他のユーザーによって静止されており、このインスタンスまたはデータベースが静止状態でなくなるまで、新規トランザクションは許可されません。

静止タイプ *type* は、すでに静止されているインスタンスまたはデータベースを参照しています。'1' がインスタンスで、'2' がデータベースです。

ユーザーの処置: 現在インスタンスまたはデータベースを静止しているユーザーに連絡して、DB2 が静止から

解放される時期を尋ね、解放されたときに要求を再試行してください。

sqlcode: -975

sqlstate: 57046

SQL0976N 指定された入出力装置の準備ができていません。

説明: 入出力装置またはメディアは入出力コマンドを受け入れる準備ができていません。

ステートメントは処理できません。

ユーザー応答:

入出力装置またはメディアの準備ができていないことを確認し、操作を再試行してください。

ユーザーの処置: **sqlcode:** -976

sqlstate: 57021

SQL0977N COMMIT 状態が不明です。

説明: *tm_database* が、COMMIT 処理中に使用できなくなったため、COMMIT の結果が不明になりました。データベースの再同期化が、*tm_database* が使用できるようになったときに発生します。再同期化中に、トランザクションがロールバックされる場合があることに注意してください。これ以降の SQL ステートメントの実行は安全に行われますが、ロックは、再同期処理が完了するまで保持されます。

ユーザーの処置: たとえば、CLP を使用して、*tm_database* に対する接続が可能なことを確認してください。接続できない場合は、返された SQLCODE に必要なアクションにしたがって、接続が確立できることを確認してください。

sqlcode: -977

sqlstate: 40003

SQL0978N ストレージ・メディアが書き込み保護になっています。

説明: 書き込み操作がデータベースに対して試みられましたが、データベースのストレージ・メディアが書き込み保護になっています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 正しいストレージ・メディアを使用していることを確認してください。必要に応じて、ストレージ・メディアから書き込み保護を取り除いてください。

sqlcode: -978

sqlstate: 55009

SQL0979N NONE の SYNCPOINT で実行中のアプリケーション処理の COMMIT が、num データベースに対して失敗しました。失敗には、alias/SQLSTATE1、alias/SQLSTATE2、alias/SQLSTATE3、alias/SQLSTATE4 というデータベース別名と SQLSTATE の対 (最大 4 つまで返されます) が含まれます。

説明: アプリケーションが複数のデータベースに接続されており、COMMIT が発行されましたが、それらの接続の 1 つ以上に対して失敗しました。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 失敗した接続が、ニックネームが使用されているフェデレーテッド・サーバー・データベースである場合、ニックネームに必要なデータ・ソースに対するコミットが失敗します。

ユーザーの処置: 更新されるアプリケーションとデータの性質に応じて、アプリケーションが意図した変更が、すべてのデータベースにわたって整合性を持って反映されていることを確認するために、これ以上の処理の中止、失敗のログへの記録、および適切な SQL の発行が必要になる可能性があります。

COMMIT エラーによって影響を受けるデータベースの全リストが返されない場合は、全リストの診断ログを参照してください。

sqlcode: -979

sqlstate: 40003

SQL0980C ディスク・エラーが発生しました。後続の SQL ステートメントは処理されません。

説明: 現在および後続の SQL ステートメントの正常な実行を妨げるディスク・エラーが発生しました。アプリケーション・プログラムは、これ以上 SQL ステートメントを発行できません。たとえば、アプリケーション処理に関連するリカバリー・ルーチンは、追加の SQL ステートメントを発行できません。データベースにはリカバリーが必要であるというマークが付けられ、このデータベースを使用しているすべてのアプリケーションは、このデータベースにアクセスできなくなります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 可能であれば、SQLCA からすべてのエラー情報を記録してください。データベースを使用しているすべてのアプリケーションを終了してください。エラーがハードウェア・エラーかどうかを判断してください。データベースを再始動してください。リカバリーが不可能な場合には、バックアップ・コピーからデータ

ベースをリストアしてください。

サンプル・データベースをインストールしている場合は、それをドロップしてサンプル・データベースを再インストールしてください。

sqlcode: -980

sqlstate: 58005

SQL0982N ディスク・エラーが発生しました。ただし、後続の SQL ステートメントは処理できます。

説明: 一時システム・ファイルの処理中に、現在の SQL ステートメントの正常な実行を妨げるディスク・エラーが発生しました。ただし、後続の SQL ステートメントは処理できます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: このメッセージ (SQLCODE) を受け取ったアプリケーションを終了してください。

sqlcode: -982

sqlstate: 58004

SQL0983N このトランザクション・ログは、現在のデータベースにはありません。

説明: ログ・ファイルに格納されているシグニチャーが、データベースの従属シグニチャーと一致しません。通常このエラーは、データベースが格納されているディレクトリーとは異なるディレクトリーに格納されているログ・ファイルを指定したときに発生します。ファイルのリダイレクトが行われた可能性があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ログ・ファイルに対する適切なアクセスを持つコマンドを再サブミットしてください。

sqlcode: -983

sqlstate: 57036

SQL0984C COMMIT または ROLLBACK が失敗しました。後続の SQL ステートメントは処理されません。

説明: システム・エラーのために、コミットまたはロールバック処理が正常に処理できませんでした。アプリケーション・プログラムは、これ以上 SQL ステートメントを発行できません。たとえば、アプリケーション処理に関連するリカバリー・ルーチンは、追加の SQL ステートメントを発行しない可能性があります。データベースにはリカバリーが必要であるというマークが付けられ、このデータベースを使用しているすべてのアプリケ

ーションは、このデータベースにアクセスできなくなります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: メッセージ番号 (SQLCODE)、および可能であれば、すべての SQLCA エラー情報を記録してください。データベースを使用しているすべてのアプリケーションを終了してください。データベースを再始動してください。サンプル・データベースをインストールしている場合は、それをドロップしてサンプル・データベースを再インストールしてください。

リカバリーが不可能な場合には、バックアップ・コピーからデータベースをリストアしてください。

トレースがアクティブな場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトから、独立トレース機能呼び出ししてください。技術サービス担当者に以下の情報を報告してください。

必須情報:

- 問題の説明
- SQLCODE
- SQLCA の内容 (ある場合)
- トレース・ファイル (可能であれば)

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 問題を切り分けて要求失敗の原因となったデータ・ソースを突き止め、そのデータ・ソースで必要な診断手順およびデータベース・リカバリー手順を実行してください。データ・ソースの問題判別手順とデータベース・リカバリー手順はそれぞれ違うので、該当するデータ・ソース・リファレンスのマニュアルを参照してください。

sqlcode: -984

sqlstate: 58005

SQL0985C データベース・カタログの処理中に、ファイル・エラーが発生しました。データベースは使用できません。

説明: システムが、カタログ・ファイル入出力エラーをリカバリーできません。

システムは、データベースを使用するステートメントを処理できません。

ユーザーの処置: バックアップ・コピーからデータベースをリストアしてください。

サンプル・データベースをインストールしている場合は、それをドロップしてサンプル・データベースを再インストールしてください。

sqlcode: -985

sqlstate: 58005

SQL0986N ユーザーの表の処理中に、ファイル・エラーが発生しました。表は使用できません。

説明: 表のデータは有効ではありません。

システムは、表を使用するステートメントを処理できません。

ユーザーの処置: データベースに不整合がある場合は、バックアップ・バージョンからデータベースをリストアしてください。

サンプル・データベースをインストールしている場合は、それをドロップしてサンプル・データベースを再インストールしてください。

sqlcode: -986

sqlstate: 58004

SQL0987C アプリケーション・コントロール共有メモリーのセットの割り振りができません。

説明: アプリケーション・コントロール共有メモリーのセットの割り振りができません。このエラーは、操作の試行をしているデータベース・マネージャーまたは環境のいずれかに十分なメモリー・リソースがないため発生します。この問題の原因となるメモリー・リソースには、以下が含まれます。

- システムに割り振られている共有メモリー ID の数
- システムで使用できるページングまたはスワッピング・スペースの量。
- システムで使用できる物理メモリーの量。

ユーザーの処置: 以下の中から 1 つ以上を行ってください。

- データベース・マネージャー要件およびシステムで実行中の他のプログラムの要件を満たすだけの十分なメモリー・リソースが使用できることを確認してください。
- 影響を与えるデータベース構成パラメーター `app_ctl_heap_sz` を削減して、このメモリー・セットのデータベース・マネージャー・メモリー所要量を削減してください。
- データベース構成パラメーター `dbheap`、`util_heap_sz`、および `buffpage` のうちの 1 つ以上を小さくしてください。割り振られたデータベース・グローバル・メモリーの量に影響するパラメーターについては、「管理ガイド」を参照してください。

SQL0989N

- `intra_parallel` が `yes` に設定されている場合、データベース・マネージャーの構成パラメーター `sheapthres` を小さくし、そうでなければ `intra_parallel` を `no` に設定してください。
- 該当する場合は、システムを使用している他のプログラムを停止してください。

sqlcode: -987

sqlstate: 57011

SQL0989N AFTER トリガー *trigger-name* が FROM 節内の SQL データ変更ステートメントにより修正される表 *table-name* の行の修正を試行しました。

説明: SQL データ変更ステートメントが FROM 節に指定されましたが、SQL データ変更ステートメントのターゲット基本表と同じ表を修正する AFTER トリガーが含まれています。これは許可されません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: FROM 節内の SQL データ変更ステートメントの使用を回避するか、または SQL データ変更ステートメントのターゲットである表を修正しないようにトリガーを変更してください。

sqlcode: -989

sqlstate: 560C3

SQL0990C 索引エラーが発生しました。表を再編成してください。

説明: 索引に対するアクティビティーが激しく、索引用のすべてのフリー・スペースを使いきました。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: この状態はデータ・ソースによっても検出できます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 行った作業をコミットして、コマンドを再発行してください。エラーが続く場合は、作業をロールバックしてください。さらにエラーが続く場合は、可能であれば、表を再編成してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 問題を切り分けて要求失敗の原因となったデータ・ソースを突き止め、そのデータ・ソースの索引再作成手順に従ってください。

SQL0992C プリコンパイルされたプログラムのリリース番号が無効です。

説明: プリコンパイルされたプログラム (パッケージ) のリリース番号に、インストールされているバージョンのデータベース・マネージャーのリリース番号との互換性がありません。

プリコンパイルされたプログラム (package) は、現行バージョンのデータベース・マネージャーでは使用できません。コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 互換リリース・レベルのデータベース・マネージャーでプリコンパイルされたプログラムのみを使用してください。

sqlcode: -992

sqlstate: 51008

SQL0993W データベース構成ファイルのログへの新しいパス (`newlogpath`) が無効です。

説明: ログ・ファイルへのパスが、以下のいずれかの理由により無効です。

- パスが存在しません。
- 正しい名前のファイルが指定されたパスに見つかりましたが、このデータベースのログ・ファイルではありませんでした。
- データベース・マネージャーのインスタンス ID が、パスまたはログ・ファイルへのアクセスを許可されていません。

要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: ログ・ファイルへのパスを変更するには、有効な値を持つデータベース構成コマンドをサブミットしてください。

sqlcode: +993

sqlstate: 01562

SQL0994N アプリケーションのセーブポイントの使い方が無効です。

説明: アプリケーション・セーブポイント関数の使用方法に矛盾があります。プログラムが、以下のいずれかを実行しようとした。

- 複数のアクティブ・セーブポイントの要求。
- アクティブ・セーブポイントのない終了セーブポイント呼び出しの発行。
- アクティブなセーブポイントのないロールバック・セーブポイント呼び出しの発行。

関数は処理されません。

ユーザーの処置: プログラムのセーブポイントの使い方を訂正してください。

SQL0995W ログ・ファイルへの現行パス (logpath) が無効です。ログ・ファイル・パスはデフォルトにリセットされました。

説明: ログ・ファイルへのパスが、以下のいずれかの理由により無効です。

- パスが存在しません。
- 正しい名前のファイルが指定されたパスに見つかりましたが、このデータベースのログ・ファイルではありませんでした。
- データベース・マネージャーのインスタンス ID が、パスまたはログ・ファイルへのアクセスを許可されていません。

循環ロギングの場合は、ログ・ファイルがデフォルト・ログ・パスに作成されます。アーカイブ・ログの場合は、次のログ・ファイルがデフォルト・ログ・パスに作成されます。要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: ログ・ファイルへのパスを変更するには、有効な値を持つ構成コマンドをサブミットしてください。

sqlcode: +995

sqlstate: 01563

SQL0996N 表スペースのオブジェクト用のページを解放できません。

説明: 表スペース内に壊れた内部データベース・ページ、または内部論理エラーがあります。

ユーザーの処置: オブジェクトまたは表スペースの使用を続けしないでください。オブジェクトおよび表スペースを調べるために、IBM サービスに連絡してください。

sqlcode: -996

sqlstate: 58035

SQL0997W トランザクション処理に関する一般情報メッセージです。理由コード = *XA-reason-code*

説明: SQLCODE 997 は、データベース・マネージャーのコンポーネント間でのみ渡され、アプリケーションへは戻されません。エラー以外の状況については、XA 戻りコードを伝達するために使用されます。理由コードには、以下のものがあります。

- XA_RDONLY (3) - トランザクション・ブランチが読み取り専用で、コミットされています。

- 64 - TM データベースが、DUOW 再同期でトランザクションがコミットされる必要があることを示しています。

- 65 - TM データベースが、DUOW 再同期でトランザクションがロールバックされる必要があることを示しています。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL0998N トランザクションまたはヒューリスティック処理中に、エラーが発生しました。理由コード = *reason-code*。サブコード = *subcode*。

説明: 分散トランザクションを処理している時にエラーが検出されました。トランザクションは以下のとおりです。

- 分散トランザクション処理環境での処理 (たとえば、CICS やその他のトランザクション・マネージャーからのもの)。
- ヒューリスティック操作の実行。
- フェデレーテッド・データベース内の複数のニックネームの更新。それぞれの更新されたニックネームが異なるデータ・ソースを表します。上記の場合、データ・ソースの 1 つがトランザクション処理中に失敗しました。この場合、返された理由コードは、フェデレーテッド・データベースではなくデータ・ソースでの障害の理由です。

可能性のある理由コード (対応する X/Open XA 理由コードが括弧内に示されます) は、以下のとおりです。

- 01 - (XAER_ASYNC) 非同期処理がすでに未解決です。
- 02 - (XAER_RMERR) トランザクション・ブランチで、リソース・マネージャーが発生しました。
- 03 - (XAER_NOTA) XID が無効です。
- 04 - (XAER_INVALID) 無効な引数が与えられました。可能性のあるサブコードは、以下のとおりです。
 - 01 - xa_info ポインタが無効です。(たとえば、XAOpen スtringが null です)
 - 02 - データベース名が最大長を超えました。
 - 03 - ユーザー名が最大長を超えました。
 - 04 - パスワードが最大長を超えました。
 - 05 - ユーザー名は指定されていますが、パスワードがありません。
 - 06 - パスワードは指定されていますが、ユーザー名がありません。
 - 07 - xa_info スtringにパラメーターが多すぎます。

- 08 - 複数の xa_opens が、同じデータベース名に対してさまざまな RM ID を生成しました。
- 09 - データベース名が指定されていません。
- 10 - exe_type が無効です。
- 11 - Sybase LRM 名が xa_config ファイル内にないか、または xa_config ファイルが存在していません。
- 05 - (XAER_PROTO) ルーチンが不適切なコンテキストで呼び出されました。
- 06 - (XAER_RMFAIL) リソース・マネージャーを使用できません。
- 07 - (XAER_DUPID) XID がすでに存在します。
- 08 - (XAER_OUTSIDE) RM がグローバル・トランザクション以外で作業中です。
- 09 - トランザクション・マネージャーの登録 (ax_reg) が失敗しました。可能性のあるサブコードは、以下のとおりです。
 - 01 - 結合 XID が見つかりませんでした。
 - 02 - tp_mon_name 構成パラメーターに指定された動的ライブラリーが、ロードできませんでした。
- 10 - 中断中に、別のトランザクションを開始しようとしてしました。
- 12 - トランザクション・マネージャーの登録解除 (ax_unreg) が失敗しました。
- 13 - ax インターフェース障害: ax_reg() および ax_unreg() が見つかりません。
- 14 - Microsoft 配布の Transaction Coordinator を使用した DB2 への参加は失敗しました。MSDTC サービスがダウンしている可能性があります。現在のトランザクションを終了する必要があります。
- 15 - トランザクションは存在しません。
- 16 - Microsoft 分散トランザクション コーディネーター (MSDTC) で障害が発生しました。可能性のあるサブコードは、以下のとおりです。
 - 01 - DB2 が MSDTC と通信できません。
 - 02 - MSDTC が DB2 接続を登録できません。サブコードは Microsoft のエラー・コードを表しています。
 - 03 - MSDTC は、DB2 接続を分散トランザクションに参加させることができません。サブコードは Microsoft のエラー・コードを表しています。
 - 04 - アクティブなトランザクションが存在するため、DB2 接続に参加させることができません。
 - 05 - トランザクションが存在しません。接続に参加させることができませんでした。
- 35 - 非 XA データベースに対するヒューリスティック操作は無効です。
- 36 - XID がデータベース・マネージャーに認識されていません。
- 37 - トランザクションは、すでにヒューリスティックにコミットされています。
- 38 - トランザクションは、すでにヒューリスティックにロールバックされています。
- 39 - トランザクションが未確定トランザクションではありません。
- 40 - このトランザクションには、ロールバックのみが許されています。
- 41 - ノード障害のため、トランザクションは MPP 従属ノードでヒューリスティックにコミットされません。
- 42 - DB2 Connect XA サポートは、TCP/IP を使用して確立したアウトバウンド接続にのみ使用できます。
- 43 - サーバーがネイティブ XA をサポートしないため、接続を確立できません。
- 69 - DUOW 再同期化中にデータベース・ログ ID の不一致が発生しました。
- 85 - ヒューリスティック処理の結果、トランザクションは部分的にコミットされ、ロールバックされました。
- 210 - このトランザクションでは、ヒューリスティック・コミットのみが許可されています。ノードの中にはすでにコミット状態のものがあります。
- 221 - ホスト上の DBMS のバージョンでは、同じ XA トランザクションに関係するアプリケーションがすべて、データベースに接続するために同じユーザー ID を使用しなければなりません。
- 222 - ホスト上の DBMS のバージョンでは、同じ XA トランザクションに関係するアプリケーションがすべて、同じ CCSID を持っていなければなりません。
- 223 - DB2 Connect XA サポートは、ローカル・クライアントに、またはインバウンド接続を設定するために TCPIP を使用しているリモート・クライアントにのみ使用できます。
- 224 - DB2 Connect XA サポートは、少なくともバージョン 7.1 のクライアントにのみ使用できます。
- 225 - 操作は XA 疎結合トランザクションでは無効です。可能性のあるサブコードは、以下のとおりです。
 - 01 - DDL ステートメントは許可されません。
 - 02 - WHERE CURRENT OF 節を指定した更新または削除は許可されません。
 - 03 - バッファの挿入操作は許可されません。

- 04 - このトランザクションには、ロールバックのみが許されています。
- 05 - 暗黙的な再バインド操作は許可されません。
- 226 - トランザクションは、すでにロールバックされています。
- 227 - コーディネーター・ノードでヒューリスティック要求を実行してください。
- 228 - オープン・カーソルがあります。
- 229 - 直前のトランザクションが完了していません。
- 230 - トランザクションがすでにコミットされました。

ユーザーの処置: 理由コード 1 から 8 については、SQLCA が呼び出し元に戻されない場合があるので、システム・ログに項目が作成されます。

エラーの原因が、ニックネームに関連する、障害が発生したデータ・ソースである場合は、障害が発生したデータ・ソースのロケーションは必ずフェデレーテッド・サーバーのシステム・ログに表示されます。

理由コード 4 については、xa open スtringの内容を調べて、必要な修正を行ってください。

理由コード 4、サブコード 11 の場合、xa_config ファイルが \$SYBASE/\$SYBASE_OCS ディレクトリー内に存在しており、NODE サーバー・オプションとして指定されている LRM 名がファイル内に存在していることを確認してください。

理由コード 9、サブコード 02 については、tp_mon_name 構成パラメーターに、トランザクションの動的登録に使用される ax_reg() 関数を持つ外部製品の動的ライブラリーの名前が入っていることを確認してください。

理由コード 14 については、MSDTC サービスがアクティブであることを確認してください。

理由コード 15 については、このエラーは MSDTC トランザクションのタイムアウト値が小さすぎる場合に発生することがあります。タイムアウトの値をもっと大きくして、エラーが引き続き発生するかどうかを調べてください。

理由コード 16 の場合:

- サブコードが 01 なら、MSDTC サービスがアクティブであることを確認してください。
- サブコードが 02 なら、MSDTC は接続を登録できませんでした。詳しくは、db2diag ログ・ファイルまたは Windows の「イベント ビューア」で MicrosoftXARMCreat というタイトルの項目を調べてください。
- サブコードが 03 なら、MSDTC は接続をトランザクションに参加させることができませんでした。詳しく

は、db2diag ログ・ファイルまたは Windows の「イベント ビューア」で MicrosoftEnglishWithRM というタイトルの項目を調べてください。よくあるエラーとして、現在のトランザクションが明示的にまたは暗黙的にロールバックしたことがあります。これは、MSDTC トランザクションのタイムアウトの設定が低すぎる場合に発生することがあります。タイムアウトの値をもっと大きくして、エラーが引き続き発生するかどうかを調べてください。

- サブコードが 04 なら、別の分散トランザクションで現在アクティブである DB2 接続を参加させようとしてしました。
- サブコードが 05 なら、SQL ステートメントを発行する前に接続を参加させてください。

理由コード 35 については、グローバル・トランザクションの読み取り専用リソース・マネージャーとしてのみ関連するデータベースに対して、ヒューリスティックな操作の実行が試みられました。例は MVS 上の DB2 などの DRDA データベースです。これらのタイプの非 XA データベースは、XA 未確定トランザクションを持つことができません。

理由コード 36、37、38 については、未確定トランザクションで無効なヒューリスティック操作の実行が試みられました。間違った XID を指定したか、あるいはこの XID が記録された後でヒューリスティック処理または再同期処理が実行された可能性があります。まだヒューリスティック処理を実行する必要があるかどうかを確認するには、ヒューリスティック照会要求を実行して、未確定トランザクションの現在のリストを入手してください。

理由コード 39 の場合、2 フェーズ・コミットが始まるのを待っている終了済みトランザクションに対して、XID が指定されました。2 フェーズ・コミット処理が開始され、未確定トランザクションとなったトランザクションにのみ、ヒューリスティック処理を実行できません。

理由コード 40 については、失敗したトランザクションの下で、SQL ステートメントが試みられました。これの例は、トランザクションに関連する密結合スレッドが異常終了した後で、正常に登録されている同じトランザクション・スレッドで SQL ステートメントを試みることです。

理由コード 41 の場合、管理通知ログでこの問題に関する詳細情報を調べてください。失敗したノードで、DB2 を再始動する必要があります。システム管理者に連絡して援助を求める必要がある場合があります。

理由コード 42 の場合、ゲートウェイ・カタログを変更して TCP/IP 通信プロトコルを使用できるようにすると、アウトバウンド接続を確立できます。

理由コード 43 については、System z または System i サーバー上で DB2 に接続する場合、DB2 Connect を使用してデータベースをカタログし、同期点マネージャーを開始してください。

理由コード 69 については、トランザクション・マネージャー (TM) データベース、リソース・マネージャー (RM) データベース、またはその両方が、未確定トランザクションが発生したときのデータベースとは異なります。換言すれば、TM データベースまたは RM データベースの名前は異なるデータベースのインスタンスを参照することができます。ログ ID 不一致は、以下の理由によって発生する可能性があります。

- RM インスタンスでの TM データベースのデータベース・ディレクトリーが正しくありません。
- 未確定トランザクションが発生した後で、構成が変更された可能性があります。
- データベースがドロップされて、再作成された可能性があります。この場合は、ヒューリスティックに未確定トランザクションをコミットまたはロールバックすることしかできません。

理由コード 85 の場合、ユーザーが複数のデータ・ソースを更新中に、いくつかのデータ・ソースがヒューリスティックにロールバック、またはコミットされ、その結果、トランザクションは部分的にコミットされ、ロールバックされます。この理由コードでは、データは矛盾した状態です。トランザクションで更新されたデータ・ソースをすべて手動でチェックし、データを訂正する必要があります。

理由コード 210 の場合、すでにコミット状態であるノードがあります。未確定トランザクションを解決するには、ヒューリスティック・コミットを実行する必要があります。

理由コード 221 の場合、同じ XA トランザクションに関係するアプリケーションがすべて、データベースに接続するために同じユーザー ID を使用していることを確認してください。

理由コード 222 の場合、同じ XA トランザクションに関係するアプリケーションがすべて、同じ CCSID を持っていることを確認してください。

理由コード 223 の場合、ローカル・クライアントを使用するよう、またリモート・クライアントについては、ゲートウェイに接続するために通信プロトコルとして

TCPIP を使用するようアプリケーションおよびクライアント・セットアップを変更してください。

理由コード 224 の場合、クライアントを 7.1 またはそれ以降のバージョンに更新してください。

理由コード 225 の場合、アプリケーションに XA 疎結合トランザクションで無効な操作が含まれていないことを確認してください。XA 疎結合トランザクションを使用できる共通アプリケーション・サーバー環境は、IBM Encina Transaction Server、IBM WebSphere Application Server、Microsoft Transaction Server、および BEA Tuxedo です。この理由コードが検出された場合は、使用するアプリケーションを検討し、示されたいずれのアクションも実行されていないことを確認してください。

理由コード 226 の場合、トランザクションがロールバック状態に到達し、このノード上でロールバックをしています。

理由コード 227 の場合、コーディネーター・ノード上でヒューリスティック要求を実行して、db2diag ログ・ファイルでコーディネーター・ノード番号を確認してください。

理由コード 228 の場合、この要求を出す前に、カーソルがクローズしていることを確認してください。

理由コード 229 の場合、この要求を出す前に、トランザクションが完了していることを確認してください。

理由コード 230 の場合、トランザクションはすでにコミットされています。

一般情報を収集する手順は、以下のとおりです。

理由コードで識別された問題が解決できない場合は、メッセージ番号 (SQLCODE)、理由コード、およびメッセージのオプションのサブコードまたはシステム・ログ内の SQLCA を記録してください。

障害の原因がフェデレーテッド・データベースである場合、フェデレーテッド・サーバーのシステム・ログで見つかる、障害が発生したデータ・ソースのロケーションも記録する必要があります。

トレースがアクティブな場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトから、独立トレース機能呼び出ししてください。その後で、技術サービス担当者に以下の情報を知らせてください。

- 問題の説明
- SQLCODE、組み込み理由コード、そしてサブコード
- SQLCA の内容 (可能であれば)

- トレース・ファイル (可能であれば)
- 障害がフェデレーテッド・サーバーで発生している場合、障害が発生したデータ・ソースのロケーション

コンソール、あるいはトランザクション・マネージャーおよびデータベース・マネージャーのメッセージ・ログにも、追加情報がある可能性があります。

sqlcode: -998

sqlstate: 58005

第 3 章 SQL1000 - SQL1499

SQL1000N *alias* は、有効なデータベース別名ではありません。

説明: コマンドまたは *api* に指定された別名が、有効ではありません。別名は、1 から 8 文字 (MBCS を使用している国ではバイト) でなければならず、すべての文字を、データベース・マネージャーの基本文字セットから使用する必要があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 正しい別名を指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1001N *name* は、有効なデータベース名ではありません。

説明: コマンドに指定されたデータベース名の構文が無効です。データベース名は、1 から 8 文字でなければならず、すべての文字をデータベース・マネージャーの基本文字セットから使用する必要があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 正しいデータベース名を指定して、コマンドを再サブミットしてください。

sqlcode: -1001

sqlstate: 2E000

SQL1002N *drive* は、有効なドライブではありません。

説明: コマンドに指定されたドライブが無効です。ドライブは、データベースまたはデータベース・ディレクトリーが存在する、ディスケット・ドライブまたはハード・ディスク・パーティションを示す 1 文字 (A から Z) です。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 正しいドライブを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1003N 構文が正しくないためにパスワードが無効になっているか、またはパスワードが、指定されたデータベースのパスワードと一致しません。

説明: パスワードの長さは 18 文字以下です。ただし、パスワードが APPC 対話でチェックされる場合は、8 文字以下でなければなりません。

ユーザーの処置: パスワードが許容限界より長くないことを確認してください。

sqlcode: -1003

sqlstate: 28000

SQL1004C コマンドの処理に十分なストレージが、ファイル・システムにありません。

説明: コマンドを処理するには、指定されたファイル・システムのストレージが十分ではありません。

Windows 環境のパーティション・データベース環境では、パーティション・データベース・グループのノードにはそれぞれ、CREATE DATABASE コマンドを成功させるために使用できる (使用できるスペースが含まれている) まったく同一の物理ハード・ディスク指定 (文字) がある必要があります。物理ハード・ディスク名は、データベース・マネージャー構成で指定されます。DFTDBPATH がブランクのままの場合、デフォルトは DB2 がインスタンス所有マシン (db2 インストール・パス) にインストールされているハード・ディスクとなります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 別のファイル・システムを選択するか、またはデータベース・マネージャー関数にスペースを与えるために、指定したファイル・システムからデータベース・ファイル以外のいくつかのファイルを削除してください。

Windows 環境のパーティション・データベース環境では、次のステップに従ってください。

- どのハード・ディスク指定 (文字) が必要か決定する。ドライブ名は、エラー・メッセージで指定されています。
- データベース・パーティションのどのノードで問題が発生しているか判別する。多くの場合インスタンス所有ノードの db2diag ログ・ファイルで、この情報を見つけることができます。
- 問題が発生しているそれぞれのノードで、ドライブ上の問題を訂正するか、またはデータベース・マネージャー構成でのドライブ指定を変更して、パーティション・データベース・グループのノードごとに、同じドライブが使用できる (十分なスペースがある) ようにしてください。
- コマンドを再発行してください。

SQL1005N データベース別名 *name* は、すでにローカル・データベース・ディレクトリーまたはシステム・データベース・ディレクトリーのどちらかに存在しています。

説明: 指定された別名は、すでに使用されています。catalog database コマンドに別名を指定しないと、データベース名が別名として使用されます。データベースの作成時には、別名はデータベース名と同じになります。

このエラーは、すでにシステム・データベース・ディレクトリーに別名が存在するのに、catalog database コマンドを発行したために発生した可能性があります。

create database コマンドでこのエラーが発生した場合は、以下の可能性が考えられます。

- 別名が、すでにシステム・データベース・ディレクトリーおよびローカル・データベース・ディレクトリーに存在する。
- 別名が、すでにシステム・データベース・ディレクトリーに存在しますが、ローカル・データベース・ディレクトリーには存在しない。
- 別名が、すでにローカル・データベース・ディレクトリーに存在しますが、システム・データベース・ディレクトリーには存在しない。

ユーザーの処置: catalog database コマンドの場合は、システム・データベース・ディレクトリーから別名をアンカタログした後で、オリジナル・コマンドを再サブミットするか、または異なる別名でデータベースをカタログしてください。

create database コマンドの場合は、上記にリストされた3つの状況に対応する、以下の操作を行ってください。

- 別名を使用しているデータベースをドロップしてください。その後で、オリジナル・コマンドを再サブミットしてください。
- 別名をアンカタログしてください。その後で、オリジナル・コマンドを再サブミットしてください。
- 別名をシステム・データベース・ディレクトリーにカタログしてください。同じ別名を使用しているデータベースをドロップしてください。その後で、オリジナル・コマンドを再サブミットしてください。

SQL1006N アプリケーションのコード・ページ *code-page* が、データベースのコード・ページ *code-page* と一致していません。

説明: データベースのアクティブ・コード・ページが、作成時のアクティブ・コード・ページと異なっているため、アプリケーションがデータベースに接続できませんでした。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 現在のアプリケーション・プログラムを終了して、オペレーティング・システムに戻ってください。処理のコード・ページを変更して、アプリケーション・プログラムを再始動してください。

SQL1007N 表スペースのオブジェクト用のページの検索でエラーが発生しました。

説明: 表スペースの壊れた内部データベース・ページ、または内部ロジック・エラーが存在します。

ユーザーの処置: オブジェクトまたは表スペースの使用を続けしないでください。オブジェクトおよび表スペースを調べるために、IBM サービスに連絡してください。

sqlcode: -1007

sqlstate: 58034

SQL1008C 無効なストレージ・グループまたは表スペース ID です。

説明: 指定されたストレージ・グループまたは表スペース ID が存在しません。現在の最大ストレージ・グループまたは表スペース ID より大きいか、またはストレージ・グループまたは表スペースがドロップされています。

ユーザーの処置: データベースの使用を続けしないでください。エラー・ログの診断情報を保存して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

sqlcode: -1008

sqlstate: 58036

SQL1009N このコマンドは無効です。

説明: このコマンドは、クライアント専用ワークステーション上、またはリモート・データベースに対する発行ではサポートされていません。このようなコマンドの例は、ローカル・データベースのカタログです。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 可能な解決方法は、以下のとおりです。

- クライアント専用でないワークステーション、またはデータベースが常駐するワークステーション上で、指定したコマンドを発行してください。
- データベースが正しくカタログされていることを確認してください。
- 別のコマンドを発行してください。

SQL1010N *type* は無効なタイプ・パラメーターです。

説明: Database Environment コマンドに指定されたタイプが、有効ではありません。これは、間接データベースの場合は '0'、リモート・データベースの場合は '1' でなければなりません。

さらに、UNIX プラットフォームの場合は、DCE グローバル名を持つデータベースのタイプを '3' にすることができます。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なタイプを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1011N 間接項目に対する CATALOG DATABASE コマンドに、ドライブが指定されていません。

説明: CATALOG DATABASE コマンドが、間接項目に対して発行されましたが、パスが指定されていません。間接項目は、データベースが常駐するパスを指定する必要があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 必要なパスを指定してコマンドを再サブミットするか、またはタイプを変更してください。

SQL1012N リモート項目に対する CATALOG DATABASE コマンドにノード名が指定されていません。

説明: リモート項目に対する CATALOG DATABASE コマンドに、*nodename* パラメーターが指定されていません。リモート項目は、データベースのノード名を指定する必要があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: *nodename* パラメーターまたは別のタイプを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1013N データベース別名またはデータベース名 *name* が見つかりませんでした。

説明: コマンドに指定されたデータベース名または別名が既存のデータベースではないか、あるいはそのデータベースが (クライアントまたはサーバーの) データベース・ディレクトリーまたは db2dsdriver.cfg 構成ファイル内で見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 指定したデータベース名が、システム・データベース・ディレクトリーに存在することを確認してください。データベース名がシステム・データ

ベース・ディレクトリーに無い場合には、データベースが存在しないか、あるいはデータベース名がカタログされていないかのいずれかです。

データベース名がシステム・データベース・ディレクトリーに存在し、項目タイプが INDIRECT である場合には、そのデータベースが指定したローカル・データベース・ディレクトリーに存在することを確認してください。項目タイプが REMOTE の場合は、データベースが存在し、サーバーのデータベース・ディレクトリーにカタログされていることを確認してください。

AT DBPARTITIONNUM 節を使用した CREATE DATABASE の場合、データベース名が INDIRECT の項目タイプおよび -1 と同等ではないカタログ・データベース・パーティション番号を持ち、システム・データベース・ディレクトリーに存在することを確認してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 前述の対応に加えて、SYSCAT.SERVERS に指定されているデータベース名がすべて有効であるかどうかを確認します。SYSCAT.SERVERS 項目で指定されたデータベースが存在しない項目は訂正してください。

sqlcode: -1013

sqlstate: 42705

SQL1014W スキャン中のディレクトリー、ファイル、またはリストには、これ以上の項目はありません。

説明: ディレクトリー、ファイル、またはリストのスキャンは完了されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL1015N データベースが、不整合状態にあります。

説明: 不整合状態の考えられる原因は以下のとおりです。

- 前のセッションが異常終了 (たとえば、電源障害) したために、データベースがオフラインになっている。
- db2ckupgrade コマンドの発行時にエラーが検出された場合、
 - データベースがオンラインで SQL が発行されたため、データベース内のデータが変更された。
 - データベースがオンラインで HADR が有効になっている。

DB2 pureCluster 環境の場合のみ、以下の原因も考えられます。

- 前のセッションが異常終了したために、この DB2 メンバーのデータベースがオフラインになっている。

SQL1016N • SQL1017N

- 前のセッションが異常終了したために、DB2 pureCluster インスタンス全体でデータベースがオフラインになっている。
- インスタンスで追加またはドロップ操作が行われる場合に、リカバリー可能なデータベースが既にバックアップ・ペンディング状態になっている。データベースのバックアップが終了するまでは、追加およびドロップ操作は許可されません。

ユーザーの処置:

- 前のセッションが異常終了したためにデータベースがオフラインになっている場合、以下のアクションを実行して対応してください。
 1. RESTART DATABASE コマンドを使用してデータベースを再始動します。パーティション・データベース・サーバー環境では、このコマンドはすべてのデータベース・パーティションに対して発行されます。
- db2ckupgrade コマンドの発行時にこのエラーが発生した場合、以下のアクションを実行して対応してください。
 1. データベースのクリーン・シャットダウンを行います。
 2. シャットダウンの後、データベースで HADR が有効になっている場合、データベースに STOP HADR コマンドを発行します。
 3. db2ckupgrade コマンドを再発行してください。

DB2 pureCluster 環境の場合のみ:

- 前のセッションが異常終了したためにこの DB2 メンバーのデータベースがオフラインになっている場合、以下のアクションを実行して対応してください。

デフォルトでは、DB2 pureCluster 環境ではメンバー・クラッシュ・リカバリーが自動的に開始されるため、ユーザーのアクションは不要です。メンバー・クラッシュ・リカバリーが自動的に有効にならない場合、RESTART DATABASE コマンドを発行してこの DB2 メンバーでメンバー・クラッシュ・リカバリーを実行してください。

一部のデータベース操作は、あるメンバーが不整合状態でも、他の整合状態のメンバーで完了することができます。メンバー・クラッシュ・リカバリーの際にデータベースにアクセスするには、アクティブな DB2 メンバーに接続してください。この特定のメンバーにアクセスするには、メンバー・クラッシュ・リカバリーが完了するのを待ちます。

- 前のセッションが異常終了したために、DB2 pureCluster インスタンス全体でデータベースがオフラインになっている場合、リカバリーが完了するまでデータベースは使用できないことをユーザーに警告して

ください。次のステップは、グループ・クラッシュ・リカバリーが自動的に有効になるかどうかによって異なります。有効になる (デフォルト) 場合、ユーザー・アクションは不要です。グループ・クラッシュ・リカバリーの自動化が有効ではない場合、以下のアクションを実行して対応してください。

1. RESTART DATABASE コマンドを発行してグループ・クラッシュ・リカバリーを実行します。
2. リカバリーの完了後、未確定トランザクションのある他のメンバーでメンバー・クラッシュ・リカバリーを実行します。

- バックアップ・ペンディング状態にあるデータベースをバックアップしてから、追加またはドロップ操作を再サブミットします。

sqlcode: -1015

sqlstate: 55025

SQL1016N CATALOG NODE コマンドに指定された local_lu 別名 name が無効です。

説明: CATALOG NODE コマンドで指定されたローカル LU (local_lu) 別名は使用できません。ローカル LU 別名はローカル SNA LU 別名で、1 から 8 文字でなければならず、ブランク文字は使用できません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 別名が、可能な LU 名であることを確認してください。名前に使用されている文字を確認してください。有効な LU 名を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1017N CATALOG NODE コマンドで指定されたモード・パラメーター mode は無効です。

説明: CATALOG NODE コマンドで指定されている mode パラメーターは使用できません。

mode パラメーターが、コミュニケーション・マネージャーがセッションのセットアップに使用する通信プロファイルを識別しています。モードは 1 から 8 文字でなければなりません。有効な文字は大文字または小文字の A から Z、0 から 9、#、@、および \$ です。先頭の文字は英字でなければなりません。システムは小文字を大文字に変更します。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 名前が、可能なモード名であることを確認してください。名前に使用されている文字を確認してください。正しいモードを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1018N CATALOG NODE コマンドで指定されたノード名 *name* は、すでに存在していません。

説明: CATALOG NODE コマンドの *nodename* パラメーターに指定されているノード名は、すでにこのファイル・システムのノード・ディレクトリーにカタログされています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: *nodename* パラメーターが正しくタイプされている場合は、処理を継続してください。

ノードのカタログ情報が無効な場合は、ノード・ディレクトリーの中でカタログされているノードをアンカタログした後で、コマンドを再サブミットしてください。ノードのカタログ情報が有効な場合は、新しいノード名を定義して、それを使用してコマンドを再実行してください。

SQL1019N コマンドに指定されたノード名 *name* が無効です。

説明: コマンドに指定されたノード名が無効です。ノード名は 1 から 8 文字で、すべての文字はデータベース・マネージャーの基本文字セットから使用する必要があります。指定されたノード名を、ローカル・インスタンス名と同一名にすることはできません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: DB2INSTANCE 環境変数の値を表示して、ノード名がローカル・インスタンス名と同一名でないことを確認してください。UNIX オペレーティング・システムでは、次のコマンドを入力して DB2INSTANCE 環境変数を表示してください。

```
echo $DB2INSTANCE
```

Windows オペレーティング・システムでは、次のコマンドを入力して DB2INSTANCE 環境変数を表示してください。

```
echo %DB2INSTANCE%
```

正しいノード名を指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1020C ノード・ディレクトリーがいっぱいです。

説明: ノード・ディレクトリーには、これ以上項目がありません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ノード・ディレクトリー内の不要な項目をアンカタログしてください。

SQL1021N UNCATALOG NODE コマンドで指定されたノード名 *name* が、見つかりません。

説明: コマンドに指定された *nodename* が、ノード・ディレクトリーに見つかりませんでした。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: *nodename* パラメーターが正しい場合は、ノードがすでにアンカタログされている可能性があり、処理を継続することができます。その他の場合は、正しいノード名を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1022C コマンドの処理に使用できる、十分メモリーがありません。

説明: コマンドの処理に使用できるランダム・アクセス・メモリー (RAM) が不足しています。

リモート・プロシージャが呼び出された場合は、そのリモート・プロシージャが、許容最大値 (4K) より大きなローカル変数のスペースを使用する可能性があります。

ステートメントにユーザー定義関数 (UDF) が含まれている場合は、「ASLHEAPSZ」データベース・マネージャー構成パラメーターによって制御されているメモリー・セットが、使用できるメモリーより大きい可能性があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: アプリケーションを停止してください。可能な解決方法は、以下のとおりです。

- CONFIG.SYS ファイルの MEMMAN NO SWAP, NO MOVE オプションを、SWAP, MOVE に変更してください。
- バックグラウンド処理を除去してください。
- メモリーの割り振りを定義する構成パラメーターの値を減らしてください。UDF が失敗したステートメントに含まれている場合は、ASLHEAPSZ も減らしてください。
- もっと多くのランダム・アクセス・メモリー (RAM) をインストールしてください。
- リモート・プロシージャが呼び出された場合は、そのリモート・プロシージャが 4K 以下のローカル変数のスペースを使用することを確認してください。
- リモート・データ・サービスを使用している場合は、アプリケーションごとに少なくとも 1 ブロックが使用されるので、サーバーとクライアント構成でリモート・データ・サービスのヒープ・サイズ (rsheapsz) を増やしてください。

SQL1023C • SQL1030C

sqlcode: -1022

sqlstate: 57011

SQL1023C 通信での対話が失敗しました。

説明: 通信による対話でエラーが発生しました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: オリジナル・コマンドを再発行してください。エラーが続く場合は、通信管理者に連絡してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: この状態はデータ・ソースによっても検出できます。

sqlcode: -1023

sqlstate: 08001

SQL1024N データベース接続が存在しません。

説明: データベースに対する接続が存在しません。SQL CONNECT ステートメントが先に実行されるまでは、他の SQL ステートメントは処理できません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: データベースからの接続中にエラーが発生した場合は、処理が続けられます。エラーが他の SQL ステートメントで発生した場合は、SQL CONNECT ステートメントをサブミットして、コマンドまたはステートメントの再サブミットを行ってください。

sqlcode: -1024

sqlstate: 08003

SQL1025N データベースがまだアクティブになっているために、データベース・マネージャーが停止されませんでした。

説明: データベース・マネージャーの制御下にあるデータベースに接続されているアプリケーションが存在する場合、データベースがアクティブ化されている場合、またはこのデータベース・マネージャーの制御下にアクティブな HADR 1 次またはスタンバイ・データベースがある場合、stop database manager コマンドを処理することはできません。

アクションはとられません。

ユーザーの処置: 通常、アクションは不要です。データベース・マネージャーを停止するには、すべてのアクティブ・アプリケーションを、使用しているすべてのデータベースから切り離す必要があります。または、FORCE コマンドを使用してアプリケーションを強制的に切断してから、DEACTIVATE コマンドを使用して、

HADR 1 次またはスタンバイ・データベースなどのデータベースを非アクティブ化することもできます。

SQL1026N データベース・マネージャーはすでにアクティブになっています。

説明: データベース・マネージャーは既に開始されているので、開始コマンドは処理されませんでした。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーは開始されているので、データベース・アプリケーションは続行できます。

SQL1027N ノード・ディレクトリーが見つかりません。

説明: ノード・ディレクトリーが見つからないため、list node directory コマンドは処理できません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 適切なパラメーターを使用して、CATALOG NODE コマンドを発行し、現在のコマンドを再サブミットしてください。

SQL1029N CATALOG NODE コマンドに指定された partner_lu 別名 name が無効です。

説明: CATALOG NODE コマンドで指定される partner_lu 別名が、指定されていないか、または無効な文字を含んでいます。partner_lu 別名はパートナー SNA LU 別名で、1 から 8 文字でなければならず、ブランク文字は使用できません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: partner_lu のつづりエラーを調べてください。別名が、可能な LU 名であることを確認してください。別名に使用されている文字を確認してください。正しい partner_lu を使用してコマンドを再サブミットしてください。

SQL1030C データベース・ディレクトリーがいっぱいです。

説明: システム・データベース・ディレクトリーまたはローカル・データベース・ディレクトリーは、これ以上項目を保留できません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ディレクトリー内の不要な項目をアンカタログしてください。ローカル・データベース・ディレクトリーがフルの場合は、別のファイル・システムに新しいデータベースを作成してください。

SQL1031N 指定されたファイル・システムには、データベース・ディレクトリーが見つかりません。

説明: システム・データベース・ディレクトリーまたはローカル・データベース・ディレクトリーを見つけることができませんでした。データベースが作成されていないか、または正しくカタログされていません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: データベースが、正しいパスの指定で作成されていることを確認してください。 `Catalog Database` コマンドは、データベースが常駐するディレクトリーを指定するパス・パラメーターを持っています。

sqlcode: -1031

sqlstate: 58031

SQL1032N `start database manager` コマンドが発行されていません。

説明: `start database manager` コマンドが処理されていません。データベース・マネージャーの停止、SQL ステートメント、ユーティリティーを発行する前に、このコマンドを処理する必要があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: データベース・マネージャー開始コマンドを発行して、現在のコマンドを再サブミットしてください。

複数の論理ノードを使用している場合、`DB2NODE` 環境変数が正しく設定されていることを確認してください。`DB2NODE` 環境変数は、アプリケーションの接続試行の接続先ノードを示します。`DB2NODE` をこのアプリケーションと同じホストで定義されたノードの 1 つのノードに設定する必要があります。

`DB2 pureCluster` 環境では、以下の方法のいずれかでこのメッセージに対応します。

- `DB2NODE` 環境変数をアクティブな `DB2` メンバーに設定します。
- クラスタ・キャッシング・ファシリティー (CF) のみを実行するように構成されていないコンピューターでコマンドを再実行します。

sqlcode: -1032

sqlstate: 57019

SQL1033N 使用されているためデータベース・ディレクトリーにアクセスできません。

説明: データベース・ディレクトリーは現在更新中のためアクセスできません。また、データベース・ディレクトリーが何らかの理由ですでにアクセスされている場合は、更新のためにディレクトリーにアクセスすることはできません。こうした状態は、システム・データベース・ディレクトリーまたはローカル・データベース・ディレクトリーのいずれでも発生します。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: アクセスが完了するまで待ち、このコマンドを再サブミットしてください。

sqlcode: -1033

sqlstate: 57019

SQL1034C データベースが壊れています。データベースを処理するすべてのアプリケーションは停止しました。

説明: データベースに障害が発生しました。データベースはリカバリーするまで使用できません。データベースに接続されていたすべてのアプリケーションは切断され、データベース上でアプリケーションを実行していたすべての処理が停止しました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 一般的には、以下のステップを実行してこのエラーに対応します。

1. `RESTART DATABASE` コマンドを発行してデータベースをリカバリーします。
2. `RESTART DATABASE` コマンドが整合性のために失敗した場合は、データベースのバックアップからのリストアが必要になる可能性があります。

パーティション・データベース環境では、以下のステップを実行してこのエラーに対応します。

1. バックアップからデータベースをリストアする前に、`syslog` を参照して `RESTART DATABASE` コマンドが失敗した原因がデータベース・パーティションの障害または通信障害であるかどうかを判別します。
2. `RESTART DATABASE` コマンドがデータベース・パーティション障害または通信障害のために失敗した場合は、以下の条件が真であることを確認します。
 - データベース・マネージャーが稼働している。
 - すべてのデータベース・パーティションの間で通信が使用可能である。

SQL1035N

3. 以下に示すように db2_all コマンドを使って RESTART DATABASE コマンドを再サブミットします。

```
db2_all db2 restart database <database_name>
```

4. RESTART DATABASE コマンドの完了後に未解決の未確定トランザクションがある場合、RESTART DATABASE コマンドを何回か実行して、すべての未確定トランザクションが解決されるようにしてください。

DB2 pureCluster 環境では、以下のステップを実行してこのエラーに対応します。

1. 管理ログを参照して、RESTART DATABASE コマンドが失敗した原因が、再始動中のメンバーが共有ストレージ装置にアクセスできないことであるかどうかを判別します。
2. RESTART DATABASE コマンドが失敗した原因が、再始動中のメンバーが共有ストレージ装置にアクセスできないことである場合、アクセス問題を修正して、RESTART DATABASE コマンドを再試行します。
3. 再始動中のメンバーが共有ストレージ装置にアクセスできる場合、別のメンバーから RESTART DATABASE コマンドを発行します。
4. これらのアクションが機能しない場合、データベースをリストアして、ロールフォワード操作を実行します。

ロールフォワード処理中にこのエラーが発生した場合、以下のステップを実行してこのエラーに対応してください。

1. データベースをバックアップからリストアする。
2. ロールフォワード操作を再実行する。

サンプル・データベースをインストールしている場合、以下のステップを実行してこのエラーに対応してください。

1. サンプル・データベースをドロップする。
2. サンプル・データベースを再インストールする。

sqlcode: -1034

sqlstate: 58031

SQL1035N データベースは現在使用中です。

説明: 下記のいずれかの状態が存在します。

1. データベースへのオープン接続が試行した操作の成功を妨げています。これは以下の状況で発生します。

- 排他使用が要求されましたが、そのデータベースは、(同一処理内の) 他のユーザーにより、共有データベースとしてすでに使用されています。
- 排他使用が要求されましたが、そのデータベースはすでに排他データベースとして使用されています (2 つの異なるプロセスが同じデータベースにアクセスしようとしています)。
- データベースへの接続の最大数に達しました。
- データベースが、他のシステムの他のユーザーによって使用されています。

2. データベースが明示的にアクティブ化されたため、操作が成功しません。
3. データベースは現在 WRITE SUSPEND 状態なのでアクティブです。
4. DB2 pureCluster 環境で、以下の一連のイベントが発生しました。
 - a. データベースに対してオフライン操作 (バックアップ、リストア、またはロールフォワード) が開始されました。
 - b. オフライン操作がデータベースへの排他的接続を獲得しました。
 - c. オフライン操作が開始されたメンバーで障害が発生しました (例えば、ハードウェアまたはソフトウェア障害のため)。
 - d. オフライン操作によって保持していた排他的接続が解放されませんでした。
 - e. オフライン操作が開始されたメンバーが自動的に再始動できませんでした。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置:

1. 次が有効なオプションです。
 - データベースが使用中でなくなったときに、コマンドを再サブミットしてください。
 - 現在のユーザーに一致するように許可を変更するか、またはデータベースが使用中でなくなるまで待ってください。
 - データベースが排他使用でなくなるまで待ってください。
 - 他のシステムの他のユーザーが、データベースから切断するまで待ってください。
 - QUIESCE DATABASE DEFER WITH TIMEOUT <minutes> コマンドおよび CONNECT RESET コマンドを発行してデータベースへの接続を解放し、アプリケーション・ユーザーが再接続しないようにしてください。DEFER オプションを使用すると、実行中のすべてのトランザクションをロー

ルバックする代わりに、アプリケーションが現在の作業単位をコミットするまで待機します。

- データベースへの接続をリストするには、LIST APPLICATIONS コマンドを発行します。データベースへの接続を解放するには、FORCE APPLICATION ALL コマンドを発行します。注: FORCE APPLICATION ALL は、非同期コマンドであるため、接続のクリーンアップが継続している場合でも正常終了として戻る可能性があります。コマンドが完了するまでには不確定の時間間隔が必要です。

2. コマンド DEACTIVATE DATABASE <DBALIAS> を使用してデータベースを非活動状態にします。
3. SET WRITE RESUME FOR DATABASE コマンドを発行し、データベースで書き込み操作を再開します。
4. 以下のコマンドを発行して、オフライン操作が実行されたメンバーを再始動してください。

```
db2start member <member-number>
```

コマンドを再発行してください。

sqlcode: -1035

sqlstate: 57019

SQL1036C データベースのアクセス中に入出力エラーが発生しました。

説明: 以下のいずれかの状態で問題が発生した可能性があります。

- システムが、データベース・ファイルのオープン、読み取り、または書き込みを行うことができません。
- システムが、データベース・ファイルまたはデータベースのディレクトリーを作成中にエラーが発生したために、データベースを作成することができません。
- システムが、データベース・ファイルまたはデータベースのディレクトリーを削除中にエラーが発生したために、データベースをドロップすることができません。
- システムがデータベース・ファイルまたはデータベースのディレクトリーを作成または削除中に割り込みを受信したため、システムはデータベースを作成できません。
- システムは接続中にデータベース・サブディレクトリーまたはデータベース構成ファイルを位置指定することはできません。

以下では、発生頻度の多い順番に問題の原因が並べられます。

- ログ・ファイルがアクティブ・ログ・パス・ディレクトリーに見つかりません。
- 操作の試行対象であるデータベース・ディレクトリーに問題がある可能性があります。
- 操作を完了するための十分なディスク・スペースがない可能性があります。

データベースは使用することができません。

ユーザーの処置: 説明に記載された問題原因に対する適切な対応策は以下のとおりです。

- ログ・ファイルが欠落しているかどうか確認するには、db2diag ログ・ファイルを開いて、ロギング・エラー (戻りコードに SQLO_FNEX が含まれる) の存在を調べてください。これが存在する場合、欠落しているログ・ファイルの名前がこのエラーに含まれています。ファイルがアクティブ・ログ・パス・ディレクトリーに存在することを確認してください。ファイルが存在しない場合、欠落しているログ・ファイルの前のログ・ファイルで参照されている過去の時点まで、データベースをリストアおよびロールフォワードします (欠落ファイルのタイム・スタンプより前のタイム・スタンプを使用します)。
- データベース・ディレクトリーに問題がある可能性があります。ディレクトリーの整合性を検査してください。たとえば、許可の問題、マウント・ポイントの問題、破損などの可能性があります。
- ファイル・システム・サイズを増やします。

注: CREATE DATABASE または DROP DATABASE コマンドを処理しているときにエラーが発生した場合、後続の CREATE DATABASE または DROP DATABASE コマンドは、正常に処理されなかった CREATE DATABASE または DROP DATABASE コマンドが残したファイルおよびディレクトリーを削除しようとしています。

sqlcode: -1036

sqlstate: 58030

SQL1037W ノード・ディレクトリーが空です。

説明: ノード・ディレクトリーの内容を読み取ろうとしましたが、項目が存在しません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

sqlcode: +1037

sqlstate: 01606

SQL1038C ノード・ディレクトリーへのアクセス中に
入出力エラーが発生しました。

説明: 入出力エラーのために、ノード・ディレクトリー
がアクセスできませんでした。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: コマンドを再サブミットしてくださ
い。エラーが続く場合は、ノード・ディレクトリー
(sqllib ディレクトリーの下の sqlnodir) を取り除いて、
もう一度ノード名をネットワークにカタログしてくださ
い。

sqlcode: -1038

sqlstate: 58031

SQL1039C データベース・ディレクトリーのアクセス
中に入出力エラーが発生しました。

説明: システム・データベース・ディレクトリーまたは
ローカル・データベース・ディレクトリーにアクセスで
きません。このエラーは、システムがデータベースをカ
タログまたはアンカタログしているときのみでなく、デ
ィレクトリーにカタログされているデータベースにアク
セスしているときにも発生する可能性があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 可能な解決方法は、以下のとおりで
す。

- ディスケット・システムでエラーが発生した場
合には、正しいディスクがドライブに挿入されてい
て、その使用準備ができていることを確認してくださ
い。ディスクが書き込み保護になっていないこと
を確認してください。
- データベース・ディレクトリーが損傷を受けている場
合には、カタログされているデータベースをバックア
ップ・バージョンからリストアして、カタログしてく
ださい。

サンプル・データベースをインストールしている場合
は、それをドロップしてサンプル・データベースを再イ
ンストールしてください。

sqlcode: -1039

sqlstate: 58031

SQL1040N データベースに接続されているアプリケー
ションの数が、すでに最大数に達していま
す。

説明: データベースに接続されているアプリケーション

の数が、データベースの構成ファイルに定義されている
最大値と同じです。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 他のアプリケーションがデータベー
スから切断するまでお待ちください。もっと多くのアプリ
ケーションを並行して実行する必要がある場合は、
maxappls の値を増やしてください。すべてのアプリケー
ションがデータベースから切断されて、データベースを
再始動すると、新しい値が反映されます。

sqlcode: -1040

sqlstate: 57030

SQL1041N 並行処理できる最大数のデータベースが、
すでに始動しています。

説明: アプリケーションが、非アクティブ・データベー
スを始動しようとしたが、アクティブ・データベー
スの数が、システム構成ファイルに定義されている最大
値に達しています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: データベースの 1 つが非アクティブ
になるのを待ってください。より多くのデータベースを
同時にアクティブにする必要がある場合は、「*numdb*」
の値を増やしてください。新しい値は、次のデータベー
ス・マネージャーが正常に始動した後に反映されます。

sqlcode: -1041

sqlstate: 57032

SQL1042C 予期しないシステム・エラーが発生しまし
た。

説明: システム・エラーが発生しました。このエラーは
以下の理由で発生した可能性があります。

- データベース・マネージャーが正しくインストールさ
れていないか、または環境が正しくセットアップされ
ていません。
- UNIX ベースのシステムでは、新しいシステム構成の
取得を可能にするため、あるいはいくつかの製品オプ
ション、FixPak、または修正レベルのインストール/除
去に関連した機能へのアクセスを可能にするために、
db2iupdt を実行して DB2 インスタンスをアップデー
トする必要があるかもしれません。
- 正しい DB2 Administration Server パスワードを使用
していない場合に、このメッセージを受け取る可能
性があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置:

- 構成の取得または機能へのアクセスを可能にするためにインスタンスをアップデートするには、DB2IUPDT <InstName> を実行します。
- データベースへの接続中にエラーが発生した場合は、トレースを取得 (以下に指示があります) して、IBM サポートに連絡してください。

問題がこれらの提案に当てはまらない場合は、システムの日付と時刻が正しく設定されていること、および使用可能なメモリーおよびスワッピング/ページング・スペースがシステムに十分備わっていることを確認してください。

現在のコマンドを再サブミットしてください。

エラーが続く場合は、データベース・マネージャーを停止してから再始動してください。

まだエラーが続く場合は、データベース・マネージャーを再インストールしてください。

トレースがアクティブな場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトから、独立トレース機能呼び出してください。技術サービス担当者に以下の情報を報告してください。

必要な情報は以下のとおりです。

- 問題の説明
- SQLCODE またはメッセージ番号
- SQLCA の内容 (ある場合)
- トレース・ファイル (可能であれば)

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 必要に応じて、問題を切り分けて要求拒否の原因となったデータ・ソースを突き止めてください。問題がデータ・ソースのものである場合、そのデータ・ソースのための問題判別手順に従ってください。

sqlcode: -1042

sqlstate: 58004

SQL1043C データベース・サービスは、システム・カタログを初期化できませんでした。エラー *error* が返されました。

説明: システム・カタログの初期化時に、CREATE DATABASE コマンドが失敗しました。

ユーザーの処置: このメッセージのメッセージ番号 (SQLCODE) とエラーを記録してください。

トレースがアクティブな場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトから、独立トレース機能

を呼び出してください。技術サービス担当者に、以下の情報を知らせてください。

- 環境: アプリケーション
- 必要な情報は以下のとおりです。
 - 問題の説明
 - SQLCODE またはメッセージ番号とエラー ID
 - SQLCA の内容 (ある場合)
 - トレース・ファイル (可能であれば)

SQL1044N 割り込みにより、処理が取り消されました。

説明: ユーザーが割り込みキー・シーケンスを押した可能性があります。

処理は停止します。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: この状態はデータ・ソースによっても検出できます。

ユーザーの処置: 割り込みを処理するために、処理を継続してください。

サンプル・データベースをインストールしている場合は、それをドロップしてサンプル・データベースを再インストールしてください。

データベース・マネージャーを開始している場合は、DB2 コマンドを発行する前に、db2stop を発行してください。

sqlcode: -1044

sqlstate: 57014

SQL1045N データベースが、正しくカタログされていないために、見つかりませんでした。

説明: データベース・ディレクトリーの間接項目が、別の非 HOME 項目を指しています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: directory scan コマンドを使用して、すべての関連するデータベース・ディレクトリーの項目を確認してください。

sqlcode: -1045

sqlstate: 58031

SQL1046N 許可 ID が無効です。

説明: ログオン時に指定された許可が、データ・ソースまたはデータベース・マネージャーのどちらかに無効です。以下のいずれかが発生しました。

SQL1047N • SQL1051N

- Windows プラットフォームでは 30 文字、その他のプラットフォームでは 8 文字を超える文字が許可 ID に入っています。
- 許可 ID に、許可 ID では無効な文字が入っています。有効な文字は A から Z、a から z、0 から 9、#、@ および \$ です。
- 許可 ID が、PUBLIC または public です。
- 許可 ID が、SYS、sys、IBM、ibm、SQL、または sql で始まっています。
- 許可はデータ・ソース特定命名規則に違反していません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効な許可 ID を使用して、ログオンしてください。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 必要に応じて、問題を切り分けて要求拒否の原因となったデータ・ソースを突き止め、そのデータ・ソースに有効な許可 ID を使用してください。

sqlcode: -1046

sqlstate: 28000

SQL1047N このアプリケーションは、すでに他のデータベースに接続されています。

説明: アプリケーションは他のデータベースに接続されているときには、データベースを作成できません。

すでに他のデータベースに接続している場合は、データベースにバインド・ファイルをバインドすることは許されていません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: アクティブ・データベースから切断して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1048N **START USING DATABASE** または **CONNECT TO** コマンドの *use* パラメーター *parameter* は無効です。共有アクセスの場合は 'S'、排他使用の場合は 'X'、単一ノードで排他使用の場合は 'N' を使用してください。DB2 Connect 接続の場合、S のみがサポートされます。N は MPP 構成でのみサポートされます。

説明: START USING DATABASE または CONNECT TO コマンドの *use* パラメーターは、共有使用時には 'S'、排他使用時には 'X' でなければなりません。DB2 Connect を使用してデータベースに接続している場合には、共有アクセスのみが許可されています。これらの値

に対して、SQLENV.H ファイルで略号が提供されています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効な *use* パラメーター (略号も使用できます) を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1049C アプリケーションの状態にエラーがあります。データベース接続は失われました。

説明: データベースへの接続が切り離されました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: CONNECT RESET ステートメントを発行してください。

SQL1050N このデータベースはホーム・データベースなので、アンカタログできません。

説明: UNCATALOG DATABASE コマンドに指定されたデータベースは、ホーム・データベースです。データベースがドロップされた時点でディレクトリー項目が削除されるため、ホーム・データベースはアンカタログできません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: データベース名が正しく指定されている場合は、処理を継続してください。

SQL1051N パス *path* が存在しないか、または無効です。

説明: 以下に示す条件の 1 つが成立しています。

- データベース・ディレクトリーまたはストレージ・パスに指定された値が存在しないか、またはアクセス不能です。
- データベース・ディレクトリーまたはストレージ・パスに指定された値には、データベースのコード・ページと非互換の文字が含まれています。
- ストレージ・パスは絶対パス名でなければならず、相対パス名は不可です。
- データベースのアクティブ化および接続が試行されていますが、ストレージ・パスが見つからないか、アクセス不能です。
- 定義済みストレージ・パスをバックアップ・イメージに保守している間、自動ストレージ・データベースのリストアが試みられました。しかし、ストレージ・パスが見つからないか、アクセス不能です。
- ロールフォワードはストレージ・パスの追加に関連してログ・レコードの再生を試行していますが、ストレージ・パスが見つからないか、アクセス不能です。

- データベースに関連付けられていないストレージ・パスをドロップしようとしています。

クラスター・マネージャーを使用している場合、DB2 データベース・マネージャーが指定のストレージ・パスをクラスター・マネージャー構成に追加することを失敗したときに、このメッセージが戻されることがあります。クラスター・マネージャーからのエラー・メッセージは、db2diag ログ・ファイルに記録されます。

ステートメントまたはコマンドが処理されません。

ユーザーの処置: 次の条件に従います。

- パスが存在しない場合に作成し、アクセス不能の場合にはパスの許可を変更します。ステートメントまたはコマンドを再サブミットしてください。
- データベース・ディレクトリおよびストレージ・パスにサポートされる文字を使用してください。詳しくは、DB2 インフォメーション・センターの命名規則に関するトピックを参照してください。
- 相対ストレージ・パス名を指定している場合、代わりにその絶対パス名を指定します。ステートメントまたはコマンドを再サブミットしてください。
- ストレージ・パスを使用して問題を解決し、コマンドを再サブミットします。ストレージ・パスが使用できなくなっている場合、データベースをバックアップ・イメージからリストアする必要があります。
- ストレージ・パスが存在しない場合に作成し、アクセス不能の場合にはパスの許可を変更します。あるいは、RESTORE DATABASE コマンドの ON パラメーター、または SET STOGROUP PATHS コマンドを使用してストレージ・パスを再定義することもできます。
- ストレージ・パスが存在しない場合に作成し、アクセス不能の場合にはパスの許可を変更します。あるいは、データベースを再びリストアし、データベースに関連したストレージ・パスを再定義することもできます。リストア中にストレージ・パスが再定義されると、その後に追加されるストレージ・パスのログ・レコードはすべて無視されます。
- ストレージ・パスをドロップしようとしている場合は、それが存在し、データベースに関連付けられていることを確認します。その後、要求を再試行してください。

クラスター・マネージャーを使用している場合、問題を訂正してコマンドを再サブミットしてください。

1. db2diag ログ・ファイルを見て、クラスター・マネージャーからのエラー・メッセージがあるかどうかを調べます。

2. db2diag ログ・ファイル内のクラスター・マネージャー・エラー・メッセージに回答することにより、DB2 データベース・マネージャーがパスをクラスター・マネージャー構成に追加することを妨げていた基本的な問題を訂正します。
3. コマンドを再サブミットしてください。

sqlcode: -1051

sqlstate: 57019

SQL1052N データベース・パス *path* が存在しません。

説明: コマンドの *path* パラメーターに指定されたパスが無効です。その名前のパスがないか、または DB2_CREATE_DB_ON_PATH レジストリー変数が無効になっている場合にパスが指定されていたかのどちらかです (Windows のみ)。

Windows または UNIX 環境のパーティション・データベース環境では、パーティション・データベース・グループのノードにはそれぞれ、CREATE DATABASE コマンドを成功させるために使用できるスペースとともに、同一のハード・ディスク指定 (パス) が存在している必要があります。ハード・ディスク・パスは、データベース・マネージャー構成で指定されます。DFTDBPATH がブランクのままの場合、デフォルトは DB2 がインスタンス所有マシン (db2 インストール・パス) にインストールされているハード・ディスク・パスとなります。コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 正しいデータベース・パスを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

Windows または UNIX 環境のパーティション・データベース環境では、次のステップに従ってください。

- どのハード・ディスク指定 (パス) が必要か決定する。パスは、エラー・メッセージで指定されています。
- データベース・パーティションのどのノードで問題が発生しているか判別する。多くの場合インスタンス所有ノードの db2diag ログ・ファイルで、この情報を見つけることができます。
- 問題が発生しているノードで、ドライブ上の問題を訂正するか、またはデータベース・マネージャー構成でのドライブ指定を変更して、パーティション・データベース・グループのノードごとに、同じドライブが使用でき、十分なスペースがあるようにしてください。
- コマンドを再発行してください。
- Windows では、データベースにアクセスするすべてのアプリケーションが少なくともバージョン 9 外部 API で構築されている場合、パスをデータベース・パ

SQL1053N

スとしてサポートするように、
DB2_CREATE_DB_ON_PATH レジストリー変数を有効にすることができます。

SQL1053N 割り込みは、すでに処理されています。

説明: システムは現在割り込みを処理しているため、他の割り込みは受け付けられません。

割り込み要求が無視されます。

ユーザーの処置: 現在の割り込み処理が完了するのを待って、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1054N COMMIT が進行中なので、割り込みはできません。

説明: このシステムは、現在 COMMIT を処理しています。ユーザーが割り込みキー・シーケンスを入力しました。

割り込み要求が無視されます。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: この状態はデータ・ソースによっても検出できます。

ユーザーの処置: COMMIT 完了するまで待って、割り込み要求の再サブミットを行ってください。

SQL1055N ROLLBACK が進行中なので、割り込みはできません。

説明: このシステムは、現在 ROLLBACK を処理しています。ユーザーが割り込みキー・シーケンスを入力しました。

割り込み要求が無視されます。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: この状態はデータ・ソースによっても検出できます。

ユーザーの処置: ROLLBACK が完了するまで待って、割り込み要求の再サブミットを行ってください。

SQL1056N すでに 8 つのデータベース・ディレクトリー・スキャンがオープンしています。

説明: この処理の 8 つのデータベース・ディレクトリー・スキャンは、すでにオープンされています。8 つを超えるスキャンのオープンは許されていません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 1 つ以上の CLOSE DIRECTORY SCAN コマンドを発行して、オリジナル・コマンドを再サブミットしてください。

sqlcode: -1056

sqlstate: 54029

SQL1057W システム・データベース・ディレクトリーが空です。

説明: システム・データベース・ディレクトリーの内容を読み取ろうとしましたが、項目が存在しませんでした。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

sqlcode: +1057

sqlstate: 01606

SQL1058N Directory Scan コマンドの handle パラメーターが無効です。

説明: Directory Scan コマンドに指定されている handle パラメーターが有効ではありません。handle は、OPEN DIRECTORY SCAN または OPEN NODE DIRECTORY SCAN コマンドから返されたものでなければなりません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効な handle パラメーターを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1059N Open Scan コマンドが発行されていないために、Get Next コマンドが処理できません。

説明: スキャンをオープンする前に、directory scan コマンドが発行されました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: OPEN DIRECTORY SCAN または OPEN NODE DIRECTORY SCAN コマンドを発行して、現在のコマンドを再サブミットしてください。

SQL1060N ユーザー authorization-ID は CONNECT 特権を持っていません。

説明: 指定された許可 ID には、データベースにアクセスするための CONNECT 特権が与えられていません。データベースに接続する前に、CONNECT 特権を付与される必要があります。このエラーは、トラステッド接続で許可されているユーザー ID によってユーザー切り替え要求が出されたが、そのユーザー ID にはデータベースに対する CONNECT 特権がない場合にも表示されます。接続は未接続状態になります。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: この状態はデータ・ソースによっても検出できます。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: データベースのシステム管理者またはデータベース管理者に連絡して、許可 ID に対して

GRANT CONNECT 要求を発行してください。コマンドを再サブミットしてください。

このエラーがユーザー切り替え要求の結果として戻される場合、有効なユーザー ID (トラステッド接続を確立したユーザー ID またはトラステッド接続で許可されているユーザー ID) によるユーザー切り替え要求が出されるまで、SQL ステートメントが発行されるとエラーが戻されます (SQLSTATE 08003)。未接続状態でなくなったとき、接続はトラステッドのままです。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 必要に応じて、問題を切り分けて要求拒否の原因となったデータ・ソースを突き止め、そのデータ・ソースに付与された特権が正しいものであることを確認してください。一部のデータでは、データベースへの接続に必要な特権に、CONNECT 特権とは異なる名前が使用される場合があります。

sqlcode: -1060

sqlstate: 08004

SQL1061W RESTART DATABASE コマンドは正常に完了しましたが、データベースに対する未確定トランザクションが存在していません。

説明: データベースの再始動操作は正常に完了しましたが、既存の未確定トランザクションを解決する必要があります。データベースは使用できますが、データベースへの最後の接続をドロップする前に、未確定のトランザクションを解決しないと、次にデータベースを使用する前に、再び RESTART が必要になります。

DB2 pureCluster 環境では、未確定トランザクションが及ぼす影響は、関連付けられている DB2 メンバー、および完了したリカバリー操作のタイプによって異なります。未確定トランザクションが、再始動操作が発行された DB2 メンバーと関連付けられている場合、データベースは使用可能になりますが、未確定トランザクションに関連付けられているデータにはアクセスできません。再始動コマンドがグループ・クラッシュ・リカバリーを開始して、未確定トランザクションが異なる DB2 メンバーに関連付けられている場合、DB2 メンバーはメンバー・クラッシュ・リカバリーの間は不整合状態であり、メンバー・クラッシュ・リカバリーが完了するまで未確定トランザクションは解決できません。

ユーザーの処置: 未確定トランザクションを解決するか、いつでもデータベースを使用するときにデータベースの再始動できるよう準備してください。(XA/DTP 環境で) データベースを使用していたトランザクション・マネージャー (TM) が使用できる場合は、管理者が TM を使用して、未確定トランザクションを解決する必要があります。または、十分に注意して、管理者が CLP を

使用して、トランザクションをヒューリスティックに完了することもできます。

- パーティション・データベース・サーバー環境では、RESTART DATABASE コマンドがノードごとに実行されます。データベースをすべてのノードで再始動するには、次のコマンドを使用してください。

```
db2_all db2 restart database
<database_name>
```

このコマンドを実行すると、すべてのノードが作動可能な場合、未確定トランザクションを解決します。

このコマンドは、すべての未確定トランザクションが解決したことを確認するには、数回実行する必要があります。

- DB2 pureCluster 環境では、ユーザーの対応は、自動リカバリーが有効 (デフォルト) かどうかによって異なります。自動リカバリーが有効である場合、いずれかのメンバーで (例えば、db2start コマンドによって、または DB2 クラスター・サービスによって) DB2 プロセス・モデルが始動されるときにメンバー・クラッシュ・リカバリーが自動的に行われます。自動リカバリーが有効ではない場合、RESTART DATABASE コマンドを使用して手動でメンバー・クラッシュ・リカバリーを開始する必要があります。どちらの場合でも、メンバー・クラッシュ・リカバリーの完了後に未確定トランザクションを解決できます。

SQL1062N データベース・パス *path* が見つかりませんでした。

説明: コマンドで指定されたデータベース *path* パラメーターが存在しません。パスが指定されていない場合は、システム構成ファイルに定義されているデフォルト・パスが使用され、それが存在しませんでした。

Windows 環境のパーティション・データベース環境では、パーティション・データベース・グループのノードにはそれぞれ、CREATE DATABASE コマンドを成功させるために使用できる (使用できるスペースが含まれている) まったく同一の物理ハード・ディスク指定 (文字) がある必要があります。物理ハード・ディスク名は、データベース・マネージャー構成で指定されます。DFTDB がブランクのままの場合、デフォルトは DB2 がインスタンス所有マシン (db2 インストール・パス) にインストールされているハード・ディスクとなります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: パスまたはデフォルト・パスを調べて、システムに存在することを確認してください。コマンドを再サブミットしてください。

Windows 環境のパーティション・データベース環境では、次のステップに従ってください。

- どのハード・ディスク指定 (文字) が必要か決定する。ドライブ名は、エラー・メッセージで指定されています。
- データベース・パーティションのどのノードで問題が発生しているか判別する。多くの場合インスタンス所有ノードの db2diag ログ・ファイルで、この情報を見つけることができます。
- 問題が発生しているそれぞれのノードで、ドライブ上の問題を訂正するか、またはデータベース・マネージャー構成でのドライブ指定を変更して、パーティション・データベース・グループのノードごとに、同じドライブが使用できる (十分なスペースがある) ようにしてください。
- コマンドを再発行してください。

SQL1063N DB2START の処理が正常に終了しました。

説明: データベース・マネージャーを始動させるコマンドが、正常に完了しました。

SQL1064N DB2STOP の処理が正常に終了しました。

説明: データベース・マネージャーを停止させるコマンドが、正常に完了しました。

SQL1065W データベースは正常に作成またはアップグレードされましたが、リスト *list-name* 内の 1 つ以上のバインド・ファイルをバインディングする際にエラーが発生しました。バインド・リスト・ファイル内の以下の位置のファイルがバインドされていません: *list*

説明: 1 つ以上のユーティリティーが、データベースにバインドされませんでした。リスト・ファイル *list-name* には、バインド・ファイルのリストが入っています。*list* の番号は、リスト・ファイル内のアンバインド済みファイルの相対位置を示します。

リストされているユーティリティー・バインド・ファイルは、作成されたあるいはアップグレードされたデータベースへはバインドされません。

ユーザーの処置: バインド・ファイルのリスト *list-name* を使用して、示されているユーティリティーをデータベースにバインドします。バインド・プログラム呼び出しには `format` オプションを使用しないでください。

SQL1066N DB2START の処理が正常に終了しました。IPX/SPX プロトコル・サポートは正常に始動しませんでした。

説明: IPX/SPX プロトコル・サポートの始動に失敗しました。リモート・クライアントは IPX/SPX を使用して、サーバーに接続することができません。可能性のある理由は、以下のとおりです。

- ワークステーションが、NetWare ファイル・サーバーにログインしていません。
- ワークステーションが、NetWare ファイル・サーバー・バインダリーにオブジェクトを作成するための権限を持っていません。
- ネットワークの別のデータベース・マネージャーが、データベース・マネージャー構成ファイルに指定されているオブジェクト名と同じ名前を使用しています。

ユーザーの処置: ワークステーションが NetWare ファイル・サーバーにログインしており、ファイル・サーバーのバインダリーに、オブジェクトを作成するための十分な権限を持っていることを確認してください。

SUPERVISOR またはそれと同等の ID でログインする必要があります。また、データベース・マネージャー構成ファイルに指定されているオブジェクト名が、ネットワーク内のすべてのデータベース・マネージャーに対してユニークであることも確認してください。訂正を行って、DB2STOP を実行した後で、もう一度 DB2START を実行してください。

問題が続く場合は、オペレーティング・システム・コマンド・プロンプトに、`DB2TRC ON -L 0X100000` をタイプしてください。DB2START を再実行した後で、コマンド・プロンプトに、"`DB2TRC DUMP` ファイル名" をタイプして、トレース情報を保管してください。トレースをオフにするには、`DB2TRC OFF` をタイプしてください。トレース情報をサービス・コーディネーターに渡してください。

SQL1067N DB2STOP の処理が失敗しました。IPX/SPX プロトコル・サポートは正常に停止されませんでした。

説明: IPX/SPX プロトコル・サポートの停止に失敗しました。可能性のある理由は、以下のとおりです。

- ワークステーションが、NetWare ファイル・サーバーにログインしていません。
- ワークステーションが、NetWare ファイル・サーバー・バインダリーのオブジェクトを削除するための権限を持っていません。

ユーザーの処置: ワークステーションが NetWare ファイル・サーバーにログインしており、ファイル・サーバーのバインダリーのオブジェクトを削除するための十分

な権限を持っていることを確認してください。
SUPERVISOR またはそれと同等の ID でログインする
必要があります。訂正を行って、もう一度 DB2STOP
を実行してください。

問題が続く場合は、オペレーティング・システム・コマ
ンド・プロンプトに、DB2TRC ON -L 0X100000 をタ
イプしてください。DB2STOP を再実行した後で、コマ
ンド・プロンプトに、"DB2TRC DUMP ファイル名" を
タイプして、トレース情報を保管してください。トレ
ースをオフにするには、DB2TRC OFF をタイプしてく
ださい。トレース情報をサービス・コーディネーターに
渡してください。

SQL1068N CONNECT または ATTACH ステートメ
ントのユーザー ID *user-ID* を所有してい
るドメインが、DB2DOMAINLIST 環境変
数に定義されていません。

説明: CONNECT TO または ATTACH TO ステートメ
ントのユーザー ID が、DB2DOMAINLIST 環境変数に
定義されているドメインに属していません。

ユーザーの処置: DB2SET コマンドを使用して、その
ユーザー ID を所有しているドメインの名前を
DB2DOMAINLIST 環境変数に指定してください。

sqlcode: -1068

sqlstate: 08004

SQL1069N データベース *name* は、ホーム・デー
タベースではありません。

説明: データベースがローカル・データベースではあり
ません。ローカル・データベースは、システム・デー
タベース・ディレクトリーに間接的にカタログされてお
り、この項目が、同じノードのローカル・デー
タベース・ディレクトリーのホーム項目を示しています。リ
モート・データベースはドロップできません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 示されたデータベース名が正しくない
場合は、正しいデータベース名を使用して、コマンドを
再サブミットしてください。示されたデータベース名が
正しく、そのデータベース名をデータベース・ディレク
トリーから除去する場合は、UNCATALOG DATABASE
コマンドを使用してください。

SQL1070N *database name* パラメーターのアドレ
スが無効です。

説明: アプリケーション・プログラムが、*database
name* パラメーターに無効なアドレスを使用しました。
そのアドレスが割り振られていないバッファを指して

いるか、またはそのバッファ内の文字ストリングに
NULL 終止符がありません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: アプリケーション・プログラムを修正
して、有効なアドレスを使用し、入力ストリングが
NULL で終了するようにしてください。

SQL1071N *database alias* パラメーターのアドレスが
無効です。

説明: アプリケーション・プログラムが、このパラメ
ーターに無効なアドレスを使用しました。そのアドレスが
割り振られていないバッファを指しているか、または
そのバッファ内の文字ストリングに NULL 終止符が
ありません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なアドレスがアプリケーション・
プログラムで使用され、入力ストリングが NULL で終
了していることを確認してください。

SQL1072C データベース・マネージャー・リソース
が、不整合状態にあります。データベー
ス・マネージャーが異常終了したか、ある
いは、他のアプリケーションによるシステ
ム・リソースの使用が、データベース・マ
ネージャーが使用しているシステム・リソ
ースの使用と競合している可能性があります。
システム・リソースのクリーンアップ
が必要になる場合があります。

説明: データベース・マネージャー・リソースが不整合
状態にあるために、要求が失敗しました。この状態は、
次のような場合に発生します。

- データベース・マネージャーが異常終了した (UNIX
ベース・システムの場合、例えば、処理が stop
database manager コマンドではなく、"kill" コマンド
で終了した場合に、この状態が生じる可能性がありま
す)。
- 他のアプリケーションまたはユーザーが、データベー
ス・マネージャー・リソースを取り除いた (UNIX ベ
ース・システムの場合、例えば、十分な特権を持つユ
ーザーが、データベース・マネージャーが所有してい
るプロセス間通信 (IPC) リソースを、誤って "ipcrm"
コマンドで除去した可能性があります)。
- 他のアプリケーションによるシステム・リソースの使
用が、データベース・マネージャーによるシステム・
リソースの使用と矛盾している (UNIX ベース・シス
テムの場合、例えば別のアプリケーションが、データ

ベース・マネージャーで IPC リソースの作成に使用するキーと同じキーを使用している可能性があります)。

- データベース・マネージャーの別のインスタンスが、同じリソースを使用している可能性がある。2 つのインスタンスが異なったファイル・システム上にあつて、複数の sqllib ディレクトリーが同じ i ノードを偶然持っている (i ノードは IPC キーを取得するために使用される) 場合に、UNIX ベース・システムでこの状態が生じることがあります。

ユーザーの処置: リソースのクリーンアップが必要になる可能性があります。詳しくは、db2diag ログ・ファイルを参照してください。

- インスタンス ID の下で実行中のすべてのデータベース・マネージャー・プロセスを除去してください (UNIX ベース・システムの場合、db2_ps コマンドを使用することによりインスタンス ID の下で実行中のすべてのデータベース・マネージャー・プロセスのリストを取得し、"kill -9 process_ID" コマンドを使用することによりそれらを除去します)。
- インスタンス ID の下で実行されているアプリケーションが他に存在しないことを確認した後で、そのインスタンス ID が所有しているすべてのリソースを取り除いてください (UNIX ベース・システムの場合、"ipcs | grep instance_ID " コマンドを使用すると、インスタンス ID が所有しているすべての IPC リソースをリストすることができ、"ipcrm -[qlmls] ID" コマンドを使用すると、それらを取り除くことができます)。
- データベース・マネージャーの他のインスタンスが実行中の場合は、i ノード競合が発生する可能性があります。これは、2 つのインスタンスを同時にアクティブにすることはできませんが、個別に開始できることを示しています。いずれかのインスタンスの IPC キーの生成に使用される i ノードを変更する必要があります。

単一ノード・インスタンスの場合は、sqllib directory からインスタンス所有者として以下のステップを実行します。

- .ftok ファイルを削除する。
rm .ftok
- 新しい .ftok ファイルを作成する。
touch .ftok

マルチノード・インスタンスの場合は、インスタンス所有者として以下を行います。

- sqllib と同じレベルで別のディレクトリーを作成する。

- sqllib の下にあるすべてのものを新しいディレクトリーに移動する。
 - sqllib を削除する。
 - 新しいディレクトリーを sqllib の名前に変更する。
- 単一ノードのインスタンスでは、db2ftok コマンドをインスタンス所有者として実行して、データベース・マネージャーによって使用されるシステム・リソースを整合した状態にリストアします。
 - データベース・マネージャー・インスタンスを再始動してください。

SQL1073N ノード・ディレクトリーのリリース番号が正しくありません。

説明: ノード・ディレクトリーのリリース番号が、その製品について期待されるリリース番号と一致しません。ノード・ディレクトリーが、以前のリリースで作成されたものと思われる。

ユーザーの処置: すべてのノード項目を再カタログして、コマンドを再発行してください。

SQL1074N password パラメーターのアドレスが無効です。

説明: アプリケーション・プログラムが、このパラメーターに無効なアドレスを使用しました。そのアドレスが割り振られていないバッファを指しているか、またはそのバッファ内の文字ストリングに NULL 終止符がありません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なアドレスがアプリケーション・プログラムで使用され、入力ストリングが NULL で終了していることを確認してください。

SQL1075N database comment パラメーターのアドレスが無効です。

説明: アプリケーション・プログラムが、このパラメーターに無効なアドレスを使用しました。そのアドレスが割り振られていないバッファを指しているか、またはそのバッファ内の文字ストリングに NULL 終止符がありません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なアドレスがアプリケーション・プログラムで使用され、入力ストリングが NULL で終了していることを確認してください。

SQL1076N **count** パラメーターのアドレスが無効です。

説明: アプリケーション・プログラムが、*count* パラメーターに無効なアドレスを使用しました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なアドレスが、アプリケーション・プログラムで使用されていることを確認してください。

SQL1077N **handle** パラメーターのアドレスが無効です。

説明: アプリケーション・プログラムが、*handle* パラメーターに無効なアドレスを使用しました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なアドレスが、アプリケーション・プログラムで使用されていることを確認してください。

SQL1078N **buffer** パラメーターのアドレスが無効です。

説明: アプリケーション・プログラムが、*buffer* パラメーターに無効なアドレスを使用しました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なアドレスが、アプリケーション・プログラムで使用されていることを確認してください。

SQL1079N **nodename** パラメーターのアドレスが無効です。

説明: アプリケーション・プログラムが、無効な *nname* パラメーター・アドレスを使用しました。そのアドレスが割り振られていないバッファを指しているか、またはそのバッファ内の文字ストリングに NULL 終止符がありません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なアドレスがアプリケーション・プログラムで使用され、入力ストリングが NULL で終了していることを確認してください。

SQL1080N **local_lu name** パラメーターのアドレスが無効です。

説明: アプリケーション・プログラムが、*local_lu name* パラメーターに無効なアドレスを使用しました。そのアドレスが割り振られていないバッファを指している

か、またはそのバッファ内の文字ストリングに NULL 終止符がありません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なアドレスがアプリケーション・プログラムで使用され、入力ストリングが NULL で終了していることを確認してください。

SQL1081N **partner_lu name** パラメーターのアドレスが無効です。

説明: アプリケーション・プログラムが、*partner_lu* パラメーターに無効なアドレスを使用しました。そのアドレスが割り振られていないバッファを指しているか、またはそのバッファ内の文字ストリングに NULL 終止符がありません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なアドレスがアプリケーション・プログラムで使用され、入力ストリングが NULL で終了していることを確認してください。

SQL1082N **mode** パラメーターのアドレスが無効です。

説明: アプリケーション・プログラムが、*mode* パラメーターに無効なアドレスを使用しました。そのアドレスが割り振られていないバッファを指しているか、またはそのバッファ内の文字ストリングに NULL 終止符がありません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なアドレスがアプリケーション・プログラムで使用され、入力ストリングが NULL で終了していることを確認してください。

SQL1083N データベース記述ブロックが処理できないため、データベースを作成できません。理由コード =*reason-code*

説明: アプリケーションが CREATE DATABASE コマンドを発行しましたが、データベース記述ブロック (DBDB) が、以下のいずれかの理由コードが原因で処理できませんでした。

- 1 DBDB のアドレスが無効です。
- 2 DBDB の「SQLDBDID」フィールドの値が無効です。これは、値 SQLDBDB1 に設定される必要があります。
- 4 DBDB の「SQLDBCSS」フィールドの値が無効です。CREATE DATABASE CLP コマンドを使用する場合、COLLATE USING オプションで指定された値が無効です。

- 5 SQLDBUDC で指定された照合値が、照合タイプ SQL_CS_UNICODE には無効です。CREATE DATABASE CLP コマンドを使用する場合、COLLATE USING オプションで指定された値が UTF-8 コード・セットでは無効です。
- 6 データベースを明示的照合タイプ、および暗黙的コード・セットを使用して作成できません。希望するコード・セットを指定するか、または照合を SQL_CS_SYSTEM のままにしておく必要があります。CREATE DATABASE CLP コマンドを使用する場合、明示的な照合タイプを使用して希望するコード・セットを指定するか、あるいは COLLATE USING オプションを使用せずに暗黙的な照合を使用してください。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: エラーを訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1084C オペレーティング・システムのカーネル・メモリーの制限に達したため、データベース・マネージャーが共有メモリーの割り振りに失敗しました。

説明: オペレーティング・システムのカーネル・パラメーターのデフォルト値が、DB2 データベースを実行するのに十分ではありません。DB2 データベースと同じシステム上で他のソフトウェアが稼働している場合は、そのソフトウェアとオペレーティング・システムのリソースが競合し、カーネル・パラメーターの構成をより難しくすることになります。カーネル・パラメーターの構成を簡素化するために、一部のオペレーティング・システムでインスタンスが開始すると、データベース・マネージャーは自動的に一部のカーネル・パラメーター設定を調整します。また、db2osconf というツールをオペレーティング・システムで使用して、DB2 データベース・システムを実行するためのオペレーティング・システム・カーネル設定の推奨最小値を判別することができます。

オペレーティング・システム・カーネル・メモリーの制限 (例えば Linux での SHMMAX) に達したために、データベースのアクティブ化やデータベースのロールフォワードなどのアクティビティー中にデータベース・マネージャーが共有メモリーを割り振りできない場合に、このメッセージが返されます。

ユーザーの処置: 以下の 1 つ以上のトラブルシューティング・ステップを実行してこのエラーに対応してください。

- 次のコマンドを実行して、データベース構成の推奨値を生成します。

DB2 AUTOCONFIGURE APPLY NONE

- データベース・マネージャーが使用できるオペレーティング・システム・メモリーの量を制限する、オペレーティング・システムのカーネル設定を増やします。
- database_memory 構成パラメーターの値を減らして、データベースが使用するメモリーの量を減らします。
- Linux オペレーティング・システムのみ: カーネル構成パラメーター (SHMMAX など) のデフォルト値の大きさが、DB2 LUW に対して不十分です。現行のカーネル構成パラメーターの設定値を判別し、大きさが不十分なカーネル・パラメーターを変更します。

これらのトラブルシューティング・ステップを実行してもこのエラーが発生し続ける場合は、db2support ユーティリティを使用して診断情報を収集し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

sqlcode: -1084

sqlstate: 57019

SQL1085N アプリケーション・ヒープを割り振ることができません。

説明: データベース構成ファイルに指定された 4K ページ単位のアプリケーション・ヒープを、データベース・マネージャーが割り振ることができなかつたので、アプリケーションはデータベースに接続することができませんでした。システムに 4K ページがありません。コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 可能な解決方法は、以下のとおりです。

- データベース構成ファイル内のアプリケーション・ヒープの大きさ (applheapsz) を減らしてください。
- データベース構成ファイル内のアプリケーションの最大数を減らしてください。
- バックグラウンド処理を除去してください。
- メモリーを増やしてください。

sqlcode: -1085

sqlstate: 57019

SQL1086C オペレーティング・システム・エラー error が発生しました。

説明: コマンドが、オペレーティング・システムからエラーを受け取ったために、これ以上処理を続けることができません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: オペレーティング・システムのユーザー

ー・マニュアルを参照して、エラーの詳細を解析してください。

SQL1087W データベースは正常に作成あるいはアップグレードされましたが、リスト・ファイル *name* のオープン中にエラーが発生しました。DB2 ユーティリティはデータベースにバインドされません。

説明: CREATE DATABASE または UPGRADE DATABASE コマンドは、ユーティリティ・バインド・ファイルのリストが入っているリスト・ファイルをオープンできませんでした。リスト・ファイルは *sqllib* サブディレクトリーの *bnd* サブディレクトリーに置いてください。

ユーティリティ・バインド・ファイルは、作成されたあるいはアップグレードされたデータベースへはバインドされません。

ユーザーの処置: ユーティリティをデータベースにバインドしてください。バインド・プログラム呼び出しには *format* オプションを使用しないでください。詳細については、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

SQL1088W データベースは正常に作成あるいはアップグレードされましたが、ユーティリティのバインド中にエラーが発生しました。ユーティリティはデータベースにバインドされません。

説明: CREATE DATABASE または UPGRADE DATABASE コマンドが、ユーティリティ・バインド・ファイルをデータベースにバインドできませんでした。

ユーティリティ・バインド・ファイルは、新しく作成されたデータベースまたはアップグレードされたデータベースにはバインドされません。

ユーザーの処置: 以下のアクションを実行してください。

- ユーティリティをデータベースにバインドしてください。バインド・プログラム呼び出しには *format* オプションを使用しないでください。
- データベース・サーバーから *db2schema.bnd* ファイルをバインドしてください。

これらの操作を実行する方法について、詳しくは DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

SQL1089W データベースは作成されましたが、ユーティリティのバインドが中断しました。ユーティリティはデータベースにバインドされません。

説明: データベースへユーティリティをバインド中に、CREATE DATABASE コマンドが割り込みを受けました。割り込みキー・シーケンスが押された可能性があります。

ユーティリティ・バインド・ファイルは、新しく作成されたデータベースへはバインドされません。

ユーザーの処置: ユーティリティをデータベースにバインドしてください。バインド・プログラム呼び出しには *format* オプションを使用しないでください。

SQL1090C プリコンパイルされたアプリケーション・プログラムまたはユーティリティのリリース番号が無効です。

説明: プリコンパイルされたアプリケーション・プログラムまたはユーティリティのリリース番号が、インストールされているデータベース・マネージャーのリリース番号と互換ではありません。

アプリケーション・プログラムが、下位レベルのデータベース・マネージャー・ライブラリまたは DLL を、データベース・マネージャー構成ファイルのインストール・バージョンにアクセス中に使用する場合は、エラーが発生する可能性があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: アプリケーション処理に対して選択されたデータベース・マネージャー・ライブラリのバージョンまたは DLL が前のもの (古い) ではないことをチェックしてください。

問題が続行する場合は、現在のデータベース・マネージャーを使用して、プリコンパイル処理を繰り返してください。互換リリース・レベルのデータベース・マネージャーでプリコンパイルされたアプリケーション・プログラムのみを使用してください。

SQL1091C データベースのリリース番号はサポートされていません。

説明: データベースのリリース番号は、インスタンスのリリース番号と同じではありません。これはデータベース作成時またはデータベース・アップグレード時に設定されたリリース番号です。または、システム・カタログに定義されている最新のバージョン、リリース、変更、フィックスパック・レベルです。

コマンドは処理されません。

SQL1092N

データベース・アップグレードまたはデータベース・リストアでエラーが発生した場合は、非互換リリースのデータベースをアップグレードまたはリストアしようとしています。

フィックスパック除去後の最初の接続でエラーが発生した場合は、より新しいフィックスパック・レベルでのみサポートされるデータベースに接続しようとしています。

ユーザーの処置: データベース・アップグレードまたはデータベース・リストアでエラーが発生した場合は、まず最初に、アップグレード後の DB2 コピーでデータベース・アップグレードがサポートされるリリースに、データベースをアップグレードする必要があります。

フィックスパック除去後の最初のデータベース接続でエラーが発生した場合は、バックアップからデータベースをリストアした後、そのデータベースをサポートするフィックスパック・レベルの DB2 コピーから、データベースを現在のレベルに更新するコマンドを発行します。

sqlcode: -1091

sqlstate: 08004

SQL1092N このユーザー ID には要求されたコマンドまたは操作を実行する権限がないため、要求されたコマンドまたは操作が失敗しました。ユーザー ID: *user-id*。

説明: ユーザーの認証は、DB2 データベース・システム外のセキュリティ機能 (オペレーティング・システムの一部または別個の製品) を使用して実行されます。許可を与えることは、DB2 機能 (DB2 表および構成ファイルを使用) を使用して実行されます。このメッセージは、認証または許可の問題がある場合に返されることがあります。

認証および許可の問題のトラブルシューティングは複雑です。これは、複数のエージェントがアクセスの制御をさまざまなレベル (ローカル・オペレーティング・システムのログイン資格情報、Windows ユーザー・グループ、ドメイン、Kerberos などのサード・パーティーのセキュリティ・サービス、コマンドを実行するコンテキスト、DB2 権限レベル、データベース・オブジェクトなどはその一部) で行っているためです。

以下に、このメッセージが返される可能性がある一般的なシナリオのいくつかを、オペレーティング環境別にリストします。

グループを使用する Windows オペレーティング・システム

グループを使用する Windows 環境でこのメッセージが返される可能性があるシナリオについて、以下に説明します。

DB2 データベース構成:

- DB2 データベース・マネージャー・インスタンス・ユーザーを Windows LocalSystem アカウント (または別のローカル Windows アカウント) に設定して、DB2 データベース製品がインストールされました。
- DB2_GRP_LOOKUP 環境変数が設定されていません。

失敗する操作:

- ユーザーが、リモート・ドメインで定義された 2 部構成のユーザー ID を使用して、データベースへの接続を試みます。

失敗の理由:

- 環境変数 DB2_GRP_LOOKUP が設定されていないため、データベース・マネージャーはユーザー ID が定義されている場所でグループの列挙を試みます。しかし、データベース・マネージャーは LocalSystem アカウントのコンテキストで稼働しているため、データベース・マネージャーには、ユーザー ID が定義されている場所でグループの列挙を行うためにネットワークにアクセスする権限がありません。

Kerberos を使用する Windows オペレーティング・システム

Kerberos 認証を使用している Windows 環境では、ドメイン・アカウントではないアカウントを使用してコンピューターにログオンしようとすると、このメッセージが返されることがあります。

Extended Security を使用する Windows オペレーティング・システム

Extended Security が有効な Windows 環境では、ローカル DB2USERS グループまたは DB2ADMNS グループのメンバーではないユーザー ID によってデータベース・リソースの使用または変更が試みられている場合に、このメッセージが返されることがあります。

Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) 環境

LDAP 環境では、コマンド CATALOG DATABASE、CATALOG ... NODE、CATALOG DCS DATABASE を実行するための権限がユーザー ID または DB2 Connect ゲートウェイに付与されていない場合に、このメッセージが返されることがあります。

Windows コマンド・プロンプト

Windows Vista 以降のバージョンの Windows オペレーティング・システムでは、ユーザーに管理特権が付与されていても、コマンド・プロンプトには標準ユーザー特権が付与されている場合があります。標準特権のみが付与されたコマンド・プロンプトから、管理特権を必要とするコマンドが実行されると、このメッセージが返されることがあります。

フェデレーテッド・データベース環境

フェデレーテッド環境では、このエラーがフェデレーテッド・サーバーまたはフェデレーテッド・データ・ソースで発生する可能性があります。

ユーザーの処置: 一般的には、以下のトラブルシューティング・ステップを実行して、このエラーに対応します。

1. システム管理者またはデータベース管理者と協力して、当該ユーザー ID に付与された特権および権限に関する情報を収集します。特定のユーザー ID に関するこの種の情報を収集する方法の一例を以下に示します。


```
db2 SELECT * FROM TABLE
(SYSPROC.AUTH_LIST_GROUPS_FOR_AUTHID('<id>'))
```
2. 試行されて失敗した操作を特定します。
3. 当該ユーザー ID に付与された特権および権限と、試行された操作を比較します。
4. 以下に示す種類の管理操作を 1 つ以上実行することで、必要な権限および特権が付与された別のユーザー ID を使用するか、または必要な特権をユーザー ID に付与します。
 - 必要なグループにユーザー ID を追加する
 - ユーザー ID が既に属するグループの権限または特権を変更する
 - GRANT ステートメントを使用して操作を実行する権限を限定的にユーザー ID に付与する

以下に、特定のシナリオに対応する方法の例をいくつか示します。

Kerberos を使用する Windows オペレーティング・システム

Kerberos 認証を使用している Windows 環境では、ドメイン・アカウントを使用してコンピューターにログオンします。

Extended Security を使用する Windows オペレーティング・システム

Extended Security が有効な Windows 環境でデータベース・リソースを使用または変更するには、以下に示す操作のいずれかを行います。

- ユーザー ID をローカル DB2USERS グループまたは DB2ADMNS グループに追加する。
- ローカル DB2USERS グループまたは DB2ADMNS グループのメンバーであるユーザー ID を使用する。

Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) 環境

LDAP 環境では、コマンド CATALOG DATABASE、CATALOG ...

NODE、CATALOG DCS DATABASE を実行するための権限がユーザー ID または DB2 Connect ゲートウェイに付与されていない場合には、catalog_noauth データベース・マネージャー構成パラメーターを使用して、SYSADM 権限なしでユーザーがデータベースおよびノード (または DCS ディレクトリーおよび ODBC ディレクトリー) をカタログおよびアンカタログできるようにします。

Windows コマンド・プロンプト

完全な管理特権でコマンドを実行するには、以下のステップを実行してください。

1. DB2 データベースのインストール・プロセス中に作成された「コマンド・ウィンドウ - 管理者」というショートカットを使用することで、完全な管理特権で実行されるコマンド・ウィンドウを開きます。
2. このコマンドは、完全な管理特権で実行しているコマンド・ウィンドウから起動してください。

フェデレーテッド環境

フェデレーテッド・サーバーによってエラーが返されているのか、あるいはフェデレーテッド・データ・ソースによってエラーが返されているのかを判別してから、このメッセージに説明されているトラブルシューティング・ステップを実行します。

SQL1093N ユーザーはログオンしていません。

説明: ユーザーは、許可を必要とするコマンドが処理される前に、ログオンしておく必要があります。このエラーの原因には、以下が含まれます。

- ユーザー ID が取得できない。
- ログオン時に、予期しないオペレーティング・システムのエラーが発生した。
- アプリケーションがバックグラウンド処理で実行されている。
- ユーザーがログオンを取り消した。

SQL1094N

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なユーザー ID でログオンして、コマンドを再サブミットしてください。さまざまな並行処理がログオンを要求しているときは、数秒待つてから、ログオン手順を再試行してください。

sqlcode: -1093

sqlstate: 51017

SQL1094N ノード・ディレクトリーは更新中なので、アクセスできません。

説明: ノード・ディレクトリーの更新中は、ノード・ディレクトリーをスキャンすることも、使用することもできません。また、データベース・ディレクトリーが何らかの理由ですでにアクセスされている場合は、更新のためにディレクトリーにアクセスすることはできません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 更新が完了してからコマンドを再サブミットしてください。

sqlcode: -1094

sqlstate: 57009

SQL1095N すでに 8 つのノード・ディレクトリー・スキャンがオープンしています。

説明: 8 つのノード・ディレクトリー・スキャンがこの処理でオープンされており、これ以上スキャンをオープンすることはできません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 1 つ以上の CLOSE NODE DIRECTORY SCAN コマンドを発行してください。コマンドを再サブミットしてください。

sqlcode: -1095

sqlstate: 54029

SQL1096N このコマンドは、このノード・タイプには無効です。

説明: コマンドをサポートしないノードでコマンドが発行されたか、またはこのノード・タイプを正しくセットアップしていないシステム環境が見つかりました。たとえば、データベースが、クライアント・ノードで LOCAL としてカタログされています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: コマンドおよびパラメーターが、ノード・タイプに対して正しいことを確認してください。また、コマンドが処理される環境が正しいことを確認してください。コマンドを再サブミットしてください。

SQL1097N ノード名がノード・ディレクトリーに見つかりません。

説明: リモート・データベースのデータベース・ディレクトリーにリストされているノード名、またはアタッチするコマンドに指定されているノード名が、ノード・ディレクトリーにカタログされていません。

コマンドは処理されません。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: この状態はデータ・ソースによっても検出できます。

ユーザーの処置: データベース・ディレクトリーにリストされているノード名、またはアタッチ・コマンドのオブジェクトのノード名が、ノード・ディレクトリーにカタログされていることを確認してください。ノードがノード・ディレクトリーにリストされない場合は、CATALOG NODE コマンドをサブミットしてください。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: これらのアクションに加えて、すべての SYSCAT.SERVERS 項目にリストされたノード名が正しいことを確認してください。ノードがノード・ディレクトリーにリストされず、サーバーが DB2 ファミリーのメンバーである場合は、そのノードに CATALOG NODE コマンドを発行してください。

sqlcode: -1097

sqlstate: 42720

SQL1098N このデータベースには、アプリケーションがすでに接続されています。

説明: データベースへの接続が要求されましたが、アプリケーションは指定されたデータベースにすでに接続されています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

sqlcode: -1098

sqlstate: 53056

SQL1099N ディスケットが書き込み保護になっています。

説明: 書き込み操作が、書き込み保護になっているディスク内データベースに対して試みられました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 正しいディスクットを使用していることを確認してください。必要に応じて、ディスクットから保護を取り除いてください。

SQL1100W Catalog Database コマンドに指定されたノード名 *name* が、ノード・ディレクトリーにカタログされていません。

説明: Catalog Database コマンドがノード名 *name* を指定しましたが、ノード・ディレクトリーにカタログされていません。リモート・データベースを使用する前に、ノード名をカタログする必要があります。

CATALOG DATABASE コマンドは正常に完了しました。

ユーザーの処置: CATALOG NODE コマンドを発行してください。

SQL1101N ノード *node-name* のリモート・データベース *name* に、指定された許可 ID とパスワードでアクセスできませんでした。

説明: ノード *node-name* 上のリモート・データベース *name* への接続が要求されましたが、(リモート許可表が実行時に) このノードに対して指定された許可 ID とパスワードの組み合わせをリモート・ノードが受け入れませんでした。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: このエラーは以下のいずれかが当てはまる場合にも発生する可能性があります。

- ユーザー・マッピングが存在しておらず、リモート許可 ID またはリモート・パスワードが DB2 フェデレーテッド・データベースへの接続時に指定された許可 ID またはパスワードと一致していない。
- ユーザー・マッピングが REMOTE_PASSWORD オプションを指定しておらず、DB2 フェデレーテッド・データベースへの接続時にパスワードが指定されなかった。
- ユーザー・マッピングが REMOTE_PASSWORD オプションを指定しておらず、リモート・パスワードが DB2 フェデレーテッド・データベースへの接続時に指定されたパスワードと一致しない。
- ユーザー・マッピングが REMOTE_AUTHID オプションを指定しておらず、リモート許可 ID が DB2 フェデレーテッド・データベースへの接続時に指定された許可 ID と一致しない。
- リモート許可またはリモート・パスワードが、ユーザー・マッピングで指定されているものと一致しない。

要求は処理できません。

ユーザーの処置: リモート・システム用の有効な許可 ID およびパスワードを組み合わせ使用して、要求の再サブミットを行なってください。

sqlcode: -1101

sqlstate: 08004

SQL1102N データベース名が指定されませんでした。

説明: データベース・アップグレード処理を進めるために必要なデータベース名が指定されませんでした。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: アップグレード用のデータベース名を指定してください。

SQL1103W UPGRADE DATABASE コマンドが正常に完了しました。

説明: UPGRADE DATABASE コマンドが正常に完了しました。これで、このデータベースにアクセスできます。

データベースが既に現在のレベルであるためアップグレードされなかった場合でも、このメッセージが返されることに注意してください。

ユーザーの処置: データベースをアップグレードした後に必要なアップグレード後タスクの詳細については、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

SQL1104N program name パラメーターのアドレスが無効です。

説明: アプリケーション・プログラムが、program name に無効なアドレスを使用しました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: アプリケーション・プログラムで正しいアドレスを使用してください。

SQL1105N リモート・アプリケーション・インターフェース・プロシージャ内では、SQL CONNECT RESET ステートメントは使用できません。

説明: リモート・アプリケーション・プロシージャに、SQL CONNECT RESET ステートメントが含まれています。

リモート・プロシージャは続行できません。

ユーザーの処置: SQL CONNECT RESET ステートメントを取り除いて、リモート・プロシージャを再実行してください。

sqlcode: -1105

sqlstate: 38003

SQL1106N

SQL1106N 指定された DLL *name* モジュールはロードされましたが、関数 *function* は実行できませんでした。

説明: DLL (ダイナミック・リンク・ライブラリー) 内の関数が見つかりませんでした。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: DLL モジュールが正しく作成されていることを確認してください。定義ファイルのモジュールを参照してください。

sqlcode: -1106

sqlstate: 42724

SQL1107N 指定された DLL *name* をロード中に、割り込みを受けました。

説明: DLL (ダイナミック・リンク・ライブラリー) モジュールをロードしているときに、コマンドが割り込みを受けました。(Ctrl+Break が押された可能性があります)

処理は停止します。

ユーザーの処置: コマンドを再サブミットしてください。

sqlcode: -1107

sqlstate: 42724

SQL1108N 指定された DLL *name* をロード中に、予期しない入出力エラーまたはオペレーティング・システム・エラーを受け取りました。

説明: 「プログラム名」フィールドに指定された DLL (ダイナミック・リンク・ライブラリー) モジュールをロードするときに、予期しないエラーが発生しました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 現在のコマンドを再サブミットしてください。それでも、エラーが続く場合は、データベース・マネージャーを再インストールしてください。

再インストールしてもエラーが解決しない場合は、メッセージ番号 (SQLCODE)、および可能であれば、SQLCA 内のすべての情報を記録しておいてください。

トレースがアクティブな場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトから、独立トレース機能呼び出ししてください。さらに、サービス担当者に連絡してください。

sqlcode: -1108

sqlstate: 42724

SQL1109N 指定された DLL *name* をロードできませんでした。

説明: 指定された DLL (ダイナミック・リンク・ライブラリー) モジュールが見つかりませんでした。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 指定したファイルが、システムの LIBPATH に指定されたサブディレクトリーに存在していることを確認してください。

sqlcode: -1109

sqlstate: 42724

SQL1110N 指定されたデータ・エリアが無効で、使用できませんでした。

説明: データ域が正しく初期化されていません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ユーザー指定の「入力 SQLDA」または「出力 SQLDA」フィールドが、正しく初期化されていることを確認してください。

SQL1111N 指定されたプログラム名 *name* は無効です。

説明: DLL (ダイナミック・リンク・ライブラリー) モジュールまたはプログラム名の構文が正しくありません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: DLL またはプログラム名が正しく指定されていることを確認してください。

sqlcode: -1111

sqlstate: 42724

SQL1112N 指定された DLL *name* のロードに十分なシステム・リソースがありません。

説明: 指定された DLL (ダイナミック・リンク・ライブラリー) モジュールをロードするためのランダム・アクセス・メモリー (RAM) が、十分ではありません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: アプリケーションを停止してください。可能な解決方法は、以下のとおりです。

- CONFIG.SYS ファイルの MEMMAN NO SWAP、NO MOVE オプションを、SWAP、MOVE に変更してください。
- バックグラウンド処理を除去してください。

- メモリ割り振りを定義する構成パラメーターの値を減らしてください。
- もっと多くのランダム・アクセス・メモリー (RAM) をインストールしてください。

sqlcode: -1112

sqlstate: 42724

SQL1113N 出力 SQLDA の sqlvar *n* のデータ・タイプが、*type-1* から *type-2* に変更されました。

説明: リモート・ストアード・プロシージャが、出力 SQLDA 内の *n* 番目の SQLVAR のデータ・タイプを変更しました。*(n* は、不一致が見つかった最初の SQLVAR の通し番号を示します)

ストアード・プロシージャはデータを戻しません。

ユーザーの処置: リモート・ストアード・プロシージャを修正して、出力 SQLDA のデータ・タイプ情報が変更されないようにしてください。

sqlcode: -1113

sqlstate: 39502

SQL1114N 出力 SQLDA の sqlvar *n* のデータ長が、*length-1* から *length-2* に変更されました。

説明: リモート・ストアード・プロシージャが、出力 SQLDA 内の *n* 番目の sqlvar のデータ長を変更しました (*n* は、不一致が発見された最初の SQLVAR の通し番号を示します)。

ストアード・プロシージャはデータを戻しません。

ユーザーの処置: リモート・ストアード・プロシージャを修正して、出力 SQLDA のデータの長さ情報が変更されないようにしてください。

sqlcode: -1114

sqlstate: 39502

SQL1115N 出力 SQLDA の sqlvars の数が、*count-1* から *count-2* に変更されました。

説明: リモート・プロシージャが、出力 SQLDA の「sqlid」フィールドを変更しました (sqlid は、SQLDA 内の使用された sqlvar の数を示します)。

ストアード・プロシージャはデータを戻しません。

ユーザーの処置: リモート・ストアード・プロシージャを修正して、出力 SQLDA の「sqlid」フィールドが変更されないようにしてください。

sqlcode: -1115

sqlstate: 39502

SQL1116N 「バックアップ・ペンディング」のために、データベース *name* の接続またはアクティブ化を行うことはできません。

説明: ロールフォワード・リカバリーの開始点を用意するために、指定されたデータベースがバックアップを要求しています。

接続は行われていません。

ユーザーの処置: BACKUP ルーチン呼び出すことにより、データベースをバックアップするか、またはロールフォワードを必要としない場合は、データベース構成パラメーター LOGARCHMETH1 および LOGARCHMETH2 を OFF に設定してください。

sqlcode: -1116

sqlstate: 57019

SQL1117N 「ロールフォワード・ペンディング」のために、データベース *name* の接続またはアクティブ化を行うことはできません。

説明: 指定されたデータベースは、ロールフォワード・リカバリーが有効な状態でリストアされましたが、ロールフォワードは行われません。

接続は行われていません。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: この状態はデータ・ソースによっても検出できます。

ユーザーの処置: データベースをロールフォワードするか、または ROLLFORWARD コマンドを使用して、ロールフォワードを行わないことを指示してください。データベースのロールフォワードを行わないと、データベースの最後のバックアップ以降に書かれたレコードが、データベースに適用されないことに注意してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 必要に応じて、問題を切り分けて要求拒否の原因となったデータ・ソースを突き止め、そのデータ・ソースに適切なリカバリー・アクションを行い、データ・ソースを整合点までリカバリーします。

sqlcode: -1117

sqlstate: 57019

SQL1118N 前のバックアップが完了していないために、データベース *name* の接続またはアクティブ化を行うことはできません。

説明: バックアップ処理中にシステム・エラーが発生したので、データベースが不整合状態になっています。

接続は行われていません。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: この状態はデータ・ソースによっても検出できます。

ユーザーの処置: BACKUP コマンドを発行して、もう一度コマンドをやり直してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 必要に応じて、問題を切り分けて要求拒否の原因となったデータ・ソースを突き止め、コマンドを再試行する前に、そのデータ・ソースに対して BACKUP コマンドを発行してください。

sqlcode: -1118

sqlstate: 57019

SQL1119N 前のリストアが完了していないか、進行中であるために、データベース *name* の接続またはアクティブ化を行うことはできません。

説明: リストア処理中にシステム・エラーが発生したか、あるいはリストアが進行中であるため、データベースが不整合状態になっています。

接続は行われていません。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: この状態はデータ・ソースによって検出できます。

ユーザーの処置: 現在のコマンドを再発行する前に、データベースが正常にリストアされていることを確認してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 必要に応じて、問題を切り分けて要求拒否の原因となったデータ・ソースを突き止め、コマンドを再試行する前に、そのデータ・ソースに対して RESTORE コマンドを発行してください。

sqlcode: -1119

sqlstate: 57019

SQL1120N 前のバックアップまたはリストアが完了していないために、データベース *name* の接続またはアクティブ化を行うことはできません。

説明: バックアップまたはリストア処理中にシステム・エラーが発生したので、データベースが不整合状態にな

っています。バックアップまたはリストアのどちらが処理されていたかが決定できません。

接続は行われていません。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: この状態はデータ・ソースによっても検出できます。

ユーザーの処置: BACKUP または RESTORE コマンドを発行してから、もう一度コマンドをやり直してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 必要に応じて、問題を切り分けて要求拒否の原因となったデータ・ソースを突き止め、コマンドを再試行する前に、そのデータ・ソースに対して BACKUP コマンドまたは RESTORE コマンドを発行してください。

sqlcode: -1120

sqlstate: 57019

SQL1121N *node structure* パラメーターのアドレスが無効です。

説明: アプリケーションが、*node structure* パラメーターに無効なアドレスを使用しました。そのアドレスが割り振られていないバッファを指しているか、または必須入力を含むための十分なバッファがありません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: プログラムが必要なバッファ領域の割り振りを行なっていることを確認して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1122N *protocol structure* パラメーターのアドレスが無効です。

説明: アプリケーションが、*protocol structure* パラメーターに無効なアドレスを使用しました。そのアドレスが割り振られていないバッファを示しているか、または正しくないプロトコル・バッファを示しているかのどちらかです。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: プログラムが、ノード構造の「プロトコル」フィールドに基づいた必須バッファ領域の割り振りを行なっていることを確認して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1123N プロトコル *type* が無効です。

説明: Catalog コマンドのノード構造に指定したプロトコル・タイプが、認識されない値です。有効なプロトコル・タイプは、*sqlenv* ヘッダー・ファイルに定義されています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ノード構造のプロトコル・タイプを確認して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1124N リモート・ワークステーション名 *name* が無効です。

説明: Catalog コマンドの NETBIOS プロトコル構造に指定したリモート・ワークステーション名が、指定されていないか、または無効な文字を含んでいます。ワークステーション名は 1 から 8 文字でなければなりません。有効な文字は A から Z、a から z、0 から 9、#、@ および \$ です。最初の文字は、英字または特殊文字 #、@、または \$ でなければなりません。小文字は、システムによって大文字に変更されます。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: リモート・ワークステーション名に指定された文字を確認してください。有効なワークステーション名を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1125N アダプター番号 *number* が無効です。

説明: Catalog コマンドの NETBIOS プロトコル構造に指定されたアダプター番号が無効です。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: アダプター番号が有効なことを確認して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1126N ネットワーク ID *ID* が無効です。

説明: Catalog コマンドの APPN プロトコル構造のネットワーク ID が無効です。ネットワーク ID が、リモート LU (LU) が存在する SNA ネットワークを識別しています。ネットワーク ID は 1 から 8 文字でなければなりません。有効な文字は A から Z、a から z、0 から 9、#、@ および \$ です。最初の文字は、英字または特殊文字 #、@、または \$ でなければなりません。小文字は、システムによって大文字に変更されません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ネットワーク ID に指定された文字を確認してください。有効なネットワーク ID を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1127N リモート LU 名 *name* が無効です。

説明: Catalog コマンドの APPN プロトコル構造に指定されたリモート LU (LU) 名が無効です。リモート LU 名は、リモート SNA LU 名で、1 から 8 文字でな

ければなりません。有効な文字は A から Z、a から z、0 から 9、#、@ および \$ です。最初の文字は、英字または特殊文字 #、@、または \$ でなければなりません。小文字は、システムによって大文字に変更されます。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: リモート LU 名に指定された文字を確認してください。有効なリモート LU 名を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1128W SAVECOUNT は無視されます。理由コード = *reason-code*。

説明: 可能性のある理由コードは、以下のとおりです。

1

MDC 表または ITC 表にロードする場合、整合点はサポートされていません。

2

指定されたファイル・タイプは、整合点を許可しません。

3

パーティション表にロードする場合、整合点はサポートされていません。

4

XML 列を含む表にロードする場合、整合点はサポートされていません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL1129N 新しい処理を生成するためのリソースが不足しているため、新しいストアード・プロシージャ処理を開始できませんでした。

説明: 新しい処理を生成するためのリソースが不足しているため、新しいストアード・プロシージャ処理を開始できませんでした。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを実行します。

- DB2 を使用しているユーザー数を減らしてください。
- システム処理の上限を増やしてください。

sqlcode: -1129

sqlstate: 42724

SQL1130N サーバー上で共存できる処理の最大数に達したため、新しいストアード・プロシージャ処理を開始できませんでした。

説明: サーバー上で同時に共存できる処理の最大数に達したため、新しいストアード・プロシージャ処理を開始できませんでした。

ユーザーの処置: fenced_pool 構成パラメーターの値を増やします。

sqlcode: -1130

sqlstate: 42724

SQL1131N ストアード・プロシージャ処理が異常終了しました。ルーチン名: *routine-name*。
特定名: *specific-name*。

説明: DB2 アーキテクチャーは、アプリケーションが DB2 データベース・サーバーとは異なるアドレス・スペースで稼働するように設計されています。異なるアドレス・スペースでアプリケーションを実行すると、アプリケーション・プログラミング・エラーによりデータベース・マネージャーの内部バッファまたは内部ファイルが上書きされるのを防止したり、アプリケーション・エラーによりデータベース・マネージャーが異常終了するのを防止したりできます。fenced モード・プロセス (db2fmp) は、DB2 データベース・サーバーとは異なるアドレス・スペースでの fenced ストアード・プロシージャおよびユーザー定義関数の実行を担当します。

指定されたルーチンの実行中に db2fmp プロセスが異常終了すると、このメッセージが返されます。db2fmp プロセスが以下のようなさまざまな理由で異常終了した可能性があります。

- db2fmp プロセスが実行していたストアード・プロシージャまたはユーザー定義関数の実装において、ゼロによる除算または境界外のポインター参照などのコーディング・エラーがありました。
- 他のプロセスが、終了シグナル SIGTERM などのシグナルを使用して db2fmp プロセスを強制終了しました。

ユーザーの処置:

1. ストアード・プロシージャまたはユーザー定義関数のコードを見直して単体テストを行い、異常終了の原因となった可能性のあるストアード・プロシージャまたはユーザー定義関数にコーディング・エラーがないようにします。
2. システム上で稼働しているすべてのアプリケーションのアクティビティおよびシステムにアクセスしているユーザーを確認し、他のアプリケーションま

たはユーザーが db2fmp プロセスに終了シグナルを送信しないようにします。

3. ストアード・プロシージャを再び実行します。

ストアード・プロシージャを再び実行します。

sqlcode: -1131

sqlstate: 38503

SQL1132N このコマンドをストアード・プロシージャ内で実行することは許可されていません。

説明: ストアード・プロシージャの有効範囲内で無効なコマンドが発行されました。

プロシージャを続行できません。

ユーザーの処置: プロシージャ内の無効なコマンドを除去して、再試行してください。

sqlcode: -1132

sqlstate: 38003

SQL1133N 出力 SQLDA の sqlvar (index = *n*) 内のポインター・アドレスが、DARI (ストアード・プロシージャ) 関数内で変更されました。

説明: 出力 SQLDA の sqlvar 内の“sqlind”または“sqldata”ポインターが、ユーザーが用意した DARI 関数内で変更されました。

ストアード・プロシージャはデータを戻しません。

ユーザーの処置: 出力 SQLDA 内の示された sqlvar の使用法を修正して、DARI(ストアード・プロシージャ)機能ルーチンの中で、ポインター・アドレスが変更されないようにしてください。

sqlcode: -1133

sqlstate: 39502

SQL1134N データベース認証タイプ CLIENT の場合、このコマンドはストアード・プロシージャの有効範囲内では許可されていません。

説明: SYSADM 許可を必要とするコマンドは、データベース認証タイプが CLIENT である場合にはストアード・プロシージャ内で許可されていません。

ストアード・プロシージャはデータを戻しません。

プロシージャを続行できません。

ユーザーの処置: プロシージャ内の許可されないコマ

ンドを除去して、ストアード・プロシージャを再実行してください。

sqlcode: -1134

sqlstate: 38003

SQL1135N データベースの作成時に、無効なセグメント数が指定されました。

説明: セグメント数に指定された値が範囲外です。有効範囲は 1 から 256 です。

ユーザーの処置: セグメント数を指定し直して、もう一度データベースを作成してください。

SQL1136N データベースの作成時に、無効なデフォルト表スペース・エクステント・サイズ (dft_extentsize) が指定されました。

説明: デフォルト表スペース・エクステント・サイズ (dft_extentsize) に指定された値が範囲外です。有効範囲は 2 から 256 です。

ユーザーの処置: 表スペース・エクステント・サイズを訂正して、やり直してください。

SQL1137W データベース *dbalias* のドロップ時に、データベース・マネージャがデータベース・パスまたはいくつかのコンテナを除去できませんでした。クリーンアップが必要です。

説明: コンテナのリストがアクセスできなかったか、またはコンテナまたはデータベース・ディレクトリーの除去中に障害が発生しました。

クラスター・マネージャを使用している場合、DB2 データベース・マネージャが指定のデータベース別名からのコンテナ・パスをクラスター・マネージャ構成から除去することに失敗したときに、このエラーが戻されることがあります。クラスター・マネージャからのエラー・メッセージは、db2diag ログ・ファイルに記録されます。

ユーザーの処置: システム管理コンテナ (ディレクトリー)、およびデータベース管理ファイル・コンテナを、オペレーティング・システム・コマンドを使用して、手操作で除去することが必要になる可能性があります。デバイス・コンテナを解放するには、担当の IBM サービス担当者に連絡してください。

New Log Path 構成パラメーターでログ・ディレクトリーが変更されている場合は、ログ・ディレクトリー・ファイル・システムを手操作でアンマウントし、ログおよびデータベース・ディレクトリーを除去してください。

クラスター・マネージャを使用している場合、問題を

訂正してクラスター・マネージャ構成からパスを除去してください。

- db2diag ログ・ファイルを見て、クラスター・マネージャからのエラー・メッセージがあるかどうかを調べます。
- db2diag ログ・ファイル内のクラスター・マネージャ・エラー・メッセージに応じて、クラスター・マネージャの構成からパスを除去できない原因となった問題を修正します。
- クラスター・マネージャのツールおよびユーティリティーを使用して、このデータベースのコンテナ・パスをクラスター・マネージャ構成から除去します。

SQL1138W ユニーク索引 *name* が据え置きユニーク・チェックをサポートするためにマイグレーションされました。新規索引は作成されませんでした。

説明: CREATE INDEX 処理が既存の索引で試行されました。索引が据え置きユニーク・チェックをサポートするためにまだマイグレーションされていなかったため、このマイグレーションは実行されませんでした。

ユニーク索引のマイグレーションされたフォーマットでは、複数行更新において、各行の更新時ではなく更新ステートメントの最後に索引列のユニーク性チェックを実行できます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

sqlcode: +1138

sqlstate: 01550

SQL1139N 表スペースの合計サイズが大きすぎます。

説明: 現在の表スペースの合計サイズが大きすぎます。REGULAR 表スペースのサイズは 0x0100 0000 (16777216) ページに制限され、LARGE および TEMPORARY 表スペースのサイズは 0x7FFF FEFF (2147483391) ページに制限されています。

ユーザーの処置: 詳細については管理通知ログをチェックしてください。表スペースのサイズを減らして、SQL ステートメントを訂正してください。

sqlcode: -1139

sqlstate: 54047

SQL1140W コスト・カテゴリー *cost-category* で、*estimate-amount1* プロセッサ秒の見積もられたプロセッサ・コスト (*estimate-amount2* サービス単位) が、*limit-amount* サービス単位のリソース制限

警告しきい値を超えています。

説明: 動的 INSERT、UPDATE、DELETE、または SELECT SQL ステートメントの準備の結果、リソース限定表 (RLST) に指定された警告しきい値を超えるコスト見積もりが発生しました。

この警告は、DB2 のコスト・カテゴリー値が "B" であり、RLST の RLF_CATEGORY_B 列に指定されたデフォルトのアクションが警告の発行である場合にも発行されます。

estimate_amount1

準備された INSERT、UPDATE、DELETE または SELECT ステートメントが実行される場合のコストの見積もり (プロセッサ秒)。

estimate_amount2

準備された INSERT、UPDATE、DELETE または SELECT ステートメントが実行される場合のコストの見積もり (サービス単位)。

cost-category

この SQL ステートメントについての DB2 のコスト・カテゴリー。可能な値は A または B です。

limit-amount

RLST の RLFASUWARN 列に指定されている警告しきい値 (サービス単位)。

動的 INSERT、UPDATE、DELETE、または SELECT ステートメントの準備は成功しました。準備されたステートメントを実行して、RLST に指定された ASUTIME 値を超える場合は、SQLCODE -905 が発行される可能性があります。

ユーザーの処置: 警告を扱って、ステートメントの実行を許可するか、またはステートメントを実行しないことを決定するためのアプリケーション・ロジックが存在することを確認してください。コスト・カテゴリー値が "B" であるためにこの SQLCODE が返された場合は、ステートメントがパラメーター・マーカを使用しているか、または参照される表と列について使用できない統計が存在する可能性があります。管理者が、参照された表でユーティリティ RUNSTATS を実行したことを確認してください。また、ステートメントが実行されるときに UDF が呼び出されるか、または INSERT、UPDATE、または DELETE ステートメントについては、変更された表にトリガーが定義されている可能性もあります。このステートメントについて DSN_STATEMNT_TABLE または IFCID 22 レコードをチェックして、この SQL ステートメントがコスト・カテゴリー "B" になった理由を判別してください。

SQL ステートメントがプロセッサ・リソースを多く使用しすぎていることが警告の原因である場合は、ステ

ートメントが効率良く実行されるために書き直してみてください。もう 1 つのオプションとして、RLST の警告しきい値を上げることを管理者に要請することもできます。

sqlcode: +1140

sqlstate: 01616

SQL1141N 操作は完了しましたが、エラーまたは警告がありました。この詳細は結果ファイル *file-name* にあります。このファイルは、**db2inspf** ユーティリティを使ってフォーマットする必要があります。

説明: パーティション化データベース環境では、ファイル拡張子はデータベース・パーティションのノード番号に対応しています。ファイルは、DIAGPATH データベース・マネージャー構成パラメーターで指定されているディレクトリーにあります。

ユーザーの処置: db2inspf ユーティリティを使って、検査データ結果ファイル *file-name* をフォーマットします。

SQL1142N ファイル *file-name* はすでに使用中のため、この操作は完了できません。

説明: INSPECT コマンドに指定されたファイル名を使用する既存ファイルが存在します。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: まだ使用されていない別のファイル名を使ってコマンドを再サブミットしてください。または、既存ファイル *file-name* を除去して、コマンドを再サブミットしてください。

パーティション化データベース環境では、ファイル拡張子はデータベース・パーティションのノード番号に対応しています。ファイルは、DIAGPATH データベース・マネージャー構成パラメーターで指定されているディレクトリーにあります。

SQL1143N ファイル *file-name* でファイル・エラーが発生したために、操作を完了できません。

説明: 入出力エラーのために、ファイルにアクセスできませんでした。システムが、ファイルのオープン、読み取り、または書き込みを行うことができません。ファイルが不完全であるか、またはディスクがフルの可能性あります。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 可能であれば、SQLCA からすべてのエラー情報を記録してください。追加情報については、診断ログ・ファイルを調べてください。

データベース・パーティション環境では、ファイル拡張子はデータベース・パーティションのノード番号に対応します。ファイルは、DIAGPATH データベース・マネージャ構成パラメーターで指定されているディレクトリにあります。

sqlcode: -1143

sqlstate: 5UA0A, 5UA0B

SQL1144N 索引の作成に失敗したため、現在のトランザクションはロールバックされました。

sqlcode =*sqlcode*。

説明: 同じトランザクションで、最後に残った表の索引がドロップされ、同じ表について新しい索引が作成されました。この索引の作成は、エラー *sqlcode* で失敗したか、または ROLLBACK TO SAVEPOINT ステートメントによりロールバックされました (*sqlcode*=0)。最後に残った表の索引の索引ドロップがまだコミットされていない場合、索引作成のロールバックは、正常に完了できません。このいずれの場合も、トランザクション全体がロールバックされます。索引は、ALTER TABLE ステートメントのユニーク・キーまたは主キーの制約をドロップまたは追加しても、作成またはドロップできる点に留意してください。

ユーザーの処置: 可能であれば、トランザクション全体がロールバックされるのを避けるために、同じ表について新しい索引を作成する前に、索引のドロップをコミットしてください。 *sqlcode* が 0 でない場合は、その *sqlcode* のメッセージで、訂正アクションを確認してください。ロールバック・トランザクションのすべてのステートメントを再発行する必要があります。 *sqlcode* がゼロで、索引が savepoint 有効範囲内でドロップされている場合は、同じ表に対する古い索引をドロップする前に、新しい索引を作成するためにステートメントの再配列が必要な場合があります。ユニーク・キーまたは主キーのドロップと追加が同じ ALTER TABLE ステートメントにある場合は、2 つのステートメントで行う必要があります。1 つ目のステートメントで ADD を実行し、2 つ目のステートメントでドロップを実行します。

sqlcode: -1144

sqlstate: 40507

SQL1145N ゲートウェイ・コンセントレーターを使用している場合、PREPARE ステートメントはサポートされていません。理由コード：*reason-code*

説明: 以下のいずれかの *reason-code* によって、ステートメントが失敗しました。

- 1 ゲートウェイ・コンセントレーターが ON に

なっている場合、組み込み SQL にある動的に準備されたステートメントはサポートされていません。この構成では、クライアントが CLI アプリケーションである場合のみ、動的に準備されたステートメントがサポートされています。

- 2 ゲートウェイ・コンセントレーターが ON になっている場合、動的に準備された SET ステートメントはサポートされていません。

ユーザーの処置: 理由コードに基づいて、以下のいずれかのアクションを行ってください。

- 1 動的 SQL ステートメントに CLI を使用するようにアプリケーションを変更するか、または静的 SQL を使用するようにアプリケーションを変更する
- 2 SET ステートメントに EXECUTE IMMEDIATE を使用する

sqlcode: -1145

sqlstate: 560AF

SQL1146N 表 *table-name* に索引がありません。

説明: 索引再編成で指定した *table-name* に索引がありません。

ユーザーの処置: 有効な表名を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1147W TOTALFREESPACE は、MDC 表および ITC 表では無視されます。

説明: 表のフリー・スペースは MDC 表および ITC 表では適正に管理されているため、TOTALFREESPACE ファイル・タイプ修飾子は不必要で、無視されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL1148N 索引をリフレッシュする必要があります。ただし、索引は現在バックアップ・ペンディング状態の表スペースにあり、リフレッシュすることができません。

説明: 索引をリフレッシュする必要があります。ただし、索引は現在バックアップ・ペンディング状態の表スペースにあり、リフレッシュすることができません。

ユーザーの処置: データベースまたは表スペースのバックアップを完了して、照会またはコマンドを再サブミットしてください。

SQL1149N CLP エラー *clp-msg-id*、簡略テキスト *clp-msg-short-text* が戻されました。詳細については、CLP メッセージ資料を参照してください。

説明: CLP エラーが検出されました。*clp-msg-id* 情報を使用して、示された CLP メッセージに該当するメッセージ詳細を検索してください。

ユーザーの処置: 取るべきアクションの詳細については、CLP メッセージ情報を参照してください。

sqlcode: -1149

sqlstate: 5U007

SQL1150N user id パラメーターのアドレスが無効です。

説明: アプリケーション・プログラムが、このパラメーターに無効なアドレスを使用しました。そのアドレスが割り振られていないバッファを指しているか、またはそのバッファ内の文字ストリングに NULL 終止符がありません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なアドレスがアプリケーション・プログラムで使用され、入力ストリングが NULL で終了していることを確認してください。

SQL1151N Load REMOTEFETCH メディア・オプションが無効です。理由コード: *reason-code*。

説明: ロード・ユーティリティは REMOTEFETCH メディア・タイプを使用して呼び出されましたが、1 つ以上の指定された引数が非互換または無効です。これは以下のいずれかの理由によります。

- 1 サーバーが REMOTEFETCH メディア・タイプをサポートしていません。
- 2 ソース・データベース名が指定されませんでした。
- 3 *user-id* フィールドが指定されていないのに *password* フィールドが指定されました。
- 4 ソースの *table-name* または *schema* のいずれかのフィールドが一方だけ指定されています。
- 5 ソースの *table-name* とソースの *statement* の両方のフィールドが指定されました。
- 6 ソースの *table-name* とソースの *statement* のいずれのフィールドも指定されていません。
- 7 指定された *isolation-level* が無効です。

8 指定された引数のいずれかが、その引数に適用できる最大サイズを超えています。

9 *SQLU_REMOTEFETCH_ENTRY* API 構造は正しくセットアップされていません。

ユーザーの処置: 各理由コードに対応する応答は、以下のとおりです。

- 1 サーバー・レベルがバージョン 9 以上であることを確認してください。
- 2 ソースの *database-name* が指定されていることを確認してください。このフィールドは必須です。
- 3 *user-id* フィールドを指定せずに *password* フィールドを指定しないでください。
- 4 ソース照会の代わりにソースの *table-name* を指定する場合、ソースの *table-name* と *schema* の両方を指定してあることを確認してください。
- 5 ソースの *table-name* と *schema*、またはソースの *statement* の両方ではなくいずれかを指定してください。
- 6 ソースの *table-name* と *schema* またはソースの *statement* を指定してください。
- 7 指定された分離レベルが正しいかどうか確認してください。
- 8 指定した引数およびその長さトークン (API) がすべて有効であるかを確認してください。
- 9 *SQLU_REMOTEFETCH_ENTRY* API 構造がセットアップされていて、正しく初期化されていることを確認してください。未使用のフィールドは NULL でなければなりません。長さ値を設定する必要があります。

SQL1152N ユーティリティの優先順位が無効です。

説明: 指定された優先順位が、0 - 100 の範囲にありません。

ユーザーの処置: 有効な優先順位を使用して、コマンドを再発行してください。

SQL1153N ユーティリティ ID *utility-ID* が存在しません。

説明: 指定されたユーティリティ ID が見つかりませんでした。無効な ID が指定されているか、またはユーティリティがすでに完了しています。

ユーザーの処置: ユーティリティが存在するか確認し、コマンドを再サブミットしてください。ユーティ

SQL1160N

- dll をロードできません
- 4 機能照会での無効な戻りコード
- 5 機能結果での無効な長さ
- 6 ファイル db2app.dll は cli ドライバーでなかった
- 7 レジストリー・キー・エラー
- 8 ネイティブ・コードと被管理コードの間の構造サイズの不一致
- 9 リモート・デバッグ初期化中のセキュリティ違反。共有メモリー内の無効なセキュリティ記述子、以前から存在するカーネル・オブジェクト、または無効データのいずれかが検出されました。
- 10 IBM.Data.DB2.dll と db2app.dll の間のバージョンの不一致

ユーザーの処置: DB2 のインストールに問題がありました。このコンピューターに DB2 がインストールされたのが初めてである場合、インストール・ログで考えられるエラーを検討し、「コントロール パネル」アプレットの「プログラムの追加と削除」から DB2 の修復を実行してください。インストール・ログのデフォルトのロケーションは、インストールを実行したユーザーの My Documents¥DB2LOG フォルダーです。このようにしても問題が解決しない場合、IBM サポートに連絡して、このメッセージに関連した理由コードとインストール・ログを提出してください。

SQL1160N DOS *network-protocol* TSR がロードされていません。

説明: 指定された通信プロトコルの終了後常駐型 (TSR) ネットワーク・ドライバはロードされていません。TSR はネットワーク通信を使用する前にロードされている必要があります。

ユーザーの処置: 指定した通信プロトコルの TSR が正常にロードされていることを確認した後で、もう一度アプリケーションを実行してください。

SQL1161W 調整処理が失敗しました。DataLink 列が DB2 DataLinks Manager で定義されていません。詳細については管理通知ログをチェックしてください。

説明: 表の DataLink 列に関するメタデータ情報が DB2 DataLinks Manager にありません。調整処理が失敗しました。表はデータ・リンク調整不可 (DRNP) 状態になります。

ユーザーの処置: 表をデータ・リンク調整不可 (DRNP) 状態から解除するには、「管理ガイド」の「データ・リンク調整不可 (DRNP) 状態から表を解除する」に記載されている手順にしたがってください。

SQL1162W 調整処理が失敗しました。例外処理中に DB2 DataLinks Manager が使用できなくなりました。

説明: 表データによって参照されている DB2 DataLinks Manager の 1 つが、調整の例外処理中に使用できなくなりました。調整処理が失敗しました。表はデータ・リンク調整ペンディング (DRP) 状態になります。

ユーザーの処置: もう一度調整を実行します。

SQL1163N タイプ *ident-type* の ID 名 *ident-type* が長すぎるために、データ・キャプチャーについて表を有効にすることができませんでした。

説明: データ・キャプチャーは、特定の長さを超える ID タイプではサポートされていません。試みられた変更の処理中に、タイプ *ident-type* の ID *ident-name* が長すぎるということがわかりました。データ・キャプチャーを可能にするための ID タイプと最大長は以下のとおりです。

1. 列。データ・キャプチャーを有効にするためには、列名は 128 バイト以下でなければなりません。
2. 表。データ・キャプチャーを有効にするためには、表名は 128 バイト以下でなければなりません。
3. スキーマ。データ・キャプチャーを有効にするためには、スキーマ名は 128 バイト以下でなければなりません。

ユーザーの処置: この表のデータ・キャプチャーを有効にする場合は、問題の ID が、説明に示されている最大サイズを超えていないことを確認してください。そうでない場合は、長い ID 名を使用するために表のデータ・キャプチャーを無効にしてください。

sqlcode: -1163

sqlstate: 42997

SQL1164N SQL ステートメントで使用されているタイプ *type* の **SQLDA** あるいはホスト変数が無効です。理由コード *reason-code*、ホスト変数 /**SQLVAR** 番号 *var-number*。

説明: SQLDA あるいは SQL ステートメントのホスト変数を処理している間にエラーが発生しました。

呼び出しパラメーター・リストはプリコンパイラーで作成されますが、アプリケーション・プログラマーがプリコンパイラーの出力を修正し、アプリケーション・プログラムで SQL で始まる変数名を使用するか、あるいは別の方法で呼び出しパラメーター・リストを上書きする場合には正しくない可能性があります。

また SQLDA がアプリケーションによって直接渡される場合正しく初期化されない可能性があります。

ホスト変数 /SQLDA タイプ:

- 1 入力ホスト変数あるいは SQLDA
- 2 出力ホスト変数あるいは SQLDA

ホスト変数を指定した SQL ステートメントでは、ホスト変数番号を使用してステートメント (あるいはコンパウンド SQL の場合はサブステートメント) の最初からカウントし無効なホスト変数を探し出すことができません。SQLDA を使用したステートメントでは SQLVAR 番号が無効な SQLVAR の検出に使用されます。入力 SQLDA では入力ホスト変数あるいは SQLVAR をカウントするだけです。出力も同様です。この番号の基本は 1 で、すべての理由コードに適用できるわけではないことに注意してください。理由コードは次のように解釈されます。

- 1 SQLDA.SQLN が SQLDA.SQLD より小さい。
- 2 SQLVAR.SQLTYPE が無効である。
- 3 SQLVAR.SQLLEN あるいは SQLVAR2.SQLLONGLEN で指定した長さが SQLVAR.SQLTYPE で与えられた SQL タイプに対して間違っている。
- 4 ラージ・オブジェクト SQLVAR はあるが、SQLDA.SQLDAID の SQLDOUBLED フィールドが '2' に設定されていない。
- 5 入力 varchar が現行の長さ (varchar 自身の長さフィールドから) が最大長より大きくなっているものを提供している。最大長は宣言 (ホスト変数の場合) あるいは SQLVAR.SQLLEN の設定 (ユーザー定義 SQLDA の場合) によって判別されます。
- 6 入力ラージ・オブジェクトの現行の長さ (LOB 自身の長さフィールドあるいは SQLVAR2.SQLDATALEN ポインターで示され

る) が最大長より大きく渡される。最大長は宣言 (ホスト変数の場合) あるいは SQLVAR2.SQLLONGLEN の設定 (ユーザー定義 SQLDA の場合) によって判別されます。

- 7 2 バイト文字ラージ・オブジェクトには SQLVAR2.SQLDATALEN ポインターで示される奇数値があり、これが常にバイトで、DBCLOB に対してもそうである。
- 8 SQLDATA ポインターが無効であるか、あるいは不十分なストレージを示している。
- 9 SQLLIND ポインターが無効であるか、あるいは不十分なストレージを示している。
- 10 SQLDATALEN ポインターが無効であるか、あるいは不十分なストレージを示している。
- 11 入力ホスト変数 /SQLVARS の特定値が現行 SQL ステートメントで予想される。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 示されたエラーについて、アプリケーション・プログラムを調べてください。プログラマーは、プリコンパイラー出力を変更するべきではないことに注意してください。

sqlcode: -1164

sqlstate: 07002

SQL1165W 値がホスト変数のデータ・タイプの範囲外なので、その値をホスト変数に割り当てることができません。

説明: ホスト変数リストへの FETCH、VALUES、または SELECT は、ホスト変数が検索された値を保留するのに十分な大きさでないため、失敗しました。

このステートメント処理は -2 の null 標識を戻し続行しました。

ユーザーの処置: 表定義が現在のものであり、ホスト変数が適切なデータ・タイプであることを確認してください。SQL データ・タイプの範囲については、「SQL リファレンス」を参照してください。

sqlcode: +1165

sqlstate: 01515

SQL1166W ゼロによる除算が試みられました。

説明: 算術式の処理でゼロの除算が発生しました。この警告は、警告の原因となった行とは別の行で戻ってくる場合があります。これは、たとえば、述部での算術式で、または照会がシステム一時表を使用して処理を行っている場合に発生します。null 標識変数が -2 に設定

されているときにはいつでも警告が戻されるために再度発行される可能性があります。

ステートメント処理は続けられ、null を除算式の結果として使用し、null 標識 -2 を戻すことが考えられます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを調べて、問題の原因を判別してください。問題がデータによるものであれば、エラーが発生した時点で処理されていたデータを調べてください。

sqlcode: +1166

sqlstate: 01564

SQL1167W 算術オーバーフロー、またはその他の算術例外が発生しました。

説明: 算術式の処理で算術オーバーフロー、アンダーフロー、あるいは他の算術例外が発生しました。この警告は、警告の原因となった行とは別の行で戻ってくる場合があります。これは、たとえば、述部での算術式で、または照会がシステム一時表を使用して処理を行っている場合に発生します。null 標識変数が -2 に設定されているときにはいつでも警告が戻されるために再度発行される可能性があります。

ステートメント処理は続けられ、null を算術式の結果として使用し、null 標識 -2 を戻すことが考えられます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを調べて、問題の原因を判別してください。問題がデータによるものであれば、エラーが発生した時点で処理されていたデータを調べてください。データ・タイプの有効範囲については、「SQL リファレンス」を参照してください。

sqlcode: +1167

sqlstate: 01519

SQL1168N Load REMOTEFETCH メディア・エラー。理由コード: *reason-code*。

説明: ロード・ユーティリティは、REMOTEFETCH メディアに関連したエラーを検出しました。これは以下のいずれかの理由によります。

1

REMOTEFETCH メディアの引数で指定されたデータベース名への接続ができませんでした。

2

REMOTEFETCH メディアの引数で指定されたソース表の名前は存在しないか、ソース表はアクセス不能です。

3

REMOTEFETCH メディアの引数で指定されたソース照会は PREPARED にできませんでした。

4

ソース表または照会からの結果セットはターゲット表の定義と互換性がありません。

5

ソース表または照会からレコードを取り出し中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: 各理由コードに対応する応答は、以下のとおりです。

1

database-name、userid、および password 引数がすべて正しいかどうか確認してください。

2

table-name が正しいかどうか確認してください。

3

照会が有効かどうか確認してください。

4

ソース表または照会と、ターゲット表に互換性のある列定義があることを確認してください。

5

db2diag ログ・ファイルを調べてエラーの原因を判別してください。

SQL1169N ステートメントの Explain 処理中にエラーが発生しました。理由コード = *reason-code*。

説明: 前に REOPT ONCE を指定してコンパイルされたステートメントの Explain のために Explain 機能が呼び出されましたが、次の理由コードのいずれかのエラーが発生しました。

1. 指定されたステートメントがパッケージ・キャッシュの中に見つかりませんでした。
2. キャッシュに入っているステートメントは、REOPT ONCE を使用してコンパイルされたものではありません。
3. キャッシュに入っているステートメントは、複数の環境で REOPT ONCE を指定してコンパイルされており、固有に識別できません。
4. キャッシュに入っている再最適化ステートメントのための値が見つかりませんでした。

5. Explain 表の列が小さすぎます。 *additional-information* は、スキーマ名、表名、および列名だけでなく、 Explain 機能により生成されたデータを入れるために必要な列サイズを示します。その形式は、 *schema-name.table-name.column-name (recommended-size)* となります。

名前が非常に長い場合、 *additional-information* は切り捨てられる場合があります。db2diag ログ・ファイルには詳細が含まれます。

ユーザーの処置: 理由コードに対応するユーザー応答は、以下のとおりです。

1. 指定されたステートメント・テキストが、パッケージ・キャッシュの中のステートメントのステートメント・テキストと一致していることを確認してください。
2. REOPT ONCE を使用してステートメントを再コンパイルしてください。詳しくは、「コマンド解説書」を参照してください。
3. ステートメントの環境が REOPT ONCE の設定されたユニークな環境であることを確認してください。
4. ステートメントが、元来再最適化の対象となったデータベース・パーティションにおいて、 Explain されていることを確認してください。
5. 必要な列のサイズをご使用の表およびデータベースに収容できるようにするかどうかを決定してください。できるようにする場合、ALTER TABLE ステートメントを使用して列のサイズを増やしてください。

sqlcode: -1169

sqlstate: 560C9

SQL1170N データベース・パーティション *dbpartition* が使用できないため、操作を継続できません。

説明: データベース・パーティション *dbpartition* は使用できません。新規ストレージ・パスが RESTORE コマンドの一部として使用中である場合、あるいは ON DBPARTITIONNUM 節を使用して BACKUP コマンドを実行中である場合に、このエラーが発生します。

ユーザーの処置: データベース・パーティションが使用できるようになった後に、BACKUP または RESTORE コマンドを再サブミットしてください。使用できないデータベース・パーティションが使用できるようにならない場合は、新規ストレージ・パスを指定せずに RESTORE コマンドを再サブミットするか、あるいは BACKUP コマンドからデータベース・パーティションを除いてください。

sqlcode: -1170

sqlstate: 5U013

SQL1171N ストレージ・パスの最大数に達しました。

説明: ストレージ・グループのストレージ・パスの最大数は 128 で、この数に達しました。発行された CREATE DATABASE コマンドまたは ALTER STOGROUP ステートメントに含まれているパスが多すぎるか、データベースでは許可されている最大数をすでに使用しています。

ユーザーの処置: このエラーが CREATE DATABASE コマンドの一部として発生した場合は、指定されたパスが多すぎであったことを示します。ストレージ・パスの数を減らして、コマンドを再発行してください。

このエラーが ALTER STOGROUP ステートメントの一部として発生した場合は、許可最大数より多い数のパスが指定されていたか、または指定されたパスの数とすでにこのストレージ・グループが使用中のパスの数の合計が最大値より大きいかのいずれかです。ALTER ステートメントに指定したストレージ・パスの数を減らして、ステートメントを再サブミットしてください。

sqlcode: -1171

sqlstate: 5U009

SQL1172N 非カタログ・データベース・パーティション上でのリストア操作には、自動ストレージ・パスを指定できません。

説明: パーティション・データベース内の非カタログ・パーティションにリストアする際に、リストア操作にストレージ・パスのリストが指定されました。これはサポートされていません。

ユーザーの処置: ストレージ・パスのリストを指定しないでリストア操作を実行し直すか、またはストレージ・パスの新規リストを使用してカタログ・パーティションをまずリストアしてください。

sqlcode: -1172

sqlstate: 5U010

SQL1173N リストア操作には自動ストレージ・パスを指定する必要があります。

説明: パーティション・データベース内の自動ストレージ・パスのリストを指定したカタログ・パーティションのリストアが直前に試行されましたが、このリストアは失敗しました。カタログ・パーティション上で実行するそれ以降のどのリストア操作にも、自動ストレージ・パスのリストを指定する必要があります。一度ロールフォワード操作を行って、データベースを通常の状態に戻す

SQL1174N

と、データベースはこの制限から解除されます。

ユーザーの処置: 自動ストレージ・パスを指定して、リストア操作をもう一度実行してください。

sqlcode: -1173

sqlstate: 5U011

SQL1174N パス *path* でのデータベース・パーティション式の使用法が無効であるか間違っています。理由コード = *reason-code*。

説明: 指定されたパス *path* で \$N 表記を使用したデータベース・パーティション式が検出されましたが、その使用が許可されていないか、または正しく指定されていません。理由コードは以下のとおりです。

1

データベース・パスの一部としてデータベース・パーティション式が使用され、最初のストレージ・パスとして暗黙的に、または DBPATH ON オプションを使用して明示的に指定されましたが、この方法は許可されていません。

2

データベース・パーティション式はパス内で検出されましたが、構文にエラーがあるため、式を評価できませんでした。

3

データベース・パーティション式が許容範囲外の数値を指定しました。数値が N 引数 (\$[number]N) の前に指定された場合は、数値は 2 から 6 (2 と 6 を含む) です。

ユーザーの処置: データベース・パスからデータベース・パーティション式を除去してください。または、データベース・パスがリストの最初のストレージ・パスから派生している場合は、DBPATH ON オプションを使用してデータベース・パスを明示的に指定してください。ただし、指定するデータベース・パスにはデータベース・パーティション式を含めないようにします。データベース・パーティション式を訂正します。コマンドを再サブミットしてください。

sqlcode: -1174

sqlstate: 5U012

SQL1175I REMOTEFETCH 実行を最適化するため、ロード・パーティション・エージェントの数は小さく変更されました。

説明: ロード・ユーティリティは、REMOTEFETCH 並列処理を最適化するように、パーティション・エー

ジェントの数を自動的に削減しました。

SQL1176N パラメーター *parameter-1* に割り当てられた値とパラメーター *parameter-2* に割り当てられた値は非互換です。

説明: コマンドまたは API のパラメーターに非互換の値が指定されました。

ユーザーの処置: どちらかのパラメーターを変更してコマンドを再サブミットしてください。有効な値について詳しくは、「コマンド・リファレンス」または「API リファレンス」を参照してください。

SQL1177N 現行 DB2 データベース・サーバー環境のルーチン *routine-name* (特定名 *specific-name*) のランタイム実行が失敗しました。

説明: OLE、OLEDB、および CLR ルーチンは、Windows オペレーティング・システム環境にある DB2 データベース・サーバーでのみ作成、実行できます。現行 DB2 データベース・サーバーは Windows オペレーティング・システム環境にありません。このサーバーからルーチン呼び出すことができません。

ユーザーの処置: Windows オペレーティング・システム環境にある DB2 データベース・サーバーで OLE、OLEDB、または CLR ルーチンを作成して、その DB2 データベース・サーバーからルーチン呼び出すことを再試行してください。

sqlcode: -1177

sqlstate: 42997

SQL1178N *object-name* と呼ばれるフェデレーテッド *object-type* は、フェデレーテッド・データベース・オブジェクトを参照していません。

説明: *object-name* で識別されているタイプ *object-type* のオブジェクトは、キーワード FEDERATED を使って定義されていますが、ステートメントの全選択はフェデレーテッド・データベース・オブジェクトを参照していません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: キーワード FEDERATED をステートメントから除去してください。

sqlcode: -1178

sqlstate: 429BA

SQL1179W 呼び出し側がデータ・ソース・オブジェクトについて必要な権限を持っていることを、*object-name* と呼ばれる *object-type* が必要としていると思われる。

説明: *object-name* で識別されているオブジェクトは、データ・ソースに実際のデータが存在するフェデレーテッド・オブジェクト (OLE DB 表関数、フェデレーテッド・ルーチン、フェデレーテッド・ビュー、またはニックネームなど) を参照しています。データ・ソース・データにアクセスしている場合、ユーザー・マッピングおよび許可チェックは、操作を開始したユーザーに基づいています。

object-type が SUMMARY TABLE であれば、操作はマテリアライズ照会表のデータをリフレッシュしています。リフレッシュを行う REFRESH TABLE または SET INTEGRITY ステートメントを呼び出したユーザーに、データ・ソースにある基礎データ・ソース・オブジェクトにアクセスするための権限が必要だと思われる。

object-type VIEW であれば、データ・ソースにある基礎データ・ソース・オブジェクトにアクセスするための権限が、ビューのユーザーに必要なと思われる。

object-type が PROCEDURE、FUNCTION、または METHOD の場合、ルーチンの呼び出し元は、データ・ソースにあるそのルーチンの SQL ステートメントの基礎データ・ソース・オブジェクトへのアクセスに必要な特権を持っていることが要求される可能性があります。

object-type が PACKAGE の場合、アプリケーションのプリコンパイルまたはバインドの結果としてこのメッセージが出されたなら、アプリケーションの呼び出し元は、アプリケーション内のすべての静的 SQL ステートメントのデータ・ソースにおける基礎データ・ソース・オブジェクトへのアクセスに必要な特権を持たなければならない可能性があります。

object-type が PACKAGE の場合、SQL または XQuery プロシージャを作成した結果としてこのメッセージが出されたなら、プロシージャの呼び出し元は、プロシージャ内のすべての静的 SQL ステートメントのデータ・ソースにおける基礎データ・ソース・オブジェクトへのアクセスに必要な特権を持たなければならない可能性があります。

いずれの場合も、データ・ソース・オブジェクトへのアクセスが試行されたときに、許可エラーが発生する可能性があります。

ユーザーの処置: オブジェクトに対する特権を付与するだけでは、データ・ソースからそのデータにアクセスする操作をサポートするのに十分ではない場合があります。基礎データ・ソース・オブジェクトのデータ・ソ

ースで、ユーザー・アクセスを付与する必要がある可能性があります。

object-type が PACKAGE の場合、アプリケーションのプリコンパイルまたはバインドの結果としてこのメッセージが出されたなら、オプション FEDERATED YES を PRECOMPILE (PREP) または BIND コマンドで指定してください。

object-type が PACKAGE の場合、SQL または XQuery プロシージャを作成した結果としてこのメッセージが出されたなら、オプション FEDERATED YES が含まれるように SQL および XQuery プロシージャのプリコンパイル/バインド・オプションを設定してください。SQL および XQuery プロシージャのプリコンパイル/バインド・オプションを設定するには、レジストリー変数 DB2_SQLROUTINE_PREPOPTS を設定するか、プロシージャ SYSPROC.SET_ROUTINE_OPTS を呼び出します。例えばレジストリー変数を設定するには、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトで以下のコマンドを発行します:

```
db2set DB2_SQLROUTINE_PREPOPTS="FEDERATED YES"
```

sqlcode: +1179

sqlstate: 01639

SQL1180N ルーチン *routine-name* (特定名 *specific-name*) により、OLE エラーが発生しました。HRESULT=*hresult* 診断テキスト: *message-text*

説明: DB2 は、ユーザー定義関数 (UDF) またはストアド・プロシージャ *routine-name* (特定名 *specific-name*) の OLE オートメーション・サーバーとの通信を試行中、OLE エラー・コードを受け取りました。HRESULT *hresult* が戻された OLE エラー・コードで、*message text* が検索されたエラー・メッセージです。

以下に、エラー・メッセージ、HRESULTS、および可能性のある原因のリストの一部を示します。エラー・メッセージ・テキストは OLE によって変更される可能性があります。新規のエラー・コードが OLE によって追加される場合もあります。

不明なインターフェース (0x80020001):

指定の OLE オブジェクトは IDispatch インターフェースをサポートしません。

タイプの不一致 (0x80020005):

SQL データ・タイプの 1 つ以上のものでメソッド引数のデータ・タイプと一致しません。

SQL1181N

不明な名前 (0x80020006):

指定された OLE オブジェクトの指定されたメソッド名が見つかりません。

無効なパラメーター数 (0x8002000E):

メソッドに渡された引数の数が、メソッドの受け入れる引数の数と違っていません。

無効なクラス・ストリング (0x800401F3):

指定の ProgID あるいは CLSID が無効です。

クラスが登録されていない (0x80040154):

CLSID が正しく登録されません。

アプリケーションが見つからない (0x800401F5):

ローカル・サーバー EXE が見つかりません。

クラスの DLL が見つからない (0x800401F8):

処理中の DLL が見つかりません。

サーバー実行の失敗 (0x80080005):

OLE オブジェクトの作成ができません。

ユーザーの処置: 特殊用語の意味を含む、完全な資料については、「OLE プログラマー参考書」を参照してください。

sqlcode: -1180

sqlstate: 42724

SQL1181N ルーチン *routine-name* (特定名 *specific-name*) で、記述 *message-text* と共に例外が発生しました。

説明: ユーザー定義関数 (UDF) またはストアド・プロシージャ *routine-name* (特定名 *specific-name*) で例外が発生しました。メッセージ・テキストには、ルーチンによって返された例外のテキスト記述が示されています。

ユーザーの処置: ユーザーは例外の意味を理解する必要があります。ルーチンの作成者に連絡してください。

sqlcode: -1181

sqlstate: 38501

SQL1182N ユーザー定義関数 *function-name* が指定された OLE DB provider のデータ・ソース・オブジェクトを初期化できませんでした。 **HRESULT=hresult** 診断テキスト:
message-text

説明: 指定された OLE DB provider の OLE DB データ・ソース・オブジェクトをインスタンス化または初期化できませんでした。 *hresult* は返された OLE DB エラー・コードで、*message-text* は検索されたエラー・メッセージです。

以下に HRESULTS および可能性のある原因のリストの一部を示します。

0x80040154

クラス (OLE DB provider) が登録されていません。

0x80040E73

指定された初期化ストリングが指定に準拠していません。

0x80004005

指定外のエラー (初期化中)。

ユーザーの処置: OLE DB provider の正しい登録と、接続ストリング内のパラメーターの初期化を確認します。OLE DB コア・コンポーネント内のデータ・リンク API 接続ストリング構文と HRESULT コードの完全な資料については、Microsoft OLE DB Programmer's Reference and Data Access SDK を参照してください。

sqlcode: -1182

sqlstate: 38506

SQL1183N ユーザー定義関数 *function-name* が指定された OLE DB provider から OLE DB エラーを受け取りました。
HRESULT=hresult 診断テキスト:
message-text

説明: 指定された OLE DB provider が OLE DB エラー・コードを返しました。 *hresult* は返された OLE DB エラー・コードで、*message-text* は検索されたエラー・メッセージです。

以下に HRESULTS および可能性のある原因のリストの一部を示します。

0x80040E14

コマンドに、1 つ以上のエラーが入っていました。たとえば、パススルー・コマンド・テキストの構文エラーです。

0x80040E21

エラーが発生しました。たとえば、入力した columnID は無効です (DB_INVALIDCOLUMN)。

0x80040E37

指定された表が存在しません。

ユーザーの処置: HRESULT コードの完全な資料については、Microsoft OLE DB Programmer's Reference and Data Access SDK を参照してください。

sqlcode: -1183

sqlstate: 38506

SQL1184N 1 つ以上の EXPLAIN 表が、現行バージョンの DB2 を使用して作成されていません。

説明: DB2EXMIG を使用して表がマイグレーションされるか、または DB2 の現行バージョンの EXPLAIN.DDL CLP スクリプトを使用して表がドロップまたは再作成されるまで、EXPLAIN はこれらの表に挿入できません。

ユーザーの処置: DB2EXMIG を使用して表をマイグレーションするか、または DB2 の現行バージョンの EXPLAIN.DDL CLP スクリプトを使用して表をドロップまたは再作成してください。コマンドを再発行してください。

sqlcode: -1184

sqlstate: 55002

SQL1185N FEDERATED value が、パッケージのバインドで誤って使用されています。

説明: value が NO であれば、パッケージ内の少なくとも 1 つの静的 SQL ステートメントに、ニックネーム、または OLE DB 表関数か OLE DB プロシージャのいずれかへの参照が入っています。この場合、パッケージをバインドするために FEDERATED YES を指定しなければなりません。

value が YES であれば、パッケージ内の静的 SQL ステートメントに、ニックネーム、または OLE DB 表関数か OLE DB プロシージャのいずれかへの参照が入っていません。この場合、パッケージをバインドするために FEDERATED NO を指定しなければなりません。

パッケージは作成されていません。

ユーザーの処置: 正しい FEDERATED オプションを指定してください。

SQL1186N タイプ *object-type*、名前 *object-name* のオブジェクトが、FEDERATED 節が指定されずに、フェデレーテッド・オブジェクトになるように変更されているか、またはフェデレーテッド・オブジェクトとして作成されています。

説明: *object-name* で識別されているオブジェクトは、データ・ソースに実際のデータが存在するフェデレーテッド・オブジェクト (OLE DB 表関数、フェデレーテッド・ルーチン、フェデレーテッド・ビュー、またはニックネームなど) を参照しています。

非フェデレーテッド・ビューが変更中であり、全選択が現在、直接または間接的にフェデレーテッド・データベ

ース・オブジェクトを参照している場合、FEDERATED を指定する必要があります。

フェデレーテッド・ビューが変更中であり、全選択がまだ、直接または間接的にフェデレーテッド・データベース・オブジェクトを参照している場合、NOT FEDERATED を指定することはできません。

マテリアライズ照会表を作成中であり、全選択が、直接または間接的にフェデレーテッド・データベース・オブジェクトを参照している場合、NOT FEDERATED を指定することはできません。

SQL ルーチンを作成中であり、そのルーチンが、直接または間接的にフェデレーテッド・データベース・オブジェクトを参照している場合、NOT FEDERATED を指定することはできません。

ユーザーの処置: 非フェデレーテッド・ビューをフェデレーテッド・ビューにするよう変更するには、FEDERATED 節を指定してください。

フェデレーテッド・ビューへ継続するフェデレーテッド・ビューを変更するには、NOT FEDERATED 節を指定しないでください。

全選択がフェデレーテッド・データベース・オブジェクトを直接または間接的に参照するマテリアライズ照会表を作成するには、NOT FEDERATED 節を指定しないでください。

フェデレーテッド・データベース・オブジェクトを直接または間接的に参照する SQL ルーチンを作成するには、NOT FEDERATED 節を指定しないでください。

sqlcode: -1186

sqlstate: 429BA

SQL1187W データベースは正常に作成またはアップグレードされましたが、詳細デッドロック・イベント・モニター *event-monitor-name* の作成中に、エラーが発生しました。詳細デッドロック・イベント・モニターは作成されませんでした。

説明: CREATE DATABASE または UPGRADE DATABASE コマンドは、作成またはアップグレードされたデータベースに関する詳細デッドロック・イベント・モニターを作成できませんでした。

ユーザーの処置: 必要であれば、詳細デッドロック・イベント・モニターを作成してください。

SQL1188N SELECT または VALUES ステートメントの列 *src-col-num* が、表列 *tgt-col-num* と非互換です。ソース列は *sqltype* *src-sqltype*、ターゲット列は *sqltype* *tgt-sqltype* です。

説明: ソース列とターゲット列が非互換です。SELECT または VALUES ステートメントの列の順序に誤りがあるか、または METHOD P または METHOD N 指定の順序に誤りがある可能性があります。

ユーザーの処置: ソース列とターゲット列が互換性を持つようにコマンドを訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1189N 指定された LOAD METHOD は、指定されたファイル・タイプには無効です。

説明: 指定されたファイル・タイプに、無効な METHOD が指定されました。

ユーザーの処置: 別の METHOD を使ってコマンドを再サブミットしてください。

SQL1190N LOAD ユーティリティは、SQLCODE *sqlcode*、SQLSTATE *sqlstate*、およびメッセージ・トークン *token-list* を検出しました。

説明: LOAD ユーティリティは、SQLCODE *sqlcode* のエラーを検出して、処理を停止しました。

ユーザーの処置: メッセージ・リファレンスで、SQLCODE *sqlcode* を参照してください。必要な訂正アクションを実行して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1191N METHOD パラメーターに指定された列 *col-spec* は存在しません。

説明: 列 *col-spec* は、照会の結果に存在しません。

ユーザーの処置: 無効な列指定を訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1192W 現在のファイル・タイプに指定された入力ソースの数が多すぎます。許可される最大数は、*max-input-sources* です。

説明: 指定されたファイル・タイプでは、単一ロードに対して *max-input-sources* を超える入力ソースを指定することは許可されません。

ユーザーの処置: *max-input-sources* を超えない入力ソースの数を指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1193I ユーティリティは、SQL ステートメント *statement* からのデータのロードを開始しています。

説明: これは、SQL ステートメントからのロードが開始されたことを示す通知メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL1194W ターゲット列番号 *col-num* に対応する行 *row-num* の値が無効です。この行は拒否されています。

説明: ターゲット列 *col-num* に対応する値がその列に有効な値でないため、行番号 *row-num* は拒否されました。

次のような理由が考えられます。

- 数値がそのターゲット列の最小または最大範囲内に入っていません。
- ターゲット列に対して文字値が長すぎます。

ユーザーの処置: 入力値を調べてください。必要に応じて、ターゲット列 *col-num* をより適切に定義された列で置き換えて新規表を定義し、処理を繰り返してください。

SQL1195N ツール・カタログ・データベース *database-name* の作成または初期化が *server-name* で失敗しました。SQLCODE = *SQLCODE*。

説明: ツール・カタログ・データベース *database-name* の作成または初期化が *server-name* で失敗しました。SQLCODE = *SQLCODE*。

ユーザーの処置: 操作から戻された SQLCODE についてユーザー応答を参照してください。

SQL1196W バックアップが正常に完了しました。ただし、1 つ以上のデータ・リンク・ファイル・マネージャーに接触できません。このバックアップ・イメージのタイム・スタンプは *backup-image-timestamp* です。

説明: バックアップが正常に完了しました。バックアップ処理中、1 つ以上のデータ・リンク・ファイル・マネージャーが使用できませんでした。そのデータ・リンク・ファイル・マネージャーが利用できるようになったときに、そのデータ・リンク・ファイル・マネージャーから追加の検査が必要です。

ユーザーの処置: バックアップ処理に利用できなかったデータ・リンク・ファイル・マネージャーを立ち上げてください。すべてのデータ・リンク・ファイル・マネー

ジャーへの接触が可能になると、DB2 は自動的にこのバックアップ・イメージの最終検査を完了します。

SQL1197N コマンド *command* のキーワード *keyword* に対して無効な値が指定されました。

説明: *command* に指定された *keyword* 値は無効です。数値の場合は、値が定義された範囲外にある可能性があります。それ以外のタイプの場合は、指定された値が、定義されている有効な値のセットにありません。

ユーザーの処置: *command* の解説資料から、有効な値を判別し、適切な変更を行ってください。このエラーが API によって戻された場合は、*command* API の解説資料から、該当する API オプションに有効な値を判別し、適切な変更を行ってください。

SQL1198N このコマンドは、現在の下位レベルのクライアント/サーバー構成ではサポートされていません。理由コード = *reason-code*。

説明: 入力されたコマンドは、V8 より前のクライアントまたはサーバーに関連する、現在の構成ではサポートされていません。可能性のある理由コードは、以下のとおりです。

1

V8 以降のゲートウェイを介した、V8 より前のクライアントから DB2 サーバーへの両方向スクロール・カーソルはサポートされていません。

2

V8 以降のゲートウェイを介した、V8 より前のクライアントから DB2 サーバーへのユーティリティ・コマンドはサポートされていません。

3

V8 以降のゲートウェイを介して V8 より前のサーバーにアクセスすることはサポートされていません。

4

V8 以降のクライアントから V8 より前のサーバーへのユーティリティ・コマンドはサポートされていません。

5

V8 より前のクライアントは、表、表関数、および対応コード・ページがデータベース・コード・ページと同じである CCSID 値で作成されたプロシージャにのみアクセスできます。

6

V9 より前のクライアントから V9 以降のサーバーへの表スペース・ポイント・イン・タイム・ロールフォワード・コマンドはサポートされていません。こうしたコマンドの機能の中には、クライアント・サイドで実行されるものがあるからです。V9 より前のクライアントは、V9 以降のサーバーに接続されると、こうした操作を実行できません。

7

バックレベル API は現在のクライアント/サーバー構成ではサポートされていません。

98

V8 以降のクライアントから V8 より前のサーバーへの操作はサポートされていません。

99

V8 より前のクライアントから V8 以降のサーバーへの操作はサポートされていません。

ユーザーの処置: 理由コードに基づいたアクションは、以下のとおりです。

1

ゲートウェイを介して下位レベルのクライアントから両方向スクロール・カーソルを使用しない。クライアント/サーバーの直接接続を使用するか、またはクライアントを互換性のあるリリースにアップグレードしてください。

2

ゲートウェイを介して下位レベルのクライアントからユーティリティ・コマンドを発行しない。クライアント/サーバーの直接接続を使用するか、またはクライアントを互換性のあるリリースにアップグレードしてください。

3

互換性のあるレベルのゲートウェイを使用するか、または(ゲートウェイを使用しない、)サーバーへの直接接続を構成する。

4

互換性のあるクライアント・レベルを使用して V8 ユーティリティ・コマンドを発行する。

5

表、表関数、および対応コード・ページがデータベース・コード・ページとは異なる CCSID 値で作成されたプロシージャにアクセスするには、V8 以降のバージョンを使用してください。

6

V9.1 クライアントを使用してポイント・イン・タイム・コマンドへのロールフォワードを再サブミットします。あるいは、ログの末尾まで (その時点まででなく) ロールフォワードします。

7

現在のクライアント/サーバー構成を続けるには、より新しいバージョンの API を使用してください。

98

互換性のあるクライアント・レベルを使用してこのコマンドを発行するか、またはサーバーのコード・レベルをアップグレードする。

99

互換性のあるサーバー・レベルを使用してこのコマンドを発行するか、またはクライアントのコード・レベルをアップグレードする。

sqlcode: -1198

sqlstate: 42997

SQL1200N **object** パラメーターが無効です。

説明: COLLECT DATABASE STATUS 関数呼び出しの **object** パラメーターに指定された値が無効です。有効値は以下のとおりです。

SQL_DATABASE

状況が単一データベースに対して収集されることを示します。

SQL_DRIVE

状況が単一パス上のすべての LOCAL データベースに対して収集されることを示します。

SQL_LOCAL

状況がすべての LOCAL データベースに対して収集されることを示します。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: **object** パラメーターを訂正して、もう一度 COLLECT DATABASE STATUS 関数呼び出しを行ってください。

SQL1201N **status** パラメーターが無効です。

説明: COLLECT DATABASE STATUS 関数呼び出しの **status** パラメーターに指定された値が無効です。有効値は以下のとおりです。

SQL_SYSTEM

システム状況が収集されます。

SQL_DATABASE

システム状況とデータベース状況が収集されます。

SQL_ALL

システム状況、データベース状況、ユーザー状況が収集されます。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: **status** パラメーターを訂正して、もう一度 COLLECT DATABASE STATUS 関数呼び出しを行ってください。

SQL1202N 状況がまだ集められていません。

説明: GET NEXT DATABASE STATUS BLOCK 関数呼び出しまたは FREE DATABASE STATUS RESOURCES 関数呼び出し内の **handle** パラメーターに指定された値が無効です。ハンドルは、COLLECT DATABASE STATUS 関数呼び出しから返される正の関数値でなければなりません。

これは、処理から行なわれた 2 度目の COLLECT DATABASE STATUS 呼び出しです。最初の COLLECT DATABASE STATUS 呼び出しは終了し、そのハンドルは使用できません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: **handle** パラメーターを訂正して、もう一度 COLLECT DATABASE STATUS 関数呼び出しを行ってください。

SQL1203N このデータベースには、接続しているユーザーがありません。

説明: データベースのユーザー状況が要求されましたが、そのデータベースにはユーザーが接続されていません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: データベース名と接続状況を確認してください。現在使用されているデータベースを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1204N コード・ページ *code-page* とテリトリー・コード *territory-code* のいずれか、またはその両方が、インストールされているデータベース・マネージャーのバージョンでサポートされていません。

説明: このバージョンのデータベース・マネージャーは、アクティブ・コード・ページまたはテリトリー・コ

ード、あるいはその両方をサポートしていません。

コマンドは処理されません。

このバージョンのデータベース・マネージャーがサポートしているアクティブ・コード・ページとテリトリー・コードを選択してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 必要に応じて、問題を切り分けて要求拒否の原因となったデータ・ソースを突き止め、フェデレーテッド・サーバーとデータ・ソースの両方でサポートされているアクティブ・コード・ページとテリトリー・コードを選択してください。

ユーザーの処置: 現在のプログラムを終了して、オペレーティング・システムに戻ってください。

sqlcode: -1204

sqlstate: 22522

SQL1205N 指定されているコード・ページ *code-page* かテリトリー・コード *territory* のいずれか、またはその両方が無効です。

説明: このバージョンの DB2 は、Create Database コマンドによって指定されたアクティブ・コード・ページかテリトリー・コード、またはその両方をサポートしていません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: DB2/2 でサポートされている有効なコード・ページとテリトリー・コードの対に関する詳細については、「コマンド・リファレンス」の中で Create Database コマンドを参照してください。

SQL1206N PRUNE LOGFILE はこのデータベース構成ではサポートされません。

説明: PRUNE LOGFILE は以下の場合にはサポートされません。

1. データベースがリカバリー可能モードではない。データベースがリカバリー可能モードであるのは、LOGARCHMETH1 が DISK、TSM、VENDOR、USEREXIT、または LOGRETAIN に設定されているか、または LOGARCHMETH2 が DISK、TSM、または VENDOR が設定されている場合です。
2. アクティブなログ・ファイル・パスがロー・デバイスに設定されている。

ユーザーの処置: このデータベースに PRUNE LOGFILE コマンドを発行しないでください。

SQL1207N コミュニケーション・マネージャー構成ファイル *name* が見つかりません。

説明: CATALOG NODE コマンドに指定されたコミュニケーション・マネージャー構成ファイル名が、指定されたパスまたはデフォルト・ドライブの CMLIB ディレクトリーに見つかりませんでした。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 正しいコミュニケーション・マネージャー構成ファイル名とパスを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1208W ロード・ユーティリティーのパフォーマンスは、使用可能メモリーによって制限される場合があります。

説明: ロード・ユーティリティーは、要求されたメモリーすべてを割り振ることができません。操作の成功には影響はありませんが、パフォーマンスは低下する可能性があります。ロード・ユーティリティーに使用できるメモリーは、DATA BUFFER ロード・オプションの値または util_heap_sz データベース構成パラメーターの値のいずれかにより決定されます。

ユーザーの処置: ふさわしければ、将来ロード・ユーティリティーを呼び出すとすのために、メモリー限度を増やしてください。

SQL1209W CATALOG NODE 関数に指定された *partner_lu* 名 *name* が存在していません。名前は作成されました。

説明: CATALOG NODE 関数に指定された論理パートナー装置名が、デフォルト・ドライブの CMLIB ディレクトリーに存在するコミュニケーション・マネージャー構成ファイルにありません。

示された名前が LU プロファイルが作られました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL1210W 1 つ以上の構成ファイル・パラメーターにデフォルト値が返されました。

説明: 1 つ以上の DOS リクエスター/WINDOWS リクエスター構成ファイル・パラメーターに、デフォルト値が使用されます。パラメーターが、DOS リクエスター/WINDOWS リクエスター構成ファイルに定義されていないか、またはこの構成ファイルがオープンできないか、またはファイルの読み取り中にエラーが発生した可能性があります。

ユーザーの処置: DOS リクエスター/WINDOWS リクエスター構成ファイルが適切なパスに存在し、パラメー

SQL1211N • SQL1217N

ターが明示的に定義されていることを確認してください。

SQL1211N コンピューター名 *name* が無効です。

説明: カタログ・コマンドの NPIPE プロトコル構造で指定されたコンピューター名は無効です。コンピューター名のサイズは 15 文字またはそれ以下でなくてはなりません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: コンピューター名が有効であるか確認し、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1212N インスタンス名 *name* が無効です。

説明: カタログ・コマンドで指定されたこのインスタンス名は無効です。インスタンス名のサイズは 8 文字またはそれ以下でなくてはなりません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: インスタンス名が有効であるか確認し、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1213N パスワード変更 LU 名 *name* が無効です。

説明: CATALOG コマンドの APPN プロトコル構造に指定されたパスワード変更 LU (LU) 名が無効です。

パスワード変更 LU 名はリモート SNA LU 名であり、1 から 8 文字でなければなりません。有効な文字は A から Z、a から z、0 から 9、#、@ および \$ です。最初の文字は、英字または特殊文字 #、@、または \$ でなければなりません。小文字は、システムによって大文字に変更されます。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: パスワード変更 LU 名に指定された文字を確認してください。

有効なパスワード変更 LU 名を指定してコマンドを再サブミットしてください。

SQL1214N トランザクション・プログラム名 *name* が無効です。

説明: CATALOG コマンドの APPN プロトコル構造に指定されたトランザクション・プログラム (TP) 名が無効です。

TP 名はリモート SNA アプリケーション TP 名であり、1 から 64 文字でなければなりません。有効な文字は A から Z、a から z、0 から 9、#、@ および \$ です。最初の文字は、英字または特殊文字 #、@、または \$ でなければなりません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: TP 名に指定された文字を確認してください。

TP 名を指定してコマンドを再サブミットしてください。

SQL1215N LAN アダプター・アドレス *address* が無効です。

説明: CATALOG コマンドの APPN プロトコル構造に指定された LAN アダプター・アドレスが無効です。

LAN アダプター・アドレスはリモート SNA LAN アダプター・アドレスであり、12 の 16 進数でなければなりません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: LAN アダプター・アドレスを確認してください。

有効な LAN アダプター・アドレスを指定してコマンドを再サブミットしてください。

SQL1216N GRAPHIC データと GRAPHIC 関数は、このデータベースではサポートされていません。

説明: データベースのコード・ページは、GRAPHIC データをサポートしません。データ・タイプ GRAPHIC、VARGRAPHIC、LONG VARGRAPHIC、および DBCLOB が、このデータベースには無効です。GRAPHIC リテラルと VARGRAPHIC スカラー関数が、このデータベースには無効です。

ステートメントは処理できません。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: この状態はデータ・ソースによっても検出できます。

ユーザーの処置: 有効なデータ・タイプを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

sqlcode: -1216

sqlstate: 56031

SQL1217N REAL データ・タイプはターゲット・データベースによってサポートされていません。

説明: SQL 操作は入力または出力変数として REAL のデータ・タイプ (単精度浮動小数点数) を使用していません。REAL データ・タイプがこの要求のターゲット・データベースにサポートされていません。

このステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ご使用のアプリケーション内の SQL

データ・タイプ DOUBLE と一致する宣言を使用する SQL データ・タイプ REAL に相当するホスト変数の宣言を置換してください。

sqlcode: -1217

sqlstate: 56099

SQL1218N 現在、バッファ・プール *buffpool-num* で使用できるページはありません。

説明: 現在、バッファ・プールのすべてのページが使用中です。別のページの使用の要求が失敗しました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: バッファ・プールは、すべてのデータベース処理またはスレッドにページ作成できるほど大きくはありません。バッファ・プールが小さすぎるか、またはアクティブ処理またはアクティブ・スレッドが多すぎます。

再実行すれば、このステートメントが正常である可能性があります。このエラーがしばしば発生する場合は、以下のいずれかのまたはすべてのアクションがこの失敗を防ぐのに役立ちます。

1. バッファ・プールのサイズを大きくする。
2. データベース・エージェントおよび/または接続の最大数を減らす。
3. 並列処理の最大数を減らす。
4. このバッファ・プールの表スペースのプリフェッチ・サイズを減らす。
5. いくつかの表スペースを別のバッファ・プールへ移動させる。

sqlcode: -1218

sqlstate: 57011

SQL1219N 専用仮想メモリの割り振りができないために、要求が失敗しました。

説明: 要求を処理するための十分な専用仮想メモリをインスタンスが割り振れませんでした。これは、共有メモリ割り振りが他の (関連のない) 処理で行われた結果として発生する場合があります。

ユーザーの処置: 問題の解決法は、以下のとおりです。

- マシンで実行されているアプリケーション、特に共有メモリを大量に使用するアプリケーションを停止してください。

sqlcode: -1219

sqlstate: 57011

SQL1220N データベース・マネージャーが、共有メモリの割り振りに失敗しました。

説明: データベース・マネージャーはさまざまな時にメモリの割り振りおよび割り振り解除を行います。指定のイベントが発生すると (アプリケーションの接続時など)、メモリが特定のメモリ領域に割り振られる場合があります。あるいは、構成の変更に応じてメモリの再割り振りが行われる場合もあります。

通常、以下の問題のうちの 1 つが原因でデータベース・マネージャーが操作を実行できない場合に、このメッセージが返されます。

- データベース・マネージャーのメモリ・リソースが不十分である
- 環境メモリ・リソースが不十分である

具体的には、以下のタイプのメモリ・リソースの割り振りまたは構成に問題がある場合に、このメッセージが返されることがあります。

- インスタンス・メモリ
- システムで使用できる物理メモリの量
- システムに割り振られている共有メモリ ID の数
- 共有メモリ・セグメントのサイズ
- システムで使用できるページングまたはスワッピング・スペースの量

ユーザーの処置: 現行のメモリ構成を調べて、このメッセージに対応します。

- データベース・マネージャーの構成パラメーター `instance_memory` を `AUTOMATIC` に設定してください。
- データベース・マネージャーとシステムで実行中の他のプログラムの要求を満たすだけのメモリ・リソースが使用できることを確認してください。
- Linux 32-bit の場合、カーネル・パラメーター `shmmax` を 256MB に増やしてください。Linux 64-bit の場合、カーネル・パラメーター `shmmax` を 1GB に増やしてください。
- 必要に応じて、システムを使用しているほかのプログラムを停止し、システム・リソースを解放してそれをデータベース・マネージャーが使えるようにします。

SQL1221N アプリケーション・サポート層ヒープを割り振ることができません。

説明: アプリケーション・サポート層ヒープを割り振ることができませんでした。このエラーの原因としては、データベース・マネージャー、またはデータベース・マネージャーの処理が試みられていた環境に、十分なメモリ・リソースが存在しなかった可能性があります。

SQL1222N

この問題の原因となるメモリー・リソースには、以下が含まれます。

- システムに割り振られている共有メモリー ID の数
- システムで使用できるページングまたはスワッピング・スペースの量
- システムで使用できる物理メモリーの量

ユーザーの処置: 以下の中から 1 つ以上を行ってください。

- データベース・マネージャーとシステムで実行中の他のプログラムの要求を満たすだけのメモリー・リソースが使用できることを確認してください。
- *aslheapsz* 構成パラメーターを減らしてください。
- 該当する場合は、システムを使用している他のプログラムを停止してください。

sqlcode: -1221

sqlstate: 57011

SQL1222N その要求の処理に使用できる十分なストレージが、アプリケーション・サポート層ヒープにありません。

説明: アプリケーション・サポート層ヒープの中の使用可能メモリーをすべて使いきってしまいました。

ユーザーの処置: *aslheapsz* 構成パラメーターを増やしてください。

sqlcode: -1222

sqlstate: 57011

SQL1224N エラーまたは強制割り込みがあったために、データベース・マネージャーが新しい要求を受け付けることができないか、進行中のすべての要求処理を終了したか、指定された要求を終了しました。

説明: このメッセージが返される理由は数多くあります。例えば、次のような理由があります。

クライアント/サーバー構成の問題

- TCP/IP プロトコルを使用しているクライアント/サーバー環境: クライアントで TCP/IP サービス名に割り当てられたポート番号は、サーバーのポート番号と異なります。このエラー状態は、フェデレーテッド・サーバーまたはデータ・ソースによって検出される可能性があります。

データベース・マネージャー・エージェントが使用不可であった

- データベース・サーバーでデータベース・マネージャーが停止していたか、または始動していませんでした。
- 管理者が、データベース・エージェントをシステムから強制的に切断しました。
- データベース・マネージャーのプロセスが異常終了しました。

ユーザー ID の権限が不十分であった

- ユーザー ID は、SYSADM 権限を持つ別のユーザーが FORCE QUIESCE コマンドを発行した際に強制的にシステムから切断されました。FORCE QUIESCE コマンドにより、データベースまたはインスタンスに対する CONNECT QUIESCE 権限がないか、または CONNECT QUIESCE 権限を持つグループに属していないユーザーはすべてシステムから強制的に切断されます。
- Windows オペレーティング・システム環境: Extended Security が有効でしたが、ユーザー ID は DB2USERS グループと DBADMINS グループいずれのメンバーでもありませんでした。

データベース・ディレクトリーの競合

- 同じデータベース名および同じデータベース別名を持つ 2 つのデータベース (1 つはローカル、もう 1 つはリモート) がありました。
- ローカル・データベースが、リモート・データベースとしてカタログされていました。
- 1 つ以上のデータベースをカタログする方法が変更された後も、キャッシュされたデータベース・カタログ情報のコピーをデータベース・マネージャーが引き続き使用しているために変更が有効になりませんでした。

構成済みのデータベース限度またはシステム・リソース限度に達した

- アプリケーションは、*max_log* データベース構成パラメーターまたは *num_log_span* データベース構成パラメーターで許可された量よりも多くのトランザクション・ログ・スペースを使用していました。
- アプリケーションの要求を処理するコーディネーター・エージェントが不足していました。WITH HOLD カーソルでロックを保持し、コンセントレーター・モードで実行するためのキューに入れられているアプリケーションがあると、それらのロックを待機するためにアクティブ・エージェントが停滞してしまう可能性があります。

- 接続が、CONNECTIONIDLETIME しきい値に指定された時間よりも長い間アイドル状態でした。
 - 接続での作業単位が UOWTOTALTIME しきい値に指定された時間よりも長く継続し、しきい値アクションが FORCE APPLICATION に指定されていたため、接続が終了しました。
 - 照会が、SQL_ATTR_QUERY_TIMEOUT ステートメント属性に指定された時間よりも長くかかりました。
- データベースまたはインスタンスが静止された場合は、以下のいずれかのアクションを実行します。
 - データベースまたはインスタンスを静止解除します。
 - CONNECT QUIESCE 権限を持つグループにユーザー ID を追加します。

要求された機能がサポートされていない

- restart light モードのメンバーへの接続が試みられました。

ユーザーの処置: データベースに再接続してください。

引き続き接続に失敗する場合は、データベース管理者の支援を受けて以下のトラブルシューティング・ステップを実行してください。

1. フェデレーテッド環境のみ: フェデレーテッド・データ・ソースによってエラーが返されているのか、あるいはフェデレーテッド・データベース・サーバーによってエラーが返されているのかを判別します。
 2. 以下のように、クライアント/サーバー構成が正しいことを確認します。
 - a. 通信サブシステム (ネットワーク・ケーブル、ネットワーク・カード、TCP/IP などの通信プロトコルなど) が動作しているかどうかを確認します。
 - b. TCP/IP プロトコルを使用しているクライアント/サーバー環境: サーバーのポート番号と同じポート番号を、クライアントの TCP/IP サービス名に割り当てます。
 3. 以下のように、データベース・マネージャーが稼働中であることを確認します。
 - a. DB2 データベース・マネージャーが稼働中であるかどうかを確認します。
 - b. データベース・マネージャー・プロセスの異常な中断または終了が生じた形跡がないかどうか、db2diag ログ・ファイルを調べます。
 - c. データベース・マネージャーが停止されている場合、またはデータベース・マネージャー・エージェントに異常な中断または終了が生じている形跡が診断ログにある場合は、データベース・マネージャーを再始動します。
 4. 以下のように、ユーザー ID に権限が付与されていることを確認します。
 - a. ローカル・データベース・ディレクトリーおよびシステム・カタログの内容を、データベース構成と比較します。特に、以下の問題について調べます。
 - 同じ名前または別名を持つ 2 つのデータベースが存在しないことを確認します。
 - ローカル・データベースがローカルとしてカタログされ、すべてのリモート・データベースがリモートとしてカタログされていることを確認します。
 - b. データベースをカタログする方法を変更した後は、データベース・マネージャー・インスタンスを停止し、再始動します。
5. 以下のように、データベース・ディレクトリーの競合を解消します。
6. 以下のように、構成およびアプリケーションに必要な変更を加えて、データベースまたはオペレーティング・システムの制限を超えないようにします。

db2diag ログ・ファイルを調べて超過している制限を判別した後、以下の変更を 1 つ以上行います。

 - 以下の変更を 1 つ以上行うことにより、トランザクション・ログ・スペースの使い過ぎのためにアプリケーションが強制的に切断される可能性を小さくします。
 - もっと頻繁にコミット・ステートメントを発行するようアプリケーションを変更してください。
 - max_log データベース構成パラメーターまたは num_log_span データベース構成パラメーターを引き上げます。
 - 以下の変更を 1 つ以上行うことにより、コーディネーター・エージェントの不足のためにアプリケーションが強制的に切断される可能性を小さくします。
 - max_connections の値と比較して、max_coordagents の値をさらに大きくします。

SQL1225N

- WITH HOLD カーソルの使用を減らします。
 - CONNECTIONIDLETIME しきい値を引き上げるにより、アイドル状態の時間の超過が原因で接続がクローズされる可能性を小さくします。
 - UOWTOTALTIME しきい値を引き上げるにより、作業単位の実行にかかる時間の超過が原因で接続がクローズされる可能性を小さくします。
 - SQL_ATTR_QUERY_TIMEOUT ステートメント属性を引き上げるか、または QueryTimeoutInterval CLI/ODBC 構成キーワードを使用することにより、照会がタイムアウトになる可能性を小さくします。
 - AIX の 32 ビット環境: 以下の変更を 1 つ以上行うことにより、AIX 共有メモリーが不足する可能性を小さくします。
 - TCP/IP を使用するループバック・データ・ソースとしてデータベースをカタログします。
 - アプリケーションがローカル・プロトコルで複数のコンテキストを使用している場合は、アプリケーション内の接続数を減らすか、または別のプロトコル (TCP/IP など) に切り替えます。
 - アプリケーションが EXTSHM パラメーターをサポートしており、このパラメーターを使用するのに十分なメモリー・リソースがある場合は、EXTSHM パラメーターを設定します。
7. サポートされない使用シナリオを回避するため、必要に応じて以下のようにアプリケーションを変更します。
- restart light モードの DB2 メンバーへの接続を回避するために、restart light モードではないメンバーを指定するか、または特定のメンバーを指定しないで、データベース・マネージャーが適切なメンバーに接続をルーティングできるようにします。

sqlcode: -1224

sqlstate: 55032

SQL1225N オペレーティング・システムの処理、スレッド、またはスワップ・スペースの限界に達したために、要求は失敗しました。

説明: オペレーティング・システムの処理、スレッド、またはスワップ・スペースの限界に達しました。管理通知ログでこの問題に関する詳細情報を調べてください。

ユーザーの処置: 管理通知ログを調べて、限界に達したものを判別し、その限界値を大きくしてください。

sqlcode: -1225

sqlstate: 57049

SQL1226N クライアント接続の最大数がすでに開始されています。

説明: クライアント接続数は既に、システム構成ファイルでインスタンスに対して定義された最大値と同数になっています。

このエラーは、メンテナンス操作で使用されるシステム主導型接続において報告されることがあります。そのような接続の上限は、アクティブなユーザー・ワークロードの割合によって決まります。これ以上接続ができなくなると、これらの操作は後で自動的に再試行されます。

この操作は処理できません。

ユーザーの処置: 他のアプリケーションがデータベースから切断するまでお待ちください。1 つ以上のアプリケーションを並行して実行する必要がある場合は、max_connections の値を増やしてください。クライアント接続の試みでエラーが返された場合は、接続をサポートするのに十分なメモリーがある限りいくつでも接続できるように、max_connections を AUTOMATIC に設定することを考慮することもできます。max_connections の値が max_coordagents の値よりも大きい場合は、コンセントレーター機能がオンになります。

sqlcode: -1226

sqlstate: 57030

SQL1227N 列 *column* のカタログ統計 *value* は、ターゲット列の範囲外か、フォーマットが無効か、または他の統計との関係において矛盾があります。理由コード = *code*。

説明: 更新可能カタログに指定された統計の値またはフォーマットは、無効であるか、範囲外であるか、または矛盾しています。値、範囲、およびフォーマットに対する最も一般的なチェックは以下のとおりです (*code* に対応):

1

数値統計は -1 または ≥ 0 でなければなりません。

2

パーセントを表す数値統計 (たとえば、CLUSTERRATIO) は、0 と 100 の間でなければなりません。

3

HIGH2KEY、LOW2KEY に関連する規則は、以下のとおりです。

- HIGH2KEY、LOW2KEY の値のデータ・タイプは、それに対応するユーザー列と同じデータ・タイプでなければなりません。
- HIGH2KEY、LOW2KEY の値の長さは、33 またはターゲット列のデータ・タイプの最大長より短くなければなりません。
- 対応する列に 3 つ以上の異なる値が存在する場合は、常に HIGH2KEY が > LOW2KEY でなければなりません。列に 3 つ未満の異なる値が存在する場合は、HIGH2KEY が LOW2KEY と同じでもかまいません。

4

PAGE_FETCH_PAIRS に関連する規則は、以下のとおりです。

- PAGE_FETCH_PAIRS 統計の個々の値は、ブランク区切り文字によって分離されていなければなりません。
- 単一の PAGE_FETCH_PAIR 統計には、正確に 11 対が存在しなければなりません。
- CLUSTERFACTOR が > 0 の場合は、常に有効な PAGE_FETCH_PAIRS 値でなければなりません。
- PAGE_FETCH_PAIRS 統計の個々の値は、19 桁より大きくてはならず、最大整数値 (MAXINT = 9223372036854775807) より小さくなければなりません。
- PAGE_FETCH_PAIRS のバッファー・サイズ項目は、昇順の値でなければなりません。また、PAGE_FETCH_PAIRS 項目のいずれのバッファー・サイズの値も、32 ビット・プラットフォームの場合は MIN(NPAGES, 1048576)、64 ビット・プラットフォームの場合は MIN(NPAGES, 2147483647) 以下でなければなりません。ここで NPAGES は、対応する表のページ数です。
- AVGPARTITION_PAGE_FETCH_PAIRS の "fetches" 項目は、NPAGES より少ない個別の fetches 項目を持たずに、降順の値でなければなりません。また、AVGPARTITION_PAGE_FETCH_PAIRS 項目の "fetch" サイズの値は、対応する表の CARD (カーディナリティー) 統計以下でなければなりません。
- バッファー・サイズの値が 2 つの連続した列で同じ場合は、ページ・フェッチの値もその両方で同じでなければなりません。

5

CLUSTERRATIO と CLUSTERFACTOR に関連する規則は、以下のとおりです。

- CLUSTERRATIO の有効な値は -1、または 0 と 100 の間です。
- CLUSTERFACTOR の有効な値は -1、または 0 と 1 の間です。
- CLUSTERRATIO または CLUSTERFACTOR のどちらかは、常に -1 でなければなりません。
- CLUSTERFACTOR が正の値の場合は、有効な PAGE_FETCH_PAIR 統計が伴わなければなりません。

6

列 (SYSCOLUMNS の COLCARD 統計) または列グループ (SYSCOLGROUPS の COLGROUPOCARD) のカーディナリティーは、対応する表 (SYSTABLES の CARD 統計) のカーディナリティー以下でなければなりません。

7

ユーザー定義の構造化タイプでは統計がサポートされません。データ・タイプ LONG VARCHAR、LONG VARGRAPHIC、BLOB、CLOB、および DBCLOB の列では、統計は AVGCOLLEN および NUMNULLS に限ってサポートされません。

8

統計が、このエンティティーに関連する別の統計と矛盾しているか、またはこのコンテキストでは無効です。

9

パーティション化されていない表の場合、SYSSTAT.INDEXES 内の表パーティション統計の AVGPARTITION_CLUSTERRATIO、AVGPARTITION_CLUSTERFACTOR、AVGPARTITION_PAGE_FETCH_PAIRS、DATAPARTITION_CLUSTERFACTOR を更新することはできません。

10

AVGPARTITION_PAGE_FETCH_PAIRS に関連する規則は、以下の通りです。

- AVGPARTITION_PAGE_FETCH_PAIRS 統計の個々の値は、ブランク区切り文字によって分離されていなければなりません。

- 単一の AVGPARTITION_PAGE_FETCH_PAIR 統計には、正確に 11 対が存在しなければなりません。
- AVGPARTITION_CLUSTERFACTOR が > 0 の場合は、常に有効な AVGPARTITION_PAGE_FETCH_PAIRS 値でなければなりません。
- AVGPARTITION_PAGE_FETCH_PAIRS 統計の個々の値は、19 桁以下でなければならず、最大整数値 (MAXINT = 9223372036854775807) より小さくなければなりません。
- AVGPARTITION_PAGE_FETCH_PAIRS のバッファ・サイズ項目は、昇順の値でなければなりません。また、AVGPARTITION_PAGE_FETCH_PAIRS 項目のいずれのバッファ・サイズの値も、32 ビット・プラットフォームの場合は MIN(NPAGES, 1048576)、64 ビット・プラットフォームの場合は MIN(NPAGES, 2147483647) 以下でなければなりません。ここで NPAGES は、対応する表のページ数です。
- AVGPARTITION_PAGE_FETCH_PAIRS の "fetches" 項目は、NPAGES より少ない個別の fetches 項目を持たずに、降順の値でなければなりません。また、AVGPARTITION_PAGE_FETCH_PAIRS 項目の "fetch" サイズの値は、対応する表の CARD (カーディナリティー) 統計以下でなければなりません。
- バッファ・サイズの値が 2 つの連続した列で同じ場合は、ページ・フェッチの値もその両方で同じでなければなりません。

11

AVGPARTITION_CLUSTERRATIO と AVGPARTITION_CLUSTERFACTOR に関連する規則は、以下のとおりです。

- AVGPARTITION_CLUSTERRATIO の有効な値は -1、または 0 と 100 の間です。
- AVGPARTITION_CLUSTERFACTOR の有効な値は -1、または 0 と 1 の間です。
- AVGPARTITION_CLUSTERRATIO または AVGPARTITION_CLUSTERFACTOR のどちらかは、常に -1 でなければなりません。
- AVGPARTITION_CLUSTERFACTOR が正の値の場合は、有効な

AVGPARTITION_PAGE_FETCH_PAIR 統計が伴わなければなりません。

12

DATAPARTITION_CLUSTERFACTOR に関連する規則は、以下のとおりです。

- DATAPARTITION_CLUSTERFACTOR の有効な値は -1、または 0 と 1 の間です。

13

AVGCOMPRESSEDROWSIZE に関連する規則は、以下のとおりです。

- AVGCOMPRESSEDROWSIZE の有効な値は -1、または 0 と AVGROWSIZE の間です。

14

AVGROWCOMPRESSIONRATIO に関連する規則は、以下のとおりです。

- AVGROWCOMPRESSIONRATIO の有効な値は -1、または 1 より大きい値です。

15

PCTROWSCOMPRESSED に関連する規則は、以下のとおりです。

- PCTROWSCOMPRESSED の有効な値は -1、または 0 と 100 の間 (0 と 100 を含む) です。

ユーザーの処置: 新しいカタログ統計が、示された範囲、長さ、およびフォーマットのチェック項目を満たしていることを確認してください。

統計に対する更新が、相互関係 (たとえばカーディナリティー) において整合性を持っていることを確認してください。

パーティション化されていない表の場合は、パーティション表に固有の統計列を更新しないでください。

sqlcode: -1227

sqlstate: 23521

SQL1228W DROP DATABASE は完了しましたが、データベース別名またはデータベース名 *name* が *num* ノードに見つかりません。

説明: drop database コマンドは正常に完了しましたが、データベース別名またはデータベース名が見つからないノードがあります。DROP DATABASE AT NODE がこのノードですでに実行されている可能性があります。

ユーザーの処置: これは注意メッセージです。応答は必要ありません。

SQL1229N システム・エラーのため、現在のトランザクションがロールバックされました。

説明: 以下のいずれかが発生しました。

1. メンバー障害または接続障害などのシステム・エラーが発生しました。アプリケーションは直前の COMMIT にロールバックされます。

DB2 ユーティリティー関数の場合は、次のような動作となります。

インポート

アプリケーションがロールバックされます。 COMMITCOUNT パラメーターを使用した場合、操作が直前のコミット・ポイントにロールバックします。

Reorg

操作がアポートし、再実行する必要があります。

再配分

操作は打ち切られますが、正常に終了している操作もある可能性があります。「続行」オプションで要求を再度出すと、失敗した時点から操作を再始動します。

ロールフォワード

操作がアポートし、データベースはロールフォワード・ペンディング状態のままです。コマンドを再実行してください。

バックアップ/リストア

操作がアポートし、再実行する必要があります。

2. FCM (高速コミュニケーション・マネージャー) 通信に割り当てられたサービス・ポート番号は、DB2 インスタンスのすべてのメンバーにおいて同じではありません。すべてのメンバーのサービス・ファイルをチェックし、ポートが同じであることを確認してください。ポートは次のフォーマットを使用して定義されました。

```
DB2_<instance>      xxxx/tcp
DB2_<instance>_END  xxxx/tcp
```

<instance> は DB2 インスタンス名、xxxx はポート番号です。これらのポート番号が DB2 リモート・クライアント・サポートに使用されていないことを確認してください。

ユーザーの処置:

1. 要求を再試行してください。エラーが残る場合、管理通知ログでこの問題に関する詳細情報を調べてください。このエラーが最も多く発生する理由は、メ

ンバー障害のため、システム管理者に連絡して援助してもらうことが必要な場合があります。

db2nodes.cfg ファイルに定義されているネット名とホスト名が異なる環境では、このエラーはネット名インターフェースで障害が発生することによる症状である可能性があります。これは、複数パーティション・データベース環境と DB2 pureCluster 環境の両方に当てはまります。

2. すべてのメンバーにおいて同じになるように、サービス・ポートを更新し、要求を再実行してください。

SQLCA の 6 番目の sqlerrd フィールドが、メンバー障害を検出したメンバー番号を示します。障害を検出したメンバーでは、障害が発生したメンバーを示すメッセージは db2diag ログ・ファイルに置かれます。

sqlcode: -1229

sqlstate: 40504

SQL1230W 指定されたエージェント ID の中に、強行できないものが少なくとも 1 つありました。

説明: Force コマンドに指定されたエージェント ID の中に、強行できないものが少なくとも 1 つありました。この警告の原因としては、以下が考えられます。

- 存在しないエージェント ID、または無効なエージェント ID が指定されました。
- エージェント ID の収集と Force コマンドの発行までの間に、エージェントがデータベース・マネージャーから切断されました。
- エージェント ID が実行できない並列エージェントに対して指定されました。

ユーザーの処置: 存在しないエージェント ID、または無効なエージェント ID を指定した場合は、有効なエージェント ID を使用して、コマンドを再発行してください。

SQL1231N 無効な強制カウントが指定されました。

説明: Force コマンドの count パラメーターに指定された値が有効ではありません。指定する値は、正の整数または SQL_ALL_USERS でなければなりません。0 の値はエラーになります。

ユーザーの処置: count の値を訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1232N 無効な強制モードが指定されました。

説明: Force コマンドの mode パラメーターに指定された値が有効ではありません。Force コマンドでは、非同期モードのみがサポートされています。このパラメーターは、値 SQL_ASYNCCH にセットされなくてはなりません。

ユーザーの処置: mode を SQL_ASYNCCH に設定してコマンドを再サブミットしてください。

SQL1233N このデータ・タイプ、節、またはスカラー関数の使用は、Unicode データベースでのみサポートされています。

説明: 以下の事柄は、Unicode データベースでのみサポートされています。

- NCHAR、NVARCHAR、および NCLOB データ・タイプ。
- フォーマット UX'hex-digits' を使用している UCS-2 16 進定数を指定している。
- NCHAR、NVARCHAR、NCLOB、TO_NCHAR、TO_NCLOB、および EMPTY_NCLOB スカラー関数。
- VARCHAR スカラー関数の最初の引数としてグラフィック式を指定する。
- VARGRAPHIC スカラー関数の 2 番目の引数が指定されている場合に、最初の引数としてグラフィック式を指定する。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: Unicode データベースでのみ使用可能なデータ・タイプ、節、またはスカラー関数を除去してください。

sqlcode: -1233

sqlstate: 560AA

SQL1234N 表スペース *tablespace-name* を LARGE 表スペースに変換できません。

説明: REGULAR DMS 表スペースのみ、LARGE DMS 表スペースに変換できます。システム・カタログ表スペース、SMS 表スペース、および TEMPORARY 表スペースは、LARGE 表スペースに変換できません。

ユーザーの処置: SELECT TBSPACE, TBSPACETYPE, DATATYPE FROM SYSCAT.TABLESPACES WHERE TBSPACE = '*tablespace-name*' を発行して、表スペースの属性を確認してください。表スペースはシステム・カタログ表スペースであってはならず (TBSPACE を 'SYSCATSPACE' にすることはできない)、むしろ DMS 表スペースでなければならず (TBSPACETYPE が 'D' で

ある)、また REGULAR 表スペースでもなければなりません (DATATYPE が 'A' である)。

sqlcode: -1234

sqlstate: 560CF

SQL1235N 表スペース *tablespace-name* は、表 *table-name* により LARGE 表スペースへの変換が制限されています。

説明: このパーティション表は、複数の REGULAR な DMS 表スペース内にデータ・パーティションを持っています。表スペースには、LARGE 表スペースに変換できるように、パーティション表のすべてのデータ・パーティションが含まれている必要があります。

ユーザーの処置: パーティション表の表スペースを正常に変換するには、以下のようになります。

1. パーティション表のデータ・パーティションを含む各表スペースは 1 つを除いて、これらの表スペース内のデータ・パーティションをパーティション表からデタッチします。デタッチ・アクションをコミットします。
2. ALTER TABLESPACE ステートメントの CONVERT TO LARGE オプションを使用して、これらの各表スペースを変換します。各ステートメントをコミットします。
3. パーティション表の残りのデータ・パーティションを含む表スペースを変換します。このアクションをコミットします。
4. REORG INDEXES ALL FOR TABLE *table-name* ALLOW NO ACCESS を使用するか、パーティション表を再編成して、パーティション表上の索引を再ビルドします。
5. データ・パーティションのデタッチによって作成された新しい表をそれぞれ再編成します。
6. 各表をパーティション表に再接続します。

sqlcode: -1235

sqlstate: 560CF

SQL1236N REORG コマンドが失敗しました。ID *index-id* を持つ索引はまだラージ RID をサポートしていないため、表 *table-name* は新規ページを割り振ることができません。

説明: この表がある表スペースは、ALTER TABLESPACE ステートメントの CONVERT TO LARGE 節によって LARGE 表スペースに変換されました。表上に以前から存在しているすべての索引を再編成

するか再ビルドしてラージ RID をサポートするまでは、表自体がラージ RID をサポートできません。この表の将来の拡大をサポートできるように、索引を再編成または再ビルドする必要があります。

ユーザーの処置: 索引は、REORG INDEXES ALL FOR TABLE table-name コマンドの再ビルド・オプションを使用して再編成できます。パーティション化された表の場合は、ALLOW NO ACCESS を指定する必要があります。別の方法としては、すべての索引を再ビルドするだけでなく、ページあたり 255 行より多い行数を表がサポートできるようにするかたちで、表を再編成できます (INPLACE 節を指定しない REORG TABLE)。

sqlcode: -1236

sqlstate: 55066

SQL1237W 表スペース *tblspace-name* を **REGULAR** から **LARGE** に変換中です。この表スペース内の表の索引を再編成または再ビルドして、ラージ RID をサポートする必要があります。

説明: 変換中の表スペースは (COMMIT の後)、REGULAR 表スペースの記憶容量より大きい容量をサポートすることができます。REGULAR 表スペースでのデータ・ページの最大ページ番号は 0x00FFFFFF です。表が 0x00FFFFFF より大きいページ番号をサポートするには、表上の索引を再編成または再ビルドする必要があります。

ユーザーの処置: 「DB2 SQL リファレンス」の ALTER TABLESPACE ステートメントに関する説明に、CONVERT TO LARGE オプションを使用する場合のベスト・プラクティスが示されています。将来 0x00FFFFFF より大きいページ番号が表に割り振られたときに障害が起きないようにするために、事前の対策として推奨事例にしたがひ、この表スペース内にあるすべての表のすべての索引を再編成または再ビルドしておくことをお勧めします。

sqlcode: +1237

sqlstate: 01686

SQL1238N クライアントに戻すよう指定された結果セットが無効です。理由コード = *reason-code*。

説明: CREATE PROCEDURE (ソース) ステートメント内の WITH RETURN TO CLIENT 節により指定された結果セットは無効です。可能性のある理由コードは、以下のとおりです。

- 1 データ・ソースが Microsoft SQL Server、Sybase、または Informix である場合、

CREATE PROCEDURE (ソース) ステートメント内の WITH RETURN TO CLIENT 節の結果セットのうち、戻されたセットにある位置番号により指定された結果セットは 1 ではありません。

- 2 データ・ソースが Oracle である場合、CREATE PROCEDURE (ソース) ステートメント内の WITH RETURN TO CLIENT 節の結果セットのうち、戻されたセットの中の最大の位置番号は、データ・ソースにある REF CURSORS の最大数より大きいです。

ユーザーの処置: 理由コードに基づいたアクションは、以下のとおりです。

- 1 結果セットのうち、戻されたセットの中で 1 以外のすべての位置番号への参照を除去してください。
- 2 結果セットのうち、戻されたセットの中で、データ・ソースにある REF CURSORS の最大数より大きいすべての位置番号への参照を除去してください。

sqlcode: -1238

sqlstate: 560CI

SQL1239N バージョン 9.5 以前の DB2 データベース・サーバーでは、pureXML データ・ストア・フィーチャーは単一パーティション・データベースでのみ使用できます。

説明: バージョン 9.5 以前の DB2 データベース・サーバーでは、XML データ・ストア・フィーチャーは、単一のデータベース・パーティションを持つデータベースでのみ使用できます。データ・タイプ XML の列の定義、XML スキーマ・リポジトリ・オブジェクトの登録、XQuery 式などの機能は、パーティション・データベース環境内では使用できません。

ユーザーの処置: バージョン 9.5 以前の DB2 データベース・サーバーの場合、複数のデータベース・パーティションを持つデータベースでは、XML 入力を受け入れる関数に XML データを入力し、関数の出力をデータベースに保管するか、またはアプリケーションに戻すことができます。この場合、pureXML ストレージの機能を使用するには、データベース・パーティション機能を使用されていない個別のインスタンスに新規のデータベースを作成する必要があります。同様に、データベース・パーティション機能を使用するには、pureXML ストレージ機能を使用されていないデータベースを使用するか、あるいは個別のパーティション・データベース環境で新規のデータベースを作成する必要があります。

sqlcode: -1239

sqlstate: 42997

SQL1240N 静止状態の最大数に達しました。

説明: すでに 5 つの処理によって静止されている表スペースに対して、静止状態の取得が試みられました。

ユーザーの処置: いずれかの処理が静止状態を解放するのを待って、もう一度やり直してください。

SQL1241N データベースの作成時に、無効な値が *tbs-name* 表スペースに指定されました。属性は *string* です。

説明: 表スペース属性の値が範囲外です。create database api に使用されている sqletsdesc 構造のフォーマットについては、DB2 インフォメーション・センター (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2luw/v9>) を参照してください。識別された属性は、この構造のフィールド名です。

ユーザーの処置: create database 要求を訂正してください。

SQL1242N 使用されているコンテキストで、XML フィーチャーはサポートされていません。理由コード = *reason-code*。

説明: XML フィーチャーがサポートされていないコンテキストで使用しようとしたため、ステートメントは処理できません。*reason-code* は、以下のコンテキストを示します。

1

バージョン 9.5 以前の DB2 データベース・サーバーの場合、XML データ・タイプの列は、ディメンションによって編成されている表ではサポートされません。

2

バージョン 9.5 以前の DB2 データベース・サーバーの場合、XML データ・タイプの列は、範囲パーティション表ではサポートされません。

3

データ・タイプ XML の列は、既存のタイプ 1 索引を持つ表に追加できません。バージョン 9.7 以降、タイプ 1 索引は使用されなくなり、タイプ 2 索引に置き換わります。

4

分散キーは XML 列を持つ表では定義できません。

5

データ・タイプ XML の列は、INSTEAD OF トリガーのターゲットであるビューではサポートされていません。

6

データ・タイプ XML の遷移変数への参照はトリガー定義ではサポートされていません。

7

XML データ・タイプの列を含む表に対して XML 列のドロップ操作を行う場合、1 つの ALTER TABLE ステートメントを使って表のすべての XML 列をドロップする必要があります。

バージョン 9.5 以前の DB2 データベース・サーバー上の、XML データ・タイプの列を含む表の場合、REORG の推奨対象となる操作を ALTER TABLE ステートメントで指定することはできません。

8

列定義にオプションがない場合に限り、データ・タイプ XML の列がニックネーム定義に関連したラッパーによってサポートされます。そのような列は、データ・ソースから戻された XML 文書の内容を参照します。

9

関数内のコンパウンド SQL (コンパイル済み) ステートメント、トリガー、またはコンパウンド SQL (インライン) ステートメント内の XML データ・タイプまたは値への参照は許可されていません。XML は、プロシージャー内のコンパウンド SQL (コンパイル済み) ステートメントでのみサポートされています。

100

パーティション・データベース環境では、XML 列を含む表は、データベース・カタログ表を含むデータベース・パーティション (IBMCATGROUP データベース・パーティション) でのみサポートされます。

101

DB2 バージョン 9.7 より前では、ADD DBPARTITIONNUM コマンドおよび REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION GROUP コマンドは、XML 列を含む表が入っ

たデータベース・パーティション・グループではサポートされていません。

102

パーティション・データベース環境では、アノテーション付き XML スキーマ分解は、データベース・カタログ表を含むデータベース・パーティション (IBMCATGROUP データベース・パーティション) でのみサポートされます。

103

パーティション・データベース環境では、以下に示す XML 関連コマンドは、データベース・カタログ表を含むデータベース・パーティション (IBMCATGROUP データベース・パーティション) でのみサポートされます。

- COMPLETE XMLSCHEMA
- REGISTER XMLSCHEMA
- ADD XMLSCHEMA DOCUMENT
- REGISTER XSROBJECT

104

パーティション・データベース環境では、XML データを処理するアプリケーションはデータベース・カタログ表を含むデータベース・パーティション (IBMCATGROUP データベース・パーティション) に接続する必要があります。

ユーザーの処置: 理由コードに基づいたアクションは、以下のとおりです。

1

バージョン 9.5 以前の DB2 データベース・サーバーの場合、ディメンションによって編成されている表に定義された列に対して、XML データ・タイプを使用しないでください。

2

バージョン 9.5 以前の DB2 データベース・サーバーの場合、範囲パーティション表に定義された列に対して XML データ・タイプを使用しないでください。

3

ALTER TABLE コマンドを発行してタイプ XML の列を追加する前に、CONVERT パラメーターを指定して REORG INDEXES ALL コマンドを使用することにより、表に既に存在する索引をタイプ 2 索引に変換してください。

4

分散キーと XML 列の両方を持たないようにするため、表定義を変更してください。これを行

うには、CREATE TABLE ステートメントで DISTRIBUTE BY 節 (または PARTITIONING KEY 節) を除去するか、XML データ・タイプのすべての列を除去します。ALTER TABLE ステートメントでは、タイプ XML の列を追加する前に分散キーをドロップするか、分散キーを追加する前にすべての XML 列をドロップします。

5

データ・タイプ XML の列を持つビューを INSTEAD OF トリガーのターゲットとして指定しないでください。

6

トリガー定義に、データ・タイプ XML の遷移変数を使用しないでください。

7

XML データ・タイプの複数の列を含む表に対しては、どの XML 列もドロップしないか、あるいは 1 つの ALTER TABLE ステートメントを使って表のすべての XML 列をドロップしてください。

バージョン 9.5 以前の DB2 データベース・サーバーの場合、REORG 推奨の変更が ALTER TABLE ステートメントに含まれていれば、それらをすべて除去してください。

8

ニックネーム定義の中で、列オプションが指定されている XML タイプの列を確認します。正しくないそれぞれの列定義について、データ・タイプを変更するか、すべての列オプションを除去してください。

9

XML データ・タイプまたは値参照をコンパウンド SQL (コンパイル済み) ステートメントから除去するか、またはコンパウンド SQL (コンパイル済み) ステートメントを SQL プロシージャに組み込んでください。

100

XML 列を含む表を作成するには、IBMCATGROUP データベース・パーティションで表を作成してください。

101

以下のいずれかの方法で、この理由コードに応答します。

- XML 列を含む表が入ったデータベース・パーティション・グループに新しいデータベ

ス・パーティションを追加しようとしたためにこのメッセージが返された場合、その新しいデータベース・パーティションを、XML 列を含む表が入っていないデータベース・パーティション・グループに追加してください。

- XML 列を含む表が入ったデータベース・パーティション・グループ全体にデータを再配分しようとしてこのメッセージが返された場合、応答は不要です。XML 列を含む表の入ったデータベース・パーティション・グループ全体へのデータの再配分は、サポートされていません。

102

パーティション・データベース環境でアノテーション付き XML スキーマ分解を使用して XML 文書を分解するには、データベース・カタログ表を含むデータベース・パーティション (IBMCATGROUP データベース・パーティション) で分解を実行してください。

103

XML 関連のアクションを実行するには、IBMCATGROUP データベース・パーティションに必要なコマンドを実行してください。

104

XML データを処理するには、アプリケーションをカタログ・パーティション (IBMCATGROUP データベース・パーティション) に接続してください。

sqlcode: -1242

sqlstate: 42997

SQL1243W DB2 バージョン 8 データベースの SYSTOOLS.DB2LOOK_INFO db2look 操作表のドロップが失敗しました。

説明: UPGRADE DATABASE コマンドは、DB2 バージョン 8 データベースに SYSTOOLS.DB2LOOK_INFO という db2look 操作表があるかどうかを調べ、存在する場合にはこの表をドロップします。データベースが同じ名前の表を所有している場合でも、列定義が異なる場合には表のドロップ・コマンドは失敗します。

ユーザーの処置: データベースのアップグレードが完了した後、SYSTOOLS.DB2LOOK_INFO 表の定義を確認してください。その表がシステム作成による表である場合、手動でドロップする必要があります。その表がユーザー作成の表である場合、その名前を変更する必要があります。そうしないと、DB2 バージョン 9 の ALTER

TABLE および COPY SCHEMA ステートメントの実行が失敗します。

SQL1244W トランザクション・マネージャー・データベース server-name の切断が、次の COMMIT で発生します。

説明: TM データベースとして活動中のデータベースに対して、切断が発行されました。次の COMMIT が処理されるまで、切断は完了しません。

ユーザーの処置: TM データベースとして活動中のデータベースを即座に切断する必要がある場合は、処理の実行を続ける前に、COMMIT ステートメントを発行してください。

sqlcode: +1244

sqlstate: 01002

SQL1245N 接続限界に達しました。このクライアントからは、これ以上接続できません。

説明: 接続数が制限されているか、または事前定義される必要がある環境で、並行データベース接続の最大数に達しました。これが発生する可能性がある主な例には、NETBIOS プロトコルの使用があります。

ユーザーの処置: 解決策は以下のとおりです。

- SET CLIENT コマンドまたは API を使用して、「MAX NETBIOS CONNECTIONS」フィールドを必要な同時接続の最大数に設定してください。これは、接続を行う前に実行する必要があります。

sqlcode: -1245

sqlstate: 08001

SQL1246N 接続が存在している間は、接続設定を変更できません。

説明: 以下のいずれかが発生しました。

- SET CLIENT API を使用するアプリケーションの接続設定の変更が試みられました。1 つ以上の接続が存在するために、拒否されました。
- アプリケーションに、DB2 コール・レベル・インターフェース API 呼び出しと組み込み SQL の入った関数への呼び出しの両方が入っており、接続管理が CLI API で呼び出されませんでした。

ユーザーの処置: 解決策は以下のとおりです。

- SET CLIENT API (sqlesetc または sqlgsetc) あるいは CLP コマンドを発行する前に、アプリケーションがすべてのサーバーから切断されていることを確認してください。

- CLI がアプリケーションで使用されている場合は、すべての接続管理要求が、DB2 コール・レベル・インターフェイス API 経由で発行されていることを確認してください。

SQL1247N XA トランザクション処理環境で実行するアプリケーションには、SYNCPOINT TWOPHASE 接続設定を使用する必要があります。

説明: アプリケーションが、オプション SYNCPOINT ONEPHASE または SYNCPOINT NONE でプリコンパイルされているか、または SYNCPOINT 接続設定が、SET CLIENT API を使用して、上記のいずれかのオプションに変更されました。これらの設定は、トランザクション処理同期点コマンド (たとえば、CICS SYNCPOINT) を実行するアプリケーションには無効です。SYNCPOINT ONEPHASE が、デフォルト・プリコンパイラ・オプションであることに注意してください。

ユーザーの処置: 解決策は以下のとおりです。

- プリコンパイラ・オプション SYNCPOINT TWOPHASE を使用して、もう一度アプリケーションをプリコンパイルしてください。
- 他の処理の前に、接続オプションを SYNCPOINT TWOPHASE に設定するために、SET CLIENT API が呼び出されるように、プログラムを変更してください。

sqlcode: -1247

sqlstate: 51025

SQL1248N データベース *database-alias* は、トランザクション・マネージャーに定義されていません。

説明: トランザクション・マネージャーによってオープンされていないデータベースのアクセスが試みられました。2 フェーズ・コミットに使用するには、データベースがトランザクション・マネージャーに定義されている必要があります。

ユーザーの処置: 分散トランザクション処理環境のトランザクション・マネージャーにリソース・マネージャーとして、データベースを定義してください。たとえば、CICS 環境の場合、XAD ファイルにデータベースを追加し、データベース別名を XAD 項目の XAOpen ストリングに指定する必要があります。

sqlcode: -1248

sqlstate: 42705

SQL1249N DATALINK データ・タイプはサポートされていません。DATALINK データ・タイプの使用を回避するように、*db-object* をドロップするか変更する必要があります。

説明: db2ckupgrade コマンドは、データベース・アップグレードの失敗の原因となる DATALINK データ・タイプの存在を識別しました。

DATALINK データ・タイプを使用するデータベース・オブジェクトには、表、ビュー、関数、メソッド、特殊タイプ、および構造化データ・タイプが含まれます。

ユーザーの処置: データベースのアップグレードを試みる前に、DATALINK データ・タイプを参照する *db-object* によって識別されるデータベース・オブジェクトを除去または更新してください。

SQL1250N XML フィーチャーがインスタンスで使用されているため、データベース・パーティションは追加されません。

説明: データベース・マネージャーのインスタンスには、XML オブジェクト (データ・タイプ XML の列を持つ表、XML スキーマ・リポジトリ・オブジェクトなど) が作成されたデータベースが少なくとも 1 つ作成されています。XML オブジェクトがもう存在していない場合であっても、データベース・マネージャー・インスタンスは XML を使用したと見なされます。このようにしてデータベース・マネージャー・インスタンスが XML を使用したとしていったん認識されると、そのインスタンスは複数のデータベース・パーティションを持つことが許可されなくなります。データベース・パーティションを追加しようとすると、このエラーが戻されます。

ユーザーの処置: インスタンスの一部であるデータベースのいずれかがデータ・タイプ XML の列または XML スキーマ・リポジトリ・オブジェクトを使用している場合には、複数のデータベース・パーティションを持つインスタンスを設定するには別のインスタンスが必要になります。

インスタンスにあるデータベースに XML データの保管を実際にしない場合には、インスタンスをクレンジングして XML データへのすべての参照を除去する必要があります。データ・タイプ XML の列および XML スキーマ・リポジトリ・オブジェクトがもうない場合でも、インスタンスおよびデータベースに標識がまだ存在しています。インスタンスの XML 標識およびデータベース・レベルの XML 標識を消去するための 2 つの方法があります。

- XML 以外のデータをインスタンスにある既存のデータベースからエクスポートします。新しいデータベースを持つ新しいインスタンスを作成します。新しいインスタンスにあるデータベースにデータをインポートします。
- パスワードで保護されている db2pdcfg オプションを使用して、インスタンス内の各データベースのデータベース構成内の XML 標識、およびインスタンスのデータベース・マネージャー構成用の XML 標識を変更します。これを行う前に、インスタンス内のデータベースにタイプ XML の列が含まれないこと、および各データベースの XML スキーマ・リポジトリが空であることはきわめて重要です。このオプションを使用する際は、IBM サービスにお問い合わせください。

SQL1251W ヒューリスティック照会に戻されるデータはありません。

説明: データベースに未確定トランザクションも、終了して同期点処理に入るのを待っているトランザクションもありません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL1252N CREATE PROCEDURE (ソース) ステートメントで指定されたソース・プロシージャ *source-procedure-name* のデータ・ソースに、複数のプロシージャが発見されました。理由コード = *reason-code*。

説明: CREATE PROCEDURE (ソース) ステートメントで指定されたソース・プロシージャ *procedure-name* のデータ・ソースに、複数のプロシージャが発見されました。可能性のある理由コードは、以下のとおりです。

- 1 同一のソース・プロシージャ名およびソース・スキーマ名を持つ複数のソース・プロシージャがデータ・ソースにあります。
- 2 同一のソース・プロシージャ名、ソース・スキーマ名、および NUMBER OF PARAMETERS を持つ複数のソース・プロシージャがデータ・ソースにあります。
- 3 同一のソース・プロシージャ名を持つ複数のソース・プロシージャがデータ・ソースにあります。

ユーザーの処置: 理由コードに基づいたアクションは、以下のとおりです。

- 1 CREATE PROCEDURE (ソース) ステートメントに NUMBER OF PARAMETERS を指定し、

データ・ソースでプロシージャをユニークに識別できるようにします。

- 2 CREATE PROCEDURE (ソース) ステートメントに UNIQUE ID を指定し、データ・ソースでプロシージャをユニークに識別できるようにします。
- 3 CREATE PROCEDURE (ソース) ステートメントに *source-schema-name* を指定し、データ・ソースでプロシージャをユニークに識別できるようにします。

sqlcode: -1252

sqlstate: 42725

SQL1253N 名前 *source-procedure-name* を持つソース・プロシージャはデータ・ソースで見つかりませんでした。理由コード = *reason-code*。

説明: CREATE PROCEDURE (ソース) ステートメントで指定されたソース・プロシージャは、データ・ソースで見つかりませんでした。可能性のある理由コードは、以下のとおりです。

- 1 ソース・オブジェクト名に加えて NUMBER OF PARAMETERS を指定しても、データ・ソースのプロシージャを識別しません。
- 2 ソース・オブジェクト名に加えて NUMBER OF PARAMETERS および UNIQUE ID を指定しても、データ・ソースのプロシージャを識別しません。
- 3 CREATE PROCEDURE (ソース) ステートメントで指定されたソース・パッケージ名は、データ・ソースで見つかりません。
- 4 CREATE PROCEDURE (ソース) ステートメントで指定されたソース・パッケージ名は、データ・ソースで無効としてマークされています。
- 5 ソース・オブジェクト名ではデータ・ソースのプロシージャを識別しません。
- 6 ソース・オブジェクト名は UNIQUE ID を指定しますが、UNIQUE ID はデータ・ソースでサポートされていません。

ユーザーの処置: 理由コードに基づいたアクションは、以下のとおりです。

- 1 指定された NUMBER OF PARAMETERS が正しいことを確認してください。
- 2 指定された UNIQUE ID がデータ・ソースで

有効であり、データ・ソースでプロシージャを識別することを確認してください。

- 3 指定されたソース・パッケージ名が正しいことを確認してください。
- 4 データ・ソースでパッケージ定義を訂正してください。
- 5 指定されたソース・オブジェクト名が正しいことを確認してください。
- 6 UNIQUE ID 節を除去してください。

sqlcode: -1253

sqlstate: 42883

SQL1254N データ・タイプ *data-type* は、フェデレーテッド・サーバーまたはデータ・ソース *server-name* によりサポートされていません。そのデータ・タイプは、プロシージャ *procedure-name* のパラメーター *parameter-name* で使用されました。

説明: プロシージャのために指定されたパラメーターのデータ・タイプは、フェデレーテッド・サーバーまたはアクセスされたデータ・ソースのいずれかでサポートされていません。

ユーザーの処置: サポートされているデータ・タイプを指定してプログラムを再サブミットしてください。

sqlcode: -1254

sqlstate: 428C5

SQL1255N プロシージャ *procedure-name* のために指定されたオプション値 *value* は、ソース・プロシージャの対応するオプションと一致しません。

説明: CREATE PROCEDURE (ソース) ステートメントで指定された、SQL データ・アクセスの値 (NO SQL、CONTAINS SQL、READS SQL DATA、または MODIFIES SQL DATA)、決定論 (DETERMINISTIC または NOT DETERMINISTIC)、または外部アクション (EXTERNAL ACTION または NO EXTERNAL ACTION) は、ソース・プロシージャの対応するオプションと一致しません。

ユーザーの処置: ソース・プロシージャの対応するオプションと一致するようにオプション値を訂正してください。

sqlcode: -1255

sqlstate: 428GS

SQL1256W データ・ソースにあるソース・プロシージャ *source-procedure-name* のパッケージ本体が見つからなかったか、無効です。

説明: フェデレーテッド・プロシージャは正常に作成されましたが、データ・ソースにあるソース・プロシージャ *procedure-name* のパッケージ本体が見つからなかったか、無効です。

ユーザーの処置: フェデレーテッド・プロシージャを呼び出す前に、ソース・プロシージャのパッケージ本体が有効であることを確認してください。

sqlcode: +1256

sqlstate: 0168A

SQL1257N 照会には、ニックネーム *nickname* 内の列 *column-name* を使用する述部が含まれていなければなりません。

説明: データ・ソースには、示された列を使用する述部が必要です。述部が照会にないか、述部が照会にあるものの、照会のコンパイル中にデータ・ソース・ラッパーが使用できないかのいずれかです。

ユーザーの処置: 必要な列が照会の述部で使用されない場合、列を適切に使用する述部を追加してください。必要な列が照会の述部にある場合、述部が有効になるように照会を再構築してください。有効な述部は、データ・ソースの資料にリストされています。

sqlcode: -1257

sqlstate: 429C0

SQL1258N SYSTOOLSPACE および SYSTOOLSTMPSPACE 表スペースは、IBMCATGROUP データベース・パーティション・グループに作成する必要があります。

説明: SYSTOOLSPACE および SYSTOOLSTMPSPACE 表スペースを作成するために、それら表スペースを IBMCATGROUP データベース・パーティション・グループで定義する必要があります。

ユーザーの処置: CREATE TABLESPACE コマンドを再サブミットして IN IBMCATGROUP 節を指定してください。

sqlcode: -1258

sqlstate: 560CJ

SQL1259N データベース・パーティション *partition-list* 上のデータベース *db-name* に対する ARCHIVE LOG コマンドは、SQLCODE *SQLCODE* のために失敗しました。

説明: データベース・パーティション *partition-list* 上のデータベース *db-name* に対して ARCHIVE LOG コマンドを発行中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 「メッセージ解説書」の SQLCODE でユーザー応答を参照し、ARCHIVE LOG コマンドをもう一度実行してください。

SQL1260N データベース *name* は、ノード *node-list* でのロールフォワード・リカバリー用に構成されていません。

説明: 指定されたデータベースは指定されたノードで、ロールフォワード・リカバリー用に構成されません。",..." がノード・リストの終わりに表示されている場合、ノードの完全なリストを見るには管理通知ログを調べてください。

データベースは指定のノードでロールフォワードされません。

(注: パーティション・データベース・サーバーを使用している場合、ノード番号は、エラーの発生しているノードを示しています。そうでない場合、これは関係のないものなので無視してください。)

ユーザーの処置: 指定ノードでリカバリーが必要か確認して、次にこのノードでデータベースの最新のバックアップ・バージョンをリストアしてください。

SQL1261N データベース *name* はノード *node-list* でロールフォワード・ペンディング状態ではありません。そのためこのノードでロールフォワードする必要はありません。

説明: 指定のデータベースは指定ノードでロールフォワード・ペンディング状態ではありません。この理由としては、データベースがリストアされていないか、または WITHOUT ROLLING FORWARD オプションを指定してリストアされたか、またはロールフォワード・リカバリーがこのノードで完了している可能性があります。

",..." がノード・リストの終わりに表示されている場合、ノードの完全なリストを見るには管理通知ログを調べてください。

データベースはロールフォワードされません。

(注: パーティション・データベース・サーバーを使用している場合、ノード番号は、エラーの発生しているノードを示しています。そうでない場合、これは関係のない

ものなので無視してください。)

ユーザーの処置: 以下のことを実行してください。

1. 指定ノードでリカバリーが必要か確認してください。
2. このノードのデータベースのバックアップ・バージョンをリストアしてください。
3. ROLLFORWARD DATABASE コマンドを発行してください。

SQL1262N データベース *name* のロールフォワードに指定されたポイント・イン・タイムが無効です。

説明: 停止ポイント・イン・タイム値に指定された timestamp パラメーターが有効ではありません。timestamp は ISO フォーマット (YYYY-MM-DD-hh.mm.ss.<sssss> で、YYYY は年、MM は月、DD は日、hh は時、mm は分、ss は秒を表し、sssss はオプションでマイクロ秒を表します) で入力する必要があります。

データベースはロールフォワードされません。

ユーザーの処置: timestamp が正しいフォーマットで入力されていることを確認してください。

ROLLFORWARD DATABASE コマンドを発行する場合は、2105 より大きい年を指定していないことを確認してください。

SQL1263N アーカイブ・ログ・ファイル *logfile* は、データベース・パーティション *dbpartitionnum* およびログ・ストリーム *log-stream-ID* 上のデータベース *database-name* に対して有効なログ・ファイルではありません。

説明: 指定のアーカイブ・ログ・ファイルが、指定されたデータベース・パーティションのデータベース・ログ・ディレクトリーまたはオーバーフロー・ログ・ディレクトリーで見つかりましたが、ファイルが無効でした。

ロールフォワード・リカバリー処理は停止します。

(注: パーティション・データベース・サーバーを使用している場合、データベース・パーティション番号はエラーの発生しているデータベース・パーティションを示します。そうでない場合、この値は関係のないものなので無視してください。)

ユーザーの処置: 正しいアーカイブ・ログ・ファイルを判別するには、QUERY STATUS オプションを付けて、ROLLFORWARD DATABASE コマンドを発行してください。正しいアーカイブ・ログ・ファイルをデータ

ベース・ログ・ディレクトリーに移すか、またはデータベースが整合性のある状態の場合は、正しいアーカイブ・ファイルを指すようにログ・パスを変更して、**ROLLFORWARD DATABASE** コマンドを再発行してください。別の方法として、正しいアーカイブ・ファイルを指しているオーバーフロー・ログ・パスを使用して、コマンドを再発行してください。

SQL1264N アーカイブ・ログ・ファイル *logfile* は、データベース・パーティション *dbpartitionnum* およびログ・ストリーム *log-stream-ID* 上のデータベース *database-name* に属していません。

説明: 指定のアーカイブ・ログ・ファイルがログ・ディレクトリー、またはオーバーフロー・ログ・ディレクトリーで見つかりましたが、指定されたデータベースには属していません。

ロールフォワード・リカバリー処理は停止します。

(注: パーティション・データベース・サーバーを使用している場合、データベース・パーティション番号はエラーの発生しているデータベース・パーティションを示します。そうでない場合、この値は関係のないものなので無視してください。)

ユーザーの処置: データベースに属していない最初のアーカイブ・ログ・ファイルを判別するには、**ROLLFORWARD DATABASE** コマンドに **QUERY STATUS** オプションを指定して発行してください。ロールフォワード・リカバリーを続行するには、次のようにします。

- オーバーフロー・ログ・パスを使用する場合、適切なデータベースに適用されており、適切なアーカイブ・ファイルが含まれていることを確認します。
- オーバーフロー・ログ・パスを使用しない場合、適切なアーカイブ・ログ・ファイルを見つけて、それらをデータベース・ログ・ディレクトリーにコピーします。

ロールフォワード・リカバリーを停止するには、**ROLLFORWARD DATABASE...STOP** コマンドを発行する前に以下のステップのいずれかを実行します。

- 無効なログ・ファイルをアクティブ・ログ・パスとアーカイブ・パス (オーバーフロー・パスを含む) から削除します。
- アクティブ・ログ・パスとアーカイブ・パス (オーバーフロー・パスを含む) の無効なログ・ファイルを適正なログ・ファイルに置き換えます。

SQL1265N アーカイブ・ログ・ファイル *logfile* は、データベース・パーティション *dbpartitionnum* およびログ・ストリーム *log-stream-ID* 上のデータベース *database-name* の現行のログ・シーケンスに関連付けられていません。

説明: ロールフォワード・リカバリーの場合は、ログ・ファイルは正しい順序で処理される必要があります。ログ・ファイルの順序は、リストアされたデータベース、または処理されたログ・ファイルによって決定されません。さらに、表スペース・レベル・ロールフォワード・リカバリーの場合は、ログ・ファイルが、データベースの現在の状態に達した順序で処理される必要があります。指定されたアーカイブ・ログ・ファイルは、指定データベース・パーティションのデータベースのログ・ディレクトリーまたはオーバーフロー・ログ・パスで見つかりましたが、ログ・ファイルのログ・シーケンスが正しくありませんでした。

ロールフォワード・リカバリー処理は停止します。

(注: パーティション・データベース・サーバーを使用している場合、データベース・パーティション番号はエラーの発生しているデータベース・パーティションを示します。そうでない場合、この値は関係のないものなので無視してください。)

ユーザーの処置: 正しいアーカイブ・ログ・ファイルを判別するには、**QUERY STATUS** オプションを付けて、**ROLLFORWARD DATABASE** コマンドを発行してください。正しいアーカイブ・ログ・ファイルをデータベース・ログ・ディレクトリーに移すか、またはデータベースが整合性のある状態の場合は、正しいアーカイブ・ファイルを指すようにログ・パスを変更して、**ROLLFORWARD DATABASE** コマンドを再発行してください。別の方法として、正しいアーカイブ・ファイルを指しているオーバーフロー・ログ・パスを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1266N 指定されたポイント・イン・タイム値が無効であるため、ロールフォワード操作が失敗しました。このロールフォワード操作は、直前のロールフォワード操作の続きでした。このロールフォワード操作に指定されたポイント・イン・タイム値が、直前のロールフォワード操作に指定されたポイント・イン・タイム値よりも前でした。データベースまたは表スペース名: *database-or-table-space-name*。直前のロールフォワード操作に指定されたポイント・イン・タイム値: *timestamp*。

説明: ロールフォワード操作が失敗するか、中断される

SQL1267N

か、STOP または COMPLETE オプションを指定していないのに終了する場合、ROLLFORWARD コマンドまたは db2Rollforward API を呼び出して再度ロールフォワード操作を続行する必要があります。しかし、ロールフォワードは、直前のロールフォワード操作に指定されたポイント・イン・タイム値よりも前の時点には継続できません。

このメッセージは、ロールフォワード操作が完了していない直前のロールフォワード操作の続きであり、直前のロールフォワード操作が、このロールフォワード操作に指定されたポイント・イン・タイムよりも後の時点までであった場合に返されます。あるポイント・イン・タイムまでのロールフォワード操作を継続する場合、新しいロールフォワードは以下のいずれかでなければなりません。

- 同じポイント・イン・タイムへのロールフォワード
- それより後のポイント・イン・タイムへのロールフォワード
- ログの終わりへのロールフォワード

このエラーは、データベースおよび表スペースの両方のロールフォワード操作で発生する場合があります。

このエラーが発生すると、ロールフォワード処理は停止します。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの方法で、このエラーに対応します。

- 有効なポイント・イン・タイム値を指定して、ROLLFORWARD コマンドまたは db2Rollforward API を再サブミットします。
- ログの終わりまでのロールフォワードを指定して、ROLLFORWARD コマンドまたは db2Rollforward API を再サブミットします。
- 以下のステップを実行して、バックアップ・イメージからリカバリーします。
 1. バックアップ・イメージからデータベースまたは表スペースのサブセットをリストアします。
 2. ROLLFORWARD コマンドまたは db2Rollforward API を再サブミットします。

SQL1267N システムが、現在の PATH で db2uexit を見つけることができませんでした。

説明: ユーザー提供ファイル db2uexit が、現在の PATH 環境変数に存在しないか、またはファイルが存在しないために、見つかりませんでした。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: db2uexit へのパスを含むように、現在の PATH 環境変数を更新するか、または db2uexit ファ

イルを作成して、必要に応じて、PATH 環境変数を更新してください。

SQL1268N データベース・パーティション dbpartitionnum およびログ・ストリーム log-stream-ID 上のデータベース database-name のログ・ファイル logfile の取得中に、エラー error のためにロールフォワード・リカバリー処理が停止しました。

説明: ロールフォワード処理が必須のログ・ファイルを検索できません。このエラーは、バックアップ・イメージのリストア先となるターゲット・システムが、ソース・システムがトランザクション・ログをアーカイブするために使用する機能へのアクセス権がないときに返される場合があります。

(注: パーティション・データベース・サーバーを使用している場合、データベース・パーティション番号はエラーの発生しているデータベース・パーティションを示します。そうでない場合、この値は関係のないものなので無視してください。)

ユーザーの処置:

- 管理通知ログを調べることにより、ログのアーカイブが正しく実行されていることを確認します。エラーがあれば訂正して、ロールフォワード・リカバリーを再開します。
- データベースがユーザー出口プログラムへのログ・アーカイブを使用するよう構成されている場合は、ユーザー出口診断ログを確認して、ユーザー出口プログラムを実行中にエラーが発生したかどうかを判別します。エラーを訂正して、ロールフォワード・リカバリーを再開します。
- バックアップ・イメージのリストア先となるターゲット・システムが、トランザクション・ログのアーカイブ用にソース・システムで使用される機能へのアクセス権限を持っていることを確認します。適切な変更を行ってから、ロールフォワード・リカバリーを再開します。

SQL1269N 表スペース・レベル・ロールフォワード・リカバリーがすでに実行中です。

説明: 表スペース・レベル・ロールフォワード・リカバリーの使用が試みられましたが、すでに実行されています。一時点では、1 つのエージェントのみが、ロールフォワード・リカバリーを実行することができます。

ユーザーの処置: 表スペース・レベル・ロールフォワード・リカバリーが完了するまで待ってください。リカバリーが必要な表スペースがまだある場合は、もう一度表

スペース・レベル・ロールフォワード・リカバリーを開始してください。

SQL1270C LANG 環境変数が *string* にセットされています。この言語はサポートされていません。

説明: LANG 環境変数が、データベース・マネージャがサポートしていない言語に設定されています。処理を継続できません。

ユーザーの処置: LANG 環境変数を、サポートされている言語に設定してください。詳細については、「管理ガイド」の「各国語サポート」付録を参照してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: NLS 情報については、「フェデレーテッド・システム・ガイド」を参照してください。

SQL1271W データベース *name* はリカバリーされましたが、1 つ以上の表スペースがメンバーまたはノード *node-list* でオフラインです。

説明: このメッセージは、クラッシュ・リカバリー、データベース・レベル・ロールフォワード・リカバリー、または表スペース・レベル・ロールフォワード・リカバリーの後に出力される場合があります。データベース・レベル・ロールフォワード・リカバリーについて、データベースは STOP オプションが指定されている場合使用できます。指定されたメンバーまたはノードにある 1 つ以上の表スペースは使用できません。これは以下の場合に発生します。

- 1 つ以上の表スペースがリカバリー中に入出力エラーを受け取った。
- 1 つ以上の表スペースでリカバリーの後、ストレージ定義が必要になる場合がある。
- 1 つ以上の表スペースが使用できず、ドロップしなければならない。
- 1 つ以上の表スペースがオフラインにされた。
- 表スペース・レベル・ロールフォワード・リカバリーがすでに進行中である間に、追加の表スペースがリストアされた。
- データベースが以前に表スペースがロールフォワードされたポイント・イン・タイムを過ぎてロールフォワードされると、関連するすべての表スペースがリストア・ペンディング状態になる。

オフライン状態の表スペースは、MON_GET_TABLESPACE 表関数によって指定されたメンバーまたはノード上で特定できます。DB2 pureCluster

環境以外の環境では、db2dart ユーティリティも使用できます。特定された表スペースについての詳細な情報は管理通知ログに出力されます。

"..." がメンバーまたはノード・リストの終わりに表示されている場合、メンバーまたはノードの完全なリストを見るには管理通知ログを調べてください。

注: メンバーまたはノード番号は、DB2 pureCluster 環境およびパーティション・データベース環境でのみ役立つ情報を提供します。それ以外の場合は、この情報は無視してください。

ユーザーの処置: 必要に応じて表スペースの修復あるいはリストアを行いロールフォワード・リカバリーを実行します。同じメッセージが発生する場合、表スペース・レベル・ロールフォワード・リカバリーをオフラインで実行してみてください。

SQL1272N データベース *name* に対する表スペース・レベル・ロールフォワード・リカバリーが、メンバーまたはノード *node-list* で完了する前に停止しました。

説明: すべての修飾表スペースがロールフォワードされる前に、表スペース・レベル・ロールフォワード・リカバリーが指定メンバーまたはノードで停止しました。これは、以下のいずれかによって発生した可能性があります。

- トランザクション表がフルである。
- ロールフォワードされた表スペースのすべてが入出力エラーを受け取った。
- ポイント・イン・タイム表スペース・レベルのロールフォワードでロールフォワードされた表スペースのいずれかに入出力エラーが発生した。
- ポイント・イン・タイム表スペース・レベルのロールフォワードでロールフォワードされた表スペースのいずれかに対して、変更を行ったアクティブなトランザクションを検出した。このトランザクションは未確定トランザクションである場合があります。
- 表スペース・レベル・ロールフォワードが中断し、再開する前にロールフォワードしていたすべての表スペースが再度リストアされた場合にも発生する可能性があります。
- 表スペース・ロールフォワード状態情報が壊れているか、または失われている。

"..." がメンバーまたはノード・リストの終わりに表示されている場合、メンバーまたはノードの完全なリストを見るには管理通知ログを調べてください。

SQL1273N

注: メンバーまたはノード番号は、DB2 pureCluster 環境およびパーティション・データベース環境でのみ役立つ情報を提供します。それ以外の場合は、この情報は無視してください。

ユーザーの処置: 原因については、管理通知ログをチェックしてください。原因にしたがって以下のいずれかを行ってください。

- MON_GET_TABLESPACE 表関数を使用して、表スペースが出力エラーを受け取ったかを判別してください。表スペースが出力エラーを受け取った場合、修復します。
- トランザクション表がフルの場合、MAXAPPLS データベース構成パラメーターを増やすか、あるいは表スペース・レベル・ロールフォワードをオフラインで実行してみてください。
- 原因がアクティブあるいは未確定のトランザクションにある場合、トランザクションを完了してください。
- 前の表スペース・レベル・ロールフォワードを中断した後で、表スペースがリストアされた場合、前の表スペース・レベル・ロールフォワードはこの時点で取り消されます。次の表スペース・レベル・ロールフォワード・コマンドが、ロールフォワード・ペンディング状態の表スペースを調べます。
- ロールフォワード操作をキャンセルします。これで、表スペースはリストア・ペンディング状態になります。ROLLFORWARD コマンドを再発行する前に、表スペース・レベルのバックアップ・イメージをリストアします。

表スペース・レベル・ロールフォワード・リカバリーを再度実行してください。

SQL1273N ログ・ファイル *log-file-name* が欠落しているため、データベース *database-name* のログを読み取る操作を続行できません。データベース・パーティション *dbpartitionnum*、ログ・ストリーム *log-stream-ID*。

説明: 操作は、指定されたログ・ストリームのアーカイブ、データベース・ログ・ディレクトリー、およびオーバーフロー・ログ・ディレクトリーで、指定されたログ・ファイルを検出できませんでした。ログを読み取る操作は停止しました。この操作は、リカバリー操作、ロールフォワード操作、db2ReadLog API の呼び出し、またはトランザクション・ログへのアクセスを必要とする他の操作でした。

操作がクラッシュ・リカバリーだった場合、データベースは不整合状態のままです。操作がロールフォワード操作だった場合、この操作は停止し、データベースはロー

ルフォワード・ペンディング状態のままになっています。

ユーザーの処置: 以下のアクションのいずれかを実行して、欠落しているログ・ファイルをリカバリーします。

- 指定されたログ・ファイルをデータベース・ログ・ディレクトリーに移動し、操作を再開します。
- オーバーフロー・ログ・パスを指定できる場合は、オーバーフロー・ログ・パスにログ・ファイルを含むパスを指定して、操作を再開します。

欠落したログ・ファイルを見つけることができない場合、以下の特殊なケースのいずれかが適用されるかどうか判別します。

- 操作がログ・ SHIPPINGによるスタンバイ・システムの保守のための ROLLFORWARD DATABASE コマンドである場合、このエラーが生じてても正常である可能性があります。これは、1 次サイトで使用可能なファイルの一部がスタンバイ・システムではまだ使用可能になっていないことが原因です。スタンバイ・システムを確実に最新の状態にしておくには、各ロールフォワード操作後に QUERY STATUS オプションを指定して ROLLFORWARD DATABASE コマンドを発行することにより、ログの適用が適切に進行しているかを検査します。スタンバイ・システム上のロールフォワード操作が長時間にわたって進行しない場合、欠落が報告されたログ・ファイルがスタンバイ・システム上で使用不可である理由を判別し、問題を修正します。ARCHIVE LOG コマンドを使用して、現在 1 次システム上でアクティブなログ・ファイルを切り捨て、これがアーカイブおよびスタンバイ・システム上で後に行うログの適用に適切になるようにすることができます。

- オンライン・バックアップ・イメージからのリストア操作に続けて ROLLFORWARD DATABASE コマンドに TO END OF LOGS オプションを指定して発行し、使用可能なログがこのバックアップ・イメージ内に含まれているものしかない場合は、以下の 2 つのシナリオが考えられます。

- シナリオ 1: バックアップ・イメージ内に含まれるすべてのログ・ファイルがロールフォワード操作で検出されている。それにもかかわらず、ロールフォワード操作ではオリジナルのバックアップ操作の後に更新されたログ・ファイルをさらに検索している。この場合は、データベースを一貫性のある状態にするため、ROLLFORWARD DATABASE コマンドに STOP オプションを指定して (TO END OF LOGS オプションは指定せずに) 発行してください。将来このようなシナリオにならないようにするには、END OF LOGS オプションではなく END OF BACKUP オプションを使用します。これによ

り、ロールフォワード操作ではバックアップを取った後に更新されたログ・ファイルを検索しないようになります。

- シナリオ 2: バックアップ・イメージに含まれている 1 つ以上のログ・ファイルがロールフォワード操作で検出されない。データベースを一貫性のある状態にするにはこれらのログ・ファイルが必要です。ROLLFORWARD DATABASE コマンドに STOP オプションを指定して (TO END OF LOGS オプションは指定せずに) 発行することにより、データベースを一貫性のある状態にしようとしても、SQL1273N で失敗してしまいます。この場合は、このセクションで前述した方法で、欠落したログ・ファイルをリカバリーしてください。

欠落したログ・ファイルをリカバリーできない場合は次のようにします。

- このときの操作が ROLLFORWARD DATABASE コマンドの場合、ROLLFORWARD DATABASE コマンドに STOP オプションを指定して (END OF LOGS オプションおよび END OF BACKUP オプションはどちらも指定せずに) 再発行することにより、データベースを一貫性のある状態にします。この一貫性ポイント (欠落したログ・ファイルの直前) が適切でない場合は、データベースをリストアして欠落したログ・ファイル以前の任意の時点でロールフォワードすることができます。これを行うには、ROLLFORWARD DATABASE コマンドに、より早期のタイム・スタンプを指定します。
- 操作が ROLLFORWARD DATABASE コマンドで、STOP または COMPLETE オプションを指定して (END OF LOGS オプションおよび END OF BACKUP オプションは指定しない) 実行した場合、データベースを一貫性のある状態にするには欠落しているログ・ファイルが必要です。欠落したログ・ファイルがリカバリーできないので、リストアしてより早期の (最小リカバリー時間より前でない) 特定の時点でロールフォワードしなければなりません。
- 操作が、データ複製のための db2ReadLog または db2ReadLogNoConn API の呼び出しである場合、複製された表を再同期して、API が使用する現在の接続を終了します。API が災害復旧サイトを保守するために使用される場合、欠落しているログ・ファイルの最後のタイム・スタンプより後に作成されたバックアップ・イメージを、災害復旧サイトにリストアする必要があります。このようにしないと、後続の API 呼び出しは正常に完了できません。API が他の目的のために使用される場合、API が使用している接続を終了して、データベースを非アクティブにします。いずれの場合でも、データベースへの新規接続を作成し、照会アクションを指定して API を呼び出すことによって

スキャンを再実行します。API への次の呼び出しで nextStartLRI を piStartLRI として使用します。

SQL1274N データベース *name* にロールフォワード・リカバリーが必要であり、ポイント・イン・タイムはログの最後に設定する必要があります。

説明: データベースがロールフォワードされる必要があります。データベース・レベル・ロールフォワード・リカバリーでは、ログの最後までデータベース・レベル・ロールフォワードがすでに進行中であるため、ポイント・イン・タイムをログの最後に設定する必要があります。ロールフォワードを継続するには、同じ停止時間を指定しなければなりません。

以下の理由で、表スペース・レベル・ロールフォワード・リカバリーの場合は、ポイント・イン・タイムをログの最後に設定する必要があります。

- システム・カタログにはロールフォワード・リカバリーが必要です。システム・カタログはいつも、他のすべての表スペースと整合性を保つために、ログの最後にロールフォワードする必要があります。
- ログの最後に、表スペース・レベル・ロールフォワードがすでに進行中です。ロールフォワードを継続するには、同じ停止時間を指定しなければなりません。
- 表スペース・レベルのロールフォワードに指定されたポイント・イン・タイムは、データベースのログの終了をすぎています。この時刻は誤っている可能性が非常に高いです。これが、リカバリー停止時刻を意味する場合、END OF LOGS オプションを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

データベースはロールフォワードされません。

ユーザーの処置: ROLLFORWARD TO END OF LOGS を指定して、ROLLFORWARD コマンドを再サブミットしてください。

SQL1275N ノード *node-list* のデータベース *name* には指定された時刻より後の情報が含まれるため、ロールフォワード・ユーティリティーに渡される停止時刻は、タイム・スタンプ *timestamp* 以降にする必要があります。

説明: ロールフォワード・ユーティリティーに渡される停止時刻は、指定ノードでバックアップが終了した時刻以降でなければなりません。

"..." がノード・リストの終わりに表示されている場合、ノードの完全なリストを見るには管理通知ログを調べてください。

SQL1276N

(注:パーティション・データベース・サーバーを使用している場合、ノード番号は、エラーが発生したノードを示しています。そうでない場合、これは関係のないものなので無視してください。)

ユーザーの処置: 以下のいずれかを実行します。

- 停止時刻を *timestamp* 以降にして、コマンドを再サブミットしてください。時刻は CUT (Coordinated Universal Time) で指定する必要があります。
- ノードに前のバックアップをリストアして、ROLLFORWARD DATABASE コマンドを再発行します。

SQL1276N データベース *name* は、ロールフォワードが *timestamp* 以降のポイント・イン・タイムを渡すまでは、ロールフォワード・ペンディング状態を抜け出すことができません。これは、ノード *node-number* に、指定されたポイント・イン・タイムよりも後の情報が含まれるためです。

説明: 呼び出し元のアクション

SQLUM_ROLLFWD_STOP、SQLUM_STOP、SQLUM_ROLLFWD_COMPLETE、SQLUM_COMPLETE を指定して、データベースあるいは表スペースのサブセットについて、ロールフォワード・ペンディング状態を解除させる要求が行なわれました。ただし、ロールフォワードされたデータベースあるいは少なくとも表スペースのいずれか 1 つがオンラインでバックアップされました。指定されたノードのオンライン・バックアップ・タイム・スタンプの終わりにデータベースまたはすべての表スペースがロールフォワードされるまで、この要求は実行できません。

このエラーは、要求されたリカバリーを実行するために、すべてのログ・ファイルが提供されているわけではない場合にも発生します。

(注:パーティション・データベース・サーバーを使用している場合、ノード番号は、エラーの発生しているノードを示しています。そうでない場合、これは関係のないものなので無視してください。)

ユーザーの処置: ROLLFORWARD コマンドに指定された停止時刻が *timestamp* より小さい場合は、*timestamp* 以降の停止時間で、コマンドを再サブミットしてください。

ログ・ファイルがすべて提供されていることを確認してください。ROLLFORWARD QUERY STATUS コマンドは、どのログ・ファイルが次に処理されるかを示します。ログ・ファイルの欠落に対する理由には、次のものがあります。

- ログ・パスが変更となった。ファイルは、前のログ・パスにあります。
- DB2 は、現在の LOGARCHMETH1 または LOGARCHMETH2 データベース構成パラメーターによって反映されるアーカイブ・ロケーションからログ・ファイルを検索しましたが、見つかりませんでした。

欠落ログ・ファイルが見つかった場合、これをログ・パスにコピーし、コマンドを再実行します。

SQL1277W リダイレクトされたリストア操作が実行中です。表スペースのリストアの際には、リストアされる表スペースのパスのみ再構成できます。データベースのリストアの際には、ストレージ・グループのストレージ・パスと DMS 表スペースのコンテナを再構成できます。

説明: リストア・ユーティリティーは、リストア中の各表スペースが必要とするコンテナが、現在システムでアクセス可能であるかどうかをチェックします。アクセス可能な場合は、コンテナが存在しないと、リストア・ユーティリティーがコンテナを作成します。コンテナが作成できない場合、現在別の表スペースが使用中の場合、または他の理由でアクセスできない場合は、リストア操作を続ける前に、必要なコンテナのリストを訂正する必要があります。

リダイレクトされたリストアにおいて、リストアされている非自動ストレージ表スペースの各コンテナの状態は、「ストレージを定義してください」に設定されます。それによって、ストレージを再定義するのに、コンテナに対して SET TABLESPACE CONTAINERS コマンドまたは API を使用することができます。

自動ストレージを使用する表スペースの場合、コンテナ・パスを再定義する唯一の方法は、特定のストレージ・グループに対して SET STOGROUP PATHS コマンドを使用するか、RESTORE DATABASE コマンド発行時に ON キーワードを使用して、すべてのストレージ・グループ・パスを再定義することです。自動ストレージ表スペースに対して、SET TABLESPACE CONTAINERS コマンドまたは API を使用することはできません。

ユーザーの処置: リストア中の各表スペースのコンテナのリストを判別するには、MON_GET_CONTAINER 表関数を使用してください。各表スペースの更新したりリストを指定するには、SET TABLESPACE CONTAINERS コマンドまたは API を使用してください。この API により、このリストがコンテナの初期リスト (すなわち、後続のロールフォワードが、データベース・ログに記録されている "コンテナの追加" 処

理を再実行します) か、または最終リスト (ロールフォワード操作で "コンテナの追加" 処理が再実行されません) かを指定することができます。

コンテナまたはストレージ・パスが読み取り専用の可能性もあります。この場合、リストアを続行するために必要なアクションは、コンテナまたはストレージ・パスへの読み取り/書き込みアクセスの付与だけです。

データベース・リストアの際に特定のストレージ・グループのパスを再構成するには、SET STOGROUP PATHS コマンドを使用します。

リストア実行の準備ができたなら、CONTINUE キーワードを指定した RESTORE DATABASE コマンドを発行することにより、実際にリストアを実行してください。

SQL1279W いくつかの索引が再作成されていない可能性があります。

説明: データベースの再始動中、または表再編成の後、索引再作成中にエラーが発生しました。そのため、いくつかの索引の再作成が正常に実行されなかった可能性があります。管理通知ログで詳細を参照できます。

データベースの再始動または Reorg 表は成功しました。

ユーザーの処置: 管理通知ログを調べて索引が再作成できなかった理由を判別し、問題を訂正してください。表が最初にアクセスされたときに、表の無効な索引が再作成されます。

SQL1280N ロールフォワードに渡される停止時間は、データベース *name* の *timestamp* 以前にしてください。これは、少なくとも 1 つの表スペースが、すでにこの時点までロールフォワードされたためです。

説明: ポイント・イン・タイムに対するロールフォワードで指定された表スペースの少なくとも 1 つが、以前にすでにロールフォワードされています。これ以上ロールフォワードを行うことはできません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを実行します。

- 停止時刻 *timestamp* を指定してコマンドを再実行してください。
- すべての表スペースを再度リストアし、*timestamp* より前の停止時刻を指定してコマンドを再実行してください。
- 表スペースの、前のポイント・イン・タイムの表スペース・ロールフォワードで行ったバックアップをリストアし、このポイント・イン・タイムと同一の停止ポイント・イン・タイムでコマンドを再実行してください。

時刻は CUT (Coordinated Universal Time) で指定する必要があります。

SQL1281N パイプ *pipe-name* に障害が発生したために、データベース *database-alias* への接続が切断されました。

説明: DB2 サーバーがパイプを壊したために、接続が失われました。現在のトランザクションはロールフォワードされました。

ユーザーの処置: 現在のコマンドを再サブミットしてください。エラーが続く場合は、技術サービス担当者に連絡してください。

トレースがアクティブな場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトから、独立トレース機能呼び出ししてください。技術サービス担当者に以下の情報を報告してください。

必要な情報は以下のとおりです。

- 問題の説明
- SQLCODE またはメッセージ番号
- SQLCA の内容 (可能な場合)
- トレース・ファイル (可能な場合)

sqlcode: -1281

sqlstate: 40504

SQL1282N *pipe-name* 上のパイプ・インスタンスがすべて使用中であるために、データベース *database-alias* への接続が失敗しました。

説明: 接続が DB2 によって拒否されたので、Named PIPE への接続が失敗しました。Named PIPE で許される接続の数には制限があります。

ユーザーの処置: DB2 サーバーの接続制限を増やすか、または Named PIPE を使用しているいくつかのアプリケーションを終了させて、接続リソースを解放してください。

sqlcode: -1282

sqlstate: 08001

SQL1283N パイプ *pipe-name* が別の処理で使用なので、データベース *database-alias* への接続が失敗しました。

説明: Named PIPE の名前が、すでに別の処理によって使用されています。Named PIPE サポートは開始しませんでした。

ユーザーの処置: 環境変数 DB2PIPENAME を設定して違う名前を選択するか、または Named PIPE を使用す

SQL1284N • SQL1290N

る別のプログラムに異なるパイプ名を使用させます。

SQL1284N パイプ *pipe-name* が見つからないために、データベース *database-alias* への接続が失敗しました。

説明: サーバーが Named PIPE サポートを開始していませんでしたか、またはサーバーが Named PIPE に対して別の名前を使用しています。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーを始動して、Named PIPE サポートを開始してください。Named PIPE サポートが開始されている場合は、環境変数 DB2PIPENAME を同じ値に設定して、Named PIPE の名前をクライアントとサーバーの間で同じにしてください。

sqlcode: -1284

sqlstate: 08001

SQL1285N パイプ *pipe-name* が無効なために、データベース *database-alias* への接続が失敗しました。

説明: 環境変数 DB2PIPENAME によって設定された代替パイプ名が無効です。

ユーザーの処置: 環境変数 DB2PIPENAME の値は、有効なパイプ名でなければなりません。パイプ名は 8 文字を超えてはならず、通常のファイル名と同じ構文制約にしたがう必要があります。

sqlcode: -1285

sqlstate: 08001

SQL1286N オペレーティング・システムが、パイプ *pipe-name* のリソースを使い果たしたために、データベース *database-alias* への接続が切断されます。

説明: オペレーティング・システムがリソース (スワッピング・スペース、ディスク・スペース、ファイル・ハンドル) を使い果たしたために、Named PIPE が失敗しました。現在のトランザクションはロールフォワードされました。

ユーザーの処置: システム・リソースを解放して、もう一度やり直してください。

sqlcode: -1286

sqlstate: 40504

SQL1287N Named PIPE *pipe* を検出できないために、インスタンス *instance* のアタッチが正常に実行されていません。

説明: サーバーがその Named PIPE のサポートを開始していないか、あるいはインスタンス名が正しくありません。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーがそのサーバーで始動して、Named PIPE のサポートが開始されていることを確認してください。インスタンス名が正しいことを確認してください。

SQL1288N リモート・サーバーは、この操作をサポートしていません。

説明: リモート・サーバーは 64 ビットのプラットフォームで実行されており、バージョン 7 (またはそれ以前) の 32 ビットのクライアントからの非 SQL 要求をサポートしていません。

ユーザーの処置: サポートされているクライアントからこの操作を実行してください。

SQL1289W *function-name* への引数をコード・ページ *from-code-page* からコード・ページ *to-code-page* に変換中に、1 つ以上の無効文字が置換文字に置き換えられたか、または末尾部分のマルチバイト文字が結果から省略されました。

説明: コード・ページ変換関数に渡された *function-name* への入力に、入力コード・ページ *from-code-page* では無効な文字であるバイト・シーケンスが含まれています。無効なバイト・シーケンスはそれぞれ、*to-code-page* への変換時に、置換文字に置き換えられました。挿入された置換文字は、最終結果に含まれる場合もありますし、含まれない場合もあります。入力の終わりに現れる無効なバイト・シーケンスは、置換文字に置き換えられるのではなく、結果から除去されます。

ユーザーの処置: 変換されるデータに無効なバイト・シーケンスが含まれていないか確認してください。

sqlcode: +1289

sqlstate: 01517

SQL1290N DFT_CLIENT_COMM データベース・マネージャー構成パラメーター、または DB2CLIENTCOMM 環境変数の値は無効です。

説明: 正しくない値が指定されたか、または指定されたプロトコルが、ターゲット・データベースによってサポ

ートされていません。許容される値は:

- UNIX プラットフォーム: TCPIP および APPC
- Windows: TCPIP、APPC (Windows 32 ビット専用)、NETBIOS、および NPIPE

複数の値を指定する場合は、それらをコンマで区切る必要があります。

このメッセージは、接続で呼び出された中間ノードから返される場合があることに注意してください。たとえば、DB2 Connect ゲートウェイ経由で DRDA サーバーに接続しようとしており、クライアント・ワークステーションがグローバル・ディレクトリー・サービスを使用していない場合は、このメッセージが DB2 Connect ゲートウェイから返される可能性があります。

ユーザーの処置: 値を訂正して、もう一度やり直してください。

sqlcode: -1290

sqlstate: 08001

SQL1291N ディレクトリー・サービス・エラーが検出されました。サービス:

directory-services-type、**API:** *API*、**関数:** *function*、**エラー・コード:** *rc*。

説明: ディレクトリー・サービス・サブシステムによって、エラーが検出されました。詳細については、トークンの値を参照してください。以下は、トークン値の説明です。

directory-services-type

使用されたディレクトリー・サービスのタイプ。有効なトークンは、以下のとおりです。

- DCE

API

リストされたディレクトリー・サービスへのアクセスに使用された、アプリケーション・プログラミング・インターフェース。有効なトークンは、以下のとおりです。

- XDS/XOM

function

エラー・コードを返したディレクトリー・サービス・サブシステム関数の名前。

rc

示された関数から返されたエラー・コード。値の意味は、使用している API によって異なります。

ds_read などの XDS 関数の場合、戻りコードの値は、DCE インクルード・ファイル *xds.h* で見つかります。

om_get などの XOM 関数の場合、戻りコードの値は、DCE 組み込みファイル *xom.h* で見つかります。

このメッセージは、接続で呼び出された中間ノードから返される場合があることに注意してください。たとえば、DB2 Connect ゲートウェイ経由で DRDA サーバーに接続しようとしており、クライアント・ワークステーションがグローバル・ディレクトリー・サービスを使用していない場合は、このメッセージが DB2 Connect ゲートウェイから返される可能性があります。

ユーザーの処置: 以下を確認してください。

- ディレクトリー・サービスを提供する製品が、正しくインストールされ、作動可能になっていること。
- ディレクトリー・サービス提供者 (たとえば、DCE) がログインを要求している場合は、ディレクトリー項目にアクセスするための適切な許可を持って、ディレクトリー・サービスにログインしていること。

問題が続く場合は、システム管理者またはデータベース管理者、もしくは両者に連絡し、提供されたトークンのセットを使用して、問題の原因を判別してください。

sqlcode: -1291

sqlstate: 08001

SQL1292N データベースまたはデータベース・マネージャー・インスタンスのグローバル名が無効です。

説明: データベースまたはデータベース・マネージャー・インスタンスのグローバル名には、NULL を使用することはできず、255 文字を超えることもできません。グローバル名前は *"/.../"* または *"/:/"* で始まる必要があります。

このメッセージは、接続で呼び出された中間ノードから返される場合があることに注意してください。たとえば、DB2 Connect ゲートウェイ経由で DRDA サーバーに接続しようとしており、クライアント・ワークステーションがグローバル・ディレクトリー・サービスを使用していない場合は、このメッセージが DB2 Connect ゲートウェイから返される可能性があります。

ユーザーの処置: グローバル名を訂正して、もう一度やり直してください。

SQL1293N グローバル・ディレクトリー項目で、エラーが検出されました。エラー・コード:
error-code

説明: 使用しているグローバル・データベース・ディレクトリー項目のいずれかで、エラーが検出されました。詳細は、以下のエラー・コードを参照してください。

- 1 データベース・オブジェクトに、認証情報が入っていません。
- 2 データベース・オブジェクトとデータベース・ロケーター・オブジェクトの両方に、通信プロトコル情報が入っていません。
- 10 項目がデータベース・オブジェクトではありません。
- 11 データベース・オブジェクトの固有データベース名が見つからないか、または長すぎるかのどちらかです。
- 12 データベース・オブジェクトのデータベース・プロトコルが、見つからないか、または長すぎるかのどちらかです。
- 13 データベース・オブジェクトで、無効な認証情報が見つかりました。
- 14 データベース・オブジェクトで、十分にないか、または無効な通信プロトコル情報が見つかりました。
- 15 データベース・ロケーター・オブジェクト名が、データベース・オブジェクトにありません。
- 16 データベース・オブジェクトのデータベース・ロケーター・オブジェクト名が無効です。
- 20 項目がデータベース・ロケーター・オブジェクトではありません。
- 22 データベース・ロケーター・オブジェクトで、十分にないか、または無効な通信プロトコル情報が見つかりました。
- 30 項目がルーティング情報オブジェクトではありません。
- 31 ターゲット・データベース情報が、ルーティング情報オブジェクトで見つかりませんでした。
- 32 ルーティング情報オブジェクトのターゲット・データベースの情報が不十分です。

- 33 適切なゲートウェイが、ルーティング情報オブジェクトで見つかりませんでした。
- 34 ゲートウェイでの認証のためのフラグが無効です。
- 35 ゲートウェイのデータベース・ロケーター・オブジェクト名が無効です。
- 36 ルーティング情報オブジェクトのターゲット・データベース情報属性のデータベース名が、見つからないか、または長すぎるかのどちらかです。
- 37 ルーティング情報オブジェクトのターゲット・データベース情報属性のデータベース・プロトコルが、見つからないか、または長すぎるかのどちらかです。

DCE サブシステムが操作不能の場合、または DCE ディレクトリー項目を読むための十分な特権を持っていない場合も、このメッセージが表示される場合があることに注意してください。

このメッセージは、接続で呼び出された中間ノードから返される場合があることに注意してください。たとえば、DB2 Connect ゲートウェイ経由で DRDA サーバーに接続しようとしており、クライアント・ワークステーションがグローバル・ディレクトリー・サービスを使用していない場合は、このメッセージが DB2 Connect ゲートウェイから返される可能性があります。

ユーザーの処置: DCE サブシステムが操作可能で、ディレクトリー項目を読むための適切な特権を持っていることを確認してください。問題が続く場合は、データベース管理者に連絡して、ディレクトリー項目のエラーを訂正してください。これらのディレクトリー・オブジェクトのフォーマットについては、「管理ガイド」を参照してください。

sqlcode: -1293

sqlstate: 08001

SQL1294N グローバル・ディレクトリー・アクセスに使用されているディレクトリー・パス名が、指定されていないかまたは無効です。

説明: グローバル・ディレクトリー・サービスを使用するには、ディレクトリー・パス名を、*dir_path_name* データベース・マネージャー構成パラメーター、または DB2DIRPATHNAME 環境変数のどちらかに指定する必要があります。名前が指定されていないか、または指定した名前が有効ではありません。

このメッセージは、接続で呼び出された中間ノードから返される場合があることに注意してください。たとえ

ば、DB2 Connect ゲートウェイ経由で DRDA サーバーに接続しようとしており、クライアント・ワークステーションがグローバル・ディレクトリー・サービスを使用していない場合は、このメッセージが DB2 Connect ゲートウェイから返される可能性があります。

ユーザーの処置: 正しい名前をデータベース管理者に尋ね、正しい名前を指定して、もう一度やり直してください。

sqlcode: -1294

sqlstate: 08001

SQL1295N グローバル・ディレクトリー・アクセスに使用されているルーティング情報オブジェクト名が、指定されていないかまたは無効です。

説明: このクライアントに対してネイティブではないデータベース・プロトコルを使用して、リモート・データベースにアクセスするグローバル・ディレクトリー・サービスを使用するには、ルーティング情報オブジェクトの名前を、*route_obj_name* データベース・マネージャ構成パラメーター、または DB2ROUTE 環境変数に指定する必要があります。名前が指定されていないか、または指定した名前が有効ではありません。

このメッセージは、接続で呼び出された中間ノードから返される場合があることに注意してください。たとえば、DB2 Connect ゲートウェイ経由で DRDA サーバーに接続しようとしており、クライアント・ワークステーションがグローバル・ディレクトリー・サービスを使用していない場合は、このメッセージが DB2 Connect ゲートウェイから返される可能性があります。

ユーザーの処置: 正しいオブジェクト名をデータベース管理者に尋ね、正しい名前を指定して、もう一度やり直してください。

sqlcode: -1295

sqlstate: 08001

SQL1296N **DIR_TYPE** パラメーターが **NONE** でない場合は、データベース・マネージャ構成パラメーターである **DIR_PATH_NAME** および **DIR_OBJ_NAME** パラメーターに、有効な値を指定しなければなりません。

説明: これらのパラメーターには相互関係があります。**DIR_TYPE** の値が **NONE** の場合は、他の 2 つの値は無視されます。**DIR_TYPE** の値が **NONE** でない場合は、他の 2 つとも、有効な値を持っている必要があります。**DIR_TYPE** が **NONE** でない場合は、以下の規則が適用されます。

1. **DIR_PATH_NAME** と **DIR_OBJ_NAME** の値は、**NULL** (またはブランク) にすることはできません。
2. **DIR_TYPE** の値が **DCE** の場合は、**DIR_PATH_NAME** の値を、引用符で囲まれた特殊な **DCE** ストリングである **"/.../"** または **"/:/"** で始める必要があります。

ユーザーの処置: **DIR_TYPE** の値を変更する場合は、最初に、**DIR_PATH_NAME** と **DIR_OBJ_NAME** パラメーターに有効な値が指定されていることを確認してください。**DIR_PATH_NAME** または **DIR_OBJ_NAME** パラメーターをブランクにする場合は、最初に、**DIR_TYPE** を **NONE** に設定してください。

SQL1297N このコマンドは、このプラットフォームでは現在サポートされていません。

説明: このコマンドで要求された関数は、このプラットフォームではサポートされていません。

ユーザーの処置: このコマンドを使用しないでください。

SQL1300N カタログ・ステートメント内に無効な **DCE** プリンシパル名があります。

説明: カタログ・データベース操作中の **DCE** プリンシパル名が無効です。**DCE** プリンシパル名には次の条件があります。

- **AUTHENTICATION** が **DCE** として指定されている場合、プリンシパル名はカタログ・ステートメントに含まれる必要があります。
- **AUTHENTICATION** が **DCE** として指定されていない場合、プリンシパル名はカタログ・ステートメントに含みません。
- プリンシパル名の最大長は 1024 バイトです。

ユーザーの処置: リストされた条件をプリンシパル名が満たしていることを確認し、カタログ・コマンドを再実行してください。

SQL1301N サーバーの **DCE** キータブ・ファイルにアクセス中にエラーが発生しました。

説明: サーバーの **DCE** キータブ・ファイルにアクセス中にエラーが発生しました。キータブ・ファイルを有効にするには、次の条件が満たされている必要があります。

- 存在するサーバーのキータブ・ファイルの名前が **keytab.db2** であり、**sqllib/security** ディレクトリーにあること。
- キータブ・ファイルには単一項目しかないこと。

ユーザーの処置: **DCE** が開始済みであることを確認し

SQL1302N • SQL1306N

てください。次に、キータブ・ファイルが存在すること、単一項目を含んでいること (rgy_edit で) をチェックしてください。操作を再試行してください。

SQL1302N DB2 許可 ID に対する DCE プリンシパルのマッピング・エラー。理由コード:
reason-code

説明: DB2 許可 ID に DCE プリンシパル・エレメントをマッピングする時にエラーが発生しました。以下の理由コードを参照してください。

1

DB2 許可 ID のマッピングに対して DCE ユーザーが欠落しているか無効である。

2

2. DB2 許可 ID のマッピングに対して DCE グループが欠落しているか無効である。

ユーザーの処置: DCE プリンシパル・エレメントには、DB2 許可 ID に対する ERA マッピングが必要です。欠落している項目を DCE レジストリーに追加し、操作を再試行します。

sqlcode: -1302

sqlstate: 08001

SQL1303N セキュリティー・デーモンは再始動できません。

説明: エージェントとセキュリティー・デーモンとの間の通信が切断されたか、あるいはセキュリティー・デーモンが異常終了した後に、セキュリティー・デーモンを再始動できません。データベース・マネージャーとのすべての新しい接続は拒否され、認証は不可能です。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーを停止して再始動します。db2start コマンドが失敗した場合、その SQLCODE のユーザー応答にしたがってください。

sqlcode: -1303

sqlstate: 58004

SQL1304N TCP/IP のセキュリティー・タイプ SOCKS は無効です。

説明: Catalog Node コマンドの TCP/IP プロトコル構造中の TCP/IP セキュリティー・タイプ SOCKS が、認証タイプ DCE で無効です。

ユーザーの処置: セキュリティー・タイプ SOCKS を指定した TCP/IP プロトコルと、認証タイプ DCE の組み合わせを使用していないことを確認してください。

sqlcode: -1304

sqlstate: 08001

SQL1305N 内部 DCE エラーが発生しました。

説明: 内部 DCE エラーで DB2 プロセスが失敗しました。

ユーザーの処置: DCE が開始済みであることを確認してください。問題が続く場合、サービス担当者に連絡してください。

sqlcode: -1305

sqlstate: 58004

SQL1306N 無効なパラメーターがセキュリティー監査機能の呼び出し中に指定されました。理由コード: reason-code。

説明: セキュリティー監査 API のパラメーターの 1 つが正しくありません。理由:

- 1 無効な監査オプションの指定。
- 2 構成/記述 sqleaucfg 構造に無効なポインター。
- 3 無効な構成/記述パラメーター・トークン。
- 4 無効な構成/記述パラメーター値。値は正しくないか、またはパラメーターの有効範囲外です。
- 5 構成/記述パラメーターに無効なカウント指定。
- 6 構成/記述パラメーターに割り振られた長さが不十分。
- 7 sqleauextract 構造の抽出に無効なポインター。
- 8 抽出パラメーター・トークンが無効。
- 9 抽出パラメーター値が無効。値は正しくないか、または有効範囲外です。
- 10 抽出パラメーターに無効なカウント指定。
- 11 抽出パラメーターに無効な長さ。
- 12 アーカイブ・パラメーター値が無効です。値は正しくないか、または有効範囲外です。
- 13 パスが無効です。パスの長さが有効な範囲外です。
- 14 相対パスの使用はサポートされていません。

ユーザーの処置: システム管理者は、それぞれの理由に応じて特定の処理を取ってください。

- 1 sqlutil.h 組み込みファイルを参照して、監査 API 呼び出しに正しいオプション値を与えてください。
- 2 構成/記述構造に有効なポインターが与えられているかチェックしてください。

- 3 sqleaucfg パラメーター・トークンの監査機能参照セクションを調べることによって、正しいパラメーターが指定されます。
- 4 監査機能参照で有効な値を調べて、パラメーター値を訂正してください。
- 5 可変長パラメーターに正しいカウントを指定し、該当する長さを割り振り/初期化してください。
- 6 SQLCA で返されたエラー・トークンに基づいて、構成/記述パラメーターに割り振られた長さを訂正してください。
- 7 抽出構造に有効なポインターが与えられているかチェックしてください。
- 8 sqleauextract パラメーター・トークンの監査機能参照セクションを調べるによって、正しいパラメーターが指定されます。
- 9 監査機能参照で有効な値を調べて、パラメーター値を訂正してください。
- 10 可変長パラメーターに正しいカウントを指定し、該当する長さを割り振り/初期化してください。
- 11 SQLCA で返されたエラー・トークンに基づいて、抽出パラメーターに割り振られた長さを訂正してください。
- 12 監査機能参照で有効な値を調べて、パラメーター値またはパラメーター長を訂正してください。
- 13 サポートされる範囲内の長さを持つパスを指定してください。
- 14 絶対パスを指定してください。
6. 構成ファイルが検出できない。ファイル、またはファイルを含むディレクトリーのどちらかが存在しません。
7. 抽出ファイルが検出できない。
8. 抽出中の監査レコードの形式が無効。ファイルは破壊されました。
9. ファイルが存在しません。
10. ファイル許可が原因でファイルへのアクセスが拒否されました。
11. アクティブな監査ログがすでにアーカイブされているため、新規のイベントをそのログに記録することができません。
12. ディスク・スペースがありません (ディスクが満杯です)。
13. 抽出またはアーカイブ中にファイル入出力エラーが発生しました。
14. アクティブな監査ログ・ファイルで抽出を実行できません。

ユーザーの処置: システム管理者は、それぞれの理由に応じて特定の処理を取ってください。

1. アクションは不要です。
2. アクションは不要です。
3. バックアップから構成ファイルをリストアするか、または 'audit reset' コマンドを発行してください。
4. ファイル名の長さが限度内の、異なる監査パス名を選択してください。
5. ファイル許可が正しくない場合、所有者によって書き込みが許されるように設定してください。ファイル・システムがいっぱいの時は、続行する前にフリー・スペースを作成してください。
6. 監査構成ファイルが欠落している場合、バックアップからリストアするか、またはファイルをデフォルトに初期化するために 'reset' コマンドを発行してください。ディレクトリーが欠落している場合、バックアップからリストアするか、またはデータベース・マネージャーのインスタンスを再作成してください。
7. 指定されたパスにファイルが存在するかどうか検証してください。ファイルが欠落している場合、使用できるならバックアップからリストアしてください。
8. 監査ログ・ファイルが破壊された可能性が最も高いです。他の監査ログ・ファイルで問題が持続する場合は、DB2 サービスに通知してください。
9. アーカイブするアクティブ・ログ・ファイルまたは抽出するアーカイブ・ログ・ファイルが、指定されたパスに存在するかどうか確認してください。

SQL1307N セキュリティ監査機能の呼び出し中にエラーが発生しました。理由コード:

reason-code.

説明: セキュリティ監査 API の呼び出しによってエラーが発生しました。理由:

1. 監査が開始済み。
2. 監査がすでに停止している。
3. 監査構成ファイルに無効なチェックサム。
4. デフォルトまたはユーザーが提供する監査パス名が長すぎる。
5. 監査構成ファイルを更新できない。ファイル・システムがいっぱいであるか、書き込みを許可しないかのどちらかです。

SQL1308W

10. ファイル・システム内のファイル許可を訂正してください。
11. アーカイブされた監査ログ・ファイルが、アクティブな監査ログ・ファイルに名前変更されました。アクティブな監査ログ・ファイルを、アーカイブされた監査ログ・ファイルに名前変更しなおす必要があります。
12. 使用できる十分なディスク・スペースがあることを確認してください。
13. 詳細については db2diag ログ・ファイルを調べてください。
14. アーカイブされた監査ログ・ファイルで抽出を実行する必要があります。アクティブな監査ログ・ファイルを抽出する前にアーカイブしてください。

SQL1308W 監査抽出機能は処理を完了しました。
num-records レコードが抽出されました。

説明: セキュリティ監査抽出機能は処理を正常に完了し、指定された数のレコードを抽出しました。

ユーザーの処置: ゼロのレコードが抽出された場合、ユーザーは抽出ファイルに抽出パス名が含まれているか、そして抽出パラメーターが正確であるか検証してください。

SQL1309N サーバー・プリンシパル名が無効です。

説明: データベース・カタログのステートメントで指定されたサーバー・プリンシパル名は、DCE 登録に存在しません。このため、DCE チケットは DB2 サーバーで取得できません。

ユーザーの処置: データベース・カタログ項目のプリンシパル名が DB2 サーバーで使用されている DCE プリンシパルに対応していることを確認してください。プリンシパル名を完全に修飾することが必要である可能性があります。

sqlcode: -1309

sqlstate: 08001

SQL1310N データベース接続サービス・ディレクトリーのアクセス中に、データベース接続サービス・ディレクトリー・サービスが失敗しました。

説明: データベース接続サービス・ディレクトリー・ファイルのアクセス中にファイル・エラーが発生したために、データベース接続サービス・ディレクトリー・サービスが失敗しました。

関数は処理されません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを実行した後で、関数を再実行してください。

- データベース接続サービス・ディレクトリーに項目を追加する場合は、ディレクトリー・ファイルが大きくなっても十分なスペースがあることを確認してください。
- 他の並行して実行されているプログラムが、ファイルにアクセスしていないことを確認してください。
- ディレクトリー・ファイルが壊れていないことを確認してください。リカバリー不能の場合は、消去してから再作成するか、またはバックアップ・バージョンからリストアする必要があります。

SQL1311N データベース接続サービス・ディレクトリーが見つかりません。

説明: ディレクトリーが見つかりません。ディレクトリーが削除された可能性があります。

関数は処理されません。

ユーザーの処置: CATALOG DCS DATABASE コマンドを使用して、データベース接続サービス・ディレクトリーに項目を追加するか、またはディレクトリーをバックアップ・バージョンからリストアしてください。

SQL1312W データベース接続サービス・ディレクトリーが空です。

説明: データベース接続サービス・ディレクトリーの内容の読み取りが試みられましたが、項目が存在しません。

処理を続行しますが、項目を使用する後続のコマンドは処理されません。

ユーザーの処置: Catalog DCS Database コマンドを使用して、ディレクトリーに項目を追加するか、または項目を含むバックアップ・バージョンからリストアしてください。

SQL1313N データベース接続サービス・ディレクトリーがいっぱいです。

説明: ディレクトリーがすでに最大サイズに達しているため、項目をデータベース接続サービス・ディレクトリーに追加できません。

関数は処理されません。

ユーザーの処置: 項目を追加する前に、ディレクトリーから項目を 1 つ以上削除してください。

SQL1314N データベース接続サービス・ディレクトリーの項目パラメーターのアドレスが無効です。

説明: アプリケーション・プログラムが、このパラメーターに無効なアドレスを使用しました。そのアドレスが割り振られていないバッファを指しているか、または必須入力を含むための十分なバッファがありません。

関数は処理されません。

ユーザーの処置: アプリケーション・プログラムが必要なバッファ域を割り振っていることを確認して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1315N ローカル・データベース名が無効です。

説明: ローカル・データベース名に無効な文字が指定されました。すべての文字は、データベース・マネージャの基本文字セットの文字でなければなりません。

関数は処理されません。

ユーザーの処置: ローカル・データベース名に使用されている文字が、データベース・マネージャ基本文字セットの文字であることを確認して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1316N データベース接続サービス・ディレクトリーに、指定されたローカル・データベース名の項目が見つかりませんでした。

説明: データベース接続サービス・ディレクトリーに、入力されたローカル・データベース名に対応する項目が見つからないために、データベース接続サービス・ディレクトリー・サービスが失敗しました。

関数は処理されません。

ユーザーの処置: ローカル・データベース名が正しいことを確認して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1317N ローカル・データベース名が、すでにデータベース接続サービス・ディレクトリーに存在します。

説明: ローカル・データベース名の項目がすでにディレクトリーに存在するために、項目がディレクトリー追加できませんでした。

関数は処理されません。

ユーザーの処置: ユニークなローカル・データベース名を指定するか、または既存の項目を削除して新しい項目を追加してください。

SQL1318N パラメーター 1 の入力構造内のエレメント *name* の長さが無効です。

説明: データベース接続サービス・ディレクトリー項目構造の長さの値はゼロ以上か、またはエレメントが持つ最大長以下でなければなりません。

関数は処理されません。

ユーザーの処置: ディレクトリー項目構造のエレメントを指定する場合は、関連した長さがエレメントのバイト数を表している必要があります。そうでない場合は、長さの値はゼロでなければなりません。すべてのディレクトリー項目構造エレメントが、コマンドに必要な指定と長さを持っていることを確認して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1319N データベース接続サービス・ディレクトリーの項目が集められていません。

説明: ディレクトリーの全項目をコピーする要求を受信しましたが、事前に項目を集める要求を受信しなかったか、または事前に項目を集める要求が失敗しました。

関数は処理されません。

ユーザーの処置: ディレクトリーをオープンする要求を出して、項目を集めてください。次に、このコマンドを再サブミットしてください。

SQL1320N データベース接続サービス・ディレクトリーには、現在アクセスできません。

説明: データベース接続サービス・ディレクトリーにアクセスする要求が失敗しました。データベース接続サービス・ディレクトリーへの接続は、要求したアクセスのタイプとディレクトリーの現在のアクティビティによって異なります。ディレクトリーを更新する要求の場合は、ディレクトリーがアクティブであってはなりません。要求がディレクトリーの読み取りの場合は、ディレクトリーが更新されていなければ、アクセスが許可されます。

関数は処理されません。

ユーザーの処置: 現在のアクティビティが完了するのを待って、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1321N ディレクトリー項目構造に指定された構造 ID が無効です。

説明: ディレクトリー項目構造が受け取った構造 ID が、認識できる値を持っていません。

関数は処理されません。

ユーザーの処置: ディレクトリー項目構造に渡した構造

SQL1322N

ID の値が有効であることを確認して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1322N 監査ログ・ファイルに書き込み中にエラーが発生しました。

説明: DB2 監査機能は、監査記録に監査イベントを記録するために呼び出されたときに、エラーが発生しました。監査ログが含まれているファイル・システムにはスペースがありません。このファイル・システムでスペースを空けるか、または監査ログを整理してサイズを縮小してください。

スペースがさら使用できるときは、db2audit を使用してメモリーのデータを取り除いて、記録権限を作動可能状態にリセットしてください。ログの整理を実行する前に、適切な抽出が実行されたこと、およびログのコピーが作成されていることを確認してください。削除された記録はリカバリーできません。

ユーザーの処置: 監査機能がロギングを再開するには、システム管理者が必要な修正をする必要があります。

sqlcode: -1322

sqlstate: 58030

SQL1323N 監査構成ファイルにアクセス中にエラーが発生しました。

説明: db2audit.cfg を開けなかったのか、または無効でした。以下の理由が考えられます。

- db2audit.cfg ファイルが存在していないか、または損傷を受けています。以下のいずれかのアクションを実行してください。
 - ファイルの保管されたバージョンからリストアしてください。
 - db2audit 実行可能プログラムからリセット・コマンドを実行して、監査機能構成ファイルをリセットしてください。

ユーザーの処置: この問題を解決するには、システム管理者が適切なアクションを行わなければなりません。

sqlcode: -1323

sqlstate: 57019

SQL1324N ニックネーム列 *schema.name.column* からデータを変換中にエラーが発生しました。 理由コード: *reason-code*。値: *value*。

説明: データをリモート・ソースとの間で転送している間に、データ変換問題が発生しました。以下の理由が考えられます。

- 1 数値が範囲外です。

- 2 数値構文エラーです。

- 3 Base 64 デコード・エラーです。

- 4 Hexbin デコード・エラーです。

ユーザーの処置: リモート・タイプとローカル・タイプの間のデータ・タイプ・マッピングを調べてください。さらに、リモート・システムが有効なデータを戻すことを確認してください。

SQL1325N リモート・データベース環境は、コマンドまたはコマンド・オプションのいずれもサポートしていません。

説明: DB2 ワークステーション・データベース固有のコマンドまたはコマンド・オプションを、DB2 Connect またはフェデレーテッド・サーバーを通してホスト・データベースに対して発行しようとした。以下のコマンドが DB2 (MVS* 版)、DB2 (OS/400* 版)、または SQL/DS* データベースに対して発行されると、このエラーが発生します。

- OPSTAT(操作状況の把握)
- GETAA(管理者許可の入手)
- GETTA(表許可の入手)
- PREREORG(表再編成の準備)
- REORG(再編成関数の呼び出し)
- RQSVPT/ENSVPT/RLBSVPT(サブトランザクション要求)
- RUNSTATS(統計の実行)
- COMPOUND SQL ATOMIC STATIC (ATOMIC コンパウンド SQL)
- ACTIVATE DATABASE
- DEACTIVATE DATABASE

同様に、以下のコマンドでも、間違ったオプションによりこのエラーが発生します。

- IMPORT (表のインポート) ファイル・タイプは IXF、コミット・カウントは 0 (オフライン・インポートの場合) または automatic 以外 (オンライン・インポートの場合)、Action String (たとえば "REPLACE into ...") の最初の語は INSERT でなければなりません。
- EXPORT (表のエクスポート) ファイル・タイプは IXF でなければなりません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ホスト・データベースに対して DB2 Connect またはフェデレーテッド・サーバーを通してこのコマンドを発行しないでください。

SQL1326N ファイルまたはディレクトリー *name* にアクセスできません。

説明: ファイルまたはディレクトリー *name* が、ファイル許可が間違っているか、またはファイル・パスが違っている、あるいはディレクトリーまたはパスに十分なスペースがないためアクセスできません。

クラスター・マネージャーを使用している場合、DB2 データベース・マネージャーが指定のパスをクラスター・マネージャー構成に追加することを失敗したときに、このエラーが戻されることがあります。クラスター・マネージャーからのエラー・メッセージは、db2diag ログ・ファイルに記録されます。

ユーザーの処置: コマンドに指定されたパスまたはファイル名が有効なこと、およびそのパスまたはファイル名にアクセスする適切な許可を持っていてそのファイルが含まれるだけの十分なスペースがあることを確認してください。問題を訂正して、コマンドを再サブミットしてください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

クラスター・マネージャーを使用している場合、問題を訂正してコマンドを再サブミットしてください。

- db2diag ログ・ファイルを見て、クラスター・マネージャーからのエラー・メッセージがあるかどうかを調べます。
- db2diag ログ・ファイル内のクラスター・マネージャー・エラー・メッセージに応答することにより、DB2 データベース・マネージャーがパスをクラスター・マネージャー構成に追加することを妨げていた基本的な問題を訂正します。
- コマンドを再サブミットしてください。

SQL1327N 暗黙接続に失敗しました。 *database-name* は、有効なデータベース名ではありません。

説明: 暗黙接続の実行に失敗しました。DB2DBDFT 環境変数により指定されたデータベース別名の構文が、有効ではありません。データベース名は 1 から 8 バイトで、すべての文字はデータベース・マネージャー基本文字セットから使用する必要があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: DB2DBDFT 環境変数で指定したデータベース別名を修正して、コマンドをサブミットしてください。コマンド行プロセッサを使用している場合は、コマンドを再発行する前に、"db2 terminate" を発行する必要があります。暗黙接続を実行したくない場合は、DB2DBDFT 環境変数を取り除いてください。

sqlcode: -1327

sqlstate: 2E000

SQL1328N 暗黙接続に失敗しました。データベース別名またはデータベース名 *name* が、ローカル・データベース・ディレクトリーに見つかりませんでした。

説明: 暗黙接続の実行に失敗しました。DB2DBDFT 環境変数によって指定されたデータベース名が、既存のデータベースではありません。データベースが、データベース・ディレクトリーの中に見つかりませんでした。

コマンドは処理されません。

分散作業単位内で発行された CONNECT RESET 要求は、デフォルト・データベースに対する暗黙接続を試みます。これが、このエラーの理由になる場合があります。

ユーザーの処置:

- DB2DBDFT 環境変数で指定したデータベース別名を修正して、コマンドをサブミットしてください。
- 意図したアクションが、分散作業単位環境での処理中に接続を除去することである場合は、CONNECT RESET ステートメントを、DISCONNECT または RELEASE ステートメントで置き換えることを考慮してください。
- コマンド行プロセッサを使用している場合は、コマンドを再発行する前に、"db2 terminate" を発行する必要があります。
- 暗黙接続を実行したくない場合は、DB2DBDFT 環境変数を取り除いてください。

sqlcode: -1328

sqlstate: 42705

SQL1329N コマンドに指定された解決済みパスが長すぎます。

説明: コマンドに指定された解決パスが、データベース・マネージャーがサポートする最大長を超えています。解決後のパスの長さが 215 文字を超えてはなりません。Create Database、Catalog Database、スキャンのための Open Database Directory、change database comment コマンドの実行中は、データベース・マネージャー・インスタンス名が指定されたパスの最後に追加されます。

ユーザーの処置: 完全に解決された絶対または相対パス名が、データベース・マネージャー・インスタンス名を含めて、215 文字を超えていないことを確認してください。パスを訂正して、コマンドを再実行してください。

SQL1330N 記号宛先名 *name* が無効です。

説明: Catalog Node コマンドの CPIC プロトコル構造の記号宛先名が、指定されていないか、または許された長さを超えています。名前は、1 から 8 バイトの長さでなければなりません。

ユーザーの処置: 記号宛先名が指定されており、その長さが 8 バイトを超えていないことを確認してください。有効な記号宛先名を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1331N CPIC セキュリティー・タイプ *type* が無効です。

説明: Catalog Node コマンドの CPIC プロトコル構造に指定された CPIC セキュリティー・タイプが無効です。セキュリティー・タイプは、LU 6.2 アーキテクチャーの指定にしたがって、データベース・クライアントがパートナー LU との対話を割り振るときに含まれるセキュリティー情報を指定します。セキュリティー・タイプの正しい値は、以下のとおりです。

SQL_CPIC_SECURITY_NONE

アクセス・セキュリティー情報は含まれません。

注: これは、フェデレーテッド・サーバーを使用している場合はサポートされません。DB2 Connect が使用されている場合は、認証タイプが DCE、KERBEROS、または SERVER_ENCRYPT の場合のみサポートされます。

SQL_CPIC_SECURITY_SAME

ユーザー ID が、それがすでにチェック済みであることを示す標識とともに含まれます。認証タイプ SERVER が DB2 Connect またはフェデレーテッド・サーバーで使用されている場合、あるいは認証タイプが DCE、KERBEROS、または SERVER_ENCRYPT である場合、これはサポートされません。

SQL_CPIC_SECURITY_PROGRAM

ユーザー ID とパスワードの両方が含まれません。認証タイプ CLIENT が DB2 Connect で使用されている場合、あるいは認証タイプが DCE、KERBEROS、または SERVER_ENCRYPT である場合、これはサポートされません。

ユーザーの処置: セキュリティー・タイプを、このメッセージにリストされたタイプのいずれかに設定し、コマンドを再実行してください。

sqlcode: -1331

sqlstate: 08001

SQL1332N ホスト名 *name* が無効です。

説明: Catalog Node コマンドの TCP/IP プロトコル構造のホスト名が、指定されていないか、または許された長さを超えています。名前は 1 から 255 文字の長さでなければならず、すべて空白は使用できません。

ユーザーの処置: ホスト名が指定されており、それが 255 文字より長くないことを確認してください。有効なホスト名を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1333N サービス名 *name* が無効です。

説明: Catalog Node コマンドの TCP/IP プロトコル構造のサービス名が、指定されていないか、または許された長さを超えています。名前は 1 から 14 文字の長さでなければならず、すべて空白は使用できません。

ユーザーの処置: サービス名が指定されており、それが 14 文字より長くないことを確認してください。有効なサービス名を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1334N データベース・サーバーまたは DB2 Connect サーバーを使用して、リモート要求をこの構成の 2 番目のデータベース・サーバーにルーティングすることはできません。

説明: サポートされていない組み合わせのクライアントとターゲット・データベース・サーバーを使用するデータベース・サーバー・ノードまたは DB2 Connect サーバー・ノードを経由して要求をルーティングしようとしたか、LUW データベース・サーバーまたは DB2 Connect サーバーを経由して非 LUW DRDA クライアントから DRDA ターゲット・データベースに要求をルーティングしようとした。要求は、クライアントから、ターゲット・データベースが実行されているノードに対して直接ルーティングする必要があります。

ユーザーの処置: クライアント・マシンでデータベースをアンカタログした後で、データベースが実際に常駐するノードを指定して、データベースをカタログしてください。ノードもカタログされていることを確認してください。

SQL1335N アプリケーション・リクエスター名が無効です。

説明: アプリケーション・リクエスター名が指定されましたが、その中に無効な文字が含まれています。すべての文字は、データベース・マネージャーの基本文字セットの文字でなければなりません。

ユーザーの処置: アプリケーション・リクエスター名に使用されている文字が、データベース・マネージャー基本文字セットから使用されていることを確認して、コマンドを再実行してください。

SQL1336N リモート・ホスト *hostname* が見つかりませんでした。

説明: システムが、リモート・ホストのアドレスを解決できません。可能性のある理由は、以下のとおりです。

- TCP/IP ノードのカタログ時に、間違った *hostname* の値が指定されました。
- 正しい *hostname* が指定されましたが、このクライアント・ノードにアクセス可能な TCP/IP ネーム・サーバーのどれにも、あるいはクライアントのホスト・ファイルにも、定義されていません。
- 接続しようとしたときに、*hostname* が定義されている TCP/IP ネーム・サーバーが使用できませんでした。
- TCP/IP が実行されていません。
- リモート・ホストが CATALOG TCPIP6 NODE コマンドを使用してこのクライアントにカタログされました。ただし、リモート・ホストは IPv6 をサポートしません。

ユーザーの処置: TCP/IP が実行されており、TCP/IP ノードをカタログするときに指定した *hostname* が正しく、アクセス可能なネーム・サーバーまたはローカル・ホスト・ファイルに定義されていることを確認してください。

リモート・ホストが CATALOG TCPIP6 NODE コマンドを使用してこのクライアントにカタログされたものの、リモート・ホストが IPv6 をサポートしない場合には、(1) まず UNCATALOG コマンドを使用し、(2) 次に CATALOG TCPIP NODE コマンドを使用して再カタログしてください。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: リモート・ホストが SYSCAT.SERVERS ビューに正しくカタログされていることを確認してください。

sqlcode: -1336

sqlstate: 08001, 08508

SQL1337N サービス *service-name* が見つかりませんでした。

説明: システムが、*service-name* に関連するポート番号を解決できませんでした。可能性のある理由は、以下のとおりです。

- TCP/IP ノードがカタログされたときに、正しくない *service-name* の値が指定されました。
- 正しい *service-name* が指定されましたが、クライアントのサービス・ファイルに定義されていませんでした。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: この状態はデータ・ソースによっても検出できます。

ユーザーの処置: TCP/IP ノードのカタログにおいて指定されたサービス名が正しい名前で、ローカル・サービス・ファイルに定義されていることを確認してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザーは、名前がデータ・ソースのサービス・ファイルに定義されていることも確認する必要があります。

SQL1338N 記号宛先名 *symbolic-destination-name* が見つかりませんでした。

説明: システムが、指定された *symbolic-destination-name* に関連するサイド情報を見つけることができません。可能性のある理由は、以下のとおりです。

- CPIC NODE がカタログされたときに、正しくない *symbolic-destination-name* が指定されました。
- 記号宛先名とその関連するサイド情報が、SNA 通信サブシステムに定義されていません。
- SNA 通信サブシステムは開始されていません。

ユーザーの処置: CPIC ノードをカタログするときに指定した *symbolic-destination-name* が正しい名前であり、それがローカル SNA 通信サブシステムに定義されていることを確認してください。

SNA 通信サブシステムが開始されていない場合は、開始してください。

SQL1339N *n* SQL エラーが、非 ATOMIC コンパウンド SQL ステートメントの実行で検出され、識別は *error1 error2 error3 error4 error5 error6 error7* です。

説明: コンパウンド SQL ステートメントの 1 つ以上の SQL サブステートメントが、SQL エラー (負の戻りコード) になりました。

エラー・トークンは CLI/ODBC アプリケーションには返されません。CLI/ODBC アプリケーションは、

SQL1340N • SQL1344N

SQLGetDiagRec、SQLGetDiagField、または SQLError APIs を使用してそれぞれのエラーについての詳細を取得できます。

ユーザーの処置: 提供されるエラー識別情報を調べてください。 <n> <errorX> のトークンが埋められ、7 が最大です。各 <errorX> が SQL ステートメント・エラーを表します。これらのエラーは、見つかった順序でリストされます。メッセージ・テキストが形式化されていない場合、この情報は「SQLERRMC」フィールドの 2 番目で後続するトークンで見つけることができます (トークンは 1 バイトの 16 進数値 0xFF で区切られています)。

各 <errorX> は PPPSSSSS の形式で、意味は以下のとおりです。

PPP PPP は、コンパウンド SQL ブロック内のエラーの原因となったステートメントの位置を表し、左寄せされています。たとえば、最初のステートメントが失敗した場合、このフィールドには番号 1 ("1 ") が含まれます。

SSSSS 失敗したステートメントの SQLSTATE です。

SQLCA 自体を調べることにより、詳細な情報を見つけることができます。3 番目の「SQLERRD」フィールドにはコンパウンド SQL ステートメントにより影響を受けた行の番号が入り、4 番目の「SQLERRD」フィールドには成功した最後のステートメントの位置が入り、5 番目の「SQLERRD」フィールドには、IBM データ・サーバー・クライアント/DB2 サーバーおよび SQL/DS データベースがアクセスされたときに、参照整合により影響を受けた行の番号が入り、6 番目の「SQLERRD」フィールドには失敗した (負の SQLCODES が返された) ステートメントの番号が入ります。

sqlcode: -1339

sqlstate: 56091

SQL1340N ファイル・サーバー *fileserv* が見つかりませんでした。

説明: システムが、指定されたファイル・サーバーをネットワークで見つけることができませんでした。可能性のある理由は、以下のとおりです。

- IPX/SPX ノードがカタログされたときに、正しくない *fileserv* 名が指定されていました。
- 正しい *fileserv* 名が指定されていましたが、接続時に、ファイル・サーバーを使用できませんでした。

ユーザーの処置: IPX/SPX ノードをカタログするときに指定した *fileserv* 名が正しく、ファイル・サーバー

がネットワーク上で使用できることを確認してください。

SQL1341N ワークステーション名を、クライアント・データベース・マネージャーの構成ファイルに指定してください。

説明: ワークステーション名が、クライアント・データベース・マネージャー構成ファイルに指定されていません。NetBIOS を使用してサーバーと通信を行う場合は、ワークステーション名を指定する必要があります。

ユーザーの処置: クライアント・データベース・マネージャー構成ファイルにワークステーション名を指定してください。

SQL1342N ファイル・サーバー名 *name* は存在しないか、または無効です。

説明: コマンド/API に指定されたファイル・サーバー名がないか、または無効です。

ユーザーの処置: ファイル・サーバー名が指定されており、名前に無効な文字が含まれておらず、48 文字より長くないことを確認してください。有効なファイル・サーバー名を使用して、コマンド/API を再サブミットしてください。

SQL1343N オブジェクト名 *name* がないか、または無効です。

説明: コマンド/API に指定されているオブジェクト名がないか、または無効です。

ユーザーの処置: オブジェクト名が指定されており、名前に無効な文字が含まれておらず、48 文字より長くないことを確認してください。有効なオブジェクト名を使用して、コマンド/API を再サブミットしてください。

SQL1344N システム・カタログの中に孤立行が検出されました。データベース・アップグレードを試みる前に、技術サービス担当者に連絡してください。

説明: 1 つ以上のシステム・カタログの中に孤立行が含まれているため、データベース・アップグレードが失敗する可能性があります。

ユーザーの処置: サービス担当者に連絡してください。この問題が解決するまでは、データベース・アップグレードを試みないでください。

SQL1345N クラスター・マネージャー・エラーのために、実行が失敗しました。このエラーは、後続の SQL ステートメントの正常な実行には影響しません。

説明: 現在の環境コマンドまたは SQL ステートメントの正常な処理を妨げるクラスター・マネージャー・エラーが発生しました。実行時にエラーが発生しました。

コマンドまたはステートメントは処理できません。現在のトランザクションはロールバックされず、アプリケーションはデータベースに接続されたままです。

ユーザーの処置: メッセージ番号を記録してください。可能であれば、SQLCA からすべてのエラー情報を記録してください。db2diag ログ・ファイルにあるクラスター・マネージャーの戻りコードに基づいて必要な訂正アクションを試行し、コマンドまたは SQL ステートメントを再サブミットしてください。

必要な情報は以下のとおりです。

- 問題の説明
- SQLCODE と理由コード
- SQLCA の内容 (可能な場合)
- トレース・ファイル (可能な場合)

sqlcode: -1345

sqlstate: 58038

SQL1348W 表スペースのサイズを小さくすることができませんでした。

説明: 表スペースの高水準点を超えるフリー・スペースが存在しないため、表スペースのサイズを減らすことができませんでした。

ユーザーの処置: 表または索引の再編成操作を実行すると高水準点以下のスペースを解放できるようになることがあります。その場合は、後続の ALTER TABLESPACE ... REDUCE ステートメントを使用して表スペースのサイズを小さくすることができます。

sqlcode: +1348

sqlstate: 0168J

SQL1349W 外部 NOT FENCED ルーチンおよび/またはユーザー定義ラッパーが、db2ckmig によって、またはデータベース・マイグレーション中に検出されました。データベース・マイグレーション中に、DB2 エンジン・ライブラリーとの従属関係を持たない外部 NOT FENCED ルーチンはすべて、FENCED および NOT THREADSAFE に変更されます。さらに、すべてのユーザー定義ラッパーの DB2_FENCED オプションが、Y に変更されます。影響を受けるルーチンのリストについては、generated-file を参照してください。

説明: DB2 パージョン 9.5 以降、データベース・マネージャーはマルチスレッド対応になっていますが、Linux および UNIX プラットフォームではマルチプロセスです。マルチスレッド・データベース・マネージャーで NOT FENCED および NOT THREADSAFE 外部ルーチンを実行すると、正しくない結果が出たり、データベース破壊、またはデータベース・マネージャーの異常終了が発生したりする可能性があります。その結果、すべての NOT FENCED ルーチンは THREADSAFE でなければなりません。

同様に、マルチスレッド・データベース・マネージャーで NOT FENCED であるユーザー定義ラッパーを使用すると、正しくない結果が出たり、データベース破壊、またはデータベース・マネージャーの異常終了が発生したりする可能性があります。そのため、NOT FENCED であるユーザー定義ラッパーは、すべてスレッド・セーフでなければなりません。

データベースのマイグレーション中に、DB2 エンジン・ライブラリーとの従属関係を持たないすべての外部 NOT FENCED ルーチンは、スレッド・セーフでないコードを実行した結果として発生する問題を避けるために、FENCED および NOT THREADSAFE に変更されます。同様に、データベース・マイグレーション中に、すべてのユーザー定義ラッパーについて DB2_FENCED オプションが Y に設定されます。

db2ckmig の実行中に、DB2 エンジン・ライブラリーとの従属関係を持たない外部 NOT FENCED ルーチンが検出されます。これらのルーチンは、データベースのマイグレーション中に FENCED および NOT THREADSAFE に変更されます。影響を受けるすべての外部 NOT FENCED ルーチンのリストを含む、ファイル generated-file が生成されます。さらに、db2ckmig の実行時に、ユーザー定義ラッパーが検出され、データベースのマイグレーション中に DB2_FENCED オプションが Y に変更されます。

影響を受けるすべての外部 NOT FENCED ルーチンの

SQL1350N

リストとユーザー定義ラッパーを含む、ファイル *generated-file* が生成されます。

ユーザーの処置: データベースをマイグレーションする際には、影響を受けるすべてのルーチンおよびユーザー定義ラッパーが、NOT FENCED および THREADSAFE として安全に実行できることを確認してください。確認した後、それらを NOT FENCED および THREADSAFE に変更することができます。ファイル *generated-file* は、すべてのルーチンとおよびユーザー定義ラッパーを NOT FENCED に変更するために実行できる CLP スクリプトです。このファイルを、実行すべき ALTER ステートメントだけを含めるように変更し、データベースがマイグレーションされた後で CLP スクリプトを実行してください。

db2ckmig の実行時に、データベースのマイグレーション前に、生成ファイル *generated-file* でリストされた影響を受けるルーチンを FENCED および NOT THREADSAFE モードに変更すること、また、ユーザー定義ラッパーの DB2_FENCED オプションを Y に変更することを選択できます。

SQL1350N アプリケーションが、この要求を処理するための正しい状態ではありません。理由コード = *rc*。

説明: 対応する *rc*:

- 01** アプリケーションは現在 SQL を処理しており、要求されたユーティリティー・コマンドを処理できません。
- 02** バックアップ要求が進行中です。バックアップが完了する前に、さらに要求が必要であることを示す警告が、初期ユーティリティー呼び出しから返されました。
- 03** リストア要求が進行中です。リストアが完了する前に、さらに要求が必要であることを示す警告が、初期ユーティリティー呼び出しから返されました。
- 04** ロールフォワード要求が進行中です。ロールフォワードが完了する前に、さらに要求が必要であることを示す警告が、初期ユーティリティー呼び出しから返されました。
- 05** ロード要求が進行中です。ロードが完了する前に、さらに要求が必要であることを示す警告が、初期ユーティリティー呼び出しから返されました。
- 07** フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: アプリケーションは、SQL ステートメントを実行した後でこのコマンドを処理することはできません。

ユーザーの処置: 対応する *rc*:

- 01** このコマンドを再発行する前に、作業単位を完了 (COMMIT または ROLLBACK を使用) してください。
- 02-05** 進行中のユーティリティーの完了に必要な呼び出しを行なった後で、このコマンドを再発行してください。
- 07** フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: アプリケーションは、データベース・マネージャーとの接続を確立した後、他のどの SQL ステートメントよりも前に、このコマンドを発行する必要があります。

SQL1351C FCM チャネルは使用できません。

説明: FCM チャネルは使用できません。最大値に達しているため、FCM は自動的にチャネルの数を増加できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 他の処理がこのリソースをいくらか解放した後に、この要求を再試行してください。

エラーが持続する場合、データベース・マネージャー構成ファイルで指定された FCM チャネル (*fcm_num_channels*) 数を増やし、要求を再試行してください。

sqlcode: -1351

sqlstate: 57011

SQL1352N トランザクション中に、トラステッド接続は再利用できません。

説明: 接続がトランザクション中であるため、接続を再利用しようとしたが失敗しました。現在接続は未接続状態です。

ユーザーの処置: 接続の再利用を試行する前に、コミットまたはロールバックを必ず実行してください。

SQL1353N 列 *column-name* の列オプションは透過 DDL ステートメント内では無効です。理由コード = *reason-code*。

説明: 透過 DDL ステートメントはデータ・ソースにオブジェクトを作成しました。フェデレーテッド・サーバーで作成されたオブジェクト用に指定できる列オプションは、透過 DDL ステートメント経由ではサポートされていません。列 *column-name* に指定した列オプションは、*reason-code* によって次のように表されます。

1. lob-options

2. unique-constraint、referential-constraint、または check-constraint
3. default-clause
4. generated-column-spec (default-clause は含まない)

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 無効なオプションを除去するか置き換えてください。

sqlcode: -1353

sqlstate: 428GO

SQL1354N ルーチン *routine-name* 内の SQL 変数は、少し前に行われたコミットまたはロールバック操作のために、参照に使用できません。

説明: ルーチン *routine-name* の実行中にデータ・タイプが XML の SQL 変数または SQL パラメーターの参照が試みられましたが、少し前のコミットまたはロールバック操作によってその値が使用できなくなったため、参照できません。

コミットまたはロールバック操作が行われた後で先に新しい値を割り当てずにデータ・タイプ XML の変数またはパラメーターを SQL プロシージャで参照することはサポートされません。

ユーザーの処置: エラーが発生しないようにするには、以下の 1 つ以上を行ってください。

- コミットまたはロールバック操作を、データ・タイプ XML の SQL 変数または SQL パラメーターを参照する SQL ステートメントの後に移動する。
- コミットまたはロールバック操作の後のデータ・タイプ XML の SQL 変数または SQL パラメーターの参照を除去する。
- コミットまたはロールバック操作の後の SQL ステートメントで参照されるデータ・タイプ XML の SQL 変数または SQL パラメーターに値を割り当てる。
- デッドロックやシステム障害のような状態の結果としてロールバックが暗黙的に行われた場合は、トランザクションを再試行する。

sqlcode: -1354

sqlstate: 560CE

SQL1355N アラート構成設定値の検索時に指定した 1 つ以上の値が無効です。理由コード:
reason-code

説明: 理由コード *reason-code* に示されている理由のため、アラート構成設定値の検索時に指定した 1 つ以上

の値が無効です。可能性のある理由コードは、以下のとおりです。

- 1 指定したオブジェクト・タイプが無効です。
- 2 指定した構成レベルが無効です。
- 3 データベース名が指定されていないため、特定のデータベースに対するアラート構成の検索要求が失敗しました。
- 4 データベース名またはオブジェクト名のいずれかが指定されていないため、特定のオブジェクトに対するアラート構成の検索要求が失敗しました。
- 5 指定したオブジェクトのオブジェクト・タイプが一致しません。
- 6 オブジェクトは指定されましたが、オブジェクト・レベル設定が要求されませんでした。

ユーザーの処置: 理由コードに対応するアクションは、以下のとおりです。

- 1 データベース・マネージャーのアラート構成設定値を検索するにはオブジェクト・タイプ DBM を、データベースについて検索する場合は DB を、表スペースについて検索する場合は TS を、表スペース・コンテナーについて検索する場合は TSC を指定します。
- 2 オブジェクト・タイプが DBM の場合、インストール・デフォルト設定値を検索するには構成レベル D を、インスタンス・レベル設定値を検索するには G または O を指定します。オブジェクト・タイプが DBM ではない場合、インストール・デフォルト設定値を検索するには構成レベル D を、グローバル・レベル設定値を検索するには G を、オブジェクト・レベル設定値を検索するには O を指定します。
- 3 データベース名を指定します。
- 4 データベース名とオブジェクト名の両方が指定されていることを確認します。
- 5 指定したオブジェクトのオブジェクト・タイプが一致していることを確認してください。
- 6 オブジェクト名は、オブジェクト・レベル設定値を検索する場合にのみ指定します。

要求を再サブミットしてください。

sqlcode: -1355

sqlstate: 560CD

SQL1356N データ・パーティションを表 *tablename* からデタッチすることはできません。

説明: ALTER TABLE ... DETACH PARTITION ステートメントを処理できません。データ・パーティションは同じ作業単位 (UOW) 内で接続されているため、表にはペンディング中の変更処理があります。

ユーザーの処置: パーティションをデタッチする前に、ペンディング中の ATTACH トランザクションに対して COMMIT または ROLLBACK を実行してください。

SQL1357N 指定されたデータ・タイプが、データ・ソースからのデータ・タイプ・マッピング用のローカル・データ・タイプとして無効です。理由コード = *reason-code*。ローカル・タイプを指定されたデータ・タイプに変更することはできません。

説明: 指定されたデータ・タイプが無効なタイプ・マッピングであるか、サポートされないデータ・タイプです。

ユーザーの処置: *reason-code* は、取るべきアクションを示します。

1. 指定されたローカル・データ・タイプは、データ・ソースからマップされているデータ・タイプと互換性がありません。データ・ソースのデータ・タイプと互換性のあるデータ・タイプを指定してください。
2. 指定されたデータ・タイプは組み込みデータ・タイプではありません。適切な組み込みデータ・タイプを指定してください。
3. ラッパーがデータ・タイプ・マッピングをサポートしていません。ラッパーによってサポートされるデータ・タイプを指定してください。

sqlcode: -1357

sqlstate: 42815

SQL1358N 重複したカーソルはオープンできません。

説明: このネスト・レベルで最初のインスタンスがオープンされてから、このカーソルの 65533 を超えるインスタンスがオープンされました。

ユーザーの処置: このネスト・レベルにあるこのカーソルのインスタンスをすべてクローズしてください。

sqlcode: -1358

sqlstate: 54064

SQL1359N トラストド・コンテキストのユーザー切り替え要求の処理は、割り込みにより取り消されました。

説明: ユーザー切り替え処理中に割り込み要求を受け取りました。ユーザー切り替え要求は完了しておらず、接続は未接続状態になっています。

ユーザーの処置: アプリケーションを続行してください。有効なユーザー切り替え要求を発行するか、またはこの接続を終了して新規接続を確立することで、接続をまず接続済み状態に戻す必要があります。

sqlcode: -1359

sqlstate: 51018

SQL1360N 現在の処理は割り込み不能です。

説明: ユーザーが、割り込み可能でない処理の割り込みを試みました。

ユーザーの処置: 現在の処理の割り込みを行わないでください。

SQL1361W 実行時間がタイムアウト値を超えました。割り込みを行いますか？

説明: コマンドが事前定義されたタイムアウト期間よりも長くかかる場合は、(Windows クライアントの場合) このコマンドの割り込みを行うかどうかを確認するためのダイアログ・ボックスがポップアップされます。

このメッセージは Windows 環境にのみ適用され、ダイアログ・ポップアップ・ボックスにのみ表示されます。

ユーザーの処置: YES - すぐに割り込みます; NO - 続行し、プロンプトを表示しません; CANCEL - 続行し、タイムアウトになります、という 3 つの選択があります。

SQL1362W 即時変更のためにサブミットされた 1 つ以上のパラメーターが動的に変更されませんでした。クライアントの変更は、次のアプリケーション始動時、または TERMINATE コマンドが発行されるまで有効になりません。次の DB2START コマンドまで、サーバーの変更は有効になりません。

説明: データベース・マネージャーの構成変更のうちいくつかが変更を即時に適用することができませんでした。これらのパラメーターについては、DB2 の開始後に変更が適用されます。通常これは、サーバーでの DB2START の後、およびクライアントでのアプリケーションの再始動の後に発生します。

ユーザーの処置: どのパラメーターの変更が動的に有効になったか、あるいはどのパラメーターの変更が動的に有効にならなかったかを調べるには、以下のコマンドを使用して、データベース・マネージャー構成パラメーターを検索し、パラメーターの詳細を表示してください。

DB2 GET DBM CFG SHOW DETAIL

ユーザーがインスタンスにアタッチされている場合のみ、データベース・マネージャー構成パラメーターへの変更は動的に有効になります。すべての構成パラメーターが動的更新をサポートしているわけではありません。どのパラメーターを動的に変更できるのかを調べるには、「管理ガイド」を参照してください。

グループ内で複数のパラメーターがサブミットされた場合は、パラメーターを個々にサブミットしてください。構成パラメーターを動的に変更できない場合には、以下の 1 つ以上を行ってください。

- ユーザー・アプリケーション: アプリケーションの停止および開始
- CLP: TERMINATE および再接続
- サーバー: DB2STOP および DB2START の発行

SQL1363W 即時変更のためにサブミットされた 1 つ以上のパラメーターが動的に変更されませんでした。これらの構成パラメーターの場合、構成パラメーターの変更を有効にするには、データベースをシャットダウンして再アクティブ化する必要があります。

説明: データベース構成コマンドは正常に処理されました。しかし、いくつかの変更は即座に処理されませんでした。

データベースに接続している場合のみ、データベース構成パラメーターへの変更は動的に有効になります。すべての構成パラメーターが動的更新をサポートしているわけではありません。つまり、データベースが非アクティブ化されて再アクティブ化されるまで有効になりません。

ユーザーの処置: どのパラメーターの変更が動的に有効になったか、あるいはどのパラメーターの変更が動的に有効にならなかったかを調べるには、以下のコマンドを使用して、データベース構成パラメーターを検索し、パラメーターの詳細を表示してください。

DB2 GET DB CFG FOR <database-alias> SHOW DETAIL

パラメーターがグループでサブミットされた場合は、個別にパラメーターの更新を再サブミットしてください。

動的更新をサポートしない構成パラメーターの場合は、以下の 1 つ以上を実行してください。

- DEACTIVATE DATABASE コマンドを使用してデータベースを非アクティブ化し、次いで ACTIVATE DATABASE コマンドを使用して再びアクティブ化する。
- バインド中に新規値が使用されるため、新規構成パラメーターが反映された後、パッケージを再バインドする。
- FLUSH PACKAGE CACHE コマンドを使用して、SQL キャッシュ内の動的ステートメントを無効にする。

SQL1364W 1 つ以上のパラメーターが AUTOMATIC をサポートしていないのに、AUTOMATIC に設定されました。

説明: 1 つ以上の構成パラメーターが、AUTOMATIC をサポートしていないのに AUTOMATIC に設定されました。

ユーザーの処置: パラメーターの変更がグループとしてサブミットされた場合は、どのパラメーターの変更が成功したか調べるために、変更を個々に再サブミットしてください。

1 つのパラメーターがサブミットされただけである場合は、このメッセージは、値 AUTOMATIC がこのパラメーターでサポートされていないことを示します。

どの構成パラメーターが AUTOMATIC 値をサポートするかを調べるには、「管理ガイド」を参照してください。

SQL1365N db2start または db2stop は、プラグイン *plugin-name* の処理に失敗しました。理由コード = *reason-code*。

説明: サーバー側のセキュリティー・プラグイン *plugin-name* の処理が失敗しました。 *reason-code* に対応する説明は、以下のとおりです。

- 1 セキュリティー・プラグインが見つからない。
- 2 セキュリティー・プラグインを利用できない。
- 3 複数の Kerberos セキュリティー・プラグインが SRVCON_GSSPLUGIN_LIST データベース・マネージャー構成パラメーターに指定されている。
- 4 Kerberos ベースのセキュリティー・プラグインが見つからないのに、Kerberos が

<p>SRVCON_AUTH または AUTHENTICATION データベース・マネージャー構成パラメーターに指定されている。</p> <p>5</p> <p>必須の API がセキュリティー・プラグインに欠落している。</p> <p>6</p> <p>セキュリティー・プラグインのタイプが誤っている。</p> <p>7</p> <p>セキュリティー・プラグインのアンロードでエラーが生じた。</p> <p>8</p> <p>セキュリティー・プラグイン名が無効である。</p> <p>9</p> <p>セキュリティー・プラグインから報告された API のバージョンに、DB2 との互換性がない。</p> <p>10</p> <p>データベース・サーバー上で想定外のエラーがセキュリティー・プラグインによって検出された。</p> <p>11</p> <p>SRVCON_GSSPLUGIN_LIST データベース・マネージャー構成パラメーターが設定されていないのに、GSSPLUGIN または GSS_SERVER_ENCRYPT が SRVCON_AUTH または AUTHENTICATION データベース・マネージャー構成パラメーターに指定されている。</p> <p>12</p> <p>データベース・マネージャー構成パラメーター COMM_EXIT_LIST 内の通信バッファー出口ライブラリー名が無効である。</p> <p>13</p> <p>通信バッファー出口ライブラリーが見つからなかった。</p> <p>14</p> <p>通信バッファー出口ライブラリーをロードできなかった。</p> <p>15</p> <p>通信バッファー出口ライブラリーに、必要とされる API が含まれていない。</p>	<p>16</p> <p>通信バッファー出口ライブラリーがロード中にエラーを検出した。</p> <p>17</p> <p>通信バッファー出口ライブラリーから報告された API のバージョンに、DB2 との互換性がない。</p> <p>ユーザーの処置: <i>reason-code</i> に対応するユーザー応答は、以下のとおりです。</p> <p>1</p> <p>指摘されたセキュリティー・プラグインは、server-plug-in ディレクトリーに置かれていることを確認してください。</p> <p>2</p> <p>管理通知ログ・ファイルを調べて障害の原因を確かめて、管理通知ログのエラー・メッセージ・テキストに示された問題を解決してください。</p> <p>3</p> <p>SRVCON_GSSPLUGIN_LIST データベース・マネージャー構成パラメーターに指定した Kerberos セキュリティー・プラグインは 1 つだけであることを確認してください。</p> <p>4</p> <p>SRVCON_GSSPLUGIN_LIST データベース・マネージャー構成パラメーターに Kerberos セキュリティー・プラグインを 1 つ指定するか、または SRVCON_AUTH または AUTHENTICATION データベース・マネージャー構成パラメーターには Kerberos を指定しないでください。</p> <p>5</p> <p>管理通知ログ・ファイルで、欠落している必須の API の名前を確かめて、欠落している API をセキュリティー・プラグインに追加してください。</p> <p>6</p> <p>該当するデータベース・マネージャー構成パラメーター内に、正しいタイプのセキュリティー・プラグインを指定してください。たとえば、ユーザー ID/パスワード・ベースのセキュリティー・プラグインを SRVCON_GSSPLUGIN_LIST データベース・マネージャー構成パラメーターに指定しないでください。</p>
---	--

- 7 管理通知ログ・ファイルを調べて障害の原因を確かめて、管理通知ログのエラー・メッセージ・テキストに示された問題を解決してください。
- 8 有効なセキュリティ・プラグイン名を指定してください。その名前には、ディレクトリー・パス情報を記入してはなりません。
- 9 サポートされているバージョンの API がセキュリティ・プラグインで使用されていて、正しいバージョン番号が報告されることを確認してください。
- 10 詳細は、クライアント上とサーバー上の管理通知ログ・ファイルで調べてください。管理通知ログのエラー・メッセージ・テキストに示された問題を解決してください。
- 11 SRVCON_GSSPLUGIN_LIST データベース・マネージャー構成パラメーターに GSS-API ベースのセキュリティ・プラグインを少なくとも 1 つ指定するか、または SRVCON_AUTH または AUTHENTICATION データベース・マネージャー構成パラメーターに別のタイプの認証タイプを指定してください。
- 12 通信バッファ出口ライブラリーの命名規則と矛盾しないライブラリー名を使用してください。
- 13 示されている通信バッファ出口ライブラリーが commexit ディレクトリー内にあることを確認してください。
- 14 db2diag.log 内で、通信バッファ出口ライブラリーをロードできない理由を示すメッセージを調べてください。
- 15 db2diag.log 内で、欠落している API 名を調べてください。欠落している API を通信バッファ出口ライブラリーに追加してください。
- 16 db2diag.log 内で、通信バッファ出口ライブラリーから戻されたメッセージを調べてください。このメッセージは、DB2 ではなく通信バッファ出口ライブラリーがエラーを検出したことを示しています。
- 17 このバージョンの DB2 と互換性のあるバージョンの通信バッファ出口ライブラリーを使用してください。
-
- SQL1366N セキュリティー・プラグイン *plugin-name* の処理エラーがクライアントで発生しました。理由コード = *reason-code*。**
- 説明:** クライアント側のセキュリティ・プラグインがエラーを戻しました。 *reason-code* に対応する説明は、以下のとおりです。
1. 必須の API がセキュリティ・プラグインに欠落している。
 2. セキュリティー・プラグインのタイプが誤っている。
 3. クライアントのセキュリティ・プラグインをロードできない。
 4. セキュリティー・プラグインをアンロードできない。
 5. プラグイン名が無効である。
 6. セキュリティー・プラグインから報告された API のバージョンに、DB2 との互換性がない。
 7. 想定外のエラーがセキュリティ・プラグインで検出された。
 8. クライアントの証明書が無効である。
 9. 期限切れの証明書がセキュリティ・プラグインで受信された。
- ユーザーの処置:** *reason-code* に対応するユーザー応答は、以下のとおりです。
1. 管理通知ログ・ファイルで、欠落している必須の API の名前を確かめてから、欠落している API をセキュリティ・プラグインに追加してください。
 2. 該当するデータベース・マネージャー構成パラメーター内に、正しいタイプのセキュリティ・プラグインを指定してください。たとえば、ユーザー ID/パスワード・ベースのセキュリティ・プラグインを SRVCON_GSSPLUGIN_LIST データベース・マネージャー構成パラメーターに指定しないでください。
 3. 管理通知ログ・ファイルを調べて障害の原因を確かめて、管理通知ログのエラー・メッセージ・テキストに示された問題を解決してください。

SQL1367N

4. 管理通知ログ・ファイルを調べて障害の原因を確かめて、管理通知ログのエラー・メッセージ・テキストに示された問題を解決してください。
5. 有効なセキュリティ・プラグイン名を指定してください。その名前には、ディレクトリー・パス情報を記入してはなりません。
6. サポートされているバージョンの API がセキュリティ・プラグインで使用されていて、正しいバージョン番号が報告されることを確認してください。
7. 詳細は、クライアント上とサーバー上の管理通知ログ・ファイルで調べてください。管理通知ログのエラー・メッセージ・テキストに示された問題を解決してください。
8. クライアント証明書 (db2secGenerateInitialCred で生成されたものか、またはインバウンドの代行証明書として用意されたもの) が、セキュリティ・プラグインで認識されるフォーマットになっていることを確認してください。証明書は、コンテキストの開始に使用されるので、INITIATE または BOTH 証明書でなければなりません。
9. ステートメントをサブミットするユーザーは、該当する認証を取得し (または最初の証明書を再取得し) てから、そのステートメントを再サブミットする必要があります。

SQL1367N オペレーティング・システム構成が不足しているため、リソース・ポリシーをサポートできません。

説明: リソース・ポリシーは、現在のオペレーティング・システム構成をサポートしていません。

ユーザーの処置: 適切なオペレーティング・システム・レベルをインストールするか、または DB2_RESOURCE_POLICY レジストリー変数を無効にしてください。

SQL1368N 無効なリソース・ポリシー構成です。

説明: リソース・ポリシー・ファイルが無効です。

ユーザーの処置: DB2_RESOURCE_POLICY レジストリー変数で定義されているファイルで指定されているポリシー定義を訂正してください。

DB2_RESOURCE_POLICY レジストリー変数をクリアすることによってリソース・ポリシー・サポートを無効にするか、または DB2_RESOURCE_POLICY を AUTOMATIC に設定して自動構成にしてください。

SQL1369N 無効な XML 文書です。

説明: 現在の XML 文書は無効です。

ユーザーの処置: 先へ進む前に XML 文書を検証してください。

SQL1370N インスタンスまたはデータベース *name1* を静止しようとして失敗しました。原因は、インスタンスまたはデータベース *name2* がすでにユーザー *username* により静止されているためです。静止タイプ: *type*

説明: データベースが別のユーザーによって、すでに静止されているにもかかわらず、インスタンスを静止するというような、静止のオーバーラップになるインスタンスまたはデータベースの静止が試みられました。

静止タイプ *type* は、すでに静止されているインスタンスまたはデータベースを参照しています。'1' がインスタンスで、'2' がデータベースです。

ユーザーの処置: 現在インスタンスまたはデータベースを静止しているユーザーに連絡して、DB2 が静止から解放される時期を尋ね、解放されたときに要求を再試行してください。

SQL1371W 指定されたインスタンスまたはデータベース *name* は既に静止しているため、静止操作は実行されませんでした。

説明: 保守アクティビティーを実行する前に、インスタンスまたはデータベースを静止することにより、データベース・マネージャーのインスタンスまたはデータベースからユーザーを強制的に切断することができます。

既に静止しているインスタンスまたはデータベースを静止しようとする、このメッセージが返されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL1372N トランザクションの実行中は、静止を実行できません。

説明: 静止を発行するユーザーが、未完の作業単位を持っているにもかかわらず、データベースまたはインスタンスを静止しようとしてしました。この状態の間は、静止を発行できません。

ユーザーの処置: 作業単位を完了 (COMMIT または ROLLBACK) させて、もう一度やり直してください。

SQL1373W インスタンスまたはデータベース *name* は、静止状態にされていないために静止解除を行うことができません。

説明: インスタンスまたはデータベースが静止状態ではないため、静止解除が失敗しました。

ユーザーの処置: 静止解除が正しいインスタンスまたはデータベースに対して発行されていることを確認してください。

SQL1374N インスタンスまたはデータベース *name* は、他のユーザー *username* によって静止状態にされているために、**QUIESCE RESET** を行うことができません。

説明: インスタンスまたはデータベースが静止されましたが、それは他のユーザーによって行われました。

ユーザーの処置: `quiesce reset` が正しいインスタンスまたはデータベースに対して発行されていることを確認してください。

SQL1375N 無効なパラメーターが `api` に渡されました。パラメーター *parm-code* がエラーです。

説明: *parm-code* が、以下のエラーがあるパラメーターを示しています。

- 1 有効範囲
- 2 オプション

値が範囲外または無効である可能性があります。

ユーザーの処置: `api` の構文をチェックしてパラメーターを訂正し、もう一度やり直してください。

SQL1376N `fenced` として定義されたラッパーを使用するソース化プロシージャの作成または呼び出しはサポートされていません。

説明: `fenced` として定義されたラッパーを使用してソース化プロシージャを作成または呼び出すことはできません。

ユーザーの処置: `unfenced` として定義されたラッパーを使用してステートメントをサブミットしてください。

sqlcode: -1376

sqlstate: 55069

SQL1377N ソース化プロシージャの作成または変更はこのデータ・ソースでサポートされていません。

説明: ソース化プロシージャをこのデータ・ソースで作成または変更できません。

ユーザーの処置: サポートされるデータ・ソースでステートメントをサブミットしてください。

sqlcode: -1377

sqlstate: 560CL

SQL1379W データベース・パーティション・グループ *partition_group* が部分的に再配分されました。再配分された表の数は *number* で、まだ再配分されていない表の数は *number* です。理由コード = *reason-code*。

説明: この再配分操作は正常に完了しましたが、データベース・パーティション・グループは部分的にのみ再配分されます。その結果、データベース・パーティション・グループ内の再配分済みの表が、まだ再配分されていない表とは別のパーティション・マップを使用する可能性があります。さらに、再配分操作の前に、再配分済みの表と再配分されていない表の間の連結が存在した場合、それらの表の間の連結プロパティは一時的に無効にされます。そのため、照会パフォーマンスが最適にならない可能性があります。

理由コード:

1

再配分要求で表リストが指定されましたが、その表リストには指定されたデータベース・パーティション・グループ内のすべての表が含まれていませんでした。その結果、要求で指定されたリストにない、データベース・パーティション・グループ内のその他の表は再配分されません。

2

`STOP AT` パラメーターが再配分要求で指定され、その再配分操作が完了する前に値に達しました。

ユーザーの処置: `CONTINUE` パラメーターを指定した別の再配分要求を発行することによって、指定された別の表集合またはデータベース・パーティション・グループの残りの部分のいずれかに新しい分散を適用してください。あるいは、`ABORT` パラメーターを指定することによって、再配分操作を取り消して古い配布システムに戻ってください。

SQL1380N 予期しない Kerberos セキュリティー・エラーが発生しました。

説明: 認証中に、予期しない Kerberos セキュリティー・エラーが発生しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL1381N Security Support Provider Interface は使用できません。

説明: Security Support Provider Interface (SSPI) が使用できなかったため、認証に失敗しました。

ユーザーの処置: Windows オペレーティング・システムを稼働している場合、ファイル security.dll がシステム・ディレクトリに存在することを確認してください。また、使用されているオペレーティング・システムで SSPI がサポートされていることを確認してください。

SQL1382N Kerberos サポートは使用できません。

説明: Kerberos サポートがインストールされていないため、認証に失敗しました。

ユーザーの処置: Kerberos サポートがインストールされ、操作可能であることを確認してから、接続を再び試みてください。

SQL1383N ターゲット・プリンシパル名が無効です。

説明: CATALOG DATABASE コマンドに指定されたターゲット・プリンシパル名が無効です。

ユーザーの処置: UNCATALOG DATABASE コマンドを使用して、無効なターゲット・プリンシパル名を含んでいるデータベース項目を除去してください。

CATALOG DATABASE コマンドを使用して、有効なターゲット・プリンシパル名でデータベース項目を再カタログしてから、接続を再び試みてください。

Windows オペレーティング・システム環境を稼働している場合、ターゲット・プリンシパル名は、形式 <domain name>¥<user ID> の DB2 サービスのログオン・アカウント名です。

SQL1384N 相互認証を完了できません。

説明: クライアントまたはサーバーが相互認証を完了できなかったため、接続に失敗しました。

ユーザーの処置: ターゲット・プリンシパル名が CATALOG DATABASE コマンドに指定された場合、クライアントが接続を試みているサーバーに対し、ターゲット・プリンシパル名が有効であることを確認してください。

Windows オペレーティング・システム環境を稼働している場合、ターゲット・プリンシパル名は、形式 <domain name>¥<user ID> の DB2 サービスのログオン・アカウント名です。

ターゲット・プリンシパル名が無効と思われる場合は、IBM サービスまでご連絡ください。

SQL1385N パラメーター *parameter* が誤って再配分操作に指定されました。理由コード = *reason-code*。

説明: エラー・メッセージの中で示されているパラメーターは、無効か、誤って指定されているか、または指定されている他の再配分オプションの 1 つと互換性のないものです。

理由コード:

1

無効な再配分オプションが指定されました。配分オプションは、U (均等)、T (ターゲット・マップ)、C (続行)、または A (アボート) のいずれかです。

2

パーティション・リストのパーティション数の最大数は、1 つのクラスターで許可されるパーティションの最大数より小か等しくなければなりません。

3

STOP AT パラメーター値が無効です。STOP AT 値は、長さが 26 の ISO 形式でなければなりません。形式は "yyyy.mm.dd.hh-mm-ss-nnnnnn" でなければなりません。

7

STATISTICS パラメーター値が無効です。値は DB2REDIST_STAT_USE_PROFILE ('P') か DB2REDIST_STAT_NONE ('N') のいずれかでなければなりません。

8

表名の長さが範囲外です。各表の名前の最大長は (SQL_MAX_IDENT + SQL_MAX_IDENT + 2) です。

9

表オプション・パラメーターが無効です。表オプション値は DB2REDIST_TABLES_FIRST ('F') か DB2REDIST_TABLES_ONLY ('O') のいずれかでなければなりません。

10

- 11 入力パラメーター構造からの情報が欠落しています。入力構造 db2RedistStruct は NULL にすることができません。また、そのフィールド構造 db2RedistIn も NULL にすることができません。
- データベース・パーティション・グループ名が未定義であるか、またはデータベース・パーティション・グループ名に対する構造体 (struct) db2Char が正しくありません。データベース・パーティション・グループ名を指定する必要があります。データベース・パーティション・グループ名を格納する構造体 db2Char には有効なデータが含まれていなければなりません。データベース・パーティション・グループ名に対する構造体 db2Char を調べてください。pioData が NULL である場合、iLength はゼロでなければならず、逆に後者がゼロなら前者が NULL でなければなりません。
- 12 データ配布ファイル名を保管している構造 db2Char が無効です。
- 13 ターゲット・パーティション・マップ・ファイル名を保管している構造 db2Char が無効です。
- 14 再配分オプション 'T' (ターゲット・マップ) が指定されましたが、ターゲット・マップ・ファイルが指定されていません。
- 15 再配分オプションが 'T'(ターゲット・マップ) または 'A' (アポート) である場合、データ配布ファイルを指定してはなりません。
- 16 再配分オプションが 'U' (均等)、'C' (継続)、または 'A' (アポート) である場合、ターゲット・マップ・ファイルを指定してはなりません。
- 17 再配分オプションが 'T'(ターゲット・マップ)、'C' (継続)、または 'A' (アポート) である場合、パーティション・リストの追加、パーティション・リストのドロップは空でなければならず、カウントの追加およびカウントのドロップはゼロでなければなりません。

18

再配分オプションを複数回指定することはできません。

19

正しくないバージョン番号が API に渡されました。

20

表リストで指定された型付き表は、階層全体のルート表ではありません。

21

DATA BUFFER パラメーター値が無効です。値は 0 より大きく、util_heap_sz db cfg パラメーターのサイズより小さくしなければなりません。

ユーザーの処置: 理由コードに基づいて、対応するパラメーターをチェックし、有効なパラメーターが指定されていることを確認してから、ユーティリティを再度呼び出してください。

SQL1387W DB2 高可用性災害時リカバリー (HADR) のテークオーバーが正常に完了しました。ただし、HADR リソース・グループはロックされたままで、クラスター・マネージャーはそのリソース・グループを制御していません。

説明: HADR のテークオーバーは正常に完了して、クラスター・マネージャーは影響を受けるクラスター・ノード上のリソース・グループを管理する役割を再び果たすことになります。

ただし、DB2 データベース・マネージャーはリソース・グループの制御をクラスター・マネージャーに戻すことに失敗しました。その結果、クラスター・マネージャーは現在そのリソース・グループを制御していません。

クラスター・マネージャーがこのリソース・グループを制御していない場合、クラスター・マネージャーはそのリソース・グループに関連した障害に対して反応しません。

クラスター・マネージャーからのエラー・メッセージは、db2diag ログ・ファイルに記録されます。

ユーザーの処置: リソース・グループのロックを手動で解除して、クラスター・マネージャーがリソース・グループを制御できるようにします。

1. db2diag ログ・ファイルを検討して、DB2 データベース・マネージャーがリソース・グループのロックを解除してリソース・グループの制御をクラスター・マネージャーに戻すことに失敗した詳しい理由を示す診断情報を調べてください。

2. クラスター・マネージャーのツールおよびユーティリティを使用して、影響を受けたリソース・グループをロック解除、使用可能化、またはモニターします。

SQL1388W 要求されたりソースまたはリソースの一部にアクセスしようとして、エラーが起きました。部分的な情報が戻されています。詳細は、メッセージ *message-number* の管理通知ログで入手できます。

説明: 要求された情報の 1 つ以上のソースにアクセスしようとして、エラーが発生しました。収集できた情報は有効で、戻されましたが、一部のレコードが欠落している可能性があります。

ユーザーの処置: 照会結果は完全ではありません。詳細については、管理通知ログの関連項目を参照し、訂正してから、コマンドを再サブミットしてください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

SQL1389N 表指定子 *table-designator* が式には無効です。

説明: 表指定子がこの SQL ステートメント内の表指定子になるように定義されていないか、表指定子が SQL ステートメント内で指定された場所をこの表指定子で参照できません。

ステートメントは実行できません。

ユーザーの処置: 構文を訂正して、ステートメントを再サブミットしてください。ROW CHANGE TIMESTAMP 式および ROW CHANGE TOKEN 式の表指定子、または RID および RID_BIT 組み込み関数の規則については、「DB2 SQL リファレンス」を参照してください。

sqlcode: -1389

sqlstate: 42703

SQL1390C 環境変数 DB2INSTANCE が定義されていないか、または無効です。

説明: 環境変数 DB2INSTANCE が定義されていないか、または有効なインスタンス所有者に設定されていません。

ユーザーの処置: DB2INSTANCE 環境変数を、使用するインスタンスの名前に設定してください。使用するインスタンスの名前、または DB2INSTANCE 環境変数のインスタンス名への設定方法が分からない場合は、「管理ガイド」を参照してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合:

DB2INSTANCE 情報については、「フェデレーテッド・システム・ガイド」を参照してください。

PATH 環境変数に、使用するインスタンスのホーム・ディレクトリーの *sqllib/adm* パスが入っていることを確認してください (たとえば、*/u/instance/sqllib/adm* で、*/u/instance* は、UNIX システムのインスタンス所有者のホーム・ディレクトリーです)。

SQL1391N データベースは、すでにデータベース・マネージャーの他のインスタンスで使用されています。

説明: データベースが、データベース・マネージャーの他のインスタンスによって使用中 (データベースは、1 つのインスタンスにしか使用できない可能性があります) のために、要求が失敗しました。これは、他のマシンにある他のインスタンスにもアクセス可能な、取り付け済みファイル・システム上のデータベースにアクセスしようとして発生する可能性があります。

また、データベースに対してオープン接続 (SNA を介して) をもっていて、データベース・マネージャーが異常終了した場合にも、これが発生することがあります。

ユーザーの処置:

- 正しいデータベースを使用しており、このデータベースを他のインスタンスが使用していないことを確認してください。
- データベース・マネージャーが異常終了して、それに対してコマンド行プロセッサ接続がある場合には、「db2 の終了」を実行して、問題となっているオープン接続をクローズしてから、もう一度接続をやり直してください。

sqlcode: -1391

sqlstate: 51023

SQL1392N *prep,-bind,-import,-export* を使用しているアプリケーションの複数インスタンスがサポートされていません。

説明: WINDOWS 内では、一時点で実行できるインスタンスは *prep*、*bind*、*import*、*export* のいずれか 1 つだけです。

ユーザーの処置: WINDOWS 内では、*prep*、*bind*、*import*、*export* を使用するアプリケーションを複数始動しないでください。

SQL1393C 環境変数 DB2PATH が定義されていないか、または無効です。

説明: 環境変数 DB2PATH が定義されていないか、または有効なディレクトリー・パスに設定されていません。

ユーザーの処置: DB2PATH 環境変数を、データベース・マネージャーがインストールされているディレクトリーに設定してください。

SQL1394N インスタンスが定義されていません。

説明: インスタンスが未定義のため、新規インスタンスがアプリケーションに設定できません。

このメッセージは、現在のインスタンス環境で実行するための必要な権限を現在のユーザーが持っていない場合に返される可能性があります。

ユーザーの処置: 指定されたインスタンスが存在すること、および現在のインスタンス環境でプログラムを実行するための十分な権限を現在のユーザーが持っていることを確認してください。次のように db2ilist コマンドを使用して、インスタンスのリストを表示します。

```
db2ilist
```

SQL1395N アプリケーションが複数のコンテキストを使用しているため、別のインスタンスに切り替えできません。

説明: アプリケーションが複数のコンテキストを使用しているため、別のインスタンスに切り替える要求が失敗しました。

ユーザーの処置: 別のインスタンスに切り替える前に、アプリケーションが複数のコンテキストを使用していないか、または確認してください。

SQL1396N アプリケーションはデータベースに接続されているか、またはインスタンスにアタッチされているため、別のインスタンスに切り替えできません。

説明: アプリケーションがデータベースに接続あるいはインスタンスに接続しているため、別のインスタンスに切り替える要求が失敗しました。

ユーザーの処置: 別のインスタンスに切り替える前に、アプリケーションがデータベースあるいはインスタンスに接続されていないか、または確認してください。

SQL1397N DB2 サービスがログオンに失敗しました。

説明: DB2 サービスがログオンの失敗のため、開始できません。

ユーザーの処置: DB2 Administration Server を開始している場合、DB2ADMIN SETID コマンドで新規のログオン・アカウントを設定します。Windows で DB2 サーバーを開始している場合、「コントロール パネル」の「サービス」ダイアログ・ボックスを使用して、DB2 サービスに対するログオン・アカウントを設定することができます。

SQL1398N ルーチン routine-name はパーティション・データベース環境でサポートされていません。

説明: ルーチン routine-name はパーティション・データベース環境でサポートされていません。RID 関数の戻りデータ・タイプはデータベース・パーティション間で行を一意的に識別しません。RID 関数は、DB2 for z/OS の互換性のために、非パーティション・データベース環境でサポートされます。

ユーザーの処置: 非パーティション・データベース環境でのみルーチンを使用してください。RID 関数を使用する代わりに、RID_BIT 関数を使用してください。

sqlcode: -1398

sqlstate: 56038

SQL1399N オブジェクト object-name のオプション option-name2 のため、操作 operation-name はオプション option-name1 には無効です。理由コード = reason-code

説明: 2 つのラッパー・オプションまたはサーバー・オプションには相互に従属関係があります。オプションをドロップできるかまたは追加できるかは、別のオプションが存在するかどうかによって異なります。

理由コードには、以下のものがあります。

- 01** オブジェクト object-name のオプション option-name2 が存在しないため、オプション option-name1 を追加できません。
- 02** オブジェクト object-name のオプション option-name2 が存在するため、オプション option-name1 をドロップできません。

ユーザーの処置: 2 つのラッパー・オプションまたはサーバー・オプションには相互に従属関係があります。オプションをドロップできるかまたは追加できるかは、別のオプションが存在するかどうかによって異なります。

SQL1400N

理由コードには、以下のものがあります。

- 01** オブジェクト *object-name* のオプション *option-name2* を追加します。次に、オプション *option-name1* を追加します。
- 02** オブジェクト *object-name* のオプション *option-name2* をドロップします。次に、オプション *option-name1* をドロップします。

SQL1400N 認証はサポートされていません。

説明: 指定された認証タイプはサポートされていません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なパラメーターの値を使用して、コマンドを再発行してください。

SQL1401N 認証タイプが一致しません。

説明: リモート・ノードの認証タイプとは異なる認証タイプで、ローカル・ノードにカタログされているリモート・データベースに接続しようとした。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: このメッセージは以下の場合にも表示されます。

- データ・ソースが SYSCAT.SERVEROPTIONS に OPTION = 'PASSWORD' の SETTING='N' を指定して識別され、データ・ソースが承認クライアント・モードで実行されていない (つまり、データ・ソースにパスワードが必要である)。
- データ・ソースが SYSCAT.SERVEROPTIONS で OPTION = 'PASSWORD' に SETTING='Y' を指定して識別されており、データ・ソースがトラステッド・クライアント・モード (データ・ソースがパスワードを予期しないモード) で実行されている。
- SYSCAT.SERVEROPTIONS の OPTION='PASSWORD' にサーバー・オプションが指定されておらず、PASSWORD に対するシステム・デフォルト値が、データ・ソース・パスワード要件に違反している。

ユーザーの処置: コマンドは処理されません。

リモート・データベースと同じ認証タイプで、クライアント・ノードにデータベース別名を再カタログしてください。コマンドを再サブミットしてください。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合:

- データ・ソースがパスワードを必要としているが、そのサーバーについて SYSCAT.SERVEROPTIONS に OPTION='PASSWORD' の SETTING='N' が含まれているという問題がある場合は、ALTER SERVER SQL ステートメントを使用して

- SYSCAT.SERVEROPTIONS を変更し、正しいデータ・ソース・パスワード要件を反映させてください。
- データ・ソースがパスワードを必要としていないが、SYSCAT.SERVEROPTIONS には OPTION='PASSWORD' の SETTING='Y' が含まれているという問題がある場合は、ALTER SERVER SQL ステートメントを使用して SYSCAT.SERVEROPTIONS を変更し、正しいデータ・ソース・パスワード要件を反映させてください。
- OPTION='PASSWORD' のサーバー・オプションが SYSCAT.SERVEROPTIONS に設定されていない場合は、CREATE SERVER SQL ステートメントを使用して項目を作成し、正しいデータ・ソース・パスワード要件を反映させてください。

sqlcode: -1401

sqlstate: 08001

SQL1402N 予期しないシステム・エラーのため、ユーザーを認証できません。

説明: システム管理者に連絡してください。UNIX ベース・システムでは、ファイル *db2ckpw* に正しい許可ビット・セットがないかあるいはシステムがスワップ / ページング・スペースを使いきっている可能性があります。Windows で DB2 セキュリティー・サービスがまだ開始されていないか、アカウントがロックされている可能性があります。

コマンドは処理されません。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: この状態はデータ・ソースによっても検出できます。

ユーザーの処置: UNIX ベースのシステムでは、システム管理者に依頼して、*db2ckpw* に対する正しいアクセス許可が設定されていること、および十分なスワップ / ページング・スペースが割り振られていることを確認してください。Windows では、アカウントがロックされていないことを確認してください。

SQL1403N 指定されたユーザー名とパスワードのいずれか、またはその両方が正しくありません。

説明: 指定された無効なユーザー名とパスワードのいずれか、またはその両方が正しくないか、ユーザー名 / パスワードの組み合わせが無効か、または接続しようとしているデータベースの認証タイプが SERVER で、CONNECT TO ステートメントにユーザー名とパスワードが指定されていません。

DB2 Connect を使用している場合には、ホスト接続用の DCS ディレクトリー項目が見つからなかったことが問

題である可能性があります。

コマンドは処理されません。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: この状態はデータ・ソースによっても検出できます。

ユーザーの処置: 正しいユーザー名とパスワードの組み合わせを提供してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合:
SYSCAT.USEROPTIONS の項目が、アクセスされるデータ・ソースの正しいユーザー名とパスワードを含むことを確認してください。

sqlcode: -1403

sqlstate: 08004

SQL1404N パスワードの期限が切れています。

説明: パスワードの期限が切れています。

ユーザーの処置: パスワードを変更した後で、新しいパスワードを使用して要求を再試行してください。コマンド行プロセッサを使用して、CONNECT ステートメントまたは ATTACH コマンドを発行し、パスワードを変更することができます。

sqlcode: -1404

sqlstate: 08004

SQL1405N ローカル DB2 認証サーバーと通信できません。

説明: ローカル DB2 認証サーバーとの通信中のエラーのために、アプリケーションが認証に失敗しました。

ユーザーの処置: DB2 認証サーバーが開始していることを確認してください。

SQL1406N 共有ソート・メモリーをこのユーティリティーに割り振ることができません。

説明: 共有ソート・メモリーは使用できない状態になっていますが、この操作には必要です。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを実行します。

- SHEAPTHRES_SHR 構成パラメーターの値を、共有メモリーでソートを行えるように構成します。
- INTRA_PARALLEL 構成パラメーターを YES に設定して、パーティション内並列処理を有効にします。
- 接続コンセントレーターをアクティブ化します。

SQL1407N option-name オプションは feature と非互換です。

説明: このユーティリティーでは、feature の指定された option_name オプションはサポートされていません。

ユーザーの処置: 互換性のあるオプションを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1408N タイプ object-type のオブジェクト object-name で、監査ポリシー audit-policy がすでに使用中です。

説明: タイプ object-type のオブジェクト object-name の AUDIT USING ステートメントは指定されたオブジェクトの監査ポリシーと関連付けようとしたましたが、監査ポリシー audit-policy がすでに使用中です。特定のオブジェクトに関連付けることができるのは 1 つの監査ポリシーのみです。ステートメントを処理できませんでした。

ユーザーの処置: AUDIT ステートメントの REPLACE オプションを使用して、既存の監査ポリシーを希望する監査ポリシーに置き換えます。

sqlcode: -1408

sqlstate: 5U041

SQL1409N 監査ポリシーが、タイプ object-type のオブジェクト object-name と関連付けられていません。

説明: REMOVE オプションを指定する AUDIT ステートメントは、タイプ object-type のオブジェクト object-name との関連を除去しようとしたましたが、関連が存在しません。ステートメントを処理できませんでした。

ユーザーの処置: 正しいオブジェクトおよびタイプが使用されたかどうか確認してください。正しい場合、関連が存在しないため、何も行う必要はありません。

sqlcode: -1409

sqlstate: 5U042

SQL1410N SQL ステートメントを XA トランザクション内で発行できません。

説明: 以下のステートメントのいずれかが発行されましたが、XA トランザクション内でそれを発行することができません。

- CREATE、ALTER、または DROP WORKLOAD
- GRANT または REVOKE USAGE ON WORKLOAD
- CREATE、ALTER、または DROP SERVICE CLASS

SQL1411N

- CREATE、ALTER、または DROP WORK CLASS SET
- CREATE、ALTER、または DROP WORK ACTION SET
- CREATE、ALTER、または DROP THRESHOLD
- CREATE、ALTER、または DROP TRUSTED CONTEXT
- CREATE、ALTER、または DROP AUDIT POLICY

ユーザーの処置: XA 以外の接続からステートメントを再発行するか、あるいは現在の XA トランザクションが完了するまで待機してから、ステートメントを再発行してください。

sqlcode: -1410

sqlstate: 51041

SQL1411N 指定された節、*clause* がサービス・スーパークラス用にサポートされていません。

説明: 指定された節、*clause* はサービス・サブクラスには有効ですが、サービス・スーパークラスには無効です。サービス・サブクラスを作成または変更する場合は、UNDER 節を使用してください。

ユーザーの処置: サポートされない節を除去するか、または UNDER 節を指定してサービス・サブクラスを作成または変更してください。

sqlcode: -1411

sqlstate: 5U043

SQL1412N *table-name* という名前の表を処理できませんでした。理由: *reason-code*。

説明: 可能性のある理由コードは、以下のとおりです。

31

バージョン 9.5 以前の DB2 データベース・サーバーで作成された XML データ・タイプが表に含まれています。再配分ユーティリティでは、バージョン 9.7 より前の DB2 データベース・サーバーで作成された XML タイプのデータが入っている XML 列を含む表は処理できません。

ユーザーの処置: *reason-code* に対応するアクションを取ってください。

31

プロシージャ
SYSPROC.ADMIN_MOVE_TABLE を使用して、表を再作成します。新しいバージョンの表を分散することができます。

以下の手順に従うことにより、データベース・パーティション・グループ内の他の表に、バージョン 9.7 より前の DB2 データベース・サーバーで作成された XML 列が存在しないことを確認できます。

1. 表関数 ADMIN_GET_TAB_INFO を使用するか、管理ビュー SYSIBMADM.ADMINTABINFO を確認して、表の XML_RECORD_TYPE 情報を検索します。
2. 戻される列 XML_RECORD_TYPE の値が 2 以上であれば、再配分ユーティリティは表を処理できます。
3. XML_RECORD_TYPE の値が 1 である場合、再配分ユーティリティは表を処理できません。プロシージャ SYSPROC.ADMIN_MOVE_TABLE を使って表を再作成してください。

sqlcode: -1412

sqlstate: 55019

SQL1413N 表 *table-name* の行変更タイム・スタンプ列の指定が無効です。

説明: 行変更タイム・スタンプ列の指定が無効です。行変更タイム・スタンプ列では、以下を行うことはできません。

- 外部キーの列にする。
- 関数的依存関係 DEPENDS ON 節の列にする。
- データベース・パーティション・キーの列にする。
- 一時表に対して定義する。

ステートメントは実行できません。

ユーザーの処置: 構文を訂正して、ステートメントを再サブミットしてください。

sqlcode: -1413

sqlstate: 429BV

SQL1414N 表指定子 *table-designator* が式には無効です。

説明: 表指定子がこの SQL ステートメント内の表指定子になるように定義されていないか、表指定子が SQL ステートメント内で指定された場所をこの表指定子で参照できません。ステートメントは実行できません。

ユーザーの処置: 構文を訂正して、ステートメントを再サブミットしてください。ROW CHANGE
TIMESTAMP 式および ROW CHANGE TOKEN 式の表

指定子の規則については、「DB2 SQL リファレンス」を参照してください。

sqlcode: -1414

sqlstate: 42703

SQL1415N ステートメントは診断の目的のためにだけコンパイルされたので、これは実行されていません。

説明: ステートメントは、サービス機能を使用して診断情報を収集するために、システムの一部を介して処理されました。ステートメントのその後の処理を可能にするために必要なステップは完了していません。

ユーザーの処置: このエラーは、サービス機能を使用して準備されたステートメントのシステムで、それ以上の処理ができないようにするために戻され、予定されたものです。

SQL1416N ラッパー・ライブラリー *wrapper-library-name* には、フェデレーテッド・サーバーにインストール済みの DB2 のリリースとの互換性がありません。ラッパー・ライブラリーは、*list-of-DB2-releases* の各 DB2 リリースと互換性があります。

説明: ラッパー・ライブラリーには、フェデレーテッド・サーバーにインストール済みの DB2 のリリースおよびフィックスパック・レベルとの互換性がありません。ラッパー・ライブラリーは、*list-of-DB2-releases* にリストされている DB2 のリリースと互換性があります。このエラーの最も一般的な原因は以下のいずれかです。

- DB2 フィックスパックがインストールされていますが、対応する InfoSphere Federation Server フィックスパックがインストールされていません。
- InfoSphere Federation Server フィックスパックのインストール中に、fenced ラッパー・ライブラリーをリンクするスクリプトが実行されなかったか、あるいは正常に完了しませんでした。
- fenced ラッパー・ライブラリーをリンクするスクリプトの実行に必要な InfoSphere Federation Server のパッチがインストールされています。このスクリプトが実行されなかったか、あるいは正常に完了しませんでした。
- 非互換の製品ライブラリーが DB2 インストール・ディレクトリーに配置されています。

ユーザーの処置: DB2 のリリースおよびフィックスパック・レベルを判別するには、db2level コマンドを発行します。必要に応じて、現行の DB2 リリースおよびフ

ィックスパック・レベルと同等の InfoSphere Federation Server フィックスパックをインストールします。fenced ラッパー・ライブラリーにリンクするスクリプトをラッパーで実行する必要がある場合、そのリンク・スクリプトを実行します。これが必要なラッパーは次のとおりです。

データ・ソース	デフォルト・ラッパー名	リンク・スクリプト名
Informix	INFORMIX	djxlinkInformix
Microsoft SQL Server	DJXMSSQL3	djxlinkMssql
Oracle	NET8	djxlinkOracle
Sybase	CTLIB	djxlinkSybase
Teradata	TERADATA	djxlinkTeradata

リンク・スクリプトの詳細については、「InfoSphere Federation Server Installation Guide」を参照してください。

sqlcode: -1416

sqlstate: 560CN

SQL1417W ラッパー *wrapper-name* はデータ・ソース・サーバー・バージョン *list-of-data-source-versions* をサポートしていません。それ以後のバージョンでラッパーを使用すると、エラーが発生するか、または予期しない結果が生じるおそれがあります。

説明: IBM では、リスト *list-of-data-source-versions* にあるデータ・ソース・サーバー・バージョンでのみラッパーをテストしています。ラッパーを使用して、CREATE SERVER または ALTER SERVER ステートメントで指定したバージョンのデータ・ソース・サーバーにアクセスする場合、エラーまたは予期しない結果が生じる可能性があります。

ユーザーの処置: データ・ソース・ベンダーに連絡して、使用中のデータ・ソース・サーバーのバージョンに、以前のバージョンで作成されたアプリケーションとの互換性があるかどうかを確かめてください。使用中のデータ・ソース・サーバーのバージョンに互換性がある場合、ラッパーは正しく機能するはずですが、ただし、IBM では、使用中のデータ・ソース・サーバーのバージョンを使用してラッパーをテストしていません。使用中のデータ・ソース・サーバーのバージョンに互換性がない場合、ラッパーをそのまま使用してそのバージョンのデータ・ソース・サーバーにアクセスすると、エラーまたは予期しない結果が生じる場合があります。

SQL1418W

sqlcode: +1417

sqlstate: 0168Q

SQL1418W データベース構成パラメーター **DECFLT_ROUNDING** を変更すると、予期しない結果が生じる可能性があります。値が動的に変更されませんでした。変更を有効にするには、このデータベースからすべてのアプリケーションを切断する必要があります。

説明: データベース構成パラメーター (DB 構成パラメーター) **DECFLT_ROUNDING** を変更すると、幾つかの予期しない結果が生じる可能性があります。**DECFLOAT** データ・タイプを使用して計算した場合、新規の丸めモードによって異なる結果が生成される可能性があります。

以下のリストでは、最も重要な結果の一部を示します。

- 以前に構成された **MQT** には、新規の丸めモードで生成されるものとは異なる結果が含まれる可能性があります。
- トリガーの実行が丸めモードに依存する可能性がある場合、新規の丸めモードに基づいて、異なる結果が作成される可能性があります。ただし、トリガーの結果が丸めモードの影響を受けることはあっても、丸めモードの変更がすでに作成済みのデータに影響を与えることはありません。
- 表にデータを挿入することを許可する制約であっても、制約が再評価されると、その同じデータが拒否される可能性があります。同様に、表にデータを挿入することを許可しない制約であっても、新規の丸めモードによって、その同じデータが受け入れられる可能性があります。
- 1 つの行が **DECFLT_ROUNDING** に対する変更の前に挿入され、もう 1 つの行が変更の後に挿入された場合、計算が **DECFLT_ROUNDING** に依存する生成された列の値が、生成された列の値以外は同じであるこれら 2 つの行で異なる可能性があります。
 - 注: 丸めモードはパッケージにコンパイルされないため、**DECFLT_ROUNDING** を変更した後で静的 **SQL** を再コンパイルする必要はありません。

構成パラメーターの値は動的に変更されていませんが、この値が有効になるのはすべてのアプリケーションがこのデータベースから切断した後です。データベースがアクティブ化されている場合、それを非アクティブ化する必要があります。

ユーザーの処置: **MQT** の問題を訂正するには、丸めモードによって影響を受けた可能性のある **MQT** をすべてリフレッシュします。丸めモードによって影響を受けた

トリガーに関連したすべての問題を手動で評価し、訂正してください。

新規の丸めモードに基づいた制約に現在違反している表内のデータの存在を訂正するには、**SET INTEGRITY** を使用して、新規の丸めモードに基づいた制約に違反している行がないかどうか調べます。生成された列の問題を訂正するには、その問題の影響を受けた可能性がある生成された列を含む表で、**FORCE GENERATED** オプションを指定して **SET INTEGRITY** を使用します。

別の方法として、丸めモードのデータベース構成パラメーター (DB 構成パラメーター) **DECFLT_ROUNDING** を前の値に戻して、このメッセージに示された起こりうる結果をすべて回避します。

構成パラメーターの新規値を有効にするには、このデータベースからすべてのアプリケーションを切断してください。データベースがアクティブ化されている場合、それを非アクティブ化する必要があります。

sqlcode: +1418

sqlstate: 0168M

SQL1420N 連結演算子が多すぎます。

説明: 連結演算子の入った、長いまたはラージ・オブジェクト・ストリング結果タイプの式の評価中に、データベース・マネージャーが内部限界に達しました。

ユーザーの処置: 式の連結数を減らして、もう一度やり直してください。

sqlcode: -1420

sqlstate: 54001

SQL1421N ホスト変数または *sqlvar number* を *from wchar_t format* に変換 (またはその逆に変換) 中に、**MBCS 変換エラー**が発生しました。理由コード *rc*。

説明: 組み込み **SQL** ステートメントを持つ **C/C++** アプリケーションが、**WCHARTYPE CONVERT** オプションでプリコンパイルされました。実行時に、入力ホスト変数の場合は **wcstombs()**、出力ホスト変数の場合は **mbstowcs()** の変換中に、アプリケーションがエラーを受け取りました。ホスト変数または *sqlvar* 番号は、問題の発生したデータ項目を示しています。有効な理由コードは、以下のとおりです。

- 1 入力データで問題が発生しました
- 2 出力データで問題が発生しました

ユーザーの処置: アプリケーション・データがすでに **MBCS** 形式の場合は、**WCHARTYPE NOCONVERT** を使用してアプリケーションをプリコンパイルして、再作

成してください。アプリケーション・データが `wchar_t` 形式であることを意図している場合は、`wcstombs()` で失敗する入力データは壊れている可能性があります。データを訂正して、アプリケーションを再実行してください。

sqlcode: -1421

sqlstate: 22504

SQL1422N コンテナのサイズが無効です。

説明: データベース管理表スペースで使用されるコンテナのいずれかが、大きすぎるか、または小さすぎます。コンテナの長さは、少なくとも $2 * \text{エクステンツ・サイズ・ページ}$ でなければなりません。コンテナの最大サイズは、オペレーティング・システムによって異なります。最も一般的なシステム制限は 2 ギガバイト (524288 4K ページ) です。

ユーザーの処置: 詳細については管理通知ログをチェックしてください。その後で、SQL ステートメントを訂正してください。

sqlcode: -1422

sqlstate: 54039

SQL1423N 照会に、ラージ・オブジェクト・データ・タイプを持つ列が含まれています。

説明: 照会に、データ・タイプ BLOB、CLOB または DBCLOB を持つ列が含まれています。通常、このようなデータ・タイプは、バージョン 2.1 以前のクライアントからは処理できません。

警告 SQLCODE +238 に対応する状況のエラーが発生しました。状況に関する詳細については、このメッセージを参照してください。このメッセージを受け取ったクライアント・レベルでは、BLOB データ・タイプを処理できません。SUBSTR 関数を使用するか、または LOB 列が、サポートされている長さの文字データ・タイプより大きくない場合は、SQLDA のデータ・タイプをバージョン 1 で使用できる文字データ・タイプのいずれかに設定することにより、CLOB および DBCLOB データ・タイプの処理が可能になる場合があります。

ユーザーの処置: 照会を変更して、データ・タイプ BLOB、CLOB または DBCLOB を持つ列を除外してください。照会に、タイプ BLOB の列が含まれている場合は、これが唯一可能なアクションです。列 (たとえば C1) が CLOB の場合は、`CAST(C1 AS LONG VARCHAR)` を使用すると、最初の 32700 文字を取得することができます。同様に、DBCLOB 列 (DC1) の場合は、`CAST(DC1 AS LONG VARGRAPHIC)` を使用すると、最初の 16350 文字を取得することができます。アプリケーション・コードが変更可能な場合は、コードを

追加して SQLDA を変更し、LONG VARCHAR または LONG VARGRAPHIC を CLOB および DBCLOB に対して使用するようになります。

sqlcode: -1423

sqlstate: 56093

SQL1424N 遷移変数および遷移表列に対する参照が多すぎるか、またはそれらの参照の行が長すぎます。理由コード = rc。

説明: トリガーに、1 つ以上の遷移表および遷移変数を識別する REFERENCING 節が入っています。トリガーのトリガー・アクションに、理由コードによって以下のいずれかの状態が示されている、遷移表の列または遷移変数に対する参照が含まれています。

- 1 表の列数の制限を超える参照の合計
- 2 表の行の最大長を超える参照の合計長

ユーザーの処置: トリガーのトリガー・アクションにおける、遷移変数および遷移表の列に対する参照の数を減らして、長さが短くなるようにするか、またはその参照の合計数が、表の列の最大数より小さくなるようにしてください。

sqlcode: -1424

sqlstate: 54040

SQL1425N パスワードがユーザー ID なしで指定されました。

説明: ユーザー ID とパスワードを受け入れるコマンド/API は、ユーザー ID なしのパスワードは受け入れません。

ユーザーの処置: コマンド/API を再サブミットして、すでにパスワードを指定している場合は、ユーザー ID を指定してください。

SQL1426N デフォルト・インスタンスを判別できません。

説明: 明示的に 'インスタンスへの ATTACH' が実行されていない場合は、インスタンス・コマンドがデフォルト・インスタンスへの暗黙的アタッチメントを確立しようとしています。デフォルト・インスタンスは、DB2INSTDFLT および DB2INSTANCE 環境変数から決定されます。両方とも設定されていない場合は、暗黙的アタッチメントは確立できません。

ユーザーの処置: 上記のいずれかの環境変数を有効なインスタンス名に設定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1427N インスタンス・アタッチメントが存在しません。

説明: アプリケーションがインスタンスに ATTACH されていません。既存のインスタンス・アタッチメントが存在しないかぎり、要求されたコマンド/API は実行できません。

ユーザーの処置: インスタンスからの切断中にエラーが発生した場合は、処理が続けられます。他のコマンドの実行中にエラーが発生した場合は、インスタンスに ATTACH して、失敗したコマンドを再発行してください。

SQL1428N 出されたコマンドが正常に実行されるためには、*nodename2* へのアタッチメントが必要ですが、アプリケーションがすでに *nodename1* にアタッチされています。

説明: コマンドを正常に処理するには、現在存在しているノード以外のノードとのアタッチが必要です。アプリケーションにおいて、1) コマンドが発行された時点でアタッチがないこと、または 2) コマンドが必要とするノードに既にアタッチされていること、のいずれかでなければなりません。

ユーザーの処置: コマンド発行前にアプリケーションにアタッチがないこと、または既存のアタッチが正しいノードに対するものであることを確認してください。

SQL1429N ノード名が DB2INSTANCE 環境変数の値と一致する、ノード・ディレクトリー項目は作成できません。

説明: CATALOG NODE コマンドまたは API では項目が許可されず、そのノード名は DB2INSTANCE 環境変数の値と一致しています。

ユーザーの処置: ノードがカタログされている別のノード名を選択して、もう一度やり直してください。

SQL1430N データベース名 *database* が、ノード *nodename* のシステム・データベース・ディレクトリーで見つかりません。

説明: 特定のデータベース名がデータベース・モニターに指定されている場合は、それらのデータベースが、ユーザーが現在 ATTACH しているノード、またはローカル・ノードに常駐している必要があります。

ユーザーの処置: 要求にリストされているすべてのデータベースが、ユーザーが ATTACH しているノード、またはローカル・ノードに常駐していることを確認してください。要求を再発行してください。

SQL1431N リモートでの実行中は、相対パス *path* は使用できません。

説明: アプリケーションがサーバーからリモートである場合は、相対パスを使用できません。

ユーザーの処置: サーバーで有効な完全修飾パスを指定して、コマンドを再発行してください。

SQL1432N サーバーが認識しないデータベース・プロトコルを使用して、サーバーに要求が送られました。

説明: このエラーは、要求の伝送に使用しているデータベース・プロトコルを理解しないサーバーに対して DB2 要求が送信したことが原因で発生します。この状況は、DB2 バージョン 2 またはそれ以上のサーバーでないノード・ディレクトリーにリストされたサーバーに DB2 ATTACH 要求を送信すると、よく発生することがあります。また、ATTACH 要求を AS/400 サーバー用の DB2、MVS サーバー用の DB2、およびまたは VM および VSE サーバーの用の DB2 に送信した時にも発生することがあります。

ユーザーの処置: 説明にリストされたサーバーに ATTACH を試みないでください。

SQL1433N アプリケーションはすでに *database1* に接続されていますが、出されたコマンドを正常に実行するためには、*database2* への接続が必要です。

説明: コマンドを正常に処理するには、現在存在しているデータベース以外のものに対する接続が必要です。アプリケーションは以下のいずれかでなければなりません。1) コマンドが出された時に接続がないか、あるいは 2) コマンドに必要なデータベースにすでに接続されている。

ユーザーの処置: コマンドを発行する前に、アプリケーションが接続をもっていないこと、または存在する接続が正しいデータベースに対するものであることを確認してください。

SQL1434N 32 ビットと 64 ビットのプラットフォーム間のクライアント/サーバー非互換性のため、CONNECT または ATTACH ステートメントが失敗しました。

説明:

1. バージョン 7 は、32 ビットと 64 ビットのプラットフォーム間のクライアント/サーバー接続をサポートしていません。

2. バージョン 8 Windows 64-bit データベース・サーバーは、バージョン 7 の 64-bit クライアントからのクライアント/サーバー接続をサポートしていません。

ユーザーの処置: シナリオ 1 に対し、以下のシナリオで CONNECT または ATTACH ステートメントを発行することができます。

- 32 ビット・クライアントから 32 ビット・サーバー
- 64 ビット・クライアントから 64 ビット・サーバー

上記のシナリオ 2 に対し、サポートされているクライアントからステートメントを再発行します。

sqlcode: -1434

sqlstate: 08004

SQL1435N 自動保守ポリシー構成ストアード・プロシージャのバインディングまたは再バインドに失敗しました。

説明: ストアード・プロシージャ

SYSPROC.AUTOMAINT_SET_POLICY または SYSPROC.AUTOMAINT_SET_POLICYFILE および SYSPROC.AUTOMAINT_GET_POLICY または SYSPROC.AUTOMAINT_GET_POLICYFILE を使用して、自動バックアップ、自動再編成、および自動統計収集などの、DB2 サーバーの自動保守アクティビティを構成することができます。

SYSPROC.AUTOMAINT_SET_POLICY、SYSPROC.AUTOMAINT_SET_POLICYFILE、SYSPROC.AUTOMAINT_GET_POLICY、または SYSPROC.AUTOMAINT_GET_POLICYFILE を使用する前に、これらのストアード・プロシージャは、それらを実行するデータベースにバインドされている必要があります。これらのストアード・プロシージャのバインド・ファイルは db2policy.bnd と呼ばれます。

DB2 サーバーは、これらの自動保守ポリシー構成ストアード・プロシージャを自動的にバインドしようとします。ただし、この自動バインディングあるいは再バインドは失敗しました。

データベースにバインドされるまで、これらのストアード・プロシージャを使用することはできません。

ユーザーの処置: これらの自動保守ポリシー構成ストアード・プロシージャをバインドするには、以下のステップを実行します。

1. これらのストアード・プロシージャを使用するデータベースに接続します。

2. QLLIB/bnd ディレクトリーの db2policy.bnd というバインド・ファイルを使用して、次のように DB2 bind コマンドを実行します。

```
DB2 bind db2policy.bnd blocking
      all grant public
```

これらの自動保守ポリシー構成ストアード・プロシージャについて詳しくは、DB2 インフォメーション・センターのトピック

『SYSPROC.AUTOMAINT_SET_POLICY または SYSPROC.AUTOMAINT_SET_POLICYFILE を使用した自動保守の構成』を参照してください。

sqlcode: -1435

sqlstate: 5U0ZZ

SQL1436N 自動保守ポリシー構成ファイル *file-name* をオープンできませんでした。

説明: ストアード・プロシージャ

SYSPROC.AUTOMAINT_SET_POLICY または SYSPROC.AUTOMAINT_SET_POLICYFILE および SYSPROC.AUTOMAINT_GET_POLICY または SYSPROC.AUTOMAINT_GET_POLICYFILE を使用して、自動バックアップ、自動再編成、および自動統計収集などの、DB2 サーバーの自動保守アクティビティを構成することができます。

SYSPROC.AUTOMAINT_SET_POLICY または SYSPROC.AUTOMAINT_SET_POLICYFILE を呼び出すときに、構成する自動保守ポリシーの詳細が含まれる XML ファイルを指定することができます。この場合、指定されたファイルをオープンできませんでした。

新規の自動保守ポリシー構成が適用されませんでした。

ユーザーの処置:

1. 指定されたファイルが以下の条件を満たしているかどうか確認してください。
 - ファイルが存在する
 - ストアード・プロシージャが実行されているユーザー ID にファイルの読み取り権限がある
 - ファイルが空でない
 - ファイルのフォーマットが UTF-8 である
2. 上記にリストされた条件を満たすファイルを指定して、SYSPROC.AUTOMAINT_SET_POLICY プロシージャまたは SYSPROC.AUTOMAINT_SET_POLICYFILE プロシージャを再度呼び出します。

sqlcode: -1436

sqlstate: 5U0ZZ

SQL1437N 行番号 *line-number* および列番号 *column-number* で、**AUTOMAINT_SET_POLICY** または **AUTOMAINT_SET_POLICYFILE** に渡された自動保守ポリシー・ファイルまたは **LOB** パラメーターの XML が無効です。妥当性検査エラー・メッセージ: *error-message*。

説明: ストアード・プロシージャ **SYSPROC.AUTOMAINT_SET_POLICY** または **SYSPROC.AUTOMAINT_SET_POLICYFILE** および **SYSPROC.AUTOMAINT_GET_POLICY** または **SYSPROC.AUTOMAINT_GET_POLICYFILE** を使用して、自動バックアップ、自動再編成、および自動統計収集などの、DB2 サーバーの自動保守アクティビティを構成することができます。

SYSPROC.AUTOMAINT_SET_POLICY または **SYSPROC.AUTOMAINT_SET_POLICYFILE** には次の 2 つの形式があります。このストアード・プロシージャの 1 つの形式は、自動保守構成の詳細を含む XML ファイルの名前であるパラメーターを取り、もう 1 つの形式は、自動保守構成の詳細 (XML 形式) を含む LOB パラメーターを取ります。

SYSPROC.AUTOMAINT_SET_POLICY または **SYSPROC.AUTOMAINT_SET_POLICYFILE** に渡された自動保守構成ファイルまたは LOB パラメーターの XML で、指定された行に無効な XML が含まれています。列番号は、エラーの発生した行内のロケーションを示します。

新規の自動保守構成が適用されませんでした。

ユーザーの処置: XML 構成ファイルの内容を訂正して、ストアード・プロシージャを再度呼び出してください。

詳しくは、DB2 インフォメーション・センターでトピック『**SYSPROC.AUTOMAINT_SET_POLICY** または **SYSPROC.AUTOMAINT_SET_POLICYFILE** を使用した自動保守の構成』を参照してください。

sqlcode: -1437

sqlstate: 5U0ZZ

SQL1438N 自動保守ポリシー構成ファイルまたは **LOB** パラメーターが **AUTOMAINT_SET_POLICY** または **AUTOMAINT_SET_POLICYFILE** に渡された XML を処理中に、内部エラーが発生しました。

説明: ストアード・プロシージャ

SYSPROC.AUTOMAINT_SET_POLICY または **SYSPROC.AUTOMAINT_SET_POLICYFILE** および **SYSPROC.AUTOMAINT_GET_POLICY** または **SYSPROC.AUTOMAINT_GET_POLICYFILE** を使用して、自動バックアップ、自動再編成、および自動統計収集などの、DB2 サーバーの自動保守アクティビティを構成することができます。

SYSPROC.AUTOMAINT_SET_POLICY または **SYSPROC.AUTOMAINT_SET_POLICYFILE** には次の 2 つの形式があります。このストアード・プロシージャの 1 つの形式は、自動保守構成の詳細を含む XML ファイルの名前であるパラメーターを取り、もう 1 つの形式は、自動保守構成の詳細 (XML 形式) を含む LOB パラメーターを取ります。

SYSPROC.AUTOMAINT_SET_POLICY または **SYSPROC.AUTOMAINT_SET_POLICYFILE** に渡された自動保守構成ファイルまたは LOB の XML を処理中に、内部エラーが発生しました。

新規の自動保守構成が適用されませんでした。

ユーザーの処置:

SYSPROC.AUTOMAINT_SET_POLICY または **SYSPROC.AUTOMAINT_SET_POLICYFILE** に渡された XML 構成ファイルまたは LOB パラメーターの内容が有効であることを確認して、ストアード・プロシージャを再度呼び出してください。

詳しくは、DB2 インフォメーション・センターでトピック『**SYSPROC.AUTOMAINT_SET_POLICY** または **SYSPROC.AUTOMAINT_SET_POLICYFILE** を使用した自動保守の構成』を参照してください。

sqlcode: -1438

sqlstate: 5U0ZZ

SQL1439N 自動保守ポリシー構成情報を検索できませんでした。

説明: ストアード・プロシージャ

SYSPROC.AUTOMAINT_SET_POLICY または **SYSPROC.AUTOMAINT_SET_POLICYFILE** および **SYSPROC.AUTOMAINT_GET_POLICY** または **SYSPROC.AUTOMAINT_GET_POLICYFILE** を使用して、自動バックアップ、自動再編成、および自動統計収集などの、DB2 サーバーの自動保守アクティビティを構成することができます。

ストアード・プロシージャ

SYSPROC.AUTOMAINT_GET_POLICY または **SYSPROC.AUTOMAINT_GET_POLICYFILE** は、デフォルトの自動保守ポリシーを検出できなかったため、既存の自動保守構成情報を収集できませんでした。

自動保守構成情報が収集されませんでした。

ユーザーの処置: デフォルトの自動保守ポリシーは DB2 ヘルス・モニターによって作成されます。ヘルス・モニターがデフォルトの保守ポリシーをまだ作成していない場合は、以下のようにそれらを手動で作成できます。

1. デフォルトの自動保守ポリシーを作成するデータベースに接続します。
2. 以下のパラメーターを指定して、システムのストアード・プロシージャ
SYSPROCS.SYSINSTALLOBJECTS を呼び出します。

```
SYSPROCS.SYSINSTALLOBJECTS( 'POLICY','C',' ',' ')
```

SYSPROCS.SYSINSTALLOBJECTS システム・ストアード・プロシージャについて詳しくは、DB2 インフォメーション・センターでトピック『SYSINSTALLOBJECTS プロシージャ』を参照してください。

詳しくは、DB2 インフォメーション・センターでトピック『SYSPROC.AUTOMAINT_GET_POLICY または SYSPROC.AUTOMAINT_GET_POLICYFILE を使用した自動保守構成情報の収集』を参照してください。

sqlcode: -1439

sqlstate: 5U0ZZ

SQL1440W GRANT (データベース権限) ステートメント、GRANT (索引特権) ステートメント、または表あるいはビューに CONTROL 特権を GRANT する際に、WITH GRANT OPTION は無視されました。

説明: WITH GRANT OPTION は、データベース権限または特権、あるいは索引に対する特権を GRANT するときには適用されません。WITH GRANT OPTION は、表、ビュー、索引またはパッケージの CONTROL 特権を適用していません。

有効な要求された特権はすべて付与されました。

ユーザーの処置: データベース権限または索引特権を GRANT する場合、WITH GRANT OPTION 節を含めないでください。CONTROL を GRANT しているときは、WITH GRANT OPTION 節を指定せずに分離 GRANT ステートメントを使用してください。

sqlcode: +1440

sqlstate: 01516

SQL1441N 無効なパラメーターです。理由コード code

説明: 以下は有効な理由コードのリストです。

- 1 コンテキスト・ポインターに NULL が渡されました。
- 3 コンテキスト・ポインターは初期化されましたが、有効なコンテキスト領域ではありません。
- 4 無効なオプション
- 5 予約されたパラメーターは NULL ではありませんでした。

ユーザーの処置: アプリケーション・コンテキスト・ポインターが正しく初期化され、使用されているオプションが有効であることを確認してから、再試行してください。

SQL1442N コンテキストは使用中でもなく、現行スレッドでも使用されていません。理由コード code

説明: 以下の理由で呼び出しが失敗しました。

- 1 コンテキストはどのスレッドにも使用されていません (アタッチが行われていません)。
- 2 コンテキストは現行スレッドによって使用されていません。
- 3 現行スレッドはコンテキストを使用していません。

ユーザーの処置: デタッチ呼び出しの場合、コンテキストが現行スレッドによって使用されているもので、対応するアタッチが行われていることを確認してください。

get 現行コンテキスト呼び出しの場合、スレッドが現在コンテキストを使用しているか確認してください。

SQL1443N スレッドはすでにコンテキストにアタッチされています。

説明: ユーザーはコンテキストをスレッドにアタッチしようとしたが、スレッドはすでにコンテキストを使用しています。

ユーザーの処置: 新しいコンテキストにアタッチする前に、前のコンテキストからデタッチしてください。

SQL1444N 使用中のため、アプリケーション・コンテキストは破棄できません。

説明: ユーザーはまだ使用中にもかかわらず、アプリケーション・コンテキストを破棄しようとした。コンテキストに接続しているスレッドがあるか、コンテキストにはそれに関連した CONNECT または ATTACH

があります。破棄する前に、CONNECT RESET または DETACH を行い (CONNECT または ATTACH が行われていた場合)、コンテキストからすべてのスレッドをデタッチしてください。

ユーザーの処置: コンテキストにアタッチするすべての呼び出しに対応するデタッチがあり、すべての CONNECT には対応する CONNECT RESET があり、すべての ATTACH には対応する DETACH があることを確認してください。

SQL1445N スレッドまたは処理には使用するためのコンテキストがありません。

説明: SQL_CTX_MULTI_MANUAL のコンテキスト・タイプには影響しますが、現行のスレッドまたは処理はコンテキストにアタッチされていません。

ユーザーの処置: データベース呼び出しを行う前に、現行のスレッドまたは処理がコンテキストにアタッチされているか確認してください。

SQL1446N 自動保守ポリシー構成ファイルまたは LOB パラメーターが AUTOMAINT_GET_POLICY または AUTOMAINT_GET_POLICYFILE に渡された XML を処理中に、内部エラーが発生しました。

説明: ストアード・プロシージャ SYSPROC.AUTOMAINT_SET_POLICY または SYSPROC.AUTOMAINT_SET_POLICYFILE および SYSPROC.AUTOMAINT_GET_POLICY または SYSPROC.AUTOMAINT_GET_POLICYFILE を使用して、自動バックアップ、自動再編成、および自動統計収集などの、DB2 サーバーの自動保守アクティビティを構成することができます。

SYSPROC.AUTOMAINT_GET_POLICY または SYSPROC.AUTOMAINT_GET_POLICYFILE には次の 2 つの形式があります。このストアード・プロシージャの 1 つの形式は、自動保守構成の詳細を含む XML ファイルの名前であるパラメーターを取り、もう 1 つの形式は、自動保守構成の詳細 (XML 形式) を含む LOB パラメーターを取ります。

SYSPROC.AUTOMAINT_GET_POLICY または SYSPROC.AUTOMAINT_GET_POLICYFILE に渡された自動保守構成ファイルまたは LOB の XML を処理中に、内部エラーが発生しました。

自動保守構成が収集されませんでした。

ユーザーの処置:
SYSPROC.AUTOMAINT_SET_POLICY または SYSPROC.AUTOMAINT_SET_POLICYFILE に渡された

XML 構成ファイルまたは LOB パラメーターの内容が有効であることを確認して、ストアード・プロシージャを再度呼び出してください。

詳しくは、DB2 インフォメーション・センターでトピック『SYSPROC.AUTOMAINT_GET_POLICY または SYSPROC.AUTOMAINT_GET_POLICYFILE を使用した自動保守構成情報の収集』を参照してください。

sqlcode: -1446

sqlstate: 5U0ZZ

SQL1447N AUTOMAINT_SET_POLICY または AUTOMAINT_SET_POLICYFILE に渡された自動保守ポリシー・ファイルまたは LOB パラメーターの XML が理由 *reason-code* で無効です。

説明: ストアード・プロシージャ SYSPROC.AUTOMAINT_SET_POLICY または SYSPROC.AUTOMAINT_SET_POLICYFILE および SYSPROC.AUTOMAINT_GET_POLICY または SYSPROC.AUTOMAINT_GET_POLICYFILE を使用して、自動バックアップ、自動再編成、および自動統計収集などの、DB2 サーバーの自動保守アクティビティを構成することができます。

SYSPROC.AUTOMAINT_SET_POLICY または SYSPROC.AUTOMAINT_SET_POLICYFILE に渡された自動保守構成ファイルまたは LOB パラメーターに、以下に指定された理由コードに従って無効な XML が含まれています。

- 1 PathName エlementに有効なパスが指定されていません。例えば、指定したパスが存在しない場合に、このメッセージが戻されます。
- 2 FilterClause エlementの SQL 構文が無効です。
- 3 データベース・マネージャーは、/home/misc ディレクトリ内のスキーマ文書を使用して SYSPROC.AUTOMAINT_SET_POLICY に渡した XML 入力ファイルまたは LOB パラメーターを妥当性検査しようとした。データベース・マネージャーは、スキーマ文書を見つけられませんでした。
- 4 XML 入力ファイルまたは LOB パラメーター内の最初のElementは、有効な XML ではありません。
- 5 入力 XML ファイルのエンコード方式は、UTF-8 ではありません。

新規の自動保守構成が適用されませんでした。

ユーザーの処置: 以下のように、理由コードに応じて応答します。

1、2、および 4

XML 構成ファイルまたは LOB パラメーターの内容を訂正して、ストアード・プロシージャを再度呼び出してください。

- 3 このスキーマ文書がないと、SYSPROC.AUTOMAINT_SET_POLICY、SYSPROC.AUTOMAINT_SET_POLICYFILE、SYSPROC.AUTOMAINT_GET_POLICY、または SYSPROC.AUTOMAINT_GET_POLICYFILE プロシージャを使用できません。

このスキーマ文書を手動で元の場所に戻すことはできません。欠落ファイルを元の場所に戻すには、DB2 サーバーを再インストールします。

- 5 XML 入力の最初の行が `encoding="UTF-8"` を指定していることを確認してください。XML 入力の作成に使用したエディターが別のエンコード方式を使用してファイルを保管した場合、そのファイルを UTF-8 エンコード方式を使用して再度保管してください。

詳しくは、DB2 インフォメーション・センターでトピック『SYSPROC.AUTOMAINT_SET_POLICY または SYSPROC.AUTOMAINT_SET_POLICYFILE を使用した自動保守の構成』を参照してください。

sqlcode: -1447

sqlstate: 5U0ZZ

SQL1448N AUTOMAINT_GET_POLICY または AUTOMAINT_GET_POLICYFILE に渡されたパスまたはファイル名 *full-file-name* が存在しません。

説明: ストアード・プロシージャ SYSPROC.AUTOMAINT_SET_POLICY または SYSPROC.AUTOMAINT_SET_POLICYFILE および SYSPROC.AUTOMAINT_GET_POLICY または SYSPROC.AUTOMAINT_GET_POLICYFILE を使用して、自動バックアップ、自動再編成、および自動統計収集などの、DB2 サーバーの自動保守アクティビティを構成することができます。

SYSPROC.AUTOMAINT_GET_POLICY または SYSPROC.AUTOMAINT_GET_POLICYFILE を呼び出すときに、ストアード・プロシージャからの出力を保管する XML ファイルの名前を指定できます。この場合、指定されたファイルの作成、またはファイルへの書き込みを行うことができませんでした。

自動保守ポリシー構成情報が保管されませんでした。

ユーザーの処置:

- 指定されたパスおよびファイルが以下の条件を満たしているかどうか確認してください。
 - ディレクトリー・パスおよびファイルが存在する
 - ストアード・プロシージャが実行されているユーザー ID にファイルの作成または書き込み権限がある
- 上記にリストされた条件を満たすファイルを指定して、SYSPROC.AUTOMAINT_SET_POLICY プロシージャまたは SYSPROC.AUTOMAINT_SET_POLICYFILE プロシージャを再度呼び出します。

これらの自動保守ポリシー構成ストアード・プロシージャについて詳しくは、DB2 インフォメーション・センターのトピック

『SYSPROC.AUTOMAINT_GET_POLICY または SYSPROC.AUTOMAINT_GET_POLICYFILE を使用した自動保守構成情報の収集』を参照してください。

sqlcode: -1448

sqlstate: 5U0ZZ

SQL1449C ツール・カタログは、現在のレベルに正常にマイグレーションされました。理由コード *reason-code* のために、スケジューラーが正常に開始されていません。

説明: `db2tdbmgr` コマンドにより、データベースは現在のレベルに正常にマイグレーションされましたが、理由コードによって示された理由により、スケジューラーは正常に開始しませんでした。

1

DB2 Administration Server 構成パラメーターのツール・カタログ・データベース構成が正しくありません。

2

ツール・カタログ・データベースが含まれているデータベース・マネージャーが開始されていません。

3

ツール・カタログ・データベースが別のスケジューラーに使用されています。

4

スケジューラーを開始中に予期しないエラーが発生しました。

SQL1450N

ユーザーの処置:

1

DB2 Administration Server 構成パラメーターのツール・カタログ・データベース構成を訂正してください。ツール・カタログ・データベースの構成方法については、「DB2 管理ガイド」の DB2 Administration Server に関する項を参照してください。

2

ツール・カタログ・データベースが含まれているデータベース・マネージャーを開始します。

3

ツール・カタログ・データベースが別のスケジューラーに使用されなくなるまで待ちます。

4

DB2 Administration Server を停止して再始動します。

SQL1450N 登録情報ポインターが無効です。

説明: 無効な登録情報ポインターが、register/deregister DB2 server command/API に渡されました。

ユーザーの処置: 有効なポインターが、register/deregister DB2 server command/API に渡されたことを確認してください。

SQL1451N DB2 サーバーの登録または登録取り消しは、サーバー・ノードから発行しなければなりません。

説明: DB2 サーバーの登録または登録取り消しが、無効なノードから発行されました。

ユーザーの処置: サーバー・ノードから register/deregister DB2 server command/API を再発行してください。

SQL1452N 無効な登録ロケーションが指定されました。

説明: 無効な登録ロケーションが、register/deregister DB2 server command/API に渡されました。

ユーザーの処置: 有効な登録ロケーションが、register/deregister DB2 server command/API に渡されたことを確認してください。

SQL1453N データベース・マネージャー構成ファイルのファイル・サーバー名の項目がないか、または無効です。

説明: configuration command/API またはデータベース・マネージャー構成ファイルに指定されたファイル・サーバー名がないか、または無効です。

ユーザーの処置: ファイル・サーバー名が指定されており、名前に無効な文字が含まれておらず、48 文字より長くないことを確認してください。データベース・マネージャー構成ファイルのファイル・サーバー名を更新して、command/API を再サブミットしてください。

SQL1454N データベース・マネージャー構成ファイルのオブジェクト名の項目がないか、または無効です。

説明: configuration command/API またはデータベース・マネージャー構成ファイルに指定されたオブジェクト名がないか、または無効です。

ユーザーの処置: オブジェクト名が指定されており、名前に無効な文字が入っておらず、48 文字より長くないことを確認してください。データベース・マネージャー構成ファイルのオブジェクト名を更新して、command/API を再サブミットしてください。

SQL1455N データベース・マネージャー構成ファイルの IPX ソケット番号の項目がないか、または無効です。

説明: configuration command/API またはデータベース・マネージャー構成ファイルに指定された IPX ソケット番号がないか、または無効です。

ユーザーの処置: IPX ソケット番号が指定されており、番号に無効な文字が入っておらず、4 文字よりも長くないことを確認してください。データベース・マネージャー構成ファイルの IPX ソケット番号を更新して、command/API を再サブミットしてください。

SQL1456N データベース・マネージャー構成ファイルに指定されたオブジェクト名は、すでに NetWare ファイル・サーバーに存在します。

説明: DB2 サーバー・オブジェクト名を NetWare ファイル・サーバーに登録するときに、重複するオブジェクト名が見つかりました。

ユーザーの処置: データベース・マネージャー構成ファイルに指定されたオブジェクト名は、すでに使用されています。オブジェクト名を変更して、DB2 サーバーを再登録してください。

SQL1457N NetWare ディレクトリー・サービス接続が、すでに NetWare ファイル・サーバーに対して確立されているために、登録 / 登録解除が、指定されたそのファイル・サーバーにログインできませんでした。

説明: NetWare ディレクトリー・サービス接続が、すでに指定されたファイル・サーバーに対して確立されている場合は、NWLoginToFileServer を使用したバインダー・ログインは実行できません。

ユーザーの処置: まず、ログアウトおよびディレクトリー・サービスからのデタッチを実行してディレクトリー・サービス接続を切断してから、登録 / 登録解除を再発行してください。

SQL1458N 直接アドレッシング用の IPX/SPX が、データベース・マネージャー構成ファイルの中に構成されています。NetWare ファイル・サーバーに対する DB2 サーバーの登録 / 登録解除は必要ありません。

説明: データベース・マネージャー構成ファイルが、IPX/SPX 直接アドレッシング用に構成されているため、登録 / 登録解除の発行は必要ありません。例: Fileserver と objectname が '*' で指定されています。

ユーザーの処置: DB2 サーバーは直接アドレッシング用に構成されているので、ファイル・サーバー・アドレッシングを使用する IPX/SPX クライアントは、このサーバーに接続できません。IPX/SPX クライアント・アドレッシングの両方のタイプをサポートするサーバーの場合は、fileserver と objectname をデータベース・マネージャー構成ファイルに指定してください。

SQL1459I ツール・カタログは、現在のレベルに正常にマイグレーションされました。

説明: db2tdbmgr コマンドにより、データベースは現在のレベルに正常にマイグレーションされました。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

SQL1460N SOCKS サーバー名の解決に必要な環境変数 *variable* が定義されていないか、または無効です。

説明: SOCKS 環境変数 SOCKS_NS または SOCKS_SERVER が定義されていません。SOCKS プロトコル・サポートには、これらの両方の環境変数の定義が必要です。

SOCKS_NS

これはドメイン・ネーム・サーバーの IP アドレスであり、ここに SOCKS サーバーが定義されます。

SOCKS_SERVER

これは SOCKS サーバーのホスト名です。

ユーザーの処置: 脱落している環境変数を定義して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1461N セキュリティー・オプション *security* が無効です。

説明: TCP/IP ノードの SECURITY オプションに 'SOCKS' 以外の値があります。このオプションは、カタログしている TCP/IP ノードを有効にするために使用され、ファイアウォールを横切るために SOCKS プロトコル・サポートを使用します。'SOCKS' 以外の値は許されません。

ユーザーの処置: SOCKS プロトコル・サポートが必要なことを確認してください。その場合には、SECURITY SOCKS によってノードのカタログをやり直してください。そうでない場合には、ノードのカタログをやり直しますが、SECURITY オプションを省いてください。

SQL1462N 要求は同期ポイント・マネージャー接続のみに有効です。

説明: 試行された要求は同期ポイント・マネージャー接続に対してのみ有効ですが、同期ポイント・マネージャー・インスタンスは接続されていません。

ユーザーの処置: 同期ポイント・マネージャー・インスタンスに接続し、要求を再発行してください。

SQL1463N 管理タスク表 *table-name* が使用できないため、この管理タスクに対して操作を実行することはできません。

説明: タスクに関する情報を保管するために使用される表 *table-name* を必要に応じて使用することができないため、この管理タスクの追加、更新、または除去を行えません。表は存在しますが、現在の状態では使用できません。管理タスク表は、管理タスクがデータベース・システムに追加されるときに自動的に作成されます。他の何らかの方法でこの表が作成された場合は、管理タスク操作に使用できない可能性があります。

ユーザーの処置: 管理タスク表を管理タスク操作に使用できるようにします。表 *table-name* を再作成するために、その表を明示的にドロップしてから SYSPROC.ADMIN_TASK_ADD プロシージャを呼び出してタスクをスケジュールします。

SQL1464W

sqlcode: -1463

sqlstate: 55070

SQL1464W いくつかのタスクは実行中であったため、タスクのすべては除去されませんでした。

説明: SYSPROC.ADMIN_TASK_REMOVE プロシージャはタスクのセットを除去しようとしたが、タスクのすべては除去されませんでした。実行中でなかったタスクはプロシージャにより除去されましたが、プロシージャが除去しようとしたときに実行中であったタスクは除去されませんでした。

ユーザーの処置: 実行中のタスクが完了するまで待ち、SYSPROC.ADMIN_TASK_REMOVE プロシージャを使ってタスクを除去してください。タスクの実行状況を確認するには、SYSTOOLS.ADMIN_TASK_STATUS ビューを使用できます。

sqlcode: +1464

sqlstate: 0168S

SQL1465N 管理タスクに指定された SQL ステートメントの結果は、管理タスクに指定されたプロシージャ *procedure-name* の入力としては無効です。

説明: スケジュール済みの管理タスクの PROCEDURE_INPUT として指定された SQL ステートメントは実行されましたが、その結果は、スケジュール済みの管理タスクに指定されたプロシージャ *procedure-name* の入力として使用できませんでした。SQL ステートメントの結果は 1 行を超えてはならず、列数がプロシージャの引数の数と同じでなければなりません。

ユーザーの処置: データベース内のデータを変更して、SQL ステートメントの結果が 1 行以内になるようにするか、または管理タスクを変更して、それに指定されている SQL ステートメントまたはプロシージャを変更します。SQL ステートメントが戻す行が 1 行を超えないようにし、管理タスクに指定されているプロシージャの引数の数が SQL ステートメントが戻す列数と一致するようにしてください。管理タスクを変更するには、SYSPROC.ADMIN_TASK_REMOVE プロシージャを使ってタスクを除去し、その後 SYSPROC.ADMIN_TASK_ADD を呼び出して再作成してください。

sqlcode: -1465

sqlstate: 21507

SQL1467C データベース・マネージャは、表スペース ID が *table-space-id* のシステム管理 TEMPORARY 表スペースからページを読み取ろうとしましたが、入出力エラーを受け取りました。

説明: この入出力エラーの原因として最も可能性が高いのは、ファイル・システムまたはハードウェアのエラーです。

ステートメントを処理することができません。このステートメントが含まれるユーティリティまたはトランザクションはロールバックされます。

ユーザーの処置:

SQL1468N ノード *database-partition-number2* に対する CONNECT または ATTACH を試行する前に、サーバー・インスタンス *instance* (データベース・パーティション番号 *database-partition-number1*) で、データベース・マネージャ TCP/IP リスナーが構成され、実行されている必要があります。

説明: ノードを *database-partition-number2* に CONNECT または ATTACH するよう設定するために、SET CLIENT コマンドまたは *api*、あるいは環境変数 DB2NODE が使用されました。このノードに CONNECT または ATTACH するには、サーバー・インスタンス *instance* (データベース・パーティション番号 *database-partition-number1*) でデータベース・マネージャ TCP/IP リスナーが構成され、実行されている必要があります。

注: このメッセージは暗黙的 CONNECT あるいは ATTACH で返される可能性があります。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを行ってください。

- インスタンス *instance*、データベース・パーティション番号 *database-partition-number1* 上のデータベース・マネージャ構成で *svcname* が指定され、TCP/IP を使用するよう DB2COMM 環境変数が設定され、TCP/IP リスナーが DB2START 時刻に正常に開始されたことを確認します。
または
- ノードとデータベースを明示的にカタログしてください。

sqlcode: -1468

sqlstate: 08004

SQL1469N インスタンス *instance-name* (データベース・パーティション番号 *database-partition-number1*) では、ノード *database-partition-number2* が *db2nodes.cfg* ファイルで指定されていません。

説明: ノードを *database-partition-number2* に CONNECT または ATTACH するよう設定するために、SET CLIENT コマンドまたは *api*、あるいは環境変数 DB2NODE が使用されました。後続の CONNECT または ATTACH 処理は、インスタンス *instance-name* (ノード *database-partition-number1*) にある *db2nodes.cfg* ファイルでこのノードを見つけられませんでした。

注: このメッセージは暗黙的 CONNECT あるいは ATTACH で返される可能性があります。

ユーザーの処置: SET CLIENT コマンドまたは API、あるいは DB2NODE 環境変数によって指定されたノード番号が、中間インスタンス *instance-name*、ノード *database-partition-number1* の *db2nodes.cfg* ファイルに存在していることを確認してください。

sqlcode: -1469

sqlstate: 08004

SQL1470N DB2NODE 環境変数の値が無効です。

説明: DB2NODE 環境変数は、アプリケーションの接続試行の接続先ノードを示します。DB2NODE が未設定またはブランクの場合、このアプリケーションはデフォルト・ノードへの接続を試行します。それ以外は、DB2NODE をこのアプリケーションと同じホストで定義されたノードの 1 つのノードに設定する必要があります。

ユーザーの処置: DB2NODE 環境変数を次の値のいずれかに設定してください。

未設定 アプリケーションにデフォルト・ノードが接続されます。

ブランク

アプリケーションにデフォルト・ノードが接続されます。

番号 アプリケーションにそのノード番号のノードが接続されます。このノードはこのアプリケーションと同じホストで実行されていなくてはなりません。

sqlcode: -1470

sqlstate: 08001

SQL1471N このノードのデータベースがカタログ・ノードと同期化していないため、ノード *node-number* のデータベース *database-name* に接続できません。

説明: このノードのログの終わりの情報がカタログ・ノードの対応するレコードと一致しません。これは、別の場合にバックアップされたノードのデータベースをリストアするため発生します。

ユーザーの処置: データベースが 1 つのノードでロールフォワードなしでリストアされている場合、データベースがロールフォワードなしですべてのノードで一致するオフライン・バックアップでリストアされていることを確認してください。

sqlcode: -1471

sqlstate: 08004

SQL1472N カatalog・ノードのシステム時刻とこのノードの仮想タイム・スタンプとの間の相違が *max_time_diff* データベース・マネージャ構成パラメーターより大きいため、ノード *node-number* のデータベース *database-name* に接続できません。

説明: コンピューター構成時のシステム時刻の相違 (*db2nodes.cfg* ファイルにリストされている) は *max_time_diff* データベース・マネージャ構成パラメーターより大きいです。

ユーザーの処置: "すべてのコンピューターのシステム時刻を合わせて、*max_time_diff* パラメーターがデータベース・マシン間の通常の通信遅延ができるように構成されているか、確認してください。

これで問題が解決しない場合は、DB2 インフォメーション・センターを参照して考えられる原因と処置について調べてください。

sqlcode: -1472

sqlstate: 08004

SQL1473N ローカル・ノードのシステム時刻とノード *node-list* の仮想タイム・スタンプ間の相違が *max_time_diff* データベース・マネージャ構成パラメーターより大きいため、トランザクションをコミットできません。トランザクションはロールバックされません。

説明: コンピューター構成時のシステム時刻の相違 (*db2nodes.cfg* ファイルにリストされている) は *max_time_diff* データベース・マネージャ構成パラメーターより大きいです。

SQL1474W

"..." がノード・リストの最後に表示された場合、完全なノード・リストについては、`syslog` ファイルを参照してください。

ユーザーの処置: "すべてのコンピューターのシステム時刻を合わせて、`max_time_diff` パラメーターがデータベース・マシン間の通常の通信遅延ができるように構成されているか、確認してください。

sqlcode: -1473

sqlstate: 40504

SQL1474W トランザクションは正常に完了しましたが、ローカル・メンバーのシステム時刻とメンバー `member-list` の仮想タイム・スタンプ間の時刻の相違が `max_time_diff` データベース・マネージャー構成パラメーターより大きくなっています。

説明: コンピューター構成時のシステム時刻の相違 (`db2nodes.cfg` ファイルにリストされている) は `max_time_diff` データベース・マネージャー構成パラメーターより大きいです。

この警告メッセージはこの状態に影響されないため、読み取り専用トランザクションに返されます。ただし、これ以外のトランザクションはロールバックされます。このメッセージはユーザーになるべく早くアクションをとるようにこの状態について通知するものです。

"..." がメンバー・リストの最後に表示された場合、完全なメンバー・リストについては、`syslog` ファイルを参照してください。

ユーザーの処置: "すべてのコンピューターのシステム時刻を合わせて、`max_time_diff` パラメーターがデータベース・マシン間の通常の通信遅延ができるように構成されているか、確認してください。

sqlcode: +1474

sqlstate: 01607

SQL1475W **CONNECT RESET** 処理中にシステム・エラーが発生しました。

説明: **CONNECT RESET** は成功しましたがノード障害やコミュニケーション・エラーのようなシステム・エラーが発生する可能性があります。

ユーザーの処置: 詳細については管理通知ログをチェックしてください。このノードのデータベースを再始動する必要があります。

sqlcode: +1475

sqlstate: 01622

SQL1476N 現行トランザクションがエラー `sqlcode` のため、ロールバックしました。

説明: トランザクションは、以下の理由によりロールバックされました。

1. 暗黙的または明示的 **CLOSE CURSOR** が失敗しました。
2. **NOT LOGGED INITIALLY** オプションで表を作成中であったか、または **NOT LOGGED INITIALLY** が既存の表に対してアクティブ化されました。同じ作業単位でエラーが発生したか、または **ROLLBACK TO SAVEPOINT** ステートメントが出されました。この作業単位はロールバックし、以下のようになります。
 - この作業単位で作成された表はすべてドロップされます。
 - トランザクションでアクティブ化された **NOT LOGGED INITIALLY** 表はすべてアクセス不能とマークされており、ドロップだけを行うことができます。
 - **ROLLBACK TO SAVEPOINT** がトランザクション内で出された場合、`sqlcode` は 0 になります。
3. **ROLLBACK TO SAVEPOINT** が失敗したか、または **RELEASE SAVEPOINT** が失敗しました。
4. アトミック配列の入力操作中に、重大エラーが発生しました。
5. システム一時 **LOB** の作成中にエラーが発生しました。これは、行の削除対象となる宣言済み一時表または作成済み一時表の **LOB** 列の **LOB** ロケーター値を維持するために使用されるはずでした。

ユーザーの処置: エラー `sqlcode` で示された問題を訂正して、トランザクションを再実行してください。**NOT LOGGED INITIALLY** 表が作成またはアクティブ化される、同じトランザクションで使用されている **ROLLBACK TO SAVEPOINT** ステートメントを除去してください。

sqlcode: -1476

sqlstate: 40506

SQL1477N 表 `table-name` で、表スペース `tblspace-id` 内のオブジェクト `object-id` にはアクセスできません。

説明: アクセスできないいずれかのオブジェクトを含む表に対してアクセスしようとしてしました。以下のいずれかの理由のため、この表にアクセスできないと思われる。

- 作業単位がロールバックされたとき、表が **NOT LOGGED INITIALLY** をアクティブ化していた

- その表はパーティション化された作成済み一時表または宣言済み一時表で、一時表がインスタンス化または宣言された後、1 つ以上のデータベース・パーティションに障害が発生した。
- ROLLFORWARD が、この表での NOT LOGGED INITIALLY のアクティブ化、またはこの表での NONRECOVERABLE ロードを見つけた

その整合性を保証できないため、この表へのアクセスは許可されていません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのアクションを行うことができます。

- オブジェクトが表であり、その表が NOT LOGGED INITIALLY をアクティブ化している場合、この表をドロップします。この表が必要な場合は、それを再作成してください。
- オブジェクトがデータ・パーティションである場合は、それを表からデータタッチします。このデータ・パーティションが必須である場合は、新規のデータ・パーティションを追加してください。
- オブジェクトが非パーティション索引の場合は、その索引をドロップします。索引が必須である場合は、新規の索引を作成してください。
- 表が作成済み一時表であれば、サーバーから切断して再接続することにより、作成済み一時表の新しいコピーをインスタンス化してください。
- 表が宣言された一時表であれば、この表をドロップしてください。この表が必要な場合、宣言し直してください。
- そうでない場合、表スペースまたはデータベース・バックアップからリストアしてください。バックアップ・イメージは、リカバリー不能操作 (NOT LOGGED INITIALLY 操作または NONRECOVERABLE ロード) の完了に続き、コミット・ポイントの後でとられています。

カタログおよび管理ビューを使用すると、オブジェクトを判別できます。オブジェクトが表であるかを判別するには、次の照会を使用します。

```
SELECT TABNAME
FROM SYSCAT.TABLES
WHERE TBSPACEID=tblspace-id AND
TABLEID=object-id
```

この照会の結果として表名が表示されない場合、次の照会を使用して、オブジェクトがパーティションであるかどうかを判別できます。

```
SELECT DATAPARTITIONNAME, TABNAME
FROM SYSCAT.DATAPARTITIONS
WHERE TBSPACEID=tblspace-id AND
PARTITIONOBJECTID=object-id
```

オブジェクトが索引であるかどうかを判別するには、次の照会を使用します。

```
SELECT INDNAME
FROM SYSCAT.INDEXES
WHERE TBSPACEID=tblspace-id AND
INDEX_OBJECTID=object-id
```

オブジェクトが作成済み一時表または宣言済み一時表であることを判別するには、次の照会を使用します。

```
SELECT TABNAME
FROM SYSIBMADM.ADMINTEMPBTABLES
WHERE TBSP_ID=tblspace-id AND
INDEX_TAB_FILE_ID=object-id
```

sqlcode: -1477

sqlstate: 55019

SQL1478W 定義されたバッファ・プールを開始できませんでした。代わりに、DB2 のサポートするページ・サイズごとに、小さいバッファ・プールを開始しました。

説明: 定義されたバッファ・プールを開始できませんでした。代わりに、DB2 のサポートするページ・サイズごとに、小さいバッファ・プールを開始しました。以下の理由から、定義されたバッファ・プールを開始できませんでした。

- このデータベースに指定されたバッファ・プールの合計サイズに対して十分なメモリーが割り振られていません。
- データベース・ディレクトリーにあるバッファ・プール・ファイルが抜けているか、壊れています。

ユーザーの処置: 問題の正しいソースについては管理通知ログをチェックしてください。以下は適用可能なソリューションです。

- データベースを正しく開始できるように 1 つ以上のバッファ・プールの大きさをドロップするか、または変更してください。

この変更を行ったあとで、データベースを切断し、データベースの開始をやり直してください。

sqlcode: +1478

sqlstate: 01626

SQL1479W 結果セットが最初の行セットを戻す前に、フェッチを試行しました。

説明: 要求された行セットが結果セットの開始にオーバーラップし、次に示すフェッチ指示

SQL_FETCH_PRIOR

以下のいずれかの状態です。

- 現行ポジションが最初の行を超えて、現在行の数が行セットの大きさより小さいか、等しくなっています。
- 現行ポジションが結果セットの終わりを超えて、行セットの大きさが結果セットより大きくなっています。

SQL_FETCH_RELATIVE

フェッチ・オフセットの絶対値が現行行セットの大きさより小さいか等しくなっています。

SQL_FETCH_ABSOLUTE

フェッチ・オフセットが負で、フェッチ・オフセットの絶対値が結果セットの大きさより大きくなっていますが現行行セットの大きさより小さいか、等しくなっています。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL1480N DISCOVER データベース・マネージャー構成パラメーターで指定されたディスクバークタイプが無効です。

説明: データベース・マネージャー構成ファイルの DISCOVER パラメーターの有効値は DISABLE、KNOWN、あるいは SEARCH です。

ユーザーの処置: DISCOVER データベース・マネージャー構成パラメーターを DISABLE、KNOWN、あるいは SEARCH で更新してください。

SQL1481N DISCOVER_COMM パラメーターで指定された 1 つ以上の通信プロトコルが無効です。

説明: データベース・マネージャー構成ファイルの DISCOVER_COMM パラメーターの有効値は NETBIOS、および TCPIP の組み合わせをコンマで区切ったものです。

ユーザーの処置: DISCOVER_COMM データベース・マネージャー構成パラメーターを NETBIOS、および TCPIP をコンマで区切って組み合わせ、更新してください。

SQL1482W BUFFPAGE パラメーターは、バッファーク・プールのどちらか 1 つのサイズが -1 と定義されている場合にのみ使用されません。

説明: バッファーク・プールのサイズが -1 と定義されていない場合、BUFFPAGE データベース構成パラメーターが無視されることを警告します。-1 は、バッファ

ーク・プールがバッファーク・プール・ページ数として BUFFPAGE パラメーターを使用することを示します。

ユーザーの処置: SYSCAT.BUFFERPOOLS から選択し、バッファーク・プールの定義をチェックしてください。サイズ -1 (NPAGES) でバッファーク・プールが定義されていない場合、BUFFPAGE パラメーターの設定はこのデータベースのバッファーク・プールのサイズを変更しません。

SQL1483N データベース・パーティション・サーバー *partitionnum* に関する、データベース・パーティション・サーバーの追加処理が失敗しました。戻されたエラー情報には、**SQLCODE** *sqlcode*、**SQLSTATE** *sqlstate*、およびメッセージ・トークン *token-list* が含まれます。

説明: データベース・パーティション・サーバー *partitionnum* に関する、データベース・パーティション・サーバーの追加処理が失敗しました。

sqlcode、*sqlstate*、メッセージ・トークン・リスト (各トークンは縦線によって区切られています) が提供されます。メッセージ・トークンは切り捨てられる可能性があります。エラーの詳細な説明として、*sqlcode* に対応するメッセージを参照してください。

ユーザーの処置: 失敗した SQL ステートメントの **SQLCODE** に関連するメッセージをチェックしてください。メッセージで提案されているアクションに従ってください。

sqlcode: -1483

sqlstate: 5UA02

SQL1484N データベース・パーティション・サーバー *partitionnum* の追加処理中には、要求 *request* を実行できません。

説明: データベース・パーティション・サーバー *partitionnum* の追加中であるため、要求 *request* は許可されません。

ユーザーの処置: データベース・パーティション・サーバーの追加操作が完了するのを待って、要求を再びサブミットしてください。

sqlcode: -1484

sqlstate: 55071

SQL1485N データベースまたはインスタンス *name* の状態が *state* であるため、データベース・パーティション・サーバーを追加できません。

説明: データベース・パーティション・サーバーは、データベースまたはインスタンスが *state* の状態にある場合には追加できません。

ユーザーの処置: データベース・パーティション・サーバーを追加できる状態になるようデータベースまたはインスタンスを変更して、要求を再サブミットしてください。

sqlcode: -1485

sqlstate: 55019

SQL1487W データベース・パーティション・サーバー、DB2 メンバー、または CF は正常に追加されましたが、インスタンスの再始動までは作動しません。

説明: パーティション・データベース環境では、このメッセージは、新しいデータベース・パーティション・サーバーが単一パーティション・データベース環境に追加された場合に返されます。データベース・パーティション・サーバーの追加操作が完了後、DB2 インスタンスが再始動されるまでは新しいデータベース・パーティション・サーバーはアクティブになりません。

DB2 pureCluster 環境では、このメッセージは、新しい DB2 メンバーまたはクラスター・キャッシング・ファシリティー (CF) が DB2 インスタンスに追加されるときに返されます。メンバーまたは CF は、追加されてもインスタンスが再始動されるまではアクティブになりません。

ユーザーの処置: インスタンスを再始動します。

SQL1488W データベース・パーティション・サーバーの追加操作が成功しました。新しいデータベース・パーティション・サーバー *partitionnum* がアクティブ状態です。DB2 クラスター・マネージャーがインスタンス内に検出されています。新しいデータベース・パーティション・サーバーをクラスター・マネージャー用に構成するために、クラスター・マネージャー・ツール *db2haicu* を実行できます。

説明: インスタンスは DB2 クラスター・マネージャーによって管理されます。新しく追加されたデータベース・パーティション・サーバーを構成する際、クラスター・マネージャーで管理することが可能です。

ユーザーの処置: 新しいデータベース・パーティション・サーバーをクラスター・マネージャーに追加するには、*db2haicu* ツールを使用してください。

SQL1489I データベース・パーティション・サーバーの追加操作が成功しました。新しいデータベース・パーティション・サーバー *dbpartitionnum* がアクティブ状態です。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

SQL1490W データベースは正常にアクティブになりましたが、このデータベースは 1 つ以上のノードですでにアクティブになっています。

説明: データベースが 1 つ以上のノードで、明示的に開始 (活動) しています。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL1491N データベース *name* はまだ使用中のために、非アクティブ化されませんでした。

説明: 指定されたデータベースに接続されたアプリケーションがある場合には、そのデータベースを非アクティブ化することはできません。

ユーザーの処置: すべてのアプリケーションが CONNECT RESET を行ったことを確認してから、もう一度やり直してください。

SQL1492N データベース *name* はアクティブ化されていないため、非アクティブ化されませんでした。

説明: 指定されたデータベースはアクティブになっていないために、このデータベースを非アクティブ化することはできません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL1493N このアプリケーションは、アクティブ・データベースにすでに接続されています。

説明: アプリケーションがデータベースにすでに接続されているために、ACTIVATE DATABASE および DEACTIVATE DATABASE コマンドを先行することはできません。

ユーザーの処置: データベースから切り離してから、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1494W データベースは正常にアクティブになりましたが、このデータベースへの接続は既に存在しています。

説明: 1 つ以上のノード上に既にデータベース接続があります。

SQL1495W

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL1495W データベースの非アクティブ化は正常に実行されましたが、このデータベースとの接続がまだ存在しています。

説明: 1 つ以上のノード上にデータベース接続がまだあります。最後の接続がデータベースから切断されるたびに、データベースはシャットダウンされます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL1496W データベースの非アクティブ化は正常に実行されましたが、このデータベースはアクティブにされてはいませんでした。

説明: データベースの非アクティブ化が実行された際、1 つ以上のノードではデータベースが明示的に開始されていませんでした。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL1497W データベースのアクティブ化/非アクティブ化は成功しましたが、いくつかのノードでエラーが発生しました。

説明: 少なくともカタログ・ノードおよびコーディネーター・ノードでデータベースのアクティブ化 / 非アクティブ化は成功しましたが、その他のノードでエラーが発生しました。

ユーザーの処置: 診断ログを参照しどのノードでどのようなエラーが発生しているかを調べて可能であれば問題を修正し、データベース・コマンドのアクティブ化 / 非アクティブ化を再発行してください。

SQL1498W 1 つ以上のタイプ 1 索引を含む表がデータベースに存在します。これらをタイプ 2 索引に変換するには、データベース・アップグレードの前に *generated-file* CLP スクリプトを実行してください。

説明: DB2 バージョン 9.7 以降、タイプ 1 索引はサポートされなくなったため、タイプ 2 索引に変換する必要があります。タイプ 1 に置き換わる索引として DB2 UDB バージョン 8 で導入されたタイプ 2 索引は、ネクスト・キー・ロッキングを最小化し、255 バイトより長い列を索引キーに含めて使用することで、並行性を改善します。

db2ckupgrade コマンドはすべてのタイプ 1 索引を識別し、コマンドのログ・ファイルと同じディレクトリーに *generated-file* CLP スクリプト・ファイルを生成します。CLP スクリプトには、識別されたタイプ 1 索引ごとに ALLOW WRITE ACCESS および CONVERT オプ

ション付きの REORG INDEXES ALL ステートメントが含まれています。これを実行すると、識別されたすべてのタイプ 1 索引をタイプ 2 索引に変換できます。

データベース・アップグレード中にタイプ 1 索引が残っている場合、それらは無効とマークされます。データベース・アップグレード後に初めて表にアクセスするとき、データベース・マネージャーはこれらの索引をタイプ 2 索引として自動的に再作成します。索引の再作成が完了するまでは、表にアクセスできません。

ユーザーの処置: 初めて表にアクセスする際の索引の再作成によるオーバーヘッドを防ぐには、db2ckupgrade コマンドによって生成された *generated-file* CLP スクリプトを実行することで、データベース・アップグレード前にタイプ 1 索引をタイプ 2 索引に変換してください。

SQL1499W データベース・アップグレードは成功しましたが、追加のユーザー処置が必要である可能性があります。詳細については、管理通知ログを参照してください。

説明: データベース・アップグレードは成功しましたが、以下の 1 つ以上の状態が検出されたため、追加のユーザー処置が必要である可能性があります。

- データベース・アップグレードにより、NOT FENCED ルーチンが FENCED および NOT THREADSAFE に変更されたか、ユーザー定義ラッパーが FENCED に変更された (UNIX および Linux オペレーティング・システム)。
- データベース・アップグレードで、システム・カタログ表についての統計を正常に収集できなかった。
- データベース・アップグレードで NULL という ID が検出された。
- データベース・アップグレードで、1 つ以上の表の索引が再作成の対象としてマークされた。
- データベース・アップグレードで、ワークロード接続属性にアスタリスクが検出された。
- データベース・アップグレードで、XML Extender が有効になったデータベースが検出された。
- データベース・アップグレードで、DB2 WebSphere MQ 関数が有効になったデータベースが検出された。

ユーザーの処置: 検出された状態の詳細について管理通知ログを参照すると、必要なアクションの判別に役立ちます。

第 4 章 SQL1500 - SQL1999

SQL1509N すべての使用可能なトランスポートが使用中で、トランスポートをさらに作成することができないため、ステートメントを処理できません。理由コード: *reason-code*

説明: トランスポートは、データベースへの物理接続です。トランスポートについて詳しくは、DB2 インフォメーション・センターのトピック『トランザクション・レベルでのロード・バランシング (Transaction-level load balancing)』を参照してください。

トランスポートをさらに作成できない理由は、示される理由コードによって表されます。

1

追加のトランスポートのために使用できるメモリーがありません。

2

構成パラメーター `maxTransports` に設定されている値に達しました。

ユーザーの処置: 以下のように、理由コードに応じてこのエラーに対応します。

1

メモリー不足を次のようにして解決します。

1. アプリケーションでメモリーをさらに使用できるようにします。例えば、使用していない接続を終了させます。
2. ステートメントを再実行します。

2

データベース構成を変更して、さらにトランスポートを許可するようにします。

1. `db2dsdriver.cfg` 構成ファイル内の `maxTransports` 構成パラメーターを現在より高い値に設定します。
`maxTransports` または `db2dsdriver.cfg` 構成ファイルについて詳しくは、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。
2. アプリケーションを再始動します。

sqlcode: -1509

sqlstate: 57060

SQL1510N **CREATE PROCEDURE** ステートメントの **WITH RETURN TO CLIENT** 節内の結果セット・エレメント・リストが無効です。次の理由コードは、結果セット・エレメント・リストが無効である理由を示しています: *reason-code*

説明: **CREATE PROCEDURE** ステートメントで **WITH RETURN TO CLIENT** 節を使用することにより、複数のインターリーブド結果セットをストアード・プロシージャから戻すことができます。

インターリーブド結果セットの詳細については、DB2 インフォメーション・センターのトピック『インターリーブド結果セット (Interleaved result sets)』を参照してください。

以下のような理由コードは、指定された結果セット・エレメントが無効である理由を示しています。

1

結果セット・エレメントのリストに、正整数ではない値が含まれています。**WITH RETURN TO CLIENT** を使って指定される結果セット・エレメントは、正整数でなければなりません。無効な結果セット・エレメントの例: -2, 0, 2.3

2

結果セット・エレメントのリストに、重複する項目が含まれています。1 つの結果セット・エレメントを複数回にわたってリストに含めることはできません。無効なリストの例: (1, 2, 2)

3

結果セット・エレメントが昇順で指定されませんでした。有効なリストの例: (1, 3)。無効なリストの例: (3, 1)。

4

32767 より大きいエレメントが結果セット・リスト内に存在します。最も大きい有効な結果セット・リスト・エレメントは 32767 です。

ストアード・プロシージャは作成されませんでした。

ユーザーの処置: 有効な結果セット・エレメントを指定して、**CREATE PROCEDURE** ステートメントを再び呼び出してください。

SQL1511N 指定された節 *clause* は、サービス・サブクラス用にサポートされていません。

説明: 指定された節 *clause* はサービス・スーパークラスには有効ですが、サービス・サブクラスには無効です。

ユーザーの処置: サポートされない節を除去するか、サービス・スーパークラスを指定します。

sqlcode: -1511

sqlstate: 5U044

SQL1512N *ddcstrc* が、指定されたファイルに書き込めませんでした。

説明: *ddcstrc* は、書き込み先として指定されたファイル名に、トレース情報を書き込めませんでした。

ユーザーの処置: 指定したファイル名が、ファイル・システムに有効なことを確認してください。ファイル名を指定していない場合は、デフォルト・ファイル *ddcstrc.tmp* に対して必要な書き込み許可を持っていることを確認してください。

SQL1513W *ddcstrc* がオフになっていません。

説明: エラー状態のために、*ddcstrc* がオフになりませんでした。これは、トレース情報がファイル内に安全に格納される前に、失われないようにするために行われました。

ユーザーの処置: このエラーの前に報告された *ddcstrc* のエラー状態を修正して、もう一度トレースをオフにしてください。

SQL1514N 指定されたメンバーが DB2 pureCluster 環境の一部であるため、ADMIN MODE オプションを指定した DB2START は続行できません。

説明: DB2 pureCluster 環境では、db2start コマンドは ADMIN MODE オプションと互換性がありません。

ユーザーの処置: 特定のメンバーへのアクセスを制限する必要がある場合、db2stop または STOP DATABASE MANAGER コマンドの QUIESCE オプションを使用してください。

SQL1515N 既存のユーザー・マッピングまたはフェデレーテッド・サーバー・オプションと競合するため、サーバー *server-name* のユーザー・マッピングを作成できません。理由コード *reason-code*

説明: PUBLIC 用に定義されたユーザー・マッピング

は、個々のユーザー用に定義されたユーザー・マッピングを持つサーバー上、またはフェデレーテッド・サーバー・オプション FED_PROXY_USER を使って定義されたサーバー上には共存することができません。ユーザー・マッピングを作成しようとして、失敗しました。

ユーザーの処置: 理由コード *reason-code* は具体的な状況を示しています。次のようなアクションによって、その状況を解決できます。

1

個々のユーザー用のユーザー・マッピングを定義しようとしたのですが、PUBLIC 用に定義されたユーザー・マッピングがサーバー *server-name* に既に存在します。PUBLIC 用に定義されたユーザー・マッピングをサーバーからドロップして、ユーザー・マッピングを再び作成してください。

2

PUBLIC 用のユーザー・マッピングを定義しようとしたのですが、個々のユーザー用に定義されたユーザー・マッピングがサーバー *server-name* に既に存在します。個々のユーザー用に定義されたすべてのユーザー・マッピングをサーバーからドロップして、PUBLIC 用のユーザー・マッピングを再び作成してください。

3

PUBLIC 用のユーザー・マッピングを定義しようとしたのですが、サーバー *server-name* はフェデレーテッド・サーバー・オプション FED_PROXY_USER を使って既に定義されています。サーバーを変更して FED_PROXY_USER オプションを除去した後、PUBLIC 用のユーザー・マッピングを再び作成してください。

sqlcode: -1515

sqlstate: 428HE

SQL1516N 既存のユーザー・マッピングと競合するため、ALTER SERVER ステートメントによって FED_PROXY_USER フェデレーテッド・サーバー・オプションをサーバー *server-name* に追加できません。

説明: PUBLIC 用に定義されたユーザー・マッピングがサーバー *server-name* に既に存在するため、FED_PROXY_USER フェデレーテッド・サーバー・オプションをこれに追加することはできません。ALTER SERVER ステートメントが失敗しました。

ユーザーの処置: PUBLIC 用に定義されたユーザー・マッピングをサーバーからドロップして、ALTER SERVER ステートメントを再び発行してください。

sqlcode: -1516

sqlstate: 428HE

SQL1517N クラスター・マネージャー・リソース状態が不整合であるため、db2start が失敗しました。

説明: クラスター・マネージャー・リソース・モデルと db2nodes.cfg ファイルの間に不整合があるため、db2start コマンドはプロセスを開始できませんでした。クラスター・マネージャーと同期されていない db2nodes.cfg に対する変更 (意図したものでも意図しないものでも) がある場合、これらの不整合が発生します。

不整合が解決されるまで、DB2 pureCluster インスタンスも新しいリソースも開始できません。既に開始されている DB2 リソースはこのエラーの影響を受けません。

ユーザーの処置: db2nodes.cfg ファイルを以前の構成 (クラスター・マネージャーと同期されていた構成) にリストアしてください。これができない場合、クラスター・リソース・モデルを修復してください。修復するには、グローバル db2stop を発行してインスタンスを停止し、db2cluster ツールに -repair オプションを指定して実行します。

SQL1520N バッファ・サイズは 65536 以上の数値でなければなりません。

説明: ddcstrc コマンドに無効なバッファ・サイズが指定されました。

ユーザーの処置: バッファ・サイズに、65536 (64K) 以上の数値が使用されていることを確認してください。使用されるメモリーは、64K の倍数であることに注意してください。ddcstrc は、指定されたバッファ・サイズを最も近い 64K の倍数に切り捨てます。

SQL1522N 指定されたデータベースで未確定トランザクションが検出された 1 つ以上のメンバーで DEACTIVATE コマンドが失敗しました。

説明: このメッセージは、DEACTIVATE DATABASE コマンドまたは sqle_deactivate_db API を使用してデータベースを明示的に非アクティブ化しようとしたが、1 つ以上のメンバーの指定されたデータベースで未確定トランザクションが検出されたためにデータベースを非アクティブ化できなかった場合に返されます。

未確定トランザクションが検出されなかったメンバーで

は、データベースは非アクティブ化されました。未確定トランザクションが検出されたメンバーでは、データベースは、アクティブ状態のままか、非アクティブ化コマンドが発行される前と同じ状態です。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの方法で、このエラーに対応します。

- トランザクション・マネージャーが未確定トランザクションを解決するのを待ちます。
 1. LIST INDOUBT TRANSACTIONS コマンドを使用してそのデータベースが関係する未確定トランザクションを識別します。
 2. トランザクション・マネージャーが未確定トランザクションを自動的に解決するまで、未確定トランザクションをモニターします。
 3. DEACTIVATE DATABASE コマンドを再サブミットするか、sqle_deactivate_db API を再度呼び出します。
- 以下のようにしてトランザクションを手動で解決します。
 1. LIST INDOUBT TRANSACTIONS コマンドを使用してそのデータベースが関係する未確定トランザクションを識別します。
 2. 未確定トランザクションを手動で解決します。DEACTIVATE DATABASE コマンドを再サブミットするか、sqle_deactivate_db API を再度呼び出します。
- FORCE オプションを指定した DEACTIVATE DATABASE コマンドを呼び出してデータベースを強制的に非アクティブ化します。
 1. db2diag ログ・ファイルを参照して非アクティブ化操作が失敗したメンバーを判別します。
 2. 非アクティブ化操作が失敗した各メンバーで、FORCE オプションを指定して DEACTIVATE DATABASE コマンドを呼び出します。未確定トランザクションは未解決のまま残ります。

SQL1523N エクステント移動操作で *tablespace-name* という名前の表スペースにアクセスしようとしたが、別の処理が既にこの表スペースにアクセスしています。理由コード = *reason-code*。

説明: エクステント移動操作で、高水準点を低くするために未使用のストレージを再利用しようとしたが、別のユーティリティーまたは処理がその表スペースに既にアクセスしています。エクステント移動操作は、REDUCE または LOWER HIGH WATER MARK 節を

SQL1524N

指定した ALTER TABLESPACE ステートメントの結果として発生しました。

その表スペースを扱っているユーティリティまたは処理は、以下のいずれかの理由コードによって示されます:

- 1 表スペースはバックアップ・ペンディング状態である。
- 2 表スペースはリストア進行中の状態である。
- 3 表スペースはリストア・ペンディングまたはリカバリー・ペンディング状態である。
- 4 表スペースはリバランスが進行中の状態である。
- 5 表スペースはロールフォワード進行中の状態である。
- 6 表スペースはロールフォワード・ペンディング状態である。
- 7 表スペースは再配分が進行中の状態である。
- 8 表スペースは静止モードで共有される状態である。
- 9 表スペースは静止モードで更新される状態である。
- 10 表スペースは静止モードによる排他的状態である。
- 11 表スペースは pstat_deletion 状態である。
- 12 表スペースは pstat_creation 状態である。
- 13 表スペースは stordef ペンディング状態である。
- 14

表スペースは使用不可ペンディング状態である。

15

表スペースは移動が進行中の状態である。

ユーザーの処置: 表スペースのさまざまな状態については、資料を参照してください。さらに、エクステント移動操作を行うことのできる状態に変更する方法について資料を参照するか、進行中の処理が終わるのを待つことができます。例えば、表スペースをバックアップすることにより、バックアップ・ペンディング状態から変更できます。ステートメントを再発行してください。

sqlcode: -1523

sqlstate: 55039

SQL1524N インスタンス内のすべてのアプリケーションが新規データベース・パーティション・サーバーを認識するまで、要求は行われません。

説明: 新規データベース・パーティション・サーバーは、オンラインでインスタンスに追加されています。このイベントが生じた場合、既存のアプリケーションは次のトランザクション境界で新規データベース・パーティション・サーバーを認識するようになります (アプリケーションにオープンした WITH HOLD カーソルがある場合は例外が起きます)。新規データベース・アプリケーションは、その最初の要求で新規データベース・パーティション・サーバーを認識するようになります。インスタンス内のすべてのアプリケーションが新規データベース・パーティション・サーバーを認識するまで、CREATE DATABASE PARTITION GROUP、ALTER DATABASE PARTITION GROUP、DROP DATABASE PARTITION GROUP、および REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION GROUP 要求は許可されません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを実行してから、要求を再試行してください。

- すべてのアプリケーションが新規データベース・パーティション・サーバーを認識するまで待機します。
- 待機を選択しない場合は、要求の失敗の原因となっているアプリケーションを終了します。db2pd -addnode oldviewapps コマンドまたは db2pd addnode -oldviewapps 詳細コマンドを使用すると、このアプリケーションを識別できます。
- 複数のデータベース・アプリケーションが要求を妨げている場合、すべてのアプリケーションを強制終了するか、またはインスタンスを静止します。

sqlcode: -1524

sqlstate: 55077

SQL1525N DB2 セキュリティー・デーモンを開始中にエラーが発生しました。

説明: DB2 セキュリティー・デーモンを開始中に予期しないエラーが発生しました。

ユーザーの処置: DB2START コマンドを再試行してください。問題が続く場合、IBM サービス担当者に連絡してください。

SQL1526N DB2VIA サポートが開始していないため、db2start ができません。理由コード reason-code

説明: DB2VIA サポートは、db2start 時間で正常に開始されていませんでした。理由コードは、次のエラーを示しています。

1. DB2_VI_VIPL レジストリー変数で指定された VIPL ライブラリーをロードできない。
2. DB2_VI_DEVICE レジストリー変数で指定された装置名がオープンできない。
3. DB2 は VIA インプリメンテーションのインストールをサポートしない。

ユーザーの処置:

1. DB2 レジストリー DB2_VI_VIPL が正常に設定され、DB2_VI_VIPL で指定された名前が %PATH% 環境変数にあることを確認してください。
2. DB2 レジストリー DB2_VI_DEVICE が正常に設定されていることを確認してください。
3. DB2 は、少なくとも信頼できる送達レベルをサポートする VIA インプリメンテーションのサポートのみを行います。VIA インプリメンテーションが、Intel Virtual Interface Architecture Implementation Guide に従って適合する組を渡すことも必要です。選択した VIA インプリメンテーションが、この要件を満たしているかどうか、確認してください。

SQL1528W 有効なワークロードが無効なサービス・クラスと関連付けられています。

説明: 着信接続は有効なワークロード *workload-name* に割り当てられますが、サービス・クラス *service-class-name* が無効であるため、ワークロードは新規要求をそのサービス・クラスにマップできません。無効なサービス・クラスにマップまたは再マップされたすべての新規要求について、SQL4714N エラー・メッセージを受け取ります。

ユーザーの処置: 必要な場合には、ワークロードを無効にするか、またはサービス・クラスを有効にすることで

問題を訂正してください。そうでない場合には、アクションは不要です。

sqlcode: +1528

sqlstate: 01HN0

SQL1529N 最後に残った CF はドロップできません。

説明: DB2 pureCluster 環境には少なくとも 1 つのクラスター・キャッシング・ファシリティー (CF) が存在している必要があります。最後の 1 つはドロップできません。

ユーザーの処置: 新しい CF を追加して変更内容をアクティブにしてから、この CF をドロップしてください。

SQL1530W 指定の並列処理の度合いは、システムがパーティション内の並列処理ができないため、無視されます。

説明: DEGREE BIND オプションが 1 より大きい値で指定されたか、あるいは SET CURRENT DEGREE ステートメントが 1 より大きい値で実行されながらデータベース・マネージャーがパーティション内並列処理ができないかのいずれかです。

インスタンスでパーティション内並列処理ができるようにするには、*intra_parallel* 構成パラメーターを ON に設定して、データベース・マネージャーを開始してください。

ステートメントあるいはコマンドは正常に完了しましたが、度合いの指定は無視されます。

ユーザーの処置: パーティション内並列処理を使用する場合には、*intra_parallel* 構成パラメーターを ON に設定して、データベース・マネージャーを再始動します。

そうでない場合、1 あるいは ANY を度合いの指定に使用します。

sqlcode: +1530

sqlstate: 01623

SQL1531N データベース別名 *database-alias* が db2dsdriver.cfg 構成ファイルに見つかりません。

説明: db2dsdriver.cfg 構成ファイルにはデータベース情報が含まれており、以下のドライバーおよびクライアントがこのファイルを使用します。

- IBM Data Server Driver for ODBC and CLI
- IBM Data Server Driver Package

SQL1532N

- DB2 バージョン 9.7 の場合: CLI およびオープン・ソース・アプリケーションでは、IBM Data Server Client および IBM Data Server Runtime Client

db2dsdriver.cfg ファイル内の情報は、IBM Data Server Client または IBM Data Server Runtime Client 上のシステム・データベース・ディレクトリー内にある情報と類似しています。

IBM Data Server Driver for ODBC and CLI、または IBM Data Server Driver Package を使用して別名に接続するには、db2dsdriver.cfg 構成ファイルにその別名を追加する必要があります。

接続が失敗しました。

ユーザーの処置:

- 指定されたデータベース別名を db2dsdriver.cfg 構成ファイルに追加します。
- アプリケーション・プロセスを停止して再始動し、新規 db2dsdriver.cfg ファイル設定が有効になるようにします。
- 指定されたデータベース別名への接続を再試行します。

SQL1532N db2dsdriver.cfg 構成ファイルには、データベース別名 *database-alias* に対して複数の項目が含まれています。

説明: db2dsdriver.cfg 構成ファイルにはデータベース情報が含まれており、以下のドライバーおよびクライアントがこのファイルを使用します。

- IBM Data Server Driver for ODBC and CLI
- IBM Data Server Driver Package
- DB2 バージョン 9.7 の場合: CLI およびオープン・ソース・アプリケーションでは、IBM Data Server Client および IBM Data Server Runtime Client

db2dsdriver.cfg ファイル内の情報は、IBM Data Server Client または IBM Data Server Runtime Client 上のシステム・データベース・ディレクトリー内にある情報と類似しています。

クライアント・ドライバー構成ファイルには、複数の同一のデータベース別名項目または複数の同一のデータベース項目を含めることはできません。

ユーザーの処置:

- db2dsdriver.cfg 構成ファイルから重複する項目を除去します。
- アプリケーション・プロセスを停止して再始動し、新規 db2dsdriver.cfg ファイル設定が有効になるようにします。

SQL1533N db2dsdriver.cfg 構成ファイルには、次のプロパティのデータベースに対して複数の項目が含まれています。データベース名 *database-name*、サーバー名 *server-name*、ポート番号 *port-number*。

説明: db2dsdriver.cfg 構成ファイルにはデータベース情報が含まれており、以下のドライバーおよびクライアントがこのファイルを使用します。

- IBM Data Server Driver for ODBC and CLI
- IBM Data Server Driver Package
- DB2 バージョン 9.7 の場合: CLI およびオープン・ソース・アプリケーションでは、IBM Data Server Client および IBM Data Server Runtime Client

db2dsdriver.cfg ファイル内の情報は、IBM Data Server Client または IBM Data Server Runtime Client 上のシステム・データベース・ディレクトリー内にある情報と類似しています。

クライアント・ドライバー構成ファイルには、複数の同一のデータベース別名項目または複数の同一のデータベース項目を含めることはできません。

ユーザーの処置:

- db2dsdriver.cfg 構成ファイルから重複する項目を除去します。
- アプリケーション・プロセスを停止して再始動し、新規 db2dsdriver.cfg ファイル設定が有効になるようにします。

SQL1534N 無効なコマンド・オプションが指定されたため、db2dsdcfgfill への呼び出しが失敗しました。

説明: db2dsdcfgfill コマンドを使用して db2dsdriver.cfg 構成ファイルを作成し、その値を、ローカル・データベース・ディレクトリー、ノード・ディレクトリー、および DCS ディレクトリーの内容に基づいて設定することができます。

db2dsdcfgfill の構文

```
db2dsdcfgfill  
[ -i <instance-name> [ -db2cliFile <path> ] |  
  -p <instance-path> [ -db2cliFile <path> ] |  
  -migrateCliIniFor.NET -db2cliFile <path> |  
  -o <output-path> ] |  
[ -h ]
```

コマンド・オプションは以下のとおりです。

-h

このメッセージをプリントします。

-i <instance-name>

データベース・マネージャー・インスタンスの名前。このインスタンスのデータベース・ディレクトリー、ノード・ディレクトリー、および dcs ディレクトリーが db2dsdcfgfill によって入力として使用されます。

-db2cliFile <path>

Microsoft Windows システムの場合のみ:
db2cli.ini ファイルの絶対パス。

-p <instance-path>

データベース・マネージャー・インスタンス・ディレクトリーの絶対パス。この下に、システム・データベース・ディレクトリー、ノード・ディレクトリー、および dcs ディレクトリーがあります。

-migrateCliIniFor.NET

Microsoft Windows システムの場合のみ:
db2cli.ini ファイルの項目のサブセットを
db2dsdriver.cfg ファイルにコピーします。

-o <output-path>

db2dsdcfgfill が db2dsdriver.cfg 構成ファイルを作成するパス。

ユーザーの処置: 有効なコマンド・オプションを指定して db2dsdcfgfill を再実行します。

SQL1535I db2dsdcfgfill ユーティリティは db2dsdriver.cfg 構成ファイルを正常に作成しました。

説明: 構成ファイル db2dsdriver.cfg には、人間可読形式のデータベース・ディレクトリー情報とクライアント構成パラメーターが含まれています。db2dsdcfgfill ユーティリティを使用して、構成ファイル db2dsdriver.cfg を作成し、データを設定することができます。

ユーザーの処置: このメッセージに対処する必要はありません。

SQL1536N db2dsdcfgfill ユーティリティが db2dsdriver.cfg 構成ファイルの作成に失敗しました。理由コード: reason-code

説明: db2dsdcfgfill ユーティリティを使用して db2dsdriver.cfg 構成ファイルを作成し、その値を、ローカル・データベース・ディレクトリー、ノード・ディレクトリー、および DCS ディレクトリーの内容に基づいて設定することができます。

理由コードは以下のとおりです。

1

システム・リソースが不足したため、db2dsdcfgfill ユーティリティは db2dsdriver.cfg 構成ファイルを作成できませんでした。例えば、出力ディレクトリーに新規ファイルを作成するのに十分なスペースがない場合、このエラーが起きることがあります。

2

重大ではない、内部エラーまたはシステム・エラーが発生しました。

ユーザーの処置: db2dsdcfgfill ユーティリティを再び実行します。

問題が解決しない場合は、示された理由コードに応じて、このエラーに対処してください。

1

システム・リソースの問題を次のようにして解決します。

1. オペレーティング・システムの診断ツールを使用してシステム・リソース・データを調べます。例えば、新規ファイルを作成するのに十分なスペースがあることを確認します。
2. 使用可能なシステム・リソースを増やします。例えば、ディスク・スペースを解放します。
3. db2dsdcfgfill ユーティリティを再び実行します。

2

IBM サポートの支援を受けて、次のように内部エラーまたはシステム・エラーを解決します。

1. db2dsdcfgfill ユーティリティの実行中に db2trace を使用して診断情報を収集します。
2. IBM サポートに連絡して、収集された db2trace 診断情報を調べます。

SQL1537N 無効な値がコマンドに渡されたため、db2dsdcfgfill ユーティリティが失敗しました。理由コード: reason-code

説明: db2dsdcfgfill ユーティリティを使用して db2dsdriver.cfg 構成ファイルを作成し、その値を、ローカル・データベース・ディレクトリー、ノード・ディレクトリー、および DCS ディレクトリーの内容に基づいて設定することができます。

db2dsdcfgfill ユーティリティについて詳しくは、DB2 インフォメーション・センターのトピック『db2dsdcfgfill

SQL1538N

ユーティリティ』を参照してください。

このメッセージが戻された理由は、示される理由コードによって表されます。

1

指定されたデータベース・マネージャー・インスタンスがこのクライアント上に存在しません。

2

指定されたデータベース・マネージャー・インスタンスのパスが無効です。例えば、パスが存在しないか、db2dsdcfgfill ユーティリティにそのディレクトリーへのアクセス権限がない可能性があります。

3

指定された出力ディレクトリーが無効です。例えば、ディレクトリーが存在しないか、db2dsdcfgfill ユーティリティにそのディレクトリーでのファイル作成権限がない可能性があります。

4

指定された db2cli.ini ファイル・パスが無効です。例えば、ディレクトリーが存在しないか、db2dsdcfgfill ユーティリティにそのファイルまたはディレクトリーへのアクセス権限がない可能性があります。

ユーザーの処置: 以下のように、示された理由コードに応じてこのメッセージに応答します。

1

有効なデータベース・マネージャー・インスタンスを指定して db2dsdcfgfill を再び実行します。

2

データベース・マネージャー・インスタンス・ディレクトリーの問題を次のようにして解決します。

1. db2dsdcfgfill が指定されたデータベース・マネージャー・インスタンス・ディレクトリーにアクセスできなかった理由を判別します。例えば、ディレクトリーの許可が、db2dsdcfgfill がそのディレクトリーにアクセスできない設定になっていないか確認します。
2. db2dsdcfgfill が指定されたデータベース・マネージャー・インスタンス・ディレクトリーにアクセスできなかった理由に応じて対処します。例えば、ディレクトリーの許可

の設定を、db2dsdcfgfill がそのディレクトリーにアクセスできる設定に変更します。

3. db2dsdcfgfill を再び実行します。

3

出力ディレクトリーの問題を次のようにして解決します。

1. db2dsdcfgfill が指定された出力ディレクトリーにアクセスできなかった理由を判別します。例えば、ディレクトリーの許可が、db2dsdcfgfill がそのディレクトリーでファイルを作成できない設定になっていないか確認します。
2. db2dsdcfgfill が指定されたディレクトリーで db2dsdriver.cfg 構成ファイルを作成できなかった理由に応じて対処します。例えば、ディレクトリーの許可の設定を、db2dsdcfgfill がそのディレクトリーでファイルを作成できる設定に変更します。
3. db2dsdcfgfill を再び実行します。

4

db2cli.ini ファイル・パスの問題を次のように解決します。

1. db2dsdcfgfill が指定されたファイルにアクセスできなかった理由を判別します。例えば、ディレクトリーの許可が、db2dsdcfgfill がそのディレクトリーのファイルにアクセスできない設定になっていないか確認します。
2. 指定されたディレクトリーの db2cli.ini ファイルに db2dsdcfgfill がアクセスできなかった理由に応じて対処します。例えば、ディレクトリーの許可の設定を、db2dsdcfgfill がそのディレクトリーのファイルを読み取ることができる設定に変更します。
3. db2dsdcfgfill を再び実行します。

SQL1538N 以下のキーワードは現在の環境ではサポートされていません: *keyword*。

説明: DB2 pureCluster 環境では指定したキーワードはサポートされていません。

ユーザーの処置: サポートされるキーワードだけを指定して、コマンドを再実行するか、SQL ステートメントを再実行します。

sqlcode: -1538

sqlstate: 56038

SQL1539N ロード・ターゲット表が、一般的に例外表と非互換であるか、または特に特定の例外表と非互換であるために、ロード操作が失敗しました。理由コード: *reason-code*

説明: 大量のデータを効率的に移動するには、新たに作成された表に移動するか、またはロード・ユーティリティを使用して、既にデータの入っている表に移動することができます。

ロード例外表を使用したロード操作中に、ユニーク索引規則、範囲制約、およびセキュリティ・ポリシーに違反したすべての行についての、統合されたレポートを作成することができます。LOAD コマンドの FOR EXCEPTION 節を使用することにより、ロード例外表を指定します。

理由コードは、このエラーが返された特定の理由を示します。

1

ターゲット表のロードは LBAC セキュリティを使用し、少なくとも 1 つの XML 列を持ちます。

2

ターゲット表のロードは範囲によってパーティション化されており、少なくとも 1 つの XML 列を持ちます。

3

ロード・ターゲット表のパーティション・マップが、指定されたロード例外表のパーティション・マップと同じではありません。

パーティション・マップによって、データベース・パーティション間の表の行の分散が決定されます。ロード・ターゲット表の行の分散は、ロード例外表の行の分散と同じでなければなりません。

ユーザーの処置: FOR EXCEPTION オプションを指定せずに、LOAD コマンドを再発行してください。

sqlcode: -1539

sqlstate: 5U049

SQL1540N ストレージ・グループまたは表スペースのオブジェクトが特定のメンバーでアクセスできないため、SQL ステートメントまたは DB2 ユーティリティでエラーが発生しました。オブジェクト ID: *object-id*。メンバー: *member-id*。オブジェクト・タイプ・キーワード: *object-type-keyword*。

説明: データベース・オブジェクトが置かれているスト

レージ・グループまたは表スペースがこのメンバーではアクセスできないため、SQL ステートメントまたは DB2 ユーティリティでエラーが発生しました。SYSCAT.TABLESPACES カタログ・ビューを使用して、指定された表スペース ID の表スペース名を識別できます。SYSCAT.STOGROUPS カタログ・ビューを使用して、指定されたストレージ・グループ ID のストレージ・グループ名を識別できます。オブジェクト ID トークン値が "*N" の場合、このメンバーではストレージ・グループのファイル・ヘッダーにアクセスできません。

ユーザーの処置: すべてのデータベース・ストレージ・パスがこのメンバーでアクセス可能であることを確認してから、SQL ステートメントを再発行するか、異なるメンバー上で SQL ステートメントを発行してください。

sqlcode: -1540

sqlstate: 57048

SQL1541N 指定されたメンバーがこの DB2 pureCluster インスタンスでの唯一のメンバーであるため、このメンバーのドロップが失敗しました。最後のメンバーはドロップできません。

説明: DB2 pureCluster 環境では、少なくとも 1 つのメンバーが存在しなければなりません。最後の 1 つはドロップできません。

ユーザーの処置:

1. -add オプションを指定した db2iupdt コマンドを使用して新しいメンバーを追加します。
2. -drop オプションを指定した db2iupdt コマンドを使用して元のメンバーをドロップします。

SQL1542N DB2 インスタンスでの CF の最大数に達したため、CF の追加が失敗しました。

説明: DB2 pureCluster 環境では、DB2 インスタンスごとに最大で 2 つのクラスター・キャッシング・ファシリティー (CF) がサポートされます。このメッセージは、最大数を超える CF を追加しようとする場合に返されます。

ユーザーの処置:

1. -drop オプションを指定した db2iupdt コマンドを使用して既存の CF の 1 つをドロップします。
2. -add オプションを指定した db2iupdt コマンドを使用して新しい CF を追加します。

SQL1543N CF に指定されたホストは重複していません。

説明: DB2 pureCluster 環境では、特定のホストに存在できるクラスター・キャッシング・ファシリティー (CF) は、1 つだけです。

ユーザーの処置: まだ CF がない別のホストを指定してください。

SQL1544N DB2 pureCluster 環境でのトポロジーの変更後に行われるデータベースのバックアップは、新しく追加されたメンバーからは実行できません。

説明: DB2 pureCluster 環境でのトポロジーの変更後には、データベースのバックアップが必要です。これは、以前から存在していたインスタンス・メンバーの 1 つから実行する必要があります。

ユーザーの処置: 以前から存在していたメンバーの 1 つからバックアップを実行してください。

SQL1545N 以前のトポロジーからのデータベース・イメージのリストアはサポートされていません。

説明: DB2 pureCluster 環境では、現在のデータベース・トポロジーとは異なるトポロジー (セットアップまたはメンバー数が異なる) のイメージのリストアは許可されていません。

ユーザーの処置: 最新のトポロジーの変更後に取られたイメージをリストアして、そこから開始してください。

SQL1546N メンバーの追加またはドロップ操作を経たロールフォワードは許可されていません。

説明: DB2 pureCluster 環境では、トポロジーの変更 (メンバーの追加またはドロップ) を伴うロールフォワードは許可されていません。

ユーザーの処置: トポロジーの変更後に取られたイメージをリストアして、そこからロールフォワードを開始してください。

SQL1547N 直前の未完了の追加またはドロップ操作があるため、開始または停止コマンドが失敗しました。

説明: DB2 メンバーまたはクラスター・キャッシング・ファシリティー (CF) を追加またはドロップしようとして失敗しました。結果として、未完了の追加またはドロップ操作が修正されるまで、開始または停止コマンドは処理できません。

ユーザーの対応

1. fixtopology パラメーターを指定した db2iupdt コマンドを使用して、失敗した追加またはドロップ操作を手動で修正します。

fixtopology パラメーターを指定して db2iupdt コマンドを使用すると、未完了の追加またはドロップ操作を完了するために、常にドロップ操作を実行することに注意してください。

2. 開始または停止コマンドを再サブミットします。

ユーザーの処置:

SQL1548N ALLOW WRITE ACCESS モードおよび ALLOW READ ACCESS モードはパーティション表では無効なため、REORG コマンドが失敗しました。

説明: パーティション表では、REORG コマンドは次の ALLOW WRITE ACCESS および ALLOW READ ACCESS モードの使用をサポートします。

- REORG INDEXES ALL コマンドの場合、ALLOW WRITE ACCESS モードまたは ALLOW READ ACCESS モードは、節 ON DATA PARTITION、CLEANUP、RECLAIM EXTENTS のうち 1 つ以上が指定されているときにのみサポートされます。
- REORG TABLE コマンドの場合、ALLOW READ ACCESS モードは、ON DATA PARTITION 節が指定されており、XML PATH 索引以外の非パーティション索引が表で定義されておらず、INPLACE 節が指定されていないときにのみサポートされます。

ユーザーの処置: パーティション表の適切なアクセス・モードで索引またはデータの再編成コマンドを再発行します。

sqlcode: -1548

sqlstate: 5U047

SQL1549N ON DATA PARTITION 節はこのコマンドでは許可されていません。

説明: ON DATA PARTITION 節を指定した REORG TABLE コマンドは以下の両方の条件を満たす表に対しては許可されません。

- REORG ペンディング状態にある。
- 1 つ以上の非パーティション索引が表に対して定義されている。非パーティション索引は、ユーザー定義の索引であることも、システム作成の索引 (表に XML 列が含まれる場合に作成される XML PATH 索引など) であることもあります。

ユーザーの処置: REORG TABLE コマンドを ON

DATA PARTITION 節なしで発行してください。

sqlcode: -1549

sqlstate: 5U047

SQL1550N 理由コードで示されている状況のために、**SET WRITE SUSPEND** コマンドが失敗しました。理由コード = *reason-code*。

説明: *reason-code* で示される条件が解決するまで、**SET WRITE SUSPEND** コマンドを発行することができません。

1

データベースがアクティブではありません。

2

データベースのバックアップ操作が、ターゲット・データベースに対して現在進行中です。

3

データベースのリストア操作が、ターゲット・データベースに対して現在進行中です。

4

データベースに対して、すでに書き込み操作が延期されています。

5

下記のいずれかの状態が存在します。

- 1 つ以上の表スペースの現在の状態では、書き込み操作を中断することはできません。
- 表スペースに関連付けられているバッファ・プールへの変更がペンディング中であり、書き込み操作を中断することはできません。

6

データベースでの書き込み操作を中断しようとしているときに、エラーが発生しました。

DB2 pureCluster 環境では、DB2 クラスターの 1 つ以上のメンバーで **SET WRITE** コマンドが失敗した場合に、理由コード 6 で **SQL1550N** が返されることがあります。

7

データベースが静止しているか、一時的に書き込み操作を中断できない状態にあります。これは、例えば、静止したデータベースまたはインスタンス、あるいは進行中のデータベースの非アクティブ化が原因で生じることがあります。

ユーザーの処置: 以下のように、理由コードに応じてこのメッセージに応答します。

1

ACTIVATE DATABASE コマンドを発行することによりデータベースをアクティブにし、**SET WRITE SUSPEND** コマンドを再発行します。

2

BACKUP プロシージャが終了したら、**SET WRITE SUSPEND** コマンドを再発行します。

3

RESTORE プロシージャが終了したら、**SET WRITE SUSPEND** コマンドを再発行します。

4

データベースの書き込み操作を再開する場合は、**SET WRITE RESUME** コマンドを発行します。

5

- **MON_GET_TABLESPACE** 表関数を使用して、表スペース状態を表示します。ペンディング状態の表スペースがある場合、**SET WRITE SUSPEND** コマンドを再発行する前に、これらの表スペースを、ペンディング状態から解放するための適切なコマンドを発行してください。
- 1 つ以上の表スペースで操作が進行中の場合は、その操作が完了するまで **SET WRITE SUSPEND** コマンドを再発行するのを待ってください。例えば、セルフチューニング・メモリー・マネージャーが有効である場合、バッファ・プールの変更が進行中である可能性があります。変更が完了すると、書き込み中断操作が使用可能になります。

6

以下のステップを実行して、理由コード 6 に対応してください。

1. 管理通知ログを調べて、失敗の原因を調査します。

DB2 pureCluster 環境では、DB2 クラスターの各メンバーの管理通知ログを調べてください。

2. **SET WRITE** コマンドの成功を妨げている問題を修正します。

DB2 pureCluster 環境では、DB2 クラスターのさまざまなメンバーがこの問題のさまざまな根本原因を報告している場合は、それらのメンバーによって報告された原因のすべてを修正してください。

SQL1551N

3. SET WRITE SUSPEND コマンドを再発行します。

7

データベースを静止解除するか (静止している場合)、少し待った後、SUSPEND オプションを指定して SET WRITE コマンドを再発行します。

SQL1551N 理由コードで示されている状況のために、SET WRITE RESUME コマンドまたは WRITE RESUME パラメーターを指定した RESTART DATABASE コマンドが失敗しました。理由コード = *reason-code*。

説明: *reason-code* によって示される以下の状況が解決されるまで、SET WRITE RESUME コマンドまたは WRITE RESUME パラメーターを指定した RESTART DATABASE コマンドを発行できません。

1

スナップショット・バックアップが、ターゲット・データベース用に進行中です。

2

データベースは現在 WRITE SUSPEND 状態ではありません。

3

データベースへの書き込み操作を再開しようとしたがエラーが発生しました。

ユーザーの処置: 以下のように、理由コードに応じてこのメッセージに応答します。

1

1. スナップショットのバックアップが完了するまで待ってください。
2. SET WRITE RESUME コマンドを再発行してください。

2

失敗したコマンドが SET WRITE RESUME コマンドである場合、書き込み操作はこのデータベースで既に有効になっているため、アクションは不要です。データベースでの書き込み操作を中断するには、SET WRITE SUSPEND コマンドを発行してください。

失敗したコマンドが WRITE RESUME パラメーターを指定した RESTART DATABASE コマンドである場合、WRITE RESUME パラメーターを指定せずに RESTART DATABASE コマンドを発行してください。これも失敗し、データ

ベースが WRITE SUSPEND 状態ではない場合、次のようにします。

1. すべての SET WRITE SUSPEND 操作が完了するまで待ってください。
2. WRITE RESUME パラメーターを指定して RESTART DATABASE コマンドを再発行してください。

3

1. DB2 診断ログ・ファイルを検討して、失敗の原因を調査してください。
2. 問題を訂正します。
3. SET WRITE RESUME コマンドを再発行してください。

SQL1552N データベースへの書き込み操作が中断されているか、または中断処理中のため、コマンドが失敗しました。

説明: db2SetWriteForDB API を使用するか、SUSPEND 節を指定した SET WRITE コマンドを使用して、データベースの書き込み操作を中断することができます。データベースへの書き込み操作が中断されているとき、またはデータベース・マネージャーがデータベースへの書き込み操作の中断処理を行っている間は、以下のようにそのデータベースで実行できない操作があります。

- データベースのバックアップ
- データベースのリストア
- データベースの再始動
- データベースへの接続またはデータベースのアクティブ化
- データベース構成ファイルの更新またはリセット

WRITE SUSPEND 状態にあるデータベース、または書き込み操作中断処理中のデータベースに対してこれらの操作を実行しようとする、このメッセージが返されません。

ユーザーの処置: まず、データベースの書き込み操作が中断処理中である場合、suspend_io 構成パラメーターを使用してデータベースの状態をモニターし、SET WRITE SUSPEND 操作が完了するまで待機してから操作を続行します。

次に、メッセージが返されるシナリオに応じて、このエラーに対応します。

データベースのバックアップまたはリストア:

1. SET WRITE RESUME FOR DATABASE コマンドを発行して、データベースの書き込み操作を再開します。

- バックアップ操作またはリストア操作を再び実行します。

WRITE RESUME 節を指定しないで行うデータベースの再始動:

次のいずれかのアクションを実行して、再始動を再び実行します。

- WRITE RESUME 節を指定して RESTART DATABASE コマンドを発行します。
- DB2_RESUME_WRITE オプションを指定して db2DatabaseRestart API を呼び出します。

複数データベース・パーティション環境では、各データベース・パーティションで再始動コマンドまたは API 呼び出しを再発行します。

DB2 pureCluster 環境での WRITE RESUME 節を使用したデータベースの再始動:

- 自動再始動データベース構成パラメーターの設定が ON で自動再始動が有効になっている場合、数秒待機し、WRITE RESUME 節または DB2_RESUME_WRITE オプションを指定して、再始動を再びサブミットします。
- 自動再始動データベース構成パラメーターの設定が OFF で自動再始動が無効になっている場合、以下の 2 つのステップを実行します。
 - WRITE RESUME 節または DB2_RESUME_WRITE オプションを指定せずにデータベースを再始動します。
 - WRITE RESUME 節または DB2_RESUME_WRITE オプションを指定してデータベースを再始動します。

その他のシナリオ (データベースへの接続、データベースのアクティブ化、またはデータベース構成ファイルの更新など):

次のいずれかのアクションを実行して、データベースを再始動します。

- WRITE RESUME 節を指定して RESTART コマンドを発行します。
- DB2_RESUME_WRITE オプションを指定して db2DatabaseRestart API を呼び出します。

DB2 pureCluster 環境では、いずれか 1 つのメンバーでこのコマンドまたは API を発行すると、中断しているすべてのメンバーで書き込み操作が再開されます。

SQL1553N 1 つ以上のデータベースが WRITE SUSPEND 状態のため、DB2 を停止できません。

説明: 書き込み操作が中断されているデータベースはシャットダウンできません。データベースは現在 WRITE SUSPEND 状態です。

ユーザーの処置: SET WRITE RESUME コマンドを発行して、データベースの書き込み操作を再開し、次に db2stop コマンドを再発行してください。

sqlcode: -1553

SQL1554N LIST TABLESPACES および LIST TABLESPACE CONTAINERS コマンドは推奨されておらず、DB2 pureCluster 環境ではサポートされていないため、このコマンドは失敗しました。

説明: 表スペースおよび表スペース・コンテナに関する情報を表示するコマンドおよび API は推奨されなくなっており、DB2 pureCluster 環境ではサポートされておらず、将来のリリースでは削除される可能性があります。LIST TABLESPACES および LIST TABLESPACE CONTAINERS コマンドは、今後新しい機能が追加されて更新されることはありません。

ユーザーの処置: 推奨されないコマンドまたは API を使用する既存のスクリプトを、MON_GET_TABLESPACE または MON_GET_CONTAINER 表関数を呼び出すように変更します。これらの表関数は、推奨されなくなったコマンドおよび API よりも詳細な情報を返します。

sqlcode: -1554

sqlstate: 5U001

SQL1560N 表 *table-name* の統計プロファイルが存在しません。

説明: 使用する前に、統計プロファイルを定義する必要があります。

ユーザーの処置: RUNSTATS コマンドの SET PROFILE オプションを使ってこの表の統計プロファイルを登録してから、この操作を再発行してください。

SQL1561N 統計オプションが、データベース・サーバーのレベルと非互換です。

説明: 指定された 1 つ以上のオプションが、データベース・サーバーのレベルと非互換です。このデータベース・サーバーのバージョンは、db2runstats API で使用可能な統計オプションのすべてをサポートしていません。

SQL1562N • SQL1566N

ユーザーの処置: sqlustat API を使って統計を収集するか、db2runstats API を使い、sqlustat API で使用可能なオプションだけを指定してください。

SQL1562N 統計ノード・オプションは、表 *table-name* の既存の統計と非互換です。

説明: 統計ノード・オプションが、この表の既存の表または索引統計、あるいはその両方と異なっています。

ユーザーの処置: 一貫したノード・オプションを使って、表の統計を収集してください。

SQL1563N SYSINSTALLOBJECTS プロシージャが Explain 表のマイグレーションに失敗しました。

説明: SYSINSTALLOBJECTS プロシージャを使用して Explain 表をマイグレーションできるのは、Explain 表が DB2 バージョン 9.5 以上で作成されている場合に限られます。

ユーザーの処置: db2exmig コマンドを使用して Explain 表をマイグレーションしてください。

sqlcode: -1563

sqlstate: 5U048

SQL1564N 指定された操作はサポートされていないため、リストアまたはロールフォワード操作は正常に完了しませんでした。

説明: 以下の操作はサポートされていません。

- DB2 pureCluster 環境での、トポロジーの異なる (メンバー数が異なるか、メンバー番号が異なる) システムへのバックアップ・イメージのリストア
- DB2 pureCluster 環境での、トポロジーの変更を超えたロールフォワード・リカバリー
- DB2 pureCluster 環境でない環境から取られたバックアップ・イメージの DB2 pureCluster 環境へのリストア
- DB2 pureCluster 環境から取られたバックアップ・イメージの DB2 pureCluster 環境ではない環境へのリストア

ユーザーの処置: エラーがリストア操作中のトポロジーの不一致に関するものである場合、以下に示すアクションのいずれかを実行します。

- ターゲット・システムと同じトポロジーで生成された、異なるバックアップ・イメージからリストアします。
- ターゲット・システムのトポロジーを更新してから、リストア操作を試行します。

それ以外の場合は、互換性のある環境 (DB2 pureCluster 環境または DB2 pureCluster 環境でない環境) のバックアップ・イメージをリストアします。

ロールフォワード操作の際にこのエラー状態を回避するには、最新のトポロジーの変更後に取られたバックアップ・イメージをリストアします。

SQL1565N データベース・マネージャー構成ファイル内の CF 診断ディレクトリー・パス (**cf_diagpath**) の入力が無効です。

説明: データベース・マネージャー構成ファイル内のクラスター・キャッシング・ファシリティー (CF) の診断ディレクトリー・パス用の項目は cf_diagpath です。

このメッセージは、無効なパスを指定して dbm 構成パラメーター cf_diagpath を更新しようとするときに返されます。UPDATE DATABASE MANAGER CONFIGURATION コマンドで cf_diagpath に無効な値が指定されています。例えば、存在しないパスが指定されている場合、またはデータベース・マネージャーが書き込み権限を持たないパスが指定されている場合、このメッセージが戻される可能性があります。

ユーザーの処置: cf_diagpath に有効な値を指定してコマンドを再実行してください。これが、有効な完全修飾パスであることを確認してください。

sqlcode: -1565

sqlstate: 5U054

SQL1566N cf_diaglevel 構成パラメーターに指定された値が無効であるため、UPDATE DATABASE MANAGER CONFIGURATION コマンドが失敗しました。

説明: データベース・マネージャーの構成パラメーター cf_diaglevel を使用して、cfdiag.log ファイルに記録される診断エラーのレベルを指定できます。

UPDATE DATABASE MANAGER CONFIGURATION コマンドで cf_diaglevel に無効な値が指定された場合に、このメッセージが返されます。

ユーザーの処置: cf_diaglevel に有効な値を指定してコマンドを再実行してください。

sqlcode: -1566

sqlstate: 5U054

SQL1567N この環境では、単一のデータベース・パーティションに排他的な接続はできません。

説明: DB2 pureCluster 環境では、排他モードでの単一データベース・パーティションへの接続はサポートされていません。

ユーザーの処置: CONNECT ステートメントに ON SINGLE DBPARTITIONNUM 節を指定しないでください。

SQL1568N データベース・マネージャー構成ファイルにアクセスできません。

説明: データベース・マネージャー構成ファイルにアクセスしようとしてエラーが発生しました。このファイルはインスタンスの作成時に作成され、すべての DB2 処理に重要です。データベース・マネージャー構成ファイルにアクセスできないということは、インスタンスのセットアップが完了していないか、インスタンスに損傷がある可能性があります。

このメッセージは、データベース・マネージャー構成ファイルが存在するファイル・システムが使用できないときにも返される場合があります。例えば、共有ファイル・システムが IBM General Parallel File System (GPFS) である場合、GPFS クラスタがオフラインのときにこのメッセージが返される可能性があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 以下のトラブルシューティング・ステップを実行して、このメッセージに対応します。

- データベース・マネージャー構成ファイルが存在する共有ファイル・システムがマウントされていることを確認します。
- 共有ファイル・システムのタイプが GPFS である場合、以下のステップを実行してファイル・システム・クラスタが停止していないことを確認します。
 1. 以下のコマンドを使用して共有ファイル・システム・クラスタの状況を確認します。


```
db2cluster -cfs -list -host -state
```
 2. 共有ファイル・システム・クラスタが停止している場合、以下のコマンドを使用してクラスタを再始動します。


```
db2cluster -cfs -start -host <hostname>
```
- DB2 データベース・マネージャー・インスタンスが最近作成されたものである場合、db2icrt コマンドを使用してインスタンスを再作成します。

SQL1569N コマンドまたは API に無効なデータベース・パーティションが指定されているため、操作が失敗しました。

説明: このメッセージがバックアップ操作の結果として返された場合、指定されたデータベース・パーティションは現在データベースに定義されていません。このメッセージがロールフォワードまたはリカバリー操作の結果として返された場合、ON DBPARTITIONNUMS または ON DBPARTITIONNUM 節が指定されており、無効なデータベース・パーティション番号が指定されました。DPF 以外の環境では、指定できるのは、現在のデータベース・パーティションだけです。

ユーザーの処置: バックアップ操作の場合は、既存のデータベース・パーティションを指定してコマンドまたは API を再発行してください。ロールフォワードおよびリカバリー操作の場合は、ON DBPARTITIONNUMS を指定せずに、または現在のデータベース・パーティションだけを指定してコマンドまたは API を再発行してください。

sqlcode: -1569

sqlstate: 428A9

SQL1572N ディスクがいっぱいであるため、データベース・ロールフォワードまたはグループ・クラッシュ・リカバリーが失敗しました。

説明: ログ満杯状態がデータベース・ロールフォワードまたはグループ・クラッシュ・リカバリーの際に発生した場合、必要に応じて追加のログ・ファイルが自動的に割り振られます。しかし、この場合は、ディスク・スペースの不足のために、新しいログ・ファイルを割り振ることができませんでした。リカバリーまたはロールフォワード操作は失敗しました。

ユーザーの処置: グループ・クラッシュ・リカバリーまたはデータベース・ロールフォワードにさらに多くのディスク・スペースを使用できるようにして、コマンドを再発行してください。

または、以下のように異なるメンバーで再発行すると、操作が成功する場合があります。

- 失敗した操作がグループ・クラッシュ・リカバリーだった場合、DB2 クラスタ・サービスは異なるメンバーでグループ・クラッシュ・リカバリーを自動的に再発行します。DB2 pureCluster インスタンスで自動クラッシュ・リカバリーが有効になっていない場合、別のメンバーでグループ・クラッシュ・リカバリー操作を手動で再発行する必要があります。
- 失敗した操作がデータベース・ロールフォワードだった場合、ロールフォワード操作を別のメンバーで手動で再始動する必要があります。

SQL1573N

SQL1573N 現在のインスタンス環境では、データベースをアクティブ化したり、データベースに接続したりできません。

説明: このメッセージは、次の場合に返されます。

- DB2 pureCluster 環境との適合性を検証されていないデータベースに対してアクティブ化または接続を試行しているユーザーが、DB2 pureCluster 環境を使用している。
- DB2 pureCluster 環境との適合性が検証されたデータベースに対してアクティブ化または接続を試行しているユーザーが、DB2 pureCluster 環境を使用していない。

これら 2 つのアクションは、サポートされていません。

ユーザーの処置: DB2 pureCluster 環境を使用している場合は、db2checkSD ユーティリティを使用し、その環境でデータベースを使用できるかどうか確認してください。db2checkSD ユーティリティがエラーを報告しない場合、再びデータベースをアクティブ化するか、データベースに接続してください。

sqlcode: -1573

sqlstate: 55001

SQL1575N この DB2 pureCluster 環境でのデータベース *dbname* で DB2 メンバーを追加またはドロップしようとする直前の試行は失敗しました。

説明: この DB2 pureCluster 環境で DB2 メンバーの追加またはドロップ (トポロジーの変更) を行うと、データベース *dbname* がリカバリー不能な状態になります。

ユーザーの処置: データベース *dbname* をバックアップまたはドロップしてから、DB2 メンバーの追加またはドロップ操作を繰り返してください。

SQL1576N クラスタ・マネージャー・エラーのために、データベースの削除が失敗しました。

説明: drop コマンドの正常な処理を妨げるクラスタ・マネージャー・エラーが発生しました。

データベースに関連付けられているすべてのデータ・ファイルが削除されました。しかし、データベースのロケーション情報は削除されなかった可能性があります。

ユーザーの処置: 以下のステップを実行して、クラスタ・マネージャーが削除できなかったデータベース・リソースをクリーンアップしてください。

1. 可能な限り以下の診断情報を収集します。

- SQLCA からのエラー情報
 - db2diag ログ・ファイル内の関連したエラー
2. db2diag ログ・ファイルのクラスタ・マネージャー戻りコードに基づいて必要な修正アクションを実行します。
 3. 関連するマウント・リソースを手動で除去または削除します。
 4. UNCATALOG DATABASE コマンドを使用してシステム・データベース・ディレクトリーからデータベースのロケーション情報を削除します。

この手順を使用してデータベース・リソースを正常に削除できない場合、IBM サポートに連絡して以下の情報を提供してください。

- 問題の説明
- SQLCODE
- SQLCA の内容 (可能な場合)
- db2support コマンドを使用して収集されたクライアントおよびサーバーに関する環境データ

sqlcode: -1576

sqlstate: 5U056

SQL1577N STANDALONE パラメーターが指定されたため、および現在の環境が DB2 pureCluster 環境であるため、START コマンドが失敗しました。

説明: DB2 pureCluster 環境では、START コマンドに STANDALONE パラメーターはサポートされていません。

ユーザーの処置: STANDALONE パラメーターを指定せずにコマンドを再度呼び出してください。

SQL1578N RESTART パラメーターが指定されたため、および現在の環境が DB2 pureCluster 環境であるため、START コマンドが失敗しました。

説明: DB2 pureCluster 環境では、START コマンドに RESTART パラメーターはサポートされていません。

ユーザーの処置: RESTART パラメーターを指定せずにコマンドを再度呼び出してください。

SQL1579N データベース・パーティション *dbpartitionnum* 上のデータベース *dbname* の複数のログ・ストリームが異なるログ・チェーンに続いています。ログ・ストリーム *stream1* 上のログ・ファイル *file1* はログ・チェーン *chain1* に続き、ログ・ストリーム *stream2* 上のログ・ファイル *file2* はログ・チェーン *chain2* に続きます。

説明: ポイント・イン・タイムまでのデータベース・ロールフォワード操作が完了したか、ロールフォワードのないデータベース・リストア操作が行われると、ログ・チェーンと呼ばれるデータベースの新しい履歴が作成されます。データベース・マネージャーはログ・チェーン番号をログ・エクステントと他のデータベース・オブジェクトに割り当てることにより、オブジェクトのセットが同じデータベース履歴に属していることを検査できるようにします。データベース・マネージャーは、複数のログ・ストリームが異なるログ・チェーンに続いていることを検出し、現在の操作を停止しました。

ユーザーの処置: このメッセージで識別されるログ・ストリームを確認して、正しいログ・チェーンに従っているログ・ストリームを判別します。無効なログ・ストリームからオーバーフロー・ログ・パスに必要なログ・ファイルを取り出して、操作を再試行します。

SQL1580W コード・ページ *source-code-page* からコード・ページ *target-code-page* への変換中に、末尾ブランクが切り捨てられました。ターゲット域の最大サイズは、*max-len* でした。ソース・ストリングの長さは *source-len* で、その 16 進数表記は *string* でした。

説明: SQL ステートメントの実行中に、コード・ページ変換処理の結果が、ターゲット・オブジェクトの最大サイズより大きなストリングになりました。ブランク文字だけが切り捨てられたために、処理を続行します。

ユーザーの処置: 出力が予期されていること、および切り捨てが予期しない結果の原因とならないことを確認してください。

sqlcode: +1580

sqlstate: 01004

SQL1581N 表 *table-name* は付加モードの状態ではクラスタリング索引をもつことができません。

説明: このエラーが発行された状態が 2 つあります。

- クラスタリング索引は表のために存在し、また、ALTER TABLE は付加モードでその表を位置づけるために使用されます。

- 表は付加モードで、CREATE INDEX はクラスタリング索引を作成するために使用されます。

ユーザーの処置: クラスタリング索引が必要な場合は、表を変更して、付加モードをオフにしてください。付加モードが必要な場合、表の既存のクラスタリング索引をドロップしてください。

sqlcode: -1581

sqlstate: 428CA

SQL1582N 表スペース *ibspace-name* の PAGESIZE は、表スペースと関連しているバッファーク・プール *bufferpool-name* の PAGESIZE と一致しません。

説明: CREATE TABLESPACE ステートメントで指定された PAGESIZE 値は、表スペースと共に使用するために指定されたバッファーク・プールのページ・サイズと一致しません。これらの値が一致しなければなりません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: バッファーク・プールのサイズと一致するように PAGESIZE に指定された値を変更するか、またはバッファーク・プールのページ・サイズを一致する値に変更してください。

sqlcode: -1582

sqlstate: 428CB

SQL1583N PAGESIZE 値 *pagesize* はサポートされていません。

説明: 指定された PAGESIZE は、サポートされるページ・サイズではありません。サポートされるページ・サイズは 4096、8192、16384、および 32768 ですが、4 K、8 K、16 K、または 32 K の値も指定可能です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: サポートされているページ・サイズから 1 つを指定してください。

sqlcode: -1583

sqlstate: 428DE

SQL1584N 少なくとも *pagesize* のページ・サイズを持つ SYSTEM TEMPORARY 表スペースが見つかりませんでした。

説明: ステートメントを処理するために、SYSTEM TEMPORARY 表スペースが必要でした。 *pagesize* またはこれより大きいページ・サイズを持つ、使用可能な

SQL1585N • SQL1587N

SYSTEM TEMPORARY 表スペースがありませんでした。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 少なくとも *pagesize* のページ・サイズを持つ SYSTEM TEMPORARY 表スペースを作成してください。

sqlcode: -1584

sqlstate: 57055

SQL1585N ページ・サイズに互換性のある SYSTEM TEMPORARY 表スペースが存在しないため、一時表を作成できませんでした。

説明: TEMPORARY 表スペースには、ソートや結合などの操作を実行する際にデータベース・マネージャーが必要とする一時データが保持されます。そうした活動では、結果セットを処理するための余分のスペースが必要になるためです。ページ・サイズに互換性があり、「正常」状態になっている表スペースをデータベース・マネージャーが検出できないために、データベース・マネージャーによる一時表の作成が失敗すると、このメッセージが返されます。

このメッセージは、次のいずれかの状態になったときに返されることがあります。

- 生成されるシステム一時表の行の長さが、現在「正常」状態になっている SYSTEM TEMPORARY 表スペースに最大ページ・サイズで収容できる長さを上回っています。
- システム一時表に必要な列数が、データベース内で最大の SYSTEM TEMPORARY 表スペースに適用できる制限を超えました。

ユーザーの処置: 以下のトラブルシューティングのステップを実行します。

1. 以下の表を使用して、必要とされる TEMPORARY 表スペースのサイズを求めます。

最大 レコード 長	最大 バイト	最大 列数	TEMPORARY 表 スペースの ページ・サイズ
4005	バイト	500	4K
8101	バイト	1012	8K
16293	バイト	1012	16K
32677	バイト	1012	32K

2. MON_GET_TABLESPACE 表関数を使用して、「正常」状態で、ページ・サイズが十分な大きさの TEMPORARY 表スペースが存在するかどうか判別します。
3. ページ・サイズが十分な大きさの表スペースが存在しない場合は、ページ・サイズを大きくして SYSTEM TEMPORARY 表スペースを作成します。

4. 「正常」状態で、ページ・サイズが十分な大きさの表スペースが既に存在する場合は、以下のステップのいずれかを実行します。

- 1 つ以上の列をシステム一時表から除去してください。
- 要求されたように、分離する表またはビューを作成して、制限を超えた追加情報を保留にしてください。

5. ページ・サイズが十分な大きさでも「正常」状態ではない表スペースが既に存在する場合は、その表スペースを「正常」状態に移行するのに必要な操作を実行します。例えば、表スペースのドロップと再作成が必要になる可能性があります。

sqlcode: -1585

sqlstate: 54048

SQL1586N 照会コンパイラーがステートメント内のテキスト検索関数を正常に解決できなかったため、このステートメントは実行されませんでした。

説明: テキスト検索関数が、照会コンパイラーによって正常に解決されないという状況がまれに生じることがあります。そうした状況の 1 つの例は、OUTER JOIN の NULL プロデューサーから列に対してテキスト検索関数を適用する場合です。

照会コンパイラーがテキスト検索関数を正常に解決できない場合に、このメッセージが返されます。

ステートメントは実行されませんでした。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。指定されたステートメントは実行できません。

SQL1587N コマンドまたはステートメントが実行されたホスト上に現在 CF があるため、コマンドまたはステートメントは失敗しました。コマンドまたはステートメントのタイプ: *command-statement-code*。ホスト名: *host*。

説明: DB2 クラスター・キャッシング・ファシリティー (CF) が置かれているホスト上では実行できない DB2 コマンド (例えば、ATTACH) および SQL ステートメント (例えば、CONNECT) がいくつかあります。このメッセージは、これらのコマンドまたはステートメントが明示的または暗黙的に発行された場合に返されることがあります。

トークン *command-statement-code* は、試行されたコマンドまたは SQL ステートメントのタイプを示します。

1

明示的または暗黙的な CONNECT TO
<database-alias>

2

明示的または暗黙的な ATTACH TO
<instance-alias>

ユーザーの処置: 以下のいずれかの方法で、このメッセージに応答します。

- 以下のステップを実行して、CF が置かれていないホストでコマンドまたはステートメントを再実行してください。
 1. 以下のコマンドを使用して、現在 CF がないホストを検出します。
db2instance -list
 2. 現在 CF がないホストにログインします。
 3. DB2 コマンドまたは SQL ステートメントを再実行します。
- 以下の方法のいずれかを使用して、現在 CF のないホストを指定します。
 - 環境変数 DB2NODE を使用してメンバーを指定してから、DB2 コマンドまたは SQL ステートメントを再実行します。
 - Set Client コマンドの CONNECT_MEMBER または ATTACH_MEMBER オプションを DB2 コマンドまたは SQL ステートメントとともに使用します。

sqlcode: -1587

sqlstate: 560CW

SQL1588N メンバー *member-ID* でのエラー *sqlcode* により、現在のステートメントが処理できません。

説明: メンバー *member-ID* のエラー *sqlcode* の原因である状況が修正されるまで、現在のメンバーはデータ変更ステートメントを処理できません。ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 操作を再試行してください。エラーが続く場合、問題を修正して再試行してください。

sqlcode: -1588

sqlstate: 57063

SQL1589N オペレーティング・システムのリソースの限界に達したため、データベース接続が失敗しました。

説明: このメッセージは、同時に 1024 を超えるローカル・データベース接続があり、その結果、オペレーティング・システムの限界に達した場合に返されることがあります。AIX オペレーティング・システムの場合、単一のプロセスまたはアプリケーションによって確立されたローカル・データベース接続は同時に 1024 を超えて存在することはできません。

このメッセージは、DB2 データベース・マネージャーがオペレーティング・システム呼び出しの実行中に内部エラーを検出した場合にも返されることがあります。

ユーザーの処置: 不要なローカル・データベース接続を終了してください。

ローカル・データベース接続を終了することで問題が解決する場合は、使用する同時ローカル接続を少なくするようにアプリケーションを変更して、このエラーの再発を防いでください。アプリケーションが多数のデータベース接続を必要とする場合、ローカル接続ではなく、TCP/IP を使用したリモート接続 (または、データベース・サーバーとクライアントが同じホスト・マシン上にある場合はループバック接続) を使用してください。

ローカル接続の数を減らしてもこの問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、問題の原因を調べるうえでの支援を受けてください。

sqlcode: -1589

sqlstate: 54067

SQL1590N LONG VARCHAR および LONG VARCHARIC フィールドは、DEVICE 上にビルドされる TABLESPACE では許可されません。

説明: HP 上の装置 (ロー入出力) では、入出力を 1024 バイト境界上に位置合わせする必要があります。LONG VARCHAR および LONG VARCHARIC フィールドは 512 バイトごとにハンドルされるので、これを使用できるのは、SYSTEM MANAGED TABLESPACE または FILE コンテナナーだけの DATABASE MANAGED TABLESPACE だけです。

ユーザーの処置: 代替:

- LONG の代わりに、LOB 列タイプ (BLOB、CLOB、DBCLOB) を選択してください。
- 正しい属性の表スペースを使用してください。

sqlcode: -1590

SQL1592N

sqlstate: 56097

SQL1592N 表 *table-name* は増分処理できないため、**INCREMENTAL** オプションは無効です。理由コード *reason-code*。

説明: 理由コード *reason-code* に基づいて、以下のように原因を識別できます。

32

この表は REFRESH IMMEDIATE マテリアライズ照会表、サポートするステージング表を持つ REFRESH DEFERRED マテリアライズ照会表、または PROPAGATE IMMEDIATE ステージング表のいずれでもない。

33

この表がマテリアライズ照会表またはステージング表である場合、この表に対して LOAD REPLACE または LOAD INSERT が発生した。

34

最後の整合性チェック後に表に LOAD REPLACE が発生した。

35

以下のいずれかです。

- マテリアライズ照会表またはステージング表が新しく作成された。表の作成後、表の整合性を初めてチェックするために完全処理が必要です。
- SET INTEGRITY ペンディング状態中に、表自体またはその親 (または、それがマテリアライズ照会表またはステージング表である場合は、基礎表) に新しい制約が追加された。
- これがマテリアライズ照会表またはステージング表の場合は、最後にリフレッシュが行われた後に、表の基礎表に対して LOAD REPLACE が発生した。
- これがマテリアライズ照会表の場合は、マテリアライズ照会表がリフレッシュされる前に、少なくとも 1 つの基礎表に対して (FULL ACCESS オプションを使って) フル・アクセスが強制された。
- これがステージング表の場合は、ステージング表が伝搬される前に、少なくとも 1 つの基礎表に対して (FULL ACCESS オプションを使って) フル・アクセスが強制された。
- これが据え置きマテリアライズ照会表の場合は、その対応するステージング表が完了していない状態である。

- いくつかの親 (またはマテリアライズ照会表やステージング表の場合は基礎表) で、整合性チェックが非増分で行われた。
- データベース・アップグレード前に、表が SET INTEGRITY ペンディング状態であった。データベース・アップグレード後、初めて表の整合性チェックを行う場合は、完全処理が必要です。
- ポイント・イン・タイム・ロールフォワード操作中、表が SET INTEGRITY ペンディング状態に置かれていた。

ユーザーの処置: INCREMENTAL オプションを指定しないでください。システムは、表全体で制約違反についてチェックします (または、マテリアライズ照会表の場合は、マテリアライズ照会表定義照会を再計算します)。

sqlcode: -1592

sqlstate: 55019

SQL1594W 非増分データの整合性は、データベース・マネージャーによる確認がされないままになっています。

説明: この表のチェックは、以前に行われていません。オプション NOT INCREMENTAL が指定されていない場合、表の増分処理が行われます。以前にチェックされていない表の部分はチェックされないままとなり、CONST_CHECKED 列の対応する値は 'U' とマークされたままとなります。

ユーザーの処置: アクションは不要です。以前にチェックされていないデータの整合性を検証し、システムに表のデータの整合性を維持させるためには、SET INTEGRITY ステートメントに OFF オプションを指定して発行することでその表を SET INTEGRITY ペンディング状態に置き、次に IMMEDIATE CHECKED および NOT INCREMENTAL オプションを指定して SET INTEGRITY ステートメントを再実行してください。

sqlcode: +1594

sqlstate: 01636

SQL1596N *table-name* に、**WITH EMPTY TABLE** を指定することはできません。

説明: WITH EMPTY TABLE 節は、表 *table-name* には指定できません。この理由は、表が以下のいずれかの条件に該当するためです。

- マテリアライズ照会表またはステージング表である。
- 従属リフレッシュ即時マテリアライズ照会表または従属伝搬即時ステージング表を持っている。

- 参照制約における親である。
- 制約違反のチェックが済んでいないデータ・パーティションがアタッチされている。
- 以前にこの表に対し、DETACH PARTITION 節が指定された ALTER TABLE ステートメントが実行されたが、その非同期のデタッチ操作が完了していない。この表の中に、まだ論理的にデタッチされた状態 (SYSCAT.DATAPARTITIONS.STATUS = 'L') であるデータ・パーティションがある。

そのような表を ACTIVATE NOT LOGGED INITIALLY に変更する場合、WITH EMPTY TABLE 節を指定することはできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 論理的にデタッチされたパーティションが表に含まれていない場合は、WITH EMPTY TABLE 節なしの ALTER TABLE ステートメントを発行します。

論理的にデタッチされたパーティションが表に含まれている場合は、次の手順を実行します。

1. 非同期のパーティション・デタッチ・タスクが完了するのを待ちます。

デタッチ・タスクの進行状況は、次の方法でモニターできます。

- LIST UTILITIES コマンドを使用してデタッチ・タスクの進行状況をモニターし、ソース表 *table-name* が含まれる記述を探します。
- SYSCAT.DATAPARTITIONS カタログ・ビューを使用して、論理的にデタッチされた状態のデータ・パーティションがないことを確認します。まだ論理的にデタッチされた状態にあるデータ・パーティションは、STATUS 列に L があります。

2. ALTER TABLE ステートメントを再度実行します。

sqlcode: -1596

sqlstate: 42928

SQL1597N 指定された DB2 構成パラメーターは廃止されているため、DB2 環境の構成に失敗しました。

説明: LOGRETAIN および USEREXIT データベース構成パラメーターは廃止されています。

ログ保存、およびファイルのアーカイブと取得のためのユーザー出口プログラムの使用は引き続きサポートされています。データベースがログ保存とユーザー出口プログラムを使用するように構成するには、

LOGARCHMETH1 データベース構成パラメーターを使用する必要があります。

ユーザーの処置: ログ保存を有効にするには、LOGARCHMETH1 データベース構成パラメーターを LOGRETAIN に設定します。

ログ保存を有効にし、ログ・ファイルのアーカイブおよび取得にユーザー出口プログラムを使用することを指定するには、LOGARCHMETH1 データベース構成パラメーターを USEREXIT に設定します。

SQL1598N ライセンスの問題のため、データベース・サーバーへの接続が失敗しました。

説明: このメッセージは以下の状況で返されることがあります。

IBM DB2 Connect Unlimited Edition for System z を使用してデータベース・サーバーに直接接続している

IBM DB2 Connect Unlimited Edition for System z を使用してデータベース・サーバーに直接接続する場合、有効なライセンスが DB2 for z/OS サブシステム上でアクティブにされていない場合にこのメッセージが返されます。

IBM DB2 Connect Unlimited Edition for System z 以外のエディションの IBM DB2 Connect を使用してデータベース・サーバーに直接接続している

IBM DB2 Connect Unlimited Edition for System z 以外のエディションを使用してデータベース・サーバーに直接接続する場合、有効なライセンスがクライアント・コンピューター上に存在しない場合にこのメッセージが返されます。

DB2 Connect ゲートウェイ・サーバーを介してデータベース・サーバーに接続している

DB2 Connect ゲートウェイ・サーバーを介してデータベース・サーバーに接続する場合、有効なライセンスが DB2 Connect ゲートウェイ・サーバー上に存在しない場合にこのメッセージが返されます。

ユーザーの処置: 以下のように、状況に当てはまるシナリオに応じてこのメッセージに回答してください。

IBM DB2 Connect Unlimited Edition for System z を使用してデータベース・サーバーに直接接続している

IBM DB2 Connect Unlimited Edition for System z を使用してデータベース・サーバーに直接接続する場合、アクティベーション・キット内のアクティベーション・プログラムを実行して、ライセンスをアクティブにしてください。

IBM DB2 Connect Unlimited Edition for System z 以外のエディションの IBM DB2 Connect を使用してデータベース・サーバーに直接接続している

IBM DB2 Connect Unlimited Edition for System z 以外のエディションを使用してデータベース・サーバーに直接接続する場合、DB2 Connect 製品および有効なライセンス・キーがご使用のクライアント・コンピューターにインストールされていることを確認してください。

DB2 Connect ゲートウェイ・サーバーを介してデータベース・サーバーに接続している

DB2 Connect ゲートウェイ・サーバーを介してデータベース・サーバーに接続する場合、有効なライセンス・キーがゲートウェイ・サーバーにインストールされていることを確認してください。

sqlcode: -1598

sqlstate: 42968

SQL1599N 環境が SAP 用に構成されているため、パブリック別名の作成に失敗しました。

説明: DB2_WORKLOAD という名前のシステム環境変数の値を SAP に設定することによって、DB2 環境を SAP 用に構成することができます。

ローカル・スキーマ外のオブジェクトは、パブリック別名 (パブリック・シノニムとも呼ばれる) を使用することによって参照できます。パブリック別名は CREATE PUBLIC ALIAS ステートメントを使用して作成できません。

SAP 用に構成された DB2 環境では、パブリック別名はサポートされません。システム環境変数

DB2_WORKLOAD の値が SAP に設定されている場合に、パブリック別名を作成しようとすると、このメッセージが返されます。

パブリック別名を作成しなくてもローカル・スキーマ外のオブジェクトを参照できる方法はいくつかあります。例えば、完全修飾名を使用する、またはローカル別名を作成するという方法があります。以下の例では、ローカル・スキーマの名前は schemaA で、tableX という表が別の schemaB というスキーマにあります。

例 1: 完全修飾名の使用

完全修飾名を使用して次のように tableX を参照できます。

```
select * from schemaB.tableX
```

例 2: ローカル別名の作成

最初にローカル別名を作成することによって次のように tableX を参照できます。

```
create alias AX for table schemaB.tableX
select * from AX
```

ユーザーの処置: パブリック別名を作成する代わりに、完全修飾名を使用するかローカル別名を作成することによって、ローカル・スキーマ外のデータベース・オブジェクトを参照してください。

sqlcode: -1599

sqlstate: 42612

SQL1600N デフォルトのストレージ・グループであるため、ストレージ・グループ *storage-group* をドロップできません。

説明: *storage-group-name* は現行のデフォルト・ストレージ・グループであるため、DROP STOGROUP を処理できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 現行のデフォルト・ストレージ・グループをドロップする前に、ALTER STOGROUP ステートメントを使用して新規デフォルト・ストレージ・グループを指定します。

sqlcode: -1600

sqlstate: 42893

SQL1601N データベース・システム・モニターの入力パラメーター *parameter* が NULL ポインターです。

説明: データベース・システム・モニター API の 1 つが呼び出されましたが、必要なパラメーターではなく、NULL ポインターが指定されています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なパラメーターの値を使用して、コマンドを再発行してください。

SQL1602N 入力データ構造 (*sqlma*) に指定されたオブジェクト・タイプはサポートされていません。

説明: データベース・システム・モニターの Snapshot API の入力データ構造 (*sqlma*) の可変データ域に指定されたオブジェクト・タイプは、サポートされていません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なオブジェクト・タイプを使用して、コマンドを再発行してください。

SQL1603N パラメーター *parameter* が、入力データ構造 (*sqlma*) に指定されていません。

説明: データベース・システム・モニターの Snapshot または Estimate Buffer Size API の入力データ構造 (*sqlma*) に、必須パラメーターが指定されていません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なパラメーターの値を使用して、コマンドを再発行してください。

SQL1604N パラメーター *parameter* が NULL で終わっていません。

説明: 文字ストリング・パラメーターの終わりには、NULL 文字が必要です。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 文字ストリング・パラメーターの終わりに NULL 文字を追加して、コマンドを再発行してください。

SQL1605W データベース *db-alias* がアクティブではありません。

説明: データベース・システム・モニターの Reset API が、特定のデータベースのために呼び出されましたが、データベースがアクティブではありませんでした。

コマンドは正常に終了しましたが、何の動作も行われていません。

ユーザーの処置: データベースの別名が正しく、データベースがすでに始動していることを確認してください。

SQL1606W データベース・システム・モニターの出力バッファがいっぱいです。

説明: データベース・システム・モニターの出力バッファ領域には、戻ってきたデータを収容できる十分な大きさがありません。可能性の大きい原因は、呼び出しが行われたときのシステム活動が多すぎることとあり、またユーザー・アプリケーションからデータベース・モニター API 呼び出しが行われた場合は、ユーザーが割り振ったバッファが戻りデータを含むのに小さすぎることとあります。

コマンドは正常に終了し、バッファがオーバーフローする前に集められたデータは、ユーザーのバッファに戻されています。

ユーザーの処置: コマンドを再発行するか、あるいはユーザー・アプリケーションからデータベース・モニター API を呼び出す場合は、もっと大きなバッファを割り振るか、または要求する情報量を減らしてください。

SQL1607N 要求されたデータベース・モニター関数の実行に十分な、作業メモリーがありません。

説明: データベース・マネージャーが、データベース・システム・モニター・コマンドを実行するには作業メモリーが足りません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 入力パラメーターのバッファ・サイズを減らして、コマンドを再発行してください。

SQL1608W 入力として指定された複数のデータベース別名が同一のデータベースを参照していません。

説明: データベース・システム・モニターの Snapshot または Estimate Buffer Size API 呼び出しが、*sqlma* 入力データ構造で、複数のデータベース別名に対する要求を指定して発行され、同じデータベースを指していました。

データベース・システム・モニターは正常に実行されましたが、出力バッファには情報のコピーが 1 つしか返されません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。ただし、異なるデータベースの情報を要求する場合は、入力に指定したデータベース別名が正しいことを確認する必要があります。

SQL1609N データベース別名 *db-alias* はリモート・データベースであり、モニターできません。

説明: データベース・システム・モニター API 呼び出しが、リモート・データベースのデータベース別名を指定して発行されました。データベース・システム・モニターは、リモート・データベースのモニターをサポートしていません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 入力に指定したデータベース別名が正しいことを確認し、正しいデータベース別名を使用して、コマンドを発行する必要があります。

SQL1610N データベース・システム・モニターの入力パラメーター *parameter* が無効です。

説明: データベース・システム・モニター API の 1 つが呼び出されましたが、示されたパラメーターに無効な値が指定されました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なパラメーターの値を使用して、

コマンドを再発行してください。

SQL1611W データベース・システム・モニターからデータが戻されませんでした。

説明: データベース・システム・モニター API 呼び出しが発行された時点で、ユーザーが要求したモニター情報は利用できませんでした。これは、要求したデータベースまたはアプリケーションがアクティブでなかった場合、あるいは表グループなどのモニター・グループが OFF のときに、表情報が要求された場合に発生します。

ユーザーの処置: コマンドは正常に終了しましたが、ユーザーには何もデータが返されません。

モニターしようとしているデータベースまたはアプリケーションが、データベース・システム・モニター API を呼び出す時点でアクティブであること、または必要なモニター・グループがアクティブであることを確認する必要があります。

SQL1612N 指定されたイベント・モニターのターゲット・パスが無効です。

説明: CREATE EVENT MONITOR ステートメントに指定されたターゲット・パスが、有効なパス名ではありません。コマンドは処理されませんでした。

ユーザーの処置: 正しいイベント・モニターのターゲット・パスを使用して、ステートメントの再サブミットを行なってください。

sqlcode: -1612

sqlstate: 428A3

SQL1613N 指定されたイベント・モニター・オプションが無効です。

説明: CREATE EVENT MONITOR ステートメントに指定されたオプションが無効です。可能性のある理由は、以下のとおりです。

- 指定された MAXFILES、MAXFILESIZE、または BUFFERSIZE が小さすぎます。
- MAXFILESIZE が BUFFERSIZE より小さくなっています。
- MAXFILESIZE NONE が、MAXFILES が 1 以外の場合に指定されました。

コマンドは処理されませんでした。

ユーザーの処置: 正しいイベント・モニター・オプションを使用して、ステートメントの再サブミットを行なってください。

sqlcode: -1613

sqlstate: 428A4

SQL1614N イベント・モニターのアクティブ化中に入出力エラーが発生しました。理由コード = *reason-code*。

説明: イベント・モニターのアクティブ化中に入出力エラーが発生しました。原因は次のように <reason-code> に基づいています。

- 1 不明なイベント・モニターのターゲット・タイプを見つけました。
- 2 イベント・モニターのターゲット・パスが見つかりませんでした。
- 3 イベント・モニターのターゲット・パスへのアクセスが拒否されました。
- 4 イベント・モニターのターゲット・パスがパイプの名前ではありません。
- 5 読み取りのために、イベント・モニターのターゲット・パイプをオープンしている処理がありません。
- 6 予期しない入出力エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 可能であれば、理由コードで示されている問題を修正して、SET EVENT MONITOR ステートメントの再サブミットを行なってください。

sqlcode: -1614

sqlstate: 58030

SQL1615W 指定されたイベント・モニターまたは使用量リストは、すでに要求された状態にあります。

説明: すでにアクティブなイベント・モニターまたは使用量リストをアクティブ化しようとしたか、またはすでに非アクティブなイベント・モニターまたは使用量リストを非アクティブ化しようとしたか、SET EVENT MONITOR または SET USAGE LIST ステートメントは無視されました。

パーティション・データベース環境または DB2 pureCluster 環境で、1 つ以上のメンバーの使用量リストは既に要求された状態にありました。ステートメントの発行時に要求された状態ではなかった使用量リストはすべて、要求された状態に変更されました。

ステートメントがパーティション表または索引の使用量リストに対して発行された場合は、1 つ以上のデータ・パーティションの使用量リストはすでに要求された状態にありました。ステートメントの発行時に要求された状態ではなかった使用量リストはすべて、要求された状態に変更されました。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

sqlcode: +1615

sqlstate: 01598

SQL1616N アクティブ・イベント・モニターの最大数の制限にすでに達しています。

説明: 各データベース・パーティションごとに、最大で 128 個のイベント・モニターを同時にアクティブにすることができます。

複数パーティション・データベース環境では、各データベースごとに最大で 32 個のグローバル・イベント・モニターを同時にアクティブにすることができます。

このいずれかの制限に既に達しています。指定されたイベント・モニターをアクティブ化できません。

ユーザーの処置: 可能であれば、アクティブ・イベント・モニターの 1 つを非アクティブ化して、SET EVENT MONITOR ステートメントを再サブミットしてください。アクティブなすべてのイベント・モニターを表示し、それらがグローバルかどうかを判別するには、以下の照会を使用します:

```
SELECT EVMONNAME, MONSCOPE FROM
SYSCAT.EVENTMONITORS WHERE
EVENT_MON_STATE(EVMONNAME) = 1
```

sqlcode: -1616

sqlstate: 54030

SQL1617N 指定されたイベント・モニターは、すでに MAXFILES と MAXFILESIZE 制限に達しています。

説明: 指定されたイベント・モニターは、イベント・モニターのターゲット・ディレクトリーに許されるデータ容量の制限を使用して作成されています。この制限にすでに達しています。指定されたイベント・モニターはアクティブ化できません。

ユーザーの処置: 可能であれば、いくつかのイベント・モニター・データ・ファイルをターゲット・ディレクトリーから削除して、SET EVENT MONITOR ステートメントの再サブミットを行なってください。

sqlcode: -1617

sqlstate: 54031

SQL1618N 指定されたイベント・モニターのターゲット・パスは、他のイベント・モニターにより使用中です。

説明: 指定されたイベント・モニターが、他のイベン

ト・モニターと同じターゲット・パスを使用して、作成されています。この別のイベント・モニターは少なくとも 1 回はアクティブ化され、ターゲット・パスに .evt または .ctl ファイル、あるいはその両方を残しています。これらのファイルは、入っている通知を読み取っているアプリケーションによって使用中である可能性があります。

ユーザーの処置: ほかのイベント・モニターが現在アクティブ中の場合は、非アクティブ化にしてください。アプリケーションが、ターゲット・パスで作成されたファイルを使用していないことを確認してから、ファイルを除去して、次に、SET EVENT MONITOR ステートメントの再サブミットを行ってください。

または、異なるターゲット・パスを指定して必要なイベント・モニターを作成し、SET EVENT MONITOR ステートメントの再サブミットを行なってください。

sqlcode: -1618

sqlstate: 51026

SQL1619N アクティブ・イベント・モニターは DROP できません。

説明: 指定されたイベント・モニターは現在アクティブなため、ドロップすることができません。

ユーザーの処置: イベント・モニターを非アクティブ化して、DROP EVENT MONITOR ステートメントの再サブミットを行ってください。

sqlcode: -1619

sqlstate: 55034

SQL1620N イベント・モニターをフラッシュできません。理由コード rc。

説明: イベント・モニターをフラッシュできませんでした。考えられる理由が、以下の理由コードで示されます。

1. イベント・モニターがアクティブでない。
2. イベント・モニターはバージョン 6 よりも前の出力で実行されていて、フラッシュが使用できない。
3. フラッシュは一部のデータベース・パーティションで成功したが、少なくとも 1 つのデータベース・パーティションで失敗した。

ユーザーの処置: 理由コードに応じたアクションが、以下のように示されます。

1. イベント・モニターがアクティブであることを確認し、必要であれば SET EVENT MONITOR *evmonname* STATE 1 ステートメントを発行して、イベント・モニターをアクティブ化してください。

- イベント・モニターがバージョン 6 よりも前の出力で実行されている場合は、フラッシュを試みないでください。
- フラッシュが少なくとも 1 つのデータベース・パーティションで失敗した場合、問題が起きているパーティションと、フラッシュしているイベント・モニターを示す、ルーチン `sqlm_bds_flush_monitor` または `sqlm_bds_flush_monitor_hdl` からのすべてのプロンプトについて `db2diag` ログ・ファイルを調べます。それから必要なすべての修正アクションを取り (例えば、そのパーティションに表書き込みイベント・モニターのために十分なモニター・ヒープがあることを確認し、そのパーティションの表スペースに十分なスペースがあるようにします)、さらに以下のステートメントを発行して、イベント・モニターを非アクティブ化してから再アクティブ化します。

```
SET EVENT MONITOR evmonname STATE 0
```

```
SET EVENT MONITOR evmonname STATE 1
```

sqlcode: -1620

sqlstate: 55034

SQL1621N 指定されたイベント・モニターまたは使用量リストが作成されたトランザクションは、まだコミットされていません。 イベント・モニターまたは使用量リストはアクティブ化できません。

説明: イベント・モニターまたは使用量リストが作成されたトランザクションがコミットされるまで、そのイベント・モニターまたは使用量リストはアクティブ化できません。

ユーザーの処置: イベント・モニターまたは使用量リストを作成したトランザクションをコミットして、SET EVENT MONITOR または SET USAGE LIST ステートメントの再発行を行ってください。

sqlcode: -1621

sqlstate: 55033

SQL1622N SET EVENT MONITOR STATE ステートメントまたは SET USAGE LIST STATE ステートメントに指定された STATE 値が無効です。

説明: SET EVENT MONITOR STATE または SET USAGE LIST STATE ステートメントに指定された STATE 値が、有効な値の範囲外か、または値が、標識変数の結果として NULL になっています。

イベント・モニター状態の有効な値は、以下のとおりです。

0

イベント・モニターを非アクティブ化します。

1

イベント・モニターをアクティブ化します。

使用量リスト状態の有効な値は、以下のとおりです。

ACTIVE

使用量リストをアクティブ化します

INACTIVE

使用量リストを非アクティブ化します

RELEASED

使用量リストに関連付けられているメモリーを解放します

ステートメントは実行できません。

ユーザーの処置: イベント・モニター状態または使用量リスト状態の値および/または標識変数を訂正して、ステートメントを再実行してください。

sqlcode: -1622

sqlstate: 42815

SQL1623N `sqlma` 入力構造に指定されたオブジェクトが多すぎる `sqlmonsz` または `sqlmonss API` が呼び出されました。

説明: `sqlma` 入力構造に許されているオブジェクト数の制限を超えました。

ユーザーの処置: `sqlma` パラメーターのオブジェクト数を減らして、もう一度呼び出しを行ってください。

SQL1624N `sqlmonsz` または `sqlmonss API` が参照するすべてのデータベースは、同じノードに位置している必要があります。

説明: `sqlma` パラメーターに、別のノードに存在するデータベースに対する参照が入っていました。

ユーザーの処置: すべてのデータベース・オブジェクトが同じノードを参照するように、`sqlma` パラメーターを修正して、もう一度呼び出しを行ってください。

SQL1625W このモニターは、コード・ページ `source` からコード・ページ `target` に変換できません。この変換は、タイプ `type` に関連するデータに対して試行されました。

説明: 考えられるタイプは以下のとおりです。

- ステートメント・テキスト

2. dcs アプリケーション
3. アプリケーション
4. 表
5. ロック
6. 表スペース

ソース・コード・ページからターゲット・コード・ページへのデータ変換はサポートされていません。このエラーは、以下の状態で発生する可能性があります。

1. ソースとターゲット・コード・ページの組み合わせを、データベース・マネージャーがサポートしていません。
2. ソースとターゲット・コード・ページの組み合わせは、サーバー・ノードのオペレーティング・システム文字変換ユーティリティによってサポートされていません。

モニター・アプリケーションのコード・ページと互換性のないコード・ページのデータベースに関連するデータの変換をモニターが試行するときにこの状態が発生する可能性があります。

ユーザーの処置: サポートされている変換機能のリストについては、オペレーティング・システムの資料をチェックし、適切な変換機能がインストールされておりデータベース・マネージャーに対してアクセス可能なことを確認してください。

可能ならば、モニターされているデータベースとモニター・アプリケーションが同じコード・ページにあることを確認してください。

SQL1626W コード・ページ *source* からコード・ページ *target* への変換中にオーバーフローが発生しました。ターゲット域のサイズは *max-len* で、データはタイプ *type* に関連し、最初の 8 文字は *data* です。

説明: 考えられるタイプは以下のとおりです。

1. ステートメント・テキスト
2. dcs アプリケーション
3. アプリケーション
4. 表
5. ロック
6. 表スペース

モニターは、表制約のためデータを変換できません。このデータはそのオリジナル形式に保存されています。

ユーザーの処置: 可能ならば、モニターされているデータベースとモニター・アプリケーションが同じコード・ページにあることを確認してください。

SQL1627W スナップショット API 要求が自己記述型データ・ストリーム・レベルで出されましたが、サーバーは固定サイズ構造形式のスナップショットしか返せませんでした。

説明: スナップショット要求を発行するアプリケーションが `SQLM_DBMON_VERSION6` 以降のレベルで要求を出したのに対して、スナップショットを返すサーバーはデータの低レベルのビューを返しました。

ユーザーの処置: スナップショットの自己記述型データ形式 (DB2 バージョン 6 以降) では、収集情報は、サーバー・レベルを含めて、スナップショット・データ・ストリームの一部として返されます。DB2 のバージョン 6 よりも前のレベルでは、スナップショット収集情報は `sqlm_collected` 構造で返されます。このスナップショット・データ・ストリームを解析するためには、`sqlm_collected` 構造と古いデータ・ストリーム処理方式を使用しなければなりません。

SQL1628W 出力バッファがいっぱいなので、リモートのスイッチ取得操作が結果の一部だけを返しました。結果をすべて取り出すには、最小バッファ・サイズ *size* バイトを使用してください。

説明: 与えられた出力バッファは、スイッチ・データをすべて返すために十分な大きさではありませんでした。モニターは、この出力バッファによって可能なだけのデータを返しました。

ユーザーの処置: より大きなデータ・バッファを割り振ってから、スイッチ要求を出し直してください。

SQL1629W リモートのスナップショット操作がノード *node-list* で失敗しました。理由コード *reason-list*

説明: 以下のいずれかの理由 `<reason-code>` で、リモート・ノードでの操作中に障害が起きました。

- 1 ノード障害または通信エラーのため、FCM がターゲット・ノードと通信を行うことができませんでした。
- 2 スナップショット操作がターゲット・ノードで完了しませんでした。特定の `sqlca` については管理通知ログを参照してください。

ユーザーの処置: エラーの原因がノード障害または通信エラーであれば、その通信エラーを解決するか、またはエラーを訂正できなかったノードを再始動する必要があります。

エラーの原因がリモート・ノードでのスナップショット操作エラーであれば、失敗した操作による `sqlca` につい

て管理通知ログを調べ、そのコードについての指示を参照して問題を訂正してください。

SQL1630N 指定されたイベント・モニターは、すでに PCTDEACTIVATE 制限に達していません。

説明: 指定された Write to Table イベント・モニターが PCTDEACTIVATE 制限を設定して作成されました。DMS 表スペースの占有量を指定するのは、イベント・モニターが自動的に非アクティブ化する前でなければならず、この制限に既に達しています。指定されたイベント・モニターはアクティブ化できません。

ユーザーの処置: 表スペースで使用されるスペースを削減し、SET EVENT MONITOR ステートメントを再サブミットしてください。あるいは、イベント・モニターをドロップし、PCTDEACTIVATE しきい値を高くしてそれを再作成してください。

sqlcode: -1630

sqlstate: 54063

SQL1631N タイプ *event-monitor-type* のイベント・モニター *event-monitor-name* が既にアクティブになっています。イベント・モニターはアクティブ化されませんでした。

説明: タイプ ACTIVITIES, STATISTICS または THRESHOLD VIOLATIONS のイベント・モニターは、一度に 1 つだけアクティブにすることができます。同じタイプのイベント・モニターが既にアクティブになっているため、イベント・モニターのアクティブ化は失敗しました。

ユーザーの処置: このイベント・モニターをアクティブ化する前に、イベント・モニター *event-monitor-name* を非アクティブ化してください。

sqlcode: -1631

sqlstate: 5U024

SQL1632W 別の収集およびリセット統計要求が既に進行中であるため、収集およびリセット統計要求は無視されました。

説明: 前の収集およびリセット統計要求が既に進行中であるため、収集およびリセット統計要求は無視されました。このデータベースでは、一度に 1 つの収集およびリセット統計要求のみ処理されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

sqlcode: +1632

sqlstate: 01H53

SQL1633W アクティブなアクティビティ・イベント・モニターがないため、アプリケーション・ハンドル *application-handle*、作業単位 ID *unit-of-work-id*、およびアクティビティ ID *activity-id* で識別されるアクティビティをキャプチャーできませんでした。

説明: アプリケーション・ハンドル、作業単位 ID、およびアクティビティ ID で識別されるアクティビティをキャプチャーしようとした。これには、アクティビティ・イベント・モニターが作成され、その状態がアクティブに設定される必要があります。現在、アクティブ状態のアクティビティ・イベント・モニターがありません。

ユーザーの処置: アクティビティ・イベント・モニターが既に存在するものの、アクティブ状態でない場合、その状態をアクティブに設定してください。このデータベースにアクティビティ・イベント・モニターがない場合は作成し、その状態をアクティブに設定してください。この手順を再呼び出ししてください。

sqlcode: +1633

sqlstate: 01H53

SQL1634N アクティブな統計イベント・モニターがないため、統計を収集できませんでした。

説明: ワークロード管理統計を収集しようとした。これには、統計イベント・モニターが作成され、その状態がアクティブに設定される必要があります。現在、アクティブ状態の統計イベント・モニターがありません。

ユーザーの処置: 統計イベント・モニターが既に存在するものの、アクティブ状態でない場合、その状態をアクティブに設定してください。このデータベースに統計イベント・モニターがない場合は作成し、その状態をアクティブに設定してください。この手順を再呼び出ししてください。

sqlcode: -1634

sqlstate: 51042

SQL1635N スナップショットのサイズは *snapshot-size* バイトで、これは許可される最大サイズ *max-size* バイトを超えています。

説明: 要求されたスナップショットのサイズが大きすぎてスナップショット・バッファーに入らないため、スナップショットが失敗しました。

ユーザーの処置: スナップショットのサイズを削減して、GET SNAPSHOT コマンドを再実行します。

これが複数のデータベース・パーティションにわたるグローバル・スナップショットの場合は、GET SNAPSHOT コマンドを各データベース・パーティション上で別個に実行してください。

SQL1636N イベント・モニターがアクティブ化の際にエラーを検出しました。理由コード
reason-code

説明: イベント・モニターのアクティブ化の間に、以下の理由コードに示されるエラーが検出されました。

1

イベント・モニターは正常にアクティブ化されました。しかし、これは DB2 pureCluster 環境であり、エラーが発生して、このグローバル・イベント・モニターまたは表書き込みイベント・モニターの再始動機能がないか制限された状態になっています。モニター・メンバーがイベント・モニターを実行できなくなった場合、システムは別のメンバーでイベント・モニターを再始動できない場合があります。

2

イベント・モニターは、現在のメンバーでのアクティブ化に失敗しました。しかし、これは DB2 pureCluster 環境であり、このグローバル・イベント・モニターまたは表書き込みイベント・モニターは別のメンバーで正常にアクティブ化されている可能性があります。

ユーザーの処置: 理由コードに対応するアクションは、以下のとおりです。

1

詳細について、管理通知ログおよび db2diag.log を調べてください。メンバーに影響を及ぼす問題を修正して、完全な再始動機能を確実に有効にするためにイベント・モニターを非アクティブ化してから再アクティブ化してください。

2

詳細について、管理通知ログおよび db2diag.log を調べてください。メンバーに影響を及ぼす問題を修正してください。イベント・モニターがアクティブ状態かどうか調べて、必要に応じてイベント・モニターを非アクティブ化し、完全な再始動機能を確実に有効にするためにイベント・モニターを再アクティブ化してください。

sqlcode: -1636

sqlstate: 560CS

SQL1637N 透過 DDL ではサポートされない節が指定されたため、ステートメントが失敗しました。指定された節: clause.

説明: 透過 DDL を使用することによって、CREATE TABLE、ALTER TABLE、および DROP TABLE などのよく知られている SQL ステートメントを使用してフェデレーテッド環境のリモート表を作成、変更、およびドロップすることができます。よく知られている同じ SQL ステートメントを使用してローカル表とリモート表の両方を処理できる機能により、フェデレーテッド・データベース環境の管理が単純化されます。リモート表での透過 DDL の使用を有効にするには、OPTIONS 節を指定した CREATE TABLE ステートメントを使用して表を作成します。

このメッセージは、透過 DDL でサポートされない節を指定して CREATE TABLE ステートメントまたは ALTER TABLE ステートメントが呼び出されるときに返されます。

ユーザーの処置: サポートされない節を指定せずにステートメントを再実行してください。

sqlcode: -1637

sqlstate: 428I2

SQL1638N ストレージ・グループ・パスをリダイレクトできません。

説明: プロセスが SET STOGROUP PATHS コマンドまたは db2SetStogroupPaths API を使用してストレージ・グループ・パスを変更できないときに、それを試行しました。例えば、表スペースのリストア時にストレージ・グループ・パスをリダイレクトしようとする、このメッセージが返されることがあります。ストレージ・グループ・パスは、リダイレクトされるデータベースのリストア時にのみリダイレクトできます。

ユーザーの処置: 解決策は以下のとおりです。アクティブ・データベースのストレージ・グループ・パスを変更するには、ALTER STOGROUP ステートメントを使用してください。リダイレクト・リストアを実行するには、REDIRECT オプションを使用して RESTORE DATABASE コマンドを発行してください。リダイレクト・リストア中に、SET STOGROUP PATHS コマンドまたは db2SetStogroupPaths API を使用してストレージ・グループ・パスをリダイレクトできます。

sqlcode: -1638

sqlstate: 5U057

SQL1639N データベース・サーバー上のセキュリティ関連のデータベース・マネージャー・ファイルに、必要なオペレーティング・システム許可がないため、データベース・サーバーで認証を実行できませんでした。

説明: DB2 データベース・システムでは、ご使用のインスタンスとデータベース・ディレクトリー、およびそれらのディレクトリーにあるファイルに、最小限のレベルのオペレーティング・システム許可がある必要があります。インスタンスおよびデータベース・ディレクトリーが DB2 データベース・マネージャーによって作成された場合は、許可は正確であり、これらの許可を変更することで DB2 データベース・マネージャーの機能が失敗する可能性があります。ルート以外のユーザーがインストールしたインスタンスやオペレーティング・システム・ベースの認証については、DB2 ファイルの許可はより複雑になります。

セキュリティ関連の DB2 データベース・マネージャー実行可能ファイルに、データベース・マネージャーがリモート接続の認証関連のタスクを実行するのに必要な許可がない場合に、このメッセージが返されます。

これらのセキュリティ関連のファイルに必要な許可がない可能性がある理由には、次のようないくつかの理由があります。

- DB2 インスタンスがルート以外のユーザーによりインストールされ、また、オペレーティング・システム・ベースの認証が db2rfe コマンドを使用して有効化されていない。
- DB2 データベース・マネージャー・ファイルのオペレーティング・システム許可が誤って変更された。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの方法で、このメッセージに応答します。

- インスタンスがルート以外のユーザーによりインストールされたものである場合は、db2rfe コマンドを使用してオペレーティング・システム・ベースの認証を有効にします。
- スーパーユーザーとして以下のコマンドを実行して、このインスタンスの DB2 データベース・マネージャー・バイナリー・ファイルのすべてのオペレーティング・システム許可をリセットします。

```
db2iupdt -k <instance-name>
```

ここで <instance-name> は影響を受けるインスタンスの名前です。

db2rfe コマンドおよび db2iupdt コマンドを使用する場合は、両方ともデータベース・マネージャー・インスタンスを停止してから再始動する必要があります。

sqlcode: -1639

sqlstate: 08001

SQL1640N オブジェクト *object-name* に対して使用量リストを作成できません。

説明: 使用量リストは、通常の表および索引に対してのみ作成できます。使用量リストを作成できるオブジェクトのタイプについて詳しくは、関連トピックのセクションを参照してください。

ユーザーの処置: 有効な表または索引オブジェクトの名前を使用してください。

sqlcode: -1640

sqlstate: 42809

SQL1641N ファイル・システムのマウント設定により、1 つ以上の DB2 データベース・マネージャー・プログラム・ファイルのルート権限での実行が妨げられたため、db2start コマンドが失敗しました。

説明: UNIX 環境および Linux 環境の root にインストールされたインスタンスが存在する場合、DB2 データベース・マネージャーのいくつかの実行可能プログラムは、いわゆる「実行時にユーザー ID を設定する」(setuid) プログラムとなります。setuid プログラムは、プログラムを実行したユーザーの特権ではなく、プログラムの所有者の特権で実行します。例えば、DB2 データベース・マネージャー・プログラム (db2start プログラムなど) の所有者は root であるため、db2start コマンドを実行したユーザーの特権に関係なく、root 特権で実行されます。

マウントされたファイル・システムにおいてプログラムを setuid 特権で実行する機能は、ファイル・システムのマウント時に nosuid オプションを使用して構成しません。nosuid オプションを使用してファイル・システムをマウントすると、setuid 特権でのプログラムの実行が妨げられます。

UNIX および Linux 環境において、データベース・マネージャー・プログラムがあるファイル・システムが nosuid オプションを指定してマウントされたために、データベース・インスタンスを開始するのに必要な DB2 データベース・マネージャー・プログラムをルートとして実行できなかった場合に、このメッセージが返されます。

ユーザーの処置:

1. DB2 製品ファイル (sqllib ディレクトリーおよび db2start プログラムを含む) があるファイル・システムを、nosuid オプションを指定しないで再マウントしてください。
2. db2start コマンドを再実行してください。

SQL1642N 接続要求がリモート・コンピューターにより拒否されたため、データベース・マネージャーがリモート・コンピューター上のインターネット・ソケットへの接続に失敗しました。

説明: ネットワークを介してリモート・データベースと対話するには、DB2 データベース・マネージャーは通信プロトコル (TCP/IP など) およびオペレーティング・システム・インターフェース (インターネット・ソケットなど) を使用して、リモート・データベースがあるコンピューター上のデータベース関連のオペレーティング・システム・サービスに接続する必要があります。

DB2 データベース・マネージャーが TCP/IP 通信プロトコルを使用してリモート・コンピューターに接続しようとして、CONNECT という TCP/IP 機能からエラー・コード ECONNREFUSED または

WSAECONNREFUSED を受け取ると、このメッセージが返されます。通常、データベース・マネージャーが接続しようとしているリモート・コンピューター上のデータベース関連オペレーティング・システム・サービスがアクティブでないために、接続が拒否されます。

このエラーが返される原因となるシナリオには、以下のような複数のシナリオがあります。

- リモート・コンピューター上のデータベース・マネージャーが停止している
- リモート・データベースのカatalog方法に問題がある
- リモート・データベース・サーバーの構成方法に問題がある
- リモート・データベース・サーバーの DB2COMM レジストリー変数が、クライアントで使用されている通信プロトコルに設定されていない
- リモート・コンピューター上のファイアウォール・ソフトウェアにより、データベース・マネージャーの接続の試行がブロックされている
- リモート・コンピューターで処理できる数より多くの TCP/IP 接続要求がある

ユーザーの処置: 考えられる原因を以下のように体系的に除去することで、このエラーに対応します。

1. リモート・コンピューター上のデータベース・マネージャーが正常に開始していることを確認します。
2. データベースが正しくカatalogされていることを確認してください。

3. リモート・データベース用のデータベース・マネージャー構成ファイルの項目が有効で整合性があることを確認します。
4. リモート・データベース・サーバーの DB2COMM 環境変数が、クライアントで使用されている通信プロトコルに設定されていることを確認します。
5. ファイアウォール・ソフトウェアがリモート・コンピューターへの TCP/IP 接続をブロックしていないことを確認します。
6. すべてのアプリケーションによりリモート・コンピューターに送信される接続要求の数が、そのコンピューターで処理できる要求数より少ないことを確認します。

ここにリストされた考えられる原因を除去したら、db2support コマンドを使用して DB2 およびシステムの診断情報を収集して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

SQL1643C データベース・マネージャー・インスタンスのメモリーの制限に達したため、データベース・マネージャーが共有メモリーの割り振りに失敗しました。

説明: 各データベース・パーティションに割り振りできるメモリーの最大量は、データベース・マネージャー・パラメーター instance_memory により制御されます。DB2 メモリーの使用量は、ワークロードや構成に応じて異なります。これに加え、database_memory のセルフチューニングが有効になっていれば、それも要因の 1 つとなります。instance_memory の計算やインスタンス・メモリーの制限についてパラメーターが受ける影響の原因となる多くの要因には、以下のようなものがあります。

- データベース・マネージャー・パラメーター instance_memory を使用して、データベース・パーティションに割り振りできるメモリーの最大量を指定できます。
- データベース・マネージャー・パラメーター instance_memory を AUTOMATIC に設定すると、コンピューターの物理 RAM および DB2 データベース製品のライセンスにより許容される最大値に基づいて算出される制限まで、データベース・マネージャー・インスタンスのメモリーを必要に応じて増やすことができます。

インスタンス・メモリーの制限に達したために、データベースのアクティブ化やデータベースのロールフォワードなどのアクティビティー中にデータベース・マネージャーが共有メモリーを割り振りできない場合に、このメッセージが返されます。

SQL1644N

ユーザーの処置:

1. ADMIN_GET_DBP_MEM_USAGE 表関数、または -dbptnmem パラメーターを指定した db2pd コマンドを使用して、特定のデータベース・パーティションまたはすべてのデータベース・パーティションに対して DB2 インスタンスが使用するインスタンス・メモリーの合計使用量を判別します。
2. データベース・マネージャー・パラメーター instance_memory の設定値まで値を増やすか、instance_memory を AUTOMATIC に設定します。
3. instance_memory にできるだけ大きい値を設定するか instance_memory を AUTOMATIC に設定しても、このエラーが発生し続ける場合は、db2support ユーティリティーを使用して診断情報を収集し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

sqlcode: -1643

sqlstate: 57019

SQL1644N 接続要求がリモート・コンピューターによりリセットされたため、データベース・マネージャーがリモート・コンピューター上のインターネット・ソケットへのデータ送信に失敗しました。

説明: ネットワークを介してリモート・データベースと対話するには、DB2 データベース・マネージャーは通信プロトコル (TCP/IP など) およびオペレーティング・システム・インターフェース (インターネット・ソケットなど) を使用して、リモート・データベースがあるコンピューター上のデータベース関連のオペレーティング・システム・サービスに接続する必要があります。

DB2 データベース・マネージャーが TCP/IP 通信プロトコルを使用してリモート・コンピューターにデータを送信しようとして、RECV という TCP/IP 機能からエラー・コード ECONNRESET または WSAECONNRESET を受け取ると、このメッセージが返されます。

このエラーが返される原因となるシナリオには、以下のような複数のシナリオがあります。

- クライアント・サイドの接続プールは使用可能で、データベース・アプリケーションがデータベース接続の失敗後に再試行していない。
- データベース・エージェントがリモート・コンピューターから強制的に切断された。
- リモート・コンピューター上のデータベース・エージェントが強制終了した。
- リモート・コンピューター上の DB2 データベース関連オペレーティング・システム・スレッドがタイムアウトになった。

- 接続が TCP/IP レベルでリモート・ゲートウェイまたはサーバーによりクローズされた。

ユーザーの処置: 以下のようにして、考えられる原因を体系的に調査して解決します。

クライアント・サイドの接続プールの問題

クライアント・サイドの接続プールが使用可能である場合は、データベース・アプリケーションが、データベース接続の失敗を受信したあとにデータベース接続を再試行することを確認します。

データベース・エージェントの強制切断

1. 管理者が保守を実行するためにすべてのユーザーとエージェントをリモート・コンピューターから強制的に切断する場合などのように、何らかのイベントによりデータベース・エージェントがリモート・コンピューターから強制的に切断されていないか調査します。
2. データベース・エージェントが強制的にリモート・コンピューターから切断されている場合は、データベース管理者またはシステム管理者と協力してデータベース・サーバーをオンラインの状態に戻して要求を処理できるようにしてから、作業単位を再試行します。

データベース・エージェントの強制終了

1. リモート・コンピューターでの何らかの障害によりデータベース・エージェントが強制終了されていないか調査します。例えば、主要データベース・マネージャー・プロセスの強制終了が、データベース・エージェントの強制終了の原因となっている可能性があります。
2. リモート・コンピューターでの障害により主要データベース・マネージャー・プロセスが強制終了されている場合は、データベース管理者またはシステム管理者と協力してデータベース・サーバーをオンラインの状態に戻して要求を処理できるようにしてから、作業単位を再試行します。

スレッドのタイムアウト

1. リモート・コンピューター上の診断ログで、オペレーティング・システム・スレッドのタイムアウトを示すエラー・メッセージがないか確認します。
2. DB2 データベース関連オペレーティング・システム・スレッドが、アイドル・スレッド・タイムアウト (IDTHTOIN) のオペレー

ディング・システム・パラメーターより長く実行されている場合は、以下の修正アクションを 1 つ以上実行します。

- IDTHTOIN パラメーターの値を増やす。
- 接続プールがゲートウェイで使用可能になっている場合は、その接続プールを使用不可にする。
- データベース・アプリケーションが必要以上に長くリソースを開いたままにしていることを確認する。例えば、データベース・アプリケーションが WITH HOLD カーソルが必要なくなったらそれをクローズすることを確認します。

リモート・ゲートウェイまたはサーバーによりクローズされる接続

TCP/IP 接続がリモート・ゲートウェイまたはサーバーでクローズされる原因となっている可能性のある、DB2 データベース製品の外部での問題を解決します。接続がクローズされる原因となる可能性のある問題の例として、以下のようなものがあります。

- ファイアウォール・ソフトウェアのエラーまたは障害
- 電源障害
- ネットワーク障害

ここにリストされた考えられる原因を除去したら、db2support コマンドを使用して DB2 およびシステムの診断情報を収集して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

sqlcode: -1644

sqlstate: 08001

SQL1645N 接続がリモート・コンピューターにより強制終了されたため、データベース・マネージャーがリモート・コンピューター上のインターネット・ソケットへの接続またはデータ送信に失敗しました。

説明: ネットワークを介してリモート・データベースと対話するには、DB2 データベース・マネージャーは通信プロトコル (TCP/IP など) およびオペレーティング・システム・インターフェース (インターネット・ソケットなど) を使用して、リモート・データベースがあるコンピューター上のデータベース関連のオペレーティング・システム・サービスに接続する必要があります。

このエラーが返される原因となるシナリオには、以下のような複数のシナリオがあります。

- メモリーの割り振りに失敗したため、リモート・コンピューターでデータベース・エージェントを開始できなかった。
- データベース・エージェントがリモート・コンピューターから強制的に切断された。
- リモート・コンピューター上のデータベース・エージェントが強制終了した。
- 接続が TCP/IP レベルでリモート・ゲートウェイまたはサーバーによりクローズされた。

ユーザーの処置: 以下のようにして、考えられる原因を体系的に調査して解決します。

新規データベース・エージェントの開始の失敗

1. リモート・コンピューターの診断ログを調査して、メモリー制限が超過され、それが原因でメモリーの割り振りが失敗していないか判別します。
2. リモート・コンピューターでメモリー制限に達した場合、またはリモート・コンピューターでメモリーの割り振りが失敗した場合、データベース管理者またはシステム管理者と協力してメモリー割り振り問題の原因を解決してから、作業単位を再実行します。

データベース・エージェントの強制切断

1. 管理者が保守を実行するためにすべてのユーザーとエージェントをリモート・コンピューターから強制的に切断する場合などのように、何らかのイベントによりデータベース・エージェントがリモート・コンピューターから強制的に切断されていないか調査します。
2. データベース・エージェントが強制的にリモート・コンピューターから切断されている場合は、データベース管理者またはシステム管理者と協力してデータベース・サーバーをオンラインの状態に戻して要求を処理できるようにしてから、作業単位を再実行します。

データベース・エージェントの強制終了

1. リモート・コンピューターでの何らかの障害によりデータベース・エージェントが強制終了されていないか調査します。例えば、主要データベース・マネージャー・プロセスの強制終了が、データベース・エージェントの強制終了の原因となっている可能性があります。
2. リモート・コンピューターでの障害により主要データベース・マネージャー・プロセ

SQL1646N

スが強制終了されている場合は、データベース管理者またはシステム管理者と協力してデータベース・サーバーをオンラインの状態に戻して要求を処理できるようにしてから、作業単位を再試行します。

リモート・ゲートウェイまたはサーバーによりクローズされる接続

TCP/IP 接続がリモート・ゲートウェイまたはサーバーでクローズされる原因となっている可能性のある、DB2 データベース製品の外部での問題を解決します。接続がクローズされる原因となる可能性のある問題の例として、以下のようなものがあります。

- ファイアウォール・ソフトウェアのエラーまたは障害
- 電源障害
- ネットワーク障害

ここにリストされた考えられる原因を除去したら、db2support コマンドを使用して DB2 およびシステムの診断情報を収集して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

sqlcode: -1645

sqlstate: 08001

SQL1646N fenced ユーザー ID が、sqllib ディレクトリーまたは他のインスタンスまたはデータベースのディレクトリーにある、要求されたファイルにアクセスできないため、ルーチンが失敗しました。

説明: DB2 データベース・マネージャーは、ルーチンを DB2 fenced ユーザーとして実行することで、DB2 データベース・アドレス・スペースの外部にあるユーザー定義の関数およびストアド・プロシージャを実行します。デフォルトの fenced ユーザー ID は "db2fenc1" で、デフォルト・グループは "db2fadm1" です。

fenced ユーザー ID が、sqllib ディレクトリーおよび他のインスタンスやデータベースのディレクトリーにある DB2 データベース関連ファイル (実行可能ファイルやライブラリー・ファイル) にアクセスできる必要があります。インスタンスおよびデータベースのディレクトリーが DB2 データベース・マネージャーにより作成された場合は、そのファイルおよびディレクトリーのオペレーティング・システム許可は正確に設定されているので変更すべきではありません。

fenced ストアド・プロシージャまたはルーチンを直接処理している場合、またはヘルス・モニターなどの

DB2 ユーティリティーが fenced モード・プロセスとして実行されている場合に、このメッセージが返されることがあります。

このエラーの代表的な原因として、DB2 データベース・マネージャーがインスタンスおよびデータベースのディレクトリーを作成したあとに、DB2 データベース関連ファイルまたはディレクトリーのオペレーティング・システム・ファイル許可が誤って変更されたことが挙げられます。

ユーザーの処置: 以下のトラブルシューティング・ステップを実行して、このエラーに対応します。

- 可能であれば、使用可能なデータベース診断情報 (db2diag ログ・ファイルなど) またはオペレーティング・システムの診断情報を確認して、DB2 データベース・マネージャーまたは db2fmp プロセス自体がアクセスできなかったファイルまたはディレクトリーを判別します。
- DB2 データベース関連ファイルおよびディレクトリー (sqllib ディレクトリーおよび db2fmp 実行可能ファイル自体を含む) のオペレーティング・システム許可と、インスタンスおよびデータベースのディレクトリーが最初に作成されたときに DB2 データベース・マネージャーが設定したデフォルトの許可 (資料に書かれています) を比較します。

sqlcode: -1646

sqlstate: 58004

SQL1648N SQL ステートメントまたはコマンド/ユーザーティリティーは、DB2 pureCluster 環境のメンバー member-id の状態が原因で処理できません。

説明: メンバーの状態が原因で SQL ステートメントまたはコマンド/ユーザーティリティーの処理ができません。これは、以下のいずれかによる可能性があります。

- あるメンバーに対してデータベース・マネージャーが停止処理または開始処理をしている。
- 障害が発生したメンバーに対してメンバー・クラッシュ・リカバリーが実行されている。

ユーザーの処置: 要求を再試行してください。このエラーの最も一般的な原因は、メンバーが停止処理中または開始処理中になっているという理由であるため、システム管理者に連絡して援助してもらうことが必要な場合があります。エラーが続く場合は、技術サービス担当者に連絡してください。

sqlcode: -1648

sqlstate: 57061

SQL1649W データベースの非アクティブ化は成功しましたが、データベースは入出力書き込み操作中断モードで使用可能な状態のままです。

説明: データベースは、入出力書き込み操作中断モードになっているときにはシャットダウンできません。データベースは、入出力書き込み操作が再開されたときにシャットダウンされます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。SET WRITE RESUME コマンドを発行して入出力書き込み操作を再開し、データベースを完全に非アクティブ化します。

SQL1650N 呼び出された関数は、すでにサポートされていません。

説明: このバージョンのデータベース・マネージャーではすでにサポートされていない API を呼び出そうとしました。

ユーザーの処置: 必要な関数は、別の API 呼び出しでサポートされている可能性があります。関数が別の API 呼び出しでサポートされているかどうかを判別することの詳細は、DB2 インフォメーション・センター (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2luw/v9>) を参照してください。

Windows アプリケーションが V9 以前のバージョン番号の sqledgnc API または db2DbDirGetNextEntry API を呼び出す場合、現行のバージョン番号 (つまり、V9) の db2DbDirGetNextEntry API を呼び出すように更新する必要があります。

SQL1651N DB2 サーバーのバージョンがこの機能をサポートしていないため、この要求を実行できません。

説明: 新しい機能の一部は、古い DB2 サーバーのバージョンに対してサポートされていません。また、このエラーの原因として、サーバー・バージョンがサポートしていない長さの修飾子を持つ参照オブジェクトの要求も考えられます。

ユーザーの処置: 最新バージョンの DB2 サーバーがインストールされている、またはサーバーが最新バージョンの DB2 サーバーにアップグレードされている DB2 サーバーに対して、要求を実行してください。

SQL1652N ファイル入出力エラーが発生しました。

説明: ファイルのオープン、読み取り、書き込みまたはクローズのいずれかでエラーが発生しました。

ユーザーの処置: 詳細については db2diag ログ・ファイルを調べてください。また、ディスク・フル条件、フ

ァイル許可およびオペレーティング・システム・エラーもチェックしてください。

SQL1653N 無効なプロファイル・パスが指定されました。

説明: 生成されるサーバー情報があるファイルへの絶対パスを指定しなくてはなりません。

ユーザーの処置: 指定されたプロファイル・パスが正しく、NULL でないことを確認してください。

SQL1654N インスタンス・パスのエラーを検出しました。

説明: インスタンス・パスを戻すことができませんでした。

ユーザーの処置: DB2INSTANCE パスが正しく指定されているかをチェックしてください。指定された完全なパスの長さが、オペレーティング・システムによってサポートされている最大長に近くないかをチェックしてください。

SQL1655C ディスク上のデータにアクセスする際のエラーにより、操作が完了しませんでした。

説明: ディスク上のデータにアクセスする際に問題が発生したため、操作を完了できません。SQL ステートメントがロールバックされたか、または操作がアボートされました。データベースは引き続きアクセス可能です。

ユーザーの処置: アプリケーションは操作を再試行できますが、失敗が続く可能性もあります。操作の失敗が継続する場合には、DB2 システム管理者に連絡して詳しく調査する必要があるかもしれません。

管理通知ログで詳細情報を調べると、問題の診断に役立つ場合があります。エラーを調べてその原因を判別し、必要に応じて IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

DB2 データがエラーであると判断される場合は、表スペースまたはデータベースをリストアおよびロールフォワードしてください。

ハードウェアまたは他のソフトウェアが原因であることが分かった場合は、該当するシステムを修復してください (DB2 の停止が必要になる場合があります)。

sqlcode: -1655

sqlstate: 58030

SQL1656C データの処理中にエラーが発生しました。操作は完了しませんでした。データベースは引き続きアクセス可能です。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

説明: DB2 ページ不整合が検出されたため、操作を完了できません。SQL ステートメントが失敗したか、操作がアボートされました。データベースは引き続きアクセス可能です。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、この問題の解決に役立つどんな診断データを集める必要があるか問い合わせてください。アプリケーションは操作を再試行できますが、失敗が続く可能性もあります。

sqlcode: -1656

sqlstate: 58004

SQL1657W データベースは正常に非アクティブ化されました。データベースが HADR 1 次データベースであり、それが非アクティブ化されたときに切断済みピア状態であったため、データベースが再始動するときにそこでクラッシュ・リカバリーが自動的に実行されます。

説明: 通常は、以下のいずれかの方法を使用して HADR 1 次データベースを非アクティブ化することができます。

- DEACTIVATE DATABASE コマンドまたは `sqlc_deactivate` API
- FORCE オプションを指定した `db2stop` コマンド

HADR 1 次データベースは、切断済みピア状態であるときに非アクティブ化されると、不整合状態で非アクティブ化されるため、そのデータベースが再始動するときにクラッシュ・リカバリーが自動的に実行されます。

データベースが正常に再始動されない限り、このデータベースでオフライン・バックアップ操作を実行しようとすると失敗します。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

データベースの再始動時に、データベース・マネージャーはこのデータベースに対して自動的にクラッシュ・リカバリーを実行します。

SQL1658N オブジェクト *name* の静止操作が失敗しました。理由コード: *reason-code*

説明: 保守アクティビティを実行する前に、オブジェクトを静止することにより、データベース・マネージャーのインスタンスまたはデータベースからユーザーを強制的に切断することができます。

このメッセージが返された具体的な理由は、*reason-code* によって示されます。

1

WRITE SUSPEND 状態にあるデータベースを静止しようとしてしました。

2

少なくとも 1 つのデータベースが WRITE SUSPEND 状態にあるデータベース・マネージャー・インスタンスを静止しようとしてしました。

ユーザーの処置: 以下のように、理由コードに応じてこのエラーに対応します。

理由コード 1

WRITE SUSPEND 状態にあるデータベースを静止するには、以下のステップを実行します。

1. RESUME オプションを指定した SET WRITE コマンドを使用するか、DB2_RESUME_WRITE オプションを指定した `db2SetWriteForDB` API を使用して、データベースでの書き込みを再開します。
2. 静止操作を再実行します。

理由コード 2

1 つ以上のデータベースが WRITE SUSPEND 状態になっているインスタンスを静止するには、以下のステップを実行します。

1. インスタンス内の各データベースの `suspend_io` 構成パラメーターを参照することにより、WRITE SUSPEND 状態にあるデータベースを判別します。
2. WRITE SUSPEND 状態にあるそれぞれのデータベースで、RESUME オプションを指定した SET WRITE コマンドを使用するか、DB2_RESUME_WRITE オプションを指定した `db2SetWriteForDB` API を使用して、データベースでの書き込みを再開します。
3. 静止操作を再実行します。

SQL1659N データベース・マネージャーが開始されたとき、Host Channel Adapter (HCA) の数は、クラスター・キャッシング・ファシリティ (CF) における構成値より少ない数でした。

説明: データベース・マネージャーの始動時に、重大ではないエラーが発生しました。CF において 1 つ以上の HCA と通信を確立できませんでした。それぞれのクラスター・キャッシング・ファシリティ (CF) は、少なくとも 1 つの HCA によって接続されています。HCA が少ないほど、CF のスループット能力は低下します。また、冗長度の低下により、ダウン時間が発生するリスクが大きくなります。

ユーザーの処置: 'db2cluster -cm -list -alert' を実行してクラスター・アラートを調べ、応答していない HCA を識別します。アラートに示された修正アクションにしたがって、報告された問題を解決します。

SQL1660N サーバー情報を収集するためにディスクバリーで使用するサーバーのジェネレーターが失敗しました。

説明: サーバー・システム障害が発生しました。

ユーザーの処置: この障害を DB2 サーバー管理者に報告してください。障害の詳細は、サーバーの db2diag ログ・ファイルにあります。

SQL1661N 検索しようとした情報を HADR スタンバイ・データベースで検出できなかったために照会が失敗しました。

説明: ステートメントまたはコマンドが HADR スタンバイ・データベースでは使用できない XML 値の検索を試行しています。これは、その値がまだスタンバイ上で再生されていないために生じている可能性があります。

ユーザーの処置: 後で読み取り可能な HADR スタンバイで照会を再実行するか、HADR 1 次データベースに対して照会をサブミットしてください。

sqlcode: -1661

sqlstate: 58004

SQL1662N メンバー *member-number* 上のデータベース *database* で *log-archive-method* のログ・ファイル *log-file* のアーカイブまたは取得中にログ・アーカイブ圧縮が失敗しました。理由コード: *reason-code*

説明: アーカイブ・ログ・ファイルの圧縮が使用可能になっていますが、アーカイブ・ログ・ファイルのアーカイブ中または取得中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: 詳細については db2diag.log ファイルを調べてください。

IBM サポートに連絡してください。

SQL1663W *log-archive-method* におけるログ・アーカイブ圧縮が完全には有効になっていません。

説明: *log-archive-method* を DISK、TSM、または VENDOR に設定するまで、*log-archive-method* におけるログ・アーカイブ圧縮は完全には有効になりません。

ユーザーの処置: UPDATE DATABASE CONFIGURATION コマンドで、*log-archive-method* を DISK、TSM、または VENDOR に変更できます。

SQL1665N データベース・ロギングにロー・デバイスを使用している場合、ログ・アーカイブ圧縮はサポートされないため、コマンドが失敗しました。

説明: まだアーカイブされていないログ・ファイルがロー・デバイス上にある場合、ログ・アーカイブ圧縮はサポートされません。このエラーは、次のような場合に受け取ります。

- ログ・アーカイブ圧縮を使用可能にするコマンドが発行され、LOGPATH または NEWLOGPATH データベース構成パラメーターが既にロー・デバイスを指している。
- NEWLOGPATH データベース構成パラメーターをロー・デバイスに設定するコマンドが発行され、ログ・アーカイブ圧縮が既にアクティブになっている。
- ログ・アーカイブ圧縮を使用可能にして、NEWLOGPATH データベース構成パラメーターをロー・デバイスに設定するコマンドが発行された。

ユーザーの処置: ログ・アーカイブ圧縮を使用する場合は、LOGPATH および NEWLOGPATH のどちらもロー・デバイスを指さないようにしてください。

ロー・デバイスを指すように NEWLOGPATH を設定する必要がある場合は、まずログ・アーカイブ圧縮を無効化してから NEWLOGPATH 構成パラメーターの設定を再試行してください。

SQL1670N DISCOVER データベース・マネージャー構成パラメーターで指定されたディスクバリー・タイプが、ディスクバリーが無効であると示しています。

説明: DISCOVER データベース・マネージャー構成ファイルの DISABLE 値が無効です。

ユーザーの処置: DISCOVER の機能が必要な場合、発

SQL1671N

見タイプを KNOWN または SEARCH に変更してください。

SQL1671N 検索ディスクバリー要求が失敗しました。
詳細については**管理通知ログ**を**チェック**してください。

説明: 以下のいずれかの理由で、検索ディスクバリー要求が失敗しました。

1. 初期化の失敗 (sqlCommonInitializationForAPIs)
2. クライアント・インスタンス・パスを検索できない (sqlinstancepath)
3. 出力ファイルのオープンができない (sqlofopn)
4. 出力ファイルへの書き込みができない (sqlofprt)
5. メモリーを獲得できない (sqlgmbk)
6. データベース・マネージャー構成を検索できない (sqlfcsys)
7. NetBIOS 呼び出しが失敗した
8. DB2 内部システム関数が失敗した (sqlqpid, sqlqgmt)

詳細については db2diag ログ・ファイルを調べてください。

ユーザーの処置:

1. 初期化が失敗した場合、マシンのリブートか製品の再インストールをしてください。
2. インスタンス・パスの障害の場合、DB2INSTANCE の値が正しく設定されているか確認してください。
3. ファイルのオープンあるいは書き込みができない場合、Intel マシンの場合は <sqllib path>%<instance>%tmp ディレクトリーに、UNIX マシンの場合は <instance path>/sqllib/tmp ディレクトリーにあるファイルのオープンおよび書き込みを行うためのアクセスがあるかどうか、調べてください。
4. メモリー獲得の失敗の場合、マシンの使用可能メモリーを調べてください。
5. DBM 構成検索が失敗した場合、マシンのリブートか製品の再インストールをしてください。
6. NetBIOS 呼び出しが失敗した場合は、次のようにしてください。
 - Add Name が戻りコード 13 で失敗した場合、DBM 構成で構成されている nname がネットワーク上の、別の IBM データ・サーバー・クライアント/DB2 サーバーの構成に使用されていないか、調べてください。
 - NetBIOS が適切にインストールされて、正しく機能しているか調べてください。
 - 問題に応じてネットワークを調べてください。

7. DB2 内部システム関数が失敗した場合、マシンのオペレーティング・システム関数が正しく機能しているか、調べてください。

DB2 サービスでは、これらの関数から返されて db2diag ログ・ファイルに書き込まれているエラー・コードに関する詳細を提供することができます。

SQL1673N DISCOVER INTERFACE への入力として指定されたアドレス・リストが無効です。

説明: このアプリケーション・プログラムは無効な入力アドレス・リスト・ポインターを使用しました。このアドレス・リストは何も指していません。

ユーザーの処置: 有効なアドレス・リスト・ポインターがこのアプリケーション・プログラムに指定され、NULL 値でないことを確認してください。

SQL1674N DISCOVER INTERFACE への入力として指定されたサーバー・アドレスが無効です。

説明: このアプリケーション・プログラムは無効な入力サーバー・アドレス・ポインターを使用しました。このサーバー・アドレスは何も指していません。

ユーザーの処置: 有効なサーバー・アドレスがこのアプリケーション・プログラムに指定され、NULL 値でないことを確認してください。

SQL1675N ディスカバリー機能は DB2 Administration Server に対してのみ使用できます。与えられた通信情報は Administration Server にアクセスしていません。

説明: KNOWN ディスカバリー要求は、DB2 Administration Server でない DB2 サーバーに対して発行されました。指定された通信情報は正しくありません。

ユーザーの処置: DB2ADMINSERVER がアクセス中の DB2 サーバー・インスタンスに設定されているか検証してください。このインスタンスは、サーバー・インスタンスが DB2 Administration Server であることを示します。正しい通信情報を指定して KNOWN ディスカバリー要求を再試行してください。

SQL1677N DB2 クラスター・サービス・エラーのために、DB2START または DB2STOP プロセスが失敗しました。

説明: DB2 クラスター・サービスは要求された操作を実行できませんでした。

ユーザーの処置: db2cluster コマンドを使用して DB2 クラスター・サービスの状況をトラブルシューティングしてください。

SQL1678W インスタンスが db2stop INSTANCE ON コマンドを使用して以前に停止されているため、CF (ID *identifier*) の DB2START はホスト *host-name* では使用できません。CF 二重化はこのインスタンスでは使用できません。

説明: 複数のクラスター・キャッシング・ファシリティー (CF) がこの DB2 インスタンスで構成されていますが、db2stop INSTANCE ON コマンドを使用することによって、CF は一時的にインスタンスに参加できないようにされています。

この問題の一般的な原因は、CF のローリング・アップグレードを許可するため、または CF 二重化なしでインスタンスを開始できるようにするためです。CF サーバーがエラーのために開始に失敗した場合、これによりエラーの原因がユーザーによって解決されるときにインスタンスが開始できるようになります。

ユーザーの処置: CF が使用可能になったら、db2start INSTANCE ON コマンドに続いて db2start CF コマンドを発行して、CF を開始しこのインスタンスで使用できるようにしてください。CF が開始されると、データベース・マネージャーによって CF 二重化が自動的に再確立されます。

SQL1679N DB2START が、ホスト *host-name*、ID *identifier* の CF を開始できませんでした。理由コード *reason-code*

説明: 理由コードは、このエラーが戻された理由を示しています。

1

このメッセージが理由コード 1 で返される理由は複数あります。例えば、次のような理由があります。

- クラスター・キャッシング・ファシリティー (CF) があるホストが使用不可になっている。
- CF があるホストとの接続を確立しようとして TCP/IP 通信エラーが発生した。
- CF メモリーのデータベース・マネージャー構成パラメーター CF_MEM_SZ が、使用可能なメモリー量を超える値に設定されている

ため、DB2 クラスター・サービスが CF に対してメモリーを割り振ることができなかった。

ユーザーの処置: 以下のように、理由コードに応じてこのメッセージに応答します。

1

1. 以下のトラブルシューティング・アクティビティーを実行してください。
 - ホストで、リモート・コマンドを実行するための正しい許可が .rhosts または host.equiv ファイルに定義されていることを確認してください。
 - このアプリケーションが最大数 (500 + (1995 - 2 * total_number_of_nodes)) を超えるファイル記述子を同時に使用していないことを確認してください。
 - すべての Enterprise Server Edition 環境変数がプロファイル・ファイルで定義されていることを確認してください。
 - プロファイル・ファイルが有効な Korn シェルのスクリプト・フォーマットで記述されていることを確認してください。
 - すべてのホスト名値が、再始動オプションの入った sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルに定義されているホスト名を持っているかを確認してください。
 - DB2FCMCOMM レジストリー変数が正しい IP 形式 (TCPIP4 または TCPIP6) で指定されていることを確認してください。
 - CF_MEM_SZ データベース・マネージャー構成パラメーターが有効な値に設定されていることを確認してください。
2. 次に DB2START コマンドを再実行してください。

SQL1680W ホスト *host-name*、ID *identifier* の DB2 メンバーの DB2START の処理中にエラーが発生しました。理由コード *reason-code* データベース・マネージャーは、別の使用可能なホストでメンバーをリカバリー・モードで非同期に開始しようとします。

説明: ホスト上でメンバーを開始しようとするときにエラーが発生しました。このエラーの結果、DB2START コマンドが失敗しました。

理由コードは、このエラーが戻された理由を示しています。

1

ホストが使用不可であるか、ホストとの接続を確立しようとするときに TCP/IP 通信エラーが発生したために、ホストに到達できません。

ユーザーの処置: 以下のように、理由コードに応じてこのメッセージに対応します。

1

理由コード 1 の場合、以下のトラブルシューティング・アクティビティを実行してください。

1. ホストが、`.rhosts` または `host.equiv` ファイルの正しい許可を持っていることを確認してください。
2. このアプリケーションが同時に $(500 + (1995 - 2 * \text{total_number_of_nodes}))$ を超えるファイル記述子を使用していないことを確認してください。
3. すべての Enterprise Server Edition 環境変数がプロファイル・ファイルで定義されていることを確認してください。
4. プロファイル・ファイルが Korn シェルのスクリプト・フォーマットで記述されていることを確認してください。
5. すべてのホスト名値が、再始動オプションの入った `sqlib` ディレクトリーの `db2nodes.cfg` ファイルに定義されているホスト名を持っているかを確認してください。
6. `DB2FCMCOMM` レジストリー変数が正しく設定されていることを確認してください。
7. `DB2START` コマンドを再実行してください。

SQL1681W インスタンスが `db2stop INSTANCE ON` コマンドを使用して以前に停止されているため、**DB2** メンバー (**ID identifier**) の **DB2START** はホスト `host-name` では使用できません。データベース・マネージャーは、別の使用可能なホストで **DB2** メンバーを **light** モードで非同期に開始しようとします。リカバリー・モードにある間、**DB2** メンバーはクライアント接続を受け付けません。

説明: ホストのインスタンスは `db2stop INSTANCE ON` コマンドで停止されています。そのようにする理由の 1 つは、ホストを保守目的またはソフトウェアのロ

ーリング・アップグレードのためにダウンするためです。メンバーはこのホストで開始できませんでした。しかし、データベース・マネージャーは、別の使用可能なホストでこのメンバーを **light** モードで開始しようとします。

ユーザーの処置: ユーザーは `DB2 LIST` コマンドを発行して、メンバーが開始されているかどうか、およびどのホストで開始されているかを検出できます。ホストでのソフトウェア・アップグレードまたは保守作業が完了したら、ユーザーは `db2start INSTANCE ON` コマンドを発行してホスト上でインスタンスを開始し、`db2start MEMBER` コマンドを再発行してメンバーをこのホストに再配置する必要があります。

SQL1682W ホスト `host-name` での **DB2START** の処理が成功しました。以前の **DB2** メンバーの **DB2START** 障害またはホスト障害のため、**DB2** メンバーはデータベース・マネージャーによってこのホストに再配置されました。

説明: メンバーは以前に停止されたときに、`restart light` モードで実行中でした。メンバーのホーム・ホストがアクティブになり、データベース・マネージャーによってホーム・ホストに再配置するまで、このメンバーは引き続き `restart light` モードで実行されます。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL1683N **DB2START** の処理中にエラーが発生しました。データベース・マネージャーは、**DB2** メンバー (**ID identifier**) をホスト `host-name` で **light** メンバーとして再始動しようとして失敗しました。

説明: ホスト上で実行中の **DB2** アイドル・プロセスがないか、**DB2** アイドル・プロセスの 1 つのアクティブ化が失敗したために、メンバーはホストの **light** メンバーとして開始できませんでした。

ユーザーの処置: ホストで問題を調査してください。

SQL1684N **DB2START** の処理中にエラーが発生しました。データベース・マネージャーは、**DB2 pureCluster** 環境のコンポーネントを開始できませんでした。

説明: メモリーまたは CPU リソースの不足、あるいは **DB2** クラスタ・ファイル・システムの問題のために、**DB2 pureCluster** 環境のコンポーネントを開始できませんでした。

ユーザーの処置: `db2cluster` コマンドを実行して **DB2** クラスタ・ファイル・システムの正常性を確認してく

ださい。さらに、DB2 pureCluster インスタンスのホストに十分なメモリーおよび CPU リソースがあることを確認してください。

SQL1685N データベース・マネージャーが 1 つ以上の CF を開始できなかったために、DB2 メンバー (ID *identifier*) の DB2START の処理の間にエラーが発生しました。

説明: データベース・マネージャーがクラスター・キャッシング・ファシリティ (CF) を開始できなかったために、DB2 メンバーは開始できませんでした。

このメッセージが返される理由はいくつかあります。例えば、CF_MEM_SZ メモリー構成パラメーターがシステムの物理メモリー限度よりも大きな値に設定されたために、このメッセージが返されることがあります。

CF_MEM_SZ の設定が大きすぎるためにこのメッセージが返される場合は、要求を処理するためのシステム・リソースが不足していることを示すメッセージが db2diag ログ・ファイルに含められます。

ユーザーの処置: 以下のステップを実行して、インスタンスに機能する CF が構成されていることを確認してください。

1. 以下の db2cluster コマンドを使用して CF の問題を識別します。

```
db2cluster -cm -list -alert
```
2. -clear パラメーターを指定した db2cluster コマンドを使用して、識別した問題を解決します。

```
db2cluster -cm -clear -alert
```

これらのパラメーターを指定して db2cluster コマンドを実行するには、SYSADM、SYSCTL、または SYSMANT 権限が必要です。

CF が保守中である場合、保守の完了後に db2start INSTANCE ON コマンドを実行します。

SQL1686N データベース・マネージャーがホストをアクティブ化できなかったために、ホスト *host-name* での DB2START の処理中にエラーが発生しました。

説明: DB2 クラスター・サービスがホストをアクティブ化して DB2 pureCluster クラスターを再結合しようとして失敗しているときに、データベース・マネージャーがホストでのインスタンスの開始を試みました。

ユーザーの処置: DB2 クラスター・サービスがホストをアクティブ化して DB2 クラスターに再結合することに失敗した原因を判別してください。

SQL1687N DB2STOP の処理中にエラーが発生しました。DB2 メンバー (ID *identifier*) は再始動リカバリーを実行中か、未解決の未確定トランザクションがあります。

説明: 再始動リカバリーの実行中、または未解決の未確定トランザクションがある場合は、メンバーは停止できません。

ユーザーの処置:

1. -list パラメーターを指定した db2instance コマンドを使用して、このメンバーの状況を判別してください。DB2_MEMBER 管理ビューまたは DB2_GET_INSTANCE_INFO 表関数を使用することもできます。
2. 未確定トランザクションがある場合は解決してください。

SQL1688N DB2STOP は CF (ID *identifier*) を停止できませんでした。理由コード *reason*。

説明: 理由コードは、このエラーが戻された理由を示しています。

1

クラスター・キャッシング・ファシリティ (CF) は引き続きダーティー・ページを持っているかロックを保持しています。

2

指定された CF はインスタンス内で実行されている唯一の CF です。

3

1 次 CF は、2 次 CF が PEER 状態になってテークオーバーの準備が整うまでは停止できません。2 次 CF は、初期の CATCHUP 状態から PEER 状態への移行が完了していません。

4

インスタンスは CF 1 次ロールのフェイルオーバーの処理中であり、CF は停止できません。

ユーザーの処置: 以下のように、理由コードに応じてこのメッセージに対応します。

1

実行中のアクティブなメンバーがないことを確認してください。db2stop CF コマンドを再度発行する前に、CF がダーティー・ページをフラッシュするのを待機する必要もあります。

2

以下のステップを実行してください。

SQL1689W

1. アクティブなメンバーがある場合、db2stop MEMBER コマンドを使用して各メンバーを停止します。
2. メンバーが停止した後に、db2stop のグローバル呼び出しを使用して CF を停止します。

3

2 次 CF が PEER 状態に移行するまで待機してから、このコマンドを再実行します。この情報については、DB2_CF 管理ビューの STATE 列を参照してください。

4

グローバルの db2stop FORCE コマンドを実行してインスタンスを停止します。

SQL1689W DB2STOP の処理が正常に終了しました。しかし、DB2 メンバー (ID *identifier*) が、ホーム・ホスト *host-name* 以外のホストでリカバリー・モードで実行されていました。

説明: メンバーは正常に停止しましたが、メンバーが実行されていたホストがホーム・ホストではありませんでした。そのメンバーは別の DB2 メンバーのホストで light モードで実行されていました。一般に、light モードで実行中の DB2 メンバーを停止することは推奨されていません。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

メンバーがホーム・ホスト以外のホストで light モードで実行されている場合、ユーザーは必要なアクションを実行して、メンバーを停止する前にデータベース・マネージャーによってメンバーがホーム・ホストに再配置されるようにすることを推奨します。

SQL1690N DB2 メンバーまたは CF (ID *identifier*, ホスト *host-name*) の DB2STOP の処理中にエラーが発生しました。理由コード *reason-code*

説明: 理由コードは、このエラーが戻された理由を示しています。

1

ホストが使用不可であるか、ホストとの接続を確立しようとするときに TCP/IP 通信エラーが発生したために、ホストに到達できません。

このメッセージは、パスワードの有効期限が切れているときに返される場合もあります。

ユーザーの処置: 以下のように、理由コードに応じてこ

のメッセージに対応します。

1

理由コード 1 の場合は、以下のトラブルシューティング・アクティビティを実行します。

- ホストが、.rhosts または host.equiv ファイルの正しい許可を持っていることを確認してください。
- このアプリケーションが同時に (500 + (1995 - 2 * total_number_of_nodes)) を超えるファイル記述子を使用していないことを確認してください。
- すべての Enterprise Server Edition 環境変数がプロファイル・ファイルで定義されていることを確認してください。
- プロファイル・ファイルが Korn シェルのスクリプト・フォーマットで記述されていることを確認してください。
- すべてのホスト名値が、再始動オプションの入った sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルに定義されているホスト名を持っているかを確認してください。
- DB2FCMCOMM レジストリー変数が正しく設定されていることを確認してください。

次に DB2STOP コマンドを再実行してください。

詳しくは、db2diag ログ・ファイルを参照してください。

SQL1691N ホスト *host-name* での DB2STOP の処理中にエラーが発生しました。理由コード *reason-code*データベース・マネージャーは、ホストを保守のためにダウンできませんでした。

説明: 理由コードは、このエラーが戻された理由を示しています。

1

ホスト上で 1 つ以上の DB2 メンバーまたはクラスター・キャッシング・ファシリティー (CF) が引き続きアクティブであり、停止できませんでした。

2

インスタンスが引き続きアクティブであり、このホストで実行中の CF を停止できません。

アクティブな DB2 メンバーまたは CF が実行中であるため、ホスト上のインスタンスを停止できませんでした。

ユーザーの処置: 以下のように、理由コードに応じてこのメッセージに対応します。

1

db2stop MEMBER または db2stop CF コマンドを実行してメンバーまたは CF を停止してから、ホスト上のインスタンスを停止してください。ホスト上のインスタンスを強制的にシャットダウンするには、db2stop INSTANCE ON コマンドに FORCE オプションを指定して実行します。

2

すべてのメンバーが停止していることを確認してから db2stop INSTANCE ON コマンドを再試行します。

SQL1692N DB2STOP の処理中にエラーが発生しました。データベース・マネージャーは、DB2 pureCluster 環境のコンポーネントを停止できませんでした。

説明: DB2 pureCluster 環境のコンポーネントは DB2 クラスター・サービスに回答できず、シャットダウンできませんでした。

ユーザーの処置: プロセスまたはプロセス間通信 (IPC) リソースは手動でクリーンアップする必要があります。

SQL1693N データベース・マネージャーがホストの非アクティブ化に失敗したため、ホスト *host-name* での DB2STOP の処理中にエラーが発生しました。データベース・マネージャーは、ホストを保守のためにダウンできませんでした。

説明: DB2 クラスター・サービスがホストを一時的に DB2 pureCluster クラスターから外すことに失敗しているときに、データベース・マネージャーがホスト上のインスタンスを停止しようとした。

ユーザーの処置: DB2 クラスター・サービスがホストを一時的に DB2 pureCluster クラスターの外に出すことに失敗した原因を判別してください。

SQL1694N コマンド・オプション *option* は、DB2 pureCluster インスタンスには無効です。

説明: 一部のオプションは、特定のインスタンス・タイプでのみサポートされます。指定されたオプションは、DB2 pureCluster インスタンスでは使用できません。

ユーザーの処置: DB2 pureCluster インスタンスでサポートされるコマンド・オプションを使用してください。

sqlcode: -1694

sqlstate: 56038

SQL1695N コマンド・オプション *option* は、DB2 pureCluster インスタンス以外のインスタンスには無効です。

説明: 一部のオプションは、特定のインスタンス・タイプでのみサポートされます。指定されたオプションは、DB2 pureCluster インスタンス以外のインスタンスでは使用できません。

ユーザーの処置: DB2 pureCluster インスタンス以外のインスタンスでサポートされるコマンド・オプションを使用してください。

sqlcode: -1695

sqlstate: 56038

SQL1700N データベースのアップグレード中に、予約済みスキーマ名 *name* がデータベースで見つかりました。

説明: データベースに含まれる 1 つ以上のデータベース・オブジェクトでスキーマ名 *name* が使用されていますが、これはデータベース・アップグレード先となる DB2 コピー・バージョンでは予約されたスキーマ名です。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 予約済みスキーマ名を使用するすべてのデータベース・オブジェクトがドロップされていることを確認し、別のスキーマ名を使用して、オブジェクトを再作成してください。

データベース・アップグレードを取り消し、データベース・アップグレード前にデータベースがあった DB2 コピー・バージョンを使用して修正を行います。

もう一度データベース・アップグレードを行う前に、予約済みスキーマ名が使用されていないことを確認してください。

その後、データベースのアップグレード先である DB2 コピー・バージョンから UPGRADE DATABASE コマンドを再発行します。

SQL1701N データベースが異常終了したため、データベースをアップグレードできません。

説明: データベースのアップグレードを試みる前に、(例えば電源障害のために) データベースが異常終了しました。データベースを正常にアップグレードできるよう

SQL1702W

にするには、まずデータベースを再始動する必要があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: データベースのアップグレードを試みる前に、データベースが格納されていた DB2 コピーを使用して RESTART DATABASE コマンドを発行する必要があります。その後、アップグレード先の DB2 コピー・バージョンから UPGRADE DATABASE コマンドを再発行します。

SQL1702W *protocol* 接続マネージャーが、正常に始動しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL1703W データベースのアップグレード中に db2event ディレクトリーを作成できませんでした。

説明: データベースは正常にアップグレードされましたが、db2event ディレクトリーを作成できませんでした。

これは警告です。

ユーザーの処置: イベント・モニターを使用するには、db2event ディレクトリーを作成する必要があります。db2event ディレクトリーは、アップグレード後のデータベースが格納されるデータベース・ディレクトリーの中に作成する必要があります。データベース・アップグレード後のデータベース・ディレクトリーを判別するには、LIST DATABASE DIRECTORY コマンドを発行できます。

SQL1704N データベースのアップグレードに失敗しました。理由コード *reason-code*

説明: データベースのアップグレードに失敗しました。理由コードは以下のとおりです。

2

データベースが以下のいずれかの状態である可能性があるため、データベースをアップグレードできません。

- バックアップ・ペンディング状態
- リストア・ペンディング状態
- ロールフォワード・ペンディング状態
- トランザクション不整合状態
- HADR は、データベースが不整合であるとマークしました。

3

データベース・ログがいっぱいです。

4

ディスク・スペースが足りません。

5

データベース構成ファイルを更新できません。

7

データベース・サブディレクトリーまたはデータベース・ファイルのいずれかにアクセスできません。

8

データベース・コンテナ・タグを更新できません。

9

表スペース・アクセスが許されていません。

17

システム・カタログ表スペースから新規ページを割り振ることができません。

21

データベースのアップグレードは、カタログ・パーティションでは完了しましたが、その他のすべてのデータベース・パーティションで完了したわけではありません。ノード障害や接続障害などのシステム・エラーのためにアップグレードできないデータベース・パーティションがあります。

22

データベース・パーティションの障害や接続障害などのシステム・エラーによりカタログ・パーティションをアップグレードできないため、データベースのアップグレードが失敗しました。

24

dbpath/db2event/db2detaildeadlock イベント・モニター・ディレクトリーの作成エラー。dbpath はデータベースの作成に使用されるファイル・パスです。

ユーザーの処置: 理由コードに基づいた解決策は、以下のとおりです。

2

データベース・アップグレードを取り消し、アップグレード前にデータベースがあった DB2 コピー・バージョンで必要な訂正アクションを実行してデータベースの状態を修正してください。HADR システムでは、HADR 1 次データベースのアップグレードを試行する前に、stop

HADR を発行する必要があります。データベースのアップグレード先である DB2 コピー・バージョンから UPGRADE DATABASE コマンドを再サブミットします。

3

データベース構成パラメーター logfilsiz または logprimary をより大きな値に増やしてください。UPGRADE DATABASE コマンドを再サブミットしてください。

4

十分なディスク・スペースがあることを確認して、UPGRADE DATABASE コマンドを再サブミットしてください。

5

データベース構成ファイルも更新に問題がありました。データベース構成ファイルが他のユーザーによって排他的に保持されておらず、更新可能であることを確認してください。

UPGRADE DATABASE コマンドを再サブミットしてください。問題が続く場合は、IBM 技術員に連絡してください。

7

データベース・バックアップからデータベースをリストアしてください。

8

UPGRADE DATABASE コマンドを再サブミットしてください。問題が続く場合、IBM サービス担当者に連絡してください。

9

データベース・アップグレードを取り消し、表スペース・アクセスを訂正してください。データベースのアップグレード先である DB2 コピー・バージョンから UPGRADE DATABASE コマンドを再サブミットします。表スペースの訂正に必要なアクションについてはメッセージ SQL0290N を参照してください。

17

システム・カタログ表スペースが自動ストレージ DMS 表スペースまたは SMS 表スペースである場合、システム・カタログ表スペースのために少なくとも 50% の空きディスク・スペースが使用できることを確認してから、データベースをアップグレードします。システム・カタログ表スペースが DMS 表スペースである場合、データベース・アップグレードを元に戻して、アップグレード前のデータベースが格納さ

れていた DB2 コピー・バージョンから、システム・カタログ表スペースにさらにコンテナを追加します。データベースのアップグレード用に 50% のフリー・スペースを割り振らなければなりません。データベースのアップグレード先である DB2 コピー・バージョンから UPGRADE DATABASE コマンドを再サブミットします。

21

管理通知ログをチェックして、アップグレードできないデータベース・パーティションを判別してください。状態を訂正し、UPGRADE DATABASE コマンドを再サブミットします。データベース・アップグレードはアップグレードを必要とするデータベース・パーティションでしか行われなため、どのデータベース・パーティションからでも UPGRADE DATABASE コマンドをサブミットできます。

22

カタログ・パーティションでのデータベース・パーティション障害状態を訂正してください。UPGRADE DATABASE コマンドを再サブミットしてください。

24

dbpath/db2event/db2detaildeadlock イベント・モニター・ディレクトリーを除去します (dbpath はデータベースの作成に使用されるファイル・パス)。UPGRADE DATABASE コマンドを再サブミットしてください。

SQL1705W データベース・ディレクトリー項目を、現行リリース・レベルに更新できません。

説明: 前のリリースからアップグレードされたばかりのデータベースのデータベース・ディレクトリーで、1 つ以上のデータベース別名を更新できませんでした。

ユーザーの処置: アップグレード後のデータベースに関するデータベース別名をアンカタログした後、同じ情報を使って再びカタログします。

SQL1706W ワード・サイズ・インスタンスの更新中に、このインスタンスのノード・ディレクトリー内で、ローカルではないデータベースが少なくとも 1 つ見つかりました。

説明: ワード・サイズ・インスタンスの更新中に、このインスタンスで作成されていないデータベースが少なくとも 1 つ見つかりました。インスタンスの更新を正常に完了するには、このようなデータベースが、このイン

SQL1707N • SQL1754N

スタンスと同じワード・サイズを持っていないかもしれません。

ユーザーの処置: インスタンスでカタログされたデータベースがすべて、同じワード・サイズを持つようにしてください。

SQL1707N インスタンスのワード・サイズを更新できません。

説明: インスタンスのワード・サイズを更新しようとして、エラーが発生しました。IBM サービス担当者に連絡してください。

ユーザーの処置: IBM サービス担当者に連絡してください。

SQL1708W データベースのアップグレードが完了しましたが、警告コード *warning-code* が出されました。

説明: データベースのアップグレードは完了しましたが、警告が生成されました。警告コードは以下のとおりです。

1

1 つ以上のデータベース・パーティションがアップグレードされませんでした。

ユーザーの処置: 警告コードに基づく解決方法:

1

UPGRADE DATABASE コマンドを再発行します。

SQL1751N 結果として生成されるデータベース・パーティション・グループには、パーティション・マップで使用できるノードが含まれません。

説明: データベース・パーティション・グループには、パーティション・マップで使用できるノードが少なくとも 1 つ含まれる必要があります。表スペースのないデータベース・パーティション・グループにノードが追加される場合、このデータベース・パーティション・グループには表スペース用のコンテナが定義されていないため、そのノードをパーティション・マップに含めることはできません。ノードが追加される場合、そのデータベース・パーティション・グループのすべての表スペース用のコンテナが他方のノードになれば、どちらのノードもパーティション・マップに含めることはできません。

ユーザーの処置: 少なくとも 1 つのノードを追加しないまま、データベース・パーティション・グループ内のすべてのノードをドロップしないでください。データバ

ース・パーティション・グループに表スペースが既に定義されているものの、表が存在しない場合には、少なくとも 1 つのノードにすべての表スペース用のコンテナがあることを確認してください。

sqlcode: -1751

sqlstate: 428C0

SQL1752N データベース・パーティション・グループ *db-partition-group* の中に表スペースを作成できません。

説明: 表スペースが SYSTEM TEMPORARY 表スペースである場合にのみ、データベース・パーティション・グループ IBMTEMPGROUP を指定できます。

ユーザーの処置: SYSTEM TEMPORARY 表スペースの場合、データベース・パーティション・グループ IBMTEMPGROUP を指定してください。他の種類の表スペースの場合は、IBMTEMPGROUP 以外のデータベース・パーティション・グループを指定してください。

sqlcode: -1752

sqlstate: 429A1

SQL1753N データベース・パーティション *database-partition-number* には、データベース・パーティション・グループ IBMTEMPGROUP で定義されているすべての SYSTEM TEMPORARY 表スペースのためのコンテナがありません。

説明: データベース・パーティションをデータベース・パーティション・グループに含めるには、その前に、このデータベースに関するデータベース・パーティション・グループ IBMTEMPGROUP で定義済みのすべての SYSTEM TEMPORARY 表スペース用のコンテナが定義されていない限りなりません。

ユーザーの処置: ALTER TABLESPACE ステートメントを発行することにより、すべてのデータベース・パーティションで、このデータベースの各 SYSTEM TEMPORARY 表スペース用のコンテナを追加してください。

sqlcode: -1753

sqlstate: 57052

SQL1754N この索引表スペースまたは LONG 表スペースは、PRIMARY 表スペースと同じデータベース・パーティション・グループに入っていません。

説明: CREATE TABLE ステートメントで指定されたすべての表スペースは、同じデータベース・パーティシ

ョン・グループに属する必要があります。

ユーザーの処置: CREATE TABLE ステートメントで指定されたすべての表スペースが同じデータベース・パーティション・グループに属していることを確認してください。

sqlcode: -1754

sqlstate: 42838

SQL1755N データベース・パーティション *dbpartnum* には、データベース・パーティション・グループ *dbpartgrpname* で定義されているすべての表スペースのためのコンテナがありません。

説明: データベース・パーティション・グループ内のすべての表スペースには、すべてのデータベース・パーティションで定義されたコンテナがなければなりません。そうでない場合、データベース・パーティションをデータベース・パーティション・グループの再配分または ALTER DATABASE PARTITION GROUP ステートメントの LIKE DBPARTITIONNUM 節に含めてはなりません。

ユーザーの処置: ALTER TABLESPACE ステートメントを発行し、このデータベース・パーティション上のすべての表スペースにコンテナを追加してください。

SQL1756N 複数の節は、ON DBPARTITIONNUMS 節を使用せずにコンテナを指定します。

説明: CREATE TABLESPACE の場合、ON DBPARTITIONNUMS 節を使用しない USING 節を一度のみ指定できます。

ALTER TABLESPACE の場合、ON DBPARTITIONNUMS 節を使用しない ADD 節を一度のみ指定できます。

このステートメントは処理されませんでした。

ユーザーの処置: ステートメントを訂正して、もう一度やり直してください。

sqlcode: -1756

sqlstate: 428B1

SQL1757N ON DATABASE PARTITION 節を伴わない USING 節がありません。

説明: CREATE TABLESPACE ステートメントで、各 USING 節が ON DATABASE PARTITION 節を指定します。しかし、データベース・パーティション・グループに、すべてのデータベース・パーティションは組み込まれていないので、すべてのデータベース・パーティシ

ョン・グループのすべてのデータベース・パーティションにコンテナがあるわけではありません。

このステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ON DATABASE PARTITION 節を使用しない USING 節が指定されているか、または、データベース・パーティション・グループの各データベース・パーティションが一回 ON DATABASE PARTITION 節に組み込まれていることを確認してください。

sqlcode: -1757

sqlstate: 428B1

SQL1758W 特定ノードに指定されていないコンテナは、他のノードの表スペースで使用されません。

説明: ALTER TABLESPACE および CREATE TABLESPACE ステートメントには、このデータベース・パーティション・グループのすべてのデータベース・パーティションに対するコンテナ指定が組み込まれています。ON DATABASE PARTITION 節が後に続かないコンテナの指定は、冗長であるため無視されています。

このステートメントは処理されました。

ユーザーの処置: 複数ノードでコンテナが必要な場合、ALTER TABLESPACE ステートメントを発行し、必要なコンテナを追加してください。

sqlcode: +1758

sqlstate: 01589

SQL1759W 再配分データベース・パーティション・グループでは、追加されたデータベース・パーティションを含めたり、ドロップされたデータベース・パーティションを除外したりするために、データベース・パーティション・グループ *database-partition-group-name* 内のオブジェクト用のデータベース・パーティションを変更する必要があります。

説明: この警告は、ALTER DATABASE PARTITION または ALTER TABLESPACE ステートメントを使用してなされた変更が、データベース・パーティション・グループのパーティション・マップを変更しなかったことを示しています。データベース・パーティション・グループのパーティション・マップを、データベース・パーティション・グループで定義された表スペースまたはパーティション・マップにないドロップされるデータベース・パーティションを使用して定義された表がない場

SQL1760N

合、次のステートメントで即時に変更のみします。

この警告は次の場合に発行されます。

- ALTER DATABASE PARTITION ADD DATABASE PARTITION を使用することにより 1 つ以上のデータベース・パーティションを追加する場合。
- ALTER DATABASE PARTITION DROP DATABASE PARTITION を使用することにより 1 つ以上のデータベース・パーティションをドロップする場合。
- コンテナが表スペースに対して追加され、それ以降コンテナは使用されるデータベース・パーティションは要求されません。

これらのすべての場合、表はすでにデータベース・パーティション・グループ内の表スペースを使用して定義されています。

ユーザーの処置: データベース・パーティションのためにデータベース・パーティションを組み込みまたは除外する場合、REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION コマンドまたは API を発行してください。それに代わる方法として、すべての表をドロップするには、データベース・パーティション・グループの表スペースを使用してください。

sqlcode: +1759

sqlstate: 01618

SQL1760N ストアド・プロシージャ
procedure-name の定義に使用される
CREATE PROCEDURE または **ALTER MODULE** ステートメントは、有効な
LANGUAGE 節、**EXTERNAL** 節、および
PARAMETER STYLE 節を持っているか、または **SQL** プロシージャ本体が組み込まれていなければなりません。

説明: プロシージャ *procedure-name* の定義に使用される **CREATE PROCEDURE** または **ALTER MODULE** ステートメントに、必須の節がありません。**LANGUAGE** 節、**EXTERNAL** 節、および **PARAMETER STYLE** 節を指定しなければなりません。**SQL** プロシージャだけがプロトタイプの公開を許可するので、モジュールで定義された外部プロシージャは完全に指定されなければなりません。

SQL プロシージャの定義時には、**ALTER MODULE** の **PUBLISH** アクションを使用して **SQL** プロシージャ・プロトタイプを定義するのでない限り、**SQL** プロシージャ本体を組み込まなければなりません。

ユーザーの処置: 足りない節を追加した後で、もう一度やり直してください。

sqlcode: -1760

sqlstate: 42601

SQL1761N データベース・パーティション・グループ
db-partition-group はバッファ・プール
bpname に定義されていません。

説明: 表スペースのためのデータベース・パーティション・グループは、バッファ・プールにまだ定義されていません。このデータベース・パーティション・グループとバッファ・プールの組み合わせを使用するよう、表スペースを作成または変更することはできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 可能なアクションは以下のとおりです。

- 表スペースのデータベース・パーティション・グループを既に定義しているバッファ・プールを指定する
- バッファ・プールを変更して、表スペースのデータベース・パーティション・グループを追加する
- **CREATE TABLESPACE** の場合、バッファ・プールに定義されているデータベース・パーティション・グループを指定する

sqlcode: -1761

sqlstate: 42735

SQL1762N アクティブ・ログ・ファイルに割り振るだけの十分なスペースがないため、データベースに接続することができません。

説明: アクティブ・ログ・ファイルに割り振るだけの十分なディスク・スペースがありません。次のような理由が考えられます。

- リカバリー・ログを保管するのに使用するデバイスで使用できるスペースが足りない。
- ユーザー出口が有効である場合は、正しくないパス、正しくないインストール・ディレクトリー、共有違反、またはその他の問題のために、ユーザー出口プログラムが失敗した可能性があります。
- ログ・アーカイブが使用可能になっている場合、ログ・アーカイブ方式が機能していないか、ターゲットがアクセス不能になっている可能性があります。

ユーザーの処置: それぞれの原因について、次のように対処してください。

- データベースが少なくとも **LOGPRIMARY** ログ・ファイルで開始するために、**DB2** では新規ログを割り振るための追加のスペースを必要とする場合があるので、1 次ログ用にデバイスに十分なスペースがあることを確認してください。リカバリー・ログが非アク

タイプであっても、スペースを解放するためにリカバリ・ログを削除しないでください。

- ユーザー出口プログラムを手操作で呼び出すことにより、ユーザー出口プログラムが正しく操作していることを確認してください。ユーザー出口プログラムのコンパイルおよびインストールについては、ユーザー出口プログラムのサンプル・ソース・コードで提供されている指示を検討してください。アーカイブ宛先パスが存在しているかを確認してください。
- ログ・アーカイブ方式が正しく機能していることを確認してください。エラーが発生する場合は、db2diag.log ファイルで詳細を確認してください。

最後の手段として、LOGPRIMARY または LOGFILSIZ データベース構成パラメーター、あるいはこの両方の値を減らして、アクティブ・ログ・ファイルの設定を小さくして使用するようになしてください。これにより、ディスク・スペースの所要量が減ります。

問題を判別し、訂正した後に、接続ステートメントを再発行してください。

SQL1763N 表スペース *table-space-name* に対する ALTER TABLESPACE ステートメントは、理由 *reason-code* のため無効です

説明: ALTER TABLESPACE ステートメントに指定された節どうしを連携させて使用することはできません。

1

CONVERT TO LARGE 節は単独で指定する必要があります。

2

BEGIN NEW STRIPE SET コンテナ節は、その他のコンテナ節 (ADD、DROP、EXTEND、REDUCE または RESIZE) とともに指定することはできません。

3

表スペースに対してスペースを追加または除去する場合には、以下のようになります。

1. 各コンテナのサイズを増やす場合は、同じステートメントに EXTEND と RESIZE を使用できます。
2. 各コンテナのサイズを減らす場合は、同じステートメントに REDUCE と RESIZE を使用できます。
3. スペースを別のデータベース・パーティションに移さない場合には、同じステートメントで EXTEND と REDUCE を使用できません。

4

4. スペースを別のデータベース・パーティションに移さない場合には、同じステートメントで ADD を REDUCE または DROP とともに使用できません。
5. スペースを別のデータベース・パーティションに移さない場合には、同じステートメントで DROP を EXTEND または ADD とともに使用できません。

自動ストレージ管理表スペースを変更する際に、コンテナ節を REDUCE オプションと結合させて使用することはできません。

5

非自動ストレージ管理表スペースを変更する際に、コンテナ節を指定する必要があります。

6

自動ストレージを使用するよう、TEMPORARY 表スペースおよびシステムで管理される表スペース (SMS) を変換することはできません。

7

データベースにストレージ・グループがありません。

8

ALTER TABLESPACE ステートメントを使って、自動ストレージを使用するよう、DEVICE コンテナを含む DMS (データベースで管理される表スペース) を変換することはできません。

9

REBALANCE 節は単独で指定する必要があります。

10

REDUCE MAX 節、またはサイズを指定した REDUCE 節は、再利用可能ストレージ属性を持つ、自動ストレージによって管理される表スペースでのみ使用できます。

11

再利用可能ストレージ属性を持たない表スペースでは、高水準点を削減する (または低くする) 節を使用できません。

12

MAX、数値、PERCENT、または STOP いずれかの節を指定した REDUCE オプションと、STOP 節を含んだ LOWER HIGH WATER MARK オプションは、一緒に指定して実行す

ることができません。これらと他のオプションを併用することもできません。

13

ADD、DROP、RESIZE、EXTEND、REDUCE、LOWER HIGH WATER MARK、および BEGIN_STRIPE_SET 節は、MANAGED BY AUTOMATIC STORAGE 節や USING STOGROUP 節とは併用できません。

14

自動ストレージ・ハイブリッド表スペースを変更する際は、USING STOGROUP 節を指定できません。

ユーザーの処置:

1

独自の ALTER TABLESPACE ステートメントに CONVERT TO LARGE 節を指定して発行します。

2

BEGIN NEW STRIPE SET コンテナ操作と他の操作を同一ステートメントの中で使用する場合は、BEGIN NEW STRIPE SET 操作を、その操作独自の ALTER TABLESPACE ステートメントに移動してください。

3

表スペースへのページの追加と、表スペースからのページの除去の両方を行う場合は、2 つの ALTER TABLESPACE ステートメントを使用してください。

4

ALTER ステートメントからコンテナ節を除去し、ステートメントを再発行してください。

5

削減するコンテナのリストを含むコンテナ節を指定して、ステートメントを再発行してください。

6

自動ストレージを使用するよう TEMPORARY 表スペースを変換するには、自動ストレージによって管理される新しい TEMPORARY 表スペースを作成し、古い TEMPORARY 表スペースをドロップしてください。表スペースをシステム管理から自動ストレージ管理に変換するには、すべてのデータを手動で移動する必要があります。

7

CREATE STOGROUP ステートメントを使用してストレージ・グループを作成します。表スペースを自動ストレージによって管理できるのは、ストレージ・グループが作成されている場合のみです。

8

DEVICE コンテナを使用するデータベース管理表スペースを自動ストレージ管理に変換するには、以下のステップを実行します。

1. 表スペースまたはデータベース・レベルのリダイレクト・リストア操作を実行します。
2. USING AUTOMATIC STORAGE オプションを指定して SET TABLESPACE CONTAINERS コマンドを発行します。

9

独立した ALTER TABLESPACE ステートメントで REBALANCE 節を発行します。

10

REDUCE MAX 節、またはサイズを指定した REDUCE 節を使用する前に、表スペースを自動ストレージ管理に変換し、表スペースに再利用可能ストレージ属性があることを確認します。

11

高水準点を削減する (または低くする) 節を使用する前に、再利用可能ストレージ属性を表スペースに設定する必要があります。

12

各 ALTER TABLESPACE ステートメントでは、高水準点を削減する (または低くする) 節を 1 つだけ使用してください。

13

ALTER ステートメントから ADD、DROP、RESIZE、EXTEND、REDUCE、LOWER HIGH WATER MARK、または BEGIN_STRIPE_SET 節を除去し、ステートメントを再発行します。

14

表スペースに自動ストレージ・コンテナだけが含まれるようにするために REBALANCE 節を発行します。リバランス操作が完了した後、USING STOGROUP 節を指定した ALTER TABLESPACE を発行します。

sqlcode: -1763

sqlstate: 429BC

SQL1764N ALTER TABLESPACE ステートメントで RESIZE アクションに指定されたサイズが、現在の表スペース・コンテナのサイズより小さくなっています。

説明: ALTER TABLESPACE ステートメントの RESIZE アクションを使用して指定したサイズが、表スペース・コンテナの現在の大きさより小さくなっています。コンテナのサイズのみを大きくすることができます。

ユーザーの処置: 表スペース・コンテナの現在のサイズの値よりも大きなサイズを指定してください。

sqlcode: -1764

sqlstate: 560B0

SQL1765W 更新が正常に完了しました。しかし、2 次データベース・サーバーで索引の作成、再作成、または再編成がリカバリーされていない可能性があります。

説明: HADR を有効にする場合は、データベース構成パラメーター LOGINDEXBUILD をオンに設定し、データベースまたはデータベース・マネージャーの構成パラメーター INDEXREC を RESTART または ACCESS に設定することをお勧めします。そうしないと、HADR を使用する現在または将来の 2 次データベース・サーバー上では、現在または将来の 1 次データベース・サーバーでの索引の作成、再作成、または再編成はリカバリーできなくなることがあります。リカバリーできない索引には無効のマークが付けられ、HADR のテークオーバー・プロセスの終了時点か、または HADR テークオーバーの後の索引へのアクセス時点に、暗黙で再ビルドされます。

ユーザーの処置: フル・ロギングを有効にするには、データベース構成パラメーター LOGINDEXBUILD を更新するか、または SQL ステートメント ALTER TABLE LOG INDEX BUILD ON を発行します。ログ済みの索引作成操作の再実行を有効にするには、構成パラメーター INDEXREC を RESTART または ACCESS に更新します。

SQL1766W コマンドは正常に完了しました。しかし、HADR 開始まで LOGINDEXBUILD は有効ではありませんでした。

説明: HADR の開始前にデータベース構成パラメーター LOGINDEXBUILD が ON に設定されていないと、現在または将来の 1 次データベース・サーバーでの索引の作成、再作成、または再編成を、HADR を使用する

現在または将来の 2 次データベース・サーバー上ではリカバリーできなくなることがあります。

ユーザーの処置: フル・ロギングを有効にするには、データベース構成パラメーター LOGINDEXBUILD を ON に設定します。

SQL1767N HADR の開始を完了できません。理由コード = reason-code。

説明: HADR の開始を完了できません。理由コードに対応する説明は、以下のとおりです。

1

START HADR AS STANDBY コマンドを発行しましたが、そのときのデータベースの状態は、ロールフォワード・ペンディングでもロールフォワード進行中でもありませんでした。

2

HADR スタンバイ・データベース上では START HADR AS PRIMARY を発行できません。

3

START HADR AS STANDBY をアクティブなデータベース上で発行することはできません。

97

コマンドは、DB2 pureCluster 環境で発行されました。

98

有効な HADR ライセンスがインストールされていません。コマンドは正常に完了しませんでした。

99

コマンドは、複数パーティション・インスタンス環境で発行されました。

ユーザーの処置: 理由コードに対応するユーザー応答は、以下のとおりです。

1

1 次データベースのバックアップ・イメージまたはスプリット・ミラーからスタンバイ・データベースを初期化してから、START HADR AS STANDBY コマンドを再発行してください。

2

スタンバイ・データベースを 1 次データベースに変更する予定の場合、TAKEOVER コマンドを発行します。

SQL1768N

3

1 次データベースをスタンバイ・データベースに変更する予定の場合、現在のスタンバイから TAKEOVER コマンドを発行します。標準データベースをスタンバイに変更する場合、先にそのデータベースを非アクティブ化する必要があります。

97

DB2 pureCluster 環境では HADR フィーチャーはサポートされていません。

98

有効な HADR ライセンスを入手してインストールし、コマンドを再サブミットします。

99

複数パーティション・インスタンス環境では HADR フィーチャーはサポートされていません。

SQL1768N HADR を始動できません。理由コード = reason-code。

説明: 理由コードに対応する説明は、以下のとおりです。

1

循環ロギングを使用中のため、データベースをリカバリーできません。

2

データベースでは、無限にアクティブなロギングが有効になっています。

3

データベースでは、DATA LINKS が有効になっています。

4

hadr_local_host 構成パラメーターの項目が無効です。

5

hadr_local_svc 構成パラメーターのサービス名が無効です。

6

hadr_remote_svc 構成パラメーターのサービス名が無効です。

7

1 次データベースは、HADR タイムアウト期間内にスタンバイへの接続を確立できませんでし

た。このエラー条件の原因となるシナリオは複数あります。例えば、1 次データベースの *hadr_timeout* 構成パラメーターまたは *hadr_peer_window* 構成パラメーターの値がスタンバイ・データベースでの値と異なる場合、このメッセージが理由コード 7 で返されます。

8

1 つ以上の HADR データベース構成パラメーターに値がありません。

9

ロー・ログを使用するようにデータベースが構成されています。しかし、HADR は、データベース・ログ・ファイルでのロー I/O (直接ディスク・アクセス) の使用をサポートしていません。

10

STOP HADR コマンド、データベースの非アクティブ化、または内部エラーが原因で、HADR シャットダウンによってコマンドは中断されました。

11

構成パラメーター *hadr_remote_host*、*hadr_local_host*、または *hadr_target_list* によって指定されている項目が、同じ IP 形式に解決されません。

12

hadr_remote_host 構成パラメーターの項目が無効です。

13

HADR スタンバイ・データベースは、少なくとも 1 つの通常バッファ・プールがないと開始できません。メモリー不足のため、バッファ・プールを開始できませんでした。

14

hadr_target_list 構成パラメーターの項目に、*hadr_remote_host* および *hadr_remote_svc* 構成パラメーターに指定されたペアが含まれていません。

15

hadr_target_list 構成パラメーターの項目を、有効な TCP/IP アドレスに解決できません。

16

hadr_target_list 構成パラメーターに指定されている項目が正しい形式ではありません。

- 17 `hadr_syncmode` 構成パラメーターが SUPERASYNC の場合、`hadr_replay_delay` 構成パラメーターはゼロ以外の値にのみ設定できません。
- 18 HADR 1 次データベースでは、`hadr_replay_delay` 構成パラメーターは 0 にのみ設定できます。
- 19 1 次データベースがもう 1 つ検出されたため 1 次データベースとして始動できません。
- 98 有効な HADR ライセンスがインストールされていません。コマンドは正常に完了しませんでした。
- 99 HADR の開始時に内部エラーが発生しました。
ユーザーの処置: 理由コードに対応するユーザー応答は、以下のとおりです。
- 1 データベースは、リカバリー可能なデータベースでなければなりません。データベース構成パラメーター `logarchmeth1` または `logarchmeth2` を OFF 以外の値に設定することにより、ログ・アーカイブをアクティブ化してください。オフラインでデータベース・バックアップを取ってデータベースをリカバリー可能にし、コマンドを再発行してください。
- 2 無限にアクティブなロギングを無効にしてから、コマンドを再発行してください。
- 3 DATALINKS を NO に設定して、コマンドを再発行するために、データベース・マネージャ構成ファイルを更新します。
- 4 `hadr_local_host` 構成パラメーターをローカル・ホストに関連した IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスにマップできることを確認します。
- 5 `hadr_local_svc` 構成パラメーターが有効なサービス名に設定されていることを確認します。UNIX プラットフォームの場合、`/etc/services` ファイルを編集してください。Windows の場合、`%SystemRoot%\system32\drivers\etc\services` を編集してください。または、このパラメーターのリテラル・ポート番号を指定してもかまいません。
- 6 `hadr_remote_svc` 構成パラメーターが有効なサービス名であることを確認します。UNIX プラットフォームの場合、`/etc/services` ファイルを編集してください。Windows の場合、`%SystemRoot%\system32\drivers\etc\services` を編集してください。または、このパラメーターのリテラル・ポート番号を指定してもかまいません。
- 7 以下のトラブルシューティングのステップを実行します。
1. スタンバイがオンラインになっていて、ネットワークが機能していることを確認してください。
 2. 1 次データベースとスタンバイ・データベースに両立しない構成設定があることを示すその他のエラー・メッセージがないか、`db2diag.log` ファイルを確認します。
 3. `hadr_remote_host` および `hadr_remote_svc` 構成パラメーターが 1 次データベースとスタンバイ・データベースで正しく設定されていることを確認します。
 4. `hadr_timeout` 構成パラメーターの値が 1 次データベースとスタンバイ・データベースの両方で同じであることを確認します。
 5. `hadr_peer_window` 構成パラメーターの値が 1 次データベースとスタンバイ・データベースの両方で同じであることを確認します。
 6. ネットワークの速度が遅い場合は `hadr_timeout` 構成パラメーターを大きくするか、または BY FORCE オプションを使用して 1 次データベースを開始します。
- 8 1 つ以上の HADR データベース構成パラメーターに値があることを確認してください。
- 9 ロー I/O (ダイレクト・ディスク・アクセス) デバイスを使用する代わりに、ログ・ファイルのファイル・システム・ストレージのみを使用するようにデータベースを再構成します。

DB2 インフォメーション・センターの *logpath* および *newlogpath* データベース構成パラメーターの説明を参照してください。

10

HADR シャットダウンの原因を突き止め、必要であれば START HADR コマンドを再発行します。

11

hadr_local_host、*hadr_remote_host*、および *hadr_target_list* 構成パラメーターが同じ IP 形式 (IPv4 または IPv6) になっていること、または同じ形式に解決できることを確認してください。

12

hadr_remote_host 構成パラメーターを IPv4 または IPv6 アドレスにマップできることを確認してください。

13

dbheap 構成パラメーターが適切に構成されていること、および、定義済みのバッファ・プールのサイズに対して十分なメモリーがシステムにあることを確認してください。その後で、操作を再試行してください。HADR スタンバイ上のバッファ・プールのサイズを変更する必要がある場合、新しいバッファ・プールのサイズを含む 1 次データベースからのバックアップ・イメージを使用して、新しいデータベース・リストア操作を実行する必要があります。

14

hadr_target_list 構成パラメーターに、構成パラメーター *hadr_remote_host* および *hadr_remote_svc* で指定されたペアの項目があることを確認します。

15

hadr_target_list 構成パラメーターで指定されたすべての項目が、有効なホスト/サービスのペアであることを確認します。

16

hadr_target_list 構成パラメーターの項目が正しい形式であることを確認します。

17

hadr_replay_delay 構成パラメーターを 0 に設定するか、または *hadr_syncmode* 構成パラメーターを SUPERASYNC に変更します。

18

HADR 1 次データベースで、*hadr_replay_delay* 構成パラメーターが 0 に設定されていることを確認します。

19

1 次データベースとするデータベースを決定します。もう一方の 1 次データベースはドロップするか、またはスタンバイへの変換を試行します。両方を 1 次にする場合は、互いの *hadr_target_list* からそれらを除去することにより、それらを独立したものとなるようにする必要があります。

98

有効な HADR ライセンスを入手してインストールし、コマンドを再サブミットします。

99

問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

SQL1769N HADR の停止を完了できません。理由コード = *reason-code*。

説明: 理由コードに対応する説明は、以下のとおりです。

1

コマンドは、標準データベースで発行されました。

2

コマンドは、アクティブな HADR スタンバイ・データベースで発行されました。

3

STOP HADR コマンド、データベースの非アクティブ化、または内部エラーが原因で、HADR シャットダウンによってコマンドは中断されました。

97

コマンドは、DB2 pureCluster 環境で発行されました。

98

有効な HADR ライセンスがインストールされていません。コマンドは正常に完了しませんでした。

99

コマンドは、複数パーティション・インスタンス環境で発行されました。

ユーザーの処置: 理由コードに対応するユーザー応答は、以下のとおりです。

1

HADR はこのデータベース上で稼働していないので、アクションは不要です。指定したデータベース別名が正しいことを確認してください。

2

ユーザーは、データベースを非アクティブ化してから、コマンドを再発行する必要があります。

3

別の STOP HADR コマンドが原因でコマンドが中断された場合、これ以上のアクションは不要です。そうでない場合は、データベース・インスタンスが始動していることを確認し、STOP HADR コマンドを再発行してください。

97

DB2 pureCluster 環境では HADR フィーチャーはサポートされていません。

98

有効な HADR ライセンスを入手してインストールし、コマンドを再サブミットします。

99

複数パーティション・インスタンス環境では HADR フィーチャーはサポートされていません。

SQL1770N HADR のテークオーバーを完了できません。理由コード = *reason-code*。

説明: 理由コードに対応する説明は、以下のとおりです。

1

非強制的テークオーバー (役割の切り替え) は、HADR スタンバイ・データベースが以下のいずれかの状態である場合にのみ実行できません。

- ピア状態
- 超非同期 (SUPERASYNC) モードのリモート・キャッチアップ状態。

2

HADR スタンバイ・データベースが強制的テークオーバーを試行しました。スタンバイがローカル・ソースからログを読み取っている際には、強制的テークオーバーは許可されません。

この状況には、ローカル・キャッチアップ状態 (ローカルのログ・パスやオーバーフロー・パスから読み取る) と、ログ取得が進行中のリモート・キャッチアップ・ペンディング状態が含まれます。ログ取得が進行中でないリモート・キャッチアップ・ペンディング状態、ピア状態、および切断済みピア状態の際には、強制的テークオーバーが許可されます。

3

スタンバイはオンライン・バックアップから作成され、ログ内のそのバックアップのエンドポイントまでスタンバイが再生する前にテークオーバーが試みられました。

4

標準または HADR 1 次データベースに対してコマンドが発行されました。

5

非アクティブなスタンバイ・データベースに対してコマンドが発行されました。

6

1 次データベースをスタンバイ・データベースに切り替えようとして、エラーが発生しました。

7

テークオーバー中に通信エラーが発生しました。

8

STOP HADR コマンド、データベースの非アクティブ化、または内部エラーが原因で、HADR シャットダウンによってコマンドは中断されました。

9

PEER WINDOW ONLY コマンド・パラメーターが指定された状態で、HADR スタンバイ・データベースが強制的テークオーバーを試行しました。強制的テークオーバーを試行したときに、スタンバイ・データベースがピア時間ではなかったため、テークオーバーが失敗しました。ピア時間がスタンバイ・データベースで構成されていないか、あるいは、スタンバイ・データベースで構成されているピア時間外で強制的テークオーバーが試行されました。

10

TAKEOVER コマンドが DB2 高可用性フィーチャー環境で実行されました。クラスター・マネージャーが返したエラーのために、テークオ

オーバー操作を完了できませんでした。テークオーバー操作は失敗しました。テークオーバー操作に関する DB2 高可用性災害時リカバリー (HADR) データベースは、テークオーバー操作が試みられた前の状態のままです。

11

再生遅延が有効になっている HADR スタンバイでは、テークオーバーは (強制と非強制のどちらも) 許可されていません。

97

コマンドは、DB2 pureCluster 環境で発行されました。

98

有効な HADR ライセンスがインストールされていません。コマンドは正常に完了しませんでした。

99

コマンドは、複数パーティション・インスタンス環境で発行されました。

ユーザーの処置: 理由コードに対応するユーザー応答は、以下のとおりです。

1

スタンバイ・データベースがピア状態に達するまで待ってください。代わりに、TAKEOVER コマンドの BY FORCE オプションを使用することができます。BY FORCE オプションを使うと、リモート・キャッチアップ・ペンディング状態からテークオーバーすることができます。ただし、スタンバイ・データベースは、1 次データベースに接続できる場合、速やかにリモート・キャッチアップ・ペンディング状態からリモート・キャッチアップ状態に移って、再びテークオーバーが許可されなくなることがあります。また、リモート・キャッチアップ・ペンディング状態からのテークオーバーを強制すると、古い 1 次データベース上でコミット済みのトランザクションが、新しい 1 次では欠落することになる可能性があります。

HADR ペアが SUPERASYNC モードである場合、1 次データベースからクライアントを切断することを考慮してください。このようにすると、スタンバイ・データベースが受信バッファ内の追加ログ・ファイルを処理することによりキャッチアップできるようになります。

2

スタンバイ・データベースがピア状態、切断済みピア状態、またはアーカイブからログ・ファイルを取得中でないリモート・キャッチアップ・ペンディング状態の際に、TAKEOVER HADR コマンドを再発行してください。スタンバイ・データベースを強制的にリモート・キャッチアップ・ペンディング状態または切断ピア状態にすることができます。それには、スタンバイ・データベースと 1 次データベースの間の接続を切断します。これを行うには、STOP HADR コマンドまたは DEACTIVATE DATABASE コマンドを 1 次データベースで実行するか、あるいは 1 次データベースとスタンバイ・データベースの間のネットワークを使用不可にします。

3

スタンバイがオンライン・バックアップの終わりに達するまでの許容時間を長くしてから、コマンドを再発行してください。

4

このコマンドは、標準または HADR 1 次データベースではサポートされていません。このコマンドは、HADR スタンバイ・データベースでのみ発行してください。

5

スタンバイ・データベースをアクティブにしてから、TAKEOVER コマンドを発行してください。

6

このメッセージの原因として可能性があることについては、2 つの HADR データベース・パーティションのデータベース・ログを参照してください。それらのデータベース・パーティションの役割は、変更されていない可能性があります。2 つのデータベース・パーティションの HADR_DB_ROLE データベース構成パラメーターの値を確認してください。

7

このメッセージの原因として可能性があることについては、2 つの HADR データベース・パーティションのデータベース・ログを参照してください。それらのデータベース・パーティションの役割は、変更されていない可能性があります。2 つのデータベース・パーティションの HADR_DB_ROLE データベース構成パラメーターの値を確認してください。

8

HADR シャットダウンの原因を突き止め、必要であれば TAKEOVER HADR コマンドを再発行します。

9

スタンバイ・データベースをピア時間外に強制的にテークオーバーするには、PEER WINDOW ONLY パラメーターを指定せずに TAKEOVER HADR コマンドを再発行します。スタンバイ・データベースをピア時間外に強制的にテークオーバーすることがサポートされている場合でも、テークオーバーがピア時間外に発生したときに、トランザクションが損失するリスクは大きくなります。

1 次データベースが失敗し、データまたはトランザクションの損失のリスクを理由に、スタンバイ・データベースをピア時間外に強制的にテークオーバーしない場合、1 次データベースの失敗に対する、強制的テークオーバー以外の代替応答を考慮してください。

1 次データベースとスタンバイ・データベースとの高可用性ソリューションにおいて、1 次データベースの失敗に応答するための一般的な方針は、失敗した 1 次データベースのデータベース操作をスタンバイ・データベースにテークオーバーさせることです。ただし、1 次データベースの失敗に応答するための他の方針も存在します。これには、スタンバイ・データベースにフェイルオーバーする代わりに、失敗した 1 次データベースを修正してから再始動することが含まれます。修正して再始動するというこの方針は、フェイルオーバーの方針に比べて、ユーザー・アプリケーションのデータベース・ソリューションの可用性に不利な影響を及ぼしますが、データまたはトランザクションの損失のリスクを軽減するといった別の長所も持っています。

10

クラスター・マネージャー診断情報を検討して、クラスター・マネージャーが返したエラーを判別してください。可能であればクラスター・マネージャーからのエラーの原因を修復し、TAKEOVER コマンドを再実行してください。

11

`hadr_replay_delay` 構成パラメーターを 0 に設定することによって再生遅延を無効にし、TAKEOVER コマンドを再発行してください。

97

DB2 pureCluster 環境では HADR フィーチャーはサポートされていません。

98

有効な HADR ライセンスを入手してインストールし、コマンドを再サブミットします。

99

複数パーティション・インスタンス環境では HADR フィーチャーはサポートされていません。

SQL1771N リカバリー不能なデータベースは、HADR 1 次または HADR スタンバイのどちらのデータベースとしても使用できません。

説明: 循環ロギングを HADR 1 次またはスタンバイの役割のデータベースに対して使用することはできません。HADR にはリカバリー可能なデータベースが必要です。

ユーザーの処置: データベースを標準の役割に変換するか、または循環ロギングを使用しないようにしてください。

SQL1772N HADR 1 次または HADR スタンバイのどちらのデータベースでも、無限にアクティブなロギングを有効にすることはできません。

説明: 無限にアクティブなロギングを HADR 1 次またはスタンバイの役割のデータベースで有効にすることはできません。

ユーザーの処置: データベースを標準の役割に変換するか、または無限ロギングを使用しないようにしてください。

SQL1773N このステートメントまたはコマンドは、読み取り可能 HADR スタンバイ・データベースではサポートされていない機能を必要とします。理由コード = *reason-code*。

説明: 理由コードに対応する説明は、以下のとおりです。

1

UR 以外の分離レベルが使用され、DB2_STANDBY_ISO レジストリー変数はオフになっています。

2

照会は無効な索引へのアクセスを試行しました。

3

読み取り可能な HADR スタンバイ・データベースに対して照会を実行しようとしたが、この照会には以下のいずれかの問題があります。

- 照会で使用しようとしたデータ・タイプは、読み取り可能な HADR スタンバイ・データベースに対する照会に使用できないものです。
- 照会で使用しようとした LOB 値または XML 値は、データベース表にインライン・データとして格納されていないものです。

4

照会は、作成済みまたは宣言済み一時表へのアクセスを試行しました。

5

書き込み操作が HADR スタンバイ・データベースで試行されました。

6

操作は HADR スタンバイ・データベースで暗黙的な再バインドを試行しました。

ユーザーの処置: 理由コードに対応するユーザー応答は、以下のとおりです。

1

UR 分離レベルだけが HADR スタンバイ・データベースでサポートされています。自動的な分離強制を可能にするために、分離レベルを UR に変更するか、DB2_STANDBY_ISO レジストリー変数を UR に設定します。

2

無効な索引は HADR スタンバイ・データベースに自動的に再ビルドされません。HADR 1 次データベースで LOGINDEXBUILD データベース構成パラメーターを ON に設定すると、HADR スタンバイ・データベースの索引が 1 次データベースの索引と同期されます。

3

HADR スタンバイ・データベースで読み取りできないデータ・タイプを使用しないように、またインラインではない XML 値や LOB 値を照会しないように照会を変更してください。

4

作成済みまたは宣言済み一時表にアクセスしないために照会を変更してください。

5

ステートメントまたはコマンドを変更し、書き込み操作が要求されないようにするか、HADR 1 次データベースに接続して書き込み操作を実行します。

6

パッケージを再バインドするために HADR 1 次データベースに接続してください。

sqlcode: -1773

sqlstate: 51045

SQL1774N HADR 1 次または HADR スタンバイのどちらかのデータベースで、表スペースのリストアを発行できません。

説明: HADR 1 次または HADR スタンバイ・データベース上の表スペース・レベルのリストアは許可されません。

ユーザーの処置: データベースを標準の役割に変換してから、データベースに対してリストア・コマンドを発行してください。

1 次データベースで失われたデータのリカバリーを目的とする場合に、リストアするデータがスタンバイにあれば、1 次データベース上で表スペースをリストアするよりも、TAKEOVER コマンドを実行して、スタンバイ・データベースを 1 次データベースに変換することを検討してみてください。

SQL1776N HADR スタンバイ・データベースでコマンドを発行できません。理由コード = *reason-code*。

説明: 理由コードに対応する説明は、以下のとおりです。

1

このコマンドは、HADR スタンバイ・データベースではサポートされていません。

2

テークオーバーで HADR データベースが役割を切り替える間は、接続要求を行えません。

3

UPGRADE DATABASE コマンドは、HADR スタンバイ・データベースではサポートされていません。

4

再生用時間枠がアクティブである間は、HADR スタンバイ・データベースへの接続要求は許可

されません。再生用時間枠は、スタンバイに対して DDL またはメンテナンス操作が再生されるときにアクティブになります。

5

HADR スタンバイ側への接続要求は、スタンバイ側で、以前のスタンバイ・アクティベーションの再生ログ位置の中の最高位置に達するまでは許可されません。

ユーザーの処置: 理由コードに対応するユーザー応答は、以下のとおりです。

1

スタンバイ側での読み取りを可能にしてクライアント接続を許可する方法か、または 1 次側に接続して操作を行う方法を考慮します。

2

テークオーバー操作が完了してから、目的のデータベースへの接続を再試行してください。テークオーバー操作は 1 次データベース役割を再配置するため、テークオーバーを行う前のサーバーとは異なるサーバーで、目的のデータベースがアクティブになっている場合があります。

3

1 次データベースに対して UPGRADE DATABASE コマンドを発行し、データベース・アップグレードが成功した後、スタンバイを再作成してください。

4

HADR 1 次データベースに接続するか、スタンバイ・データベースの再生用時間枠が非アクティブになるまで待つてください。

5

スタンバイ・データベースの以前のアクティベーションにおける再生が、再生ログ位置の中の最高位置に達したときに、コマンドを再発行します。この位置について、db2diag.log を確認してください。"db2pd -hadr" コマンドを使用すると、現在の再生位置を取得できます。

sqlcode: -1776

sqlstate: 08004

SQL1777N HADR はすでに開始しています。

説明: このエラーが生じるのは、所定の役割ですでに稼働しているデータベース上で START HADR コマンドを発行した場合です。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL1790W 許可 ID *authorization-id* が使用を許可されている少なくとも *page size* のページ・サイズを持つデフォルトの表スペースが検出されませんでした。

説明: プロシージャ NNSTAT は、実行されたステートメントの履歴を保存するための SYSPROC.FED_STATS 表を作成できませんでした。十分なページ・サイズ (少なくとも *pagesize*) の表スペースが見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 少なくとも *pagesize* のページ・サイズの表スペースが存在することを確認してください。

sqlcode: +1790

sqlcode: 01670

SQL1791N 指定したサーバー定義、スキーマ、またはニックネームは存在しません。

説明: プロシージャ NNSTAT は、サーバー定義、スキーマ、およびニックネームを入力として受け入れますが、そのようなオブジェクトのうちの 1 つ以上が見つかりません。

ユーザーの処置: 既存のサーバー定義、スキーマ、またはニックネームを指定して、ステートメントを再サブミットしてください。

sqlcode: -1791

sqlstate: 42704

SQL1792W リモート・カタログとローカル・カタログのスキーマに矛盾があるため、指定したニックネームの統計は完全には更新されませんでした。

説明: リモート・スキーマは変更されました。リモート表またはビューか、あるいはその列または列データ・タイプの中の 1 つのどちらかが、ニックネームの作成以後に変更されました。

ユーザーの処置: 新しいニックネームを作成して、もう一度ステートメントを再サブミットしてください。

sqlcode: +1792

sqlcode: 01669

SQL1800N 構造体 `sqlc_request_info` への無効なポインターがカタログ管理コマンド/API に渡されました。

説明: カatalog管理コマンド/API にパラメーターとして渡された、構造体 `sqlc_request_info` へのポインターが無効でした。クライアント構成援助要求のためには、このポインターは NULL であってはなりません。

ユーザーの処置: `sqlc_request_info` への有効なポインターを指定し、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1801N 要求タイプが無効です。

説明: 指定された要求タイプはこのコマンドでサポートされていません。

ユーザーの処置: この要求タイプが、次のサポートされている要求タイプの 1 つであることを確認してください。

1. `SQLC_CCA_REQUEST` - CCA カatalog・ノードはカatalogに対して要求し、スキャン・コマンドをオープンします
2. `SQLC_DAS_REQUEST` - DAS カatalog・ノードはカatalogに対して要求し、スキャン・コマンドをオープンします
3. `SQLC_CND_REQUEST` - CCA および DAS カatalog項目のスキャン・コマンドをオープンします

SQL1802N この要求タイプに属する項目がありません。

説明: 提供された要求タイプによりカatalogを作成されたノード・ディレクトリーの項目がありません。

ユーザーの処置: 同じ要求タイプを使用して項目をカatalogを作成し、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1803N 要求された操作は、「パッケージ・ロックなし」モードでは実行されません。影響を受けるパッケージは `pkgschema.pkgname 0Xcontoken` です。

説明: データベース・マネージャーは、現在「パッケージ・ロックなし」モードで作動しています。このモードは、`DB2_APM_PERFORMANCE` レジストリー環境変数を "ON" に設定してアクティブとなっています。

このモードでは、次のクラスの操作は、パッケージでの影響のために実行できなくなります。

- パッケージを無効にする操作
- パッケージを作動不能にする操作
- パッケージのバインド、再バインド (明示的あるいは暗黙的) またはドロップ

要求された操作は、このいずれかの方法によりパッケージ `pkgschema.pkgname 0Xcontoken` に影響を与えるため、この操作は許可されません。

ユーザーの処置: "パッケージ・ロックなし" モードで許可されない操作を実行しないでください。要求された操作を実行するには、"パッケージ・ロックなし" モードを終了する必要があります。これは、`DB2_APM_PERFORMANCE` 環境レジストリー変数の設定を解除することで実行されます。変数の変更を有効にするには、データベース・マネージャーを一度停止して、再始動してください。

sqlcode: -1803

sqlstate: 57056

SQL1804N 現行接続には既にアクティブ・ステートメントがあり、データ・ソースは単一の接続で複数のアクティブ・ステートメントを処理できるようになっていないため、この接続でそのステートメントを実行できません。フェデレーテッド・データ・ソースの名前は、`data-source-name` です。

説明: `DB2_ONE_REQUEST_PER_CONNECTION` サーバー・オプションを 'Y' に設定すると、1 つの接続でアクティブ・ステートメントを 1 つしかサポートしない ODBC ドライバーと連携するようにフェデレーテッド・データ・ソースを構成できます。一般的に、1 つの接続で複数のアクティブ・ステートメントをサポートする ODBC ドライバーを使用するときには、`DB2_ONE_REQUEST_PER_CONNECTION` サーバー・オプションはまったく設定しないか、'N' に設定する必要があります。

`DB2_ONE_REQUEST_PER_CONNECTION` サーバー・オプションが 'Y' に設定されているフェデレーテッド・データ・ソースに対して、1 つの接続で複数のステートメントを実行しようとする、このメッセージが返されます。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの方法で、このエラーに対応します。

- どの接続においても、ステートメントは一度に 1 つだけ実行します。
- `ALTER SERVER` ステートメントを使用し、次のように `DB2_ONE_REQUEST_PER_CONNECTION` サーバー・オプションを 'N' に設定することにより、1 つの接続で複数のステートメントを同時に実行できるようにします。

```
ALTER SERVER <server-name> OPTIONS(
  ADD DB2_ONE_REQUEST_PER_CONNECTION 'N')
```

sqlcode: -1804

sqlstate: 57064

SQL1805N 挿入、更新、または削除の操作においてニックネームの使用法がサポート対象外であるため、操作は処理されませんでした。

説明: ニックネームとは、アプリケーションが表やビューなどのデータ・ソース・オブジェクトを参照するのに使用する ID のことです。フェデレーテッド環境では、フェデレーテッド・システムには存在してもフェデレーテッド・データベース自体には存在しないオブジェクトを参照するためにニックネームを使用する必要があります。

フェデレーテッド環境での挿入、更新、または削除の操作でニックネームを使用するときには、制約事項があります。例えば、次のような制約事項があります。

- 大きい SQL ステートメントの副節の中で INSERT、UPDATE、または DELETE ステートメントがネストされている場合、ネストされているステートメントではニックネームを参照できません。
- 挿入、更新、または削除の操作を実行する SQL プロシージャは、ニックネームを参照できません。
- トリガーの本体にある挿入、更新、または削除の操作では、ニックネームを参照できません。

挿入、更新、または削除の操作において、サポートされないこれらいずれかの方法でニックネームの使用を試行すると、このメッセージが返されます。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの方法で、このメッセージに応答します。

- フェデレーテッド・システムには存在してもフェデレーテッド・データベース自体には存在しないデータ・ソース・オブジェクトを更新するには、コンパウンド SQL ステートメント、SQL プロシージャ、およびトリガー以外の方式を使用します。
- ニックネームまたは統合された 3 部構成の名前に対する挿入、更新、または削除の操作すべてを、コンパウンド SQL ステートメント、SQL プロシージャ、またはトリガーから除去します。

sqlcode: -1805

sqlstate: 429A9

SQL1806N 2 フェーズ・コミット・トランザクションでは無効であるフェデレーテッド・サーバー・トポロジに対してトランザクションが分散されているため、この 2 フェーズ・コミット・トランザクションは失敗しました。

説明: 2 フェーズ・コミット・トランザクションでは、次のような、X/Open 分散トランザクション処理 (DTP) モデルの複数の構成要素があります。

- トランザクション ID
- トランザクション・マネージャー
- リソース・マネージャー

フェデレーテッド・システムでは、次の追加構成要素があります。

- フェデレーテッド・サーバーがフェデレーテッド・トランザクション・マネージャーになる

フェデレーテッド・トランザクション・マネージャーは、トランザクション・マネージャーの代わりにトランザクション管理機能の一部を実行し、XA インターフェースを使用してトランザクション・マネージャーとやり取りします。フェデレーテッド・トランザクション・マネージャーは、クライアントまたはトランザクション・マネージャーから 2 フェーズ・コミット要求を受け取り、フェデレーテッド 2 フェーズ・コミット要求をフェデレーテッド・データ・ソースに送信します。

このメッセージは、あるフェデレーテッド・サーバー B が別のフェデレーテッド・サーバー A からフェデレーテッド 2 フェーズ・コミット要求を受け取り、フェデレーテッド・サーバー B がフェデレーテッド 2 フェーズ・コミット要求をデータ・ソース C に送信する必要がある場合に返されます。

ユーザーの処置:

1. 失敗したトランザクションに加え、失敗したトランザクションに関するフェデレーテッド・サーバー・トポロジとリモート・データ・ソースを確認してください。
2. フェデレーテッド・サーバーが、同じトランザクションの中でフェデレーテッド 2 フェーズ・コミット要求の受け取りとデータ・ソースへのフェデレーテッド 2 フェーズ・コミット要求の送信を両方とも行う必要があることのないように、フェデレーテッド・サーバー・トポロジとリモート・データ・ソースを変更してください。

SQL1807N フェデレーテッド・データ・ソースに対する SQL ステートメントの一部が指定データ・ソースではサポートされないため、この SQL ステートメントの実行は失敗しました。フェデレーテッド・データ・ソースの名前は、*data-source-name* です。サポートされない節: *clause*。

説明: フェデレーテッド・データ・ソースごとに、サポートされる SQL ステートメントの構文が異なります。

SQL1808N • SQL1809N

このメッセージは、示されたフェデレーテッド・データ・ソースではサポートされない SQL 構文または SQL 節、あるいは示されたフェデレーテッド・データ・ソースの現行の構成と両立しない SQL 構文または SQL 節の使用を試みると、返されます。

このメッセージは、以下の理由で返される可能性があります。

- DEFAULT キーワードを指定した SQL ステートメントの実行が照会言語構文でサポートされないフェデレーテッド・データ・ソースに対して、値に DEFAULT キーワードを含む SQL ステートメントの実行が試行されました。
- 挿入、更新、または削除の操作を許可しない構成になっているフェデレーテッド・データ・ソースで、更新可能なカーソルを開こうとしました。つまり、DB2_IUD_ENABLE サーバー・オプションが 'N' に設定されているデータ・ソースに対して、FOR UPDATE OF 節が含まれるステートメントが実行されています。

ユーザーの処置: メッセージが返された理由に応じて、このメッセージに対応してください。

- ステートメントに DEFAULT キーワードが含まれている場合には、DEFAULT キーワードを指定せずにステートメントを書き直し、ステートメントを再実行します。
- カーソルを開こうとしている場合は、以下のいずれかの方法で対応してください。
 - カーソルが作成されているステートメントでデータの挿入、更新、または削除が行われない場合には、カーソルを読み取り専用で再作成します。
 - 以下のコマンドを使用して DB2_IUD_ENABLE を 'Y' に設定することにより、挿入、更新、および削除の操作を有効にします。

```
ALTER SERVER <server-name> OPTIONS(  
  ADD DB2_IUD_ENABLE 'Y')
```

挿入、更新、および削除の操作を許可するようにデータ・ソースを構成した後、カーソルを再作成します。

SQL1808N フェデレーテッド環境では無効であるアクセス・プランが照会オプティマイザーで生成されたため、SQL ステートメントの実行は失敗しました。理由コード:

reason-code

説明: アクセス・プランは、EXPLAIN 可能ステートメントを解決するために必要なデータにアクセスする操作順序を指定します。照会オプティマイザーは、EXPLAIN 可能な SQL または XQuery ステートメントがコンパイル

される度にアクセス・プランを生成します。

このメッセージは、フェデレーテッド環境では無効なアクセス・プランがオプティマイザーで生成されたときに返されます。アクセス・プランのどの部分が無効であるかについて、以下の理由コードで示されます。

1

述部の一部が見つかりません。

2

ステートメントには、位置指定更新操作または位置指定削除操作が含まれています。位置指定更新操作または位置指定削除操作は、結果セットのデータを変更する更新操作または削除操作です。位置指定更新操作と位置指定削除操作では、カーソルを使用する必要があります。

3

ニックネームの列に 1 つの要素が見つかりません。

アクセス・プランについて何が無効であるかに関するこの情報は、IBM サポート担当員向けの付加情報です。

ユーザーの処置: 以下の手順を実行してこのエラーに対応します。

1. オプティマイザーで別のアクセス・プランが作成されるようにステートメントを書き換えます。
2. ステートメントを再び実行します。
3. 書き換えた後も引き続きステートメントが失敗する場合には、診断情報を収集し、IBM サポートに連絡して支援を得てください。

sqlcode: -1808

sqlstate: 58004

SQL1809N ラッパーの本体の照会の一部はローカルで評価する必要があるため、トラステッド・ラッパーの挿入、更新、または削除操作は失敗しました。ラッパー名:
wrapper-name.

説明: ニックネームまたは統合された 3 部構成の名前を参照する挿入、更新、または削除操作の実行は、ローカル・データベース・パーティションではサポートされません。

このメッセージは、トラステッド・ラッパーを使用してローカル・データベース・パーティション上の表を照会する SQL ステートメントの結果セット上で更新可能カーソルを開こうとすると返されます。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの方法で、このエラーに対応します。

- 挿入、更新、または削除の操作が不要な場合は、カーソルを読み取り専用として再オープンします。
- DB2_FENCED ラッパー・オプションを 'Y' に設定して ALTER WRAPPER ステートメントを使用することによりラッパーを変更してトラステッドを解除し、カーソルを再オープンします。

SQL1810N ローカルで評価する必要がある要素とリモートで評価する必要がある要素がステートメントに含まれているため、挿入ステートメントまたは更新ステートメントが実行されなかったか、カーソルを開くことができませんでした。

説明: フェデレーテッド環境では、SQL ステートメントの各部の評価をローカルとリモートのどちらで行うかについては多くの要因が関係します。例えば、次のような要因があります。

- 照会オプティマイザーがより効率的であると判断して、リモートではなくローカルで SQL ステートメントの一部が実行されることがあります。
- リモート・データ・ソースでは評価できないために SQL ステートメントの一部がローカルで実行されることもあります。例えば:
 - リモート・データ・ソースによってサポートされない関数または構文がステートメントの式に含まれている場合には、ステートメントをローカルで評価する必要があります。
 - VALUES 節を指定した INSERT ステートメントと SET 節を指定した UPDATE ステートメントは両方ともローカルで評価する必要があります。

このメッセージは、以下の場合に返されます。

- フェデレーテッド・データ・ソースの表を参照する照会の結果セット上で位置指定更新を実行しようとするが、照会の式はローカルでしか評価できない場合。
- ローカルでしか評価できない要素とリモートでしか評価できない要素が含まれるステートメントを実行しようとしている場合。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの方法で、このエラーに対応します。

- VALUES 節を指定した INSERT ステートメントと SET 節を指定した UPDATE ステートメントのどちらも使用しないようにステートメントを変更してから、ステートメントを再実行します。

- 結果セット上でカーソルを開こうとしたときにこのメッセージが返され、更新または削除の操作が不要な場合、カーソルを読み取り専用として再オープンします。
- データ・ソースによってサポートされない要素がステートメントに含まれないようにステートメントを変更することにより、ローカルでステートメントを評価せずにフェデレーテッド・データベースからフェデレーテッド・データ・ソースにステートメントが送信されるようにします。

SQL1815N データベース・パーティション・フィーチャーが使用可能である場合には、フェデレーションは XML データに対してサポートされません。

説明: データベース・パーティション・フィーチャーが使用可能である場合、XML データ・タイプ列があるリモート表に対してニックネームは作成できません。

ユーザーの処置: XML データでフェデレーションを使用するには、データベース・パーティション・フィーチャーを使用可能にせずに、新規データベース・インスタンスを作成してください。

sqlcode: -1815

sqlstate: 55076

SQL1816N ラッパー *wrapper-name* を、フェデレーテッド・データベースに定義を試みているデータ・ソース (*server-type server-version*) の *type-or-version* にアクセスするために使用することはできません。

説明: 指定したラッパーは、定義するデータ・ソースのタイプまたはバージョンをサポートしていません。

ユーザーの処置: 資料を調べて、そのデータ・ソースのタイプおよびバージョンをサポートするラッパーを見つけてください。CREATE WRAPPER ステートメントによって、ラッパーはフェデレーテッド・データベースに登録されていなければなりません。そのラッパーが指定されるよう CREATE SERVER ステートメントを再コーディングし、もう一度 CREATE SERVER ステートメントを実行してください。

sqlcode: -1816

sqlstate: 560AC

SQL1817N CREATE SERVER ステートメントは、フェデレーテッド・データベースに定義するデータ・ソースの *type-or-version* を識別していません。

SQL1818N

説明: 指定したラッパーを CREATE SERVER ステートメントが参照している場合、そのステートメントは、フェデレーテッド・データベースに定義されるデータ・ソースの *type-or-version* を識別していなければなりません。

ユーザーの処置: CREATE SERVER ステートメントで、定義されるデータ・ソースの *type-or-version* が指定されるよう、*type-or-version* オプションをコーディングしてください。その後、もう一度 CREATE SERVER ステートメントを実行してください。

sqlcode: -1817

sqlstate: 428EU

SQL1818N サブミットした ALTER SERVER ステートメントを処理できませんでした。

説明: ALTER SERVER ステートメントが参照しているデータ・ソース (またはデータ・ソースのカテゴリ) 内の表またはビューのニックネームを参照する SELECT ステートメントによる作業単位で、その ALTER SERVER ステートメントは処理されます。

ユーザーの処置: 作業単位を完了させた後、ALTER SERVER ステートメントを再サブミットしてください。

sqlcode: -1818

sqlstate: 55007

SQL1819N サブミットした DROP SERVER ステートメントを処理できませんでした。

説明: DROP SERVER ステートメントが参照しているデータ・ソース (またはデータ・ソースのカテゴリ) 内の表またはビューのニックネームを参照する SELECT ステートメントによる作業単位で、その DROP SERVER ステートメントは処理されます。

ユーザーの処置: 作業単位を完了させた後、DROP SERVER ステートメントを再サブミットしてください。

sqlcode: -1819

sqlstate: 55006

SQL1820N LOB 値に対するアクションが失敗しました。理由コード = *reason-code*

説明: 理由コードには、以下のものがあります。

1. LOB 値を格納するのに十分なバッファー・スペースがありませんでした。
2. このリモート・データ・ソースは、LOB データ・タイプでの現行アクションをサポートしていません。
3. 内部プログラム制限を超えているものがあります。

ユーザーの処置: LOB のサイズを削減するか、または LOB データ・タイプで適用されている関数を置換してください。最後の手段として、ステートメントから LOB データ・タイプを除去してください。

sqlcode: -1820

sqlstate: 560A0

SQL1821W 検索された LOB 値は変更されている可能性があります。

説明: LOB 値は、据え置き検索基盤で評価されます。LOB 値は最初にアクセスされたときと、実際に検索されたときの間で変更されている可能性があります。

ユーザーの処置: "deferred_lob_retrieval" を "N" in SYSSERVEROPTIONS にセットし、照会を再サブミットするか、警告を無視してください。

sqlcode: +1821

sqlstate: 01621

SQL1822N 予期しないエラー・コード *error-code* をデータ・ソース *data-source-name* から受け取りました。関連テキストとトークンは *tokens* です。

説明: データ・ソースを参照中に、フェデレーテッド・サーバーは DB2 と同等のものにマップしないデータ・ソースから予期しないエラー・コードを受け取りました。

考えられるエラー・コードには以下が含まれます。

- 4901 15 よりも多いカーソルをオープンしようとしています
- 4902 行サイズが 32K の制限を超えました

このエラーは、データ・ソースが使用できない場合にも返される可能性があります。

ユーザーの処置: このデータ・ソースで指定された適切なメッセージの位置およびエラーの訂正可能なアクションにより、問題の根本の原因を識別し、訂正してください。

sqlcode: -1822

sqlstate: 560BD

SQL1823N サーバー *server-name* からデータ・タイプ *data-type-name* に存在するデータ・タイプ・マッピングがありません。

説明: 試行は、オブジェクトのニックネームを作成させました。オブジェクトの 1 つ以上の列のタイプが現在フェデレーテッド・サーバーにとって不明です。不明タ

イプの名前はこのメッセージにリストされています。

ユーザーの処置: CREATE TYPE MAPPING ステートメントを使用して指定されたサーバーのタイプ名を指定したマップを作成してください。

sqlcode: -1823

sqlstate: 428C5

SQL1824W この UNION ALL のオペランド内の基本表のいくつかは、同じ表の可能性がありません。

説明: ニックネームはリモート基本表、リモート・ビュー、リモート別名またはリモート・ニックネームを参照することができます。 UNION ALL ビューの 2 つのオペランドが異なるニックネームを参照する場合、これらのオペランドは同じ表を指している可能性があります (両方がリモート基本表として知られているのではない場合)。このメッセージはユーザーに、1 つのリモート基本表が 2 つのオペランドを介して更新または削除によって 2 回更新または削除をしている可能性があることを警告するのに発行されます。

ユーザーの処置: すべてのオペランドが異なるリモート表を示していることを確認してください。 2 つのオペランドが同じリモート基本表を指している場合、更新または削除操作を反転するロールバックを発行していると見なします。

sqlcode: +1824

sqlstate: 01620

SQL1825N フェデレーテッド・データ・ソースに対する SQL ステートメントの一部がフェデレーテッド環境ではサポートされないため、この SQL ステートメントの実行は失敗しました。フェデレーテッド・データ・ソースの名前は、*data-source-name* です。理由コード: *reason-code*

説明: フェデレーテッド・システムでの INSERT、UPDATE、または DELETE ステートメントの使用には、いくつかの制約事項が適用されます。

このメッセージが返された特定の理由が、以下の理由コードで示されます。

1

フェデレーテッド・データベースで、LOB データの挿入、更新、または削除が試行されました。

2

UNION ALL 節で作成されたビューに対して、挿入、更新、または削除の操作実行が試行されました。

ユーザーの処置: 以下のように、理由コードに応じてこのメッセージに対応します。

1

示されたデータ・ソースの LOB データの挿入、更新、または削除は、データ・ソースのネイティブ・インターフェースを使って実行します。

2

挿入、更新、または削除の操作で UNION ALL ビューを使用しないようにステートメントを書き換え、ステートメントを再実行します。

sqlcode: -1825

sqlstate: 429A9

SQL1826N システム・カタログ・オブジェクト *object-name* で、*column-name* 列に対して無効な *value* 値が列に対して指定されました。

説明: システム・カタログ・オブジェクト *object-name* で、*column-name* 列に対して無効な *value* 値が列に対して指定されました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 指定されたシステム・カタログ・オブジェクトの指定された列の有効な値については、「SQL リファレンス」を参照してください。ステートメントを訂正して、もう一度やり直してください。

sqlcode: -1826

sqlstate: 23521

SQL1827N サーバー *server-name* に対するローカル許可 ID *auth-ID* で定義されるユーザー・マッピングはありません。

説明: 定義されていないユーザー・マッピングをドロップあるいは変更しようとした。

ユーザーの処置: ALTER USER MAPPING ステートメントの場合、まず、CREATE USER MAPPING ステートメントを使用しているユーザー・マッピングを作成してください。それから、ユーザー・マッピングを変更します。DROP USER MAPPING ステートメントの場合、ユーザー・マッピングがないため、これ以上のアクションは不要です。

sqlcode: -1827

sqlstate: 42704

SQL1828N リモート・サーバー *server-name* またはリモート・サーバーのグループに対して、サーバー・オプション *option-name* が定義されていません: サーバー・タイプ *server-type*、バージョン *server-version*、およびプロトコル *server-protocol*

説明: 定義されていないサーバー・オプションをドロップあるいは変更しようとしていました。

ユーザーの処置: ALTER SERVER ステートメントの場合は、まず、CREATE SERVER ステートメントを使用してサーバー・オプションを作成してください。それから、サーバー・オプションを変更します。DROP SERVER ステートメントの場合は、サーバーのサーバー・オプションが存在しないため、これ以上のアクションは不要です。

sqlcode: -1828

sqlstate: 42704

SQL1829W フェデレーテッド・サーバーが、データ・ソース *server-name* から警告メッセージ *warning-code* を受け取りました。関連テキストとトークンは *tokens* です。

説明: 不明の警告 *warning-code* がデータ・ソース *server-name* で発生しました。メッセージのトークンは *tokens* です。

ユーザーの処置: データ・ソースに関する診断情報を使用して、取るべき修正アクションがあれば、それを判別してください。

sqlcode: +1829

sqlstate: 01680

SQL1830N RETURNS 節は、EXPRESSION AS 節を使用して、述部指定より先に指定しなければなりません。

説明: RETURNS 節が、EXPRESSION AS 節の入った PREDICATE 節の前に指定されていません。RETURNS 節が述部指定の後に組み込まれているか、または欠落している可能性があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: PREDICATE 節の前に RESULTS 節を置いて CREATE FUNCTION ステートメントを指定してください。

sqlcode: -1830

sqlstate: 42627

SQL1831N 副表 *subtable-name* の表統計は更新できません。

説明: ステートメントは、副表として定義されている表 *subtable-name* に対して NPAGES、FPAGES、または OVERFLOW の統計値を更新しようとしています。型付き表の場合、これらの統計は表階層のルート表を使用して更新することしかできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 副表の代わりに、表階層のルート表に対するカタログ統計を更新してください。

sqlcode: -1831

sqlstate: 428DY

SQL1832N SQL 関数として定義されているため、ルーチン *routine-name* をフィルターを定義するために使用できません。

説明: ルーチン (関数または方式) *routine-name* が、ユーザー定義の述部指定または索引拡張子定義として FILTER 節に指定されています。このルーチンを LANGUAGE SQL で定義することはできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: LANGUAGE SQL で定義されていない関数を指定してください。

sqlcode: -1832

sqlstate: 429B4

SQL1833N ポート *port_number* 上で、リモート拡張検索サーバー *host_name* への接続を確立できなかったか、接続が終了しました。

説明: 拡張検索ラッパーが、ポート *port_number* 上で、リモート拡張検索サーバー *host_name* へ接続しようとしたが、確立できなかったか、またはリモート・サーバーによって終了しました。

ユーザーの処置: リモート拡張検索サーバーのホスト名とポート番号を確認してください。拡張検索サーバーが稼働中であるかどうか確認してください。

SQL1834N ユーザー定義列 *column_name* は、ラッパー *Wrapper_name* の固定列と同一ですが、異なるデータ・タイプを使用していません。

説明: CREATE NICKNAME ステートメントまたは ALTER NICKNAME ステートメントには、ラッパー *Wrapper_name* の固定列と同じ名前のユーザー定義列が

含まれていますが、別のデータ・タイプを使用しています。

ユーザーの処置: CREATE NICKNAME ステートメントの列定義で、ラッパー *Wrapper_name* の固定列を指定しないようにしてください。固定列を指定する場合には、固定列の名前とデータ・タイプ/データ・タイプ長が固定列定義と一致してはなりません。固定列またはデータ・タイプを変更することは許可されません。

SQL1835N タイプ *object_type* の拡張検索オブジェクト *object_name* が、リモート拡張検索サーバー *es_host_name* で見つかりませんでした。

説明: タイプ *object_type* の拡張検索オブジェクト *object_name* が、リモート拡張検索サーバー *es_host_name* で見つかりませんでした。

ユーザーの処置: オブジェクト名がこのサーバーに定義されており、そのタイプは *object_type* であることを確認してください。

SQL1836N ユーザー定義列 *column_name* およびリモート拡張検索サーバー *es_host_name* のフィールド名との間に列のマッピングが存在しません。

説明: DATASOURCE または CATEGORY オプションで指定されたデータ・ソースのいずれにも、ユーザー定義列 *column_name* と同一のフィールド名は含まれていません。

ユーザーの処置: 列名が、次のどちらかのフィールドで定義されていることを確認してください。

- DATASOURCE オプションで指定されたデータ・ソース
- CATEGORY オプションで指定されたカテゴリーのデータ・ソース

SQL1837N *option_type* オブジェクト *object_name* の必須指定のオプション *option_name* は、ドロップできません。

説明: オプションの中には、フェデレーションに必要なものがあります。オプションをドロップできません。

ユーザーの処置: このデータ・ソースのフェデレーションの資料を参照して、オプションを別の値に設定することが可能かどうかを確認してください。関連オブジェクトをドロップすることが必要な場合があります。

sqlcode: -1837

sqlstate: 428GA

SQL1838N 検索ステートメント *statement* が、無効な拡張検索照会です。

説明: 拡張検索ラッパーが、リストにある検索ステートメントを処理しようとしたましたが、構文に誤りがあるため、照会ができませんでした。

ユーザーの処置: 検索ステートメントを訂正して、要求をもう一度やり直してください。拡張検索ニッケネームを使用している場合の、有効な SQL 検索ステートメントの作成に関する情報は、ドキュメンテーションを参照してください。

SQL1839N 1 つ以上の検索パラメーターが無効です。

説明: 拡張検索ラッパーは、指定された検索パラメーターを使用しようとしたましたが、このパラメーターは拡張検索では無効です。

ユーザーの処置: 有効な SQL 検索ステートメントの書き方の情報に関しては、「IBM DB2 Life Sciences Data Connect Planning, Installation, and Configuration Guide (Part: Extended Search Wrapper)」を参照してください。

SQL1840N *option-type* オプション *option-name* を *object-name* オブジェクトに追加することはできません。

説明: このオプションは追加できません。オプションの中にはオブジェクトによって設定するものがあり、それらは追加したりオーバーライドしたりできません。

ユーザーの処置: このデータ・ソースのフェデレーションの資料を参照してください。このオブジェクトに関連するオプションに対して有効なアクションについて調べてください。

sqlcode: -1840

sqlstate: 428GA

SQL1841N *object-name* オブジェクトについて、*option-type* オプション *option-name* の値は変更できません。

説明: このオプションの値はドロップできません。オプションの中にはオブジェクトによって設定するものがあり、それらは追加したりオーバーライドしたりできません。

ユーザーの処置: このデータ・ソースのフェデレーションの資料を参照してください。このオブジェクトに関連するオプションに対して有効なアクションについて調べてください。関連オブジェクトをドロップし、新しいオプション値によりそれを作成しなおすことが必要な場合があります。SET SERVER OPTION ステートメントに

SQL1842N

対する応答としてこのメッセージが出された場合は、ALTER SERVER ステートメントを使用することが必要になることがあります。

sqlcode: -1841

sqlstate: 428GA

SQL1842N *text* の付近にあるオブジェクト *object-name* のタイプ *option-type* のオプション *option-name* が無効です。理由コード = *reason-code*

説明: 指定されたオプションの構文が無効であるか、またはオプションを指定された値に設定できません。エラーに関するさらに詳しい情報が理由コードによって示されます。理由コードには、以下のものがあります。

01

予期しない文字です。

02

エレメント名または属性名が予期されていましたが、見つかりませんでした。

03

参照の後、最小/最大オカレンスが予期されません。

04

属性名の後に複数個のコロンがあります。

05

最小/最大オカレンスが整数値ではありません。

06

最小/最大オカレンスが範囲外です。

07

最小オカレンスが最大オカレンスより大きくなっています。

08

列テンプレート・オプションの中の参照が列 ("column") ではありませんでした。

09

名前空間指定に '=' 区切り文字が欠落しています。

10

名前空間指定に開始引用符または終了引用符が欠落しています。

11

テンプレート内で参照が重複しています。

12

DB2 インスタンスが 32 ビットの場合は、ラッパー・オプション *option-name* は許可されていません。

13

2 つのラッパー・オプションまたはオプション値に互換性がありません。ラッパー・オプション *option-name* は、"DB2_FENCED" が "Y" に設定されている場合にのみ有効です。

14

ラッパー・オプション *option-name* は、この特定のプラットフォーム上ではサポートされていません。

15

ラッパーがスレッド・セーフではないため、ラッパーをこのプラットフォーム上の DB2 スレッド型エンジンにロードできません。

16

wait-time パラメーターの有効な最小値は 1000 マイクロ秒です。

ユーザーの処置: このデータ・ソースのフェデレーションの資料を参照してください。正しいオプション構文について確認し、ステートメントをコーディングしなおしてください。理由コードには、以下のものがあります。

01

指定された位置の付近にあるオプション値について調べ、無効な文字を変更または削除してください。

02

指定された位置の付近にあるオプション値について調べ、構文を訂正してください。

03

テンプレート・オプション値内の各参照の後に範囲指定 "[min,max]" が指定されていることを確認してください。

04

テンプレートでサポートされる名前の修飾は 1 レベルだけです。余分の修飾を除去してください。

05

範囲指定の最小オカレンス値と最大オカレンス値が整数であることを確認してください。

06

範囲指定 "[min,max]" の値が、このデータ・ソースで可能な範囲内であることを確認してください。

07

範囲指定を訂正してください。最初の数値は第 2 の数値以下でなければなりません。

08

列テンプレート・オプション値内の参照を、トークン 'column' で置き換えてください。

09,10

名前空間オプション値を、'name="specification"' という形式でコーディングしなおしてください。

11

テンプレートをコーディングしなおしてください。参照が重複しないようにしてください。

12

32 ビット DB2 インスタンス用の *option-name* ラッパー・オプションを指定しないでください。

13

"DB2_FENCED" ラッパー・オプションのオプション値を調べてください。

14

「SQL リファレンス」を参照して、必要なラッパー・オプションを調べてください。このデータ・ソースには 64 ビット・クライアントをインストールして使用してください。

15

"DB2_FENCED" ラッパー・オプションに値 Y を指定してください。

16

有効な *wait-time* 値を指定してステートメントを再発行してください。

sqlcode: -1842

sqlstate: 42616

SQL1843N *nickname-name.column-name* ニックネーム列に対して *operator-name* 演算子はサポートされていません。

説明: 一部のデータ・ソースでは、ニックネーム列と共に指定できる演算子に制限があります。

ユーザーの処置: このデータ・ソースのフェデレーションの資料を参照してください。ステートメントをコーディングしなおし、無効な式を除去または変更してください。その後、ステートメントを再びサブミットしてください。

sqlcode: -1843

sqlstate: 429BP

SQL1844W 列 *column-name* のデータは、リモート・データ・ソースとフェデレーテッド・サーバーの間で切り捨てられました。

説明: リモート・データ・ソースとフェデレーテッド・サーバーの間でのデータ転送において、文字が切り捨てられました。切り捨てはさまざまな状況で発生することがあります。その中には、ニックネーム列定義が不正である (リモート・データ・ソース列データに対して列が小さすぎる) 場合や、リモート・データ・ソースから戻されるデータのサイズに制限がある変換またはタイプ cast 関数が存在する場合があります。

ユーザーの処置: この問題を訂正するには、リモート・データ・ソースから戻されるデータのサイズに制限があるかもしれないタイプ・キャストまたは変換関数が、ステートメントに含まれているかどうかを確認してください。ステートメントにそのような関数が含まれているなら、データ・ソースからもっと大きいデータが戻されることが可能になるよう、ステートメントをコーディングしなおしてください。その後、ステートメントを再びサブミットしてください。ステートメントにそのような関数が含まれていない場合、または関数を訂正しても問題が解決しない場合、DB2 カタログの中のニックネームのローカル列指定を調べてください。ALTER NICKNAME ステートメントまたは DROP NICKNAME および CREATE NICKNAME ステートメントを使用することにより、列指定を変更して、列サイズがリモート・データ・ソースから戻されるデータの入る大きくなるようにしてください。

sqlcode: +1844

sqlstate: 01004

SQL1846N *object-name-1* オブジェクトの *option-type-1* オプション *option-name-1* が、*object-name-2* オブジェクトの *option-type-2* オプション *option-name-2* と矛盾しています。

説明: 2 つ以上の互換性のないオプションまたはオプション値が指定されました。

ユーザーの処置: このデータ・ソースのフェデレーションの資料を参照してください。このオブジェクトで指定

SQL1847N

できる有効なオプションを確認してください。その後、再度ステートメントをコーディングおよびサブミットしてください。

sqlcode: -1846

sqlstate: 42867

SQL1847N *object-name object-type* のテンプレート置換エラー。理由コード = *reason-code*。追加テキストおよびトークン *text*。

説明: XML 文書の構築中に、ラッパーがテンプレートの値を置換しようとして問題を検出しました。ニックネーム・レベルと列レベルのテンプレートの間に矛盾があることが原因であると思われます。理由コードには、以下のものがあります。

01

参照名がテンプレート中に見つからない。欠落している参照が追加テキストの中で示されません。

02

属性参照をエレメント・コンテンツによって置換できない。エラーのある参照が追加テキストの中で示されます。

ユーザーの処置: このデータ・ソースのフェデレーションの資料を参照してください。さらに詳しい診断情報が db2diag ログ・ファイルに記録されている場合があります。必要に応じて、ALTER NICKNAME ステートメントを使用することによりテンプレートの構文を訂正してください。その後、元のステートメントを再びサブミットしてください。

sqlcode: -1847

sqlstate: 428G9

SQL1860N 表スペース *tablespace-name* は、表スペース *tablespace-name* と互換性がありません。理由コード = *reason-code*。

説明: 指定された表スペースは、以下のいずれかの理由で互換性がありません。

1

パーティション表のすべての表スペース (データ、LONG、索引) が、同じデータベース・パーティション・グループでなければなりません。

2

パーティション表のデータ表スペースは、すべて SMS、すべて REGULAR DMS、またはす

べて LARGE DMS のいずれかでなければなりません。パーティション索引の索引表スペースは、すべて REGULAR DMS、またはすべて LARGE DMS でなければなりません。

3

すべてのデータ表スペースのページ・サイズが同じでなければなりません。すべての索引表スペースのページ・サイズが同じでなければなりません。すべての LONG 表スペースのページ・サイズが同じでなければなりません。ただし、データ表スペース、索引表スペース、および LONG 表スペースのページ・サイズは、それぞれ異なっても構いません。

4

各データ表スペースのエクステント・サイズは、他のデータ表スペースのエクステント・サイズと同じでなければなりません。各索引表スペースのエクステント・サイズは、他の索引表スペースのエクステント・サイズと同じでなければなりません。LONG データの格納に使用される表スペースのエクステント・サイズも、すべての表スペースについて同じでなければなりません。ただし、さまざまな目的に使用される表スペースのエクステント・サイズは、一致している必要はありません。

5

パーティション化表の LONG データは、どのデータ・パーティションについてもデータと同じ表スペースに格納されていなければなりません。または、いずれも対応するデータ・パーティションの表スペースとは異なる複数の LARGE 表スペースに格納されていなければなりません。このエラーは、データ表スペースとは異なるが LARGE 表スペースではない表スペースを指定する LONG IN 節が使用された場合に発生することがあります。LONG IN は、データ表スペースと等しい REGULAR 表スペースを指定する場合のみ使用できます (つまり、LONG IN 節はそれが完全に省略された場合のデフォルトの動作と同じくデータ表スペースを指定するだけであり、LONG IN 節を冗長的に使用する場合になります)。

ユーザーの処置: 表の他の表スペースに一致する表スペースを指定してください。

sqlcode: -1860

sqlstate: 42838

SQL1870N キー・シーケンス列が範囲外であるため、範囲がクラスター化された表に行を挿入できませんでした。

説明: キー・シーケンスの値が定義された範囲外であるため、範囲がクラスター化された表に行を挿入できませんでした。

ユーザーの処置: 範囲がクラスター化された表で定義された範囲を参照するには、この表に定義された制約を照会し、「RCT」という名前の制約を検索します。例えば、`SELECT * FROM SYSIBM.SYSCHECKS WHERE NAME='RCT' AND TABLE=<rct table-name>` とします。

- 有効な `WITH OVERFLOW` オプションで、範囲がクラスター化された表をドロップおよび再作成できません。これにより、範囲がクラスター化された表が作成され、範囲外のレコードが処理可能になりますが、配列は保証されず、ロックの危険性が高くなります。
- このレコードが含まれる新しい範囲定義で、範囲がクラスター化された表をドロップおよび再作成できません。
- 範囲がクラスター化された表レコードの `UNION ALL` であるビューを定義し、範囲外のレコードが含まれる別個の表を作成できます。これにより、挿入、更新、削除、マージ、および照会をビューで実行できます。

sqlcode: -1870

sqlstate: 23513

SQL1871N この機能は範囲がクラスター化された表ではサポートされません。理由コード = *reason-code*。

説明: 一部の機能は範囲がクラスター化された表では使用できません。理由コード:

1

`VALUE COMPRESSION` および `COMPRESS SYSTEM DEFAULT` は使用できません。

2

クラスタリング索引が範囲がクラスター化された表で作成できません。

3

列の追加はサポートされていません。

4

`SET DATA TYPE` はサポートされていません。

5

6

`PCTFREE` の変更はサポートされていません。

`APPEND` モードの変更はサポートされていません。

7

列属性は変更できません。

8

型付き表はサポートされていません。

10

`ALTER TABLESPACE` および `REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION GROUP` コマンドは、範囲がクラスター化された表を含む表スペースの定義に使用されたデータベース・パーティション・グループではサポートされていません。

11

`LOAD` ユーティリティはサポートされていません。

12

表の再編成はサポートされていません。

13

表の切り捨てはサポートされていません。

14

タイプ `XML` の列を使用できません。

15

`COMPRESS YES` はサポートされていません。

17

この理由コードは、パーティション・データベース環境で範囲がクラスター化された表を作成しようとしたが、`CREATE TABLE` ステートメントで指定された分散キーとシーケンス・キーとの関係に問題がある場合に返されます。問題は、`DISTRIBUTE BY HASH` 節で指定された分散キーが、`ORGANIZE BY KEY SEQUENCE` 節で指定されたシーケンス・キーの列の単一の列サブセットでないというものです。

分散キーとシーケンス・キーの間のこの関係を、以下の例に示します。

例 1: 分散キーがシーケンス・キーの単一の列サブセットである。

```
CREATE TABLE ...
  ORGANIZE BY KEY SEQUENCE (colA, colB)
  ... DISTRIBUTE BY HASH (colA)
```

例 2 (エラー): 分散キーがシーケンス・キーの単一の列サブセットではない。

```
CREATE TABLE ...
  ORGANIZE BY KEY SEQUENCE (colA, colB)
  ... DISTRIBUTE BY HASH (colC)
```

18

この理由コードは、範囲がクラスター化されたマテリアライズ照会表を作成しようとしたが、CREATE TABLE ステートメントで DISALLOW OVERFLOW 節が指定されている場合に返されます。定義済みの範囲に入らないキー値を持つレコードが、範囲がクラスター化されたマテリアライズ照会表に挿入されないようにすることはできません。

ユーザーの処置: この表で無効な機能が要求された場合、ORGANIZE BY KEY SEQUENCE 節を使用しない表の作成を考慮してください。表がすでに存在する場合はそれをドロップし、表を再作成する必要があります。理由コード:

1

VALUE COMPRESSION 節または COMPRESS SYSTEM DEFAULT 節を除去してください。

2

キーワード CLUSTER を CREATE INDEX ステートメントから除去してください。

3

列を追加するには、表をドロップし、追加列を使用して再作成する必要があります。

4

SET DATA TYPE 節を ALTER TABLE ステートメントから除去してください。

5

PCTFREE 節を ALTER TABLE ステートメントから除去してください。

6

APPEND 節を ALTER TABLE ステートメントから除去してください。

7

列属性を変更するには、表をドロップし、新規の列属性を使用して再作成する必要があります。

8

型付き表定義を ORGANIZE BY KEY SEQUENCE 節とともに使用しないでください。

10

範囲がクラスター化された表を含む表スペースの定義に使用されたデータベース・パーティション・グループを変更または再配分するには、以下のステップを実行します。

1. 範囲がクラスター化された表をドロップして、変更または再配分する対象のデータベース・パーティション・グループに属さない表スペースで再作成します。
2. ALTER TABLESPACE コマンドまたは REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION GROUP コマンドを再び呼び出します。

11

LOAD ユーティリティの代わりに IMPORT ユーティリティを使用することを考慮してください。データのサブセットを使用して、複数の IMPORT コマンドを並行して発行し、パフォーマンスを向上できます。さらに、キー・シーケンス範囲の異なる領域をデータに追加する、並列挿入アプリケーションの使用を考慮してください。

12

表の再編成は範囲がクラスター化された表では必要ありません。

13

表をドロップし、再作成してください。

14

データ・タイプ XML で定義されている列を除去するか、または別のサポートされているユーザー・タイプを使用してください。

15

COMPRESS YES 節を除去してください。

17

パーティション・データベース環境で範囲がクラスター化された表を作成するには、CREATE TABLE ステートメントに以下のいずれかの変更を行い、ステートメントを再び実行してください。

- DISTRIBUTE BY HASH 節ではなく DISTRIBUTE BY REPLICATION 節を使用します。
- DISTRIBUTE BY HASH 節で、ORGANIZE BY KEY SEQUENCE 節でシーケンス・キーに指定された列のいずれかである単一の列を、分散キーとして指定します。

18

DISALLOW OVERFLOW 節を指定せずに
CREATE TABLE ステートメントを再び実行し
てください。

sqlcode: -1871

sqlstate: 429BG

SQL1880N *option-name* は、ラッパー *wrapper-name*
またはフェデレーテッド・データ・ソース
server-name のいずれかまたは両方により
カーソル *object-name* に対してサポートさ
れている *option-type* オプションではあり
ません。

説明: フェデレーテッド・データ・ソース *server-name*
でラッパー *wrapper-name* を使用してニックネームにア
クセスするカーソル *cursor-name* は、タイプ *option-type*
のオプション *option-name* を使用して宣言されました
が、ラッパーまたはデータ・ソース自体のいずれかがこ
のオプションをサポートしません。

カーソルをオープンできません。

ユーザーの処置: このオプションではカーソルをオー
プンしないでください。

sqlcode: -1880

sqlstate: 428EE

SQL1881N *option-name* は、*object-name* に対して有効
な *option-type* ではありません。

説明: 指定されたオプションが存在しないか、あるいは
操作している特定のデータ・ソース、データ・ソース・
タイプ、またはデータベース・オブジェクトに対して有
効ではないと思われる。

ユーザーの処置: SQL リファレンスを参照して、必要
なオプションを調べてください。次に、実行するステ
ートメントを訂正して再サブミットしてください。

sqlcode: -1881

sqlstate: 428EE

SQL1882N *option-type* オプション *option-name* は、
object-name に対して *option-value* に設定
できません。

説明: 指定した値に正しい区切り文字が欠落している
か、または値が無効です。

ユーザーの処置: SQL リファレンスを参照して、必要
な値を調べてください。次に、実行するステートメント

を訂正して再サブミットしてください。値は必ず単一引
用符で区切ってください。

sqlcode: -1882

sqlstate: 428EF

SQL1883N *option-name* は、*object-name* に対して必須
option-type オプションです。

説明: サブミットしたステートメントを処理するために
DB2 が必要とするオプションを指定しませんでした。

ユーザーの処置: 実行するステートメントに必要なオブ
ションを見つけるには、資料を参照してください。次
に、このステートメントを訂正して再サブミットして
ください。

sqlcode: -1883

sqlstate: 428EG

SQL1884N *object_type* オブジェクト *object_name* に
対して *option_name* オプションが複数回
指定されました。

説明: 同じオプションを複数回参照するステートメント
が入力されました。

ユーザーの処置: ステートメントを再びコーディングし
て、必要なオプションの参照を 1 回のみにします。そ
の後、ステートメントを再びサブミットしてください。

sqlcode: -1884

sqlstate: 42853

SQL1885N *option_type* オプション *option_name* は、
object_name に対して既に定義されていま
す。

説明: すでに値を持っているオプションの値を入力しま
した。

ユーザーの処置: 該当するカタログ・ビューに照会を行
って、オプションが現在設定されている値を判別して
ください。このオプション値が必要な値と違う場合は、
ステートメントを再びコーディングして SET キーワード
を OPTIONS キーワードの後にしてください。このオブ
ションのオプションがどのカタログ・ビューに含まれる
のかを調べてください。カタログ・ビューについては、
DB2 インフォメーション・センターを参照してくださ
い。

sqlcode: -1885

sqlstate: 428EH

SQL1886N *object-name* に対して *option-type* オプション *option-name* が定義されていないため、*operation-type* 操作が無効です。

説明: 操作しているデータ・ソース、データ・ソース・タイプ、またはデータベース・オブジェクトに定義されていないオプションの値を変更または削除しようと試みました。

ユーザーの処置: 実行するステートメントに SET を指定した場合は、ステートメントを再びコーディングして、SET を省略するか、または SET を ADD で置き換えます (ADD がデフォルトです)。不正な DROP 節があれば、すべて削除してください。その後、ステートメントを再びサブミットしてください。

sqlcode: -1886

sqlstate: 428EJ

SQL1887N SPECIFICATION ONLY 節が必要です。

説明: ニックネームに対する CREATE INDEX ステートメントには、SPECIFICATION ONLY 節が必要です。

ユーザーの処置: SPECIFICATION ONLY 節を追加して、ステートメントを再サブミットしてください。

sqlcode: -1887

sqlstate: 42601

SQL1888N ポート番号 *port-number* は無効です。

説明: 代替サーバーの更新コマンドに指定したポート番号は有効ではありません。その値は数値ではないか、または長さが無効です。値は 1 から 14 文字の長さでなければならない、すべて空白にすることはできません。

ユーザーの処置: ポート番号を数値で指定したことで、長さが 14 文字を超えていないことを確認してください。

有効なポート番号を指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1889W 代替サーバーの更新の要求は無視されました。

説明: 要求は、データベース・サーバーに対してのみ適用することができます。

ユーザーの処置: データベース・サーバーでその要求を出してください。

SQL1890N ホスト名 *host-name* が無効です。

説明: 代替サーバーの更新コマンドに指定したホスト名は有効ではありません。値は 1 文字以上 255 文字以下の長さでなければならない、すべて空白にすることはできません。

ユーザーの処置: ホスト名の長さは、255 文字を超えていないことを確認してください。

有効なホスト名を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL1891N ホスト名パラメーターのアドレスは無効です。

説明: アプリケーション・プログラムが、ホスト名 (*host name*) パラメーターに無効なアドレスを使用しました。そのアドレスが割り振られていないバッファーを指しているか、またはそのバッファー内の文字ストリングに NULL 終止符がありません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: アプリケーション・プログラムを修正して、有効なアドレスを使用し、入力ストリングが NULL で終了するようにしてください。

SQL1892N ポート番号パラメーターのアドレスは無効です。

説明: アプリケーション・プログラムが、ポート番号 (*port number*) パラメーターに無効なアドレスを使用しました。そのアドレスが割り振られていないバッファーを指しているか、またはそのバッファー内の文字ストリングに NULL 終止符がありません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: アプリケーション・プログラムを修正して、有効なアドレスを使用し、入力ストリングが NULL で終了するようにしてください。

SQL1900N コマンドは正常に完了しました。

説明: コマンド行ユーティリティーが、コマンドを正常に終了しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL1901N このコマンドの構文が正しくありません。

説明: コマンド行ユーティリティーがコマンドを処理できませんでした。

ユーザーの処置: コマンドの訂正と再サブミットを行ってください。

第 5 章 SQL2000 - SQL2499

SQL2000N ユーティリティ・コマンドに指定されたドライブは、有効なディスク・ドライブまたはハード・ディスクではありません。

説明: ユーティリティ・コマンドに指定された入出力ドライブが存在しません。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 正しいドライブ名を使用して、ユーティリティ・コマンドを再サブミットしてください。

SQL2001N ユーティリティへの割り込みが発生しました。出力データが不完全の可能性があります。

説明: 割り込みキー・シーケンスが押されたか、または呼び出し側終了アクションでユーティリティが呼び出されています。

このメッセージは、データベース・カタログ・ノードがダウンしている場合に、データベース・ノードでのバックアップまたはリストア処理中に返されます。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 必要に応じて、アプリケーションを再始動するか、またはコマンドを再発行してください。割り込まれたコマンドからの出力データは不完全な可能性があるため、使用するべきではありません。

SQL2002N 指定されたデータベース・ユーティリティ・コマンドはリモート・データベースに対して無効です。コマンドで指定されたデータベースはローカル・ワークステーションになければなりません。

説明: データベース・ユーティリティ・コマンドはローカル・データベースにのみ有効です。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: ユーティリティをローカルで実行してください。

SQL2003C システム・エラーが発生しました。

説明: オペレーティング・システム・エラーが発生しました。戻りコードは SQLCA の「SQLERRD[0]」フィールドにあります。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: SQLCA 内の「SQLERRD[0]」フィールドにあるエラー戻りコードを調べてください。可能であれば、エラーを修正して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2004N 処理中に、SQL エラー *sqlcode* が発生しました。

説明: エラーが起きたときに、ユーティリティが SQL ステートメントを使用していました。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージの SQLCODE (メッセージ番号) を調べてください。変更を行って、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2005C 読み取り操作中に入出力エラーが発生しました。データが不完全な可能性があります。

説明: 入出力操作中に、不完全なデータが読み取られました。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 修正可能な入出力エラーかどうか判別して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2006C 書き込み操作中に入出力エラーが発生しました。データが不完全な可能性があります。

説明: 入出力操作中に、不完全なデータが書き込まれました。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 修正可能な入出力エラーかどうか判別して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2007N 指定されたバッファ・サイズ *bufferize* 4K バッファは、*pagesize* ページ・サイズのオブジェクトには小さすぎます。

説明: *pagesize* ページ・サイズのオブジェクトのバックアップを行うには、ページ・サイズよりも大きいバッファが必要です。データベースをバックアップすると、データはまず内部バッファにコピーされます。バッファがいっぱいになると、データがこのバッファからバックアップ・メディアに書き込まれます。指

SQL2008N

定されたバッファ・サイズ *buffersize* 4K バッファは不適當です。

ユーザーの処置: より大きいバッファ・サイズを使用してください。

SQL2008N **callerac** パラメーターが有効な範囲内ではないか、または要求されたアクションの順序が正しくないため、ユーティリティ・コマンドを処理できませんでした。

説明: 各ユーティリティは、有効な *callerac* の値のリストをそれぞれ持っています。

このメッセージは、以下のいずれかの理由で返される可能性があります。

- *callerac* パラメーター値が受け入れ可能な値ではない
- 要求されたアクションの順序が正しくない

ユーザーの処置: ユーティリティにとって有効な *callerac* パラメーターを使用してコマンドを再サブミットしてください。

SQL2009C メモリー・リソースが不十分だったため、バックアップまたはリストアに失敗しました。

説明: この問題は以下の状況で発生します。

1. データベースのバックアップまたはリストアの試行は、ユーティリティ・ヒープのスペースが不十分であったため、失敗しました。
2. ユーティリティはオンライン・バックアップの試行中に実行されたままでした。

ユーザーの処置: このメッセージの説明に記載された、考えられるすべての事例を解決するには、コマンドを再発行します。このとき、以下のパラメーターを指定しないでオートノミック・モードを呼び出します。

```
WITH num-buffers BUFFERS  
PARALLELISM n  
BUFFER buffer-size
```

パラメーターを明示的に指定する場合、それぞれの事例における適切なアクションは以下のとおりです。

1. コマンド `UPDATE DB CFG FOR <DBNAME> USING UTIL_HEAP_SZ <VALUE>` を使用して *UTIL_HEAP_SZ* データベース構成パラメーターを増やします。バックアップおよびリストアの場合、この値は、少なくともバッファ数 * バッファ・サイズと同じ大きさでなければなりません。バックアップおよびリストアのバッファの詳細については、DB2 インフォメーション・センター (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2luw/v9>)

で、"optimizing restore performance"、"optimizing backup performance" などの語句を使用して検索してください。

注: RESTORE を試行した時にはデータベースがもう存在しない場合、空のデータベースを作成し、上記のようにその *UTIL_HEAP_SZ* を増やしてから新しいデータベースへのリストアを再試行してください。

2. ユーティリティが実行されていないことを確認してからオンライン・バックアップを再試行してください。

SQL2010N ユーティリティが、データベースへの接続中にエラー *error* を見つけました。

説明: ユーティリティはデータベースに接続できませんでした。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージのエラー番号を調べてください。変更を行って、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2011N ユーティリティが、データベースへの切断中にエラー *error* を見つけました。

説明: ユーティリティはデータベースから切断できませんでした。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージのエラー番号を調べてください。変更を行って、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2012N 割り込み処理が使用できませんでした。

説明: ユーティリティが割り込み処理を使用できませんでした。実際の戻りコードは、*SQLCA* の「*SQLERRD[0]*」フィールドにあります。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: *SQLCA* 内の「*SQLERRD[0]*」フィールドにあるエラー戻りコードを調べてください。可能であれば、エラーを修正して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2013N ユーティリティがデータベース・ディレクトリにアクセスできませんでした。エラー *error* が返されました。

説明: ユーティリティがデータベース・ディレクトリにアクセスしているときに、エラーが発生しました。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: *database* パラメーターのパスがデータベース・ディレクトリーのパスでない場合は、正しいパスを使用して、コマンドを再サブミットしてください。そうでない場合は、詳細について、メッセージのエラー番号を調べてください。変更を行って、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2014N データベース環境エラーが発生しました。

説明: ユーティリティが、*database environment* コマンドからエラーを受け取りました。データベース・マネージャ構成ファイルと当該データベース構成ファイルに、互換性のない値が入っている可能性があります。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: データベース・マネージャ構成ファイルとデータベース構成ファイルの矛盾している値をチェックしてください。コマンドを再サブミットしてください。

SQL2015N *database* パラメーターが無効です。データベース名が長すぎるか、指定されていないか、または名前アドレスが無効です。

説明: データベース名は必須です。データベース名は 1 文字から 8 文字までのデータベース・マネージャ基本文字セットから選択しなければなりません。名前は、有効なアプリケーション・アドレスに位置する必要があります。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 有効なデータベース名を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2016C *program-name* のパスが、*PATH* コマンドに含まれていません。

説明: ユーティリティがオペレーティング・システムの *Select Path* を使用して、要求されたプログラムを見つけることができませんでした。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: *PATH* コマンドを更新して、示されたプログラム名へのパスを組み込んでください。

SQL2017N すでに開始しているセッションが多すぎるか、または OS/2 Start Session が正常に完了していません。

説明: 以下に示す理由のために、BACKUP または RESTORE ユーティリティが新しいセッションを開始できませんでした。

- すでに開始されているセッションの数が最大値に達しています。
- OS/2 Start Session プログラムがエラーを返しました。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: いくつかの現行セッションが処理を停止するまで待って、コマンドを再サブミットしてください。または、詳細について、SQLCA の「SQLERRD[0]」フィールドを参照して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2018N ユーティリティが、ユーザーの許可 ID またはデータベース許可をチェックしようとしたときに、エラー *error* が起きました。

説明: ユーザーがユーティリティを実行しようとしたが、以下のいずれかが起きました。

- ユーザー許可 ID が無効。
- データベースに対するユーザーの許可にアクセスしようとしたときに、エラーが発生した。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージのエラー番号を調べてください。変更を行って、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2019N ユーティリティをデータベースにバインドする際に、エラーが発生しました。

説明: 実行されている現在のレベルのユーティリティはデータベースにバインドされていないため、システムはすべてのユーティリティをデータベースにバインドしようとしたが、このバインド処理が失敗しました。エラーの原因として、以下のような状況が考えられます。

- ディスク・スペースの不足
- 開いているファイルが多すぎる (または、それに類似したシステム・リソースの問題)
- バインドされるユーティリティ・プログラムのリスト (*db2ubind.lst*) が欠落しているか、無効である
- いずれかのユーティリティのバインド・ファイル (*db2uxxxx.bnd*) が欠落しているか、無効である
- ユーティリティをバインドするための許可が不十分 (ユーティリティ・プログラムに対する BIND 特権、およびシステム・カタログに対する SELECT 特権が必要です)

RESTORE ユーティリティーの場合、データベースはリストアされますが、少なくとも 1 つのユーティリティーがデータベースにバインドされません。他のユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: システム・リソースを求めて競合している可能性のあるすべてのアクティビティーを完了させて、ユーティリティー・コマンドを再サブミットしてください。エラーが続く場合は、以下のいずれかのアクションを実行してください。

- DBADM 権限を持つユーザーに、コマンドの再試行を依頼してください。
- データベース・マネージャーを再インストールするか、または最新の更新処理を再適用するか、あるいはその両方を行ってください。
- (フォーマット・オプションを使用せずに、db2ubind.lst ファイルにリストされた db2uxxxx.bnd ファイルをバインドすることにより) ユーティリティー・プログラムを個別にデータベースにバインドすると、特定の問題を識別できます。また、そうすることで、いくつかのユーティリティーが正常に作動する可能性もあります。

SQL2020N ユーティリティーが、データベースに正しくバインドされていません。

説明: ユーティリティーがデータベースにバインドされなかったか、またはデータベースにバインド・ユーティリティーのパッケージがインストールされたバージョンのデータベース・マネージャーと互換でないために、すべてのユーティリティーがデータベースに再バインドされましたが、依然としてインストールされたバージョンのデータベース・マネージャーとパッケージの間には、ユーティリティーとバインド・ファイルが互換でないというタイム・スタンプの矛盾があります。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーを再インストールするか、または最新の更新処理を再適用するか、あるいはその両方を行ってください。ユーティリティー・コマンド再サブミットしてください。

SQL2021N ドライブに正しいディスクが入っていません。

説明: Backup Database または Restore Database に使用するディスクが、ドライブに入っていないか、または無効です。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 正しいディスクがドライブに挿入されていることを確認するか、または新しいディスクを挿入してください。

SQL2023N ログ制御ファイルにアクセス中に、ユーティリティーで入出力エラー *code* が起きました。

説明: 以下の 2 つのログ制御ファイルが存在します。

- 1 次ログ制御ファイル SQLOGCTL1.LFH
 - 2 次ログ制御ファイル SQLOGCTL2.LFH
- 2 次ログ制御ファイルは、1 次ログ制御ファイルで問題が発生した場合に使用する 1 次ログ制御ファイルのミラー・コピーです。

DB2 データベース・マネージャーは、1 次ログ制御ファイルにアクセス中に読み取りまたは書き込みエラーを受け取りました。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: エラー戻りコードの値を記録してください。入出力エラーが修復可能かどうかを判断してください。

SQL2024N ユーティリティーがファイル・タイプ *file-type* へのアクセス中に、入出力エラー *code* が起きました。

説明: 指定されたファイルにアクセス中に入出力エラーが発生しました。

リストア処理が異常終了したかどうかを判断するには、拡張子が“.BRG”のファイルを使用します。このファイルは、リストア操作の対象であったデータベースのローカル・データベース・ディレクトリーに入っています。

拡張子“.BRI”のファイルは、増分 RESTORE 操作の進行状況に関する情報を保管します。このファイルは、リストア増分操作の対象となったデータベースのローカル・データベース・ディレクトリーに入っています。

このファイルの名前は、データベース・トークンにファイル・タイプ拡張子を連結して作成されます。たとえば、データベース“SAMPLE”にデータベース・トークン“SQL00001”が割り当てられると、BRI ファイルには“instance/NODE0000/sqlbdir/SQL00001.BRI”という名前が付きまます。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: エラー戻りコードを記録してください。入出力エラーが修復可能かどうかを判断してください。

SQL2025N 入出力エラーが発生しました。エラー・コード: *code*。このエラーが発生したメディア: *dir_or_devices*。

説明: 示されたメディア上のファイルのアクセス中に入

出力エラーが発生しました。

ユーティリティまたは操作が処理を停止しました。

メディアが「TSM」である場合、IBM Tivoli Storage Manager に関連した問題があります。一般的な TSM 関連の問題には、不十分な COMMTIMEOUT の設定値に起因する TSM セッションのタイムアウトがあります。

ユーザーの処置:

1. 特定のエラー・コードを検索するためにログ分析ツールを使用して、db2diag 診断ログ・ファイルから詳細情報を収集してください。

```
db2diag -rc <RC>
```

2. 以下のように、メディアのタイプに応じてこのエラーに対応します。
 - メディアが TSM である場合、IBM Tivoli インフォメーション・センターで、「API 戻りコード 数字順」などの語句を使用してエラー・コードの全文を検索してください。
 - 他のメディア・タイプでは、*dir_or_devices* がアクセス可能であることを確認し、メディア・エラーがないかを検査します。たとえばメディア TAPE の場合、テープ・ライブラリーがオンラインであることを確認します。TAPE へのバックアップをしようとしており、可変ブロック・サイズのテープを使用している場合、バッファー・サイズ・オプションを、磁気テープ装置がサポートする範囲内まで削減します (このパラメーターが指定されていない場合、データベース・マネージャーは自動的に 'optimal' 値を選択します)。

SQL2026N データベースからの内部的切断中に、エラー *sqlcode* が起きました。

説明: internal disconnect コマンドが失敗しました。SQLCODE がメッセージに返されています。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージの SQLCODE (メッセージ番号) を調べてください。変更を行って、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2027N データベースへの内部接続中に、エラー *sqlcode* が起きました。

説明: 内部接続が失敗しました。SQLCODE がメッセージに返されています。データベース・マネージャー構成ファイルと当該データベース構成ファイルに、互換性のない値が入っている可能性があります。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージの SQLCODE (メッセージ番号) を調べてください。変更を

行って、コマンドを再サブミットしてください。データベース・マネージャー構成ファイルの値と、バックアップ・イメージのデータベース・マネージャー構成ファイルの値が互換であることをチェックしてください。

SQL2028N 割り込みハンドラーのインストール中に、エラー *sqlcode* が起きました。

説明: ユーティリティが、割り込みハンドラーを使用できませんでした。SQLCODE がメッセージに返されています。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージの SQLCODE (メッセージ番号) を調べてください。変更を行って、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2029N エラー *error* が *command-file-name* の処理中に起きました。

説明: 指定されたコマンド・ファイル、またはオペレーティング・システムからエラーが返されました。

ユーザーの処置: ROLLFORWARD リカバリーの有効なデータベースの『変更部分のみのバックアップ』が要求されたか、またはユーザー出口の使用が要求されているにもかかわらず『変更部分のみのバックアップ』が要求されました。

SQL2030N *name* ドライブがいっぱいです。このドライブには、少なくとも *number* バイトの空きスペースが必要です。

説明: 指定されたドライブに、内部で使用するサブディレクトリーと情報ファイルを作成するための十分なスペースがありません。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 指定したドライブに示されたスペースを確保して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2031W 警告! 装置 *device* に、ターゲットまたはソースのメディアを取り付けてください。

説明: データベース・ユーティリティ処理は、指定された装置上のメディアとの間で、データの書き込みまたは読み取りのいずれかを行います。ユーティリティは、操作に適したメディアを取り付けられるように、制御を戻します。

ユーティリティは、続行の応答を待ちます。

ユーザーの処置: メディアを取り付けて、処理を続行するか終了するかを示す *callerac* パラメーターを指定して、ユーティリティに戻ってください。

SQL2032N *parameter* パラメーターが無効です。

説明: パラメーターの指定が正しくありません。値が範囲外か、または正しくありません。

ユーザーの処置: パラメーターに正しい値を指定して、コマンドを再サブミットしてください。

sqlcode: -2032

sqlstate: 22531

SQL2033N データベース・ユーティリティの処理での TSM のアクセス時に、エラーが発生しました。 TSM 理由コード:

reason-code.

説明: 一般的な TSM の理由コードは、以下のとおりです。

106

指定されたファイルは、別の処理で使用されています。別の処理で現在使用されているファイルに対する読み取りまたは書き込みを行おうとしました。

137

TSM 認証障害。

168

パスワード・ファイルが必要ですが、ユーザーはルートではありません。DSMI_DIR 環境変数が 32 ビット版の dsmtca プログラムが含まれるディレクトリーを指すものの、DB2 インスタンスが 64 ビットであるか、またはその逆である場合に、このメッセージがよく生成されます。

400

無効なオプションが TSM に渡された OPTIONS パラメーターに指定されました。

406

TSM はオプション・ファイルを検索または読み取ることができません。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: TSM の一般的な問題に対する対応は、以下のとおりです。

106

正しいファイルまたはディレクトリー名を指定したことを確認し、許可を訂正するか、あるいは新規のロケーションを指定してください。

137

384 メッセージ・リファレンス 第 2 巻

TSM パラメーター PASSWORDACCESS が GENERATE に設定されている場合、システム管理者が dsmapipw ユーティリティを使用しパスワードを設定したことを確認してください。PASSWORDACCESS が PROMPT に設定されている場合、TSM_NODENAMEおよび TSM_PASSWORD データベース構成パラメーターが正しく設定されていることを確認してください。

168

DSMI_DIR が正しいバージョンの dsmtca が入っているディレクトリーを指すようにしてから、インスタンスを再始動してコマンドを再度実行してください。

400

BACKUP または RESTORE コマンドに指定された OPTIONS パラメーターが正しいことを確認してください。

406

DSMI_CONFIG 環境変数が有効な TSM オプション・ファイルを指していることを確認してください。インスタンスの所有者が dsm.opt ファイルへの読み取りアクセスを持っていることを確認してください。DSMI_CONFIG 環境変数が db2profile で設定されていることを確認してください。

SQL2034N *parm* パラメーターのアドレスが無効です。

説明: アプリケーション・プログラムが、このパラメーターに無効なアドレスを使用しました。そのアドレスが割り振られていないバッファを指しているか、またはそのバッファ内の文字ストリングに NULL 終止符がありません。

ユーザーの処置: 有効なアドレスがアプリケーション・プログラムで使用され、入力ストリングが NULL で終了していることを確認してください。

SQL2035N ユーティリティが非割り込みモードで実行中に、警告状況 *warn* が発生しました。

説明: 呼び出し中のアプリケーションが、非割り込みモードでユーティリティを呼び出しました。その操作中に、警告状況が発生しました。

ユーザーの処置: 非割り込み条件を *callerac* パラメーターに指定せずに操作を再サブミットするか、警告を回

避するアクションを取って操作を再サブミットしてください。

SQL2036N ファイル、名前付きパイプ、またはデバイスのパス *path/device* が無効です。

説明: ユーティリティを呼び出しているアプリケーションが、無効なソースまたはターゲット・パスを指定しました。指定されたパス、ファイル、名前付きパイプ、またはデバイスは存在しない可能性があるか、または正しく指定されていません。

ユーザーの処置: 正しいパスまたは装置を表すパスを使用して、ユーティリティ・コマンドを再発行してください。

SQL2037N TSM をロードできませんでした。

説明: データベース・ユーティリティへの呼び出しが、バックアップのターゲットまたはソースとして TSM を指定していました。TSM クライアントのロードが試みられました。TSM クライアントがシステムで使用できないか、またはロード・プロシージャでエラーが発生しました。

ユーザーの処置: TSM がシステムで使用できることを確認してください。TSM が使用できるようになった後でコマンドを再サブミットするか、または TSM を使用せずにコマンドを再サブミットしてください。

SQL2038N 処理中にデータベース・システム・エラー *errcode* が起きました。

説明: いずれかのユーティリティを処理中に、データベース・システム・エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージのエラー・コードを調べてください。修正アクションを取った後で、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2039N ユーティリティを呼び出しているアプリケーションが終了しました。

説明: ユーティリティを呼び出しているアプリケーションが終了しました。ユーティリティのアプリケーション側が、呼び出し中のアプリケーションと同じ処理にあるので、アプリケーションとともに終了しました。その結果、ユーティリティのエージェント側も終了しました。

ユーザーの処置: アプリケーションが終了した理由を判別した後で、コマンドを再発行してください。

SQL2040N データベース別名パラメーター *dbalias* が無効か、または指定されていません。

説明: バックアップまたはリストア・ユーティリティを呼び出しているアプリケーションが、無効なデータベース別名パラメーターを指定しました。別名は 1 から 8 バイトで、文字はデータベース・マネージャー基本文字セットから選択する必要があります。

ユーザーの処置: 有効なデータベース別名を使用して、Backup または Restore コマンドを再発行してください。

SQL2041N 指定されたバッファ・サイズ・パラメーターが無効です。バッファ・サイズは、0、または 8 から 16384 (8 と 16384 を含む) の間で指定する必要があります。

説明: ユーティリティを呼び出しているアプリケーションが、無効な *buffer size* パラメーターを指定しました。バッファ・サイズは、内部バッファ・サイズの決定に使用されます。値は、このバッファ用に取得される 4K ページの数です。値は、0 または 8 から 16384 (16 と 16384 を含む) 間で指定する必要があります。

バックアップまたはリストア・ユーティリティの実行では、0 を指定すると、データベース・マネージャー構成に定義されているデフォルト・バッファ・サイズが使用されます。

ターゲットのメディアがディスクの場合、*buffer size* はディスクのサイズより小さくなるようにしてください。

SQL2042W 警告! 装置 *device* へのアクセス中に、入出力エラー *error* が発生しました。追加情報 (ある場合): *additional-information* メディアが正しくマウントされ、正しい位置にあることを確認してください。

説明: ユーティリティを呼び出しているアプリケーションが、テープ装置に対する読み取りまたは書き込みを行っているときに、入出力エラーが発生しました。ユーティリティは、テープを正しい位置に取り付けられるように、制御を戻します。

このメッセージには問題の診断をする手助けとなる追加情報が入っています。

ユーティリティは、続行の応答を待ちます。

ユーザーの処置: テープを正しい位置に取り付けた後、処理を続行するか終了するかを指定してユーティリティに戻ってください。

エラー、装置および追加情報 (ある場合) は、問題を診

SQL2043N

断し訂正するのに使用することができます。

SQL2043N 子処理、またはスレッドを開始できません。

説明: データベース・ユーティリティの処理中に要求された子処理またはスレッドを開始できません。新しい処理またはスレッドを作成するためのメモリーが不十分だと思われます。ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 処理またはスレッドの数のシステム制限に達していないことを確認してください (制限を増やすか、あるいはすでに実行されている処理またはスレッドの数を減らしてください)。新しい処理またはスレッドに対する十分なメモリーが存在することを確認してください。ユーティリティ・コマンド再サブミットしてください。

SQL2044N メッセージ・キューのアクセス中にエラーが発生しました。理由コード:
reason-code

説明: データベース・ユーティリティの処理中に、いずれかのメッセージ・キューに関して、予期しないエラーまたは間違ったメッセージを受け取りました。以下が理由コードのリストです。

- 1 メッセージ・キューを作成できません。メッセージ・キューの許容数に達しました。
- 2 メッセージ・キューからの読み取り中に、エラーが発生しました。
- 3 メッセージ・キューへの書き込み中に、エラーが発生しました。
- 4 メッセージ・キューから、無効なメッセージを受け取りました。
- 5 メッセージ・キューのオープン中に、エラーが発生しました。
- 6 メッセージ・キューのクローズ中に、エラーが発生しました。
- 7 メッセージ・キューの照会中に、エラーが発生しました。
- 8 メッセージ・キューの削除中に、エラーが発生しました。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: メッセージ・キューの許容数に達していないことを確認してください。必要に応じて、使用中のメッセージ・キューの数を少なくして、ユーティリティ・コマンドを再サブミットしてください。

SQL2045W 警告! エラー *error* がメディア *media* への書き込み中に起こりました。

説明: データベース・ユーティリティ処理がメディア *media* に書き込み中に、*error* を検出しました。ユーティリティは、ユーザーが問題の解決またはその操作のキャンセルを試みることができるように、制御を戻しません。

ユーティリティは、続行の応答を待ちます。

ユーザーの処置: オペレーティング・システムに対するトラブルシューティングの資料を調べて、*error* 条件を訂正してください。処理を続行または終了するべきであることを示す、正しい *caller action* パラメーターを指定して、ユーティリティに戻ってください。

SQL2046N 操作がタイムアウトになったため、構成パラメーター *parameter-name* を更新できませんでした。

説明: クラスター・キャッシング・ファシリティ (CF) はインスタンス・レベルで指定され、DB2 pureCluster 環境での操作で重要ないくつかのサービスを提供します。CF 構造には、DB2 pureCluster インスタンスの各データベースの情報を含む、DB2 pureCluster インスタンスのエレメントに関する情報が含まれます。

CF 構造メモリー・パラメーターは、オンラインで構成可能であり、実行時のサイズ変更要求を受け入れます。構造メモリー・パラメーター

(CF_GBP_SZ、CF_SCA_SZ、および CF_LOCK_SZ など) のサイズ変更要求は、CF_DB_MEM_SZ に設定されたメモリー制限によって集散的に制限されます。

構造メモリー・パラメーターの更新操作は、時間制限内で完了する必要があります。このメッセージは、操作がその時間制限を超えた場合に返されます。操作は完了しませんでした。

ユーザーの処置: SHOW DETAIL 節を指定した GET DB CFG コマンドを使用して CF 構造に割り振られたメモリーの合計量を確認してください。構造メモリー・パラメーターは合計してパラメーター CF_DB_MEM_SZ の値を超えてはなりません。

資料で推奨されているように、*parameter-name* の値をすべての CF 構造メモリー・パラメーター間で定義されている関係に従った値に設定します。

sqlcode: -2046

sqlstate: 5U050

SQL2047N データベース構成パラメーター
parameter-name を指定の値に増やす要求を満たすために必要な使用可能メモリーが CF にありません。

説明: クラスタ・キャッシング・ファシリティ (CF) はインスタンス・レベルで指定され、DB2 pureCluster 環境での操作で重要ないくつかのサービスを提供します。CF 内の構造には、DB2 pureCluster インスタンスの各データベースの操作に重要なエレメントが入っています。

CF メモリー全体は、データベース・マネージャ構成パラメーター CF_MEM_SZ によって制限されます。

各データベースに使用可能な CF メモリーは、データベース構成パラメーター CF_DB_MEM_SZ によって制限されます。CF_DB_MEM_SZ は上限にすぎず、そのサイズのメモリーが予約されているわけではないことに注意してください。

使用可能な CF メモリーは、他のアクティブなデータベース (サポートされている場合) や CF の内部目的のために消費される場合があります。

このメッセージは、*parameter-name* を CF_MEM_SZ または CF_DB_MEM_SZ で使用可能なメモリー量を超える値に設定しようとする場合に返されます。

ユーザーの処置: SHOW DETAIL 節を指定した GET DB CFG コマンドを使用して CF 構造に使用可能なメモリーの合計量を確認してください。CF 全体に使用可能なメモリー量を示すパラメーターは CF_MEM_SZ です。すべての CF 構造に使用可能なメモリー量を示すパラメーターは CF_DB_MEM_SZ です。

parameter-name の値をより小さい値に設定してください。

sqlcode: -2047

sqlstate: 5U051

SQL2048N オブジェクト *object* のアクセス中に、エラーが起きました。理由コード:
reason-code

説明: データベース・ユーティリティの処理でのオブジェクトのアクセス時に、エラーが発生しました。以下が理由コードのリストです。

1

無効なオブジェクト・タイプが見つかりました。

2

オブジェクトのロック処理が失敗しました。ロック待ちが、データベース構成に指定されているロック・タイムアウト限界に達した可能性があります。

3

データベース・ユーティリティの処理中に、オブジェクトのアンロック処理が失敗しました。

4

オブジェクトに対するアクセスが失敗しました。

5

データベース内のオブジェクトが壊れていません。

6

複数ある中の 1 つの理由により表スペースにアクセスできない場合、理由コード 6 でこのメッセージが返されます。例えば、次のような理由があります。

- 表スペースの状態がアクセス試行のタイプをサポートしていません。データベースの状態が静止、オフライン、バックアップ進行中などの場合、ある種のデータベース・アクセスが行えない可能性があります。
- 1 つ以上の表スペース・コンテナーを使用できません。

例えば、既にバックアップ処理中の表スペースをバックアップしようすると、理由コード 6 でこのメッセージが返される可能性があります。

7

オブジェクト削除操作が失敗しました。

8

このパーティションに定義されていない表へのロード/静止を試行しました。

9

BACKUP ユーティリティは オブジェクトの処理中に予期しない場所でファイルの終わりを検出しました。これは、必ずしもデータが破損しているという意味ではありませんが、BACKUP ユーティリティは現在の状態でデータを処理することはできません。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置:

1

object が有効なタイプであることを確認してください。

2

locktimeout データベース構成パラメーターを増やしてください。

3

object のロック中に問題が発生しないことを確認して、操作を再試行してください。

4, 7

object が存在し、アクセス可能であることを確認してください。アクセスするための適切な権限/許可を持っていることを確認してください。

5

オブジェクトが db2rhist.asc である場合、インスタンス所有者が db2rhist ファイルにアクセスできることを確認してください。許可が正しく設定されている場合、db2rhist ファイルが破損している可能性があります。既存のファイルを現在の場所から移動するか、削除してください。次回にアクセスする必要が生じたとき、新しい db2rhist ファイルが DB2 によって作成されます。注: db2rhist ファイルを削除すると、db2rhist ファイル内の履歴情報は失われます。

object がその他のデータベース制御ファイルであれば、データベースをリカバリーする必要があるかもしれません。

6

MON_GET_TABLESPACE 表関数を使用して表スペースの現在の状態を判別し、以下のトラブルシューティング・ステップを実行します。

- 表スペースがオフラインである場合、原因となっている問題を判別して修正してください。例えば:
 - ファイル・システムがマウントされていない場合、ファイル・システムをマウントしてから表スペースをオンラインにします。
 - 表スペースのファイルが削除されている場合、リストア操作を実行します。
- 表スペースが静止している場合、RESET 節または EXCLUSIVE 節のいずれかを指定した QUIESCE TABLESPACES FOR TABLE コマンドを使用して、表スペースを使用可能にしてください。なお、QUIESCE RESET または QUIESCE EXCLUSIVE 操作を実行

するには、静止状態を保持しているユーザー ID が必要になる可能性があります。

- 表スペースがバックアップ処理中の場合、バックアップ操作が完了するのを待ちます。

8

適切な表を指定していることを確認してください。

9

指定された表で REORG 操作を実行し、BACKUP コマンドを再サブミットしてください。

SQL2049N CF メモリーが十分でないためにデータベースのアクティブ化が失敗しました。理由コード = *reason-code*。

説明: データベースのアクティブ化の際にデータベース・マネージャーは、クラスター・キャッシング・ファシリティー (CF) の内部の構造用にメモリーを割り振ります。この割り振りは、データベース・マネージャー構成パラメーター、データベース構成パラメーター、および DB2 レジストリー変数によって決定されます。これらのパラメーターおよび変数には、以下のものが含まれます。

- CF_GBP_SZ
- CF_SCA_SZ
- CF_LOCK_SZ
- CF_DB_MEM_SZ
- NUMDB
- DB2_DATABASE_CF_MEMORY

DB2_DATABASE_CF_MEMORY レジストリー変数の使用は、CF_DB_MEM_SZ データベース構成パラメーターと NUMDB データベース・マネージャー構成パラメーターに合わせて調整する必要があります。

例:

4 つのデータベースを一度にアクティブにする場合、構成パラメーターを以下のように調整する必要があります。

- データベース・マネージャー構成パラメーター NUMDB を少なくとも 4 に設定する必要があります。
- 4 つのデータベースそれぞれのデータベース構成パラメーター CF_DM_MEM_SZ を AUTOMATIC に設定する場合、各データベースに割り振られる CF メモリーのパーセンテージを反映するようにレジストリー変数

DB2_DATABASE_CF_MEMORY を設定する必要があります (この例の場合は 25)。

このメッセージは、1 つ以上のデータベースで、CF の内部の構造用のメモリ割り振りに対応するだけの十分なメモリが CF に割り振られていない場合に返されます。

理由コードは、CF メモリ割り振りのどの部分に問題があったかを示します。

- 1
グループ・バッファ・プール (GBP)。
- 2
共用通信域 (SCA)。
- 3
グローバル・ロック・マネージャー (LOCK)。
- 4
このデータベースに必要な CF メモリの合計。
- 5
このデータベースに割り当てられる CF メモリの合計のパーセンテージ。

ユーザーの処置: 以下に示す 1 つ以上の方法でこのメッセージに対応してください。

全般:

- CF_MEM_SZ にさらに大きな値を設定して、CF 全体のメモリ・サイズを増やします。
- 各 CF 構造構成パラメーターに AUTOMATIC 設定を使用して、DB2 がこれらのパラメーターに適切な値を計算するようにします。

理由コード 1 から 4 の場合:

- 理由コードに応じて、個々の CF 構造構成パラメーターを減らします。

- 1
CF_GBP_SZ データベース構成パラメーター
- 2
CF_SCA_SZ データベース構成パラメーター
- 3
CF_LOCK_SZ データベース構成パラメーター
- 4
CF_DB_MEM_SZ データベース構成パラメーター

理由コード 4 と 5 の場合:

- 他のデータベースが使用する CF メモリの合計を判別して、このデータベースの CF メモリ要件に適合するために設定を変更する必要があるかどうかを確認します。

SQL2051N DB2 メンバーと CF の間に通信障害がありました。理由コード = reason-code。

CF ID: CF-id。ホスト名: host-name。

説明: このメッセージは、データベース・マネージャーが、DB2 メンバーとクラスター・キャッシング・ファミリティー (CF) の間の通信を妨げる問題を検出した場合に返されます。

通信問題の性質は以下の理由コードで示されます。

- 1
ユーザー・レベル Direct Access Programming Library (uDAPL) でエラーが発生または検出されました。
- 2
ソケット・レイヤーでエラーが発生または検出されました。
- 3
エラーの性質は判別できませんでした。

ユーザーの処置: トラブルシューティングの資料を参照してください。

SQL2052N バックアップ・ユーティリティーが 1 つ以上の DB2 メンバーの必要な情報およびメタデータを収集できなかったため、バックアップ操作が失敗しました。

説明: DB2 pureCluster 環境では、DB2 メンバーからバックアップ操作を実行する場合、バックアップ・ユーティリティーはインスタンス内の他のすべての DB2 メンバーに関するリカバリー・メタデータを収集する必要があります。このメッセージは、バックアップ・ユーティリティーが 1 つ以上のメンバーのメタデータ情報を収集できない場合に返されます。バックアップ・ユーティリティーは、メタデータの処理に必要な直列化を実行できなかった可能性があります。

ユーザーの処置:

1. バックアップ・エージェントまたはロガー EDU に関連した通信エラーまたは入出力エラーについては、db2diag ログ・ファイルを確認してください。エラーを修正してから、バックアップ操作を再実行してください。

SQL2054N • SQL2060W

2. バックアップ操作が引き続き失敗する場合、以下のステップを実行してください。
 - a. バックアップ・ユーティリティがメタデータ情報を収集できなかった原因を解決します。
 - b. バックアップ操作を再び実行します。

sqlcode: -2052

sqlstate: 5U055

SQL2054N バックアップまたはコピー・イメージが壊れています。

説明: 使用中のバックアップまたはコピー・イメージが壊れています。

これは、リストア・ユーティリティが、圧縮イメージが正しく圧縮解除されなかったことを判別したことも意味します。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 有効なイメージではないイメージを廃棄してください。有効なイメージを使用して、ユーティリティ・コマンドを再サブミットしてください。

SQL2055N メモリー・セット *memory-heap* のメモリーにアクセスできません。

説明: 処理中に、データベース・ユーティリティがメモリーにアクセスできませんでした。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーを停止して再始動し、ユーティリティ・コマンドを再サブミットしてください。

SQL2056N メディア *media* で無効なメディア・タイプが見つかりました。

説明: データベース・ユーティリティの処理中に、無効なメディア・タイプが見つかりました。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 使用しているメディアが、ユーティリティによってサポートされているタイプのメディアであることを確認してください。有効なメディア・リストを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2057N メディア *media* は、すでに他の処理によってオープンされています。

説明: データベース・ユーティリティの処理中に指定されたソースまたはターゲットのメディアは、すでに他の処理によってオープンされています。ユーティリテ

ィーは、処理のための共有アクセスを許しません。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 使用しているメディアが現在使用されていないことを確認してください。有効なメディア・リストを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2058W メディア *media* でメディア終了の警告が出されました。

説明: データベース・ユーティリティの処理中に、メディア終了の警告が出されました。このエラーは、無効な磁気テープ装置ブロック・サイズが指定された場合にも発生します。

ユーティリティは、続行の応答を待っています。

ユーザーの処置: メディア終了状況を訂正して、処理を続行または終了するべきであることを示す、正しい *caller action* パラメーターを指定して、ユーティリティに戻ってください。

リストア時刻で使用される磁気テープ装置ブロック・サイズ (あるいはブロッキング因数) は、バックアップ中に使用されるものと同一である必要があります。変数ブロック・サイズが使用されている場合、使用バッファ・サイズの方が小さいか、あるいは磁気テープ装置の最大ブロック・サイズと同じである必要があります。

SQL2059W メディア *device* で、装置がいっぱいであるという警告が出されました。

説明: データベース・ユーティリティの処理中に、装置がいっぱいであるという警告が出されました。

ユーティリティは、続行の応答を待っています。

ユーザーの処置: 装置がいっぱいである状況を訂正して、処理を続行または終了するべきであることを示す、正しい *caller action* パラメーターを指定して、ユーティリティに戻ってください。

SQL2060W 装置 *device* が空です。

説明: データベース・ユーティリティの処理中に、空の装置が見つかりました。ユーティリティは、続行の応答を待っています。

ユーザーの処置: メディアを取り付けて、処理を続行または終了するべきであることを示す、*caller action* パラメーターを指定して、ユーティリティに戻ってください。

SQL2061N メディア *media* へのアクセスが拒否されました。

説明: データベース・ユーティリティの処理中に、デバイス、ファイル、名前付きパイプ、TSM、またはベンダー共有ライブラリーへのアクセスの試みが拒否されました。ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: ユーティリティが使用するデバイス、ファイル、名前付きパイプ、TSM、またはベンダー共有ライブラリーで、要求されたアクセスが許可されていることを確認し、ユーティリティ・コマンドを再サブミットしてください。

SQL2062N メディア *media* のアクセス中に、エラーが起きました。理由コード: *reason-code*

説明: データベース・ユーティリティの処理中、装置、ファイル、またはベンダー共有ライブラリーにアクセスしているとき、予期しないエラーが起きました。以下が理由コードのリストです。

- 1 装置、ファイル、またはベンダー共有ライブラリーの初期設定に失敗しました。

他の理由コードがベンダー API コードを参照します。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: ユーティリティが使用している装置、ファイル、またはベンダー共有ライブラリーが使用できることを確認し、ユーティリティ・コマンドを再サブミットしてください。コマンドがまだ失敗する場合は、技術サービス担当者に連絡してください。

他の理由コードについては、コードの詳細についてのふさわしいベンダー資料を参照してください。

SQL2065W 指定されたメディア *media* がユーティリティに接続された唯一のメディアである場合、指定された呼び出し側アクション *caller-action* は許されません。

説明: データベース・ユーティリティに接続されているメディアが 1 つだけなので、指定された呼び出し側アクションは許されません。

ユーザーの処置: 処理を続行または終了するべきであることを示す、正しい *caller action* パラメーターを指定して、ユーティリティに戻ってください。

SQL2066N 指定された表スペース名 *name* がデータベースに存在しないか、またはユーティリティの操作に使用できません。

説明: 指定された表スペース名は構文的に正しくても、

データベースに存在しないか、またはユーティリティ処理で使用できません。

表スペースは、以下の理由を含むいくつかの理由で許可されない場合があります。

- 使用中のユーティリティがバックアップ操作であれば、表スペースが **SYSTEM** または **USER** 表スペースであるか、あるいは不整合状態であるため、その表スペースが許可されていないと思われます。
- 使用中のユーティリティがリストア操作であれば、表スペースの別のリストア操作またはロールフォワード操作が既に進行中であるために、表スペースが許可されていない可能性があります。
- ユーティリティがロールフォワード操作であれば、表スペースのリストアが既に進行中であるために、表スペースが許可されていない可能性があります。

ユーザーの処置: 有効な表スペースを指定して、ユーティリティ・コマンドを再サブミットしてください。

SQL2068N メディア *media* で、無効なイメージが見つかりました。メディア・ヘッダーがありません。

説明: データベース・ユーティリティの処理中に、無効なイメージが見つかりました。ユーティリティが、有効なメディア・ヘッダーを見つけることができませんでした。ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 正しいバックアップまたはコピー・イメージを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2069N メディア *media* で、無効なイメージが見つかりました。イメージは、データベース別名 *dbalias* 用に作成されています。

説明: データベース・ユーティリティの処理中に、無効なイメージが見つかりました。イメージは、異なるデータベース別名から作成されています。ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 正しいバックアップまたはコピー・イメージを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2070N メディア *media* で、無効なイメージが見つかりました。イメージにタイム・スタンプ *timestamp* が含まれています。

説明: データベース・ユーティリティの処理中に、無効なイメージが見つかりました。イメージは、異なるタイム・スタンプを持つバックアップまたはコピーから

SQL2071N

作成されています。ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: 正しいバックアップまたはコピー・イメージを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2071N 共有ライブラリー *shr-lib-name* のアクセス中に、エラーが起きました。理由コード: *reason-code*

説明: データベース・ユーティリティーの処理でのベンダーの共有ライブラリーのアクセス中に、予期しないエラーが発生しました。以下が理由コードのリストです。

1

無効な共有ライブラリー・パスが見つかりました。

2

ライブラリー (またはそのライブラリーが必要とするライブラリー) が存在しないか、ライブラリーには有効な形式がないため、ロードできません。これは、32 ビットのライブラリーが 64 ビットのインスタンスにロードされているか、その逆であることを意味する場合があります。

3

共有ライブラリーのアンロード中に、エラーが発生しました。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: 理由コードごとに、次のような対応をします。

1

リストアまたはバックアップ・コマンドに正しいパスを指定してください。パスが有効で、正しい共有ライブラリーを含むことを確認します。バックアップおよびリストア・コマンドの詳細については、DB2 インフォメーション・センター (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2luw/v9>) で、"restore database command"、"backup database command" などの用語を使用して検索してください。

2

正しいライブラリーを指定していることを確認してください。ご使用のシステムで 32 ビット・バイナリーと 64 ビット・バイナリーを実行できる場合、DB2 に、正しい形式のライブラリーをロードするように指示していることを確認してください。

TSM の使用中に失敗が発生する場合、TSM API Client が正しくインストールされていることを確認してください。

詳しくは、db2diag ログ・ファイルを参照してください。

3

使用中の TSM クライアントのバージョンが DB2 インスタンスと互換性があるかを確認してください。詳細については、DB2 インフォメーション・センター (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2luw/v9>) で、"TSM clients" などの用語を使用して検索してください。

SQL2072N 共有ライブラリー *shr-lib-name* をバインドできません。理由コード: *reason-code*

説明: データベース・ユーティリティーの処理での共有ライブラリーのバインド中に、エラーが発生しました。ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: 理由コードが、ベンダー・ユーティリティーからメッセージに返されていることに注意して、可能なら修正してください。有効な共有ライブラリーまたは別のサポートされているメディアを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2073N DATALINK 処理が、データベース・サーバーまたは DB2 Data Links Manager での内部問題のため失敗しました。

説明: DATALINK 値を処理中に、予期しないエラーが発生しました。

ユーザーの処置: コマンドを再サブミットしてください。問題がまだ続く場合は、DB2 および DB2 Data Links Manager をシャットダウンして再始動した後に、コマンドを再サブミットしてください。

リストア・ユーティリティーでは、WITHOUT DATALINK を指定することで DATALINK 処理を避けることができます。

SQL2074N データベース・サーバーの内部問題のため、DATALINK の処理が失敗しました。

説明: DATALINK 値を処理中に、予期しないエラーが発生しました。

ユーザーの処置: コマンドを再サブミットしてください。問題がまだ続く場合は、DB2 をシャットダウンおよび再始動してからコマンドを再サブミットしてください。

リストア・ユーティリティーでは、WITHOUT

DATALINK を指定することで DATALINK 処理を避けることができます。

SQL2075N DATALINK 処理が DB2 Data Links Manager での内部問題のため失敗しました。

説明: DATALINK 値を処理中に、予期しないエラーが発生しました。

ユーザーの処置: コマンドを再サブミットしてください。問題がまだ続く場合は、DB2 Data Links Manager をシャットダウンして再始動した後に、コマンドを再サブミットしてください。

リストア・ユーティリティでは、WITHOUT DATALINK を指定することで DATALINK 処理を避けることができます。

SQL2076W DB2 Data Links Manager server-name がデータベースに登録されていません。

説明: DB2 Data Links Manager server-name がデータベースに ADD DATALINKS MANAGER コマンドで登録されませんでした。

ユーザーの処置: ADD DATALINKS MANAGER コマンドが失敗した理由の詳細については、管理通知ログをチェックしてください。

SQL2077W 利用できる Data Links Manager に対する調整処理が正常に完了しました。利用できない Data Links Manager については、調整処理はペンディングになっています。詳細情報については、管理通知ログを参照してください。

説明: 表データで参照されている Data Links Manager の一部またはすべてが、調整処理中、使用できませんでした。利用できる Data Links Manager に対する調整処理が正常に完了しました。利用できない Data Links Manager の調整処理がペンディングになっているため、表はデータ・リンク調整ペンディング (DRP) 状態になっています。

ユーザーの処置: 表データで参照されているすべての Data Links Manager で調整が正常に完了したときに、表はデータ・リンク調整ペンディング状態から解放されず、使用できなかった Data Links Manager を始動して、もう一度調整を実行してください。

SQL2078N DB2 Data Links Manager を正常に追加またはドロップできませんでした。理由コード = reason-code。

説明: 以下の理由コードで示されたいずれかの理由で、DB2 Data Links Manager を追加またはドロップできませんでした。

- 01 追加される DB2 Data Links Manager がデータベースにすでに登録されています。
- 02 ドロップされる DB2 Data Links Manager がデータベースに登録されていません。
- 03 データベース・マネージャー構成パラメーター DATALINKS が NO に設定されています。
- 04 データベースには、登録できる DB2 Data Links Manager の最大数がすでにあります。

ユーザーの処置: 理由コードに応じたアクションは以下のとおりです。

- 01 DB2 Data Links Manager を複数回追加しないでください。
- 02 登録されていない DB2 Data Links Manager をドロップしないでください。
- 03 UPDATE DATABASE MANAGER CONFIGURATION コマンドを使用してデータベース・マネージャー構成パラメーター DATALINKS を YES に設定し、操作を再試行してください。
- 04 許可された最大数より多くの DB2 Data Links Manager を追加しないでください。

SQL2079N 共有ライブラリー shr-lib-name からエラーが報告されました。戻りコード: return-code。

説明: データベース・ユーティリティの処理中に、ベンダーの共有ライブラリーからエラーが報告されました。表示された戻りコードは、有効なベンダー API の戻りコードの 1 つに対応しています。ユーティリティは処理を停止します。

API 戻りコードには、以下のものがあります。

- 3 DB2 製品とベンダー製品が非互換です。
- 4 無効なアクションが要求されました。
- 8 無効なユーザー ID が指定されました。
- 9

SQL2080N

無効なパスワードが指定されました。

10

無効なオプションが指定されました。

12

無効な装置ハンドルが指定されました。

13

無効なバッファ・サイズが指定されました。

30

ベンダー製品内で、重大エラーが発生しました。

その他

ベンダー製品により、特定の重大エラーが戻されました。

ユーザーの処置: 提供されている共有ライブラリーが有効であることを確認してください。ベンダー API の戻りコードと対応する db2diag ログ・ファイル項目を基にして必要な訂正アクションを試行し、ユーティリティー・コマンドを再サブミットしてください。

SQL2080N スナップショットのバックアップに失敗しました。バックアップ中のデータベースは、ボリューム・ディレクトリー内で固有ではありません。

説明: スナップショット・バックアップを使用すれば、DB2 データベースのバックアップおよびリストア操作において、データ・コピーと移動に高速なコピー・テクノロジーを利用できます。

DB2 データベースに対するスナップショット・バックアップが試行されました。しかし、バックアップ対象のデータベースと同じボリューム・ディレクトリー内に他の 1 つ以上のデータベースがカタログされているため、スナップショット・バックアップ・ユーティリティーはコピーに必要なすべてのデータベース・エレメントを一意に識別することができませんでした。

スナップショット・バックアップの実行対象となっているデータベースと同じボリューム・ディレクトリー内に他の DB2 データベースがカタログされている場合、バックアップ対象ではないデータベースのファイルがバックアップ・イメージに含まれる可能性があります。複数のデータベースのファイルがバックアップ・イメージに含まれる場合、このイメージを使っていずれかのデータベースを正常にリストアすることはできません。

スナップショット・バックアップまたはリストアは、ボリューム・ディレクトリー内で固有の DB2 データベースに対してのみ実行できます。

スナップショットのバックアップに失敗しました。

ユーザーの処置: 複数のデータベースを含んでいるボリューム・ディレクトリー内の DB2 データベースに対してスナップショット・バックアップを実行するには、次のようにします。

- ターゲット・ボリューム・ディレクトリー内の他のすべてのデータベースをドロップまたは移動します。
- BACKUP コマンドを再び実行します。

SQL2081N リストアするデータベースのエレメントの中に、既存のデータベースのエレメントと同じ名前のもものが 1 つ以上あるため、スナップショット・リストアに失敗しました。理由コード = *reason-code*。

説明: スナップショット・バックアップを使用すれば、DB2 データベースのバックアップおよびリストア操作において、データ・コピーと移動に高速なコピー・テクノロジーを利用できます。

スナップショット・バックアップ・イメージからの DB2 データベースのリストアが試行されました。しかし、*reason-code* に示される理由のために、スナップショット・リストア・ユーティリティーはコピーに必要なすべてのデータベース・エレメントを一意に識別することができませんでした。

1 ターゲット・ボリューム・ディレクトリー内に、他の 1 つ以上のデータベースがカタログされています。

ターゲット・ボリューム・ディレクトリー内に別のデータベースが存在する場合、リストアによってボリューム・ディレクトリーが置き換えられて、既存のデータベースはアンカログされます。

2 バックアップ・イメージ内のデータベース・ディレクトリーのある部分が別のデータベースによって使用されているため、リストア中に、バックアップ・イメージ内の完全なデータベース・ディレクトリーをディスク上に作成できません。

例えば、データベースの作成時には、そのデータベースのメタデータを保管するためのディレクトリー階層が DB2 サーバーによって作成されます。その際、DB2 インスタンスの名前を使ってディレクトリーが作成され、その下には、データベース・パーティション用のディレクトリーが作成される場合があります。その下には、データベース・トークン (作成された最初のデータベースは SQL00001、2 番目に作成

されたデータベースは SQL00002 など) を使った名前ディレクトリーがあります。

ターゲット・ボリューム・ディレクトリー上に同じ名前のディレクトリーが存在する場合、SQL00001、SQL00002、などの名前を持つディレクトリーを含むスナップショット・バックアップ・イメージをリストアすることはできません。

- 3 バックアップ・イメージからリストアされるログ・ディレクトリーはディスク上に既に存在しており、空ではありません。

バックアップ・イメージからリストアされるログ・ディレクトリーがディスク上に既に存在していてデータを含んでいる場合には、データが予期せず上書きされることを防ぐために、DB2 はこれらのディレクトリーをリストアしません。

スナップショットのリストアに失敗しました。

ユーザーの処置: スナップショット・バックアップ・イメージから、複数のデータベースを含む特定のターゲット・ボリューム・ディレクトリーに DB2 データベースをリストアするには、ターゲット・ボリューム・ディレクトリー内の他のすべてのデータベースをドロップまたは移動してください。

スナップショット・バックアップ・イメージからログ・ディレクトリーをリストアするためには、ログ・ディレクトリーがディスク上に存在しないか、空であることを確認してください。その後、RESTORE コマンドを再び実行します。

SQL2084N 次のデータベース、ワークロード、またはサービス・スーパークラスに対して定義できるワーク・アクション・セットは 1 つだけです: *db-or-ssc-name*。

説明: 次のデータベース、ワークロード、またはサービス・スーパークラスに対して、すでにワーク・アクション・セットが定義されています: *db-or-ssc-name*。どの時点でも、データベース、ワークロード、またはサービス・スーパークラスに対して定義できるワーク・アクション・セットは 1 つだけです。

ユーザーの処置:

- 以下のいずれかを実行します。
 - 別のデータベース、ワークロード、またはサービス・スーパークラスを指定します。
 - データベース、ワークロード、またはサービス・スーパークラスに対して現在定義されているワーク・アクション・セットをドロップします。

- 要求を再発行してください。

sqlcode: -2084

sqlstate: 5U017

SQL2085N マッピング・ワーク・アクションで指定されたサービス・サブクラス *work-action-name* をデフォルトのサービス・サブクラスにすることはできません。

説明: アクティビティをマップするワーク・アクションを定義する場合、デフォルトのサービス・サブクラスを指定することはできません。

ユーザーの処置: デフォルトのサービス・サブクラスではない異なるサービス・サブクラスを指定し、要求を再試行してください。

sqlcode: -2085

sqlstate: 5U018

SQL2086N 作業クラス *work-class-name* に指定された範囲が無効です。

説明: FROM パラメーターまたは TO パラメーターのいずれかに対して指定された値が無効です。FROM 値はゼロまたは正の倍精度値でなければならず、TO 値は正の倍精度値または UNBOUNDED (上限を指定しない場合) でなければなりません。TO 値が UNBOUNDED でない場合、その値は FROM 値以上でなければなりません。

ユーザーの処置: FROM 値と TO 値の両方に対して有効な値を指定し、要求を再試行してください。

SQL2088W 指定された接続の自動統計プロファイルは無効にされました。

説明: WLM_SET_CONN_ENV ストアド・プロシージャを使用して、特定のデータベース接続に対してワークロード管理 (WLM) 構成設定を適用することができます。NONE 以外の値を持つ <sectionactuals> 名をストアド・プロシージャの「settings」パラメーターに組み込むことで、指定された接続の section actuals の収集が有効になります。

WLM_SET_CONN_ENV ストアド・プロシージャを使って section actuals の収集を有効にすると、このメッセージが戻されます。

section actuals の収集と自動統計プロファイル (AUTO_STATS_PROF データベース構成パラメーターを使って有効にする) を同時に使用することはできません。接続で section actuals の収集を有効にする場合、その接続の自動統計プロファイルは無効になります。

SQL2089N

ユーザーの処置: このメッセージに対する応答は必要ありません。

この接続の自動統計プロファイルをリストアするには、WLM_SET_CONN_ENV ストアード・プロシージャを再び実行し、「settings」パラメーターで以下の名前と値の対を指定することにより、section actuals の収集を無効にします。

```
<sectionactuals>NONE</sectionactuals>
```

sqlcode: +2088

sqlstate: 01HN2

SQL2089N 最後の接続属性をワークロード *workload-name* 接続の定義からドロップできません。

説明: ALTER WORKLOAD ステートメントの結果、ワークロード *workload-name* から最後の接続属性がドロップされます。この操作は許可されていません。ワークロードの定義で指定された接続属性が少なくとも 1 つ必要です。

ユーザーの処置: ALTER WORKLOAD ステートメントにより、ワークロードの定義内に少なくとも 1 つの接続属性が残ることを確認してください。

sqlcode: -2089

sqlstate: 5U022

SQL2090N ワークロードが無効になっていないか、ワークロードにアクティブなワークロード・オカレンスが含まれているか、あるいはしきい値またはワーク・アクション・セットがワークロードに関連付けられているため、ワークロード *workload-name* をドロップできません。

説明: ワークロード *workload-name* のドロップを試行しましたが、以下のいずれかの理由で失敗しました。

- ワークロードが無効になっていない。
- ワークロードにアクティブなワークロード・オカレンスが含まれている。
- しきい値がワークロードに関連付けられている。
- ワーク・アクション・セットがワークロードに関連付けられている。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを実行します。

- ワークロードがまだ無効になっていない場合、ALTER WORKLOAD ステートメントを発行してワークロードを無効にし、新しいワークロード・オカレンスがアクティブにならないようにします。

- システムで実行中のアクティブなワークロード・オカレンスがなくなるまで待機し、DROP ステートメントを発行してワークロードをドロップします。
- しきい値がワークロードに関連付けられている場合、DROP THRESHOLD ステートメントを発行して、関連付けられているしきい値をドロップします。
- ワーク・アクション・セットがワークロードに関連付けられている場合、DROP WORK ACTION SET ステートメントを発行して、関連付けられているワーク・アクション・セットをドロップします。

sqlcode: -2090

sqlstate: 5U023

SQL2091N 残りのストレージ・パスには、表スペース *tablespace-name* 内のデータをリバランスするための十分なストレージ・スペースが含まれていません。

説明: ドロップ対象の 1 つ以上のストレージ・パスにコンテナが設定されている表スペースをリバランスするよう要求されました。データ・サーバーは、リバランスの操作中にこれらのコンテナをドロップします。ただし、ドロップ対象のコンテナから移動されるデータを格納するには、表スペースの残りのパスに十分なスペースが必要です。データ・サーバーは既存のコンテナを自動的に拡張し、必要に応じて残りのパス上に新しいコンテナを作成しますが、残りのパスには、移動されるデータを入れるための十分なストレージがありません。

ユーザーの処置: この方法でリバランスするそれぞれの表スペースごとに、ドロップされるコンテナの数とサイズを判別することにより、残りのストレージ・パスに移動されるデータ量を推定します。リバランスの操作を正常に実行するには、少なくともこれだけの量の空きスペースが必要です。残りのストレージ・パスの空きスペースの量を増やすか、新しいストレージ・パスをデータベースに追加してください。

sqlcode: -2091

sqlstate: 57011

SQL2092N ストレージ・パス *storage-path* はドロップ・ペンディング状態です。現在の要求を処理できません。

説明: 1 つ以上のストレージ・パスが、ドロップ・ペンディング状態です。

ユーザーの処置: ドロップ・ペンディング状態のストレージ・パスを、ALTER DATABASE ステートメントまたは ALTER STOGROUP ステートメントから削除しま

す。その後、要求を再試行してください。

sqlcode: -2092

sqlstate: 55073

SQL2093N 指定されたストレージ・パスをドロップできません。少なくとも 1 つのストレージ・パスをストレージ・グループに関連付ける必要があります。

説明: ストレージ・グループには、それに関連付けられたストレージ・パスが少なくとも 1 つ必要です。

ALTER STOGROUP ステートメントは、ストレージ・グループのすべてのストレージ・パス (またはドロップ・ペンディング状態ではない残りのパス) をドロップしようとしています。

ユーザーの処置: 少なくとも 1 つのストレージ・パスをドロップしないよう、**ALTER STOGROUP** ステートメントを変更してください。すべてのストレージ・パスをドロップする必要がある場合には、1 つ以上の新しいストレージ・パスを同時に追加するよう **ALTER STOGROUP** ステートメントを変更してください。新しいストレージ・パスには、ドロップされるパスからコンテナとデータを移動するための十分な空きスペースが必要です。

sqlcode: -2093

sqlstate: 428HH

SQL2094W 表スペース *tablespace-name* のリバランスでコンテナが追加/ドロップされなかったか、またはすべてのコンテナを作成するためのディスク・スペースが不足していました。理由コード: *reason-code*

説明: リバランスの操作では、ドロップ・ペンディング状態のストレージ・パスからコンテナをドロップして、新しく追加されたストレージ・パスに新しいコンテナを作成しようと試みます。さらに、この操作では、すべてのデータベース・ストレージ・パスをまだ含んでいないストライプ・セット用のコンテナも作成しようと試みます。この警告は、以下のいずれかの理由コードの結果として、1 つ以上のデータベース・パーティションで生成されました。

1

追加/ドロップする必要のあるコンテナがありません。

2

ドロップする必要のあるコンテナはありませんが、表スペースのいくつかのストライプ・セットには、すべてのストレージ・パス用のコン

テナーが含まれていません。ただし、ストレージ・パスにはどの新しいコンテナ用の十分なディスク・スペースもありません。または、表スペースが最大サイズに達しました。

3

ドロップする必要のあるコンテナはありませんが、表スペースのいくつかのストライプ・セットには、すべてのストレージ・パス用のコンテナが含まれていません。いくつかのストレージ・パスには十分なディスク・スペースがないため、または表スペースの最大サイズに達したため、いくつかのコンテナを作成できませんでした。新しいコンテナは表スペースに追加され、データがリバランスされます。

4

いくつかのコンテナをドロップする必要があります。表スペースのいくつかのストライプ・セットには、すべてのストレージ・パス用のコンテナが含まれていません。ただし、対応するストレージ・パスには、作成されるどのコンテナ用の十分なディスク・スペースもありません。ドロップ・ペンディング状態のストレージ・パス上のコンテナはドロップされ、データがリバランスされます。

5

いくつかのコンテナをドロップする必要があります。表スペースのいくつかのストライプ・セットには、すべてのストレージ・パス用のコンテナが含まれていません。いくつかのコンテナを作成するためのディスク・スペースはありますが、すべて作成するには不十分です。ドロップ・ペンディング状態のストレージ・パスにあるコンテナはドロップされ、必要に応じて新しいコンテナがストライプ・セットに追加されます。データがリバランスされます。

ユーザーの処置:

1

リバランスは必要ありません。

2

いっぱいになったストレージ・パスの空きスペースを増やすか、表スペースの許容最大サイズを増やします。その後、要求を再試行してください。

3

現在のリバランスが完了するまで待ちます。その後、いっぱいになったストレージ・パスの空

SQL2095W

きスペース量を増やすか、表スペースの許容最大サイズを増やします。その後、要求を再試行してください。

4

現在のリバランスが完了するまで待ちます。その後、いっぱいになったストレージ・パスの空きスペース量を増やして、要求を再試行します。

5

現在のリバランスが完了するまで待ちます。その後、いっぱいになったストレージ・パスの空きスペース量を増やして、要求を再試行します。

ストレージ・パスの空きスペース量を増やすには、ファイル・システムのサイズを増やすか、データベース以外のデータを削除してください。

sqlcode: +2094

sqlstate: 01690

SQL2095W 1 つ以上の自動ストレージ表スペースがパスに存在するため、ストレージ・パス *storage-path* はドロップ・ペンディング状態です。

説明: ストレージ・パス *storage-path* をデータベースからドロップするよう要求されました。1 つ以上の自動ストレージ表スペースのコンテナがこのストレージ・パスに存在するため、これを直ちに除去することはできず、ドロップ・ペンディング状態に置かれます。ストレージ・パス上のすべてのコンテナが除去されるまでは、そのストレージ・パスは除去できません。

複数のストレージ・パスをドロップしようとしている場合、このメッセージは他のストレージ・パスにも適用される可能性があります。

ユーザーの処置: 以下の 1 つ以上のタスクを実行して、ストレージ・パスからコンテナを除去してください:

- すべての自動ストレージ TEMPORARY 表スペースをドロップします。その後、これらの表スペースを再作成します。新しく作成された表スペースは、ドロップ・ペンディング状態のストレージ・パスを使用しません。
- ALTER TABLESPACE ステートメントの REBALANCE 節を使用することにより、ドロップ対象のストレージ・パスからデータとコンテナを移動します。
- 不要な表スペースをドロップします。

ドロップ・ペンディング状態のストレージ・パスを使用している自動ストレージ表スペースをリストするには、以下の SQL ステートメントを発行できます:

```
SELECT DISTINCT A.TBSP_NAME, A.TBSP_ID,  
A.TBSP_CONTENT_TYPE
```

```
FROM SYSIBMADM.SNAPTbsp A,  
SYSIBMADM.SNAPTbsp PART B
```

```
WHERE A.TBSP_ID = B.TBSP_ID AND  
B.TBSP_PATHS_DROPPED = 1
```

sqlcode: +2095

sqlstate: 01691

SQL2096N しきい値 *threshold-name* をドロップできません。このしきい値は無効になっておらず、しきい値キューは空ではありません。あるいは、しきい値の制御下でアクティビティが実行中です。

説明: しきい値 *threshold-name* をドロップしようとして失敗しました。このしきい値は無効になっておらず、しきい値キューは空ではありません。あるいは、しきい値の制御下でアクティビティが実行中です。

ユーザーの処置: しきい値が無効になっていない場合はそれを無効にしてください。しきい値がワーク・アクション・セットの一部である場合、ALTER WORK ACTION SET ステートメントを使用してそれを無効にする必要があります。しきい値がワーク・アクション・セットの一部でない場合、ALTER THRESHOLD ステートメントを使用してそれを無効にします。しきい値を無効にすると、しきい値の制御下で新しい要求を実行することはできません。キューイングしきい値の並行性の制限に達した場合、DISABLE アクションによって新しい要求とキューを結合できなくなります。現在実行中の要求が完了するか、あるいはキューに要求が存在しなくなるまで待機し、DROP THRESHOLD ステートメントを再度発行してください。

sqlcode: -2096

sqlstate: 5U025

SQL2097N ルーチン WLM_REMAP_ACTIVITY の少なくとも 1 つの入力パラメーターが無効であるため、指定したサービス・サブクラスにアクティビティをマップできません。理由コード = *reason-code*。

説明: 1 つ以上の入力パラメーターが無効であるため、ルーチン WLM_REMAP_ACTIVITY が失敗しました。

理由コードは以下のとおりです。

1

アクティビティーは、そのアクティビティーのサービス・スーパークラスの下にあるサービス・サブクラスにのみ再マップできます。
service_superclass_name パラメーターでアクティビティーのサービス・スーパークラス名を指定するか、これを NULL に設定してください。
service_superclass_name パラメーターを NULL に設定すると、デフォルトとして、この入力パラメーターはアクティビティーの現在のサービス・スーパークラス名になります。

2

アクティビティーのサービス・スーパークラスの下にある有効なサービス・サブクラスを **service_subclass_name** パラメーターで指定する必要があります。

3

log_evmon_record パラメーターに Y を指定すると、アクティビティーがパーティションで再マップされる際、イベント・モニター・レコードが THRESHOLD VIOLATIONS イベント・モニターに記録されます。
log_evmon_record パラメーターに N を指定すると、アクティビティーがパーティションで再マップされる際、イベント・モニター・レコードは THRESHOLD VIOLATION イベント・モニターに記録されません。

ユーザーの処置: 理由コードの条件が満たされることを確認して、WLM_REMAP_ACTIVITY ルーチンを呼び出します。

sqlcode: -2097

sqlstate: 5U046

SQL2098N 要求された操作は、スキーマ転送操作によって現在使用されているオブジェクト、または以前に生成されたオブジェクトと競合するため、実行できません。理由コード:
rc

説明: 要求された操作は、転送操作と両立しません。以下の理由コードは、エラーを示します。

1

ストレージ・パスが転送操作によってアクセスされていると、そのストレージ・パスを変更できません。この競合は、転送操作によってステージング・データベース上でストレージ・パスが追加されているとき、またはドロップされて

いるとき、あるいはターゲット・データベース上でストレージ・パスがドロップされているときに発生することがあります。

2

コンテナーを持たず、使用可能になっていない表スペースで、要求された操作を実行できません。

3

表スペース名は、転送操作に予約されています。

ユーザーの処置: 理由コードに基づいて、以下のいずれかのアクションを行ってください。

1

スキーマの転送が完了するまで待った後、ALTER STORAGE PATH コマンドを再発行してください。

2

使用できない表スペースをドロップしてください。使用できない表スペースでは操作を実行しないでください。

3

別の表スペース名を指定してください。

SQL2101N 関連するデータベース・オブジェクトまたは構成との非互換性のために、**ADMIN_MOVE_TABLE** プロシージャールを完了できませんでした。理由コード:
reason-code

説明: SYSPROC.ADMIN_MOVE_TABLE プロシージャーを使用すると、1 つの表スペースから別の表スペースにデータを移動できます。例えば、再利用可能ストレージが有効になっていない既存の DMS 表スペースがある場合、このプロシージャーを使用して、再利用可能ストレージが有効になった新しい DMS 表スペースにデータを移行できます。このエラーが戻された理由は、次のような理由コードによって示されます。

1

DB2_SKIPDELETED レジストリー変数が有効になっている。DB2 バージョン 9.7 フィックスパック 2 より前では、オンラインの **ADMIN_MOVE_TABLE** 操作は、DB2_SKIPDELETED レジストリー変数が有効になっている場合には実行できません。

26

SQL2102N

プロトコル表

SYSTOOLS.ADMIN_MOVE_TABLE がこのプロシージャによって作成されなかったため、これを使用できない。

ユーザーの処置: まず、示された理由コードに応じて次のように対応します。

1

DB2_SKIPDELETED レジストリー変数を無効にします。

26

表 SYSTOOLS.ADMIN_MOVE_TABLE を削除します。

次に、ADMIN_MOVE_TABLE プロシージャを再び呼び出してください。

sqlcode: -2101

sqlstate: 5UA0M

SQL2102N プロシージャ実行中の内部的な障害のために、ADMIN_MOVE_TABLE プロシージャを完了できませんでした。理由コード: *reason-code*

説明: SYSPROC.ADMIN_MOVE_TABLE プロシージャを使用すると、1 つの表スペースから別の表スペースにデータを移動できます。例えば、再利用可能ストレージが有効になっていない既存の DMS 表スペースがある場合、このプロシージャを使用して、再利用可能ストレージが有効になった新しい DMS 表スペースにデータを移行できます。このエラーが戻された理由は、次のような理由コードによって示されます。

12

予期しない内部エラーが発生しました。

13

コピー・オプションとしてロードが使用されましたが、スワップ・フェーズで FORCE オプションが設定されませんでした。

18

プロシージャは表の索引を作成しようとしたのですが、表には索引の部分として指定できない列だけが含まれているため、作成できませんでした。

19

ステージング表に対するアクティブなロックが多すぎるため、再生フェーズ中にステージング表のいくつかの行を処理できませんでした。

400 メッセージ・リファレンス 第 2 巻

22

ターゲット表のロード中に、エラーが発生したか、行が拒否されました。

28

ソース表からターゲット表に統計をコピーする際にエラーが発生しました。

31

CLUSTER および NON_CLUSTER オプションは互いに互換性がありません。

32

システム期間テンポラル表では KEEP オプションはサポートされていません。

ユーザーの処置: 示された理由コードに応じて、次のように対応します。

12

この予期しない結果を報告するために、DB2 サービス担当員に連絡して、db2diag ログ・ファイルおよび (DIAGPATH データベース・マネージャ構成パラメーターで指定された) 診断ディレクトリー・パスの内容を提出します。

13

ロード操作はリカバリー不能です。この点を認識してバックアップ・イメージを作成できるようにするために、FORCE オプションを COPY_USE_LOAD と共に使用してください。

18

この表の移動を試みる前に、索引の部分として指定可能な列を表に作成します。

19

より少ない数の挿入、更新、または削除アクティビティが表に対して発生しているときに操作を再試行してください。

22

db2diag ログ・ディレクトリー内の db2load 出力ファイルを調べて、ターゲット表を正常にロードできない原因となっているエラーまたはデータを訂正してください。

28

統計をコピーできません。NO_STATS または NEW_STATS オプションを指定して操作を再試行してください。

31

<p>CLUSTER および NON_CLUSTER オプションを同時に指定することはできません。どちらか 1 つのみを指定するか、デフォルトの動作が望ましいのであればどちらも指定しないでください。</p> <p>32</p> <p>KEEP オプションを指定せずに ADMIN_MOVE_TABLE SWAP 操作を再実行してください。</p> <p>sqlcode: -2102</p> <p>sqlstate: 5UA0M</p> <hr/> <p>SQL2103N ソース表またはターゲット表の一部の特性が ADMIN_MOVE_TABLE プロシージャによってサポートされないため、ADMIN_MOVE_TABLE プロシージャを完了できませんでした。理由コード: <i>reason-code</i></p> <p>説明: SYSPROC.ADMIN_MOVE_TABLE プロシージャを使用すると、1 つの表スペースから別の表スペースにデータを移動できます。例えば、再利用可能ストレージが有効になっていない既存の DMS 表スペースがある場合、このプロシージャを使用して、再利用可能ストレージが有効になった新しい DMS 表スペースにデータを移行できます。データベースに現存するソース表またはターゲット表に対して ADMIN_MOVE_TABLE プロシージャを操作できません。操作を妨げている特性は、次のような理由コードによって示されます。</p> <p>6</p> <p>ソース表のタイプがサポートされないか、参照制約が表に対して定義されています。</p> <p>7</p> <p>検証操作で、表の間の相違点が見つかりました。行数または列の値が 2 つの表の間で整合していません。</p> <p>14</p> <p>ソース表はアクティブなイベント・モニターの対象であるため、移動できません。</p> <p>16</p> <p>ソース表およびターゲット表の変更可能な表フラグまたは索引が同期していません。</p> <p>17</p> <p>同じであるべき列定義または索引が異なっています。</p> <p>20</p>	<p>指定されたターゲット表はサポートされていません。</p> <p>21</p> <p>指定されたターゲット表が空ではありません。</p> <p>33</p> <p>システム期間テンポラル表またはアプリケーション期間テンポラル表をターゲット表として指定できません。</p> <p>ユーザーの処置: 示された理由コードに応じて、次のように対応します。</p> <p>6</p> <p>サポートされる表タイプに変更して、表に対する参照制約とテキスト検索索引をすべて除去します。</p> <p>7</p> <p>オンライン表移動操作を再び開始します。これにより、プロトコル表のエラーが修正されるはずです。</p> <p>14</p> <p>表の移動を試みる前に、イベント・モニターを無効にします。</p> <p>16</p> <p>ソースおよびターゲット表間での変更可能な表フラグまたは索引の相違を訂正するために、スワップ・フェーズを再実行します。</p> <p>17</p> <p>ソース表とターゲット表で列定義および索引定義が同じになるように変更します。</p> <p>20</p> <p>サポートされるようにターゲット表を変更するか、別の、サポートされるターゲット表を指定します。</p> <p>21</p> <p>空のターゲット表を指定するか、ターゲット表のすべての項目を削除して、操作をやり直します。</p> <p>33</p> <p>システム期間テンポラル表またはアプリケーション期間テンポラル表ではない表をターゲット表として指定します。</p> <p>sqlcode: -2103</p> <p>sqlstate: 5UA0M</p>
---	---

SQL2104N 現在、このユーザーは
ADMIN_MOVE_TABLE プロシージャ
を完了することができません。理由コード
: *reason-code*

説明: SYSPROC.ADMIN_MOVE_TABLE プロシージャを使用すると、1 つの表スペースから別の表スペースにデータを移動できます。例えば、再利用可能ストレージが有効になっていない既存の DMS 表スペースがある場合、このプロシージャを使用して、再利用可能ストレージが有効になった新しい DMS 表スペースにデータを移行できます。試行された表移動操作は、データベース・オブジェクトまたは操作の状態と矛盾しています。このエラーが戻された理由は、次のような理由コードによって示されます。

4

オンライン表移動操作は、指定された操作を許可しない状態になっています。

8

進行中のオンライン表移動操作はありません。このため、指定された操作は許可されません。

9

オンライン表移動操作が進行中です。同じ表に対する並列的なオンライン表移動操作は許可されません。

15

この表はオンライン表移動操作のターゲット表、ステージング表、またはプロトコル表であるため、移動できません。

29

部分再編成の操作が進行中であるため、オンライン表移動のコピー・フェーズの実行は許可されません。

ユーザーの処置: 示された理由コードに応じて、次のように対応します。

4

オンライン表移動操作の現在の状態において適切な操作を指定してください。

8

許可される操作を指定してください。

9

競合するオンライン表移動操作が完了するまで待ってください。

15

オンライン表移動操作が完了するまで待ってください。

29

部分再編成の操作が完了するまで待ってください。

sqlcode: -2104

sqlstate: 5UA0M

SQL2105N プロシージャ実行の前提条件が満たされないため、**ADMIN_MOVE_TABLE** プロシージャを完了できませんでした。理由コード: *reason-code*

説明: SYSPROC.ADMIN_MOVE_TABLE プロシージャを使用すると、1 つの表スペースから別の表スペースにデータを移動できます。例えば、再利用可能ストレージが有効になっていない既存の DMS 表スペースがある場合、このプロシージャを使用して、再利用可能ストレージが有効になった新しい DMS 表スペースにデータを移行できます。ADMIN_MOVE_TABLE プロシージャを正常に実行するには、特定の情報やオブジェクトがあらかじめ存在する必要があります。次の理由コードは、満たされなかった項目を示しています。

10

プロトコル表の中に索引情報が見つかりません。

11

期待されたデータがプロトコル表の中に見つかりません。

23

列をドロップするにはユニーク索引が存在する必要があるため、指定された列をドロップできませんでした。ドロップ対象の列は、そのユニーク索引の中に存在することはできません。

24

通常データ、ラージ・オブジェクト (LOB) データ、または索引のための表スペースが指定されましたが、これら 3 つの表スペースがすべて指定されたわけではありません。

25

LONG、LOB、構造化タイプ、または XML 列を持つ表を移動するよう指定されましたが、その表にはユニーク索引 (ただし XML 列を含むユニーク索引を除く) が定義されていません。

30

NOT NULL として定義する列を追加する場合、DEFAULT 値を指定しなければいけないので、この列を指定されたとおりに追加できませんでした。

ユーザーの処置: 示された理由コードに応じて、次のように対応します。

10

オンライン表移動操作を再び開始します。これにより、プロトコル表のエラーが修正されるはずです。

11

オンライン表移動操作を再び開始します。これにより、プロトコル表のエラーが修正されるはずです。

23

新しいユニーク索引を表に作成するか、ユニーク索引からドロップ対象の列を除去するか、列のドロップを試行しない状態で、オンライン表移動操作を再試行します。

24

3 つの表スペース・パラメーター (通常データ、ラージ・オブジェクト・データ、および索引) をすべて指定します。または、これらのパラメーターを 1 つも指定しないでください。

25

ユニーク索引を表に作成します。または、表の移動を試行しないでください。

30

NOT NULL として定義する追加列に DEFAULT 値を指定してください。

sqlcode: -2105

sqlstate: 5UA0M

SQL2150W バックアップ・イメージに含まれている表スペースがリストアされました。呼び出し側の要求に応じて、これらの表スペースの 1 つ以上がスキップされていることがあります。

説明: RESTORE DATABASE コマンドが出されました。バックアップ・イメージ内の表スペースの一部のみをリカバリーするよう、ユーザーが指示しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL2154N RESTORE が正常に終了しませんでした。表スペースのリストアに使用されたバックアップが、データベースの現在のログ順序に関連していません。

説明: 表スペースのリストアの場合は、バックアップが、データベースの現在のログ順序中に取られている必要があります。ログ・ファイルの順序は、前にリストアされたデータベース、または処理されたログ・ファイルによって決定されます。さらに、ロールフォワード・リカバリーに対してデータベースが最後に可能になった後に、バックアップを取る必要があります。

表スペース・リストアは停止しました。

ユーザーの処置: 正しいバックアップ・イメージを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2155W open scan が発行されたために、リカバリー履歴ファイルが変更されました。

説明: ファイルがスキャンのためにオープンされたので、リカバリー履歴ファイルが変更されました。読み取ったデータに不整合がある可能性があります。

ユーザーの処置: スキャンから整合性のあるデータを得ることが必要な場合は、リカバリー履歴ファイルをクローズして、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2157N すでに 8 つのリカバリー履歴ファイル・スキャンがオープンしています。

説明: この処理では、8 つのリカバリー履歴ファイルのスキャンがすでにオープンされています。8 つを超えるスキャンのオープンは許されていません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 1 つ以上の CLOSE RECOVERY HISTORY FILE SCAN コマンドを発行して、コマンドを再発行してください。

SQL2160W 損傷を受けたリカバリー履歴ファイルは置換されました。処理は続行されます。

説明: リカバリー履歴ファイルへのアクセス中に、エラーが発生しました。ユーティリティは、代替コピーからファイルをリカバリーできます。ユーティリティは処理を続けます。

ユーザーの処置: ユーティリティは正常に処理を続けます。リカバリー履歴ファイルが再び損傷を受けないように、適切な予防策を講じる必要があります。

SQL2161N 損傷を受けたリカバリー履歴ファイルを修正できませんでした。指定されたアクションが失敗しました。

説明: リカバリー履歴ファイルへのアクセス中に、エラーが発生しました。ユーティリティがファイルをリカバリーできません。ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 処理を続けるには、リカバリー履歴ファイルを除去して、コマンドを再サブミットしてください。ユーティリティが新しいファイルを再生成しません。壊れたファイルのデータは失われます。壊れたファイルを調べて、保管できる情報がないかどうかをチェックしてください。リカバリー履歴ファイルが再び損傷を受けないように、適切な予防策を講じる必要があります。

SQL2162N データベース・パーティション *dbpartitionnum* 上のデータベース *database-name* およびログ・ストリーム *log-stream-ID* のログ・ファイル *log-file-number* にアクセスする権限がデータベース・マネージャーにないため、リカバリー操作が失敗しました。

説明: ファイル許可の設定により、データベース・マネージャーは指定されたログ・ファイルにアクセスできません。リカバリー (ロールフォワードまたはクラッシュ・リカバリー) を続行できません。

ユーザーの処置: ログ・ファイルが保管されているファイル・システムをチェックしてください。これらのログ・ファイルにアクセスするために必要な許可がインスタンスの所有者に与えられていることを確認して、リカバリー操作を再試行してください。

SQL2163N データベース・パーティション番号 *partition_number* に関して、データベースを指定された時点までリカバリーするためのバックアップ・イメージが、リカバリー履歴ファイル中に見つかりません。

説明: データベースを指定された時点までリカバリーするためのバックアップ・イメージが、リカバリー履歴ファイル中に見つかりません。このエラーは、履歴ファイルの整理が実施された場合に発生することがあります。

ユーザーの処置: もっと後の時点を指定して試行してください。ログの終了を指定する場合は、履歴ファイルにバックアップ・イベントのレコードが含まれていることを確認してください。

SQL2164N データベース・パーティション番号 *partition_number* に関して、**RECOVER** ユーティリティは指定されたリカバリー履歴ファイル *filename* を検出できませんでした。

説明: RECOVER コマンドに指定されたリカバリー履歴ファイルが見つかりませんでした。

ユーザーの処置: ファイル名を確認し、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2165W ヒストリー・ファイル・レコードに保管されている表スペース数が、**db2HistoryData** データ構造の **poTablespace** フィールドの割り振られた表スペース数を超えています。

説明: **db2HistoryData** の **iNumTablespaces** フィールドの値が、取り出されるヒストリー・ファイル・レコード内の表スペース数より小さい値です。表スペース・データは、**iNumTablespaces** の値で切り捨てられました。

ユーザーの処置: **poTablespace** のメモリ割り当てを増やして、さらに多くの表スペースが割り振れるようにし、**iNumTablespaces** の値を対応する大きな数に更新します。**db2HistoryOpenStruct** データ構造の **oMaxTablespaces** フィールドの値によって表される表スペース数 (**db2HistoryOpenScan** API によって返される) は、ヒストリー・ファイル内の項目を読み取るのに十分であることが保証されています。

SQL2166N データベース *database* が存在しないため、**RECOVER** コマンドは失敗しました。

説明: RECOVER コマンドはデータベースのリカバリーに必要なバックアップ・イメージとログ・ファイルの判別に、リカバリー履歴ファイルを利用します。

指定されたデータベースが存在しないため、DB2 はリカバリー履歴ファイルを見つけることができませんでした。

ユーザーの処置: 指定されたデータベース名が正しいことを確認するか、または RECOVER コマンドの USING HISTORY FILE 節を使用してデータベースのリカバリー履歴ファイルを指定します。

SQL2167W ヒストリー・ファイル・レコードに保管されているログ・ストリーム数が、関数に渡された割り振り済みログ・ストリーム数を超えています。

説明: **db2HistoryData** データ構造の

ioLogRange.iNumLogStreams フィールドの値が、取り出されるヒストリー・ファイル・レコード内のログ・ストリーム数より小さい値です。ログ・ストリーム・データは、ioLogRange.iNumLogStreams の値に切り捨てされました。

ユーザーの処置: ioLogRange.oStream のメモリー割り当てを増やして、さらに多くのログ・ストリームが割り振れるようにし、ioLogRange.iNumLogStreams の値を対応する大きな値に更新します。db2HistoryOpenStruct データ構造の oMaxLogStreams フィールドの値によって表されるログ・ストリーム数 (db2HistoryOpenScan API によって返される) は、ヒストリー・ファイル内の項目を読み取るのに十分であることが保証されています。

SQL2170N ユーティリティはリカバリー履歴ファイルの中で同じ ID を持つ項目を検出しました。書き込みできません。

説明: ユーティリティは、リカバリー履歴ファイルの中で書き込み中に同じ ID (秒単位のタイム・スタンプ) を持つ項目を検出しました。リカバリー履歴ファイルへの書き込みが終了します。データベース・マネージャーがリカバリー履歴ファイルの ID の固有性を確認し、1 秒単位で複数の要求に対して準備をします。ただし、数秒の間に要求が多数ある場合には失敗する可能性があります。

ユーザーの処置: アプリケーションが履歴ファイルに多数の項目を生成するユーティリティ (backup、quiesce、load) を実行している場合、この問題を防ぐためにユーティリティの要求を調整してください。

SQL2171N 指定されたオブジェクト・パーツがファイルに存在しないため、リカバリー履歴ファイルの更新が失敗しました。

説明: リカバリー履歴ファイルの更新が指定された項目が、ファイルに存在しません。ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 有効な項目を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2172W このユーティリティは完了していますが、エラー error のため、リカバリー履歴ファイルでイベントをログできません。

説明: このユーティリティはリカバリー履歴ファイルを書き込み中、エラーを検出しています。この警告は処理に影響を与えません。

ユーザーの処置: エラー条件を訂正し、この警告がこれから発生しないようにしてください。

SQL2180N フィルター指定に不正な構文または不正なパスワード・キーが使用されました。

説明: 与えられたフィルター指定が、不正な構文または不正なパスワード・キーのいずれか、あるいは両方を使用しています。

ユーザーの処置: 診断情報を保管しておき、IBM サービスに連絡してください。

SQL2181N フィルター付きリカバリーを行っているときに内部エラーが発生しました。

説明: フィルター付きリカバリーを行っているときに内部エラーが発生しました。リカバリーは終了します。

ユーザーの処置: 表の状態を変更するよう試みているときにエラーが発生した場合、表スペース全体にフィルターを掛けてください。診断情報を保管しておき、IBM サービスに連絡してください。

SQL2200N 表または索引名の修飾子が長すぎます。

説明: 許可 ID は 1 から 128 バイトの長さでなければなりません。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 正しい修飾子で、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2203N tablename パラメーターが無効です。表名が長すぎる、許可 ID しか指定されていない、表名が指定されていない、名前前のアドレスが無効である、のいずれかです。

説明: 表名の指定が必要です。1 から 128 文字 (MBCS 環境では、バイト単位) の長さで指定してください。表名は、有効なアプリケーション・アドレスに位置している必要があります。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 正しい表名を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2204N iname パラメーターが無効です。索引名が長すぎるか、または許可 ID しか指定されていないか、または索引名のアドレスが無効です。

説明: 索引を指定する場合、名前は 1 から 128 バイトの長さでなければなりません。索引は、有効なアプリケーション・アドレスに位置している必要があります。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 有効な索引名を使用して、コマンドを

再サブミットしてください。

SQL2205N 指定された索引が無効であるため、要求された操作が失敗しました。理由コード:
reason-code

説明: 指定された索引パラメーターは、要求された操作には無効です。理由コードのリストを以下に示します。

1

指定された *schema.table-name* または *schema.index-name* に、指定された索引が存在しません。

2

指定された索引は拡張索引です。表の再編成ユーティリティは、索引拡張子に基づいて索引をサポートしていません。

3

表で定義されている索引はすべて、以下の操作が有効になっている疑似削除でなければなりません。インプレース表 REORG、オンライン LOAD、CLEANUP オプションをとまなう REORG INDEXES。

4

クラスタリング索引以外の索引が、表 REORG コマンドで指定されました。

5

索引拡張子に基づく表に索引が存在する場合は、インプレース表 REORG は許可されません。

6

CREATE TABLE コマンドの ORGANIZE BY 節を使用する 1 つ以上のディメンションを持つ表の REORG TABLE に対して索引を指定することはできません。

7

REORG TABLE に指定する索引は、XML 領域の索引、XML 列パスの索引、または XML 列上の索引にすることはできません。

8

索引が指定されているか、クラスタリング索引が表に存在する場合、REORG INDEXSCAN のみ使用できます。

9

RECLAIM EXTENTS オプション付きの REORG INDEX に指定された索引は、データ

ベース管理スペース (DMS) 表スペースに存在してなければなりません。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: この状態はデータ・ソースによっても検出できます。

ユーティリティまたは操作が処理を停止しました。

ユーザーの処置: 有効な索引を指定するか、または索引を指定しないで (該当する場合)、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2207N *datafile* パラメーターで指定されたファイル・パスが無効です。

説明: *datafile* パラメーターが、デフォルト・ファイル・パスを示す値ではありません。また、*datafile* パラメーターは、有効な非デフォルト値ではありません。以下のいずれかがあてはまる可能性があります。

- ポインターが無効です。
- ポインターが、ファイル・パスの指定に対して長すぎるストリングを指しています。
- 指定されたパスの値が無効です (サーバー・マシン上で)。
- サーバー・マシンのファイル・パスが、適切な区切り文字で終了していません。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 有効な *datafile* パラメーターを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2208N 表スペースまたは LONG 表スペース・パラメーターで指定された表スペース *tablespace-name* が無効です。

説明: 表スペースまたは LONG 表スペース・パラメーターに、有効な値が入っていません。下記のいずれかの状態が存在する可能性があります。

- ポインターが無効です。
- ポインターが、表スペース名に対して長すぎるストリングを指しています。
- 指定された表スペースが存在しません。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 有効な表スペースまたは LONG 表スペース・パラメーターを指定してコマンドを再サブミットするか、またはこれらのパラメーターを使用しないでください。後者の場合は、表再編成ユーティリティが、表自体が存在する表スペースを使用します。

SQL2211N 指定された表が存在しません。

説明: 表がデータベースに存在しません。表名または許可 ID が正しくありません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効な表名を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2212N 指定された表はビューです。表再編成ユーティリティをビューに対して実行することはできません。

説明: 表再編成ユーティリティをビューに対して実行することはできません。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 有効な表名を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2213N 指定された表スペースは、**SYSTEM TEMPORARY** 表スペースではありません。

説明: REORG ユーティリティでは、指定する表スペースはすべて、**SYSTEM TEMPORARY** 表スペースでなければなりません。与えられた表スペース名は、システム一時表を保留するために定義されている表スペースではありません。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: **SYSTEM TEMPORARY** 表スペースの名前を使用してコマンドを再サブミットするか、あるいは表スペース名パラメータを使用しないでください。後者の場合、REORG ユーティリティは、表自体が常駐する表スペースを使用します。

SQL2214N このユーザー ID は、表 *name* に対して **REORG** ユーティリティを実行する権限を持っていません。

説明: 適切な許可を持たずに、指定した表またはその索引を再編成しようとした。適切な許可とは、表に対する **CONTROL** 特権、あるいは **SYSADM**、**SYSCTRL**、**SYSMAINT**、**DBADM**、**SQLADM** のいずれかの権限です。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 適切な権限または特権を持つユーザーとしてログオンして、**REORG** ユーティリティ・コマンドを再サブミットしてください。

SQL2215N データベースへこれまでの作業をコミットしている間に、**SQL エラー *sqlcode*** が発生しました。

説明: ユーザーは、**Reorganize Table** コマンドに指定されたデータベースにすでに接続されています。これまでの作業をデータベースに対してコミットしているときに、エラーが発生しました。

ユーティリティは、ロールバックもデータベース接続の切断も行わずに、処理を停止します。

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージの **SQLCODE** (メッセージ番号) を調べてください。変更を行って、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2216N データベース表または索引の再編成中に、**SQL エラー *sqlcode*** が発生しました。

説明: データベース表または索引の再編成中に、エラーが発生しました。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージの **SQLCODE** (メッセージ番号) を調べてください。変更を行って、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2217N **REORG** ユーティリティによって使用されている **SYSTEM TEMPORARY** 表スペースのページ・サイズは、表データが存在する (**LONG** または **LOB** 列データを含む) 表スペースのサイズに一致していません。原因は、次の理由コード *reason-code* に基づいています。

説明: 理由コードのリストを以下に示します。

- 1 原因は、表のデータに一時表スペースを選択したことに関係しています。
- 2 原因は、表の **LONG** または **LOB** データに一時表スペースを選択したことに関係していません。

システム一時表が **REORG** ユーティリティに明示的に指定されている場合、**REORG** ユーティリティによって使用されている **SYSTEM TEMPORARY** 表スペースのページ・サイズは、表データが存在する (**LONG** または **LOB** 列データを含む) 1 つ以上の表スペースのサイズに一致しているか、または **LONG** データの適切なコンテナを指定する必要があります。以下のいずれかが、この制約事項に違反しています。

- 表のデータが、指定された **SYSTEM TEMPORARY** 表スペースのページ・サイズとは異なるページ・サイズを持つ表スペースに存在しています。

SQL2218N

- SYSTEM TEMPORARY 表スペースおよび表の通常データのページ・サイズとは異なるページ・サイズを持つ表スペースにデータが存在する LONG または LOB 列が表に入っていますが、LONG または LOB データ・オブジェクトの正しいページ・サイズを持つ表スペースは見つかりませんでした。

SYSTEM TEMPORARY 表スペースまたは LONG TEMPORARY 表スペースが REORG ユーティリティに指定されていなかった場合には、このユーティリティは内部的に SYSTEM TEMPORARY 表スペースを検索していました。表データと同じページ・サイズを使用する SYSTEM TEMPORARY 表スペースがデータベースに存在しなかったか、あるいはその時点で使用できませんでした。

ユーザーの処置: 表データと同じページ・サイズを使用する SYSTEM TEMPORARY 表スペースがデータベースに存在しない場合、その表データのページ・サイズに一致するページ・サイズで SYSTEM TEMPORARY 表スペースを作成してください。表データのページ・サイズが LOB または LONG データのページ・サイズとは異なる場合、そのページ・サイズを使用する SYSTEM TEMPORARY 表スペースが必ず存在するようにします。

表データと同じページ・サイズを使用する SYSTEM TEMPORARY 表スペースがデータベースに存在していても、コマンドを出したときに使用できなかった場合、SYSTEM TEMPORARY 表スペースが使用できるようになってからコマンドを出し直してください。

SQL2218N REORG ユーティリティに指定された 1 つ以上のパラメーターが非互換です。

SQL2219N 表 *table-name* に対する指定された INPLACE 表の再編成アクションは、1 つ以上のノードで許可されていません。理由コード: *reason-code*

説明: 以下の理由コードによって示されている制限に違反しているため、ステートメントを処理できません。

1
オリジナルのデータまたは索引オブジェクトが変更されているため、表の再編成を RESUME できません。

2
指定された表に対して RESUME すべき再編成がありません。

3

非クラスター表の再編成を RESUME するよう、索引を指定することはできません。

4

再編成を開始するよう指定されたオリジナルの索引がドロップされているため、表の再編成を RESUME できません。

5

RESUME するよう指定された索引が、表の再編成が一時停止されたときに指定された索引と同じではありません。

6

状況ファイルが破壊されているか欠落しているため、表の再編成を RESUME できません。

7

状況ファイルにアクセスしようとして、入出力エラーが発生しました。

8

INPLACE 表の再編成は、指定された表ですでに進行中です。

9

前に一時停止された表の再編成が停止されていないため、START は許可されません。

10

PAUSE または STOP がすでに発行されています。指定されたアクションは非同期であり、すぐに有効にならない可能性があります。

11

PAUSE または STOP する表の再編成がありません。

12

INPLACE 表の再編成は、付加モードの表には許可されません。

13

INPLACE 表の再編成は、行の変更タイム・スタンプ列が欠落している表には許可されません。

14

INPLACE 表の再編成は、COMPRESS YES ADAPTIVE を指定して圧縮された表では許可されません。

INPLACE 表の再編成は、データがページ・レベルで圧縮されていても、圧縮設定が COMPRESS NO または COMPRESS YES

STATIC のいずれかに変更された表では同様に許可されません。COMPRESS YES ADAPTIVE を指定して設定された表では、ユーザーが表を別の圧縮設定に変更した場合、表が再編成されるまでデータはページ・レベルで圧縮された状態を保ちます。

ユーザーの処置:

1

STOP を発行してから、START を発行します。

2

RESUME するための未解決の表の再編成がありません。指定した表を再編成するには、START アクションを発行してください。

3

オリジナルの表の再編成は索引を使用していないため、RESUME に索引を指定することはできません。索引を使用せずに再編成を続行するか、既存の再編成を STOP して、索引名を指定して START を発行してください。

4

既存の、一時停止されている表の再編成を STOP し、START を発行してください。

5

正しい索引を指定して、RESUME コマンドを再サブミットしてください。RESUME に索引が指定されていない場合、デフォルトでオリジナルの索引が使用されます。

6

状況ファイル "<tablespaceID>.<objectID>.OLR" がデータベース・ディレクトリーにあり、アクセス可能であることを確認して、コマンドを再サブミットします。ファイルが損傷している場合は、表の再編成を STOP して、START します。

7

状況ファイル "<tablespaceID>.<objectID>.OLR" がアクセス可能であることを確認して、コマンドを再サブミットします。

8

表の再編成はすでに進行中のため、START または RESUME は許可されません。

9

表の REORG が一時停止されました。一時停止されている REORG を RESUME するか、または REORG を STOP して、START してください。

10

オリジナルの STOP または PAUSE が完了するまでお待ちください。

11

指定した表に対して再編成が実行されていることを確認します。

12

表を ALTER して APPEND モードを OFF にするか、表をオフラインで再編成します。

13

表に対して従来方式の表再編成を実行することにより、行の変更タイム・スタンプ値に欠落値がないことを確認してください。

14

表を再編成するため、オンライン表移動操作または従来方式の表再編成を実行してください。

SQL2220W コンプレッション・ディクショナリーは 1 つ以上のデータ・オブジェクトに対してビルドされませんでした。

説明: コンプレッション・ディクショナリーを 1 つ以上のデータ・オブジェクトに対してビルドできませんでした。オブジェクトに、レコードが含まれていないか、このページ・サイズに適格な最小レコード長より大きいレコードが含まれていないかのいずれかです。新規ディクショナリーは作成されませんでした。操作は継続して完了しました。操作より前にディクショナリーが存在していた場合、そのディクショナリーは保持されており、行は圧縮の対象とされました。

ユーザーの処置: 管理ログを参照して、どのデータ・オブジェクトが警告の原因となっているかを判別してください。

SQL2221N 指定された表 *table-name* がエクステンツ再利用の要求と両立しないため、REORG コマンドが失敗しました。

説明: REORG TABLE RECLAIM EXTENTS コマンドが発行された場合、指定された表名がサポートされるのは、その表がマルチディメンション・クラスタリング (MDC) 表または挿入時クラスタリング (ITC) 表であり、MDC 表または ITC 表がデータベース管理スペース (DMS) 表スペースに入っている場合だけです。

RECLAIM EXTENTS オプション付きの REORG INDEXES ALL コマンドが発行された場合、指定された表名に対する索引は、データベース管理スペース (DMS) の表スペースに存在していなければなりません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを実行します。

- DMS 表スペースに入っている MDC 表または ITC 表を指定する表名を、REORG RECLAIM EXTENTS コマンドで使用します。
- 索引が DMS 表スペースに存在する表を、REORG INDEXES ALL コマンドで使用します。

sqlcode: -2221

sqlstate: 5U044

SQL2222N 指定されたデータ・パーティション *data-partition-name* が無効です。理由コード: *reason-code*

説明: 以下の理由コードで示されているように、その要求では、指定したデータ・パーティション名は無効です。

1

そのデータ・パーティション名は指定された表に存在しません。

2

ON DATA PARTITION 節は REORG INDEX コマンドではサポートされていません。

3

データ・パーティションがアタッチされた状態またはデタッチされた状態のため、操作を実行できません。

ユーザーの処置: メッセージにリストされた理由コードに基づいて、以下のアクションを実行してください。

1

有効なデータ・パーティション名を付けるか、またはデータ・パーティション名を付けずに、要求の再サブミットを行ってください。

2

ON DATA PARTITION 節なしでコマンドを再サブミットしてください。

3

SYSCAT.DATAPARTITIONS カタログ・ビューを照会して、パーティションの STATUS 列の値を確認してください。

STATUS が「A」の場合、パーティションは新規にアタッチされています。以下のステップを実行してください。

1. SET INTEGRITY ステートメントを発行して、アタッチされたパーティションを通常の状態にします。つまり、STATUS が空ストリングの状態にします。
2. SET INTEGRITY が正常に完了してから、要求を再サブミットします。

STATUS 値が「D」、「L」、または「I」の場合、パーティションはデタッチされていますが、デタッチ操作が完了していません。デタッチされたパーティションのデータまたは索引の再編成は許可されていません。

デタッチ操作が完了すると、パーティションはもはやソース表の一部ではなくなります。デタッチの完了後に、新規に作成されたターゲット表のデータまたは索引を再編成できます。

SQL2300N 表名の ID が長すぎるか、または表名の一部として指定されていません。

説明: 表名は完全修飾を行う必要があります。形式は *authid.tablename* でなければなりません (*authid* は 1 バイト以上 128 バイト以下、*tablename* は 1 バイト以上 128 バイト以下)。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 正しい修飾子の入った完全修飾表名を指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2301N *tablename* パラメーターが無効です。パラメーターが長すぎるか、または許可 ID しか指定されていないか、または名前前のアドレスが無効です。

説明: 表名は完全修飾で、形式 *authid.name* (*authid* は 1 バイト以上 128 バイト以下、*name* は 1 バイト以上 128 バイト以下) でなければならず、また有効なアプリケーション・アドレスになければなりません。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 正しい表名を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2302N 索引リストは無効です。リストのアドレスが無効か、またはリストの項目数が指定された索引の数より少ないか、またはリスト内の索引のアドレスが無効です。

説明: リストのアドレスが無効か、リストの項目数が指

定された索引の数より少ないか、またはリスト内の索引のアドレスが無効です。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 有効な索引リストを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2303N `statsopt` パラメーターが無効です。

説明: Run Statistics コマンドの `statsopt` パラメーターは、以下のいずれかでなければなりません。

- T (基本表のみ)
- I (基本索引のみ)
- B (基本表と基本索引の両方)
- D (表と分散)
- E (表、分散、基本索引)
- X (拡張索引のみ)
- Y (拡張索引と基本表)
- A (すべて)

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 有効な `statsopt` パラメーターを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2304N `sharelev` パラメーターが無効です。参照の場合は 'R'、変更の場合は 'C' でなければなりません。

説明: RUN STATISTICS コマンドの `sharelev` パラメーターは、参照の場合は R、変更の場合は C でなければなりません。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 有効な `sharelev` パラメーターを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2305N 指定された表はビューまたはニックネームです。ユーティリティをビューまたはニックネームに対して実行することはできません。

説明: 指定された `tname` パラメーターは、表ではなくビューまたはニックネームです。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 有効な `tname` パラメーターを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2306N 表または索引 `name` が存在しません。

説明: `name` で示された表または索引がデータベースに存在しないか、または `name` で示された索引が、指定された表に定義されていません。表またはいずれかの索引の修飾子が正しくない可能性があります。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 有効な表名および索引を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2307N 指定された表はシステム表です。
RUNSTATS ユーティリティをシステム表に対して実行することはできません。

説明: Run Statistics ユーティリティ・コマンドは、システム表に対して実行されていない可能性があります。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 有効な表名を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2308N 索引名 `name` の修飾子が長すぎるか、または索引名の一部として指定されていません。

説明: 索引名は完全修飾名でなければなりません。形式は `authid.name` で、`authid` は 1 から 128 バイトで、`name` は 1 から 128 バイトでなければなりません。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 正しい修飾子の入った完全修飾名を指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2309N 索引名 `name` が無効です。名前が長すぎるか、または修飾子だけが指定されていません。

説明: 索引名は完全修飾名でなければなりません。形式は `authid.name` で、`authid` は 1 から 128 バイトで、`name` は 1 から 128 バイトでなければなりません。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 有効な索引を指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2310N ユーティリティが統計を生成できませんでした。エラー `sqlcode` が返されました。

説明: ユーティリティで統計データの収集中に、エラーが発生しました。

ユーティリティは処理を停止します。

SQL2311N

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージ・エラー番号を調べてください。変更を行って、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2311N ユーザーは、表 *name* に対して **RUNSTATS** ユーティリティーを実行する権限を持っていません。

説明: ユーザーは、適切な許可を持たずに指定された表の統計を実行しようとしてしました。RUNSTATS コマンドで指定された表が表階層のルート表である場合、メッセージで返される表名は、指定されたルート表の副表である可能性があります。

表の場合、表に対する CONTROL 特権、あるいは SYSADM、SYSCTRL、SYSMAINT、DBADM、SQLADM、LOAD のいずれかの権限が必要です。

統計ビューの場合、次の権限がどちらも必要です:

- 表に対する CONTROL 特権、あるいは SYSADM、SYSCTRL、SYSMAINT、DBADM、SQLADM のいずれかの権限
- ビューの行にアクセスするための適切な特権。つまり、それぞれの表、統計ビュー、または統計ビューで参照されるニックネームに対する SYSADM、DBADM、DATAACCESS、CONTROL、SELECT のいずれかの特権または権限が必要です。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: 適切な許可を使用して RUNSTATS ユーティリティー・コマンドを呼び出してください。

SQL2312N 操作を実行するためには、統計ヒープ・サイズが小さすぎます。推奨されるヒープ・サイズは *num* ページです。

説明: データベース構成パラメーター *stat_heap_sz* の設定が、表で非均等分散統計を収集するには十分な大きさではありません。

ユーザーの処置: データベース構成パラメーター *stat_heap_sz* を推奨値に更新して、もう一度やり直してください。

SQL2313W 統計ヒープ内の使用可能メモリーがすべて使用されています。統計は合計 *n2* 行のうち最初の *n1* 行について収集されます。

説明: データベース構成パラメーター *stat_heap_sz* の設定が、表で非均等分散統計を収集するには十分な大きさではありません。<n2> 行の内、<n1> 行のみが処理できました。

ユーザーの処置: データベース構成パラメーター

stat_heap_sz を 20% に更新して、もう一度やり直してください。

SQL2314W いくつかの統計が不整合な状態になっています。新しく収集された *object1* 統計が、既存の *object2* 統計と矛盾していません。

説明: 照会オプティマイザーは、統計を使用して照会の最良のアクセス・プランを決定します。不整合な統計が存在していると、オプティマイザーは、整合した統計のセットが使用可能な場合より精度の低い情報を使ってアクセス・プランの評価を実行します。その結果、アクセス・プランが最良のものとならなくなる可能性があります。

この警告の考えられる原因は、以下のとおりです。

1. 表で RUNSTATS を発行すると、表レベルの統計が既存の索引レベルと矛盾する状態になる可能性があります。同様に、索引だけに対して、または索引の作成中に RUNSTATS を発行した場合、表レベルの統計が矛盾した状態になる可能性があります。例えば、ある表について索引レベルの統計が収集され、後でその表からかなりの数の行が削除された場合、その表に対して RUNSTATS を発行すると、表のカーディナリティーが FIRSTKEYCARD より小さい状態、つまり不整合状態になる可能性があります。
2. 多くの挿入、更新、または削除が並行して発生しているときに RUNSTATS を ALLOW WRITE ACCESS オプションを付けて発行した場合には、表の統計が収集される時と索引の統計が収集される時の間に表が変更されるために、不整合が発生する場合があります。
3. RUNSTATS に TABLESAMPLE オプションを付けて発行する場合には、標本の大きさが極端に少ないと、統計が不正確に補外される場合があります。不整合となります。不正確な補外は、SYSTEM サンプリングの方が BERNOULLI サンプリングより高い確率で発生します。

ユーザーの処置: 不整合の原因を突き止め、再び統計を収集して、不整合を解決してください。

1. RUNSTATS を発行して表レベルの統計と索引レベルの統計の両方を収集してください。
2. 挿入、更新、および削除が最小限であるか、まったく行われていない時に統計を収集してください。あるいは、並行して行われる挿入、更新、および削除が大きな問題ではない場合に、ALLOW READ ACCESS オプションを付けて RUNSTATS を発行してください。

3. 標本をもっと大きくするか、または TABLESAMPLE SYSTEM を付けて RUNSTATS が発行された場合には、TABLESAMPLE BERNOULLI オプションを代わりに使用してください。

sqlcode: +2314

sqlstate: 01650

SQL2315N RUNSTATS ユーティリティーは、*option-name* オプションで呼び出されました。しかし、この表の統計プロファイルが存在しません。

説明: この表の統計プロファイルがカタログ表 SYSIBM.SYSTABLES に存在しません。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: この表の統計プロファイルを作成するには、SET PROFILE または SET PROFILE ONLY オプションを使用します。RUNSTATS ユーティリティーのオプションについては、このユーティリティーのドキュメンテーションを参照してください。

option-name はトークンで、"USE PROFILE"、"UNSET PROFILE"、または "UPDATE PROFILE" のいずれかにすることができます。

SQL2316W 統計プロファイルの Runstats コマンド・ストリングが最大サイズを超えました。Runstats コマンド・ストリングは最大サイズで切り捨てられて、カタログ表 SYSIBM.SYSTABLES に保管されます。

説明: STATISTICS_PROFILE 列の最大サイズは 32768 バイトです。統計プロファイルのサイズがこれより大きい場合、Runstats コマンド・ストリングは最大サイズに切り捨てられます。

ユーティリティーは処理を続けます。

ユーザーの処置: 統計プロファイルを見るには、カタログ表 SYSIBM.SYSTABLES の STATISTICS_PROFILE 列を参照してください。既存の統計プロファイルが望ましいものでない場合は、RUNSTATS ユーティリティーを再度発行し、それに UPDATE PROFILE または UPDATE PROFILE ONLY オプションを指定することにより、プロファイルを変更してください。RUNSTATS ユーティリティーのオプションについては、このユーティリティーのドキュメンテーションを参照してください。

SQL2317W RUNSTATS に対して SYSTEM SAMPLING が指定されましたが、これは、指定された統計ビューではサポートされません。代わりに BERNOULLI SAMPLING が実行されました。

説明: RUNSTATS で指定された統計ビューに対するページ・レベルのサンプリング (SYSTEM SAMPLING) を実行できませんでした。ページ・レベルのサンプリングは、ビューが 1 つの基本表で定義されている場合に限って実行可能です。また、複数の表がビューに含まれ、しかも以下の条件が満たされる場合にも、ページ・レベルのサンプリングが可能です。

- 複数の表の間で定義された参照整合性の制約に含まれるすべての主キーおよび外部キー列で、等価述部を使用して表が結合される
- リレーションシップのどの親表の行も、検索条件によってフィルターされない
- すべての表の中で、それ自身は親表ではない 1 つの子表が識別される

参照整合性の制約はインフォメーションアルです。ビューが前述の基準を満たす場合、ページ・レベルのサンプリングが子表に対して実行されます。

指定された統計ビューはこれらの条件を満たさないため、行レベルのサンプリング (BERNOULLI SAMPLING) が代わりに実行されました。

ユーザーの処置: この警告が戻されることを防ぐには、統計ビューに対して BERNOULLI SAMPLING を指定してください。

sqlcode: +2317

sqlstate: 0168V

SQL2406N データベースのロールフォワードが必要なために、BACKUP が実行できません。

説明: データベースが不整合状態にあるために、バックアップが失敗しました。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: ROLLFORWARD コマンドを使用して、データベースを使用可能にしてください。その後で、BACKUP コマンドを再サブミットしてください。

SQL2412C データベース・ユーティリティーの実行中に、壊れたデータベース・ページが見つかりました。

説明: ユーティリティーの処理中に、壊れたデータベース・ページが見つかりました。データベースは予測不

能状態になり、ユーティリティーは続行できません。

ユーザーの処置: メッセージ番号 (SQLCODE) を記録してください。

トレースがアクティブな場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトから、独立トレース機能呼び出ししてください。技術サービス担当者に、以下の情報を知らせてください。

- 問題の説明
- SQLCODE またはメッセージ番号
- SQLCA (可能であれば)
- トレース・ファイル (可能であれば)

SQL2413N データベースが回復可能でないか、またはバックアップ・ベンディング条件が有効になっているため、オンライン・バックアップを実行できません。

説明: リストア時に、順方向リカバリーが要求されている場合に、データベースが順方向リカバリー用にログインされていないと、オンライン・バックアップは実行できません。順方向リカバリーは、データベース構成の LOGARCHMETH1 または LOGARCHMETH2 パラメーターを設定し、次にデータベースのオフライン・バックアップを実行することによって有効になります。

ユーザーの処置: オフライン・バックアップを行うか、またはロールフォワード・リカバリーのためにデータベースを再構成してオフライン・バックアップを発行し、以後のオンライン・バックアップを可能にしてください。

SQL2416W 警告! 装置 *device* がフルです。新しいメディアをマウントしてください。

説明: ユーティリティーが使用しているテープがいっぱいになりました。

ユーザーの処置: 別のテープを取り付けて、処理を続行するかどうかを *callerac* パラメーターに指定して、処理を続けてください。

SQL2417N アーカイブ・ログはリカバリー不能データベース上では許可されません。

説明: アーカイブ・ログ・コマンドは、リカバリー可能モードにあるデータベースでのみ使用できます。データベースがリカバリー可能モードであるのは、LOGARCHMETH1 が DISK、TSM、VENDOR、USEREXIT、または LOGRETAIN に設定されているか、または LOGARCHMETH2 が DISK、TSM、または VENDOR が設定されている場合です。

ユーザーの処置: 指定されたデータベースがリカバリー可能モードにあることを確認して、コマンドを再発行してください。

SQL2418N バックアップ用に指定されたデータベースが存在しません。

説明: Database Backup コマンドの *dbase* パラメーターに指定されたデータベースが見つかりません。

ユーザーの処置: データベース・バックアップ・ユーティリティーに正しいデータベース別名が指定されており、この別名に対するデータベースが存在することを確認してください。正しい別名を指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2419N ターゲット・ディスク *disk* がいっぱいになりました。

説明: データベース・ユーティリティーの処理中に、ターゲット・ディスクがいっぱいになりました。ユーティリティーは停止し、ターゲットは削除されます。

ユーザーの処置: ユーティリティーが使用できる十分なディスク・スペースが存在することを確認するか、またはターゲットを、テープなどの他のメディアに変更してください。

unix ベース・システムでは、カレント・ユーザー ID に許可されている最大ファイル・サイズを超えたために、このディスク・フル状態になる場合があります。chuser コマンドを使用して、fsize を更新してください。リブートが必要になる場合があります。

unix ベース・システム以外では、オペレーティング・システムに許可されている最大ファイル・サイズを超過したために、このディスク・フル状態になる場合があります。ターゲットをテープなどの別のメディアに変更するかあるいは複数のメディアを使用してください。

SQL2420N 装置 *device* には、初期バックアップ制御情報が入る十分なスペースがありません。

説明: バックアップ処理中に、バックアップ・イメージの先頭に初期バックアップ・ヘッダーを作成する必要があります。このヘッダーは、テープにバックアップするときは、1本のテープに収まらなくてはなりません。このテープには、このヘッダーを含むのに十分なスペースがありません。

ユーザーの処置: バックアップ操作を再サブミットし、出力を新しいテープに変更するか、またはこのヘッダーに十分なスペースが提供できるように、現在のテープの位置付けを変更してください。

SQL2421N データベースをリカバリーできないか、またはバックアップ・ペンディング状態が生じているため、表スペース・レベルのバックアップを実行できません。

説明: このメッセージは、データベースをリカバリーできないか、またはバックアップ・ペンディング状態が生じているために、表スペース・レベルのバックアップを実行できない場合に返されます。これは、以下の状態のときに発生する可能性があります。

- データベースがオフライン・バックアップ・ペンディング状態にあります。これは、トポロジーの変更により、またはデータベースがリカバリー可能になったときに生じることがあります。
- リストア時に、順方向リカバリーが要求されている場合に、データベースが順方向リカバリー用にロギングされていないと、表スペース・レベルのバックアップは実行できません。

ユーザーの処置:

1. 以下のいずれかを実行します。
 - データベースのフルバックアップを実行します。
 - ロールフォワード・リカバリー用にデータベースを再構成します。順方向リカバリーは、データベース構成パラメーター LOGARCHMETH1 または LOGARCHMETH2 のいずれかを設定し、次いでデータベースのオフライン・バックアップを実行することによって構成します。
2. オフライン・バックアップを実行して、その後の表スペース・レベルのバックアップが可能になるようにします。

SQL2423N 一部の索引ファイルが脱落しているために、データベースをバックアップすることはできません。

説明: バックアップに必要な一部の索引ファイルが脱落しています。データベースをバックアップする前に、これらの索引ファイルを再作成しなければなりません。

ユーザーの処置: 'db2recr1' プログラムを実行し、脱落している索引ファイルを再作成してから、バックアップ・コマンドを再サブミットしてください。

SQL2424N Data Links Manager での非同期コピー操作が完了していないため、バックアップは正常に終了しませんでした。

説明: TSM またはベンダー提供のアーカイブ・サーバーが操作可能状態でない可能性があります。

ユーザーの処置: TSM またはベンダー提供のアーカイブ・サーバーが操作可能状態であることを確認し、バックアップ・コマンドを再サブミットしてください。

バックアップ・コマンドを再サブミットしてください。

SQL2425W オンライン・バックアップ用のログ・ファイルが切り捨てられませんでした。

説明: オンライン・バックアップの間、バッファされたログ・レコードはすべて強制的にディスクに送られ、最後のアクティブ・ログ・ファイルは切り捨てられます。現在のバックアップでは、最後のアクティブ・ログ・ファイルの切り捨てに失敗しました。この結果、新しいログ・レコードは、バックアップ中に使用されていた最後のログ・ファイルに書き込まれ続けます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。バックアップ中に使用されていた最後のアクティブ・ログ・ファイルは、いっぱいになった時点で非アクティブになります。

SQL2426N データベースは、増分バックアップ操作を許可するように構成されていません。理由コード = *reason-code*。

説明: データベースに対して変更トラッキングがアクティブ化されており、非増分バックアップが表スペースに対して実行されるまでは、その表スペースに対して増分バックアップは使用可能になっていません。

可能性のある理由コードは、以下のとおりです。

1. 構成パラメーター TRACKMOD が、データベースに対して設定されていない。
2. TRACKMOD 構成パラメーターは設定されているが、少なくとも 1 つの表スペースで、TRACKMOD パラメーターの設定以降、増分バックアップ以外取られていない。

ユーザーの処置: 理由コードに基づいたアクションは、以下のとおりです。

1. TRACKMOD データベース構成パラメーターをオンに設定してデータベースの変更トラッキングをアクティブ化し、次に完全なデータベース・バックアップを実行します。
2. db2diag ログ・ファイルを調べて表スペースの名前を判別した後、その表スペースの完全バックアップを実行します。

SQL2427N プラグイン・ライブラリー *filename* には、エントリー・ポイント *entrypoint* が含まれていないため、バックアップすることができません。

説明: 圧縮されたバックアップ・イメージは、イメージに組み込まれているプラグイン・ライブラリーを使用して作成されています。ただし、ライブラリーには、バックアップ・イメージがリストアされた時に圧縮解除する

SQL2428N

ために必要なすべての関数が含まれていません。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: バックアップ・イメージの圧縮解除に必要なすべての関数が含まれるライブラリー名を指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2428N 要求されたログ・ファイルのうち 1 つ以上を取り出すことができなかつたため、**BACKUP** が完了しませんでした。

説明: イメージのロールフォワード・リカバリーを正常に実行するために必要なログのいずれかを取り出すことができず、それをバックアップ・イメージ中にコピーできないなら、それらのログを含むバックアップは失敗します。

ユーザーの処置: 障害の発生したログ検索試行の原因については、管理通知ログを参照してください。エラーを訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2429N データベースのバックアップに失敗しました。次のデータベース・パーティションがエラーを戻しました:
database-partition-list。

説明: パーティション・データベースのバックアップが 1 つ以上のデータベース・パーティションで失敗しました。

DB2 データベース・サーバーがパーティション・データベースをバックアップする場合、パーティションのいずれかで失敗すると全体のバックアップが失敗します。

バックアップ操作が終了しました。バックアップ・イメージは生成されませんでした。

ユーザーの処置:

1. エラーを戻したパーティションごとに、エラーの原因となった問題を訂正してください。
2. BACKUP コマンドを再実行してください。

SQL2430W データベースのバックアップに成功しましたが、このデータベース・パーティションに以下の表スペースが存在しません:
table-space-list。

説明: DB2 データベース・サーバーは、このパーティションが含まれるパーティション・データベースのバックアップを正常に完了しました。

しかし、BACKUP コマンドで指定された表スペースの一部がこのパーティションに存在しません。これは、指定された表スペースがこのデータベースの他のパーティションにあるか、あるいは指定された表スペースのリストにエラーが含まれているためです。

バックアップは正常に完了しました。

ユーザーの処置:

1. BACKUP コマンドで指定された表スペースのリストが正しいかどうか調べてください。
2.
 - 指定された表スペースのリストが正しい場合、アクションは不要です。
 - 指定された表スペースのリストにエラーが含まれている場合、リストを訂正してから BACKUP コマンドを再実行してください。

SQL2431W データベースのバックアップに成功しました。各データベース・パーティションごとに、バックアップ操作中にアクティブになっていたログ・ファイルだけが、バックアップ・イメージに含まれます。

説明: DB2 データベース・サーバーはパーティション・データベースのバックアップを正常に完了しました。

各データベース・パーティションのバックアップ・イメージに、バックアップ時にアクティブであったログ・ファイルのみが含まれます。バックアップ・イメージに含まれるログ・ファイルのいずれかがデータベース最小リカバリー時間を含む期間に及ばない場合、これらのログ・ファイルのみを使用して、全体のパーティション・データベースをロールフォワードすることはできません。

データベース・オブジェクトの最小リカバリー時間 (MRT) は、データベース・オブジェクトをロールフォワードできる最も早い時点のことです。

パーティション・データベースでは、データベース MRT は、そのデータベース・パーティションの中で最も遅い MRT になります。

パーティション・データベースをロールフォワードできるのは、データベース MRT を含めた時間まで及ぶログ・ファイルのセットが、すべてのデータベース・パーティションに存在する場合のみです。

バックアップ・イメージに含まれるログ・ファイルがこの要件を満たしていない場合があります。

バックアップは正常に完了しました。

ユーザーの処置: データベース・リカバリー・ストラテジーで、バックアップ・イメージに含まれるログ・ファイルのみを使用して、パーティション・データベースをロールフォワードする場合、"ON ALL DBPARTITIONNUMS" パラメーターを指定してバックアップ・コマンドを再実行してください。これにより、バックアップ・イメージに含まれるログ・ファイルは、

データベースをロールフォワードすることができるようになります。

SQL2432N スナップショット・バックアップが失敗しました。 **EXCLUDE LOGS** パラメーターが指定されましたが、次に示すログ・ディレクトリーは他のデータベース・パスおよびデバイスから独立していないため、これらのログ・ディレクトリーを除外できません: *log-directory-list*

説明: スナップショット・バックアップを使用すれば、DB2 データベースのバックアップおよびリストア操作において、データ・コピーと移動に高速なコピー・テクノロジーを利用できます。

スナップショット・バックアップで **EXCLUDE LOGS** パラメーターが指定されましたが、指定されたログ・ディレクトリーのパスには、バックアップ対象のデータベースによって使用される他のパスまたはストレージ・デバイスと共通のパスまたはストレージ・デバイスが含まれています。

ログ・ディレクトリーのパスまたはストレージ・デバイスが、バックアップ対象データベースによって使用される他のパスまたはストレージ・デバイスと共通している場合には、ログ・ディレクトリーを含めることなく、共通のパスまたはストレージ・デバイスをスナップショット・バックアップに含めることはできません。

例えば、DB2 データベースの作成時には、デフォルトでメイン・データベース・ディレクトリーの下にログ・ディレクトリーが作成されます。スナップショット・バックアップではメイン・データベース・ディレクトリーの下すべてのデータが対象となるため、結果として生成されるバックアップ・イメージにはログ・ディレクトリーも含まれます。DB2 データベースの作成時にデフォルトのログ・パスを使用した場合、そのデータベースに対してスナップショット・バックアップを実行するときには、バックアップ・イメージからログを除外できません。

データベース・ディレクトリーのグループ分け方法は、さまざまなストレージ管理ソフトウェアで提供されるスナップショット・バックアップ・サポートに応じて異なります。詳しくは、DB2 インフォメーション・センターのトピック『スナップショット・バックアップのための DB2 データベース・ディレクトリーの構成』を参照してください。

スナップショットのバックアップに失敗しました。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを実行できます。

- スナップショット・バックアップ・イメージからログを除外しないことを選択する。

- EXCLUDE LOGS** パラメーターを使わずに **BACKUP** コマンドを再サブミットする。
- スナップショット・バックアップ・イメージからログを除外できるようにするために、ログ・ディレクトリーを再構成する。
- データベース構成パラメーター **newlogpath** を使って、他のすべてのデータベース・パスから独立したログ・ディレクトリー・パスを指定する。
- EXCLUDE LOGS** を使って **BACKUP** コマンドを再発行する。
- 現在のデータベース・パスを確認するには、**DBPATHS** 管理ビューを使用できます。

DBPATHS 管理ビューの使用法について、詳しくは DB2 インフォメーション・センターのトピック『**DBPATHS**』を参照してください。

SQL2434N リダイレクト・リストア操作のロールフォワード・フェーズの際に表スペース操作を再生できなかったため、このリストア操作は失敗しました。

説明: リダイレクト・リストアは、バックアップが終了した時点で、リストアされたデータベースの表スペース・コンテナ・セットが元のデータベースのコンテナ・セットとは異なるリストアです。

リストアされたデータベースによって使用される新しい表スペース・コンテナを定義すると、元の表スペース・コンテナのアーキテクチャーとは異なる新しい表スペース・コンテナのアーキテクチャーを定義できます。例えば、現在 2 つの表スペース・コンテナを使用しているデータベースが 1 つの表スペース・コンテナを使用するように変更するリダイレクト・リストア操作を使用できます。

リストアされたデータベースで使用される表スペースのアーキテクチャーが元のデータベースのアーキテクチャーとは異なる場合、ロールフォワードの際に再生する必要がある、新しい表スペース・アーキテクチャーでは無効な表スペース変更操作が、データベース・ログ・ファイルに存在する可能性があります。

このメッセージは、リダイレクト・リストア操作中、ターゲットの表スペース・コンテナ・アーキテクチャーでは無効な表スペース操作をロールフォワード・ユーティリティーが再生しようとしたときに返されます。つまり、このメッセージが返されるのは、ロールフォワード・ユーティリティーが **REGULAR** または **USER TEMPORARY** いずれかの **DMS** 表スペースに対して表スペース操作を実行しようとしたものの、それを行うと、定義された最大許可サイズを超えて表スペースのサイズが増加してしまう場合です。この許可サイズは

SQL2435N • SQL2436N

PAGESIZE データベース構成パラメーターで決定されま
す。

ユーザーの処置:

1. RESTORE コマンドに REDIRECT パラメーターを指
定してリダイレクト・リストアを再度開始します。
2. リストアされるデータベースによって使用される新
しい表スペース・コンテナを SET TABLESPACE
CONTAINERS コマンドを使用して定義します。その
とき、ロールフォワード操作で表スペース操作の再
生を強制的に省くように、IGNORE
ROLLFORWARD CONTAINER OPERATION パラメ
ーターを指定します。
3. RESTORE コマンドに CONTINUE パラメーターを
指定してリストア操作を完了します。

sqlcode: -2434

sqlstate: 58004

SQL2435N このデータベースの CF で使用可能なメ
モリーが十分でないためにデータベースの
アクティブ化が失敗しました。データベー
ス名: *database-name*。

説明: このメッセージは、DB2 pureCluster 環境で複数
のデータベースをアクティブにしようとしたものの、そ
のうちの 1 つのデータベースのクラスター・キャッシ
ング・ファシリティ (CF と呼ばれる) のメモリー
が十分でないために、そのデータベースのアクティブ化
が失敗したときに返されます。

cf_mem_sz データベース・マネージャー構成パラメータ
ーを使用して、CF で使用可能な合計メモリー量を構成
できます。DB2_DATABASE_CF_MEMORY レジスト
リー変数を使用すると、cf_db_mem_sz データベース構
成パラメーターが AUTOMATIC に設定されている各デ
ータベースに割り当てられる合計 CF メモリーのパーセ
ンテージを構成することができます。(cf_db_mem_sz set
が特定の値に設定されているデータベースはすべて、
DB2_DATABASE_CF_MEMORY レジストリー変数を無
視します。)

DB2_DATABASE_CF_MEMORY レジストリー変数の使
用は、cf_db_mem_sz データベース構成パラメーターお
よび numdb データベース・マネージャー構成パラメ
ーターに合わせて調整する必要があります。

例:

4 つのデータベースを一度にアクティブにする
場合、構成パラメーターを以下のように調整す
る必要があります。

- データベース・マネージャー構成パラメータ
ー numdb を 4 に設定する必要があります

- 4 つのデータベースそれぞれのデータベース
構成パラメーター cf_dm_mem_sz を
AUTOMATIC に設定する場合、レジストリ
ー変数 DB2_DATABASE_CF_MEMORY を
25 に設定する必要があります

numdb が 1 より大きいときに

DB2_DATABASE_CF_MEMORY レジストリー変数が
100 に設定されると、このエラーが発生する場
合があります。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの方法で、このエラー
に対応します。

- 他のデータベースが使用する CF メモリーの合計を判
別して、このデータベースの CF メモリー要件に適
応するために設定を変更する必要があるかどうかを確
認します。
- このデータベースの cf_db_mem_sz データベース構
成パラメーターが automatic に設定されている場合、
DB2_DATABASE_CF_MEMORY レジストリー変数の
値を変更することにより、このデータベースの CF で
使用可能なメモリーの量を増やします。

SQL2436N 表 *table-name* は、データ再配分の前提条
件を満たすのに失敗しました。理由コード
= *reason-code*。

説明: 再配分ユーティリティを使用して、データベ
ース・パーティションを追加または除去した後にデータ
ベース・パーティション間でデータ配分をリバランスし
たり、必要に応じてパーティション間でデータ配分を行
ったりできます。データベースでデータの再配分を試行
するときに (例えば、REDISTRIBUTE DATABASE
PARTITION GROUP コマンドを使用する場合)、再配
分に適していない状態の表が 1 つ以上含まれているこ
とを再配分ユーティリティが判別した場合に、このメ
ッセージが戻されます。

REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION GROUP コマ
ンドに PRECHECK YES OR PRECHECK ONLY コマ
ンド・パラメーターが指定されていた場合、このエラ
ー・メッセージには、失敗した最初のチェックと、デー
タ再配分が開始されないことが記述されます。その他
のすべての場合、データ再配分は試行されますが失敗し
、部分的に処理された表が「再配分ペンディング」状
態になります。

表がデータ再配分の前提条件を満たすことに失敗した理
由が、以下の理由コードで示されます。

1

表が「SET INTEGRITY ペンディング」状態
です。

2

- 表が「ロード進行中」状態です。現在この表に対して LOAD ユーティリティの操作が実行中であり、この LOAD が完了するまではアクセスは許可されません。
- 3 表が「ロード・ペンディング」状態です。この表に対する直前の LOAD 試行が失敗しました。この LOAD 操作の再始動または終了の時点まで、表へのアクセスは許可されません。
- 4 表が「読み取りアクセスのみ」状態です。この状態は、オンライン LOAD 処理 (READ ACCESS オプションを指定した LOAD INSERT) 中、またはオンライン LOAD 操作後で、SET INTEGRITY ステートメントを使ってすべての制約が表の新しく付加された部分で妥当性検査される前に発生することがあります。この表に対する更新アクティビティは許可されません。
- 5 表が「REORG ペンディング」状態です。これは、REORG の推奨対象となる操作が含まれる ALTER TABLE ステートメントの後に発生する可能性があります。
- 6 表は使用できません。
- 7 表は MDC 表で、据え置き索引クリーンアップ・ロールアウト操作が進行中です。
- 8 表は、タイプが「WRITE TO TABLE」であるアクティブ・イベント・モニターのターゲット表です。
- 9 表が「ロード再始動不可」状態です。これは、部分的にロードされた状態で、ロード再始動操作を実行できません。
- 10 表が FULL アクセス・モード (SYSCAT.TABLES で ACCESS_MODE='F') ではありません。
- 11 表に現在接続されている (SYSCAT.DATAPARTITIONS.STATUS = 'A') データ・パーティションがあります。
- 12 表にデタッチされたデータ・パーティション (SYSCAT.DATAPARTITIONS.STATUS = 'D') があり、それらのデタッチされたデータ・パーティションに関して増分的に保守しなければならない従属表があります。
- 13 表に、現在実行中の索引クリーンアップ操作に関係している、デタッチされたデータ・パーティション (SYSCAT.DATAPARTITIONS.STATUS = 'I') があります。
- ユーザーの処置:** *table-name* に修正を加えますが、その表以外にもデータベース・パーティション・グループに問題のある表がないか注意してください。データベース・パーティション・グループにあるすべての表をチェックすることによって、再配布の試行が複数回失敗することを回避できます。詳しくは、データ再配分中の表の状態のトラブルシューティングに関する資料を参照してください。
- 1 表 *table-name* に対して IMMEDIATE CHECKED オプションを指定して SET INTEGRITY ステートメントを実行してから、REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION GROUP コマンドを再度発行してください。または、REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION GROUP コマンドで EXCLUDE パラメーターを指定して表を除外します。
- 2 ロード操作が完了するまで待機し、REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION GROUP コマンドを再度発行します。LOAD QUERY コマンドを使用して、ロード操作の進行状況をモニターできます。または、REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION GROUP コマンドで EXCLUDE パラメーターを指定して表を除外します。
- 3 RESTART または TERMINATE コマンド・パラメーターを指定して LOAD コマンドを発行し、それぞれのコマンドで、直前に失敗したこの表に対する LOAD 操作を再始動または終了します。ロード操作が完了したら、REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION GROUP コマンドを再度発行します。または、REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION

GROUP コマンドで EXCLUDE パラメーターを指定して表を除外します。

4

LOAD QUERY コマンドを発行して、表がロード中かどうかをチェックします。ロード中の場合は、LOAD ユーティリティが完了するまで待機するか、または必要に応じて、直前に失敗した LOAD 操作を再始動または終了してください。LOAD が現在進行中でない場合は、IMMEDIATE CHECKED オプションを指定して SET INTEGRITY ステートメントを発行し、表の新しくロードされた部分の制約を検証してください。表が「読み取りアクセスのみ」状態ではなくなったら、REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION GROUP コマンドを再度発行します。または、REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION GROUP コマンドで EXCLUDE パラメーターを指定して表を除外します。

5

REORG 操作を実行して表をアクセス可能にし、REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION GROUP コマンドを再度発行します。または、REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION GROUP コマンドで EXCLUDE パラメーターを指定して表を除外します。

6

表をドロップしてから、またはその表をバックアップからリストアしてから、REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION GROUP コマンドを再度発行します。または、REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION GROUP コマンドで EXCLUDE パラメーターを指定して表を除外します。

7

ロールアウトされたブロックの索引のクリーンアップが完了したら、REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION GROUP コマンドを再度発行してください。または、REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION GROUP コマンドで EXCLUDE パラメーターを指定して表を除外します。

8

イベント・モニターの活動が完了するまで待機するか、SET EVENT MONITOR STATE ステートメントを使用してイベント・モニターを非アクティブ化します。CONTINUE パラメーターまたは ABORT パラメーターを指定して、

REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION GROUP コマンドを再サブミットしてください。または、REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION GROUP コマンドで EXCLUDE パラメーターを指定して表を除外します。

9

LOAD TERMINATE または LOAD REPLACE コマンドを発行して、表を「ロード再始動不可」以外の状態にします。CONTINUE または ABORT オプションのいずれかを使用して、REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION GROUP コマンドを再サブミットしてください。または、REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION GROUP コマンドで EXCLUDE パラメーターを指定して表を除外します。

10

table-name の従属即時マテリアライズ照会表およびステージング表で、IMMEDIATE CHECKED オプションを指定した SET INTEGRITY ステートメントを実行します。CONTINUE または ABORT オプションのいずれかを使用して、REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION GROUP コマンドを再サブミットしてください。または、REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION GROUP コマンドで EXCLUDE パラメーターを指定して表を除外します。

11

表 *table-name* に対して IMMEDIATE CHECKED オプションを指定して SET INTEGRITY ステートメントを実行してから、REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION GROUP コマンドを再度発行してください。または、REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION GROUP コマンドで EXCLUDE パラメーターを指定して表を除外します。

12

デタッチされたデータ・パーティションに関して、依然として増分的に保守する必要がある表の従属即時マテリアライズ照会表およびステージング表に対して SET INTEGRITY ステートメントを IMMEDIATE CHECKED オプションを指定して実行してください。SYSCAT.TABDETACHEDDEP カタログ・ビューを照会して、これらのデタッチされた従属表を探し出してください。CONTINUE または ABORT オプションのいずれかを使用して、REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION GROUP コマンドを再度発行してください。ま

たは、REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION GROUP コマンドで EXCLUDE パラメーターを指定して表を除外します。

13

デタッチされたパーティションの索引クリーンアップが完了するのを待機します。CONTINUE または ABORT オプションのいずれかを使用して、REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION GROUP コマンドを再サブミットしてください。または、REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION GROUP コマンドで EXCLUDE パラメーターを指定して表を除外します。

sqlcode: -2436

sqlstate: 55019

SQL2437N ユーティリティが暗黙非表示列の処理方法を解決できなかったため、データ移動コマンドが失敗しました。データは移動しませんでした。

説明: LOAD、IMPORT、INGEST、および EXPORT などのユーティリティを使用して、DB2 データベースの中および外にデータを移動できます。

以下に示すいくつかの方式で、データ移動ユーティリティが暗黙非表示列を処理する方法を指定できます。

- データ移動操作に含める列のリストを明示的に指定する。
- データ移動コマンドに、非表示列関連のパラメーターを指定する。
- すべてのデータ移動ユーティリティが非表示列を扱う方法を示す、非表示列関連の DB2 レジストリー変数を設定する。

暗黙非表示列を格納する 1 つ以上の表の中または外へデータを移動しようとしたものの、非表示列の処理方法を指定する前述の方式がいずれも利用されていないために、暗黙非表示列をデータ移動操作に含めるかどうかをデータ移動ユーティリティが判別できない場合に、このメッセージが返されます。

ユーザーの処置: 適切なコマンド・パラメーターまたは DB2 レジストリー変数を使用して暗黙非表示列の処理方法を指定し、ユーティリティを再実行します。

SQL2438W データ移動コマンドは成功しました。しかし、ユーティリティは、データ移動操作に関係した 1 つ以上の表に暗黙非表示列が含まれていることを検出したものの、それらの暗黙非表示列の処理方法を解決できませんでした。暗黙非表示列内のデータは移動しませんでした。

説明: LOAD、IMPORT、INGEST、および EXPORT などのユーティリティを使用して、DB2 データベースの中および外にデータを移動できます。

以下に示すいくつかの方式で、データ移動ユーティリティが暗黙非表示列を処理する方法を指定できます。

- データ移動操作に含める列のリストを明示的に指定する。
- データ移動コマンドに、非表示列関連のパラメーターを指定する。
- すべてのデータ移動ユーティリティが非表示列を扱う方法を示す、非表示列関連の DB2 レジストリー変数を設定する。

暗黙非表示列を格納する 1 つ以上の表の中または外へデータを移動する際、非表示列の処理方法を指定する前述の方式がいずれも利用されていないために、暗黙非表示列をデータ移動操作に含めるかどうかをデータ移動ユーティリティが判別できない場合に、このメッセージが返されます。

データが移動されましたが、暗黙非表示列内のデータは移動されませんでした。

ユーザーの処置: 暗黙非表示列内のデータを移動する必要がある場合は、適切なコマンド・パラメーターまたは DB2 レジストリー変数を使用して暗黙非表示列の処理方法を指定し、データ移動操作を再実行します。

今後この警告を回避するには、暗黙非表示列を含む表の中または外へデータを移動する際に、適切なコマンド・パラメーターまたは DB2 レジストリー変数を使用して暗黙非表示列の処理方法を指定します。

第 6 章 SQL2500 - SQL2999

SQL2501C データベースはリストアされましたが、リストアされたデータベース内のデータは使用できません。

説明: RESTORE ユーティリティが、リストアされたデータベースからデータを読み取ることができなかったか、またはデータベースの一部のみがリストアされました。両方の原因が、リストアされたデータベースが使用できないことを示しています。

データベースは使用できず、RESTORE ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: RESTORE コマンドを再サブミットしてください。

SQL2502C バックアップ・ファイルの読み取り中に、エラーが発生しました。物理的にディスクの読み取りができないか、または指定されたディスクに有効なバックアップ・ファイルが含まれていません。

説明: RESTORE ユーティリティがディスクまたはディスクセットを読んでいるときに、オペレーティング・システム・エラーが発生したか、そのディスクまたはディスクセットに、データベース・ディレクトリーのバックアップが入っていないか、あるいは以前のバックアップの結果が入っていません。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 指定した入力ドライブがディスク・ドライブの場合は、現在使用中のディスクセットをチェックしてください。入力ドライブがハード・ディスク・ドライブの場合は、それが正しいハード・ディスクであることを確認してください。上記が適用可能であれば、正しい入力ドライブとディスクセットを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2503N RESTORE が正常に終了しませんでした。データベースのリストアに使用したバックアップに、不適切なデータベースが含まれています。

説明: バックアップ・ディスクに入っているデータベースの名前が、RESTORE コマンドに指定されたデータベース名と一致しません。前のリリースのバックアップ・イメージがリストアされたために、RESTORE ユーティリティは、データベースがリストアされるまでその名前を判別できません。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 間違ったデータベース名をコマンドで使用した場合は、正しいデータベース名を使用して、コマンドを再サブミットしてください。指定した入力ドライブがディスク・ドライブの場合は、現在使用中のディスクセットをチェックしてください。入力ドライブがハード・ディスク・ドライブの場合は、それが正しいハード・ディスクであることを確認してください。上記が適用可能であれば、正しい入力ドライブとディスクセットを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2504W 最初のバックアップ・ディスクセットを、ドライブ *drive* に挿入してください。

説明: RESTORE ユーティリティは最初のバックアップ・ディスクセットを読んで、バックアップされたデータベース・ディレクトリーのパスを決定します。バックアップ・メディアがディスクで、そのディスクが、指定された入力ドライブ内で見つからない場合には、ユーティリティが呼び出し側へこの指示を返します。呼び出し側プログラムは、ユーザーに対して照会を行い、ユーザーからの応答を受け取ってユーティリティへ戻ります。

ユーティリティは呼び出し側からの応答を待ちます。

ユーザーの処置: ディスクセットの挿入をユーザーに促して、処理を継続するか終了するかを指示する *callerac* パラメーターを使用して、ユーティリティへ戻ってください。

SQL2505W 警告! データベース *name* がドライブ *drive* に存在します。このデータベースのファイルが削除されることになります。

説明: リストア中のデータベースがすでに存在する場合は、リストア処理が開始される前に、そのファイルが削除されます。ユーティリティは、この警告を呼び出し側に戻します。呼び出し側は、ユーザーに対して照会を行い、ユーザーからの応答を受け取ってユーティリティに戻ります。一度データベースがドロップされると、二度とアクセスできません。

ユーティリティは呼び出し側からの応答を待ちます。

ユーザーの処置: データベース・ファイルが削除されることをユーザーに警告し、処理を継続するか終了するかを指示する *callerac* パラメーターを使用してユーティリティへ戻ってください。

SQL2506W データベースはリストアされましたが、データベースに余分なファイルがある可能性があります。

説明: 変更部分のみバックアップが実行され、バックアップ間でデータベース・ファイルが削除されていた場合は、RESTORE ユーティリティが、それらの削除されたファイルをデータベースに追加します。入出力エラー、または内部的に停止したデータベースへの内部接続の失敗のために、リストア処理が余分なファイルを削除できませんでした。

ユーティリティは正常に終了します。

ユーザーの処置: データベースをそのまま使用するか、またはもう一度リストアしてください。RESTORE ユーティリティを再実行する前に、DB2 構成がリストアされたデータベース構成と互換であることを確認してください。

SQL2507W RESTORE ユーティリティが、データベースに正しくバインドされていません。

説明: RESTORE ユーティリティがデータベースにバインドされなかったか、またはデータベースにバインド・ユーティリティのパッケージが、インストールされているバージョンの DB2 と互換ではないために、すべてのユーティリティがデータベースに再バインドされました。ただし、インストールされているバージョンの DB2 とパッケージの間には、ユーティリティとバインド・ファイルが互換ではないという、タイム・スタンプの矛盾が存在しています。

データベースはリストアされていますが、ユーティリティが正しくバインドされていません。

ユーザーの処置: DB2 をインストールするかまたは最新の更新を再適用して、ユーティリティ・コマンドを再サブミットしてください。

SQL2508N データベース・リストアの *timestamp* パラメーター *timestamp* が無効です。

説明: NULL または有効なタイム・スタンプの一部、タイム・スタンプの完全なコンポーネントから構成される部分のいずれかが *timestamp* パラメーターに入っていない必要があります。

ユーザーの処置: 有効なタイム・スタンプの値を使用して、リストア操作を再サブミットしてください。

SQL2509N *database drive* パラメーターが無効です。

説明: 指定されたドライブが存在していないか、あるいはデータベースが指定されたドライブ上に存在しないか、または指定されたドライブにカタログされていません。RESTORE は *db2uexit* コマンドを使用して、データベースのリストアを実行する必要があります。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 有効なドライブを使用して、ユーティリティ・コマンドを再サブミットしてください。

SQL2510N オペレーティング・システムのセマフォール・エラーが発生しました。

説明: wait または post セマフォールで、エラーが発生しました。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーを停止して再始動し、ユーティリティ・コマンドを再サブミットしてください。

SQL2511N ユーティリティが、データベースのドロップ中に、エラー *error* を見つけました。

説明: ユーティリティがデータベースをドロップできませんでした。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージのエラー番号を調べてください。変更を行って、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2512N ユーティリティが、データベースの作成中に、エラー *error* を見つけました。

説明: ユーティリティがデータベースを作成できませんでした。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージのエラー番号を調べてください。変更を行って、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2513N ユーティリティが、データベースの名前変更中に、エラー *error* を見つけました。

説明: ユーティリティがデータベース名を変更できませんでした。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージのエラー番号を調べてください。変更を行って、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2514N **RESTORE** が正常に終了しませんでした。データベースのリストアに使用したバックアップには、インストールされているデータベース・マネージャーのバージョンと互換性のないリリース番号を持つデータベースが含まれています。

説明: リストアされたデータベースのリリース番号が、インストールされているバージョンのデータベース・マネージャーのリリース番号と互換性がありません。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーのリリース・レベルと互換性のあるバックアップを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2515N このユーザーにはデータベースに対して **RESTORE DATABASE** ユーティリティーを実行する権限がありません。

説明: ユーザーが SYSADM 権限を持たずに **RESTORE DATABASE** ユーティリティーを実行しようとしていました。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: **RESTORE DATABASE** コマンドを実行するための適切な許可を持っていることを確認してください。

SQL2516N ワークステーション上の少なくとも 1 つのデータベースが使用中なので、**RESTORE** ユーティリティーは完了できません。

説明: いくつかの状況においては、**RESTORE** ユーティリティーは、データベースに関連するディレクトリー名を変更することによって、データベースを異なったディレクトリーへ移動することができます。ただし、ワークステーション上の処理がデータベースを使用している場合には、上記の処理を行うことはできません。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: ワークステーション上のデータベースが使用中でなくなるまで待つて、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2517W データベースは正常にリストアされた後、現行リリースにアップグレードされました。しかし、データベース操作により、警告コードまたはエラー・コード *warn-err-code* およびランタイム・トークン *tokens* が戻されました。

説明: リストア・ユーティリティーを使用して、あるバージョンの DB2 データベースを新しいバージョンの DB2 データベースにアップグレードすることができます。アップグレードは、古いデータベース・マネージャー・インスタンスを新しいバージョンで再作成した後、古いインスタンスからのバックアップ・イメージを新しいインスタンスにリストアすることによって行えます。このシナリオでは、新しいデータベース・インスタンスにデータベースをリストアした後、リストア・ユーティリティーは自動的にアップグレード操作を実行します。このメッセージが戻されるのは、リストア・ユーティリティーが自動的に実行するアップグレード操作で警告またはエラーが戻されたときです。

ユーザーの処置: 以下のトラブルシューティング・ステップを実行して、このメッセージに対応します。

1. ランタイム・トークン *warn-err-code* にリストアされている警告コードまたはエラー・コードのテキストを確認します。
2. アップグレードされたデータベースにアクセスする前に、ランタイム・トークン *warn-err-code* にリストアされている警告コードまたはエラー・コードに応じて対処します。

RESTORE DATABASE コマンドを発行したユーザーには、データベースに対する DBADM 権限が与えられません。リストア前に他のユーザーが DBADM 権限を持っていた場合、SECADM 権限を持つユーザーと協力して、それらのユーザーに DBADM 権限を付与してください。

SQL2518N **RESTORE** が正常に終了しませんでした。データベース構成ファイルのリストア中に入出力エラーが発生しました。

説明: 入出力エラーのために、データベース構成ファイルがリストアできませんでした。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: 入出力エラーが修復可能かどうかを判別してください。コマンドを再サブミットしてください。

SQL2519N データベースがリストアされましたが、リストア後のデータベースは現行リリースにアップグレードされませんでした。エラー *sqlcode*、トークン *tokens* が戻されました。

説明: リストアに使用したデータベース・バックアップは、以前のリリースの DB2 データベース製品のものでした。データベース・ファイルがリストアされた後、そのデータベースを現行リリースにアップグレードしようとした。データベース・アップグレードは失敗しました。

データベースのリストアは完了しましたが、データベースはアップグレードされませんでした。

ユーザーの処置: 詳細については、戻された SQLCODE (メッセージ番号) を調べてください。データベースにアクセスする前に、必要な修正を行って、UPGRADE DATABASE コマンドを発行してください。

SQL2520W データベースがリストアされました。構成ファイルのバックアップ・バージョンが使用されました。

説明: データベースがリストアされるときに、現在のデータベース構成ファイルが、必ずしもそのバックアップ・バージョンで置き換えられるわけではありません。現在のデータベース構成ファイルは使用できませんでした。したがって、バックアップ・バージョンで置き換えられました。

ユーティリティは正常に完了しました。

ユーザーの処置: リストア処理の後で、データベース構成ファイルのいくつかの値が異なる可能性があります。その構成パラメーターが期待どおりの値に設定されているか調べてください。構成パラメーターが必要な値に設定されていることをチェックしてください。

SQL2521W データベースはリストアされましたが、*file-type* ファイルの削除中に入出力エラー *code* が発生しました。

説明: リストア処理は正常に実行されました。指定されたファイルは、入出力エラーのために削除されませんでした。

リストア処理が異常終了したかどうかを判別するには、拡張子が“.BRG”のファイルを使用します。このファイルは、リストア操作の対象であったデータベースのローカル・データベース・ディレクトリーに入っています。

拡張子“.BRI”のファイルは、増分 RESTORE 操作の進行状況に関する情報を保管します。このファイルは、リストア増分操作の対象となったデータベースのローカル・

データベース・ディレクトリーに入っています。

このファイルの名前は、データベース・トークンにファイル・タイプ拡張子を連結して作成されます。たとえば、データベース“SAMPLE”にデータベース・トークン“SQL00001”が割り当てられると、BRI ファイルには“instance/NODE0000/sqlbdir/SQL00001.BRI”という名前が付きまます。

ユーティリティは正常に完了しました。

ユーザーの処置: .BRG または .BRI ファイルを手動で削除してください。ファイルが削除できない場合は、技術サービス担当者に連絡してください。

SQL2522N バックアップされたデータベース・イメージに指定されたタイム・スタンプの値と一致するバックアップ・ファイルが、複数存在します。

説明: バックアップ・イメージ・ファイルのファイル名は、データベース別名とタイム・スタンプのコンポーネントで構成されています。ファイル名は、ソース・データベース別名と、Database Restore 呼び出しに指定されたタイム・スタンプ・パラメーターから作成されます。タイム・スタンプの部分が、複数のバックアップ・イメージのファイル名が見つかるように、指定されていた可能性があります。タイム・スタンプが指定されなかった場合、リストアでは暗黙的にどのバックアップ・イメージとも一致します。これは、複数のバックアップ・イメージがある場合に、1 つだけを一致させることが不可能であることを意味しています。

ユーザーの処置: 一致するバックアップ・ファイルが 1 つだけになるようにタイム・スタンプの各部分を指定してから、操作を再サブミットしてください。

SQL2523W 警告! 名前は一致していても、バックアップ・イメージのデータベースとは異なる既存のデータベースにリストアしようとしています。ターゲット・データベースは、バックアップ・バージョンによって上書きされます。ターゲット・データベースに関連したロールフォワード・リカバリー・ログは削除されます。

説明: ターゲット・データベースのデータベース別名と名前が、バックアップ・イメージ・データベースの別名と名前と同じです。データベース・シードが同じでないということは、データベースが同じでないことを示しています。ターゲット・データベースは、バックアップ・バージョンによって上書きされます。ターゲット・データベースに関連したロールフォワード・リカバリー・ログは削除されます。現在の構成ファイルは、バックアップ・バージョンで上書きされます。

ユーザーの処置: 処理の続行または終了を示す *callerac* パラメーターを指定して、ユーティリティに戻ってください。

SQL2524W 警告! 同じだと思われる既存のデータベースにリストアしようとしています。既存のデータベースの別名 *dbname* はバックアップ・イメージの別名 *dbname* に一致していません。ターゲット・データベースは、バックアップ・バージョンによって上書きされます。

説明: ターゲット・データベースとデータベース・イメージのシードは同じなので、これらは同じデータベースであることを示していますが、データベース名は同じですが、データベース別名が異なります。ターゲット・データベースは、バックアップ・バージョンによって上書きされます。

ユーザーの処置: 処理の続行または終了を示す *callerac* パラメーターを指定して、ユーティリティに戻ってください。

SQL2525W 警告! バックアップ・イメージのデータベースとは異なる既存のデータベースにリストアしようとしています。既存のデータベースの別名 *dbname* はバックアップ・イメージの別名 *dbname* に一致していませんが、データベース名は同じです。ターゲット・データベースは、バックアップ・バージョンによって上書きされます。ターゲット・データベースに関連したロールフォワード・リカバリー・ログは削除されます。

説明: ターゲット・データベースとデータベース・イメージの別名が異なり、データベース名が同じで、データベース・シードが同じではないので、これらは異なるデータベースであることを示しています。ターゲット・データベースは、バックアップ・バージョンによって上書きされます。ターゲット・データベースに関連したロールフォワード・リカバリー・ログは削除されます。現在の構成ファイルは、バックアップ・バージョンで上書きされます。

ユーザーの処置: 処理の続行または終了を示す *callerac* パラメーターを指定して、ユーティリティに戻ってください。

SQL2526W 警告! バックアップ・イメージ・データベースと同じ既存のデータベースにリストアしようとしています。別名は同じですが、既存のデータベースのデータベース名 *dbname* はバックアップ・イメージのデータベース名 *dbname* に一致していません。ターゲット・データベースは、バックアップ・バージョンによって上書きされます。

説明: ターゲット・データベースとデータベース・イメージのデータベース別名は同じで、データベース・シードも同じですが、データベース名が異なっています。これらは同じデータベースです。ターゲット・データベースは、バックアップ・バージョンによって上書きされます。

ユーザーの処置: 処理の続行または終了を示す *callerac* パラメーターを指定して、ユーティリティに戻ってください。

SQL2527W 警告! バックアップ・イメージ・データベースとは異なる既存のデータベースにリストアしようとしています。既存のデータベースのデータベース名 *dbname* はバックアップ・イメージのデータベース名 *dbname* に一致していませんが、別名は同じです。ターゲット・データベースは、バックアップ・バージョンによって上書きされます。ターゲット・データベースに関連したロールフォワード・リカバリー・ログは削除されます。

説明: ターゲット・データベースとデータベース・イメージの別名が同じで、データベース名が同じでなく、データベース・シードが同じではないので、これらは異なるデータベースであることを示しています。ターゲット・データベースは、バックアップ・バージョンによって上書きされます。ターゲット・データベースに関連したロールフォワード・リカバリー・ログは削除されません。現在の構成ファイルは、バックアップ・バージョンで上書きされます。

ユーザーの処置: 処理の続行または終了を示す *callerac* パラメーターを指定して、ユーティリティに戻ってください。

SQL2528W 警告! バックアップ・イメージ・データベースと同じ既存のデータベースにリストアしようとしています。既存のデータベースの別名 *dbname* は、バックアップ・イメージの別名 *dbname* に一致しておらず、また既存のデータベースのデータベース名 *dbname* はバックアップ・イメージのデータベース名 *dbname* に一致していません。ターゲット・データベースは、バックアップ・バージョンによって上書きされません。

説明: ターゲット・データベースとデータベース・イメージの別名が異なり、データベース名が異なり、データベース・シードが同じなので、これらは異なるデータベースであることを示しています。現在のデータベースは、バックアップ・バージョンによって上書きされます。

ユーザーの処置: 処理の続行または終了を示す *callerac* パラメーターを指定して、ユーティリティーに戻ってください。

SQL2529W 警告! バックアップ・イメージ・データベースとは異なる既存のデータベースにリストアしようとしています。既存のデータベースの別名 *dbname* はバックアップ・イメージの別名 *dbname* に一致しておらず、既存のデータベースのデータベース名 *dbname* はバックアップ・イメージのデータベース名 *dbname* に一致していません。ターゲット・データベースは、バックアップ・バージョンによって上書きされます。ターゲット・データベースに関連したロールフォワード・リカバリー・ログは削除されます。

説明: ターゲット・データベースとデータベース・イメージの別名が異なり、データベース名が異なり、データベース・シードが同じではないので、これらは異なるデータベースであることを示しています。現在のデータベースは、バックアップ・バージョンによって上書きされます。ターゲット・データベースに関連したロールフォワード・リカバリー・ログは削除されます。現在の構成ファイルは、バックアップ・バージョンで上書きされます。

ユーザーの処置: 処理の続行または終了を示す *callerac* パラメーターを指定して、ユーティリティーに戻ってください。

SQL2530N バックアップ・イメージが壊れています。このバックアップ・イメージからのデータベースのリストアは不可能です。

説明: リストア中のバックアップ・イメージは壊れていて、データベースのリストアを行うことはできません。

ユーザーの処置: このバックアップ・イメージは、使用できないため廃棄してください。可能であれば、前のバックアップからリストアしてください。

SQL2531N リストアのために選択されたバックアップ・イメージは、無効なデータベース・バックアップ・イメージです。

説明: リストアのために選択されたファイルは、有効なバックアップ・イメージではありません。選択されたファイルが壊れているか、またはバックアップ・テープが正しく位置付けられていません。

ユーザーの処置: 正しいバックアップ・イメージ・ファイルの位置を判別して、`Restore` コマンドを再サブミットしてください。

SQL2532N このバックアップ・ファイルには、タイム・スタンプ *timestamp* に取った、データベース *dbalias* のバックアップ・イメージが含まれています。これは、要求されたバックアップ・イメージではありません。

説明: リストアのために選択されたファイルが、要求されたバックアップ・イメージを含んでいません。イメージは、要求されたデータベースとは別のデータベースです。

ユーザーの処置: テープを使用している場合は、正しいテープが取り付けられていることを確認してください。リストアまたはロードをディスクから行なっている場合は、ファイル名を変更する必要があります。ファイルを、データベース名とタイム・スタンプに一致する正しいファイル名に変更してください。適切なアクションを取った後で、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2533W 警告! 装置 *device* のバックアップ・ファイルには、タイム・スタンプ *timestamp* に取られたデータベース *database* のイメージが含まれています。これは、要求されたバックアップ・イメージではありません。

説明: テープの位置から読み取られたバックアップ・イメージに、バックアップ・ファイルの最初のイメージのヘッダーと一致しないメディア・ヘッダーが入っています。

ユーザーの処置: テープが正しいバックアップ・ファイルに位置付けられていることを確認して、処理を続行するかどうかを示す *callerac* パラメーターを指定して、ユーティリティに戻ってください。

SQL2534W 警告! 装置 *device* のメディアが、有効なバックアップ・メディア・ヘッダーに置かれていません。

説明: テープ位置から読み取られたデータに、有効なバックアップ・メディア・ヘッダーが入っていません。

ユーザーの処置: テープが正しい位置に取り付けられていることを確認して、処理を続けるかどうかを示す *callerac* パラメーターを指定して、ユーティリティに戻ってください。

SQL2535W 警告! デバイス *device* のメディアの終わりに達しました。次のソース・メディアをマウントしてください。

説明: テープの終わりに到達し、処理されるべきデータがまだ残っています。バックアップまたはロード・ソースの残りが、他の 1 つ以上のテープに存在しています。

ユーザーの処置: ソース・イメージの入った次の順番のテープをマウントして、処理の続行または終了を示す *callerac* パラメーターを指定して、Restore または Load コマンドを再サブミットしてください。

SQL2536W 警告! 装置 *device* のバックアップ・イメージには、間違ったシーケンス番号が含まれています。正しいシーケンス番号は *number* です。

説明: テープが、順序の異なるバックアップ・イメージ・ファイルに位置付けられています。バックアップ・イメージの入ったテープは、バックアップ・イメージのシーケンス番号 *sequence* のファイルに位置付ける必要があります。

ユーザーの処置: バックアップ・イメージの入ったテープを正しいファイルに位置付け、処理の続行または終了を示す *callerac* パラメーターを指定して、Restore コマンドを再サブミットしてください。

SQL2537N リストア後のロールフォワードが必要です。

説明: リストアされたデータベースを使用できるようにするためのロールフォワードが必要ないことを示す *SQLUD_NOROLLFWD* が、データベース・リストア・ユーティリティの *rst_type* パラメーターに指定されました。リストアするデータベースはオンライン・モード

でバックアップされているか、または発行されたリストアが表スペース・レベルのリストアであった場合、データベースを使用できる状態にするには、ロールフォワード処理が必要です。

ユーザーの処置: *rst_type* パラメーターに *SQLUD_NOROLLFWD* を指定せずに、Database Restore コマンドを再サブミットしてください。

SQL2538N メディア *media* でバックアップ・イメージの予期しないファイルの終わりに達しました。

説明: バックアップ・イメージ・ファイルからの読み取りおよびリストアの実行中に、予期しないファイルの終わりに達しました。このバックアップ・イメージは使用できず、リストア操作は終了します。

ユーザーの処置: 使用できるバックアップ・イメージ・ファイルを使用して、Database Restore コマンドを再サブミットしてください。

SQL2539W 警告! バックアップ・イメージ・データベースと同じ既存データベースをリストアします。データベース・ファイルは削除されず。

説明: ターゲット・データベースとデータベース・イメージの別名、名前、シードが同じなので、これらは同一のデータベースであることを示しています。現在のデータベースは、バックアップ・バージョンによって上書きされます。

ユーザーの処置: 処理の続行または終了を示す *callerac* パラメーターを指定して、ユーティリティに戻ってください。

SQL2540W リストアは成功しましたが、非割り込みモードでデータベースをリストア中に、警告 *warn* が出されました。

説明: データベース・リストア・ユーティリティは非割り込みモードで (たとえば、WITHOUT PROMPTING を指定して) 呼び出されました。処理中に、1 つ以上の警告が見つかりましたが、その時点では戻されませんでした。リストアは正常に完了し、見つかった警告メッセージはこのメッセージの後で表示されます。

ユーザーの処置: この警告の原因が、処理結果に影響を及ぼしていないことを確認してください。

SQL2541W ユーティリティーは成功しましたが、バックアップ・イメージの入ったファイルをクローズできませんでした。

説明: ユーティリティーは成功しましたが、バックアップ・イメージの入ったファイルをクローズできません。

ユーザーの処置: バックアップ・イメージの入ったファイルのクローズを試みてください。

SQL2542N 指定されたソース・データベースの別名 *database-alias* とタイム・スタンプ *timestamp* に一致する、データベース・イメージ・ファイルがありません。

説明: バックアップ・イメージ・ファイルのファイル名は、データベース別名とタイム・スタンプのコンポーネントで構成されています。ファイル名は、ソース・データベース別名と、Database Restore 呼び出しに指定されたタイム・スタンプ・パラメーターから作成されます。指定されたソース・データベースの別名とタイム・スタンプに一致するファイル名が、ソース・ディレクトリーに存在しません。

以下の状態が適用される可能性があります。

1. バックアップへのパスがリストア・コマンドで誤って指定された。
2. バックアップ・イメージ、またはバックアップ・イメージがあるディレクトリーにアクセスする許可がない。
3. 自動増分リストア操作を実行しており、データベース履歴内のタイム・スタンプとロケーションに基づいて必要イメージが見つからなかった。
4. パーティション・データベース環境でデータベースをリストアしており、そのデータベースがもう存在せず、さらにリストアされる最初のデータベース・パーティションがカタログ・パーティションではない。
5. TSM メディアからリストアしようとしており、現在のインスタンスにより使用される TSM API クライアント構成はバックアップ・イメージにアクセスできない。

ユーザーの処置: 前述の状態に対応する適切な応答は以下のとおりです。

1. データベース・バックアップ・イメージが、メディア・ソースに存在することを確認してください。結果的に一致するバックアップ・イメージへの正しいパスおよび正しいタイム・スタンプを指定して、操作を再サブミットしてください。リストア・コマンドの使用についての詳細は、DB2 インフォメーション・センターで、"using restore database utility" などの語句を使用して検索してください。

2. バックアップ・イメージ、およびバックアップ・イメージがあるディレクトリーにアクセスする許可があることを確認してください。
3. データベース履歴を調べて対応するバックアップ項目を確かめてから、リストされているロケーションがバックアップ・イメージの実際のロケーションに一致することを確認してください。データベース履歴を更新して、結果が一致するように操作をやり直すか、または RESTORE INCREMENTAL ABORT コマンドを発行して、処理中に作成されたリソースをすべてクリーンアップしてください。
4. パーティション・データベースをリストアするときには、常にカタログ・パーティションを最初にリストアしてください。パーティション・データベース環境でのリストアについての詳細は、DB2 インフォメーション・センターで、"restore utility partitioned database" などの語句を使用して検索してください。
5. イメージを TSM から取得できるかを検査するには、db2adutl ユーティリティーに QUERY オプションを付けて使用します。別のサーバー上の別のインスタンスから取得したバックアップ・イメージをリストアする場合、オプション NODENAME、OWNER を必ず使用してください。またオプションで、バックアップ・イメージが最初にとられた TSM ノードの TSM 設定に対応する PASSWORD を使用してください。イメージを取得できることの確認が完了すると、同じオプションを RESTORE コマンドのオプション・ストリングに渡すことができます。db2adutl ユーティリティーについての詳細は、DB2 インフォメーション・センターで、"db2adutl" などの語句を使用して検索してください。

DB2 インフォメーション・センター:

<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2luw/v9>

SQL2543N データベースに指定されたターゲット・ディレクトリーが無効です。

説明: リストア・ユーティリティーを呼び出しているアプリケーションが、作成する新しいデータベースのターゲット・ディレクトリーを指定しました。このディレクトリーが存在しないか、またはデータベースの作成に有効なディレクトリーでないかのどちらかです。データベースの作成に無効なディレクトリーとは、長さが 215 文字を超えるディレクトリーです。

ユーザーの処置: 有効なターゲット・ディレクトリーを指定して、Backup または Restore コマンドを再発行してください。

SQL2544N データベースをリストアしているディレクトリーがフルになりました。

説明: データベースのリストア中に、リストア先のディレクトリーがフルになりました。リストアされるデータベースは使用できません。リストアは終了し、リストア中のデータベースが新しいデータベースの場合は、削除されます。

ユーザーの処置: リストアするデータベースのために十分なディレクトリーのスペースを解放して、Restore を再発行するか、または新しいデータベースにリストアする場合は、リストアするデータベースを含む十分なスペースがあるディレクトリーを指定してください。

SQL2545W 警告! TSM サーバー上のバックアップ・イメージは、取り付け可能なメディアに保管されています。使用できるようになるまでに必要な時間は不明です。

説明: バックアップ・イメージは、TSM サーバーによってすぐにはアクセスできません。リストア処理は続行可能で、サーバーにデータの取り出しを要求します。ただし、必要な時間は不明です。

ユーザーの処置: 処理の続行または終了を示す callerac パラメーターを指定して、ユーティリティーに戻ってください。

SQL2546N メディア *media* のイメージは、バックアップまたはコピーの順序の 1 番目ではありません。

説明: リストアまたはロード・リストア中は、バックアップまたはコピーの最初のイメージを、最初に処理する必要があります。メディアで見つかったイメージは、最初のイメージではありません。

ユーティリティーは、続行の応答を待ちます。

ユーザーの処置: 正しいバックアップまたはコピー・イメージを持つメディアを取り付けて、処理を続行または終了するべきであることを示す、正しい caller action パラメーターを指定して、ユーティリティーに戻ってください。

SQL2547N バックアップ・イメージが前のリリースで作成され、ロールフォワード・リカバリーが要求されているため、データベースはリストアされませんでした。

説明: 物理ログ・ファイル・フォーマットが、これらのリリースの間で、ロールフォワードを無効にするように変更されました。

ユーザーの処置: データベースの作成に使用したバージョン

の DB2 を使用して、データベースをリストアし、ログの最後までロールフォワードしてください。このときに、オフラインのフル・データベース・バックアップを取得してください。この新しいバックアップ・イメージは、新しいリリースの DB2 にリストアできません。

SQL2548N バックアップ・イメージ内に示されたデータベースのコード・ページ *code-page* は無効であるか、サポートされていません。リストア操作は失敗しました。

説明:

1. リストアしているバックアップ・イメージは、このサーバーに適用されているフィックスパック・レベルより新しいフィックスパック・レベルのサーバーで作成されている可能性があります。その場合、サポートされていない新しいコード・ページがこのイメージに含まれている可能性があります。
2. バックアップ・イメージは破壊されており、無効なコード・ページ情報が含まれています。

ユーザーの処置: 新しいフィックスパック・レベルが適用されているサーバーから、それよりフィックスパック・レベルの低いサーバーにイメージをリストアしようとする場合、そのコード・ページが両方のサーバーでサポートされていることを確認してください。あるいは、リストア先のサーバーに新しいフィックスパックを適用してください。

SQL2549N バックアップ・イメージのすべての表スペースがアクセス不能か、またはリストアする表スペース名のリストにある 1 つ以上の表スペース名が無効であるため、このデータベースはリストアされませんでした。

説明: バックアップ・イメージの表スペースにより使用されたコンテナが使用できないか既に使用中です。あるいは、リストア・コマンドのリストで指定された 1 つ以上の表スペース名がバックアップ・イメージに存在していません。

ユーザーの処置: リダイレクトされたリストアを使用してこのバックアップ・イメージの表スペースのコンテナを再定義するか、リストアする有効な表スペース名のリストを指定してください。転送操作中にこのエラーが発生する場合、失敗転送操作からの、ステージング・データベースによって既に使用されているコンテナが原因の可能性があります。これにより、これ以降の転送操作は、そのステージング・データベースにリストアするときに失敗するようになります。転送ステージング・データベースをドロップし、RESTORE DATABASE コマンドを再発行してください。

SQL2550N ノード *node1* のデータベース・バックアップをノード *node2* にリストアできません。

説明: リストアに対して使用されるバックアップ・イメージは、異なるノードからデータベースをバックアップします。同じノードでのみバックアップをリストアできます。

ユーザーの処置: ノードの正しいバックアップ・イメージがあることを確認し、要求を再度発行してください。

SQL2551N カタログ・ノード *node1* を伴うデータベースをカタログ・ノード *node2* を伴うデータベースにリストアできません。

説明: DB2 pureCluster 環境以外の環境では、カタログ・ノードは 1 つのノードにのみ存在できます。このメッセージは、バックアップ・イメージと、リストア先のノードの間に不一致がある場合に返されます。これは、次の場合発生します。

1. バックアップ・イメージはカタログ・ノード *node1* を指定し、リストアはカタログ・ノードがノード *node2* である既存のデータベースに試行しました。
2. リストアを新規データベースで試行して、カタログ・ノードは先にリストアされませんでした。

ユーザーの処置: 正しいバックアップ・イメージがリストアされていることを確認してください。

既存のデータベースにリストアしていて、カタログ・ノードを *node2* に変更する場合は、先に既存のデータベースをドロップする必要があります。

新規データベースにリストアしている場合は、カタログ・ノード *node1* を先にリストアしてください。

SQL2552N 無効な報告書ファイル名がリストア・コマンドに指定されました。

説明: 報告書のファイル名の長さは、許可される 255 の制限を超えました。

ユーザーの処置: 許可範囲内の長さの報告書のファイル名を指定して、リストア・コマンドを再サブミットしてください。

SQL2553I RECONCILE ユーティリティは正常に完了しました。

説明: ユーティリティは正常に完了しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL2554N RECONCILE ユーティリティは理由コード *reason-code* で失敗しました。
component に問題がある可能性があります。

説明: 可能性のある理由コードは、以下のとおりです。

- 1 DB2 Data Links Manager への接続が不明である。
- 2 表または DATALINK 列が DB2 Data Links Manager で定義されていない。
- 3 DB2 Data Links Manager が停止されている可能性があります。
- 4 入出力問題。
- 5 例外表に、ファイル・リンク制御で定義されているデータ・リンク列が入っている。
- 6 表が“データ・リンク調整不可能”状態である。
- 7 例外表は、型付き表での調整には許可されていない。
- 8 ALTER TABLE が、表を“データ・リンク調整ペンディング”または“データ・リンク調整不可能”状態にすることができなかったか、あるいは“データ・リンク調整ペンディング”または“データ・リンク調整不可能”状態から解除することができなかった。
- 9 データ・リンク・サポートがオンになっていない。
- 10 表は、SET INTEGRITY ペンディング状態です。
- 11 例外の処理中に、必要な DB2 Data Links Manager が使用できなかった。表がデータ・リンク調整ペンディング中の状態である。
- 12 調整処理を割り当てられた時間枠内に DB2 Data Links Manager で完了できませんでした。詳細については管理通知ログをチェックしてください。
- 13 一定の時間、進行がなかったため、調整処理は終了しました。

ユーザーの処置: 可能な解決方法:

- 1 DB2 Data Links Manager が稼働中で、ADD DATALINKS MANAGER コマンドによってデータベースに登録されていることを確認してください。データベースの接続を試行して、DB2 Data Links Manager で該当する接続が確立したことを確認してください。
- 2 表が DB2 Data Links Manager に存在していないようです。調整するものはありません。

- 3 DB2 Data Links Manager が停止されている可能性があります。DB2 Data Links Manager の開始を試みてください。
- 4 レポート・ファイルのファイル許可および十分なスペースがあることを確認してください。DLREPORT パラメーターには完全修飾パスが必要です。調整される表が損傷を受けていないことを確認してください。
- 5 例外表のデータ・リンク列をすべて“NO LINK CONTROL”として再定義してください。
- 6 SET INTEGRITY ステートメントを使用して、表をデータ・リンク調整不可能状態から解除してください。RECONCILE ユーティリティを繰り返してください。
- 7 例外表を指定しないでください。
- 8 SET INTEGRITY コマンドを使用して、表を“データ・リンク調整ペンディング”状態にするか、あるいは“データ・リンク調整ペンディング”または“データ・リンク調整不可能”状態をリセットするよう試みてください。
- 9 データベース・マネージャー構成パラメーター DATALINKS の値が NO に設定されています。RECONCILE を使用するには、パラメーター DATALINKS の値を YES に設定しなければなりません。
- 10 表で調整を実行するためには、その表が SET INTEGRITY ペンディング状態であってはなりません。SET INTEGRITY ペンディング状態を除去するには、SET INTEGRITY コマンドを使用します。
- 11 もう一度調整を実行します。
- 12 reconcile コマンドが、DB2 Data Links Manager からの検査を待機中にタイムアウトになりました。reconcile コマンドを再試行してください。
- 13 調整コマンドを再サブミットしてください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

SQL255I データベースがリストアされた後、**RESTORE DATABASE** コマンドの発行元である現行の DB2 リリースに正常にアップグレードされました。

説明: データベースのリストアに使用したバックアップは、以前の DB2 リリースのものです。データベースがリストアされた後、RESTORE DATABASE コマンドが

発行された場所の DB2 リリースにアップグレードされました。

RESTORE DATABASE コマンドを発行したユーザーには、データベースに対する DBADM 権限が与えられません。リストア前に他のユーザーが DBADM 権限を持っていた場合、(SECADM 権限を持つ) セキュリティ管理者はこれらのユーザーに DBADM 許可を付与する必要があります。

RESTORE DATABASE コマンドが正常に完了しました。さらに、データベース・リストア後に自動的に発行された **UPGRADE DATABASE** コマンドも正常に完了しました。

ユーザーの処置: データベースをアップグレードした後に必要なアップグレード後タスクの詳細については、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

SQL2560N ターゲット・データベースがソース・データベースと同一でないため、表スペースのリストア操作が失敗しました。

説明: RESTORE DATABASE コマンドまたは db2Restore API を使用して、データベースまたはデータベース内の 1 つ以上の表スペースをバックアップ・イメージからターゲット・データベースにリストアできます。

表スペース・レベルのバックアップからリストア操作を実行するには、満たさなければならない条件がいくつかあります。例えば、リストア操作が指定されているターゲット・データベースは、以下のいずれかの条件を満たしている必要があります。

- 指定されたターゲット・データベースは、バックアップ・イメージ取得元のデータベースである。
- 指定されたターゲット・データベースは存在せず、リストア・コマンドまたは API 呼び出しで再作成オプションが指定されている。

バックアップ・イメージの作成元のデータベースでも新規作成されたデータベースでもないターゲット・データベースに対してデータベース・リストア操作または表スペース・レベルのリストア操作を実行しようとすると、このメッセージが返されます。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの方法で、このエラーに対応します。

- ターゲット・データベースとしてバックアップ・イメージ取得元のデータベースを指定してリストア操作を再実行します。

- 再作成オプションを使用し、存在していないターゲット・データベースを指定して、リストア操作を再実行します。

SQL2561W 警告! 表スペース・イメージからデータベースの再ビルド中であるか、または表スペースのサブセットの使用中です。ターゲット・データベースは上書きされます。リストア・ユーティリティーは次の **sqlcode** *sqlcode* もレポートします。

説明: RESTORE ユーティリティーが、REBUILD オプションを指定して発行され、リストアする表スペース・イメージ、またはバックアップ・イメージからリストアする表スペースのリストを指定しました。まだデータベースが存在していない場合は、リストアに使用できる表スペースおよびイメージ内の属性と同じデータベース属性を使用してデータベースが作成されます。データベースがすでに存在する場合、リストアに使用できる表スペースを使用し、この警告とともに戻される **sqlcode** に基づいて、データベースは上書きされます。

表スペースのサブセットをリカバリー不能なデータベースからリストアする場合、完全なデータベース・リストアを実行しない限り、リストアに含まれていない表スペースをリカバリーすることは決してできません。

ユーザーの処置: 処理の続行または終了を示す *callerac* パラメーターを指定して、ユーティリティーに戻ってください。

SQL2563W リストア処理は正常に完了しましたが、1 つ以上の表スペースがバックアップからリストアされませんでした。

説明: リストア処理は正常に完了しました。以下の理由から、バックアップ内の 1 つ以上の表スペースがリストアされません。

- 表スペースのコンテナにアクセス中にエラーが発生しました。バックアップが取られた後で、表スペースがドロップされている場合、アクションは不要です。
- バックアップの表スペースのサブセットのみをリストアするためにリストア・コマンドが表スペースのリストで呼び出されました。アクションは不要です。

ユーザーの処置: このメッセージがサブセット・リストアにより発生したものでない場合、表スペースの照会関数を使用して、表スペースの状態をチェックしてください。表スペースが「ストレージ定義ペンディング」状態の場合は、リストアが正常に完了するように、その表スペースのストレージ定義を訂正する必要があります。表スペースの回復の詳細については、「管理ガイド」を参照してください。

SQL2565N RESTORE に指定されたオプションは、提供されたバックアップ・イメージでは使用できません。

説明: バックアップ・イメージに含まれているデータベースが、既存のデータベースで、リストアされるデータベースと一致しません。リストアに指定したオプションでは、リストアされるデータベースが新規であるか、またはバックアップ・イメージのデータベースと同じであることが要求されます。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: 正しいデータベース名を指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2566W リストア処理は正常に完了しましたが、1 つ以上の表スペースで表が DRP/DRNP 状態になっています。詳細については **db2diag** ログ・ファイルを調べてください。

説明: 以下のいずれかの理由のため、1 つ以上の表スペースには、「データ・リンク調整ペンディング (DRP)」または「データ・リンク調整不可能 (DRNP)」に表があります。

- バックアップ・イメージと異なるデータベース名、別名、ホスト名、またはインスタンスを持つデータベースにリストアしている。このリストアの後にロールフォワードが行われない場合、DATALINK 列を持つ表はすべて、DRNP 状態に置かれます。
- WITHOUT DATALINK オプションを指定してリストアが行われ、このリストアのあとにロールフォワードが行われない。DATALINK 列を指定した表は DRP 状態となります。
- 使用できない状態になったバックアップ・イメージからリストアしている。このリストアの後にロールフォワードが行われない場合、DATALINK 列を持つ表はすべて、DRNP 状態に置かれます。
- DATALINK 列情報が DB2 Data Links Manager に存在していない。影響を受ける表は DRNP 状態になります。
- DB2 Data Links Manager でファイルの再リンクを試行中、高速調整を伴うリストアが失敗した。影響を受ける表は DRNP 状態になります。

ユーザーの処置: 管理通知ログで、どの表が DRP/DRNP 状態に書き込まれているかを確認してください。DRP/DRNP 状態になっている表の調整についての情報は、管理ガイドを参照してください。

SQL2570N オペレーティング・システムの非互換性またはリストア・コマンドの不正確な仕様のために、ソース OS *source-OS* 上で作成されたバックアップからのターゲット OS *target-OS* へのリストアの試行は失敗しました。理由コード: *reason-code*

説明: 可能性のある理由コードは、以下のとおりです。

- 1 *target-OS* および *source-OS* は互換性のあるシステムではありません。
- 2 圧縮されたバックアップのクロスプラットフォーム・リストアを試行しましたが、圧縮解除ライブラリーは指定されませんでした。デフォルトでは、*source-OS* にあるバックアップ・イメージのライブラリーが使用されます。このライブラリーは *target-OS* でのリストアには適していません。
- 3 圧縮ライブラリーのみでのリストアが試行されたのは *target-OS* 上で、これはバックアップがとられたオペレーティング・システム (*source-OS*) とは異なります。

ユーザーの処置: 各理由コードにおける応答は、以下のとおりです。

- 1 この特定のバックアップ・イメージを使用するには、そのバックアップがとられたオペレーティング・システムとリストア互換性があるシステムにリストアしてください。あるタイプのオペレーティング・システムから別のオペレーティング・システムにデータベースを移動するには、db2move ユーティリティーを使用してください。互いにリストア互換性があるプラットフォームの詳細および db2move ユーティリティーの詳細については、DB2 インフォメーション・センター (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2luw/v9>) で、"cross-platform backup and restore"、"using different operating systems" などの語句を使用して検索してください。
- 2 *target-os* 用にコンパイルされた圧縮解除ライブラリーを指定して、リストア操作を再試行してください。たとえば、db2 restore db sample comprlib libdb2compr.a とします。
- 3 圧縮ライブラリーを使用できないオペレーティング・システムで圧縮ライブラリーをリストアしないでください。

SQL2571N 自動リストアを続行できません。理由コード: *reason-code*

説明: 自動リストア処理中にエラーが検出されました。このエラーは、増分リストアまたはデータベースの再ビルド中に、表スペース・イメージからまたはデータベース・イメージ内の表スペースのサブセットから発生しました。ユーティリティーは予定通り完了できませんでした。ユーティリティーは処理を停止します。

増分リストアの場合、このエラーは初期定義がリストアされた後に返され、必要な増分リストア・セットの処理は正常に完了できません。

再ビルドの場合、このエラーは初期ターゲット・イメージがリストアされた後に返され、残りの必要なリストア・セットの処理は正常に完了できません。

以下のいずれかが、エラーの原因と思われます。

- 1 指定したタイム・スタンプに対応するバックアップ・イメージがデータベース履歴に見つかりません。
- 2 リストアする表スペースを判別しようとしたときにエラーが発生しました。
- 3 必要なバックアップ・イメージがデータベース履歴に見つかりません。
- 4 対象とした増分再ビルドに、間違った再ビルド・タイプが指定されました。
- 5 単なる一時的な表スペースを自動的にリストアすることはできません。

ユーザーの処置: これが増分リストアまたは増分再ビルドである場合は、RESTORE INCREMENTAL ABORT コマンドを発行して、処理中に作成された可能性のあるリソースをすべてクリーンアップしてください。手操作による増分リストアを実行して、このバックアップ・イメージからデータベースをリストアしてください。

これが非増分再ビルドである場合は、必要であれば、意図どおりにデータベースを再ビルドするために必要な残りのイメージに対して表スペース・リストアを発行して、再ビルドを完了してください。追加情報については、DB2 診断ログを参照してください。

SQL2572N 順序に従わないイメージの増分リストアを行おうとしました。タイム・スタンプ *timestamp-value* のバックアップ・イメージが、リストアが試行されたイメージの前にリストアされていなければならないため、表スペース *tablespace-name* にエラーが発生しました。

説明: 増分バックアップの方法で生成されたイメージを

リストアする場合、次の順序でイメージをリストアしてください。

1. データベースをリストアする増分を DB2 に指示するため、まず最終イメージをリストアします。
2. 増分イメージのセットの前に、データベースまたは表スペースのイメージを完全にリストアします。
3. 増分および差分のイメージのセットを、これらが生成された日時順にリストアします。
4. 最終イメージをもう一度リストアします。

バックアップ・イメージの各表スペースは、失敗したバックアップ・イメージを正常にリストアする前にリストアする必要のあるバックアップ・イメージを認識しています。このメッセージを呼び出したイメージを正常にリストアする前に、このメッセージで報告されたタイム・スタンプでイメージをリストアする必要があります。示されたイメージの前に、リストアする追加のイメージがあったかもしれませんが、これがエラーに遭遇した最初の表スペースでした。

ユーザーの処置: 増分バックアップ・イメージのセットの順序が正しいことを確認し、増分リストア処理を続行してください。

SQL2573N 増分バックアップ・イメージは増分 RESTORE 操作の一部としてリストアする必要があります。

説明: 増分バックアップ・イメージを使用して RESTORE 操作を行おうとしました。増分バックアップ自体をリストアすることはできません。これは増分 RESTORE 操作の一部としてのみリストアできます。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: このバックアップ・イメージをリストアするには、INCREMENTAL 修飾子を使用して RESTORE コマンドを再発行してください。非増分 RESTORE 操作を実行するには、非増分バックアップ・イメージを指定してください。

SQL2574N 増分 RESTORE 操作の一部としてリストアされるバックアップ・イメージに、ターゲット・イメージより新しいものを指定することはできません。

説明: ターゲット・イメージは増分 RESTORE 操作の一部として最初にリストアされるイメージです。このイメージには、表スペース定義その他、リストア中のデータベースの制御構造が入っています。RESTORE ユーティリティは、データベースを破壊する恐れがあるため、増分 RESTORE 操作中にターゲット・イメージより新しいイメージをリストアすることはできません。

増分 RESTORE 操作は、ターゲット・イメージより新しいタイム・スタンプを持つバックアップ・イメージをリストアしようとしたために失敗しました。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: ターゲット・イメージより古いタイム・スタンプを持つバックアップ・イメージを指定して、コマンドを再発行してください。

SQL2575N 指定した増分バックアップ・イメージのタイム・スタンプが、表スペース *tablespace-number* についてリストアされた最後のイメージのタイム・スタンプより古くなっています。最後のバックアップ・イメージのタイム・スタンプは *timestamp* です。

説明: 増分 RESTORE 操作を実行するには、バックアップ・イメージは各表スペースについて、最も古いものから最も新しいものへと日時順にリストアしなければなりません。増分 RESTORE 操作が、指定した表スペースについてリストアされた前のイメージのタイム・スタンプより古いタイム・スタンプを持つバックアップ・イメージを指定していました。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 表スペースについてリストアされた最後のイメージのタイム・スタンプより新しいタイム・スタンプを持つバックアップ・イメージを指定して、コマンドを再発行してください。

SQL2576N 表スペース *tablespace-name* を増分 RESTORE 操作の一部としてリストア中ですが、RESTORE コマンドに INCREMENTAL 節が指定されていません。

説明: 増分的に表スペースをリストアするには、各 RESTORE コマンドが INCREMENTAL 節を指定していなければなりません。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: INCREMENTAL 節を指定して、RESTORE コマンドを再発行してください。

SQL2577N バックアップの圧縮解除用ライブラリーが見つかりません。

説明: リストアされているイメージは圧縮されたバックアップですが、圧縮解除ライブラリーが指定されておらず、イメージにライブラリーも見つかりません。

RESTORE ユーティリティには、バックアップを圧縮解除するプラグイン・ライブラリーが必要です。このラ

イブラリーは、通常はバックアップ・イメージ自身に保管されていますが、この場合、バックアップの作成者がライブラリーを除外しています。ライブラリー名は、RESTORE ユーティリティのパラメーターとしても指定されます。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: イメージのデータ圧縮解除ができるライブラリー名を指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2578N 指定されたオブジェクトがバックアップ・イメージで見つかりませんでした。

説明: リストアされる要求のある特定オブジェクトはバックアップ・イメージに存在しません。

RESTORE ユーティリティが、バックアップ・イメージから単一オブジェクトをリストアしようとしていました。このタイプのオブジェクトは、バックアップ・イメージに存在しません。

バックアップ履歴ファイルおよび圧縮解除ライブラリーは、個々にリストアできるオブジェクトです。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 該当するオブジェクトを含むバックアップ・イメージを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2580W 警告! 既存のログ・ファイルが含まれているパスにログをリストアしようとしています。リストア中に既存のログ・ファイルを上書きしようとする、リストア操作は失敗します。

説明: 指定されたログ・ターゲット・パスには、ログ・ファイル名の形式に適合する名前のファイルが少なくとも 1 個含まれています。後でリストア操作において同じ名前のログ・ファイルを抽出しようとする、このことが原因でリストアが失敗することになります。

ユーザーの処置: ログ・ターゲット・パスから既存のログ・ファイルを削除するか、またはログ・ターゲットに存在するファイルが、このバックアップ・イメージから抽出されるどのログのファイル名とも一致しないようにしてください。その後、リストア処理を継続するか終了するかを示す `callerac` パラメーターを指定して、ユーティリティを戻します。

SQL2581N リストア処理において、指定されたパスにバックアップ・イメージからログ・ファイルを抽出できません (またはログ・ディレクトリーをリストアできません)。理由コード `rc`。

説明: バックアップ・イメージからログ・ファイルの抽出を試行中に、エラーが発生しました。これは以下のいずれかの理由による可能性があります。

- 1 バックアップ・イメージにログは含まれていません。
- 2 指定されたログ・ターゲット・パスはまったくまたは無効であった可能性があります。
- 3 バックアップ・イメージ中のログ・ファイル名が、ログ・ターゲット・パスに既に存在するログ・ファイルと一致する場合があります。
- 4 ファイルの書き込みを試行中に入出力エラーが発生しました。
- 5 ディスク上の 1 次ログ・ディレクトリーには、リストア時に破棄されるログ・ファイルが含まれています。
- 6 ディスク上のミラー・ログ・ディレクトリーには、リストア時に破棄されるログ・ファイルが含まれています。

ユーザーの処置:

- 1 バックアップ・イメージにリストアするログ・ファイルが含まれていることを確認してください。含まれていない場合は、コマンドに `LOGTARGET` パラメーターを指定せずに再サブミットしてください。
- 2 指定された `LOGTARGET` パスが有効であること、およびバックアップ・イメージから抽出するすべてのログ・ファイルが入るだけの十分なスペースがあることを確認してください。コマンドを再サブミットしてください。
- 3 ログ・ターゲット・パスの中に、リストアするバックアップ・イメージ中のログ・ファイルと同じ名前のログ・ファイルが存在しないことを確認してください。コマンドを再サブミットしてください。
- 4 追加情報については、DB2 診断ログを参照してください。問題の解決を試みて、コマンドを再サブミットしてください。

5 または 6

- 以下のいずれか 1 つを行うことができます。
- ログ・ファイルをアーカイブできるようにするために、1 次ログ・ディレクトリーから手

動でログ・ファイルをコピーまたは移動します。その後、RESTORE DATABASE コマンドを再び呼び出します。

- LOGTARGET パラメーターとともに、INCLUDE FORCE パラメーターまたは EXCLUDE FORCE パラメーターのいずれかを使用して、RESTORE DATABASE コマンドを再び呼び出します。

SQL2582W 警告! 表スペース・イメージからまたは表スペースのサブセットを使用して、データベースを再ビルドする新規要求が検出されました。この要求は、現在進行中の再ビルドを異常終了し、このバックアップ・イメージを使用して新規再ビルドを開始します。ターゲット・データベースは上書きされます。

説明: RESTORE ユーティリティに REBUILD オプションを指定して発行されましたが、データベースの再ビルドがすでに進行中であることが検出されました。この操作が実行されることがあれば、現在進行中の再ビルドを異常終了し、このバックアップ・イメージをターゲットとして使用して新規再ビルドを開始することになります。データベースは上書きされます。

それ以後データベースの再ビルド・フェーズ中に発行するコマンドには、REBUILD オプションを指定しないでください。

ユーザーの処置: 処理の続行または終了を示す callerac パラメーターを指定して、ユーティリティに戻ってください。

SQL2583N 直前の増分リストアがまだ進行中であるため、意図されたリストア・コマンドは処理できません。

説明: RESTORE ユーティリティは、直前の増分リストア操作が完了していないことを検出しました。意図されたリストア・コマンドは、直前の増分リストアの一部分ではなく、直前の増分リストアが異常終了されない場合は処理されません。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: INCREMENTAL ABORT オプションを指定してリストアを発行してから、意図したリストア・コマンドを再発行してください。

SQL2584N スナップショット・リストアが失敗しました。理由: ログ・ディレクトリーをリストアする必要があるにもかかわらず、有効な LOGTARGET が指定されていません。

説明: スナップショット・バックアップを使用すれば、DB2 データベースのバックアップおよびリストア操作において、データ・コピーと移動に高速なコピー・テクノロジーを利用できます。

スナップショット・バックアップ・イメージは全体としてリストアされる必要があります。このため、スナップショット・バックアップ・イメージ内にデータベース・ログが存在する場合、これらもまた、イメージの残りの部分とともにリストアされなければなりません。

リストア対象のスナップショット・バックアップ・イメージ内にデータベース・ログがあるため、イメージの残りの部分とともにこれらをリストアする必要があります。しかし、指定されたログ・ディレクトリーのパスには、リストア対象のデータベースによって使用される他のパスまたはストレージ・デバイスと共通のパスまたはストレージ・デバイスが含まれています。

ログ・ディレクトリーのパスに、他のデータベース・パスやストレージ・デバイスと共通のパスやストレージ・デバイスが含まれることは、それほど珍しいことではありません。例えば、DB2 データベースの作成時には、デフォルトでメイン・データベース・ディレクトリーの下にログ・ディレクトリーが作成されます。ログ・パスに他のデータベース・パスやストレージ・デバイスと共通のパスまたはストレージ・デバイスが含まれる場合には、LOGTARGET パラメーターを使ってログ・ディレクトリーのターゲット・ロケーションを指定するのでない限り、スナップショット・リストアでログ・ディレクトリーをリストアすることはできません。

LOGTARGET が指定されていないか、無効な LOGTARGET が指定されているため、スナップショット・リストアが失敗しました。

ユーザーの処置: LOGTARGET パラメーターを使って RESTORE コマンドを再サブミットしてください。

SQL2585N 選択されたバックアップ・イメージは、データベース dbalias、タイム・スタンプ timestamp、元のインスタンス instance-name に関するものです。このバックアップ・イメージを現在のインスタンスにリストアできません。

説明: リストア対象として選択されたバックアップ・イメージは、現在のインスタンスと一致しないインスタンスに基づいています。

スナップショット・バックアップ・イメージは、元のインスタンスと同じ名前のインスタンスにのみリストアできます。

ユーザーの処置: 現在のインスタンスで使用できるスナップショット・バックアップ・イメージを見つけるに

は、db2acsutil ユーティリティを使用します。

特定のスナップショット・バックアップ・イメージをリストアするには、次のようにします。

1. このスナップショット・バックアップ・イメージが作成された元のインスタンスに移動します。
2. コマンドを再サブミットしてください。

SQL2590N スキーマ転送エラーが発生したため、要求された RESTORE 操作を完了できません。理由コード: rc。

説明: データベース・バックアップ・イメージからターゲット・データベースに表スペースおよびスキーマを転送するために、TRANSPORT オプションを指定して RESTORE DATABASE コマンドを使用した際に、エラーが発生しました。以下の理由コードは、エラーを示します。

- 1
転送されている表スペースおよびスキーマのリストは、有効な転送可能セットではありません。
- 2
転送されている表スペースおよびスキーマには、スキーマ転送をサポートしていないデータ・タイプの列を持つ表が含まれています。
- 3
表スペースまたはスキーマが既にターゲット・データベースに存在しています。
- 4
転送されている表スペースおよびスキーマのリストに、システム・カタログが含まれていません。システム・カタログは転送できません。
- 5
デフォルトのステージング・データベースはすべて使用中です。
- 6
ロード・コピー・リカバリーを解決するために、ロールフォワードでユーザーの対話を必要とします。
- 7
バックアップ・イメージには SYSCATSPACE 表スペースが含まれている必要があります。
- 8

転送は、パーティション・データベース環境と DB2 pureCluster 環境ではサポートされません。

- 10
ターゲット・データベースで LSN を大きくしようとして失敗しました。
- 12
他の転送のセッションが既に進行中であるため、スキーマ転送の表スペース ID を予約できません。
- 13
表スペースがスキーマ転送用に予約されているため、ストレージ・パスはドロップされます。
- 14
ステージング・データベースの作成時に警告が発生しました。
- 15
表スペースの転送中にターゲット・データベースでエラーが発生しました。
- 16
表スペースの転送中にステージング・データベースでエラーが発生しました。
- 17
表スペース ID のマッピングが解決されないか、妥当性検査されないため、スキーマの転送が停止しました。以下のいずれかの状態でエラーが発生しました。
 - ステージング・データベースとターゲット・データベースの間で表スペース ID をマップしている。
 - クライアントによって提供された表スペース ID をサーバーのメモリーに対して妥当性検査している。
 - マップされた表スペースが無効である。
- 18
ソース・データベースまたはステージング・データベースとターゲット・データベースとの互換性の妥当性検査時にエラーが発生しました。
- 19
ターゲット・データベースで転送可能セットの一部の DDL オブジェクトを作成できません。
- 20

指定されたバックアップ・イメージは、オンライン・バックアップ操作を使用して作成されましたが、RESTORE コマンドで LOGTARGET パラメーターが指定されませんでした。

21

転送されている表スペースおよびスキーマには、スキーマ転送をサポートしていない範囲パーティション表が含まれています。

ユーザーの処置: 理由コードに基づいて、以下のいずれかのアクションを行ってください。

1

スキーマ・リストに存在するすべてのオブジェクトが表スペース・リストに含まれるように(およびその逆も同じになるように)してください。失敗オブジェクトについては、db2diag ログ・ファイルを参照してください。

2

以下のステップを実行して、理由コード 2 に対応してください。

1. db2diag ログ・ファイルの診断の詳細を確認して、スキーマ転送をサポートしていないデータ・タイプとして定義された列を識別します。
2. 次のいずれかのアクションを実行して、スキーマ転送がサポートされていない列を除去します。
 - サポートされていないデータ・タイプの列をドロップします。
 - サポートされていないデータ・タイプの列を含む表をドロップします。
 - 転送するスキーマのリストからサポートされていない列を含む表スペースおよびスペースを除去します。
3. リストア操作を再び実行します。

3

以下のいずれかのアクションを実行して表スペースまたはスキーマとの競合を解決し、RESTORE DATABASE コマンドを再発行してください。

- ターゲット・データベース上で、競合が生じている表スペースをドロップまたは名前変更する。
- ソース・データベースから表スペースをドロップまたは名前変更し、別のバックアップ・イメージを作成する。

- 問題の表スペースおよびスキーマを転送可能セットから除外する。表スペースおよびスキーマを除去する際、残りの表スペースおよびスキーマは有効な転送可能セットを定義していることを確認する必要があります。

4

表スペース・リストからシステム表スペースを除去し、RESTORE DATABASE コマンドを再発行してください。

5

RESTORE DATABASE コマンドを再発行する際、STAGE IN オプションを使用して非デフォルトのステージング・データベース名を指定するか、他の転送がデフォルトのステージング・データベース名の解放を完了するのを待つことができます。

6

ロールフォワード・ログにロード・コピー・リカバリー操作が含まれないようにしてください。

7

SYSCATSPACE 表スペースをバックアップ・イメージに追加してください。

8

データベースが、パーティション・データベース環境または DB2 pureCluster 環境として構成されていない単一ノード・データベースとなるようにしてください。

10

ターゲット・データベースで LSN を大きくしようとしたときに発生したエラーについて、db2diag.log を確認してください。

12

ターゲット・データベースに対する並行転送操作はサポートされていません。既存のスキーマ転送が完了するまで待った後、RESTORE DATABASE コマンドを再発行してください。

13

スキーマの転送が完了するまで待った後、ストレージ・パスを変更する操作を再実行してください。ターゲット・データベースへの接続をクリーンアップし、ステージング・データベースをドロップしてください。RESTORE DATABASE コマンドを再発行してください。

14

ステージング・データベースの作成中のエラーについて、db2diag.log を確認してください。エラーを解決し、ステージング・データベースをドロップした後、RESTORE DATABASE コマンドを再発行してください。

15

ターゲット・データベースでのエラーについて、db2diag.log を確認してください。エラーを解決し、ステージング・データベースをドロップした後、RESTORE DATABASE コマンドを再発行してください。

16

ステージング・データベースでのエラーについて、db2diag.log を確認してください。エラーを解決し、ステージング・データベースをドロップした後、RESTORE DATABASE コマンドを再発行してください。

17

転送可能セット外の表スペースとの従属関係を持つオブジェクトが転送可能セットに含まれないようにしてください。例えば、転送可能セット内のオブジェクトは、転送可能セットに含まれていない別の表スペースで定義された索引を持つことができません。エラーの原因に関する詳細について、db2diag.log を確認してください。エラーを解決し、ステージング・データベースをドロップした後、RESTORE DATABASE コマンドを再発行してください。

18

以下の設定は、転送操作でサポートされていません。

- 自動ストレージが有効になっているバックアップ・イメージから自動ストレージが有効になっていないターゲット・データベース。
- データベース構成がそれぞれ異なるバックアップ・イメージからターゲット・データベース。以下のデータベース構成パラメーターは同じでなければなりません。
 - データベース・テリトリ
 - コード・ページ、コード・セット
 - 国/地域コード
 - 照合シーケンスおよび代替照合シーケンス

エラーの原因に関する詳細について、db2diag.log を確認してください。エラーを解決し、RESTORE DATABASE コマンドを再発行してください。

19

一部のオブジェクトが無効であるか、一部の従属関係が存在していない可能性があります。エラーの原因に関する詳細について、db2diag.log を確認してください。エラーを解決し、RESTORE DATABASE コマンドを再発行してください。

20

LOGTARGET パラメーターを指定して、RESTORE コマンドを再び呼び出します。

21

以下のステップを実行して、理由コード 21 に対応してください。

1. db2diag ログ・ファイルの診断の詳細を確認して、範囲パーティション表を識別します。
2. 次のいずれかのアクションを実行して、範囲パーティション表を除去します。
 - 範囲パーティション表をドロップします。
 - 転送する表スペースのリストから範囲パーティション表を含む表スペースを除去します。
3. リストア操作を再び実行します。

SQL2600W 許可ブロックへの入力パラメーター・ポインターが無効か、またはブロック・サイズが正しくありません。

説明: 許可構造パラメーターへのポインターが NULL か、許可構造へのポインターが「構造の長さ」フィールドに指定された長さより小さい領域を指しているか、または「許可構造の長さ」フィールドが正しい値にセットされていません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 入力パラメーターの値を訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL2650N 無効なパラメーター *parameter_name* が *API-name read log API* に渡されました。
理由コード = *reason-code*。

説明: 無効なパラメーターが、read log API に渡されました。可能性のある理由コードは、以下のとおりです。

01

無効なアクションが指定されています。

SQL2650N

- 02** ログの開始レコード ID が、現在のデータベースのアクティブ・ログのレコード ID より大きい値です。
- 03** ログの開始レコード ID から終了レコード ID までのログ・レコード ID の範囲が、ログ・レコードのスパンに対して十分な大きさではありません。
- 04** ログの開始レコード ID が、実際のログ・レコードの開始を表していません。
- 05** ログの開始レコード ID の場所を判別できませんでした。
- 06** ログの終了レコード ID が、ログの開始レコード ID より小さいか、または同じです。
- 07** バッファが、示されたサイズには無効です。
- 08** バッファが、ログ・レコードを格納するのに十分なサイズではありません。
- 09** ポインターが無効です。
- 10** フィルター・オプションが無効です。
- 11** ログ・ファイル・パスが無効です。
- 12** オーバーフロー・ログ・ファイル・パスが無効です。
- 13** 検索ログ・オプションが無効です。
- 14** 指定されたメモリー割り振りのバイト数が小さすぎます。
- 15** 該当する API フィールドに入れるには、ログ・シーケンス番号が大きすぎます。
- 16** piStartLRI のログ・レコード ID タイプが無効です。
- 17** piStartLRI および piEndLRI のログ・レコード ID タイプが同じではありません。
- ユーザーの処置:** 理由コードに基づいて、以下の指示に従ってください。
- 01** アクションが DB2READLOG_QUERY、DB2READLOG_READ、または DB2READLOG_READ_SINGLE のいずれかであることを確認してください。
- 02** ログの開始レコード ID の値を小さくしてください。
- 03** ログの終了レコード ID が、ログの開始レコード ID より十分に大きいことを確認してください。
- 04** ログの開始レコード ID が、ログの初期レコード ID、または読み取りログ情報構造に戻される次のログの開始レコード ID であることを確認してください。
- 05** ログの開始レコード ID が、データベース・ログ・パスのログ・エクステンツに存在することを確認してください。
- 06** ログの終了レコード ID が、ログの開始レコード ID より大きいことを確認してください。
- 07** バッファが log buffer size パラメーターに指定されたサイズで割り振られていることを確認してください。
- 08** 割り振られるバッファのサイズを増やしてください。
- 09** メモリーが正しく割り振られて、ポインターが適切に初期化されていることを確認してください。
- 10**

- フィルター・オプションが DB2READLOG_FILTER_OFF または DB2READLOG_FILTER_ON のいずれかであることを確認してください。
- 11 ログ・パス・フィールドが定義されていて、有効なディレクトリーを指していることを確認してください。
- 12 オーバーフロー・ログ・パス・フィールドが定義されていて、有効なディレクトリーを指していることを確認してください。
- 13 検索オプションが DB2READLOG_RETRIEVE_OFF、DB2READLOG_RETRIEVE_LOGPATH、または DB2READLOG_RETRIEVE_OVERFLOW のいずれかであることを確認してください。
- 14 内部的に割り振られるバイト数を増やしてください。
- 15 現在使用中のバージョンではログ・シーケンス番号を格納する際のデータ・タイプが制限されるため、最新のバージョンまたはレベルのログ読み取り API を使用してください。
- 16 piStartLRI のログ・レコード ID タイプが DB2_READLOG_LRI_1 または DB2_READLOG_LRI_2 であることを確認してください。
- 17 piStartLRI のログ・レコード ID タイプが piEndLRI のログ・レコード ID タイプと一致することを確認してください。

SQL2651N データベースに関連するログ・レコードは、非同期で読み取ることができません。

説明: asynchronous read log API が、LOG RETAIN または USER EXITS ON を持たない接続されたデータベースに対して使用されました。順方向リカバリーが可能なデータベースのみが、関連するログ読み取りを行うことができます。

ユーザーの処置: データベースのデータベース構成を更新して、LOG RETAIN と USER EXITS ON のいずれ

か、または両方を使用することを、asynchronous read log API に示してください。

SQL2652N db2ReadLog または db2ReadLogNoConn API を実行するために必要なメモリーが不足しています。

説明: db2ReadLog または db2ReadLogNoConn API によって使用される内部構造およびバッファの割り振りが失敗しました。

ユーザーの処置: プロセスが使用可能なメモリーの量を増やしてください (実メモリーまたは仮想メモリーを増やすか、不要なバックグラウンド・プロセスを除去する)。

SQL2653W リストア、ロールフォワード、またはクラッシュ・リカバリーが、ログのシーケンス番号の範囲を再利用している可能性があります。理由コード *reason-code*

説明: リストア、ロールフォワード、またはクラッシュ・リカバリーが、ログのシーケンス番号の範囲を再利用している可能性があります。可能性のある理由コードは、以下のとおりです。

- 1
リストアが行われました。
 - 2
ロールフォワードが行われました。
 - 3
クラッシュ・リカバリーが行われました。
- ユーザーの処置:** アクションは不要です。

SQL2654W 現在のアクティブ・ログの終わりまで、データベース・ログが非同期で読み取られました。

説明: データベース・アクティブ・ログのすべてのログ・レコードが、非同期ログ・リーダーによって読み取られました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL2655N 非同期に読み取られているデータベースに関連しないログ・ファイル *name* を、非同期ログ・リーダーが見つけました。

説明: 非同期ログ・リーダーが、指定されたログ・ファイルからログ・レコードを読み取ろうとしました。指定されたログ・ファイルは、非同期に読み取られているデータベースに関連していません。

SQL2656N

ユーザーの処置: このログ・ファイルを、データベース・ログ・ディレクトリーから取り除いてください。正しいログ・ファイルを、データベース・ログ・ディレクトリーに移動して、Asynchronous Read Log API の呼び出しを再実行してください。

SQL2656N 読み取れないログ・ファイル *name* を、非同期ログ・リーダーが見つめました。

説明: 非同期ログ・リーダーが、指定されたログ・ファイルからログ・レコードを読み取ろうとしました。指定されたログ・ファイルは壊れていて、読み取ることができません。

ユーザーの処置: ログの読み取り開始順序を大きくして、指定したログ・ファイルの後から読み取りが始まるように、Asynchronous Read Log API の呼び出しを再実行してください。

SQL2657N ログ・リーダーは、ログ・ストリーム *log-stream-id* の中で *log-file-name* という名前のログ・ファイルを検出できないため、ログ読み取り操作は失敗しました。

説明: ログ・レコードは、DB2 データベース・ログから読み取ることができます。あるいは、db2ReadLog API を使用してログ・マネージャーを照会し、ログの現行状態に関する情報を入手することもできます。

このメッセージは、db2ReadLog API が呼び出されたものの、このログ・リーダーが指定ログ・ストリームの指定ログ・ファイルでログ・レコードにアクセスできない場合に返されます。これが発生する 1 つの理由として、最近、newlogpath データベース構成パラメーターを使用してログ・パスが変更され、必須ログ・ファイルが古いログ・パスに置かれている場合が挙げられます。

ユーザーの処置:

1. ログ・アーカイブが使用可能になっている場合、以下のトラブルシューティング・ステップを実行します。
 - a. db2diag ログ・ファイルで関連エラーを見つけることにより、データベース・ログ・ファイルが正常にアーカイブおよびリトリブされていることを確認します。
 - b. ログ・アーカイブが正しく機能していないことを示すエラーが db2diag ログ・ファイルに存在する場合、ログ・アーカイブの問題をトラブルシューティングおよび解決します。
2. 以下の一般的なトラブルシューティング・ステップを実行します。

- a. db2ReadLog API が見つけようとしていたログ・ファイル (ランタイム・トークン *log-file-name* で示されるファイル) の場所を判別します。
- b. 手動で必須ログ・ファイルをデータベース・ログのパス (logpath データベース構成パラメーターで示されるパス) にコピーします。

3. db2ReadLog API の呼び出しを再サブミットします。

SQL2701N *progname* のコマンド行オプションが無効です。理由コード: *reason-code*

説明: データ分割ユーティリティーのコマンド行オプションが無効です。次が有効なオプションです。

- -c "構成ファイル名"
- -d "分配ファイル名"
- -i "入力ファイル名"
- -o "出力ファイル接頭部"
- -h 使用法メッセージ

ユーザーの処置: 各理由コードごとに、次のようになります。

- 1 '!' で始まるオプションがありません。
- 2 'h' (または 'H') を除く各オプションの後には、引数が必要です。
- 3 無効なオプションがありました。
- 4 オプションの引数が長すぎます (最大 80 文字)。

SQL2702N 構成ファイル *config-file* のオープンに失敗しました。

説明: このユーティリティーは構成ファイル *config-file* を読み取ることができません。

ユーザーの処置: 構成ファイルが存在し、読み取り可能であることを確認してください。

SQL2703N ログ・ファイル *log-file* のオープンに失敗しました。

説明: このユーティリティーはログ・ファイル *log-file* を書き込みまたは追加するためにオープンできません。

ユーザーの処置: ログ・ファイルが存在し、読み取り可能であることを確認してください。

SQL2704N 入力ファイル *input-data-file* のオープンに失敗しました。

説明: このユーティリティーは入力データ・ファイル *input-data-file* を読み取ることができません。

ユーザーの処置: 入力ファイルが存在し、読み取り可能であることを確認してください。

SQL2705N 入力パーティション・マップ・ファイル
in-map-file のオープンに失敗しました。

説明: このユーティリティは入力パーティション・マップ・ファイル *in-map-file* を読み取ることができません。

ユーザーの処置: 入力パーティション・マップ・ファイルが存在し、読み取り可能であることを確認してください。

SQL2706N 出力パーティション・マップ・ファイル
out-map-file のオープンに失敗しました。

説明: このユーティリティは出力パーティション・マップ・ファイル *out-map-file* を書き込みまたは追加するのにオープンできません。

ユーザーの処置: 出力パーティション・マップ・ファイルが存在し、読み取り可能であることを確認してください。

SQL2707N 分散ファイル *dist-file* のオープンに失敗しました。

説明: このユーティリティは分散ファイル *dist-file* を書き込みまたは追加するのにオープンできません。

ユーザーの処置: 分散ファイルが書き込み可能であることを確認してください。

SQL2708N 出力データ・ファイル *out-data-file* のオープンに失敗しました。

説明: このユーティリティは出力データ・ファイル *out-data-file* を書き込み用にオープンできません。

ユーザーの処置: 出力データ・ファイルが書き込み可能であることを確認してください。

SQL2709N 構成ファイルの行 *line* に構文エラーがあります。

説明: キーワードおよびその引数の仕様が構文エラーがあります。

ユーザーの処置: キーワードおよびその引数は、' ' サインで区切る必要があります。

SQL2710N 構成ファイルの行 *line* に無効なキーワードがあります。

説明: 構成ファイルに未定義のキーワードがあります。

ユーザーの処置: 有効なキーワード (大文字小文字を区別しない) は、以下のとおりです。

- DESCRIPTION、CDELIMITER、SDELIMITER、NODES、TRACE、MSG_LEVEL、RUNTYPE、OUTPUTNODES、NODES、OUTPUTNODES、OUTPUTTYPE、PARTITION、MAPFILE、INFILE、MAPFILO、OUTFILE、DISTFILE、LOGFILE、NEWLINE、HEADER、FILETYPE

SQL2711N 構成ファイルの行 *line* の列区切り文字 (CDELIMITER) が無効です。

説明: 構成ファイルで指定された列区切り文字 (CDELIMITER) が無効です。

ユーザーの処置: 列区切り文字 (CDELIMITER) が単一バイト文字であるようにしてください。

SQL2712N 構成ファイルの行 *line* のストリング区切り文字 (SDELIMITER) が無効です。

説明: 構成ファイルで指定されたストリング区切り文字 (SDELIMITER) が無効です。

ユーザーの処置: ストリング区切り文字 (SDELIMITER) にピリオドがあってはけません。

SQL2713N 構成ファイルの行 *line* の実行タイプ (RUNTYPE) が無効です。

説明: 構成ファイルで指定された実行タイプ (RUNTYPE) が無効です。

ユーザーの処置: 有効な実行タイプ (RUNTYPE) は PARTITION か ANALYZE (大文字小文字を区別しない) です。

SQL2714N 構成ファイルの行 *line* のメッセージ・レベル (MSG_LEVEL) が無効です。

説明: 構成ファイルで指定されたメッセージ・レベル (MSG_LEVEL) の値が無効です。

ユーザーの処置: 有効なメッセージ・レベル (MSG_LEVEL) は CHECK または NOCHECK (大文字小文字を区別しない) です。

SQL2715N 構成ファイルの行 *line* のチェック・レベル (CHECK_LEVEL) が無効です。

説明: 構成ファイルで指定されたチェック・レベル (CHECK_LEVEL) の値が無効です。

ユーザーの処置: 有効なチェック・レベル (CHECK_LEVEL) は CHECK または NOCHECK (大文字小文字を区別しない) です。

SQL2716N 構成ファイルの *line* 行目のレコード長 (RECLLEN) *reclen* が無効です。

説明: 構成ファイルに指定されているレコード長 (RECLLEN) *reclen* の値が無効です。

ユーザーの処置: レコード長 (RECLLEN) は 1 から 32767 までの間でなくてはなりません。

SQL2717N 構成ファイルの *line* 行目のノード仕様 (NODES) が無効です。理由コード *reason-code*

説明: 構成ファイルで指定されたノード仕様 (NODES) が無効です。

ユーザーの処置: 各理由コードごとに、次のようになります。

- 1 NODES はすでに定義されています。
- 2 この形式は無効です。有効な例:
NODES=(0,30,2,3,10-15,57)
- 3 各項目は 0 と 999 の間の数値でなくてはなりません。
- 4 範囲仕様は低い数値から高い数値を指定しなくてはなりません。

SQL2718N 構成ファイルの行 *line* の出力ノード仕様 (OUTPUTNODES) が無効です。理由コード *reason-code*

説明: 構成ファイルで指定された出力ノード仕様 (OUTPUTNODES) が無効です。

ユーザーの処置: 各理由コードごとに、次のようになります。

- 1 OUTPUTNODES はすでに定義されています。
- 2 この形式は無効です。有効な例:
OUTPUTNODES=(0,30,2,3,10-15,57)
- 3 各項目は 0 と 999 の間の数値でなくてはなりません。
- 4 範囲仕様は低い数値から高い数値を指定しなくてはなりません。

SQL2719N 構成ファイルの行 *line* の出力タイプ (OUTPUTTYPE) が無効です。

説明: 構成ファイルで指定された出力タイプ (OUTPUTTYPE) が無効です。

ユーザーの処置: 有効な出力タイプ (OUTPUTTYPE) は W (write) または S (stdin) で、大文字小文字を区別しません。

SQL2720N パーティション・キーの数が最大の "256" を超えました。構成ファイルの行 *line* でエラーを検出しました。

説明: 定義されたパーティション・キー数は、最大制限 256 を超えることはできません。

ユーザーの処置: 構成ファイルで定義されたパーティション・キーを 1 つまたは複数除去してください。

SQL2721N 構成ファイルの行 *line* のパーティション・キー仕様 (PARTITION) が無効です。理由コード *reason-code*

説明: 構成ファイルで指定されたパーティション・キー仕様 (PARTITION) が無効です。有効な形式は以下のとおりです。

```
PARTITION=<key name>,  
           <position>,  
           <offset>,  
           <len>,  
           <nullable>,  
           <datatype>
```

区切られたデータ・ファイルの場合は <position> を定義し、そうでない場合は <offset> および <len> を定義しなくてはなりません。

ユーザーの処置: 各理由コードごとに、次のようになります。

- 1 フィールドは '!' 文字で区切られなくてはなりません。
- 2 <position>、<offset>、および <len> は正の整数でなくてはなりません。
- 3 <nullable> は {N,NN,NNWD} から値を使用しなくてはなりません。
- 4 有効 <data type> には以下のものがあります。SMALLINT、INTEGER、CHARACTER、VARCHAR、FOR_BIT_CHAR、FOR_BIT_VARCHAR、FLOAT (バイナリー数値のみ)、DOUBLE (バイナリー数値のみ)、DATE、TIME、TIMESTAMP、DECIMAL (x, y)。

5 DECIMAL データ・タイプの場合、精度 (x) および位取り (y) を必ず指定し、正の整数でなくてはなりません。

6 CHARACTER または VARCHAR データ・タイプの場合、<len> を指定する必要があります。

SQL2722N 構成ファイルの行 line のログ・ファイル仕様 (LOGFILE) が無効です。

説明: 構成ファイルで指定されたログ・ファイル仕様 (LOGFILE) が無効です。

ユーザーの処置: このログ・ファイル仕様 (LOGFILE) は次の形式のいずれかでなくてはなりません。

- LOGFILE=<log file name>,<log type>
- LOGFILE=<log file name>

<log type> には W (書き込み) または A (付加) のみが使用でき、大文字小文字は区別されません。

SQL2723N 構成ファイルの行 line のトレース仕様 (TRACE) が無効です。

説明: 構成ファイルで指定されたトレース仕様 (TRACE) が無効です。

ユーザーの処置: トレース仕様 (TRACE) は必ず 0 から 65536 (含まない) までの正の整数でなくてはなりません。

SQL2724N ノード・リストの指定が無効です。

説明: このノード・リスト仕様が無効です

ユーザーの処置: 1 つまたは 2 つのパラメーターのうちの 1 つ: NODES および MAPFILE (入力パーティション・マップ) は構成ファイル内で指定されなくてはなりません。

SQL2725N 出力パーティション・マップのファイル名が指定されていませんでした。

説明: 実行タイプが ANALYZE の場合、出力パーティション・マップのファイル名が定義されていなければなりません。

ユーザーの処置: 出力パーティション・マップのファイル名を指定してください。

SQL2726N 定義されたパーティション・キーがありません。

説明: 少なくとも 1 つのパーティション・キーを定義しなくてはなりません。

ユーザーの処置: パーティション・キーを 1 つまたは複数指定してください。

分散キーの変更は、表スペースが単一区画のデータベース・パーティション・グループと関連した表にのみ実行できます。

分散キーは、ALTER TABLE ステートメントを使用して追加またはドロップすることができます。

設計アドバイザーを使用して単一パーティションから複数パーティション・データベースにマイグレーションすることもできます。インフォメーション・センターで、『設計アドバイザーを使用した、単一パーティション・データベースから複数パーティション・データベースへのマイグレーション』という表題のトピックを探してください。

SQL2727N パーティション・キー key-name がレコード長 reclen を超えています。

説明: 非区切りデータの場合、キーの開始位置はレコード長以下でなくてはなりません。

ユーザーの処置: キーの開始位置をレコード長以下にしてください。

SQL2728N 出力ノード out-node がノード・リストに定義されていません。

説明: 出力ノード・リストは、NODES または入力パーティション・マップ・ファイルから派生したノード・リストのサブセットでなければなりません。

ユーザーの処置: すべての出力ノード・リストがノード・リストに定義されていることを確認してください。

SQL2729N パーティション・マップ・ファイルが無効です。理由コード: reason-code

説明: パーティション・マップ・ファイルに少なくとも 1 つのエラーがあります。

特定のエラーは、次のような理由コードによって示されます。

1

パーティション・マップ・ファイルを読み取れません。

2

パーティション・マップ・ファイルの値の数が 1 または 32768 ではありません。

3

パーティション・マップ・ファイルのノード番号が 0 と 999 の間にありません。

4

パーティション・マップ・ファイル内のデータの形式が有効ではありません。

ユーザーの処置:

1

パーティション・マップ・ファイルのファイル許可をチェックしてください。また、別のプログラムがパーティション・マップ・ファイルを削除または変更していないかチェックしてください。

2

結果として設定されるデータベース・パーティション・グループの種類に応じて、(単一パーティションから成るデータベース・パーティション・グループの場合は) ただ 1 つの値のみ、または (複数パーティションから成るデータベース・パーティション・グループの場合は) 正確に 32 768 個の値をパーティション・マップ・ファイルに必ず含めてください。

3

ノード番号が 0 以上 999 以下の範囲内であることを確認してください。

4

パーティション・マップ・ファイルの値が 0 以上の整数あることを確認してください。

SQL2730N 出力データ・ファイル *out-data-file* ヘッダーを書き込み中のエラーです。

説明: 出力データ・ファイルヘッダーを書き込み中に入出力エラーが発生しました。

ユーザーの処置: ファイル入出力エラーに関するオペレーティング・システム (OS) の資料をチェックし、出力装置に十分なスペースがあることを確認してください。

SQL2731N 入力データ・ファイル *filename* からの読み取り中にエラーが発生しました。

説明: 入力データ・ファイルから読み取り中に入出力エラーが発生しました。

ユーザーの処置: ファイル入出力エラーに関するオペレーティング・システム (OS) の資料をチェックしてください。

SQL2732N 入力データ・ファイルの行 *line* にバイナリー・データが入っています。

説明: バイナリー・データはこのユーティリティ・プログラムのホスト・バージョンで許可されていません。

ユーザーの処置: ご使用の入力ファイル・データをチェックしてください。

SQL2733N 実行タイプ (RUNTYPE) は構成ファイル内で定義されていません。

説明: 実行タイプ (RUNTYPE) は PARTITION または ANALYZE として定義されなくてはなりません。

ユーザーの処置: 構成ファイル内で実行タイプ (RUNTYPE) を指定してください。

SQL2734N 構成ファイルの行 *line* のパラメーター 32KLIMIT の指定が無効です。

説明: 構成ファイルのパラメーター 32KLIMIT の仕様が無効です。

ユーザーの処置: パラメーター 32KLIMIT は YES または NO であり、大文字小文字を区別しません。

SQL2735W 入力データ・ファイルのレコード *rec-no* は空レコードだったので廃棄されました。

説明: 入力データのレコード *rec-no* がスペースしか内容がなかったため廃棄されました。

ユーザーの処置: 入力データ・ファイルのレコード *rec-no* をチェックしてください。

SQL2736N 入力データ・ファイルの行 *line* でレコードを処理中に *sqlugrpi_api* がエラーを戻しました。

説明: パーティション・キー・フィールドに無効なデータが入っています。

ユーザーの処置: 入力データ・ファイルの行 *line* をチェックしてください。

SQL2737N 入力データ・ファイルの行 *line* のレコードを処理中に、出力ノード *out-node* の出力データ・ファイルの書き込みに失敗しました。

説明: ノード *out-node* の出力データ・ファイルにレコードを書き込み中に入出力エラーが発生しました。

ユーザーの処置: ファイル入出力エラーに関するオペレーティング・システム (OS) の資料をチェックし、出力装置に十分なスペースがあることを確認してください。

SQL2738W ノード *out-node* の出力データ・ファイルへの書き込み中に、入力データ・ファイルの行 *line* でレコードが切り捨てられました。実際の書き込みの長さは *real-len* ですが *reclen* を予想しました。

説明: 予期される書き込み長 (RECLEN) が実際の書き込み長と一致しません。

ユーザーの処置: 構成ファイルで定義されたレコード長の値を調整してください。

SQL2739N このレコード長はバイナリー数値データ・ファイルで指定されていませんでした。

説明: バイナリー数値入力データ・ファイルの場合、レコード長を定義する必要があります。

ユーザーの処置: ご使用の構成ファイルでレコード長を指定してください。

SQL2740N 浮動データ・タイプは非バイナリー入力データ・ファイルでは許可されていません。

説明: 浮動データ・タイプは、ファイル・タイプが BIN (バイナリー) のときにのみ、サポートされます。

ユーザーの処置: データ・タイプおよび入力データ・ファイルが一致していることを確認してください。

SQL2741N 構成ファイルの行 *line* に無効なファイル・タイプ仕様があります。

説明: 構成ファイル内のファイル・タイプ仕様 (FILETYPE) が無効です。

ユーザーの処置: ファイル・タイプ・パラメーターの有効な値は、以下のとおりです。

- ASC (定位置 ASCII データ・ファイル)
- DEL (区切り ASCII データ・ファイル)
- BIN (すべての数値データをバイナリー形式にする ASC ファイル)
- PACK (すべての 10 進データをパック 10 進数形式にする ASC ファイル)
- IMPLIEDDECIMAL (10 進データを暗黙の 10 進形式にする DEL ファイル)

すべての値は大文字小文字の区別をしません。

SQL2742N 区分化キー *partition-key* の長さが、その精度と一致しません。

説明: バイナリー入力データ・ファイルにおいて、10 進データ・タイプのパーティション・キーはパック 10 進数であるため、その長さ LENGTH は

$LENGTH=(PRECISION+2)/2$ (整数除算) という式で計算される値でなければなりません。

ユーザーの処置: 入力データ・ファイルがバイナリー・データ・ファイルの場合、10 進タイプのパーティション・キーの長さをその精度と一致させてください。

SQL2743N 区分化キー *partition-key* の長さが、そのデータ・タイプと一致しません。

説明: バイナリー入力データ・ファイルでは、整数、短整数、浮動およびダブル・データ・タイプを使用するパーティション・キーの長さは、事前定義された定数でなくてはなりません。たとえば整数の 4、短整数の 2、浮動の 4、およびダブルの 8 です。

ユーザーの処置: 構成ファイルのパーティション・キーの定義をチェックしてください。

SQL2744N 構成ファイルの *line* 行目に、*file* に対して不正なファイル名の指定があります。

説明: ファイル名の最大長は 80 バイトです。

ユーザーの処置: 構成ファイルをチェックしてください。

SQL2745N 構成ファイルの行 *line* に無効な NEWLINE フラグがあります。

説明: NEWLINE フラグは YES または NO のいずれかでなくてはならず、ない場合は NO になります。

ユーザーの処置: 構成ファイルの NEWLINE フラグの仕様をチェックしてください。

SQL2746N レコード *record-number* を入力データ・ファイルから読み取り中に完了していないレコードが見つかりました。

説明: 固定長定位置 ASC ファイルまたはバイナリー数値データ・ファイルの場合、各レコードは、構成ファイルの RECLEN パラメーターの値と同じ長さを持っている必要があります。

ユーザーの処置: 入力データ・ファイルを完了してください。

SQL2747N 入力データ・ファイルからレコード *rec-no* を読み取り中に、長すぎるレコードがありました。

説明: 定位置 ASC 入力データ・ファイル、または 32KLIMIT パラメーターをオンにした、区切られたデータ・ファイルの場合、最大レコード長は 32 キロバイトの制限を超えることはできません。

SQL2748N

ユーザーの処置: 入力データ・ファイルをチェックし、レコード長が 32 キロバイトを超えないようにしてください。

SQL2748N レコード *record-number* の長さは、*length* バイトです。これはパーティション・キー *key* を入れるのに短すぎます。

説明: 固定長定位置 ASC ファイルまたはバイナリー数値データ・ファイルの場合、各レコードは、すべてのパーティション・キーを保留するのに十分な長さがある必要があります。

ユーザーの処置: ご使用の入力データ・ファイルのレコード長をチェックしてください。

SQL2749N レコード *rec-no* のパーティション・キー *key-no* がレコードの最初の 32k バイトにありません。

説明: 区切られたデータ・ファイルのレコードが 32k バイトより大きい場合、それぞれのレコードのすべてのパーティション・キーがレコードの最初の 32k バイト内になければなりません。

ユーザーの処置: 入力データ・ファイルのレコード *rec-no* をチェックしてください。

SQL2750N 構成ファイルの行 *line-number* の長さが 255 バイトを超えています。

説明: 構成ファイル内の行の最大長は 255 バイト以下でなくてはなりません。

ユーザーの処置: 構成ファイルファイルをチェックし、すべての行が 255 バイト以下であるようにしてください。

SQL2751N レコード *rec-no* の実際の長さ *actual-reclen* が、予期された長さ *exp-reclen* と一致しませんでした。

説明: 固定長 ASC データ・ファイル (NEWLINE パラメーターが YES で、RECLEN パラメーターがゼロではない) に対して新規行チェックが必要で、それぞれのレコードの実際の長さが予期されたレコードと一致しなければなりません。

ユーザーの処置: 入力データ・ファイルのレコード *rec-no* をチェックしてください。

SQL2752N 構成ファイルの *line* 行目に、無効なコード・ページ指定 *codepage* があります。

説明: コード・ページの指定が無効です。正の整数を指定してください。

ユーザーの処置: 構成ファイルのコード・ページの指定をチェックしてください。

SQL2753N アプリケーションのテリトリー・コードとコード・ページを取得できませんでした。関数 *function-name* からの戻りコードは *rc* です。

説明: プログラムは、その環境のテリトリー・コードとコード・ページを取得できませんでした。

ユーザーの処置: データベース・システム管理者に確認してください。

SQL2754N コード・ページ *source-cp* をコード・ページ *target-cp* に変換することはできません。

説明: データベースはこの 2 つのコード・ページ間のコード・ページ変換をサポートしません。

ユーザーの処置: データが変換可能なコード・ページになっているか確認してください。

SQL2755N IMPLIEDDECIMAL および PACKEDDECIMAL 形式には、10 進データがありません。

説明: 有効な 10 進データの形式は、相互排他である SQL_PACKEDDECIMAL_FORMAT、SQL_CHARSTRING_FORMAT、または SQL_IMPLIEDDECIMAL_FORMAT のいずれかです。

ユーザーの処置: 10 進データの形式を確認し、値を訂正して、コマンドを再実行してください。

SQL2756N 構成パラメーター *parameter-name* を更新する別の要求が現在進行中なので、この構成パラメーターを更新できませんでした。

説明: DB2 pureCluster 環境では、クラスター・キャッシング・ファシリティ (CF) 構造はデータベースのメモリー・リソースです。CF 構造には、グループ・バッファー・プール (GBP)、共用通信域 (SCA)、ロック (LOCK) が含まれます。CF 構造に対応する構成パラメーターは、それぞれ CF_GBP_SZ、CF_SCA_SZ、および CF_LOCK_SZ です。

データベース構成パラメーター CF_DB_MEM_SZ は、このデータベースの合計の CF メモリー制限を制御しま

す。すべての CF 構造のメモリーはこの制限内に収まります。

データベース構成パラメーター *parameter-name* の値が CF_DB_MEM_SZ のパラメーター値を超える場合、要求は完了せず、操作はタイムアウトになります。

このメッセージは、CF 構造メモリーの更新が完了せず、その同じ CF 構造のメモリーを更新する別の要求が行われている場合に返されます。

ユーザーの処置: SHOW DETAIL 節を指定した GET DB CFG コマンドを使用して、CF 構造のペンディング状態の更新要求を確認してください。

すべての CF 構造のメモリーの値が CF_DB_MEM_SZ の値よりも小さいことを確認してください。

ペンディング状態の更新要求が完了するかタイムアウトするのを待ってください。

sqlcode: -2756

sqlstate: 5U052

SQL2761N 表名またはデータベース・パーティション・グループのいずれか 1 つだけを指定できます。

説明: 表名またはデータベース・パーティション・グループ名のいずれかを指定してください。両方は指定できません。

ユーザーの処置: コマンド行オプションをチェックしてください。

SQL2762N このユーティリティはデータベース・インストール・パスの検索に失敗しました。

説明: このユーティリティはデータベース・マネージャーがインストールされている場所を知っている必要があります、そのバインド・ファイルを検索できます。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーが正しくインストールされていることを確認してください。

SQL2763N 表 *tbl-name* が見つかりませんでした。

説明: 表 *tbl-name* を sysibm.systables に置くことができません。

ユーザーの処置: 表がこのデータベースに存在することを確認してください。

SQL2764N データベース・パーティション・グループ *db-partition-group* が見つかりませんでした。

説明: データベース・パーティション・グループ

db-partition-group が

SYSCAT.DBPARTITIONGROUPDEF の中に見つかりません。

ユーザーの処置: データベース・パーティション・グループがこのデータベースに存在することを確認してください。

SQL2765W このユーティリティは出力区分化マップ・ファイル *out-map-file* のオープンに失敗しました。

説明: このユーティリティは出力パーティション・マップ・ファイルを書き込みまたは追加するのにオープンできません。stdout への出力に書き込みます。

ユーザーの処置: ファイル・アクセス許可をチェックしてください。

SQL2766N この区分化マップは正しいサイズ *map-size* ではありません。

説明: パーティション・マップのサイズが正しくありません。このデータベースのデータが壊れています。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡し、この問題を解決してください。

SQL2767N コマンド行オプションが無効です。

説明: 無効なコマンド行オプションがあります。

ユーザーの処置: 正しいコマンド行オプションを指定してください。

SQL2768N *deprecated-API* API は推奨されなくなり、*replacement-API* API に置き換わりました。

説明: 分散マップの項目数が 4096 個から 32768 個に拡張されたため、非推奨 API によってこれを戻すことができません。

ユーザーの処置: 非推奨 API の代わりに、置き換わった API を使用してください。

SQL2796N 不適切にパーティション化されたレコードが見つかりました。

説明: ロード・ユーティリティを LOAD_ONLY パーティション・モードで実行しているときに、レコードのロード先となるデータベース・パーティションに一致しないデータ・ファイル・レコードが見つかりました。

ユーザーの処置: 各データベース・パーティションのデータ・ファイル内のレコードを調べて、各レコードが適切なデータベース・パーティションにロードされること

SQL2800N

を確認してください。この作業を行うには、レコードを1つの別個のファイルに入れた後、PARTITION_ONLYパーティション・モードを使用してそのファイルに対してロード・ユーティリティを呼び出すことができます。これにより、宛先となるデータベース・パーティションごとにレコードがグループ化されます。

SQL2800N CREATE, DROP、あるいは CHANGE NODE が失敗しました。理由コード *reason-code*

説明: 指定された入力パラメーターが次の理由コードで示されるように無効であるため、ユーティリティは、ノードの追加、ドロップ、あるいは変更ができませんでした。

- (1) ノード番号が指定されていません。
- (2) TCP/IP ホスト名が指定されていません。
- (3) コンピューター名が指定されていません。
- (4) ノード番号が無効です。
- (5) ポート番号が無効です。
- (6) TCP/IP ホスト名が無効です。
- (7) サービス・ファイル内のインスタンスのポート値が定義されていません。
- (8) ポート値が、サービス・ファイル内のインスタンスに定義されている有効範囲内にありません。
- (9) ノード番号がユニーク番号ではありません。
- (10) ホストの名前とポートの対がユニークではありません。
- (11) ホスト名の値に、対応するポート 0 がありません。

ユーザーの処置: 理由コードに対応するアクションは、以下のとおりです。

- (1) ノード番号を指定したことを確認してください。
- (2) TCP/IP ホスト名を指定したことを確認してください。
- (3) コンピューター名を指定したことを確認してください。
- (4) ノード番号が 0 から 999 であることを確認してください。
- (5) ポート番号が 0 から 999 であることを確認してください。
- (6) 指定したホスト名は、システムで定義済みであり、操作可能であることを確認してください。
- (7) システムの TCP/IP サービスには、インスタンス用の項目が入っていることを確認してください。

- (8) システムのサービス・ファイルに指定されているポート値のみを使用していることを確認してください。
- (9) 指定したノード番号はユニーク番号であることを確認してください。
- (10) db2nodes.cfg ファイルで、新規のホスト名とポートの対がまだ定義されていないことを確認してください。
- (11) 指定したホスト名用に、ポート値 0 が定義されていることを確認してください。

SQL2801N DB2NCRT コマンドの構文に誤りがあります。

説明: DB2NCRT ユーティリティはパーティション・データベース・システムに新規のノードを作成します。

```
DB2NCRT /n:node
          /u:username,password
          [/i:instance]
          [/h:host]
          [/m:machine]
          [/p:port]
          [/o:instance owning
           machine]
          [/g:netname]
```

コマンド引数の意味は、次のようになっています。

- /n ノード番号を指定してください。
- /u DB2 サービスに対してアカウント名およびパスワードを指定します。

コマンド・オプションは以下のとおりです。

- /i デフォルト / 現行インスタンス名と異なる場合、インスタンス名を指定してください。
- /h ホスト名がマシンのデフォルト TCP/IP でない場合は、TCP/IP のホスト名を指定してください。
- /m ノードがリモート・マシンで作成された場合は、ワークステーション名を指定してください。
- /p これがマシンの最初のノードでない場合は、論理ポート番号を指定してください。
- /o マシンの最初のノードを作成する時に、インスタンス所有マシンのコンピューター名を指定してください。
- /g ネットワーク名あるいは IP アドレスを指定します。

ユーザーの処置: 有効なパラメーターを使用してコマンドを再入力してください。

SQL2802N DB2NCHG コマンドの構文に誤りがあります。

説明: DB2NCHG ユーティリティはパーティション・データベース・システムで与えられたノードに対するノード構成を変更あるいは更新します。

```
DB2NCHG /n:node
          [/h:host]
          [/m:machine]
          [/p:port]
          [/i:instance]
          [/u:username,
           password]
          [/g:netname]
```

コマンド・オプションは以下のとおりです。

- /h TCP/IP ホスト名を変更します。
- /m ワークステーション名を変更します。
- /p 論理ポート番号を変更します。
- /i デフォルト / 現行インスタンス名と異なる場合、インスタンス名を指定してください。
- /u ログオン・アカウント名とパスワードを変更します。
- /g ネットワーク名あるいは IP アドレスを指定します。

ユーザーの処置: 上記の有効なコマンド・オプションのいずれかを指定して DB2NCHG コマンドを発行してください。

SQL2803N DB2NDROP コマンドの構文に誤りがあります。

説明: DB2NDROP ユーティリティはパーティション・システムからノードをドロップします。

```
DB2NDROP /n:node
          [/i:instance]
```

コマンド・オプションは以下のとおりです。

- /i デフォルト / 現行インスタンス名と異なる場合、インスタンス名を指定してください。

ユーザーの処置: 上記の有効なコマンド・オプションのいずれかを指定して DB2NDROP コマンドを発行してください。

SQL2804N DB2NLIST コマンドの構文に誤りがあります。

説明: DB2NLIST ユーティリティはパーティション・システムのすべてのノードをリストします。

```
DB2NLIST [/i:instance]
          [/s]
```

コマンド・オプションは以下のとおりです。

- /i デフォルト / 現行インスタンス名と異なる場合、インスタンス名を指定してください。
- /s ノードの状況を表示します。

ユーザーの処置: 上記の有効なコマンド・オプションのいずれかを指定して DB2NLIST コマンドを発行してください。

SQL2805N サービス・エラーが発生しました。理由コード *reason-code*

説明: CREATE、DROP あるいは ADD NODE 処理中に、以下の理由コードで示すサービス・エラーが発生しました。

- (1) サービスを登録できません。
- (2) 要求されたユーザー権ポリシーを設定できません。
- (3) サービスのログオン・アカウントを設定できません。
- (4) サービスを削除できません。

ユーザーの処置: 理由コードに対応するアクションは、以下のとおりです。

- (1) ワークステーション名が DB2NCRT 中に指定されている場合、ワークステーション名が正しいか確認する。
- (2) 指定ユーザー名が正しいか確認する。
- (3) 指定ユーザー名およびパスワードが有効か確認する。
- (4) ノードが別のマシンにある場合、そのマシンが作動中であるか確認する。

問題が続く場合、IBM サービス担当者に連絡してください。

SQL2806N インスタンス *instance* に対するノード *node* が見つかりません。

説明: ノードがないため、DB2NDROP が失敗しました。

ユーザーの処置: ノード番号が正しいか確認してコマンドを再発行してください。

SQL2807N インスタンス *instance* に対するノード *node* はすでに存在します。

説明: ノードがすでにあるため、DB2NCRT は失敗しました。

ユーザーの処置: ノード番号が正しいか確認してコマンドを再発行してください。

SQL2808W インスタンス *instance* に対するノード *node* はすでに削除されました。

説明: DB2NDROP 処理は正常に完了しました。

ユーザーの処置: これ以上のアクションは不要です。

SQL2809W ノード: *node* がインスタンス: *instance* {
ホスト: *host-name* マシン: *machine-name*
ポート: *port-num*} に追加されました。

説明: DB2NCRT 処理は正常に完了しました。

ユーザーの処置: これ以上のアクションは不要です。

SQL2810W ノード: *node* がインスタンス: *instance* {
ホスト: *host-name* マシン: *machine-name*
ポート: *port-num*} で変更されました。

説明: DB2NCHG 処理は正常に完了しました。

ユーザーの処置: これ以上のアクションは不要です。

SQL2811N インスタンスがパーティション・データベース・インスタンスではないため、コマンドは無効です。

説明: インスタンスがパーティション・データベース・インスタンスの場合にのみコマンドが有効です。

ユーザーの処置: 指定されたインスタンス名が有効であることを確認してください。インスタンス名がコマンド行で指定されていない場合、DB2INSTANCE 環境が有効なパーティション・データベース・インスタンスに設定されているか確認してください。

SQL2812N **db2drvmp** コマンドに対して無効な引数が入力されました。

説明: 使用法:

```
db2drvmp add      node_number
                  from_drive to_drive
drop              node_number
                  from_drive
query             [node_number]
                  [from_drive]
reconcile         [node_number]
                  [from_drive]
```

このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

add 新規データベース・ドライブ・マップを発行します。

drop 既存のデータベース・ドライブ・マップを除去します。

query データベース・マップを照会します。

reconcile

レジストリーの内容が破壊されたときに、データベース・マップ・ドライブを修理します。

node_number

ノード番号。追加およびドロップの操作にはパラメーターが必要です。

from_drive

マップされるためのドライブ文字。追加およびドロップの操作には、このパラメーターが必要です。

to_drive

マップ先のドライブ名。このパラメーターは、加算操作のみに必要です。これは、他の操作には適用できません。

ユーザーの処置: 有効な引数を使用してコマンドを再入力してください。

SQL2813I ドライブ *drive-1* からドライブ *drive-2* へのドライブ・マッピングが、ノード *node* に対して追加されました。

説明: ドライブ・マッピングが正常に追加されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL2814I ノード *node* について、ドライブ *drive* からのドライブ・マッピングが削除されました。

説明: ドライブ・マッピングは正常に削除されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL2815I ノード *node* のドライブ・マッピングは、*drive-1 - drive-2* です。

説明: 通知メッセージ。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL2900W **INGEST** ユーティリティーは、入力レコードの事前パーティション化処理を実行できません。理由コード: *reason-code*

説明: **INGEST** ユーティリティーは、分散キーを使用してパーティション番号を特定し、そのパーティションのいずれかのフラッシュャーに入力レコードを送付します。理由コードによって明示された状態のために、**INTEST** ユーティリティーはレコードをランダムにフラッシュャーに送付します。理由コードには、以下のものがあります。

1

NUM_FLUSHERS_PER_PARTITION 構成パラメーターが 0 に設定されたため、すべてのパーティションにおいてフラッシャーが 1 つしかありません。

2

ターゲット表は、分散キーがないタイプのものです。

3

少なくとも 1 つの分散キー列が、タイプ DB2SECURITYLABEL のものです。

4

ターゲット表には、SQL ステートメントで指定されていない分散キー列が少なくとも 1 つあります。

5

ターゲット表には、対応するフィールドがない分散キー列、または複数のフィールドに対応する分散キー列が少なくとも 1 つあります。

6

UPDATE ステートメントの WHERE 述部または MERGE ステートメントの ON 述部が、*dist-key-col1 = value1 AND dist-key-col2 = value2 AND ...* という形式でないか、またはすべての分散キー列を含んでいません。

7

数値タイプの分散キー列が少なくとも 1 つありますが、それに対応するフィールドは厳密に同じ数値タイプ (精度および位取りなども同じ) ではありません。

ユーザーの処置: これによりパフォーマンスに悪影響が及んでいる場合は、理由コードに応じて、以下のように構成パラメーターまたは INGEST コマンドを変更してください。

1

NUM_FLUSHERS_PER_PARTITION 構成パラメーターを 1 以上に設定します。

2

分散キーがあるターゲット表を指定します。

3

分散キーにタイプ DB2SECURITYLABEL の列が含まれない表を指定します。

4

5

すべての分散キーが SQL ステートメントに指定されていることと、各分散キーがちょうど 1 つのフィールドに対応していることを確認します。

6

すべての分散キーが SQL ステートメントに指定されていることと、各分散キーがちょうど 1 つのフィールドに対応していることを確認します。

UPDATE ステートメントの WHERE 述部または MERGE ステートメントの ON 述部を変更して、すべての分散キー列が指定された、*dist-key-col1 = value1 AND dist-key-col2 = value2 AND ...* という形式のものになりますようにします。

7

フィールド定義を変更して、数値の分散キー列に対応する各フィールドが、その分散キー列と厳密に同じタイプ (精度および位取りなども同じ) になるようにします。

SQL2901I INTEST ユーティリティは、タイム・スタンプ *timestamp* に完了しましたエラー数: *number*。警告数: *number*。メッセージ・ファイル: *file-name*。

説明: INGEST ユーティリティは正常に完了しましたが、いくつかのエラーまたは警告が返されました。エラーまたは警告の内容を判別するには、示されたメッセージ・ファイルを参照してください。

エラー数には、ユーティリティがリカバリーできなかったエラーが含まれています。ユーティリティがリカバリーできたエラーは含まれていません。

ユーザーの処置: 今後このメッセージを受け取りたくない場合には、エラーまたは警告の原因を修正します。

SQL2902I INGEST ユーティリティは、タイム・スタンプ *timestamp* に完了しましたエラー数: *number*。警告数: *number*。

説明: INGEST ユーティリティは正常に完了しましたが、いくつかのエラーまたは警告が返されました。

エラー数には、ユーティリティがリカバリーできなかったエラーが含まれています。ユーティリティがリカバリーできたエラーは含まれていません。

ユーザーの処置: 今後このメッセージを受け取りたくない場合には、エラーまたは警告の原因を修正します。

SQL2903W 構成パラメーター *parameter* は、自動的に値 *value* に調整されました。理由コード = *reason-code*

説明: INGEST SET または INGEST コマンドは正常に完了しましたが、ユーザー指定の構成パラメーターがオーバーライドされました。このメッセージが INGEST SET コマンドに対して発行された場合、このオーバーライド値は、CLP セッションの残りの部分において効果を保ちます。このメッセージが INGEST コマンドに対して発行された場合、このオーバーライド値は、INGEST DATA コマンドにおいてのみ効果を保ちます。理由コードに対応する説明は、以下のとおりです。

1

commit_count および *commit_period* 構成パラメーターは、同じ INGEST コマンド上では 0 に設定できません。 *commit_period* は 1 に設定されました。

2

commit_count 構成パラメーターは 1000 の倍数に設定する必要があるため、最も近い 1000 の倍数に丸められました。

3

ロック・リストまたはトランザクション・ログのいずれかがスペース不足になったため、*commit_count* 構成パラメーターは小さい数値になりました。ロック・リストまたはトランザクション・ログがスペース不足になる直前にコミットされた行数が、新しい値になります。

4

ロック・リストまたはトランザクション・ログのいずれかがスペース不足になったため、*commit_period* 構成パラメーターは小さい数値になりました。最後のコミットが行われた時から、ロック・リストまたはトランザクション・ログがスペース不足になった時までの秒数が、新しい値になります。

10

以下のいずれかが当てはまるため、*num_flushers_per_partition* 構成パラメーターが 0 に調整されました。

- UPDATE 操作で、検索キーに該当する列がないか、検索キーのすべての列が更新キー (SET 節で指定) にもあります。
- DELETE 操作で、検索キーに該当する列がありません。

検索キーは、すべての列のセット (c1, c2 ...) であり、次の形式で WHERE 節または ON 節で指定されます。

```
(c1 = $field1) AND
(c2 = $field2) AND ...
(cn = $fieldn)
[AND (any other conditions)]
```

(大括弧で囲まれた最後の AND 条件はオプションです。)

11

表の分散キーの少なくとも 1 つの列が更新キー (SET 節で指定) にもあるため、*num_flushers_per_partition* 構成パラメーターはパーティション・データベース環境で 0 に調整されました。

12

検索キー (WHERE 節で指定) には存在し、更新キー (SET 節で指定) には存在しない列が少なくとも 1 つ含まれる索引がないため、*num_flushers_per_partition* 構成パラメーターが 1 に調整されました。

14

num_flushers_per_partition 構成パラメーターは *max_connections* データベース・マネージャー構成パラメーター以下でなければならないため、*max_connections* の値に調整されました。

15

num_flushers_per_partition 構成パラメーターは *max_coordagents* データベース・マネージャー構成パラメーター以下でなければならないため、*max_coordagents* の値に調整されました。

ユーザーの処置: 理由コードに対応するユーザー応答は、以下のとおりです。

1

このメッセージを受け取らないようにするには、*commit_count* をデフォルト値の 0 のままにする場合、*commit_period* を 0 に設定しないようにします。

2

このメッセージを受け取らないようにするには、*commit_count* を 1000 の倍数に設定します。

3

このメッセージを受け取らないようにするには、以下の 1 つ以上を行います。

- ロック・リストがスペース不足になったために警告が発生した場合、*locklist* または *maxlocks* データベース構成パラメーターを増やします。
- トランザクション・ログがスペース不足になったために警告が発生した場合、*logfilesiz*、*logprimary*、または *logsecond* データベース構成パラメーターを増やします。
- *commit_count* 構成パラメーターを減らして、新しい値または小さい値にします。

4

このメッセージを受け取らないようにするには、以下の 1 つ以上を行います。

- ロック・リストがスペース不足になったために警告が発生した場合、*locklist* または *maxlocks* データベース構成パラメーターを増やします。
- トランザクション・ログがスペース不足になったために警告が発生した場合、*logfilesiz*、*logprimary*、または *logsecond* データベース構成パラメーターを増やします。
- *commit_period* 構成パラメーターを減らして、新しい値または小さい値にします。

10

このメッセージを受け取らないようにするには、以下のいずれかを行います。

- INGEST コマンドを発行する前に、以下のコマンドを発行します。
INGEST SET NUM_FLUSHERS_PER_PARTITION 0
- 検索キーには該当する列がない場合、INGEST コマンド上の SQL ステートメントを変更し、次の形式の検索キーを指定します。
(c1 = \$field1) AND
(c2 = \$field2) AND ...
(cn = \$fieldn)
- 検索キーのすべての列が更新キーにも存在する場合、検索キーに更新キーの列すべてが含まれることはないように検索キーまたは更新キーを変更します。

11

このメッセージを受け取らないようにするには、以下のいずれかを行います。

- INGEST コマンドを発行する前に、コマンド
INGEST SET
NUM_FLUSHERS_PER_PARTITION 0 を発行します。

- 表の分散キーの列が更新されないように INGEST コマンド上の SQL ステートメントを変更します。

12

このメッセージを受け取らないようにするには、以下のいずれかを行います。

- INGEST コマンドを発行する前に、コマンド
INGEST SET
NUM_FLUSHERS_PER_PARTITION 1 を発行します。
- 検索キーには含まれ、更新キーには含まれない列が少なくとも 1 つ存在する索引を定義します。

14

このメッセージを受け取らないようにするには、以下のいずれかを行います。

- INGEST コマンドを発行する前に、INGEST SET コマンドを発行して、*num_flushers_per_partition* 構成パラメーターを *max_connections* データベース・マネージャー構成パラメーター以下の値に設定します。
- *max_connections* データベース・マネージャー構成パラメーターを AUTOMATIC または *num_flushers_per_partition* 構成パラメーター以上の値に設定します。

15

このメッセージを受け取らないようにするには、以下のいずれかを行います。

- INGEST コマンドを発行する前に、INGEST SET コマンドを発行して、*num_flushers_per_partition* 構成パラメーターを *max_coordagents* データベース・マネージャー構成パラメーター以下の値に設定します。
- *max_coordagents* データベース・マネージャー構成パラメーターを AUTOMATIC または *num_flushers_per_partition* 構成パラメーター以上の値に設定します。

SQL2904W データがフィールド長より長い場合、行番号 *line-number* およびバイト位置 *byte-position* のフィールド値は切り捨てられました。

説明: 示されたフィールドには、そのフィールドの長さより長い値が指定されています。値は切り捨てられました。例えば、そのフィールドが CHAR(3) として定義さ

SQL2905I

れているのに値が "ABCDEF"である場合、値は "ABC"に切り捨てられます。

ユーザーの処置: 切り捨てを容認できる場合には、これ以上のアクションは不要です。このメッセージを回避するには、これより長いフィールド長を INGEST コマンドで指定するか、フィールド値の長さがフィールドの長さ以下になるように入力データを編集します。

SQL2905I 表 *table-name* に対する SQL *sql-statement* ステートメント (入力ファイル *file-name* の行 *line-number* からのデータを使用) の発行で、以下のエラーが発生しました。

説明: このメッセージは、リストされている以下のメッセージについて、エラーが発生した行と入力ファイルの識別情報を提供します。

この表は、INGEST コマンドの SQL ステートメント、または例外表のいずれかで指定されたものです。表が SQL ステートメントで指定されたものであり、SQL ステートメントが INSERT または REPLACE であり、さらに INGEST コマンドが例外表を指定した場合、INGEST ユーティリティーは例外表へのレコードの挿入を試行します。その他の場合、INGEST ユーティリティーはレコードを破棄します。

ユーザーの処置: INGEST コマンドのターゲット表に対する SQL ステートメントの発行でエラーが発生し、INGEST ユーティリティーが正常に行を例外表に挿入した場合、例外表のデータを訂正し、それを例外表からターゲット表にコピーします。その他の場合、入力ファイル内の示された行にあるデータが正しいことを確認します。必要であれば、入力ファイルのデータを訂正し、訂正済みの行のみが含まれる入力ファイルを使用して INGEST ユーティリティーを再実行します。

SQL2906I 表 *table-name* に対する SQL *sql-statement* ステートメント (パイプ *pipe-name* の行 *line-number* からのデータを使用) の発行で、以下のエラーが発生しました。

説明: このメッセージは、リストされている以下のメッセージについて、エラーが発生した行と入力パイプの識別情報を提供します。

この表は、INGEST コマンドの SQL ステートメント、または例外表のいずれかで指定されたものです。表が SQL ステートメントで指定されたものであり、SQL ステートメントが INSERT または REPLACE であり、さらに INGEST コマンドが例外表を指定した場合、INGEST ユーティリティーは例外表へのレコードの挿入を試行します。その他の場合、INGEST ユーティリティーはレコードを破棄します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL2907I 表 *table-name* に対する SQL *sql-statement* ステートメント (TCP/IP ポート *port-number* の行 *line-number* からのデータを使用) の発行で、以下のエラーが発生しました。

説明: このメッセージは、リストされている以下のメッセージについて、エラーが発生した行と入力 TCP/IP ポートの識別情報を提供します。

この表は、INGEST コマンドの SQL ステートメント、または例外表のいずれかで指定されたものです。表が SQL ステートメントで指定されたものであり、SQL ステートメントが INSERT または REPLACE であり、さらに INGEST コマンドが例外表を指定した場合、INGEST ユーティリティーは例外表へのレコードの挿入を試行します。その他の場合、INGEST ユーティリティーはレコードを破棄します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL2908I パイプ *pipe-name* から受信した行 *line-number* のデータのフォーマット中に、以下の警告またはエラーが発生しました。

説明: このメッセージは、リストされている以下のメッセージについて、エラーが発生した入力パイプの識別情報を提供します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL2909I TCP/IP ポート *port-number* から受信した行 *line-number* のデータのフォーマット中に、以下の警告またはエラーが発生しました。

説明: このメッセージは、リストされている以下のメッセージについて、エラーが発生した入力 TCP/IP ポートの識別情報を提供します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL2910N タイプ *field-type* のすべてのフィールドに関し、修飾子 *modifier* の使用法の一貫性が保たれていません。

説明: あるフィールドに修飾子が指定されているときには、類似したタイプを持つすべてのフィールドにそれらの修飾子を指定する必要があります。例えば、ある 10 進フィールドに RADIX POINT が指定されている場合、INTEGER、DECIMAL、DECLFOAT、および FLOAT のその他すべてのフィールドに同じ RADIX

POINT 文字を指定する必要があります。ある DATE フィールドにフォーマット・ストリングが指定されている場合、DATE のその他すべてのフィールドに同じフォーマット・ストリングを指定する必要があります。ある INTEGER フィールドに EXTERNAL が指定されている場合には、INTEGER、DECFLOAT、および FLOAT のその他すべてのフィールドに EXTERNAL を指定する必要があります。(ただし、タイプ DECIMAL のフィールドには、PACKED または ZONED を指定できます。しかし、タイプ DECIMAL のすべてのフィールドには、DECIMAL のその他すべてのフィールドと同じ EXTERNAL、PACKED、または ZONED いずれかの修飾子を指定する必要があります。)

ユーザーの処置: 類似したタイプのすべてのフィールドにそれらの修飾子を指定して INGEST コマンドを再発行します。

SQL2911N 2 進数フィールド・タイプは、フォーマットが POSITIONAL であるときにのみ指定できます。

説明: INGEST コマンドで 2 進数フィールド・タイプが指定されましたが、入力ファイルのフォーマットが POSITIONAL ではありません。コマンドは失敗しました。

ユーザーの処置: 以下のいずれかです。

- 入力データが区切り形式である場合には、文字データを指定するフィールド・タイプに変更します。例えば、フィールド・タイプが INTEGER である場合には、それを INTEGER EXTERNAL に変更します。フィールド・タイプが DB2SECURITYLABEL である場合、それを DB2SECURITYLABEL NAME または DB2SECURITYLABEL STRING に変更します。
- 入力データが定位置形式である場合には、INGEST コマンドで FORMAT POSITIONAL を指定するように変更します。必要であれば、POSITION 節をそれぞれのフィールド定義に追加します。

SQL2912N INGEST コマンドは、いずれかのフィールド・タイプが 2 進数である場合には、RECORDLEN パラメーターを指定する必要があります。

説明: 2 進数フィールド・タイプを指定する INGEST コマンドでは、RECORDLEN パラメーターを使用して各レコードの長さもバイト単位で指定する必要があります。コマンドは失敗しました。

ユーザーの処置: RECORDLEN パラメーターを指定して INGEST コマンドを再発行します。

SQL2913N フィールド *field-name* は、終了位置または長さを指定していません。

説明: FORMAT POSITIONAL を指定した INGEST コマンドで、フィールド長を指定または暗黙指定する必要があります。あるいは、POSITION パラメーターで終了位置を指定する必要があります。コマンドは失敗しました。

ユーザーの処置: INGEST コマンドを再発行し、フィールドの終了位置またはフィールド長のいずれかを指定します。

SQL2914I INGEST ユーティリティは次の取り込みジョブを開始しました。 *job-ID*。

説明: INGEST ユーティリティを開始しています。ジョブ ID は、RESTART パラメーターに指定されたものであるか、または (指定されていない場合は) ユーティリティが生成したデフォルトのジョブ ID です。このジョブ ID は、INGEST コマンドの実行中に INGEST GET STATS コマンドで使用できます。INGEST コマンドが失敗した場合は、後で RESTART CONTINUE パラメーターまたは RESTART TERMINATE パラメーターを指定して INGEST コマンドを使用するときに、このジョブ ID を使用できます。

ユーザーの処置: 後のコマンドで必要になる場合に備えて、ジョブ ID を保存します。

SQL2915N すべてのフィールド長の合計は *number* ですが、指定されたレコード長は *length* しかありません。

説明: INGEST コマンドの RECORDLEN で指定された長さは、各フィールド定義で指定されたフィールド長の合計以上でなければなりません。コマンドは失敗しました。

ユーザーの処置: フィールド長または RECORDLEN パラメーターを訂正します。

SQL2916N INGEST コマンドは、どのフィールドも参照しない SQL ステートメントを指定しています。

説明: INGEST コマンドに含まれる SQL ステートメントで少なくとも 1 つのフィールドを指定する必要があるため、このコマンドは失敗しました。

ユーザーの処置: SQL ステートメントに少なくとも 1 つのフィールドが含まれるように変更し、コマンドを再発行します。

SQL2917N SHM_MAX_SIZE 構成パラメーターが小さすぎます。

説明: SHM_MAX_SIZE 構成パラメーターの大きさが十分でなかったため、INGEST が失敗しました。このパラメーターの最小設定値は、以下のように概算できます。

$$11000 + (nTrans \times 500) + (NUM_FORMATTERS \times 500) + (nParts \times 50) + ((NUM_FLUSHERS_PER_PARTITION \times nParts) \times 4000) + (MSG_BUF_COUNT \times (100 + MSG_BUF_SIZE)) + (numFields \times 66300) + (1.5 \times NUM_FORMATTERS \times sumOfAllFieldLengths)$$

説明:

- *nTrans* は、入力ソースの数 (操作が INSERT または REPLACE の場合) で、それ以外の場合は 1 です。
- *nParts* は、サーバー上のデータベース・パーティションの数です。
- *sumOfAllFieldLengths* は、すべてのフィールド定義内の合計バイト数です。

ユーザーの処置: SHM_MAX_SIZE の設定値を大きくして INGEST コマンドを再発行します。

SQL2918N INGEST コマンドで指定されたキーワード *keyword1* および *keyword2* の組み合わせが無効です。

説明: INGEST コマンドは、キーワードの組み合わせが無効であるために失敗しました。

ユーザーの処置: 矛盾するキーワードを除去し、コマンドを再発行します。

SQL2919N INGEST ユーティリティーは、タイプ *type* の表をサポートしません。

説明: INGEST コマンドで非サポートの表タイプが指定されました。コマンドは失敗しました。

ユーザーの処置: サポートされる表タイプを指定して INGEST コマンドを再発行します。

SQL2920N *clause* 節はどのフィールドも参照していません。

説明: WHERE または ON 節を使用する SQL ステートメントを指定する INGEST コマンドには、少なくとも 1 つのフィールドを指定する検索条件が含まれている必要があります。コマンドは失敗しました。

ユーザーの処置: 検索条件を指定して INGEST コマンドを再発行します。

SQL2921N フィールド *field-name* が定義されていません。

説明: 指定されたフィールドは INGEST コマンドの SQL ステートメントに出現しますが、未定義です。コマンドは失敗しました。

ユーザーの処置: フィールド名を、INGEST コマンドで定義されている名前に訂正します。

SQL2922I 入力ファイル *file-name* の行 *line-number* のデータのフォーマット中に、以下の警告またはエラーが発生しました。

説明: このメッセージは、リストされている以下のメッセージに対して、エラーが発生した入力ファイルの識別用に提供されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL2923N データ・タイプ *data-type* は無効なフィールド・タイプです。

説明: 示されたデータ・タイプは無効なフィールド・タイプです。有効なフィールド・タイプのリストについては、DB2 インフォメーション・センターで、INGEST コマンドの説明を参照してください。

ユーザーの処置: INGEST ユーティリティーがサポートするフィールド・タイプに訂正し、コマンドを再発行します。

SQL2924N フィールド *field-name* に DEFAULTIF パラメーターが指定されていますが、それに対応する列 *column-name* は生成列です。

説明: DEFAULTIF パラメーターを指定するフィールドは、述部または式では使用できません。コマンドは失敗しました。

ユーザーの処置: SQL ステートメントでのこのフィールドの使用法を変更するか、DEFAULTIF パラメーターを除去し、コマンドを再発行します。

SQL2925N フィールド *field-name* に DEFAULTIF パラメーターが指定されていますが、それに対応する列 *column-name* にはデフォルト値がありません。

説明: フィールド定義で DEFAULTIF パラメーターを指定した場合、フィールドの対応する列にはデフォルト値が必要です。コマンドは失敗しました。

ユーザーの処置: フィールド定義から DEFAULTIF パラメーターを削除するか、デフォルト値が存在する列に

フィールドが対応するように SQL ステートメントを変更し、INGEST コマンドを再発行します。

SQL2926N フィールド *field-name* に **DEFAULTIF** パラメーターが指定されていますが、それに対応する列 *column-name* には定数でも **NULL** でもないデフォルト値がありません。

説明: INGEST コマンドに **DEFAULTIF** パラメーターが指定されている場合、ターゲット表の対応する列のデフォルト値は定数または **NULL** でなければなりません。

ユーザーの処置: SQL ステートメントでのこのフィールドの使用法を変更するか、**DEFAULTIF** パラメーターを除去し、コマンドを再発行します。

SQL2927N 行 *line-number* のフィールド値およびフィールド *field-number* は、値タイプ *value-type* に変換できません。

説明: 示されたフィールドの値をこのフィールドのデータ・タイプに変換できないために、データ・タイプの不一致が存在する可能性があります。

ユーザーの処置: 入力ファイルを修正するか、フィールドのタイプを変更し、コマンドを再発行します。

SQL2928N 入力ソース *input-source* は名前付きパイプではありません。

説明: INGEST コマンドでデータ・ソースが名前付きパイプとして指定されていますが、それは名前付きパイプではありません。コマンドは失敗しました。

ユーザーの処置: 入力ソースが正しく指定されていることを確認し、コマンドを再発行します。

SQL2931N 名前付きパイプ *pipe-name* のオープン、読み取り、またはクローズでエラーが発生しました。

説明: INGEST コマンドで指定された名前付きパイプをオープン、読み取り、またはクローズできませんでした。ユーザー・エラー、環境の問題、または内部エラーが発生したためと考えられます。コマンドは失敗しました。

ユーザーの処置: IBM サービス担当者に連絡してください。

SQL2932N **INGEST** ユーティリティは、プロセス間通信 (IPC) リソースの割り振りを *number* 回試行した後に失敗しました。リソース・タイプ *resource-type-code*。

説明: INGEST ユーティリティは、プロセス間 IPC リソースの割り振りを、示された回数試行した後に失敗しました。リソース・タイプが以下のいずれかである可能性があります。

1. 共有メモリー
2. リスナー・キュー
3. セマフォ

通常、このメッセージは、リソースの割り振り試行時に発生したエラーを示す以前のメッセージに続けて出されます。

ユーザーの処置: 前のエラー・メッセージを調べて、発生したエラーを判別します。エラーを修正し、INGEST コマンドを再実行します。Linux および UNIX では、IPC リソースを割り振るためのシステム・リソースが十分にない場合には、**ipcrm** コマンドを使用して既存の IPC リソースを除去します。

SQL2933N **INGEST** コマンドにおいて、構成パラメーター *parameter* で求められている *seconds* 秒以内のデータの受け取りが行われませんでした。

説明: INGEST コマンドが失敗しました。

構成パラメーターが **TCPIP_TIMEOUT** である場合、INGEST コマンドは、クライアントが接続した後、少なくとも示された秒数の間、TCP/IP クライアントからデータを受け取りませんでした。

パラメーターが **PIPE_TIMEOUT** である場合、INGEST コマンドは、コマンドでパイプが開いた後、少なくとも示された秒数の間、パイプからデータを受け取りませんでした。

ユーザーの処置: 示された時間内にデータを送信するのに妨げとなっている問題がデータ・ソース (TCP/IP クライアントまたはパイプ) に存在しないことを確認します。データを送信するためにデータ・ソースでさらに時間が必要である場合には、関係する構成パラメーターの値を増やすか、それをタイムアウトなしの 0 に設定します。

SQL2934N サービス名 *service-name* のマップ先ポート番号 *port-number* が、許容値である *start-of-range* から *end-of-range* の範囲外にあります。

SQL2935W

説明: INGEST コマンドで指定された (または解決先の) ポート番号は、許容範囲内に含まれている必要があります。INGEST コマンドが失敗しました。

ユーザーの処置: 許容範囲内のポート、または範囲内のポート番号にマップするサービス名を指定して INGEST コマンドを再発行します。

SQL2935W データがフィールド長より長い場合、行番号 *line-number* およびフィールド番号 *field-number* のフィールド値は切り捨てられました。

説明: 示されたフィールドには、そのフィールドの長さより長い値が指定されています。値は切り捨てられました。例えば、そのフィールドが CHAR(3) として定義されているのに値が "ABCDEF" である場合、値は "ABC" に切り捨てられます。

ユーザーの処置: 切り捨てを容認できる場合には、これ以上のアクションは不要です。このメッセージを回避するには、これより長いフィールド長を INGEST コマンドで指定するか、フィールド値の長さがフィールドの長さ以下になるように入力データを編集します。

SQL2936N ホスト *host-name* にあるポート番号 *port-number* は、既に使用中です。

説明: そのポートは、別の稼働中アプリケーションによって使用されているため、INGEST コマンドで使用できません。INGEST コマンドが失敗しました。

ユーザーの処置: 使用されていないポートを指定して INGEST コマンドを再発行します。

SQL2937N フィールド *field-name* の DEFAULTIF 節は位置を指定していますが、定位置形式ではありません。

説明: INGEST コマンドで DEFAULTIF 節が指定されましたが、入力ファイルのフォーマットが POSITIONAL ではありません。コマンドは失敗しました。

ユーザーの処置: 以下のいずれかです。

- 入力データが区切り形式である場合には、DEFAULTIF 節から位置指定を除去します。
- 入力データが定位置形式である場合には、INGEST コマンドで FORMAT POSITIONAL を指定するように変更します。必要であれば、POSITION 節をそれぞれのフィールド定義に追加します。

SQL2938N フィールド *field-name* の開始/終了位置のペア *begin*、*end* が無効です。理由コード *reason-code*

説明: 入力の非区切り文字付き ASCII ファイル内にある、指摘されたデータベース列に対する入力データを位置指定するフィールド指定が、以下の理由コードによって示された理由で無効です。

- 1 開始位置が 0 です。
- 2 終了位置が開始位置より小さいです。
- 3 終了位置が 32 767 より大きいです。

INGEST コマンドが失敗しました。

ユーザーの処置: 理由コードで示された以下の処置を講じてから、コマンドを再サブミットします。

- 1 0 より大きい開始位置を指定します。
- 2 開始位置より大きい終了位置を指定します。
- 3 32 767 以下の終了位置を指定します。

SQL2939N コマンド・パラメーター *parameter* の値 *value* が、許容値である *start-of-range* から *end-of-range* の範囲外にあります。

説明: 示されたコマンド・パラメーターの現行値は、許容範囲外にあるため、無効です。

コマンドは失敗しました。

ユーザーの処置: コマンド・パラメーターに対して許容範囲内の値を指定してコマンドを再発行します。

SQL2940N INGEST ユーティリティは、バージョン *version* より前の DB2 サーバー・バージョンをサポートしません。

説明: INGEST ユーティリティは、メッセージで示されたバージョンより前の DB2 サーバーのバージョンにある表にデータを取り込む機能はサポートしません。

ユーザーの処置: メッセージで示されたバージョン以降のバージョンの DB2 サーバーに接続し、ユーティリティを再実行します。

SQL2941N フィールド *field-name* における長さ、精度、または位取りの *value* が無効です。

説明: フィールド定義のフィールド・タイプで指定されている長さ、精度、または位取りが無効です。このエラーの例を以下に示します。

- フィールドの最大長が 32767 であるため、CHAR(70000) を指定するフィールド定義は無効です。

ユーザーの処置: フィールド定義の長さ、精度、または位取りを訂正します。

SQL2942N フィールド *field-name* に **DEFAULTIF** 節が指定されていますが、このフィールドは複数の列と関連付けられているか、式の中で使用されています。

説明: フィールド定義で **DEFAULTIF** が指定されている場合、そのフィールドは 1 つの列だけに割り当てる必要があります、その列に割り当てられた式の一部を構成することはできません。例えば、次の **INGEST** コマンドを考慮します。

```
INGEST FROM FILE my_file.txt FORMAT DELIMITED
...
UPDATE my_table
SET (c1, c2, c3, c4, c5) =
    ($field1, $field2, $field2,
     $field3, $field4+$field5)
WHERE $field3 = 1;
```

\$field1 だけに **DEFAULTIF** を指定できます。\$field2 は、複数の列に割り当てられているため、これを指定できません。\$field3 は、述部でも使用されているため、指定できません。\$field4 および \$field5 は、式で使用されているため、これを指定できません。

ユーザーの処置: **DEFAULTIF** 修飾子を除去します。あるいは、フィールドが 1 つの列だけに割り当てられ、かつその列に割り当てられた式の一部にフィールドが使用されないように **SQL** ステートメントを変更します。

SQL2943N **SQL** ステートメント内の更新される列がすべて **GENERATED ALWAYS** として定義されているため、**INGEST** ユーティリティーは表を更新できません。

説明: 以下のいずれかに該当する場合、**INGEST** ユーティリティーは表に対する挿入または更新ができません。

- **INGEST** コマンドの **SQL** ステートメントが **INSERT** (**MERGE** ステートメントの一部となっているものを含む) であり、以下のいずれかに該当する。

- 表名の後に指定されたすべての列が **GENERATED ALWAYS** として定義されている。
- 表名の後に列は指定されていないが、表の非表示列を除くすべての列が **GENERATED ALWAYS** として定義されている。

- **INGEST** コマンドの **SQL** ステートメントが **UPDATE** (**MERGE** ステートメントの一部となっているものを含む) であり、**SET** 節に指定されたすべての列が **GENERATED ALWAYS** として定義されている。

ユーザーの処置: **GENERATED ALWAYS** として定義されていない列を少なくとも 1 つ指定するように、コマンドを変更します。

SQL2944N フィールド数が、表内の指定された列または暗黙に指定されている列の数と同じではありません。

説明: **INGEST** コマンドで **INSERT** ステートメントを指定するときに **VALUES** 節を指定しなかった場合、フィールド数は、表内の指定された列または暗黙に指定されている列の数と同じでなければなりません。(暗黙に指定されている列の数は、表内の非表示列を除く列の数を指します。)

例えば、以下の **INGEST** コマンドでは 2 つのフィールドに対し 3 つの列が指定されています。

```
INGEST FROM FILE my_file.del FORMAT DELIMITED
($field1 INTEGER EXTERNAL, $field2 CHAR(32))
INSERT INTO my_table(col1, col2, col3);
```

ユーザーの処置: 指定または暗黙指定された表列の数とフィールド数が同じになるようにコマンドを変更するか、**INSERT** ステートメントに **VALUES** 節を追加します。

SQL2945N タイプ **DB2SECURITYLABEL** のフィールドでは、区切り文字付きファイルに **NAME** または **STRING** を指定する必要があります。

説明: **INGEST** コマンドで **FORMAT DELIMITED** を指定する場合、タイプ **DB2SECURITYLABEL** のすべてのフィールドで、**NAME** または **STRING** 修飾子を指定する必要があります。

ユーザーの処置: タイプ **DB2SECURITYLABEL** のすべてのフィールドに **NAME** または **STRING** 修飾子を追加します。

SQL2946N INGEST コマンドに、このファイル・フォーマットのフィールド・リストが含まれている必要があります。

説明: INGEST コマンドでは、区切り形式の場合のみフィールド・リストを省略できます。定位置形式の場合には、フィールド・リストを指定する必要があります。

ユーザーの処置: INGEST コマンドにフィールド・リストを追加します。

SQL2947N ID が *job-id* である取り込みジョブが見つかりませんでした。

説明: 示された ID を持つ取り込みジョブが見つからなかったため、コマンドは失敗しました。

ユーザーの処置:

- INGEST GET STATS コマンドを発行する場合、まだ実行中である取り込みジョブの ID を指定します。これらの ID を表示するには、INGEST LIST コマンドを発行します。
- INGEST コマンドに RESTART パラメーターを指定して発行する場合、再開データがまだ取り込み再開表にある取り込みジョブの ID を指定します。これらの ID を表示するには、次の照会を発行します。

```
SELECT jobid FROM systools.ingestrestart
```

SQL2948N INGEST コマンドは、列 *column-name* で使用されているデータ・タイプ *data-type* をサポートしません。

説明: INGEST コマンドは、示されたデータ・タイプを持つ列を更新できません。

ユーザーの処置: INGEST コマンドからこの列名を除去するか、示された列が更新されないようにコマンドの SQL ステートメントを変更します。

SQL2949N 列に割り当てられた値または述部で使用される値が長すぎるか範囲外です。

説明: このメッセージの前に、入力ソース名と行番号を示すメッセージが表示されます。示された入力レコード内のいずれかのフィールドが、表列において長すぎるか範囲外です。

ユーザーの処置: 別の表を指定するか、入力データを以下のように編集します。

- 表の数値列に対応するすべてのフィールド値が、この列のデータ・タイプの範囲内である。
- 表の文字列に対応するすべてのフィールド値が、この列の長さ以下の長さである。

SQL2950N ビュー *view-name* の基本表が、複数のセキュリティ・ポリシーによって保護されています。

説明: 更新可能ビューに取り込みを行い、そのビューに複数の基本表があるとき、セキュリティ・ポリシーによって保護されている基本表は、すべて同じセキュリティ・ポリシーによって保護される必要があります。

ユーザーの処置: 以下のいずれかです。

- 別の表またはビューを指定します。
- セキュリティ・ポリシーによって保護されている基本表がすべて同じセキュリティ・ポリシーによって保護されるように、基本表を変更します。

SQL2951N セキュリティ・ポリシー *security-policy* が見つかりませんでした。

説明: INGEST コマンドで指定された表は、示された ID を持つセキュリティ・ポリシーで保護されていますが、カタログ・ビュー SYSCAT.SECURITYPOLICIES にはその ID のセキュリティ・ポリシーがありません。

ユーザーの処置: 有効なセキュリティ・ポリシーで保護されるように表を変更します。問題が解決しない場合は、IBM 技術サポートに連絡してください。

SQL2952N コード・ページ *code-page* が無効なコード・ページであるか、クライアントのコード・ページと互換性がないか、または INGEST コマンドでサポートされません。

説明: INGEST コマンドの INPUT CODEPAGE パラメーターで指定されているコード・ページ番号は、以下のいずれかの理由で無効です。

- この番号は無効なコード・ページです。
- DB2 または INGEST コマンドはこのコード・ページをサポートしません。
- このコード・ページはクライアントのコード・ページと互換性がありません。

ユーザーの処置: INPUT CODEPAGE パラメーターのコード・ページ番号を訂正し、コマンドを再発行します。

SQL2953N 行 *line-number* のバイト位置 *number* から始まるフィールド値は、値タイプ *field-type* に変換できません。

説明: 示されたバイト位置にあるフィールド値をこのフィールドのデータ・タイプに変換できないために、デー

タ・タイプの不一致が存在する可能性があります。

ユーザーの処置: 入力ファイルを修正するか、フィールドのタイプを変更し、コマンドを再発行します。

SQL2954N INGEST コマンドで指定できるフィールド定義は、最大 *number* 個です。

説明: INGEST コマンドは、許可された数を超えてフィールド定義が指定されたため、失敗しました。

ユーザーの処置: フィールド定義の数がメッセージで示された最大数以下になるように、コマンドからフィールド定義を除去します。

SQL2955N INGEST ユーティリティは、ファイル *filename* を検出できませんでした。

説明: INGEST ユーティリティに必要なファイルが見つかりませんでした。DB2 Data Server Client または DB2 Data Server Runtime Client のインストールが不完全であるか、損傷を受けた可能性があります。

ユーザーの処置: DB2 Data Server Client または DB2 Data Server Runtime Client を再インストールします。

SQL2957N INGEST ユーティリティは、再開ログ表 *table-name* を検出できませんでした。

説明: INGEST コマンドで RESTART パラメーターを省略したか (この場合、デフォルトの RESTART NEW になる)、以下のいずれかが指定されました。

- RESTART NEW
- RESTART CONTINUE
- RESTART TERMINATE

INGEST コマンドを再開可能にするには、まず再開ログ表を作成する必要があります。

ユーザーの処置:

- INGEST コマンドを再開可能にしない場合、コマンドを再発行し、RESTART OFF を指定します。
- 直前の INGEST コマンドの再開情報をクリーンアップする場合は、再開ログ表が存在しないので、アクションは不要です。
- INGEST コマンドを再開可能にする場合は、まず再開ログ表を作成し、INGEST コマンドを再発行します。
 - サーバーがバージョン 10.1 である場合は、以下のようにパラメーターを設定してプロシージャ SYSPROC.SYSINSTALLOBJECTS を実行します。

- *tool-name:* 'INGEST'

- *action:* 'C'

- *tablespace-name:* DB2 インフォメーション・センターの説明どおり

- *schema-name:* NULL

- サーバーが V9.5、V9.7、または V9.8 である場合は、以下の SQL ステートメントを発行します。

```
CREATE TABLE SYSTOOLS.INGESTRESTART (
  JOBID          VARCHAR(256) NOT NULL,
  APPLICATIONID VARCHAR(256) NOT NULL,
  FLUSHERID     INT          NOT NULL,
  FLUSHERDISTID INT          NOT NULL,
  TRANSPORTERID INT          NOT NULL,
  BUFFERID      BIGINT       NOT NULL,
  BYTEPOS       BIGINT       NOT NULL,
  ROWSPROCESSED INT          NOT NULL,
  PRIMARY KEY (JOBID,
               FLUSHERID,
               TRANSPORTERID,
               FLUSHERDISTID))
  IN your-tablespace
  DISTRIBUTE BY (FLUSHERDISTID);
```

```
GRANT SELECT, INSERT, UPDATE, DELETE
  ON TABLE SYSTOOLS.INGESTRESTART TO PUBLIC;
```

SQL2958N INGEST コマンドは再開できませんでした。入力ソースの数、または NUM_FLUSHERS_PER_PARTITION の設定のいずれかが元の INGEST コマンドと一致しないためです。元の入力ソースの数: *number-of-input-sources*。元の NUM_FLUSHERS_PER_PARTITION の値: *number-of-flushers*。現在の入力ソースの数: *number-of-input-sources*。現在の NUM_FLUSHERS_PER_PARTITION の値: *number-of-flushers*。

説明: INGEST コマンドで RESTART CONTINUE が指定されました。失敗した INGEST コマンドを再開するには、再開するコマンドが以下の要件を満たす必要があります。

- NUM_FLUSHERS_PER_PARTITION 構成パラメーターが、元のコマンドのときと同じでなければなりません。
- 入力ファイルまたはパイプからのデータである場合には、入力ファイルまたは入力パイプの数が元のコマンドのときと同じでなければなりません。

要件の包括的なリストについては、DB2 インフォメーション・センターで、INGEST コマンドのトピックを参照してください。

ユーザーの処置: 以下のいずれかです。

- NUM_FLUSHERS_PER_PARTITION 構成パラメーターを、元の INGEST コマンドが実行されたときの値に設定します。

SQL2959W

- 再開される INGEST コマンドを変更して、元のコマンドのときと同じ数のファイルまたはパイプを指定します。
- RESTART CONTINUE パラメーターを除去します。この場合コマンドは、失敗したコマンドが中断した場所から再開する代わりに、始めから開始します。

SQL2959W ユーティリティは、この後に示されるエラーから復旧しました。理由コード
reason-code再接続回数: number. 再試行回数: number.

説明: INGEST ユーティリティは、このメッセージに続いて示されるエラーを受け取りましたが、COMMITの発行、または ROLLBACK の発行と SQL ステートメントの再発行によりエラーから復旧しました。このユーティリティは、ステートメントをメッセージで示された回数再発行しました。以下の理由コードは、ユーティリティがエラーからどのように復旧したかを示しています。

1

ユーティリティは、取り込み構成パラメーター COMMIT_PERIOD または COMMIT_COUNT で要求されているよりも早くコミットを発行することにより復旧しました。この理由コードの場合、再接続回数および再試行回数は "0" です。

2

ユーティリティは、ROLLBACK を発行し、指定された回数の再接続または再試行を行うことにより復旧しました。

ユーザーの処置: このメッセージを受け取らないようにするには、このメッセージの後に示されるエラー・メッセージの説明を参照し、必要な修正処置を行います。

エラー・メッセージが SQL0911N である場合には、理由コードに応じて以下のいずれかの処置を行うことができます。

- 理由コード 2: COMMIT_COUNT、COMMIT_PERIOD、または NUM_FLUSHERS_PER_PARTITION いずれかの取り込み構成パラメーターを小さくする。
- 理由コード 68: COMMIT_COUNT または COMMIT_PERIOD いずれかの取り込み構成パラメーターを小さくするか、locklist または maxlocks いずれかのデータベース構成パラメーターを大きくする。

SQL2960N 行 *row-number* には、ターゲット表の無効なセキュリティ・ラベル・ストリングが含まれています。

説明: フィールド定義は DB2SECURITYLABEL STRING を指定していますが、入力ソースの対応するフィールドの値は無効なセキュリティ・ラベル・ストリングです。行はロードされません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかです。

- フィールド定義が正しい場合、入力ソースのフィールド値を変更して、有効なセキュリティ・ラベル・ストリングを指定します。
- 入力ソースのフィールド値がバイナリーのセキュリティ・ラベルである場合、フィールド定義から STRING キーワードを削除します。
- 入力ソースのフィールド値がセキュリティ・ラベル名である場合、フィールド定義を変更して、DB2SECURITYLABEL NAME を指定します。

SQL2961N INGEST コマンドで指定できる入力ファイル名またはパイプ名は、最大 *number* 個です。

説明: INGEST コマンドは、許容数を超える入力ファイル名またはパイプ名が指定されたため、失敗しました。

ユーザーの処置: 入力ファイル名またはパイプ名の数がメッセージで示された最大数以下になるように、コマンドから入力ファイル名またはパイプ名を除去します。

SQL2962N 再開がオンになっている場合、INGEST コマンドで指定されているニックネームのサーバー・オプション **DB2_TWO_PHASE_COMMIT** を 'Y' に設定する必要があります。

説明: INGEST ユーティリティは、以下のすべてが当てはまる場合に、このメッセージを発行します。

- INGEST コマンドで RESTART パラメーターが省略されているか、RESTART NEW または RESTART CONTINUE が指定されています。
- ターゲット表がニックネームです。
- ニックネームに対する挿入または更新を試行すると、ユーティリティは理由コード 18 でメッセージ SQL30090N を受け取ります。

ユーティリティはニックネームが参照するリモート表と再開ログ表 (ローカル) の両方を更新する必要があるため、SQL30090 エラーが発生します。これには 2 フェーズ・コミット・プロトコルが必要ですが、ニックネ

ームを含んだサーバー定義がサーバー・オプション DB2_TWO_PHASE_COMMIT を 'Y' に設定して定義されていません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを行ってください。

- ニックネームを含んだサーバー定義を、サーバー・オプション DB2_TWO_PHASE_COMMIT 'Y' を指定するように変更します。例えば、次のようにします。

```
ALTER SERVER my_server
  OPTIONS(ADD DB2_TWO_PHASE_COMMIT 'Y')
```

SET SERVER OPTION コマンドが CLP 接続だけに影響を与えるのに対し、INGEST ユーティリティーはその独自の接続を確立するため、コマンド SET SERVER OPTION を使用して取り込みユーティリティーに対して DB2_TWO_PHASE_COMMIT オプションを設定することはできません。カタログのサーバー定義でサーバー・オプションを設定する必要があります。

- サーバー・オプション DB2_TWO_PHASE_COMMIT を 'Y' に設定したニックネームを指定します。
- INGEST ユーティリティーが再開ログ表に再開情報を保持しないように RESTART OFF を指定します。
- ニックネームではないターゲット表を指定します。

SQL2963N フィールド *field-name* の POSITION パラメーターで指定された開始位置または終了位置が無効です。

説明: フィールド定義で長さが指定されていない場合、INGEST ユーティリティーは長さとして end_position - start_position + 1 を使用します。この長さには、次の制限が適用されます。

- EXTERNAL 修飾子を指定したタイプ SMALLINT、INTEGER、BIGINT、DECIMAL、REAL、FLOAT、および DECFLOAT のフィールドの最大長は 50 です。
- タイプ DATE、TIME、および TIMESTAMP(p) のフィールドに書式制御ストリングを指定する場合、フィールド長は、書式制御ストリングと一致する最も小さい値の長さ以上でなければなりません。
- 書式制御ストリングが指定されていない場合は、次のようになります。
 - DATE の場合、フィールド長は 8 から 10 の間でなければなりません。
 - TIME の場合、フィールド長は 4 から 8 の間でなければなりません。
 - TIMESTAMP の場合、フィールド長は 19 から 32 の間でなければなりません。

ユーザーの処置: 数値フィールドの場合は、フィールド

長または終了位置を訂正してください。フィールド DATE、TIME、または TIMESTAMP の場合は、書式制御ストリングまたは終了位置を訂正してください。

SQL2964N 取り込みジョブ *job-ID* がまだアクティブであるため、INGEST コマンドを再開できません。

説明: INGEST コマンドは、実行中の別の INGEST コマンドのジョブ ID を使って再開することはできません。

ユーザーの処置: 示されているジョブ ID を使用して取り込みジョブを再始動する予定であった場合は、ジョブがまだ実行中であるため、アクションは不要です。ジョブが失敗した場合は、示されているジョブ ID を使用して再開することができます。

別の取り込みジョブを再開する予定であった場合は、そのジョブのジョブ ID を指定してください。

SQL2965I 表 *table-name* に対する SQL ステートメント *sql-statement* の発行中に警告またはエラーが発生しました。

説明: このメッセージは、以下のメッセージのエラーが発生したときに操作されていた表を示します。表が再開表 (systools.ingestrestart) である場合、その再開表に破損、損傷、または欠落が発生した可能性があります。

ユーザーの処置: 表が再開表 (systools.ingestrestart) である場合、次のようにします。

- INGEST コマンドでその他のエラーが発生せず、正常に完了する場合は、アクションは不要です。今後このメッセージを受け取りたくない場合には、SQL 操作失敗の原因となったエラーを訂正します。
- さらに他のエラーが発生して INGEST コマンドが失敗する場合、以下を行います。
 1. SQL 操作失敗の原因となったエラーを訂正します。
 2. INGEST コマンドに RESTART TERMINATE '*jobID*' を指定して実行し、再開表からこのジョブの項目を削除します。(*jobID* は、失敗した INGEST コマンドのジョブ ID です。これは、INGEST コマンドの RESTART NEW パラメーターで指定した ID か、INGEST コマンドによって生成されたジョブ ID のいずれかです。)
 3. 元の INGEST コマンドを最初から実行します。(RESTART CONTINUE は指定しないでください。)
 4. それでも問題が解決されず、再開表にその他の取り込みジョブに関する情報が何も含まれていない場合は、SYSPROC.SYSINSTALLOBJECTS プロシ

ージャーを実行して、再開表をドロップして再作成します。再開表を作成した後、ステップ 3 を繰り返します。

- それでも問題が解決しない場合は、IBM 技術サポートに連絡してください。

表が再開表でない場合は、IBM 技術サポートに連絡してください。

SQL2966I データベースへの接続中に以下の警告またはエラーが発生しました。データベース名またはローカル別名: *dbname*。ユーザー ID: *user-ID*

説明: INGEST ユーティリティがデータベースに接続し、警告またはエラーが発生すると、ユーティリティはこのメッセージを発行し、警告メッセージまたはエラー・メッセージがそれに続きます。

ユーザーの処置: このメッセージに続いて出されるメッセージに関するユーザー応答を参照してください。それでも問題が解決しない場合は、次のことを確認してください。

- データベースまたは別名が存在し、INGEST が実行されているマシン上で正しくカタログされている。データベース・ディレクトリ項目でノード名が指定される場合、ノードが正しくカタログされていることを確認します。
 - ノード定義でサービス名が指定される場合、次のことを確認します。
 - INGEST が実行されているマシン上で、サービス名が正しいポート番号にマップされている。
 - データベース・サーバーはそのポート番号で listen している。
 - ノード定義でポート番号が指定される場合、指定されたポート番号でデータベース・サーバーが listen していることを確認します。
- 示されているユーザー ID とそれに対応する DB2 許可 ID に、データベース・サーバーに接続する権限があることを確認します。

問題が INGEST ユーティリティにあるか、またはそれ以外の場所にあるかを判別するために、次のようにして、メッセージで示されているパラメーターを使用してデータベース・サーバーに直接接続してみてください。

```
db2 "CONNECT TO dbname USER user USING pwd"
```

SQL2967I データベース・パーティションへの接続中に以下の警告またはエラーが発生しました。パーティション番号: *number*。サーバー上のデータベース名: *dbname*。ホスト名: *hostname*。サービス名またはポート番号: *service-name-or-port-number*。ユーザー ID: *user-ID*。

説明: INGEST ユーティリティが DPF 環境で実行され、各ターゲット表の分散キーの値を判別できる場合、取り込みユーティリティは各データベース・パーティションに直接接続します。ユーティリティがデータベース・パーティションに接続し、警告またはエラーが発生すると、ユーティリティはこのメッセージを発行し、警告メッセージまたはエラー・メッセージがそれに続きます。

ユーザーの処置: このメッセージに続いて出されるメッセージに関するユーザー応答を参照してください。それでも問題が解決しない場合は、次のことを確認してください。

- CLP で接続されているデータベースが、INGEST が実行されているマシン上で正しくカタログされている。データベース・ディレクトリ項目でノード名が指定される場合、ノードが正しくカタログされていることを確認します。
- INGEST が実行されているマシンから、示されているホストへのアクセスが可能であること。
- メッセージでサービス名が示される場合、次のことを確認します。
 - INGEST が実行されているマシン上で、サービス名が正しいポート番号にマップされている。
 - データベース・サーバーはそのポート番号で listen している。
- メッセージでポート番号が示される場合、示されているポート番号でデータベース・サーバー・パーティションが listen していることを確認します。
- 示されているユーザー ID とそれに対応する DB2 許可 ID に、データベース・サーバー・パーティションに接続する権限があることを確認します。

問題が INGEST ユーティリティにあるか、またはそれ以外の場所にあるかを判別するために、メッセージで示されているパラメーターを使用してデータベース・サーバー・パーティションに直接接続してみてください。例えば、次のようにします。

```
db2 "SET CLIENT CONNECT_DBPARTITIONNUM num"
db2 "CONNECT TO dbname USER userID USING password"
```

SQL2968N 数値が必要な場所で非数値のフィールド値が使用されています。

説明: このメッセージの前に、入力ソース名と行番号を示すメッセージが表示されます。示された入力レコード内のいずれかのフィールドに非数値が入っていますが、これが使用されている場所では数値が必要です。

ユーザーの処置: 以下のいずれかです。

- INGEST コマンドの SQL ステートメントを変更し、数値が必要な場所では、非数値が入り得るフィールドを使用しないようにします。
- 入力データを編集し、数値が必要な場所で使用されるすべてのフィールドに数値が入るようにします。

SQL2969N 分散キーの列にマップされるフィールドに、その列のタイプとしては無効な値または範囲外の値が入っています。ユーティリティはこの入力レコードを事前パーティション化できません。フィールド値: *field-value*。列のタイプ: *column-type*。列の長さ: *number*。

説明: パーティション・データベース環境では、ユーティリティは、分散キーの列にマップされるフィールドの値を調べ、その値によってレコードの送信先パーティションを決定します。フィールドの値が、対応する分散キーの列のタイプとしては無効である場合または範囲外である場合に、ユーティリティはこのメッセージを発行します。例えば、分散キーの列のタイプが INTEGER であるのに、そのフィールドに「ABC」が入っている場合に、ユーティリティはこのメッセージを発行します。「列のタイプ」は、フィールドに対応する分散キーの列のタイプです。「列の長さ」は、バイト単位の列の長さです。

ユーティリティは、このレコードを DB2 に送信しません。DUMPFIL パラメーターが指定されている場合は、ユーティリティは、このレコードをダンプ・ファイルに書き込みます。

ユーザーの処置: このメッセージを受け取らないようにするには、入力データのフィールド値を訂正してください。

SQL2970N データベース *db-name* はノード *node-name* を使用していますが、ユーティリティは、そのノードをノード・ディレクトリ内に見つけられませんでした。

説明: データベース・ディレクトリには、指定されたデータベースのエントリが入っていますが、そのエントリには、存在しないノードが指定されています。

ユーザーの処置: ノードを定義するか、またはデータベース・ディレクトリ内のエントリを変更して、存在するノードを指定してください。

SQL2972N 1 つ以上のコマンド・パラメーターまたは入力データが元のコマンドと矛盾しているため、INGEST コマンドを再開できません。

説明: INGEST コマンドに RESTART CONTINUE が指定されていますが、以下の状況の 1 つ以上に該当しています。

1. ターゲット表と再開表 (SYSTOOLS.INGESTRESTART) が、異なる表スペース内にありますが、これらの 2 つの表スペースはレベルが異なっています。
2. 指定された取り込みジョブ ID に属する再開表のレコードが、INGEST ユーティリティ以外によって変更されています。
3. 再開する INGEST コマンドの入力ファイルまたは入力パイプが、元のコマンドと同じレコードを同じ順序で提供していません。
4. 以下の INGEST コマンド・パラメーターの 1 つ以上が、元のコマンドと異なっています。
 - SQL ステートメント。
 - フィールド数および全フィールド属性を含む、フィールド定義リスト。
5. SQL コマンドで更新されるターゲット表の列の 1 つ以上が、元のコマンドのときの定義と異なる定義になっています。
6. Database Partitioning Feature 環境の場合:
 - 元の INGEST コマンドが実行された後に、データベース・パーティションが追加または削除されています。
 - 元の INGEST コマンドが実行された後に、パーティション間でデータが再配分されています。

ユーザーの処置: ユーザー応答は、どの制約が違反されたかによって異なります。

1. ターゲット表および再開表が入っている表スペースをリストアして、それらの表スペースを同じレベルにします。
2. 再開表の内容を復元します。
3. 元のコマンドと同じレコードを同じ順序で提供する、入力ファイルまたは入力パイプを指定します。
4. 元のコマンドと一致するように、INGEST コマンドの SQL ステートメントおよびフィールド定義リストを変更します。

5. INGEST コマンドのターゲット表の名前が正しくない場合は、正しい名前を指定します。INGEST コマンドのターゲット表が、元の INGEST コマンドの後に変更された場合は、失敗した INGEST コマンドを再開することはできません。元の INGEST コマンドを最初から実行する必要があります。
6. データベース・パーティションの追加や削除、またはパーティション間でのデータの再配分を実行した場合は、失敗した INGEST コマンドを再開することはできません。元の INGEST コマンドを最初から実行する必要があります。

SQL2973N タイプ *field-type* のフィールド *field-name* に、無効な書式制御ストリング *format-string* が指定されています。

説明: フィールド定義に、有効ではない日付、時刻、またはタイム・スタンプの書式制御ストリングが指定されています。

有効な日付、時刻、またはタイム・スタンプの書式制御ストリングについては、DB2 インフォメーション・センターのセクション『インポート・ユーティリティー用のファイル・タイプ修飾子』に説明があります。書式制御ストリングを INGEST コマンドに指定する場合、単一引用符で囲む必要があります。

ユーザーの処置: 書式制御ストリングが単一引用符で囲まれていること、および有効な書式であることを確認してください。INGEST コマンドを再実行してください。

SQL2974N 1 次データベース接続が失われたため、INGEST コマンドを続行できません。

説明: INGEST コマンドの初期化中に、1 次データベース接続が失われました。DB2 診断ログ・ファイルに追加情報が入っている可能性があります。

ユーザーの処置: 接続が失われた原因となった問題を解決します。接続を再確立して INGEST コマンドを再実行します。

SQL2975N INGEST コマンドが再開可能である場合、RECONNECT_COUNT 取り込み構成パラメーターは 0 に設定されていなければなりません。

説明: RECONNECT_COUNT 取り込み構成パラメーターに 0 より大きい値が設定されているのに、INGEST コマンドの RESTART パラメーターが省略されているか (この場合デフォルトの NEW となります)、RESTART NEW または RESTART CONTINUE が指定されています。

ユーザーの処置: RECONNECT_COUNT 取り込み構成

パラメーターに 0 を設定するか、または RESTART OFF を INGEST コマンドに指定してください。

SQL2976W フィールド *field-name* に、長さおよび終了位置に関して矛盾する値が指定されています。理由コード *reason-code*

説明: フィールド長とフィールドの終了位置との間に矛盾があります。示されている理由コードから、矛盾内容およびユーティリティーによる解決方法がわかります。

1

フィールド・タイプは 2 進法の SMALLINT、INTEGER、または BIGINT です。(終了位置) - (開始位置) + 1 によって指定される長さは 2、4、または 8 ですが、フィールド・タイプの長さとは一致していません。ユーティリティーは、指定された終了位置を使用します。

例えば、フィールド定義が SMALLINT POSITION(1:4) の場合、SMALLINT は 2 バイトですがユーティリティーは 4 バイト読み取ります。フィールドに SMALLINT の範囲外の値が入っている場合、ユーティリティーは、そのフィールド値を SMALLINT に変換しようとするときにエラーを発行します。

2

フィールド・タイプは 2 進法の SMALLINT、INTEGER、または BIGINT ですが、(終了位置) - (開始位置) + 1 によって指定される長さが 2、4、または 8 のいずれでもありません。ユーティリティーは、フィールド・タイプの長さとは一致するように終了位置を調整します。

例えば、フィールド定義が SMALLINT POSITION(1:3) の場合、ユーティリティーは終了位置を 2 に調整します (SMALLINT は 2 バイトであるため)。

3

フィールド・タイプは 2 進法の DECIMAL、REAL、FLOAT、または DECFLOAT ですが、(終了位置) - (開始位置) + 1 によって指定される長さがフィールド・タイプの長さとは矛盾しています。ユーティリティーは、フィールド・タイプの長さとは一致するように終了位置を調整します。

例えば、フィールド定義が REAL POSITION(1:5) の場合、ユーティリティーは終了位置を 4 に調整します (REAL は 4 バイトであるため)。

4

フィールド・タイプに指定されたフィールド長が、(終了位置) - (開始位置) + 1 と矛盾しています。指定された長さが (終了位置) - (開始位置) + 1 を超えている場合、ユーティリティは長さを (終了位置) - (開始位置) + 1 に調整します。指定された長さが (終了位置) - (開始位置) + 1 より短い場合、ユーティリティは、(開始位置) + 長さ - 1 に終了位置を調整します。

例えば、フィールド定義が CHAR(10) POSITION(1:8) の場合、ユーティリティは長さを 8 に調整します。フィールド定義が CHAR(8) POSITION(1:10) の場合、ユーティリティは終了位置を 8 に調整します。

ユーザーの処置: このメッセージを受け取らないようにするには、理由コードおよび入力ソースのデータ形式に応じて以下のいずれかを実行します。

1

フィールド・タイプまたは終了位置を変更します。

2

フィールド・タイプまたは終了位置を変更します。

3

フィールド・タイプ、精度、位取り、または終了位置を変更します。

4

フィールドの終了位置または長さを変更します。

SQL2977I 前のエラーのため、INGEST ユーティリティは終了します。

説明: ユーティリティは、続行を妨げるエラーを受け取りました。ユーティリティは終了します。

このエラーの前にコミットされていた行は、表に残されません。

ユーザーの処置: 前のエラー・メッセージの説明およびユーザー応答を参照してください。

INGEST コマンドに RESTART NEW を指定していた場合、または RESTART オプションを省略していた場合は (この場合はデフォルトの NEW になります)、エラーを修正し、同じ INGEST コマンドに RESTART CONTINUE を指定して再実行してください。

SQL2978I 以下のエラーが発生し、number 回の再接続および number 回の再試行を実行しましたが、INGEST ユーティリティはリカバリーできませんでした。理由コード: reason-code

説明: 取り込み構成パラメーター

RECONNECT_COUNT または RETRY_COUNT に 0 より大きい値が設定されており、ユーティリティはリカバリー可能エラーを受け取りました。ユーティリティはエラーからのリカバリーを試みましたが、理由コードの示す理由のため、リカバリーできませんでした。

1

再接続の試行回数が、RECONNECT_COUNT 取り込み構成パラメーターの値に達しました。

2

再試行の回数が、RETRY_COUNT 取り込み構成パラメーターの値に達しました。

3

ユーティリティが中断されたか、または強制終了するエラーが発生しました。

ユーザーの処置: このメッセージの後に示されるエラー・メッセージの説明を参照し、必要な修正処置を行います。

エラー・メッセージが SQL0911N である場合には、SQL0911N 理由コードに応じて以下のいずれかの処置を行うこともできます。

- 理由コード 2: COMMIT_COUNT、COMMIT_PERIOD、または NUM_FLUSHERS_PER_PARTITION 取り込み構成パラメーターの値を小さくする。
- 理由コード 68: COMMIT_COUNT または COMMIT_PERIOD 取り込み構成パラメーターの値を小さくするか、locklist または maxlocks データベース構成パラメーターを大きくする。

エラーを簡単に回避できない場合、ユーティリティをリカバリーするには、現行メッセージ (SQL2978I) で受け取った理由コードに応じて以下の取り込み構成パラメーターのうち、1 つ以上の設定を大きくしてください。

- 理由コード 1 の場合:
 - RECONNECT_COUNT
 - RECONNECT_PERIOD
- 理由コード 2 の場合:
 - RETRY_COUNT
 - RETRY_PERIOD

SQL2979I INGEST ユーティリティは *timestamp* に開始されました。

説明: INGEST ユーティリティは、示されたタイム・スタンプに開始されました。ユーティリティは、ジョブ ID を示すメッセージも発行します。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL2980I INGEST ユーティリティは、タイム・スタンプ *timestamp* に正常に完了しました

説明: INGEST ユーティリティは、警告もエラーも出さずに完了しました。

ユーザーの処置: ユーザーの応答は不要です。

SQL2981N システム関数またはシステム・コマンドを呼び出し中にエラーが発生しました。関数またはコマンド: *function-or-command-name*。理由コード: *reason-code* 追加トークン: *additional-tokens*。

説明: オペレーティング・システムの関数またはコマンドを呼び出し中に、予期しないエラーが発生しました。理由コードには、以下のものがあります。

1

コマンドが /usr/bin または /bin のいずれにも見つかりませんでした。この理由コードの場合、当メッセージの「追加トークン」フィールドはブランクです。

2

関数またはコマンドが、当メッセージの「追加トークン」フィールドに示すシステム・エラー・コードで失敗しました。UNIX の場合、エラー・コードはシステム・ヘッダー・ファイル *errno.h* に定義されています。Windows のエラー・コードについては、Microsoft の資料を参照してください。

3

関数またはコマンドが、予期される形式で出力を戻しませんでした。当メッセージの「追加トークン」フィールドに、その出力の最後の行を示しています。

ユーザーの処置: ユーザー応答は、理由コードに応じて異なります。

1

指定されたコマンドが /usr/bin または /bin にインストールされていて、実行可能であること

を確認します。これが問題ではない場合は、IBM 技術サポートに連絡してください。

2

システム・エラー・コードによって問題を解決できない場合は、IBM 技術サポートに連絡してください。

3

コマンドまたは関数が、オペレーティング・システムに付属していたバージョンであって、インストール済み環境用に作り替えられたバージョンではないことを確認します。これが問題ではない場合は、IBM 技術サポートに連絡してください。

SQL2982W 許可 ID *auth-ID* は、現在 INGEST コマンドを実行していません。

説明: INGEST LIST または INGEST GET STATS コマンドが発行されましたが、現在データベースに接続している許可 ID は、INGEST コマンドを実行していません。先程、この許可 ID で別のセッションから INGEST コマンドを発行したという場合は、コマンドの初期化が完了していないか、あるいは既にコマンドが終了している可能性があります。

ユーザーの処置: 先程、この許可 ID で別のセッションから INGEST コマンドを発行し、まだコマンドが完了していない場合は、コマンドの初期化が完了するまで数秒待ってください。そうすれば、コマンドは、INGEST LIST または INGEST GET STATS の出力に表示されるようになります。

第 7 章 SQL3000 - SQL3499

SQL3001C 出力ファイルのオープン中に入出力エラー (理由 = *reason*) が発生しました。

説明: 出力ファイルをオープンしているときに、システム入出力エラーが発生しました。

コマンドは処理されません。データは処理されません。

ユーザーの処置: IMPORT/LOAD の場合は、出力ファイルが存在することを確認してください。EXPORT の場合は、出力メディアに、十分なフリー・スペースがあることを確認してください。正しいパスの入った、有効な出力ファイル名を使用して、コマンドの再サブミットをしてください。追加情報については、メッセージ・ファイル調べてください。

SQL3002C 出力データ・ファイルへの書き込み中に入出力エラーが発生しました。

説明: 出力データ・ファイルへ書き出しているときに、システム入出力エラーが発生しました。出力が完了していないか、またはディスクがいっぱいの可能性があります。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 出力データ・ファイルが完全でない場合には、それを消去して、コマンドの再サブミットをしてください。

SQL3003C 出力データ・ファイルのクローズ中に入出力エラーが発生しました。

説明: 出力データ・ファイルをクローズしているときに、システム入出力エラーが発生しました。

ファイルはクローズされません。

ユーザーの処置: 出力データ・ファイルが完全でない場合には、それを消去して、コマンドの再サブミットをしてください。

SQL3004N 指定されたファイル・タイプがサポートされていないため、load、import、または export いずれかのユーティリティが失敗しました。

説明: load ユーティリティおよび import ユーティリティを使用してファイルから DB2 データベースにデータを挿入することや、export ユーティリティを使用して DB2 データベースからファイルにデータをエクスポートすることができます。これらのユーティリティ

で使用がサポートされているのは、ごく一部のファイル・フォーマットに過ぎません。

load、import、または export いずれか 1 つのユーティリティで、サポートされないファイル・タイプを使用しようとする、このメッセージが返されます。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: *filetype* というパラメーターに有効な値を指定して、コマンドまたは API を再サブミットします。

SQL3005N 処理は中断されました。

説明: 処理中に割り込みがありました。ユーザーが割り込みキー・シーケンスを押した可能性があります。

ユーティリティは処理を停止します。コミットされていないデータベースの更新は、ロールバックされます。

ユーザーの処置: コマンドを再サブミットしてください。インポートを行っている場合は、commitcount および restartcount パラメーターの使用法について、「コマンド・リファレンス」を参照してください。ロードを行っている場合は、ロードの再始動方法について、「コマンド・リファレンス」を参照してください。

SQL3006C メッセージ・ファイルのオープン中に入出力エラーが発生しました。

説明: メッセージ・ファイルをオープンしているときに、システム入出力エラーが発生しました。このエラーは、クライアントまたはサーバーに関する問題を示している可能性があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 正しいパスの入った、有効なメッセージ・ファイル名を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3007C メッセージ・ファイルへの書き込み中に入出力エラーが発生しました。

説明: メッセージ・ファイルへ書き出しているときに、システム入出力エラーが発生しました。

処理は完了しない可能性があります。

ユーザーの処置: メッセージ・ファイルが不完全な場合には、それを消去して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3008N ユーティリティが、データベースへの接続中にエラー *error* を見つけました。

説明: IMPORT または EXPORT ユーティリティが、データベースに接続できませんでした。

データはインポートまたはエクスポートされません。

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージのエラー番号を調べてください。変更を行って、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3009N Action String パラメーターが無効か、または長すぎます。

説明: コマンドの Action String (例えば、エクスポートでの「REPLACE into ...」またはインポートおよびロードでの「INSERT into ...」) パラメーターが無効です。Action String ポインターが誤っている可能性があります。Action String 構造に、無効な文字が入っている可能性があります。Action String 構造に、無効な文字が入っている可能性があります。推奨されないパラメーターまたは新規パラメーターのいずれかが Action String に使用されている可能性があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: Action String ポインターと、これが示す構造を調べてください。有効な Action String を指定して、コマンドを再実行してください。

SQL3010N METHOD パラメーターが無効です。

説明: コマンドの METHOD パラメーターが無効です。METHOD ポインターが誤っている可能性があります。METHOD が示している構造が誤っている可能性があります。METHOD 構造に、無効な文字が入っている可能性があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: METHOD ポインターとそれが指す構造を調べてください。有効な METHOD を指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3011C コマンドの処理に十分な大きさのストレージがありません。

説明: メモリーの割り振りエラーが発生しました。コマンドの処理に十分なメモリーが使用できないか、またはストレージの解放エラーが発生しました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: アプリケーションを停止してください。可能な解決方法は、以下のとおりです。

- システムに十分な実メモリーおよび仮想メモリーがあることを確認してください。
- バックグラウンド処理を除去してください。
- データベースの *util_heap_sz* を増やしてください。
- LOAD で使用するバッファのサイズを減らしてください。
- *util_heap_sz* が LOAD、BACKUP、RESTORE、および REORG ユーティリティによって共有されている場合は、実行中のこれらのユーティリティの並行インスタンスを少なくしてください。

SQL3012C システム・エラーが発生しました。

説明: オペレーティング・システム・エラーが発生しました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: メッセージ・ファイルを調べて問題を訂正し、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3013N filemod の長さが許容範囲を超えています。0 以上 8000 以下にしてください。

説明: 指定された filemod が、許容範囲 (ゼロ以上 8000 以下) を超えています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: filemod ポインターとそれが指す構造を調べてください。有効な filemod を指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3014C メッセージ・ファイルのクローズ中に入出力エラーが発生しました。

説明: メッセージ・ファイルをクローズしているときに、システム入出力エラーが発生しました。

メッセージ・ファイルはクローズされません。

ユーザーの処置: メッセージ・ファイルが不完全な場合は、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3015N 処理中に、SQL エラー *sqlcode* が発生しました。

説明: ユーティリティの呼び出し中に、SQL エラーが発生しました。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージの SQLCODE (メッセージ番号) を調べてください。変更を行って、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3016N ファイル・タイプの `filetmod` パラメータで、予期しないキーワード `keyword` が検出されました。

説明: ユーティリティのファイル・タイプに適用されないキーワードがファイル・タイプ修飾子で検出されました (`filetmod` パラメータまたは `CLP` コマンドの `MODIFIED BY` の後の句)。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: ファイル・タイプ修飾子を除去するか、あるいはファイル・タイプ修飾子に少なくとも 1 つの有効なキーワードを指定してください。ファイル・タイプ修飾子の詳細については、「コマンド・リファレンス」を参照してください。

SQL3017N 区切り文字が無効であるか、または 2 回以上使用されています。

説明: 区切り文字付き ASCII ファイル (`IMPORT` または `LOAD` コマンドでは `DEL`、`INGEST` コマンドでは `FORMAT DELIMITED`) で、次の 2 つのエラーのいずれかが発生しました。

- 列区切り文字、文字ストリング区切り文字、または小数点に指定された文字が無効です。
 - SBCS または UTF-8 データの場合、区切り文字の有効範囲は 0x00 - 0x7F です。
 - MBCS データの場合、区切り文字の有効範囲は 0x00 - 0x3F です。
 - EBCDIC MBCS データの場合も、区切り文字の有効範囲は 0x00 - 0x3F ですが、`SHIFT-OUT` (0x0E) または `SHIFT-IN` (0x0F) 文字であってはならないことを除きます。
- 上記の複数の項目に、同一の文字が指定されています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 指定した区切り文字を調べて、その妥当性と固有性を確認してください。有効な区切り文字オーバーライドを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3018N ピリオドが、文字ストリング区切り文字として指定されました。

説明: 区切り文字付き ASCII (`DEL`) の場合、ピリオドは文字ストリング区切り文字として指定できません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効な区切り文字オーバーライドを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3019N コマンドに `Action String` パラメータが指定されていません。

説明: このユーティリティ呼び出しには `Action String` (たとえば "REPLACE into ...") パラメータが指定されていません。このパラメータは必須です。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: `Action String` パラメータを指定してコマンドを再実行してください。

SQL3020N このユーザーには、指定された `EXPORT` コマンドを実行する権限がありません。

説明: ユーザーは、`DATAACCESS` 権限、あるいはエクスポートで扱われる各表に対する `CONTROL` 特権または `SELECT` 特権を持たずにデータをエクスポートしようとした。

エクスポート処理は実行されません。

ユーザーの処置: 表からデータをエクスポートする前に、適切な許可を取得してください。

SQL3021N このユーザーには、指定された `IMPORT` コマンドを表 `name` に対して実行する権限がありません。

説明: 指定されたオプションと表に対する適切な許可を取得せずに、データをインポートしようとした。

`INSERT` オプションを使ってインポートするには、以下のいずれかの権限が必要です。

- `DATAACCESS` 権限
- 表、ビュー、または階層全体に対する `CONTROL` 特権
- 表、ビュー、または階層全体に対する `INSERT` および `SELECT` 特権

注: 「階層全体」とは、階層に含まれるすべての副表またはオブジェクト・ビューを指します。

`INSERT_UPDATE`、`REPLACE`、または `REPLACE_CREATE` オプションを使って既存の表またはビューにインポートするには、以下のいずれかの権限が必要です。

- `DATAACCESS` 権限
- 表、ビュー、または階層全体に対する `CONTROL` 特権

注: 「階層全体」とは、階層に含まれるすべての副表またはオブジェクト・ビューを指します。

SQL3022N

CREATE または REPLACE_CREATE オプションを使用して、まだ存在しない表にインポートするには、以下のいずれかの権限が必要です。

- DBADM 権限
- データベースに対する CREATETAB 権限、および以下のいずれかの権限:
 - 表のスキーマ名が存在しない場合、データベースでの IMPLICIT_SCHEMA 権限
 - スキーマに対する CREATEIN 特権 (表のスキーマ名が存在する場合)

インポート処理は実行されません。

ユーザーの処置: インポート操作を実行する権限があることを確認してください。

SQL3022N Action String パラメーターの SELECT 処理中に、SQL エラー *sqlcode* が発生しました。

説明: IMPORT または EXPORT で、*Action String* (たとえば "REPLACE into ...") 構造の SELECT ストリングを処理しているときに、SQL エラーが発生しました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージの SQLCODE (メッセージ番号) を調べてください。変更を行って、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3023N database name パラメーターが無効です。

説明: database name パラメーターが無効です。詳細については、SQLCA の「SQLERRD[0]」フィールドを参照してください。

データベース名は、1 から 8 文字でなければならず、文字はデータベース・マネージャー基本文字セットから使用する必要があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効な database name パラメーターを使用して、ステートメントの再サブミットを行ってください。

SQL3024N フォーマット・ファイルのオープン中に入出力エラーが発生しました。

説明: フォーマット・ファイルのオープン中に、システム入出力エラーが発生しました。このエラーは、クライアントまたはサーバーに関する問題を示している可能性があります。

原因として、このフォーマット・ファイルが別のアプリケーションにより使用中であることが考えられます。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: パスを含め、フォーマット・ファイルが有効であることと、現在別のアプリケーションによって使用されていないことを確認してください。

コマンドを再サブミットしてください。追加情報については、診断ログ・ファイルを調べてください。

SQL3025N ファイル名またはパスを指定するパラメーターが無効です。

説明: パラメーターに、無効なパス、ディレクトリー、またはファイル名が入っています。

IMPORT および EXPORT の場合は、*datafile* パラメーターを確認してください。

LOAD の場合は、タイプ *sqli_media_list* の以下のパラメーターの各項目を確認してください。*datafile* が有効なファイル名を持ち、*lobpaths*、*copytarget* および *workdirectory* が、最終区切り文字と NULL 終止符を含む、サーバー上の有効なパスを持つ必要があります。

lobpaths、*copytarget*、および *workdirectory* へのポインターは、有効なポインターまたは NULL でなければなりません。

これらの構造のターゲットへのポインターは、有効なポインターでなければなりません。

sessions および *media_type* が正しく指定されていることをチェックしてください。

また、*lobpaths* パラメーターを指定する場合は、*media_type* がデータ・ファイル構造に指定されているものと同じであることをチェックしてください。

filetype が IXF の場合は、ファイル名の長さが長すぎる可能性があります。

DB2 データベース・マネージャーに指定されたファイルまたはパスに対する読み取り権限がない場合にも、このエラーが戻されます。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: DB2 データベース・マネージャーに指定されたファイルまたはパスに対する読み取り権限があるかどうか確認してください。

有効なパラメーターを使用して、ステートメントの再サブミットを行ってください。

SQL3026N msgfile または tempfiles path パラメーターが無効です。

説明: IMPORT または EXPORT の場合は、msgfile パラメーターに、無効なパス、ディレクトリー、またはファイル名が入っています。

LOAD の場合は、msgfile パラメーターに、クライアントで無効なパス、ディレクトリー、ファイル名が入っているか、または tempfiles path がサーバーで無効です。

アプリケーションが接続されているデータベースがリモート・データベースの場合は、msgfile は完全修飾されている必要があります。ローカル・データベースの場合、まだ完全修飾されていない場合は、ユーティリティーが msgfile の完全修飾を行います。msgfile へのポインターが有効なことも確認してください。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効な msgfile または tempfiles path パラメーター、あるいはその両方を指定して、ステートメントの再サブミットを行ってください。

SQL3027N フォーマット・ファイルの読み取り中に入出力エラーが発生しました。

説明: フォーマット・ファイルからの読み取り中に、システム入出力エラーが発生しました。このエラーは、クライアントまたはサーバーに関する問題を示している可能性があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: フォーマット・ファイルが読み取り可能であることを確認してください。

SQL3028N export 方法標識が無効です。'N' または 'D' でなければなりません。

説明: export 方法標識は、名前の場合は 'N'、デフォルトの場合は 'D' でなければなりません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効な方法標識を使用して、ステートメントの再サブミットを行ってください。

SQL3029N filetype パラメーターが指定されていません。

説明: filetype パラメーターが指定されなかったか、または NULL です。システムが、データ・ファイルに使用する形式を判別できません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効な filetype を使用して、ステートメントの再サブミットを行ってください。

SQL3030C 入力ファイルのオープン中に入出力エラー (理由 = reason) が発生しました。

説明: 入力ファイルをオープンしているときに、システム入出力エラーが発生しました。このエラーは、クライアントまたはサーバーに関する問題を示している可能性があります。

エラーの原因として可能性があるのは、入力ファイルが別のアプリケーションで使用されているということです。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: パスの入った入力ファイルが有効で、このファイルが別のアプリケーションで使用されていないことを確認してください。追加情報については、メッセージ・ファイルを調べてください。

コマンドを再サブミットしてください。

SQL3031C 入力ファイルの読み取り中に入出力エラーが発生しました。

説明: 入力ファイルを読み取っているときに、システム入出力エラーが発生しました。このエラーは、クライアントまたはサーバーに関する問題を示している可能性があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 入力ファイルが読み取り可能であることを確認してください。

SQL3032N 指定されたファイル・タイプの LOAD/IMPORT method 標識が無効です。これは 'N'、'P'、あるいは 'default' である必要があります。

説明: IXF ファイル・タイプを使用する場合、LOAD/IMPORT メソッドの標識は、N (名前)、P (定位置)、あるいは D (デフォルト) のいずれかにしてください。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なメソッド標識を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3033N ターゲット指定に INSERT、REPLACE、CREATE、INSERT_UPDATE または REPLACE_CREATE などのキーワードが欠落しているか、またはキーワードのつづりが誤っています。

説明: IMPORT の場合、Action String (たとえば、"REPLACE into ...") パラメーターに キーワード INSERT、REPLACE、CREATE、INSERT_UPDATE、

SQL3034N

または REPLACE_CREATE が入っていません。LOAD の場合には *Action String* パラメーターには、キーワード INSERT、REPLACE、あるいは RESTART が含まれません。キーワードの後には、少なくとも 1 つのブランクが必要です。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効な *Action String* パラメーターを指定して、コマンドを再実行してください。

SQL3034N ターゲット指定からキーワード INTO が欠落しているか、またはつづりが間違っています。

説明: INTO キーワードが指定されていないか、またはそのつづりが誤っています。INTO の後には、少なくとも 1 つのブランクが必要です。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効な *Action String* (例えば "REPLACE into...") パラメーターを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3035N ターゲット指定の *tablename* パラメーターが無効です。

説明: IMPORT の場合、*Action String* (たとえば、"REPLACE into ...") の *tablename* パラメーターが無効です。LOAD では、*Action String* の *tablename* あるいは 例外表名 が無効です。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効な *tablename* を指定して、コマンドを再サブミットしてください。すべてのコマンド・キーワードおよびパラメーターが正しい順序で入力されているか確認してください。

SQL3036N ターゲット指定の *tcolumn-list* に、右括弧がありません。

説明: *tcolumn-list* は、括弧で区切る必要があります。リストが右括弧で終了していません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: *Action String* (例えば "REPLACE into ...") パラメーターに有効で完全な列リストを指定して、ステートメントを再サブミットしてください。

SQL3037N インポート処理中に、SQL エラー *sqlcode* が発生しました。

説明: *Action String* (例えば "REPLACE into ...") パラメーターの処理中に SQL エラーが発生しました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージの SQLCODE (メッセージ番号) を調べてください。変更を行って、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3038N *Action String* パラメーターに予期しない文字が含まれています。

説明: IMPORT の場合、*Action String* (例えば "REPLACE into ...") パラメーターの列リストの右小括弧の後ろに、ブランク以外の文字があります。LOAD では、*Action String* パラメーターの列リストの右小括弧か、例外表名、あるいはその両方の後ろに、ブランク以外の文字があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効な *Action String* パラメーターを指定して、コマンドを再実行してください。

SQL3039W DATA BUFFER の LOAD で使用できるメモリーは全 LOAD 並列処理を禁止します。value のロード並列処理が使用されません。

説明: LOAD ユーティリティが、システム構成に基づいて SMP 活用の CPU 並列処理の最適レベルを判断しようとしたか、またはユーザーがユーティリティを呼び出したときに、LOAD 並列処理に対して値を指定しました。そのときに、以下のいずれかの制限が発生しました。

1. ユーティリティ・ヒープの空きメモリーの量では、この度合いの並列処理はできない。
2. DATA BUFFER パラメーターが、指定された並列処理または使用できる並列処理には小さすぎる値で指定された。

より少ないメモリーを必要とする、より低い並列処理の度合いが使用される。

ユーザーの処置:

1. このメッセージを無視すれば、LOAD が並列に対して小さい値を使用して、正常に完了します。ただし、ロード・パフォーマンスは最適ではない可能性があります。
2. ユーティリティを呼び出すときに LOAD に対して小さい値を指定してください。
3. ユーティリティ・ヒープのサイズを増やしてください。
4. データ・バッファ・パラメーターのサイズを増やすか、またはパラメーターをブランクのままにして LOAD ユーティリティがユーティリティ・ヒープのフリー・スペースに基づいてデフォルトを判別できるようにします。

SQL3040N ユーティリティーが、*option-name* パラメーターで指定されたファイル名 *file-name* を使用できません。理由コード:
reason-code

説明: 以下のいずれかの理由コードが適用されます。

1

ファイル *file-name* が有効な `sqlu_media_list` でないか、または提供された値が無効です。
`media_type` は `SQLU_CLIENT_LOCATION` でなければなりません。

2

提供されたファイル名が十分ではありません。
提供されたファイル名の数に `SQLU_MAX_SESSIONS` を掛けた数よりも多くの文書をエクスポートする必要があります。

3

パス名とファイル名の組み合わせが、ファイルごとに 255 バイトという最大長を超えています。

4

ファイル *file-name* にアクセスできません。

5

ファイル名 *file-name* にパス名が含まれていますが、パスを含めてはなりません。

6

開始位置と入力データの長さの合計が、ファイル名 *file-name* を持つファイルのサイズを超えています。

ユーザーの処置: どの理由コードが当てはまるかを判別し、問題を訂正してコマンドの再サブミットを行ってください。

SQL3041N 指定された日付値は、Sybase ではサポートされていません。

説明: Sybase は、1753 年より前の日付値をサポートしていません。

ユーザーの処置: 有効な日付値を指定して、再度コマンドを発行してください。

SQL3042N DATALINK 列に指定された LINKTYPE が無効です。

説明: DATALINK 列の LINKTYPE に指定された値が無効です。

ユーザーの処置: 指定された LINKTYPE をチェックし

ます。値を訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3043N DATALINK 列の DATALINK SPECIFICATION が無効です。

説明: DATALINK 列の DATALINK SPECIFICATION が、以下のいずれかの理由で無効です。

- `DL_URL_REPLACE_PREFIX` に値が指定されていない。
- `DL_URL_DEFAULT_PREFIX` に値が指定されていない。
- `DL_URL_SUFFIX` に値が指定されていない。
- `DL_URL_REPLACE_PREFIX` または `DL_URL_DEFAULT_PREFIX` または `DL_URL_SUFFIX` 以外のキーワードが入っている。

ユーザーの処置: 指定を訂正してコマンドを再サブミットしてください。

SQL3044N DATALINK 列の DATALINK SPECIFICATION に接頭部の重複指定が存在します。

説明: DATALINK 列の DATALINK SPECIFICATION に `DL_URL_REPLACE_PREFIX` または `DL_URL_DEFAULT_PREFIX` の重複指定が存在します。

ユーザーの処置: 重複指定を除去してコマンドを再サブミットしてください。

SQL3045N METHOD パラメーターの `dcolumn` 位置が、1 より小さいか、または区切り文字付き ASCII ファイルでの列の最大数 (1024) より大きくなっています。

説明: `dcolumn` 位置が、1 より小さいか、または区切り文字付きファイルでの最大列数 (1024) より大きくなっています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効な `dcolumn` 位置を指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3046N METHOD パラメーターの列数が、1 より小さくなっています。

説明: デフォルト以外の `METHOD` 方法の場合、指定された列数は正の数 (0 より大きい) でなければなりません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: `METHOD` パラメーターで有効な列数を指定して、コマンドを再実行してください。

SQL3047N METHOD に指定された LOAD/IMPORT メソッドは、区切り文字付き ASCII ファイルには無効です。 'P' または 'デフォルト' である必要があります。

説明: 区切り文字付き ASCII ファイルに対して唯一有効な LOAD/IMPORT 方法は、位置の場合は P、またはデフォルトの場合は D です。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なインポート方法を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3048N 入力ファイルから指定された列が、データベースの列より少なくなっていますが、データベースの列のいずれかが NULL 可能ではありません。

説明: ターゲット表に指定された列数よりも少ない列数が METHOD リストに指定されている場合は、欠落している入力列の値が NULL としてロードされます。1 つ以上のこれらの入力列に対応するターゲット表の列が NULL にすることができないので、NULL は挿入できません。

ファイルはロードされません。

ユーザーの処置: 入力ファイルと同数の列を持つか、または NULL 値化可能な列を持つ新しい表を定義してください。コマンドを再サブミットしてください。

SQL3049N データベースの列 *name* のデータ・タイプ *type* が、このフォーマット・ファイルと互換ではありませんが、データベースの列は NULL 可能ではありません。

説明: データベースの列タイプがこのファイルには無効です。データベースの列が NULL にできないために、ユーティリティは終了しました。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: データベース表を再定義して、列がファイルからロードされる列と互換になるようにしてください。

SQL3050W データの変換は、IXF ファイル・コード・ページ *file-code-page* とアプリケーション・コード・ページ *application-code-page* の間で行われます。

説明: IXF データ・ファイルの IMPORT が発行され、IXF ファイルの文字データのコード・ページが、インポート処理を呼び出しているアプリケーションのコード・

ページと異なる場合は、データ・ファイルのコード・ページから、アプリケーションのコード・ページへの変換が行われ、処理は続けられます。

IXF データ・ファイルの LOAD が発行され、IXF ファイルの文字データのコード・ページが、データベースのコード・ページと異なる場合は、データ・ファイルのコード・ページから、データベースのコード・ページへの変換が行われ、処理は続けられます。

ユーザーの処置: 変換を実行したくない場合は、FORCEIN オプションを使用して、ユーティリティを呼び出し、それ以外の場合、アクションは不要です。

SQL3051W *column-name* にロードされるデータがロードされましたが、IXF コード・ページからアプリケーション・コード・ページへの変換が実行されませんでした。

説明: CLOB または DBCLOB 列へロードされたデータは分離ファイルに保管され、その中で何の変換も実行されませんでした。

適切なデータをロードするためには、IXF ファイルと同じコード・ページをもつアプリケーションからユーティリティを呼び出してください。

ユーザーの処置: これは警告です。

SQL3052N *type* パス・パラメーターが欠落していますが、必要です。理由コード: *reason-code*

説明: 理由コード:

- 1 入力データ・ファイルは別のパスにあり、ターゲット表には *type* 列があります。*type* パス・パラメーターを指定する必要があります。
- 2 ロードはリモート側で接続されたクライアントから発行されており、*type* データの含まれるファイルがあります。*type* パス・パラメーターを指定する必要があります。

ユーザーの処置: パスを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3053N ワークシート・フォーマット・ファイルにエクスポートされる行が、8191 行を超えています。

説明: ワークシート形式ファイル (WSF) に配置可能な行の最大数は 8191 です。

EXPORT ユーティリティは、ファイルに 8191 行を書き込むと処理を停止します。

ユーザーの処置: このエラーを防ぐには、SELECT ステートメントを使用して、エクスポートされる行数を減

らし、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3054N 入力ファイルが、有効な PC/IXF ファイルではありません。このファイルは、有効な H レコードを含むには小さすぎます。

説明: 予期される最初のレコードの終わりが検出される前に、ファイルの終わりに達しました。ファイルが PC/IXF ファイルではない可能性があります。

LOAD/IMPORT ユーティリティの処理を停止します。データはインポートされません。

ユーザーの処置: 入力ファイルが正しいことを確認してください。

SQL3055N 入力ファイルが、有効な PC/IXF ファイルではありません。最初のレコードの「長さ」フィールドを数値に変換できません。

説明: 最初のレコードの「長さ」フィールドにある値が、ASCII 表現の数値ではありません。ファイルが PC/IXF ファイルではない可能性があります。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: 入力ファイルが正しいことを確認してください。

SQL3056N 入力ファイルが、有効な PC/IXF ファイルではありません。H レコードの「長さ」フィールドの値が、小さすぎます。

説明: H レコードの「長さ」フィールドの値が、有効な H レコードに対する十分な大きさになっていません。ファイルが PC/IXF ファイルではない可能性があります。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: 入力ファイルが正しいことを確認してください。

SQL3057N 入力ファイルが、有効な PC/IXF ファイルではありません。最初のレコードの「タイプ」フィールドが H ではありません。

説明: 最初のレコードの「タイプ」フィールドが H ではありません。最初のレコードは有効な H レコードではありません。ファイルが PC/IXF ファイルではない可能性があります。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: 入力ファイルが正しいことを確認してください。

SQL3058N H レコードの「ID」フィールドが IXF ではありません。

説明: H レコードの「ID」フィールドが、ファイルを PC/IXF ファイルとして識別していません。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: H レコードの「ID」フィールドを調べてください。

SQL3059N H レコードの「バージョン」フィールドが無効です。

説明: H レコードの「バージョン」フィールドに、無効な値が入っています。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: H レコードの「バージョン」フィールドを調べてください。

SQL3060N H レコードの「HCNT」フィールドが数値に変換できないか、または値が範囲を超えています。

説明: H レコードの「Heading-record-count」フィールドが、ASCII 表現の数字ではないか、またはこのフィールドには無効な数字になっています。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: H レコードの「HCNT」フィールドを調べてください。

SQL3061N H レコードの「1 バイト・コード・ページ」と「2 バイト・コード・ページ」フィールドの両方、またはいずれかが数値に変換できないか、または値が範囲を超えています。

説明: H レコードの「1 バイト・コード・ページ」と「2 バイト・コード・ページ」フィールドが、ASCII 表現の数値ではないか、またはこのフィールドには無効な数値になっています。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: H レコードの「1 バイト・コード・ページ」と「2 バイト・コード・ページ」フィールドを

SQL3062N

調べて、該当する値に変更して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3062N H レコードの「2 バイト・コード・ページ」フィールドが数値に変換できないか、または値が範囲を超えています。

説明: H レコードの「2 バイト・コード・ページ」フィールドが、ASCII 表現の数字ではないか、またはこのフィールドには無効な数字になっています。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: H レコードの「2 バイト・コード・ページ」フィールドを調べて、該当する値に変更して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3063N H レコードの 1 バイト・コード・ページの値 *value-1* が、アプリケーションの 1 バイト・コード・ページの値 *value-2* と互換性がありません。FORCEIN オプションは指定されていません。

説明: H レコードの単一バイトのコード・ページの値がアプリケーション・コード・ページの値と互換性がありません。FORCEIN オプションが使用されていないとき、値 1 から 2 への変換がサポートされていないと、データのロードはできません。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: このデータをロードするには、FORCEIN オプションを指定して、コマンドを再実行してください。

SQL3064N H レコードの 2 バイト・コード・ページの値 *value-1* が、アプリケーションの 2 バイト・コード・ページの値 *value-2* と互換性がありません。FORCEIN オプションは指定されていません。

説明: H レコードの 2 バイトのコード・ページの値がアプリケーション・コード・ページの値と互換性ありません。FORCEIN オプションが使用されていないとき、値 1 と 2 が同一でないと、データのロードはできません。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: 2 バイト・コード・ページの値が一致しないデータをロードするには、FORCEIN オプションを指定してコマンドを再実行してください。

SQL3065C アプリケーションのコード・ページの値が判別できません。

説明: アプリケーションのコード・ページの判別中に、システムがエラーを見つけました。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードまたはアンロードされません。

ユーザーの処置: サービス担当者に連絡してください。

SQL3066N T レコードの読み取り中または探索中に、ファイルの終わりに達しました。

説明: システムが T レコードを探索しているとき、または T レコードを読み取っているときに、ファイルの終わりに達しました。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: 入力ファイルの T レコードを調べてください。PC/IXF ファイルをあるメディアから別のメディアにコピーしている場合は、コピーをオリジナルと比較するか、またはコピー処理を繰り返してください。

SQL3067N T レコードの「長さ」フィールドを数値に変換できません。

説明: T レコードの「長さ」フィールドが、ASCII 表現の数字ではありません。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: T レコードの「長さ」フィールドを調べてください。

SQL3068N T レコードの「長さ」フィールドの値が、小さすぎます。

説明: T レコードの「長さ」フィールドの値が十分に大きくないので、T レコードは無効です。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: T レコードの「長さ」フィールドを調べてください。

SQL3069N H レコードに続く、A レコード以外の最初のレコードが、T レコードではありません。

説明: H レコードの後の A レコードではない最初のレコードが、T レコードでもありません。H レコードの後には、すぐに T レコードが続く必要がありますが、T

レコードの前に A レコードが存在する可能性があります。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: H レコードに続くレコードを調べてください。

SQL3070N A レコードの「長さ」フィールドの値が範囲を超えています。

説明: A レコードの「長さ」フィールドが、このフィールドには無効な数字です。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: A レコードの「長さ」フィールドを調べてください。

SQL3071N T レコードの「データ変換」フィールドが C ではありません。

説明: T レコードの「データ変換」フィールドが C 以外の値です。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: T レコードの「データ変換」フィールドを調べてください。

SQL3072N T レコードの「データ・フォーマット」フィールドが、M ではありません。

説明: T レコードの「データ形式」フィールドが M 以外の値です。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: T レコードの「データ形式」フィールドを調べてください。

SQL3073N T レコードのマシン・フォーマット・フィールドが PCbbb (b はブランク) ではありません。

説明: T レコードのマシン形式フィールドが、PCbbb 以外の値です。それぞれの b はブランクです。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: T レコードのマシン形式フィールドを調べてください。

SQL3074N T レコードの「データ・ロケーション」フィールドが I ではありません。

説明: T レコードの「データ・ロケーション」フィールドが I 以外の値です。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: T レコードの「データ・ロケーション」フィールドを調べてください。

SQL3075N T レコード内の CCNT が数値に変換できないか、または値が範囲を超えています。

説明: T レコードの「C レコード・カウント」フィールドが、ASCII 表現の数字になっていないか、またはこのフィールドには無効な数字になっています。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: T レコードの「CCNT」フィールドを調べてください。

SQL3076N T レコードの「名前の長さ」フィールドが数値に変換できないか、または値が範囲を超えています。

説明: T レコードの「名前の長さ」フィールドが、ASCII 表現の数字ではないか、またはこのフィールドには無効な数字になっています。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: T レコードの「名前の長さ」フィールドを調べてください。

SQL3077N T レコードの「CCNT」フィールドに指定された C レコードの数 *value* が、許される最大値 *maximum* を超えています。

説明: T レコードの「CCNT」フィールドの値が、このリリースの示された最大許容値を超えています。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: T レコードの「CCNT」フィールドを調べてください。

SQL3078N A レコードの「長さ」フィールドを数値に変換できません。

説明: A レコードの「長さ」フィールドが、ASCII 表現の数字ではありません。

SQL3079N

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: A レコードの「長さ」フィールドを調べてください。

SQL3079N C レコードの「長さ」フィールドを数値に変換できません。

説明: C レコードの「長さ」フィールドが、ASCII 表現の数字ではありません。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: C レコードの「長さ」フィールドを調べてください。

SQL3080N C レコードの「長さ」フィールドの値が、小さすぎます。

説明: C レコードの「長さ」フィールドの値が十分に大きくないので、C レコードは無効です。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: C レコードの「長さ」フィールドを調べてください。

SQL3081N C レコードが足りません。

説明: (正しい位置で) 見つかった C レコードの数が、T レコードの C レコード・カウント (CCNT) に指定された数より少なくなっています。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: T および C レコードを調べてください。

SQL3082N C レコードの読み取り中または探索中に、ファイルの終わりに達しました。

説明: システムが C レコードを探索しているとき、または C レコードをまだ読み取っているときに、ファイルの終わりに達しました。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: 入力ファイルの C レコードを調べてください。PC/IXF ファイルをあるメディアから別のメディアにコピーしている場合は、コピーをオリジナルと比較するか、またはコピー処理を繰り返してください。

SQL3083N 列 *name* に対する C レコードの「D レコード ID」フィールドの値が、数値に変換できません。

説明: 示された列に対する C レコードの「D レコード ID」フィールドが、ASCII 表現の数字ではありません。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: C レコードの「D レコード ID」フィールドを調べてください。

SQL3084N 列 *name* に対する C レコードの「D レコード位置」フィールドの値が、数値に変換できません。

説明: 示された列に対する C レコードの「D レコード位置」フィールドが、ASCII 表現の数字ではありません。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: C レコードの「D レコード位置」フィールドを調べてください。

SQL3085N 列 *name* に対する C レコードの「D レコード ID」、および「D レコード位置」フィールドの値が範囲を超えているか、または前の C レコードと矛盾しています。

説明: 示された列に対する C レコードの「D レコード ID」、および「D レコード位置」フィールドに、範囲を超えているか、または前の C レコードとの関連で正しくない値が入っています。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: C レコードの「D レコード ID」および「D レコード位置」フィールドを調べてください。

SQL3086N データベースの列 *name* へのロードを指定されたソース列がないか、または存在しないソース列が指定されていますが、データベースの列は NULL にすることはできません。

説明: 示された列にエクスポートされるように指定された PC/IXF 列がないか、または指定された PC/IXF ソース列が存在しません。データベースの列が NULL にできないために、NULL は挿入することができません。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: *METHOD* パラメーターの名前や位置

に誤りがないかどうか、また *Action String* (例えば、"REPLACE into...") パラメーターで明示されている、または暗黙に指定されている項目の数よりも、*METHOD* パラメーター内の項目の数が少なくなっていないかどうかを確認してください。

SQL3087N データベースの列 *name* へのロードを指定されたソース列が無効か、またはデータベースの列は NULL 可能ではありません。

説明: このメッセージで示されたデータベースの列に PC/IXF 列をロードできません。理由はメッセージ・ログの前のメッセージで示されています。データベースの列が NULL にできないために、NULL は挿入することができません。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: 前のメッセージを読んで、列が無効な理由を理解してください。

SQL3088N データベースの列 *name* へのロードが指定されたソース列が、データベースの列と互換ではありませんが、データベースの列は NULL 可能ではありません。

説明: ソース PC/IXF 列が、ターゲット・データベースの列と互換性がありません。列のタイプまたは長さが、互換でない可能性があります。データベースの列が NULL にできないために、NULL は挿入することができません。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: ソース PC/IXF ファイルの列を、データベースの列と比較してください。

SQL3089N D レコードが预期されている位置に、D レコードではないレコードがあります。

説明: D レコードがあるべき位置に、D レコード以外のレコードがあります。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: ファイル内の D レコードを調べてください。

SQL3090N D レコードの「長さ」フィールドを数値に変換できません。

説明: D レコードの「長さ」フィールドが、ASCII 表現の数字ではありません。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: D レコードの「長さ」フィールドを調べてください。

SQL3091N D レコードの「長さ」フィールドの値が範囲を超えています。

説明: D レコードの「長さ」フィールドが、このフィールドには無効な数字です。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: D レコードの「長さ」フィールドを調べてください。

SQL3092N D レコードの「ID」フィールドに、预期されていない値が含まれています。

説明: D レコードの「ID」フィールドが無効です。1 つ以上の D レコードが、間違った順序で書き込まれた可能性があります。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: D レコードの「ID」フィールドを調べてください。

SQL3093N 入力ファイルは、有効な WSF ファイルではありません。

説明: ワークシート形式 (WSF) ファイルの最初のレコードが、ファイルの開始 (BOF) レコードではないか、または WSF ファイルのバージョンがサポートされていません。

IMPORT ユーティリティは処理を停止します。データはインポートされません。

ユーザーの処置: ファイルが有効な WSF ファイルであり、その名前が正しく入力されていることを確認してください。

SQL3094N 入力列 *name* が見つかりませんが、対応するデータベースの列は NULL 可能ではありません。

説明: 示された列が、入力ファイルに存在しません。対応するデータベースの列が NULL にすることができな

SQL3095N

いために、データが列にロードできません。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。エラーが発生する前に処理された列は、データベース内に存在します。

ユーザーの処置: 入力ファイルに指定した列名があることを確認してください。

SQL3095N 指定された列の位置 *position* は、1 から 256 までの有効範囲内の値ではありません。

説明: 1 から 256 の有効範囲にない列の位置が指定されました。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。エラーが発生する前に処理された列は、データベース内に存在します。

ユーザーの処置: 指定した列の位置が 1 から 256 の範囲内にあることを確認してください。

SQL3096N データベースの列 *name* のデータ・タイプ *type* が、WSF 列タイプと互換ではありませんが、データベースの列は NULL 可能ではありません。

説明: 示されたデータベースの列と互換であるワークシート形式 (WSF) 列タイプがありません。データベースの列が NULL にできないために、IMPORT ユーティリティは処理を停止します。

データはインポートされません。

ユーザーの処置: データベース表を再定義して、その列が WSF ファイルからインポートされる列と互換になるようにしてください。コマンドを再サブミットしてください。

SQL3097N WSF レコードの「レコード長」フィールドが、このレコード・タイプには無効です。

説明: ワークシート形式 (WSF) レコードは、予期された固定長または可変長の範囲です。ただし、レコードに固定長が入っていないか、または可変長が範囲を超えています。WSF ファイルが損傷を受けたか、または間違っ生成されました (Lotus 製品のレベルが、データベース・マネージャーによってサポートされていない可能性があります)。

IMPORT ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: サポートされているレベルの Lotus 製品を使用して、WSF ファイルを再生成してください。

SQL3098N 入力ファイルの行番号が、1 から 8192 までの有効範囲を超えています。

説明: ワークシート形式 (WSF) スプレッドシートが含むことができる行の最大数は 8192 です。セル調整に、有効範囲外の値が入っています。WSF ファイルが損傷を受けたか、または間違っ生成されました (Lotus 製品のレベルが、データベース・マネージャーによってサポートされていない可能性があります)。

IMPORT ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: サポートされているレベルの Lotus 製品を使用して、WSF ファイルを再生成してください。

SQL3099N 入力ファイルの列番号が、1 から 256 までの有効範囲を超えています。

説明: ワークシート形式 (WSF) スプレッドシートが含むことができる列の最大数は 256 です。セル調整に、有効範囲外の値が入っています。WSF ファイルが損傷を受けたか、または間違っ生成されました (Lotus 製品のレベルが、データベース・マネージャーによってサポートされていない可能性があります)。

IMPORT ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: サポートされているレベルの Lotus 製品を使用して、WSF ファイルを再生成してください。

SQL3100W 出力 DEL フォーマット・ファイルの列番号 *column-number* (*name* で識別される) が、254 バイトより長くなっています。

説明: 示された出力列の長さまたは最大長が 254 バイト以上になっています。254 バイトより大きな列は、他のいくつかの製品ではサポートされていません。

フィールド全体が切り捨てられずにエクスポートされません。

DB2 バージョン 9.5 より前の場合のみ、データが DEL ファイル・フォーマットでエクスポートされて出力ファイル内の 1 つ以上の列の長さが 254 バイトより長くなった場合に、このメッセージが返されます。

ユーザーの処置: 出力ファイルが他の製品で処理できない場合は、正しくない列のサブストリングのみをエクスポートするか、表を再定義するか、または DEL 列内のデータを手操作で切り捨ててください。

SQL3101W 行 *row-number* の列 *column-number* に文字ストリング区切り文字があります。

説明: システムは、エクスポートされる文字ストリングの両側に文字ストリング区切り文字を置きますが、文字ストリング内にすでに区切り文字を持つ文字ストリングが見つかりました。

区切り文字は文字ストリングの両側に置かれます。そのストリングを後で使用すると、切り捨て処理が行われず。処理の続行は可能です。

ユーザーの処置: 出力表またはファイルの指示された列および行のデータを検討してください。データの損失を防ぐには、区切り文字をデータ内にない文字に変更してください。

SQL3102W **METHOD** パラメーターの列数が、**Action String** (例えば "REPLACE into...") パラメーターの列数よりも大きくなっています。

説明: 入力ファイルまたは表から取り出される列数が、出力表またはファイルに置かれる列数より大きくなっています。

出力表またはファイルに指定された列のデータのみが処理されます。余った入力列のデータは処理されません。

ユーザーの処置: 出力表またはファイルのデータを検討してください。

SQL3103W **METHOD** パラメーターの列数が、**Action String** (例えば, "REPLACE into...") パラメーターの列数よりも小さくなっています。

説明: 入力ファイルまたは表から取り出される列数が、出力表またはファイルに置かれる列数より小さくなっています。

入力表またはファイルに指定された列のデータのみが処理されます。余った出力列のデータは処理されません。

ユーザーの処置: 出力表またはファイルのデータを検討してください。

SQL3104N エクスポート・ユーティリティーが、ファイル *name* へのデータのエクスポートを開始しています。

説明: これは通常の開始メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL3105N エクスポート・ユーティリティーが、*number* 行のエクスポートを完了しました。

説明: これは、メッセージ・ファイルの最後に印刷される、エクスポート・ユーティリティーのサマリー・メッセージです。このメッセージは、エクスポート・ユーティリティーが終了する前に **SELECT** ステートメントから処理された行数を示します。

ユーザーの処置: 0 の *sqlcode* がユーティリティーから返された場合は、処置を行う必要はありません。3107 の *sqlcode* が返された場合は、エクスポート中に出力された警告について、メッセージ・ファイルをチェックして、必要に応じて、コマンドを再サブミットしてください。負の *sqlcode* が返された場合は、エクスポート中にエラーが発生し、データ・ファイルには、要求したすべてのデータが含まれていない可能性があります。エラーを訂正して、コマンドを再サブミットする必要があります。

SQL3106N メッセージ・ファイルへのメッセージのフォーマット中に、エラーが発生しました。

説明: エラー・メッセージが不完全か、または形式が正しくない可能性があります。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL3107W **LOAD** 処理中に少なくとも 1 つの警告メッセージを受け取りました。

説明: **LOAD** コマンドを使用して、ファイル、テーブル、または名前付きパイプからデータをデータベースにロードすることができます。**LOAD** 処理からの警告またはエラーは、メッセージ・ファイルに出力するように指定できます。メッセージ・ファイルが指定されていない場合、警告またはエラーは標準出力に出力されます (データベース・マネージャー・インスタンスがパーティション・データベース環境として構成されている場合を除きます)。

処理中に少なくとも 1 つの警告を受け取った場合に、このメッセージは返されます。メッセージ・ファイルを使用している場合は、警告およびエラーがそこに出力されます。

この警告は処理に影響を与えません。

ユーザーの処置: メッセージ・ファイルの警告を検討してください。

SQL3108W 行 *row-number* と列 *column-number* の **DATALINK** 値によって参照されているファイルにアクセスできません。理由コード = *reason-code*。

説明: このメッセージが表示される考えられる原因は、次の *reason-code* の値に依存します。

- 1 DATALINK 値データ・ロケーション・フォーマットが無効です。
- 2 DATALINK 値 DB2 Data Links Manager がデータベースに登録されていません。
- 3 DATALINK リンク・タイプ値が無効です。
- 4 DB2 Data Links Manager で DATALINK 値参照ファイルを検出できません。
- 5 DATALINK 値参照ファイルはすでにデータベースにリンクされています。
- 6 DATALINK 値参照ファイルはリンクのためにアクセスできません。セット・ユーザー ID (SUID) またはセット・グループ (SGID) の許可ビットがオンになっている、シンボリック・リンクまたはファイルである可能性があります。
- 7 DATALINK 値 URL またはコメントが長過ぎます。
- 8 DATALINK 値参照ファイルをデータベースへリンクできません。DB2 Data Links Manager が、DB2 ユーザーがこのファイルにリンクすることを許可していません。

ユーザーの処置: アクションは次のように *reason-code* に基づいています。

- 1 データ・ロケーション・フォーマットを訂正してください。ホスト名が指定されていない場合は、FILE LINK CONTROL のサポートが使用可能である場合のみ、DB2 はローカル・ホスト名をデフォルトとして使用することができます。このサポートを有効にすることに関する詳細は、「管理ガイド」を参照してください。
- 2 正しい DB2 Data Links Manager が指定されていることを確認して、正しい場合はデータベースに登録してください。登録された DB2 Data Links Manager は、FILE LINK CONTROL のサポートが使用可能でない場合は無視されます。このサポートを有効にすることに関する詳細は、「管理ガイド」を参照してください。
- 3 リンク・タイプ値を訂正してください。
- 4 正しいファイルが指定され、そのファイルが存在するかどうかチェックしてください。

5 ファイルの既存の参照をリンク解除するか、またはこのステートメントでファイルを指定しないようにしてください。

6 ディレクトリーのリンクは許可されていません。シンボリック・リンクではなく、実際のファイル名を使用してください。SUID または SGID がオンの場合は、DATALINK タイプを使用してこのファイルをリンクできません。

7 データ・ロケーション値またはコメントの長さを小さくしてください。

8 DB2 Data Links Manager 管理者に連絡して、必要な許可を入手してください。

SQL3109N ユーティリティが、ファイル *name* からデータのロードを開始しています。

説明: これは通常の開始メッセージです。このメッセージは、ソース・ファイルの代わりに、サーバーに作成された一時ファイルの名前を示す可能性があります。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL3110N ユーティリティが処理を完了しました。*number* 行が、入力ファイルから読み取られました。

説明: これは正常な終了メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL3111C 入力データ・ファイルのクローズ中に入出力エラーが発生しました。

説明: 入力データ・ファイルをクローズしているときに、システム入出力エラーが発生しました。このエラーは、クライアントまたはサーバーに関する問題を示している可能性があります。

ファイルはクローズされません。

ユーザーの処置: 入出力エラーについて、入力ファイルを調べてください。

SQL3112W 指定された入力ファイルの列が、データベースの列より少なくなっています。

説明: 入力ファイルの指定された列が、出力ファイルの列より少なくなっています。表の余分な列は NULL 値可能として定義されているので、その列内の値は NULL で埋められます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL3113W データベース列 *name* のデータ・タイプ *type* が、この形式ファイルと互換性がありません。NULL 値が列に挿入されません。

説明: データベース列タイプがこのファイルには無効です。列は NULL にすることができるので、NULL が挿入されます。

NULL 値が、示された列にロードされます。

ユーザーの処置: この列で NULL が受け入れられない場合は、以下のいずれかを行ってください。

- 表のデータを編集してください。
- 可能であれば、データベース表の別の互換列をターゲット列として使用して、コマンドを再サブミットしてください。
- データベース表を再定義して、列がロードされる列と互換になるようにして、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3114W 行 *row-number*、列 *column-number* の *text* の後に、ロードされていないデータがあります。

説明: 以下のデータが列に含まれていると思われるため、示されている行と列のデータがロードされていません。

- 終了ストリング区切り文字
- 分離改行文字または復帰制御文字
- 区切り文字のないストリング値

ロードされたテキストは、*text* トークンに示されています。

フィールドの内容が不完全な可能性があります。

ユーザーの処置: 出力表の値を入力ファイルの値と比較してください。必要に応じて、入力ファイルを訂正してコマンドを再サブミットするか、または表のデータを編集してください。

SQL3115W 行 *row-number*、列 *column-number* の *text* で始まるフィールドの値が、最長許容表列よりも長すぎます。値は切り捨てられました。

説明: フィールドの値が 32700 バイトより長くなっています。

32700 バイトより後の値は、切り捨てられました。

ユーザーの処置: 出力表の値を入力ファイルの値と比較してください。必要に応じて、入力ファイルを訂正してコマンドを再サブミットするか、または表のデータを編

集してください。不一致の文字ストリング区切り文字をチェックしてください。

SQL3116W 行 *row-number*、列 *column-number* のフィールドの値が抜けていますが、ターゲット列は NULL にできません。

説明: 入力ファイルに NULL のフィールド値が見つかりました。表のターゲット列は NULL にできないので、ロードすることができません。

ASCII ファイル以外のファイルの場合は、列番号の値が、欠落データの行内のフィールドを示します。ASCII ファイルの場合は、列番号の値が、欠落データの行内のバイト位置を示します。

行はロードされません。

ユーザーの処置: 必要に応じて、入力ファイルを訂正してコマンドを再サブミットするか、または表のデータを編集してください。

SQL3117W 行 *row-number*、列 *column-number* のフィールドの値が SMALLINT 値に変換できません。NULL がロードされました。

説明: 示されたフィールドの値が、SMALLINT 値に変換できません。データ・タイプが不一致である可能性があります。値が 2 バイトの整数よりも大きい可能性があります。

区切り文字付き ASCII (DEL) ファイルの場合、列番号の値が問題の値の入った行内のフィールドを示しています。ASCII ファイルの場合は、列番号の値が、問題の値が始まる行内のバイト・ロケーションを示します。

NULL 値がロードされます。

ユーザーの処置: 入力値を調べてください。必要に応じて、入力ファイルを訂正してコマンドを再サブミットするか、または表のデータを編集してください。

SQL3118W 行 *row-number*、列 *column-number* のフィールドの値が SMALLINT 値に変換できませんが、ターゲット列は NULL 可能ではありません。行はロードされませんでした。

説明: 示されたフィールドの値が、SMALLINT 値に変換できません。データ・タイプが不一致である可能性があります。値が 2 バイトの整数よりも大きい可能性があります。表の出力列は NULL 可能ではないため、NULL をロードできません。

区切り文字付き ASCII (DEL) ファイルの場合、列番号の値が問題の値の入った行内のフィールドを示しています。ASCII ファイルの場合は、列番号の値が、問題の

SQL3119W

値が始まる行内のバイト・ロケーションを示します。

行はロードされません。

ユーザーの処置: 入力ファイルを訂正してコマンドを再サブミットするか、または表のデータを編集してください。

SQL3119W 行 *row-number*、列 *column-number* のフィールドの値が **INTEGER** 値に変換できません。NULL がロードされました。

説明: 示されたフィールドの値が **INTEGER** 値に変換できないために、データ・タイプの不一致が存在する可能性があります。

区切り文字付き ASCII (DEL) ファイルの場合、列番号の値が問題の値の入った行内のフィールドを示していません。ASCII ファイルの場合は、列番号の値が、問題の値が始まる行内のバイト・ロケーションを示します。

NULL 値がロードされます。

ユーザーの処置: 入力値を調べてください。必要に応じて、入力ファイルを訂正してコマンドを再サブミットするか、または表のデータを編集してください。

SQL3120W 行 *row-number*、列 *column-number* のフィールドの値が **INTEGER** 値に変換できませんが、ターゲット列は **NULL** 可能ではありません。行はロードされませんでした。

説明: 示されたフィールドの値が **INTEGER** 値に変換できないために、データ・タイプの不一致が存在する可能性があります。表の出力列は **NULL** 可能ではないため、**NULL** をロードできません。

区切り文字付き ASCII (DEL) ファイルの場合、列番号の値が問題の値の入った行内のフィールドを示していません。ASCII ファイルの場合は、列番号の値が、問題の値が始まる行内のバイト・ロケーションを示します。

行はロードされません。

ユーザーの処置: 入力ファイルを訂正してコマンドを再サブミットするか、または表のデータを編集してください。

SQL3121W 行 *row-number*、列 *column-number* のフィールドの値が **FLOAT** 値に変換できません。NULL がロードされました。

説明: 指定されたフィールドの値は、**FLOAT** 値に変換できません。データ・タイプが不一致である可能性があります。

区切り文字付き ASCII (DEL) ファイルの場合、列番号

の値が問題の値の入った行内のフィールドを示していません。ASCII ファイルの場合は、列番号の値が、問題の値が始まる行内のバイト・ロケーションを示します。

NULL 値がロードされます。

ユーザーの処置: 入力値を調べてください。必要に応じて、入力ファイルを訂正してコマンドを再サブミットするか、または表のデータを編集してください。

SQL3122W 行 *row-number*、列 *column-number* のフィールドの値が **FLOAT** 値に変換できませんが、ターゲット列は **NULL** 可能ではありません。行はロードされませんでした。

説明: 指定されたフィールドの値は、**FLOAT** 値に変換できません。データ・タイプが不一致である可能性があります。表の出力列は **NULL** 可能ではないため、**NULL** をロードできません。

区切り文字付き ASCII (DEL) ファイルの場合、列番号の値が問題の値の入った行内のフィールドを示していません。ASCII ファイルの場合は、列番号の値が、問題の値が始まる行内のバイト・ロケーションを示します。

行はロードされません。

ユーザーの処置: 入力ファイルを訂正してコマンドを再サブミットするか、または表のデータを編集してください。

SQL3123W 行 *row-number*、列 *column-number* のフィールドの値が **PACKED DECIMAL** 値に変換できません。NULL がロードされました。

説明: 示されたフィールドの値が **PACKED DECIMAL** 値に変換できません。データ・タイプが不一致である可能性があります。

区切り文字付き ASCII (DEL) ファイルの場合、列番号の値が問題の値の入った行内のフィールドを示していません。ASCII ファイルの場合は、列番号の値が、問題の値が始まる行内のバイト・ロケーションを示します。

NULL 値がロードされます。

ユーザーの処置: 入力値を調べてください。必要に応じて、入力ファイルを訂正してコマンドを再サブミットするか、または表のデータを編集してください。

SQL3124W 行 *row-number*、列 *column-number* のフィールドの値が **PACKED DECIMAL** 値に変換できませんが、ターゲット列は **NULL** 可能ではありません。行はロードされませんでした。

説明: 示されたフィールドの値が **PACKED DECIMAL**

値に変換できません。データ・タイプが不一致である可能性があります。表の出力列は NULL 可能ではないため、NULL をロードできません。

区切り文字付き ASCII (DEL) ファイルの場合、列番号の値が問題の値の入った行内のフィールドを示しています。ASCII ファイルの場合は、列番号の値が、問題の値が始まる行内のバイト・ロケーションを示します。

行はロードされません。

ユーザーの処置: 入力ファイルを訂正してコマンドを再サブミットするか、または表のデータを編集してください。

SQL3125W ターゲット・データベースの列よりデータが長いために、行 *row-number*、列 *column-number* の文字データが切り捨てられました。

説明: 入力ファイルのフィールド・データの長さが、ロードされる先であるデータベース・フィールドの長さより長くなっています。

文字データは切り捨てられました。

ユーザーの処置: 出力表の値を入力ファイルの値と比較してください。必要に応じて、入力ファイルを訂正してコマンドを再サブミットするか、または表のデータを編集してください。データベースの列の幅は増やすことができません。必要に応じて、もっと幅の広い列で表を定義して、処理を繰り返してください。

SQL3126N リモート・クライアントにはファイルおよびディレクトリーの絶対パスが必要です。

説明: リモートとしてカタログされたデータベースに接続し、LOAD コマンドを発行するには、データ・ファイルの絶対パスが必要です。

lobpaths、copytarget、tempfiles、および part_file_location へのポインターは絶対パスか NULL でなければなりません。

ユーザーの処置: 有効な絶対ファイルおよびパス名を指定して、ステートメントを再サブミットしてください。

SQL3128W データがデータベースの列より長いために、行 *row-number*、列 *column-number* に *data* が含まれるフィールドが、DATE フィールドに合わせて切り捨てられます。

説明: 示されたフィールドの日付値が、日付のストリング表現の長さより長くなっています。

日付値は、表に合うように切り捨てられます。

ユーザーの処置: 出力表の値を入力ファイルの値と比較

してください。必要に応じて、入力ファイルを訂正してコマンドを再サブミットするか、または表のデータを編集してください。

SQL3129W 日付、時刻、またはタイム・スタンプのフィールドがブランクで埋められました。行番号: *row-number*。列番号: *column-number*。フィールド内のテキスト: *text*。

説明: 入力ファイルのフィールド・データが、データベースの列より短くなっていました。

データの右側がブランクで埋められます。

ユーザーの処置: 出力表の値を入力ファイルの値と比較してください。必要に応じて、入力ファイルを訂正してコマンドを再サブミットするか、または表のデータを編集してください。

SQL3130W データがデータベースの列より長いために、行 *row-number*、列 *column-number* に *text* が含まれるフィールドが、「TIME」フィールドに合わせて切り捨てられます。

説明: 示されたフィールドの時刻値が、時刻のストリング表現の長さより長くなっています。

時刻値は、表に合うように切り捨てられます。

ユーザーの処置: 出力表の値を入力ファイルの値と比較してください。必要に応じて、入力ファイルを訂正してコマンドを再サブミットするか、または表のデータを編集してください。

SQL3131W データがデータベースの列より長いために、行 *row-number*、列 *column-number* に *text* が含まれるフィールドが、「TIMESTAMP」フィールドに合わせて切り捨てられます。

説明: 示されたフィールドのタイム・スタンプの値が、タイム・スタンプのストリング表現の長さより長くなっています。

タイム・スタンプの値は、表に合うように切り捨てられます。

ユーザーの処置: 出力表の値を入力ファイルの値と比較してください。必要に応じて、入力ファイルを訂正してコマンドを再サブミットするか、または表のデータを編集してください。

SQL3132W 列 *column* の文字データがサイズ *size* に切り捨てられます。

説明: 文字データ列に、エクスポートできるデフォルトの最大文字列より長い定義サイズがあり、各値は、指定されたサイズに切り捨てられます。

たとえば、デフォルト値によって、LOB 列の最初の SQL_LONGMAX バイトがエクスポートされます。LOB 列全体が必要な場合には、ファイル・タイプ修飾子に *LOBSINFILE* キーワードを指定しなければなりません。LOB の各列が別個のファイルに保管されます。

ユーザーの処置: これは警告です。アクションは不要です。

SQL3133W 行 *row-number* と列 *column-number* のフィールドに無効な *DATALINK* 値が含まれています。NULL がロードされました。

説明: 指定されたフィールドの *DATALINK* 値は無効です。区切り文字付き ASCII (DEL) ファイルの場合、列番号の値が問題の値の入った行内のフィールドを示しています。ASCII ファイルの場合は、列番号の値が、問題の値が始まる行内のバイト・ロケーションを示します。

NULL 値がロードされます。

ユーザーの処置: 入力値を調べてください。必要に応じて、入力ファイルを訂正してコマンドを再サブミットするか、または表のデータを編集してください。

SQL3134W 行 *row-number* と列 *column-number* のフィールドに無効な *DATALINK* 値が含まれていますが、ターゲット列は NULL 可能ではありません。行はロードされませんでした。

説明: 指定されたフィールドの *DATALINK* 値は無効です。区切り文字付き ASCII (DEL) ファイルの場合、列番号の値が問題の値の入った行内のフィールドを示しています。ASCII ファイルの場合は、列番号の値が、問題の値が始まる行内のバイト・ロケーションを示します。

ユーザーの処置: 入力値を調べてください。必要であれば、入力ファイルを訂正してコマンドの再サブミットを行ってください。

SQL3135N *METHOD* パラメーターの列数が、ターゲット表の列数よりも大きくなっています。

説明: *METHOD* パラメーターのデータ列の数は、実際の表のデータ列の数と同じか、またはそれより小さくしなければなりません。

ユーザーの処置: 入力列の正しい数を *METHOD* パラメーターに指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3137W 行 *row-number* が短すぎます。NULL 可能でないデータベースの列にロードされる入力値のうち、少なくとも 1 つが足りません。行はロードされませんでした。

説明: 区切り文字付き ASCII ファイルからロードしている場合は、行に含まれているフィールドが少なすぎます。区切り文字付き ASCII ファイル以外のファイルからロードしている場合は、行に含まれているデータのバイト数が少なすぎます。少なくとも 1 つの NULL にできないターゲット列に対する入力値がありません。

行はロードされません。

ユーザーの処置: 入力ファイルとターゲット表の内容を調べてください。入力ファイルを訂正してコマンドを再サブミットするか、または表のデータを編集してください。

SQL3138W 入力データ・ファイルが終わるまでに、文字ストリングの終了区切り文字が見つかりませんでした。

説明: 文字ストリングの終了区切り文字が検出される前に、入力データ・ファイルの終わりに達しました。

文字ストリングの終了区切り文字が、データの終わりに想定されます。

ユーザーの処置: 出力表の値を入力ファイルの値と比較してください。必要に応じて、入力ファイルを訂正してコマンドを再サブミットするか、または表のデータを編集してください。

SQL3139W ユーティリティによるデータベースからの切断中に、エラー *error* が起きました。

説明: *IMPORT* または *EXPORT* ユーティリティは、データベースから切断することができませんでした。

出力データが不完全の可能性あります。

ユーザーの処置: メッセージのエラー番号を使用して、

エラーを正確に判別してください。

SQL3140W 行 *row-number*、列 *column-number* のフィールドの値が 10 進浮動小数点値に変換できません。NULL がロードされました。

説明: 指定されたフィールドの値は、10 進浮動小数点値に変換できません。データ・タイプが不一致である可能性があります。

区切り文字付き ASCII (DEL) ファイルの場合、列番号の値が問題の値の入った行内のフィールドを示しています。ASCII ファイルの場合は、列番号の値が、問題の値が始まる行内のバイト・ロケーションを示します。

NULL 値がロードされます。

ユーザーの処置: 入力値を調べてください。必要に応じて、入力ファイルを訂正してコマンドを再サブミットするか、または表のデータを編集してください。

SQL3141W 行 *row-number*、列 *column-number* のフィールドの値が 10 進浮動小数点値に変換できませんが、ターゲット列は NULL 可能ではありません。行はロードされませんでした。

説明: 指定されたフィールドの値は、10 進浮動小数点値に変換できません。データ・タイプが不一致である可能性があります。表の出力列は NULL 可能ではないため、NULL をロードできません。

区切り文字付き ASCII (DEL) ファイルの場合、列番号の値が問題の値の入った行内のフィールドを示しています。ASCII ファイルの場合は、列番号の値が、問題の値が始まる行内のバイト・ロケーションを示します。

行はロードされません。

ユーザーの処置: 入力ファイルを訂正してコマンドを再サブミットするか、または表のデータを編集してください。

SQL3142W 列 *column-number* の列ヘッディングは、240 バイトに切り捨てられます。

説明: LOTUS 1-2-3** および Symphony** プログラムは、ラベル・レコードに対して 240 バイトの制限を持っています。エクスポートに対して、240 バイトを超える列ヘッディングが指定された場合は、240 バイトに切り捨てられます。

列ヘッディングは切り捨てられます。処理を続行します。

ユーザーの処置: 列ヘッディングが 240 バイトまたはそれ以下であることを確認してください。出力ワークシート形式 (WSF) ファイルの列に、名前を指定したとき

に発生する可能性があるエラーについてチェックしてください。

SQL3143W 可変長の列 *column-number* の最大長が 240 バイトの制限を超えています。列からのデータは切り捨てられる場合があります。

説明: LOTUS 1-2-3** および Symphony** プログラムは、ラベル・レコードに対して 240 バイトの制限を持っています。240 バイトを超える長さの文字フィールドが、ワークシート形式 (WSF) ファイルに書き込まれる場合、データは常に 240 バイトに切り捨てられます。

処理を続行します。列に対する後続のデータ入力項目は、切り捨てられる可能性があります。

ユーザーの処置: 出力を確認してください。切り捨てにより列の重要なデータが失われる場合は、サブストリング処理により、いくつかのフィールドで列からデータを選択して調べるか、またはデータベースを設計し直してください。

SQL3144W 固定長の列 *column-number* の最大長が 240 バイトの制限を超えています。列からのデータは切り捨てられる場合があります。

説明: Lotus 1-2-3** および Symphony** プログラムは、ラベル・レコードに対して 240 バイトの制限を持っています。240 バイトを超える長さの文字フィールドが、ワークシート形式 (WSF) ファイルに書き込まれる場合、データは常に 240 バイトに切り捨てられます。

列のすべてのデータ項目は切り捨て処理されますが、メッセージ・ログには追加メッセージは書き込まれません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: 出力を確認してください。切り捨てにより列の重要なデータが失われる場合は、サブストリング処理により、いくつかのフィールドで列からデータを選択して調べるか、またはデータベースを設計し直してください。

SQL3145W 行 *row-number*、列 *column-number* のデータは 240 バイトに切り捨てられます。

説明: Lotus 1-2-3** および Symphony** プログラムは、ラベル・レコードに対して 240 バイトの制限を持っています。240 バイトを超える長さの文字フィールドが、ワークシート形式 (WSF) ファイルに書き込まれる場合は、常に 240 バイトに切り捨てられます。この

SQL3146N

メッセージは、その列に関連するメッセージ SQL3143の後に続きます。

処理を続行します。データは切り捨てられます。

ユーザーの処置: 出力を確認してください。切り捨てにより列の重要なデータが失われる場合は、サブストリング処理により、いくつかのフィールドで列からデータを選択して調べるか、またはデータベースを設計し直してください。

SQL3146N 行 *row-number* 列 *column-number* の **DATE** または **TIMESTAMP** の値が、範囲を超えています。

説明: 日付またはタイム・スタンプの値が無効です。ワークシート形式 (WSF) ファイルに有効な日付の値は、01-01-1900 から 12-31-2099 までです。

セル・レコードは作成されません。

ユーザーの処置: 出力ファイルの値を入力表の値と比較してください。必要に応じて、入力値を訂正してコマンドを再サブミットするか、または表のデータを編集してください。

SQL3147W ワークシート・フォーマット・ファイルにエクスポートした行が、2048 を超えています。

説明: エクスポートされた行数が 2048 を超えています。第 1 世代の製品は 2048 を超える行をサポートしません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: 2048 を超える行は、第 2 世代または第 3 世代の製品によってのみ読み取ることができます。

SQL3148W 入力ファイルからの行が表に挿入されませんでした。 **SQLCODE** *sqlcode* が戻されます。

説明: 入力ファイルから読み取った行のデータを挿入するデータベース処理が失敗しました。入力ファイルの 1 つ以上のフィールドが、データベース内の挿入先のフィールドと互換でない可能性があります。

入力データの次の行から処理が継続されます。

ユーザーの処置: 挿入されなかった行の行番号については、メッセージ・ファイルの次のメッセージを参照してください。入力ファイルとデータベースの内容を調べてください。必要に応じて、データベースまたは入力ファイルを変更して、もう一度やり直してください。

SQL3149N *number-1* 行が、入力ファイルから処理されました。 *number-2* 行が、正常に表に挿入されました。 *number-3* 行が、拒否されました。

説明: このサマリー・メッセージにより、入力ファイルから読み取られた行データの数、データベース表に挿入された行数、または拒否された行数を知ることができます。 **INSERT_UPDATE** オプションを使用している場合、更新された行数は、挿入された数と拒否された数を処理された行数から引いた数です。

ユーザーの処置: これはサマリー・メッセージなので、ありません。詳細メッセージが修正アクションを示します。

SQL3150N **PC/IXF** 形式ファイルの **H** レコードには、製品 *product*、日付 *date*、および時刻 *time* が入っています。

説明: **PC/IXF** ファイルを作成した製品と作成日時に関する情報が与えられます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL3151N **FORCEIN** オプションが指定されているために、**H** レコードの 1 バイト・コード・ページ値 *code-page* から、アプリケーションの 1 バイト・コード・ページ値 *code-page* へのデータ変換は実行されません。

説明: **FORCEIN** オプションが指定されているために、**IXF** のコード・ページからアプリケーションのコード・ページへの変換は行われません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。**IXF** ファイルのコード・ページからアプリケーションのコード・ページへの変換を、データベース・マネージャーがサポートしている場合は、**FORCEIN** オプションなしで操作をやり直すことができ、データが変換されます。

SQL3152N **H** レコードの 2 バイト・コード・ページの値 *value* が、アプリケーションの 2 バイト・コード・ページの値 *value* と互換性がありません。**FORCEIN** オプションが指定されているため、データの挿入が行われます。

説明: レコードの 2 バイト・コード・ページとアプリケーションの 2 バイト・コード・ページが互換性がありません。**FORCEIN** オプションが使用されていたために、データは挿入されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL3153N PC/IXF 形式ファイルの T レコードは、名前 *name*、修飾子 *qualifier*、およびソース *source* を持っています。

説明: データが抽出された表の名前、表を作成した製品、およびデータのオリジナル・ソースに関するオプション情報が与えられます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL3154W H レコードの HCNT 値と T レコードの CCNT 値が、互換ではありません。T レコードの CCNT 値が使用されます。

説明: H レコード内の HCNT 値と T レコード内の CCNT 値が、一致しません。

T レコードの CCNT 値が使用されます。

ユーザーの処置: CCNT 値が正しいことを確認してください。値が正しくない場合、HCNT または CCNT 値に必要な変更を行なって、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3155W 列 *name* の C レコードの「名前の長さ」フィールドが無効です。列からのデータはロードされません。

説明: 示された列に対する C レコードの「名前の長さ」フィールドの値が無効です。

示された列のデータはロードされません。

ユーザーの処置: C レコードの「名前の長さ」フィールドを変更して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3156W 列 *name* に対する C レコードの NULL フィールドが無効です。列からのデータはロードされません。

説明: 示された列に対する C レコードの null フィールドが無効です。

示された列のデータはロードされません。

ユーザーの処置: C レコードの null フィールドを変更して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3157W 列 *name* に対する C レコードの「タイプ」フィールドが無効です。列からのデータはロードされません。

説明: 示されている列に対する C レコードの「タイプ」フィールドが無効です。コード・ページの値と列タイプが互換でない可能性があります。

示された列のデータはロードされません。

ユーザーの処置: C レコードの「タイプ」フィールドを変更して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3158W 列 *name* に対する C レコードの「1 バイト・コード・ページ」フィールドが無効です。列からのデータはロードされません。

説明: 示された列に対する C レコードの「1 バイト・コード・ページ」フィールドが無効です。

示された列のデータはロードされません。

ユーザーの処置: C レコードの「1 バイト・コード・ページ」フィールドを変更して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3159W 列 *name* に対する C レコードの「2 バイト・コード・ページ」フィールドが無効です。列からのデータはロードされません。

説明: 示された列に対する C レコードの「2 バイト・コード・ページ」フィールドが無効です。

示された列のデータはロードされません。

ユーザーの処置: C レコードの「2 バイト・コード・ページ」フィールドを変更して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3160W 列 *name* に対する C レコードの「列の長さ」フィールドが無効です。列からのデータはロードされません。

説明: 示された列に対する C レコードの「列の長さ」フィールドが無効です。

示された列のデータはロードされません。

ユーザーの処置: C レコードの「列の長さ」フィールドを変更して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3161W 列 *name* に対する C レコードの「精度」フィールドが無効です。列からのデータはロードされません。

説明: 示された列に対する C レコードの「精度」フィールドが無効です。

示された列のデータはロードされません。

ユーザーの処置: C レコードの「精度」フィールドを変更して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3162W 列 *name* に対する C レコードの「位取り」フィールドが無効です。列からのデータはロードされません。

SQL3163W

説明: 示された列に対する C レコードの「位取り」フィールドが無効です。

示された列のデータはロードされません。

ユーザーの処置: C レコードの「位取り」フィールドを変更して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3163W 浮動小数点の列 *name* に対する C レコードの「列の長さ」フィールドがブランクです。00008 の値が使用されます。

説明: 示されている列に対する C レコードの「列の長さ」フィールドがブランクです。

列の長さとして 00008 が使用されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL3164W 浮動小数点の列 *name* に対する C レコードの「列の長さ」フィールドが無効です。列からのデータはロードされません。

説明: 示された列に対する C レコードの「列の長さ」フィールドが無効です。示された列は浮動小数点の列です。

示された列のデータはロードされません。

ユーザーの処置: C レコードの「列の長さ」フィールドを変更して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3165W 列 *name* に対する C レコードの「列タイプ」フィールド *type* が無効です。列からのデータはロードされません。

説明: 示された列に対する C レコードの列タイプが無効です。

示された列のデータはロードされません。

ユーザーの処置: C レコードの「列タイプ」フィールドを変更して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3166W データベース列 *name* へのロードが指定された PC/IXF 列が存在しないか、または指定した PC/IXF 列が存在しません。NULL が挿入されます。

説明: 示された列へのロードが指定された PC/IXF 列が存在しないか、または指定した PC/IXF ソース列が存在しません。

NULL 値が、示された列にロードされます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。この列で NULL が許容されない場合は、*METHOD* パラメーターの名前や位置に誤りがないかどうか、また *Action String* (例えば、"REPLACE into ...") パラメーターで明示され

ている、または暗黙に指定されている列の数よりも、*METHOD* パラメーター内の項目の数が少なくなっていないかどうかを調べてください。

SQL3167W データベースの列 *name* へのロードが指定された PC/IXF 列が無効です。NULL が挿入されます。

説明: このメッセージで示されたデータベースの列に PC/IXF 列の値をロードできません。理由はログの前のメッセージで示されています。

NULL 値が、示された列にロードされます。

ユーザーの処置: 前のメッセージを読んで、列が無効な理由を理解してください。

SQL3168W データベースの列 *name* へのロードが指定された PC/IXF 列がデータベースの列と互換ではありません。NULL が挿入されます。

説明: ソース PC/IXF とターゲット・データベースの列タイプまたは長さに、互換性がない可能性があります。

NULL 値が、示された列にロードされます。

ユーザーの処置: ソース PC/IXF ファイルの列とデータベースの列を比較してください。

SQL3169N FORCEIN オプションが、PC/IXF 列 *name* をデータベースの列 *name* にロード可能にするために、使用されている可能性があります。

説明: これは単なる *FORCEIN* オプションの使用に関する情報です。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL3170W データ行の途中で、ファイルの終わりに達しました。データの不完全な行はロードされませんでした。

説明: 現在のデータ行が終わる前に、ファイルの終わりに達しました。ファイルには、予期されたデータの一部しか入っていない可能性があります。

不完全なデータ行はロードされません。

ユーザーの処置: PC/IXF ファイルをあるメディアから別のメディアにコピーしている場合は、コピーをオリジナルと比較するか、またはコピー処理を繰り返してください。

SQL3171W 列のヘッダー行に、ラベルのないレコードがありました。レコードは処理されませんでした。

説明: IMPORT ユーティリティは、ワークシート形式 (WSF) ファイルのヘッダー行 (1 行目) には、ラベル・レコードのみを予期しています。

システムは、そのレコードを処理せず、次のレコードの処理を続けます。

ユーザーの処置: スプレッドシート・ファイルの最初の行から、列のヘッディングを除くすべてのデータと情報を取り除いてください。コマンドを再サブミットしてください。

SQL3172W 指定された入力列 *name* が見つかりませんでした。対応するデータベース列に NULL 値が入ります。

説明: 指定された入力列が、入力スプレッドシート・ファイルで見つかりませんでした。データベースの列は NULL 値を含むことが可能なので、NULL になりました。

ユーザーの処置: 指定した入力列名を確認してください。

SQL3173N 列 *name* に挿入されたデータは、常に列の幅より文字数が少なくなります。

説明: データベースの列の幅が、ワークシート形式 (WSF) ラベル・レコードの最大値を超えています。

処理を続行します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL3174W データベースの列 *name* のデータ・タイプ *type* が、WSF の列タイプと互換性がありません。NULL 値が、この列に挿入されます。

説明: データベースの列タイプが、ワークシート形式 (WSF) ファイルには有効ではありません。列は NULL にすることができるので、NULL が列にインポートされます。

ユーザーの処置: この列で NULL が受け入れられない場合は、以下のいずれかを行ってください。

- 表のデータを編集してください。
- 可能であれば、データベース表の別の互換列をターゲット列として使用して、コマンドを再サブミットしてください。

- データベース表を再定義して、その列が WSF ファイルからインポートされる列と互換になるようにして、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3175W データベースの行 *row*、列 *column* に対する入力レコードが無効です。

説明: スプレッドシート・ファイルのレコードが、データベースの列のデータ・タイプと互換ではありません。データベースの列が GRAPHIC データ・タイプの場合は、入力データに奇数バイトが入っている可能性があります。

列を NULL にすることができる場合は、NULL が挿入されます。列を NULL にできない場合は、行がインポートされません。

ユーザーの処置: 表のデータを編集するか、またはデータベース・マネージャーのデータベースにインポートするスプレッドシート・ファイルのデータが有効であることを確認して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3176W WSF ファイルの行 *row* 列 *column* の値が、日付の値の範囲を超えています。

説明: スプレッドシート・ファイルのレコードに、有効なワークシート形式 (WSF) の日付を表現するには大きすぎるかまたは小さすぎる値が含まれています。有効な WSF の日付は 1 から 73050 (1 と 73050 を含む) です。

列を NULL にすることができる場合は、NULL が挿入されます。列を NULL にできない場合は、行がインポートされません。

ユーザーの処置: 表のデータを編集するか、またはデータベース・マネージャーのデータベースにインポートするスプレッドシート・ファイルのデータが有効であることを確認して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3177W WSF 形式ファイルの行 *row*、列 *column* に対する値が、時刻の値の範囲を超えています。

説明: スプレッドシート・ファイルのレコードに、有効なワークシート形式 (WSF) の時刻を表現するには大きすぎるかまたは小さすぎる値が含まれています。WSF の時刻はゼロ以上の値ですが、1 よりも小さくなっています。

列を NULL にすることができる場合は、NULL が挿入されます。列を NULL にできない場合は、行がインポートされません。

ユーザーの処置: 表のデータを編集するか、またはインポートされる値が、入力スプレッドシート・ファイルの

SQL3178W

時刻の値であることを確認して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3178W データベースの行 *row-number* 列 *column-number* に対する WSF ファイルのレコード・タイプは、時刻の値の表現には無効です。

説明: 入力値が整数値です。時刻の値は、浮動小数点数によって表記するか、またはワークシート形式 (WSF) スプレッドシート・ファイルの日付の一部として表記しなければなりません。

列を NULL にすることができる場合は、NULL が挿入されます。列を NULL にできない場合は、行がインポートされません。

ユーザーの処置: 表のデータを編集するか、またはインポートされる値が、入力スプレッドシート・ファイルの時刻の値であることを確認して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3179W 入力ファイルの行 *row* に、データベースの NULL にできない列に挿入するデータがありません。この行は挿入されません。

説明: 入力ファイルの行データには、NULL 可能でない列には無効なデータが含まれているか、またはそのためのデータが欠落しています。その行の残りのデータベース列の値は挿入されていません。

処理は次の行から続けられます。行は挿入されません。

ユーザーの処置: 表のデータを編集するか、またはスプレッドシート・ファイルのデータがデータベース・マネージャー・データベースへの挿入に有効であることを確認してください。

SQL3180W ディスケット *number* をドライブ *drive* に挿入してください。

説明: これは、示されたドライブに示されたディスクを挿入するためのプロンプトを表示する、アプリケーションの要求です。

ユーティリティーは、ディスクがドライブに挿入されるまで、再呼び出しを待ちます。

ユーザーの処置: ディスケットの挿入をユーザーに促して、処理を継続するか終了するかを指示する *callerac* パラメーターを使用して、ユーティリティーへ戻ってください。

SQL3181W 予期された終了レコードが見つからないうちに、ファイルの終わりに達しました。

説明: データベース・マネージャーによって作成された PC/IXF ファイルのロード中に、最後の A レコードとして予期されたサブタイプ E の A レコードが見つかりませんでした。

入力ファイルが壊れている可能性があります。

処理を続行します。

ユーザーの処置: ロードされなかったデータをチェックしてください。データが欠落している場合は、表を編集するか、または入力ファイルを変更して、コマンドを再サブミットしてください。PC/IXF ファイルをあるメディアから別のメディアにコピーしている場合は、コピーをオリジナルと比較するか、またはコピー処理を繰り返してください。

SQL3182W ディスケット *number* をドライブ *drive* に挿入してください。現在挿入されているディスクが正しいディスクでないか、あるいは継続ディスクが無効です。

説明: 複数ディスクに含まれている PC/IXF ファイルのロード中に、ディスクの挿入の要求がアプリケーションに送られ、ディスクがドライブに存在するという確認が戻されましたが、継続のディスクが存在しないか、または有効ではありません。このアクションは、最初のディスクには適用されません。

ユーティリティーは、アプリケーションからの応答を待ち、処理を続けるか、または停止します。

ユーザーの処置: 正しいディスクがドライブに入っていることをユーザーに確認してください。正しいディスクがドライブに入っている場合は、処理の終了に設定された *callerac* パラメーターを指定して、もう一度ユーティリティーを呼び出してください。

SQL3183W *filetmod* パラメーターの複数の区切り文字オーバーライドが、ブランクで区切られていません。

説明: *filetmod* パラメーターの少なくとも 1 つの COLDEL、CHARDEL、DECPT キーワードが、*filetmod* パラメーターの先頭になく、その後にブランク (スペース) が続いていません。この状態は、ASCII (DEL) 区切りファイルの LOAD/IMPORT またはエクスポート中に発生する可能性があります。

ユーティリティーは処理を停止します。誤りのある区切り文字オーバーライドは無視されます。

ユーザーの処置: 正しい *filetmod* パラメーターを指定

して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3184W 表を作成中に、SQL 警告 *SQLCODE* が発生しました。

説明: 表は作成されましたが、元の表と異なる可能性があります。

ユーザーの処置: 新規に作成された表と作成予定であった表の定義を比較してください。ALTER TABLE などのコマンドを使用して、必要な修正を行います。状況についての詳細は、警告メッセージに示された *SQLCODE* を参照してください。

SQL3185W 入力ファイルの行 *row-number* のデータの処理中に、前のエラーが発生しました。

説明: このメッセージは、メッセージ・ファイル内にリストされている前のメッセージ (たとえば SQL3306) に対して、エラーが発生した行の識別用に提供されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL3186W ログがいっぱいであるか、またはロック・スペースがすべて使用されているために、データがデータベースにロードされませんでした。SQLCODE *sqlcode* が戻されません。コミットが試みられ、コミットが成功すれば、操作が続行されます。

説明: データベース・トランザクション・ログがいっぱいであるか、もしくはアプリケーションで使用可能なロック・スペースがいっぱいであるために、ユーティリティーが行データをデータベースに挿入できませんでした。

完了したデータベース・トランザクションがコミットされ、もう一度挿入が試みられます。再試行の挿入処理でも同様の失敗が示される場合、ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: 引き続いてユーティリティーの処理が失敗すると、データベースは最後のコミット後の状態にロールバックされ、ユーティリティーが最初に呼び出される前の状態ではありませんので注意してください。

SQL3187W 索引の作成中に、エラーが発生しました。SQLCODE *sqlcode* が戻されます。

説明: エラーが発生した時点で、IMPORT ユーティリティーが索引を作成していました。いくつかの表には、索引がすでに存在している可能性があります。

このエラーは、PC/IXF ファイルのインポート中のみ発生します。

ユーティリティーは処理を続けます。ファイルはインポ

ートされましたが、索引は表に作成されていません。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: このエラーは、前にリストされた原因に加えて、CREATE NICKNAME ステートメントがフェデレーテッド・サーバーで発行され、データ・ソースの表の索引に列が多過ぎるとき、または合計索引行サイズがフェデレーテッド・サーバー・カタログで示されないときに発生します。メッセージの *sqlcode* は検出された問題について詳細情報を提供します。

ユーザーの処置: 作成されなかった索引の名前については、メッセージ・ログ内の次のメッセージ (SQL3189) を読んでください。CREATE INDEX コマンドを使用して、索引を作成してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: フェデレーテッド・サーバー・カタログに作成されていない索引を判別するには、データ・ソース・カタログとフェデレーテッド・サーバー・カタログから選択してください。以下のいずれかを行ってください。

- CREATE INDEX コマンドを使用して、索引を作成してください。当初の索引作成を妨げることになった制限に違反することがないようにするため、ふさわしいなら列の切り捨てを実施するようにしてください。
- なにもしないで、フェデレーテッド・サーバーが索引情報なしで機能することを許可します。

直前の両方のリストされたオプションが可能なパフォーマンス含意を持っています。

SQL3188N 表の内容の削除中に、エラーが発生しました。

説明: REPLACE オプションを使用して LOAD/IMPORT 処理を実行している場合は、データを表に挿入し直す前に、指定されたデータベース表が切り捨てられます。切り捨て処理中に、エラーが発生しました。このエラーは、システム期間テンポラル表の場合に返されます (これは切り捨てできないため)。

ユーティリティーはエラーで終了します。

ユーザーの処置: コマンドを再サブミットしてください。表がシステム期間テンポラル表である場合、REPLACE オプションを指定しないでこのコマンドを再サブミットします。

SQL3189N 前のメッセージは、列 *column-list* の索引 *name* を示しています。

説明: 索引の作成中にエラーが発生した場合は、常にこのメッセージがメッセージ SQL3187 の後に続きます。*name* は、作成が失敗した索引の名前です。*column list* は、索引列名のストリングです。ストリングの各列の前

SQL3190N

には、昇順または降順を示す正 (+) または負 (-) 符号が付けられます。

ユーティリティは処理を続けます。

ユーザーの処置: CREATE INDEX コマンドを使用して、手操作で索引を作成してください。

SQL3190N **indexixf** オプションは、このインポート操作には無効です。

説明: INDEXIXF が IMPORT コマンドの *filetmod* パラメーターで使用されている場合、以下のそれぞれも必要になります。

- IMPORT 処理は、表の内容を置き換える必要があります。
- *METHOD* パラメーターを NULL にする必要があります。
- 各 IXF 列は、同名のデータベースの列をターゲットにしている必要があります。

ユーティリティは処理を停止します。データはインポートされません。

ユーザーの処置: INDEXIXF オプションを使用しないか、または INDEXIXF オプションで有効な他のパラメーターを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3191N *string* で始まる行 *row-number*、列 *column-number* のフィールドが、ユーザー指定の DATEFORMAT、TIMEFORMAT、または TIMESTAMPFORMAT に一致していません。この行は拒否されます。

説明: データがユーザー指定の形式に一致していません。フィールドの欠落、列区切り文字の不一致、または範囲外の値が原因だと思われます。

ユーザーの処置: 入力値を調べてください。入力ファイルを訂正するか、あるいはデータに一致する DATEFORMAT、TIMEFORMAT、または TIMESTAMPFORMAT を指定し、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3192N *filetmod* で、ストリング *string* で始まるユーザー指定のフォーマット *keyword* が無効です。

説明: 複数指定されているか、または無効な文字を含んでいるため、ユーザー指定の形式は無効です。

形式は 2 重引用符で囲まなければなりません。

有効な DATEFORMAT 指定子は "YYYY"、"M"、および "D" 文字です。

有効な TIMEFORMAT 指定子は、"AM"、"PM"、"TT" と "H"、"M"、および "D" の文字です。

有効な TIMESTAMPFORMAT 指定子は "UUUUUU"、および DATEFORMAT と TIMEFORMAT の指定子すべてです。ただし、日付形式指定子と時刻形式指定子の両方の隣を "M" にすることはできません。

データ・ファイル内の対応する値が可変長である場合、フィールド区切り文字が必要です。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 形式指定子を調べてください。形式を訂正し、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3193N 指定されたビューまたはマテリアライズ照会表は更新できません。このビューに LOAD/IMPORT したり、このマテリアライズ照会表に LOAD することはできません。

説明: LOAD/IMPORT ユーティリティは、ビューが更新可能な場合にのみ、そのビューに対して実行することができます。指定されたビューは、その中のデータの変更を許さないように定義されています。

LOAD ユーティリティは、マテリアライズ照会表が複製されていない場合のみ、マテリアライズ照会表に対して実行できます。指定された表は複製されたマテリアライズ照会表です。

IMPORT ユーティリティは、マテリアライズ照会表がユーザー保守のマテリアライズ照会表である場合にのみ、そのマテリアライズ照会表に対して実行できます。指定された表は、システム保守のマテリアライズ照会表です。

LOAD/IMPORT ユーティリティの処理を停止します。挿入されるデータはありません。

ユーザーの処置: 更新可能な表またはビューの名前を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3194N 指定された表はシステム表です。システム表はロードできません。

説明: ユーティリティは、システム表に対して実行できません。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: 有効な表名を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3195W ドライブ *drive* のディスクット *number* は、出力ファイルには使用できません。書き込み可能なフリー・スペースがあるフォーマット済みディスクットを挿入してください。

説明: EXPORT ユーティリティは、以下のいずれかの理由のために、PC/IXF ファイルへのエクスポートに現在のディスクットを使用できません。

- 出力ファイルをディスクット上でオープンできません。ディスクットがフォーマット (初期化) されていない可能性があります。
- ディスクットの使用可能なフリー・スペースが十分ではありません。

この警告コードは、指定されたドライブに別のディスクットを挿入するためのプロンプトを表示する、アプリケーションの要求です。

ユーティリティは、ディスクットがドライブに挿入されるまで、再呼び出しを待ちます。

ユーザーの処置: ディスクットの挿入をユーザーに促して、処理を継続するか終了するかを指示する *callerac* パラメーターを使用して、ユーティリティへ戻ってください。

SQL3196N 入力ファイルが見つかりませんでした。

説明: データベースにロードされるソース・ファイルが、*datafile* パラメーターで示されているパスに見つかりません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 入力ファイルが存在し、そのファイルへのパスが正しいことを確認してください。

SQL3197N インポートまたはエクスポートの複数コピーを実行しようとしてしました。

説明: システムで、インポートまたはエクスポート・ユーティリティの複数インスタンスを実行しようとしてしましたが、これはサポートされていません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 他の処理が同じユーティリティを実行しようとしていないときに、2 次操作の再サブミットを行なってください。

SQL3201N 指定された表は、他の表がそれに依存しているために置換できません。

説明: 他の表とのリレーションシップにおいて親である表は、置き換えることができません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: INSERT などの別のオプションを選択するか、またはユーティリティ操作に対して別のターゲットを選択してください。

SQL3202N ロード・ユーティリティがパーティション・ロックの獲得に失敗しました。

説明: ロード・ユーティリティがパーティション・ロックの獲得に失敗しました。現在、別のロード・ユーティリティが同じ表へのロードを行っており、現行ロードと同じ db-partition に接続されています。

ユーザーの処置: 同じ表への複数のロードを並行して実行する場合は (複数の出力 db-partition で成る非結合セットであることが前提)、それぞれのロードを異なる db-partition に接続されたデータベース接続から実行することにより、ロード・コーディネーター・エージェントを別々の db-partition に置く必要があります。

SQL3203N 指定されたターゲットが主キーを持っていないか、またはすべての列が主キーになっているために、そのターゲットに対して INSERT_UPDATE オプションを使用することができません。

説明: INSERT_UPDATE オプションは、ターゲット表が主キーを持っていて、ターゲット列に主キーのすべての列が含まれている場合にのみ有効です。さらに、ターゲット列のリストおよびターゲット表には、主キーの一部ではない列が少なくとも 1 つは入っている必要があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: INSERT などの別のオプションを選択するか、またはユーティリティ操作に対して別のターゲットを選択してください。

SQL3204N INSERT_UPDATE オプションはビューに対しては適用されません。

説明: INSERT_UPDATE オプションはビューには無効ですが、ユーティリティ操作のターゲットとしてビューが選択されています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: INSERT などの別のオプションを選択するか、またはユーティリティ操作に対して別のター

ゲットを選択してください。

SQL3205N 指定されたビューは、基本表がそれに依存しているために置換できません。

説明: 基本表が他の表 (それ自体を含みます) とのリレーションシップで親表であるビューは、置き換えることができません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: INSERT などの別のオプションを選択するか、またはユーティリティー操作に対して別のターゲットを選択してください。

SQL3206N 指定されたビューは、定義に副照会が含まれているために置換できません。

説明: 定義に副照会が入っているビューは、置き換えることができません。ビュー定義が他のビューの定義に依存している場合、他のビューは副照会を持つことはできません。ターゲット・ビューの基になるビューの定義のどこかで副照会が使用されている場合、REPLACE オプションを使用することはできません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: INSERT などの別のオプションを選択するか、またはユーティリティー操作に対して別のターゲットを選択してください。

SQL3207N 無効な表のリストが指定されました。理由コード *reason-code*

説明: 指定の *traversal-order-list*/*subtable-list* は無効です。理由コードの説明は以下のとおりです。

1. *traversal-order-list* で指定された表が PRE-ORDER 様式でない。
2. *traversal-order-list* で指定された表が接続されていない。
3. スキーマ名の不一致が *traversal-order-list*/*subtable-list* にある。
4. REPLACE オプションで、*traversal-order-list* で欠落している副表がある。
5. *Subtable-list* が等しくないか、あるいは *traversal-order-list* のサブセットである。

ユーザーの処置: 理由コードに基づいて、ユーザー・アクションは以下のようになります。

1. *traversal-order-list* を PRE-ORDER 様式にする。
2. *traversal-order-list* のすべての表を接続する。
3. スキーマ名を同じにする。
4. REPLACE オプションが使用されている場合、階層にあるすべての副表が入っているか確認する。

5. *subtable-list* を *traversal-order-list* と等しくするか、*traversal-order-list* のサブセットにする。

SQL3208W 型付き表から **regular** 表へデータをインポートしています。

説明: ユーザーは、型付き表から **regular** 表へのデータ・インポートを指定しました。 *object_id* 列はインポート中にキャストされないことに注意してください。

ユーザーの処置: この操作は意図的なものであるか、確認してください。

SQL3209N CREATE オプションを指定したインポートでは、副表名および属性名の変更をすることができません。

説明: CREATE オプションが使用されている場合、副表名および属性名の変更はできません。

ユーザーの処置: IMPORT コマンドをチェックして、*subtable-list* の指定がないことを確認してください。

SQL3210N オプション *option* は、*command-name* の階層と非互換です。

説明: *option* は、EXPORT、IMPORT、または LOAD の階層と非互換です。

ユーザーの処置: 階層サポートのコマンド構文をチェックしてください。

SQL3211N LOAD は型付き表をサポートしません。

説明: LOAD は型付き表をサポートしません。IMPORT を使用するようにしてください。

ユーザーの処置: IMPORT を使用して階層データをデータベースに入れてください。

SQL3212N DATALINK 列を持つ表または削除ペンディング状態の表スペースの LOAD コマンドの TERMINATE オプションは現在サポートされていません。

説明: DATALINK 列の入った表、または削除ペンディング状態の表スペースに存在する表に対する、破壊、割り込み、または強制された LOAD 操作の終了が試行されました。これは現在サポートされていません。

ユーザーの処置: 破壊、割り込み、または強制された LOAD 操作を回復するために、LOAD コマンドの RESTART オプションを使用してください。

SQL3213I 索引付けモードは *mode* です。

説明: 索引付けモード値は以下のとおりです。

REBUILD

索引は完全に再作成されます

INCREMENTAL

索引は拡張されます

DEFERRED

索引は更新されませんが、次にアクセスする前にリフレッシュが必要だとしてマークされます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL3214N **LOAD** ユーティリティーは、ユニーク索引または XML 列を持つ表の据え置き索引付けをサポートしていません。

説明: ユニーク索引を持つ表に索引付けモード DEFERRED が指定されました。これは有効ではありません。

ユーザーの処置: 索引付けモード

AUTOSELECT、REBUILD、または INCREMENTAL を指定してコマンドを再発行してください。

SQL3215W ロード・ユーティリティーは現在、他のターゲット表のオブジェクトと同じ表スペースに表の索引オブジェクトが存在する表の DMS 表スペースにロードを行い、COPY オプションとともに指定されている場合の INCREMENTAL 索引付けをサポートしていません。REBUILD 索引付けモードが代わりに使用されます。

説明: INCREMENTAL 索引付けモードはこの操作ではサポートされていません。REBUILD 索引付けモードが代わりに使用されます。

ユーザーの処置: ユーザーは、ロードされる表内の他のオブジェクトと共有されていない表スペースに索引を定義することによって、この警告を回避できます。または COPY オプションの使用を避けてください。COPY オプションの代わりに全リストについては、DB2 の資料を参照してください。

SQL3216W ロード・ユーティリティーの開始時に、表の索引オブジェクトと INCREMENTAL 索引保守とに互換性がありませんでした。INCREMENTAL 索引付けは、このロード・ユーティリティー操作中には実行できません。REBUILD 索引付けモードが代わりに使用されます。

説明: INCREMENTAL 索引付けは、互換性のある索引オブジェクトをロード・ユーティリティーの開始時に持つ表のみで使用できます。索引付けモード REBUILD を使用してロードを行うと、整合性のある方法で表索引が再作成されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL3217W INCREMENTAL 索引付けモードは、INSERT INTO アクションを使用してデータを付加するために LOAD を使用する時のみサポートされます。現在の LOAD アクションは *action* です。ユーティリティーは索引付けモード *mode* を代わりに使用します。

説明: INCREMENTAL 索引付けは、ロード INSERT アクションを使用して表にデータを付加するときのみ使用できます。REPLACE、RESTART、または TERMINATE アクションとともにロードを行うときは、この機能はサポートされません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL3218C 損傷を受けた 1 つ以上の索引ファイルを見つけたため、LOAD ユーティリティーは操作を続行できません。データベースを再始動し、LOAD コマンドを再サブミットしてください。

説明: ターゲット表でディスク・データ構造の索引が不整合状態にあるため、LOAD ユーティリティーは操作を続行できません。

ユーザーの処置: アプリケーションをすべて終了し、影響を受けたデータベースに RESTART DATABASE コマンドを出して、損傷を受けた索引を再作成してください。その後、LOAD コマンドを再サブミットしてください。

SQL3219N LOAD ユーティリティーは、ターゲット表の制約チェックを無効にできませんでした。

説明: ターゲット表の制約チェックを無効にしようと試みているときに、LOAD ユーティリティーが問題を見つけました。

ユーザーの処置:

- ターゲット表に SET INTEGRITY OFF コマンドを出してから、LOAD ユーティリティーを実行してください。
- 前に失敗した LOAD 操作の後、REPLACE モードで LOAD を試みている場合、LOAD TERMINATE コマ

ンドを使用して表スペースにアクセス可能状態にしてから、LOAD REPLACE コマンドを出してください。

SQL3220W ボリューム *volume-name* が *directory-name* ディレクトリーで見つかりませんでした。このディレクトリーにボリュームをコピーして、LOAD/IMPORT を続行してください。

説明: 複数の IXF ファイルの LOAD/IMPORT が試みられましたが、いずれかのファイルが指定されたディレクトリーにありません。LOAD/IMPORT は、最初のファイルと同じディレクトリーで残りのファイルを探します。

インポートは終了します。

ユーザーの処置:

- 残りのファイルを見つけて、それを最初のファイルと同じディレクトリーに置いてください。その後で、*callerac* に `SQLU_CONTINUE` を指定して、もう一度 LOAD/IMPORT を呼び出してください。LOAD/IMPORT は、ファイルの処理を続けます。
- *callerac* に `SQLU_TERMINATE` を指定して LOAD/IMPORT を呼び出し、LOAD/IMPORT を終了します。

SQL3221W ...COMMIT WORK が開始されました。
入力レコード・カウント = *count*

説明: インポートは処理済みの作業を COMMIT 中です。

ユーザーの処置: このメッセージの直後に SQL3222W メッセージが表示されない場合は、COMMIT が失敗しており、表またはビューをチェックして、インポートされたレコードを調べる必要があります。その後で、正常にインポートされている行をスキップするために、そのレコード数を RESTARTCOUNT に設定してインポートを再開し、残りのファイルをインポートすることができます。(CREATE、REPLACE_CREATE または REPLACE を使用していた場合、次のインポートは INSERT オプションを指定して呼び出してください。)

SQL3222W ...すべてのデータベース変更の COMMIT が成功しました。

説明: COMMIT は成功しました。

ユーザーの処置: このメッセージには、処置は必要ありません。

SQL3223N タイプ・ポインター *parameter* のパラメーターが、正しく指定されていません。

説明: タイプ *parameter* のパラメーターが適切に指定されていません。ポインターは、NULL ポインターであるか、適切な値を指すかのいずれかでなければなりません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 正しいパラメーターを指定して、もう一度ユーティリティを呼び出してください。

SQL3225N RESTARTCOUNT 値 または SKIPCOUNT 値 *value* がファイルの行数 (*rows*) より大きくなっています。行はロードされませんでした。

説明: ユーティリティが、行が表/ビューにロードされない結果となる、入力ファイルの行数より大きな RESTARTCOUNT 値または SKIPCOUNT 値を指定して呼び出されました。

ユーザーの処置: RESTARTCOUNT 値または SKIPCOUNT 値が正しいことを確認し、ユーティリティを再呼び出ししてください。

SQL3227W レコード・トークン *token1* は、ユーザー・レコード数 *token2* を参照していません。

説明: 表のロード、インポートあるいはエクスポート中にエラーあるいは警告が発生しました。問題発生時に CPU 並列処理は 1 より大きくなっており、特殊なユニーク・トークンによりユーザー・レコードを識別する SQL メッセージが書き込まれました。このメッセージは、そのユニーク・レコード・トークンを、ソース・ユーザー・データのレコード番号にマップするものになります。

ユーザーの処置: 該当するアクションについては、オリジナルの SQL メッセージを参照してください。

SQL3228N DEFERRED INDEXING は、DATALINK 列を持つ表ではサポートされていません。

説明: ロード・ユーティリティの“indexing mode”オプションが“deferred”として指定されました。このオプションは、DATALINK 列を持つ表ではサポートされていません。

ユーザーの処置: 異なる索引付けモードを指定してロード・コマンドを出し直してください。

SQL3229W 行 *row-number* と列 *column-number* のフィールド値が無効です。行は拒否されました。理由コード: *reason-code*

説明: 入力ファイルの行データには、無効なデータが含まれています。

理由コード:

- 1 その行および列のファイル名が見つかりません。
- 2 その行および列のファイル名にアクセスできません。
- 3 その列に対してデータが長すぎます。

この行は挿入されません。処理は次の行から続けられません。

ユーザーの処置: 必要であれば、入力ファイルを訂正してコマンドの再サブミットを行ってください。

SQL3230N データ・ファイル・コード・ページ *datafile-codepage* からデータ・タイプ *data-type* のデータベース・コード・ページ *database-codepage* へのコード・ページ変換は、サポートされていません。

説明: CODEPAGE ファイル・タイプ修飾子または IXF ファイルのヘッダー情報で示されるデータ・ファイル・コード・ページは、このデータ・タイプのデータベース・コード・ページと非互換です。

ユーザーの処置: 入力データを、このデータ・タイプと互換性のあるコード・ページに変更してください。

SQL3232W ファイル *file-name* への書き込み中に、エラーが発生しました。代わりに *file-name* が使用されました。

説明: 指定されたファイルに LOB または XML 文書を書き込んでいる間に、エラーが発生しました。新しいファイル名が使用されました。障害の詳細な記録については、db2diag ログ・ファイルを調べてください。

エクスポートで、オリジナル・ファイルへの書き込みができませんでした。ファイル・サイズ制限を超えているなど、ファイルに問題があると見なされます。その次のファイル名を使用して、同じパスに書き込みを行います。エクスポートが再び書き込みに失敗する場合は、パスにエラーがあると見なされます。たとえば、パスのファイル・システムがいっぱいになっていたり、このパスでファイルの書き込みまたは作成を行うための十分なアクセス権がエクスポートにないことがあります。その場合は、XML TO / LOBS TO オプションで指定されている、その次に使用可能なパスの使用が試みられます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL3233W XML データ指定子 (XDS) 内の属性 *attribute-name* は無視されました。理由コード: *reason-code*

説明: 理由コード:

- 1 属性 *attribute-name* が認識されません。
- 2 属性 *attribute-name* を特定の列に適用できません。

ユーザーの処置: 属性名を確認し、必要であれば訂正してください。

SQL3234N 列 *col-number* の XML データ指定子 (XDS) が無効です。属性名: *attribute-name*、文字番号: *char-number*、理由コード: *reason-code*

説明: XDS スtringを構文解析しようとした際にエラーが検出されました。 *char-number* は、エラーが発生した位置を表します。位置を判別できなかった場合、これは 0 に設定されます。

可能性のある理由コードは、以下のとおりです。

- 1 XDS スtringの形式が誤っています。
- 2 必須属性が欠落しています。
- 3 属性名が無効です。
- 4 属性値が無効です。
- 5 重複する属性名が見つかりました。

ユーザーの処置: 有効な XML データ指定子を指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3235N ユーティリティは、指定された *type* パス *path-name* パラメーターを使用することができません。理由コード: *reason-code*

説明: 以下のいずれかの理由コードが適用されます。

- 1

パス *path-name* が有効な *sqlu_media_list* でないか、または提供された値が無効です。
media_type は *SQLU_LOCAL_MEDIA* でなければならず、すべてのパス名は有効なパス区切り文字で終了している必要があります。
- 2

提供されたパスに、EXPORT ユーティリティがタイプ *type* のすべてのデータを保留するのに十分なスペースがありません。
- 3

パス *path-name* にアクセスできません。

ユーザーの処置: どの理由コードが当てはまるかを判別し、問題を訂正してコマンドの再サブミットを行ってください。

SQL3236N XMLVALIDATE オプションの IGNORE 節でスキーマ *schema-name* が指定されていますが、このスキーマは MAP 節内のスキーマ・ペアの左側にも存在します。

説明: XMLVALIDATE オプションの IGNORE 節で指定されたスキーマが MAP 節内のスキーマ・ペアの左側にも存在することはできません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効な XMLVALIDATE オプションを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3237N 指定された EXPORT Action String を XMLSAVESCHEMA オプションと併用することはできません。理由コード: *reason-code*

説明: 理由コード:

- 1 XML 固有の処理上、Action String が長すぎます。
- 2 Action String に、XMLSAVESCHEMA オプションと非互換の「WITH」節が含まれています。

ユーザーの処置: XMLSAVESCHEMA オプションを指定せずにコマンドを再サブミットするか、または Action String を変更してください。

SQL3238N WSF ファイル・フォーマットは *feature* と非互換です。

説明: LOAD、IMPORT、および EXPORT ユーティリティーは、*feature* の WSF ファイル・フォーマットをサポートしていません。

ユーザーの処置: サポートされる別のファイル・フォーマットを使用してください。

SQL3239W 一部の XML 文書のスキーマ情報は、XDS に含まれません。

説明: 挿入された XML 文書の妥当性検査に 1 つ以上の XML スキーマが使用されましたが、これらのスキーマは、もうデータベースに存在しません。このため、これらの XML 文書のスキーマ情報は、エクスポートされるデータ・ファイルに書き込まれません。

SQL3240N 許可 ID *authorization-id* には、セキュリティ・ポリシー *policy-name* によって保護されている表に対してこのユーティリティーを実行するために必要な LBAC 信用証明情報がありません。

説明: ユーティリティーを保護表に対して実行するには、表への新しい行の挿入を許可する LBAC 信用証明情報が許可 ID *authorization-id* になければなりません。

ユーザーの処置: SECADM 権限を持つユーザーが、表への新しい行の挿入を許可する許可 ID *authorization-id* LBAC 信用証明情報を付与するようにします。その表に保護されている行があるものの、保護されている列がない場合には、セキュリティ・ポリシー *policy-name* の一部である任意のセキュリティ・ラベルを付与するだけで十分です。その表に保護されている列がある場合には、LBAC 信用証明情報がすべての保護されている列への書き込みを許可していなければなりません。

sqlcode: -3240

sqlstate: 5U014

SQL3241W 入力ソース内の行 *row* および列 *column* には、ターゲット表の無効なセキュリティ・ラベルが含まれています。

説明: 入力ソースにあるデータ・タイプ DB2SECURITYLABEL の列の値は、ターゲット表を保護しているセキュリティ・ポリシーに有効なセキュリティ・ラベルではありません。データ・タイプ DB2SECURITYLABEL の列に挿入されるすべてのセキュリティ・ラベルは、その表を保護しているセキュリティ・ポリシーの一部でなければなりません。行はロードされません。

ユーザーの処置: 入力・ソース列を確認して、値がターゲット表を保護しているポリシーに対して有効であることを確認してください。入力ソースの値がストリング形式である場合、セキュリティ・ラベルに関連したファイル・タイプ修飾子を指定する必要があります。必要であれば、入力データ・ソースを訂正してコマンドの再サブミットを行ってください。

sqlcode: +3241

sqlstate: 01H53

SQL3242W 入力ソース内の行 *row* および列 *column* には、ターゲット表の無効なセキュリティ・ラベル・ストリングが含まれています。

説明: SECLABELCHAR ファイル・タイプ修飾子が指定されましたが、DB2SECURITYLABEL 列の値は、セ

セキュリティー・ラベル・ストリングに対して適切な形式ではありません。行はロードされません。

ユーザーの処置: DB2SECURITYLABEL 列の入力ソースにある値が正しい形式であることを確認してください。必要であれば、入力データ・ソースを訂正してコマンドの再サブミットを行ってください。

sqlcode: +3242

sqlstate: 01H53

SQL3243W 入力ソースの行 *row* および列 *column* 内のセキュリティー・ラベル・ストリングには、エレメント *element* が含まれていますが、それは、セキュリティー・ラベル・コンポーネント *component* では無効なエレメントです。

説明: SECLABELCHAR ファイル・タイプ修飾子が指定されましたが、セキュリティー・ラベル・ストリングには、指定されたコンポーネントの無効なエレメントが入っています。行はロードされません。

ユーザーの処置: 以下のようにセキュリティー・ラベル・ストリングを注意深く確認してください。

- エレメントが、ターゲット表を保護しているセキュリティー・ポリシー内でそのエレメントのコンポーネントがリストされているのと同じ順序でリストされていることを確認してください。
- エレメントのスペルをチェックしてください。

必要であれば、入力データ・ソースを訂正してコマンドの再サブミットを行ってください。

sqlcode: +3243

sqlstate: 01H53

SQL3244W 入力ソース内の行 *row* および列 *column* には *security-label-name* という名前のセキュリティー・ラベルが含まれていますが、ターゲット表を保護しているセキュリティー・ポリシー *policy-name* に関して、このセキュリティー・ラベルが見つかりません。

説明: SECLABELNAME ファイル・タイプ修飾子が指定されましたが、セキュリティー・ポリシー *policy-name* について、*security-label-name* という名前のセキュリティー・ラベルが見つかりません。行はロードされません。

ユーザーの処置: 入力・ソース列を確認して、値がターゲット表を保護しているセキュリティー・ポリシーに対して有効とみなせることを確認してください。必要であ

れば、入力データ・ソースを訂正してコマンドの再サブミットを行ってください。

sqlcode: +3244

sqlstate: 01H53

SQL3245W ユーザーには必要な LBAC 信用証明情報がないため、入力ソース内の行 *row* および列 *column* をターゲット表に挿入できません。

説明: ユーザーが適切なセキュリティー・ラベルおよび(または)免除信用証明情報を持っていない場合には、保護表に行を挿入することは許可されません。行はロードされません。

ユーザーの処置: この操作のために必要となるふさわしいセキュリティー・ラベルまたは免除を付与するようにデータベース・セキュリティー管理者に依頼してください。必要な場合は、コマンドを再サブミットしてください。

sqlcode: +3245

sqlstate: 01H53

SQL3250N COMPOUND=*value* が無効です。理由コード: *reason-code*

説明: インポート・ユーティリティに COMPOUND=*x* オプションが指定されていますが、理由コードが *reason-code* である以下の理由により処理できません。

- 1 INSERT_UPDATE オプションが使用されているときは、これは無効です。
- 2 これは、次のファイル・タイプ修飾子で無効です。IDENTITYIGNORE、IDENTITYMISSING、GENERATEDIGNORE、GENERATEDMISSING
- 3 インポートされているデータベースが、前のリリースのサーバーまたはゲートウェイを通してアクセスされています。
- 4 値が許容範囲の 1 から 100 を超えています。(DOS または Windows の場合、最大値は 7 です)。
- 5 インポートされている表は階層または型付き表です。
- 6 インポートされている表は、列を生成していません。
- 7 XMLVALIDATE USING XDS オプションが使用されているときは、これは無効です。

SQL3251N

8 USEDEFAULTS ファイル・タイプ修飾子が指定されている場合、それは無効です。

ユーザーの処置: 理由コードに対応するアクションは、以下のとおりです。

理由コード 1 の場合:

- ファイル・タイプ修飾子オプションから COMPOUND=x を除去するか、INSERT オプションを使用してください。

理由コード 2、3、5、6、8 の場合:

- ファイル・タイプ修飾子オプションから COMPOUND=x を除去してください。

理由コード 4 の場合:

- COMPOUND=x の x を正しい値に設定してください。

理由コード 7 の場合:

- COMPOUND=x を除去するか、XMLVALIDATE USING XDS オプションを除去してください。

SQL3251N インポート中に、*error-count* を超えるエラーが発生しました。

説明: ユーティリティにおいて、COMPOUND オプションが使用されている場合に、sqlca (最大値は 7) で中継可能な数を超える数のエラーが検出されました。これらのエラーのメッセージは、メッセージ・ファイルには出力されません。

ユーティリティは処理を続けます。

ユーザーの処置: インポート中に挿入された行ごとのすべてのエラー・メッセージが必要な場合は、COMPOUND オプションを使用しないか、または COMPOUND 値を 7 以下で使用してください。

SQL3252N Load METHOD *method* オプションは、指定されたファイル・フォーマットとは非互換です。

説明: ロード・ユーティリティは、指定されたファイル・フォーマットとは非互換の METHOD オプションで呼び出されました。

ユーザーの処置: 制約事項および非互換性についての資料を確認し、この制約事項に適合する別の METHOD オプションまたはファイル・フォーマットを使用してロード・コマンドを再発行してください。

SQL3253N ユーティリティは、データベース *database* にある SQL ステートメント *statement* からのデータのロードを開始しています。

説明: これは、カタログ済みデータベースから取り出す SQL ステートメントからのロードが開始されたことを示す通知メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL3254N ユーティリティは、データベース *database* の表 *schema.tablename* からデータのロードを開始します。

説明: これは、カタログ済みデータベース上の表にある内容を取り出す SQL ステートメントからのロードが開始されたことを示す通知メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL3255N ロード・ユーティリティは、SOURCEUSEREXIT *source user exit* の実行中にエラーを検出しました。理由コード *reason*。

説明: ロード・ユーティリティは、ソース・ユーザー出口の実行中またはその実行の試行中にエラーを検出しました。これは以下のいずれかの理由によります。

理由コード:

- 指定されたソース・ユーザー出口ファイルが見つかりませんでした。
- ソース・ユーザー出口が異常終了したか、ゼロ以外の戻りコードを戻しました。

ユーザーの処置:

- ソース・ユーザー出口が存在し、そこに正しい許があり、それが "sqllib" パスの "bin" サブディレクトリにあることを確認してください。その後、Load を再発行してください。
- ソース・ユーザー出口アプリケーションをデバッグして、それが設計したとおりに作動していることを確認してください。その後、Load を再発行してください。

SQL3256N ロード・ユーティリティは、指定されたファイル・タイプのデータの処理中にエラーを検出しました。

説明: ロード・ユーティリティは、指定したファイル・タイプのデータを処理している時にエラーを検出しました。データの形式が無効です。ユーティリティが処理を停止しました。

ユーザーの処置: データが正しいファイル・タイプ形式になっていることを確認してください。

SQL3257N ロード・ユーティリティーは、指定されたファイル・タイプのデータの処理中にエラーを検出しました。理由コード *reason*。該当する場合、レコード番号は *record num* で列番号は *column num* です。

説明: ロード・ユーティリティーは、指定したファイル・タイプのデータを処理している時にエラーを検出しました。ユーティリティーが処理を停止しました。これは以下のいずれかの理由によります。

理由コード:

1. データ・ファイル・ヘッダー情報が無効であるか欠落しています。
2. 特定の *record num* のレコード・ヘッダー情報が無効であるか欠落しています。
3. 特定の *record num* の列ヘッダー情報が無効であるか欠落しています。
4. レコード番号 *record num* にある特定の列番号 *column num* の列データは、無効であるか欠落しています。

ユーザーの処置: 1 から 4。データが正しいファイル・タイプ形式になっていることを確認してください。

SQL3260N LDAP ディレクトリーへのアクセス中に予期しないエラーが発生しました。エラー・コード = *error-code*

説明: LDAP ディレクトリーへのアクセス中に予期しないエラーが発生しました。コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: メッセージ番号 (SQLCODE) とエラー・コードを記録してください。独立トレース機能を使用して DB2 トレースを取得してください。さらに IBM サービス担当者に連絡してください。

SQL3261N 必要な入力パラメーターが指定されなかったために、REGISTER LDAP コマンドが正常に完了しませんでした。理由コード = *reason-code*。

説明: 以下の理由コードに示されているとおりに必要な入力パラメーターが指定されなかったために、REGISTER LDAP コマンドが正常に完了しませんでした。

- 1 ネットワーク ID パラメーターが指定されていませんでした。

- 2 パートナー LU パラメーターが指定されていませんでした。

- 3 トランザクション・プログラム (TP) 名パラメーターが指定されていませんでした。

- 4 モード・パラメーターが指定されていませんでした。

- 5 Netbios NNAME パラメーターが指定されていませんでした。

- 6 TCP/IP ホスト名パラメーターが指定されていませんでした。

- 7 TCP/IP サービス名パラメーターが指定されていませんでした。

- 8 IPX アドレスが指定されていませんでした。

- 9 コンピューター名が指定されていませんでした。

- 10 インスタンス名が指定されていませんでした。

ユーザーの処置: 必要な入力パラメーターを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3262N TCP/IP サービス名 *name* が無効です。

説明: 指定された TCP/IP サービス名が無効です。

ユーザーの処置: TCP/IP サービス名が構成されていて、ローカル *etc/services* ファイルに予約済みであることを確かめてから、コマンドを再サブミットしてください。または TCP/IP サービス名に割り当てられているポート番号を指定してください。

SQL3263N サポートされていないプロトコル・タイプです。

説明: 指定されたプロトコル・タイプはコマンドでサポートされていません。

ユーザーの処置: サポートされているプロトコル・タイプを使用してコマンドを再サブミットしてください。

SQL3264N DB2 サーバーが LDAP に登録されていません。

説明: DB2 サーバーが LDAP に登録されていなかったために、コマンドは正常に完了しませんでした。

ユーザーの処置: REGISTER LDAP コマンドを使用して DB2 サーバーを LDAP に登録してください。次にコマンドを再サブミットしてください。

SQL3265N LDAP 認証の途中で予期しないエラーが発生しました。

説明: 予期しない LDAP システム・エラーのために LDAP ユーザーの認証ができませんでした。

ユーザーの処置: 独立トレース機能を使用して DB2 トレースを取得してください。さらに IBM サービス担当者に連絡してください。

SQL3266N LDAP ユーザー・パスワードが間違っています。

説明: 指定されたパスワードは、指定されたユーザー識別名 (DN) の正しいパスワードではありません。

ユーザーの処置: 正しいパスワードを使用してコマンドを再サブミットしてください。

SQL3267N *authid* は、要求されたコマンドを実行するために十分な権限を持っていません。

説明: LDAP ユーザーが、要求されたコマンドを実行するために十分な権限を持っていなかったために、コマンドが正常に完了しませんでした。

ユーザーの処置: LDAP ユーザーに操作を実行するための許可があることを確認してください。

SQL3268N LDAP スキーマには、DB2 現行リリースとの互換性がありません。

説明: サーバーに定義された LDAP スキーマに、現在の DB2 のリリースで使用されている DB2 オブジェクト・クラスまたは属性、あるいはその両方の定義が入っていません。

ユーザーの処置: LDAP スキーマを DB2 オブジェクト・クラスおよび属性とともに拡張する方法については、DB2 管理ガイドを参照してください。

SQL3269N LDAP サーバーが使用できないために、DB2 は LDAP ディレクトリー内の情報にアクセスできませんでした。

説明: LDAP サーバーが使用できないために、DB2 は LDAP ディレクトリー内の情報にアクセスできませんでした。

ユーザーの処置: 以下のアクションを実行してください。

1. LDAP サーバーがアクティブであることを確認してください。
2. TCP/IP がマシンに正常に構成されているかどうかを確認してください。

3. "db2set DB2LDAPHOST" コマンドを実行して、DB2LDAPHOST レジストリー変数が TCP/IP ホスト名と LDAP サーバーのポート番号に設定されているかどうかを確認してください。DB2LDAPHOST が設定されていない場合、"db2set DB2LDAPHOST=<host-name>:<port-number>" コマンドを使用して設定できます。<host-name> は LDAP サーバーの TCP/IP ホスト名で、<port-number> は LDAP サーバーの TCP/IP ポート番号です。デフォルト・ポート番号は 389 です。

SQL3270N LDAP ユーザーの識別名 (DN) が無効です。

説明: LDAP ユーザーの識別名 (DN) が無効です。

ユーザーの処置: 有効な LDAP ユーザー DN を使用してコマンドを再サブミットしてください。

SQL3271N LDAP ユーザーの識別名 (DN) またはパスワード、あるいはその両方が現在のログオン・ユーザーについて定義されていません。

説明: CLI 構成または DB2 レジストリー変数などのユーザー・プリファレンスの設定時に、LDAP ユーザーの DN およびパスワードが現在のログオン・ユーザーに定義されていなければなりません。

ユーザーの処置: 現在のログオン・ユーザーについての LDAP ユーザーの DN およびパスワードの構成方法については、IBM eNetwork LDAP 資料を参照してください。

SQL3272N ノード *node-name* が LDAP ディレクトリーに見つかりませんでした。

説明: ノード *node-name* が LDAP ディレクトリーに見つからなかったため、コマンドが正常に完了しませんでした。

ユーザーの処置: ノード名が正しいことを確認してから、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3273N データベース *database-alias* が LDAP ディレクトリーに見つかりませんでした。

説明: データベース *database-alias* が LDAP ディレクトリーに見つからなかったため、コマンドが正常に完了しませんでした。

ユーザーの処置: データベース名が正しいことを確認してから、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3274W データベースは正常に作成されました。ただし、データベースは LDAP ディレクトリーにカタログされませんでした。
SQLCODE = sqlcode

説明: データベースは正常に作成されました。ただし操作中にエラーが発生したため、データベースを LDAP ディレクトリーにカタログを作成できませんでした。

ユーザーの処置: SQLCODE に示されているとおりにエラーを訂正してください。次に CATALOG LDAP DATABASE コマンドを使用して、データベースを LDAP ディレクトリーにカタログを作成してください。

SQL3275W データベースは正常にドロップされました。ただしデータベースは LDAP ディレクトリーでアンカタログされませんでした。
SQLCODE = sqlcode

説明: データベースは正常にドロップされました。ただし操作中にエラーが発生したため、データベースを LDAP ディレクトリーでアンカタログできませんでした。

ユーザーの処置: SQLCODE に示されているとおりにエラーを訂正してください。次に UNCATALOG LDAP DATABASE コマンドを使用して、データベースを LDAP ディレクトリーでアンカタログしてください。

SQL3276N LDAP 命名コンテキストを取得できませんでした。

説明: LDAP サーバーで LDAP 命名コンテキストを照会できませんでした。

ユーザーの処置: LDAP ディレクトリー管理者に連絡して、使用中の LDAP サーバーの LDAP 命名コンテキストを取得してください。IBM eNetwork Directory V2.1 を使用している場合、これは LDAP 接尾部の名前です。次に "db2set DB2LDAP_BASEDN=<命名-context>" コマンドを使用して、現在のマシンの命名コンテキストを設定してください。

SQL3277N データベース *database-alias* は LDAP ディレクトリーにすでに存在します。

説明: 同じ名前のデータベースが LDAP ディレクトリーにすでに存在するために、コマンドが正常に完了しませんでした。

ユーザーの処置: 他の別名を使用してコマンドを再サブミットしてください。

SQL3278N ノード *node* は LDAP ディレクトリーにすでに存在します。

説明: 同じ名前のノードが LDAP ディレクトリーにすでに存在するため、コマンドが正常に完了しませんでした。

ユーザーの処置: 他の別名を使用してコマンドを再サブミットしてください。

SQL3279N LDAP が使用できないため、コマンドが正常に完了しませんでした。

説明: LDAP サポートが現在のマシンで使用できないため、コマンドが正常に完了しませんでした。

ユーザーの処置: LDAP サポートがインストールされている場合、コマンド "db2set DB2_ENABLE_LDAP=YES" を実行して LDAP サポートを有効にしてください。

LDAP サポートがインストールされていない場合は、セットアップ・プログラムを実行し、LDAP サポートのインストールを選択する必要があります。

SQL3280N DRDA サーバーへの接続に失敗しました。

説明: この IBM データ・サーバー・クライアントに DB2 Connect がインストールされておらず、この LDAP データベースをカタログするときにゲートウェイ・ノードが指定されなかったため、DRDA サーバーへの接続に失敗しました。

ユーザーの処置: この IBM データ・サーバー・クライアントに DB2 Connect をインストールするか、または有効なゲートウェイ・ノードでこの LDAP データベースを再カタログしてください。

SQL3281N OSTYPE パラメーターが無効です。

説明: 指定された OSTYPE パラメーターが無効であったため、データベース・サーバーは LDAP に登録されませんでした。OSTYPE パラメーターは、サーバーのオペレーティング・システム・タイプを記述します。

ユーザーの処置: DB2 によってサポートされているオペレーティング・システム・タイプ (OSTYPE) を指定してコマンドを再サブミットしてください。

SQL3282N 与えられた信用証明情報は無効です。

説明: 指定されたユーザーの識別名 (DN) とパスワードのいずれか、あるいは両方が無効でした。

このエラーは、LDAP をサポートする Windows 2000 ドメイン環境のユーザーが、十分な権限のないローカ

SQL3283W

ル・アカウントにログインした場合に発生することがあります。

ユーザーの処置: ユーザーの識別名 (DN) とパスワードの両方に有効な値を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

Windows 2000 ドメイン環境では、十分な権限を付与されたアカウントでログオンするようにしてください。

SQL3283W データベース・マネージャー構成が正しく更新されました。ただし、LDAP ディレクトリーでプロトコル情報は更新されていません。 **SQLCODE** = *sqlcode-value*

説明: データベース・マネージャー構成が正しく更新されました。ただし、LDAP 操作中にエラーが発生したため、LDAP ディレクトリーでプロトコル情報を更新できませんでした。

ユーザーの処置: **SQLCODE** に示されているとおりにエラーを訂正してください。その後、**UPDATE LDAP NODE** コマンドを使用して LDAP ディレクトリーのプロトコル情報を更新してください。

SQL3284N **nodetype** パラメーターが無効です。

説明: 指定された **nodetype** パラメーターが無効であったため、データベース・サーバーは LDAP に登録されませんでした。

ユーザーの処置: データベース・サーバーを LDAP に登録するとき、有効な **nodetype** を使用してください。有効な **nodetype** パラメーターの値は **SERVER**、**MPP**、および **DCS** です。

SQL3285N LDAP がサポートされていないため、コマンドが正常に完了しませんでした。

説明: LDAP がこのプラットフォームでサポートされていないため、コマンドが正常に完了しませんでした。

ユーザーの処置: LDAP がこのプラットフォームでサポートされていない場合、次のコマンドを発行して LDAP サポートを無効にしてください。

```
db2set DB2_ENABLE_LDAP=NO
```

SQL3300N 入力ファイルのレコードの順序に、誤りがあります。

説明: ワークシート形式 (WSF) ファイルのレコードは昇順 (行 1、列 1 ... 行 1、列 256; 行 2、列 1 ...) であると予想されます。WSF ファイルが損傷を受けたか、または間違って生成されました (Lotus 製品のレベルが、データベース・マネージャーによってサポートされていない可能性があります)。

IMPORT コーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: サポートされているレベルの Lotus 製品を使用して、WSF ファイルを再生成してください。

SQL3301N 入力ファイルの途中で、BOF レコードが見つかりました。

説明: ファイルの開始 (BOF) レコードは、ワークシート形式 (WSF) ファイルの最初のレコードでなければなりません。それは、ファイルの他のロケーションに存在することはできません。WSF ファイルが損傷を受けたか、または間違って生成されました (Lotus 製品のレベルが、データベース・マネージャーによってサポートされていない可能性があります)。

IMPORT コーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: サポートされているレベルの Lotus 製品を使用して、WSF ファイルを再生成してください。

SQL3302N データを何もインポートしないうちに、EOF レコードが見つかりました。

説明: 入力ファイルは有効ですが、インポートで使用できるデータが含まれていません。

IMPORT コーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: 有効なデータを使用して入力ファイルを再生成します。

SQL3303N **Action String** パラメーターに **CREATE** または **REPLACE_CREATE** キーワードを使用する場合、ファイル・タイプは **IXF** でなければなりません。

説明: **IXF** 以外のファイル・タイプは、**Action String** (たとえば "REPLACE into ...") パラメーターの **CREATE** または **REPLACE_CREATE** キーワードでは許可されていません。

IMPORT コーティリティーは処理を停止します。データはインポートされません。

ユーザーの処置: ファイル・タイプを **IXF** に変更するか、あるいは **INSERT**、**INSERT_UPDATE**、または **REPLACE** を使用してください。

SQL3304N 表が存在しません。

説明: コマンドに指定されたパラメーターには、存在する表が必要です。

コーティリティーは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを実行します。

- 既存の表名を使用して、コマンドを再サブミットしてください。
- 入力ファイルが PC/IXF ファイルの場合は、CREATE オプションを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3305N この表はすでに存在しているので、作成できません。

説明: CREATE キーワードは、新しい表が作成されるべきであることを示しますが、指定された名前の表がすでに存在しています。

IMPORT ユーティリティは処理を停止します。データはインポートされません。

ユーザーの処置: 既存の表を消去するか、または CREATE 以外のキーワードを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3306N 行を表に挿入している間に、SQL エラー *sqlcode* が発生しました。

説明: 表へ行を挿入しているときに、SQL エラーが発生しました。

SQL エラーが重大でない場合、その行は拒否され、ユーティリティは処理を続けますが、それ以外の場合、ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 実際のエラーの詳細については、メッセージ・ファイル内の他のメッセージを調べ、必要に応じて、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3307N METHOD パラメーターの列数が Action String パラメーターの項目数と一致しないか、または METHOD パラメーターに指定された列が存在しません。

説明: IMPORT コマンドに CREATE または REPLACE_CREATE オプションが指定されています。以下のいずれかです。

- NAMES または POSITIONS 方法標識が METHOD パラメーターに指定されていると、METHOD に明示的に指定された列数が、Action String (例えば "REPLACE into ...") パラメーターに明示的に指定された列数と等しくなりません。
- DEFAULT 方法標識が METHOD パラメーターに指定されている場合は、PC/IXF ファイルの列数が、Action String パラメーターに指定された列数より小さくなっています。
- METHOD パラメーターに指定されたある列が、PC/IXF ファイルに存在しません。

IMPORT ユーティリティは処理を停止します。表は作成されません。

ユーザーの処置: METHOD と Action String パラメーターに指定した列を訂正するか、または METHOD パラメーターに指定した列を訂正してください。

SQL3308N PC/IXF の列 *name* のコード・ページ値が、アプリケーションのコード・ページ値と非互換です。FORCEIN パラメーターは指定されていません。

説明: 列とアプリケーションのコード・ページ値の値が互換性がありません。FORCEIN パラメーターが指定されていないと、IXF ファイルのコード・ページから、アプリケーションのコード・ページへの変換がサポートされていない場合は、データをロードできません。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: このようなコード・ページを持つデータをロードするには、FORCEIN オプションを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3309N PC/IXF ファイルの列 *name* は GRAPHIC 列として定義されています。FORCEIN パラメーターは指定されていません。

説明: PC/IXF ファイルのロード中に、GRAPHIC データ列が見つかりました。FORCEIN パラメーターが使用されていないため、データをロードできません。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: GRAPHIC データを持つデータをロードする場合は、FORCEIN パラメーターを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3310N PC/IXF ファイルの列 *name* が無効です。

説明: IMPORT コマンドに CREATE または REPLACE_CREATE オプションが指定されています。PC/IXF ファイルのインポート中に、無効な C レコードを持つ列が見つかりました。

IMPORT ユーティリティは処理を停止します。表は作成されません。

ユーザーの処置: 入力ファイルの列定義情報を確認してください。

SQL3311N この PC/IXF ファイルをインポート
CREATE モードで使用することはサポー
トされていません。理由コード =
reason-code。

説明: 理由コード:

1

索引列の名前に 16 進値の 0x2B または 0x2D
が含まれるため、索引情報が保管されません
でした。

2

XML 列はサポートされていません。

3

MDC キーが保管されませんでした。

4

表パーティション・キーが保管されません
でした。

5

コード・ページ変換のために索引名が切り捨
てられました。

6

保護された表はサポートされていません。

7

エクスポート中に、'SELECT * FROM
<TABLE-NAME>' 以外のアクション・ストリン
グが使用されました。

8

エクスポート中にメソッド N が使用されま
した。

9

列名が PC/IXF 形式には長すぎます。長さ
に合わせて切り捨てられました。

10

UDT 名が PC/IXF 形式には長すぎます。長
さに合わせて切り捨てられました。

11

コード・ページ変換のために型付き表情報が
切り捨てられました。

12

UDT に関連付けられたスキーマが PC/IXF
形式には長すぎます。長さに合わせて切り
捨てられました。

13

10 進浮動小数点列はサポートされていま
せん。

14

エクスポート中に
IMPLICITLYHIDDENINCLUDE 修飾子が使用
されました。

ユーザーの処置: エクスポート時にデータへの影響はあ
りませんでした。このファイルをインポート
CREATE 操作に使用して表を再作成すること
はできません。一部の情報が欠落すること
になるためです。理由コード 1、3、4、5、7、8、9、11 および 14 の場合、
ユーザーはファイル・タイプ修飾子 FORCECREATE を
使用することによって、このファイルを使用
した CREATE 操作を強制的に実行することが
できます。理由コード 2、6、10、12、13 の場合は、db2look ツール
を使用して表情報を抽出し、インポート INSERT また
は REPLACE 操作を実行できます。

SQL3313N ディスクがいっぱいです。処理は終了し
ました。

説明: ディスクまたはディスクセットがいっぱい
です。PC/IXF ファイルへのエクスポート中に、PC/IXF デ
ータ・ファイルがハード・ディスクに存在する
か、PC/IXF データ・ファイルとデータベース
が同じドライブに存在するか、または PC/IXF
データ・ファイルとメッセージ・ファイルが
同じドライブに存在しています。

EXPORT ユーティリティーは処理を停止し
ます。エクスポートされたデータは完全では
ありません。

ユーザーの処置: ディスクまたはディスク
セットにもっと多くのスペースを確保する
か、あるいはデータベースまたはメッセ
ージ・ファイルとは別のドライブに、デ
ータ・ファイルが置かれるように指定し
て、コマンドを再サブミットしてくださ
い。

SQL3314N A レコードの「日付と時刻」フ
ィールドが、H レコードの「日付と時刻」
フィールドと一致しません。

説明: PC/IXF ファイルのロード中に、ヘッ
ダー (H) レコードの実行識別情報とは異
なる実行識別情報 (「日付と時刻」フ
ィールド内) を持つ A レコードが、PC/IXF
ファイルで見つかりました。このアクシ
ョンは、継続ファイルの先頭にある A
レコードには適用されません。

入力ファイルが壊れている可能性があります。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: 壊れたファイルを再
作成するか、または壊れたファイルを修
復して、可能な限りのデータを回復

復してください。コマンドを再サブミットしてください。

SQL3315N サブタイプ C の A レコードの「ボリューム」フィールドが無効です。

説明: データベース・サービスによって作成された PC/IXF ファイルのロード中に、無効なボリューム情報 (「ボリューム」フィールド内) を持つ A レコードが、PC/IXF ファイルで見つかりました。

入力ファイルが壊れている可能性があります。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 壊れたファイルを再作成するか、または壊れたファイルを修復して、可能な限りのデータを回復してください。コマンドを再サブミットしてください。

SQL3316N 入力ファイルの一部をクローズ中に入出力エラーが発生しました。

説明: 複数パート PC/IXF ファイルのロード中に、システムが入力 PC/IXF ファイルを構成しているファイルのいずれかをクローズしているときに、入出力エラーが発生しました。このアクションは、PC/IXF ファイルを構成するファイルのグループの最後のファイルには適用されません。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: コマンドを再サブミットしてください。

SQL3317N filemod パラメーターで示されたストリングに、矛盾する情報が含まれています。

説明: *filemod* ストリングが、出力ファイルに対して世代と製品ファミリーを定義しています。複数の世代または製品ファミリーが、ストリングに定義されています。

ユーティリティは処理を停止します。出力ファイルは作成されませんでした。

ユーザーの処置: *filemod* ストリングを変更して、1 つの世代および製品ファミリーのみを定義してください。コマンドを再サブミットしてください。

SQL3318N filemod パラメーターで、キーワードが重複しています。

説明: COLDEL、CHARDEL、または DECPT キーワードが、*filemod* パラメーターに複数回現れます。この状態は、区切り文字付き ASCII (DEL) ファイルの使用に、発生する可能性があります。

ユーティリティは処理を停止します。データはロード

またはエクスポートされません。

ユーザーの処置: 正しい *filemod* パラメーターを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3319N 表の作成中に、SQL エラー *sqlcode* が発生しました。

説明: 表を作成しているときに、SQL エラーが発生しました。

IMPORT ユーティリティは処理を停止します。表は作成されませんでした。データはインポートされませんでした。

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージの SQLCODE (メッセージ番号) を調べてください。変更を行って、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3320N filemod パラメーターのキーワードの後に、区切り文字または小数点がありません。

説明: COLDEL、CHARDEL、または DECPT キーワードが、*filemod* パラメーターの最後にあります。キーワードに続く区切り文字または小数点がありません。この状態は、区切り文字付き ASCII (DEL) ファイルの使用に、発生する可能性があります。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードまたはエクスポートされません。

ユーザーの処置: 正しい *filemod* パラメーターを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3321C ログがフルであるか、またはロック・スペースがすべて使用されているために、データはデータベースへインポートされませんでした。リカバリーは失敗しました。SQLCODE *sqlcode* が戻されます。

説明: データベース・トランザクション・ログがいっぱいであるか、もしくはアプリケーションで使用可能なロック・スペースがすべて使用されているために、IMPORT ユーティリティが行データをデータベースに挿入できませんでした。すべての作業はコミットされましたが、データベース・トランザクション・ログまたはロック・スペースがいっぱいであるため、ユーティリティは行を挿入できませんでした。

ユーティリティは処理を停止します。それまでのすべての変更はコミットされましたが、現在行はインポートされませんでした。

ユーザーの処置: データベース・ファイルおよびアプリケーションで使用可能な量のロック・スペースが含まれたファイル・システムに残っているスペースをチェック

SQL3322N

してください。最大ログ・サイズ、ロック・リストの最大ストレージ、またはデータベース構成ファイルの単一アプリケーションで使用可能なロック・リストの割合を考慮してください。

SQL3322N オペレーティング・システムのセマフォ ー・エラーが発生しました。

説明: wait/post セマフォで、エラーが発生しました。

ユーティリティーは処理を停止します。EXPORT ユーティリティーの場合は、メディア上のデータが不完全になっている可能性があります。IMPORT ユーティリティーの場合は、まだコミットされていないデータがロールバックされます。

ユーザーの処置: DB2 の停止と再始動を行なって、ユーティリティーの再サブミットを行なってください。

SQL3324N 列 *name* に、認識されないタイプの *type* があります。

説明: SQL ステートメントから戻されるデータの列はサポートされません。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 必要なデータのデータ・タイプは、フェデレーテッド・サーバー、またはアクセスしたいデータ・ソースによってサポートされていません。

ユーザーの処置: エラーを訂正して、コマンドを再発行してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: サポートされているデータ・タイプを指定してプログラムを再サブミットしてください。

SQL3325W 行 *row-number* のすべての列の値が NULL なので、行は WSF データ・ファ イルには含まれません。

説明: WSF ガジェットのエクスポート中で、SELECT ステートメントがすべて NULL 値の行になった場合、行は WSF ファイルに追加されません。SQL3105N メッセージに示される行の合計は、SELECT ステートメントから返された行数であって、WSF ファイル内の行数ではありません。

コマンドは処理を続行します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。これは通知メッセージです。

SQL3326N Action String パラメーターの表名に続く 列リストが無効です。

説明: 表名の後に列リストがある Action String (たとえば "REPLACE into ...") パラメーターを指定して IMPORT または LOAD を呼び出しても、これが無効だった場合、このメッセージが出されます。たとえば、以下の Action String パラメーターは失敗します。

tablea() に挿入
括弧内に列が無い

tablea(2 語) に挿入
無効な列名

tablea(grant.col1) に挿入
列名は修飾できない

tablea(x1234567890123456789) に挿入
長すぎる列名

tablea(col1,col2) に挿入
列名の欠落

コマンドは続行されません。

ユーザーの処置: 有効な列リストで Action String パラメーターを変更して、もう一度ユーティリティーを呼び出してください。

SQL3327N システム・エラーが発生しました (理由コ ード 1 = *reason-code-1* および 理由コ ード 2 = *reason-code-2*)。

説明: 処理中にシステム・エラーが発生しました。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: 可能であれば、SQLCA からすべてのエラー情報を記録してください。メッセージ・ファイルを保存してください。データベースを使用しているすべてのアプリケーションを終了してください。システムをリポートしてください。データベースを再始動してください。コマンドをやり直してください。

十分なメモリー・リソースがあってもこの問題が続く場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトで、独立トレース機能を呼び出してください。

SQL3330W 行 *row-number* の文字フィールドの長さが 奇数ですが、ターゲット・データベースの 列は GRAPHIC 列です。行はロードされ ませんでした。

説明: 偶数の長を持つ文字フィールドのみが、データベースの GRAPHIC 列にロードされます。

行はロードされません。

ユーザーの処置: IMPORT コマンドに CREATE オプションを使用して、データを新しい表にロードするか、またはこの列はこの表にロードしないでください。

SQL3331C 指定されたアクセスは、ファイル (またはディレクトリー) の許可設定で許されていません。

説明: これは、他のエラー・メッセージをともなう場合があります。このメッセージは、ファイル属性が一致していないにもかかわらず、ファイルまたはディレクトリーにアクセスしようとしたことを示しています。原因は、以下のいずれかであると考えられます。

- 書き込み処理のための読み取り専用装置上のファイルのオープン
- 書き込み処理のための読み取り専用ファイルのオープン
- ファイルではなくディレクトリーのオープン
- ロックまたは共有違反の検出

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ファイルが使用されていない時にユーティリティを再実行するか、または書き込みが許可されているパスとファイルへ出力を切り替えて、ユーティリティを再実行してください。

SQL3332C 開くことができるファイルの最大数に達しました。

説明: このメッセージは、他のエラー・メッセージをともなう場合があります。このメッセージは、オープンできるファイルの数が最大値に達していることを示しています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 他のアプリケーションを終了させて、オープンされているファイルの数を減らし、ユーティリティを再実行してください。

SQL3333C ファイルまたはディレクトリーが存在しません。

説明: このメッセージは、他のエラー・メッセージをともなう場合があります。このメッセージは、アクセスするファイルまたはディレクトリーが存在しないか、または見つからないことを示しています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なパスの入った正しいファイル名を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3334C 使用できる十分なストレージがありません。

説明: このメッセージは、他のエラー・メッセージをともなう場合があります。このメッセージは、ファイルをオープンするために使用できる十分なストレージがないことを示しています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: アプリケーションを停止してください。可能な解決方法は、以下のとおりです。

- システムに十分な実メモリーおよび仮想メモリーがあることを確認してください。
- バックグラウンド処理を除去してください。

SQL3335C ファイル・システムがいっぱいです。

説明: このメッセージは、他のエラー・メッセージをともなう場合があります。このメッセージは、書き込み処理に使用できるスペースが装置にないことを示しています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 装置に使用可能なスペースを確保するには、不要なファイルを削除するか、または使用可能なスペースがある装置に出力データの宛先を変更してください。

SQL3337N サーバーへのデータの書き込み中に入出力エラーが発生しました。

説明: サーバー上の一時ファイルへデータを書き込もうとしたときに、入出力エラーが発生しました (一時ファイルは、データベース・マネージャーのインスタンスの sqllib ディレクトリーの下にある tmp ディレクトリーに作成されます)。サーバー上のファイル・システムが、いっぱいになっている可能性があります。

ユーティリティは処理を停止します。データベースは変更されません。

ユーザーの処置: サーバーのシステム管理者に連絡して、サーバー上のスペースを使用可能にし、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3338N サーバー上の一時メッセージ・ファイルの読み取り中に入出力エラーが発生しました。

説明: サーバー上の一時メッセージ・ファイルを読み取ろうとしたときに、システム入出力エラーが発生しました。

IMPORT 処理は完了しますが、データベース・クライアント・システム上のメッセージ・ファイルが空、または

SQL3340N

不完全となっている可能性があります。

ユーザーの処置: リモート・データベースへ照会して、ユーティリティの処理が正常に終了しているかどうかを確認してください。

SQL3340N 表に対する同時読み取りアクセスを使ってロードを実行できません。理由コード = *reason-code*。

説明: LOAD コマンドの ALLOW READ ACCESS オプションは、*reason-code* に指定されているように、以下の場合にはサポートされません。

1. LOAD REPLACE を使用している場合。
2. INDEXING MODE DEFERRED を使用している場合。
3. ターゲット表が SET INTEGRITY ペンディング状態にあり、読み取りアクセスのみ状態にない場合。
4. 索引が無効とマークされている場合。
5. ALLOW READ ACCESS オプションが使用されていないロードで LOAD TERMINATE または LOAD RESTART を使用した場合、または元のロードからの一時ファイルが欠落している場合。

ユーザーの処置: ALLOW NO ACCESS オプションを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3341N USE オプションに指定された表スペース名が無効です。理由コード = *reason-code*。

説明: 索引の表スペース以外の表スペースにおける索引の再ビルドに使用できるのは、SYSTEM TEMPORARY 表スペースだけです。SYSTEM TEMPORARY 表スペースのページ・サイズは、索引の表スペースのページ・サイズと一致している必要があります。

ユーザーの処置: 正しいページ・サイズを持つ SYSTEM TEMPORARY 表スペースを参照する表スペース名を使って、コマンドを再サブミットしてください。*reason-code* は、次のように失敗を記述します。

1. USE 節の表スペース名が見つかりません。
2. 表スペースは、SYSTEM TEMPORARY 表スペースでなければなりません。
3. SYSTEM TEMPORARY 表スペースのページ・サイズは、索引表スペースのページ・サイズと一致している必要があります。

SQL3342N このユーザー ID には、LOCK WITH FORCE オプションを使用するための十分な権限がありません。

説明: ロード・ユーティリティの LOCK WITH FORCE オプションには SYSADM または SYSCTRL 権限が必要です。

ユーザーの処置: 十分な権限のあるユーザー ID で、ロード・コマンドを再発行してください。

SQL3343N ロードが失敗してからのロールフォワード後には、ロードの再開は許可されません。

説明: ロールフォワードが終わる前に失敗したロードは、ロールフォワードが完了しても再開できません。

ユーザーの処置: TERMINATE モードを使用してロードを終了するか、表をドロップしてください。

SQL3346N USE TablespaceName オプションは無視されました。理由コード = *reason-code*。

説明: USE TablespaceName は、INDEXING MODE REBUILD の ALLOW READ ACCESS ロードに対してのみ有効です。INDEXING MODE AUTOSELECT が指定されている場合、ロードは索引の再ビルドを選択した場合にのみ、代替表スペースを使用します。

ユーザーの処置: 理由コードの説明を参照してください。

1. 索引付けモードは USE TablespaceName オプションと非互換です。
2. 表に索引がありません。
3. LOAD TERMINATE は、別々の表スペースを使用する必要がありません。
4. USE TablespaceName は、ALLOW READ ACCESS ロードに対してのみサポートされています。

SQL3400N METHOD に指定された方法は、非区切り文字付き ASCII ファイルには無効です。これはロケーションの 'L' である必要があります。

説明: 非区切り文字付き ASCII ファイルからロードしている場合、列はファイル内のロケーションによって選択される必要があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ソース・ファイルの列に対する有効なロケーションのセットを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3401N METHOD に指定された方法は、どの filetype でも無効です。

説明: ファイルの列の選択方法が、filetype に許されていない値です。以下のいずれかの方法標識を選択してください。

- P (位置の場合)
- N (名前の場合)
- L (ロケーションの場合)
- D (デフォルトの場合)

これ以上の制約は、filetype に基づきます。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なメソッド標識を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3402N ゼロの値を持つ一組の開始ロケーションと終了ロケーションが、NULL にはできない列 name に指定されました。

説明: 開始ロケーションと終了ロケーションがゼロに設定されている一組のロケーションが、示されている列に指定されましたが、列は NULL にすることができません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ソース・ファイルの列に対する有効なロケーションのセットを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3403N 列 name への挿入のための、開始ロケーションと終了ロケーションのペアが無効です。(begin end)

説明: 入力の非区切り文字付き ASCII ファイル内の示されているデータベース列に対して、入力データを位置づけるフィールド指定が無効です。フィールド指定に以下のいずれかのエラーがあります。

- 開始ロケーションが 0 未満です。
- 終了ロケーションが 0 未満です。
- 終了ロケーションが開始ロケーションより小さくなっています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ソース・ファイルの列に対する有効なロケーションのセットを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3404N 列 name への挿入のための開始ロケーションと終了ロケーションのペアが、無効な数です。

説明: 入力の非区切り文字付き ASCII ファイル内の示されているデータベース列に対して、データを位置づけるフィールド指定が無効です。ロケーションの対が、50 バイト以上のフィールドを定義しています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ソース・ファイルの列に対する有効なロケーションのセットを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3405N 列 name への挿入のための、開始ロケーションと終了ロケーションのペアが、無効な日付です。

説明: 非区切り文字付き ASCII ファイル内の示されているデータベース列に対して、データを位置づけるフィールド指定が無効です。ロケーションの対が、日付の外部表現には無効なフィールド長を定義しています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ソース・ファイルの列に対する有効なロケーションのセットを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3406N 列 name への挿入のための開始ロケーションと終了ロケーションのペアが、無効な時間です。

説明: 入力の非区切り文字付き ASCII ファイル内の示されているデータベース列で、データを位置づけているフィールド指定が無効です。ロケーションの対が、時刻の外部表現には無効なフィールド長を定義しています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ソース・ファイルの列に対する有効なロケーションのセットを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3407N 列 name への挿入のための開始ロケーションと終了ロケーションのペアが、無効なタイム・スタンプです。

説明: 入力の非区切り文字付き ASCII ファイル内の示されているデータベース列に対して、データを位置づけるフィールド指定が無効です。ロケーションの対が、タイム・スタンプの外部表現には無効なフィールド長を定義しています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ファイルの列に対する有効なロケーシ

SQL3408W

ョンのセットを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3408W 列 *name* への挿入のための開始ロケーションと終了ロケーションのペアが、ターゲット列よりも長いフィールドを定義しています。データは切り捨てられる可能性があります。

説明: 入力の非区切り文字付き ASCII ファイルからのデータを含むためのフィールド指定が、ターゲット・データベースのサイズ (または最大サイズ) よりも大きいフィールドを定義しています。

ユーティリティーは処理を続けます。必要に応じて、切り捨てが行われます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL3409W 列 *name* への挿入のための、一組の開始ロケーションと終了ロケーションが、ターゲットの固定長列よりも短いフィールドを定義しています。データは埋め込まれません。

説明: 示されたデータベースの列は固定長列です。入力の非区切り文字付き ASCII ファイルからのデータを含むためのフィールド指定が、ターゲット・データベースの列のサイズより小さいフィールドを定義しています。

ユーティリティーは処理を続けます。示されたデータベースの列へ入力される値は、必要に応じて、右側にスペースが埋め込まれます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL3410N 列 *name* への挿入のための、一組の開始ロケーションと終了ロケーションが、**GRAPHIC** 列として無効です。

説明: 示されたデータベース列に挿入される、ASCII ファイルの入力データを位置付けるフィールド指定が、奇数バイトのフィールドを定義しています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ソース・ファイルの列に対する有効なロケーションのセットを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3411W 行 *row-number*、列 *column-number* のフィールドの値が、**GRAPHIC** 列には無効です。null が挿入されます。

説明: 示されたフィールドの値が、受け入れ可能な **GRAPHIC** の値ではありません。値に、奇数バイトが含まれている可能性があります。DEL ファイルの場合

は、列番号の値が、示された行のフィールドを示しません。ASCII ファイルの場合は、列番号の値が、値が始まる行内のバイト・ロケーションを示します。

行は挿入されません。

ユーザーの処置: NULL が受け付けられない場合は、入力ファイルを修正して、コマンドを再サブミットするか、または表のデータを編集してください。

SQL3412W 行 *row-number*、列 *column-number* のフィールドの値が **GRAPHIC** 列には無効ですが、ターゲット列は NULL にすることができません。この行は挿入されません。

説明: 示されたフィールドの値が、受け入れ可能な **GRAPHIC** の値ではありません。値に、奇数バイトが含まれている可能性があります。ターゲット列が NULL にできないために、NULL が挿入できません。DEL ファイルの場合は、列番号の値が、示された行のフィールドを示します。ASCII ファイルの場合は、列番号の値が、値が始まる行内のバイト・ロケーションを示します。

行は挿入されません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。その行が必要な場合には、入力ファイルを修正して、コマンドを再サブミットするか、または表のデータを編集してください。

SQL3413W 行 *row-number*、列 *column-number* のフィールドの値が、ターゲット列には短すぎます。null が挿入されます。

説明: 示されたフィールドの値は、ターゲット列には短すぎるので、受け付けられません。列番号の値が、フィールドが始まる行内のバイト・ロケーションを示しています。

NULL の値が挿入されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。NULL が受け付けられない場合は、内部フィールドを修正して、コマンドを再サブミットするか、または表のデータを編集してください。

SQL3414N 一時ファイル *filename* が見つかりませんでした。

説明: ロード・フェーズの終わりで、ロードを再始動するために、一時ファイルが必要な情報を指定して作成されます。この時点の前にロードに割り込みが行われると、このファイルは作成されません。

このメッセージは、ロードの再始動時にこのファイルを検出できなかったことを表します。

ユーティリティーは停止します。

ユーザーの処置: 割り込みが行われる時点によっては、ビルド・フェーズで、ロードを再始動できる場合があります。

SQL3415W 行 *row-number* および列 *column-number* のフィールド値を、入力データ・ファイルのコード・ページから、データベースのコード・ページへ変換できません。null 値がロードされました。

説明: 示されたフィールドの値が、入力データ・ファイルのコード・ページからデータベースのコード・ページへ変換できません。

ユーザーの処置: NULL が受け付けられない場合は、入力データ・ファイルを修正して、コマンドを再サブミットするか、または表のデータを編集してください。

SQL3416W 行 *row-number* および列 *column-number* のフィールド値を、入力データ・ファイルのコード・ページから、データベースのコード・ページへ変換できません。行はロードされませんでした。

説明: 示されたフィールドの値が、入力データ・ファイルのコード・ページからデータベースのコード・ページへ変換できません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。その行が必要な場合には、入力データ・ファイルを修正して、コマンドを再サブミットするか、または表のデータを編集してください。

SQL3417N ロケーション・ペア *pair-number* の開始と終了がコード・ページ *codepage* で無効です。

説明: コード・ページが DBCS エンコードそのものであるため、ロケーション・ペアはコード・ページで無効です。これは、コード・ページの文字すべてが 2 バイト長であることを意味します。偶数バイトすべてが、ロケーション・ペアに指定される必要があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ソース・ファイルの列に対する有効なロケーションのセットを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3418W データが DB2 を使用してエクスポートされた場合には、NOCHARDEL ファイル・タイプ修飾子は指定しないでください。これは、区切り文字のないベンダー・データ・ファイルをサポートするために提供されます。

説明: NOCHARDEL ファイル・タイプ修飾子は、区切り文字のないベンダー・データ・ファイルをサポートするために提供されます。これは、データ・ファイルが DB2 EXPORT で作成された時に使用されることは想定していません。DEL ファイル・フォーマットでは、区切り文字がデータ損失または破損を回避するために使用され、そのためデフォルトの動作の一部となります。

ユーザーの処置: NOCHARDEL が IMPORT または LOAD コマンドで必要であるかどうか確認してください。

SQL3419W 指定したソート・オプションは、ベンダー・ソートによってサポートされていません。操作を続行するために、デフォルトの DB2 ソートが使用されます。

説明: ベンダーのソート・ライブラリーは DB2 レジストリー変数 DB2SORT の設定により活動状態になりません。現在のソート指定には、このベンダー・ソート・ライブラリーではサポートされていない機能が必要です。DB2 は操作を続行するために、デフォルトのソートを使用します。ベンダー・ソートでサポートされない機能は以下のとおりです。

- IDENTITY_16BIT 照合を使用して作成されたデータベース。
- データベース構成パラメーター ALT_COLLATE の IDENTITY_16BIT への設定。
- ロードのターゲット表に XML 列が含まれる場合。
- ロードのターゲット表に、データ・パーティションおよびローカル索引が含まれる場合。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

第 8 章 SQL3500 - SQL3999

SQL3500W ユーティリティが *timestamp* に *phase* フェーズを開始しています。

説明: これは、フェーズが開始されつつあることと、前のフェーズが終了したことを示す情報メッセージです。フェーズは、(現れる順序で) 以下の通りです。

- LOAD
- BUILD
- DELETE

LOAD フェーズ中に、データが表にロードされます。作成するべき索引がある場合は、BUILD フェーズが LOAD フェーズに続きます。ユニーク索引で重複キーが見つかった場合は、DELETE フェーズが BUILD フェーズに続きます。

LOAD の完了前に、LOAD が終了した場合は、LOAD を再始動するフェーズを判別する必要があります。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL3501W 順方向リカバリーがデータベースに対して使用できないため、表が存在する表スペースが、バックアップ・ペンディング状態に置かれません。

説明: データベースに対して順方向リカバリーが不可能な場合を除いて、バックアップ・ペンディング状態に置かれる、表が存在する表スペースとなる LOAD の呼び出しに、COPY NO が指定されました。

ユーティリティは処理を続けます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL3502N 許される警告の合計数を超える *number* の警告を、ユーティリティが見つけた。

説明: コマンドの発行中に出された警告の数が、ユーティリティの呼び出しで指定された警告の合計数を超えました。

ユーティリティは終了します。

ユーザーの処置: 適切なオプションで、正しいデータがロードされていることを確認するか、または許容警告数を増やしてください。コマンドを再サブミットしてください。

SQL3503W 指定された合計数と等しい *number* 行を、ユーティリティがロードしました。

説明: ロードされた行数は、ユーティリティの呼び出しで指定された行の合計数と同じでした。

ユーティリティは正常に完了しました。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

SQL3504W 整合点を確立中です。

説明: 以下の場合、呼び出し時の SAVECOUNT パラメーターに指定された通常インターバル以外の時点で整合点が確立されます。

- メモリーまたは一時ファイルに保持されているメタデータの容量のしきい値に達した場合。
- コピー・イメージおよびロードに対して、終了しなければならぬ装置エラーが起きた場合。

ユーザーの処置: このメッセージの後も LOAD が継続される場合、アクションは不要です。LOAD が終了した場合は、すべてのエラーを訂正 (装置をアクティブ化するか、または整合点が確立されるインターバルを減らしてください) した後で、再始動することができます。

SQL3505N RECLEN オプションの *filetmod* に指定された長さが、1 から 32767 までの有効範囲内ではありません。

説明: *filetmod* パラメーターに、ASC ファイルに対する RECLEN オプションが指定されています。指定された長さが無効です。

ユーザーの処置: 指定した長さを訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3506W 行 *row-number*、列 *column-number* の NULL 標識に指定された値が無効です。'N' が値として使用されます。

説明: ASC ファイルの場合、NULL 標識列は、データ列ごとに指定することができ、'Y' または 'N' を持っている必要があります。'Y' は、列が NULL 値であることを示し、'N' は、列がデータを含んでいることを示します。上記のいずれの値も NULL 標識列にない場合、'N' が値として想定され、データが列にロードされません。

ユーザーの処置: データまたは NULL 標識が正しくな

い場合は、入力ファイルを修正して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3507N NULL 標識に指定された列番号が 0 から 32767 までの有効な範囲にないか、または null 標識パラメーターが無効です。

説明: *null_ind* パラメーターで、NULL 標識の列が ASC ファイルに対して指定されましたが、いずれかの列が有効でないか、または NULL 標識に渡されるポインターが有効ではありません。

ユーザーの処置: パラメーターを訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3508N ロードまたはロード照会中に、タイプ *file-type* のファイルまたはパスへのアクセスでエラー。理由コード: *reason-code* パス: *path/file*。

説明: ロードまたはロード照会の処理中に、ファイルにアクセスしようとしてエラーが起きました。ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: ロードを実行していて、表スペースがロード・ペンディング状態にない場合には、その問題を修正して、ロード・ユーティリティをもう一度呼び出してください。表がロード・ペンディング状態にある場合には、RESTART または REPLACE モードでロード・ユーティリティを呼び出すか、あるいは 1 つ以上の表スペースのバックアップをリストアしてください。表スペースの状態は、LOAD QUERY コマンドを使用して判別することができます。

以下が理由コードのリストです。

1

ファイルをオープンすることはできません。

これは、ファイル名が正しくないか、あるいはファイル / ディレクトリーに対して十分な権限がないためと考えられます。問題を訂正して、ロードを再始動または再実行してください。

ロードの一時ファイルが破棄されているか、または先行して行われたバックアップから、データベースがリストアされている可能性があります。ロードの再開はこれらの状況下ではサポートしません。ロードを終了し、表をロード・ペンディングの状態から解除してください。

2

ファイルの読み取り/スキャンを行うことができません。

これは、ハードウェア・エラーの結果と考えられます。エラーがハードウェア・エラーの場合

は、適切なアクションを実施してから、ロードを再始動または再実行してください。

3

ファイルへの書き込みまたはサイズ変更ができません。

これは、ディスクがいっぱいの状態であるか、あるいはハードウェア・エラーと考えられます。このメッセージ内に後述しているファイル・タイプのリストを参照し、ロードの実行に十分なスペースがあることを確認するか、あるいは別のロケーションを使用するように指定してください。ロードを再始動または再実行してください。エラーがハードウェア・エラーの場合は、適切なアクションを実施してから、ロードを再始動または再実行してください。

4

ファイルに無効なデータが含まれています。

ロードに必要なファイルに、無効なデータが入っています。TEMPFILES_PATH に記述されているアクションを参照してください。

5

ファイルをクローズすることができません。

ロードを再始動または再実行できない場合には、IBM サービス担当者に連絡してください。

6

ファイルを削除することができません。

ロードを再始動または再実行できない場合には、IBM サービス担当者に連絡してください。

7

パラメーターが間違っていて指定されています。ファイル・タイプのリストを参照し、エラーのあるパラメーターを判別し、正しいパラメーターを指定してロードを再実行してください。

以下がファイル・タイプのリストです。

SORTDIRECTORY

workdirectory パラメーターが正しく指定されていることを確認してください。ロードされるデータの索引キーの 2 倍のサイズが入る、十分な結合スペースがすべてのディレクトリー内になければなりません。また、ロード挿入およびロード再始動では、表内の既存のデータの索引キーの 2 倍の余裕がなければなりません。

MSGFILE

messagefile パラメーターが適切に指定されている、ことを確認してください。ロード中に出されるメッセージを書き込むのに十分なディスク・スペースがなければなりません。

これがロード照会の場合には、ローカル・メッセージ・ファイル・パラメーターが、その状態が照会中であるロードに使用された messagefile パラメーターと同じでない、ことを確認してください。

TEMPFILES_PATH

tempfiles path パラメーターが正しく指定されているかどうか確認してください。

SQL3509W ユーティリティが、表から *number* 行を削除しました。

説明: ユニーク索引を持つ表がロードされている場合は、削除フェーズ中に、索引のユニーク性に違反する行が表から削除されます。このメッセージは、削除された行数に関する情報を提供します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL3510N ソート・フェーズ用の作業ディレクトリーにアクセスできません。

説明: ソート・フェーズ用に指定された 1 つ以上の作業ディレクトリーが、存在しないか、または読み取り/書き込み許可を持っていません。

ユーザーの処置: 指定した作業ディレクトリーが存在し、読み取り/書き込み許可が正しくセットアップされていることを確認して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3511W 行 *row-number*、列 *column-number* に指定されたファイルが見つかりません。NULL がロードされました。

説明: 示されたフィールドのファイル名が見つかりません。データ・タイプが不一致である可能性があります。

区切り文字付き ASCII (DEL) ファイルの場合、列番号の値が問題の値の入った行内のフィールドを示していません。ASCII ファイルの場合は、列番号の値が、問題の値が始まる行内のバイト・ロケーションを示します。

NULL 値がロードされます。

ユーザーの処置: 入力値を調べてください。必要に応じて、入力ファイルを訂正してコマンドを再サブミットするか、または表のデータを編集してください。

SQL3512W 行 *row-number* 列 *column-number* に指定されたファイルが見つかりませんが、ターゲット列は NULL 可能ではありません。行はロードされませんでした。

説明: 示されたフィールドのファイル名が見つかりません。表の出力列は NULL 可能ではないため、NULL をロードできません。

区切り文字付き ASCII (DEL) ファイルの場合、列番号の値が問題の値の入った行内のフィールドを示していません。ASCII ファイルの場合は、列番号の値が、問題の値が始まる行内のバイト・ロケーションを示します。

行はロードされません。

ユーザーの処置: 入力ファイルを訂正してコマンドを再サブミットするか、または表のデータを編集してください。

SQL3513N ファイルのコード・ページが、データベースのコード・ページと一致しません。ファイルはロードされません。

説明: オリジナル・データベースとは異なるコード・ページを持つ DB2CS ファイルは、そのデータベースにロードできません。

ユーザーの処置: データベースのコード・ページを変更してコマンドを再サブミットするか、または別のファイル・タイプ (PC/IXF など) を使用して、データをオリジナル・データベースから新しいデータベースに移してください。

SQL3514N ユーティリティ・システム・エラーが発生しました。関数コード: *function*。理由コード: *reason-code* エラー・コード: *error-code*

説明: データベース・ユーティリティの処理中に、システム・エラーが発生しました。

ユーザーの処置: *function* の値に応じて、以下の異なるアクションが必要です。

考えられる関数コードは以下の通りです。

- 1 - ロードのソート中にエラーが発生しました。
ロードの再始動をやり直してください。エラーが引き続き発生する場合には、関数、理由コード、およびエラー・コードを技術サービス担当者に連絡してください。
- 2 - ベンダーのソート・ユーティリティの使用中にエラーが発生しました。
ベンダーのソートの代わりに、IBM データ・サーバー・クライアント/DB2 サーバー・ソート・ユーティ

SQL3515W

リティイーを使用して、ロードをやり直してください。これを実行するためには、サーバーのプロファイル・レジストリーの値をブランクにリセットしてください。新しいプロファイル・レジストリーの値を有効にするには、データベース・マネージャーを再始動しなければならないことがあります。エラーが引き続き発生する場合には、関数、理由コード、およびエラー・コードをベンダー・サポート技術サービス担当者に連絡してください。

SQL3515W ユーティリティーは、*timestamp* に *phase* フェーズを完了しました。

説明: これは、フェーズが完了したことを示す情報メッセージです。フェーズは、(現れる順序で) 以下の通りです。

- LOAD
- BUILD
- DELETE

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL3516N ユーティリティーは、指定に応じるロードを再始動できませんでした。

説明: 障害が発生する前に、ロード・ユーティリティーが、ロードによって実行された最後の整合点に矛盾を見つけました。この状態は、システム・エラーまたは無効なログ・ファイルによって発生する可能性があります。

ユーザーの処置: Build フェーズからロードを再始動して、表を整合状態に戻し、索引を作成 (可能であれば) するか、または REPLACE オプションを指定して、ロードを実行してください。

SQL3517N 予期しないレコードが、入力ソースから読み取られました。

説明: ユーティリティーが、無効なフォーマットのレコードを見つけました。オリジナル・ソースからコピーしたときに、ソースが壊れていた可能性があります。

処理は終了します。

ユーザーの処置: オリジナル・ソースからバイナリー形式でレコードをコピーして、LOAD または Import を再始動してください。

SQL3518N ソースのデータには、ロードする表との互換性がありません。

説明: 以下のいずれかの理由で、ソースがこの表のロードに使用できません。

- 表定義が、ソースの表定義と一致しません。

- ソースが、ロードされる表とは異なるプラットフォームで作成されています。
- ソースが、ロードされる表とは異なるコード・ページを持つ表から作成されています。

ユーザーの処置: 表とソースの両方が正しく指定されていることを確認してください。異なる定義の表から、あるいは異なるプラットフォームまたはコード・ページからデータをロードする場合は、IXF または DEL などの別のファイル・タイプを使用してください。

SQL3519W ロード整合点が開始されました。 入力レコード・カウント = *count*

説明: ロード・ユーティリティーが、すでにロードされている表データをコミットするために、整合点を実行しようとした。

ユーザーの処置: このメッセージのすぐ後に、メッセージ SQL3520W が表示されない場合は、整合点が失敗しました。表が整合状態まで戻され、すべての索引 (複数の場合) が作成されたことを確認するために、ロードを Build フェーズから再始動する必要があります。そうすると、ロードされたレコードのチェックが可能になります。ロードが成功した行をスキップして、ファイルの残りのレコードをロードするために、RESTARTCOUNT にそのレコード数を設定して、もう一度ロードを開始します。

このメッセージの後にメッセージ SQL3520W が続く場合、このメッセージは情報のみで、処置は必要ありません。

SQL3520W ロード整合点が成功しました。

説明: ロードによって実行された整合点が成功しました。

ユーザーの処置: これは単なる通知メッセージです。応答は必要ありません。

SQL3521N 入力ソース・ファイル *sequence-num* が提供されませんでした。

説明: 複数入力ファイルを使用するロードが呼び出されましたが、すべてのファイルが提供されたわけではありませんでした。DB2CS ファイル・タイプの場合は、固有に作成されたすべての入力ソース・ファイルを提供する必要があります。IXF ファイル・タイプの場合は、すべての入力ソース・ファイルを正しい順序で提供する必要があります。

ユーティリティーは終了します。

ユーザーの処置: すべての入力ソース・ファイルを提供し、すでにロードされたデータに対して

RESTARTCOUNT を適切に設定したユーティリティーを再始動してください。

SQL3522N ログ・リテインとユーザー出口の両方が使用できないときに、コピー・ターゲットを提供することはできません。

説明: ログ・リテインとユーザー出口の両方が無効になっているデータベースのロードの呼び出しに、コピー・ターゲットが指定されました。このようなデータベースには、コピー・ターゲットは無効です。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: データベースがログ・リテインとユーザー出口を無効にする必要を確認して、コピー・ターゲットを指定せずにロードを呼び出してください。

SQL3523W メッセージ・ファイルから取り出すメッセージがありません。理由コード: rc。

説明: LOAD 一時メッセージ・ファイルの照会からメッセージが返されませんでした。考えられる戻りコードは以下の通りです。

- 1 LOAD 一時メッセージ・ファイルが存在しません。
- 2 LOAD 一時メッセージ・ファイルにメッセージが存在しません。

ユーザーの処置: 有効な表名が指定されているかどうか確認してください。表名が正しく指定されていて、メッセージが予期される場合、データベース・モニターをチェックし、ユーティリティーがアクティブで、ロックなどのリソースを待機していないことを確かめてください。LOAD ユーティリティーが進行中になるまでLOAD 一時メッセージ・ファイルは作成されず、LOAD ユーティリティーの完了の後で削除されることに注意してください。

CLP コマンドの構文には、次のようなキーワードTABLE が含まれます。

```
LOAD QUERY TABLE <tablename>
```

TABLE キーワードを無視することにより、ロード照会でファイル名 *tablename* のバイナリー・ロード・メッセージ・ファイルがオープンします。

SQL3524N オプション *option* は、無効な値 *value* を持っています。

説明: 指定する値は整数でなければなりません。オプションごとの範囲は、以下のようになります。

1. TOTALFREESPACE: 値は、0 から 100 の範囲にある必要があり、フリー・スペースとしての表の最後に付加される表の合計ページのパーセントとして解釈されます。
2. PAGEFREESPACE: 値は、0 から 100 までの範囲にある必要があり、フリー・スペースとして残されるデータ・ページごとのパーセントとして解釈されます。
3. INDEXFREESPACE: 値は、0 から 99 までの範囲にある必要があり、索引のロード時に、フリー・スペースとして残される索引ページのパーセントとして解釈されます。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: 値を訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3525N *option-1* オプションは、*option-2* オプションとは非互換です。

説明: 非互換オプションがユーティリティーに対して提供されました。

ユーザーの処置: オプションの 1 つを除去または修正して、コマンドを再サブミットしてください。有効なオプションの詳細については、「コマンド・リファレンス」を参照してください。

SQL3526N 修飾子節 *clause* は現行ロード・コマンドに矛盾しています。理由コード: *reason-code*

説明: 指示されたこのロード・ファイル・タイプ・モード (修飾子) は、ご使用のロード/インポート/エクスポート・コマンドに互換性がありません。これは以下のいずれかの理由によります。

- 1 現行のオプションでは、RECLEN および NOEOFCHAR ファイル・タイプ修飾子を指定する必要があります。それらのオプションの 1 つ以上がコマンドで欠落しています。
- 2 指示されたオプション (DEL または ASC など) が入力または出力データ・ファイルのフォーマットと矛盾している。
- 3 生成されたかまたは ID に関連したファイル・タイプ修飾子を指定しましたが、そのような列はターゲット表に入っていません。
- 4

バージョン 8 より前のクライアントが使用されている場合、ユニーク索引に非 ID 生成列を持つ表をロードすることはできない。ただし、この列が CREATE INDEX ステートメントの INCLUDE 節に指定されているか、または GENERATEDOVERRIDE ファイル・タイプ修飾子が使用されている場合は除きます。バージョン 8 より前のクライアントの場合は、ORGANIZE BY 節に非 ID 生成列がある表をロードするときに、GENERATEDOVERRIDE ファイル・タイプ修飾子を指定する必要があります。

5

IDENTITYOVERRIDE ファイル・タイプ修飾子は、GENERATED BY DEFAULT ID 列を持つ表をロードしている場合は使用できません。

6

生成された列 (パーティション・キーの一部) が長いフィールドまたは LOB 列に関して定義されている場合、LOBSINFILE ファイル・タイプ修飾子を、パーティション化されたデータベース・ロードに指定することはできない。

7

GENERATEDMISSING または IDENTITYMISSING 修飾子を現在のロードまたはインポート・コマンドで使用した場合、表のすべての列がロード操作から除外される結果となります。

8

ID 列がパーティション・キーの一部である場合、あるいはパーティション・キーに生成された列が、パーティション・キーにない ID 列に依存する場合で、現在のロード・モードが PARTITION_ONLY、LOAD_ONLY または LOAD_ONLY_VERIFY_PART であるか、もしくは SAVECOUNT オプションの値が 0 より大きい場合は、IDENTITYOVERRIDE ファイル・タイプの修飾子を指定しなくてはなりません。

9

ターゲット表に ID 列について定義済みの生成された列が含まれ、GENERATEDOVERRIDE ファイル・タイプ修飾子が指定されている場合、IDENTITYOVERRIDE ファイル・タイプ修飾子も同様に指定される必要があります。これにより、生成された列の値は常に、表の ID 列の値と整合した方法で計算されます。

10

DUMPFILEACCESSALL ファイル・タイプ修飾子が有効なのは、ユーザーがターゲット表のロードに対する SELECT 特権を持ち、DUMPFILE 修飾子を指定し、そして DB2 サーバー・データベースのパーティションが UNIX ベースのオペレーティング・システムに置かれている場合だけです。

11

USEDEFAULTS ファイル・タイプ修飾子は、RECLLEN 修飾子を持つ IXF ファイル・タイプまたは ASC ファイル・タイプと結合させて使用することはできません。

12

セキュリティ・ラベルに関連したファイル・タイプ修飾子を指定しましたが、そのような列はターゲット表に入っていません。

13

IMPLICITLYHIDDENINCLUDE ファイル・タイプ修飾子は、暗黙非表示列が存在しない表をロードするときには、指定できません。

14

IMPLICITLYHIDDENINCLUDE ファイル・タイプ修飾子は、SELECT * 照会を使用せずに表をエクスポートするときには、指定できません。

ユーザーの処置: 使用しているオプションの必要項目をチェックしてください。一致する修飾子節 (ファイル・タイプ・モード) およびユーティリティ・オプションを使用してコマンドを再発行してください。

SQL3527N CODEPAGE オプションに対して FILETMOD パラメーターで指定された数は無効です。

説明: FILETMOD パラメーターの CODEPAGE オプションは無効です。

ユーザーの処置: コード・ページの数を変更し、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3528W CLP コマンドで指定した区切り文字 (列区切り文字、ストリング区切り文字、あるいは小数点) が、アプリケーション・コード・ページからデータベース・コード・ページに変換される可能性があります。

説明: CLP コマンドがクライアントからサーバーに送信されると、コード・ページが異なる場合、このコマンドは、クライアントのコード・ページから、サーバーのコード・ページへ変換される可能性があります。

ユーザーの処置: 区切り文字が変換されていないかどうか確認するには、16 進のフォーマットで指定する必要があります。

SQL3529N *operation-name* 操作が、サポートされていないデータ・タイプ *data-type* を列 *column-number* で見つけました。

説明: *operation-name* 操作は、列 *column-number* にあるデータ・タイプ *data-type* をサポートしていません。

ユーザーの処置: サポートされているデータ・タイプについては、表定義およびデータ移動の手引きを調べてください。

SQL3530I ロード照会ユーティリティは、パーティション *partitionnumber* での *agenttype* の進行状況をモニターしています。

説明: ロード照会ユーティリティが MPP 環境で呼び出されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL3531I **LOAD RESTART** が行われました。

説明: 現在照会されているロードに RESTART オプションが与えられました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL3532I ロード・ユーティリティは現在 *phase* フェーズです。

説明: これは、現在照会されているロードのフェーズを示す情報メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL3533I ロード・ユーティリティは現在、*number* の *number* を作成中です。

説明: これは、現在照会されているロードが BUILD フェーズである場合に返される情報メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL3534I ロードの **DELETE** フェーズのおよそ *number* パーセントが完了しています。

説明: これは、現在照会されているロードが DELETE フェーズである場合に返される情報メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL3535W **LOAD** コマンド・パラメーター *parameter-name* は、現在サポートされていません。この値は **LOAD** ユーティリティによって無視されます。

説明: **LOAD** コマンドに、現在はサポートされていないパラメーターが入っています。

ユーザーの処置: **LOAD** のための一時ソート・スペースの情報および **LOAD** パフォーマンス調整に関する指示については、DB2 資料を参照してください。

SQL3536N **SYSTEM TEMPORARY** 表スペース *table-space-name* がいっぱいです。

説明: 索引キーをソートしているときに、**LOAD** ユーティリティは表スペースがいっぱいの状態であることを検出しました。

ユーザーの処置: **SYSTEM TEMPORARY** 表スペース *table-space-name* に割り振られているスペースが、作成される索引全体のサイズの少なくとも 2 倍であることを確認してください。 **LOAD** ユーティリティを再始動してください。

SQL3537N **LOAD** ユーティリティの実行中に、ソート・メモリーを割り振ることができませんでした。

説明: ソート処理のために、**LOAD** ユーティリティで使用できる処理仮想メモリーが十分にありません。

ユーザーの処置: このメッセージを受け取ったアプリケーションを終了してください。ソート処理のために使用できる仮想メモリーが十分にあるかどうか確認してください。

可能な解決方法は、以下のとおりです。

- すべてのアプリケーションをデータベースから切断し、対応するデータベース構成ファイルのソート・ヒープ・パラメーター (sortheap) のサイズを小さくします。
- バックグラウンド処理を中止、または現在実行中の他のアプリケーションを終了、あるいはその両方を行います。
- 使用できる仮想メモリーの量を増やします。

SQL3538N 複数の **LOAD** で同じ一時ファイル・パスを使用しているため、**LOAD QUERY** ユーティリティが失敗しました。

説明: 少なくとも 1 つの他の **LOAD** が、照会された **LOAD** と同じ **TEMPFILES PATH** を使用して呼び出され、現在も進行中です。 **LOAD QUERY** ユーティリティは、照会する **LOAD** を固有に決定できません。

ユーザーの処置: 代わりに、LOAD QUERY の TABLE パラメーターを使用してください。

SQL3539N LOAD TERMINATE が少なくとも 1 回 試行されているため、LOAD RESTART を実行できません。

説明: LOAD TERMINATE は、LOAD TERMINATE の完了後でなければ実行できません。

ユーザーの処置: ユーザーは LOAD TERMINATE のみ実行することができます。

SQL3550W 行 *row-number*、列 *column-number* のフィールド値は NULL ではありませんが、ターゲット列は GENERATED ALWAYS として定義されています。

説明: 入力ファイルに NULL ではないフィールド値が見つかりました。ターゲット列がタイプ GENERATED ALWAYS であるため、値をロードできません。column-number は、データが欠落している行のフィールドを示しています。

ユーザーの処置: LOAD では、identityoverride ファイル・タイプ修飾子が使用されている場合のみ、明示的に NULL ではないフィールド値を GENERATED ALWAYS ID 列にロードできます。ID 列ではない GENERATED ALWAYS 列の場合、明示的に NULL ではない値を行にロードするために generatedoverride ファイル・タイプ修飾子を使用できます。これらの修飾子の使用が適切でなければ、LOAD が行を受け入れる場合、フィールド値を NULL で置き換えなければなりません。

IMPORT の場合、GENERATED ALWAYS 列をオーバーライドする方法はありません。ユーティリティが行を受け入れる場合、フィールド値を除去して NULL で置き換えなければなりません。

SQL3551W ユーティリティがオーバーライドする GENERATED ALWAYS 列が少なくとも 1 つ、表に含まれています。

説明: “override”ファイル・タイプ修飾子 (たとえば IDENTITYOVERRIDE または GENERATEDOVERRIDE) が指定されています。

IDENTITYOVERRIDE の場合、GENERATED ALWAYS と定義された ID 列のユニーク性プロパティに違反する可能性があります。

GENERATEDOVERRIDE の場合、その列定義に対応しない値の入った、ID 列ではない GENERATED ALWAYS 列が生じる可能性があります。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL3600N 表 *table-name* はユーザー保守のマテリアライズ照会表であるか、または SET INTEGRITY ペンディング状態にないため、SET INTEGRITY ステートメントの IMMEDIATE CHECKED オプションは無効です。

説明: SET INTEGRITY ステートメントの IMMEDIATE CHECKED オプションが有効なのは、表が SET INTEGRITY ペンディング状態に置かれていてそれがユーザー保守のマテリアライズ照会表でない場合か、SET INTEGRITY ペンディング状態に置かれた上位レベルのいずれかの表も呼び出しリストに入っていて、中間上位レベルのすべての表もそのリストに入っている場合のみです。

ユーザーの処置:

1. OFF オプションを指定して SET INTEGRITY ステートメントを使用し、表を SET INTEGRITY ペンディング状態にしてください。
2. ユーザー保守のマテリアライズ照会表については、IMMEDIATE UNCHECKED オプションを使用してください。
3. この表の上位表を、チェック対象の表のリストに含めてください。この上位表は SET INTEGRITY ペンディング状態であり、すべての中間上位表もこのリストに入っている必要があります。
4. 表がデータ移動なしの状態にあるが SET INTEGRITY ペンディング状態にない場合は、FULL ACCESS オプション付きで SET INTEGRITY ステートメントを指定して、表を強制的にデータ移動なしの状態から出してください。SET INTEGRITY ペンディング状態のままになっているすべての従属即時マテリアライズ照会表も、その後の REFRESH TABLE ステートメントで完全な再計算を強制され、SET INTEGRITY ペンディング状態のままになっているすべての従属即時ステー징表は、従属するマテリアライズ照会表をリフレッシュするために使用できなくなります。

sqlcode: -3600

sqlstate: 51027

SQL3601W ステートメントにより 1 つ以上の表が自動的に SET INTEGRITY ペンディング状態になりました。

説明: 表は、整合性制約を強制するため、または基本表、下層即時マテリアライズ照会表、下層ステー징表の間のデータのリレーションシップを強制するため

に、SET INTEGRITY ペンディング状態に置かれました。具体的には、以下のステートメントにより、リストの表のうち少なくとも 1 つが SET INTEGRITY ペンディング状態に置かれました。

- ALTER TABLE ... ATTACH ステートメントは、ATTACH のターゲット表を強制的に SET INTEGRITY ペンディング状態にしました。
- ALTER TABLE ... DETACH ステートメントは、下層即時マテリアライズ照会表または下層ステージング表を強制的に SET INTEGRITY ペンディング状態にしました。
- SET INTEGRITY ステートメントは、下層外部キー表、下層即時マテリアライズ照会表、または下層ステージング表を強制的に SET INTEGRITY ペンディング状態にしました。

デタッチされたパーティションは新しく作成されたデタッチされた表に存在し、デタッチされたその従属マテリアライズ照会表およびステージング表が保守されるまでアクセスできません。

ユーザーの処置: SET INTEGRITY ペンディング状態にある表の整合性の妥当性を検査するには、それらの表に対して IMMEDIATE CHECKED または IMMEDIATE UNCHECKED オプションを指定した SET INTEGRITY ステートメントを実行します。どの表が SET INTEGRITY ペンディング状態かを判別するには、以下の照会を発行してください。

```
SELECT TABSCHEMA, TABNAME, STATUS
FROM SYSCAT.TABLES
WHERE STATUS = 'C'
```

デタッチされた表のどれが ALTER TABLE ... DETACH ステートメントによって作成されていてまだアクセスできないかを判別するには、以下の照会を発行してください。

```
SELECT TABSCHEMA, TABNAME, TYPE
FROM SYSCAT.TABLES
WHERE TYPE = 'L'
```

sqlcode: +3601

sqlstate: 01586

SQL3602W CHECK DATA 処理で制約違反が見つかり、それらは例外表に移動されました。

説明: SET INTEGRITY ステートメントの実行でチェックされるように指定された制約に違反する行が存在します。それらの表は、例外表に移動されます。

ユーザーの処置: 制約に違反した行については、例外表をチェックしてください。行は、オリジナル表から削除

されますが、訂正することが可能で、例外表から戻すことができます。

sqlcode: +3602

sqlstate: 01603

SQL3603N SET INTEGRITY ステートメントによる整合性の処理で、制約、ユニーク索引、生成された列、または XML 列の索引に関する整合性違反が見つかりました。関連するオブジェクトは *name* で識別されません。

説明: SET INTEGRITY ステートメントによって検査された表で整合性に違反する行が見つかりました。整合性違反の原因は、次のいずれかです。

- 表の制約に違反しました。表の制約は *name* で識別されます。
- ユニーク索引に違反しました。ユニーク索引は *name* で識別されます。
- 生成された列の列値が、生成式の結果に一致しません。生成された列は *name* で識別されます。
- 整合性に違反する XML 列の索引が表に含まれていません。XML 列は *name* で識別されます。

行は表からまだ削除されていません。表は SET INTEGRITY ペンディング状態のままです。

ユーザーの処置: FOR EXCEPTION オプションを使って SET INTEGRITY ステートメントを再び実行し、例外表の情報を使ってデータを訂正してください。

sqlcode: -3603

sqlstate: 23514

SQL3604N SET INTEGRITY ステートメント、LOAD ユーティリティ、または INGEST ユーティリティに指定されている表 *table-name* に対応する例外表 *excp-table-name* が、正しい構造でないか、ユニーク索引、XML データに対する索引、制約、生成列、またはトリガーを使って定義されているか、SET INTEGRITY ペンディング状態にあるか、あるいはタイプが無効であるかのいずれかです。理由コード *reason-code*

説明: 表に対応する例外表は、オリジナル表の定義と同様な定義を持っている必要があります。例外表に定義できるオプション列は、例外表を記述している資料の関連するセクションに指定されています。生成された列が例外表にないと思われます。例外表には、制約、トリガー、ユニーク索引、または XML データに対する索引を

SQL3605N

定義することはできません。例外表自体が SET INTEGRITY ペンディング状態であってはなりません。例外表は、データ・パーティション表、範囲がクラスター化された表、デタッチされた表のいずれであってもなりません。例外表は、リフレッシュ即時マテリアライズ照会表も従属伝搬即時ステージング表も持つことはできません。例外表は、マテリアライズ照会表またはステージング表であってはなりません。例外表は、チェック対象の表と同じセキュリティ・ポリシーと保護列セットを持つ必要があります。

対応する理由コードは、以下のとおりです。

1

例外表は、SET INTEGRITY ペンディング状態です。

2

例外表は、正しい列構造になっていません。

3

例外表は制約を持っています。

4

例外表はトリガーを持っています。

5

例外表は生成された列を持っています。

6

例外表はユニーク索引を持っています。

7

例外表は、マテリアライズ照会表またはステージング表です。

8

例外表は、従属リフレッシュ即時マテリアライズ照会表、または従属伝搬即時ステージング表を持っています。

9

例外表は、ロード先の表と同じです。

10

例外表は、範囲がクラスター化された表です。

11

例外表は、データがパーティション化された表です。

12

例外表は、デタッチされた表です。

13

例外表は、チェック対象の表と同じセキュリティ・ポリシーも保護列セットも持っていません。

14

例外表は、XML データに対する索引を使って定義されています。

15

表では行レベルまたは列レベルのアクセス制御が設定されており、例外表ではそうではありません。

ユーザーの処置: 資料内の関連するセクションに示されているように例外表を作成し、ステートメントまたはユーザーリティーを再実行してください。

sqlcode: -3604

sqlstate: 428A5

SQL3605N SET INTEGRITY ステートメントに指定されている表 *table-name* が、チェックのためにリストされていないか、または 2 回以上指定されている例外表です。

説明: FOR EXCEPTION 節が SET INTEGRITY ステートメントに指定されている場合は、以下のいずれかによって、このエラーが発生した可能性があります。

- 表が、チェックされる表のリストにありませんでした。
- チェックされる表が、例外表と同じでした。
- 例外表が、チェックされる複数の表に指定されています。

ユーザーの処置: 表名を訂正して、コマンドを再発行してください。

sqlcode: -3605

sqlstate: 428A6

SQL3606N チェック中の表の数が、SET INTEGRITY ステートメントに指定されている例外表の数に一致しません。

説明: 例外表と、呼び出しリストに指定されたマテリアライズ照会表またはステージング表でない表の間には、1 対 1 の対応が存在します。呼び出しリストに指定されている、マテリアライズ照会表またはステージング表である表は、対応する例外表を持つことはできません。

ユーザーの処置: マテリアライズ照会表またはステージング表でない表の例外表が存在していない場合は、作成し、コマンドを再度実行するために、その例外表を呼び出しリストに指定してください。マテリアライズ照会表

およびステージング表の例外表は指定しないでください。

sqlcode: -3606

sqlstate: 428A7

SQL3608N 親表または基礎表 *parent-table-name* が **SET INTEGRITY** ペンディング状態にある間、または **SET INTEGRITY** ステートメントによって **SET INTEGRITY** ペンディング状態に置かれる場合は、**SET INTEGRITY** ステートメントを使って従属表 *dependent-table-name* をチェックできません。

説明: 親表や基礎表は、**SET INTEGRITY** ステートメントの前または後に **SET INTEGRITY** ペンディング状態になることはできません。また、従属表をチェックするために呼び出しリストに含まれている必要があります。

ユーザーの処置: **SET INTEGRITY** ステートメントを実行して親表をチェックし、親表が **SET INTEGRITY** ペンディング状態になっていないことを確認してください。従属表がマテリアライズ照会表またはステージング表の場合は、**SET INTEGRITY** ステートメントを実行して基礎表をチェックし、基礎表が **SET INTEGRITY** ペンディング状態でないことを確認してください。

従属表がマテリアライズ照会表またはステージング表でない場合は、最初に親表をチェックすることをお勧めします。また、従属表をチェックしたり、親表を呼び出しリストに組み込むこともできます。この場合、親表に制約違反の行があり、これらの行が削除されずに例外表に入れていると、ステートメントが失敗することがあります。これは、**FOR EXCEPTION** オプションが使用されていない場合に発生することがあります。

従属表がマテリアライズ照会表またはステージング表の場合は、最初に基礎表をチェックすることをお勧めします。また、従属マテリアライズ照会表をリフレッシュして、基礎表を呼び出しリストに含めることもできます。この場合、親表に制約違反の行があり、これらの行が削除されずに例外表に入れていると、ステートメントが失敗することがあります。これは、**FOR EXCEPTION** オプションが使用されていない場合に発生することがあります。

参照サイクルの場合は、すべての表を呼び出しリストに含める必要があります。

sqlcode: -3608

sqlstate: 428A8

SQL3700W 装置 *device* がフルです。他のアクティブ装置 *active-devices* があります。新しいメディアを取り付けるか、または適切なアクションを行ってください。

説明: 指定された装置上のメディアがフルです。この装置は、いずれかの *active-devices* + 1 の、データのアンロード先ターゲット装置です。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのアクションを実行してください。

- 指定した装置に新しいターゲット・メディアを取り付け、呼び出し側アクション 1 (**SQLU_CONTINUE**) を使用してアンロードを呼び出すことにより、アンロードを続けてください。

または

- active-devices* がゼロ以外の場合は、呼び出し側アクション 4 (**SQLU_DEVICE_TERMINATE**) で **UNLOAD** ユーティリティを呼び出すことにより、この装置なしでアンロードを続行します。

または

- 呼び出し側アクション 2 (**SQLU_TERMINATE**) を指定して、**UNLOAD** ユーティリティを呼び出すことにより、アンロードを続けてください。

SQL3701W **lobpaths** パラメーターが指定されましたが、表に **LOB** または長いデータが含まれていません。このパラメーターは無視されます。

説明: **lobpaths** パラメーターが、**LOB** および長いデータに対して独立したターゲットを指定しています。表に **LOB** または長いデータが入っていないために、**lobpaths** パラメーターによって指定されているターゲットは使用されません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL3702W 警告。装置 *device* に対して **SQLCODE** *sqlcode* を受信しました。アンロードは、この装置なしで続けられます。

説明: アンロード先ターゲットの 1 つである、指定装置に対して、**SQLCODE** *sqlcode* が検出されました。アンロードは続けられますが、この装置は無視されます。

ユーザーの処置: 指定された装置上のロードされたメディアは、アンロードされたデータを含まず、アンロードされたデータをロードするときに、**LOAD** ユーティリティに指定するメディアに含んではなりません。装置に関する問題を修正するには、返された **SQLCODE** を「メッセージ・リファレンス」で調べてください。

SQL3703W タイプ *type* ページの *yyy* のうちの *xxx* がアンロードされ、ターゲット・メディアに書き込むために送られました。

説明: アンロードされる表は、指定されたデータ・タイプの *yyy* ページで構成されています。このうち *xxx* ページが UNLOAD ユーティリティによって処理され、データをターゲット・メディアに書き込むメディア・ライターに送信されました。

type は、以下のいずれかです。

- 0 (通常データ)
- 2 (長いデータおよび割り振り情報)
- 3 (LOB データ)
- 4 (LOB 割り振り情報)

Long および LOB データの場合、未使用スペースはアンロードされないけれども、データの再ロードの際に再作成されるため、*xxx* が *yyy* より小さくなく可能性がある点に気を付けてください。

通常データの場合でも、*xxx* = *yyy* の場合、最終メッセージが発行されない場合があります。代わりに、メッセージ 3105 が、アンロードが正常に終了したことを示すために使用されます。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。アクションは不要です。

SQL3704N 指定された *num_buffers* パラメーターが無効です。

説明: *num_buffers* パラメーターは、ユーティリティが使用するバッファの数を決定します。最小値は、*lobpaths* パラメーターが指定されていない場合は 2 で、*lobpaths* パラメーターが指定されている場合は 3 です。これは、ユーティリティが作業するために最低限必要な値です。ただし、このパラメーターが指定されないと、最適なバッファ数をユーティリティが使用します。この最適な数は、ユーティリティが実行される内部処理の数、および *lobpaths* パラメーターが指定されているかどうかによって異なります。指定されたバッファの数が最適な数より小さい場合は、いくつかの処理が、使用するためにバッファを待つこととなります。したがって、このパラメーターに 0 を指定して、ユーティリティにバッファ数を選択させることが推奨されます。このパラメーターのみを指定する場合は、ユーティリティ・ストレージ・ヒープのサイズのために、ユーティリティが使用するメモリの容量を制限する必要があります。

ユーザーの処置: 有効な *num_buffers* パラメーターを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3705N 指定されたバッファ・サイズ・パラメーターが無効です。バッファ・サイズは、0 または 8 から 250000 の間で指定する必要があります。複数バッファの場合は、バッファ・サイズの合計が 250000 を超えてはなりません。

説明: ユーティリティを呼び出しているアプリケーションが、無効な *buffer size* パラメーターを指定しました。バッファ・サイズは、内部バッファ・サイズの決定に使用されます。値は、このバッファ用取得される 4K ページの数です。値は、0 または 8 から 250000 の間で指定する必要があります。複数バッファがある場合、バッファ数にバッファ・サイズを掛けた値は 250000 以下でなければなりません。

0 が指定された場合は、以下のようになります。

- 通常データがデータベース管理記憶表スペースに存在する表の場合は、表スペースに対して、デフォルト・バッファ・サイズが、表スペースのエクステント・サイズまたは 8 の大きい方になります。
- 通常データがシステム管理ストレージ表スペースに存在する表の場合は、デフォルト・バッファ・サイズが 8 になります。

ユーザーの処置: 有効なバッファ・サイズを指定して、コマンドを再発行してください。

SQL3706N *path/file* で、ディスク・フル・エラーが発生しました。

説明: データベース・ユーティリティの処理中に、ディスク・フル・エラーが発生しました。ユーティリティは停止します。

ユーザーの処置: ユーティリティで使用可能な十分なディスク・スペースがあることを確認するか、または出力をテープなどの別のメディアに変更してください。

SQL3707N *size1* を指定した *sort memory size* パラメーターが無効です。最小許容値は *size2* です。

説明: ソート・メモリー・サイズが、索引のキーのソートに十分な大きさではありません。

ユーザーの処置: 有効なソート・メモリー・サイズを指定して、コマンドを再発行してください。

最小ストレージ容量のみを使用させるには、0 (これをデフォルトにします) を指定してください。ただし、最小値より多くを使用すると、ソートのパフォーマンスが向上するはずですが。

SQL3783N コピー・ロケーション・ファイルのオープン中に、エラーが発生しました。ファイルのオープンのエラー・コードは *errcode* です。

説明: ロード・リカバリーでコピー・ロケーション・ファイルのオープン中に、エラーが発生しました。オペレーティング・システムのファイルのオープンの戻りコードが返されます。

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージのエラー・コードを調べてください。可能であれば、エラーを修正して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3784W コピー・ロケーション・ファイルからの読み取り中に、無効なデータが見つかりました。行 *line-no* で、エラー・タイプ *errtype* の障害が発生しました。

説明: ロード・リカバリーでコピー・ロケーション・ファイルの読み取り中に、無効なデータが見つかりました。行番号とエラー・タイプが返されます。ユーティリティーは、続行の応答を待ちます。

ユーザーの処置: コピー・ロケーション・ファイルのデータを訂正して、処理を継続または終了するべきであることを示す正しい caller action パラメーターを指定して、ユーティリティーに戻ってください。

SQL3785N エラー *sqlcode* (追加情報 *additional-info*) により、表 *schema.tablename* に対するロード・リカバリーが、ノード *node-number* で *timestamp* に失敗しました。

説明: ロード・リカバリー中に、重大エラーが発生しました。ユーティリティーは処理を停止します。

(注:パーティション・データベース・サーバーを使用している場合、ノード番号は、エラーの発生しているノードを示しています。そうでない場合、これは関係のないものなので無視してください。)

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージのエラー・コードを調べてください。修正アクションを取った後で、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3798W ロールフォワード・リカバリー API を呼び出してロード・リカバリーを継続するためのパラメーター *parameter* に、無効な値が使用されています。

説明: ロード・リカバリーが進行中に、渡されたパラメーターのいずれかが、ロード・リカバリーの現在の状態には無効でした。

ユーザーの処置: エラーの値を訂正して、処理を継続ま

たは終了するべきかを示す正しい caller action パラメーターを指定して、ユーティリティーに戻ってください。

SQL3799W 警告 *sqlcode* (追加情報 *additional-info*) により、表 *schema.tablename* のロード・リカバリーが、ノード *node-number* で *timestamp* にペンディングになっています。

説明: ロード・リカバリー中に、警告状態が見つかりました。ユーティリティーは、続行の応答を待ちます。

(注:パーティション・データベース・サーバーを使用している場合、ノード番号は、エラーの発生しているノードを示しています。そうでない場合、これは関係のないものなので無視してください。)

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージのエラー・コードを調べてください。必要な修正を加えた後、処理を継続するか終了するかを示す適切な caller action パラメーターを指定して、ユーティリティーに戻ってください。

SQL3802N 無効な静止モード *quiesce-mode* が見つかりました。

説明: 無効な静止モードが *quiesce* API に渡されました。

ユーザーの処置: 正しいパラメーターを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3804N 索引が無効です。

説明: ユーティリティー・コマンドの処理中に、無効な索引が見つかりました。

ユーザーの処置: 「管理ガイド」を調べて、索引をもう一度妥当性検査する適切な方法を決め、状態を修復した後でコマンドを再サブミットしてください。

SQL3805N アプリケーション、または指定された表の 1 つ以上の表スペースの状態が、*loadapi* アクションまたは *quiescemode action* を禁止しています。理由コード = *reason-code*。

説明: load API に渡された *loadapi* アクション (*quiescemode* または *callerac*) が、アプリケーションの状態、または表の 1 つ以上の表スペースの状態と矛盾しています。

可能性のある理由コードは、以下のとおりです。

01

SQL3806N

指定された表の 1 つ以上の表スペースが、loadapi アクションまたは quiescemode を禁止しています。

02

アプリケーションが、論理作業単位の開始になっていません。この状態は、指定された load アクションを禁止します。

03

アプリケーションの状態が、指定された load アクションを禁止しています。

04

表の 1 つ以上の表スペースが、静止状態の最大数によって、すでに静止されています。

05

システム・カタログ表スペースを静止することができません。

06

表スペースがバックアップ・ペンディング状態の場合、LOAD コマンドに COPY オプションを指定することは許可されていません。

07

不正なフェーズでロードを再始動しようとしてしました。

08

パーティション・キーが ID 列に依存し、すべての表パーティションがロード・フェーズから再開されない表への、ロードの再試行です。再開されたロードが ID 列への依存により初期ロードのハッシュと異なる可能性がある場合、このようなロードは行のハッシュとして許可されません。

09

データベースが WRITE SUSPEND 状態であるため、QUIESCE TABLESPACES FOR TABLE コマンドが失敗しました。

ユーザーの処置: 理由コードに対応するユーザー応答は、以下のとおりです。

01

正しい loadapi アクションまたは quiescemode を使用してコマンドを再サブミットするか、または表の表スペースの状態を修正してください。

02

正しい load アクションでコマンドを再サブミットするか、COMMIT または ROLLBACK のいずれかをサブミットして現行の作業単位を完了してください。

03

正しいロード・アクションを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

04

静止状態の最大数に達している表の表スペースを判別してください。これらの表スペースを QUIESCE RESET してください。

05

システム・カタログ表スペースに存在しない表を指定して、コマンドを再サブミットしてください。

06

copy パラメーターを除去して、コマンドを再サブミットしてください。

07

ロードが再始動するフェーズを判別して正しいフェーズでコマンドを再サブミットしてください。

08

TERMINATE アクションを使用し、その後元のロード・コマンドを再サブミットして、ロード操作を終了してください。

09

データベースの入出力書き込み操作を再開し、QUIESCE TABLESPACES FOR TABLE コマンドを再サブミットしてください。

SQL3806N 表の制約のすべてが、ロードされる表に対してオフになっているわけではありません。

説明: load API が呼び出されたときに、ロードされる表に対する 1 つ以上の制約がオンになっていました。

ユーザーの処置: すべての表コンテナがオフになった後で、コマンドを再サブミットしてください。

SQL3807N インスタンスまたはデータベース name はペンディング状態にあります。

説明: 他のユーザーが quiesce コマンドをサブミットし、まだ完了していません。

ユーザーの処置: quiesce が完了するのを待ってください。

SQL3808N インスタンスまたはデータベース *name* は非静止状態にあります。

説明: 他のユーザーが unquiesce コマンドをサブミットし、まだ完了していません。

ユーザーの処置: unquiesce が完了するのを待ってください。

SQL3901N 重大ではないシステム・エラーが発生しました。理由コード *reason-code*

説明: 重大ではないシステム・エラーにより、処理が終了しました。

ユーザーの処置: トレースがアクティブな場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトから、独立トレース機能呼び出ししてください。技術サービス担当者に、以下の情報を知らせてください。

- 問題の説明
- SQLCODE および組み込み理由コード
- SQLCA の内容 (ある場合)
- トレース・ファイル (可能であれば)

SQL3902C システム・エラーが発生しました。これ以上の処理を行うことはできません。理由コード = *reason-code*。

説明: システム・エラーが発生しました。

ユーザーの処置: トレースがアクティブな場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトから、独立トレース機能呼び出ししてください。技術サービス担当者に、以下の情報を知らせてください。

- 問題の説明
- SQLCODE および組み込み理由コード
- SQLCA の内容 (ある場合)
- トレース・ファイル (可能であれば)

SQL3910I 同期セッションが正常に完了しました。

説明:

ユーザーの処置:

SQL3911I テスト同期セッションが正常に完了しました。

説明:

ユーザーの処置:

SQL3912I STOP が正常に完了しました。

説明:

ユーザーの処置:

SQL3913I STOP を発行しましたが、現在アクティブな同期セッションはありません。

説明:

ユーザーの処置:

SQL3914I ユーザー割り込みが行われました。同期セッションは正常に停止しました。

説明:

ユーザーの処置:

SQL3915I 結果がサテライト・コントロール・サーバーにアップロードされる前にユーザー割り込みが行われました。結果は、次の同期セッション時にアップロードされます。

説明:

ユーザーの処置:

SQL3916I STOP 要求を受け取りました。同期セッションは正常に停止しました。

説明:

ユーザーの処置:

SQL3917I 結果がサテライト・コントロール・サーバーにアップロードされる前に STOP 要求を受け取りました。結果は、次の同期セッション時にアップロードされます。

説明:

ユーザーの処置:

SQL3918I 同期進行情報を正常に取得しました。

説明:

ユーザーの処置:

SQL3919I サテライトがサテライト・コントロール・サーバーに接触する前に STOP 要求を受け取りました。同期は正常に停止しました。

説明:

ユーザーの処置:

SQL3920I このサテライトのアプリケーション・バージョンは、このサテライトのグループで使用可能なものと一致しません。同期は実行できません。

説明: サテライトによって報告されたアプリケーション・バージョンが、サテライト・コントロール・サーバーに存在しません。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3921I このサテライトは、サテライト・コントロール・サーバーで使用不可になっています。同期は実行できません。

説明: 使用不可のとき、サテライトは同期を行うことができません。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3930W 実行する同期スクリプトがありません。

説明: 同期スクリプトは、実行のためサテライトにダウンロードされませんでした。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡して、同期スクリプトがこのサテライトのためのサテライト・コントロール・データベースで使用可能であることを確認してください。

SQL3931W テスト同期セッションが正常に完了しました。ただし、サテライト ID をサテライト・コントロール・データベースで見つけれませんでした。

説明: サテライト ID がサテライトで正しく定義されていないか、このサテライトがサテライト・コントロール・データベースに定義されていません。

ユーザーの処置: DB2SATELLITEID レジストリー変数を使用する場合は、サテライトのユニークな ID に設定されていることを確認してください。オペレーティング・システム・ログオン ID をサテライト ID として使用している場合、それを使ってログオンしてください。

SQL3932W テスト同期セッションが正常に完了しました。ただし、サテライトのアプリケーション・バージョンがローカルで設定されていないか、またはこのサテライトのグループのものがサテライト・コントロール・サーバーに存在しません。

説明: サテライトのアプリケーション・バージョンが、

このサテライトのグループで使用可能なものとは異なります。

ユーザーの処置: サテライトのアプリケーション・バージョンが正しい値に設定されていることを確認してください。

SQL3933W テスト同期セッションが正常に完了しました。ただし、サテライトのリリース・レベルは、サテライト・コントロール・サーバーのリリース・レベルではサポートされていません。

説明: サテライトのリリース・レベルは、サテライト・コントロール・サーバーのレベルの 1 つ上から 2 つ下までの範囲内でなければなりません。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3934W テスト同期セッションが正常に完了しました。ただし、このサテライトはサテライト・コントロール・サーバーで無効になっています。

説明: サテライトは、サテライト・コントロール・サーバーで使用不可の状態に置かれています。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3935W テスト同期セッションが正常に完了しました。ただし、このサテライトはサテライト・コントロール・サーバーで障害状態になっています。

説明: サテライトがコントロール・サーバーで障害状態になっています。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3936W 進行情報がありません。

説明: 同期セッションが、進行情報が記録される段階に達していないか、このサテライトのためのアクティブな同期セッションがありません。

ユーザーの処置: 同期セッションがアクティブであることを確認するか、後で進行情報を照会してください。

SQL3937W このサテライトのアプリケーション・バージョンが、このサテライトのグループで使用可能なものと一致しません。

説明: サテライトは、そのグループの特定のアプリケー

ション・バージョンとのみ同期を行うことができます。このサテライトのアプリケーション・バージョンは、コントロール・サーバーでサテライトのグループのために使用できません。

ユーザーの処置: サテライトのアプリケーション・バージョンが正しい値に設定されていることを確認してください。

SQL3938W スクリプトの実行中に割り込みが行われました。同期セッションは停止しましたが、サテライトが不整合状態にある可能性があります。

説明: 同期化処理のスクリプト実行フェーズが実行されているときに、割り込みが行われました。同期セッションは停止しましたが、スクリプトが不適切な場所で停止された可能性があるため、サテライトが不整合状態になっている場合があります。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3942I 同期セッション ID がサテライト用に正しく設定されました。

説明: セッション ID がサテライト用に正しく設定されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL3943N 同期セッション ID が、最大長である *length* 文字を超えています。

説明: 指定された同期セッション ID が、許可されている最大長 *length* 文字よりも長くなっています。

ユーザーの処置: ID が *nnn* 文字を超えないことを確認してください。

SQL3944I サテライトの同期セッション ID が正しくリセットされました。

説明: サテライトのセッション ID が正しくリセットされました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL3945I サテライトの同期セッション ID が正しく検索されました。

説明: このサテライトのセッション ID が正しく検索され、返されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL3946N 同期セッション ID 操作が失敗しました。

説明: 同期セッション ID 操作が不明な理由で失敗しました。

ユーザーの処置: 製品が正しくインストールされていることを確認してください。問題が解決しない場合、DB2 サービスに連絡してください。

SQL3950N 同期セッションがアクティブになっていません。アクティブにできる同期セッションは 1 つだけです。

説明: 一度にアクティブにできる同期セッションは 1 つだけです。

ユーザーの処置: 現在の同期セッションが正常に完了するのを待ってから、別のセッションを開始してください。

SQL3951N サテライト ID がローカルで見つかりません。

説明: オペレーティング・システム・ログオンが行われなかったか、または DB2SATELLITEID レジストリー変数が設定されていません。

ユーザーの処置: オペレーティング・システム・ログオン ID をサテライト ID として使用している場合、オペレーティング・システムにログオンしてください。

DB2SATELLITEID レジストリー変数を使用する場合は、サテライトのユニークな ID に設定されていることを確認してください。

SQL3952N サテライト ID をサテライト・コントロール・サーバーで見つけることができませんでした。

説明: サテライト ID がこのサテライトで正しく定義されていないか、このサテライトがサテライト・コントロール・サーバーで定義されていません。

ユーザーの処置: DB2SATELLITEID レジストリー変数を使用する場合は、サテライトのユニークな ID に設定されていることを確認してください。オペレーティング・システム・ログオン ID をサテライト ID として使用している場合、それを使ってログオンしてください。それ以外の場合は、ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3953N このサテライトは、サテライト・コントロール・サーバーで使用不可になっています。

説明: サテライト ID がサテライト・コントロール・サーバーで使用不可になっています。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3954N このサテライトは、サテライト・コントロール・サーバーで障害状態になっています。

説明: 直前の同期セッションが失敗したため、サテライトが障害状態になっています。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3955N サテライト・コントロール・データベース名またはその別名が見つかりませんでした。

説明: サテライト・コントロール・データベースが正しくカタログされていません。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3956N このサテライトのアプリケーション・バージョンがローカルで定義されていません。

説明: アプリケーション・バージョンがこのサテライトでローカルに定義されていないか、または正しく定義されていません。

ユーザーの処置: アプリケーション・バージョンが正しい値に設定されていることを確認してください。

SQL3957N 通信障害のため、サテライト・コントロール・データベースに接続できません:
SQLCODE=sqlcode、
SQLSTATES=sqlstate、トークン=token1、
token2、token3。

説明: 通信サブシステムによって、エラーが検出されました。詳細については、*sqlcode* を参照してください。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3958N 同期セッション中にエラーが発生しました:
SQLCODE=sqlcode、
SQLSTATES=sqlstate、トークン=token1、
token2、token3。

説明: 通信サブシステムが不明なエラーを見つけました。詳細については、*sqlcode* を参照してください。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3959N 通信障害のため、同期セッションを開始できません:
SQLCODE=sqlcode、
SQLSTATES=sqlstate、トークン=token1、
token2、token3。

説明: 通信サブシステムによって、エラーが検出されました。詳細については、*sqlcode* を参照してください。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3960N 通信障害のため、結果をサテライト・コントロール・サーバーにアップロードできません:
SQLCODE=sqlcode、
SQLSTATES=sqlstate、トークン=token1、
token2、token3。

説明: 通信サブシステムによって、エラーが検出されました。詳細については、*sqlcode* を参照してください。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3961N サテライト・コントロール・サーバーで認証を受けられません。

説明: サテライト・コントロール・データベースに接続中、認証エラーが検出されました。

ユーザーの処置: サテライト・コントロール・データベースに接続するときに必要なリモート管理ユーザー ID またはパスワード、あるいはその両方が正しくありません。正しいユーザー ID およびパスワードを指定するか、ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3962N データベース・エラーのため、同期を開始できませんでした:
SQLCODE=sqlcode、
SQLSTATES=sqlstate、トークン=token1、
token2、token3。

説明: サテライト・コントロール・サーバーで、同期を妨げるエラーが発生しました。

ユーザーの処置: もう一度同期を行ってください。 問

題が解決しない場合、ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3963N データベース・エラーのため、結果をアップロードできません:
SQLCODE=*sqlcode*、
SQLSTATES=*sqlstate*、トークン=*token1*、
token2、*token3*。

説明: サテライト・コントロール・サーバーに結果をアップロード中、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3964N サテライトのリリース・レベルがサテライト・コントロール・サーバーにサポートされていないため、同期が失敗しました。

説明: サテライトのリリース・レベルは、サテライト・コントロール・サーバーのレベルの 1 つ上から 2 つ下までの範囲内でなければなりません。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3965N サテライト・コントロール・サーバー障害のため、同期スクリプトをダウンロードできません: **SQLCODE**=*sqlcode*、
SQLSTATES=*sqlstate*、トークン=*token1*、*token2*、*token3*。

説明: サテライトが、サテライトとの同期に必要なスクリプトをダウンロードできません。この障害で可能性のある原因の 1 つは、サテライトの属性を持つパラメーター化されたスクリプトをコントロール・サーバーがインスタンス化できないことです。もう 1 つの原因として、リソース制約のため、サテライト・コントロール・サーバーが一時的に要求を完了できなかったことが考えられます。

ユーザーの処置: 要求を再試行してください。問題が解決しない場合、ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3966N 同期セッションが失敗しました。理由コード *reason-code*

説明: 同期セッションは、以下のいずれかの理由で完了できませんでした。

- (01) 認証情報がない。
- (02) 同期に必要ないくつかのスクリプトがない。
- (03) システム・ファイルがないか、または壊れている。

- (04) システム・エラーのため、スクリプトを実行できなかった。

ユーザーの処置: 要求を再試行してください。問題が解決しない場合、ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3967N 進行情報が見つかりません。

説明: このサテライトの同期セッションの進行を調べることができません。データが壊れているか、または存在しません。

ユーザーの処置: 同期セッションがアクティブで、進行情報がない場合、ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3968N スクリプト障害のため、同期を正常に完了できませんでした。ただし、実行の結果はサテライト・コントロール・サーバーに送られました。

説明: 同期スクリプトの 1 つが、実行中に失敗しました。戻りコードが定義された成功コード・セット内がないか、またはスクリプトの実行に失敗しました。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3969N スクリプト実行中に割り込みを受け取ったため、同期が失敗しました。

説明: 割り込みを受け取ると、スクリプト実行は失敗します。システムが不整合状態にあると思われるため、このタイプの異常終了によって同期セッションは失敗します。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3970N 同期セッションが失敗しました。

SQLCODE *sqlcode*、**SQLSTATE** *sqlstate*。このエラーはロケーション *location* で見つかりました。

説明: 不明なエラーのため、スクリプト実行が失敗しました。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

第 9 章 SQL4000 - SQL4499

SQL4001N *line* 行目の *column* 列目の文字 *character* が無効です。

説明: 指定された文字は、SQL ステートメントでは有効な文字ではありません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 無効な文字を取り除くか、または置き換えてください。

SQL4002N *token-1* と *token-2* は、宣言されていないホスト変数で、どちらも単一の SQL ステートメントの記述子名として使用できません。

説明: 示された ID はホスト変数として宣言されていません。記述子名が使用前に宣言されていません。単一ステートメント内の複数の記述子名が無効なので、少なくともホスト変数の 1 つが無効です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメント内の記述子名または未宣言のホスト変数の使用を修正してください。ステートメントには、他の未宣言のホスト変数が入っている可能性があります。

SQL4003N *line* 行目の SQL ステートメントは、現在のバージョンのプリコンパイラーではサポートされていません。

説明: プリコンパイラーのリリース番号とデータベース・マネージャーのインストールされたバージョンが互換性がありません。指定されたステートメントはデータベース・マネージャーでサポートされていますが、プリコンパイラーでサポートされていません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 現行バージョンのプリコンパイラーを使用して、プリコンパイル処理を繰り返してください。

SQL4004N パッケージ名が無効です。

説明: パッケージ名に、無効な文字が含まれています。名前が長すぎるか、または PACKAGE オプションを持つ名前が指定されていません。

パッケージは作成されません。

ユーザーの処置: 有効なパッケージ名を指定するか、または PACKAGE オプションを指定しないで、コマンド

を再サブミットしてください。

SQL4005N *line* 行目の位置 *position* で、無効なトークン *token* が見つかりました。

説明: SQL ステートメントの構文エラーが、指定されたトークン *token* で見つかりました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメント、特に示されたトークンの周辺を調べてください。構文を修正してください。

SQL4006N 構造のネストが深すぎます。

説明: ネスト構造の数が、最大値 25 を超えています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ネスト構造の数を減らしてください。

SQL4007N ホスト構造 *host-structure* にフィールドがありません。

説明: ホスト構造 *host-structure* 内にはフィールドがありません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ホスト構造にフィールドを追加してください。

SQL4008N 完全修飾であっても、ホスト変数 *name* をユニークに参照できません。

説明: 完全修飾であっても、ホスト変数 *name* が少なくとも 1 つの別の非修飾または部分修飾ホスト変数と一致しません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ホスト変数を名前変更してください。

SQL4009N データ長の式が無効です。

説明: データ長の式に構文エラーがあるか、または複雑すぎます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: サイズ式の構文をチェックしてください。

SQL4010N コンパウンド SQL ステートメントに不

SQL4011N

正なネストがあります。

説明: このエラーは、コンパウンド SQL ステートメントのサブステートメントとして、BEGIN COMPOUND 節が見つかった場合に戻されます。

ユーザーの処置: ネストした BEGIN COMPOUND なしで、ステートメントの再サブミットを行なってください。

SQL4011N コンパウンド SQL ステートメントに、無効な SQL サブステートメントがあります。

説明: このエラーは、コンパウンド SQL ステートメントで、無効なサブステートメントが見つかったときに戻されます。有効なステートメントは、以下のとおりです。

- ALTER TABLE
- COMMENT ON
- CREATE INDEX
- CREATE TABLE
- CREATE VIEW
- 位置付けられた DELETE
- 検索済み DELETE
- DROP
- GRANT
- INSERT
- LOCK TABLE
- REVOKE
- SELECT INTO
- 位置付けられた UPDATE
- 検索済み UPDATE

ユーザーの処置: 無効なサブステートメントなしで、プリコンパイルの再サブミットを行なってください。

sqlcode: -4011

sqlstate: 42910

SQL4012N コンパウンド SQL ステートメントで、COMMIT の使用法が無効です。

説明: このエラーは、COMPOUND SQL ステートメントの COMMIT の後に、サブステートメントが見つかったときに戻されます。

ユーザーの処置: COMMIT サブステートメントを最後のサブステートメントにして、プリコンパイルの再サブミットを行なってください。

SQL4013N 対応する BEGIN COMPOUND ステートメントのない END COMPOUND ステートメントが見つかりました。

説明: このエラーは、先行する BEGIN COMPOUND のない END COMPOUND ステートメントが見つかったときに戻されます。

ユーザーの処置: END COMPOUND を取り除くか、または BEGIN COMPOUND を追加して、プリコンパイルの再サブミットを行なってください。

SQL4014N SQL コンパウンド構文が正しくない。

説明: このエラーは、コンパウンド SQL ステートメントに構文エラーが入っている時に戻されます。可能性のある理由は、以下のとおりです。

- END COMPOUND が脱落しています。
- サブステートメントの 1 つが空です (ゼロ長またはブランク)。

ユーザーの処置: 構文エラーを修正して、プリコンパイルをやり直してください。

SQL4015N プリプロセスでエラーが発生しました。

説明: 外部プリプロセッサが、1 つ以上のエラーで終了しました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 詳細については、対応するソース・ファイルの“.err”ファイルを参照してください。

SQL4016N 指定されたプリプロセッサが見つかりません。

説明: PREPROCESSOR オプションで指定されたプリプロセッサが見つかりません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: プリプロセッサを現在のディレクトリーから実行できることを確認し、PREPROCESSOR オプションの構文もチェックしてください。

SQL4017W プリプロセスが正常に完了しました。

説明: PREPROCESSOR オプションで指定した外部コマンドを使用して、入力ファイルのプリプロセスを正常に完了しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL4018W プリプロセス済みファイル
preprocessed-file の処理を開始していません。

説明: プリコンパイラーは現在、プリプロセス済みファイルを処理しています。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL4019W プリプロセス済みファイル
preprocessed-file の処理を完了しました。

説明: プリコンパイラーが、プリプロセス済みファイルの処理を完了しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL4020N 'long' ホスト変数 *token-1* が無効です。代わりに 'sqlint32' を使用してください。

説明: プリコンパイル・オプション LONGERROR YES が有効か、あるいはプリコンパイル・オプション LONGERROR が指定されておらず、プラットフォームに 8 バイトの 'long' がある場合、INTEGER ホスト変数はデータ・タイプ 'long' ではなく 'sqlint32' で宣言されていなければなりません。

8 バイトの 'long' タイプを持つ 64 ビット・プラットフォームでは、'long' ホスト変数が BIGINT データ・タイプに使用されるよう指定するために LONGERROR NO を使用することができます。移行性を最大にするには、INTEGER および BIGINT データ・タイプには、それぞれ 'sqlint32' と 'sqlint64' を使用するようお勧めします。

ユーザーの処置: ホスト変数の現行のデータ・タイプを、メッセージに指定されたデータ・タイプと置き換えてください。

SQL4100I *sqlflag-type* SQL 言語構文が、標識機能によってチェックされる構文に使用されています。

説明: プリコンパイラー・チェックを渡す SQL ステートメントは、示された構文に対する flagger によるチェックを受けます。構文の逸脱がある場合は、ステートメントに対する警告メッセージが出されます。

処理を続行します。

ユーザーの処置: ありません。これは単なる通知メッセージです。

SQL4102W テキスト *text* で始まるトークンで、SQL 構文の逸脱が起きました。

説明: SQLFLAG プリコンパイラー・オプションに指定された SQL 言語構文から逸脱していることが、flagger によって検出されました。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4103W データ定義ステートメントが CREATE SCHEMA ステートメント内にありません。

説明: FIPS 標準は CREATE SCHEMA ステートメント内に入っているすべてのデータ定義ステートメント (DD ステートメント) が必要です。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4104W 非標準組み込みコメントがあります。

説明: SQL ステートメントの組み込みコメントが、フラグが付けられる標準の必要性に合致していません。このコメントが、少なくとも 2 つの連続したハイフンから始まっていません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4105W SQL 構文の逸脱が発生しました。このステートメントは完了していません。

説明: この SQL ステートメントはすべての必須エレメントが検索される前に終了していました。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4106W ID *identifier* が 19 文字以上あります。

説明: 許可 ID、表 ID、列名、関連名、モジュール名、カーソル名、プロシージャ名、またはパラメーター名の長さが 128 バイトを超えています。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4107W 列 *column* に無効な長さ、精度、または位取り属性があります。

説明: 以下のいずれかの条件に一致していません。

- 長さの値はゼロ以上の必要があります。
- 精度の値はゼロ以上の必要があります。
- 位取りの値は精度の値より大きくなってはいけません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4108W 標識変数に厳密な数以外のデータ・タイプまたは非ゼロの位取りがあります。

説明: 標識変数のデータ・タイプはゼロの位取りを伴う厳密な数である必要があります。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4109W SET FUNCTION SPECIFICATION は列 *column* を参照します。

説明: 以下のいずれかの条件に一致していません。

- DISTINCT SET FUNCTION の COLUMN REFERENCE は、SET FUNCTION SPECIFICATION から派生した列を参照できません。
- ALL SET FUNCTION の VALUE EXPRESSION 内の COLUMN REFERENCES は、SET FUNCTION SPECIFICATION から派生した列を参照できません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4110W *column* が入っている VALUE EXPRESSION は、演算子を含むことはできません。

説明: VALUE EXPRESSION は OUTER REFERENCE COLUMN REFERENCE に演算子を含むことはできません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4111W COLUMN REFERENCE がなくなっているか、ALL 列関数 *function* に対し無効です。

説明: ALL SET FUNCTION SPECIFICATION の VALUE EXPRESSION を COLUMN REFERENCE に組み込む必要があります。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4112W 列 *column* はユニークではなく修飾が必要です。

説明: 指定された列は、現行スコープ内でユニークではありません。修飾は必須列をユニークに識別するために提供されなくてはなりません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4113W VALUE EXPRESSION に SET FUNCTION SPECIFICATION を含めることはできません。

説明: ALL SET FUNCTION の VALUE EXPRESSION に SET FUNCTION SPECIFICATION を含めることはできません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4114W 列 *column* は現行スコープ内の表の列を識別しません。

説明: 以下のいずれかの条件に一致していません。

- 修飾子として使用される表または関連名が存在しません。
- 列名が現行スコープまたは修飾子のスコープ内に存在しません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4115W OUTER REFERENCE 列 *column* を含む列関数は、HAVING 節の副照会にありません。

説明: 列関数は、OUTER REFERENCE COLUMN

REFERENCE が入っている場合、HAVING 節の副照会内に入っていないことはありません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4116W SUM または AVG 関数の結果を文字ストリングにすることはできません。

説明: 文字ストリングは、SET FUNCTION SPECIFICATION の SUM または AVG の結果に対して無効です。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4117W 演算子 operator はこのコンテキスト内では無効です。

説明: 以下のいずれかの条件に一致していません。

- DISTINCT SET FUNCTION が入っている VALUE EXPRESSION は 2 項演算子を含むことはできません。
- 単項演算子に続く最初の文字は、正または負符号であることはできません。
- 1 次が文字ストリング・タイプの場合、VALUE EXPRESSION が演算子を含まないようにしてください。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4118W この exptype EXPRESSION は非互換データ・タイプを比較しています。

説明: 次のデータ・タイプのいずれかが一致していません (exptype によって識別される)。

- exptype = COMPARISON - 比較演算子は一致してはなりません
- exptype = BETWEEN - 3 つの VALUE EXPRESSION が一致してはなりません
- exptype = IN - VALUE EXPRESSION、副照会およびすべての VALUE SPECIFICATION が一致してはなりません
- exptype = QUANTIFIED - VALUE EXPRESSION および副照会が一致してはなりません

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4119W LIKE 述部のオペランドが文字ストリングではありません。

説明: 以下のいずれかの条件に一致していません。

- LIKE 述部の列のデータ・タイプが文字ストリングではありません
- LIKE 述部のパターンのデータ・タイプが文字ストリングではありません

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4120W ESCAPE 文字は 1 バイト文字ストリングでなくてはなりません。

説明: LIKE 述部の ESCAPE 文字は長さ 1 を伴う文字ストリングのデータ・タイプを持っている必要があります。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4121W WHERE 節、GROUP BY 節、または HAVING 節はグループ化されたビュー schema-name.view に対して無効です。

説明: FROM 節の識別された表が GROUP ビューの場合、TABLE EXPRESSION には WHERE 節、GROUP BY 節、または HAVING 節が含まれないようにしてください。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4122W schema-name.name が FROM 節に複数回指定されています。

説明: 以下のいずれかの条件に一致していません。

- 表名は、FROM 節で複数回発生します。
- 相関名は表名または FROM 節の相関名と同一です。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4123W 表参照は、GROUP ビューの FROM 節で 1 回のみ許可されています。

説明: 表名によって識別された表が GROUP ビューの場合、FROM 節は確実に 1 つの表参照が入っていません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4124W 列関数から派生した列 *column* への参照は、WHERE 節内では無効です。

説明: WHERE 節の SEARCH CONDITION に直接入っている VALUE EXPRESSION は、列関数から派生した列への参照を含んではいけません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4125W WHERE 節に列関数がある場合、HAVING 節には WHERE 節が含まれている必要があります。

説明: SEARCH CONDITION に直接入っている VALUE EXPRESSION が列関数の場合、WHERE 節は HAVING 節に入っていないとはなりません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4126W *column* の COLUMN REFERENCE は OUTER REFERENCE でなくてはなりません。

説明: SEARCH CONDITION に直接入っている VALUE EXPRESSION が関数の場合、列関数式内の COLUMN REFERENCE は OUTER REFERENCE でなくてはなりません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4127W 列 *column* は現行スコープ内で重複しています。

説明: 指定された列が現行スコープ内で重複しています。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4128W *column-name* の COLUMN REFERENCE はグループ化中の列または列関数内で指定されている必要があります。

説明: HAVING 節の SEARCH CONDITION 内の副照会に入っている各 COLUMN REFERENCE は、GROUP 化列を参照するか列関数で指定されなくてはなりません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4129W SELECT LIST として * を使用している場合、表 *schema-name.table* の DEGREE は 1 でなければなりません。

説明: TABLE EXPRESSION の DEGREE は、* の SELECT LIST が EXISTS 述部以外で指定されている場合は 1 でなくてはなりません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4130W 列関数は、表 *schema-name.table* で始まる TABLE EXPRESSION に対して有効ではありません。

説明: 以下のいずれかの条件に一致していません。

- TABLE EXPRESSION が GROUP ビューの場合、副照会の SELECT LIST は SET FUNCTION SPECIFICATION を含むことができません。
- TABLE EXPRESSION が GROUP ビューの場合、QUERY SPECIFICATION の SELECT LIST は column function を含むことができません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4131W *column* の COLUMN REFERENCE が無効です。

説明: 以下のいずれかの条件に一致していません。

- GROUP 表の場合、COLUMN REFERENCE は GROUP 列を参照または SET FUNCTION SPECIFICATION 内で指定されなくてはなりません。

- GROUP 表ではなく、かつ SET FUNCTION SPECIFICATION の入った VALUE EXPRESSION の場合、各 COLUMN REFERENCE を SET FUNCTION SPECIFICATION で指定しなくてはなりません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4132W **DISTINCT が 2 回以上指定されています。**

説明: 以下のいずれかの条件に一致していません。

- QUERY SPECIFICATION の副照会を除外するのに、DISTINCT を QUERY SPECIFICATION で複数回指定してはいけません。
- その副照会に入っているほかの副照会を除外するのに、DISTINCT を副照会で複数回指定してはいけません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4133W **COMPARISON PREDICATE 副照会に GROUP BY または HAVING 節を含めることはできません。**

説明: 副照会が COMPARISON PREDICATE で指定される場合、FROM 節の TABLE EXPRESSION が GROUP BY または HAVING 節を含んでいない表名を識別します。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4134W **COMPARISON PREDICATE 副照会は、GROUP ビューを識別できません。**

説明: 副照会が COMPARISON PREDICATE で指定される場合、FROM 節の TABLE EXPRESSION が GROUP ビューを含んでいない表名を識別します。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4135W **AUTHORIZATION IDENTIFIER *authid* が無効です。**

説明: 表名に接頭部として付ける AUTHORIZATION IDENTIFIER が無効です。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4136W **表またはビュー *schema-name.name* はすでに存在しています。**

説明: 指定された表名またはビュー名はすでにこのカタログ内に存在しています。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4137W **COLUMN DEFINITION がありません。**

説明: 少なくとも 1 つは COLUMN DEFINITION が CREATE TABLE に対して指定される必要があります。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4138W **ターゲットのデータ・タイプ *type1* は、ソースのデータ・タイプ *type2* に互換性がありません。**

説明: データ・タイプは一致する必要があります。

- FETCH ステートメントで、ソースおよびターゲット間のデータ・タイプ。
- SELECT ステートメントで、ソースおよびターゲット間のデータ・タイプ。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4139W ***schema-name.table* の VIEW COLUMN LIST を必ず指定してください。**

説明: QUERY SPECIFICATION によって指定された表のほかの 2 つの列が同じ列名を持っている場合、または表の列に命名されていない列がある場合、VIEW COLUMN LIST を指定しなくてはなりません。

処理を続行します。

SQL4140W

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4140W エラーが発生し、**flagger** が停止しました。モジュール名 = *module-name*。内部エラー・コード = *error-code*

説明: **flagger** が内部エラーを検出しました。構文に、**bindfile** または **package** オプションも指定されている場合は、処理は継続されますが、**flagger** の処理は続行できません。その他の場合は、処理が続けられます。

ユーザーの処置: メッセージのこのメッセージ番号 (SQLCODE)、モジュール名、およびエラー・コードを記録してください。技術サービス担当者に連絡し、記録した情報を提供してください。

SQL4141W モジュール *module-name* のメッセージ *message-number* の作成を試行中にエラーが発生しました。

説明: **FLAGGER** は未定義メッセージの作成を試行していました。

処理を続行します。

ユーザーの処置: メッセージのこのメッセージ番号 (SQLCODE)、モジュール名、およびエラー・コードを記録してください。技術サービス担当者に連絡し、記録した情報を提供してください。

SQL4142W **flagger** の操作に十分なメモリーがありません。内部エラー・コード = *error-code*

説明: **flagger** の処理に十分なメモリーがありません。構文に、**bindfile** または **package** オプションも指定されている場合は、処理は継続されますが、**flagger** の処理は続行できません。その他の場合は、処理が続けられます。

ユーザーの処置: システムに十分な実メモリーと仮想メモリーがあることを確認して、不要なバックグラウンド処理を取り除いてください。

SQL4143W **flagger** メモリーの解放時に、エラーが発生しました。内部エラー・コード = *error-code*

説明: **flagger** が、割り振られているメモリーを解放できません。構文に、**bindfile** または **package** オプションも指定されている場合は、処理は継続されますが、**flagger** の処理は続行できません。その他の場合は、処理が続けられます。

ユーザーの処置: **flagger** の機能が必要な場合は、プリコンパイルを再始動してください。

SQL4144W モジュール *module-name* 内で、**FLAGGER** への呼び出しで内部エラーが見つかりました。内部エラー・コード = *error-code*

説明: **FLAGGER** が内部エラーを検出しました。

プリプロセスは続行しますが、**FLAGGER** 操作は中断されます。

ユーザーの処置: メッセージのこのメッセージ番号 (SQLCODE)、モジュール名、およびエラー・コードを記録してください。技術サービス担当者に連絡し、記録した情報を提供してください。

SQL4145W **FLAGGER** からシステム・カタログへのアクセス中のエラー。構文のみをチェックするのにフラグを付けて続行します。
SQLCODE = *nnn* **SQLERRP** = *modname*
SQLERRD1 = *nnn* **Creator** = *creatorname*
表 = *tablename*

説明: システム・カタログに **FLAGGER** がアクセス中に内部エラーがありました。

flagger を使用した構文チェックのみ使用して処理を続行します。

ユーザーの処置: メッセージのこのメッセージ番号 (SQLCODE)、モジュール名、およびエラー・コードを記録してください。技術サービス担当者に連絡し、記録した情報を提供してください。

SQL4146W 内部エラーのためセマンティクス処理が停止しました。モジュール名 = *module-name*。内部エラー・コード = *error-code*

説明: **FLAGGER** はセマンティクス分析ルーチンで重大な内部エラーを検出しました。

flagger を使用した構文チェックのみ使用して処理を続行します。

ユーザーの処置: メッセージのこのメッセージ番号 (SQLCODE)、モジュール名、およびエラー・コードを記録してください。技術サービス担当者に連絡し、記録した情報を提供してください。

SQL4147W **flagger** のバージョン番号が無効です。

説明: 無効な **flagger** のバージョン番号が、プリコンパイラー・サービス **COMPILE SQL STATEMENT API** に渡されました。構文に、**bindfile** または **package** オプションも指定されている場合は、処理は継続されますが、

flagger の処理は続行できません。その他の場合は、処理が続けられます。

ユーザーの処置: 有効な flagger のバージョン番号を指定してください。「コマンド・リファレンス」を参照してください。

SQL4170W 列 *column* を NOT NULL として必ず宣言してください。

説明: UNIQUE として識別された列は、NOT NULL オプションを使用して定義されなくてはなりません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4171W ビュー表 *schema-name.table* は、更新可能である必要があります。

説明: WITH CHECK OPTION 節が指定されている場合、ビュー表は更新可能でなければなりません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4172W 列名の数が無効です。

説明: VIEW COLUMN LIST の列名の数は、QUERY SPECIFICATION で指定された表の DEGREE と同じものである必要があります。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4173W 使用する前にカーソル *cursor* を宣言しなくてはなりません。

説明: 指定されたこのカーソルは、DECLARE CURSOR ステートメントで宣言されていません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4174W カーソル *cursor* はすでに宣言されています。

説明: 指定されたカーソルは、DECLARE CURSOR ステートメント内ですでに宣言されています。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4175W * または列名のみが、このコンテキストで有効です。

説明: UNION を指定する場合、QUERY EXPRESSION および QUERY TERM で識別された 2 つの TABLE EXPRESSION の使用に対する SELECT LIST は、* または COLUMN REFERENCE を構成する必要があります。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4176W *schema-name1.table1* で始まる QUERY EXPRESSION と *schema-name2.table2* で始まる QUERY TERM で識別される表の記述は、同一である必要があります。

説明: UNION を指定する場合、2 つの表の記述は列名以外、同一である必要があります。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4177W SORT SPECIFICATION *number* はカーソル *cursor* の DEGREE 外にあります。

説明: SORT SPECIFICATION が無符号の整数を含んでいる場合、0 より大きく、および表の列数より大きくなくてはなりません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4178W 表 *schema-name.table* は読み取り専用の表です。

説明: DELETE、INSERT、または UPDATE は読み取り専用の表で指定されました。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4179W 表 *schema-name.table* は SEARCH CONDITION に含まれるほかの副照会の FROM 節で、識別される必要はありません。

SQL4180W

説明: DELETE または UPDATE で指定される表を、SEARCH CONDITION に含まれている副照会の節内で使用できません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4180W 表 *schema-name1.table1* は **DECLARE CURSOR** で指定された最初の表 *schema-name2.table2* ではありません。

説明: DELETE または UPDATE ステートメントで指定された表は、DECLARE CURSOR ステートメントの FROM 節で指定された最初の表である必要があります。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4181W **TARGET SPECIFICATION** 数は、カーソル *cursor* の **DEGREE** と一致しません。

説明: FETCH ステートメントの **TARGET SPECIFICATION** 数が、指定された表の **DEGREE** と一致しません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4182W **INSERT** ステートメントのターゲット表 *schema-name.table* は、**FROM** 節または副照会内にもあります。

説明: 命名された表は **QUERY SPECIFICATION** または **QUERY SPECIFICATION** に含まれるほかの副照会の **FROM** 節で識別することはできません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4183W 指定された列数が、指定された値の数と一致していません。

説明: **INSERT** ステートメントで、指定された列数が指定された値数と一致しません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4184W 指定された列数が、表 *schema-name.table* で始まる **QUERY SPECIFICATION** の **DEGREE** と一致しません。

説明: **INSERT** ステートメントで、指定された列数が **QUERY SPECIFICATION** で指定された表の **DEGREE** と一致しません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4185W データ・タイプまたは長さの不一致が列 *column* と **INSERT** または **UPDATE** 項目の間にあります。

説明: 以下のいずれかの条件に一致していません。

- 列名のデータ・タイプが文字ストリングの場合、**INSERT** または **UPDATE** ステートメントの対応する項目は、列名の長さと同様またはそれ以下の文字ストリングである必要があります。
- 列名のデータ・タイプが絶対数の場合、**INSERT** または **UPDATE** ステートメントの対応する項目は、絶対数である必要があります。
- 列名のデータ・タイプが近似数の場合、**INSERT** または **UPDATE** ステートメントの対応する項目は、近似数である必要があります。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4186W このコンテキストでは、**GROUP BY** または **HAVING** 節を使用したり、グループ化したビューを識別したりできません。

説明: **SELECT** ステートメントの **TABLE EXPRESSION** の **FROM** 節で指定された表は、**GROUP BY** または **HAVING** 節を含む必要はなく、**GROUP** ビューを識別する必要もありません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4187W **SELECT LIST** で指定されたエレメント数は、**SELECT TARGET LIST** の数値と一致する必要があります。

説明: **SELECT LIST** ステートメントで、**SELECT LIST** で指定されたエレメント数は、**SELECT TARGET**

LIST のエレメントの数と一致していなければなりません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4188W 列関数は、UPDATE ステートメントの SET 節で許可されていません。

説明: UPDATE ステートメントの SET 節内 VALUE EXPRESSION は、列関数を含む必要はありません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4189W NOT NULL 列 *column* に対して NULL を指定できません。

説明: NULL が UPDATE ステートメントの SET 節内で指定されている場合、対応する列が null 値を許可します。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4190W 認識されないデータ・タイプのホスト変数が参照されています。ホスト変数位置は *position* です。

説明: 位置 *position* のホスト変数参照は、標準で認識されないデータ・タイプです。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4191W 列 *column-name* のデータ・タイプが認識されていません。

説明: 列のデータ・タイプは標準で認識されません。

処理を続行します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4192W 表 *schema-name.table* はカタログ内で検索されません。

説明: 命名された表またはビューは、システム・カタログ内に存在していません。

SQL4300N このプラットフォームには Java サポートがインストールされていないか、または正しく構成されていません。

説明: Java ストアード・プロシージャおよびユーザー定義関数に対するサポートはこのサーバー上にインストールも構成もされていません。

ユーザーの処置: サーバー用互換 Java Runtime Environment あるいは Java Development Kit がインストールされています。"JDK_PATH" 構成パラメーターが正しく設定されているかどうかを確認してください。

sqlcode: -4300

sqlstate: 42724

SQL4301N Java または .NET インタープリターの始動あるいは通信ができません。理由コード *reason-code*。

説明: Java インタープリターを開始、停止または通信を試行中に、エラーが発生しました。理由コードには、以下のものがあります。

- 1 Java 環境変数あるいは Java データベース構成パラメーターが無効です。
- 2 Java インタープリターに対する Java ネイティブ・インターフェースの呼び出しは失敗しました。
- 3 "db2java.zip" ファイルが壊れているか欠落しています。
- 4 Java インタープリターは自身を終了し、再始動できません。
- 5 従属 .NET ライブラリーをロードできませんでした。
- 6 .NET インタープリターの呼び出しが失敗しました。

ユーザーの処置: Java の場合、Java データベース構成パラメーター (*jdk_path* および *java_heap_sz*) が正しく設定されているかどうかを確認してください。サポートされる Java Runtime Environment がインストールされていることを確認してください。内部 DB2 クラス (COM.ibm.db2) がユーザー・クラスでオーバーライドされないことを確認してください。

.NET の場合、.NET プロシージャまたは関数を実行できるよう、DB2 インスタンスが正しく構成されていることを確認してください (システム PATH に *mscore.dll* がなければなりません)。*sqllib/bin* ディレクトリーに *db2clr.dll* が存在していること、およびグローバル・アセンブリー・キャッシュに *IBM.Data.DB2* がインストールされていることを確認してください。

SQL4302N

sqlcode: -4301

sqlstate: 58004

SQL4302N プロシージャまたはユーザー定義関数 *name*、特定名 *spec-name* が打ち切られました。例外 *string*。

説明: プロシージャあるいはユーザー定義関数が異常終了し、例外が送出されました。管理通知ログに、異常終了したルーチンのスタックのトレースバックが含まれています。

ユーザーの処置: ルーチンをデバッグして例外を除去してください。

sqlcode: -4302

sqlstate: 38501

SQL4303N Java ストアード・プロシージャあるいはユーザー定義関数 *name*、特定名 *spec-name* が外部名 *string* から認識できません。

説明: このストアード・プロシージャあるいはユーザー定義関数を宣言した CREATE PROCEDURE あるいは CREATE FUNCTION ステートメントには、誤った形式の EXTERNAL NAME 節があります。外部名は次のように形式化される必要があります:

"package.subpackage.class!method"

ユーザーの処置: CREATE PROCEDURE あるいは CREATE FUNCTION を訂正して再実行してください。

sqlcode: -4303

sqlstate: 42724

SQL4304N Java ストアード・プロシージャまたはユーザー定義関数 *name*、特定名 *spec-name* は、Java クラス *class* をロードできませんでした。理由コード *reason-code*。

説明: CREATE PROCEDURE あるいは CREATE FUNCTION ステートメントの EXTERNAL NAME 節で与えられた Java クラスをロードできません。理由コードには、以下のものがあります。

- 1 クラスが CLASSPATH で見つからない。
- 2 クラスが必須インターフェース ("COM.ibm.db2.app.StoredProc"または "COM.ibm.db2.app.UDF") を実行しなかったか、あるいは Java "public" アクセス・フラグが欠落している。

- 3 デフォルトのコンストラクターが失敗したかあるいは使用できない。

- 4 "jdbc:default:connection"のドライバーをロードできなかった。

- 5 デフォルト・コンテキストを設定できなかった。

ユーザーの処置: コンパイルした ".class" ファイルが CLASSPATH たとえば "sqllib/function" の下にインストールされているか確認してください。必要な Java インターフェースを実行していて "public" であることを確認してください。

sqlcode: -4304

sqlstate: 42724

SQL4306N Java ストアード・プロシージャまたはユーザー定義関数 *name*、特定名 *spec-name* が、Java メソッド *method*、シグニチャー *string* を呼び出せませんでした。

説明: CREATE PROCEDURE あるいは CREATE FUNCTION ステートメントの EXTERNAL NAME 節で与えられた Java メソッドが見つかりません。宣言された引数リストがデータベースの予想するものと一致しないか、あるいは "public" インスタンス・メソッドでない可能性があります。

ユーザーの処置: Java インスタンス・メソッドが "public" フラグとこの呼び出しの引数リストを指定していることを確認してください。

sqlcode: -4306

sqlstate: 42724

SQL4400N *authorization-ID* には、DB2 Administration Server で管理タスクを実行する許可がありません。

説明: ユーザーは、DB2 Administration Server で試行された管理アクションを実行するのに必要な権限を持っていません。

ユーザーの処置: DASADM 権限を持つユーザー ID を使って、DB2 Administration Server への要求をサブミットしてください。DB2 Administration Server に対して管理アクションを行うためには、DASADM 権限が必要です。DASADM グループは、DB2 Administration Server の構成パラメーターです。GET ADMIN CONFIGURATION コマンドを使って DB2 Administration Server の構成パラメーターを表示して、DASADM の現在の設定を確認してください。構成パラメーターの値を変更するには、UPDATE ADMIN

CONFIGURATION コマンドを使用します。

SQL4401C DB2 Administration Server が起動中にエラーを検出しました。

説明: DB2 Administration Server の起動中にエラーが検出されました。

ユーザーの処置: 追加情報については DB2 Administration Server の First Failure Data Capture Log を参照してください。DB2 Administration Server を再始動するには必要に応じて該当するアクションをとってください。

問題が続く場合、技術サービス担当者に連絡してください。

SQL4402W DB2ADMIN コマンドは成功しました。

説明: すべての処理が正常に完了しました。

ユーザーの処置: これ以上のアクションは不要です。

SQL4403N コマンドの構文が無効です。

説明: コマンドは無効な引数または無効な数のパラメーターを使用して入力されました。

ユーザーの処置: 有効な引数でコマンドを再サブミットしてください。

SQL4404N DB2 Administration Server が存在しません。

説明: DB2 Administration Server がこのマシンで見つかりませんでした。

ユーザーの処置: マシン上に DB2 Administration Server を作成してください。

- Windows オペレーティング・システムでは、次のコマンドを使用します。

```
db2admin create
```

- UNIX プラットフォームでは、ルート権限を持っていることを確認し、DB2DIR/instance ディレクトリー (DB2DIR は DB2 のインストール・パス) から次のコマンドを発行します。 <ASName> は Administration Server の名前です。

```
dascrt <ASName>
```

SQL4405W DB2 Administration Server はすでに存在します。

説明: DB2 Administration Server がすでにこのマシンに存在しています。

ユーザーの処置: これ以上のアクションは不要です。

SQL4406W DB2 Administration Server を正常に開始しました。

説明: すべての処理が正常に完了しました。

ユーザーの処置: これ以上のアクションは不要です。

SQL4407W DB2 Administration Server を正常に停止しました。

説明: すべての処理が正常に完了しました。

ユーザーの処置: これ以上のアクションは不要です。

SQL4408N DB2 Administration Server はアクティブであるためドロップされませんでした。

説明: DB2 Administration Server をドロップするには、その前に停止する必要があります。

ユーザーの処置: DB2 Administration Server を停止するには、次のコマンドを入力してください。

```
DB2ADMIN STOP
```

SQL4409W DB2 Administration Server はすでにアクティブです。

説明: DB2ADMIN START コマンドは DB2 Administration Server がすでにアクティブのため処理されません。

ユーザーの処置: これ以上のアクションは不要です。

SQL4410W DB2 Administration Server はアクティブになっていません。

説明: DB2ADMIN STOP コマンドは DB2 Administration Server がアクティブになっていないため、処理されません。

ユーザーの処置: これ以上のアクションは不要です。

SQL4411N サーバー・インスタンスが DB2 Administration Server でないため、要求された操作は許可されません。

説明: 要求された操作は、DB2 Administration Server に対して発行されたときのみ有効です。

ユーザーの処置: DB2 Administration Server は DB2ADMIN コマンドを使用してセットアップします。

SQL4412N DB2 Administration Server に対するログオン・ユーザー・アカウントが無効です。

説明: 要求されたタスクを実行するためには、DB2 Administration Server が有効なログオン・ユーザー・ア

SQL4413W • SQL4414N

カウントで実行されている必要があります。このエラーの発生原因は、アカウントがセットアップされていないか、またはログオン・ユーザー・アカウントに有効な DB2 ユーザー ID が入っていないかのいずれかです。

ユーザーの処置: ログオン・ユーザー・アカウントがセットアップされている場合は、そのアカウントが有効な DB2 ユーザー ID を使用していることを確認してください。

以下のコマンドを使用して DB2 Administration Server のログオン・ユーザー・アカウントをセットアップすることができます。

```
DB2ADMIN SETID <userid>
                <password>
```

SQL4413W 使用法: DB2ADMIN が DB2 Administration Server の作成、ドロップ、開始、あるいは停止を行います。

説明: DB2ADMIN コマンドの構文は、以下のとおりです。

```
DB2ADMIN CREATE [
                /USER:<username>
                /PASSWORD:<password>
                ]
DROP
START
STOP [/FORCE]
SETID <username>
      <password>
SETSCHEDID <username> <password>
/h
```

コマンド・オプションは以下のとおりです。

CREATE

DB2 Administration Server を作成する

DROP DB2 Administration Server を削除する

START DB2 Administration Server を開始する

STOP DB2 Administration Server を停止する

SETID DB2 Administration Server に対するログオン・アカウントを設定する

SETSCHEDID

スケジューラーがツール・カタログ・データベースへの接続に使用するログオン・アカウントを設定する。スケジューラーが使用可能になっており、さらにツール・カタログ・データベースが DB2 Administration Server に対してリモートである場合にのみ必要です。

/USER DB2ADMIN CREATE 中のログオン・アカウント名を指定する

/PASSWORD

DB2ADMIN CREATE 中のログオン・アカウント・パスワードを指定する

/FORCE

要求に応答中かどうかに関係なく、DB2ADMIN STOP 中に DB2 Administration Server を停止する

/h 使用情報を表示する

ユーザーの処置: 上記の有効なコマンド・オプションのいずれかを指定して DB2ADMIN コマンドを発行してください。

SQL4414N DB2 Administration Server はアクティブになっていません。

説明: DB2 Administration Server がアクティブでない場合、要求は処理されません。

ユーザーの処置: DB2 Administration Server を、コマンド DB2ADMIN START を発行して開始し、要求を再発行してください。

第 10 章 SQL4500 - SQL4999

SQL4701N データ・パーティションの最大数
(*max-number*) を超えました。

説明: データ・パーティションの最大数を超えようとして
ました。

ユーザーの処置: EVERY 節を使用した CREATE
TABLE ステートメントでエラーが発生した場合、イン
ターバルの長さが十分ではありませんでした。より長い
インターバルを指定して、必要なデータ・パーティシ
ョンの数を減らしてください。

EVERY 節を使用しない CREATE TABLE ステート
メントでエラーが発生した場合、リストされたデータ・パ
ーティションの数が多すぎました。指定するデータ・パ
ーティションの数を減らしてください。

ALTER TABLE ... ATTACH PARTITION または
ALTER TABLE ... ADD PARTITION ステートメントで
エラーが発生した場合、表は許可される最大数のデー
タ・パーティションをすでに持っています。追加デー
タ・パーティションを追加または接続するには、デー
タ・パーティションをデタッチする必要があります。

sqlcode: -4701

sqlstate: 54054

SQL4702N アプリケーション・ハンドル
application-handle、作業単位 ID
unit-of-work-id、およびアクティビティ
ID *activity-id* で識別されるアクティビテ
ィーが存在しません。

説明: アプリケーション・ハンドル、作業単位 ID、お
よびアクティビティ ID で識別されるアクティビテ
ィーに対して操作を実行しようとしてしました。そうしたアク
ティビティは現在、このデータベース内に存在しまし
ません。

ユーザーの処置: アプリケーション・ハンドル、作業単
位 ID、およびアクティビティ ID に指定された引数
が、目的としたアクティビティの引数と一致するこ
とを確認してください。アクティビティがシステムを、
アクティビティに対して操作を実行できる前の状態に
している可能性があることに注意してください。

sqlcode: -4702

sqlstate: 5U035

SQL4703N アプリケーション・ハンドル
application-handle、作業単位 ID
unit-of-work-id、およびアクティビティ
ID *activity-id* で識別されるアクティビテ
ィーをキャンセルできません。理由コード
= *reason-code*。

説明: 識別されたアクティビティの状態またはアクテ
ィビティのタイプのため、現時点でそのアクティビ
ティをキャンセルできません。

ユーザーの処置: 理由コードは状態および取るべき特定
のアクションを示しています。

- 1 アクティビティは初期化状態です。初期化が
完了してから、アクティビティをキャンセル
できます。
- 2 アクティビティのタイプがサポートされるア
クティビティ・タイプではないため、アク
ティビティをキャンセルできません。このア
クティビティが引き続きこのシステムで実行し
たりキューに入れられたりするのを停止するに
は、FORCE APPLICATION コマンドを使用し
て、このアクティビティを実行したアプリケ
ーションを強制的に停止させることができま
す。

sqlcode: -4703

sqlstate: 5U016

SQL4704N データベースまたはサービス・スーパーク
ラス *db-or-ssc-name* で定義できるワー
ク・アクション・セットは 1 つだけ
です。

説明: 指定したデータベースまたはサービス・スーパ
ークラス *db-or-ssc-name* に対して既にワーク・アクシ
ョン・セットが定義されています。指定時刻にデータベ
ースまたはサービス・スーパークラスに対して定義できる
ワーク・アクション・セットは 1 つだけです。

ユーザーの処置: 異なるデータベースまたはサービス・
スーパークラスを指定するか、またはそのデータベ
ースまたはサービス・スーパークラスに現在定義されて
いるワーク・アクション・セットをドロップして、要
求を再試行してください。

sqlcode: -4704

SQL4705N

sqlstate: 5U017

SQL4705N マッピング・ワーク・アクションで指定されたサービス・サブクラス *work-action-name* をデフォルトのサービス・サブクラスにすることはできません。

説明: アクティビティをマップするワーク・アクションを定義する場合、デフォルトのサービス・サブクラスを指定することはできません。

ユーザーの処置: デフォルトのサービス・サブクラスではない異なるサービス・サブクラスを指定し、要求を再試行してください。

sqlcode: -4705

sqlstate: 5U018

SQL4706N 作業クラス *work-class-name* に指定された範囲が無効です。

説明: FROM パラメーターまたは TO パラメーターのいずれかに対して指定された値が無効です。FROM 値はゼロまたは正の倍精度値でなければならず、TO 値は正の倍精度値または UNBOUNDED (上限を指定しない場合) でなければなりません。TO 値が UNBOUNDED でない場合、その値は FROM 値以上でなければなりません。

ユーザーの処置: FROM 値と TO 値の両方に対して有効な値を指定し、要求を再試行してください。

sqlcode: -4706

sqlstate: 5U019

SQL4707N *workload-name* という名前のワークロードは、データベースへのアクセスが許可されていないため、要求にサービス提供できません。

説明: 示されたワークロードは、DISALLOW DB ACCESS オプションを使用して定義または変更されました。結果として、このワークロードに関連付けられた接続には、データベースへのアクセスが許可されません。

ユーザーの処置: 示されたワークロードに関連付けられた接続にはこのデータベースへのアクセスを許可すべきでない場合、示されたワークロードにこの接続を関連付ける意図があったことを確認します。この接続は別のワークロードに関連付けるつもりであった場合には、以下の点を検証してください。

1. 意図していたワークロードのワークロード属性が接続属性と一致する。
2. 意図していたワークロードが使用可能である。

3. 意図していたワークロードの評価順序が、示されたワークロードの評価順序より早い。

示されたワークロードに関連付けられた接続にこのデータベースへのアクセスを許可すべきである場合、ALTER WORKLOAD ステートメントに ALLOW DB ACCESS オプションを指定して使用することにより、示されたワークロードを変更します。

sqlcode: -4707

sqlstate: 5U020

SQL4708N 現在この作業単位で許可されているのは COMMIT または ROLLBACK ステートメントだけです。

説明: 以下のステートメントのいずれかが発行されているため、その他の SQL ステートメントを発行する前にそのステートメントをコミットまたはロールバックする必要があります。

- CREATE SERVICE CLASS、ALTER SERVICE CLASS、または DROP (SERVICE CLASS)
- CREATE THRESHOLD、ALTER THRESHOLD、または DROP (THRESHOLD)
- CREATE TRUSTED CONTEXT、ALTER TRUSTED CONTEXT、または DROP (TRUSTED CONTEXT)
- CREATE WORK ACTION SET、ALTER WORK ACTION SET、または DROP (WORK ACTION SET)
- CREATE WORK CLASS SET、ALTER WORK CLASS SET、または DROP (WORK CLASS SET)
- CREATE WORKLOAD、ALTER WORKLOAD、または DROP (WORKLOAD)
- GRANT (ワークロード特権) または REVOKE (ワークロード特権)
- CREATE AUDIT POLICY、ALTER AUDIT POLICY、または DROP (AUDIT POLICY)

作業単位の始めに実行されたワークロード割り当てが失敗しました。現在の作業単位が終了するまで、以降の要求を処理できません。

ユーザーの処置: 別のステートメントを発行する前に COMMIT または ROLLBACK します。

sqlcode: -4708

sqlstate: 5U021

SQL4709N 最後の接続属性をワークロード
workload-name 接続の定義からドロップで
 きません。

説明: ALTER WORKLOAD ステートメントの結果、ワークロード *workload-name* から最後の接続属性がドロップされます。この操作は許可されていません。ワークロードの定義で指定された接続属性が少なくとも 1 つ必要です。

ユーザーの処置: ALTER WORKLOAD ステートメントにより、ワークロードの定義内に少なくとも 1 つの接続属性が残ることを確認してください。

sqlcode: -4709

sqlstate: 5U022

SQL4710N ワークロードが無効になっていないか、ワークロードにアクティブなワークロード・オカレンスが含まれているか、あるいはしきい値またはワーク・アクション・セットがワークロードに関連付けられているため、ワークロード *workload-name* をドロップできません。

説明: ワークロード *workload-name* のドロップを試行しましたが、以下のいずれかの理由で失敗しました。

- ワークロードが無効になっていない。
- ワークロードにアクティブなワークロード・オカレンスが含まれている。
- しきい値がワークロードに関連付けられている。
- ワーク・アクション・セットがワークロードに関連付けられている。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを実行します。

- ワークロードがまだ無効になっていない場合、ALTER WORKLOAD ステートメントを発行してワークロードを無効にし、新しいワークロード・オカレンスがアクティブにならないようにします。
- システムで実行中のアクティブなワークロード・オカレンスがなくなるまで待機し、DROP ステートメントを発行してワークロードをドロップします。
- しきい値がワークロードに関連付けられている場合、DROP THRESHOLD ステートメントを発行して、関連付けられているしきい値をドロップします。
- ワーク・アクション・セットがワークロードに関連付けられている場合、DROP WORK ACTION SET ステートメントを発行して、関連付けられているワーク・アクション・セットをドロップします。

sqlcode: -4710

sqlstate: 5U023

SQL4711N しきい値 *threshold-name* をドロップできません。このしきい値は無効になっておらず、しきい値キューは空ではありません。あるいは、しきい値の制御下でアクティビティが実行中です。

説明: しきい値 *threshold-name* をドロップしようとして失敗しました。このしきい値は無効になっておらず、しきい値キューは空ではありません。あるいは、しきい値の制御下でアクティビティが実行中です。

ユーザーの処置: しきい値が無効になっていない場合はそれを無効にしてください。しきい値がワーク・アクション・セットの一部である場合、ALTER WORK ACTION SET ステートメントを使用してそれを無効にする必要があります。しきい値がワーク・アクション・セットの一部でない場合、ALTER THRESHOLD ステートメントを使用してそれを無効にします。しきい値を無効にすると、しきい値の制御下で新しい要求を実行することはできません。キューイングしきい値の並行性の制限に達した場合、DISABLE アクションによって新しい要求とキューを結合できなくなります。現在実行中の要求が完了するか、あるいはキューに要求が存在しなくなるまで待機し、DROP THRESHOLD ステートメントを再度発行してください。

sqlcode: -4711

sqlstate: 5U025

SQL4712N しきい値 *threshold-name* を超えました。
 理由コード = *reason-code*。

説明: 以下の理由でしきい値を超えたため、アクティビティまたは要求が停止されました。

1

オーバーフロー・エージェントをキューに入れることができません。アクティビティはオーバーフロー・エージェントを使用しており、コーディネーター接続の数を超えたか、あるいはデータベース・コーディネーター・アクティビティの数を超えています (エージェントの最大数を決定する、データベース・マネージャー構成パラメーター *max_agents* で設定される条件)。

2

データベース・パーティションごとの接続の最大数に達しました (TOTALMEMBERCONNECTIONS 条件)。

3

- 特定のサービス・スーパークラスのデータベース・パーティションごとの接続およびキューに入れられた接続の最大数に達しました (QUEUEDCONNECTIONS または TOTALSCMEMBERCONNECTIONS 条件)。
- 4 データベース・パーティションごとのワークロード・オカレンスの最大数に達しました (CONCURRENTWORKLOADOCCURRENCES 条件)。
- 5 データベース・パーティションごとのワークロード・アクティビティの最大数に達しました (CONCURRENTWORKLOADACTIVITIES 条件)。
- 6 ドメイン内の指定された施行範囲で、データベース・コーディネーター・アクティビティおよびキューに入れられたデータベース・コーディネーター・アクティビティの最大数に達しました (CONCURRENTDBCOORDACTIVITIES または QUEUEDACTIVITIES 条件)。DB2 pureCluster 環境の場合、施行範囲はメンバー・レベルです (MEMBER 施行範囲)。DB2 pureCluster 環境以外の環境では、施行範囲はデータベース・レベルです (DATABASE 施行範囲)。
- 7 しきい値で許可されている、アクティビティの見積コストを超えています (ESTIMATEDSQLCOST 条件)。
- 8 しきい値で許可されている、アクティビティに戻された行数を超えています (SQLROWSRETURNED 条件)。
- 9 しきい値で許可されている、アクティビティの最大合計時間を超えています (ACTIVITYTOTALTIME 条件)。
- 10 アクティビティについて要求されている一時システム・スペースの量が、しきい値で許可されている量を超えています (SQLTEMPSPACE 条件)。
- 11 存続期間中にアクティビティによって読み取られた行数が、しきい値で許可されている数を超えました (SQLROWSREAD 条件)。
- 12 現在のサービス・サブクラスでの実行中にアクティビティによって読み取られた行数が、しきい値で許可されている数を超えました (SQLROWSREADINSC 条件)。
- 13 存続期間中にアクティビティによって使用された CPU 時間が、しきい値で許可されている量を超えました (CPUTIME 条件)。
- 14 現在のサービス・サブクラスでの実行中にアクティビティによって使用された CPU 時間が、しきい値で許可されている量を超えました (CPUTIMEINSC 条件)。
- 15 サービス・サブクラスに関して要求された一時システム・スペースの総量が、しきい値で許可されている量を超えています (AGGSQLTEMPSPACE 条件)。
- 16 作業単位によって使用された時間が、しきい値によって許可されている量を超えました (UOWTOTALTIME 条件)。
- 17 アクティビティによって参照される表のデータ・タグは、しきい値 (DATATAGINSC IN 条件) で指定されたデータ・タグのリストにあります。
- 18 アクティビティによって参照される表のデータ・タグは、しきい値 (DATATAGINSC NOT IN 条件) で指定されたデータ・タグのリストにあります。
- ユーザーの処置:** 理由コードに応じて、以下のいずれかのアクションを実行してください:
- 理由コード 1 の場合、データベース・マネージャー構成パラメーター `max_agents` の値を増やします。
 - その他の理由コードの場合、問題が発生したしきい値条件の値を増やします。あるいは、アクティビティが並行性しきい値に違反した場合は、システム上で実行されるアクティビティの数がより少ない別の時間にアクティビティを実行してください。

sqlcode: -4712

sqlstate: 5U026

SQL4713N データベースまたはサービス・スーパークラスで、サービス・クラスの最大数を超えました。サービス・クラス *service-class-name* を作成できません。

説明: データベースまたはサービス・スーパークラス用に作成できるサービス・クラスの最大数を超えたため、サービス・クラス *service-class-name* を作成できません。サービス・クラス *service-class-name* がサービス・スーパークラスである場合、データベースごとに作成可能なユーザー定義のサービス・スーパークラスの制限である 64 個を超過します。サービス・クラス *service-class-name* がサービス・サブクラスである場合、サービス・スーパークラスごとに作成可能なユーザー定義のサービス・サブクラスの制限である 61 個を超過します。

ユーザーの処置: 既存のサービス・クラスを調べて、既存のサービス・クラスをマージあるいはドロップして新規のサービス・クラスのためのスペースを作成できるかどうか確認してください。

sqlcode: -4713

sqlstate: 5U027

SQL4714N サービス・クラス *service-class-name* が無効であるため、この要求を完了できません。

説明: 無効になったサービス・クラスに要求がマップまたは再マップされているため、要求を完了できません。サービス・クラス *service-class-name* は現在無効になっているため、新しい要求を受け入れたり、既に実行中の要求を完了したりすることができません。

ユーザーの処置: サービス・クラスが無効ではなくなったかどうかを確認するには、データベース管理者に連絡してください。その時点で要求を再試行してください。データベース管理者は ALTER SERVICE CLASS を使用してサービス・クラスを有効にすることができます。

sqlcode: -4714

sqlstate: 5U028

SQL4715N デフォルトのサービス・クラスの下にサービス・サブクラスを作成できません。

説明: デフォルトのユーザー・クラス、デフォルトのシステム・クラスまたはデフォルトの保守クラスの下にサービス・サブクラスを作成することは許可されていません。

ユーザーの処置: ユーザー定義サービス・スーパークラスの下にサービス・サブクラスを作成してください。

sqlcode: -4715

sqlstate: 5U029

SQL4716N 外部ワークロード・マネージャーとの通信中にエラーが発生しました。

説明: データベース・マネージャーは外部ワークロード・マネージャーとの通信に失敗しました。以下が原因で、エラーが発生したと考えられます。

- 外部ワークロード・マネージャーがインストールされていない
- 外部ワークロード・マネージャーがインストールされているが、アクティブになっていない

ユーザーの処置: インスタンスが AIX で実行されている場合、AIX WLM がインストールされており、アクティブになっていることを確認してください。インスタンスが Linux で実行されている場合、Linux WLM がインストール済みで、アクティブになっていることを確認してください。

sqlcode: -4716

sqlstate: 5U030

SQL4717N サービス・クラスにサブクラス、関連したワークロード、ワーク・アクション・セット、ワーク・アクション、接続、アクティビティ、またはしきい値が含まれているか、あるいはサービス・クラスが無効になっていないか、またはデフォルトのサービス・クラスであるため、サービス・クラス *service-class-name* をドロップできません。理由コード = *reason-code*。

説明: 1 つ以上の条件を満たしていないため、DROP SERVICE CLASS は失敗しました。理由コードは以下のとおりです。

1

ユーザー定義のサービス・サブクラスが含まれている場合、サービス・スーパークラスをドロップすることはできません。サービス・スーパークラスの下すべてのユーザー定義のサービス・サブクラスをドロップしてから、DROP ステートメントを再発行してください。

2

ワークロード関連が含まれている場合、サービス・クラスをドロップすることはできません。ワークロード関連を除去してから、DROP ステートメントを再発行してください。

ートメントを再発行してください。サービス・クラスに関連したワークロードを判別するには、SYSCAT.WORKLOADS を参照してください。

3

ワーク・アクション・セット関連が含まれている場合、サービス・クラスをドロップすることはできません。ワーク・アクション・セット関連を除去してから、DROP ステートメントを再発行してください。サービス・クラスに関連したワーク・アクション・セットを判別するには、SYSCAT.WORKACTIONSETS を参照してください。

4

ワーク・アクション関連が含まれている場合、サービス・クラスをドロップすることはできません。ワーク・アクション関連を除去してから、DROP ステートメントを再発行してください。サービス・クラスに関連したワーク・アクションを判別するには、SYSCAT.WORKACTIONS を参照してください。

5

サービス・クラスに関連した接続、ワークロード・オカレンス、またはアクティビティーがいずれかのパーティション上に存在する場合、そのサービス・クラスをドロップすることはできません。接続、ワークロード・オカレンス、またはアクティビティーが完了するまで待機するか、FORCE APPLICATION コマンドを使ってユーザーまたはアプリケーションをサービス・クラスから強制的に切断するか、あるいはサービス・クラスのアクティビティーをキャンセルしてください。

6

サービス・クラスに関連したしきい値が含まれている場合、そのサービス・クラスをドロップすることはできません。サービス・クラスに関連したすべてのしきい値をドロップしてから、DROP ステートメントを再発行してください。サービス・クラスに関連したしきい値を判別するには、SYSCAT.THRESHOLDS を参照してください。

7

サービス・クラスが無効になっていません。ALTER SERVICE CLASS ステートメントを使用してサービス・クラスを無効にしてください。

8

サービス・クラスがデフォルトのサービス・クラスになっています。ユーザー定義のサービス・クラスを指定してください。

9

サービス・クラスがしきい値 REMAP ACTIVITY アクションのターゲットである間は、そのサービス・クラスをドロップすることはできません。しきい値をドロップするか、同じサービス・スーパークラスの下にある別のサービス・サブクラスをターゲットとするよう REMAP ACTIVITY アクションを変更します。その後、DROP ステートメントを再発行します。このサービス・クラスをターゲットとする REMAP ACTIVITY アクションを指定するしきい値を判別するには、SYSCAT.THRESHOLDS カタログ・ビューを参照してください。

ユーザーの処置: 理由コードの条件を満たしているかどうか確認して、DROP SERVICE CLASS ステートメントを再発行してください。新しい接続またはアクティビティーがサービス・クラスと結合しないようにするには、サービス・クラスをドロップする前にそれを無効にする必要があります。

sqlcode: -4717

sqlstate: 5U031

SQL4718N デフォルトのサービス・クラス
service-class-name を指定されたとおりに変更したり関連付けたりすることができません。理由コード = *reason-code*。

説明: ユーザー定義のサービス・クラスを変更するのと同じ方法で、デフォルトのサービス・クラス *service-class-name* を変更することができません。以下の理由コードは、発生したデフォルトのサービス・クラスに関する制限を示しています。

1

デフォルトのシステム・サービス・クラス、デフォルトの保守サービス・クラス、およびデフォルトのユーザー・サービス・クラスを無効にすることはできません。

2

デフォルトのシステム・サービス・クラスおよびデフォルトの保守サービス・クラスを、ワークロード、ワーク・アクション・セット、またはしきい値と関連付けることができません。さ

らに、デフォルトのユーザー・サービス・クラスをワーク・アクション・セットに関連付けることもできません。

3

デフォルトのサービス・サブクラスに指定した属性の 1 つを変更できません。

4

デフォルトのサービス・サブクラスをワークロードに関連付けることはできません。

5

CPU 共有または CPU 制限は、SYSDEFAULTSYSTEMCLASS サービス・クラスまたはそのサブクラスでは構成できません。CPU 共有と CPU 制限の一方または両方を、このデータベースの任意のユーザー・サービス・クラス、および保守サービス・クラスに対して構成できますが、システム・サービス・クラスに対しては構成できません。

ユーザーの処置: 理由コードに基づいて、以下のいずれかのアクションを行ってください。

1、2、4

ユーザー定義のサービス・クラスを指定してください。

3

代わりに、親スーパークラスの属性を変更してください。

5

CPU 共有と CPU 制限の一方または両方をユーザー・サービス・クラスまたは保守サービス・クラスに対して構成してください。

sqlcode: -4718

sqlstate: 5U032

SQL4719N PREVENT EXECUTION ワーク・アクション *work-action_name* がこのアクティビティに適用されているため、アクティビティは実行されませんでした。

説明: PREVENT EXECUTION ワーク・アクションが原因でアクティビティを実行できません。

ユーザーの処置: PREVENT EXECUTION ワーク・アクションを除去するか、あるいは無効にしてください。

sqlcode: -4719

sqlstate: 5U033

SQL4720N 指定したワーク・アクション・タイプは、ワーク・アクション *work-action-name* には無効です。理由コード *reason-code*

説明: 指定したワーク・アクションのタイプは、以下のいずれかの理由により無効です。

1

同じワーク・アクション・セットの作業クラスに指定されたワーク・アクション・タイプが重複しています。

2

ワーク・アクション・タイプは MAP ACTIVITY ですが、ワーク・アクション・セットはデータベースまたはワークロードに関連付けられています。マッピング・ワーク・アクションは、サービス・クラスに適用されるワーク・アクション・セットに対してのみ有効です。

3

ワーク・アクション・タイプは THRESHOLD ですが、ワーク・アクション・セットはサービス・クラスと関連付けられています。しきい値ワーク・アクションは、データベースまたはワークロードに適用されるワーク・アクション・セットに対してのみ有効です。

4

ワーク・アクション・タイプは COLLECT AGGREGATE ACTIVITY DATA ですが、ワーク・アクション・セットはデータベースと関連付けられています。COLLECT AGGREGATE ACTIVITY DATA ワーク・アクションはサービス・クラスまたはワークロードに適用されるワーク・アクション・セットに対してのみ有効です。

ユーザーの処置: 異なるタイプのワーク・アクションを指定してください。

sqlcode: -4720

sqlstate: 5U034

SQL4721N しきい値 *threshold-name* を作成または変更できません (理由コード = *reason-code*)。

説明: 以下の理由コードによって示されている制限に違反しているため、しきい値を作成または変更できません。

1

	サービス・スーパークラスが存在しません。	14	
2			指定された実行可能ファイル ID を持つセッションは、パッケージ・キャッシュまたはカタログで見つかりませんでした。
	サービス・サブクラスが存在しません。		
3			ユーザーの処置: 理由コードに対応するアクションは、以下のとおりです。
	ワークロード定義が存在しません。	1	サービス・スーパークラスを作成してから、CREATE THRESHOLD または ALTER THRESHOLD ステートメントを再度発行してください。
4			
	このタイプのしきい値は、指定された定義ドメインおよび施行範囲ではサポートされていません。	2	サービス・サブクラスを作成してから、CREATE THRESHOLD または ALTER THRESHOLD ステートメントを再度発行してください。
5			
	しきい値の条件に指定された値は範囲外です。	3	ワークロードを作成してから、CREATE THRESHOLD または ALTER THRESHOLD ステートメントを再度発行してください。
6			
	キューイングしきい値の maxValue が 0 に設定された場合、queueSize も 0 でなければならず、アクションは STOP EXECUTION でなければなりません。	4	有効な定義ドメインおよび施行範囲を指定して CREATE THRESHOLD または ALTER THRESHOLD ステートメントを発行してください。
7			
	ALTER THRESHOLD ステートメントを使用してしきい値の述部を変更することはできません。	5	有効な範囲の最大値を指定して CREATE THRESHOLD または ALTER THRESHOLD ステートメントを発行してください。
8			
	REMAP ACTIVITY アクションで指定されたサービス・クラスが、しきい値のサービス・スーパークラスの下に存在しません。	6	queueSize の値を 0 にして、アクション STOP EXECUTION を指定し、CREATE THRESHOLD または ALTER THRESHOLD ステートメントを発行してください。
9			
	REMAP ACTIVITY アクションで指定されるサービス・サブクラスと、しきい値のサービス・サブクラスを同じにすることはできません。	7	しきい値をドロップし、希望する述部を使用して新規のしきい値を作成します。代わりに、既存のしきい値を保持したまま、希望する述部を使用して新規のしきい値を作成することができます。
10			
	指定されたしきい値では REMAP ACTIVITY アクションがサポートされていません。	8	しきい値のサービス・スーパークラスの下にサービス・サブクラスを作成した後、CREATE THRESHOLD または ALTER THRESHOLD ステートメントを再び発行してください。
11			
	指定されたしきい値は、デフォルト・サービス・スーパークラスの下でのデフォルト・サービス・クラスではサポートされません。		
12			
	REMAP ACTIVITY アクションは、ワーク・アクションしきい値ではサポートされません。		
13			
	指定されたしきい値では FORCE APPLICATION アクションがサポートされていません。		

9

しきい値のサービス・スーパークラスの下の別のサービス・サブクラスを指定する **REMAP ACTIVITY** アクションを使って、**CREATE THRESHOLD** または **ALTER THRESHOLD** ステートメントを発行してください。

10

別のしきい値超過アクションを使用して **CREATE THRESHOLD** または **ALTER THRESHOLD** ステートメントを発行してください。

11

しきい値ドメインに指定されるユーザー定義サービス・サブクラスを使用して **CREATE THRESHOLD** または **ALTER THRESHOLD** ステートメントを発行してください。

12

別のしきい値超過アクションをしきい値ワーク・アクションとして指定して、**CREATE WORK ACTION SET** または **ALTER WORK ACTION SET** ステートメントを発行してください。

13

CREATE THRESHOLD または **ALTER THRESHOLD** ステートメントを発行する際、しきい値の最大値を超えた場合に取られるアクションとして別のアクションを指定してください。

14

静的 SQL を使用している場合には、正しい実行可能ファイル ID を指定したことを確認してください。動的 SQL の場合、**PREPARE** ステートメントを使用して、準備済みバージョンまたは実行可能バージョンのステートメントをパッケージ・キャッシュに追加します。

sqlcode: -4721

sqlstate: 5U037

SQL4722N 一致する定義のあるしきい値 *object-name* が既に存在しているため、しきい値は作成されませんでした。

説明: **CREATE THRESHOLD** ステートメントは、既存のしきい値定義と一致する新規のしきい値を作成しようとしました。同じしきい値の述部を使用し、同じドメイ

ンに適用されている場合、2 つのしきい値定義は一致していると判断されます。

新しいしきい値は作成されませんでした。

ユーザーの処置: 名前が *name* である既存のしきい値が適切なしきい値である限り、アクションは不要です。この場合、しきい値は必要なしきい値が作成される前にドロップされなければなりません。

sqlcode: -4722

sqlstate: 5U038

SQL4723N 接続属性 *connection-attribute* の値 *connection-attribute-value* が既に定義済みであるか、あるいは重複が検出されました。

説明: 追加されている接続属性値が接続属性に既に存在するか、または提供されているリスト内で重複しています。

ユーザーの処置: 値を除去して、ステートメントを再サブミットしてください。

sqlcode: -4723

sqlstate: 5U039

SQL4724N 接続属性 *connection-attribute* に定義されていないため、値 *connection-attribute-value* をドロップできません。

説明: 指定した接続属性値は接続属性に定義されていないため、ドロップできません。

ユーザーの処置: 接続属性について定義されている接続属性値を指定し、ステートメントを再サブミットしてください。

sqlcode: -4724

sqlstate: 5U040

SQL4725N アクティビティが取り消されました。

説明: アクティビティを取り消すのに **WLM_CANCEL_ACTIVITY** プロシージャが使用されました。

ユーザーの処置: アプリケーションを続行してください。

sqlcode: -4725

sqlstate: 57014

SQL4726N 要求の実行中に ID *service-class-id* を持つサービス・クラスがドロップされたため、要求を完了できません。

説明: ドロップされたサービス・クラスに要求が再マップされているため、要求を完了できません。サービス・クラスは要求の実行中にドロップされました。今後の要求はこのサービス・クラスに再マップされないため、影響を受けない可能性があります。

ユーザーの処置: 要求を再発行してください。要求の失敗が続く場合には、何か特定の理由で実行が妨げられている可能性があります。データベース管理者に連絡して理由を判別してください。

sqlcode: -4726

sqlstate: 5U045

SQL4727N ルーチン **WLM_REMAP_ACTIVITY** の少なくとも 1 つの入力パラメーターが無効であるため、指定したサービス・サブクラスにアクティビティーをマップできません。理由コード = *reason-code*。

説明: 1 つ以上の入力パラメーターが無効であるため、ルーチン **WLM_REMAP_ACTIVITY** が失敗しました。理由コードは以下のとおりです。

1

アクティビティーは、そのアクティビティーのサービス・スーパークラスの下にあるサービス・サブクラスにのみ再マップできます。

service_superclass_name パラメーターでアクティビティーのサービス・スーパークラス名を指定するか、これを NULL に設定してください。*service_superclass_name* パラメーターを NULL に設定すると、デフォルトとして、この入力パラメーターはアクティビティーの現在のサービス・スーパークラス名になります。

2

アクティビティーのサービス・スーパークラスの下にある有効なサービス・サブクラスを *service_subclass_name* パラメーターで指定する必要があります。

3

log_evmon_record パラメーターに Y を指定すると、アクティビティーがパーティションで再マップされる際、イベント・モニター・レコードが THRESHOLD VIOLATIONS イベント・モニターに記録されます。*log_evmon_record* パラメーターに N を指定すると、アクティビティーがパーティションで再マップされる際、イ

ベント・モニター・レコードは THRESHOLD VIOLATION イベント・モニターに記録されません。

ユーザーの処置: 理由コードの条件が満たされることを確認して、WLM_REMAP_ACTIVITY ルーチンを再び呼び出します。

sqlcode: -4727

sqlstate: 5U046

SQL4728W サービス・クラスに対して、デフォルトのシステム・サービス・クラス **SYSDEFAULTSYSTEMCLASS** の優先順位設定より高い優先順位設定が割り当てられました。これにより、パフォーマンスへの悪影響が生じる可能性があります。

説明: システム処理がユーザー処理より優先されるようにするには、デフォルトのシステム・サービス・クラス **SYSDEFAULTSYSTEMCLASS** の優先順位設定を常に、他のすべてのサービス・クラスに設定されている優先順位より高くする必要があります。システム・タイプのアクティビティーはデフォルトのシステム・サービス・クラスで実行されるため、デフォルトのシステム・サービス・クラスのほうに高い優先順位設定を割り当てないと、パフォーマンスに悪影響が及ぶ可能性があります。

ユーザーの処置: デフォルトのシステム・サービス・クラスの優先順位設定を高くするか、デフォルトのシステム・サービス・クラスより高い優先順位設定を持つ他のサービス・クラスの優先順位設定を低くしてください。

sqlcode: +4728

sqlstate: 01HN1

SQL4901N 前出のエラーのために、プリコンパイラー・サービスを再び初期設定する必要があります。

説明: 前に関数呼び出しで、エラーが発生しました。要求された関数呼び出しは、プリコンパイラー・サービスが再び初期設定されるまで処理されません。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: `sqlinit` 関数を呼び出して、プリコンパイラー・サービスを再び初期設定してください。

SQL4902N 関数 *function* のパラメーター *n* の少なくとも 1 つの文字が無効です。

説明: 示された関数の示されたパラメーターには、少なくとも 1 つの無効な文字が入っています。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: 示されたパラメーターを修正して、再び関数を呼び出してください。

SQL4903N 関数 *name* のパラメーター *n* の長さが無効です。

説明: 示された関数の示されたパラメーターの長さが無効です。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: 示されたパラメーターを修正して、再び関数を呼び出してください。

sqlcode: -4903

sqlstate: 42611

SQL4904N 関数 *function* のパラメーター *n* へのポインターが無効です。

説明: 示された関数の示されたパラメーターへのポインターが無効です。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: 示されたパラメーターを修正して、再び関数を呼び出してください。

SQL4905N 関数 *function* のパラメーター *n* の値が、有効範囲内ではありません。

説明: 示された関数の示されたパラメーターの値が、そのパラメーターの有効な範囲を超えています。示されたパラメーターが構造の場合、有効範囲内の値が入っているかもしれませんが、全体として見たときには有効ではありません。いくつかの構造には、割り振られたサイズと使用されているサイズを示すヘッダーが入っています。割り振られたサイズが、使用されたサイズより小さいのは無効です。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: 示されたパラメーターを修正して、再び関数を呼び出してください。

SQL4906N 指定された表スペース名のリストがロールフォワード操作に対して不完全です。

説明: 表スペース名のリストは、以下のいずれかの理由から完全ではありません。

- ポイント・イン・タイムの表スペース・リカバリーのために、表スペース・リストを指定する必要があります。
- ポイント・イン・タイムの表スペース・リカバリーのために、自己完結的な表スペース名のリストを指定する必要があります。すなわち、表スペースに含まれる

すべての表に関連するオブジェクトが格納される表スペースもまた、すべてリストに含める必要があります。

- ポイント・イン・タイムの表スペース・リカバリーはシステム・カタログでは許可されません。
- END-OF-LOGS の表スペース・リカバリーはシステム・カタログに対して許可されていますが、リストに指定する表スペース名はその表スペース名のみにしてください。
- ロールフォワードの CANCEL オプションには、"ロールフォワード進行中" 状態の表スペースがない場合には、表スペースのリストが必要です。

ユーザーの処置: 表スペースのリストをチェックして、完全な表スペースのリストを指定してロールフォワード・コマンドを再サブミットしてください。

SQL4907W データベース *name* はリカバリーされましたが、ロールフォワード操作のために組み込まれた表スペース・リスト内の 1 つ以上の表が、SET INTEGRITY ペンディング状態になります。

説明: ポイント・イン・タイムの表スペース・リカバリーに必要な 1 つ以上の表では、リカバリーで使用する表スペースのリストの外部にある表による参照制約があるか、リカバリーで使用する表スペースのリストの外部にある従属マテリアライズ照会表または従属ステージング表があります。これらの表はすべて、SET INTEGRITY ペンディング状態に置かれます。これらの表以外では、ロールフォワード操作は正常に完了しました。

ユーザーの処置: 表スペースの表の状態をチェックし、必要であれば適切なアクションを行ってください。

SQL4908N データベース *name* でロールフォワード・リカバリーに指定された表スペース・リストは、メンバーまたはノード *node-list* では無効です。

説明: 以下のうちの 1 つ以上の条件をチェックしてください。

- 表スペース・リストに含まれる名前が重複しています。
- 新規表スペースのロールフォワードを開始する場合、ロールフォワードされるリストで指定された 1 つ以上の表スペースは、指定のメンバーまたはノードでロールフォワード・ペンディング状態にありません。
- すでに進行状態の表スペースのロールフォワードを続行する場合、ロールフォワードされるリストで指定さ

SQL4910N

れた 1 つ以上の表スペースは、指定のメンバーまたはノードでロールフォワード進行状態にないか、またはオフラインになります。

ユーザーの処置: リスト中に表スペース名の重複がないようにしてください。

どの表スペースでロールフォワードの準備ができていないかを調べるには、指定されたメンバーまたはノードで `MON_GET_TABLESPACE` 表関数を使用してください。表スペースのロールフォワード状況を判別するには、ロールフォワード・コマンドの `QUERY STATUS` オプションを使用してください。ロールフォワード状況が "TBS pending" である場合、新規の表スペース・ロールフォワードを開始できます。ロールフォワード状況が "TBS working" である場合、表スペース・ロールフォワードがすでに進行中です。

新規の表スペース・ロールフォワードを開始する場合、表スペースをリストアしてロールフォワード・ペンディング状態にしてください。

表スペースのロールフォワードを続行して、関係する 1 つ以上の表スペースがリストアされ、ロールフォワード・ペンディング状態になった場合、進行中の表スペースのロールフォワードは取り消される必要があります。CANCEL オプションと同じ表スペースのリストを指定して、再度ロールフォワード・コマンドを実行してください。進行中のロールフォワードが取り消されると、表スペースはリストア・ペンディング状態になります。表スペースをリストアして、元のロールフォワード・コマンドを再度実行してください。

表スペースのロールフォワードを続行して、関係する 1 つ以上の表スペースがオフラインになった場合、次の 3 つのオプションがあります。

- 表スペースをオンラインに戻し、元のロールフォワード・コマンドを再度実行してください。
- ロールフォワード・コマンドを再サブミットしますが、表スペースのリストからオフラインの表スペースを除去してください。これらの表スペースはリストア・ペンディングになります。
- CANCEL オプションと同じ表スペースのリストを指定して、再度ロールフォワード・コマンドを実行してください。進行中のロールフォワードが取り消されると、表スペースはリストア・ペンディング状態になります。

SQL4910N オーバーフロー・ログ・パス `log-path` が無効です。

説明: ROLLFORWARD コマンドで指定されたオーバーフロー・ログ・パスは無効です。オーバーフロー・ログ・パスはファイル・システムのディレクトリーである

必要があります。このディレクトリーは、インスタンス所有者 ID によるアクセスが可能でなければなりません。

ユーザーの処置: 有効なオーバーフロー・ログ・パスで、コマンドを再サブミットしてください。

SQL4911N ホスト変数のデータ・タイプが無効です。

説明: ホスト変数のデータ・タイプが有効ではありません。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: ホスト変数のデータ・タイプを訂正して、再び関数を呼び出してください。

SQL4912N ホスト変数のデータ長が範囲を超えています。

説明: ホスト変数の長さが無効です。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: ホスト変数の長さを訂正して、再び関数を呼び出してください。

SQL4913N ホスト変数のトークン ID は、すでに使用されています。

説明: ホスト変数のトークン ID がすでに使用済みです。トークン ID はモジュール内でユニークでなければなりません。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: ホスト変数のトークン ID を訂正して、再び関数を呼び出してください。

SQL4914N ホスト変数のトークン ID が無効です。

説明: ホスト変数のトークン ID が有効ではありません。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: ホスト変数のトークン ID を訂正して、再び関数を呼び出してください。

SQL4915N "sqlainit" 関数は、すでに呼び出されています。

説明: プリコンパイラー・サービスは、すでに初期設定されています。

ユーザーの処置: アクションは不要です。処理を続行します。

SQL4916N "sqlainit" 関数は呼び出されていません。

説明: 要求された関数呼び出しが処理される前に、プリコンパイラー・サービスが初期設定されている必要があります。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: sqlainit 関数呼び出しを発行して、プリコンパイラー・サービスを初期設定してください。

SQL4917N オプション配列の要素 *number* が無効です。

説明: オプション配列に、無効な *option.type* または *option.value* を持つ要素が入っています。メッセージ内の要素番号は、オプション配列のオプション部分の *n* 番目の要素です。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: オプション配列に格納されている値を訂正してください。再び関数を呼び出してください。

SQL4918N 関数 "sqlainit" の *term_option* パラメーターが無効です。

説明: *term_option* パラメーターが無効です。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: *term_option* パラメーターを訂正して、関数を再度呼び出してください。

SQL4919N 関数 "sqlacmpl" の *task_array* パラメーターが小さすぎます。

説明: sqlacmpl 関数呼び出しで、プリコンパイラー・サービスに渡されたタスク配列構造が、短すぎます。

関数は正常に完了しませんでした。

ユーザーの処置: プリコンパイラーによって割り振られるプリコンパイラー・タスク配列構造のサイズを増やしてください。アプリケーション・プログラムを再コンパイルしてください。

SQL4920N 関数 "sqlacmpl" の *token_id_array* パラメーターが小さすぎます。

説明: sqlacmpl() 関数呼び出しで、プリコンパイラー・サービスに渡されたトークン ID 配列構造が小さすぎます。

関数は正常に完了しませんでした。

ユーザーの処置: プリコンパイラーによって割り振られるプリコンパイラー・トークン ID 配列構造のサイズを増やしてください。アプリケーション・プログラムを

再コンパイルしてください。

SQL4921N ロールフォワード・コマンドは、現在すべてのデータベース・パーティションに対して進行中の先行するポイント・イン・タイム・リカバリーのために失敗しました。

説明: データベースでは、現在すべてのデータベース・パーティションに対してポイント・イン・タイム・リカバリーが進行中です。後続のロールフォワード・コマンドの発行は、先行するポイント・イン・タイム・リカバリーが完了するか取り消されるまでできません。

ユーザーの処置: ON データベース・パーティション節を指定せずに STOP オプションを使用した ROLLFORWARD DATABASE コマンドを再発行してください。

SQL4930N バインド、再バインド、変更、またはプリコンパイル・オプションあるいはオプションの値 *option-name* が無効です。

説明: *option-name* は無効なバインド、再バインド、変更、またはプリコンパイル・オプションであるか、このオプションに指定された値が無効です。バインド、再バインド、変更、またはプリコンパイルを続行できません。

ユーザーの処置: バインド、再バインド、変更、またはプリコンパイル・オプションあるいはオプションの値を訂正して、コマンドまたはステートメントを再試行してください。

sqlcode: -4930

sqlstate: 56095

SQL4940N *clause* 節が許可されていないか、または必須です。

説明: 示された節は、SQL ステートメント内に現れる文脈では許されていないか、またはそれがステートメント内で必須とされています。

副照会、INSERT ステートメント、または CREATE VIEW ステートメントには、INTO、ORDER BY、または FOR UPDATE 節を指定できません。組み込み SELECT ステートメントには、ORDER BY または FOR UPDATE 節を指定できません。組み込み SELECT ステートメントには、副照会内を除いて、セット演算子を使用できません。カーソル宣言で使用される SELECT ステートメントには、INTO 節を指定できません。

組み込み SELECT ステートメントのは、INTO 節を使用する必要があります。

関数は完了しません。

SQL4941N

ユーザーの処置: 節の除去または追加を行なって、ステートメントを修正してください。

SQL4941N SQL ステートメントがブランクまたは空です。

説明: EXEC SQL に続くテキストがブランクまたは空です。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: EXEC SQL に続いて有効な SQL ステートメントが記述されていることを確認してください。

SQL4942N ステートメントが、ホスト変数 *name* に適さないデータ・タイプを選択しています。

説明: 組み込み SELECT ステートメントが、ホスト変数 *name* に対する選択を行いました。変数のデータ・タイプと対応する SELECT リスト・エレメントの互換性がありません。列のデータ・タイプが日付と時刻の場合は、変数のデータ・タイプは適切な最小の長さを持つ文字でなければなりません。ユーザー定義のデータ・タイプの場合、ホスト変数は、ステートメントのトランスフォーム・グループで定義された FROM SQL トランスフォーム関数の結果タイプとは互換性のない関連した組み込みデータ・タイプを使用して定義される場合があります。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: 表定義が現在のものであり、ホスト変数が正しいデータ・タイプであることを確認してください。

SQL4943W INTO 節内のホスト変数の数が、SELECT 節内の項目数と一致していません。

説明: INTO 節と SELECT 節の両方に指定されたホスト変数の数は同じでなければなりません。

関数は処理されます。

ユーザーの処置: アプリケーションを修正して、SELECT リスト式の数と同じ数のホスト変数を指定してください。

SQL4944N 更新または挿入する値は NULL ですが、オブジェクトの列に NULL 値を入れることができません。

説明: 以下のいずれかが発生しました。

- 更新値または挿入値は NULL ですが、オブジェクトとなる列が表定義で NOT NULL として宣言されています。したがって、NULL 値はその列に挿入することができず、その列の値は更新によって NULL に設定することができません。

- INSERT ステートメントの列名リストに、表定義で NOT NULL として宣言されている列がありません。

- INSERT ステートメントのビューに、基本表定義で NOT NULL として宣言されている列がありません。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: オブジェクト表の定義を調べて、NOT NULL 属性を持っている列を判別して、SQL ステートメントを修正してください。

SQL4945N パラメーター・マーカの使用法が無効です。

説明: パラメーター・マーカは、動的 SQL ステートメント内でのみ使用できます。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: 静的 SQL ステートメントに対しては、パラメーター・マーカの代わりにホスト変数を使用してください。

SQL4946N カーソルまたはステートメント名 *name* は定義されていません。

説明: ステートメントに指定されたカーソルまたはステートメント名 *name* が定義されていません。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: アプリケーション・プログラムをチェックして、カーソルまたはステートメント名が完全で、しかもつづりが間違っていないことを確認してください。

SQL4947W INCLUDE SQLDA ステートメントが見つかりましたが、無視されました。

説明: データベース・マネージャーによって提供される FORTRAN プリコンパイラーは、INCLUDE SQLDA ステートメントをサポートしません。

ステートメントは無視されます。処理を続行します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。このメッセージの出力を防ぐには、プログラムから INCLUDE SQLDA ステートメントを取り除いてください。

SQL4950N ユーザー定義 **SQLDA** が含まれているコンパウンド **SQL** ステートメントは、この環境でサポートされていません。

説明: ユーザー定義 **SQLDA** が入っているコンパウンド **SQL** ステートメントは、16 ビット・アプリケーションでサポートされていません。

ユーザーの処置: コンパウンド **SQL** ブロックの外にステートメントを移動するか、あるいは **SQLDA** の代わりに、ホスト変数を使用するステートメントとこれを置き換えてください。

SQL4951N 関数 *name* の *sqlda_id* パラメーターが無効です。

説明: アプリケーション・プログラムの指定関数の *sqlda_id* パラメーターが無効です。 *sqlda_id* パラメーターは **NULL** にはできません。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: アプリケーション・プログラムの *sqlda_id* パラメーターを訂正してください。

SQL4952N 関数 *name* の *sqlvar_index* パラメーターが無効です。

説明: アプリケーション・プログラムの指定関数の *sqlvar_index* パラメーターが無効です。 *sqlvar_index* が、**SQLDA** の *sqlvar* エレメントの数より大きい可能性があります。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: アプリケーション・プログラムの *sqlvar_index* パラメーターを訂正してください。

SQL4953N 関数 *name* の *call_type* パラメーターが無効です。

説明: アプリケーションの指定関数の *call_type* パラメーターが無効です。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: アプリケーション・プログラムの *call_type* パラメーターを訂正してください。

SQL4954N 関数 *name* の *section_number* パラメーターが無効です。

説明: アプリケーション・プログラムの指定関数の *section_number* パラメーターが無効です。次の **SQL** ステートメントの場合は、関数 `sqlacall()` の *section_number* パラメーターが、ステートメント・タイプを渡すために使用されることに注意してください。

- **CONNECT**
- **SET CONNECTION**
- **RELEASE**
- **DISCONNECT**

関数は完了しません。

ユーザーの処置: アプリケーション・プログラムの *section_number* パラメーターを訂正してください。

SQL4970N *database-name* というデータベースでロールフォワード・リカバリーが停止しました。データベース・パーティション *database-partition-list* でロールフォワード・ユーティリティーが、指定された停止ポイント (ログの終わりまたはポイント・イン・タイム) に達することができないためです。

説明: このメッセージは以下の状況で返されます。

1. ファイルが欠落しているか、ファイルにデータ整合性の問題があるため、ロールフォワード・ユーティリティーは 1 つ以上のファイルにアクセスできません。以下に例をあげます。
 - 指定されたデータベースをロールフォワード・ペンディング状態から出す要求が出されました。しかし、ロールフォワード・ユーティリティーは、前のロールフォワード操作から停止ポイントに達するために必要なアーカイブ・ログ・ファイルを、指定されたデータベース・パーティション上のデータベース・ログ・ディレクトリーまたはオーバーフロー・ログ・ディレクトリー内で検出できません。
 - **DB2 pureCluster** 環境ではない複数パーティション・データベース環境の場合: ロールフォワード・ユーティリティーは、データベース・パーティションをカタログ・パーティションと同期するために必要なアーカイブ・ログ・ファイルを検出できません。
2. これは、指定されたポイント・イン・タイムのタイム・スタンプがログ・ファイル内では到達できない、ポイント・イン・タイムのロールフォワードでした。これは、欠落したログ・ファイルがあることを示しているか、ポイント・イン・タイムがログの終わりよりも後であったのでデータベースが使用可能になっていることを示している可能性があります。パーティション・データベース環境では、**QUERY STATUS** オプションを指定した **ROLLFORWARD DATABASE** コマンドを使用して、ロールフォワードが通常の状態になるようにします。

",..." がデータベース・パーティション・リストの最後に表示された場合、完全なデータベース・パーティション・リストについては、管理通知ログを参照してください。

ロールフォワード・リカバリーは停止しました。データベースはロールフォワード・ペンディング状態になったままです。

ユーザーの処置:

1. QUERY STATUS オプションを指定したロールフォワード・コマンドを発行して、ロールフォワードによって最後に処理されたログ・ファイルを判別してください。その後、必要なファイル (最後に処理されたログ・ファイルに続くもの) を、適切な場所に移動させることによって使用可能にします。

- データベース・ログ・ディレクトリー内またはオーバーフロー・ログ・パス (指定されている場合) 内を調べます。
- ログ・アーカイブが有効である場合、必要なファイルがアーカイブ場所にあることを確認します。ログ・アーカイブ検索メソッドが機能していることも確認します。管理通知ログでメッセージ ADM0083I が存在することを調べてから、必要に応じて検索メソッドを修正します。

これらの 2 点について確認した後に、ROLLFORWARD DATABASE コマンドを再発行します。

ログ・ファイルが存在していて ROLLFORWARD DATABASE の再発行が失敗する (ログ・ファイルに潜在的なデータ整合性の問題がある) 場合、またはログ・ファイルが見つからない場合には、データベースをリストアして、そのデータベースを処理されたログ・ファイルのいずれかで参照されているより前の時点にまでロールフォワードします (欠落ファイルのうち最も古いもののタイム・スタンプより前のタイム・スタンプを使用します)。

2. ポイント・イン・タイムのタイム・スタンプが正しく、欠落したログ・ファイルはない場合、指定されたポイント・イン・タイムはデータベースに対するどの操作よりも古いものである可能性があります。この場合は、ROLLFORWARD DATABASE コマンドに STOP オプションを指定して発行してください。これにより、ロールフォワード・リカバリーはログ・ファイル内の現行位置で完了します。

SQL4971N ノード *node-number* のデータベース *name* のロールフォワードのリカバリーは、前の停止中に失敗しました。ロールフォワード・リカバリーは中止してください。

説明: 呼び出し元アクション SQLUM_ROLLFWD の指定によって指定したデータベースのロールフォワードを続行する要求が出されました。直前のロールフォワード・リカバリーの反復は、停止中に失敗しました。データベース・レベルでのロールフォワードを行うと、ログ切り捨て中に失敗したことを意味します。このデータベースのロールフォワード・リカバリーは、呼び出し元アクション SQLUM_ROLLFWD_STOP、SQLUM_STOP、SQLUM_ROLLFWD_COMPLETE、または SQLUM_COMPLETE の指定で現在停止されています。

注: パーティション・データベース・サーバーを使用している場合、ノード番号は、エラーの発生しているノードを示しています。そうでない場合、これは関係のないものなので無視してください。

ユーザーの処置: 呼び出し元アクション SQLUM_ROLLFWD_STOP、SQLUM_STOP、SQLUM_ROLLFWD_COMPLETE、または SQLUM_COMPLETE を使用して ROLLFORWARD DATABASE コマンドを再発行してください。指定された停止時間は、以前の停止時間がすでに処理されているため無視されます。

SQL4972N ノード *node-number* のログ・エクステン
ト *extent* を、データベースのログ・パス
に移動できませんでした。

説明: ロールフォワード・ユーティリティは STOP オプションで呼び出されました。ロールフォワード処理の一部として、ログ・エクステン ト *extent* は切り捨てられる必要があります。このエクステン トはデータベース・ログ・パスに存在していません。現在、エクステン トはオーバーフロー・ログ・パスに存在しています。オーバーフロー・ログ・パスからデータベース・ログ・パスへエクステン トを移動させようとした。処理は失敗しました。ロールフォワード処理は停止されています。

注: パーティション・データベース・サーバーを使用している場合、ノード番号は、エラーの発生しているノードを示しています。そうでない場合、これは関係のないものなので無視してください。

ユーザーの処置: オーバーフロー・ログ・パスからデータベース・ログ・パスへエクステン トを移動し、ROLLFORWARD DATABASE コマンドを再サブミットしてください。

SQL4973N データベース *name* の順方向リカバリはデータベース・パーティション *node-list* のログ情報がカタログ・データベース・パーティションの対応するレコードに一致しないため、完了できません。

説明: ロールフォワード・ユーティリティーは、それぞれのデータベース・パーティションで見つかったログ・ファイルを処理しましたが、指定されたデータベース・パーティションとカタログ・データベース・パーティションの対応レコードの停止点が一致しません。原因は、カタログ・データベース・パーティションまたは指定されたデータベース・パーティション・ファイルが欠落したか、またはカタログ・データベース・パーティションがロールフォワードされるデータベース・パーティション・リストに含まれることです。

ROLLFORWARD DATABASE 処理を停止します。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを実行します。

- カatalog・データベース・パーティションをロールフォワードする必要があるか確認してください。その必要がある場合、ROLLFORWARD DATABASE コマンドを再度サブミットし、カタログ・データベース・パーティションを含めてください。
- ROLLFORWARD DATABASE コマンドと QUERY STATUS オプションを一緒に使用してどのログ・ファイルが欠落したかを判別してください。ログ・ファイルを検出したときは、それをログ・パスまたはオーバーフロー・ログ・パスに置き、順方向リカバリーを再開してください。
- 欠落しているログ・ファイルが見つからない場合、すべてのデータベース・パーティションのデータベースをリストアして、最も古い欠落ログ・ファイルより前の停止時間を使用して、ポイント・イン・タイムのリカバリーを実行してください。

SQL4974W ROLLFORWARD DATABASE QUERY STATUS コマンドは、*sqlcode sqlcode* を検出しました。

説明: ROLLFORWARD DATABASE QUERY STATUS コマンドは、*sqlcode sqlcode* のエラーを検出しました。多数の原因により、いくつかのノードの照会が正常でない可能性があります。最も重大なエラーは *sqlcode* で指示されます。roll-forward status は正常なノードに対して戻ります。

ユーザーの処置: *sqlcode sqlcode* について、「メッセージ・リファレンス」、またはオンラインを参照して、失敗したノードの問題を判別してください。必要な訂正アクションを実行して、これらのノードの順方向リカバリーを継続してください。

SQL4975W ロールフォワードの操作が正常に取り消されました。データベースまたは選択表スペースは、メンバーまたはノード *node-list* でリストアされる必要があります。

説明: ロールフォワード操作は正常に完了する前に、キャンセルされました。データベースまたは選択表スペースは不整合状態で残されています。データベースまたは選択された表スペースは、リストされたメンバーまたはノードで、リストア・ペンディング状態になっています。

"..." がメンバーまたはノード・リストの終わりに表示されている場合、メンバーまたはノードの完全なリストを見るには管理通知ログを調べてください。

注: メンバーまたはノード番号は、DB2 pureCluster 環境およびパーティション・データベース環境でのみ役立つ情報を提供します。それ以外の場合は、この情報は無視してください。

ユーザーの処置: リストされたメンバーまたはノードで、データベースまたは選択された表スペースをリストアしてください。MON_GET_TABLESPACE 表関数によって、指定されたメンバーまたはノード上のリストア・ペンディング状態の表スペースを識別できます。DB2 pureCluster 環境以外の環境では、db2dart ユーティリティーも使用できます。

SQL4976N このコマンドを、非カタログ・ノードでサブミットできません。

説明: ROLLFORWARD DATABASE コマンドは、カタログ・ノード上のみで実行可能です。

BACKUP DATABASE コマンドで ON DBPARTITIONNUM 節が指定されている場合、コマンドはカタログ・ノードでのみ受け入れられます。

ユーザーの処置: コマンドをカタログ・ノードでサブミットしてください。

SQL4977N ドロップされた表のエクスポート・ディレクトリー *directory* が無効です。

説明: ROLLFORWARD コマンドで指定されたエクスポート・ディレクトリー・パスは無効です。エクスポート・ディレクトリー・パスはファイル・システムのディレクトリーである必要があります。このディレクトリーは、インスタンス所有者 ID によるアクセスが可能でなければなりません。

ユーザーの処置: 有効なエクスポート・ディレクトリー・パスを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL4978N ドロップした表にアクセスすることはできません。

説明: ドロップした表にアクセスすることはできません。コピーなしの LOAD または NOT LOGGED INITIALLY 操作のため、表が選択不可の状態になっていることが原因だと思われます。

ユーザーの処置: DROPPED TABLE RECOVERY オプションを使用して表をリカバリーすることはできません。

SQL4979W ドロップされた表データをエクスポートすることができません。

説明: コマンドはリカバリー処理が試みられている、ドロップされた表のデータをエクスポートすることができませんでした。これは、ROLLFORWARD コマンドで指定された、ドロップされた表の ID が無効であるか、またはログのすべてがロールフォワードで使用できるわけではない場合に発生します。この警告は、ROLLFORWARD ... AND STOP コマンドを使用するドロップされた表のリカバリー時に、エラーが発生した時に生成されます。

ユーザーの処置: ドロップされた表の ID が有効で、ログのすべてがロールフォワードで使用できることを確認してから、コマンドを再サブミットしてください。

SQL4980N データベース *name* 上のリカバリーで、データベース・パーティション *dbpart-num* およびログ・ストリーム *log-stream-ID* 上に破損したログ・ファイル *log-file* が検出されました。

説明: データベースのリカバリー中に破損したログ・ファイルが検出されました。

ログ・ページでチェックサム・エラーが発生した可能性があります。チェックサム・エラーは、ディスク上のログ・ページの情報が DB2 によって予期される情報と一致しないことを示します。このログ・ページの内容は信頼できません。

ユーザーの処置: 解決策は以下のとおりです。

- ハードウェア診断を実行して、システムでなんらかのハードウェア障害が生じていないかチェックする。
- このログ・ファイルのコピーとして使用できるものが他にある場合、データベース・ログ・ディレクトリーかまたはオーバーフロー・ログ・パスにファイルを置き、コマンドを再サブミットする。
- ログ・ファイルのコピーが使用できない非パーティション・データベース環境のデータベース・ロールフォワード操作の場合、ロールフォワードの停止コマンド

を発行する。これにより、破損したログ・ファイルが検出される前の時点でデータベースが戻されます。この時点より後のログ・データは使用できないことに注意してください。

- ログ・ファイルのコピーが使用できないパーティション・データベース環境のデータベース・ロールフォワード操作の場合、それぞれのデータベース・パーティションをリストアし、破損したログ・ファイルが検出される前の停止時刻に対してポイント・イン・タイム・ロールフォワードを発行する。この時点より後のログ・データベースは使用できないことに注意してください。
- 問題が解決されない場合は、IBM サポートによる分析のために、この破損したファイルのコピーを保管する。IBM サポートは破損したページを判別することができます。

SQL4981W ドロップされた表からデータがエクスポートされましたが、1 つ以上のデータ・パーティションを含んだ表スペースが、ロールフォワード・リストに含まれていませんでした。これらのデータ・パーティションのデータは、エクスポート・ディレクトリーに入りません。

説明: コマンドは、ドロップされた表の 1 つ以上のデータ・パーティションのデータをエクスポートできませんでした。これが生じうるのは、パーティション化された表が定義されている表スペースすべてが、ROLLFORWARD コマンドに指定されていたわけではなかった場合です。これを意図的に行うこともあります。エクスポート・ディレクトリーのファイルのサイズを制限するため、パーティション化されたデータのリカバリーを何回かの受け渡しによって行う場合です。データがエクスポートされなかったデータ・パーティションの詳細リストについては、管理通知ログを参照してください。

ユーザーの処置: 管理通知ログにリストされているデータ・パーティションを含んだ表スペースを含めた上で、コマンドを再サブミットしてください。前回スキップされたデータ・パーティションのみをリカバリーする場合は、既存のエクスポート・ファイルを上書きしないよう、異なるエクスポート・ファイル・パスを指定してください。

SQL4990N 1 つの SQL ステートメントでサポートされるリテラル数の最大値は *number* です。各リテラルの長さは、最大 *value* バイトです。

説明: COBOL プリコンパイラーにおいて、1 つの SQL ステートメントでサポートされるリテラル数の最

大値は *number* です。各リテラルの長さは、最大 *value* バイトです。1 つのリテラルは、ホスト変数以外の任意の入力エレメントを表します (つまり、ストリング定数、区切り ID、非区切り ID)。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: SQL ステートメントの中のリテラルの数を少なくしてください。各リテラルの長さが *value* バイト以下になるようにしてください。

SQL4994N プリコンパイルは、ユーザーの割り込み要求により終了しました。

説明: 割り込みが発生したために、プリコンパイルが終了しました。ユーザーが割り込みキー・シーケンスを押した可能性があります。

処理は終了します。パッケージは作成されませんでした。

ユーザーの処置: 必要に応じて、プリコンパイルを再サブミットしてください。

SQL4997N 許可 ID が無効です。

説明: アプリケーションに対する許可 ID が指定されましたが、その許可 ID が 8 文字より大きいか、または許可 ID には無効な文字を使用して定義されていません。

許可 ID は PUBLIC (*public*) であってはならず、SYS (*sys*)、IBM (*ibm*) または SQL (*sql*) で始めることはできません。また、許可 ID に下線文字またはデータベース・マネージャ基本文字セットに含まれない文字を使用することはできません。

関数は処理されません。

ユーザーの処置: 有効な許可 ID を使用して、アプリケーションを再始動してください。

SQL4998C アプリケーションがエラー状態にあり、データベースとの接続は失われました。

説明: データベースへの接続が切り離されました。

関数は処理されません。

ユーザーの処置: データベースに再接続してください。

SQL4999N プリコンパイラ・サービスまたはランタイム・サービスのエラーが発生しました。

説明: プリコンパイラ・サービスおよびランタイム・サービスが、関数呼び出しを処理することができないデータベース・マネージャ・エラーが発生しました。

プリコンパイラ・サービスまたはランタイム・サービ

ス関数呼び出しは処理されません。

ユーザーの処置: メッセージ番号 (SQLCODE)、および可能であれば SQLCA からのすべてのエラー情報を記録してください。

トレースがアクティブな場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトから、独立トレース機能呼び出ししてください。

- 環境: プリコンパイラ・サービス API を使用する外部のプリコンパイラ
- 必要な情報は以下のとおりです。
 - 問題の説明
 - SQLCODE
 - SQLCA の内容 (ある場合)
 - トレース・ファイル (可能であれば)

第 11 章 SQL5000 - SQL5499

SQL5001N *authorization-ID* には、データベース・マネージャー構成ファイルを変更する権限がありません。

説明: データベース・マネージャー構成ファイルを SYSADM 権限を取得せずに、更新またはリセットしようとしてしました。

要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: 適切な許可を取得せずに、データベース・マネージャー構成ファイルを変更しないようにしてください。変更が必要な場合には、SYSADM 権限を持つユーザーに連絡してください。

SQL5005C データベース・マネージャー構成ファイルまたはデータベース構成ファイルのいずれかへのアクセスにデータベース・マネージャーが失敗したために、操作は失敗しました。

説明: DB2 データベース製品では、次の 2 種類の構成ファイルが使用されます。

データベース・マネージャー構成ファイル

データベース・マネージャー構成ファイルは、DB2 データベース・マネージャー・インスタンスが作成されるときに作成され、システム・リソースにインスタンス・レベルで影響を与えるパラメーターが格納されます。また、クライアント・インストール済み環境ごとに 1 つのデータベース・マネージャー構成ファイルも存在し、そこには特定のワークステーションのクライアント・イネーブラーに関する情報が格納されます。データベース・マネージャー構成ファイルは db2system という名前で、インスタンス・ディレクトリーにあります。

データベース構成ファイル

データベース構成ファイルは、データベースが作成されるときに作成され、そのデータベースの使用に影響を与えるパラメーターが格納されます。各データベースのデータベース構成ファイルの名前は SQLDBCONF で、そのデータベースのその他の制御ファイルと共に

「SQLnnnnn」(nnnnn はデータベースが作成されたときに割り当てられた番号) という名前のディレクトリーに格納されます。

DB2 データベース・ユーティリティ

(db2start、db2icrt、restore、その他多数) において、データベース・マネージャーがデータベース・マネージャー構成ファイルまたはデータベース構成ファイルのいずれかに対して書き込みまたは読み取りを行う必要があるのに、データベース・マネージャーが構成ファイルにアクセスできなかった場合、このメッセージが返されます。

データベース・マネージャーが構成ファイルにアクセスできなかった理由はいくつか考えられます。例えば以下のような理由が挙げられます。

- DB2 データベース製品のインストール済み環境がアップグレードまたは変更された後、データベース・アプリケーションの一部がまだ以前のインストール済み環境のライブラリーにリンクしようとしている
- DB2 データベース製品のインストール済み環境がアップグレードまたは変更された後、PATH、LIBPATH、LD_LIBRARY_PATH などのオペレーティング・システム環境変数がまだ以前のインストール済み環境のパスを参照している
- データベース・マネージャーが構成ファイルを検出できるはずであった場所にそのファイルが存在しないため、オペレーティング・システムのファイル許可の制限により、データベース・マネージャーが構成ファイルの保管ディレクトリーにアクセスできなかった
- オペレーティング・システムのファイル許可の制限により、構成ファイルまたはその保管ディレクトリーに対してデータベース・マネージャーが書き込みまたは読み取りを実行できなかった

ユーザーの処置:

1. db2diag ログ・ファイルの診断情報を確認することにより、データベース・マネージャーがアクセスしようとした特定の構成ファイルを判別します。

例えば、db2diag ログ・ファイルで以下のストリングを検索します。

- SQLDBCONF
 - db2system
2. データベース・マネージャーが、データベース・マネージャー構成ファイルまたはデータベース構成ファイルのいずれかにアクセスできなかった理由を、以下のように体系的に除去します。
 - PATH、LIBPATH、LD_LIBRARY_PATH などのオペレーティング・システム環境変数に、現行 DB2

SQL5010N

データベース製品インストール済み環境における正しいパスが含まれるようにします。

- データベース・マネージャー構成ファイルとデータベース構成ファイルを見つけ、DB2 データベース・マネージャーに、構成ファイル自体とそれらの構成ファイルが配置されているディレクトリーに対する読み取り/書き込み許可があることを確認します。

SQL5010N データベース・マネージャー構成ファイルのパス名が無効です。

説明: データベース・マネージャー構成ファイルへのパスを判別しているときに、エラーが発生しました。データベース・マネージャー・ディレクトリー構造が、変更されている可能性があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: コマンドを再サブミットしてください。それでも、エラーが続く場合は、データベース・マネージャーを再インストールしてください。

SQL5012N ホスト変数 *host-variable* が正しい数値データ・タイプではありません。

説明: ホスト変数 *host-variable* が指定されましたが、これは使用されたコンテキストでは有効ではありません。ホスト変数 *host-variable* は FETCH ステートメントの ABSOLUTE または RELATIVE の一部として指定されたか、FETCH または INSERT ステートメントの ROWS 節に指定されました。ホスト変数が以下のいずれかの理由で使用できませんでした。

- ホスト変数が正しい数値データ・タイプではありません。位取りがゼロの 10 進データ・タイプと整数データ・タイプが正しい数値データ・タイプです。
- ホスト変数は 10 進データ・タイプですが、位取りがゼロではありません。10 進データ・タイプは、位取りをゼロにするには、ゼロの 10 進数字を持っていないければなりません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 正しいデータ・タイプになるようにホスト変数を変更してください。

sqlcode: -5012

sqlstate: 42618

SQL5018N データベース・マネージャー構成ファイル内の、ワークステーションへのリモート接続の数 (*numrc*) の最大値の入力が有効範囲内の値ではありません。

説明: ワークステーションへのリモート接続の最大値は、1 から 255 までの間でなければなりません。

要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: ワークステーションへのリモート接続の最大値に有効な値を指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL5020N データベース・マネージャー構成ファイル内のワークステーションのノード名 (*nname*) の入力が無効です。

説明: configuration コマンドに指定されたノード名が無効です。ノード名は 1 から 8 文字でなければなりません。すべての文字は、データベース・マネージャー基本文字セットから選択する必要があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なノード名を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL5021N データベース・マネージャー構成ファイル内の索引の再作成パラメーター (*INDEXREC*) の入力が無効です。

説明: 構成サービスに対して、データベース・マネージャー構成ファイル内の索引の再作成パラメーター (*INDEXREC*) の無効な値が渡されました。無効な値は、コマンド行プロセッサまたはプログラム API 呼び出しを使用して入力された可能性があります。API 呼び出しおよびコマンド行プロセッサでの有効な値は、1 (*ACCESS*)、2 (*RESTART*)、3 (*RESTART_NO_REDO*)、および 4 (*ACCESS_NO_REDO*) です。

データベース・マネージャー構成ファイルに対する更新は拒否されました。

ユーザーの処置: 指定可能ないずれかの値を入力して、更新要求を再実行してください。

SQL5022N データベース構成ファイル内の索引の再作成パラメーター (*INDEXREC*) の入力が無効です。

説明: 構成サービスに対して、データベース構成ファイル内の索引の再作成パラメーター (*INDEXREC*) の無効な値が渡されました。無効な値は、コマンド行プロセッサまたはプログラム API 呼び出しを使用して入力された可能性があります。API 呼び出しおよびコマンド行プロセッサでの有効な値は、0 (*SYSTEM*)、1 (*ACCESS*)、2 (*RESTART*)、3 (*RESTART_NO_REDO*)、および 4 (*ACCESS_NO_REDO*) です。

データベース構成ファイルに対する更新は拒否されました。

ユーザーの処置: 指定可能ないずれかの値を入力して、更新要求を再実行してください。

SQL5025C データベース・マネージャー構成ファイルが現行のものではありません。

説明: データベースに接続した後で、データベース・マネージャー構成ファイルが更新されました。データベース・マネージャー構成ファイルが、接続されたデータベースの構成と互換性がありません。

データベース・マネージャー構成ファイルへのアクセスは許可されません。

ユーザーの処置: すべてのアプリケーションが、そのデータベースから切断されるまで待ってください。 stop database manager コマンドを発行した後で、 start database manager コマンドを発行してください。

サンプル・データベースをインストールしている場合は、それをドロップしてサンプル・データベースを再インストールしてください。

SQL5030C リリース番号の不一致のため、コマンド処理が失敗しました。

説明: データベース・マネージャーまたはデータベース構成ファイルのリリース番号が、コマンド発行元の DB2 コピーのリリース番号と一致しません。

インスタンスまたはデータベースをアップグレードしている場合は、このリリース番号のデータベース・マネージャーまたはデータベースからのアップグレードがサポートされていません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 次のようにして、ご使用のデータベースまたはデータベース・マネージャーとコマンド発行元の DB2 コピーのリリース・レベルが一致することを検証してください:

- GET DB CFG または GET DBM CFG コマンドを使用して、データベースまたはデータベース・マネージャーの release 構成パラメーター値を判別します。
- db2level コマンドを使用して、DB2 コピーのリリース番号を判別します。

これらのリリース・レベルが一致しない場合は、以下のいずれかのアクションを試行できます:

- db2iupdt コマンドを発行して、データベース・マネージャーのリリース・レベルを更新する。
- データベースをバックアップからリストアする。

インスタンスまたはデータベースをアップグレードしている場合は、このリリース番号のデータベースまたはデータベース・マネージャーからのアップグレードがサポ

ートされていません。DB2 コピーのリリース番号にアップグレードする前に、アップグレード可能なリリース・レベルにアップグレードしておく必要があります。サポートされるリリース・レベルについては、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

このエラーがサンプル・データベースで発生した場合は、それをドロップした後、db2sampl コマンドを使って再作成してください。

sqlcode: -5030

sqlstate: 58031

SQL5035N データベースを現行リリースにアップグレードする必要があります。

説明: このデータベースは、以前のリリースの DB2 データベース製品で作成されています。UPGRADE DATABASE コマンドを発行して、データベースを現行リリースにアップグレードする必要があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 現行リリースを使ってデータベース・アクセスを試みる前に、UPGRADE DATABASE コマンドを発行してください。

データベース・リストアを発行したときにこのメッセージを受け取った場合は、処理を続ける前に、既存のデータベースをドロップしてください。

sqlcode: -5035

sqlstate: 55001

SQL5040N TCP/IP サーバー・サポートで必要なソケット・アドレスのいずれかが、別の処理で使用されています。

説明: サーバーで必要なソケット・アドレスのいずれかは、別のプログラムで使用されているか、あるいはデータベース・マネージャーが停止してから、TCP/IP サブシステムで完全に終了していません。

ユーザーの処置: db2stop を発行したばかりの場合には、TCP/IP サブシステムがリソースをクリーンアップするのに数分お待ちください。そうでない場合には、ワークステーションで、/etc/services ファイルにあるサービス名で予約されているポート番号を使用しているプログラムがワークステーションにないか確認してください。ポート番号はソケット・アドレスのコンポーネントです。

SQL5042N 通信プロトコル・サーバー・サポート処理のいずれかが開始できません。

説明: システム呼び出しができないため、あるいは通信サブシステムの呼び出しができないため、通信プロトコル・サーバー・サポート処理が正常に開始しません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの方法で問題を調べることができます。

- システム・ログ・レコードを調べる
- トレースをオンにして、db2start を再度実行し、トレース・レコードを調べる

SQL5043N 1 つ以上の通信プロトコルに対するサポートを正常に開始できませんでした。ただし、コアのデータベース・マネージャーの機能は正常に開始されました。

説明: 通信プロトコル・サポートが、1 つ以上のプロトコルについて正常に開始されませんでした。理由として、以下が考えられます。

- 通信サブシステムの構成エラー
- 通信サブシステムの呼び出しエラー
- データベース・マネージャーの構成エラー
- システム呼び出しの障害
- データベース・マネージャーのライセンス・エラー
- クラスター・マネージャーの呼び出しに失敗しました。

正常に開始された通信プロトコルを使用すれば、サーバーに接続することができます。ローカル・クライアントも、サーバーに接続することができます。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーが、DB2COMM 環境変数で指定されたすべての通信プロトコルを開始しようとしました。

このエラーの詳細については管理通知ログをチェックしてください。ログには、エラーの原因に関するより詳細な情報と、正常に開始されなかった通信プロトコルも入っています。

このエラーは、DB2COMM 環境変数によって指定された通信プロトコルにのみ影響を与えます。

SQL5047C この関数を実行するためのメモリーが不足しています。

説明: この関数の実行に使用できる十分なメモリーがありません。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: アプリケーションを停止してください。可能な解決方法は、以下のとおりです。

- 他の処理を終了してください。
- メモリー割り振りを定義する構成パラメーターの値を減らしてください。
- システムに十分な実メモリーおよび仮想メモリーがあることを確認してください。

SQL5048N データベース・クライアントのリリース・レベルが、データベース・サーバーのリリース・レベルでサポートされていません。

説明: データベース・クライアントは、クライアントより 1 つ低いレベルから 2 つ高いレベルまでの範囲のリリース・レベルをもつデータベース・サーバーしかアクセスできません。

ユーザーの処置: 以下の中から 1 つ以上を行ってください。

- 現在のサーバーのリリース・レベルでサポートされる範囲まで、クライアント・リリース・レベルをアップグレードしてください。
- 現在のクライアント・リリース・レベルでサポートできるレベルまで、サーバー・リリース・レベルをアップグレードしてください。

SQL5050C データベース・マネージャー構成ファイルの内容が無効です。

説明: データベース・マネージャー構成ファイルが無効です。ファイルが、テキスト・エディターまたはデータベース・マネージャー以外のプログラムで変更されている可能性があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーを再インストールしてください。

SQL5051N *qualifier* によって修飾されたオブジェクトは、スキーマ *schema-name* で作成されません。

説明: CREATE SCHEMA ステートメントで作成されたオブジェクトは、スキーマ名とは異なる *qualifier* によって修飾されています。CREATE SCHEMA ステートメントで作成されたすべてのオブジェクトは、スキーマ名 *schema-name* によって修飾されたものか、修飾されていないものかのいずれかです。修飾されていないオブジェクトは暗黙的にスキーマ名によって修飾されます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 明示的にスキーマのオブジェクトを *schema-name* で修飾するか、オブジェクト名から *qualifier* を除去してください。

sqlcode: -5051

sqlstate: 42875

SQL5055C データベース構成ファイルの内容が無効です。

説明: データベースのデータベース構成ファイルが無効です。ファイルが、テキスト・エディターまたはデータベース・マネージャー以外のプログラムで変更されている可能性があります。

ユーザーの処置: データベースを再作成するか、またはバックアップ・バージョンからリストアしてください。

sqlcode: -5055

sqlstate: 58031

SQL5060N 指定された構成パラメーター・トークンが無効です。

説明: 構成サービス API に渡された sqlfupd 構造に指定されたトークン番号が無効です。それは、サポートされているどの構成パラメーターでもありません。また、UPDATE が試みられた場合には、指定されたトークンは、変更できない構成パラメーターのものであることがあります。

ユーザーの処置: DB2 インフォメーション・センターの構成サービス API の説明で指定されているトークン番号から有効なものを選択してください。API に対する呼び出しを修正して、プログラムを再実行してください。

SQL5061N 構造 sqlfupd への無効なポインターが、構成サービスに渡されました。

説明: いずれかの構成サービス API にパラメーターとして渡された構造 sqlfupd へのポインターが無効でした。それが NULL か、または count パラメーターで示されたサイズの割り振られたメモリーのブロックを指していません。

ユーザーの処置: 構成サービス API を呼び出すコードを修正して、API 呼び出しを再実行してください。

SQL5062N sqlfupd 構造内の無効なポインターが、構成サービスに渡されました。

説明: パラメーターとして、いずれかの構成サービス API に渡された構造 sqlfupd に、無効なポインターが入っていました。ポインターが NULL か、または割り振られたメモリーのブロックを指していません。構造内の渡される各トークンは、API との間で受け渡されるフィールドに対応するポインターを持っている必要があります。

ユーザーの処置: 構成サービスを呼び出すコードを修正して、プログラムを再実行してください。

SQL5065C データベース・マネージャー構成ファイルの nodetype 値が無効です。

説明: データベース・マネージャー構成ファイルの nodetype パラメーターが無効です。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーを再インストールしてください。

SQL5066W トークン *token-name* のデータベース構成パラメーター値が切り捨てられています。

説明: データベース構成パラメーター値が、示されているトークンが含むことができる大きさを超えています。

新しいトークンがこのデータベース構成パラメーター値を表し、古いトークンに含むことができる大きさを値が超えている場合にのみ使用されます。

ユーザーの処置: このデータベース構成パラメーターとして新しいトークンを使用してください。

SQL5070N 構成コマンドの count パラメーターが無効です。これは、0 より大きくなければなりません。

説明: パラメーターとして、構成サービス API に渡される count の値は、0 より大きくなければなりません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 構成サービスを呼び出すコードを修正して、プログラムを再実行してください。

SQL5075N 構成ユーティリティが中断されました。

説明: 構成ユーティリティが割り込みを受けました。ユーザーが割り込みキー・シーケンスを押した可能性があります。

コマンドは処理されませんでした。要求した変更は行われません。

ユーザーの処置: コマンドを再サブミットしてください。

SQL5076W 更新が正常に完了しました。

NOTIFYLEVEL の現行値が原因で、一部のヘルス・モニターの通知が通知ログに発行されません。

説明: ヘルス・モニターは、通知ログと、指定された E メールおよびページ連絡先に通知を発行します。

SQL5077N

NOTIFYLEVEL の現行値の設定が低すぎるため、アラームと警告の通知を発行できません。 NOTIFYLEVEL は、アラーム通知の場合は 2 以上、警告通知の場合は 3 以上に設定する必要があります。

ユーザーの処置: データベース・マネージャー構成パラメーター NOTIFYLEVEL の値を増やしてください。

SQL5077N パラメーター *parameter* は、このサーバー・リリースの構成アドバイザーでサポートされていません。 サポートされるパラメーターには、*supported-parameters* があります。

説明: 指定されたパラメーターは、このサーバー・リリースではサポートされていません。

ユーザーの処置: このパラメーターを指定せずにコマンドを再発行するか、サポートされる別のパラメーターと置き換えてください。

SQL5081N データベース構成ファイル内の、バッファーク・プールのサイズ (*buffpage*) の入力がある有効範囲内の値ではありません。

説明: バッファーク・プール・サイズの最小値は、アクティブ・プログラムの最大数 (*maxappls*) の 2 倍です。 バッファーク・プール・サイズの最大値は、524288 (4KB ページの数) で、オペレーティング・システムによって異なります。 AIX での最大値は 51000 (Extended Server Edition は 204000) です (4KB ページ)。 HP-UX では、値が 16 から 150000 (4KB ページ) の間でなければなりません。

要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: バッファーク・プールのサイズに有効な値を指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL5083N データベース構成ファイルに指定された初期ログ・ファイル・サイズ (*logfile*) の入力がある有効範囲内にありません。

説明: 初期ログ・ファイル・サイズの値は、12 と $(2^{32} - 1)$ の間でなければなりません。

要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: 初期ログ・ファイル・サイズに有効な値を指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL5091N データベース構成ファイル内の、1 つのログ・ファイル拡張のサイズ (*logext*) の入力がある有効範囲内にありません。

説明: 1 つのログ・ファイル拡張のサイズの値は、4 から 256 の間でなければなりません。

要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: 1 つのログ・ファイル拡張のサイズに有効な値を指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL5092N データベース構成ファイル内の、ログ・ファイル拡張の最大許容数 (*logmaxext*) の入力がある有効範囲内にありません。

説明: ログ・ファイル拡張の最大許容数の値は、0 から $(2 * 10^{16})$ の間でなければなりません。

要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: ログ・ファイル拡張の最大許容数に有効な値を指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL5093N データベース・マネージャー構成ファイル内の、エージェント・ヒープのサイズの入力がある有効範囲内にありません。

説明: エージェント・ヒープのサイズの値は、2 から 85 の間でなければなりません。

要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: エージェント・ヒープのサイズに有効な値を指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL5098W デフォルト・ログ・ファイル・パスが *logfilepath* に変更されました。

説明: デフォルト・ログ・ファイル・パスが、データベース・ディレクトリーからグローバル・データベース・ディレクトリーに変更されました。

ユーザーの処置: 新しいデフォルト・ログ・ファイル・パスにログ・ファイルのための十分なディスク・スペースがあることを確認してください。 ディスクまたはパーティションが以前のデフォルト・ログ・ファイル・パスにマウントされていた場合、マウント・ポイントを新しいデフォルト・ログ・ファイル・パスに変更することを検討してください。

SQL5099N データベース構成パラメーター *parameter* によって示されている値 *value* が無効です。理由コード *reason-code*。

説明: 名前付きパラメーターの値が、以下のいずれかの理由により無効です。

1

パス・ストリングの長さが 242 バイト以上です。

- 2 パスが存在しません。
- 3 パスの 1 番目のディレクトリーに SQLNNNNN 形式の名前があります。(NNNNN は 00001 から 99999 までの値です)
- 4 正しい名前のファイルが指定されたパスに見つかりましたが、このデータベースのログ・ファイルではありませんでした。
- 5 このパスは、他のデータベースによって現在使用されています。
- 6 このパスは、他の目的のために同じデータベースによって現在使用されています。
- 7 パスによって指定された装置は、ログ・ファイルを保留するだけの大きさがありません。
- 8 ロー・デバイスを MIRRORLOGPATH、OVERFLOWLOGPATH、FAILARCHPATH、LOGARCHMETH1、または LOGARCHMETH2 として指定することはできません。
- 9 パスにアクセスできません。
- 10 パス・ストリングの長さが 206 バイト以上です。
- 11 メソッドの DISK を指定する際のターゲットは、ディレクトリーでなければなりません。
- 12 メソッドの VENDOR を指定する際のターゲットは、ディレクトリーでなければなりません。
- 13 LOGARCHMETH1 が USEREXIT または LOGRETAIN に設定されている場合、LOGARCHMETH2 は OFF に設定されていなければなりません。
- 14
- DISK または VENDOR を指定する際には、ターゲット値を指定する必要があります。
- 15 LOGARCHMETH1 構成パラメーターを LOGRETAIN または USEREXIT に設定する場合、ターゲット値は指定できません。
- 16 無効なメソッドが指定されました。有効な値には、DISK、TSM、VENDOR、USEREXIT、LOGRETAIN、および OFF があります。
- 17 データベースがロールフォワード・ペンディングになっている時に、循環ロギングに切り替えることはできません。
- 18 1 次ログ・パスがロー・デバイスの場合は MIRRORLOGPATH を指定できません。
- 19 構成パラメーターに対して指定された値が無効です。データベース構成パラメーター LOGARCHMETH2 に対して、USEREXIT と LOGRETAIN はいずれも無効な値です。
- 要求された変更は実行されません。
- ユーザーの処置:** 名前付きパラメーターに有効な値を指定して、コマンドを再サブミットしてください。
- sqlcode:** -5099
- sqlstate:** 08004
-
- SQL5100N** データベース・マネージャー構成ファイルに指定された、並行使用の可能なデータベースの数の入力が大きすぎます。
- 説明:** 要求した変更は、(1) 可能な並行データベースの許容数が大きくなりすぎるか、または (2) DB2 に許されているセグメント数が少なくなりすぎる原因になります。
- 可能な並行データベースの許容数は、DB2 に許される最大セグメント数によって制限されます。次の条件は常に真でなければなりません。
- segments >= ((number of databases * 5) + 1)
- 要求された変更は実行されません。
- ユーザーの処置:** 以下のいずれかを実行します。
- DB2 に許される最大セグメント数を増やしてください。

SQL5102C

- 可能な並行データベースの数を減らしてください。

SQL5102C 製品の *edition-name* エディションでは、**DB2 ワークロード・マネージャー (WLM)** がサポートされていません。

説明: このエディションの DB2 では、WLM ユーティリティーが提供されていません。

ユーザーの処置: IBM 担当員および認定販売店から DB2 Performance Optimization Feature のライセンス・キーを購入してください。その後、db2licm コマンドを使用してライセンスを更新します。

SQL5103N データベース構成ファイル内においてバッファー・プールのサイズ (buffpage) の入力は、アクティブ・アプリケーションの最大数 (maxappls) には小さすぎます。

説明: 要求した変更では、アクティブ・アプリケーションの最大数がバッファー・プールのサイズを超えています。次の条件は常に真でなければなりません。

```
bufferpool_size >
(active_processes の数 * 2)
```

要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: 以下のいずれか、または両方を行ってください。

- バッファー・プールのサイズを増やしてください。
- アクティブなプロセスの最大許容数を減らしてください。

SQL5112N 構成パラメーター *parameter* の値は、**0** または **1** のどちらかです。

説明: この要求は、*parameter* に与えられた値が無効のため、完了していません。

ユーザーの処置: *parameter* に指定された値が 0 または 1 であることを確認して、要求を再実行してください。

SQL5113N ALT_COLLATE は Unicode データベース用には更新できません。

説明: 代替照合シーケンス (ALT_COLLATE) データベース構成パラメーターは Unicode 以外のデータベースにのみ更新できます。Unicode データベースでは、すべての表はデータベース作成時に指定した照合シーケンスを使用して照合する必要があります。

ユーザーの処置: ALT_COLLATE データベース構成パラメーターを Unicode データベース用に更新しないでください。

SQL5120N ログの新しいパラメーターと古いパラメーターを同時に変更することはできません。

説明: 前のログ・パラメーターと新しいパラメーターの両方を変更しようとしています。アプリケーションは、現行リリースのパラメーターのみをサポートする必要があります。

要求は拒否されます。

ユーザーの処置: 現行リリースのパラメーターのみを修正して、コマンドを再試行してください。

SQL5121N データベース構成ファイルの構成オプションの項目が無効です。

説明: データベース・オプション (SQLF_DETS) に設定された値が無効です。有効な設定は 0 から 15 までです。要求された変更は実行されません。

要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: 有効なデータベース・オプションの値を指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL5122N マシン依存のチェックにより、データベースへのアクセスが拒否されました。

説明: データベースおよびデータベース構成ファイルが、コピー・プロテクトのためにアクセスできません。

ユーザーの要求は拒否されます。

ユーザーの処置: SYSADM 権限を持つユーザー ID を使用して、元のデータベースに戻り、コピー・プロテクトをオフにするよう構成ファイルを変更した後、新しいバックアップを作成します (これをデータベース・リストアに使用できます)。元のデータベースが使用できない場合は、サービス担当者に連絡してください。

SQL5123N ログ・コントロール・ファイルのアクセス中に入出力エラーが発生したために、データベース *name* を構成できません。

説明: 以下の 2 つのログ制御ファイルが存在します。

- 1 次ログ制御ファイル SQLOGCTL1.LFH
- 2 次ログ制御ファイル SQLOGCTL2.LFH

2 次ログ制御ファイルは、1 次ログ制御ファイルで問題が発生した場合に使用する 1 次ログ制御ファイルのミラー・コピーです。

指定されたデータベースで、DB2 データベース・マネージャーが 1 次ログ制御ファイルと 2 次ログ制御ファイルのいずれにもアクセスできなかったため、このエラーが戻されました。

データベース・マネージャーがどちらのログ制御ファイルにもアクセスできないため、このデータベースを使用することはできません。

要求された変更は実行されませんでした。

ユーザーの処置: データベースをバックアップ・コピーからリストアするか、またはデータベースを再作成してください。

SQL5124N DB2 は、1 つ以上のパーティションのデータベース構成の更新またはリセットに失敗しました。理由コード *reason-code*

説明: DB2 は、高速コミュニケーション・マネージャー (FCM) メッセージを使用して更新またはリセットの要求をブロードキャストします。完全に初期化されていないと、db2start コマンドを発行した直後に FCM 通信が失敗する可能性があります。

可能性のある理由コードの値は、以下のとおりです。

1

少なくとも 1 つのパーティションの更新またはリセットが失敗したため、データベース構成は変更されませんでした。詳細については、db2diag ログ・ファイルを参照してください。

2

少なくとも 1 つのパーティションの更新またはリセットが失敗したため、ノード間でデータベース構成が不整合です。詳細については、db2diag ログ・ファイルを参照してください。

ユーザーの処置: 理由コードに対応するユーザー応答は、以下のとおりです。

1

すべてのパーティションが稼働中であることを確認してから、要求を再サブミットしてください。

2

すべてのパーティションが稼働中であることを確認してください。要求を再サブミットするか、構成の更新内容を確認して、すべてのパーティションに手動で適用してください。

SQL5125N グローバル・データベース構成パラメーター *parameter-name* に対する更新操作が指定されたメンバーに適用できませんでした。

説明: グローバル・データベース構成パラメーターの値

は、DB2 pureCluster インスタンス全体で共有されません。

グローバル・データベース構成パラメーターの値はすべてのメンバーで同じでなければなりません。このエラー・メッセージは、MEMBER 節を指定した UPDATE DB CFG コマンドを使用してグローバル・データベース構成パラメーターの値を特定のメンバーに適用しようとするときに返されます。

ユーザーの処置: MEMBER 節を指定しない UPDATE DB CFG コマンドを使用して更新操作を発行してください。この値は、DB2 pureCluster インスタンスのすべてのメンバーに適用されます。

sqlcode: -5125

sqlstate: 5U053

SQL5126N *node-type-code* のノード・タイプに無効なデータベース・マネージャー構成パラメーター *parm* を変更しようとしてしました。

説明: 示されたノード・タイプに無効なデータベース・マネージャー構成パラメーターの変更が試みられました。"<node-type-code"> は、以下のように定義されます。

- 1 ローカルとリモート・クライアントを持つデータベース・サーバー
- 2 クライアント
- 3 ローカル・クライアントを持つデータベース・サーバー
- 4 ローカルおよびリモート・クライアントを持つ、パーティション・データベース・サーバー
- 5 ローカル・クライアントを持つサテライト・データベース・サーバー

要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: 示されたノード・タイプに有効なパラメーターを指定して、要求の再サブミットを行ってください。

SQL5130N 構成パラメーター *parameter* に指定された値は、*start-of-range* から *end-of-range* の有効範囲内にありません。

説明: *parameter* の値が有効な範囲内にないために、この要求は行われていません。

ユーザーの処置: *parameter* の指定された値が有効範囲内にあるか確認し、要求を再試行してください。

SQL5131N 構成パラメーター *parameter* に指定された値は、有効な範囲内にありません。有効範囲は "-1" か、または *start-of-range* から *end-of-range* の間です。

説明: *parameter* の値が有効な範囲内にないために、この要求は行われていません。

ユーザーの処置: *parameter* の指定された値が有効範囲内にあるか確認し、要求を再実行してください。

SQL5132N 構成パラメーター *parameter* が NULL か、あるいは長すぎます。最大長は *maximum-length* です。

説明: 構成パラメーターが設定されていないか、または長すぎます。

ユーザーの処置: 構成パラメーターの値を、示された最大長内に変更してください。

SQL5133N 構成パラメーター *parm* の値 *value* が無効です。有効な値のセットは *value-list* です。

説明: *value* は、構成パラメーター *parm* に指定されている値です。この値は、*value_list* に示されている有効な値の 1 つではありません。

これらの値の意味については、DB2 インフォメーション・センター (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2luw/v9>) を参照してください。

ユーザーの処置: 構成パラメーターの値を、有効なリストに示されている値のいずれかに変更してください。

SQL5134N 構成パラメーター *tpname* には無効な文字が含まれています。

説明: *tpname* の 1 つ以上の文字が、有効範囲にありません。*tpname* の文字は、以下のいずれかでなければなりません。

- A - Z
- a - z
- 0 - 9
- \$
- #
- @
- . (ピリオド)

ユーザーの処置: *tpname* を変更して、コマンドまたは関数呼び出しを再実行してください。

SQL5135N 構成パラメーターの *maxlocks* と *maxappls* の設定は、ロック・リスト・スペースのすべてを使用するわけではありません。

説明: アクティブ・プロセス数 (*maxappls*) に、アプリケーションごとのロック・リスト・スペースのパーセントの最大値 (*maxlocks*) を掛けた値は、100 以上でなければなりません。つまり、以下のようになります。

$\text{maxappls} * \text{maxlocks} \geq 100$

これで、割り振られたすべてのロック・リスト・スペースを使用できます。

ユーザーの処置: *maxappls*、*maxlocks*、またはその両方の設定を増やしてください。

SQL5136N データベース・マネージャー構成ファイル内のデフォルトのデータベース・パス (*dftdbpath*) の入力が無効です。

説明: *dftdbpath* によって無効な値が指定されました。UNIX ベース・システムのデフォルト・データベース・パスの規則は以下のとおりです。

1. パスはオペレーティング・システムの命名規則に従わなければならない。
2. パスは存在しなければならない。
3. パスは 215 文字以下でなければならない。

他のプラットフォームの規則は以下のとおりです。

1. パスはドライブ名でなければなりません。
2. ドライブが存在しなければなりません。

ユーザーの処置: *dftdbpath* を変更して、コマンドまたは関数呼び出しを再実行してください。

SQL5137N データベース・マネージャー構成ファイル内の診断ディレクトリー・パス (*diagpath*) の入力が無効です。

説明: 指定された診断ディレクトリー・パスが無効とされる理由はいくつかあります。

- 指定されたパスが、サポートされているオペレーティング・システムの命名規則に従っていない。
- パスが存在しません。
- そのパスが代替診断パスと同じパスに設定された。
- 指定されたパスが読み取り専用になっている。

ユーザーの処置: *diagpath* を変更して、コマンドまたは関数呼び出しを再実行してください。

SQL5140N データベース・マネージャー構成パラメーター "authentication" の項目は、**SERVER**、**CLIENT**、**DCE**、**KERBEROS**、**SERVER_ENCRYPT**、**DCE_SERVER_ENCRYPT**、または **KRB_SERVER_ENCRYPT** のいずれかでなければなりません。

説明: 構成パラメーター "authentication" として許可されている値は以下のとおりです。

- SERVER = 0
- CLIENT = 1
- DCE = 3
- SERVER_ENCRYPT = 4
- DCE_SERVER_ENCRYPT = 5
- KERBEROS = 7
- KRB_SERVER_ENCRYPT = 8

要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: "authentication" に有効な値を使用して、コマンドを再実行してください。

SQL5141N 構成パラメーター **avg_appls** が範囲を超えています。有効な範囲は 1 から **maxappls** の値までです。

説明: **avg_appls** の許容範囲は、1 から **maxappls** の値までです。

要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: 以下の中から 1 つ以上を行ってください。

- **avg_appls** の値を、有効な範囲の値に変更してください。
- **maxappls** の値をもっと大きな値にした後で、もう一度 **avg_appls** を設定してください。

SQL5142N 構成パラメーター **agentpri** が有効範囲にありません。

説明: **agentpri** の有効な値は -1 か、または 3 桁の数字で、最初の桁が 2 から 4 までの範囲の優先順位クラス、最後の 2 桁がクラス内の 00 から 31 までの範囲の優先順位レベルです。優先順位クラスは、以下のよう定義されています。

- | | |
|---|-------------------|
| 2 | REGULAR |
| 3 | TIMECRITICAL |
| 4 | FOREGROUND SERVER |

たとえば、番号 304 は、優先順位レベル 4 を持つ優先順位クラス 3 (TIMECRITICAL) に対応します。

ユーザーの処置: 構成パラメーターの値を、有効範囲内の値に変更してください。

SQL5144W パラメーターの更新は有効になりましたが、データベース構成パラメーター **SELF_TUNING_MEM** が ON に設定されるまで、**AUTOMATIC** パラメーターのセルフチューニングが行われません。

説明: **AUTOMATIC** メモリー・パラメーターのセルフチューニングは、**SELF_TUNING_MEM** が OFF に設定されている場合はアクティブではありません。

ユーザーの処置: データベース構成パラメーター **SELF_TUNING_MEM** を ON に更新して、**AUTOMATIC** メモリー・パラメーターのセルフチューニングを有効にしてください。

SQL5145W パラメーターの更新は有効になりましたが、**AUTOMATIC** に設定されているパラメーターまたはバッファ・プール数が十分でないため、**AUTOMATIC** メモリー・パラメーターのチューニングが非アクティブ化されました。

説明: 2 つ以上のチューニング可能なパラメーターまたはバッファ・プールが **AUTOMATIC** に設定されており、**SELF_TUNING_MEM** が ON である場合に、**AUTOMATIC** メモリー・パラメーターのセルフチューニングはアクティブになります。セルフチューニングはアクティブになっていましたが、構成を更新したことが原因で非アクティブ化されました。

ユーザーの処置: 1 つ以上のチューニング可能なパラメーターまたはバッファ・プールが **AUTOMATIC** に設定されると、**AUTOMATIC** メモリー・パラメーターのセルフチューニングは再開します。

SQL5146W *Parameter_2* が *Parameter_3* のとき、*Parameter_1* は *Parameter_3* に設定されている必要があります。*Parameter_1* は *Parameter_3* に設定されています。

説明: *Parameter_2* が **AUTOMATIC** であれば、*Parameter_1* も同様に **AUTOMATIC** に設定する必要があります。このために、*Parameter_1* は **AUTOMATIC** に設定されました。

ユーザーの処置: *Parameter_1* が DB2 により **AUTOMATIC** に設定されました。このパラメーターを異なる値に設定するには、db2 update database configuration コマンドの **MANUAL** オプションを使用し

SQL5147N

て、最初に *Parameter_2*、続いて *Parameter_1* を特定の値に設定してください。

SQL5147N *Parameter_2* が **AUTOMATIC** である場合、*Parameter_1* を **MANUAL** に設定できません。

説明: *Parameter_2* が **AUTOMATIC** であれば、*Parameter_1* も同様に **AUTOMATIC** にする必要があります。

ユーザーの処置: *Parameter_1* を別の値に設定するには、まず *Parameter_2* を **AUTOMATIC** 以外の値に設定する必要があります。

SQL5148W データベース構成パラメーター *config_param* が正常に **AUTOMATIC** に更新されましたが、データベース・マネージャ・パラメーター **SHEAPTHRES** が **0** に設定されるまで、*config_param* のセルフチューニングが有効になりません。

説明: データベース構成パラメーター *config_param* のセルフチューニングが許可されるのは、データベース・マネージャ構成パラメーター **SHEAPTHRES** が **0** に設定されている場合のみです。

ユーザーの処置: データベース構成パラメーター *config_param* のセルフチューニングを有効にする場合は、データベース・マネージャ構成パラメーター **SHEAPTHRES** を **0** に設定してください。

SQL5150N 構成パラメーター *parameter* に指定された値は、*minimum-value* の最小許可可能値以下です。

説明: この要求は、*parameter* に与えられた値が小さすぎるため、完了していません。*parameter* は *minimum value* 以上でなければなりません。

ユーザーの処置: *parameter* の指定された値が有効範囲内にあるか確認し、要求を再試行してください。

SQL5151N 構成パラメーター *parameter* に指定された値は、*minimum-value* の最小許可可能値以下および **-1** ではありません。

説明: この要求は、*parameter* に与えられた値が無効のため、完了していません。*parameter* は、許容値 **-1** か、または *minimum value* 以上でなければなりません。

ユーザーの処置: *parameter* の指定された値が有効範囲内にあるか確認し、要求を再試行してください。

SQL5152N 構成パラメーター *parameter* に対して指定された値が *maximum-value* の最大許可値より大きくなっています。

説明: この要求は、*parameter* に与えられた値が大きすぎるため、完了していません。*parameter* は *maximum value* 以下でなければなりません。

ユーザーの処置: *parameter* の指定された値が有効範囲内にあるか確認し、要求を再試行してください。

SQL5153N 次のリレーションシップが違反している恐れがあるため更新を完了できません:
condition

説明: 有効な構成ファイルは次のリレーションシップを保守していません。

condition

更新要求は、構成の結果がリレーションシップに違反しているため、完了できませんでした。

ユーザーの処置: 要求を再サブミットし、適切なりレーションシップであるか確認してください。

SQL5154N "認証" と *parameter* の構成値の組み合わせが要求されましたが、それは許可されません。理由コード = *reason-code*。

説明: 理由コードに対応する説明は、以下のとおりです。

- このデータベース・マネージャ構成パラメーター "authentication" は、*parameter* の値が非デフォルトの場合、値 "CLIENT" がなくてはなりません。
- データベース・マネージャ構成パラメーター *parameter* の設定の前に、データベース・マネージャ構成パラメーター **AUTHENTICATION** または **SRVCON_AUTH** を **GSSPLUGIN** または **GSS_SERVER_ENCRYPT** に更新することはできません。
- データベース・マネージャ構成パラメーター *parameter* の設定の前に、データベース・マネージャ構成パラメーター **AUTHENTICATION** または **SRVCON_AUTH** を **KERBEROS** または **KRB_SERVER_ENCRYPT** に更新することはできません。

要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: 理由コードに対応するユーザー応答は、以下のとおりです。

- 有効な構成パラメーターの値の組み合わせを使用して、コマンドを再度実行してください。

2. データベース・マネージャー構成パラメーター *parameter* を設定してから、ステートメントを再サブミットしてください。
3. データベース・マネージャー構成パラメーター *parameter* を設定してから、ステートメントを再サブミットしてください。

SQL5155W 更新が正常に完了しました。 **SORTHEAP** の現行値がパフォーマンスに好ましくない影響を及ぼす可能性があります。

説明: SORTHEAP の値が、現在、ソートしきい値の半分より大きい値になっています。ソートしきい値はデータベース・マネージャー構成パラメーター SHEAPTHRES の値であり、SHEAPTHRES が 0 に設定されている場合、これはデータベース・マネージャー構成パラメーター SHEAPTHRES_SHR の値になります。これは、パフォーマンスが最適状態より悪くなる原因となる可能性があります。

ユーザーの処置: ソートしきい値の値を増やすか、またはソートしきい値が少なくとも SORTHEAP の 2 倍の大きさになるように SORTHEAP の値を減らす、あるいはその両方を行ってください。

大きい方の比率が、たいていの場合、望ましい値です。構成パラメーターの調整の推奨については、「管理ガイド」を参照してください。

SQL5156N データベース・マネージャー構成パラメーター "trust_allclnts" の値は、**NO**、**YES**、または **DRDAONLY** のいずれかでなければなりません。

説明: 構成パラメーター "trust_allclnts" として許可されている値は以下のとおりです。

- NO = 0
- YES = 1
- DRDAONLY = 2

要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: "trust_allclnts" に有効な値を使用して、コマンドを再実行してください。

SQL5160N 現在、*parameter* を更新することはできません。このパラメーターの操作は現在ペンディング中です。このパラメーターに対して新しい更新を適用するには、その前にすべてのアプリケーションをデータベースから切断し、データベースを再アクティブ化する必要があります。

説明: クラスタ環境では、このデータベース構成パラ

メーターはペンディング操作を 1 つしか持つことができません。データベースの再アクティブ化の際に、クラスタ・マネージャーとデータベースの間で整合性が取れるようにクラスタ・リソースが更新されます。

ユーザーの処置: データベース構成パラメーターの他の更新を可能にするには、すべてのアプリケーションがデータベースから切断されていることを確認して、DB2 CONNECT TO コマンドを発行してください。データベースが明示的にアクティブ化された場合は、これを非アクティブ化し、再びアクティブ化してください。

SQL5161N 次の **DB2START** コマンドまでは、*parameter* を更新できません。

説明: クラスタ環境では、前のリソースが削除された後で、データベース・マネージャー構成パラメーターの更新を実行できます。整合性を維持するために、データベース・マネージャーの再始動時にクラスタ・リソースが削除されます。

ユーザーの処置: データベース・マネージャー構成パラメーターの更新を可能にするには、サーバーに対して DB2STOP および DB2START を発行してください。

SQL5162N **db2dsdriver.cfg** 構成ファイルに含まれるパラメーター *parameter1* の値がパラメーター *parameter2* と同じですが、これらのパラメーターを同じ値にすることはできません。

説明: db2dsdriver.cfg 構成ファイルにはデータベース情報が含まれており、以下のドライバーおよびクライアントがこのファイルを使用します。

- IBM Data Server Driver for ODBC and CLI
- IBM Data Server Driver Package
- DB2 バージョン 9.7 の場合: CLI およびオープン・ソース・アプリケーションでは、IBM Data Server Client および IBM Data Server Runtime Client

db2dsdriver.cfg ファイル内の情報は、IBM Data Server Client または IBM Data Server Runtime Client 上のシステム・データベース・ディレクトリー内にある情報と類似しています。

クライアント・ドライバー構成ファイルでは、これらのパラメーターを同じ値にすることができません。1 つのパラメーターに true を指定した場合、他方には false を指定する必要があります。

ユーザーの処置:

1. 2 つのパラメーターの値が同じにならないように、db2dsdriver.cfg ファイル内のいずれか 1 つのパラメーターの値を変更してください。

SQL5163N

2. 新しい db2dsdriver.cfg ファイルの設定を有効にするには、アプリケーション・プロセスを停止して再始動します。

SQL5163N 必要な構成パラメーター *parameter* が db2dsdriver.cfg 構成ファイルの中にありません。

説明: db2dsdriver.cfg 構成ファイルにはデータベース情報が含まれており、以下のドライバーおよびクライアントがこのファイルを使用します。

- IBM Data Server Driver for ODBC and CLI
- IBM Data Server Driver Package
- DB2 バージョン 9.7 の場合: CLI およびオープン・ソース・アプリケーションでは、IBM Data Server Client および IBM Data Server Runtime Client

db2dsdriver.cfg ファイル内の情報は、IBM Data Server Client または IBM Data Server Runtime Client 上のシステム・データベース・ディレクトリー内にある情報と類似しています。

クライアント・ドライバー構成ファイルには、必要なすべてのパラメーターが含まれる必要があります。

ユーザーの処置:

1. 必要な構成パラメーターを db2dsdriver.cfg 構成ファイルに追加してください。
2. 新しい db2dsdriver.cfg ファイルの設定を有効にするには、アプリケーション・プロセスを停止して再始動します。

SQL5164N db2dsdriver.cfg 構成ファイルに含まれる構成グループ *group* には少なくとも 1 つのパラメーターが必要ですが、パラメーターが存在しません。

説明: db2dsdriver.cfg 構成ファイルにはデータベース情報が含まれており、以下のドライバーおよびクライアントがこのファイルを使用します。

- IBM Data Server Driver for ODBC and CLI
- IBM Data Server Driver Package
- DB2 バージョン 9.7 の場合: CLI およびオープン・ソース・アプリケーションでは、IBM Data Server Client および IBM Data Server Runtime Client

db2dsdriver.cfg ファイル内の情報は、IBM Data Server Client または IBM Data Server Runtime Client 上のシステム・データベース・ディレクトリー内にある情報と類似しています。

ユーザーの処置:

1. db2dsdriver.cfg 構成ファイル内の構成グループにパラメーターを追加します。
2. 新しい db2dsdriver.cfg ファイルの設定を有効にするには、アプリケーション・プロセスを停止して再始動します。

SQL5165N データベース構成パラメーター *parameter* によって示されている値 *value* が無効です。理由コード = *reason-code*

説明: 示されているデータベース構成パラメーターの更新が失敗しました。理由コードに対応する説明は、以下のとおりです。

1

hadr_target_list が、以下のいずれかの理由により無効です。

- ホスト項目が 255 文字を超えています。
- サービス項目が 40 文字を超えています。
- ホスト項目に無効文字が含まれています。ホスト項目には英数字、ダッシュ、および下線を含めることができます。あるいは、数値の IPv4 または IPv6 アドレス・フォーマットとすることができます。

2

3 つを超える項目が指定されました。

hadr_target_list の host:port のペアの最大数は 3 です。

4

重複した host:port のペアが項目に含まれています。

ユーザーの処置: 理由コードに対応するユーザー応答は、以下のとおりです。

1

長さまたは文字のセットが有効なストリングを使って、*hadr_target_list* 構成パラメーターを更新します。詳細については db2diag.log ファイルを調べてください。

2

最大で 3 組の host:port を指定して、*hadr_target_list* 構成パラメーターを更新します。

4

host:port の固有の組み合わせを使用して、*hadr_target_list* 構成パラメーターを更新します。

SQL5180N DB2 は、フェデレーション構成ファイル *file-name* を読み取ることができません。

説明: フェデレーテッド構成ファイルが見つからなかったか、または読み取りのためにオープンできませんでした。

ユーザーの処置: DB2_DJ_INI レジストリー変数にフェデレーション構成ファイルを指定してください。ファイルが存在し、読み取り可能であることを確認してください。ファイルのロケーションに対して完全修飾パスが指定されていることを確認してください。

SQL5181N フェデレーション構成ファイル *file-name* で、行 *line-number* の形式が無効です。

説明: 指定された行が正しい形式ではありません。項目は `<evname> = <value>` の形式に従う必要があります。ここで、`<evname>` は環境変数名で、`<value>` は対応する値です。

項目は次の制限に準拠する必要があります。

- 環境変数名が 255 バイトの最大長で指定されている。
- 環境変数値が 765 バイトの最大長で指定されている。
- ファイル内のすべての行の最大長は 1021 バイトです。この長さを超えるデータは無視されます。
- 環境変数値でファイル名またはディレクトリー名を指定する場合、名前は完全修飾名にし、以下のいずれの要素も含めないでください。
 - ~ (波形記号) のようなファイル名メタ文字。
 - \$HOME のような環境変数。

ユーザーの処置: ここで記述されている形式で指定してください。

SQL5182N 必須環境変数 *variable-name* が設定されていません。

説明: フェデレーテッド構成ファイル db2dj.ini において、環境変数 *variable-name* がリストされていないか、あるいはリストされていても値がありません。

ユーザーの処置: フェデレーテッド構成ファイルの更新については、フェデレーションについての資料を参照してください。

SQL5185N *server-type* データ・ソースへのパススルーはサポートされていません。

説明: パススルー機能は、*server-type* データ・ソースにアクセスするために使用できません。

ユーザーの処置: 必要ありません。

sqlcode: -5185

sqlstate: 428EV

SQL5186N 指定された DB2 環境変数、DB2 レジストリー変数、または DB2 構成パラメーターが廃止されたため、DB2 環境の構成は失敗しました。変数名またはパラメーター名: *variable-or-parameter-name*

説明: 廃止された DB2 環境変数、DB2 レジストリー変数、DB2 データベース・マネージャー構成パラメーター、または DB2 データベース構成パラメーターを設定することにより DB2 環境の構成を試行すると、このメッセージが返されます。

ユーザーの処置:

1. DB2 インフォメーション・センターで関連情報を確認することにより、構成の際に他の変数またはパラメーターを使用して同じ目的を達成する方法を調べます。
2. 構成の際に異なる変数またはパラメーターを使用して同じ目的を達成するため、自動化スクリプトおよびアプリケーションを更新します。

SQL5187N 同じ名前の接続プロシージャがデータベースに対して定義されているため、プロシージャ *procedure-name* に対する *operation-type* 操作は許可されません。

説明: データベース構成パラメーター CONNECT_PROC を使用してデータベースに定義された接続プロシージャと同じ名前のプロシージャに対しては、操作が制限されます。接続プロシージャ自体を直接、または CREATE OR REPLACE 操作の結果として変更したりドロップしたりすることはできません。プロシージャのシグニチャーが異なっても、同じ名前のプロシージャを新規作成することはできません。

ユーザーの処置: 新しいプロシージャを作成している場合は、別のプロシージャ名を使用するか、別のスキーマを使用してください。現在使用している接続プロシージャを変更またはドロップする必要がある場合、CONNECT_PROC データベース構成パラメーターの値を別のプロシージャ名または空ストリングに変更する必要があります。

sqlcode: -5187

sqlstate: 429C8

SQL5188N タイプ *access-control-type* のオブジェクト *name* に無効のマークが付いているため、このステートメントは失敗しました。

説明: SQL ステートメントにおいて行または列のアクセス制御を適用する必要があり、列マスクまたは行許可のいずれかに現在無効のマークが付いているため、ステートメントは実行できませんでした。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: SECADM 権限を持つユーザーが以下のいずれかを行う必要があります。

- 列マスクまたは行許可をドロップします。その後必要に応じてそれを再作成します。
- CREATE または REPLACE ステートメントを発行して無効なオブジェクトを再作成します。

sqlcode: -5188

sqlstate: 560D0

SQL5189N 指定されたパスが無効であるために、代替診断ディレクトリー・パスは設定されませんでした。 *alternate-diagpath*

説明: *diagpath* 構成パラメーターによって指定された 1 次診断パスが使用できない場合にも診断ログを続行できるようにするために、*alt_diagpath* 構成パラメーターで代替診断ディレクトリー・パスを指定します。1 次パスが使用不可になると、代替診断パスに切り替わります。1 次診断パスが再び使用可能になると、ロギングは 1 次診断パスで再開されます。

指定された代替診断ディレクトリー・パスが無効とされる理由はいくつかあります。

- パスが存在しません。
- そのパスが 1 次診断パスと同じパスに設定された。
- 指定されたパスが、サポートされているオペレーティング・システムの命名規則に従っていない。
- 指定されたパスが読み取り専用になっている。

ユーザーの処置: 使用する予定の代替診断ディレクトリー・パスが使用可能であることを検証して、パスを設定してください。回復力を高めるには、*diagpath* 構成パラメーターと *alt_diagpath* 構成パラメーターでは、常に異なるファイル・システムを使用すべきです。

SQL5190I 1 次診断ディレクトリー・パスと代替診断ディレクトリー・パスが同じファイル・システムを使用しています。

説明: *diagpath* 構成パラメーターによって指定された 1 次診断ディレクトリー・パスが使用できない場合にも診

断ロギングを続行できるようにするために、*alt_diagpath* 構成パラメーターで代替診断ディレクトリー・パスを指定します。

単一のファイル・システムの問題によって両方の診断ディレクトリー・パスが影響を受ける障害シナリオを回避するため、別々のファイル・システムを指す 1 次および代替診断ディレクトリー・パスを指定してください。

ユーザーの処置: パラメーターは正常に設定されましたが、*diagpath* および *alt_diagpath* 構成パラメーターに対して別々のファイル・システムを使用することで、ロギングの回復力をさらに向上できます。

SQL5191W データ変更操作のターゲットは表 *table-name* で、それには期間 *period-name* が含まれています。操作によって、その期間の記録時間値が調整されました。

説明: 表 *table-name* はシステム期間テンポラル表です。この表には、期間 *period-name* が含まれています。要求されたデータ変更操作の実行結果として、その期間の記録時間値が調整されました。これは、以下のいずれかの理由によるものと考えられます。

- 2 つのトランザクションが同じ行にアクセスしている。最初に開始されたトランザクション内のステートメントが、2 番目のトランザクション内のステートメントにより既に変更された行を更新したり削除したりしようとしています。この結果、行開始列のタイム・スタンプ値は、2 番目のトランザクションの開始時刻になります。このようなタイム・スタンプ値は、最初のトランザクション内のステートメントが使用したはずのタイム・スタンプ値より後の時点を指します。
- システム期間テンポラル表にデータがロードされ、行開始列に生成値をオーバーライドする値がロードされた。行開始列にロードされた値は、実行されたトランザクションが使用したはずのタイム・スタンプよりも後の時点のものでした。

更新操作では、調整によってその期間の開始列と終了列の両方が影響を受ける可能性があります。削除操作では、調整によって影響を受けるのはその期間の終了列のみです。

ステートメントが処理されたとき、その期間の記録時間が調整されました。

ユーザーの処置: 調整しない場合、ロールバックを発行し、トランザクションを再試行します。システム期間テンポラル表にデータがロードされ、行開始列に生成値をオーバーライドする値がロードされた場合は、行開始の時刻の値が CURRENT TIMESTAMP の値以下であるデータを消去します。そうでない場合には、アクションは不要です。

syslime_period_adj 構成パラメーターを設定すると、影響を受ける値の調整をブロックすることができます。

sqlcode: +5191

sqlstate: 01695

SQL5192W MAXIMUM DEGREE に割り当てられた値を持つワークロードにアプリケーションが割り当てられているため、ADMIN_SET_INTRA_PARALLEL への呼び出しは失敗しました。アプリケーション名: *application-name*

説明: MAXIMUM DEGREE ワークロード属性によって割り当てられたパーティション内並列処理の度合いを示す値が、ADMIN_SET_INTRA_PARALLEL への呼び出しによって割り当てられた値をオーバーライドします。

ユーザーの処置: パーティション内並列処理の度合いの制御は、ワークロードとアプリケーションの両方から試行しないでください。最良の方法を判別し、一方だけを使用します。

SQL5193N 現行セッション・ユーザーに、使用可能ワークロードの使用権限がありません。

説明: 現行セッション・ユーザーに、使用可能ワークロードの使用権限がありません。DB2 データベースへのすべての接続は、ワークロードに関連付ける必要があります。接続をワークロードに関連付けるには、接続属性がワークロードの属性と一致し、ワークロードが使用可能で、かつセッション・ユーザーにそのワークロードの使用権限があることが必要です。

ユーザーの処置: データベースにユーザー定義のワークロードがある場合、以下の手順に従います。

1. 接続のマップ先ワークロードを判別します。これは、接続の属性を調べ、それらをワークロード定義の属性と比較することによって行います。
2. 接続を関連付けるワークロードが使用可能であり、かつ現行セッション・ユーザーにそのワークロードの使用権限があることを確認します。

データベースにユーザー定義のワークロードがない場合、以下の手順に従います。

1. デフォルトのユーザー・ワークロード (名前は SYSDEFAULTUSERWORKLOAD) を使用可能に設定します。
2. このワークロードの使用権限を現行セッション・ユーザーに付与します。

sqlcode: -5193

sqlstate: 42524

SQL5194N クライアントが InfoSphere Optim Configuration Manager への接続を取得できないため、ドライバー接続が失敗しました。指定された **httpControllerURL:** *token1*。プロトコル・エラー・コード: *token2*

説明: クライアントが InfoSphere Optim Configuration Manager に接続して初期のドライバー・プロパティを取得することができないため、データ・サーバーへのドライバー接続が失敗しました。

ユーザーの処置: ドライバーの db2dsdriver.cfg 構成ファイルで、connectionSupervisorProperties グローバル・パラメーターの httpControllerURL キーワードを使用して、InfoSphere Optim Configuration Manager コントローラーを指定できます。

- InfoSphere Optim Configuration Manager コントローラーが実行されていることを確認してください。
- httpControllerURL 値が正しいことを確認してください。
- コントローラー・ポートがファイアウォールによってブロックされていないことを確認してください。
- ドライバーを InfoSphere Optim Configuration Manager で制御するつもりがない場合、httpControllerURL キーワードを db2dsdriver.cfg 構成ファイルから削除してください。

sqlcode: -5194

sqlstate: 08001

第 12 章 SQL5500 - SQL5999

SQL5500N DB2 は、ベンダーの構成ファイル *file-name* を読み取ることができません。

説明: ベンダーの構成ファイルが見つからなかったか、または読み取りのためにオープンできませんでした。

ユーザーの処置: DB2_VENDOR_INI レジストリー変数にベンダーの構成ファイルを指定してください。ファイルが存在すること、DB2 からオープンするためのファイルの許可があることを確認してください。ファイルのロケーションに対して完全修飾パスが指定されていることを確認してください。

SQL5501N ベンダーの構成ファイル *file-name* で、行 *line-number* の形式が無効です。

説明: 指定された行が正しい形式ではありません。項目は <evname> = <value> の形式に従う必要があります。ここで、<evname> は環境変数名で、<value> は対応する値です。

項目は次の制限に準拠する必要があります。

- 環境変数名が 255 バイトの最大長で指定されている。
- 環境変数値が 765 バイトの最大長で指定されている。
- ファイル内のすべての行の最大長は 1021 バイトです。この長さを超えるデータは無視されます。
- 環境変数値でファイル名またはディレクトリー名を指定する場合、名前は完全修飾名にし、以下のいずれの要素も含めないでください。
 - ~ (波形記号) のようなファイル名メタ文字。
 - \$HOME のような環境変数。

ユーザーの処置: 示されている行が直前に記述した形式と一致していることを確認してください。

第 13 章 SQL6000 - SQL6499

SQL6000N QMF データの DB2 変換。

説明: これは正常終了メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL6001N これは、データベース・マネージャーでの異常終了ではありません。

説明: SQLQMF 機能コマンドが使用されず、直接 SQLQMF 機能のモジュールが実行されました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 提供されている SQLQMF 機能コマンドを使用してください。

SQL6002N プログラム名と CS:IP パラメーターの両方を指定してください。

説明: コミュニケーション・マネージャーが、ホスト・ファイルをダウンロードしている時にエラーを見つけました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: コミュニケーション・マネージャー・メッセージ・ログを調べてください。

SQL6003N CS:IP パラメーターが無効です。

説明: 計算された行のサイズ (計算された列のサイズの合計) が、最大値の 7000 バイトを超えています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: QMF ホスト・セッションに戻って、データ列の少ない照会を実行してください。再度データを EXPORT (エクスポート) した後で、SQLQMF 機能コマンドを発行してください。

SQL6004N *function* が予期しない戻りコード *code* を返しました。

説明: 処理中に、予期しないエラーが起きました。 コミュニケーション・マネージャーまたは DB2 が、正しくインストールされていないか、または正しく構成されていない可能性があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: コミュニケーション・マネージャーがインストールされ、適切なホスト通信セッションがアクティブになっていることを確認してください。他のエ

ラーの有無をチェックして、コマンドを再試行してください。問題が続く場合は、コミュニケーション・マネージャーのシステム管理者に連絡してください。

SQL6005N ダウンロードされた QMF ファイルの読み取り中に、エラーが発生しました。

説明: 次のいずれかの状態が発生しました。

- ファイルをオープンできません。
- 早すぎるファイルの終わりが見つかりました。
- ファイルの読み取り中に、入出力エラーが起きました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: コミュニケーション・マネージャー・メッセージ・ログを調べてください。コマンドを再試行してください。エラーが続く場合は、コミュニケーション・マネージャーのシステム管理者に連絡してください。

SQL6006N 出力ファイルへの書き込み中に、エラーが発生しました。

説明: 次のいずれかの状態が発生しました。

- データを書き込む C: ドライブに、十分なスペースがありません。
- 出力ファイルがオープンできませんでした。
- ファイルの書き込み中に、入出力エラーが起きました。
- ファイルをクローズするときに、入出力エラーが発生しました。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合:
db2djlink 出力を保留するために十分なスペースがありません。db2djlink が作成し、使用する一時ファイルには、さらにスペースが必要です。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: C: ドライブ上に、十分なディスク・スペースがあることを確認してください。コマンドを再試行してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: フェデレーテッド・サーバーがインストールされているファイル・システムのサイズを増やしてください。AIX オペレーティング・システムで db2djlink に必要なフリー・ス

SQL6007N

ページの量を見積もるには、次のコマンドを実行します。

```
ls -e /  
install_directory/lib/libdb2euni.a
```

このコマンドはリストされたファイルに使用されているバイト数を返します。その数値を 3 倍にしてください。その結果が、ファイル・システムに必要なフリー・スペースの見積値です。必要に応じてファイルシステムのサイズを増加し、コマンドを再実行してください。

SQL6007N 行 *row*、列 *column* の 10 進数値を ASCII に変換できません。

説明: 示されている 10 進数フィールドが変換できませんでした。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ホスト列のデータ・タイプが DECIMAL であることを確認してください。QMF EXPORT を再実行した後で、再度 SQLQMF 機能 コマンドを発行してください。エラーが続く場合は、示された列を使用しないで QMF 照会を再実行してください。

SQL6008N コマンドに指定されたファイルは QMF データ・フォーマットではありません。

説明: *filename* パラメーターによって指定されたファイルが、予期された QMF フォーマットではありません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 名前を正しくタイプしたことを確認してください。名前が正しい場合は、QMF ホスト・セッションに戻って、コマンド EXPORT DATA TO *filename* を再発行してください。QMF データ・フォーマットを使用して、エクスポートする必要があります。

SQL6009N QMF からエクスポートされたファイルに、長すぎる幅 *width* の列 *name* があります。列の最大幅は 4000 バイトです。

説明: ダウンロードされた QMF ファイルが、4000 バイトを超す幅を持つ列を含んでいます。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: QMF ホスト・セッションに戻り、示された列を指定せずに QMF 照会を再実行して、もう一度データをエクスポートしてください。その後で、SQLQMF 機能コマンドを再実行してください。

SQL6010N ダウンロードされた QMF ファイルには、255 を超えるデータ列があります。

説明: 処理されているファイルには、256 以上のデータ列が入っています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: QMF ホスト・セッションに戻り、データ列を 255 以下にして照会を再実行してください。再びデータを EXPORT (エクスポート) して、SQLQMF 機能コマンドを再実行してください。

SQL6011N 列 *name* (*number* 列目) のデータ・タイプ *number* (*type-text*) は処理できません。

説明: QMF ファイルに、サポートされていないデータ・タイプの列が入っています。

SQLQMF 機能は以下のデータ・タイプをサポートしていません。

- LONG VARCHAR
- LONG VARGRAPHIC

SQLQMF 機能 SQLQMFDB のみが、GRAPHIC データ・タイプをサポートします。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: QMF ホスト・セッションに戻り、示された列を選択しないで照会を再実行してください。その後で、SQLQMF 機能コマンドを再実行してください。

SQL6012N コマンドに指定したパラメーターが多すぎます。

説明: コマンドに指定したパラメーターが多すぎます。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 正しい数のパラメーターを指定して、コマンドを再発行してください。

SQL6013N ホスト・ファイル名 *host-filename* が長すぎるか、または英字で始まっていません。

説明: *host filename* が英字で始まっていないか、またはホストが VM システムの場合は *host filename*、*filetype*、または *filemode* が長すぎます。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 正しい *host filename* 構文を使用して、コマンドを再発行してください。

SQL6014N 無効なコマンド構文、コロンの(:)をキーワードの後に続ける必要があります。

説明: オペランドを持つキーワード・パラメーターには、すぐ後に“:”文字が続き、その後にオペランドが続くキーワードが必要です。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: コマンド構文を確認して、コマンドを再発行してください。

SQL6015N キーワードが認識されません。

説明: キーワード・パラメーター標識 (“”) の後に、キーワードではない値が続いています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 別のキーワードの値を使用して、コマンドを再発行してください。

SQL6016N システム/370 ファイル名 *name* のオペランドが多すぎます。

説明: ホストが VM システムの場合は、ホスト・ファイル名に、4 つ以上のスペース分離トークンが入っています。ホストが MVS システムの場合は、ホスト・ファイル名に、組み込みブランクが入っています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 別のキーワードの値を使用して、コマンドを再発行してください。

SQL6017N 追加情報が、インポート・メッセージ・ログ *name* に含まれている可能性があります。

説明: データベースの IMPORT 操作が、警告またはエラー・メッセージとともに終了しました。

コマンドは作業ファイルを割り振ったまま残しています。

ユーザーの処置: このメッセージに先行するメッセージと、存在する場合は、IMPORT メッセージ・ログを使用して、IMPORT が成功したかどうかを判別し、修正アクションを決定してください。インポートが成功した場合は、DEL、CRE、COL、IML ファイルを消去してください。

SQL6018N S/370 ファイル名が指定されていません。

説明: S/370 ファイル名は必須パラメーターです。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ホスト・ファイル名を指定して、コマンドを再発行してください。

ンドを再発行してください。

SQL6019N 通信簡略セッション ID *ID* が長すぎるか、または無効です。

説明: 通信簡略セッション ID に指定された値が、1 バイトより長い、または英字ではありません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効な値を使用して、コマンドを再発行してください。

SQL6020N データベース名を指定せずに、インポート・オプションが指定されました。

説明: データベース名が指定されずに、インポート・オプションが指定されました。

コマンドは終了します。

ユーザーの処置: データベース名を指定して、コマンドを再発行してください。

SQL6021N データのインポートが成功しました。

説明: これは、SQLQMF 機能がデータをデータベースにインポートしたときの通常の終了メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

SQL6022N システム・データベース・ディレクトリは、すべてのノードによって共有されていません。

説明: すべてのノードが、システム・データベース・ディレクトリの 1 つの物理コピーにアクセスする必要があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: sqllib ディレクトリに常駐するすべてのノードがシステム・データベース・ディレクトリにアクセスしていることを確認して、要求を再試行してください。

SQL6023N このユーザーは、表 *name* で Get Table Partitioning Information ユーティリティを実行する権限を持っていません。

説明: 適切な許可 (DBADM 権限、あるいは表に対する CONTROL または SELECT 特権) を持たないユーザーが、指定された表のパーティション情報を取得しようとした。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 適切な許可を持たずに Get Table Partitioning Information ユーティリティを実行しよう

SQL6024C

としないでください。許可については、セキュリティ管理者に連絡して指示を求めてください。

SQL6024C 表または索引 *name* がノード *node-number* で定義されていません。

説明: アプリケーションはノード *node-number* に接続されており、表または索引 *name* が定義されていません。

原因は以下のいずれかです。

- アプリケーションが接続しているノードは、表または索引が作成されたノード・グループのメンバーではありません。
- そのノード・グループはノードを使用していません。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 表または索引が定義されたノードにアプリケーションを接続します。表が作成されたノード・グループを判別して、NODEGROUPDEF カタログ・ビューから適切な行を選択して、ノード・グループ内のノードのリストを獲得してください。IN_USE 値が Y に設定されているノードは、表または索引を定義するノードです。

SQL6025N ノード *node1* のデータベース・バックアップをノード *node2* にリストアできません。

説明: リストアに使用されるバックアップ・イメージは、データベースの別のノードでのバックアップです。

ユーザーの処置: ノードの正しいバックアップ・イメージがあるかを確認して、要求を再試行してください。

SQL6026N カタログ・ノード *node1* を伴うデータベースをカタログ・ノード *node2* を伴うデータベースにリストアできません。

説明: DB2 pureCluster 環境ではない環境では、カタログ・ノードは 1 つのノードにしか存在できませんが、バックアップ・イメージと、リストア先のノードとの間に矛盾があります。これは、次の場合発生します。

- バックアップ・イメージ指定のカタログ・ノード *node1* およびリストアを、カタログ・ノードがノード *node2* の既存のデータベースで試行しようとした。
- リストアを新規データベースで試行して、カタログ・ノードは先にリストアされませんでした。(すべてのノードでデータベースを作成するため、先にカタログ・ノードをリストアしてください。)

ユーザーの処置: 正しいバックアップ・イメージがリス

トアされていることを確認してください。

既存のデータベースにリストアしていて、カタログ・ノードを *node2* に変更する場合は、先に既存のデータベースをドロップする必要があります。

新規データベースにリストアしている場合は、カタログ・ノード *node1* を先にリストアしてください。

SQL6027N データベース・ディレクトリーのパス *path* が無効です。

説明: CREATE DATABASE または CATALOG DATABASE コマンドに指定されたパス *path* が文字 '!' で始まっているか、または文字ストリング '!' を含んでいます。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 指定されたパスが完全修飾パスで、最初の文字が '!' ではなく、文字ストリング '!' を含んでいないことを確認してください。その後、要求を再試行してください。

SQL6028N カタログ・データベースはデータベース *dbname* がローカル・データベース・ディレクトリーに見つからないため失敗しました。

説明: システム・データベース・ディレクトリーにローカル・データベースをカタログするときに、コマンド/API はデータベースが常駐するサーバー上のノードから発行される必要があります。

ユーザーの処置: データベースが常駐するノードから、コマンド/API を再度発行してください。

SQL6030N START または STOP DATABASE MANAGER が失敗しました。理由コード *reason-code*

説明: 理由コードはエラーの発生したことを示していません。ステートメントは処理できません。

1

インスタンスの sqllib ディレクトリーにアクセスできません。

2

プロファイル・ファイル名に追加した絶対パス名が長すぎます。

3

プロファイル・ファイルをオープンできません。

4

	以下の理由の場合、理由コード 4 でこのメッセージが返されます。		ホスト名の値に対応する、sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルに定義されているポート 0 がありません。
	<ul style="list-style-type: none"> DBPARTITIONNUM に指定された値が、sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルに定義されていません。 DBPARTITIONNUM または MEMBER に指定された値が有効な範囲から外れています。有効な範囲は 0 から 999 です。 	16	
5	コマンド・オプションを指定する際には、nodenum パラメーターを指定する必要があります。	17	このコマンドまたはオプション・パラメーターに指定された値が無効です。
6	ポート・パラメーター値が無効です。	18	NODENUM オプションが指定されない場合、DROP オプションは指定できません。
7	新しいホスト名/ポートの対が固有ではありません。	19	callerac パラメーターに対して指定された値が無効です。
8	QUIESCE オプションを指定する際には、FORCE オプションは指定できません。	20	UNIX ソケット・ディレクトリー /tmp/db2_<ver>_<rel> /\$DB2INSTANCE を作成できません。
9	ADD DBPARTITIONNUM オプションを使用する際には、hostname および port パラメーターを指定する必要があります。	21	ADD DBPARTITIONNUM オプションと共に指定されたノード番号は、db2nodes.cfg ファイルに既に存在します。または、データベース・マネージャーの停止コマンドが最後に発行されて以降、このノードが既に追加されています。
10	ADD DBPARTITIONNUM または RESTART オプション用に sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルを更新できません。	22	ADD DBPARTITIONNUM オプションと共に指定された表スペースのタイプが無効です。
11	ホスト名パラメーターの値が無効です。	23	ADD DBPARTITIONNUM オプションと共に指定された表スペースのノードが範囲外です。
12	sqledbstrtopt または sqledbstopopt 構造のポインターが無効です。	24	コンピューター名パラメーターを ADD DBPARTITIONNUM オプションで指定する必要があります。
13	ポートの値が、ご使用の DB2 インスタンス ID (UNIX 基底システムの /etc/services ファイル) に定義されていません。	25	ユーザー名パラメーターを ADD DBPARTITIONNUM オプションで指定する必要があります。
14	ポートの値が、ご使用の DB2 インスタンス ID (UNIX 基底システムの /etc/services ファイル) の有効ポート範囲に定義されていません。	26	コンピューター名が無効です。
15		27	ユーザー名が無効です。
			パスワードが無効です。

28	パスワードが期限切れです。	uDAPL 構成問題または uDAPL ランタイム・エラーのため、DB2 メンバーの始動に失敗しました。
29	指定されたユーザー・アカウントが無効か、期限切れか、または制限付きです。	ユーザーの処置: 理由コードに対応するアクションは、以下のとおりです。
31	クラスター相互接続ネット名パラメーターが無効です。	1 \$DB2INSTANCE ユーザー ID に、そのインスタンスの sqllib ディレクトリーにアクセスする必須許可があるか確認してください。
32	クラスター・マネージャーに対する DB2 データベース・マネージャー呼び出しが失敗しました。	2 プロファイル名の長さ完全修飾パスの長さの合計が、ファイル sqlenv.h で定義された SQL_PROFILE_SZ より小さくなるように、プロファイル名を短縮してください。
33	ID が、sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルに定義されているタイプと一致しません。	3 プロファイル・ファイルが存在しているかを確認してください。
34	QUIESCE オプションに指定された値が無効です。	4 DBPARTITIONNUM または MEMBER に有効な範囲の値 (0 から 999) を指定して、コマンドをもう一度呼び出してください。既存のデータベース・パーティションを指定する場合は、db2nodes.cfg に定義されているデータベース・パーティション番号に対応する値を DBPARTITIONNUM に指定してください。
35	QUIESCE オプションが使用される場合、member パラメーターを指定する必要があります。	5 nodenum パラメーターを指定して、コマンドを再サブミットしてください。
36	DB2 pureCluster 環境では、-fixtopology パラメーターを指定した db2iupdt コマンドを使用して、失敗した ADD または DROP 操作をリカバリーできます。この理由コードは、-fixtopology パラメーターを指定して db2iupdt コマンドが呼び出されましたが、クラスター・キャッシング・ファシリティーが失敗した ADD または DROP 操作を検出しなかった場合に返されます。トポロジーの修正が必要ないため、db2iupdt ユーティリティーがデータベースを停止しようとしたときに、STOP コマンドが失敗しました。	6 ポート値が 0 と 999 の間にあることを確認してください。値が指定されない場合、そのポート値は デフォルト値の 0 にセットされます。
37	指定された新規メンバーまたは CF のトランスポート・タイプが、db2nodes.cfg ファイルの netname フィールドで定義された既存のメンバーと CF で使用されるトランスポート・タイプと一致しません。	7 sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルに新規のホスト名/ポートの対がまだ定義されていないことを確認してください。
38		8 QUIESCE オプションを指定するときに FORCE オプションを指定しないでください。
		9 ADD DBPARTITIONNUM オプションを指定する際には、ホスト名およびポートの値を必ず指定してください。
		10

- \$DB2INSTANCE ユーザー名にそのインスタンスの sqllib ディレクトリーへの書き込みアクセス、十分なディスク・スペースがあり、ファイルが存在しているかを確認してください。
- 11 指定されたホスト名がシステムに定義されているかを確認してください。
- 12 ポインターが NULL ではなく、sqlepstr() API の sqledbstrtopt を指しているか、または、sqlepstr() API の sqledbstopopt 構造を指していることを確認してください。
- 13 サービス・ファイル (UNIX 基底システムの /etc/services) にご使用の DB2 インスタンス ID の項目が入っているかを確認してください。
- 14 ご使用のインスタンスのサービス・ファイル (UNIX 基底システムの /etc/services) に定義されているポート値のみを使用しているかを確認してください。
- 15 すべてのホスト名値に対し、再始動オプション・パラメーターの入った sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルでポート 0 が定義されていることを確認してください。
- 16 オプション・パラメーターの指定された値が有効範囲内にあるか確認してください。
- 17 DROP オプションを指定するときには ADD DBPARTITIONNUM オプションを指定してください。
- 18 callerac パラメーターに対して指定された値が有効範囲内にあるか確認してください。
- 19 すべての中間ディレクトリー /tmp/db2_<ver>_<rel>/ \$DB2INSTANCE を作成できるかどうか確認するために、/tmp ファイル・システムの許可をチェックしてください。
- 20 正しいノード番号を指定しているかどうか確認してください。 データベース・マネージャーを停止して、db2nodes.cfg ファイルを、前出のデータベース・マネージャー停止コマンド以降にシステムに追加されたノードで更新してください。
- 21 表スペース・タイプに対して指定された値が有効範囲内にあるか確認してください。
- 22 db2nodes.cfg ファイルに表スペース・ノード値が定義されており、その値が 0 と 999 の間であることを確認してください。
- 23 COMPUTER オプションを使用して、新規ノードを作成するシステムのコンピューター名を指定してください。
- 24 USER および PASSWORD オプションを使用して、新規ノードの有効なドメイン・アカウント・ユーザー名とパスワードを指定してください。
- 25 有効なコンピューター名を使用して、コマンドを再サブミットしてください。
- 26 有効なユーザー名を使用して、コマンドを再サブミットしてください。
- 27 有効なパスワードを指定して、コマンドを再サブミットしてください。
- 28 アカウント・パスワードを変更/更新して、コマンドを再サブミットしてください。
- 29 有効なユーザー・アカウントを使用して、コマンドを再サブミットしてください。
- 31 クラスタ相互接続ネット名の長さが SQL_HOSTNAME_SZ の長さを超えないことを確認してください。
- 32 次のように、クラスタ・マネージャー呼び出しの失敗の原因となった問題を修正して、コマンドを再サブミットしてください。

- db2diag ログ・ファイルを確認して、クラスター・マネージャーからのエラー・メッセージがあるかどうかを調べます。
- db2diag ログ・ファイル内のクラスター・マネージャー・エラー・メッセージに応じて、クラスター・マネージャーの構成からパスを除去できない原因となった問題を修正します。
- START または STOP DATABASE MANAGER コマンドを再サブミットします。

33

このコマンドを MEMBER または CF オプションを指定して発行した場合、ID が sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルに定義されているタイプと一致することを確認してください。

34

QUIESCE オプションに指定された値が有効範囲内にあることを確認してください。

35

member パラメーターを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

36

トポロジーを修正するためのアクションは不要です。DB2 pureCluster インスタンスの現在のトポロジーを確認するには、以下のステップを実行します。

1. 以下のコマンドを使用してインスタンスのトポロジーを照会します。
db2instance -list
2. 追加またはドロップ操作後に db2iupdt -fixtopology が発行された場合、db2start コマンドを使用してインスタンスを開始します。

37

別の netname を指定してコマンドを再サブミットします。db2nodes.cfg ファイルで定義された指定 netname のトランスポート・タイプが、既存のメンバーおよび CF で使用されるトランスポート・タイプと一致することを確認します。

38

以下のトラブルシューティング・ステップを実行して、理由コード 38 に対応してください。

1. DB2 データベース・ログ (db2diag 診断ログ・ファイルなど) およびシステム・ログから得られる診断情報を使用して、正常な始動操作を妨げている uDAPL 問題を特定します。
2. uDAPL エラーの原因をトラブルシューティングして解決します。
3. 始動操作を再び実行します。

SQL6031N db2nodes.cfg ファイルの行番号 line でエラーがありました。理由コード reason-code

説明: 以下の理由コードによって示されているような db2nodes.cfg ファイルの問題のため、このステートメントを処理できません。

1

インスタンスの sqllib ディレクトリーにアクセスできません。

2

db2nodes.cfg ファイル名に追加した絶対パス名が長すぎます。

3

sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルをオープンできません。

4

sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルの行 line に構文エラーが存在しています。

5

sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルの行 line の dbpartitionnum 値が無効です。

6

sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルの行 line の dbpartitionnum 値が順序外です。

7

sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルの行 line の dbpartitionnum 値がユニークではありません。

8

sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルの行 line のポートの値が無効です。

9

sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルの行 line のホスト名/ポート結合がユニークではありません。

- 10 sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルの行 *line* のホスト名の値が無効です。
- 11 sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルの行 *line* のポートの値がサービス・ファイル (UNIX 基底システムの /etc/services) の DB2 インスタンス ID に対して定義されていません。
- 12 sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルの行 *line* のポートの値が、サービス・ファイル (UNIX 基底システムの /etc/services) で DB2 インスタンス ID に対して定義されている有効なポートの範囲内にありません。
- 13 sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルの行 *line* のホスト名の値に対応するポート 0 がありません。
- 14 複数の項目を伴う db2nodes.cfg ファイルが存在しますが、データベース・マネージャー構成は MPP ではありません。
- 15 sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルの行 *line* のコンピューター名の値が無効です。
- 16 sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルの行 *line* にあるホスト名が、DB2FCMCOMM レジストリー変数の値と競合します。
- 21 sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルの行 *line* のタイプの値が無効です。
- 22 sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルに定義されているインスタンスが、有効な DB2 pureCluster インスタンスではありません。
- 31 sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルの行 *line* にあるクラスター相互接続ネット名が無効です。
- ユーザーの処置:** 理由コードに対応するアクションは、以下のとおりです。
- 1 \$DB2INSTANCE ユーザー ID に、そのインスタンスの sqllib ディレクトリーにアクセスする必須許可があるか確認してください。
 - 2 インスタンス・ホーム・ディレクトリーのパス名を短くしてください。
 - 3 db2nodes.cfg ファイルが sqllib ディレクトリーに存在し、空でないことを確認してください。
 - 4 少なくとも 2 つの値が db2nodes.cfg ファイルの行ごとに定義され、そのファイルに空白行がないことを確認してください。
 - 5 db2nodes.cfg ファイルに定義されている dbpartitionnum 値の範囲が 0 から 999 の間であることを確認してください。
 - 6 db2nodes.cfg ファイルに定義されているすべての dbpartitionnum 値が昇順であることを確認してください。
 - 7 db2nodes.cfg ファイルに定義されている各 dbpartitionnum 値がユニークであることを確認してください。
 - 8 ポート値が 0 と 999 の間にあることを確認してください。
 - 9 db2nodes.cfg ファイルに新規のホスト名/ポートの対がまだ定義されていないことを確認してください。
 - 10 行 *line* の db2nodes.cfg に定義されているホスト名の値がシステムに定義され、操作可能であることを確認してください。
 - 11 サービス・ファイル (UNIX 基底システムの /etc/services) にご使用の DB2 インスタンス ID の項目が入っているかを確認してください。

12

ご使用のインスタンスのサービス・ファイル (UNIX 基底システムの /etc/services) に定義されているポート値のみを使用しているかを確認してください。

13

ポート値 0 が db2nodes.cfg ファイルのホスト名に対応して定義されているかを確認してください。

14

以下のいずれかのアクションを行ってください。

- db2nodes.cfg ファイルを除去する。
- db2nodes.cfg ファイルを変更し、項目を 1 つだけ入れる。
- Enterprise Server Edition をインストールする。

15

行 *line* の db2nodes.cfg に定義されているコンピューター名の値がシステムに定義され、操作可能であることを確認してください。

16

ホスト名の値と DB2FCMCOMM レジストリー変数が正しく設定されていることを確認してください。

21

値が DB2 pureCluster インスタンスの MEMBER または CF であることを確認してください。

22

db2nodes.cfg ファイルに MEMBER の行と CF の行が両方とも定義されていることを確認してください。

31

db2nodes.cfg の行 *line* に定義されているクラスター相互接続ネット名の値がシステムに定義され、操作可能であることを確認してください。

SQL6032W *total-number* ノードで、開始コマンドの処理が試行されました。 *number-started* ノードは、正常に開始されました。 *number-already-started* ノードはすでに開始されていました。 *number-not-started* ノードは、開始できませんでした。

説明: このデータベース・マネージャーはすべてのノードで正常に開始しませんでした。このデータベースのすべてのデータがアクセス可能でないかもしれません。正常に開始されている、あるいはすでに実行していたノードのデータがアクセス可能です。

ユーザーの処置: どのノードが開始していないか調べるインスタンスに関して、sqllib ディレクトリーのログ・ディレクトリーで作成されるログ・ファイルをチェックしてください。

SQL6033W *total-number* 個のノードに対して、停止コマンドの処理が試行されました。

number-stopped 個のノードが正常に停止されました。 *number-already-stopped* 個のノードはすでに停止されていました。 *number-not-stopped* 個のノードは、停止できませんでした。

説明: このデータベース・マネージャーはすべてのノードで正常に停止しませんでした。このデータベース・マネージャーは、停止できなかったノードでアクティブのままです。

ユーザーの処置: どのノードが停止していないか調べるインスタンスに関して、sqllib ディレクトリーのログ・ディレクトリーで作成されるログ・ファイルをチェックしてください。

SQL6034W データベース・パーティション *database-partition* を使用しているデータベースがありません。

説明: DROP DBPARTITIONNUM VERIFY 処理中には、このノードがどのデータベースのデータベース・パーティション・グループにも存在しないこと、およびこのノードに対してイベント・モニターが定義されていないことを確認するために、すべてのデータベースが走査されます。

ユーザーの処置: コマンド 'db2stop drop dbpartitionnum <db-partition-number>' を発行することにより、このノードをシステムから除去できます。

SQL6035W データベース・パーティション *partition-name* はデータベース *database* によって使用されています。

説明: DROP DBPARTITIONNUM VERIFY 処理中に、データベースをスキャンして、このデータベース・パーティションがどのデータベースのデータベース・パーティション・グループにも存在せず、このデータベース・パーティションに対してイベント・モニターが定義されていないことを確認してください。データベース・パーティション *partition-name* はデータベース *database* で

使用中のため、ドロップできません。

ユーザーの処置: データベース・パーティションをドロップする前に、以下を行う必要があります。

1. REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION GROUP コマンドを使用してデータを再配分し、データベース・パーティションからデータを除去してください。ALTER DATABASE PARTITION GROUP ステートメントの DROP DBPARTITIONNUM オプションを使って、データベース・パーティションをデータベース・パーティション・グループからドロップします。ドロップするデータベース・パーティションがメンバーに含まれるすべてのデータベース・パーティション・グループに対して、これを実行してください。
2. SYSCAT.BUFFERPOOLDBPARTITIONS を照会して、データベース・パーティションにバッファープール・サイズ例外が定義されていないかどうかを判別してください。行が存在する場合は、ALTER BUFFERPOOL ステートメントを使用してその行を除去し、データベース・パーティションのバッファープールのサイズを、SYSCAT.BUFFERPOOLS で定義されているバッファープールの NPAGES に一致するように変更することができます。
3. データベース・パーティションで定義されているイベント・モニターをドロップしてください。
4. 'db2stop drop dbpartitionnum <partition-number>' コマンドを発行してデータベース・パーティションをドロップしてください。

SQL6036N START または STOP DATABASE MANAGER コマンドはすでに進行中です。

説明: START DATABASE MANAGER または STOP DATABASE MANAGER コマンドはすでにシステム上で進行中です。

ユーザーの処置: 進行中のコマンドの完了を待ち、要求を再試行してください。

SQL6037N START または STOP DATABASE MANAGER タイムアウト値に達しました。

説明: データベース・マネージャー構成で定義された start_stop_time 値がこのノードに達しました。この値は分単位での時間を指定し、ここでは、ノードは Start データベース・マネージャー、Stop データベース・マネージャー あるいは Add Node コマンドに対応している必要があります。

ユーザーの処置: 以下のことを実行してください。

- 管理通知ログにタイムアウトになったノードに関するエラー・メッセージが記録されているかをチェックしてください。エラーの記録がなく、タイムアウトの問題が残っている場合、データベース・マネージャー構成ファイルで指定された start_stop_time の値を増やす必要がある可能性があります。
- タイムアウトが Start データベース・マネージャー・コマンド中に発生した場合、タイムアウトの発生しているノードすべてに対して、Stop データベース・マネージャー・コマンドを発行してください。
- タイムアウトが Stop データベース・マネージャー・コマンド中に発生した場合、タイムアウトの発生しているノードすべてに対して、あるいはすべてのノードに対して Stop データベース・マネージャー・コマンドを発行してください。既に停止されているノードは、ノードが停止しているという旨のメッセージを戻します。

SQL6038N 定義されたパーティション・キーがありません。

説明: ユーザーが、パーティション・キーを指定せずに「行パーティション情報の取得」ユーティリティの使用を試行しました。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: パーティション・キーを指定し、要求を再試行してください。

SQL6039N パーティション列 column-number は現在 NULL 可能として定義されていません。

説明: NULL 可能ではないパーティション列 column-number に NULL 値を代入しようとしてしました。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: NULL 以外の値を代入するか、または NULL 可能にするためにパーティション列のタイプを変更してください。

SQL6040C 使用できる FCM バッファがありません。

説明: 使用できる FCM バッファありません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 要求を再試行してください。

エラーが持続する場合、データベース・マネージャー構成ファイルで指定された FCM バッファ (fcm_num_buffers) 数を増やし、要求を再試行してください。

FCM_NUM_BUFFER がすでに自動に設定されている場

合、システムでの全体のメモリー使用量を調べて、他のアプリケーションが不適切な量のメモリーを使用していないかどうか、および FCM バッファの割り振りを妨げていないかどうかを判別する必要があります。

sqlcode: -6040

sqlstate: 57011

SQL6041C 使用できる FCM 接続項目がありません。

説明: 使用できる FCM 接続項目がありません。最大値に達しているため、FCM は自動的に接続項目数を増加できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 他の処理がこのリソースをいくらか解放した後に、この要求を再試行してください。

sqlcode: -6041

sqlstate: 57011

SQL6042C 使用できる FCM メッセージ・アンカーがありません。

説明: 使用できる FCM メッセージ・アンカーがありません。最大値に達しているため、FCM は自動的にメッセージ・アンカーの数を増加できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 他の処理がこのリソースをいくらか解放した後に、この要求を再試行してください。

sqlcode: -6042

sqlstate: 57011

SQL6043C 使用できる FCM 要求ブロックがありません。

説明: 使用できる FCM 要求ブロックがありません。最大値に達しているため、FCM は自動的に要求ブロックの数を増加できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 他の処理がこのリソースをいくらか解放した後に、この要求を再試行してください。

sqlcode: -6043

sqlstate: 57011

SQL6044N データ・タイプ datatype-value、長さ length の値を持つストリング表記 string の構文が正しくありません。

説明: 指定されたストリングをターゲット・データ・タイプと認識できません。(「アプリケーション開発の手引き」に、データ・タイプについての情報が記載されています。) 構文が無効か、または値が範囲外のいずれかです。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: ストリング表示またはデータ・タイプが正しいことを確認し、要求を再試行してください。

SQL6045N 長さ datatype-length のデータ・タイプ datatype-value は、サポートされていません。

説明: このデータ・タイプおよび長さは、パーティション・キーではサポートされません。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: データ・タイプの詳細は、「管理ガイド」を参照してください。行パーティション情報 API の詳細については、「API リファレンス」を参照してください。

SQL6046N 指定された DROP NODE アクションは有効ではありません。

説明: DROP NODE コマンドのアクション・パラメーターに対する指定された値が無効です。確認モードのみが DROP NODE コマンドに対してサポートされています。このパラメーターは、値 SQL_DROPNODE_VERIFY にセットされなくてはなりません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: アクションが SQL_DROPNODE_VERIFY にセットされることを確認し、要求を再試行してください。

SQL6047N 表 name がパーティション・キーを持っていないため、データベース・パーティション・グループを再配分できません。

説明: 単一パーティションのデータベース・パーティション内で、少なくとも 1 つの表にパーティション・キーがありません。まず、単一パーティション・データベース内にあるすべての表に、パーティション・キーを含める必要があります。その後、データベース・パーティション・グループを、複数パーティションのデータベ

ス・パーティション・グループに再配分できるようになります。

操作は実行されません。

ユーザーの処置: ALTER TABLE ステートメントを使用して、パーティション・キーがない表のためにパーティション・キーを指定します。その後、要求を再試行してください。

あるいは、REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION GROUP コマンドに EXCLUDE パラメーターを指定して、パーティション・キーが存在しない表を除外してください。

SQL6048N START または STOP DATABASE MANAGER を処理中に通信エラーが発生しました。

説明: 追加しようと試みた新しいノードを含む、sqllib/db2nodes.cfg ファイルで定義されたすべてのノードを使用して、START または STOP DATABASE MANAGER コマンドの確立を試行中に TCP/IP コミュニケーション・エラーが発生しました。

このメッセージは、パスワードの有効期限が切れているときに返される場合もあります。

ユーザーの処置: 以下のことを実行してください。

- ノードが、.rhosts または host.equiv ファイルの正しい許可を持っていることを確認してください。
- このアプリケーションが同時に (500 + (1995 - 2 * total_number_of_nodes)) を超えるファイル記述子を使用していないことを確認してください。
- すべての Enterprise Server Edition 環境変数がプロファイル・ファイルで定義されていることを確認してください。
- プロファイル・ファイルが Korn シェルのスクリプト・フォーマットで記述されていることを確認してください。
- すべてのホスト名値が、再始動オプションの入った sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルに定義されているホスト名を持っているかを確認してください。
- DB2FCMCOMM レジストリー変数が正しく設定されていることを確認してください。
- 詳しくは、db2diag ログ・ファイルを参照してください。

SQL6049N 以下のデータベース・パーティションで、データベース database-name のログ制御ファイルを検索できませんでした: database-name。

説明: 以下の 2 つのログ制御ファイルが存在します。

- 1 次ログ制御ファイル SQLOGCTL1.LFH
 - 2 次ログ制御ファイル SQLOGCTL2.LFH
- 2 次ログ制御ファイルは、1 次ログ制御ファイルで問題が発生した場合に使用する 1 次ログ制御ファイルのミラー・コピーです。

指定されたデータベース・パーティションにあるデータベース・ディレクトリーの指定されたデータベースで、DB2 データベース・マネージャーは 1 次ログ制御ファイルと 2 次ログ制御ファイルのいずれも検出できませんでした。

データベースが開始していません。

"..." がデータベース・パーティション・リストの最後に表示された場合、完全なデータベース・パーティション・リストについては、syslog ファイルを参照してください。

ユーザーの処置: 指定されたデータベース・パーティション上のバックアップからデータベースをリストアするか、またはデータベースを再作成してください。

SQL6050N 以下のデータベース・パーティションにあるデータベース database-name のログ制御ファイルにアクセス中に入出力エラーが発生しました: database-name。

説明: 以下の 2 つのログ制御ファイルが存在します。

- 1 次ログ制御ファイル SQLOGCTL1.LFH
 - 2 次ログ制御ファイル SQLOGCTL2.LFH
- 2 次ログ制御ファイルは、1 次ログ制御ファイルで問題が発生した場合に使用する 1 次ログ制御ファイルのミラー・コピーです。

指定されたデータベース・パーティションの指定されたデータベースで、DB2 データベース・マネージャーは 1 次ログ制御ファイルと 2 次ログ制御ファイルのいずれにもアクセスできなかったため、このエラーが戻されました。

データベース・マネージャーがどちらのログ制御ファイルにもアクセスできないため、このデータベースを使用することはできません。

SQL6051N

"," がデータベース・パーティション・リストの最後に表示された場合、完全なデータベース・パーティション・リストについては、 `syslog` ファイルを参照してください。

ユーザーの処置: 指定されたデータベース・パーティションのバックアップからデータベースをリストアするか、またはデータベースを再作成してください。

SQL6051N データベース `name` は、ノード `node-list` でのロールフォワード・リカバリー用に構成されていません。

説明: 指定されたデータベースは指定されたノードで、ロールフォワード・リカバリー用に構成されません。

データベースはすべてのノードでロールフォワードされません。

"," がノード・リストの最後に表示された場合、完全なノード・リストについては、 `syslog` ファイルを参照してください。

ユーザーの処置: 指定ノードでリカバリーが必要か確認して、次にこのノードでデータベースの最新のバックアップ・バージョンをリストアしてください。

SQL6052N ノード `node-list` でロールフォワード・ペンディング状態にないため、データベース `name` をロールフォワードできません。

説明: 指定のデータベースは指定ノードでロールフォワード・ペンディング状態にありません。この理由としては、データベースがリストアされていないか、または `WITHOUT ROLLING FORWARD` オプションを指定してリストアされたか、またはロールフォワード・リカバリーがこのノードで完了している可能性があります。

データベースはロールフォワードされません。

"," がノード・リストの最後に表示された場合、完全なノード・リストについては、 `syslog` ファイルを参照してください。

ユーザーの処置: 以下のことを実行してください。

1. 指定ノードでリカバリーが必要か確認してください。
2. このノードのデータベースのバックアップ・バージョンをリストアしてください。
3. `ROLLFORWARD DATABASE` コマンドを発行してください。

SQL6053N ファイル `file` にエラーがあります。理由コード = `reason-code`。

説明: 指定ファイルで、次のような理由コードによって示されるエラーが発生しました。

1

パーティション・マップ・ファイル内の値の数が 1 または 32 768 ではありません。

2

分散ファイル内の値の数が 32 768 ではありません。

3

定義ファイルのデータが有効なフォーマットではありません。

4

パーティション・マップのデータベース・パーティション番号が 0 と 999 の間にありません。

5

分散ファイル内のすべての値の合計が 4 294 967 295 より大きくなっています。

6

指定されたターゲット・パーティション・マップには、指定されたデータベース・パーティション・グループに対して `SYSCAT.DBPARTITIONGROUPDEF` で定義されていないデータベース・パーティション番号が含まれます。

7

指定されたターゲット・パーティション・マップは無効です。

ユーザーの処置: 理由コードに対応するアクションを次のように実行します。

1

結果として設定されるデータベース・パーティション・グループの種類に応じて、(単一パーティションから成るデータベース・パーティション・グループの場合は) ただ 1 つの値のみ、または (複数パーティションから成るデータベース・パーティション・グループの場合は) 正確に 32 768 個の値をパーティション・マップ・ファイルに必ず含めてください。

2

分散ファイルには、各ハッシュ・パーティションに対して 1 つずつ、ちょうど 32 768 個の値を必ず含めてください。

3

分散ファイル内の値が 0 以上の整数であること、すべての分散値の合計が 4 294 967 295 以下であることを確認してください。

4

データベース・パーティション番号が 0 以上 999 以下の範囲内であることを確認してください。

5

32 768 個のパーティションに対するすべての分散値の合計が 4 294 967 295 以下であることを確認してください。

6

欠落しているパーティションを追加するために ALTER DATABASE PARTITION GROUP を発行します。または、SYSCAT.DBPARTITIONGROUPDEF で定義されていないパーティションを除外するためにパーティション・マップ・ファイルを変更します。

7

DB2_PMAP_COMPATIBILITY レジストリー変数を「ON」に設定してデータベースが作成またはマイグレーションされた場合は、4096 項目の値を含む 8 つの同じセグメントが、ターゲット・パーティション・マップに含まれている必要があります。

SQL6054N アーカイブ・ファイル *name* は、ノード *node-number* のデータベース *name* にとって有効なログ・ファイルではありません。

説明: アーカイブ・ログ・ファイルが指定ノードのログ・ディレクトリーにあります。有効ではありません。

ROLLFORWARD DATABASE 処理を停止します。

ユーザーの処置: 正しいアーカイブ・ログ・ファイルを判別するには、QUERY STATUS オプションを付けて、ROLLFORWARD DATABASE コマンドを発行してください。正しいアーカイブ・ログ・ファイルをデータベース・ログ・ディレクトリーに移動するか、あるいは、データベースが整合状態にある場合、ログ・パスを正しいアーカイブ・ファイルを示すように変更して再び

ROLLFORWARD DATABASE コマンドを発行してください。

SQL6055N アーカイブ・ファイル *name* は、ノード *node-number* 上のデータベース *name* に属していません。

説明: 指定ノードにあるログ・ディレクトリーのアーカイブ・ログ・ファイルは、指定のデータベースに属していません。

ROLLFORWARD DATABASE 処理を停止します。

ユーザーの処置: 正しいアーカイブ・ログ・ファイルを判別するには、QUERY STATUS オプションを付けて、ROLLFORWARD DATABASE コマンドを発行してください。正しいアーカイブ・ログ・ファイルをデータベース・ログ・ディレクトリーに移動するか、あるいは、データベースが整合状態にある場合、ログ・パスを正しいアーカイブ・ファイルを示すように変更して再び ROLLFORWARD DATABASE コマンドを発行してください。

SQL6056N データベース・パーティション・グループを再配分できません。理由コード = *reason-code*。

説明: 処理は実行できません。理由コードはエラーの発生したことを示しています。

(1)

データベース・パーティション・グループ仕様が正しくありません。再配分後のデータベース・パーティション・グループにはデータベース・パーティションが入っていません。

(2)

前の再配分処理が正常に完了していませんでした。

(3)

再配分処理がすでに進行中です。

(4)

CONTINUE または ABORT に対して前に異常終了した再配分コマンドはありません。

(5)

データベース・パーティション・グループのデータは、指定されたように既に再配分されているため、データの再配分は実行されません。

(6)

- REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION GROUP コマンドはカタログ・データベース・パーティション・グループから再サブミットされていません。
- (7) REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION GROUP コマンドは製品の非パーティション・バージョンでは使用できないか、または適用できません。
- (8) 既存の作成済み一時表または宣言済み一時表のあるデータベース・パーティション・グループに USER TEMPORARY 表スペースが存在する場合、再配分は許可されません。
- (9) FULL アクセス・モード (SYSCAT.TABLES で ACCESS_MODE='F') ではない表を持つデータベース・パーティション・グループに表スペースがある場合、REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION GROUP コマンドは許可されません。
- (10) パーティションが接続された (SYSCAT.DATAPARTITIONS.STATUS = 'A') 表を持つデータベース・パーティション・グループに表スペースがある場合、REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION GROUP コマンドは許可されません。
- (11) パーティションがデタッチされた表を持つデータベース・パーティション・グループに表スペースがあり、これらデタッチされたパーティション (SYSCAT.DATAPARTITIONS.STATUS = 'D') に関して増分的に保守しなければならない従属表がある場合、REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION GROUP コマンドは許可されません。
- (12) 索引のクリーンアップがペンディング中の、パーティションがデタッチされた (SYSCAT.DATAPARTITIONS.STATUS = 'T') 表を持つデータベース・パーティション・グループに表スペースがある場合、REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION GROUP コマンドは許可されません。
- (13) SET INTEGRITY ペンディング状態 (SYSCAT.TABLES.STATUS='C') の表が含まれているデータベース・パーティション・グループに表スペースがある場合、REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION GROUP コマンドは許可されません。
- (14) クリーンアップがペンディング中の、ロールアウトされたブロックを含むデータベース・パーティション・グループに MDC 表がある場合、REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION GROUP コマンドは許可されません。
- (15) REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION GROUP コマンドの中で NOT ROLLFORWARD RECOVERABLE キーワードが指定されていません。
- (16) 論理的にデタッチされたパーティション (SYSCAT.DATAPARTITIONS.STATUS = 'L') を持つ表があるデータベース・パーティション・グループ内に表スペースがある場合、REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION GROUP コマンドは許可されません。
- この理由コードは、このデータベース・パーティション・グループ内の1 つ以上の表に対して、ALTER TABLE ステートメントが以前に DETACH PARTITION 節を指定して実行されており、その非同期デタッチ操作が完了していない場合に返されます。
- ユーザーの処置:** 理由コードに対応するアクションは、以下のとおりです。
- (1) 再配分時に、データベース・パーティション・グループのすべてのデータベース・パーティションをドロップしないでください。
- (2) 前の再配分が失敗した原因を調べ、必要な訂正アクションをとります。CONTINUE または ABORT オプションを使用して、REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION GROUP コマンドを実行してください。CONTINUE で、前に異常終了した再配分処理を完了し、ABORT で前に異常終了した処理の影響を取り消します。
- (3)

- 現行コマンドの完了後に、次の
**REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION
 GROUP** コマンドを発行します。
- (4) 失敗した再配分操作に関連していないデータベース・パーティション・グループで
CONTINUE または **ABORT** オプションを呼び出すことはできません。
- (5) 別のターゲット・パーティション・マップあるいは再配分ファイルを使用してみてください。使用しない場合、再配分は不要です。
- (6) カタログ・データベース・パーティションからコマンドを再発行してください。
- (7) 製品のこのバージョンを使用する
**REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION
 GROUP** コマンドを発行しないでください。
- (8) **USER TEMPORARY** 表スペースを使用する作成済み一時表または宣言済み一時表がデータベース・パーティション・グループに存在しない状態で、再配分をもう一度要求してください。
- (9) **FULL** アクセス・モードではない表モードの従属即時マテリアライズ照会およびステージング表に対して、**SET INTEGRITY** ステートメントを **IMMEDIATE CHECKED** オプションを指定して実行してから、**REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION GROUP** コマンドを再度発行してください。
- (10) 接続されたパーティションを持つ表に対して **SET INTEGRITY** ステートメントを **IMMEDIATE CHECKED** または **IMMEDIATE UNCHECKED** オプションを指定して実行してから、**REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION GROUP** コマンドを再度発行してください。
- (11) デタッチされたパーティションに関して、依然として増分的に保守する必要がある表の従属即時マテリアライズ照会およびステージング表に対して **SET INTEGRITY** ステートメントを **IMMEDIATE CHECKED** オプションを指定して実行してください。
- SYSCAT.TABDETACHEDDEP** カタログ・ビューを照会して、これらのデタッチされた従属表を探し出してください。その後で、**REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION GROUP** コマンドを再度発行してください。
- (12) デタッチされたパーティションの索引のクリーンアップが完了したら、**REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION GROUP** コマンドを再度発行してください。
- (13) **SET INTEGRITY** ペンディング状態の表に対して **SET INTEGRITY** ステートメントを **IMMEDIATE CHECKED** オプションを指定して実行してから、**REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION GROUP** コマンドを再度発行してください。
- (14) ロールアウトされたブロックの索引のクリーンアップが完了したら、**REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION GROUP** コマンドを再度発行してください。
- (15) **REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION GROUP** コマンドで **NOT ROLLFORWARD RECOVERABLE** キーワードを指定します。
- (16) 以下のステップを実行してください。
- 非同期のパーティション・デタッチ・タスクが完了するのを待ってください。
 デタッチ・タスクの進行状況を次の方法でモニターできます。
 - **LIST UTILITIES** コマンドを使用してデタッチ・タスクの進行状況をモニターし、ソース表の名前がデータベース・パーティション・グループ内の表の名前と一致するところの記述を探します。
 - **SYSCAT.DATAPARTITIONS** カタログ・ビューを使用して、論理的にデタッチされた状態にあるデータ・パーティションがないことを確認します。依然として論理的にデタッチされているデータ・パーティションがある場合、そのパーティションについては **STATUS** 列が「L」になっています。

2. REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION GROUP コマンドを再び実行します。

SQL6057N アーカイブ・ファイル *name* はリストアされたデータベース *name* または前もってノード *node-number* で処理されたログ・ファイルに関係付けられていません。

説明: アーカイブ・ログ・ファイルが、指定ノードのログ・ディレクトリーにあります。指定されたデータベースには属していません。

ROLLFORWARD DATABASE 処理を停止します。

ユーザーの処置: 正しいアーカイブ・ログ・ファイルを判別するには、QUERY STATUS オプションを付けて、ROLLFORWARD DATABASE コマンドを発行してください。正しいアーカイブ・ログ・ファイルをデータベース・ログ・ディレクトリーに移動するか、あるいは、データベースが整合状態にある場合、ログ・パスを正しいアーカイブ・ファイルを示すように変更して再びROLLFORWARD DATABASE コマンドを発行してください。

SQL6058N ノード *node-number* のデータベース *name* のログ・ファイル *name* を検索中、ロールフォワード・リカバリーが、エラー *error* のために停止しました。

説明: ロールフォワード処理は、*db2uexit* を呼び出して、指定ノードのデータベースに対するログ・ファイルを検索します。このエラーは *db2uexit* で発生した可能性があります。

ROLLFORWARD DATABASE 処理を停止します。

ユーザーの処置: 「管理ガイド」にあるユーザー出口の資料でこのエラーの記述を確認し、ロールフォワード・リカバリーを再開または終了してください。

SQL6059N ロールフォワード・ユーティリティーに渡されるポイント・イン・タイムは、*timestamp* より大か等しくなければなりません。これはノード *node-list* のデータベース *name* に、指定されたポイント・イン・タイムよりも後の情報が含まれるためです。

説明: 詳細仮想タイム・スタンプがデータベース・バックアップにあります。

"," がノード・リストの最後に表示された場合、完全なノード・リストについては、*syslog* ファイルを参照してください。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを実行します。

- *timestamp* より大か等しいポイント・イン・タイムを指定して、コマンドを再発行します。
- ノードに前のバックアップをリストアして、ROLLFORWARD DATABASE コマンドを再発行します。

SQL6061N ノード *node-list* のログ・ファイルがないため、データベース *name* のロールフォワード・リカバリーは、指定された停止ポイント (ログの終わりまたは、ポイント・イン・タイム) に達することができません。

説明: ロールフォワード・データベース・ユーティリティーが、ログ・パスに必要なログ・ファイルで見つかりません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを実行します。

- ROLLFORWARD DATABASE コマンドと QUERY STATUS オプションを一緒に使用してどのログ・ファイルが欠落したかを判別してください。ログ・ファイルが見つかったとき、それらをログ・パスに入力して、順方向リカバリーを再開してください。
- 欠落しているログ・ファイルが見つからない場合は、すべてのノードでデータベースをリストアし、最も古い欠落ログ・ファイルのタイム・スタンプより前のタイム・スタンプを使って、ポイント・イン・タイム・リカバリーを行ってください。

SQL6062N データベース *name* のロールフォワード・リカバリーは、ノード *node-list* のログ情報がカタログ・ノードの対応レコードと一致しないため、完了できません。

説明: ロールフォワード・ユーティリティーは、それぞれのノードで見つかったログ・ファイルを処理しましたが、指定されたノードとカタログ・ノードの対応レコードの停止点が一致しません。原因は、カタログ・ノードまたは指定されたノード・ファイルが欠落したか、またはカタログ・ノードがロールフォワードされるノード・リストに含まれることです。

ROLLFORWARD DATABASE 処理を停止します。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを実行します。

- カタログ・ノードをロールフォワードする必要があるか確認してください。必要がある場合、ROLLFORWARD コマンドを再びサブミットして、カタログ・ノードを追加してください。
- ROLLFORWARD DATABASE コマンドと QUERY STATUS オプションを一緒に使用してどのログ・ファイルが欠落したかを判別してください。ログ・フ

ファイルが見つかったとき、それらをログ・パスに入力して、順方向リカバリーを再開してください。

- 欠落しているログ・ファイルが見つからない場合は、すべてのノードでデータベースをリストアし、最も古い欠落ログ・ファイルのタイム・スタンプより前のタイム・スタンプを使って、ポイント・イン・タイム・リカバリーを行ってください。

SQL6063N データベース *name* でのロールフォワード・リカバリーがログ・ファイル・サイズの変更のため、ノード *node-list* で停止しました。

説明: ロールフォワード・データベース・ユーティリティーは、ログ・ファイルのサイズに変更があったため、ロールフォワードを停止しました。新しいログ・ファイル・サイズを設定するために、再始動する必要があります。

"..." がノード・リストの終わりに表示されている場合、ノードの完全なリストを見るには診断ログを調べてください。

ロールフォワード・リカバリーは停止しました。

(注: パーティション・データベース・サーバーを使用している場合、ノード番号は、エラーの発生しているノードを示しています。そうでない場合、これは関係のないものなので無視してください。)

ユーザーの処置: 処理を続行するには ROLLFORWARD コマンドを再発行してください。

SQL6064N データの再配分中に SQL エラー *sqlcode* が発生しました。

説明: データの再配分中にエラーが発生しました。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージの SQLCODE (メッセージ番号) を調べてください。必要とされる変更を実行して、要求を再試行してください。

SQL6065N ファイル *file* への書き込み中に、エラーが発生しました。

説明: 次のいずれかの状態が発生しました。

- ファイルをオープンできません。
- ファイルを書き込み中に入出力エラーが発生しました。
- ファイルをクローズするときに、入出力エラーが発生しました。

コマンドまたはユーティリティーを処理できません。

ユーザーの処置: ファイルが存在すること、およびファイルの書き込みアクセスの許可があることを確認してください。コマンドまたはユーティリティーを再試行してください。

SQL6067W ROLLFORWARD DATABASE QUERY STATUS コマンドは、*sqlcode sqlcode* を検出しました。

説明: ROLLFORWARD DATABASE QUERY STATUS コマンドは、*sqlcode sqlcode* のエラーを検出しました。多数の原因により、いくつかのノードの照会が正常でない可能性があります。最も重大なエラーは *sqlcode* で指示されます。roll-forward status は正常なノードに対して戻ります。

ユーザーの処置: *sqlcode sqlcode* について、「DB2 メッセージ・リファレンス」、またはオンラインを参照して、失敗したノードの問題を判別してください。必要な訂正アクションを実行して、これらのノードの順方向リカバリーを継続してください。

SQL6068W ロールフォワードの操作は正常に取り消されました。データベースをノード *node-list* でリストアする必要があります。

説明: ロールフォワード操作が正常に完了する前に取り消されたため、データベースは不整合状態のままです。リストされたノードのリストア・ペンディング・フラグがオンの状態です。

"..." がノード・リストの最後に表示された場合、完全なノード・リストについては、syslog ファイルを参照してください。

ユーザーの処置: リストされたノードのデータベースをリストアしてください。

SQL6069N ROLLFORWARD DATABASE コマンドを、非カタログ・ノードでサブミットできません。

説明: ROLLFORWARD DATABASE コマンドは、カタログ・ノード上のみで実行可能です。

ユーザーの処置: コマンドをカタログ・ノードでサブミットしてください。

SQL6071N 要求された操作を、新規ノードがシステムに追加されているため処理できません。この処理が実行される前にシステムを停止し、開始しなおしてください。

説明: 以下のいずれかです。

SQL6072N • SQL6074N

- 新規ノードから要求が出されましたが、このノードは他のノードと通信できません。
- すべてのノードを停止し、再始動して、新規ノードを追加する前に、CREATE または DROP DATABASE 処理が要求されました。

ユーザーの処置: db2stop を発行してすべてのノードを停止してください。すべてのノードが正常に停止した時に、db2start を発行して新規ノードが含まれるすべてのノードを開始し、要求された処理の再試行をしてください。

sqlcode: -6071

sqlstate: 57019

SQL6072N RESTART オプションを伴う DB2START は指定したノードがすでにアクティブになっているため、続行できません。

説明: 再始動に指定されたノードは、すでにシステムでアクティブ中です。

ユーザーの処置: 必要に応じて、DB2STOP を発行して指定ノードを停止し、再び DB2START コマンドを発行して、ノードを再始動します。

SQL6073N データベース・パーティションの追加操作の実行に失敗しました。 SQLCODE = *sqlcode*

説明: データベース・パーティションの追加操作が sqlcode *sqlcode* で失敗しました。

ユーザーの処置: 必要な訂正アクションをとり、要求の再試行をします。

SQL6074N パーティションのオンライン追加またはドロップ操作とは両立しない 1 つ以上のコマンド、ステートメント、または操作が進行中であるため、データベース・パーティション・サーバーを追加またはドロップできません。

説明: データベース・パーティション・サーバーの追加またはドロップ操作と両立しない 1 つ以上のコマンド、ステートメント、または操作が進行中です。以下のインスタンス・レベルのコマンドは、データベース・パーティション・サーバーの追加またはドロップ操作と両立しません。

- QUIESCE INSTANCE
- UNQUIESCE INSTANCE
- STOP DATABASE MANAGER (db2stop)
- STOP DATABASE MANAGER DBPARTITIONNUM

- START DATABASE MANAGER (db2start)
- START DATABASE MANAGER DBPARTITIONNUM
- START DATABASE MANAGER (再始動オプションを指定)

以下のデータベース・レベルのコマンドまたは操作は、データベース・パーティション・サーバーの追加またはドロップ操作と両立しません。

- CREATE DATABASE
- DROP DATABASE
- QUIESCE DATABASE
- UNQUIESCE DATABASE
- ACTIVATE DATABASE
- DEACTIVATE DATABASE
- データベース・オブジェクトに対する Z ロック
- すべてのデータベース・パーティションに関する単一システム・ピユー・バックアップ
- データベースのリストア

以下の表スペース・レベルのステートメントおよび操作は、データベース・パーティション・サーバーの追加またはドロップ操作と両立しません。

- CREATE TEMPORARY TABLESPACE
- TEMPORARY 表スペースの変更
- TEMPORARY 表スペースのドロップ
- 自動ストレージ・パスの更新

以下のストレージ・グループ・レベルのステートメントおよび操作は、データベース・パーティション・サーバーの追加またはドロップ操作と両立しません。

- CREATE STOGROUP
- ALTER STOGROUP
- DROP STOGROUP
- RENAME STOGROUP

ユーザーの処置: このエラーに対応するには、以下のステップを実行します。

1. -addnode パラメーターを指定した db2pd コマンドを使用して、データベース・パーティション・サーバーの追加またはドロップ操作と両立しない、進行中のコマンド、ステートメント、または操作を識別します。
2. 識別されたタスクを終了させるか、それが完了するまで待ちます。
3. データベース・パーティション・サーバーの追加またはドロップ要求を再サブミットします。

sqlcode: -6074

sqlstate: 55072

SQL6075W データベース・マネージャーの開始操作で、データベース・パーティション・サーバーが正常に追加されました。このデータベース・パーティション・サーバーは、すべてのデータベース・パーティション・サーバーを停止して再始動するまでアクティブになりません。

説明: STOP DATABASE MANAGER (db2stop) コマンドによってすべてのデータベース・パーティション・サーバーが同時に停止されるまでは、新しいデータベース・パーティション・サーバーを含めるよう db2nodes.cfg ファイルが更新されることはありません。ファイルが更新されるまでは、既存のデータベース・パーティション・サーバーは新しいデータベース・パーティション・サーバーと通信できません。

ユーザーの処置: db2stop を発行してすべてのデータベース・パーティション・サーバーを停止してください。すべてのデータベース・パーティションが正常に停止した後、db2start を発行して、新規追加されたものを含むすべてのデータベース・パーティション・サーバーを開始してください。

SQL6076W 警告! このコマンドは、このインスタンスのノードのすべてのデータベース・ファイルを除去します。処理を続行する前に、**DROP NODE VERIFY** コマンドを実行して、このノードにユーザー・データがなにか確認してください。

説明: このプロシージャは、指定ノードからデータベース・パーティションを除去します。

ユーザーの処置: DROP NODE VERIFY コマンドが、このノードをドロップする前に実行されているか確認してください。API を使用している場合、callerac パラメーターが正しく指定されているか確認してください。

SQL6077W db2stop DROP DBPARTITIONNUM プロシージャは正常に終了しましたが、すべてのファイルを除去できませんでした。詳細は、ファイル *file* を参照してください。

説明: db2stop DROP DBPARTITIONNUM プロシージャは正常に終了しましたが、いくつかのユーザー・データ・ファイルがノードに残っています。

ユーザーの処置: ファイル *file* の情報は、削除できなかったファイルからのディレクトリ構造を示していません。

SQL6078N db2stop DROP DBPARTITIONNUM プロシージャは、データベース *dbname* のデータベース情報を更新できませんでした。

説明: db2stop DROP DBPARTITIONNUM プロシージャは、データベース *dbname* のカタログ・ノードにアクセスできませんでした。

ユーザーの処置: 要求を再試行してください。問題が続く場合、サービス担当者に連絡してください。

SQL6079W db2stop DROP DBPARTITIONNUM コマンドは正常に取り消されました。

説明: db2stop DROP DBPARTITIONNUM コマンドは、処理を開始する前に停止しました。

ユーザーの処置: ありません。

SQL6080W データベース・マネージャーの開始操作でデータベース・パーティション・サーバーが正常に追加されましたが、このデータベース・パーティション・サーバー上にはデータベース・パーティションがまだ作成されていません。このデータベース・パーティション・サーバーは、すべてのデータベース・パーティション・サーバーを停止して再始動するまでアクティブになりません。

説明: STOP DATABASE MANAGER (DB2STOP) コマンドによってすべてのデータベース・パーティション・サーバーが同時に停止されるまでは、新しいデータベース・パーティション・サーバーを含めるよう db2nodes.cfg ファイルが更新されることはありません。ファイルが更新されるまで、既存のデータベース・パーティション・サーバーは新しいデータベース・パーティション・サーバーと通信できません。

ユーザーの処置: DB2STOP を発行してすべてのデータベース・パーティション・サーバーを停止してください。すべてのデータベース・パーティション・サーバーが正常に停止したら、DB2START を発行して、新しいものを含むすべてのデータベース・パーティション・サーバーを開始します。すべてのデータベース・パーティション・サーバーが正常に開始したら、データベース・システムが使用可能になります。

SQL6081N 通信エラーが、このノードでタイムアウトとなる **DB2STOP FORCE** コマンドを呼び出しました。

説明: 1 つ以上のデータベース・ノードで、コミュニケーション・エラーが発生し、DB2STOP FORCE コマン

ドで現行ノード上タイムアウトが発生したか、あるいは1つ以上のノードでの FORCE 中にサーバーで重大エラーが発生し、DB2STOP FORCE が終了しました。コミュニケーション・エラーが発生した任意のノードは、SQL6048N メッセージを受信します。

ユーザーの処置: 以下のことを実行してください。

1. SQL6048N メッセージを受信した、1つまたはそれ以上のノードの通信エラーを訂正してください。
2. DB2START コマンドを発行して、SQL6048N メッセージを受信していたすべてのノードが正常に開始したかを確認してください。
3. 任意のノードから再び DB2STOP FORCE コマンドを発行してください。

SQL6100N データ・ファイルのパーティション・マップおよびデータベースのパーティション・マップが同じではありません。

説明: ロード対象のデータは、パーティション化されていないか、または表が属するデータベース・パーティション・グループ用の現在のパーティション・マップ以外のパーティション・マップを使用してパーティション化されました。データをロードできません。

ユーザーの処置: データがパーティション化されていない場合、db2split プログラムを使用して、データをパーティション化して、パーティション化されたデータをロードしてください。

データがパーティション化された場合、以下のいずれかを行ってください。

- データ・ファイルのヘッダーにあるパーティション・マップを使用して、表が属するデータベース・パーティション・グループを再配分します。その後、要求を再試行してください。
- データベース・パーティション・グループ用の現在のパーティション・マップを使ってデータを再パーティション化します。その後、新しくパーティション化されたデータをロードするために、要求を再試行してください。

SQL6101N このデータ・ファイルは、ノード *node-1* のデータが入っていますが、ロード・ユーティリティがノード *node-2* に接続されています。

説明: ロードしようとしているデータは、アプリケーションが接続しているノードのノード番号と異なるノード番号に関連しています。データをロードできません。

ユーザーの処置: このノードに関連するデータ・ファイルを見つけて要求を再試行するか、または、このデータ・ファイルに関連するノードに接続して、そのノード

で要求を発行してください。

SQL6102W パラメーター *name* はこれからの使用のために予約されています。値は *default-value* に設定してください。

説明: 将来の機能のために予約済みのパラメーターが、正しくないデフォルト値に設定されました。将来の互換性を保証するデフォルト値に設定する必要があります。

ユーザーの処置: パラメーター *name* が *default-value* 値に設定されたかを確認して、要求を再試行してください。

SQL6103C 予期しないユーティリティ・エラーが発生しました。理由コード = *reason-code*。

説明: 予期しないユーティリティ・エラーが発生しました。

ユーザーの処置: メッセージのメッセージ番号 (SQLCODE) と理由コードを記録してください。

トレースがアクティブな場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトから、独立トレース機能呼び出ししてください。この機能の使用についての情報は、「管理ガイド」を参照してください。技術サービス担当者に、以下の情報を知らせてください。

- 問題の説明
- SQLCODE および組み込み理由コード
- SQLCA の内容 (ある場合)
- トレース・ファイル (可能であれば)

SQL6104N ロード・ユーティリティは、索引の作成をサポートしていません。

説明: ロード・ユーティリティは索引の作成をサポートしませんが、ロードしようとしている表には少なくとも1つの定義された索引があります。索引は明示的に CREATE INDEX ステートメントによって、または暗示的に、表の主キーが定義された時に、作成された可能性があります。

ユーザーの処置: 表で定義されたすべての索引を DROP INDEX ステートメントでドロップしてください。主キーを ALTER TABLE ステートメントでドロップしてください。コマンドを再サブミットしてください。

ロードが正常に完了したら、要求通り CREATE INDEX および ALTER TABLE を使用して、索引および主キーを再作成してください。

SQL6105W ロード・ユーティリティの処理は完了しました。ロード後の時点で完了したロールフォワードは成功しません。データベース・リカバリ機能が要求された場合にデータベース・バックアップを即時に実行します。

説明: ロード・ユーティリティはログオンしていません。ロードする前にとったバックアップでロールフォワードしようとする、ロードされたデータの参照を検出するときに、操作は失敗します。

ユーザーの処置: ロード後にデータベース・リカバリ機能を使用できるようにするため、データを修正する前にバックアップを取ってください。

SQL6106N ファイル・タイプ修飾子 "NOHEADER" が指定されましたが、表が定義されているデータベース・パーティション・グループは、単一ノードのデータベース・パーティション・グループではありません。

説明: ロードされるデータは、ヘッダー情報を持たないように指定されています。ただし、示されたターゲット表は、単一ノード表ではありません。データをロードできません。

ユーザーの処置: データを db2split を使用して分割してください。次に "NOHEADER" オプションなしでロードしてください。

SQL6107N データ・ファイルのパーティション・キー情報が正しくありません。

説明: データが db2split で分割されていないか、あるいは db2split 処理が成功していません。

ユーザーの処置: db2split プログラムを使用してデータをパーティション化して、パーティション化したデータで要求を再度試行してください。列挿入のオプションが使用されている場合、パーティション列のすべてがリストで指定されていることを確認してください。

問題が解決しない場合は、技術サービス担当者に連絡して次の情報を伝えてください。

- 問題の説明
- SQLCODE および組み込み理由コード
- SQLCA の内容 (ある場合)
- トレース・ファイル (可能であれば)

SQL6108N データ・ファイル・ヘッダーで定義されているパーティション・キーの番号 (*number-1*) が、表で定義されているパーティション・キーの番号 (*number-2*) と一致しません。

説明: db2split 構成ファイルで指定されたパーティション列が正しくありません。データが正しく分割されていません。

ユーザーの処置: 以下のことを実行してください。

1. 正しいパーティション列が db2split 構成ファイルで指定されていることを確認します。
2. データを分割します。
3. 新しくパーティション・データでロード処理を発行します。

SQL6109N ユーティリティはパーティション列 *column-name-1* を予期しましたが、パーティション列 *column-name-2* を検索しました。

説明: db2split 構成ファイルで、以下のいずれかが発生しました。

- 表で定義されたパーティション列のいずれかが、指定されていません。
- パーティション列の順序が正しくありません。
- 表のパーティション列でない列が指定されています。

ユーザーの処置: 以下のことを実行してください。

1. db2split 構成ファイルが正しいことを確認します。
2. データを分割します。
3. 新しくパーティション・データでロード処理を発行します。

SQL6110N ユーティリティは、列 *column-name-1* に対してパーティション列タイプ *column-type-1* を予期していましたが、データ・ファイルでは、この列はタイプ *column-type-2* としてリストされています。

説明: db2split 構成ファイルが正しくありません。

ユーザーの処置: 以下のことを実行してください。

1. db2split 構成ファイルが正しいことを確認します。
2. データを分割します。
3. 新しくパーティション・データでロード処理を発行します。

SQL6111N `newlogpath` で指定されたパスの下に、サブディレクトリーを作成できません。

説明: 新規ログ・パス・パラメーターが更新された時、システムは、ノード名をサブディレクトリー名として使用して、指定されたパスの下にサブディレクトリーを作成しようとします。以下のいずれかのオペレーティング・システム・エラーのため、サブディレクトリーを作成できませんでした。

- ファイル・システムまたはパスにはファイルを作成するための適切な許可がありません。
- ファイル・システムには十分なディスク・スペースがありません。
- ファイル・システムには十分なファイル・ブロックまたはノードがありません。

要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを実行してから、要求を再試行してください。

- 指定されたパスが存在し、ファイル・システムおよびパスには読み取り/書き込み許可があることを確認してください。
- 別の新規ログ・パスを指定してください。

問題が続く場合、システム管理担当者に連絡してください。

SQL6112N 要求された変更を実行できません。構成パラメーター設定の結果が有効ではありません。理由コード *reason-code*

説明: 構成パラメーターによっては、特定の設定規則があります。違反している規則は *reason-code* によって示されます。

(4)

`max_coordagents` または `max_connections` のいずれかで `AUTOMATIC` 設定を使用する場合、以下の組み合わせだけが有効です:

- 両方のパラメーターが `AUTOMATIC` に設定される。
- `max_connections` だけが `AUTOMATIC` に設定され、その値は `max_coordagents` よりも大きい (つまり接続コンセントレーターがオンになっている)。

(5)

`SSL_SVCENAME` と `SVCENAME` を同じにすることはできません。

(6)

`SSL_SVR_KEYDB`、`SSL_SVR_STASH`、`SSL_CLNT_KEYDB`、または `SSL_CLNT_STASH` は絶対パスでなければなりません。

(7)

`SSL_VERSIONS` は `NULL` (デフォルト) または `'TLSv1'` でなければなりません。

(8)

`SSL_CIPHERSPECS` には `NULL` (デフォルト) を指定するか、以下の暗号仕様を (それぞれコマンドで区切って) 適切に組み合わせる必要があります:

- `TLS_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA`
- `TLS_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA`
- `TLS_RSA_WITH_3DES_EDE_CBC_SHA`

(9)

`CONNECT_PROC` 値は、ゼロ長ストリングであるか、パラメーターが正確にゼロ個である既存の固有のプロシージャー名と一致していなければなりません。

(10)

`CONNECT_PROC` 値を設定する場合は、スキーマ名とプロシージャー名の両方を指定する必要があります。名前に含めることができるのは以下の文字のみです。

- A-Z、a-z、`_`、0-9。
- スキーマ名とプロシージャー名は、通常 ID の規則に従っている必要があります。

(11)

`CONNECT_PROC` パラメーターを更新するには、ほとんどの場合、データベースへの接続が必要です。データベースが非アクティブになっている場合に、パラメーターをゼロ長ストリングに設定するためには、接続は必要ありません。

(12)

`CONNECT_PROC` パラメーターに対する `DEFERRED` 更新は許可されません。このパラメーターを更新する場合は、`IMMEDIATE` を指定して、変更が即時に有効になるようにしてください。

ユーザーの処置: 指定された値が規則に違反していないことを確認して、要求を再試行してください。

第 14 章 SQL6500 - SQL6999

SQL6500W ロード・コマンドの **RESTARTCOUNT** で問題が発生する可能性があります。

説明: 同一の表での複数のロード処理は、完全に独立しているため、これらの複数のロード処理に対して、同一の **restartcount** を有することはほとんど不可能です。

ユーザーの処置: 正しいロード・コマンドがあることを確認してください。

SQL6501N データベース名がロード・コマンドに指定されていません。

説明: ロード・コマンドにデータベース名を指定する必要があります。

ユーザーの処置: データベース名を指定してコマンドをやり直してください。

SQL6502N データ・ファイルに対するパス名 (パラメーター: **data_path**) が指定されていません。

説明: 入力データ・ファイルがリモートの場合、ファイルはローカルに転送されます。リモート・マシンでのファイルへのパスを提供してください。

ユーザーの処置: リモート・データ・ファイルにパス名を指定して、コマンドをやり直してください。

SQL6504N 構成ファイルの出力ノード・リスト指定 (パラメーター: **outputnodes**) にエラーがあります。

説明: 出力ノード・リストの指定が無効です。

ユーザーの処置: サンプル構成ファイルを調べて、出力ノード・リスト指定を訂正し、コマンドをやり直してください。

SQL6505N ロード・コマンドの中で、パーティション・データベースのパーティション・リストの指定 (パラメーター: **PARTITIONING_DBPARTNUMS**) にエラーがあります。

説明: パーティション・データベースのパーティション・リストの指定が無効です。

ユーザーの処置: パーティション・データベースのパー

ティション・リストの指定を訂正して、コマンドをやり直してください。

SQL6506N プログラムは、システム・カタログ表から、表 *table-name* のパーティション・キー情報を取り出すことができません。

説明: 表は定義されていないか、または MPP 環境に定義されていません。

ユーザーの処置: 表が正しく定義されているか確認してください。

SQL6507N 構成ファイル内のチェック・レベル (パラメーター: **check_level**) が無効です。

説明: チェック・レベル (パラメーター: **check_level**) **CHECK** あるいは **NOCHECK** のいずれかです。デフォルトは **CHECK** です。

ユーザーの処置: 構成ファイル内のパラメーターを訂正して、コマンドをやり直してください。

SQL6508N プログラムが、ftp 処理に対する出力パイプを作成できません。

説明: 入力データ・ファイルがリモートの場合、ローカル・パイプに転送されます。このローカル・パイプがすでに存在している場合、処理ができません。

ユーザーの処置: ワークスペースが空であるかどうか確認してください。

SQL6509N プログラムは、パーティション・エージェントの入力パイプを作成できません。

説明: プログラムが、スプリッター処理に対する一時入力パイプを作成できません。

ユーザーの処置: ワークスペースが空であるかどうか確認してください。

SQL6510N プログラムは、パーティション *partition-num* のローカルの非 NFS スペースに一時ディレクトリーを作成できません。

説明: プログラムは、すべてのパーティションとパーティションのロードのために、ローカルの非 NFS スペースに一時作業ディレクトリーが必要です。

SQL6511N

ユーザーの処置: ワークスペースが空であるかどうか確認してください。

SQL6511N ロードはパーティション *partition-num* にパーティション・エージェントの出力を作成できませんでした。

説明: プログラムは、パーティション *partition-num* にパーティション・エージェントの一時出力パイプを作成できません。

ユーザーの処置: ワークスペースが空であるかどうか確認してください。

SQL6512N ロードは、マージ・エージェントの入力パイプをパーティション *partition-num* に作成できませんでした。

説明: プログラムは、パーティション *partition-num* にマージ・エージェントの一時入力パイプを作成できません。

ユーザーの処置: ワークスペースが空であるかどうか確認してください。

SQL6513N ロードは、パーティション *partition-num* にロード・エージェントの入力パイプを作成できませんでした。

説明: プログラムは、パーティション *partition-num* にロード・エージェントの一時入力パイプを作成できません。

ユーザーの処置: ワークスペースが空であるかどうか確認してください。

SQL6514N プログラムが、ノード構成ファイル *node-cfg-file* を読み取りできません。

説明: ファイルが存在しないか、または読み取りができないかのいずれかです。

ユーザーの処置: ノード構成ファイルが存在しているか、またファイルの許可についても調べてください。

SQL6515N プログラムは、構成ファイルでロード・コマンドを検出できません。

説明: CLP ロード・コマンドは構成ファイルで提供される必要があります。

ユーザーの処置: 構成ファイルで CLP ロード・コマンドを指定してください。

SQL6516N プログラムがデータベース *db-name* に接続できません。

説明: データベース・マネージャーがまだ開始していないか、または問題が発生しているかのどちらかです。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーの状況を調べてください。

SQL6517N ロードは、表 *tbl-name* が定義されている区分化リストをシステム・カタログ表から抽出できませんでした。

説明: 表は定義されていないか、または MPP 環境に定義されていません。

ユーザーの処置: 表がデータベースでどのように定義されていたか調べてください。

SQL6518N レコード長 (ロード・コマンドの *reclen*) が無効です。

説明: 有効なレコードは 1 から 32768 の間です。

ユーザーの処置: レコード長を訂正して、コマンドをやり直してください。

SQL6519N 構成ファイルのモード (パラメーター: モード) *mode* が無効です。

説明: このプログラムの実行モードは以下のいずれかです。SPLIT_ONLY、LOAD_ONLY、SPLIT_AND_LOAD (デフォルト)、あるいは ANALYZE

ユーザーの処置: 構成ファイルのモードを訂正してください。

SQL6520N プログラムが、分割ファイルに対するヘッダー情報を生成する処理に対する出力パイプを作成できません。

説明: プログラムが、分割ファイルに対するヘッダー情報を生成する処理に対する出力パイプを作成できません。

ユーザーの処置: ワークスペースが空であるかどうか確認してください。

SQL6521N このプログラムの構成ファイル *cfg-file* がありません。

説明: プログラムには構成ファイルが必要です。

ユーザーの処置: 構成ファイルを作成してください。

SQL6522N プログラムがロード・コマンドの入力データ・ファイルに対するパス名を検出しました。

説明: ロード・コマンドで入力データ・ファイルにパス名を入れることはできません。このためには、分離パラメーター (*data_path*) があります。

ユーザーの処置: 構成ファイルを訂正してください。

SQL6523N パーティション・データベースのパーティション・リスト (パラメーター: **PARTITIONING_DBPARTNUMS**) のエレメント *partition-num* は、ノード構成 (*db2nodes.cfg*) ファイルに定義されていません。

説明: パーティション・データベースのパーティション・リストにあるすべてのパーティションは、ノード構成ファイルに項目を持っている必要があります。

ユーザーの処置: パーティション・データベースのパーティション・リストを訂正してください。

SQL6524N 出力パーティション・リスト (パラメーター: **OUTPUT_DBPARTNUMS**) のエレメント *partition-num* は、表が定義されているパーティション・リストのメンバーではありません。

説明: 出力パーティション・リストのすべてのパーティションは、表が定義されているパーティション・リストのメンバーである必要があります。

ユーザーの処置: 出力パーティション・リストを訂正してください。

SQL6525N プログラムは入力データ・ファイル *file-name* を読み取りできません。

説明: 入力データ・ファイルが見つからないか、あるいは読み取りできないかのいずれかです。

ユーザーの処置: 入力データ・ファイルが存在しているか、またファイルの許可についても調べてください。

SQL6526N プログラムが現行作業ディレクトリー *cwd* に書き込みできません。

説明: 現行作業ディレクトリーが書き込み可能ではありません。

ユーザーの処置: 現行作業ディレクトリーの許可を調べてください。

SQL6527N 統計データが収集されるパーティション (パラメーター: **RUN_STAT_DBPARTNUM**) は、出力パーティション・リストのメンバーではありません。

説明: 統計データが収集されるパーティションは出力パーティション・リストのメンバーである必要がありません。

ユーザーの処置: **RUN_STAT_DBPARTNUM** パラメーターを訂正してください。

SQL6528N レコード長がロード・コマンドで指定されていません。

説明: **BINARYNUMERICS** あるいは **PACKEDDECIMAL** 修飾子がロード・コマンドで指定されている場合、レコード長 (*reclen*) もロード・コマンドで指定してください。

ユーザーの処置: ロード・コマンドを訂正してください。

SQL6529N ヘッダーなしオプション (**noheader**) がロード・コマンドで指定されていません。

説明: 単一ノードのデータベース・パーティション・グループで表が定義される場合、ロード・コマンドで **NOHEADER** 修飾子を指定する必要があります。

ユーザーの処置: ロード・コマンドを訂正してください。

SQL6530N パーティション・キーのデータ・タイプが浮動あるいは倍精度です。

説明: 入力ファイルが バイナリー以外のデータ・ファイルである場合、浮動あるいは倍精度の列は、パーティション・キーとして定義されません。

ユーザーの処置: バイナリー・データ・ファイルを提供するか、あるいは表の定義を変更してください。

SQL6531N プログラムが表スペースの静止をリセットできません。

説明: 処理中のロード処理がある可能性があります。前のロード処理がすべて完了していなければ、別のオートローダー・セッションを開始することはできません。

ユーザーの処置: マシンの処理状況を調べてください。

SQL6532N ロード・コマンドの `savecount` はゼロ以外にはセットできません。

説明: 複数のパーティション・ノードがある場合、モードが `PARTITION_AND_LOAD` の場合、およびコマンドが `REPLACE INTO` または `INSERT INTO` ロード・コマンドの場合は、ロード・コマンドの `savecount` を非ゼロに設定することはできません。

ユーザーの処置: ロード・コマンドを訂正してください。

SQL6533N ロード・コマンドの `restartcount` はゼロ以外にはセットできません。

説明: 複数のパーティション・ノードは、ロード処理でレコードのランダムな順序を作成するため、`restartcount` を指定して `RESTART INTO` を使用した場合、リカバリーが正常に行われられない可能性があります。

ユーザーの処置: ロード・コマンドを訂正してください。

SQL6534N `netrc` ファイル `netrc-file` でエラーがあります。

説明: `netrc` ファイルが見つからないか、あるいはリモート・ホスト `machine` に入力がないか、またはファイルの許可が誤っているかのいずれかです。

ユーザーの処置: `netrc` ファイルが存在しているか、またファイルの許可についても調べてください。

SQL6535N モード `PARTITION_ONLY` または `ANALYZE` は無効です。

説明: 単一ノードのデータベース・パーティション・グループで表が定義される場合、パーティションと分析はどちらも必要ありません。

ユーザーの処置: モードを `LOAD_ONLY` または `PARTITION_AND_LOAD` に変更してください。

SQL6536N プログラム `progname` は、ファイル `filename` を読み取り用にオープンできませんでした。

説明: オートローダー処理は、読み取り用ファイルまたはパイプを正常にオープンできません。

ユーザーの処置: 構成ファイルがすべて正しいか、確認してください。

SQL6537N プログラム `progname` は、ファイル `filename` を書き込み用にオープンできませんでした。

説明: オートローダー処理は、書き込み用ファイルまたはパイプを正常にオープンできません。

ユーザーの処置: 構成ファイルがすべて正しいか、確認してください。

SQL6538N ロードは、パーティション化ファイル `partitioned-file` の読み取りに失敗しました。

説明: ロードが `LOAD_ONLY` モードで呼び出された場合、入力データ・ファイルはすでにパーティション化されており、パーティション化されたすべてのファイルはこのロードによる読み取りが可能でなければなりません。

ユーザーの処置: 入力データ・ファイルがパーティション化されているかどうか、およびプログラムの結果のパーティション・ファイルのアクセス許可をチェックしてください。

SQL6539N 作業環境で検出されない `cmd-list` には少なくとも 1 つのコマンドがあります。

説明: このプログラムの実行は共通 Unix コマンドに依存します。コマンドのいずれかが作業環境で使用できない場合、処理は失敗します。

ユーザーの処置: ご使用のシステムに必要なコマンドがすべて正しくインストールされているか確認してください。

SQL6540N ロード・コマンドで指定されたファイル・タイプ `file-type` が無効です。

説明: 有効なファイル・タイプは `ASC` (定位置 ASCII) あるいは `0 DEL` (区切り付き ASCII) です。

ユーザーの処置: 構成ファイルのロード・コマンドを訂正してください。

SQL6550N パーティション・マップ・ファイル `map-file-name` を書き込み用にオープンできません。

説明: パーティション・マップのファイル名およびファイル・パスをオープンできません。エラーが発生しました。

ユーザーの処置: パーティション・マップのファイル名およびファイル・パスが正しく指定されており、ファイ

ルを書き込み用にオープンできることを確認してください。

SQL6551N パーティション・マップ・ファイルに書き込み中に、エラーが発生しました。

説明: パーティション・マップ・ファイルに書き込み中にファイル・システム・エラーが発生しました。

ユーザーの処置: ファイル・パスが正しく、ターゲット装置にパーティション・マップの出力を保留するだけの十分なスペースがあることを確認してください。

SQL6552N 書き込み用に、一時構成ファイル *filename* を開くときにエラーが発生しました。

説明: 一時ファイルのファイル名およびファイル・パスをオープンできません。エラーが発生しました。

ユーザーの処置: ユーティリティー一時ファイルのストレージ・パスが正しく指定されており、そのパスでファイルを書き込み用にオープンできることを確認してください。

SQL6553N 一時構成ファイル *filename* を書き込み中に、エラーが発生しました。

説明: 一時ファイルに書き込み中にファイル・システム・エラーが発生しました。

ユーザーの処置: ファイル・パスが正しく、ターゲット装置にファイル・データ用の十分なスペースがあることを確認してください。

SQL6554N 処理をリモート実行しようとしたときに、エラーが発生しました。

説明: ユーティリティーは別のデータベース・パーティション上で子処理を開始しようとしたますが、エラーが発生しました。

ユーザーの処置:

- リモート・アクセス用のユーザー ID とパスワードがユーティリティーに提供されなかった場合、ユーティリティーを呼び出すユーザー ID に、ターゲット・ノードのプログラムを実行する権限があることを確認してください。
- ユーザー ID とパスワードがユーティリティーに提供された場合は、正しく提供されたことを確認してください。
- Windows オペレーティング・システムで実行している場合、すべてのノードのスプリッター操作用の Windows サービスが DB2 インストール済み環境で正しく定義されていることを確認してください。

- 問題を解決できない場合は、DB2 サービス担当者に連絡してください。

SQL6555N ロード・ユーティリティーが、予期しない通信エラーを検出しました。

説明: ユーティリティーが、以下のいずれかの操作中に、エラーを見つけました。

- TCP/IP ソケットに接続中です。
- TCP/IP メッセージの読み取りまたは書き込み中です。
- TCP/IP 通信を初期化中です。
- 完全ホスト名を検索中です。
- アクティブ TCP/IP ソケットを選択中です。
- アクティブ・ソケットをクローズ中です。
- ポート番号を検索中です。

ユーザーの処置:

- 使用しているロード・ユーティリティーのバージョンについてサービス名のセットアップを要求された場合は、サービス名が正しく定義されていることを確認してください。
- 並行ロード・ユーティリティーを実行している場合は、並行ユーティリティー・ジョブ間の競合を避けるために、資料のセットアップ要件に従っていることを確認してください。
- 問題が解決しない場合は DB2 サービス担当者に連絡してください。

SQL6556W ファイル *filename* の最後に不完全なレコードが検出されました。

説明: ユーザーによってユーティリティーに提供されているデータ・ファイルの終わり、不完全なデータ・レコードが検出されました。

ユーザーの処置: ソース・データを調べて構文を修正してください。

SQL6557N デフォルト・ノード番号の検索に失敗しました。

説明: ユーティリティーがデフォルト・ノード番号を判別しようとしたますが、できませんでした。

ユーザーの処置: ユーティリティー構成ファイルでソースおよびターゲットのノード番号を明確に示すか、DB2 サービス担当者に連絡してください。

SQL6558N ユーティリティは現行作業ディレクトリーまたはドライブあるいはその両方を判別できません。

説明: ユーティリティが、現行作業ディレクトリーおよび / またはドライブを判別しようとしたが、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: DB2 サービス担当者に連絡してください。

SQL6559N オートローダー・ユーティリティに無効なコマンド行オプションが与えられました。

説明: サポートされていないか、または古いコマンド行オプションをオートローダー・ユーティリティに指定しました。

ユーザーの処置: サポートされているオプションおよび機能については、オートローダーの資料あるいはオンライン・ヘルプを参照してください。

SQL6560N パーティションの実行ノードであるノード *node-number* が、*db2nodes.cfg* ファイルに指定されていません。

説明: パーティションの実行ノードとして指定されているノードが、*db2nodes.cfg* ファイルにメンバーとして指定されていません。このノードを完了する作業を開始できません。

ユーザーの処置: ノードを *db2nodes.cfg* ファイルのノード・リスト定義に追加するか、またはパーティション操作の代替ノードに、ノード構成のメンバーを指定してください。

SQL6561N ロードのターゲット・ノード *node-number* がデータベース・パーティション・グループの中にありません。

説明: ロードのターゲット・ノードとしてノードが指定されましたが、このノードはロードされるノード・グループのメンバーではない可能性があります。

ユーザーの処置: データベース・パーティション・グループ定義を調べて、ロードのターゲットとして指定されたノードがこのデータベース・パーティション・グループに含まれることを確認してください。このノードがデータベース・パーティション・グループに含まれない場合は、正しいノード・リストを含むようユーティリティのターゲット・ノード指定を訂正してください。ノードがデータベース・パーティション・グループに含まれる場合は、DB2 サービス担当者に連絡してください。

SQL6562N ユーティリティがインスタンス名を検索できません。

説明: ユーティリティがインスタンス名を検索しようとしたが、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: ユーティリティが DB2 がインストールされているノードで実行されており、実行中のインスタンスが有効であることを確認してください。さらに詳しくは、DB2 サービス担当者に連絡してください。

SQL6563N 現行ユーザー ID を検索できません。

説明: ユーティリティは現行ユーザー ID から ID を取り出そうとしたが、エラーを検出しました。

ユーザーの処置: DB2 サービス担当者に連絡してください。

SQL6564N 提供されたパスワードは無効です。

説明: ユーザーによりユーティリティに明示パスワードが提供されましたが、パスワードが無効です。

ユーザーの処置: 有効なパスワードを提供してください。

SQL6565I 使用方法: *db2xxld [-config config-file] [-restart] [-terminate] [-help]*

説明:

- '-config' オプションはユーザー指定の構成ファイル (デフォルトは *autoload.cfg*) を使用して、このプログラムを実行します。
- '-restart' オプションは、このプログラムを再始動モードで実行します。完了しなかった最後のオートローダー・ジョブの後、構成ファイルを変更しないでください。
- '-terminate' オプションは、このプログラムを終了モードで実行します。完了しなかったオートローダー・ジョブの後、構成ファイルを変更しないでください。
- '-help' オプションはこのヘルプ・メッセージを生成します。

オートローダー構成ファイルは、実行される LOAD コマンド、ターゲット・データベース、およびユーザーが指定できるいくつかのオプション・パラメーターの入ったユーザー提供のファイルです。サンプル・ディレクトリーで提供されるサンプル構成ファイル '*AutoLoader.cfg*' には、使用できるオプションやそれらのデフォルト値についてのインライン・コメントが入っています。このプログラムを '-restart' および '-terminate' オプションで実行するときは、完了しなかった最後のジョブの後、構成ファイルを変更しないでください。

ユーザーの処置: オートローダー・ユーティリティの詳細については、DB2 の資料を参照してください。

SQL6566N LOAD コマンドがオートローダー構成ファイルから欠落しています。

説明: LOAD コマンドがオートローダー構成ファイルから欠落しています。パラメーターを指定する必要があります。

ユーザーの処置: オートローダー用の正しい構成ファイルを指定しており、LOAD コマンドがその中で指定されていることを確認してください。

SQL6567N オートローダー構成ファイルに、複数の *option-name* オプションがあります。

説明: オートローダー構成ファイルの中で、オプション・パラメーターが複数回指定されました。

ユーザーの処置: 構成ファイルを訂正して、各オプションが多くても 1 つしか存在しないようにしてください。

SQL6568I ロード・ユーティリティは現在、すべての *request-type* 要求をディスパッチしています。

説明: ロード・ユーティリティは現在、各パーティションに対して *request-type* 操作をディスパッチしています。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。

SQL6569I オートローダーは現在、すべての分割要求を出しています。

説明: オートローダーは、ターゲット分割区分のそれぞれにおいて分割操作を発行中です。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。

SQL6570I オートローダーは、すべてのスプリッターの完了を待機しています。

説明: オートローダーは、すべてのスプリッターの完了を待機しています。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。

SQL6571I ロード・ユーティリティは、すべての操作が完了するのを待機しています。

説明: ロード・ユーティリティは、操作が完了するのを待機しています。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。

SQL6572I ロード操作が区分 *node-number* で開始しています。

説明: ロード操作が指定された区分で開始しています。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。

SQL6573I 区分 *node-number* でのスプリッター・ユーティリティのリモート実行が、リモート実行コード *code* で完了しました。

説明: 指定された区分のスプリッター・ユーティリティのリモート実行が完了しました。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。

SQL6574I ユーティリティはソース・データから *MB-count* メガバイトを読み取りました。

説明: この情報は定期的に生成され、大きなロード・ジョブの進行状況をユーザーに提供します。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。

SQL6575I ユーティリティはユーザー・データからの *MB-count* メガバイトの読み取りに完了しました。

説明: このメッセージはロードの完了時に書き込まれ、処理されたユーザー・データの合計量を示します。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。

SQL6576N オートローダー・ユーティリティがスレッド化エラーを見つけました。理由コード *reason-code*、戻りコード *ret-code*。

説明: 以下は、理由コード *reason-code* の説明です。

- 1 - オートローダー・ユーティリティがスレッドの作成を試みましたが、失敗しました。戻りコード *ret-code*。
- 2 - オートローダー・ユーティリティがスレッドの完了の待機を試みましたが、失敗しました。戻りコード *ret-code*。

ユーザーの処置: スレッド・アプリケーションをサポートするオペレーティング・システムで実行中であること、処理単位のスレッドの限度が十分であることを確認してください。スレッドの要件は以下のとおりです。

- 各ロード処理に 1 つのスレッドが開始している、
- すべてのスプリッター処理に 1 つのスレッド、
- スプリッター処理へのデータ送りに 1 つのスレッド。

SQL6577N オートローダー・ユーティリティーは、ロード・コマンドの **ROWCOUNT** オプションをサポートしていません。

説明: ロード・コマンドの **ROWCOUNT** オプションは、オートローダー・ユーティリティーではサポートされていません。

ユーザーの処置: オートローダー構成ファイルにあるロード・コマンドを訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL6578N 無効なオートローダー・オプションです。**RESTART/TERMINATE** オプションは、**SPLIT_AND_LOAD** または **LOAD_ONLY** モードのみで指定できません。

説明: オートローダーの **RESTART/TERMINATE** オプションは、**SPLIT_AND_LOAD** または **LOAD_ONLY** モードのみで使用できます。

ユーザーの処置: オートローダー構成ファイルまたはオートローダー・オプション・フラグをチェックしてください。

SQL6579N オートローダー構成ファイルの **LOAD** コマンドが無効です。オートローダーの **RESTART** および **TERMINATE** オプションはそれぞれ、**LOAD RESTART** および **LOAD TERMINATE** 操作を実行するために使用されます。

説明: **LOAD** コマンドに **RESTART** または **TERMINATE** を指定しないでください。代わりに、オートローダーの **RESTART** および **TERMINATE** オプションを使用してください。

ユーザーの処置: オートローダー構成ファイルを変更しない場合、オプション **RESTART** または **TERMINATE** で **db2xxld** を開始しなければなりません。

SQL6580I **LOAD** は、ノード *node-num* において、フェーズ *restarting-phase* で再始動しています。

説明: オートローダーは、**LOAD** が **LOAD/BUILD/DELETE** フェーズのいずれかで再始動していることを確認しました。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。

SQL6581I ロードをノード *node-num* で再始動することはできません。

説明: オートローダーは、示されているノードで **LOAD** を再始動できないことを確認しました。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。

SQL6582I ノード *node-num* で **LOAD** を再始動する必要はありません。

説明: オートローダーは、示されているノードで **LOAD** を再始動する必要がないことを確認しました。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。

SQL6583N パーティション・キー定義が、パーティション化データベース・ロード・モード *load-mode* と非互換です。

説明: **ID** 列がパーティション・キー定義の一部として定義されましたが、指定したロード・モードが **PARTITION_AND_LOAD** ではなく、**identityoverride** 修飾子が指定されていませんでした。

ユーザーの処置: ロード・モードを **PARTITION_AND_LOAD** に変更するか、**identityoverride** 修飾子を指定するか、または **ID** 列をパーティション・キー定義から除去してください。

第 15 章 SQL7000 - SQL7499

SQL7001N 不明なコマンド *command* が要求されました。

説明: REXX に対してサブミットされたコマンドが認識できませんでした。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: コマンドが有効な SQL ステートメントであることを確認して、プロシーチャーを再実行してください。すべてのコマンドは大文字でなければならぬことに注意してください。

SQL7002N カーソル名が無効です。

説明: 正しくないカーソル名が指定されました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: カーソル名が、“c1”から“c100”の形式のいずれかであることを確認してください。

SQL7003N ステートメント名が無効です。

説明: 正しくないステートメント名が指定されました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ステートメントが、“s1”から“s100”の形式のいずれかであることを確認してください。

SQL7004N 要求の構文が無効です。

説明: REXX が、サブミットされたコマンド・ストリングを解析できませんでした。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 正しいコマンド構文を使用してください。

SQL7005W この OPEN ステートメントで使用するカーソルが宣言されていません。

説明: OPEN ステートメントが実行されようとしたが、カーソルが宣言されていません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: OPEN ステートメントの前に DECLARE ステートメントを挿入して、プロシーチャーを再実行してください。

SQL7006N 無効なキーワード *keyword* が *request* に与えられました。

説明: ステートメントに、無効なキーワード *keyword* が入っています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 正しいキーワード形式で指定してください。

SQL7007N REXX 変数 *variable* が存在しません。

説明: REXX 変数プールに存在しない REXX 変数が渡されました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 失敗したコマンドの前に、ホスト変数リストのすべての変数名が割り当てられていることを調べてください。プロシーチャーを再実行してください。

SQL7008N REXX 変数 *variable* に、矛盾するデータが含まれています。

説明: 矛盾するデータを含んだ変数が、REXX に渡されました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 変数が SQLDA の場合は、「データ」と「長さ」フィールドが正しく割り当てられていることを確認してください。REXX 変数の場合は、データのタイプが使用されるコマンドに適していることを確認してください。

SQL7009N REXX 変数 *variable* は切り捨てられました。

説明: REXX に渡された変数 *variable* に、不整合データが入っています。 *variable* からのデータ・ストリングは、切り捨てられました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: データ長が、入力 SQLDA に指定された長さとも一致することを確認して、プロシーチャーを再実行してください。

SQL7010N スキャン ID *ID* が無効です。

説明: REXX に渡されたスキャン ID *variable* が存在

SQL7011N

しないか、矛盾を含んでいるか、またはデータが欠落しています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: スキャン ID に含まれているデータが正しく割り当てられていることを確認して、プロシージャを再実行してください。

SQL7011N 必須パラメーター *parameter* が指定されていません。

説明: パラメーター *parameter* は REXX コマンド構文に必須であるのに、指定されていません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 必須パラメーター値を指定して、プロシージャを再実行してください。

SQL7012N データベースに接続中に、ISL 変更を試みました。

説明: データベースに接続されているときは、分離レベル (ISL) が変更されない場合があります。

コマンドは、無視されます。

ユーザーの処置: 分離レベルの変更が必要な場合は、現在のデータベースから切断した後で、分離レベルを設定してそのデータベースに再接続してください。

SQL7013N カーソルおよびステートメント名が一致しないか、または属性が保留になっています。

説明: REXX では、カーソルとステートメント名の形式は、'cnn' と 'snn' ('nn' は 1 から 100 の数字) でなければなりません。一組のカーソルとステートメントの数字は、同じでなければなりません。また、c1 から c50 は hold なしで宣言され、c51 から c100 は hold 付きで宣言されます。

コマンドは、無視されます。

ユーザーの処置: カーソルとステートメント番号の一致を確認して、プロシージャを再実行してください。

SQL7014N ホスト変数のコンポーネントの数が誤りです。

説明: REXX の場合、コンパウンド・ホスト変数の最初のコンポーネントが、実際に定義されているコンポーネントの数と等しくない数をリストします。

コマンドは、無視されます。

ユーザーの処置: 最初のコンポーネントの数が、実際に定義されているエレメント数と一致していることを確認

して、プロシージャを再実行してください。

SQL7015N 変数名 *variable* は、REXX では無効です。

説明: 示された変数名は、REXX では無効です。名前は、言語の要求を満たしていなければなりません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 名前を REXX の要求に合った名前に変更して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL7016N 無効な構文が SQLDB2 インターフェースに指定されました。関連エラー: *db2-error*

説明: SQLDB2 インターフェースに無効な構文が提供されました (例: 入力ファイルとコマンドが両方とも指定されているなど)。

ユーザーの処置: 詳細情報については、関連するエラー・コードを参照してください。

SQL7032N SQL プロシージャ *procedure-name* は作成されていません。診断ファイルは *file-name* です。

説明: SQL プロシージャ *procedure-name* は作成されませんでした。以下のいずれかが発生しました。

- SQL ストアード・プロシージャのサポートは、このサーバーでインストールも構成もされていません。SQL プロシージャを作成するには、IBM データ・サーバー・クライアントおよび C コンパイラーをサーバーにインストールしておく必要があります。DB2 レジストリー変数 DB2_SQLROUTINE_COMPILER_PATH を、プラットフォーム上の C コンパイラー用の環境設定が入っているスクリプトまたはバッチ・ファイルを指すように設定しなければならない場合もあります。
- DB2 は、SQL ストアード・プロシージャをプリコンパイルまたはコンパイルできませんでした。DB2 は、組み込み SQL を含む C プログラムとして SQL プロシージャを作成します。プリコンパイルまたはコンパイルの実行中、CREATE PROCEDURE ステートメントの初期解析中にエラーが見つからなかったと報告されることがあります。

UNIX プラットフォームの場合、診断情報が入っているファイルの絶対パスは以下のとおりです。

```
$DB2PATH/function/routine/sqlproc/ ¥  
$DATABASE/$SCHEMA/tmp/file-name
```

ここで \$DATABASE はデータベースの名前を表し、\$SCHEMA は SQL プロシージャのスキーマ名を表します。

Windows オペレーティング・システムの場合、診断情報が入っているファイルの絶対パスは以下のとおりです。

```
%DB2PATH%\%function%\routine\sqlproc\%
%DATABASE%\%SCHEMA%\tmp\%file-name
```

ここで %DATABASE% はデータベースの名前を表し、%SCHEMA% は SQL プロシージャのスキーマ名を表します。

ユーザーの処置: 互換性のある C コンパイラおよび DB2 アプリケーション開発クライアントの両方がサーバーにインストールされていることを確認してください。プリコンパイルまたはコンパイル・エラーが起こる場合、診断ファイル *file-name* で、プリコンパイラまたはコンパイラからのメッセージについて調べてください。

DB2 レジストリー変数

DB2_SQLROUTINE_COMPILER_PATH が、C コンパイラ環境をセットアップしているスクリプトまたはバッチ・ファイルを指していることを確認してください。UNIX オペレーティング・システムの場合、たとえば “sr_cpath” という名前のスクリプトを /home/DB2INSTANCE/sqlib/function/routine ディレクトリーに作成することができます。ここで DB2 レジストリー変数 DB2_SQL_ROUTINE_COMPILER_PATH を設定するには、以下のコマンドを使用してください。

```
db2set DB2_SQLROUTINE_COMPILER_PATH =
/home/DB2INSTANCE/sqlib/function/routine/sr_cpath
```

sqlcode: -7032

sqlstate: 42904

SQL7035W SQL プロシージャ *procedure-name* の実行可能プログラムはデータベース・カタログに保管されません。

説明: SQL プロシージャの実行可能プログラムは 2 メガバイトの制限を超えているので、データベース・カタログに保管されません。そのため、データベース・リストア時、または DROP PROCEDURE ステートメントの ROLLBACK の実行時にも、自動的にリカバリーされません。

ユーザーの処置: CREATE PROCEDURE ステートメントで警告が出された場合には、SQL プロシージャ *procedure-name* と関連した実行可能ファイルのバックアップが保管されていることを確認してください。この警告がリストア操作または DROP PROCEDURE ステートメントの ROLLBACK で出された場合には、*procedure-name* と関連した実行可能ファイルは、カタログで定義されている SQL プロシージャに手操作で同期化される必要があります。

sqlcode: +7035

sqlstate: 01645

SQL7099N 無効なエラー *error* が発生しました。

説明: REXX 内部エラーが発生しました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: REXX が正しくインストールされていることを確認して、プロシージャを再実行してください。エラーが続く場合は、エラー番号を記録して販売業者に連絡してください。

第 16 章 SQL8000 - SQL8499

SQL8000N DB2START 処理は失敗しました。有効な製品ライセンスが見つかりませんでした。この製品のライセンスを取得した場合、ライセンス・キーが適切に登録されているかどうか、確認してください。db2licm コマンドを使用してこのライセンスを登録することができます。ライセンス・キーは、ライセンス製品 CD に入っています。

説明: 有効なライセンス・キーが見つかりません。評価期間が満了しました。

ユーザーの処置: 製品の完全許可版があるバージョンのライセンス・キーをインストールしてください。製品のライセンス・キーの取得に関しては、弊社または販売店でお訪ねください。

SQL8001N 製品ライセンスの問題のため、データベースへの接続が失敗しました。

説明: 接続の試行は、以下のいずれかの DB2 ライセンス交付の問題のために失敗しました。

- ライセンス・キーが存在しません。
- ライセンス・キーが正しくインストールされていません。
- ライセンス・キーが期限切れです。
- この DB2 製品のエディションは、ライセンス・キーをサポートしていません。

ユーザーの処置: データベース管理者に依頼して、DB2 製品のための有効なライセンス・キーが正しくインストールされていること、およびそれが期限切れでないことを検証してください。

- ライセンスを表示するには、db2licm -l コマンドを使用します。
- ライセンスを登録するには、db2licm -a コマンドを使用します。
- 製品のライセンス・キーの取得に関しては、弊社または販売店でお訪ねください。

sqlcode: -8001

sqlstate: 42968

SQL8002N DB2 Connect 製品がないため、またはライセンスが無効なために、ホストへの接続が失敗しました。

説明: ホスト・サーバーに直接接続する場合、有効なライセンスを持つ DB2 Connect 製品がユーザーのマシン上に存在しない可能性があります。

ホスト・サーバーに DB2 Connect ゲートウェイを介して接続する場合、有効なライセンスが DB2 Connect ゲートウェイ上に存在しない可能性があります。

ユーザーの処置: データベース管理者に依頼して、以下を確認してください。

ホストに直接接続する場合、まず DB2 Connect 製品が存在していること、そして適切なライセンス・キーがマシンにインストールされていて、それが期限切れではないことを確認します。

DB2 Connect ゲートウェイを介して接続する場合、適切なライセンス・キーがゲートウェイにインストールされていること、およびそれが期限切れではないことを確認します。

- ライセンスを表示するには、db2licm -l コマンドを使用します。
- ライセンスを登録するには、db2licm -a コマンドを使用します。
- 製品のライセンス・キーの取得に関しては、弊社または販売店でお訪ねください。

注: 一部の DB2 製品は、ホスト・サーバーへの接続をサポートしていないことがあります。

sqlcode: -8002

sqlstate: 42968

SQL8003N 要求された機能に対して有効なライセンス・キーが見つかりません。

説明: 現行ライセンス・キーでは、要求された機能を実行できません。

ユーザーの処置: IBM 担当員または認定販売店からこの機能用のライセンス・キーを購入し、db2licm コマンドを使用してライセンスを更新してください。

SQL8004N 要求された機能に対して有効なライセンス・キーが見つかりません。

説明: 現行ライセンス・キーでは、要求された機能を実行できません。

ユーザーの処置: 詳細情報については、管理通知ログを参照してください。

SQL8006W この製品 *product-name* には、有効なライセンス・キーが登録されていません。この製品のライセンスを取得した場合、ライセンス・キーが適切に登録されているかどうか、確認してください。 **db2licm** コマンドを使用してこのライセンスを登録することができます。ライセンス・キーは、ライセンス製品 CD に入っています。ライセンス・キーが登録されていない場合も、評価期間の *number* 日間はこの製品が使用できます。評価期間製品を使用された場合、この製品のインストール・パス中のライセンス・ディレクトリー中にある **IBM** ご使用条件に同意されたものとみなされません。

説明: この製品の有効なライセンス・キーがインストールされていません。一定の評価期間のあいだは、この製品が試用できます。評価期間は時間制の使用停止装置 (TIME DISABLING DEVICE) が制御します。

ユーザーの処置: この製品の完全許可版を購入なさった場合は、製品のインストール・ドキュメントの説明にしたがってライセンス・キーをインストールしてください。ライセンス・キーがすでにインストール済みの場合は、ライセンス・ファイルをチェックして内容が正しいかどうか確認してください。

評価期間の製品の使用が、**IBM** ご使用条件およびこの製品のライセンス情報の資料に記載されています。評価期間のあいだご試用いただければ、**IBM** の評価協約をご承諾いただけるはずで

す。**IBM** の評価協約をご承諾いただけない場合は、製品の使用権限がありませんので、インストールした製品を消去してください。**IBM** の担当者または販売店にご連絡いただければ、この製品と共にプログラムに完全許可を授与するライセンス・キーが取得できます。

SQL8007W 製品 *product-name* の評価期間はあと *number* 日で満了します。評価版のご使用条件については、この製品のインストール・パス中のライセンス・ディレクトリーの中にあるご使用条件の資料を参照してください。この製品のライセンスを取得した場合、ライセンス・キーが適切に登録されているかどうか、確認してください。**db2licm** コマンド行ユーティリティーを使用してこのライセンスを登録することができます。ライセンス・キーは、ライセンス製品 CD に入っています。

説明: この製品の有効なライセンス・キーがインストールされていません。評価期間は所定の日数で満了します。

ユーザーの処置: この製品は現在、評価モードで実行されており、一定期間のあいだだけ試用できます。評価期間が満了すると、この製品の完全許可版のライセンス・キーがインストールされるまで、実行しなくなります。

製品のライセンス・キーの取得に関しては、弊社または販売店でお訪ねください。

sqlcode: +8007

sqlstate: 0168H

SQL8008N この製品 *text* にはインストールされた有効なライセンス・キーがありません。評価期間の期限はきれています。この製品に固有な機能は使用できません。

説明: 有効なライセンス・キーが見つかりません。評価期間が満了しました。

ユーザーの処置: 製品の完全許可版があるバージョンのライセンス・キーをインストールしてください。製品のライセンス・キーの取得に関しては、弊社または販売店でお訪ねください。

SQL8009W **DB2 Workgroup** 製品の並行ユーザー数が、*number* のライセンスに規定された数を超過しています。並行ユーザー数は *number* です。

説明: 並行ユーザーの数が、定義された **DB2** ライセンスに規定された並行ユーザー数を超過しています。

ユーザーの処置: **IBM** サービス担当者または販売店に連絡して、追加の **DB2** ユーザー権利を取得し、**db2licm** コマンドを使用して **DB2** ライセンス情報を更新してください。

sqlcode: +8009

sqlstate: 01632

SQL8010W **DB2 Connect** 製品の並行ユーザーの数が、*number* のライセンスに規定された数を超過しています。並行ユーザー数は *number* です。

説明: 並行ユーザーの数が、定義された **DB2** ライセンスに規定された並行ユーザー数を超過しています。

ユーザーの処置: **IBM** サービス担当者または販売店に連絡して、追加の **DB2** ユーザー権利を取得し、**db2licm** コマンドを使用して **DB2** ライセンス情報を更新してください。

sqlcode: +8010

sqlstate: 01632

SQL8011W 1 つ以上のデータベース・パーティションに、*product-name* 製品に対して有効な DB2 ライセンス・キーがインストールされていません。

説明: すべてのデータベース・パーティションで、この製品の有効なライセンス・キーがありません。一定の評価期間のあいだは、この製品が試用できます。評価期間は時間制の使用停止装置 (TIME DISABLING DEVICE) が制御します。

ユーザーの処置: この製品の完全許可版を購入なさった場合は、製品のインストール・ドキュメントの説明にしたがってライセンス・キーをインストールしてください。ライセンス・キーがすでにインストール済みの場合は、ライセンス・ファイルをチェックして内容が正しいかどうか確認してください。

EVALUATE.ARG の IBM の評価協約に、評価期間内の試用が記載されています。評価期間のあいだご試用いただければ、IBM の評価協約をご承諾いただけるはずですよ。

IBM の評価協約をご承諾いただけない場合は、製品の使用権限がありませんので、インストールした製品を消去してください。IBM の担当者または販売店にご連絡いただければ、この製品と共にプログラムに完全許可を授与するライセンス・キーが取得できます。

SQL8012W DB2 Enterprise 製品の並行ユーザーの数が、*number* のライセンスに規定された数を超過しています。並行ユーザー数は *number* です。

説明: 並行ユーザーの数が、定義された DB2 ライセンスに規定された並行ユーザー数を超過しています。

ユーザーの処置: IBM サービス担当者または販売店に連絡して、追加の DB2 ユーザー権利を取得し、db2licm コマンドを使用して DB2 ライセンス情報を更新してください。

sqlcode: +8012

sqlstate: 01632

SQL8013W DB2 Connect 製品の並行データベース接続数が、*number* のライセンスに規定された数を超過しています。データベース接続数は *number* です。

説明: 使用している DB2 Connect 製品のライセンスは同時データベース接続の制限数をサポートします。この

制限を超えた接続数を要求しました。

ユーザーの処置: 同時更新する接続の制限を高くして、DB2 Connect 製品のバージョンにアップグレードしてください。

DB2 Connect Enterprise Edition のユーザー: 追加のユーザー・パックをお求めいただき、追加ユーザーのライセンスを取得してください。

sqlcode: +8013

sqlstate: 01632

SQL8014N 使用している DB2 Connect 製品のバージョンが TCP/IP プロトコルを指定して使用するようにはライセンスされていません。TCP/IP を使用できるように、全機能 DB2 Connect 製品にアップグレードしてください。

説明: DB2 Connect のこのバージョンは SNA 接続に限定されています。TCP/IP 接続はサポートされていません。

ユーザーの処置: TCP/IP を使用できるようにするため、DB2 Connect Personal Edition または DB2 Connect Enterprise Edition などの全機能 DB2 Connect 製品にアップグレードしてください。

sqlcode: -8014

sqlstate: 42968

SQL8015N 使用している DB2 Connect 製品のバージョンが同一トランザクションにある複数のデータベースをアップグレードするようにはライセンスされていません。

説明: DB2 Connect このバージョンは、トランザクションのシングルデータベースで動作するように限定されています。2 フェーズ・コミット・プロトコルをサポートしません。

ユーザーの処置: 単一トランザクションで複数のデータベースを更新できるようにするため、DB2 Connect Personal Edition または DB2 Connect Enterprise Edition などの全機能 DB2 Connect 製品にアップグレードしてください。

sqlcode: -8015

sqlstate: 42968

SQL8017W このマシンのプロセッサ数が、製品 *product-name* について定義されているライセンス *licensed-quantity* を超えています。このマシンのプロセッサ数は *processor-quantity* です。IBM 担当員または認定販売店からプロセッサ・ライセンスをさらに購入し、**db2licm** コマンドを使用してライセンスを更新してください。

ユーザーの処置:

SQL8018W この製品の並行ユーザー数が、ライセンスに規定された数 *number* を超えています。並行ユーザー数は *number* です。

説明: 並行ユーザーの数が、ライセンスに規定された並行ユーザー数を超えています。

ユーザーの処置: IBM サービス担当者または販売店に連絡して、追加のユーザー権利を取得し、**db2licm** コマンドを使用して DB2 ライセンス情報を更新してください。

sqlcode: +8018

sqlstate: 01632

SQL8019N OLAP スターター・キットのライセンスを更新しているときにエラーが発生しました。RC = *reason-code*。

説明: 不明なエラーが生じたため、ライセンス・ユーティリティは OLAP スターター・キットのライセンスを更新できませんでした。

ユーザーの処置: コマンドをやり直してください。問題が解決しない場合、IBM サービス担当者に連絡してください。

sqlcode: -8019

SQL8020W 1 つのサーバーでの並行コネクタ数が、ライセンスに規定された数 *number-sources* を超えています。現在のコネクタ数は *number-entitled* です。

説明: 現在の並行コネクタ数は、ライセンスに規定された数を超えています。

ユーザーの処置: IBM 担当員または認定販売業者に連絡して追加のライセンスを取得した後、**db2licm** コマンドを使用して DB2 ライセンス情報を更新します。

SQL8022N データベース・パーティション・ライセンスなしで、データベース・パーティション・フィーチャーが使用されています。データベース・パーティション・フィーチャー・ライセンスなしで、データベース・パーティション・フィーチャーが使用されていることが DB2 で検出されました。IBM 担当員または認定販売業者からデータベース・パーティション・フィーチャー・ライセンスを購入し、**db2licm** コマンドを使用してライセンスを更新します。

ユーザーの処置:

SQL8023N *product-name* 製品の並行ユーザー数が、ライセンス要綱 *entitlement* に規定された数を超えています。並行ユーザー数は *count* です。IBM 担当員または認定販売店から追加のユーザー別ライセンスを購入し、**db2licm** コマンドを使用してライセンスを更新してください。

ユーザーの処置:

SQL8024N 要求された機能に対して有効なライセンス・キーが見つかりません。*product_name* 製品の現行ライセンス・キーでは、要求された機能を実行できません。IBM 担当員または認定販売店からこの機能用のライセンス・キーを購入し、**db2licm** コマンドを使用してライセンスを更新してください。

ユーザーの処置:

SQL8025W サーバー *server-name* に接続できません。WebSphere Federated Server の有効なライセンスが見つかりませんでした。

説明: 現在の WebSphere Federated Server ライセンスでは、指定されたデータ・ソースに接続できません。

ユーザーの処置: このエラーの原因として可能性があることについては、管理通知ログを参照してください。この問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

SQL8026W この製品のための有効なライセンスが登録されていないことが、DB2 サーバーによって検出されました。

説明: 使用条件の条項に準拠するためには、有効なライセンス・キーの登録が必要です。この製品のライセン

ス・キーは、この製品のメディアの「license」ディレクトリー内にあります。

ユーザーの処置: 購入した適切なライセンスを登録するには、db2licm コマンドを使用します。ご使用条件の本文は、この製品のインストール・ディレクトリーの「license」ディレクトリーにあります。

SQL8027N DB2 Enterprise Server Edition のライセンスなしで表パーティション・フィーチャーが使用されています。DB2 Enterprise Server Edition のライセンスなしで表パーティション・フィーチャーが使用されていることが、DB2 によって検出されました。IBM 担当員または認定販売業者から DB2 Enterprise Server Edition の有効なライセンスを購入し、db2licm コマンドを使用してライセンスを更新します。

ユーザーの処置:

SQL8028N license ライセンスなしで feature フィーチャーが使用されています。適切なライセンスなしでこのフィーチャーが使用されていることが、DB2 によって検出されました。IBM 担当員または認定販売業者から適切なライセンスを購入し、db2licm コマンドを使用してライセンスを更新します。

ユーザーの処置:

SQL8029N 要求された機能に対して有効なライセンス・キーが見つかりません。この製品の現行ライセンス・キーでは、要求された機能を実行できません。IBM 担当員または認定販売店からこの機能用のライセンス・キーを購入し、db2licm コマンドを使用してライセンスを更新してください。

ユーザーの処置:

SQL8030W 製品 product のライセンスの有効期限が、あと number 日で切れます。db2licm コマンドを使ってこのライセンスを登録して更新することができます。ライセンス・キーは、ライセンス製品 CD に入っています。

ユーザーの処置:

SQL8100N 表がいっぱいです。

説明: データベースの作成時に、以下のパラメーターが指定された可能性があります。

- 各ファイルのセグメントで指定できるページの最大数
- セグメントの数

現在、各表の部分がデータベース・セグメント内で複数ファイルを持っている可能性があります。ファイルは、セグメントの最大サイズ (セグメントごとの最大ページ数) まで拡張可能で、さらにデータを加えると、次のセグメントに移されます。これが、構成されたすべてのセグメントについて、セグメントごとの最大ページを使い果たすまで繰り返された後で、表がいっぱいになります。

したがって、データベース部分ごとのスペースの合計量は、最大ページ数と最大セグメント数の積によって求められます。表の中に構成済みのスペース全体を使用する部分があるときには、表がいっぱいになります。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: この状態はデータ・ソースによっても検出できます。

ユーザーの処置:

- 表から行を削除してください。
- もっと大きいスペースを持つように、表を再構成してください。
- 最大ページ数および最大セグメント数を大きくした新しいデータベースを作成し、オリジナル・データベースをバックアップして、新しいデータベースにリストアしてください。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 問題を分離して要求が失敗したデータ・ソースを突き止め、以下のことを実行してください。

- データ・ソースで表のスペースを増加するステップをとってください。
- 表がフェデレーテッド・サーバー上にある場合には、セグメント当たりの最大ページ数およびセグメント数を大きくした新しいデータベースを作成してください。オリジナル・データベースをバックアップして、新しいデータベースをリストアしてください。

SQL8101N データベース・セグメントが間違っている可能性があります。

説明: このエラーは、以下の 2 つの状況で発生する可能性があります。

SQL8101N

1. すべてのデータベース・セグメントは、ID ファイルを持っています。そのファイルが無くなったか、またはファイルの内容が正しくない可能性があります。
2. 以前に割り振られたデータベース・セグメントのいくつかが失われました。

ユーザーの処置:

- ファイル・システムが正しく取り付けられていることを確認してください。
- バックアップからデータベースをリストアしてください。
- IBM サービス担当者に連絡してください。

第 17 章 SQL9000 - SQL9499

SQL9301N 無効なオプションが指定されているか、またはオプション・パラメーターがありません。

説明: 指定されたオプションが無効か、またはオプション・パラメーターが指定されていません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: オプションを訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL9302N 無効なオプション・パラメーター:
option-parameter。

説明: 示されているオプション・パラメーターが無効です。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: オプション・パラメーターを訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL9303N *option* が指定されていません。

説明: 必須オプション *option* が指定されていません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 必須オプションを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL9304N 書き込みのためにファイル *filename* をオープンできません。

説明: コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: システムがそのファイルにアクセスできることを確認してください。

SQL9305N *name* が長すぎます。最大長は *max-length* です。

説明: <name> が最大長 <max-length> よりも長くなっています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: <name> が最大長を超えていないことを確認してください。

SQL9306N 1 つ以上のフィールド名が長すぎます。最大長は *max-length* です。

説明: フィールド名の合計の長さは、指定した接頭部か列接尾部、またはその両方を含みます。接頭部または接尾部は、名前または数字のいずれでもかまいません。この長さの合計が最大長を超えないようにしてください。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: すべてのフィールド名が最大長を超えていないことを確認してください。

SQL9307N 注釈をデータベースで検索できません。エラー・コード = *sqlcode*

説明: 列の注釈をデータベースから検索しているときに、エラーが発生しました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 詳細については、エラー・コードを調べてください。

SQL9308W 列 *colname* の SQL データ・タイプ *sqltype* はサポートされていません。

説明: SQL データ・タイプ *sqltype* は、指定されているホスト言語ではサポートされていません。

この列の宣言は生成されません。

ユーザーの処置: これが目的の表であるかどうか確認してください。

第 18 章 SQL10000 - SQL10499

SQL10002N 指定されたパスワードが長すぎます。

説明: パスワードの長さは 18 文字以下です。ただし、パスワードが APPC 対話でチェックされる場合は、8 文字以下でなければなりません。

ユーザーの処置: パスワードが許容限界より長くないことを確認してください。

sqlcode: -10002

sqlstate: 28000

SQL10003C 要求を処理するための十分なシステム・リソースがありません。要求は処理できません。

説明: データベース・マネージャーが、システム・リソースが不十分なために、要求を処理できませんでした。このエラーを引き起こす可能性があるリソースは、以下の通りです。

- システムのメモリー量
- システムで使用可能なメッセージ・キュー ID の数
- クラスタ・キャッシング・ファシリティー (CF) の接続の数。

ユーザーの処置: アプリケーションを停止してください。可能な解決方法は、以下のとおりです。

- バックグラウンド処理を除去してください。
- このメッセージの「説明」にリストしたリソースを使用している他のアプリケーションを終了してください。
- リモート・データ・サービスを使用している場合は、アプリケーションごとに少なくとも 1 ブロックが使用されるので、サーバーとクライアント構成でリモート・データ・サービスのヒープ・サイズ (rsheapsz) を増やしてください。

注: これはバージョン 2 以前のリリースの DB2 のみに適用されます。

- メモリーの割り振りを定義する構成パラメーターの値を減らしてください。UDF が失敗したステートメントに含まれている場合は、ASLHEAPSZ も減らしてください。
- ラージ・ファイルへのアクセスを回避するか、または非バッファ入出力を使用します。非バッファ入出力を使用するには、DB2 レジストリー変数 DB2NTNOCACHE を YES に指定してください。

- 接続中の別のデータベースを非アクティブ化してから、このデータベースをアクティブ化します。

sqlcode: -10003

sqlstate: 57011

SQL10004C データベース・ディレクトリーのアクセス中に入出力エラーが発生しました。

説明: システム・データベース・ディレクトリーまたはローカル・データベース・ディレクトリーにアクセスできません。このエラーは、システムがデータベースをカタログまたはアンカタログしているときのみでなく、ディレクトリーにカタログされているデータベースにアクセスしているときにも発生する可能性があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置:

- LIST DB DIRECTORY ON <path> (path はデータベースが作成された場所) を実行します。
- 上記のコマンドで正常にデータベースをリストできる場合は、インスタンス・レベルのディレクトリーにのみ問題があります。
 - <inst_home>/sqllib/sqlldbidr の下のすべてのファイルを別のロケーションに移動します (注: カタログ情報は失われます)。
 - 同じパスでデータベースを再度カタログします。LIST DB DIRECTORY を実行してテストしてください。
- LIST DB DIRECTORY ON <path> コマンドでデータベースをリストできなかった場合は、ローカル・データベース・ディレクトリーに問題があります。そこにカタログされていたデータベースをバックアップ・バージョンからリストアして、カタログします。

sqlcode: -10004

sqlstate: 58031

SQL10005N CONNECT TO ステートメントのモード・パラメーター *parameter* が無効です。これは、共有アクセスの場合は SHARE、排他使用の場合は EXCLUSIVE、または単一ノードで排他使用の場合は EXCLUSIVE MODE ON SINGLE NODE でなければなりません。DB2 Connect の接続の場合には、SHARE モードのみサポートされます。EXCLUSIVE MODE ON SINGLE NODE は、MPP 構成でのみサポートされています。

説明: CONNECT TO ステートメントの *mode* パラメーターは、共有の場合は SHARE、排他使用の場合は EXCLUSIVE、単一ノードでの排他使用の場合には EXCLUSIVE MODE ON SINGLE NODE にしてください。DB2 Connect を使用してデータベースに接続している場合には、共有アクセスのみが許可されています。EXCLUSIVE MODE ON SINGLE NODE は、MPP 構成でのみサポートされています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効な *mode* パラメーターを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL10007N メッセージ *msgno* が検索できませんでした。理由コード: *code*

説明: 要求されたメッセージ <*msgno*> が、メッセージ・ファイルから検索できませんでした。理由コード <*code*> は以下のいずれかです。

1. 環境変数 DB2INSTANCE が設定されていないか、または無効なインスタンスに設定されています。それを訂正して、もう一度やり直してください。
2. メッセージ・ファイルは見つかりましたが、許可がないためにオープンできませんでした。メッセージ・ディレクトリ下のファイルに対するファイル許可をチェックしてください。
3. メッセージ・ファイルが見つかりませんでした。ファイルが存在しないか、またはメッセージ・ファイルが存在するべきディレクトリが存在しません。メッセージ・ディレクトリの下に、デフォルト・ディレクトリ、または 'LANG' 環境変数と同じ名前のディレクトリがあることを確認してください。
4. 要求されたメッセージがメッセージ・ファイルに存在しません。メッセージ・ファイルが古いか、正しいファイルではありません。

5. データベースがサポートしていないコード・ページに DB2CODEPAGE が設定されているか、クライアントのロケールがデータベースでサポートされていないかのいずれかです。
6. 予期しないシステム・エラーが発生しました。もう一度実行してください。問題が続く場合は、IBM サービス担当者に連絡してください。
7. 十分なメモリーがありません。専用メモリーの取得に失敗しました。もう一度やり直してください。

ユーザーの処置: 以下を確認した後で、コマンドを出し直してください。

- DB2INSTANCE 環境変数が、このコマンドを発行したユーザー名を表す正しいリテラル・ストリングに設定されていることを確認してください。
- このコマンドを発行したユーザー名に正しいホーム・ディレクトリが指定されていることを確認してください (例えば、*/etc/passwd* ファイル内)。
- このコマンドを発行したユーザー名で、LANG 環境変数が、インストールされた言語に対する正しい値、または 'C' にセットされていることを確認してください。
- メッセージ・ファイルが古い場合でも、データベース・サーバーの資料でメッセージについての最新情報を参照できます。

上記のすべてを確認してもエラーが続く場合は、DB2 を再インストールしてください。

SQL10009N 指定されたコード・セット *codeset* または テリトリー *territory*、あるいはその両方が無効です。

説明: このバージョンのデータベース・マネージャーは、Create Database コマンドで指定されたアクティブ・コード・セットまたはテリトリー、またはその両方をサポートしていません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーでサポートされている有効なコード・セットとテリトリーの対に関する詳細は、「管理ガイド」でデータベースの作成コマンドについて参照してください。

SQL10010N 指定されたライブラリー *name* はロードされましたが、関数 *function* を実行できませんでした。

説明: ライブラリー内に関数ルーチンが見つかりません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置:

1. ライブラリーが正しく構築されていることを確認します。関数ルーチンが 'ファイルのエクスポート' を使用して、エクスポートされていることを確認してください。
2. データベース・マネージャー・インスタンスまたはデータベース・マネージャー製品の再インストールが必要になる可能性があります。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: 関数名が "UnfencedWrapper_Hook" または

"FencedWrapper_Hook" である場合、CREATE WRAPPER ステートメントで正しいライブラリー名を指定したことを確認します。"U" または "F" で終わらないライブラリー名を指定してください。例えば、AIX 上で DRDA ラッパーを作成するには 'libdb2drdaU.a' または 'libdb2drdaF.a' ではなく、'libdb2drda.a' というライブラリーを指定します。ラッパー・ライブラリーがベンダーによって提供される場合、ベンダーに連絡して、更新されたバージョンのラッパー・ライブラリーを入手してください。

sqlcode: -10010

sqlstate: 42724

SQL10011N 指定されたライブラリー *name* のロード中に、割り込みを受け取りました。

説明: ライブラリーのロード中に、コマンドに対して割り込みが行われました。割り込みキー (通常 Ctrl+Break または Ctrl+C) が押された可能性があります。

処理は停止します。

ユーザーの処置: コマンドを再サブミットしてください。

sqlcode: -10011

sqlstate: 42724

SQL10012N 指定されたライブラリー *name* のロード中に予期しないオペレーティング・システム・エラーを受け取りました。

説明: 「プログラム名」フィールドに指定されたライブラリー・モジュールをロードしようとして、予期しないエラーが発生しました。

ユーザーの処置: 現在のコマンドを再サブミットしてください。エラーが続く場合は、データベース・マネージャーを停止して、再始動してください。それでも、エラーが続く場合は、データベース・マネージャーを再インストールしてください。

再インストールしてもエラーが解決しない場合は、メッセージ番号 (SQLCODE)、および可能であれば、SQLCA 内のすべての情報を記録しておいてください。

トレースがアクティブな場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトから、独立トレース機能呼び出ししてください。その後で、このガイドに記述されているように IBM に連絡してください。

sqlcode: -10012

sqlstate: 42724

SQL10013N 指定されたライブラリー *name* をロードできませんでした。

説明: ライブラリー・モジュールが見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 指定したライブラリーが使用可能であることを確認してください。

- クライアント・アプリケーションが完全修飾パス名を使ってライブラリーを指定する場合、特定のディレクトリー・パスにライブラリーが格納されている必要があります。クライアント・アプリケーションがパス名を使用しない場合、デフォルト・ディレクトリー (<InstanceHomeDir>/sqllib/function) にライブラリーが格納されている必要があります。<InstanceHomeDir> は、データベース・マネージャー・インスタンスのホーム・ディレクトリーです。
- データベース・マネージャーの始動時に、このエラー・メッセージが出された場合は、DB2 インスタンスまたはデータベース・マネージャー製品のインストールが必要になる可能性があります。

ライブラリーがラッパー・モジュールを識別している場合、モジュールをインストールし、(必要に応じて) リンク・エディットして、正しいディレクトリーで使用できるようにする必要があります。さらに、ラッパー・モジュールが使用するデータ・ソース・クライアント・ライブラリーも、正しいディレクトリーにインストールされ、使用可能となっている必要があります。

sqlcode: -10013

sqlstate: 42724

SQL10014N 指定されたプログラム名 *name* の呼び出しは無効です。

説明: ライブラリー・モジュールまたはプログラム名の構文が間違っています。

ユーザーの処置: ライブラリーまたはプログラム名が正しく指定されていることを確認してください。

SQL10015N

sqlcode: -10014

sqlstate: 42724

SQL10015N 指定されたライブラリー *name* のロードに十分なシステム・リソースがありません。

説明: ライブラリー・モジュールのロードに十分なメモリーがありません。

ユーザーの処置: アプリケーションを停止してください。可能な解決方法は、以下のとおりです。

- バックグラウンド処理を除去してください。
- メモリー割り振りを定義する構成パラメーターの値を減らしてください。
- メモリーを増やしてください。

sqlcode: -10015

sqlstate: 42724

SQL10017N このコンテキストでは **SQL CONNECT RESET** ステートメントを使用できません。

説明: リモート・プロシージャに、SQL CONNECT RESET ステートメントが入っています。

ユーザーの処置: SQL CONNECT RESET ステートメントを取り除いて、リモート・プロシージャを再実行してください。

sqlcode: -10017

sqlstate: 38003

SQL10018N ディスクがいっぱいです。処理は終了しました。

説明: ディスクがいっぱいです。PC/IXF ファイルへのエクスポート中に、PC/IXF データ・ファイルがハード・ディスクに存在するか、PC/IXF データ・ファイルとデータベースが同じファイル・システムに存在するか、または PC/IXF データ・ファイルとメッセージ・ファイルが同じファイル・システムに存在しています。

EXPORT ユーティリティーは処理を停止します。エクスポートされたデータは完全ではありません。

ユーザーの処置: ディスクにもっと多くのスペースを確保するか、データベースまたはメッセージ・ファイルとは別のファイル・システムにデータ・ファイルが置かれるように指定して、コマンドを再サブミットしてください。

SQL10019N 指定されたパスでは、データベースにアクセスできません。

説明: 以下のいずれかの理由で、データベースにアクセスできません。

- パスにデータベース・イメージが入っていません。
- パスのアクセス許可が正しくありません。

ユーザーの処置: パスが有効なデータベースを示していること、および許可が正しいことを確認してください。

sqlcode: -10019

sqlstate: 58031

SQL10021N データベースへの書き込みアクセスが、ファイル許可によって許されません。

説明: 書き込みアクセスが認められていないファイル・システムに常駐するデータベースに対して、書き込み操作が行われました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: データベースが常駐するファイル・システムに対するファイル許可が、書き込みアクセスを許可していることを確認してください。

第 19 章 SQL16000 - SQL16499

SQL16000N 静的コンテキストの *context-component* コンポーネントへの割り当てがないため、XQuery 式を処理できません。エラー
QName=err:XPST0001。

説明: 式の静的分析に必要な静的コンテキストのコンポーネント *context-component* に、値が割り当てられていません。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: *context-component* に値を割り当ててください。

sqlcode: -16000

sqlstate: 10501

SQL16001N 動的コンテキストのフォーカス・コンポーネントが割り当てられていないため、トークン *token* で始まる XQuery 式を処理できません。エラー
QName=err:XPDY0002。

説明: トークン *token* で始まる式を評価するには、動的コンテキストのフォーカス・コンポーネントが割り当てられている必要があります。トークンが、関連コンテキスト項目やコンテキスト・シーケンスのないパス式の先頭と見なされています。シーケンスがパス式のコンテキストとして定義または検索されていないことがこの原因と考えられます。このエラーの一般的な原因として、ほかに以下が考えられます。

- トークン *token* 内の値がリテラル・string として指定されているが、区切り文字の引用符がない。
- トークン *token* 内の値が関数として指定されているが、左括弧と右括弧がない。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: XQuery 式に出現するトークン *token* を調査してください。このトークンが出現する箇所の前後の XQuery 式を訂正してフォーカス・コンポーネントを割り当てるか、トークンのためのフォーカス・コンポーネントの割り当てが不要になるよう他の変更を行ってください。

sqlcode: -16001

sqlstate: 10501

SQL16002N XQuery 式の *text* の次に、予期しないトークン *token* があります。予期されたトークンに *token-list* が含まれている可能性があります。エラー
QName=err:XPST0003。

説明: 式の中で *text* の次に現れる *token* は無効です。*token-list* には、予期しないトークンの代わりに有効に置き換えることができるトークンが 1 つ以上含まれています。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: 式に正しい構文を使用してください。

sqlcode: -16002

sqlstate: 10505

SQL16003N コンテキストでデータ・タイプ *expected-type* が予期されているときに、データ・タイプ *value-type* の式は使用できません。エラー QName=err:XPTY0004。

説明: XQuery 式で、タイプ *expected-type* が予期されるコンテキストにおいて、タイプ *value-type* の値が組み込まれています。

XQuery 式を処理できません。

式で使用されるタイプには、以下の規則が適用されます。

- 範囲式オペランドはそれぞれ、単一の整数に変換できなければならない。
- UNION、INTERSECT、または EXCEPT 演算子のオペランドには、ノードのみの項目が含まれなければならない。
- 算術式オペランドは、1 より大きい長さのシーケンスにすることはできない。
- ノード比較のオペランドは、単一ノードか空シーケンスのいずれかでなければならない。
- 一般に、原子化の結果が複数の原子値になってはならない。
- 比較式に原子化が適用される時、原子化の結果は単一の原子値でなければならない。その場合、最初の原子化オペランドの値が 2 番目の原子化オペランドの値と比較可能であること。

SQL16004N

- 名前式に原子化が適用される時、原子化の結果は、`xs:QName`、`xs:string`、`xdt:untypedAtomic` のいずれかのタイプの単一の原子値でなければならない。
- 文書ノード・コンストラクターの内容シーケンスに、属性ノードを含めることはできない。
- *value-type* として (`item()`、`item()+`) が使用される場合、1 つの項目が予期される式の中で、2 個以上の項目から成るシーケンスが使用されている。
- ORDER BY 節内の *orderspec* 値は、共通タイプに変換可能でなければならない。
- 変数にバインドされる値は、宣言されたタイプと一致しなければならない (タイプが宣言される場合)。
- ソース・タイプ *value-type* の値からターゲット・タイプ *expected-type* へのキャストは、サポートされるキャストでなければならない。SQL 処理により XQuery が呼び出されて、XML データ・タイプを XML 以外の SQL データ・タイプにキャストすることになる場合、SQL データ・タイプおよび関連するサイズ制限に基づく名前を使用して生成された、一時派生 XML スキーマ・タイプによって、XQuery キャストが実行されます。たとえば、*target-type* トークン値は、`VARCHAR(50)` への `XMLCAST` の場合には "`VARCHAR_50`" となり、`DECIMAL(9,2)` への `XMLCAST` の場合には "`DECIMAL_9_2`" となります。

ユーザーの処置: 正しいタイプの値を指定してください。

sqlcode: -16003

sqlstate: 10507

SQL16004N タイプ・アノテーションに、内容が要素のみの複雑なタイプが示されている XQuery ノードには、`fn:data` 関数を明示的または暗黙的に適用することはできません。エラー `QName=err:FOTY0012`。

説明: 原子化の結果、XQuery 式が XQuery ノードに `fn:data` 関数を明示的または暗黙的に適用しようとした。しかし、ノードのタイプ・アノテーションは内容が要素のみの複合タイプを示しているため、ノードの型付きの値は未定義です。 `fn:data` 関数は、タイプが未定義のノードに適用されると、タイプ・エラーになります。

XQuery 式は、以下の式において原子化を使用して項目を原子値に変換します。すなわち、算術式、比較式、引数の予期されるタイプが `ATOMIC` である関数呼び出し、キャスト式、さまざまな種類のノードのコンストラクター式、`FLWOR` 式の `ORDER BY` 節、タイプ・コンストラクター関数、`REPLACE VALUE OF` 式の `SOURCE` 式、および `RENAME` 式の `NEW NAME` 式

です。これらの式のいずれかを処理すると、`fn:data` 関数が暗黙的に呼び出され、結果としてこのエラーが発生します。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのアクションを試行してください。

- `fn:data` 関数の呼び出しを、内容が要素のみの複合タイプに適した関数呼び出しに置き換えてください。
- 単純タイプのアノテーションを付けられたノード、または混合内容を含む複合タイプのアノテーションを付けられたノードに対して、`fn:data` 関数を呼び出してください。
- XQuery 式のコンテキストで一連の原子値が必要な場合、シーケンスが原子化可能な項目のみで構成されていることを確認してください。

sqlcode: -16004

sqlstate: 10507

SQL16005N XQuery 式は、静的コンテキスト内で定義されていない要素名、属性名、タイプ名、関数名、名前空間接頭部、または変数名である *variable-name* を参照しています。エラー `QName=err:XPST0008`。

説明: 静的分析フェーズでは、要素名、属性名、タイプ名、関数名、名前空間接頭部、変数名を解決するのに、静的コンテキストが使用されます。式が使用する *undefined-name* が静的コンテキスト内で見つからない場合は、静的エラーになります。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: 静的コンテキスト内で定義された名前を使用してください。 `QName` に接頭部が含まれる場合は、名前空間宣言によって名前空間接頭部が名前空間にバインドされていることを確認してください。エラーが変数参照によるものである場合は、変数が式のスコープ内のものであることを確認してください。

SQL プロシージャ型言語 (SQL PL) 変数の値が `XMLTABLE` または `XMLQUERY` 関数あるいは `XMLEXISTS` 述部の XQuery 式で使用される場合は、式の入力値を指定する `PASSING` 節で変数名が指定されていることを確認してください。

sqlcode: -16005

sqlstate: 10506

SQL16006N XML スキーマをインポートできません。
エラー QName=err:XQST0009。

説明: DB2 XQuery は、スキーマ・インポート機能をサポートしていません。

スキーマをインポートすることはできません。

ユーザーの処置: 照会プロログからスキーマ・インポート・ステートメントを除去してください。

sqlcode: -16006

sqlstate: 10502

SQL16007N XQuery パス式が、サポートされない軸 axis-type を参照しています。エラー QName=err:XQST0010。

説明: DB2 XQuery はすべての軸フィーチャーをサポートしていないため、指定された *axis-type* はサポートされません。サポートされる軸として、child、attribute、descendant、self、descendant-or-self、parent があります。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: サポートされる軸を指定してください。

sqlcode: -16007

sqlstate: 10505

SQL16008N XQuery ライブラリー・モジュールを宣言またはインポートできません。エラー QName=err:XQST0016。

説明: XQuery ステートメントにモジュール宣言またはモジュール・インポートが存在しますが、DB2 XQuery はモジュール機能をサポートしていません。

モジュールを宣言またはインポートできません。

ユーザーの処置: 照会プロログからすべてのモジュール宣言またはモジュール・インポートを除去してください。

sqlcode: -16008

sqlstate: 10502

SQL16009N *function-name* という名前の、*number-of-parms* 個のパラメーターを持つ XQuery 関数は、静的コンテキストに定義されていません。エラー QName=err:XPST0017。

説明: 関数 *function-name* の呼び出しに含まれる拡張 QName と *number-of-parms* が、静的コンテキスト内の

関数シグニチャーの関数名とパラメーター数に一致しません。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのアクションを試行してください。

- 関数呼び出しに渡そうとしているパラメーターの数が正しいことを確認してください。
- 関数呼び出しが接頭部なしの関数名を使用する場合は、関数のローカル名がデフォルト関数名前空間内の関数と一致していることを確認してください。あるいは正しい接頭部を使用してください。

sqlcode: -16009

sqlstate: 10506

SQL16010N XQuery パス式の最終ステップの結果に、ノードと原子値の両方が含まれています。エラー QName=err:XPTY0018。

説明: XQuery パス式の最終ステップに、少なくとも 1 つの XQuery ノードおよび XQuery 原子値が含まれています。XQuery パス式の最終ステップでは、タイプのこの組み合わせは許可されません。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: 各 XQuery パス式の最終ステップが、XQuery ノードのみまたは XQuery 原子値のみを戻すようにしてください。

sqlcode: -16010

sqlstate: 10507

SQL16011N XQuery パス式の間ステップ式の結果に、原子値が含まれています。エラー QName=err:XPTY0019。

説明: XQuery 式の各中間ステップの評価結果は、XQuery ノードのシーケンス (空の場合もある) にならなければなりません。このシーケンスには、どのような XQuery 原子値も含まれてはなりません。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: XQuery 式の各中間ステップがノードのシーケンスを戻すように式を変更してください。

sqlcode: -16011

sqlstate: 10507

SQL16012N 軸ステップのコンテキスト項目は、
XQuery ノードでなければなりません。エラー
QName=err:XPTY0020。

説明: 軸ステップのコンテキスト項目 (現在処理中の項目) は、XQuery ノードでなければなりません。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: コンテキスト項目がノードになるように軸ステップまたは入力を変更してください。

sqlcode: -16012

sqlstate: 10507

SQL16014N 名前空間宣言属性の値は、リテラル・スト
リングでなければなりません。エラー
QName=err:XQST0022。

説明: XQuery 式に、リテラル・ストリングでない名前
空間宣言属性が含まれています。名前空間宣言属性の値
は、有効な URI を含むリテラル・ストリングか、また
はゼロ長ストリングでなければなりません。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: 名前空間宣言属性の値にリテラル・ス
トリングを指定してください。

sqlcode: -16014

sqlstate: 10502

SQL16015N 要素コンストラクターの中で、属性ノード
でない XQuery ノードの後に
"node-name" という名前の属性ノードが
続いています。エラー
QName=err:error-name。

説明: 要素の内容を構成するために使用されるシーケ
ンスの中で、属性ノードでない XQuery ノードの後に
node-name という名前の属性ノードが続いています。こ
れが発生する特定のコンテキストは、エラー QName に
基づいています。

err:XQTY0024

要素コンストラクターの内容シーケンスの中
で、属性ノードでない XQuery ノードの後に
node-name という名前の属性ノードが続いてい
ます。属性ノードは、内容シーケンスの開始時
にのみ出現します。

err:XUTY0004

INSERT 式のソース式に基づいた挿入シーケ
ンスの内容の中で、属性ノードでない XQuery ノ
ードの後に node-name という名前の属性ノ
ードが続いています。属性ノードは、挿入シーケ
ンスの開始時にのみ出現します。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: 属性ノードが他の属性ノードの後に続
くように内容シーケンスを変更してください。

sqlcode: -16015

sqlstate: 10507

SQL16016N 要素コンストラクター内で属性名
attribute-name を複数回使用することは
できません。エラー
QName=err:XQDY0025。

説明: XQuery 式の要素コンストラクター内で
attribute-name が複数回使用されています。要素コンス
トラクター内で使用される属性名はユニークでなければ
ならないため、これは許可されません。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: 各属性にユニークな名前を指定して
ください。

sqlcode: -16016

sqlstate: 10503

SQL16017N 算出処理命令の名前式または内容式では、
ストリング「?>」は許可されません。エ
ラー QName=err:XQDY0026。

説明: 算出処理命令の名前式または内容式にストリン
グ「?>」を含めることはできません。これらの文字は
XML 処理命令で終了区切り文字として使用するよう予
約済みです。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: 名前式または内容式からストリン
グ「?>」を除去してください。

sqlcode: -16017

sqlstate: 10508

SQL16018N ターゲット・データ・タイプ type-name
に対し、キャスト式のオペランドとして、
または constructor 関数の引数としてスト
リング・リテラルが指定されていません。
エラー QName=err:XPST0083。

説明: ターゲット・データ・タイプ type-name は、
xs:QName、または xs:QName か xs:NOTATION の事前
定義 XML スキーマ・タイプから派生したタイプのい
ずれかです。それらのうちいずれかのタイプに対し、キャ
スト式のオペランドまたはコンストラクター関数の引数
としてストリング・リテラルが指定されている必要があ
ります。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのアクションを行ってください。

- *type-name* がキャスト式のターゲット・データ・タイプである場合、オペランドをストリング・リテラルに変更するか、または異なるターゲット・データ・タイプを指定してください。
- *type-name* がコンストラクター関数の名前として使用されている場合、引数をストリング・リテラルに変更するか、または異なるコンストラクター関数を使用してください。

sqlcode: -16018

sqlstate: 10510

SQL16020N パス式のコンテキスト・ノードに XQuery 文書ノード・ルートがありません。エラー **QName=err:XPDY0050**。

説明: パス式のコンテキスト・ノードの上のルート・ノードは、XQuery 文書ノードでなければなりません。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: 各パス式を変更し、コンテキスト・ノードが、XQuery 文書ノードであるルート・ノードを持つようにしてください。

sqlcode: -16020

sqlstate: 10507

SQL16021N XQuery バージョン宣言が、サポートされない番号 *version-number* を指定しています。エラー **QName=err:XQST0031**。

説明: DB2 XQuery は、バージョン宣言で指定された XQuery *version-number* をサポートしていません。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: DB2 XQuery でサポートされる *version-number* を指定してください。DB2 XQuery は現在、XQuery バージョン 1.0 をサポートしています。

sqlcode: -16021

sqlstate: 10502

SQL16022N タイプ *value-type* の値は、演算 *operator* を使用する式では無効です。エラー **QName=err:XPTY0004**。

説明: 式はコンストラクターまたは演算子 *operator* を使用するため、XQuery 式のオペランドに定義されたタイプ *value-type* は無効です。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: コンストラクターまたは演算子 *operator* で使用できる正しいタイプの値を指定してください。

sqlcode: -16022

sqlstate: 10507

SQL16023N XQuery プロローグに、同じ名前空間接頭部 *ns-prefix* の複数の宣言を含めることはできません。エラー **QName=err:XQST0033**。

説明: プロローグに、名前空間接頭部 *ns-prefix* の複数の宣言が含まれています。プロローグ内の名前空間宣言によって、静的コンテキストで事前に定義された接頭部をオーバーライドすることはできませんが、プロローグ内で同じ名前空間接頭部を複数回宣言することはできません。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: プロローグから接頭部の余分な宣言を除去するか、または余分な宣言に割り当てられている接頭部を変更してください。照会で使用される接頭部が正しい名前空間を参照することを確認してください。

sqlcode: -16023

sqlstate: 10503

SQL16024N 接頭部 *prefix-name* は、再宣言できないか、または URI <http://www.w3.org/XML/1998/namespace> にバインドすることができません。エラー **QName=err:XQST0070**。

説明: 名前空間宣言または名前空間宣言属性で、事前定義名前空間接頭部 "xml" または "xmlns" を再宣言することはできません。

- 名前空間接頭部 *prefix-name* がこれらの事前定義名前空間接頭部の 1 つである場合、それが名前空間宣言または名前空間宣言属性の中で使用されています。このことは許可されていません。
- 接頭部名が "xml" または "xmlns" ではない場合、接頭部 *prefix-name* の宣言は接頭部 "xml" に関連した名前空間 URI を指定します。これは名前空間接頭部 "xml" とのみバインドできます。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのアクションを行ってください。

- 接頭部名が "xml" または "xmlns" の場合、その接頭部名を別の名前空間接頭部に変更します。

SQL16025N

- 接頭部名が "xml" または "xmlns" ではない場合、名前空間接頭部の宣言で指定された名前空間 URI を変更します。
- 接頭部 *prefix-name* を指定している名前空間宣言または名前空間宣言属性を除去してください。

sqlcode: -16024

sqlstate: 10503

SQL16025N XQuery 算出コメント・コンストラクターの内容式の結果が、隣接した 2 つのハイフンを含んでいるか、またはハイフン文字で終了しています。エラー QName=err:XQDY0072。

説明: XQuery 算出コメント・コンストラクターに指定された内容に、許可されない文字の組み合わせが含まれています。隣接した 2 つのハイフン (ダッシュ) 文字があるか、または最終文字がハイフンになっています。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: 各 XQuery 算出コメント・コンストラクターの内容式から、ハイフン文字の無効な使用を除去してください。

sqlcode: -16025

sqlstate: 10508

SQL16026N *element-name* という名前の要素のコンストラクター内で、複数の属性に名前 *attribute-name* が使用されています。エラー QName=err:XQST0040。

説明: 要素コンストラクターは属性にユニークな名前を使用しなければならないため、*element-name* 内の名前 *attribute-name* を複数回使用することはできません。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: *element-name* のすべての属性に、ユニークな名前を使用してください。

sqlcode: -16026

sqlstate: 10503

SQL16027N 算出処理命令コンストラクター内の名前式の値 *value* が無効です。エラー QName=err:XQDY0041。

説明: 名前式の原子値 *value* はタイプが `xs:string` または `xd:untypedAtomic` のものですが、この値を `xs:NCName` にキャストすることはできません。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: 名前式の *value* を、原子化してからタイプ `xs:NCName` にキャストできる値に変更してください。

sqlcode: -16027

sqlstate: 10508

SQL16029N 同じ XQuery 要素コンストラクター内の複数の名前空間が、同じ名前空間接頭部 *prefix-name* を使用しています。エラー QName=err:XQST0071。

説明: 同じ XQuery 算出要素コンストラクター内で名前空間接頭部 *prefix-name* を複数回使用することはできません。*prefix-name* が「xmlns」の場合は、XQuery 算出要素コンストラクター内に複数のデフォルト名前空間が指定されています。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: 算出要素コンストラクター内のローカル名前空間宣言に、ユニークな名前空間接頭部を使用してください。また、接頭部を持たないローカル名前空間宣言が式に複数含まれていないことを確認してください。

sqlcode: -16029

sqlstate: 10503

SQL16030N 算出属性コンストラクターの名前式によって戻された値 *value* は、接頭部 `xmlns` の名前空間に属するか、またはどの名前空間にも属さずローカル名 `xmlns` を持っています。エラー QName=err:XQDY0044。

説明: 算出属性コンストラクターの名前式が、名前空間 `http://www.w3.org/2000/xmlns/` (名前空間接頭部 `xmlns` に対応) に属する QName を戻す場合、またはどの名前空間にも属さずローカル名 `xmlns` を持つ QName を戻す場合は、エラーです。名前空間接頭部 `xmlns` は、XQuery で名前空間宣言属性を識別するために使用されます。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: 算出属性コンストラクターの名前式を、接頭部 `xmlns` の名前空間に属さない値を戻すように変更してください。

sqlcode: -16030

sqlstate: 10508

SQL16031N 構文 *string* を使用する XQuery 言語フィ
ーチャーは、サポートされていません。

説明: XQuery 式の *string* で示される構文は、標準 XQuery 言語仕様で定義されていますが DB2 XQuery ではサポートされていません。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: XQuery 式から、構文 *string* で始まる非サポートの式を除去してください。

sqlcode: -16031

sqlstate: 10509

SQL16032N ストリング *string* は無効な URI です。
エラー QName=err:XQST0046。

説明: 名前空間宣言または名前空間宣言属性は、無効な URI のストリング値を指定しています。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: 有効な URI のストリング値を指定してください。有効な URI は、World Wide Web Consortium (W3C) によって仕様が定められた汎用 URI 構文に準拠しなければなりません。

sqlcode: -16032

sqlstate: 10504

SQL16033N キャスト式またはキャスト可能式のターゲ
ット・データ・タイプ *type-name* は、ス
コープ内 XML スキーマ・タイプ用に定
義された原子データ・タイプではないか、
キャスト式またはキャスト可能式で使用で
きなないデータ・タイプです。エラー
QName=err:XPST0080。

説明: キャスト式またはキャスト可能式で、使用できないターゲット・データ・タイプ *type-name* が指定されています。事前定義 XML スキーマ・タイプの *xs:NOTATION*、*xs:anySimpleType*、および *xd::anyAtomicType* は、キャスト式またはキャスト可能式のターゲット・タイプとして使用できません。*type-name* がこれらの制限されたタイプの 1 つではない場合、データ・タイプがスコープ内 XML スキーマ・タイプ用に定義されていないか、またはデータ・タイプが原子タイプではないかのどちらかです。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのアクションを行ってください。

- ターゲット・データ・タイプが *xs:NOTATION*、*xs:anySimpleType*、または

xd::anyAtomicType の場合、異なるターゲット・データ・タイプを指定するか、キャスト式またはキャスト可能式を除去してください。

- ターゲット・データ・タイプがスコープ内 XML タイプによって定義されていない場合、スコープ内のデータ・タイプを指定するか、またはそのデータ・タイプを含むように XML スキーマを変更してください。
- ターゲット・データ・タイプが原子タイプではない場合、異なるターゲット・データ・タイプを指定するか、キャスト式またはキャスト可能式を除去してください。

sqlcode: -16033

sqlstate: 10507

SQL16034N シーケンス・タイプで原子タイプとして使
用されている QName *qname* は、スコー
プ内スキーマ・タイプ定義では原子タイプ
として定義されていません。エラー
QName=err:XPST0051。

説明: QName *qname* は、スコープ内スキーマ・タイプ定義で原子タイプとして定義されていないため、原子タイプとして使用できません。エラー QName=err:XPST0051。

ユーザーの処置: 原子タイプとして定義されている QName を使用してください。

sqlcode: -16034

sqlstate: 10503

SQL16035N 妥当性検査式は、DB2 XQuery でサポー
トされていません。エラー
QName=err:XQST0075。

説明: 妥当性検査フィーチャーは DB2 XQuery でサポートされていないので、妥当性検査式を XQuery 式として使用することはできません。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: すべての妥当性検査式を XQuery 式から除去してください。

sqlcode: -16035

sqlstate: 10509

SQL16036N 名前空間宣言で指定される URI は、ゼロ
長ストリングにすることはできません。エ
ラー QName=err:XQST0085。

説明: 名前空間宣言で指定される URI は、World Wide Web Consortium (W3C) によって仕様が定められた汎用

SQL16038N

URI 構文に準拠した有効な URI でなければなりません。URI をゼロ長ストリングにすることはできません。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: 名前空間宣言で有効な URI を指定してください。

sqlcode: -16036

sqlstate: 10504

SQL16038N `fn:dateTime` の各引数の時間帯が異なります。エラー `QName=err:FORG0008`。

説明: 関数 `fn:dateTime` に、時間帯が異なる引数が含まれています。両方の引数の時間帯は、明示的に値の一部を成している場合もあれば、どちらかの引数に XQuery 実行環境の暗黙的時間帯が使用されている結果である場合もあります。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: `fn:dateTime` の両方の引数に同じ時間帯が使用されるようにしてください。

sqlcode: -16038

sqlstate: 10608

SQL16039N 関数 `function name` は、引数 `argument-number` にストリング・リテラルを予期していました。

説明: `function name` で示される関数では、引数の番号 `argument-number` をストリング・リテラルで指定する必要があります。XQuery 式に、ストリング・リテラルを使用していない関数 `function name` の呼び出しが含まれています。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: 関数 `function name` の引数 `argument-number` をストリング・リテラルに変更してください。

sqlcode: -16039

sqlstate: 10608

SQL16040N 関数 `function name` の引数は、SQL データ・タイプが XML の単一の列を特定していません。

説明: 関数 `function name` では、データ・タイプが XML の単一の列を持つ SQL 結果表を引数で指定する必要があります。db2-fn:xmlcolumn の場合、これは、表またはビュー内の、SQL データ・タイプが XML の列を指定することによって行います。db2-fn:sqlquery の

場合、引数として指定される SQL 照会は、外部全選択の中で SQL データ・タイプが XML の単一の列を指定しなければなりません。

ユーザーの処置: 関数 `function name` の引数を、SQL データ・タイプが XML の単一の列を戻すように訂正してください。

sqlcode: -16040

sqlstate: 10608

SQL16041N XQuery 式における `fn:boolean` 関数の暗黙的または明示的な呼び出しは、シーケンスの有効なブール値を計算できませんでした。エラー `QName=err:FORG0006`。

説明: このエラーは、`fn:boolean` 関数の明示的または暗黙的な呼び出しに対するシーケンス・オペランドの有効なブール値が、そのシーケンス・オペランドに対して計算できなかった場合に生じます。有効なブール値を計算できるのは、シーケンス・オペランドが以下のいずれかのシーケンスである場合だけです。

- 空のシーケンス
- 最初の項目の値がノードであるシーケンス
- 値のタイプが `xs:string`、`xd:untypedAtomic`、またはこれらのタイプから派生したタイプである、単体のシーケンス
- 値が数値タイプまたは数値タイプから派生した、単体のシーケンス

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: 有効なブール値が暗黙的にまたは明示的に計算される、XQuery 式の中の可能な式を判別してください。 `fn:boolean` 関数の暗黙的な呼び出しは、以下のタイプの式を処理する際に生じることがあります。

- 論理式 (`and`、`or`)
- `fn:not` 関数呼び出し
- FLWOR 式の `where` 節
- `a[b]` のような、特定の種類の述部
- `if` のような、条件式
- 比較述部式 (`some`、`every`)

それぞれの有効なブール値計算のシーケンス・オペランドには、有効なシーケンス・オペランド (説明に示したもの) があることを確認してください。

sqlcode: -16041

sqlstate: 10608

SQL16042N 算出処理命令コンストラクター内の名前式は、大文字と小文字のどの組み合わせでも「XML」に等しくなることはできません。エラー **QName=err:XQDY0064**。

説明: 算出処理命令コンストラクターの名前式の結果として得られる NCName は、大文字と小文字のどの組み合わせでも文字ストリング XML に等しくなることはできません。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: 名前式を、結果が XML に等しくない NCName になるように変更してください。

sqlcode: -16042

sqlstate: 10508

SQL16045N XQuery 式から不明のエラーが出されました。エラー **QName=err::FOER0000**。

説明: XQuery 式の結果は、不明のエラーになりました。

ユーザーの処置: XQuery 式の問題を修正してください。

sqlcode: -16045

sqlstate: 10611

SQL16046N XQuery 数値式がゼロ除算をしようとした。エラー **QName=err:FOAR0001**。

説明: 割り算またはモジュラス演算が、整数値または 10 進値をゼロで割ろうとしました。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: ゼロに等しくない値を除数に使用してください。

sqlcode: -16046

sqlstate: 10601

SQL16047N XQuery 式の結果が、算術オーバーフローまたはアンダーフローになりました。エラー **QName=err:FOAR0002**。

説明: 算術演算の結果が、許可される最大値を超える値か、または許可される最小値より小さい値になりました。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: 結果が算術オーバーフローまたはアンダーフローにならない数値になるように式を変更してください。

sqlcode: -16047

sqlstate: 10601

SQL16048N XQuery プロローグに複数の *declaration-type* 宣言を含めることはできません。エラー **QName=err:error-qname**。

説明: プロローグ内で複数の *declaration-type* 宣言を宣言すると、エラーになります。 *declaration-type* 宣言タイプは、XQuery プロローグに指定できる以下の宣言の 1 つです。

- コピー名前空間
- 配列
- デフォルト・エレメント名前空間
- デフォルト関数名前空間
- 構造
- バウンダリー・スペース
- デフォルトの空配列

このエラーは、

err:XQST0055、err:XQST0065、err:XQST0066、err:XQST0067、err:XQST0068、および err:XQST0069 などのさまざまなエラー **QNames** に対して戻すことができます。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: プロローグからタイプ *declaration-type* の余分な宣言を除去してください。

sqlcode: -16048

sqlstate: 10502

SQL16049N 関数またはキャスト内の *date-type* データ・タイプでは、字句値 *value* は無効です。エラー **QName=err:FOCA0002**。

説明: キャスト式または関数呼び出しに、字句形式が *type-name* データ・タイプに合わない *value* が含まれています。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのアクションを試行してください。

- エラーが関数呼び出しによるものである場合は、**QName** またはローカル名に使用されるストリング・パラメーターの字句形式が正しいことを確認してください。

SQL16051N

- エラーがキャスト式によるものである場合は、ソース値が浮動小数点または倍精度の特殊値 NaN、INF、-INF のいずれでもないことを確認してください。

sqlcode: -16049

sqlstate: 10602

SQL16051N データ・タイプ "*source-type*" の値 "*value*" がターゲット・データ・タイプ "*target-type*" に対する暗黙的または明示的キャストの範囲外です。エラー
QName=err:error-name。

説明: XQuery 式では、*source-type* のデータ・タイプを持つ値 *value* を、暗黙的または明示的にターゲット・データ・タイプ *target-type* にキャストする必要があります。値はそのデータ・タイプの定義の範囲外です。*target-type* が xs:dateTime または xs:date から派生したデータ・タイプの場合、範囲は、指定されたタイム・ゾーン内の値、および値のタイム・ゾーン・コンポーネントを使って UTC に変換された値に適用されません。

このエラーは、

err:FOAR0002、err:FOCA0001、err:FOCA0003、
err:FODT0001、err:FODT0002、および err:FORG0001 などのさまざまなエラー QNames に対して戻すことができます。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: XQuery 式を、特定の値 *value* に対応する範囲のターゲット・データ・タイプを使用して変更するか、または値をターゲット・データ・タイプ *target-type* の定義の範囲内に変更してください。

sqlcode: -16051

sqlstate: 10602

SQL16052N 日時演算で NaN を浮動小数点値または倍精度値として使用することはできません。
エラー QName=err:FOCA0005。

説明: 日時演算に引数として NaN が渡されましたが、日時演算では NaN は無効なパラメーター値です。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: 日時演算に有効な浮動小数点値または倍精度値を渡してください。

sqlcode: -16052

sqlstate: 10602

SQL16053N 文字ストリングのコード・ポイント *codepoint* が無効です。エラー
QName=err:FOCH0001。

説明: XQuery 式の fn:codepoints-to-string 関数に渡された値に、正当な XML 文字でない *codepoint* が含まれています。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: 引数を有効なコード・ポイントのみを渡すように変更するか、または式を除去してください。

sqlcode: -16053

sqlstate: 10603

SQL16054N 関数 fn:normalize-unicode の引数として指定された正規化形式 *form* は、サポートされていません。エラー
QName=err:FOCH0003。

説明: fn:normalize-unicode 関数に正規化形式引数として渡された実効値 *form* は、サポートされていません。正規化形式の実効値は、前後の空白があればそれを除去し、大文字に変換することにより算出されます。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: サポートされる正規化形式を fn:normalize-unicode 関数に渡してください。

sqlcode: -16054

sqlstate: 10603

SQL16055N 日時値を伴う算術演算の結果がオーバーフローになりました。エラー
QName=err:FODT0001。

説明: 日時値を伴う算術演算の結果が、許可される最大値を超える数値になりました。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: 結果が許可される最大値を超えない数値になるように XQuery 式を変更してください。

sqlcode: -16055

sqlstate: 10605

SQL16056N 期間値を伴う算術演算の結果がオーバーフローになりました。エラー
QName=err:FODT0002。

説明: 期間値を伴う算術演算の結果が、許可される最大値を超える数値になりました。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: 結果が許可される最大値を超えない数値になるように XQuery 式を変更してください。

sqlcode: -16056

sqlstate: 10605

SQL16057N 時間帯値 *value* が無効です。エラー
QName=err:FODT0003。

説明: XQuery 式は、-PT14H00M より小さい、または PT14H00M より大きい時間帯 *value* を指定していません。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: -PT14H00M より大きい、または PT14H00M より小さい時間帯値を指定してください。

sqlcode: -16057

sqlstate: 10605

SQL16058N 関数または演算の *function-or-operation* のコンテキスト項目が定義されていません。
エラー **QName=err:FONC0001。**

説明: 関数または演算の *name* はコンテキスト項目を必要としますが、コンテキスト項目が定義されていません。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: 関数または演算の *name* のコンテキスト項目が定義されるように XQuery 式を変更してください。引数が省略されているために関数または演算がコンテキスト項目を使用する場合は、関数が呼び出される前にコンテキスト項目が定義されるように式を変更してください。

sqlcode: -16058

sqlstate: 10606

SQL16059N *xs:QName* にキャストされる値 *value* の接頭部に対応する、静的に既知の名前空間が存在しません。エラー
QName=err:FONS0003。

説明: *xs:QName* にキャストする XQuery 式は接頭部を使用した *value* を指定していますが、指定された接頭部に対応する静的に既知の名前空間がないため、接頭部を URI にマップできません。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: キャスト式の値の接頭部に、静的に既知の名前空間として存在するものを指定してください。接頭部が正しい場合は、指定した接頭部の名前空間宣言があることを確認してください。

sqlcode: -16059

sqlstate: 10607

SQL16060N *QName qname* の接頭部に対応した名前空間が見つかりませんでした。エラー
QName=err:FONS0004。

説明: *QName* 内の指定された接頭部の名前空間が存在しないため、要素の拡張 *QName* を解決できませんでした。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: 名前空間宣言を追加して接頭部を URI にバインドするか、または *QName* に異なる接頭部を指定してください。

sqlcode: -16060

sqlstate: 10607

SQL16061N 値 *value* をデータ・タイプ *data-type* に構成またはキャスト (暗黙的または明示的キャストを使用) できません。エラー
QName=err:FORG0001。

説明: XQuery 式は値 *value* を *data-type* の値として使用しようとしたますが、値はこのデータ・タイプでは無効です。このエラーの原因として、以下の状態が考えられます。

- データ・タイプ *data-type* の値を必要とするコンストラクター関数に値 *value* が渡された。
- *value* が *cast* 関数に明示的に渡された、またはターゲット・データ・タイプが *datatype* のキャスト式で指定された。
- *value* を含む式が、その値をターゲット・データ・タイプ *data-type* に暗黙的にキャストした。多くの XQuery 式が暗黙的なキャストを使用して式を処理します。たとえば、値のデータ・タイプを *xs:double* にする必要がある数値の一般的比較では、暗黙的キャストが使用されます。
- SQL 処理により XQuery が呼び出されて、XML 値 *value* を XML 以外の SQL データ・タイプにキャストすることになる場合、SQL データ・タイプおよび関連するサイズ制限に基づく名前を使用して生成された、一時派生 XML スキーマ・タイプによって、XQuery キャストが実行されます。たとえば、*data-type* トークン値は、*VARCHAR(50)* への *XMLCAST* の場合には "VARCHAR_50" となり、*DECIMAL(9,2)* への *XMLCAST* の場合には "DECIMAL_9_2" となります。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのアクションを試行してください。

- データ・タイプ *data-type* で有効な値を、コンストラクターまたはキャスト式で使用してください。
- あるプリミティブ・タイプから別のタイプにキャストする式でエラーが発生した場合は、そのソース・タイプからそのターゲット・タイプへのキャストがサポートされていることを確認してください。そのキャストがサポートされていない場合は、式を除去するか、または値を異なるデータ・タイプにキャストしてください。
- 暗黙的キャストのデータ・タイプに準拠しない可能性のある値を暗黙的にキャストする式がないか確認し、式に条件を追加してエラーを回避してください。

sqlcode: -16061

sqlstate: 10608

SQL16062N 関数 *fn:zero-or-one* に渡された引数は、シーケンスに複数の項目が含まれているため無効です。エラー
QName=err:FORG0003.

説明: 関数 *fn:zero-or-one* に引数として渡されたシーケンスに、複数の項目が含まれています。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: 関数 *fn:zero-or-one* に渡されるシーケンスが項目を 1 つのみ含むように、または空シーケンスになるように式を変更してください。

sqlcode: -16062

sqlstate: 10608

SQL16063N 関数 *fn:one-or-more* に渡された引数は、シーケンスが空のため無効です。エラー
QName=err:FORG0004.

説明: 関数 *fn:one-or-more* に引数として渡されたシーケンスが空です。

ユーザーの処置: 関数 *fn:one-or-more* に渡されるシーケンスが空シーケンスでなくなるように式を変更してください。

sqlcode: -16063

sqlstate: 10608

SQL16064N 関数 *fn:exactly-one* に渡された引数は、シーケンスが空か、または複数の項目を含んでいるため、無効です。エラー
QName=err:FORG0005.

説明: 関数 *fn:exactly-one* に引数として渡されたシーケンスに含まれる項目数がぴったり 1 つではありませんでした。

ユーザーの処置: 関数 *fn:exactly-one* に渡されるシーケンスが項目を間違いなく 1 つだけ含むように式を変更してください。

sqlcode: -16064

sqlstate: 10608

SQL16065N 空シーケンスをデータ・タイプ *datatype* に構成またはキャストすることはできません。エラー
QName=err:FORG0006.

説明: コンストラクターまたはキャスト式で指定されたデータ・タイプ *datatype* では、指定されたタイプの空シーケンスをキャストまたは構成することはサポートされません。

ユーザーの処置: 空シーケンスでない値をコンストラクターまたはキャスト式に渡してください。

sqlcode: -16065

sqlstate: 10608

SQL16066N 集約関数 *function-name* に渡された引数が無効です。エラー
QName=err:FORG0006.

説明: 集約関数 *function-name* に渡された引数は、関数 *function-name* の引数に必要ないずれかの条件を満たさないため無効です。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのアクションを試行してください。

- 関数が *fn:avg* の場合は、次の条件を満たしていることを確認してください。入力シーケンスに期間値が含まれる場合、値はすべて *xdt:yearMonthDuration* 値であるか、すべて *xdt:dayTimeDuration* 値でなければならない。入力シーケンスに数値が含まれる場合、値はすべて単一の共通タイプ (以下の 4 つの数値タイプのいずれか。すなわち、*xdt:yearMonthDuration*、*xdt:dayTimeDuration*、またはそのサブタイプの 1 つ) にプロモート可能でなければならない。
- 関数が *fn:max* または *fn:min* の場合は、次の条件を満たしていることを確認してください。入力シーケンスのすべての項目は数値であるか、*gt* 演算子 (*fn:max*

の場合) または It 演算子 (fn:min の場合) が定義された単一の基本タイプから導出されたものでなければなりません。入力シーケンスに数値が含まれる場合、値はすべて単一の共通タイプにプロモート可能でなければならず、かつシーケンス内の値が全順序を持っていないければなりません。入力シーケンスに期間値が含まれる場合、値はすべて xdt:yearMonthDuration 値であるか、すべて xdt:dayTimeDuration 値でなければなりません。

- 関数が fn:sum の場合は、次の条件を満たしていることを確認してください。入力シーケンスのすべての項目は数値であるか、単一の基本タイプから導出されたものでなければなりません。タイプは加算をサポートしていなければなりません。入力シーケンスに数値が含まれる場合、値はすべて単一の共通タイプにプロモート可能でなければなりません。入力シーケンスに期間値が含まれる場合、値はすべて xdt:yearMonthDuration 値であるか、すべて xdt:dayTimeDuration 値でなければなりません。

sqlcode: -16066

sqlstate: 10608

SQL16067N 関数 *function-name* に渡されたフラグ引数 *value* が無効です。エラー QName=err:FORX0001。

説明: 関数 *function-name* に、正規表現フラグ・パラメーターとして渡された *value* が含まれています。しかし、関数に渡されたストリングには、フラグとして定義されていない文字が含まれています。

ユーザーの処置: フラグとして定義された文字のみを含むストリング引数を渡すように関数呼び出しを変更してください。有効な文字としては、s、m、i、または x があります。

sqlcode: -16067

sqlstate: 10609

SQL16068N 関数 *function-name* に渡された正規表現引数 *value* が無効です。エラー QName=err:FORX0002。

説明: 関数 *function-name* に渡された *value* は、XQuery での正規表現に対して指定される規則では無効です。この規則は、XML スキーマで定められた正規表現構文を基に、XQuery に適応させるために構文にいくつかの拡張を追加したものです。XML スキーマの正規表現構文に加えられた、XQuery 固有の拡張についての説明は、製品資料を参照してください。

ユーザーの処置: 正規表現に有効な *value* を指定してください。

sqlcode: -16068

sqlstate: 10609

SQL16069N 関数 *function-name* に渡された正規表現引数 *value* がゼロ長ストリングと一致しません。エラー QName=err:FORX0003。

説明: 関数 *function-name* の呼び出しでパターン・パラメーターに指定された *value* が、ゼロ長ストリングと一致します。このパターンは入力ストリングのサブストリングと一致することがないため、この関数ではゼロ長ストリングは無効なパターンです。

ユーザーの処置: 関数呼び出しに有効なパターンを渡すか、または式から関数呼び出しを除去してください。

sqlcode: -16069

sqlstate: 10609

SQL16070N 関数 fn:replace に渡された置き換えストリング引数 *value* が無効です。エラー QName=err:FORX0004。

説明: 関数 fn:replace の呼び出しで置き換えストリング・パラメーターに指定された *value* は、値に次の無効な文字が 1 つ以上含まれるため無効です。

- 直後に数字 0 から 9 がなく、直前に「¥」がない「\$」文字。
- 「¥¥」対の一部でないか、直後に「\$」文字がない「¥」文字。

ユーザーの処置: 有効な文字のみを含む *value* を置き換えストリングに使用してください。

sqlcode: -16070

sqlstate: 10609

SQL16071N 関数 *function-name* は、引数であるとみなされるコンテキスト項目が XQuery ノードでないため、処理できません。エラー QName=err:FOTY0011。

説明: 関数 *function-name* はコンテキスト・ノードを必要としますが、コンテキスト項目がノードではありません。

ユーザーの処置: コンテキスト項目がノードになるように XQuery 式を変更してください。引数が省略されているために関数がコンテキスト項目を使用する場合は、関数が呼び出される前にコンテキスト項目がノードになるように式を変更してください。

SQL16072N

sqlcode: -16071

sqlstate: 10610

SQL16072N 関数 `fn:index-of` のシーケンス引数の項目は、検索指数と比較できません。エラー `QName=err:FOTY0012`。

説明: `fn:index-of` 関数に渡されたシーケンス引数は、シーケンスの項目が検索指数と比較できないため無効です。

ユーザーの処置: 検索指数と比較できる項目が含まれるシーケンスを関数 `fn:index-of` に渡してください。

sqlcode: -16072

sqlstate: 10610

SQL16074N タイプ `type-name` の `value` で始まる字句表記のある XQuery 原子値は、長さが演算または関数の制限である `size` バイトを超えているため、XQuery 演算または関数の `name` では処理できません。

説明: XML 文書に `value` で始まる字句表記のある原子値が含まれていますが、この値は XQuery データ・タイプ `type-name` が `name` で示される XQuery 演算または関数で使用されるときにサイズ制限である `size` バイトを超えています。ステートメントは `name` でこの原子値を使用しようとしています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: この長さ制限の可能な回避方法は、以下のとおりです。

- XML 文書内のこの値を、`size` バイトを超えない長さに変更してください。これには、`fn:substring` 関数を使用できます。
- 長さが制限される XQuery 演算または関数 `name` でこの値を使用することを避けてください。

sqlcode: -16074

sqlstate: 10902

SQL16075N シリアライズされるシーケンスに、属性ノードである項目が含まれています。エラー `QName=err:SENR0001`。

説明: XML 値のシリアライズが要求されました。この XML 値は、XQuery 属性ノードである項目を含むシーケンスです。シーケンスの項目としての属性ノードのシーケンス正規化が定義されていないため、シーケンスをシリアライズできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 属性ノードのみを含むシーケンスの項目を除去するか、またはシーケンスをシリアライズしようとししないでください。

sqlcode: -16075

sqlstate: 2200W

SQL16076N 一致 XQuery ノード数の内部 ID 制限である `limit` を超えました。

説明: 一致 XQuery ノードである XQuery 式では、一致ノード数が `limit` に制限されています。このエラーを戻した XQuery 式では、一致 XQuery ノード数の制限を超えました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ワイルドカード、`node()` 種類テスト、または `descendant` 軸を使用しないように XQuery 式を変更する必要があります。あるいは、より少ない XQuery ノード数の値で XQuery 式を実行する必要があります。これは、値を小さい値に分割することによって行えます。

sqlcode: -16076

sqlstate: 10903

SQL16077N 計算要素コンストラクター、計算属性コンストラクター、または名前変更式の名前式 `name-string` の値を拡張 `QName` に変換することはできません。エラー `QName=err:XQDY0074`。

説明: `name-string` の値には、拡張 `QName` に変換しなければならない `xs:string` あるいは `xs:untypedAtomic` のデータ・タイプが含まれています。ストリングが `xs:QName` 値の字句形式に準拠していない場合、あるいは値の名前空間接頭部が XQuery の静的に既知の名前空間に見つからない場合、変換は失敗します。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: 名前式が、有効な `string-name` を、XQuery 式の拡張 `QName` に変換できる `xs:QName` の字句形式に戻すことを確認してください。名前空間接頭部が静的に既知の名前空間に含まれていない場合、名前空間宣言を XQuery プロローグに追加して、名前空間 URI を `string-name` にある名前空間接頭部と関連付けてください。

sqlcode: -16077

sqlstate: 10508

SQL16080N XQuery 式に、変換式の MODIFY 節の外部にある 1 つ以上の *expression-type* 式が含まれています。エラー
QName=err:XUST0001。

説明: 基本更新式が、変換式の MODIFY 節の一部ではない式で指定されています。1 つ以上の *expression-type* 式の結果、更新式以外の式のみを指定可能なコンテキストに更新式が作成されました。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: 変換式の MODIFY 節に含まれていない式から *expression-type* 式およびその他の基本更新式を除去してください。

sqlcode: -16080

sqlstate: 10701

SQL16081N 変換式の MODIFY 節の XQuery 式は、更新中の式または空のシーケンス式ではありません。エラー
QName=err:XUST0002。

説明: 変換式の MODIFY 節の式は、空のシーケンス式以外の、更新中ではない式です。変換式の MODIFY 節の式は、更新中の式または空のシーケンス式でなければなりません。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: すべての変換式の MODIFY 節の式に基本更新式が含まれているか、あるいはそれが空のシーケンス式であることを確認してください。

sqlcode: -16081

sqlstate: 10702

SQL16082N 1 つ以上の *expression-type* 式のターゲット・ノードが、変換式の COPY 節で新規に作成されたノードではありません。エラー
QName=err:XUDY0014。

説明: 基本更新式のターゲット・ノードは、変換式の COPY 節で新規に作成されたノードでなければなりません。1 つ以上の *expression-type* 式に、新規に作成されたのでないターゲット・ノードが含まれています。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: すべての *expression-type* 式およびその他の基本更新式のターゲット・ノードは、変換式の COPY 節で新規に作成されます。

sqlcode: -16082

sqlstate: 10703

SQL16083N 変換式の MODIFY 節に非互換の "*expression-type*" 式が存在します。エラー
QName=err:error-name。

説明: 変換式の MODIFY 節に、同じターゲット・ノードで操作する複数の *expression-type* 式が含まれていません。結果が *expression-type* 式の処理順序に基づいた非決定的であるため、これらの基本更新式には互換性がありません。

以下のリストは、エラー QName に基づいてエラーの理由を説明しています。

err:XUDY0015

expression-type の値が `rename` である場合、同じターゲット・ノードに適用される複数の RENAME 式が存在します。

err:XUDY0016

expression-type の値が `replace` である場合、指定したキーワードの値を使用せずに、同じターゲット・ノードに適用される複数の REPLACE 式が存在します。

err:XUDY0017

expression-type の値が `replace value of` である場合、指定したキーワードの値を使用して、同じターゲット・ノードに適用される複数の REPLACE 式が存在します。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: 変換式の MODIFY 節の式を変更して、2 つの *expression-type* 式に同じターゲット・ノードが含まれていないか確認してください。

sqlcode: -16083

sqlstate: 10704

SQL16084N トランスフォーム式の COPY 節に割り当てられた値が、ノードである 1 つの項目のみを含むシーケンスではありません。エラー
QName=err:XUTY0013。

説明: トランスフォーム式の COPY 節を評価した結果、1 つ以上の無効な割り当てが行われました。割り当てられた値の少なくとも 1 つが空のシーケンスであるか、複数の項目を含むシーケンスであるか、あるいはアトミック値でした。割り当てられた値は、ノードである 1 つの項目のみを含むシーケンスでなければなりません。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: トランスフォーム式の COPY 節のすべての COPY SOURCE 式が、ノードである 1 つの項

SQL16085N

目のみを含むシーケンスを戻すことを確認してください。

sqlcode: -16084

sqlstate: 10705

SQL16085N XQuery *expression-type* 式のターゲット・ノードが無効です。エラー
QName=err:error-name。

説明: 以下のリストは、エラー QName に基づいて基本更新式のターゲット・ノードが無効である理由について説明しています。

err:XUTY0005

expression-type の値は "insert into"、"insert as first into"、または "insert as last into" であり、INSERT 式のターゲット・ノードは単一要素ノードまたは文書ノードではありません。

err:XUTY0006

expression-type の値は "insert before" または "insert after" であり、前後に指定される INSERT 式のターゲット・ノードは、親プロパティが空ではない単一のエレメント、テキスト、処理命令、またはコメント・ノードではありません。

err:XUTY0007

expression-type の値は "delete" であり、ターゲット式は 0 個以上からなるノード・シーケンスを戻しません。

err:XUTY0008

expression-type の値は "replace" または "replace value of" であり、REPLACE 式のターゲット・ノードはノードを修飾していないか、2 つ以上の一連のノードを修飾しているか、文書ノードを修飾しています。文書ノードではないただ 1 つのノードを修飾する必要があります。

err:XUTY0009

expression-type の値は "replace" であり、REPLACE 式のターゲット・ノードの親プロパティは空です。

err:XUTY0012

expression-type の値は "rename" であり、RENAME 式のターゲット・ノードは単一エレメント、属性、または処理命令ノードではありません。

err:XUDY0020

expression-type の値は "delete" であり、DELETE 式のターゲット・ノードの親プロパティは空です。

err:XUTY0022

expression-type の値は "insert before" または "insert after" であり、挿入シーケンスには属性ノードが含まれており、ターゲット・ノードの親ノードは文書ノードです。それ以外の場合、*expression-type* の値は "insert into"、"insert as first into"、または "insert as last into" であり、挿入シーケンスには属性ノードが含まれており、INSERT 式のターゲット・ノードは文書ノードです。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: *expression-type* 式を訂正して、説明にあるように有効なターゲット・ノードを使用してください。

sqlcode: -16085

sqlstate: 10703

SQL16086N 置換式の置換シーケンスに、指定したターゲット・ノードに対して無効なノードが含まれています。エラー
QName=err:error-name。

説明: 置換シーケンスにあるノードを使用して、ターゲット・ノードを置換することはできません。その理由は、エラー QName に基づいて示されています。

err:XUDY0010

キーワードの値が指定されておらず、ターゲット・ノードが属性ノードではありません。置換シーケンスに含めることができるのはエレメント、テキスト、コメント、または処理命令ノードのみですが、シーケンスのうち少なくとも 1 つの項目が属性ノードになっています。

err:XUDY0011

キーワードの値が指定されておらず、ターゲット・ノードが属性ノードになっています。置換シーケンスに含めることができるのは属性ノードのみですが、シーケンスのうち少なくとも 1 つの項目が属性ノードではありません。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: 置換式の WITH 節のソース式を訂正し、置換シーケンスにターゲット・ノードに対して有効なノードのみが含まれていることを確認してください。

sqlcode: -16086

sqlstate: 10706

SQL16087N XQuery トランスフォーム式の結果が、XQuery および XPath データ・モデルの有効なインスタンスではありません。追加情報: *token1*、*token2*。エラー QName=err:XUDY0021。

説明: 変換式に含まれている更新式を適用した結果、XQuery および XPath データ・モデル (XDM) の無効なインスタンスが検出されました。XDM インスタンスにおける特定の制約違反は、トークンに含まれている追加情報から識別できます。

token1 が "attribute" である場合、変換式の更新式の適用後に、*token2* はターゲット・エレメントで複数回出現した属性の名前になります。

XQuery 式を処理できません。

ユーザーの処置: 変換式を訂正して、XDM の結果インスタンスが正しいことを確認してください。

token1 が "attribute" である場合、属性を含むすべての更新式において、ターゲット・エレメントに既に存在し、同じ変換内で削除または置換されていない属性の名前が使用されていないことを確認してください。

sqlcode: -16087

sqlstate: 10707

SQL16088N *expression-type* 式には名前空間接頭部 *prefix-string* と名前空間 URI *uri-string* のバインディングが存在し、*element-name* というエレメントに導入されていますが、これは、そのエレメント・ノードのスコープ内名前空間にある同じ接頭部と別の URI との既存の名前空間バインディングと競合します。エラー QName=err:XUDY0023。

説明: *expression-type* 式は、URI *uri-string* を使用して接頭部 *prefix-string* の新しい名前空間バインディングを *element-name* というエレメント・ノードに導入しましたが、これは、そのノードのスコープ内名前空間にある既存の名前空間バインディングの 1 つと競合します。エレメント・ノードは、更新式の中のターゲット、または更新式の中のターゲットの親である可能性があります。例えば、挿入式で、既存のエレメントの中に属性が挿入されることがあります。挿入される属性の QName が接頭部 P をある URI にバインドし、エレメント・ノードのスコープ内名前空間が同じ接頭部 P を別の URI にバインドする場合には、競合が検出されてこのエラーが出されます。

ユーザーの処置: *expression-type* 式で新しい名前空間バインディングを意図的に導入しようとしている場合は、

式を修正して、*element-name* というエレメントのスコープ内名前空間にある既存のすべての接頭部とは異なる名前空間接頭部を使用してください。別の方法として、*element-name* というエレメントのスコープ内名前空間にある既存の名前空間バインディングと同じ URI を *prefix-string* のバインディングで使用するよう式を修正することもできます。

sqlcode: -16088

sqlstate: 10708

SQL16089N トランスフォーム式の変更節にある *expression-type* 式が (場合によっては他の更新式もまた)、*element-name* というエレメントの中に競合する名前空間バインディングを導入しました。接頭部 *prefix-string* が *uri-string1* にバインドされ、同じ接頭部の別のバインディングでは異なる名前空間 URI が使用されています。エラー QName=err:XUDY0024。

説明: トランスフォーム式の変更節に存在する複数の更新式による複合的な効果のために、競合する名前空間バインディングが *element-name* というエレメント・ノードに導入されました。例えば、QName の名前空間接頭部が同じで名前空間 URI が異なる 2 つの属性が挿入された可能性があります。

expression-type が「挿入」または「置換」である場合、挿入シーケンスまたは置換シーケンスの属性ノード・シーケンス内の 2 つの属性ノードの間で名前空間バインディングが競合している可能性があります。または、トランスフォーム式の同じ変更節内の別の更新式によって挿入、置換、または名前変更された属性ノードに関する、エレメント *element-name* に導入された名前空間バインディングが競合している可能性もあります。

式のタイプが「名前変更」である場合、新しい名前空間名前空間バインディングは、トランスフォーム式の同じ変更節内の別の更新式によって挿入、置換、または名前変更されたノードに関する、エレメント *element-name* に同様に導入された名前空間バインディングと競合しません。

ユーザーの処置: *expression-type* 式で新しい名前空間バインディングを意図的に導入しようとしている場合は、式を修正して、ターゲットまたは属性ノード・ターゲットの親が *element-name* というエレメントである、同じトランスフォーム式の更新式で使われている他のすべての接頭部とは異なる名前空間接頭部を使用してください。別の方法として、ターゲットまたは属性ノード・ターゲットの親が *element-name* というエレメントである、同じトランスフォーム式の更新式で使われている他の名前空間バインディングと同じ URI を *prefix-string*

SQL16090N

のバインディングで使用するよう、式を修正することもできます。

sqlcode: -16089

sqlstate: 10708

SQL16090N 名前変更式のターゲットは処理命令ノードであり、QName *qname-string* の名前空間接頭部が空ではありません。エラー
QName=err:XUDY0025。

説明: 処理命令ノードをターゲット・ノードとする名前変更式が、トランスフォーム式に含まれています。名前変更式の中の新しい名前式の処理の結果、QName *qname-string* の接頭部が空でなくなっています。処理命令の名前に接頭部を含めることはできません。

ユーザーの処置: 名前変更式の新しい名前式を変更して、結果として得られる QName の接頭部が空になるようにしてください。

sqlcode: -16090

sqlstate: 10709

SQL16100N XML 文書に `<!notation notation-name>` の宣言が重複して含まれています。

説明: XML パーサーは XML 文書を解析中に、*notation-name* という名前の注釈の複数の宣言を検出しました。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書から重複する注釈を除去して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16100

sqlstate: 2200M

SQL16101N XML スキーマで、要素 *element-name* の属性 *attribute-name* が、複数回宣言されています。

説明: XML 文書を解析中に、*element-name* という名前の要素の同じ *attribute-name* という名前を持つ属性が、複数見つかりました。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML スキーマを訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16101

sqlstate: 2200M

SQL16102N XML 文書に含まれる *notation-name* という名前の記法宣言は、見つからないか、無効な記法宣言であるか、または有効な QName を持っていません。

説明: XML 文書を解析中に見つかった *notation-name* で識別される XML 記法宣言は、文書または関連スキーマ/DTD 内に見つからなかったか、誤って宣言されているか、または有効な QName を持っていません。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: *notation-name* で識別される XML 記法を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16102

sqlstate: 2200M

SQL16103N 文書エンコード方式では無効な、または表示できない文字が XML 文書で見つかりました。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、文書エンコード方式では無効な、または表示できない文字を検出しました。

解析は完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16103

sqlstate: 2200M

SQL16104N XML パーサーで内部エラーが発生しました。パーサー・エラーは *parser-error* です。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、内部エラー *parser-error* を検出しました。*parser-error* の値は、パーサー内部エラー・コードです。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: 操作を再試行し、エラーが続く場合は IBM サービス担当者に連絡してください。

sqlcode: -16104

sqlstate: 2200M

SQL16105N XML データが誤っています。タイプ *type-name* のデータが予期されましたが、このタイプでは無効な値である値 *value* が見つかりました。

説明: XML パーサーは XML 文書または XML スキーマを処理中に、特定のタイプのデータを検出すること

を予期していましたが、そのタイプに変換できない値を検出しました。

データ・タイプが 'datetime' としてリストされた場合、データ・タイプは、date、time、duration、gDay、gMonth、gMonthDay、gYear などの日付データ・タイプまたは時間データ・タイプです。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16105

sqlstate: 2200M

SQL16106N ノードのデータ・タイプ *type-name* に、無効な XML ファセットが指定されています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、ノードの指定されたデータ・タイプに、正しくないまたはサポートされないファセットが指定されているのを検出しました。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16106

sqlstate: 2200M

SQL16107N XML スキーマのファセット *facet-name* に、エラーが含まれています。1 つの理由は *reason-code* です。

説明: XML パーサーは XML スキーマを処理中に、指定されたファセットのエラーを検出しました。以下の理由の 1 つ以上が該当します。

1. ファセットの値は、そのファセットでは正しくないか、またはサポートされません。
2. ファセットが同じオブジェクトに複数回指定されていました。どのファセットも、オブジェクトあたり 1 回のみ指定できます。
3. ファセット名が無効または不明です。
4. 複合タイプのそのファセットの値は、無効でした。有効な値は、'#all' または 'list(restriction, extension)' です。
5. 要素のそのファセットの値は、無効でした。有効な値は、'#all' または 'list(restriction, extension)' です。
6. このコンテキストで唯一許される空白文字ファセット値は、'collapse' です。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16107

sqlstate: 2200M

SQL16108N XML スキーマに、ファセット *facet1* と *facet2* の無効な組み合わせが含まれています。1 つの理由は *reason-code* です。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、相互に排他的か、または競合値か無効値を持つ、*facet1* と *facet2* で識別される指定ファセットを検出しました。*reason-code* は、以下の考えられる理由のいずれかを示しています。

1. length ファセットおよび maxLength ファセットは両方とも指定されており、相互に排他的です。
2. length ファセットおよび minLength ファセットは両方とも指定されており、相互に排他的です。
3. maxInclusive ファセットおよび maxExclusive ファセットは両方とも指定されており、相互に排他的です。
4. minInclusive ファセットおよび minExclusive ファセットは両方とも指定されており、相互に排他的です。
5. maxLength ファセットの値は、minLength ファセットの値より大きくなければなりません。
6. maxExclusive ファセットの値は、minExclusive ファセットの値より大きくなければなりません。
7. maxExclusive ファセットの値は、minInclusive ファセットの値より大きくなければなりません。
8. maxInclusive ファセットの値は、minExclusive ファセットの値より大きくなければなりません。
9. maxInclusive ファセットの値は、minInclusive ファセットの値より大きくなければなりません。
10. totalDigits ファセットの値は、fractionDigits ファセットの値より大きくなければなりません。
11. 派生タイプの maxInclusive ファセットの値が、基本タイプの maxExclusive ファセットの値より大きいか等しくなっています。

- 12 派生タイプの `maxInclusive` ファセットの値が、基本タイプの `maxInclusive` ファセットの値より大きくなっています。
- 13 派生タイプの `maxInclusive` ファセットの値が、基本タイプの `minInclusive` ファセットの値より小さくなっています。
- 14 派生タイプの `maxInclusive` ファセットの値が、基本タイプの `minExclusive` ファセットの値より小さいか等しくなっています。
- 15 派生タイプの `maxExclusive` ファセットの値が、基本タイプの `maxExclusive` ファセットの値より大きくなっています。
- 16 派生タイプの `maxExclusive` ファセットの値が、基本タイプの `maxInclusive` ファセットの値より大きくなっています。
- 17 派生タイプの `maxExclusive` ファセットの値が、基本タイプの `minInclusive` ファセットの値より小さいか等しくなっています。
- 18 派生タイプの `maxExclusive` ファセットの値が、基本タイプの `minExclusive` ファセットの値より小さいか等しくなっています。
- 19 派生タイプの `minExclusive` ファセットの値が、基本タイプの `maxExclusive` ファセットの値より大きい等しくなっています。
- 20 派生タイプの `minExclusive` ファセットの値が、基本タイプの `maxInclusive` ファセットの値より大きくなっています。
- 21 派生タイプの `minExclusive` ファセットの値が、基本タイプの `minInclusive` ファセットの値より小さいか等しくなっています。
- 22 派生タイプの `minExclusive` ファセットの値が、基本タイプの `minExclusive` ファセットの値より小さいか等しくなっています。
- 23 派生タイプの `minInclusive` ファセットの値が、基本タイプの `maxExclusive` ファセットの値より大きい等しくなっています。
- 24 派生タイプの `minInclusive` ファセットの値が、基本タイプの `maxInclusive` ファセットの値より大きくなっています。
- 25 派生タイプの `minInclusive` ファセットの値が、基本タイプの `minInclusive` ファセットの値より小さくなっています。
- 26 派生タイプの `minInclusive` ファセットの値が、基本タイプの `minExclusive` ファセットの値より小さいか等しくなっています。
- 27 派生タイプの `maxInclusive` ファセットの値が、基本タイプの `maxInclusive` ファセットの値と等しくありません。基本タイプの `maxInclusive` ファセットは、"true" に設定された固定属性によって定義されていました。
- 28 派生タイプの `maxExclusive` ファセットの値が、基本タイプの `maxExclusive` ファセットの値と等しくありません。基本タイプの `maxExclusive` ファセットは、"true" に設定された固定属性によって定義されていました。
- 29 派生タイプの `minInclusive` ファセットの値が、基本タイプの `minInclusive` ファセットの値と等しくありません。基本タイプの `minInclusive` ファセットは、"true" に設定された固定属性によって定義されていました。
- 30 派生タイプの `minExclusive` ファセットの値が、基本タイプの `minExclusive` ファセットの値と等しくありません。基本タイプの `minExclusive` ファセットは、"true" に設定された固定属性によって定義されていました。
- 31 `minOccurs` 属性の値が、`maxOccurs` 属性の値を超えています。
- 32 派生タイプの `totalDigits` ファセット値は、対応する基本タイプの `totalDigits` ファセット値より小さいか等しくなければなりません。
- 33 派生タイプの `fractionDigits` ファセット値は、対応する基本タイプの `totalDigits` ファセット値より小さいか等しくなければなりません。
- 34 派生タイプの `fractionDigits` ファセット値は、対応する基本タイプの `fractionDigits` ファセット値より小さいか等しくなければなりません。
- 35 派生タイプの `totalDigits` ファセット値は、対応する基本タイプの固定属性が "true" に設定されている `totalDigits` ファセットの値と等しくなければなりません。
- 36 派生タイプの `fractionDigits` ファセット値は、対応する基本タイプの固定属性が "true" に設定されている `fractionDigits` ファセットの値と等しくなければなりません。
- 37 派生タイプの `maxLength` ファセット値は、対応する基本タイプの固定属性が "true" に設定されている `maxLength` ファセットの値と等しくなければなりません。
- 38 派生タイプの `minLength` ファセット値は、対応する基本タイプの固定属性が "true" に設定されている `minLength` ファセットの値と等しくなければなりません。
- 39 派生タイプの `length` ファセット値は、対応す

る基本タイプの固定属性が "true" に設定されている length ファセットの値と等しくなければなりません。

- 40 派生タイプの whiteSpace ファセット値は、対応する基本タイプの固定属性が "true" に設定されている whiteSpace ファセットの値と等しくなければなりません。
- 41 fractionDigits ファセット値が totalDigits ファセット値を超えました。fractionDigits ファセット値は、小数点の右の桁数を表しており、その totalDigits ファセット値を超えることはできません。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16108

sqlstate: 2200M

SQL16109N XML 文書に無効なコメントが含まれています。理由コード = *reason-code*。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、無効なコメントを検出しました。*reason-code* として可能性のある値は、以下のとおりです。

1. コメントが <!-- で始まっていませんでした。
2. コメントに -- が含まれていました。
3. コメントが終了していませんでした。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16109

sqlstate: 2200M

SQL16110N XML 構文エラーです。construct を検出することが予期されていました。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、特定の構成を検出することを予期していましたが、見つかりませんでした。XML は整形形式でないか、または操作によっては妥当ではありません。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16110

sqlstate: 2200M

SQL16111N XML 文書に、無効な CDATA セクションが含まれています。理由コード = *reason-code*。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、*reason-code* で示される妥当でないまたは不整形形式の CDATA セクションを検出しました。可能性のある理由コードは、以下のとおりです。

1. ネストされた CDATA セクションがあります。
2. CDATA セクションが終了していません。
3. CDATA セクションにシーケンス ']]<' が含まれています。
4. CDATA セクションがルート要素の外側で見つかりました。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16111

sqlstate: 2200M

SQL16112N XML スキーマに、必須の 'name' または 'ref' が欠落している誤った要素定義または属性定義が含まれています。理由コード = *reason-code*。

説明: XML パーサーは XML スキーマを処理中に、誤った要素定義または属性定義を検出しました。

reason-code の値は、以下のいずれかの理由に該当します。

1. XML スキーマでグローバルに宣言された属性に名前がありませんでした。グローバルに宣言されるすべての属性には、名前がなければなりません。
2. XML スキーマで name も ref も指定せずに属性が宣言されています。すべての属性には name または ref がなければなりません。
3. XML スキーマでグローバルに宣言された要素に名前がありませんでした。グローバルに宣言されるすべての要素には、名前がなければなりません。
4. XML スキーマで name も ref も指定せずに属性が宣言されています。すべての要素には name または ref がなければなりません。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16112

sqlstate: 2200M

SQL16113N XML 文書または XML スキーマに、誤った属性 *attribute-name* が含まれています。理由コード = *reason-code*。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、正しく定義されていない、または正しく使用されていない属性を検出しました。*reason-code* によって示される考えられる理由は、以下のとおりです。

- 1 属性に *name* と *ref* の両方が指定されています。属性は *name* か *ref* のどちらかを持つことができ、この両方を持つことはできません。
- 2 属性はすでに同じスコープ内で宣言されています。属性名はそれぞれのスコープ内でユニークでなければなりません。
- 3 属性は修飾すべきですが、修飾されていませんでした。
- 4 属性は修飾されていましたが、修飾すべきではありません。
- 5 属性はすでに基本で定義されているため、拡張による派生として現れるべきではありません。
- 6 ID 属性が参照されていましたが、一度も宣言されていません。
- 7 属性は、定義されたその列挙型リストまたは記法リストと一致しません。
- 8 属性の値は、名前か名前トークンでなければなりません。
- 9 属性は複数の値をサポートしていません。
- 10 この属性に対応するデータ・タイプ・バリデーターが見つかりませんでした。
- 11 スタンドアロン文書では、属性を正規化する変更はしないでください。
- 12 属性の値が無効です。接頭部付き名前空間バインディングを空にすることはできません。
- 13 この属性は最上位属性であるため、見つけることができませんでした。
- 14 DTD にある属性リストに属性タイプのタイプ定義が見つかりません。タイプ定義は次のいずれかであればなりません。
'CDATA'、'ID'、'IDREF'、'IDREFS'、
'ENTITY'、'ENTITIES'、'NMTOKEN'、または
'NMTOKENS'。
- 15 属性は不明エンティティを参照しています。
- 16 属性の内容が無効です。内容は、形式 (annotation?, (simpletype?)) に準拠しなければなりません。

- 17 属性はデフォルト値を持っています。スタンドアロン文書では、この値を指定しなければなりません。
- 18 属性はすでに要素で使用されています。属性名はその親要素内でユニークでなければなりません。
- 19 属性に 'fixed' と 'default' の両方のファセットが指定されています。両方を指定することはできません。どちらか一方か、他を指定してください。
- 20 属性の値は、この属性に許されるどの列挙型値にも一致しませんでした。
- 21 属性は要素内で定義されていません。
- 22 属性に無効値が含まれています。
- 23 属性は関連スキーマで定義されていませんでした。
- 24 属性は宣言されていませんでした。
- 25 この属性の不良 ID 値があります。
- 26 属性は必須ですが見つかりませんでした。
- 27 属性の単純タイプが見つかりません。
- 28 属性の値が 'fixed' 値と一致しません。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16113

sqlstate: 2200M

SQL16114N XML 文書に、重複する値 *value* を持つ ID が含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、すでに文書で宣言されている ID 値 *value* を検出しました。ID 値は、文書でユニークでなければなりません。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16114

sqlstate: 2200M

SQL16115N XML 文書に、未解決の名前空間接頭部を持つ *name* という名前の要素または属性が含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、名前空間接頭部を URI に解決できない、名前 *name* で識別される

要素または属性を検出しました。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16115

sqlstate: 2200M

SQL16116N XML 文書の型宣言に、重複する値 *value* が含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、型宣言の中に重複する値を検出しました。型宣言では、'substitution'、'union'、'extension'、'list'、または 'restriction' を、1 回のみ指定できます。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16116

sqlstate: 2200M

SQL16117N XML 文書はエンティティ *entity-name* を宣言していますが、このエンティティは終了していません。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、予期される終了文字のない、*entity-name* のエンティティ宣言を検出しました。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16117

sqlstate: 2200M

SQL16118N XML 文書は *element-name* という名前の要素を宣言していますが、この要素は終了していません。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、予期される終了文字のない、*entity-name* という名前の要素宣言を検出しました。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16118

sqlstate: 2200M

SQL16119N XML 文書に *entity-name* へのエンティティ参照が含まれていますが、このエンティティ参照は終了していません。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、予期される終了文字のない、*entity-name* のエンティティ参照を検出しました。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16119

sqlstate: 2200M

SQL16120N 文書型定義 (DTD) に要素 *element-name* のコンテンツ・モデル指定が含まれていますが、このモデル指定は終了していません。

説明: XML パーサーは DTD を処理中に、*element-name* という名前の要素の、終了していない内容モデルを検出しました。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: DTD を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16120

sqlstate: 2200M

SQL16121N XML 文書に *entity-name* という名前のエンティティのエンティティ・リテラルが含まれていますが、このリテラルは終了していません。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、*entity-name* という名前のエンティティに関連した、終了していないエンティティ・リテラルを検出しました。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16121

sqlstate: 2200M

SQL16122N XML 文書に無効な文字参照 *codepoint* が含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、コード・ポイント値 *codepoint* を持つ無効な文字参照を検出しました。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

SQL16123N

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16122

sqlstate: 2200M

SQL16123N XML 文書に含まれている要素 *element-name* は内容が空ですが、コンテンツ・モデルによりこの要素には内容が必要です。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、内容を含まない *element-name* という名前の要素を検出しました。この要素の内容モデルでは、空の内容にすることは許可されません。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: 文書の要素に内容を追加するか、または文書から要素を除去して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16123

sqlstate: 2200M

SQL16124N XML 文書に終了タグがありますが、これは *tag-name* という名前のタグを終了するものではありません。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、*entity-name* という名前のタグに関連した、終了していない終了タグを検出しました。解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16124

sqlstate: 2200M

SQL16125N XML 文書の内部サブセットに、コード・ポイント *codepoint* の無効な文字が含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、内部サブセットの中に、コード・ポイント *codepoint* で定義された無効な文字を検出しました。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16125

sqlstate: 2200M

SQL16126N 文書型定義 (DTD) のコンテンツ・モデルに、宣言されていない要素 *element-name* が含まれています。

説明: パーサーは DTD を解析中に、内容モデルの中に、*element-name* という名前の宣言されていない要素を検出しました。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: DTD を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16126

sqlstate: 2200M

SQL16127N DTD で、文字 '?', '*', または '+' の前に予期しない空白文字があります。

説明: パーサーは DTD を解析中に、文字 '?', '*', または '+' が現れる位置の前に、予期しない空白文字を検出しました。このコンテキストでは、空白文字は許可されません。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: 予期されない空白文字を除去して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16127

sqlstate: 2200M

SQL16128N XML 文書の属性値 *attribute-name* に、コード・ポイント *codepoint* の無効な文字が含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、*attribute-name* で識別される属性値の中に、コード・ポイント *codepoint* を持つ無効な文字を検出しました。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16128

sqlstate: 2200M

SQL16129N XML 文書はタグ *tag-name* の終了を予期しました。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、名前が *tag-name* のタグの終了を検出することを予期しましたが、検出しませんでした。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: 欠落している終了タグを追加するか訂

正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16129

sqlstate: 2200M

SQL16130N XML 文書に無効なまたは終了していない処理命令が含まれています。理由コード = *reason-code*。

説明: XML パーサーは XML 文書または XML スキーマを処理中に、無効な処理命令を検出しました。以下の 1 つ以上の理由で、処理命令が無効になっています。

1. 処理命令が終了していませんでした。
2. 処理命令が文字 'xml' (大文字と小文字の組み合わせがどうであれ) で始まっていますが、この文字は禁止されています。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 処理命令を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16130

sqlstate: 2200M

SQL16131N XML 文書に開始タグ *tag-name* がありますが、このタグは終了していません。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、*tag-name* で識別される終了していない開始タグを検出しました。開始タグに続く内容に終了タグが欠落しているか、または開始タグと終了タグの間の内容が整形形式ではありません。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16131

sqlstate: 2200M

SQL16132N XML 文書には無効な文書構造が含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、無効な文書構造を検出しました。パーサーは、インスタンス文書のプロログ内または DTD の外部サブセット内に、空白文字以外の文字データを検出しました。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16132

sqlstate: 2200M

SQL16133N XML 文書に無効な名前空間宣言が含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、DOM インスタンス内に無効な名前空間宣言を検出しました。名前空間は、接頭部 "xmlns" と URI `http://www.w3.org/2000/xmlns/` を持っています。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16133

sqlstate: 2200M

SQL16134N XML 文書に *name* に関連した無効なターゲット名前空間が含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、インスタンス文書の XML スキーマ名前空間 (`http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance`) に一致するターゲット名前空間を持つ *ncname name* を使用した属性宣言を検出しました。この URI を属性宣言の中でターゲット名前空間として使用することはできません。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: 要素名または属性名を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16134

sqlstate: 2200M

SQL16135N XML 文書に宣言されていない要素 *element-name* を参照する属性リストが含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、宣言されていない *element-name* という名前の要素を参照する属性リストを検出しました。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16135

sqlstate: 2200M

SQL16136N XML スキーマにファセット・エラーが含まれています。理由コード = *reason-code*。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、ファセット

SQL16137N

のエラーを検出しました。 *reason-code* によって示される考えられる理由は、以下のとおりです。

1. ブール・データ・タイプで唯一有効な 'constraining' ファセットは、PATTERN です。
2. 無効なファセット・タグが検出されました。
3. 派生オブジェクト内の 'enumeration' ファセットの値は、対応する基本オブジェクトの値空間からのものではありません。
4. 'whiteSpace' ファセットの値は、'preserve'、'replace'、'collapse' のいずれかでなければなりません。
5. 対応する基本タイプの 'whiteSpace' ファセットの値が 'collapse' の場合、'whiteSpace' ファセットの値には、'preserve' と 'replace' のいずれも使用できません。
6. 対応する基本オブジェクトの whitespace ファセットの値が 'replace' の場合、派生オブジェクトの 'whitespace' ファセットの値に 'preserve' を使用できません。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16136

sqlstate: 2200M

SQL16137N XML 文書に不明な simpleType *type-name* が含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、不明な単純タイプであるタイプ名 *type-name* を検出しました。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: タイプ名を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16137

sqlstate: 2200M

SQL16138N XML 文書に不明な complexType *type-name* が含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、不明な複合タイプであるタイプ名 *type-name* を検出しました。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: タイプ名を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16138

sqlstate: 2200M

SQL16139N XML スキーマで、simpleType *type-name* のコンテンツにエラーがあります。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、名前が *type-name* の simpleType の内容にエラーを検出しました。 simpleType 要素定義では、restriction、list、union のいずれかのみが許可されます。トークンを使用できない場合もあります。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16139

sqlstate: 2200M

SQL16140N XML 文書に、name または ref 属性を持たない <group> または <attributeGroup> 指定が含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、name または ref 属性を持たない <group> または <attributeGroup> 指定を検出しました。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16140

sqlstate: 2200M

SQL16141N XML スキーマに RESTRICTION または EXTENSION による無効な派生が含まれています。理由コード = *reason-code*。

説明: XML パーサーは XML スキーマを処理中に、RESTRICTION または EXTENSION によって派生したタイプの問題を検出しました。 *reason-code* 値で示される考えられる理由は、以下のとおりです。

- 1 simpleContent 定義内の RESTRICTION または EXTENSION 要素の後に無効な子があります。
- 2 complexContent 定義内の RESTRICTION または EXTENSION 要素の後に無効な子があります。
- 3 RESTRICTION または EXTENSION に BASE 属性が指定されていませんでした。 RESTRICTION または EXTENSION によるあらゆる派生には、その派生の基本タイプの識別が含まれていなければなりません。
- 4 RESTRICTION または EXTENSION による派生は、基本タイプまたは XML スキーマによって禁止されています。

- 5 スキーマに 'any' の禁止制限が含まれています。'any' の有効な制限としては、'choice'、'sequence'、'all'、'element' があります。
- 6 スキーマに 'all' の禁止制限が含まれています。'all' の有効な制限としては、'choice'、'sequence'、'element' があります。
- 7 スキーマに 'choice' の禁止制限が含まれています。'choice' の有効な制限としては、'sequence'、'all'、'leaf' があります。
- 8 スキーマに 'sequence' の禁止制限が含まれています。'sequence' の有効な制限としては、'element' があります。
- 9 スキーマは、RESTRICTION による派生の complexType に、単純タイプを使用しようとしています。
- 10 スキーマは、EXTENSION による派生に、値 'final' を持つ単純タイプを使用しようとしています。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML スキーマを訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16141

sqlstate: 2200M

SQL16142N XML 文書に未定義エンティティ *entity-name* が含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、*entity-name* で識別される定義されていないエンティティを検出しました。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16142

sqlstate: 2200M

SQL16143N XML 文書にエンティティ *entity-name* の予期しない終了が含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、*entity-name* という名前のエンティティの予期しない終了を検出しました。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: エンティティを訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16143

sqlstate: 2200M

SQL16144N XML 文書で属性 *attribute-name* に左不等号括弧文字 ('<') が含まれていますが、この文字はエンティティとして指定されていません。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、*attribute-name* という名前の属性の属性値に、左不等号括弧文字 ('<') を検出しました。左不等号括弧文字が必要な場合は、エンティティ '<' として指定しなければなりません。これを文字リテラル '<' として指定することはできません。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: 属性値を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16144

sqlstate: 2200M

SQL16145N XML 文書に、"x" ではなく "X" を使用して指定された 16 進基数文字参照が含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、値が小文字 "x" ではなく大文字 "X" を使用して指定された 16 進基数文字参照を検出しました。16 進基数文字参照には小文字 "x" を使用しなければなりません。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: 16 進基数文字参照を小文字 "x" を使用するよう訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16145

sqlstate: 2200M

SQL16146N メイン XML 文書が空です。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、空のメイン XML 文書を検出しました。メイン XML 文書を空にすることはできません。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16146

sqlstate: 2200M

SQL16147N XML 文書に、xmlns の名前空間または名前空間接頭部 'xmlns' の無効な使用があります。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、'xml' または 'xmlns' のような予約済み接頭部が名前空間に明示的にバインドされようとしているか、または xml または xmlns の名前空間のような予約済み名前空間が接頭部に明示的にバインドされようとしていることを検出しました。予約済み接頭部は、それ自体以外のどの名前空間にも明示的にバインドすることはできません。また、予約済み名前空間は、それ自体以外のどの接頭部にもバインドすることはできません。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16147

sqlstate: 2200M

SQL16148N XML 文書に、abstract が true、substitutionGroup が element-name2 に設定された無効な要素 element-name1 が含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、abstract が true に設定され、要素 element-name の置換グループのメンバーとして定義された要素 element-name1 を検出しました。ヘッド要素が element-name2 の置換グループのメンバーとして、element-name1 の abstract を false にする必要があります。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16148

sqlstate: 2200M

SQL16149N XML 文書に空の targetNamespace 属性値が含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、空の targetNamespace 属性値を検出しました。属性値はないか、または空でない値を含んでいなければなりません。解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16149

sqlstate: 2200M

SQL16150N XML 文書に、カーディナリティーの異なるキー・フィールド key-name を参照する keyref フィールド keyref-name が含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、key フィールド key-name を参照する keyref フィールド keyref-name のカーディナリティーの不一致を検出しました。keyref でのカーディナリティーは、key のものと一致しなければなりません。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書内の keyref フィールドまたは key フィールドのカーディナリティーを訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16150

sqlstate: 2200M

SQL16151N XML 文書に、見つかっていないキー key-name を参照する keyref フィールド keyref-name が含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、文書内では不明の key フィールド key-name を参照する keyref フィールド keyref-name を検出しました。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書内の key フィールドの名前を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16151

sqlstate: 2200M

SQL16152N XML 文書の同一の複合タイプまたは属性グループに、1 つのタイプ ID から派生された複数の属性が含まれています。その属性の 1 つは attribute-name です。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、同一の複合タイプまたは属性グループに、1 つのタイプ ID から派生された複数の属性を検出しました。このプロパティを持つ属性の 1 つは、attribute-name で識別されます。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書内の複合タイプまたは属性の属性を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16152

sqlstate: 2200M

SQL16153N XML スキーマに、デフォルト値または参照タイプ *type-name* の固定値制約とは異なる固定値をもつ属性タイプ定義が含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、属性と属性参照タイプの値制約の不一致を検出しました。属性がデフォルト値を指定している一方で参照タイプが固定値になっているか、または属性が参照タイプ *type-name* での指定とは異なる固定値を指定しています。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書内の属性参照の値制約を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16153

sqlstate: 2200M

SQL16154N ID プロパティに複数の属性が定義されている要素 *element-name* が XML スキーマに含まれています。

説明: XML スキーマ (または DTD) の解析中に、*element-name* という名前の要素の ID プロパティを持つ複数の属性が宣言されていました。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML スキーマまたは DTD を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16154

sqlstate: 2200M

SQL16155N XML 文書に、誤って指定されたか、または無効な URL が含まれています。理由コード = *reason-code*。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、誤って指定された、または無効な URL を検出しました。

reason-code は、以下のどの状態が見つかったかを示しています。

- 1 URL が正しい形式ではありませんでした。
- 2 URL はサポートされないプロトコルを使用しています。
- 3 現時点では 'localhost' のみがサポートされません。
- 4 プロトコル接頭部がありません。
- 5 プロトコルの後に // が予期されています。
- 6 % の後に 2 つの 16 進数字がなければなりません。
- 7 ホスト・コンポーネントが終了していません。

8 URL の基底部分を相対にすることはできません。

9 指定された基本 URL に十分なパス・セグメントが含まれていないため、その基本 URL を使用して相対 URL を解決できませんでした。

10 ポート・フィールドは 16 ビット10 進値でなければなりません。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16155

sqlstate: 2200M

SQL16156N XML 文書に、オープンできなかった基本文書エンティティが含まれています。システム ID=*system-id*。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、オープンできなかった基本文書エンティティを検出しました。この文書はシステム ID *system-id* で識別されます。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16156

sqlstate: 2200M

SQL16157N XML スキーマに、派生タイプの包含または排除ファセット値 *value* と基本タイプの値スペースとの無効な関係が含まれています。理由コード = *reason-code*。

説明: XML パーサーは XML スキーマを処理中に、派生タイプの包含ファセット値または排他ファセット値と基本タイプの値空間の間の無効な関係を検出しました。*reason-code* は、以下のどの状態が見つかったかを示しています。以下の状態の 1 つ以上が該当します。

1. 派生タイプの *maxInclusion* 値 *value* が、基本タイプの値空間にありません。
2. 派生タイプの *maxExclusion* 値 *value* が、基本タイプの値空間にありません。
3. 派生タイプの *minInclusion* 値 *value* が、基本タイプの値空間にありません。
4. 派生タイプの *minExclusion* 値 *value* が、基本タイプの値空間にありません。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: 基本タイプの値空間外のファセット値

SQL16158N

を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16157

sqlstate: 2200M

SQL16158N XML スキーマに、派生タイプの minLength、maxLength、または length ファセット値 dt-length と、基本タイプ値 base-length との比較において、無効な関係が含まれています。理由コード = reason-code。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、派生タイプのファセットと基本タイプとの間の無効な関係を検出しました。reason-code は、以下のどの状態が見つかったかを示しています。

1. 派生タイプの length 値 dt-length が、基本タイプの length 値 base-length と等しくありません。
2. 派生タイプの minLength 値 dt-length が、基本タイプの minLength 値 base-length より小さいか等しくなっています。
3. 派生タイプの minLength 値 dt-length が、基本タイプの maxLength 値 base-length より大きくなっています。
4. 派生タイプの maxLength 値 dt-length が、基本タイプの maxLength 値 base-length より大きくなっています。
5. 派生タイプの maxLength 値 dt-length が、基本タイプの minLength 値 base-length より小さいか等しくなっています。
6. 派生タイプの length 値 dt-length が、基本タイプの minLength 値 base-length より小さくなっています。
7. 派生タイプの length 値 dt-length が、基本タイプの maxLength 値 base-length より大きくなっています。
8. 派生タイプの minLength 値 dt-length が、基本タイプの length 値 base-length より大きくなっています。
9. 派生タイプの maxLength 値 dt-length が、基本タイプの length 値 base-length より小さくなっています。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16158

sqlstate: 2200M

SQL16159N XML 文書の要素 element-name に、名前属性を持つ無名複合タイプが含まれていません。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、element-name という名前の要素に無名複合タイプを検出しましたが、complexType は名前属性を持っていました。このコンテキストでは、complexType と名前属性の組み合わせは許可されません。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16159

sqlstate: 2200M

SQL16160N XML 文書の要素 element-name に、名前属性を持つ無名单純タイプが含まれていません。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、element-name という名前の要素に無名单純タイプを検出しましたが、この要素は名前属性を持っていました。無名タイプと名前属性の組み合わせは許可されません。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16160

sqlstate: 2200M

SQL16161N XML 文書に、予期しない情報項目を持つ要素が含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、(annotation?, (simpletype | complextype)?, (unique | key | keyref)*) と一致しない情報項目を検出しました。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16161

sqlstate: 2200M

SQL16162N XML 文書に、substitution-name をヘッドとする置換グループの一部にするのできない要素 element-name が含まれていません。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、指定された置換グループ substitution-name の一部にすることができ

ない要素 *element-name* を検出しました。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16162

sqlstate: 2200M

SQL16163N XML 文書に、*element-name* に対する重複した要素宣言が含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、指定された要素の要素宣言が同じスコープ内で重複していることを検出しました。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16163

sqlstate: 2200M

SQL16164N XML 文書の内容に重複する <annotation> 要素が含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、内容の中に重複する <annotation> 要素を検出しました。多くても 1 つの <annotation> 要素が予期されています。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を重複する <annotation> を除去して訂正し、操作を再試行してください。

sqlcode: -16164

sqlstate: 2200M

SQL16165N XML 文書で、ルート要素の前に予期しないテキストが含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、ルート要素の前に予期しないテキストを検出しました。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16165

sqlstate: 2200M

SQL16166N XML 文書のエンティティ値に、マークアップの一部が含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、エンティティ値に部分的マークアップを検出しました。パーサーはエンティティを XML 文書に展開しようとしたのですが、結果の XML マークアップは整形 XML ではありません。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16166

sqlstate: 2200M

SQL16167N XML 文書のパラメーター・エンティティに NDATA が含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、パラメーター・エンティティに NDATA を検出しました。パラメーター・エンティティでの NDATA は正しくありません。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16167

sqlstate: 2200M

SQL16168N XML 文書に無効な XML 宣言が含まれていました。理由コード = *reason-code*。

説明: XML パーサーは XML 文書または XML スキーマを処理中に、欠落しているまたは無効な XML 宣言を検出しました。*reason-code* は、以下のどの状態が見つかったかを示しています。

- 1 XML 宣言のストリングは、'version'、'encoding'、'standalone' の順序でなければなりません。
- 2 宣言は <?XML ではなく <?xml で始まらなければなりません。ストリング 'xml' は小文字でなければなりません。
- 3 XML またはテキスト宣言は、最初の行の最初の列から始まらなければなりません。
- 4 XML 宣言には 'version=' ストリングが含まれなければなりません。
- 5 XML 宣言が必要ですが、ありません。
- 6 指定された XML バージョンはサポートされないか無効です。

SQL16169N

- 7 指定された文書エンコード方式は無効であるか、または自動検知エンコード方式と矛盾します。
- 8 XML 宣言が終了していません。
- 9 スタンドアロン属性の値が無効であるか、またはサポートされません。
- 10 サポートされる属性は、'version'、'encoding'、'standalone' のみです。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16168

sqlstate: 2200M

SQL16169N XML 文書に、名前空間には無効な要素または属性名が含まれていました。理由コード = *reason-code*。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、名前空間に起因する無効な XML 要素名または属性名を検出しました。*reason-code* は、以下のどの状態が見つかったかを示しています。

1. 名前空間が有効なとき、名前はコロン文字を 1 つのみ持つことができます。
2. 名前空間が有効なとき、最初または最後の文字をコロンにすることはできません。
3. 名前空間が有効なとき、名前空間接頭部と名前を分離するため以外は、名前にコロンを含めることは許可されません。
4. 名前空間が有効な場合、タイプ ID、IDREF、IDREFS、ENTITY、ENTITIES、または NOTATION の属性にコロンを含めることは無効です。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16169

sqlstate: 2200M

SQL16170N XML 文書に、不明な基本タイプ *type-name2* を持つタイプ *type-name1* が含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、不明な基本タイプ *type-name2* を持つタイプ *type-name1* を検出しました。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書内の *type-name1* の基本タイプを訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16170

sqlstate: 2200M

SQL16171N XML 文書で、単純タイプ *type-name* に対する *list* による派生の内容にエラーが含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、*simpleType type-name* の宣言の中に、'list' 派生の正しくない指定を検出しました。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書内のタイプ宣言を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16171

sqlstate: 2200M

SQL16172N XML 文書に、*ref* 属性と子の内容の両方を持つ *declaration-type* 宣言が含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、*ref* 属性と子の内容を含んだ *declaration-type* 宣言を検出しました。*ref* 属性と子の内容の両方を *declaration-type* 宣言に含めることはできません。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16172

sqlstate: 2200M

SQL16173N XML 文書に、許可されていない属性 *attribute-name* が含まれています。

説明: XML 文書を解析中に、要素内では許可されない属性 *attribute-name* が検出されました。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16173

sqlstate: 2200M

SQL16174N XML 文書に、インスタンス文書 *uri2* に指定されている名前空間と一致しないターゲット名前空間を持つ XML スキーマ *uri1* が含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、ターゲット名前空間の不一致を検出しました。XML スキーマでのターゲット名前空間が、インスタンス文書でのターゲット名前空間と一致しません。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書内のターゲット名前空間を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16174

sqlstate: 2200M

SQL16175N XML 文書に、ルート要素 *element-name* を解決できなかったスキーマが含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、スキーマ文書のルート要素の解決に関する問題を検出しました。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16175

sqlstate: 2200M

SQL16176N XML スキーマで、タイプ *type-name* に **List**、**Union**、または **Restriction** コンテンツが不正に使用されています。

説明: XML 文書を解析中に、指定されたタイプ *type-name* が list、union、または restriction を使用して宣言されていることが検出されましたが、これは許可されません。単純タイプでないタイプに list または union を使用することはできません。別のタイプから単純タイプを派生させる場合は、別のタイプも単純タイプでなければなりません。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16176

sqlstate: 2200M

SQL16177N XML スキーマに、基本タイプ *type-name* が見つからなかった派生タイプが含まれています。

説明: XML 文書を解析中に派生タイプが検出されましたが、その派生タイプの基本タイプ *type-name* が見つかりませんでした。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16177

sqlstate: 2200M

SQL16178N XML 文書に、基本属性の定義と矛盾する派生属性 *attribute-name* が含まれています。理由コード = *reason-code*。

説明: XML 文書を解析中に、何らかの点で基本タイプと矛盾する派生属性が検出されました。*reason-code* によって示される考えられる理由は、以下のとおりです。

1. REQUIRED 設定が矛盾しています。
2. この派生タイプは基本タイプから有効に派生させることはできません。
3. 値が固定されていないか、または基本とは異なる値を持っています。
4. ターゲット名前空間が基本ワイルドカード制約で無効であるか、または基本がワイルドカードを持っていません。
5. 基本属性 *use* が禁止されている場合は、派生タイプの 'use' 属性を変更できません。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16178

sqlstate: 2200M

SQL16179N XML 文書に、**simpleType** を予期した *derivation-type* 宣言を持つ要素または属性 *name* が含まれています。

説明: XML 文書を解析中に、*derivation-type* 宣言は、指定された要素または属性の *name* に **simpleType** を予期していました。SimpleType 以外のタイプが見つかりました。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

SQL16180N

sqlcode: -16179

sqlstate: 2200M

SQL16180N XML 文書に空の simpleType コンテンツが含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、子を持たない simpleType を検出しました。simpleType には 1 つの子を定義しなければなりません。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16180

sqlstate: 2200M

SQL16181N XML 文書に無効な simpleContent が含まれています。

説明: XML 文書を解析中に、ある無効な simpleContent が検出されました。内容は RESTRICTION または EXTENSION でなければなりません。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16181

sqlstate: 2200M

SQL16182N XML 文書に無効な complexContent が含まれています。

説明: XML 文書を解析中に、ある無効な complexContent が検出されました。内容は RESTRICTION または EXTENSION でなければなりません。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16182

sqlstate: 2200M

SQL16183N XML 文書の complexType に無効な子が含まれています。理由コード = *reason-code*。

説明: XML 文書を解析中に、complexType に無効な子が見つかりました。*reason-code* によって示される考えられる理由は、以下のとおりです。

1. complexType 内の simpleContent 子の後に無効な子が見つかりました。
2. complexType 内の complexContent 子の後に無効な子が見つかりました。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16183

sqlstate: 2200M

SQL16184N XML 文書に、タイプ *type-name* の重複するアノテーションが含まれています。

説明: XML 文書を解析中に、タイプ *type-name* の重複するアノテーションが検出されました。タイプにアノテーションを付けることができるのは、多くても 1 回です。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16184

sqlstate: 2200M

SQL16185N XML 文書に構文エラーがあります。理由コード = *reason-code*。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、構文エラーを検出しました。*reason-code* によって示される考えられる理由は、以下のとおりです。

- 1 INCLUDE または IGNORE の後に [を予期しました。
- 2 文書に、名前のない最上位 complexType が含まれています。
- 3 'standalone=' スtring は、メイン XML エンティティーでのみ許可されます。
- 4 テキスト宣言に 'encoding=' スtring は必須です。
- 5 ルート要素が DOCTYPE とは異なります。
- 6 ID 属性は #IMPLIED または #REQUIRED でなければなりません。
- 7 タイプ ENTITY/ENTITIES の属性は、外部の解析対象外エンティティーを参照しなければなりません。
- 8 文字データは、内容モデルによって許可されません。

- 9 混合内容モデルでは、要素タイプを重複させることはできません。
- 10 タイプ属性を指定する場合、内容属性は 'textOnly' でなければなりません。
- 11 next 要素宣言は、elementOnly 内容でのみ許可されます。
- 12 要素参照は、混合内容または elementOnly 内容でのみ許可されます。
- 13 'type' 属性および 'ref' 属性のいずれかのみ持つことができます。
- 14 要素のタイプはすでに宣言されています。
- 15 正しくない xml:space 宣言です。
- 16 <schema> 要素の情報項目の内容にエラーがあります。
- 17 属性宣言にタイプと simpleType の両方の宣言を含めることはできません。
- 18 ref は、
'type'、'abstract'、'block'、'final'、'nilable'、
'default'、'fixed' のいずれとも一緒に出現することはできません。
- 19 ref がありますが、simpleType/form/type が見つかりました。
- 20 complexContent 要素内で指定される基本タイプは、それ自身が complexType でなければなりません。
- 21 'anyAttribute' 要素の子には、最大で 1 つの 'annotation' 要素しか含めることができません。
- 22 <import> 要素の名前空間は、<import> スキーマの targetNamespace とは異なっていなければなりません。
- 23 <import> 要素の名前空間がない場合は、<import> スキーマが targetNamespace を持たなければなりません。
- 24 制限によって派生した complexType の内容は空ですが、基本タイプは空ではなく、制限による派生を使用しても空にすることができません。
- 25 コンテンツ・タイプが、基本のコンテンツ・タイプの有効な制限ではありません。
- 26 {item type definition} は、atomic または union (この場合、すべてのメンバー・タイプが atomic でなければなりません) の {variety} を持たなければなりません。
- 27 {member type definition} はすべて、atomic または list の {variety} を持たなければなりません。
- 28 モデル・グループ定義の子は、minOccurs 属性と maxOccurs 属性のどちらも指定しないでください。
- 29 内容が 'all' のグループは、複合タイプ定義のコンテンツ・タイプとしてのみ出現しなければなりません。
- 30 モデル・グループが持つ {compositor} 'all' が複合タイプの {content type} を構成しているときは、minOccurs=maxOccurs=1 です。
- 31 'all' スキーマ・コンポーネント内の要素の minOccurs/maxOccurs の値は、'0' または '1' でなければなりません。
- 32 {attribute wildcard} の意図論理積は、式表現可能でなければなりません。
- 33 基本タイプ定義に属性がありません。
- 34 派生タイプに属性ワイルドカードがありますが、基本にはありません。
- 35 派生タイプの属性ワイルドカードは、基本の属性ワイルドカードの有効なサブセットではありません。
- 36 派生タイプのワイルドカード属性は、基本のワイルドカード属性と同一かそれより強くなければなりません。
- 37 <redefine> の simpleType 子は、restriction 要素の子として持たなければなりません。
- 38 simpleType の restriction 子の基本属性は、再定義 simpleType の名前属性と同じでなければなりません。
- 39 <redefine> の complexType 子は、extension 要素の制限を孫として持たなければなりません。
- 40 restriction/extension の基本属性は、complexType と同じでなければなりません。
- 41 <redefine> 要素の group 子が、自分自身を参照するグループを含む場合、その参照は 1 つのみでなければなりません。
- 42 <redefine> 要素の attributeGroup が自分の参照を含む場合、その参照は 1 つのみでなければなりません。
- 43 識別制約の内容は、(annotation?, selector, field+) と一致しなければなりません。
- 44 XPath 式が欠落しているか空です。
- 45 複合タイプ定義の一部である <xs:all> モデル・

- グループは、複合タイプ定義のコンテンツ・タイプ全体を構成しなければなりません。
- 46 <annotation> には、<appinfo> および <documentation> 要素のみ含めることができます。
- 47 XML スキーマのルート要素名は 'schema' にする必要があります。
- 48 混合内容モデルでの個々の要素の反復は、正しくありません。
- 49 不良デフォルト属性宣言です。
- 50 デフォルト属性宣言を予期しました。
- 51 属性リスト構文エラーです。
- 52 内容の後が無効です。
- 53 DOCTYPE にルート要素がありません。
- 54 DOCTYPE 宣言が終了していません。
- 55 ここのテキスト宣言は正しくありません。
- 56 内部サブセットに条件セクションがあります。
- 57 パラメーター・エンティティーが内部サブセットまたは外部サブセットから伝搬しました。
- 58 内部サブセット内のマークアップの内側のパラメーター・エンティティー参照は許可されません。
- 59 エンティティーが内容セクション外の miscellaneous に伝搬しました。
- 60 属性値から外部エンティティーを参照することはできません。
- 61 'default' と 'use' の両方がある場合、'use' は値 'optional' を持たなければなりません。
- 62 ここでは数字エンティティーまたは特殊文字エンティティーのみが正当です。
- 63 schemaLocation 属性に値のペアが含まれていません。
- 64 完全な宣言内のパラメーター・エンティティー置換テキストに、部分的マークアップがあります。
- 65 開始タグと終了タグが異なるエンティティーにありました。
- 66 文書に再帰的エンティティー拡張が含まれていました。
- 67 ファセットが基本タイプと矛盾します。
- 68 スタンドアロン文書では、要素内容を持つ、外部で宣言される要素同士の間空白文字があつてはなりません。
- 69 パラメーター・エンティティー置換テキスト内に部分的マークアップがあります。
- 70 フィールドはそのセクターのスコープ内の複数の値と一致します。フィールドは固有な値と一致しなければなりません。
- 71 'appinfo' および 'documentation' 以外のスキーマ要素内では、空白文字以外の文字は許可されません。
- 72 与えられた索引は、最大属性索引の範囲を超えていました。
- 73 渡された AttTypes 値は不明です。
- 74 渡された DefAttType 値は不明です。
- 75 2 項演算ノードに単項ノード・タイプがありました。
- 76 コンテンツ・タイプは混合または子でなければなりません。
- 77 ここでは PCDATA ノードは無効です。
- 78 単項演算ノードに 2 項ノード・タイプがありました。
- 79 内容モデル・タイプが不明です。
- 80 内容 spec タイプが不明です。
- 81 親要素に内容 spec ノードがありません。
- 82 作成理由列挙型定数に、不明な値が含まれています。
- 83 列挙型定数に、これ以上要素は含まれていません。
- 84 自動エンコード方式列挙型定数に、不明な値が含まれています。
- 85 対になっていない開始/終了タグが見つかったため、続行できません。
- 86 ワイルドカードの出現範囲が、基本ワイルドカードの範囲の制限ではありません。
- 87 ワイルドカードが、対応する基本のワイルドカードのサブセットではありません。
- 88 グループの出現範囲が、基本ワイルドカードの範囲の制限ではありません。
- 89 パーティクル間に完全な関数マッピングがありません。
- 90 パーティクル間に完全に機能するマッピングがありません。
- 91 内容 spec ノード・タイプが無効です。
- 92 空ストリングが検出されました。
- 93 ストリングに空白文字のみが含まれています。

- 94 複数の小数点が検出されました。
- 95 無効な文字が検出されました。
- 96 NULL ポインターが検出されました。
- 97 グループの出現範囲が、基本グループの出現範囲の有効な制限ではありません。
- 98 パーティクル間に完全に機能するマッピングがありません。
- 99 文書に、終了していない文字参照が含まれていました。
- 100 エンティティー拡張数が、許可される制限を超えていました。
- 101 このタイプの属性は、空の値を持つことはできません。
- 102 複合タイプ定義の表記は OK ですが、`<restriction>` は `<simpleType>` 子を持たなければなりません。
- 103 `restriction` 内の要素 `name/uri` が、対応する基本要素のものと一致しません。
- 104 セレクターが属性を選択できません。
- 105 XPath 値の先頭に `|` を使用することは許可されません。
- 106 XPath 値に `||` を使用することは許可されません。
- 107 XPath に属性名が欠落しています。
- 108 XPath 式に二重コロンを使用することは許可されません。
- 109 トークン `'AXISNAME_CHILD::'` の後に `step` を予期しました。
- 110 XPath の `/'` の後に `step` を予期しました。
- 111 XPath の `'` の後に `step` を予期しました。
- 112 XPath の `/'` の後に `'` を使用することは許可されません。
- 113 XPath の先頭の `!` の後には `/'` のみが許可されます。
- 114 XPath 値の先頭に `'` を使用することは許可されません。
- 115 XPath のルートを選択することは許可されません。
- 116 XPath 式が空です。
- 117 XPath 式を `|` で終了することはできません。
- 118 XPath の `!` の後に無効な文字があります。
- 119 XPath トークンはサポートされません。

- 120 NEL オプションを有効にしています。
- 121 URI 内にスキームが見つかりませんでした。
- 122 基本タイプは空ですが、派生 `complexType` に内容があります。
- 123 パーサーは XML 記法名を検出することを予期しましたが、検出しませんでした。
- 124 終了していない記法宣言が見つかりました。
- 125 パーサーは文書エンコード方式を検出しませんでした。文書エンコード方式は必須です。
- 126 文書に開始タグより多い終了タグが含まれていました。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16185

sqlstate: 2200M

SQL16186N XML 文書で無効な解析対象外エンティティー参照 `entity-name` が検出されました。

説明: XML 文書を解析中に、解析対象外エンティティー参照 `entity-name` が検出されました。この参照は無効です。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16186

sqlstate: 2200M

SQL16187N XML 文書に、`xsi:type` 属性で使用されている抽象タイプ `type-name` が含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、`xsi:type` 属性で抽象タイプ `type-name` が使用されていることを検出しました。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16187

sqlstate: 2200M

SQL16188N

SQL16188N XML 文書に、タイプ *type-name* の無効なコンテンツ・アノテーション指定が含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、データ・タイプ *type-name* としては誤った内容 (annotation?...) を検出しました。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16188

sqlstate: 2200M

SQL16189N XML 文書に、XML スキーマでは見つからない *ref* 要素 *element-name* が含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、XML スキーマ内で見つからない *ref* 要素 *element-name* を検出しました。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16189

sqlstate: 2200M

SQL16190N XML 文書に、名前空間では見つからないタイプ "*prefix:type-name*" が含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、名前空間内で見つからないタイプを検出しました。タイプは *prefix:type-name* で識別されます。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書内のタイプの使用を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16190

sqlstate: 2200M

SQL16191N XML 文書の複合タイプ *type-name* に、無効な子が含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、複合タイプ *type-name* 内で無効な子を検出しました。completType の子として可能なのは、group、sequence、choice、all、attribute、または attributeGroup です。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16191

sqlstate: 2200M

SQL16192N XML 文書に *attribute-name* の循環 *attributeGroup* 参照が含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、循環 *attributeGroup* 参照を検出しました。<redefine> の外側ではこの使用は許可されません。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16192

sqlstate: 2200M

SQL16193N XML 文書にどの URI にもマップされていない接頭部 *prefix-name* が含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、どの URI にもマップされていない接頭部 *prefix-name* を検出しました。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16193

sqlstate: 2200M

SQL16194N XML 文書に、*xsi:type* 属性で使用されているものの、要素 *element-name* のタイプから派生してはいないタイプ *type-name* が含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、*type-name* を指定している *xsi:type* 属性を検出しましたが、このタイプは要素 *element-name* のタイプから派生したものではありません。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書内の *xsi:type* 属性で使用されているタイプを訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16194

sqlstate: 2200M

SQL16195N XML 文書に無効な再定義が含まれています。 *namespace-uri* はすでに組み込まれているか、または再定義されています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、無効な再定義を検出しました。名前空間 *namespace-uri* はすでに組み込まれているか、または再定義されています。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16195

sqlstate: 2200M

SQL16196N XML 文書に正しく指定されていない要素 *element-name* が含まれています。理由コード = *reason-code*

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、*element-name* という名前の要素のエラーを検出しました。*reason-code* によって示される考えられる理由は、以下のとおりです。

- 1 要素は制限内では空可能になっていますが、基本内では空可能ではありません。
- 2 要素が固定されていないか、または固定されていても基本と同じ値を持っていません。
- 3 要素の不許可置換が、基本の不許可置換のスーパーセットではありません。
- 4 要素は基本から派生しないタイプを持っています。
- 5 要素は、基本が属するグループとは異なる *variety* のグループに属しています。
- 6 要素の識別制約のキーが見つかりません。
- 7 要素は *abstract* のタイプを指定して宣言されています。 *xsi:type* を使用して、*abstract* でないタイプを指定してください。
- 8 要素はブロッキング制約を持ち、置換を許可していません。
- 9 要素は、タイプ属性と、*simpleType* または *complexType* のタイプを持つ子を、両方を持つことはできません。
- 10 要素は固定値またはデフォルト値を持たなければならず、かつ単純内容モデルまたは混合単純内容モデルを持たなければなりません。
- 11 要素に *schemaLocation* 属性を指定しなければなりません。

- 12 要素の名前空間は、スキーマ名前空間からのものでなければなりません。
- 13 要素は、置換グループのヘッドにある要素のタイプから派生しないタイプを持っています。
- 14 要素はグローバル宣言されており、*ref* 属性を持つことはできません。
- 15 要素の内容指定式が見つかりませんでした。
- 16 要素の内容モデルで '!' または ')' 文字 (閉じ括弧) を予期しました。
- 17 要素は接頭部に 'xmlns' を持つことはできません。
- 18 要素はすでに宣言されています。
- 19 要素は、単純タイプの内容の中に子としての要素を持つことはできません。
- 20 要素は単純タイプを持っていますが、データ・タイプ・バリデータが見つかりませんでした。
- 21 要素は、空可能が *true* に設定された要素と一致するキーを持っています。
- 22 要素の識別制約の *key* 値が重複して宣言されています。
- 23 要素の識別制約の *unique* 値が重複して宣言されています。
- 24 要素は値のないキーを持っています。
- 25 要素の *unique* 識別制約に指定された値が不十分です。
- 26 要素は *DOCTYPE* で使用されていましたが、一度も宣言されていません。
- 27 要素の内容モデルが未確定です。
- 28 コンテンツ・タイプのパーティクルは非空可能ですが、要素のコンテンツ・タイプは混合になっています。
- 29 要素の内容が、要素のスキーマ宣言での固定属性値とは異なります。
- 30 要素の循環置換グループがあります。
- 31 要素は、関連する内容モデルでは無効です。
- 32 要素の値は '*xsi:nil*' です。これは、空可能でないという要素の宣言と矛盾します。
- 33 要素が非型付きです。
- 34 指定された要素は修飾されなければなりません。
- 35 指定された要素は修飾することはできません。
- 36 指定された要素は空ではありませんでしたが、

SQL16197N

xsi:nil=true を指定していました。xsi:nil=true を指定している要素は、空である必要があります。

- 37 要素が定義されていません。
- 38 要素に 'fixed' と 'default' の両方のファセットが指定されています。両方を指定することはできません。どちらか一方か、他を指定してください。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16196

sqlstate: 2200M

SQL16197N XML 文書に、要素 *element-name* に対して十分な値が指定されていないキーまたはキー参照名 *name ID* 制約が含まれていません。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、*key* または *keyref name* 識別制約に指定された値が不十分な要素 *element name* を検出しました。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16197

sqlstate: 2200M

SQL16198N XML 文書に、無効な名前 *name* を持つ *object-type* オブジェクトの宣言が含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、無効な名前 *name* を持つ *object-type* オブジェクトの宣言を検出しました。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16198

sqlstate: 2200M

SQL16199N XML 文書に、**complexContent** を持つタイプ *type-name* が含まれています。**simpleContent** 要素の基本として **complexContent** を指定することはできません。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、**simpleContent** 要素内に、基本として **complexContent** が指定されたタイプ *type-name* を検出しました。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を異なるタイプを基本に指定するように訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16199

sqlstate: 2200M

SQL16200N XML 文書の **complexType** の中に、重複する参照属性 "*prefix:name*" が含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、**complexType** の中に *prefix:name* という名前の重複する参照属性を検出しました。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16200

sqlstate: 2200M

SQL16201N XML 文書の公開 ID の中に、無効な Unicode 文字 *hex-value* が含まれていません。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、公開 ID の中に無効な Unicode 文字を検出しました。無効な文字として識別されるのは、16 進値 *hex-value* です。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16201

sqlstate: 2200M

SQL16202N XML 文書に、関連基数として無効な数字 *value* が含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、関連基数として無効な数字 *value* を検出しました。基数が 10 進または 16 進になっている可能性があります。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16202

sqlstate: 2200M

SQL16203N XML 文書の入力、開始済みのすべてのタグが終了する前に終了しています。最後に開始されたタグは、*tag-name* です。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、すべての開始タグが閉じられる前に入力の終了を検出しました。最後に開始されたタグとして識別されるのは、*tag-name* です。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16203

sqlstate: 2200M

SQL16204N XML 文書に、スタンドアロン文書内の外部エンティティー宣言 *ext-entity-name* の参照が含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、*ext-entity-name* で識別されるスタンドアロン文書内の外部エンティティーを参照しました。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16204

sqlstate: 2200M

SQL16205N XML 文書に含まれる要素の数が、内容モデル *name* と突き合わせるには少なすぎます。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、*name* で識別される内容モデルと突き合わせるができるだけの数の要素を検出ませんでした。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16205

sqlstate: 2200M

SQL16206N XML 文書に、使用できる文法のない URI *uri-string* の参照が含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、URI *uri-string* に合う文法を見つけようとしていました。文法を使用できません。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16206

sqlstate: 2200M

SQL16207N XML 文書に、定義されていないエンティティー *entity-name* が含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、*entity-name* で識別される定義されていないエンティティーを検出しました。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16207

sqlstate: 2200M

SQL16208N XML 文書の *xsi:type* に、無効なタイプ *type-name* が含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、 *xsi:type* 定義の中に無効なタイプ *type-name* を検出しました。解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16208

sqlstate: 2200M

SQL16209N XML 文書は、抽象要素 *element-name* の置換グループのメンバーの指定を必要とします。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、抽象要素 *element-name* の置換グループのメンバーが欠落していることを検出しました。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16209

sqlstate: 2200M

SQL16210N XML 文書に、ファセット制約に違反する値 *value* が含まれていました。理由コード = *reason-code*。

説明: XML パーサーは XML 文書を処理中に、ファセット制約テストに不合格の値を検出しました。

SQL16211N

reason-code によって示される考えられる理由は、以下のとおりです。

- 1 値の長さが *maxLen* ファセットを超えています。
- 2 値の長さが *minLen* ファセット未満でした。
- 3 値の長さが *len* ファセットと等しくありませんでした。
- 4 値が列挙型になっていませんでした。
- 5 値の合計桁数が *totDigits* ファセットを超えていました。
- 6 値のフラクタル桁数が *fractDigits* ファセットを超えていました。
- 7 値は *maxInclusive* ファセットより大きい値でした。
- 8 値は *maxExclusive* ファセット以上でした。
- 9 値は *minInclusive* ファセットより小さい値でした。
- 10 値は *minExclusive* ファセット以下でした。
- 11 値が空白文字置換ではありません。
- 12 値が縮小空白文字ではありません。
- 13 値が正規表現ファセットと一致しません。
- 14 値が共用体のどのメンバー・タイプとも一致しません。
- 15 値が位取りファセットを超えています。
- 16 値が精度ファセットを超えています。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書内の制約ファセットに違反している値を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16210

sqlstate: 2200M

SQL16211N XML 文書に無効な URI が含まれていました。トークン 1=*token1*。トークン 2=*token2*。理由コード = *reason-code*。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、無効な URI を検出しました。*reason-code* によって示される考えられる理由は、以下のとおりです。

- 1 URI *token1* は、必須コンポーネントをすべて備えていなければなりません。
- 2 URI *token1* に、汎用 URI でのみ有効なコンポーネント *token2* が含まれています。

- 3 URI *token1* に、無効なエスケープ・シーケンス *token2* が含まれています。
- 4 URI *token1* に、無効な文字 *token2* が含まれています。
- 5 URI に含まれる NULL 可能でないコンポーネントが、NULL に設定されています。
- 6 URI *token1* に、非準拠コンポーネント *token2* が含まれています。
- 7 URI *token1* に、「host」コンポーネントが指定されない場合は無効なコンポーネント *token2* が含まれています。
- 8 URI *token1* に、「path」コンポーネントが指定されない場合は無効なコンポーネント *token2* が含まれています。
- 9 URI *token1* に、パス指定に組み込まないコンポーネント *token2* が含まれています。
- 10 URI に、範囲 (0, 65535) に入らないポート値 *token1* が含まれています。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書内の URI を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16211

sqlstate: 2200M

SQL16212N XML 文書では、*name* の循環定義は許可されません。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、*name* の定義内で *name* が使用されていることを検出しました。XML では循環定義は許可されません。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16212

sqlstate: 2200M

SQL16213N XML スキーマに、タイプが ID から導出されるために *constraint-type* 制約を持つてはならない要素 *element-name* が含まれています。

説明: パーサーは XML スキーマを解析中に、ID から導出される *constraint-type* 制約を持つてはならない要素を検出しました。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16213

sqlstate: 2200M

SQL16214N XML 文書に含まれるインポートされたスキーマ *import-uri* の *targetNamespace* *targetns-uri* は、*declared-uri* と宣言されたものとは異なります。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、名前空間の不一致を検出しました。インポートされた XML スキーマ *import-uri* は、XML 文書で宣言された名前空間 *declared-uri* とは異なるターゲット名前空間 *targetns-uri* を持っています。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書の名前空間の不一致を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16214

sqlstate: 2200M

SQL16215N XML 文書に、異なるターゲット名前空間 *targetns-uri* を持つ組み込みスキーマ *include-uri* が含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、名前空間の不一致を検出しました。URI *include-uri* に組み込まれた XML スキーマは、異なるターゲット名前空間 URI *targetns-uri* を持っています。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書の名前空間の不一致を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16215

sqlstate: 2200M

SQL16216N XML 文書に、*element-type element-name* 宣言に必要な属性 *attribute-name* がありません。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、必須属性 *attribute-name* が欠落している *element-type element-name* 宣言を検出しました。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書内のグローバルまたはローカル宣言に欠落している属性を追加して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16216

sqlstate: 2200M

SQL16217N XML 文書に、*element-type element-name* 宣言に入れることができない属性 *attribute-name* が含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、*element-type element-name* 宣言内では許可されない *attribute-name* という名前の属性を検出しました。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書内のグローバルまたはローカル宣言から属性を除去して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16217

sqlstate: 2200M

SQL16218N XML 文書に含まれる *name1* という名前の *component* のグローバル宣言が、複数回宣言されています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、*name* で識別される *component* の重複するグローバル宣言を検出しました。*component* は、「element」、「group」、または「attributeGroup」である可能性があります。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書から重複する宣言を除去して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16218

sqlstate: 2200M

SQL16219N XML 文書に含まれる *name* という名前の *type1* のグローバル・タイプ宣言は、複数回宣言されているか、または *type2* としても宣言されています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、*name* で識別される *type1* の重複するグローバル・タイプ宣言があること、または *name* が *type2* としても宣言されていることを検出しました。グローバル・タイプ宣言は、*simpleType* または *complexType* である可能性があります。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16219

sqlstate: 2200M

SQL16220N XML 文書に要素または属性 *name* が含まれていますが、この要素または属性の **NOTATION** がスキーマで直接的に使用されています。

説明: パーサーが XML 文書を解析中に、スキーマで **NOTATION** が直接使用されている要素または属性を検出しました。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16220

sqlstate: 2200M

SQL16221N XML 文書に、基本タイプ *base-type-name* と派生タイプ *derived-type-name* の定義の不一致が含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、基本タイプ *base-type-name* と派生タイプ *derived-type-name* の定義の不一致を検出しました。基本タイプのコンテンツ・タイプが混合タイプの場合は、派生タイプも混合内容でなければなりません。基本タイプの内容が要素のみの場合は、派生タイプも要素のみの内容でなければなりません。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16221

sqlstate: 2200M

SQL16222N XML 文書に、名前のないグローバル *declaration-type* 宣言が含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、名前のないグローバル *declaration-type* 宣言を検出しました。グローバル宣言には名前がなければなりません。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書内のグローバル宣言を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16222

sqlstate: 2200M

SQL16223N XML 文書に、許可されないタイプ *type-name* の子を持つ **<redefine>** 要素が含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、データ・タ

イプ *type-name* で定義された子を持つ再定義要素を検出しました。**<redefine>** 要素にこのタイプの子を含めることはできません。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書内の **<redefine>** 要素を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16223

sqlstate: 2200M

SQL16224N XML 文書に、基本要素 *base-element-name* と派生要素 *derived-element-name* の定義の不一致が含まれています。理由コード = *reason-code*。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、名前が *base-element-name* の基本要素と名前が *derived-element-name* の関連派生素素の定義の不一致を検出しました。*reason-code* によって示される考えられる理由は、以下のとおりです。

1. 派生素素は、基本要素より少ない識別制約を持っている。
2. 派生素素が、基本要素に現れない識別制約を持っている。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書内の基本要素または派生素素を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16224

sqlstate: 2200M

SQL16225N XML 文書に、基本タイプのワイルドカードでは許可されない *namespace-uri* の名前空間が含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に無効な名前空間を検出しました。これは、ある基本タイプから派生したタイプに起因していますが、この基本タイプには「any」要素があり、その要素定義では *namespace-uri* と一致しない名前空間 **URI** が使用されています。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16225

sqlstate: 2200M

SQL16226N XML スキーマに、グループ *group-name* の無効なグループ仕様が含まれています。
理由コード = *reason-code*。

説明: XML パーサーは XML スキーマを処理中に、無効なグループ仕様を検出しました。*reason-code* によって示される考えられる理由は、以下のとおりです。

1. グループには (all | choice | sequence) が含まれていなければなりません。
2. グループに、minOccurs = maxOccurs = 1 がなければならぬ、再定義されるグループの参照が含まれています。
3. 属性グループ仕様が (annotation?.(attribute | attributeGroup)*, anyAttribute?) と一致しません。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16226

sqlstate: 2200M

SQL16227N XML 文書に、スキーマ内に見つからない、"*uri:object-name*" という名前のオブジェクト "*object-type*" が含まれていません。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、XML スキーマ内に見つからない、名前が *uri:object-name* のタイプ *object-type* のオブジェクトを検出しました。

ユーザーの処置: XML 文書または XML スキーマを訂正して、操作を再試行してください。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

sqlcode: -16227

sqlstate: 2200M

SQL16228N <all> の内容は <xs:element> に限定されていますが、*tag-name* が検出されました。

説明: パーサーは XML スキーマ文書を解析中に、エレメント *tag-name* を検出しました。XML スキーマは、<all> の内容を <xs:element> に限定しています。

ユーザーの処置: XML スキーマ文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16228

sqlstate: 2200M

SQL16229N XML 文書に、異なるターゲット名前空間 *targetns-uri* を持つ再定義スキーマ *schema-uri* が含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、異なるターゲット名前空間を持つ再定義スキーマを検出しました。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16229

sqlstate: 2200M

SQL16230N XML 文書に、*constraint-name* という名前の識別制約が複数含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、名前 *constraint-name* を使用する複数の識別制約を検出しました。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書内の重複する識別制約名を変更して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16230

sqlstate: 2200M

SQL16231N XML 文書に、<import> 宣言のない名前空間 *uri* の参照が含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、インポート宣言のない名前空間 *uri* の参照を検出しました。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書に名前空間のインポートを組み込んで、操作を再試行してください。

sqlcode: -16231

sqlstate: 2200M

SQL16232N XML 文書の XML 宣言に、*attribute-name* の重複する設定が含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、XML 宣言の中に *attribute-name* の重複する宣言設定を検出しました。XML 宣言は、「version」、「encoding」、「standalone」属性の設定を 1 つだけ持つことができます。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書の XML 宣言内の重複する属性設定を除去して、操作を再試行してください。

SQL16233N

sqlcode: -16232

sqlstate: 2200M

SQL16233N XML 文書に、重複する ID 値 *ID-value* が含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、重複する ID 値 *ID-value* を検出しました。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書内の重複する ID 値をユニークな ID 値に変更して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16233

sqlstate: 2200M

SQL16234N XML 文書に、データ・タイプ *type-name* の無効な宣言が含まれています。理由コード = *reason-code*。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、無効なデータ・タイプ宣言を検出しました。*reason-code* によって示される考えられる理由は、以下のとおりです。

1. データ・タイプ *type-name* 用のバリデーターがない。
2. 誤ったデータ・タイプである。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16234

sqlstate: 2200M

SQL16235N XML 文書に、範囲外の値 *value* が含まれています。範囲値 *1=rvalue1*。範囲値 *2=rvalue2*。理由コード = *reason-code*。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、無効な値を検出しました。*reason-code* によって示される考えられる理由は、以下のとおりです。

1. 値 *value* が、負の最大値 *rvalue1* より小さい。
2. 値 *value* が、正の最大値 *rvalue1* より大きい。
3. 数値 *value* が、許可される *rvalue1* から *rvalue2* の範囲外。
4. 数値 *value* は、指数を持つ必要がある。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書内の範囲外の値を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16235

sqlstate: 2200M

SQL16236N 正規表現を処理中にエラーが検出されました。理由コード = *reason-code*。可能性のあるトークン = *token*。

説明: 正規表現を処理中に、エラーが検出されました。*reason-code* は、エラーに関する詳細情報と、可能性のあるトークン *token* (空でない場合) の説明を示します。

- 1 正規表現に、無効なカテゴリ名 *token* がありました。
- 2 正規表現に、不明なオプションがありました。
- 3 正規表現に、不明なキーワード *token* がありました。
- 4 ComplementRanges - 引数は、RangeToken でなければなりません。
- 5 参照番号は、ゼロより大きくなければなりません。
- 6 不明なトークン・タイプ。
- 7 無効な子索引。
- 8 無効またはゼロ長の置換パターン。
- 9 無効な Unicode 16 進表記または Unicode コード・ポイント。
- 10 範囲終了コード・ポイント *token* が、開始コード・ポイントより小さくなっています。
- 11 無効な正規表現構文。*token* にリストされたストリングまたは文字を検出することを予期しました。
- 12 16 進表記のオーバーフローです。
- 13 正規表現の中に予期しない文字が見つかりました。
- 14 無効な参照番号。
- 15 円記号文字 (「¥」) の後には文字が必要です。
- 16 修飾グループ、条件グループ、または文字クラス内のパターンが予期しない終わり方になっています。
- 17 条件パターンで、逆参照、アンカー、先読み、または後読みが予期されています。
- 18 条件グループの選択項目が 3 つを超えています。
- 19 U+0040 から u+005f の範囲に含まれる文字は、¥c の後に続ける必要があります。
- 20 予期しないメタ文字です。
- 21 不明なプロパティ。

- 22 不明な POSIX 文字クラスの名前。
- 23 正規表現での「-」文字の無効な使用。
- 24 アンカーが正規表現内の正しい位置にありません。
- 25 現行オプション設定ではサポートされない式が使用されています。
- 26 *token* 内で無効な数量詞が使用されています。考えられる問題は、予期される桁数、予期される「}」文字、無効な数量、最小数量が最大数量を超えていること、または数量値オーバーフローです。
- 27 トークン *token* は無効な文字範囲です。
- 28 *token* は無効なエスケープ文字です。
- 29 内部正規表現処理エラー。エラー・コード *token*。再試行しても問題が再び発生する場合は、このメッセージと *token* の値を添えて IBM サポートに連絡してください。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: 正規表現を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16236

sqlstate: 2200M

SQL16237N XML スキーマに要素 *element-name* の出現範囲が含まれていますが、これは基本要素にとって無効な範囲制限です。

説明: パーサーは XML スキーマを解析中に、要素 *element-name* 内に出現範囲を検出しましたが、これは基本要素には無効な出現範囲制限です。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16237

sqlstate: 2200M

SQL16238N XML スキーマに、XPath 値での名前空間 URI にバインドされない接頭部 *prefix-name* が含まれています。

説明: XML パーサーは XML スキーマを処理中に、対応する URI が XPath 値にない接頭部 *prefix-name* を検出しました。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML スキーマを訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16238

sqlstate: 2200M

SQL16239N XML 文書に、既存の宣言がまだないタイプ *type-name* の再定義が含まれていません。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、*type-name* に対応する宣言をスキーマ内で検出しませんでした。再定義要求は、前の宣言がなければ実行できません。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16239

sqlstate: 2200M

SQL16240N XML 文書に、*elementOnly* 内容でのみ許可される *tag* が含まれていました。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、*elementOnly* 内容でのみ有効な内容を検出しました。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16240

sqlstate: 2200M

SQL16241N XML 文書の、「*element*」、「*group*」、「*choice*」、「*sequence*」、および「*any*」に限定されている選択モデル・グループに、*tag* 内容があります。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、無効な内容を検出しました。選択モデル・グループに、「*element*」、「*group*」、「*choice*」、「*sequence*」、「*any*」のいずれでもない内容 *tag* が含まれています。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16241

sqlstate: 2200M

SQL16242N XML 文書に、ユニークなパーティクル属性規則に違反する *name1* および *name2* があります。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、ユニークなパーティクル属性規則に違反する値を検出しました。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16242

sqlstate: 2200M

SQL16243N XML 文書に、スコープ外のキーまたはユニーク制約を参照する *keyref value* が含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、無効な *keyref* を検出しました。 *keyref value* は定義されたキーまたはユニーク制約の名前ですが、 *keyref* のスコープに含まれません。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16243

sqlstate: 2200M

SQL16244N XML 文書に、 *spec* タイプには無効な操作 *operation-name* が含まれています。

説明: パーサーは XML 文書を解析中に、 *spec* タイプには無効な操作を検出しました。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書を訂正して、操作を再試行してください。

sqlcode: -16244

sqlstate: 2200M

SQL16245N XML スキーマ文書 *uri* の行 *lineno* またはその近くで、非修飾 SQL ID *string* が見つかりました。

説明: ID *string* にリレーショナル・スキーマ名が欠落しており、XML スキーマでグローバル・アノテーション *db2-xdb:defaultSQLSchema* が指定されていません。XML スキーマ文書は、 *uri* をカタログ・ビュー SYSCAT.XSROBJECTCOMPONENTS の SCHEMALOCATION 列と突き合わせることで判別できます。

XML スキーマを分解に使用できません。

ユーザーの処置: グローバル・アノテーション *db2-xdb:defaultSQLSchema* を定義するか、またはマッピングに使用される表またはニックネームを、リレーショナル・スキーマを指定する *db2-xdb:table* アノテーションを使用して宣言する必要があります。

sqlcode: -16245

sqlstate: 225DE

SQL16246N XML スキーマ文書 *uri* の行 *lineno* またはその近くに、不完全なアノテーション・マッピングがあります。理由コード = *reason-code*。

説明: *uri* の *line* 近くの XML スキーマ項目からデータベース・オブジェクトへのマッピングのアノテーションには、一部の情報が欠落しています。理由コードとして可能性のある値は、以下のとおりです。

1. 行セット名が指定されていないか、または完全修飾されていません。
2. マッピングはターゲット列または条件を指定しなければなりません、ターゲット列も条件も指定されていません。
3. XML 内容の処理は指定されていますが、ターゲット列が指定されていません。マッピングは XML 文書の内容を式を介して切り捨てる、正規化する、または変換することを示していますが、処理された内容をどこに保管するかがマッピングで示されていません。

XML スキーマ文書は、 *uri* をカタログ・ビュー SYSCAT.XSROBJECTCOMPONENTS の SCHEMALOCATION 列と突き合わせることで判別できます。

XML スキーマを分解に使用できません。

ユーザーの処置: XML スキーマ内のアノテーションを変更してください。 *reason-code* に基づく可能なアクションは、以下のとおりです。

1. 行セット名を指定するか、または行セット名を完全修飾してください。
2. ターゲット列または条件を指定してください。
3. 関連処理が指定された XML 内容のターゲット列を指定してください。

指定したアノテーションについて、アノテーション付き XML スキーマの資料で調べて、必要なすべてのコンポーネントに値を与えてください。

sqlcode: -16246

sqlstate: 225DE

SQL16247N XML スキーマ文書 *uri* の行 *lineno* またはその近くにあるアノテーションは、ソース XML タイプ *source-data-type* をターゲット SQL タイプ *target-data-type* にマップできません。

説明: XML スキーマ文書 *uri* の行 *lineno* またはその近くにあるアノテーションは、XML スキーマ・タイプ *source-data-type* を非互換の SQL タイプ *target-data-type* にマップしています。XML スキーマ文書は、*uri* をカタログ・ビュー SYSCAT.XSROBJECTCOMPONENTS の SCHEMALOCATION 列と突き合わせることで判別できます。

XML スキーマを分解に使用できません。

ユーザーの処置: アノテーション付き XML スキーマの資料で XML スキーマ・タイプと SQL タイプの互換性を調べてください。アノテーションを適切に訂正してください。

sqlcode: -16247

sqlstate: 225DE

SQL16248N XML スキーマ文書 *uri* の行 *lineno* またはその近くに、アノテーションのエラーがあります。エラーの追加情報には、*errordetails* が含まれます。

説明: アノテーション付き XML スキーマ文書 *uri* の行番号 *lineno* またはその近くに、アノテーションのエラーが含まれています。エラーの種類としては、無効値、アノテーション内の未知の要素または属性、誤った形式の XML などがあります。エラーの種類、またはエラーのある値に関する追加情報は、*errordetails* に示されています。

XML スキーマ文書は、*uri* をカタログ・ビュー SYSCAT.XSROBJECTCOMPONENTS の SCHEMALOCATION 列と突き合わせることで判別できます。

XML スキーマを分解に使用できません。

ユーザーの処置: アノテーション付き XML スキーマの資料で、正当なアノテーションおよびその構文のリストを調べてください。不明なアノテーションを訂正するか除去してください。

sqlcode: -16248

sqlstate: 225DE

SQL16249N XML スキーマ文書 *uri* の行 *lineno* またはその近くにある *db2-xdb:expression*、または *db2-xdb:condition* アノテーション *annotation-string* が、理由コード *reasoncode* のため無効です。

説明: 識別された *db2-xdb:expression* または *db2-xdb:condition* アノテーションが、以下の理由コードの 1 つによって示されるように、無効です。

1. 指定された式のストリングの長さが、許可される最大値を超えていました。
2. 式の中でキーワード \$DECOMP_CONTENT または \$DECOMP_ELEMENTID が出現する回数が、最大値の 10 回を超えています。

XML スキーマ文書は、*uri* をカタログ・ビュー SYSCAT.XSROBJECTCOMPONENTS の SCHEMALOCATION 列と突き合わせることで判別できます。

XML スキーマを分解に使用できません。

ユーザーの処置: アノテーション付き XML スキーマの資料で、*db2-xdb:expression* または *db2-xdb:condition* アノテーションの構文および制限を調べてください。式を適切に訂正してください。

sqlcode: -16249

sqlstate: 225DE

SQL16250N XML スキーマ文書 *uri* の行 *lineno* またはその近くの値 *schema-name* を持つ *db2-xdb:defaultSQLSchema* は、同じ XML スキーマ内のいずれかの XML スキーマ文書で指定された別の *db2-xdb:defaultSQLSchema* と競合します。

説明: アノテーション付き XML スキーマを構成するすべての XML スキーマ文書に渡って、存在できる *db2-xdb:defaultSQLSchema* アノテーションの値は 1 つだけです。XML スキーマ文書 *uri* の行番号 *lineno* またはその近くの指定された SQL スキーマ名 *schema-name* は、XML スキーマのこの XML スキーマ文書内または別の XML スキーマ文書内の *db2-xdb:defaultSQLSchema* アノテーションのもう 1 つの値と競合します。XML スキーマ文書は、*uri* をカタログ・ビュー SYSCAT.XSROBJECTCOMPONENTS の SCHEMALOCATION 列と突き合わせることで判別できます。

XML スキーマを分解に使用できません。

ユーザーの処置: *db2-xdb:defaultSQLSchema* のすべての

SQL16251N

指定が一貫性のあるものとなるようにアノテーションを付けられた XML スキーマを訂正してください。

sqlcode: -16250

sqlstate: 225DE

SQL16251N XML スキーマ文書 *uri* の行 *lineno* またはその近くの、表またはニックネーム *table-name* について定義された **db2-xdb:table** アノテーションが重複しています。

説明: アノテーション付き XML スキーマに、表またはニックネーム *table-name* の **db2-xdb:table** アノテーションが複数あります。XML スキーマ文書 *uri* の行 *lineno* またはその近くの行で、この表またはニックネームの 2 つ目の **db2-xdb:table** アノテーションが見つかりました。XML スキーマ文書は、*uri* をカタログ・ビュー **SYSCAT.XSROBJECTCOMPONENTS** の **SCHEMALOCATION** 列と突き合わせることで判別できます。

XML スキーマを分解に使用できません。

ユーザーの処置: XML スキーマの XML スキーマ文書から表またはニックネーム *table-name* の重複 **db2-xdb:table** アノテーションを除去することによって、アノテーション付き XML スキーマを訂正してください。

sqlcode: -16251

sqlstate: 225DE

SQL16252N XML スキーマ文書 *uri* の行 *lineno* またはその近くで指定されている **db2-xdb:rowSet** 名 *rowset-name* が、既に別の表またはニックネームに関連付けられています。

説明: アノテーション付き XML スキーマ内の行セットは、1 つの表またはニックネームだけに対応するものでなければなりません。行 *lineno* またはその近くにある行セット宣言は、行セット *rowsetname* と、それが含まれている **db2-xdb:table** アノテーションで指定された表またはニックネームとの関連を宣言しています。指定された行セットは、既に別の **db2-xdb:table** アノテーションで異なる表またはニックネームに関連付けられています。XML スキーマ文書は、*uri* をカタログ・ビュー **SYSCAT.XSROBJECTCOMPONENTS** の **SCHEMALOCATION** 列と突き合わせることで判別できます。

XML スキーマを分解に使用できません。

ユーザーの処置: XML スキーマの複数のアノテーショ

ン付き XML スキーマ文書に渡って、各行セット名が 1 つの表またはニックネームのみと固有に関連付けられるよう、アノテーション付き XML スキーマを訂正してください。

sqlcode: -16252

sqlstate: 225DE

SQL16253N XML スキーマ文書 *uri* の行 *lineno* またはその近くにある **db2-xdb:condition** アノテーション *condition* が長すぎます。

説明: **db2-xdb:condition** に関連付けられた、*condition* で始まるストリングの長さが、許可される最大値を超えています。**db2-xdb:condition** は、XML スキーマ文書 *uri* の行番号 *lineno* またはその近くで見つかりました。XML スキーマ文書は、*uri* をカタログ・ビュー **SYSCAT.XSROBJECTCOMPONENTS** の **SCHEMALOCATION** 列と突き合わせることで判別できます。

XML スキーマを分解に使用できません。

ユーザーの処置: XML スキーマ文書内の **db2-xdb:condition** の条件ストリングのサイズを小さくしてください。アノテーション付き XML スキーマの資料で、**db2-xdb:condition** アノテーションで指定したストリングの制限を調べてください。

sqlcode: -16253

sqlstate: 225DE

SQL16254N XML スキーマ文書 *uri* の行 *lineno* またはその近くにある **db2-xdb:locationPath** *locationpath* が、理由コード *reason-code* で無効です。

説明: アノテーション付きスキーマで **db2-xdb:locationPath** に指定された値が無効です。理由コードとして可能性のある値は、以下のとおりです。

1. 要素または属性の中に、URI にマップされない名前空間接頭部を持つものがあります。ロケーション・パスで使用されるすべての名前空間接頭部は、このロケーション・パスを指定するアノテーションが含まれている XML スキーマ文書の中で、名前空間に関連付けられていなければなりません。
2. ロケーション・パスの構文が無効です。
3. 指定されたパスは、ルート・ノードから、要素または属性が現れるインスタンス文書内ロケーションへの、可能などのパスにも一致しません。
4. *locationPath* にある要素または属性名が、XML スキーマにある要素または属性名のいずれとも対応していません。

5. ロケーション・パスにあるロケーション・ステップの数が許可される最大値を超えています。

XML スキーマ文書は、*uri* をカタログ・ビュー SYSCAT.XSROBJECTCOMPONENTS の SCHEMALOCATION 列と突き合わせることによって判別できます。

XML スキーマを分解に使用できません。

ユーザーの処置: XML スキーマ内のアノテーションを変更してください。 *reason-code* に基づく可能なアクションは、以下のとおりです。

1. db2-xdb:locationPath 内の名前空間接頭部が正しいことを確認するか、または欠落している名前空間の宣言を追加してください。
2. db2-xdb:locationPath の値の構文がロケーション・パスを表す有効な構文であることを確認してください。
3. db2-xdb:locationPath の値が、ルート・ノードからロケーション・パスの末尾の要素または属性までの可能なパスに対応していることを確認してください。
4. locationPath にあるすべてのエレメントおよび属性名が、XML スキーマにあるエレメントおよび属性名と対応していることを確認してください。
5. アノテーション付き XML スキーマの資料で、db2-xdb:locationPath の制限を調べて、ロケーション・パスのロケーション・ステップの数を制限内に減らしてください。

sqlcode: -16254

sqlstate: 225DE

SQL16255N XML スキーマ文書 *uri* の行 *lineno* またはその近くで使用されている db2-xdb:rowSet 値 *rowset-name* は、db2-xdb:table アノテーションが使用する同じ名前と競合します。

説明: このアノテーション付き XML スキーマには、*rowset-name* という名前の表またはニックネームを宣言する db2-xdb:table アノテーションが含まれていますが、このアノテーション付き XML スキーマには *rowset-name* をいずれかの表またはニックネームに関連付けるための db2-xdb:rowSet アノテーション宣言がありません。ある行セットがどの db2-xdb:table アノテーションによっても宣言されていない場合、その行セットは、db2-xdb:defaultSQLSchema の値で修飾された同じ名前の表またはニックネームに暗黙的に関連付けられます。アノテーション付き XML スキーマは、*rowset-name* という同じ名前を持つ行セットと表または

ニックネームとの間の暗黙の関連付けを基にした db2-xdb:rowSet アノテーションを使用することと、*rowset-name* という名前の表またはニックネームを db2-xdb:table アノテーションを使って宣言することとは、同時には実行できません。XML スキーマ文書は、*uri* をカタログ・ビュー SYSCAT.XSROBJECTCOMPONENTS の SCHEMALOCATION 列と突き合わせるによって判別できます。

XML スキーマを分解に使用できません。

ユーザーの処置: *rowset-name* という名前を使って db2-xdb:table 要素に db2-xdb:rowSet 子要素を追加することにより、アノテーション付き XML スキーマを訂正してください。これで行セットが表またはニックネームに明示的に関連付けられます。

sqlcode: -16255

sqlstate: 225DE

SQL16256N XML スキーマにグローバル

complexType が欠落していますが、これは XML スキーマを分解に使用できるようにする上で必須です。

説明: XML スキーマに、インスタンス文書の潜在的なルート要素となる complexType のグローバル要素がありません。XML スキーマを分解に使用できるようにするためには、complexType のグローバル要素が少なくとも 1 つ含まれていなければなりません

XML スキーマを分解に使用できません。

ユーザーの処置: XML スキーマを分解に使用できるようにする前に、complexType のグローバル要素が少なくとも 1 つ含まれていることを確認してください。

sqlcode: -16256

sqlstate: 225DE

SQL16257N XML スキーマ文書 *uri* の行 *lineno* またはその近くにあるフィーチャー

***feature-number* が、分解に関してサポートされていません。エラーの追加情報には、*error-details* が含まれます。**

説明: 以下のサポートされないフィーチャー番号の 1 つによって示されるように、サポートされないフィーチャーが検出されました。

1. 分解によってサポートされないタイプの列へのマッピング。アノテーション付き XML スキーマの資料で、許可されるターゲット列のタイプを調べてください。

- 条件または式を含む選択モデル・グループ内のエレメントのマッピング。
- DB2 for LUW ではないデータ・ソースにある表を識別するニックネームへのエレメントまたは属性のマッピング。アノテーション付き XML スキーマで参照されたニックネームは、DB2 for LUW データ・ソースにある表を識別する必要があります。
- アノテーション付き XML スキーマには、コード・ページがデータベースのコード・ページとは異なる表への参照が含まれます。ターゲット表のいずれかがデータベースのコード・ページとは異なるコード・ページに存在する構成では、分解はサポートされません。

XML スキーマ内にサポートされていないフィーチャーがあると、分解に使用できなくなることがあります。また、分解名前空間内にサポートされていないフィーチャーのアノテーションがあると、分解に使用できなくなることがあります。エラーに関係する入手可能な追加情報は、*error-details* で提供されます。

ユーザーの処置: 必要に応じて、XML スキーマからフィーチャーを除去するか、またはフィーチャーに関連付けられた分解のアノテーションを除去してください。分解の資料で、指定した XML スキーマ・フィーチャーの使用に関する制限を調べてください。

sqlcode: -16257

sqlstate: 225DE

SQL16258N XML スキーマに、分解でサポートされていないフィーチャーである再帰的要素が含まれています。識別された再帰的要素は、タイプ `typenamespace:typename` の `"elementnamespace:elementname"` です。

説明: 再帰的要素を含む XML スキーマは、分解ではサポートされていません。タイプ

`typenamespace:typename` の `elementnamespace:elementname` と識別された再帰的要素が、少なくとも 1 つ見つかりました。

XML スキーマを分解に使用できません。

ユーザーの処置: XML スキーマから再帰の使用を除去してください。

sqlcode: -16258

sqlstate: 225DE

SQL16259N XML スキーマ文書 `uri1` の行 `lineno1` の近くと XML スキーマ文書 `uri2` の行 `lineno2` の近くで、無効な多対多マッピングが検出されました。

説明: 識別された 2 つのアノテーションは、同じ行セットにマップされる要素同士の、無効な多対多の関係を指定しています。2 つの要素宣言の最下位の共通祖先が `sequence` モデル・グループの場合、要素宣言からそのモデル・グループに至るパスのうちどちらか一方だけ、そのパス内の 1 つ以上の要素宣言または `modelgroup` に `maxOccurs>1` を指定できます。XML スキーマ文書は、`uri1` と `uri2` をカタログ・ビュー `SYSCAT.XSROBJECTCOMPONENTS` の `SCHEMALOCATION` 列と突き合わせることで判別できます。

XML スキーマを分解に使用できません。

ユーザーの処置: 多対多のマッピングがなくなるようにアノテーションを訂正してください。アノテーション付き XML スキーマの資料で、要素および属性のマッピングに関する規則を調べてください。

sqlcode: -16259

sqlstate: 225DE

SQL16260N XML スキーマのアノテーションに、どの表またはニックネームのどの列へのマッピングも含まれていません。

説明: XML スキーマに、XML 要素または属性をいずれかの表またはニックネームのいずれかの列にマップするアノテーションが含まれていません。

分解を実行するための情報がないため、XML スキーマを分解に使用できません。

ユーザーの処置: 少なくとも 1 つの XML 要素または属性が表またはニックネームの列にマップされるように XML スキーマにアノテーションを追加してください。

sqlcode: -16260

sqlstate: 225DE

SQL16261N ワイルドカードに指定された名前空間制約の数が、`max-namespaces` 個の制限を超えています。

説明: 名前空間属性の `<xsd:any>` または `<xsd:anyAttribute>` に明示的にリストされた名前空間の数が、名前空間数制限の `max-namespaces` 個より大きくなっています。リストに特殊値 `##targetNamespace` または `##local` が含まれる場合、これらも制限数に含められます。

XML スキーマを分解に使用できません。

ユーザーの処置: ワイルドカード定義で指定されている名前空間制約の数を、*max-namespaces* 名前空間を超えないように少なくしてください。

sqlcode: -16261

sqlstate: 225DE

SQL16262N アノテーション付き XML スキーマの行セット *rowsetname* にはマップされる列がありません。

説明: 行セット *rowsetname* が関係する一連のアノテーションには、列へのマッピングが何も含まれていません。行セットを分解のターゲットにするためには、少なくとも 1 つの列が何らかの XML 要素または属性にマップされなければなりません。

ユーザーの処置: 指定した行セットの列を XML 要素または属性にマップするアノテーションを追加してください。行セットを分解のターゲットにしない場合は、アノテーション付き XML スキーマから行セットの参照を除去してください。

sqlcode: -16262

sqlstate: 225DE

SQL16263N XML スキーマ文書 *uri* の行 *lineno* またはその近くにある *rowSet* 名 *string* などのマッピングでも使用されていません。

説明: XML スキーマ文書 *uri* の行 *lineno* にある *rowSet* 名 *string* は、XML スキーマのうち少なくとも 1 つのマッピングで指定されている必要があります。

ユーザーの処置: *rowSet* 名 *string* が、XML スキーマのうち少なくとも 1 つの要素または属性のマッピングで指定されていることを確認してください。

sqlcode: -16263

sqlstate: 225DE

SQL16264N XML スキーマ文書 *uri* の行 *lineno* またはその近くにある *rowSet* 名 *string* が、*annotation-name* の下で複数回使用できません。

説明: *rowSet* 名を *annotation-name* の下で使用できるのは一回だけです。これは、1 つの演算順序階層の中でのみ使用できます。

ユーザーの処置: *annotation-name* の下の要素 *db2-xdb:order* の複数インスタンスの下で同じ *rowSet* 名を使用することが設計の一部になっているかどうか確認します。

設計によるものである場合、必要とされる挿入順序と結果の順序との間の整合性が保たれるよう、影響を受ける *db2-xdb:order* 要素を結合してください。

sqlcode: -16264

sqlstate: 225DE

SQL16265N 分解が有効になっていないまたは作動不能の XML スキーマ *xsobject-name* を使用して XML 文書を分解することはできません。

説明: *xsobject-name* で識別される XML スキーマは、分解を実行できる正しい状態ではありません。XML スキーマが以下のいずれかの状態である可能性があります。

- 分解が有効になっていない (有効にできない可能性があります)。
- 分解に対して無効になっている。
- アノテーションで指定された 1 つ以上の表の定義が変更されたために、分解に対して作動不能になっている。

分解の実行は、分解に使用できる XML スキーマを使った場合にのみ可能です。

XML 分解は開始されませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書の分解に使用する XML スキーマを、あらかじめ分解に使用できるようにしてください。XML スキーマの分解状況は、*xsobject-name* で識別される XML スキーマの SYSCAT.XSROBJECTS の DECOMPOSITION 列を選択することによって確認できます。

sqlcode: -16265

sqlstate: 225D1

SQL16266N 文書 *docid* の分解中に、データを挿入しようとして SQL エラーが発生しました。戻されたエラー情報には、**SQLCODE** *sqlcode*、**SQLSTATE** *sqlstate*、およびメッセージ・トークン *token-list* が含まれません。

説明: 文書 ID が *docid* の XML 文書の分解中に、SQL エラーが発生しました。エラーは、XML 文書内のいくつかのデータに基づいて SQL 挿入操作をしようとしているときに発生しました。考えられる原因は以下のとおりです。データの形式がターゲット列のデータ・タイプと非互換。データの長さが列サイズを超えている。非 NULL と定義されている列に NULL 値を指定した。*sqlcode*、*sqlstate*、メッセージ・トークン・リスト (各トークンは縦線によって区切られています) が提供されま

SQL16267N

す。メッセージ・トークンは切り捨てられる可能性があります。エラーの詳細な説明として、*sqlcode* に対応するメッセージを参照してください。

XML 文書 *docid* は分解されませんでした。

ユーザーの処置: SQLCODE に関連付けられたメッセージを確認してください。メッセージで提案されているアクションに従ってください。エラー状態の詳細情報については、db2diag ログ・ファイルを参照してください。

sqlcode: -16266

sqlstate: 225D2

SQL16267N 文書 *docid* の行 *lineno* またはその近くにある XML 値 *string* は、宣言されたその XML スキーマ・タイプ *type-name* では無効であるか、またはその XML スキーマ・タイプに関してサポートされる値の範囲外にあります。

説明: 指定された XML 値 *string* は、データ・タイプ *type-name* の値としてサポートされていません。このエラーは、以下のいずれかの理由で生じることがあります。

- その XML 値は、XML スキーマ・タイプ *type-name* の値空間に含まれません。この場合、分解に使用される XML スキーマによれば、この XML 文書は無効です。
- その XML 値は、XML スキーマ・タイプ *type-name* に関して DB2 でサポートされる値の範囲外です。この場合、その XML 値を現在マップされている列に挿入できません。ただし、値が *character* タイプの列にマップされている場合は、XML 値を字句で表記したものを挿入できます。

XML 文書 *docid* は分解されませんでした。

ユーザーの処置: XML スキーマに関する W3C 勧告を調べて、XML スキーマ・タイプの値空間を判別してください。XML 文書が、分解に使用するアノテーション付き XML スキーマと一貫性のあることを確認してください。値がそのタイプの値空間であると判別できる場合、XQuery リファレンスの記述に従って、DB2 での値の範囲制限を確認してください。XML 値がそのデータ・タイプに関して範囲外である場合、その値を含むエレメントまたは属性を文字列にマップしてください。XML スキーマの訂正が必要な場合は、XML スキーマを再度 XML スキーマ・リポジトリ (XSR) に登録して、分解に使用できるようにする必要があります。その後で、分解を再実行してください。

sqlcode: -16267

sqlstate: 225D3

SQL16268N 文書 *docid* の *lineno* またはその近くで見つかった特殊数値 INF、-INF、または NaN は、列に割り当てることができません。

説明: 分解処理中に、ID が *docid* の文書の行番号 *lineno* またはその近くで、特殊数値 INF、-INF、NaN のいずれかが見つかりました。XML スキーマ浮動小数点タイプのこれらの特殊値は、数値列に割り当てるには無効な値です。

XML 文書 *docid* は分解されませんでした。

ユーザーの処置: 考えられる解決方法は、以下のとおりです。

- インスタンス文書内にある XML スキーマ浮動小数点特殊値のあらゆるオカレンスを、有効な DB2 浮動小数点値に置き換える。
- XML 浮動小数点を、倍精度列や浮動小数点列ではなく、文字列にマップする。
- 式注釈を使って呼び出し可能な特殊用途のユーザー定義関数を作成し、これらの値を、数値列に割り当て可能な数値に変換する。

sqlcode: -16268

sqlstate: 225D4

SQL16269N 文書 "*docid*" の行 "*lineno*" またはその近くにある要素 "*namespace:elementname*" は認識されていません。

説明: 文書 *docid* の行 *lineno* またはその近くにある要素 *namespace:elementname* は、分解に使用されているアノテーション付き XML スキーマでは認識されていません。可能性のある理由は、以下のとおりです。

- 登録済みのアノテーション付き XML スキーマに要素が定義されていなかった。
- インスタンス文書では、XML スキーマでグループの先頭が現れる位置に、置換グループのメンバーが現れている。
- XML スキーマに基づいてその位置に予期される要素が、インスタンス文書では互換タイプの別の要素に置き換わっている。

XML 文書 *docid* は分解されませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書 *docid* が、分解に使用するアノテーション付き XML スキーマと一貫性のあることを確認してください。確認方法の 1 つは、妥当性検査をオンにして XML 分解を再実行することによって、その文書が妥当であることを確認することです。また、置

換グループや `xsi:type` など、分解ではサポートされないフィーチャーを使用していないか確認する必要があります。

アノテーション付き XML スキーマの訂正が必要な場合は、XML スキーマを再度 XML スキーマ・リポジトリ (XSR) に登録して、分解に使用できるようにする必要があります。

sqlcode: -16269

sqlstate: 225D5

SQL16270N 文書 "`docid`" の行 "`lineno`" またはその近くにある要素 "`namespace:elementname`" は、それが見つかったコンテキストでは無効です。

説明: 文書 `docid` の行 `lineno` またはその近くにある要素 `namespace:elementname` の、XML 文書内のルート要素から見たロケーションは、分解に使用されているアノテーション付き XML スキーマで指定されたルートから見た位置に対応していません。または、要素はアノテーション付き XML スキーマで指定されたカーディナリティーに違反しているために、到達不能である可能性があります。

XML 文書 `docid` は分解されませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書 `docid` が、分解に使用するアノテーション付き XML スキーマと一貫性のあることを確認してください。確認方法の 1 つは、妥当性検査をオンにして XML 分解を再実行することによって、その文書が妥当であることを確認することです。

アノテーション付き XML スキーマの訂正が必要な場合は、XML スキーマを再度 XML スキーマ・リポジトリ (XSR) に登録して、分解に使用できるようにする必要があります。

sqlcode: -16270

sqlstate: 225D5

SQL16271N 文書 "`docid`" の行 "`lineno`" またはその近くに、不明な属性 "`namespace:attributename`" があります。

説明: 文書で見つかった、指定された属性は、分解に使用しているアノテーション付き XML スキーマには見付かりません。

XML 文書 `docid` は分解されませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書が、分解に使用するアノテーション付き XML スキーマと一貫性のあることを確認してください。確認方法の 1 つは、妥当性検査をオンにして XML 分解を再実行することによって、その文書が妥当であることを確認することです。

アノテーション付き XML スキーマの訂正が必要な場合は、XML スキーマを再度 XML スキーマ・リポジトリ (XSR) に登録して、分解に使用できるようにする必要があります。

sqlcode: -16271

sqlstate: 225D5

SQL16272N アノテーション付き XML スキーマを、バージョン `xdbversion` から現行バージョンにマイグレーションする必要があります。

説明: アノテーション付き XML スキーマのメタデータは、現行バージョンの DB2 では無効なバージョン `xdbversion` から生成されたものです。このアノテーション付き XML スキーマを使用する XML 文書の分解は、このアノテーション付き XML スキーマを現行バージョンにマイグレーションするまで実行できません。

XML 文書の分解は開始されませんでした。

ユーザーの処置: `db2xdbmig` を実行してメタデータを現行バージョンにマイグレーションした後に、分解操作を再試行してください。

sqlcode: -16272

sqlstate: 225D6

SQL16273N XML 文書 `docid` の XML スキーマ ID `xml-schema-id` に、ルート要素 `namespace:element-name` またはその子孫に関する有効なマッピングが含まれていません。

説明: このエラー状態の理由として、以下の可能性があります。

1. ルート要素 `namespace:element-name` に `rowSet` および列へのマッピングがありますが、このタイプは `simpleType` です。この場合、ルート要素だけを含む文書の分解は単純であり、アノテーション付き XML スキーマ分解を使用する必要はありません。
2. ルート要素 `namespace:element-name` とその子孫の一部のマッピングで正しくない `locationPath` が指定されました。
3. ルート要素 `namespace:element-name` とその子孫の、要素および属性の宣言にアノテーションがありません。

XML 文書 `docid` は分解されませんでした。

ユーザーの処置: 登録済み XML スキーマ内のアノテーションを調べて、このメッセージの「説明」に示しているエラーがないかどうか確認してください。さらに、

SQL16274N

xml-schema-id に対応する行に関してビュー SYSCAT.XDBMAPSHREDTREES の列 MAPPINGDESCRIPTION のデータに反映される、マップされた項目が意図したとおりのものであるかどうかも確認してください。間違っているアノテーションをすべて訂正し、XML スキーマを再登録して、文書の分解を再試行してください。

sqlcode: -16273

sqlstate: 225D7

SQL16274N 行セット *rowsetname* のデータの挿入を準備中に、SQL エラーが発生しました。戻されたエラー情報には、**SQLCODE** *sqlcode*、**SQLSTATE** *sqlstate*、およびメッセージ・トークン *token-list* が含まれません。

説明: アノテーション付き XML スキーマに基づき、指定された行セット *rowsetname* に関連付けられた表またはニックネームに対して操作の実行を準備中に、SQL エラーが発生しました。考えられる原因は、以下のとおりです。

- 行セットに指定された *db2-xdb:expression* または *db2-xdb:condition* の構文が、有効な SQL 式または述部ではない。
- 式または述部で呼び出された SQL 関数またはユーザー定義関数の宣言済みパラメーターが、その関数に渡された引数のタイプと非互換である。

sqlcode、*sqlstate*、メッセージ・トークン・リスト (各トークンは縦線によって区切られています) が提供されます。メッセージ・トークンは切り捨てられる可能性があります。エラーの詳細な説明として、*sqlcode* に対応するメッセージを参照してください。

XML 文書の分解は開始されませんでした。

ユーザーの処置: **SQLCODE** に関連付けられたメッセージを確認してください。メッセージで提案されているアクションに従ってください。エラー状態の詳細情報については、*db2diag* ログ・ファイルを参照してください。

sqlcode: -16274

sqlstate: 225D2

SQL16275N 名前ストリング *string* は無効な **QName** です。それは *structure-type* の **QName** として意図されていました。

説明: **QName** のために XML 文書または XML スキーマを構文解析する際に、有効な **QName** ではない

string で始まるストリングが検出されました。これは無効文字で開始するか、または **QName** に対する無効文字が含まれていることがあります。

解析または妥当性検査が完了しませんでした。

ユーザーの処置: XML 文書 または XML スキーマ内の無効な **QName** を訂正してから、操作を再試行してください。

sqlcode: -16275

sqlstate: 2200M

SQL16276N アノテーション付き XML スキーマ内でマップされた表およびニックネームの数は、*maxtables* の上限を超えています。

説明: XML スキーマ全体で、*<db2-xdb:table>* および *db2-xdb:rowSet* (これは *rowSet* ではなく実際のデータベース表またはニックネームを示す) アノテーションで参照される別個の表またはニックネームの総数が、最大数 *maxtables* を超えています。

XML スキーマを分解に使用できません。

ユーザーの処置: これらのアノテーションで参照される別個の表およびニックネームの数を減らして、*maxtables* を超えないようにしてください。

sqlcode: -16276

sqlstate: 225DE

SQL16277N グローバル・アノテーション *string* は、XML スキーマに複数回出現します。XML スキーマ文書 *uri* の行 *lineno* またはその近くに、このアノテーションの別のオカレンスがあります。

説明: アノテーション付き XML スキーマには、最大で 1 つのアノテーション *string* のオカレンスしか含めることができません。

ユーザーの処置: 複数の *string* アノテーションの内容を単一のアノテーションと結合し、その結果得られるアノテーションに重複した情報が含まれていないかどうかを確認してください。

sqlcode: -16277

sqlstate: 225DE

SQL16278W 1 つ以上の文書を分解することができませんでした。正常に分解された文書の数は *number-successful* です。分解が試行された文書の数は *number-attempted* です。

説明: エラー状態のため、1 つ以上の文書が分解されま

せんでした。それぞれの文書の状況について、詳しくは result_report 出力パラメーターを参照してください。

ユーザーの処置: 正常に分解されなかった XML 文書を分解するには、以下を行います。

1. result_report 出力パラメーター内のエラー・メッセージ情報を確認します。必要に応じて、db2diag ログ・ファイルで各エラーの詳細情報を調べます。db2diag ログ・ファイル内の該当する項目は、文書 ID によって識別されます。
2. result_report パラメーターに記述されているエラーを訂正します。
3. 次のようにして、分解プロシーチャーをやり直します。
 - commit_count に正の値を指定した場合は、正常に分解されなかった文書だけを対象としてプロシーチャーを再サブミットします。
 - commit_count に値 0 を指定した場合は、以下のオプションから選ぶことができます:
 - ロールバックを実行した後、すべての文書を対象としてプロシーチャーを呼び出します。
 - 変更をコミットした後、正常に分解されなかった文書だけを対象としてプロシーチャーを呼び出します。
4. EVMON_FORMAT_UE_TO_TABLES プロシーチャーによって警告が戻された場合、db2diag ログ・ファイルでエラーの詳細について確認してください。RESULTREPORT は sqllib/db2dump/evmon ディレクトリー内の "db2EvmonErrReport_applid.xml" というファイルにダンプ出力されています。RESULTREPORT に記述されている問題を訂正して、文書の分解を再試行してください。

sqlcode: +16278

sqlstate: 01H53

SQL16280N XSLT プロセッサーは以下のエラーを戻しました。error-message。

説明: XSLT プロセッサーは、XML 文書を変換できなかったため、エラー・テキスト error-message を戻しました。XML 文書、関連したスタイルシート文書、またはパラメーター文書に問題がある可能性があります。

ステートメントは処理できません。

error-message のエラー・テキストが切り捨てられたように見えており、メッセージの残りを参照する必要がある場合、XSLTRANSFORM 関数を再発行する前に、db2 update dbm cfg using diaglevel 4 を使用してデータベース・マネージャ構成パラメーター diaglevel を 4 に設定してください。次に、db2diag ログ・ファイルの中に

メッセージ DIA11500E が含まれているかどうかを調べて、完全なエラー・メッセージを検索してください。

ユーザーの処置: error-message のエラー・テキストで示された入力文書を調べます。問題を訂正して、XSLT プロセッサーを呼び出したステートメントを再サブミットしてください。

sqlcode: -16280

sqlstate: 225X0

第 20 章 SQL20000 - SQL20499

SQL20005N 内部 ID 制限 *limit* がオブジェクト・タイプ *object-type* で超過しました。

説明: 内部 ID は、タイプ *object-type* のオブジェクトをユニークに識別します。このタイプのオブジェクトの内部 ID の制限を超えました。これは、CREATE DISTINCT TYPE、CREATE TYPE、DECLARE TYPE、CREATE FUNCTION、CREATE PROCEDURE、CREATE ROLE、CREATE SEQUENCE、または CREATE VARIABLE ステートメントか、ID 列を定義する ALTER TABLE または CREATE TABLE ステートメントで発生します。表の索引が最大数を越えた場合、CREATE INDEX で発生する可能性があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 現在使用されていないタイプ *object-type* のオブジェクトをドロップしてください。*object-type* が DECLARE TYPE である場合には、使用されていないすべてのタイプについて、現在のコンパウンド SQL (コンパイル済み) ステートメントの中のタイプ宣言を除去します。

sqlcode: -20005

sqlstate: 54035

SQL20010N 構造化タイプのインスタンスが NULL の場合、変形メソッド *method-ID* は許可されていません。

説明: メソッド *method-ID* は、構造化タイプが NULL のインスタンスで指定されている変形メソッドです。変形メソッドを NULL インスタンスで処理することはできません。メソッド名を使用できない場合もあります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 変形メソッドで使用される NULL インスタンスを判別してください。コンストラクター関数を使用して、インスタンスで変形メソッドを使用する前に構造化タイプの非 NULL インスタンスを作成してください。

method-ID に関連しているメソッド名を判別するには、以下の照会を使用してください。

```
SELECT FUNCHEMA, FUNCNAME,  
       SPECIFICNAME  
FROM SYSCAT.FUNCTIONS  
WHERE  
       FUNCID = INTEGER(  
           method-ID  
       )
```

sqlcode: -20010

sqlstate: 2202D

SQL20011N トランスフォーム・グループ *group-name* は、すでにデータ・タイプ *type-name* のサブタイプまたはスーパータイプとして定義されています。

説明: トランスフォーム・グループ *group-name* は、すでに *type-name* と同じ階層のタイプとして存在しています。*type-name* のスーパータイプまたはサブタイプとして定義されていると思われます。構造化タイプの中で、トランスフォーム・グループ名を使用できるのは 1 度だけです。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: トランスフォーム・グループの名前を変更してください。

sqlcode: -20011

sqlstate: 42739

SQL20012N タイプ *type-name* には、ドロップする関連トランスフォーム・グループがありません。

説明: *type-name* にトランスフォームに定義されていません。ドロップする対象はありません。

ステートメントは、トランスフォーム・グループをドロップしませんでした。

ユーザーの処置: タイプ名 (必須の修飾子を含む) が SQL ステートメントに正しく指定されており、そのタイプが存在することを確認してください。

sqlcode: -20012

sqlstate: 42740

SQL20013N オブジェクト *super-object-name* は、オブジェクト *sub-object-name* のスーパータイプ、スーパー表、あるいはスーパービューとして無効です。

説明: エラーになったステートメントがタイプを作成している場合、*super-object-name* はユーザー定義の構造化タイプではないので、*sub-object-name* のスーパータイプではないタイプです。

エラーになったステートメントが表を作成している場

合、*super-object-name* は、表 *sub-object-name* のスーパー表ではない表です。なぜなら、型付き表として定義されていないか、*super-object-name* が表 *sub-object-name* の定義に使用されているタイプの直接のスーパータイプではないからです。

エラーになったステートメントがビューを作成している場合、*super-object-name* は、ビュー *sub-object-name* のスーパービューではないビューです。これは、型付きビューとして定義されていないか、ビュー *super-object-name* のタイプがビュー *sub-object-name* の定義に使用されているタイプの直接のスーパータイプではないためです。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: CREATE ステートメントの UNDER 節に、有効なタイプ、表、あるいはビューを指定してください。

sqlcode: -20013

sqlstate: 428DB

SQL20014N タイプ *type-name* のトランスフォーム・グループ *group-name* *transform-type* トランスフォーム関数は無効です。理由コード = *reason-code*。

説明: トランスフォーム・グループ *group-name* の *transform-type* トランスフォーム関数は無効です。原因は、以下の *reason-code* で示されています。

- 1 FROM SQL トランスフォーム関数に許可されているパラメーターは 1 つだけです。
- 2 FROM SQL トランスフォーム関数のパラメーターは、タイプ *type-name* でなければなりません。
- 3 TO SQL トランスフォーム関数の RETURNS データ・タイプは、タイプ *type-name* でなければなりません。
- 4 スカラーを返す FROM SQL トランスフォーム関数の RETURNS タイプは、DECIMAL 以外の組み込みデータ・タイプでなければなりません。
- 5 スカラーを返す FROM SQL トランスフォーム関数の RETURNS タイプはすべて、DECIMAL 以外の組み込みデータ・タイプでなければなりません。
- 6 TO SQL トランスフォーム関数には、パラメーターが少なくとも 1 つ必要です。
- 7 TO SQL トランスフォーム関数のパラメータ

ー・タイプはすべて、DECIMAL 以外の組み込みデータ・タイプでなければなりません。

- 8 TO SQL トランスフォーム関数はスカラー関数でなければなりません。
- 9 FROM SQL トランスフォーム関数は LANGUAGE SQL で作成されていなければならないか、あるいは LANGUAGE SQL で作成された別の FROM SQL トランスフォーム関数を使用しなければなりません。
- 10 TO SQL トランスフォーム関数は LANGUAGE SQL で作成されていなければならないか、あるいは LANGUAGE SQL で作成された別の TO SQL トランスフォーム関数を使用しなければなりません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置:

- 1 パラメーターが 1 つしかないシグニチャーで FROM SQL トランスフォーム関数を指定してください。
- 2 パラメーターのタイプが *type-name* と同じである FROM SQL トランスフォーム関数を指定してください。
- 3 RETURNS タイプが *type-name* と同じである TO SQL トランスフォーム関数を指定してください。
- 4 DECIMAL 以外の組み込みデータ・タイプである RETURNS タイプで FROM SQL トランスフォーム関数を指定してください。
- 5 行の要素がそれぞれ、DECIMAL 以外の組み込みデータ・タイプである RETURNS タイプを持つ、FROM SQL トランスフォーム関数を指定してください。
- 6 少なくとも 1 つのパラメーターを持つシグニチャーで TO SQL トランスフォーム関数を指定してください。
- 7 パラメーター・タイプがすべて、DECIMAL 以外の組み込みデータ・タイプである、TO SQL トランスフォーム関数を指定してください。
- 8 スカラー関数である TO SQL トランスフォーム関数を指定してください。
- 9 LANGUAGE SQL で作成された、または LANGUAGE SQL で作成された別の FROM SQL トランスフォーム関数を使用する FROM SQL トランスフォーム関数を指定してください。
- 10 LANGUAGE SQL で作成された、または

LANGUAGE SQL で作成された TO SQL トランスフォーム関数を使用する TO SQL トランスフォーム関数を指定してください。

sqlcode: -20014

sqlstate: 428DC

SQL20015N トランスフォーム・グループ *group-name* は、データ・タイプ *type-name* に定義されていません。

説明: 示されているトランスフォーム・グループ *group-name* は、データ・タイプ *type-name* に定義されていません。データ・タイプ *type-name* がステートメントに明示的に指定されているか、またはそのデータ・タイプのトランスフォーム・グループが存在していることを必要とする構造化タイプの使用に暗黙的に基づいていると思われる。

group-name が空である場合、TRANSFORM GROUP BIND オプションか CURRENT DEFAULT TRANSFORM GROUP 特殊レジスターのいずれかが指定されなかったため、*type-name* のトランスフォームがありませんでした。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: CREATE TRANSFORM ステートメントを使用して、データ・タイプ *type-name* のトランスフォーム・グループ *transform-type* を定義してください。トランスフォームをドロップしているときにエラーが発生した場合、トランスフォーム・グループがデータ・タイプに存在していないため、アクションは不要です。

group-name が空である場合、TRANSFORM GROUP BIND オプションを CURRENT DEFAULT TRANSFORM GROUP 特殊レジスターに指定してください。

sqlcode: -20015

sqlstate: 42741

SQL20016N タイプまたは列 *type-or-column-name* と関連したインライン長さの値が小さすぎます。

説明: 構造化タイプ *type-or-column-name* の定義に対して、constructor 関数 (32 + 10 * number_of_attributes) によって戻されるサイズより小さく、また 292 に満たない INLINE LENGTH 値が指定されています。列 *type-or-column-name* の変更に対して、指定された INLINE LENGTH が現在のインライン長さよりも小さくなっています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 十分な長さの INLINE LENGTH 値を指定してください。構造化タイプの場合、この長さは少なくともそのタイプの constructor 関数によって戻されるサイズか、少なくとも 292 になります。列の場合、この長さは現在のインライン長さよりも大きくなります。タイプ (またはこのタイプのスーパータイプ) を変更して属性を追加している時点でエラーが発生した場合、その属性を追加することができないか、あるいはタイプをドロップして、より大きな INLINE LENGTH 値で再作成しなければなりません。

sqlcode: -20016

sqlstate: 429B2

SQL20017N このサブタイプの追加はタイプ階層のレベルの最大数を超えています。

説明: タイプ階層のレベル最大数は 99 です。このタイプを追加すると最大を超えてしまいます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: このタイプ階層へこれ以上サブタイプを追加しないでください。

sqlcode: -20017

sqlstate: 54045

SQL20018N 行関数 *function-name* は 1 行までしか返すことができません。

説明: この関数は単一行を返すよう定義されるものです。関数を処理した結果が複数行あります。

ユーザーの処置: 1 行までしか返せないような方法で関数が定義されていることを確認してください。

sqlcode: -20018

sqlstate: 21505

SQL20019N 関数本体から返される結果タイプは RETURNS 節で定義されたデータ・タイプに割り当てられません。

説明: 関数本体から返される各列のデータ・タイプは、RETURNS 節に定義されている対応する列に割り当てる必要があります。

関数がスカラー関数の場合は、1 列しかありません。

ユーザーの処置: 対応する列のデータ・タイプが割り当て可能になるよう、RETURNS タイプまたは関数本体から返されるタイプを変更してください。

sqlcode: -20019

sqlstate: 42866

SQL20020N 操作 *operation-type* が型付き表で無効です。

説明: *operation-type* で識別された操作を、型付き表で実行することはできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ALTER ステートメントから ADD COLUMN 節または SET DATATYPE 節を除去してください。属性として新規列の入った構造化タイプの表を再定義してのみ、列を追加することができます。つまり、列のデータ・タイプは異なるデータ・タイプの列の入ったタイプの表を再定義してのみ変更できます。

sqlcode: -20020

sqlstate: 428DH

SQL20021N 継承された列あるいは属性 *name* の変更あるいはドロップはできません。

説明: *name* の値は、ステートメント・コンテキストによって、列名または属性名を識別します。それは、表、ビューまたはタイプ階層の上記の型付き表、型付きビュー、または構造化タイプから継承されています。

- CREATE TABLE ステートメントでは、WITH OPTIONS 節を CREATE TABLE ステートメントの列 *name* に指定することはできません。表階層のスーパー表から継承しているためです。
- ALTER TABLE ステートメントでは、SET SCOPE 節または COMPRESS 節を列 *name* に指定することはできません。これは表階層のスーパー表から継承しているためです。
- CREATE VIEW ステートメントでは、WITH OPTIONS 節を CREATE VIEW ステートメントの列 *name* に指定することはできません。ビュー階層のスーパービューから継承しているためです。
- ALTER TYPE ステートメントでは、DROP ATTRIBUTE 節を属性 *name* に指定することはできません。タイプ階層のスーパータイプから継承しているためです。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 列のオプションは、列が導入されている型付き表階層または型付きビュー階層の表またはビューにのみ、設定または変更することができます。属性は、属性が導入されているタイプ階層のデータ・タイプからのみ、ドロップすることができます。

sqlcode: -20021

sqlstate: 428DJ

SQL20022N 参照列 *column-name* の有効範囲はすでに定義されています。

説明: 参照列 *column-name* の有効範囲はすでに定義されているので追加できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ADD SCOPE 節を ALTER TABLE ステートメントから除去できません。

sqlcode: -20022

sqlstate: 428DK

SQL20023N 外部あるいはソース関数のパラメーター *parm-number* に定義済みの有効範囲があります。

説明: 参照タイプ・パラメーターは、外部またはソースのユーザー定義関数を使用するときには有効範囲を定義できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 有効範囲指定をパラメーターの定義から除去してください。

sqlcode: -20023

sqlstate: 428DL

SQL20024N 有効範囲表あるいはビュー *target-name* は、構造化タイプ *type-name* で定義されていません。

説明: 有効範囲表あるいはビュー *target-name* は、以下の理由からこの参照の有効範囲としての使用では無効です。

- 型付き表以外
- 型付きビュー以外
- REF タイプのターゲット・タイプとは異なる表あるいはビューのタイプ

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: REF タイプのターゲット・タイプと同じ型付き表あるいは型付きビューを使用して、参照の有効範囲を指定してください。

sqlcode: -20024

sqlstate: 428DM

SQL20025N SCOPE が外部関数の RETURNS 節で指定されていないか、またはソース関数の RETURNS 節で定義されているかのいずれかです。

説明: 2つの原因が考えられます。

- 参照タイプは、ユーザー定義の外部関数の結果として使用される場合は有効範囲を定義する必要があります。
- 参照タイプは、ユーザー定義のソース関数の結果として使用される場合は有効範囲を定義できません。関数はソース関数の有効範囲を使用します。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 外部関数を参照タイプと一緒に戻りタイプとして定義する場合は、SCOPE 節 が指定されていることを確認してください。参照を戻りタイプとして、SOURCED 関数を定義する場合には、SCOPE 節が指定されていないことを確認してください。

sqlcode: -20025

sqlstate: 428DN

SQL20026N タイプ *type-name* は構造化タイプではないか、またはインスタンス化が可能な構造化タイプではありません。

説明: ステートメントには、インスタンス化することができる構造化タイプが必要です。タイプ *type-name* は以下のいずれかです。

- 構造化タイプではない
- インスタンス化できないよう定義されている構造化タイプである

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 正しいタイプ名がステートメントに使用されていることを確認してください。

sqlcode: -20026

sqlstate: 428DP

SQL20027N 副表あるいはサブビュー *sub-object-name* は、タイプ *type-name* を指定した副表あるいはサブビュー *object-name* がすでに存在するために作成されませんでした。

説明: 型付き表階層あるいはビュー階層内では、特定のサブタイプの副表またはサブビューが 1 個だけ存在します。すでに定義されているタイプ *type-name* の表またはビューがあるので、表またはビュー *sub-table-name* を作成できませんでした。すでに存在している表またはビューは *object-name* です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 副表あるいはサブビューが正しいタイプで作成されており、なおかつ副表が正しいスーパー表の下で、あるいはサブビューが正しいスーパービューの

下で作成されていることを確認してください。

sqlcode: -20027

sqlstate: 42742

SQL20028N 表またはビュー *table-name* は、同じ階層にある他の表またはビューと異なるスキーマ名を持つことはできません。

説明: 型付き表階層にある表すべてが、同じスキーマ名を持つ必要があり、型付きビュー階層にあるビューすべてが同じスキーマ名を持つ必要があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 表またはビューのスキーマ名が正しいことを確認してください。階層名が指定されている場合は、そのスキーマ名がルート表またはルート・ビューと一致していることを確認してください。副表を作成する場合は、正しいスーパー表の下で作成されることを確認してください。サブビューを作成する場合は、正しいスーパービューの下で作成されることを確認してください。

sqlcode: -20028

sqlstate: 428DQ

SQL20029N *operation* は副表またはサブビューに適用されません。

説明: 操作 *operation* が、表階層またはビュー階層のルートでない表またはビューに適用されました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 操作で、表階層のルート表またはビュー階層のルート・ビューを指定してください。

sqlcode: -20029

sqlstate: 428DR

SQL20030N 型付き表、型付きビュー、または索引拡張子 *object-name* がタイプに從属している場合、構造化タイプ *type-name* を追加またはドロップすることはできません。

説明: 構造化タイプの型付き表または型付きビュー、あるいはそのサブタイプが存在する場合、構造化タイプの属性を追加またはドロップすることはできません。また直接的に、あるいは間接的に *type-name* を使用している表に列が存在する場合も、構造化タイプの属性を追加またはドロップできません。さらにタイプ *type-name*、またはそのサブタイプのいずれかが索引拡張子で使用されている場合も、構造化タイプの属性を追加またはドロップできません。表、ビュー、または索引拡張子 *object-name* が、構造化タイプ *type-name* に從属する

SQL20031N

表、ビュー、あるいは索引拡張子になっています。タイプ、またはその適切なサブタイプに從属する、その他の表、ビュー、または索引拡張子が存在する可能性があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 正しいタイプが変更されることを確認し、構造化タイプ *type-name* に從属する表、ビュー、および索引拡張子をドロップしてください。

sqlcode: -20030

sqlstate: 55043

SQL20031N オブジェクトが副表で定義されていない可能性があります。

説明: 主キーおよびユニーク制約は型付き表階層のルート表にのみ定義できます。同様に、ユニーク索引は型付き表階層のルート表にのみ定義できます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ユニーク索引、主キーまたはユニーク制約は、表階層のルート表にのみ定義してください。

sqlcode: -20031

sqlstate: 429B3

SQL20032N 指定された列の索引は、副表 *table-name* で定義されません。

説明: 索引に指定された列はすべて、副表 *table-name* ではなく型付き表階層の高いレベルで導入されました。よって、索引をこの副表に作成することはできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: まずすべての列が入っている表階層の表を判別してください。その名前を、索引を作成するときに表名として使用してください。

sqlcode: -20032

sqlstate: 428DS

SQL20033N *partial-expression* を組み込んでいる式に有効範囲参照が含まれていません。

説明: *partial-expression* の入った式が、有効範囲を定義した参照タイプのオペランドを要求しています。式が Deref 関数を含む場合、関数の引数は有効範囲を定義した参照タイプである必要があります。

間接参照演算子 (->) の場合、左のオペランドは有効範囲を定義した参照タイプである必要があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: SQL ステートメント構文を修正し

て、オペランドまたは引数がある有効範囲を定義した参照タイプとなるようにしてください。

sqlcode: -20033

sqlstate: 428DT

SQL20034N データ・タイプ *list-type-name* は、TYPE 述部の左側のオペランドのデータ・タイプ *left-type-name* が含まれる構造化データ・タイプ階層に含まれていません。

説明: TYPE 述部にリストされているすべてのデータ・タイプが、TYPE 述部の左オペランドのデータ・タイプの入ったタイプ階層に含まれる必要があります。データ・タイプ *left-type-name* が構造化データ・タイプではない (タイプ階層の一部でない) か、またはデータ・タイプ *list-type-name* が *left-type-name* が含まれるデータ・タイプ階層に入っていない。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 式のデータ・タイプと TYPE 述部にあるリストされたデータ・タイプのすべてが同じデータ・タイプ階層内の構造化データ・タイプであるか、確認してください。 *left-type-name* が SYSIBM.REFERENCE の場合、DEREF を使用して、式の結果データ・タイプを構造化データ・タイプにしてください。

sqlcode: -20034

sqlstate: 428DU

SQL20035N 間接参照演算子の左側オペランドが無効です。パスの式は *expression-string* で開始します。

説明: パス式の別の演算子の左オペランドが無効です。可能性のある理由は、以下のとおりです。

- 左オペランドに、引数としての列関数を使用している列関数が入っています。
- 左オペランドの式に、列関数と GROUP BY 節がない列の参照が入っています。

ユーザーの処置: *expression-string* で開始するパス式の間接参照演算子の左オペランドを修正してください。

sqlcode: -20035

sqlstate: 428DV

SQL20036N オブジェクト ID の列 *column-name* を、間接参照演算子を使用して参照されません。

説明: 間接参照演算子が右オペランドとして *column-name* と一緒に使用されています。この列は間接

参照のターゲット表のオブジェクト ID の列であり、この演算子に有効ではありません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 間接参照操作で列の名前を修正してください。

sqlcode: -20036

sqlstate: 428DW

SQL20037N オブジェクト ID の列は型付き表またはビュー階層のルート表またはルート・ビュー *object-name* を作成するために必要です。

説明: 型付き表階層のルート表を作成するときに、オブジェクト ID (OID) 列が (REF IS 節を使用して) CREATE TABLE ステートメントに定義される必要があります。

型付きビュー階層のルート・ビューを作成するときに、オブジェクト ID (OID) 列が (REF IS 節を使用して) CREATE VIEW ステートメントに定義される必要があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 必要な OID 列 (REF IS 節) を CREATE TABLE または CREATE VIEW ステートメントに追加してください。

sqlcode: -20037

sqlstate: 428DX

SQL20038N *keywords* 節を EXTEND USING 節とともに使用することはできません。

説明: CREATE INDEX ステートメントの EXTEND USING 節を *keywords* 節とともに指定することはできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: *keywords* 節の指定を除去するか、あるいは EXTEND USING 節を CREATE INDEX ステートメントから除去してください。

sqlcode: -20038

sqlstate: 42613

SQL20039N 索引 *index-name* の定義が索引拡張子 *index-ext-name* の定義に一致しません。

説明: 索引定義と索引拡張子定義が一致しません。どこの定義が合っていないかを次にリストします。

- EXTEND USING 節の索引拡張子名に続く引数の数が、索引拡張子のインスタンス・パラメーターの数と一致していません。
- EXTEND USING 節の索引拡張子名に続く引数のデータ・タイプが、対応する索引拡張子のインスタンス・パラメーターのデータ・タイプと (長さ、精度および位取りを含めて) 正確に一致していません。
- 索引に指定されている列の数が、索引拡張子のソース・キー・パラメーターの数と一致していません。
- 索引列のデータ・タイプが、対応する索引拡張子のソース・キー・パラメーターのデータ・タイプと (長さ、精度および位取りを含めて) 正確に一致していません。サブタイプの文字のデータ・タイプの正確な一致の例外です。索引の列が、ソース・キー・パラメーターに対応するように指定されたデータ・タイプのサブタイプである可能性があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 索引拡張子が一致するように修正してください。

sqlcode: -20039

sqlstate: 428E0

SQL20040N 範囲生成表関数 *range-function-name* の結果の数あるいはタイプが、索引拡張子 *index-ext-name* のキー変換表関数 *transform-function-name* の数あるいはタイプと一致しません。

説明: 範囲生成関数には以下の条件があります。

- キー・トランスフォーメーション関数として返される列の 2 倍までの列を戻す
- 偶数の列を持つ (戻り列の最初の半分は開始キーで、戻り列の残りの半分は停止キー)
- 各開始キー列が停止キー列に対応する同じタイプを持つ
- 各開始キー列のタイプが対応するトランスフォーメーション関数列と同じである

つまり、 $a_1:t_1, \dots, a_n:t_n$ を関数結果列とキー変換関数のデータ・タイプにしてください。範囲生成関数の関数結果列は、 $b_1:t_1, \dots, b_m:t_m, c_1:t_1, \dots, c_m:t_m$ でなければなりません。ここで $m \leq n$ および "b" 列は開始キー列、"c" 列は停止キー列です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: キー・トランスフォーメーション表関数と一緒に範囲生成表関数を指定してください。

sqlcode: -20040

SQL20041N

sqlstate: 428E1

SQL20041N ターゲット・キー・パラメーターの数あるいはタイプが索引拡張子 *index-ext-name* のキー・トランスフォーム関数 *function-name* の数あるいはタイプと一致しません。

説明: ターゲット・キー・パラメーターの数は、キー・トランスフォーム関数から戻された結果の数と一致する必要があります。さらに、ターゲット・キー・パラメーターのタイプは、対応する関数結果タイプと完全に一致する必要があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ターゲット・キー・パラメーターに、正しい数とタイプのパラメーターを指定してください。

sqlcode: -20041

sqlstate: 428E2

SQL20042N 最大許可 *parm-type* パラメーターが索引拡張子 *index-ext-name* 内で超過しています。最大数は *max-value* です。

説明: 指定されたパラメーターが多すぎます。

parm-type が索引拡張子の場合、*max-value* までのインスタンス・パラメーターを指定できます。*parm-type* が索引キーの場合、*max-value* までのキー・ソース・パラメーターを指定できます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: パラメーターの最大数以内の数を指定してください。

sqlcode: -20042

sqlstate: 54046

SQL20043N ルーチン *routine-name* の引数が無効です。理由コード = *reason-code*。

説明: ルーチン *routine-name* はトランスフォーメーション関数、範囲指定関数、または **FILTER USING** 節で参照されているルーチン (関数またはメソッド) です。*reason-code* は、引数が無効である理由を示しています。

- 1 キー・トランスフォーメーション関数の場合、引数は *observer* メソッドまたは索引拡張子インスタンス・パラメーターではありません。
- 2 引数として使用されている式が、**LANGUAGE SQL** を指定するルーチンを使用しています。
- 3 引数として使用されている式が副照会です。

- 4 引数として使用されている式のデータ・タイプを構造化タイプにすることはできません。

- 5 キー・トランスフォーメーション関数の引数を構造化データ・タイプ、LOB、DATALINK、XML、LONG VARCHAR、または LONG VARGRAPHIC のデータ・タイプにすることはできません。

- 6 引数として使用される式に **XMLQUERY** または **XMLEXISTS** 式が含まれています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 関数に有効な引数を指定してください。

sqlcode: -20043

sqlstate: 428E3

SQL20044N ルーチン *routine-name* または **CASE** 式は、**CREATE INDEX EXTENSION** または **CREATE FUNCTION** ステートメントでは無効です。理由コード = *reason-code*。

説明: **CREATE INDEX EXTENSION** または **CREATE FUNCTION** ステートメントで使用されている場合、ルーチン (関数またはメソッド) *routine-name* は無効です。*routine-name* が空である場合、フィルタのために使用されている **CASE** 式が無効です。理由コードは次の理由を示しています。

- 1 キー・トランスフォーメーション関数は表関数ではありません。
- 2 キー・トランスフォーメーション関数は外部関数ではありません。
- 3 キー・トランスフォーメーション関数は可変関数です。
- 4 キー・トランスフォーメーション関数は外部アクション関数です。
- 5 範囲生成関数は表関数ではありません。
- 6 範囲生成関数は外部関数ではありません。
- 7 範囲生成関数は可変関数です。
- 8 範囲生成関数は外部処理関数です。
- 9 索引フィルター関数は外部関数ではありません。
- 10 索引フィルター関数は可変関数です。
- 11 索引フィルターは外部処理関数です。
- 12 フィルター関数または **CASE** 式の結果タイプが整数データ・タイプではありません。

- 13 副照会が CASE 式で、またはフィルター関数の引数として使用されています。
- 14 キー・トランスフォーメーション関数には、データベースと同じコード化スキームがありません。
- 15 範囲生成関数には、データベースと同じコード化スキームがありません。
- 16 索引フィルター関数には、データベースと同じコード化スキームがありません。
- 17 フィルター関数は外部関数ではありません。
- 20 XMLQUERY または XMLEXISTS が CASE 式の中で使用されている、またはフィルター関数の引数として使用されています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: *routine-name* が空でない場合、CREATE INDEX EXTENSION または CREATE FUNCTION ステートメントの特定の節に指定されている関数またはメソッドの規則に従うルーチンを指定してください。それ以外の場合、FILTER USING 節の CASE 式の規則に従う CASE 式を指定してください。

sqlcode: -20044

sqlstate: 428E4

SQL20045N インスタンス・パラメーター *parameter-name* のデータ・タイプは索引拡張子 *index-ext-name* で無効です。

説明: インスタンス・パラメーターは次のデータ・タイプのいずれかです。

VARCHAR、VARGRAPHIC、INTEGER、DECIMAL、または DOUBLE

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: インスタンス・パラメーター *parameter-name* に有効なデータ・タイプを指定してください。

sqlcode: -20045

sqlstate: 429B5

SQL20046N *predicate-string* に続く SELECTIVITY 節は、有効なユーザー定義述部にのみ指定できます。

説明: SELECTIVITY 節が、有効なユーザー定義関数を含んでいない述部とともに指定されています。有効なユーザー定義関数は、述部に一致する WHEN 節とともに PREDICATES 節を含んでいます。ユーザー定義述部の

場合を除き、SELECTIVITY 節を指定することはできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 述部に続く SELECTIVITY 節を除去してください。

sqlcode: -20046

sqlstate: 428E5

SQL20047N 探索メソッド *method-name* が索引拡張子 *index-ext-name* の中に見つかりません。

説明: ユーザー定義の述部の指数規則に参照されているメソッド *method-name* は、索引拡張子 *index-ext-name* で指定されている検索メソッドの 1 つに一致する必要があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 索引拡張子で定義されているメソッドを指定してください。

sqlcode: -20047

sqlstate: 42743

SQL20048N メソッド *method-name* の検索指数が、索引拡張子 *index-ext-name* の中の対応する検索メソッドの検索指数と一致していません。

説明: メソッド *method-name* に提供された検索指数が、索引拡張子 *index-ext-name* の中の対応する検索メソッドの引数と一致しません。引数の数または引数のタイプが定義されているパラメーターの数またはタイプと一致しません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 索引拡張子に定義されたパラメーターに一致する検索指数を指定してください。

sqlcode: -20048

sqlstate: 428E6

SQL20049N AS PREDICATE WHEN 節にある比較演算子に続くオペランドのタイプは RETURNS タイプと一致しません。

説明: ユーザー定義の述部の定義が有効ではありません。AS PREDICATE WHEN 節で、比較演算子に続くオペランドのタイプが関数の RETURNS タイプと一致しません。

ステートメントは処理できません。

SQL20050N

ユーザーの処置: 正しいデータ・タイプのオペランドを指定してください。

sqlcode: -20049

sqlstate: 428E7

SQL20050N 検索ターゲットまたは検索指数

parameter-name が、作成されている関数にある名前に一致していません。

説明: 索引指数規則の検索ターゲットはそれぞれ、作成されている関数のパラメーター名に一致していなければなりません。また索引指数規則の検索指数はそれぞれ、EXPRESSION AS 節内の式名、または作成されている関数のパラメーター名に一致していなければなりません。関数のパラメーター・リストにパラメーター名が指定されていなければなりません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 検索ターゲットまたは検索指数に、有効な関数の名前だけを指定してください。

sqlcode: -20050

sqlstate: 428E8

SQL20051N 引数 *parameter-name* は同一の指数規則中で検索ターゲットおよび検索指数の両方として出現しません。

説明: 指数節で、関数パラメーターを、KEY に続く引数、および USE キーワードに続いて指定されるメソッドの引数として指定することはできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: パラメーター名は、検索ターゲットまたは検索指数の 1 つで指定してください。

sqlcode: -20051

sqlstate: 428E9

SQL20052N 列 *column-name* は更新されないオブジェクト ID の列ではありません。

説明: UPDATE ステートメントにはオブジェクト ID (OID) 列である列の設定が入っています。OID 列は更新できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: *column-name* の SET を UPDATE ステートメントから除去してください。

sqlcode: -20052

sqlstate: 428DZ

SQL20053N 型付きビューでの全選択 *view-name* は無効です。理由コード = *reason-code*。

説明: 型付きビュー *view-name* の定義で指定された全選択は、型付きビューの全選択に関する規則に従っていません。理由コードとして、以下のものが推定されません。

- 1 サブビュー定義に共通の表の式が入っているか、サブビュー定義のブランチが単一の表、ビュー、ニックネーム、または別名に及んでいません。
- 2 表階層のブランチの行設定を、型付きビュー階層の残りにある同じ表階層のすべてのブランチの行設定と区別できるようにするため、データベース・マネージャーによって証明できません。
- 3 ルート・ビューの階層のブランチの最初の式が、以下の状態になっています。
 - FROM 節で参照される型付き表または型付きビューのオブジェクト ID 列ではなく、かつ REF IS 節で UNCHECKED オプションが使用されていない。または、
 - FROM 節の表が型付きでない場合に、その列が NULL 可能か、またはその列だけについてのユニーク索引が定義されておらず、かつ REF IS 節で UNCHECKED オプションが使用されていない。または、
 - サブビュー内の同じ階層上のブランチの式と同一でない。
- 4 サブビューのブランチの範囲が及ぶ表またはビューが、スーパービューのブランチで参照されている表またはビューの副表またはサブビューではありません。サブビューが EXTEND AS を使用しているか、ルート・ビューでは REF IS 節の UNCHECKED オプションがオンになっていません。
- 5 全選択には、NODENUMBER あるいは PARTITION 関数、非 deterministic 関数、あるいは外部アクションを行うように定義された関数への参照が含まれます。
- 6 スーパービューのブランチの範囲が、同じ階層のうち OUTER を使用しない表またはビューに及んでいる場合に、サブビューのブランチが OUTER 表またはビューにまで及ぶことは不可能です。
- 7 サブビューの範囲が、それ自身のビュー階層のビューに及んでいます。
- 8 サブビューが、その定義の中の UNION ALL

以外の設定操作を使用しているか、ルート・ビューの REF IS 節の UNCHECKED オプションを指定せずに UNION ALL が定義の中で使用されています。

- 9 同じ表階層またはビュー階層に範囲が及ぶ UNION ALL の 2 つのブランチがサブビューに入っています。
- 10 サブビュー定義に GROUP BY または HAVING 節が入っています。

ユーザーの処置: *reason-code* に基づいて、ビュー定義の全選択を変更してください。

- 1 FROM 節の表あるいはビューを使用します。複合選択を、ルート・ビューの REF IS 節の UNCHECKED オプションを使用することにより型付きビューの範囲として可能なビューにカプセル化してください。
- 2 ビュー階層ですでに使用されているものとは異なる FROM 節で、異なる表またはビューを指定するか、それぞれのブランチの行の設定を、型付きビュー階層にある別のブランチの行の設定と区別して比較できるように明確に定義する述部を使用します。
- 3 ルート・ビューの最初の列が、型付きビューに対する有効なオブジェクト ID の列である規則に従っているかどうか、確認してください。REF IS 節で UNCHECKED オプションを使用することを検討してください。
- 4 スーパービューのブランチの FROM 節で指定された表またはビューの副表あるいはサブビューを指定してください。または、サブビュー定義の AS (EXTEND なし) 節との組み合わせでルート・ビュー定義の UNCHECKED オプションを使用してください。
- 5 全選択から関数への参照を除去してください。
- 6 これが、この階層のブランチの OUTER を使用するための最初のサブビューである場合、OUTER が使用されないように FROM 節を変更してください。スーパービューが OUTER を使用する場合、サブビューの FROM 節に OUTER を組み込んでください。
- 7 サブビューの基本を同じ階層の他のビューにしないでください。
- 8 UNION ALL が使用された場合、ルート・ビューの REF IS 節で UNCHECKED オプションを使用して、サブビュー定義の複数のブランチを許可します。他の設定操作の場合、設定操作をビューにカプセル化し、サブビューの

UNCHECKED オプションを使用して、共通のビューでのソース化を可能にします。

- 9 ブランチを統一して、共通のスーパー表またはスーパービューを選択し、述部 (たとえば、type 述部) を使用して、目的の行のためにフィルターを掛けます。
- 10 GROUP BY および HAVING 節をビューにカプセル化し、ルート・ビューの UNCHECKED オプションを使用して、共通のビューでのソース化を可能にします。

sqlcode: -20053

sqlstate: 428EA

SQL20054N 表 *table-name* が無効な状態にあるため、操作できません。理由コード = *reason-code*

説明: 表は、操作を許可しない状態になっています。*reason-code* は、操作を妨げている表の状態を示しています。

- 21 表がデータ・リンク調整ペンディング (DRP) 状態あるいはデータ・リンク調整不可能 (DRNP) 状態になっている。
- 22 表がチェック・ペンディング・モードではないため、生成列式を追加または変更できません。
- 23 REORG の推奨対象となる ALTER の実行回数が最大数に達しています。REORG の推奨対象となる操作は最大 3 回まで許可されていません。それに達したら REORG を実行して、現在のスキーマと一致するよう表の行を更新しなければなりません。
- 24 表の最後の LOB または LONG 列に対する DROP COLUMN 節を使用した ALTER TABLE ステートメントと同じ作業単位の中では、LOB または LONG 列に対する ADD COLUMN 節を使用した ALTER TABLE ステートメントは実行できません。
- さらに、バージョン 9.7 以降の DB2 データベース・サーバーの場合、表の最後の XML 列に対する DROP COLUMN 節を使用した ALTER TABLE ステートメントと同じ作業単位の中で

は、XML 列に対する ADD COLUMN 節を使用した ALTER TABLE ステートメントを実行できません。

25

表がチェック・ペンディング状態にある。

26

データベース・パーティション・グループが現在再配分されている表に対する ALTER TABLE ... ATTACH PARTITION または ALTER TABLE ... DETACH PARTITION ステートメントの実行は許可されません。

27

表変更またはスキーマ・コピーの操作が、データベース・オブジェクトを管理するための内部プロシージャを呼び出しました。プロシージャによって使用される

SYSTOOLS.DB2LOOK_INFO 表は、その変更またはコピーの操作に対して有効な状態ではありません。その SYSTOOLS.DB2LOOK_INFO 表は古いバージョンであるか、またはプロシージャが予期するものと完全に異なっています。

29

以下の 3 つのいずれかの状態にあるパーティションが表にあるため、表を空にする、または切り捨てる操作は許可されません。

1. アタッチされていて、整合性チェックがまだ行われていない
(SYSCAT.DATAPARTITIONS.STATUS = 'A')。
2. デタッチされたパーティションで、それらのデタッチされたパーティションに関して増分的に保守が必要な従属表がある
(SYSCAT.DATAPARTITIONS.STATUS = 'D')。
3. デタッチされたパーティションで、索引クリーンアップが保留になっている
(SYSCAT.DATAPARTITIONS.STATUS = 'T')。

30

以下の 3 つの事柄が該当する場合、LOAD 操作を再始動することはできません。

1. BUILD、DELETE、または INDEX COPY PHASE で LOAD 操作が失敗した
2. ターゲット表に XML 列が含まれている
3. また、以下のいずれかも該当する

- 表に、XML 列に対して定義されたユニーク索引が含まれている
- 元の LOAD コマンドを使用して ALLOW READ ACCESS を指定した
- COPY YES が指定された

43

パーティション表にはデタッチされた従属表があるため、パーティション索引の作成はサポートされません。

44

表が ALTER TABLE ステートメントの ATTACH PARTITION 操作のソース表で、MDC ロールアウトの結果として据え置き索引クリーンアップ操作が表で進行中です。パーティション索引では据え置き索引クリーンアップ機構を使用した MDC ロールアウトはサポートされていないため、アタッチ操作中は維持され、再構築されず、ロールアウトされたブロックの非同期索引クリーンアップが保留されている RID 索引がソース表にある場合、アタッチ操作はできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 理由コードに基づいたアクションは、以下のとおりです。

21

データ・リンク調整ペンディング (DRP) およびデータ・リンク調整不可能 (DRNP) 状態で該当するアクションを取るための情報については、管理ガイドを参照してください。

22

表を変更する前に SET INTEGRITY FOR *table-name* OFF を使用してください。次に表を変更し、SET INTEGRITY FOR *table-name* IMMEDIATE CHECKED FORCE GENERATED を使用して、新規または変更された列の値を生成してください。

23

REORG TABLE コマンドを使用して、表を再編成してください。

24

最後の LOB、LONG、または XML 列をドロップした作業単位を完了してから、コマンドを再発行してください。

25

変更を実行する前に、SET INTEGRITY によって表のチェック・ペンディング状態を解除する必要があります。

26

REDISTRIBUTE DATABASE PARTITION GROUP コマンドが完了するのを待機してから、ALTER TABLE ステートメントを再発行してください。

27

SYSTOOLS.DB2LOOK_INFO 表を名前変更するか、または削除してください。内部プロシージャが適正なバージョンの SYSTOOLS.DB2LOOK_INFO 表を作成します。表の変更またはスキーマ・コピーの操作を再サブミットしてください。

29

操作をブロックしている表パーティションの状態に応じて、適切なアクションを行ってから、コマンドを再発行してください。

1. SYSCAT.DATAPARTITIONS.STATUS = 'A':
アタッチされたパーティションを持つ表に対して、IMMEDIATE CHECKED または IMMEDIATE UNCHECKED オプションを指定して SET INTEGRITY ステートメントを実行してください。
2. SYSCAT.DATAPARTITIONS.STATUS = 'D':
デタッチされたパーティションに関して、依然として増分的に保守する必要がある表の従属即時マテリアライズ照会およびステージング表に対して SET INTEGRITY ステートメントを IMMEDIATE CHECKED オプションを指定して実行してください。SYSCAT.TABDETACHEDDEP カタログ・ビューを照会して、これらのデタッチされた従属表を探し出してください。
3. SYSCAT.DATAPARTITIONS.STATUS = 'I':
デタッチされたパーティションに対する索引のクリーンアップが完了するまで待ってください。進行状況を確認するには、SYSIBM.SYSTASKS を照会してください。

30

以下のステップによって、理由コード 30 に応答します。

1. LOAD TERMINATE コマンドを使用して、表の状態を「ロード中」から「正常」に変更する。
2. 元の LOAD コマンドを再実行する。

43

IMMEDIATE CHECKED オプションを指定した SET INTEGRITY ステートメントを使って、従属表を保守します。その後、パーティション索引を作成します。

44

ソース表で据え置き索引クリーンアップ操作が完了するのを待ち、その後 ALTER TABLE ステートメントを再発行してパーティションをアタッチします。ロールアウト・クリーンアップの進行状況をモニターするには、LIST UTILITIES コマンドを使用します。

sqlcode: -20054

sqlstate: 55019

SQL20055N 選択リストの結果列データ・タイプは、列 *column-name* の定義済みのデータ・タイプと互換性がありません。

説明: *column-name* に対応する選択リスト式のデータ・タイプは、構造化タイプの属性に関するデータ・タイプに割り当て可能ではありません。

ユーザーの処置: 表の現在の定義と、関連する構造化タイプを調べてください。指定された列の選択リスト式のデータ・タイプが、構造化タイプの属性に対して割り当て可能なデータ・タイプであることを確認してください。

sqlcode: -20055

sqlstate: 42854

SQL20056N DB2 Data Links Manager *name* の処理で、エラーが検出されました。理由コード = *reason-code*。

説明: ステートメントを DB2 Data Links Manager が処理しているときに、以下の理由コードに示されているようなエラーが検出されました。

- 01 DB2 Data Links Manager のデータと表の DATALINK 値の間で不整合が検出されました。
- 02 DB2 Data Links Manager が処理中にリソースの限界に達しました。
- 03 DB2 Data Links Manager では、128 文字以上のファイル・パス名はサポートされていません。
- 99 DB2 Data Links Manager が内部処理エラーを見つけました。

SQL20057N

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 理由コードに基づいたアクションは、以下のとおりです。

- 01 表で調整ユーティリティーを実行してください。
- 02 DB2 Data Links Manager 管理者が診断ログからのリソースを識別し、訂正アクションを行わなければなりません。
- 03 DATALINK 列に保管するファイルのパス名 (ファイル・システム・プレフィックスを除く) が 128 文字を超えないようにしてください。たとえば、URL が "http://server.com/dlfiles/dir1/.../file1" の場合 (DLFS ファイル・システム・プレフィックスを "/dlfiles" とすると)、"/dir1/.../file1" のファイル・パス名が 128 文字以上にならないようにしてください。
- 99 DB2 Data Links Manager およびデータベース・マネージャーからの診断ログを保管し、IBM サービスに連絡してください。

sqlcode: -20056

sqlstate: 58004

SQL20057N サブビュー *view-name* の列 *column-name* は、対応する列がスーパービューで更新可能な場合、読み取り専用として定義できません。

説明: サブビュー *view-name* の列 *column-name* で示される列は、読み取り専用として (暗黙的に) 定義されています。 *view-name* のスーパービューには、更新可能な対応列が含まれます。列は、更新可能から、型付きビュー階層での読み取り専用へと変更されません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: CREATE VIEW ステートメントを変更して、サブビュー *view-name* の列を更新可能にするか、あるいはスーパービューをドロップしてから READ ONLY 節を使用して再作成し、列を強制的に読み取り専用にします。

sqlcode: -20057

sqlstate: 428EB

SQL20058N マテリアライズ照会表 *table-name* に指定された全選択は無効です。理由コード = *reason-code*。

説明: マテリアライズ照会表定義には、全選択の内容に関して特定の規則があります。マテリアライズ照会表の

オプション (REFRESH DEFERRED または REFRESH IMMEDIATE) を基にした規則と、表が複製されているかどうかを基にした規則があります。この条件を返す CREATE TABLE ステートメントにある全選択は、SQL 解説で記述されている規則のいずれかに違反していません。

このエラーは、ステージング表の作成時に発生する場合があります。そのような場合、エラーは、ステージング表が関連付けられているマテリアライズ照会表の定義で使用される照会に対して適用されます。

以下の理由コードによって示されている制限に違反しているため、ステートメントを処理できません。

1

すべての選択リスト・エレメントには名前がなければなりません。

2

全選択は、以下のオブジェクト・タイプを参照することはできません。

- マテリアライズ照会表
- ステージング表
- 作成済みのグローバル一時表
- 宣言済みのグローバル一時表
- 作成済みのグローバル一時表
- 型付き表
- システム・カタログ表
- マテリアライズ照会表の制限に違反するビュー
- 保護された表
- CREATE NICKNAME または ALTER NICKNAME ステートメントの DISALLOW CACHING 節を使用して作成されたニックネーム
- 直接または間接的に、保護された表に依存するビュー

3

全選択には、以下のデータ・タイプの列参照または式を含めることができません:

LOB、LONG、DATALINK、XML、参照、ユーザー定義の構造化タイプ、またはこれらのデータ・タイプに基づく特殊タイプ。

4

全選択には、以下の列参照または式または関数が含まれてはなりません。

- データの物理的特性に依存する関数。たとえば、DBPARTITIONNUM、HASHEDVALUE、RID_BIT、RID
- データの変更に依存する関数。例えば、行変更式または行変更タイム・スタンプ列。
- EXTERNAL ACTION として定義される関数
- LANGUAGE SQL、CONTAINS SQL、READS SQL DATA、または MODIFIES SQL DATA として定義される関数
- 期間指定である関数 (DB2 for z/OS の場合)
- NOT SECURED として定義される関数 (行または列のアクセス制御がアクティブ化されている表をマテリアライズ照会表が参照している場合)

5

REPLICATED を指定する場合、以下の制限が適用されます。

- 集約関数および GROUP BY 節は許可されません。
- マテリアライズ照会表は 1 つの表だけを参照する必要があります。つまり、結合、共用体、または副照会を組み込むことはできません。
- PARTITIONING KEY 節は指定できません。

6

REFRESH IMMEDIATE を指定する場合、全選択には以下を含めることはできません。

- ニックネームへの参照
- SELECT DISTINCT
- 特殊レジスターへの参照、または特殊レジスターの値に依存する組み込み関数への参照
- グローバル変数への参照
- 非 deterministic 関数
- OLAP 関数、サンプリング関数、テキスト関数
- 集約関数の結果を使用する式
- 集約関数 (全選択が GROUP BY 節を含んでいない場合)
- 再帰的共通表式
- 副照会

7

REFRESH IMMEDIATE を指定する場合、以下のようになります。

- マテリアライズ照会表は、重複した行を含むことはできません。

- GROUP BY 節を指定する場合、すべての GROUP BY 項目が選択リストに組み込まれる必要があります。
- GROUPING SETS、CUBE、または ROLLUP を含む GROUP BY 節を指定する場合、グループ化セットを繰り返すことはできません。C が、GROUPING SETS、CUBE、または ROLLUP 内でヌル可能な GROUP BY 項目である場合、GROUPING(C) は選択リスト内に置かれる必要があります。
- GROUP BY 節が存在しない場合、各基礎表には少なくとも 1 つのユニーク・キーが定義されていなければならない、これらのキーのすべての列はマテリアライズ照会表定義の選択リスト内になければなりません。

8

REFRESH IMMEDIATE を指定するときに、全選択が GROUP BY 節を含む場合、以下の制限が適用されます。

- 選択リストは COUNT(*) または COUNT_BIG(*) を含んでいる必要があります。
- 各ヌル可能列 C について、選択リストが SUM(C) を含んでいる場合、COUNT(C) も必要です。
- 集約関数 SUM()、COUNT()、COUNT_BIG()、または GROUPING() の 1 つ以上がなければならず、かつ、他の集約関数があってはなりません。
- HAVING 節は指定できません。
- パーティション・データベース環境では、GROUP BY 列にマテリアライズ照会表のパーティション・キーが含まれている必要があります。
- 集約関数のネストは許可されません。

9

REFRESH IMMEDIATE を指定する場合、全選択は副選択でなければなりません。UNION ALL が GROUP BY の入力表式でサポートされる場合は例外です。

10

REFRESH IMMEDIATE が指定され、FROM 節が複数の表を参照する場合、明示的に INNER JOIN 構文を使用しない限り、内部結合だけがサポートされます。

11

REFRESH IMMEDIATE を指定する場合、UNION ALL または JOIN の入力式には集約関数を含めることはできません。

12

このマテリアライズ照会表の増分メンテナンスで要求されたシステム一時表の行の幅または列数が、データベースで現在利用できる最大の SYSTEM TEMPORARY 表スペースの収容できる制限を超えています。

13

全選択に CONNECT BY 節を含めることはできません。

14

CREATE TABLE ステートメントに MAINTAINED BY FEDERATED_TOOL が指定されており、SELECT 節に基本表への参照が含まれていました。

ユーザーの処置: マテリアライズ照会表のオプションを基にした規則と、マテリアライズ照会表が複製されているかどうかを基にした規則に準拠するように、CREATE TABLE ステートメントの全選択を変更します。

理由コードに対応するアクションは、以下のとおりです。

1

CREATE TABLE ステートメントを修正して、すべてのエレメントが名前を持つようにします (AS節を使用して式に名前を付けるか、マテリアライズ照会表の定義の列リストにあるすべての列に明示的に名前を付けてください)。

2

CREATE TABLE ステートメントを修正して、サポートされないオブジェクトが参照されないようにします。

3

CREATE TABLE ステートメントを修正して、サポートされない列または式のタイプが参照されないようにします。

4

CREATE TABLE ステートメントを修正して、サポートされない列、式または関数が参照されないようにします。

5

複製されないマテリアライズ照会表を作成するか、CREATE TABLE ステートメントを修正し

て照会が単一の表を参照し、副照会、集約、または PARTITIONING 節を含まないようにします。

6

マテリアライズ照会表を REFRESH DEFERRED として作成するか、以下のようになります。

- ニックネームの参照を除去する
- DISTINCT を除去する
- 特殊レジスター、および特殊レジスターの値に依存する組み込み関数を除去する
- 非 deterministic 関数を除去する、またはそれを deterministic 関数に置き換える
- すべての OLAP、サンプリング、およびテキスト関数
- 式から集約関数を除去する、または式を集約関数へのシンプルな参照に変更する
- 集約関数を除去するまたは GROUP BY 節を追加する
- CREATE TABLE ステートメントを修正して、再帰的共通表式が参照されないようにする
- 副照会を除去する

7

マテリアライズ照会表を REFRESH DEFERRED として作成するか、以下のようになります。

- CREATE TABLE ステートメントを修正してすべての GROUP BY 項目が選択リストに置かれるようにする
- GROUP BY 節を修正して、グループ化セットが重複しないようにする
- 選択リストの NULL 可能列 C を除去する、または GROUPING(C) を追加する
- CREATE TABLE ステートメントを修正して、照会で参照される各表の 1 つ以上のユニーク・キーが選択リストに置かれるようにする

8

マテリアライズ照会表を REFRESH DEFERRED として作成するか、以下のようになります。

- 選択リストに COUNT(*) または COUNT_BIG(*) を追加するか、GROUP BY 節を除去する

- 選択リストに COUNT(*) を追加する、SUM(C) を除去する、または列 C を NULL 不可に変更する
- サポートされない集約関数を除去するか、それらをサポートされる関数に置き換える
- HAVING 節を除去する
- CREATE TABLE ステートメントを修正して、GROUP BY 節がすべてのパーティション・キー列を含むようにする

9

マテリアライズ照会表を REFRESH DEFERRED として作成するか、副選択に対する表定義または GROUP BY の入力表式内の UNION ALL に対する表定義を変更します。

10

マテリアライズ照会表を REFRESH DEFERRED として作成するか、明示的に INNER JOIN 構文を使用せずに内部結合を使用します。

11

マテリアライズ照会表を REFRESH DEFERRED として作成するか、UNION ALL または JOIN の入力表から集約関数を除去します。

12

マテリアライズ照会表を REFRESH DEFERRED として作成するか、行の幅または列数を少なくするか、適切なページ・サイズでシステム TEMPORARY 表スペースを作成します。

13

階層照会を使用してマテリアライズ照会表を作成することはできません。全選択に CONNECT BY 節が含まれていないことを確認してください。

14

レプリケーション・ツールによって保守されるマテリアライズ照会表を作成するには、CREATE TABLE ステートメントを作成し直して、SELECT 節に基本表への参照が含まれないようにしてください。

sqlcode: -20058

sqlstate: 428EC

SQL20059W マテリアライズ照会表 *table-name* は、照会の処理を最適化するために使用できません。

説明: マテリアライズ照会表は REFRESH DEFERRED で定義されており、全選択は現在、照会の処理を最適化するためにデータベース・マネージャーによってサポートされていません。この規則はマテリアライズ照会表オプション (REFRESH DEFERRED または REFRESH IMMEDIATE) を基にしています。この条件を返す CREATE TABLE ステートメントにある全選択は、SQL 解説で記述されている規則のいずれかに違反していません。

マテリアライズ照会表は正常に作成されますが、マテリアライズ照会表を直接参照する照会でのみルーティングされます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。ただし、マテリアライズ照会表を直接参照しない照会の処理を最適化するためにマテリアライズ照会を行いたい場合には、次のようにすることができます。*table-name* に対して指定された全選択を使ってビューを作成した後、ビューから "SELECT *" だけを実行する全選択を使ってマテリアライズ照会表 *table-name* を再作成します。こうすれば、ビューを参照する照会によってマテリアライズ照会表をルーティングできます。

sqlcode: +20059

sqlstate: 01633

SQL20060N *tblspace-id* にある表 *table-id* の索引 *index-id* の索引拡張子によって使用されているキー・トランスフォーム表関数が、重複する行を生成しました。

説明: 索引 *index-id* によって使用されている索引拡張子の GENERATE USING 節で指定されたキー・トランスフォーム表関数が、重複する行を生成しました。キー・トランスフォーム表関数の呼び出しの場合、重複する行は作成されません。このエラーは、表スペース *tblspace-id* にある表 *table-id* の索引 *index-id* のキー値を挿入または更新しているときに発生します。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 重複する行が作成されないよう、索引 *index-id* の索引拡張子によって使用されているキー・トランスフォーム表関数のコードを変更しなければなりません。

索引名を判別するには、以下の照会を使用してください。

```
SELECT IID, INDSHEMA, INDNAME
FROM SYSCAT.INDEXES AS I,
     SYSCAT.TABLES AS T
```

SQL20062N

```
WHERE IID = <index-id>
AND TABLEID = <table-id>
AND TBSpaceID = <tbspace-id>
AND T.TBASchema = I.TBASchema
AND T.TABNAME = I.TABNAME
```

sqlcode: -20060

sqlstate: 22526

SQL20062N タイプ *type-name* のトランスフォーム・グループ *group-name* にあるトランスフォーム関数 *transform-type* は、関数またはメソッドとして使用できません。

説明: タイプ *type-name* のトランスフォーム・グループ *group-name* に定義されている関数は SQL で作成 (LANGUAGE SQL で定義) されていないため、関数またはメソッドとして使用することができません。この関数またはメソッドにトランスフォーム・グループを使用することはできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: LANGUAGE SQL で定義されたトランスフォーム関数を持つ、タイプ *type-name* のトランスフォーム・グループを指定してください。

sqlcode: -20062

sqlstate: 428EL

SQL20063N TRANSFORM GROUP 節をタイプ *type-name* に指定しなければなりません。

説明: 関数またはメソッドに、トランスフォーム・グループが指定されていないパラメーターまたは戻りデータ・タイプ *type-name* が入っています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: *type-name* に定義されているトランスフォーム・グループ名で TRANSFORM GROUP 節を指定してください。

sqlcode: -20063

sqlstate: 428EM

SQL20064N トランスフォーム・グループ *group-name* は、パラメーターまたは戻りデータ・タイプとして指定されたデータ・タイプをサポートしていません。

説明: TRANSFORM GROUP 節に指定されているトランスフォーム・グループ *group-name* は、パラメーター・リスト、あるいは関数またはメソッドの RETURNS 節に組み込まれているデータ・タイプに定義されていません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 関数またはメソッド定義からトランスフォーム・グループを除去してください。

sqlcode: -20064

sqlstate: 428EN

SQL20065N データ・タイプ *type-name* のトランスフォーム・グループ *type-name* は、クライアント・アプリケーション用の構造化タイプをトランスフォームするために使用できません。

説明: データ・タイプ *type-name* のトランスフォーム・グループ *group-name* は、クライアント・アプリケーションでのトランスフォーム実行時に使用できないトランスフォーム関数を定義しています。可能性のある原因は、クライアント・アプリケーション用にサポートされていないトランスフォーム関数の定義に基づいています。サポートされていないトランスフォーム関数として、以下が考えられます。

- ROW 関数である FROM SQL 関数
- 複数のパラメーターを持つ TO SQL 関数

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 静的組み込み SQL の場合、TRANSFORM GROUP BIND オプションを使用して異なるトランスフォーム・グループを指定してください。動的 SQL の場合、SET DEFAULT TRANSFORM GROUP ステートメントを使用して異なるトランスフォーム・グループを指定してください。

sqlcode: -20065

SQL20066N *transform-type* トランスフォーム関数は、データ・タイプ *type-name* のトランスフォーム・グループ *group-name* に定義されていません。

説明: 関数またはメソッドの定義で使用されているトランスフォーム・グループには、データ・タイプ *type-name* のトランスフォーム・グループ *group-name* の *transform-type* トランスフォーム関数が必要です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 関数またはメソッドを作成している場合、その関数またはメソッドの定義に異なるトランスフォーム・グループを指定してください。動的 SQL ステートメントで構造化タイプを参照している場合、CURRENT DEFAULT TRANSFORM GROUP 特殊レジスターに異なるトランスフォーム・グループを指定してください。あるいは、*transform-type* トランスフォーム

関数をデータ・タイプ *type-name* のトランスフォーム・グループ *group-name* に追加してください。

sqlcode: -20066

sqlstate: 42744

SQL20067N 複数の *transform-type* トランスフォーム関数が、データ・タイプ *type-name* のトランスフォーム・グループ *group-name* に定義されています。

説明: TO SQL または FROM SQL トランスフォーム関数は、トランスフォーム・グループに 1 つだけ指定できます。データ・タイプ *type-name* のトランスフォーム・グループ *group-name* には、少なくとも 2 つの FROM SQL または TO SQL トランスフォーム関数 (あるいは両方) が定義されています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: それぞれ 1 つずつになるよう、TO SQL または FROM SQL 定義をトランスフォーム定義の *group-name* から削除してください。

sqlcode: -20067

sqlstate: 42628

SQL20068N その属性タイプが直接または間接的にそれ自身を使用するよう、構造化タイプ *type-name* を定義することはできません。属性 *attribute-name* によって、直接または間接使用が生じています。

説明: 直接使用: 以下のいずれかが真であれば、タイプ A はタイプ B を直接的に使用します。

- タイプ A はタイプ B の属性を持っている
- タイプ B は A のサブタイプ、または A のスーパータイプである

間接使用: 以下のいずれかが真であれば、タイプ A はタイプ B を間接的に使用します。

- タイプ A がタイプ C を使用し、タイプ C がタイプ B を使用している

その属性タイプのいずれかが直接または間接的にそれ自身を使用するよう、タイプを定義することはできません。直接または間接使用の原因は、属性 *attribute-name* のタイプです。

ユーザーの処置: タイプを調べて、直接または間接使用の原因である属性タイプを除去してください。

sqlcode: -20068

sqlstate: 428EP

SQL20069N *routine-type routine-name* の RETURNS タイプが、サブジェクト・タイプと同じではありません。

説明: メソッド *method-name* が SELF AS RESULT を指定しています。このメソッドの RETURNS データ・タイプは、サブジェクト・データ・タイプに一致していなければなりません。

ユーザーの処置: サブジェクト・タイプに一致するよう、メソッド *method-name* の RETURNS タイプを変更してください。

sqlcode: -20069

sqlstate: 428EQ

SQL20075N *column-name* の長さが 255 バイトを超えているため、索引または索引拡張子 *index-name* を作成または変更することはできません。

説明: キー列の長さが 255 を超えているため、索引を作成または変更できませんでした。

- *index-name* は索引名です。
- *column-name* はキー列の名前です。このエラーが ALTER TABLE 操作または ALTER NICKNAME 操作から返された場合、*column-name* の値は列番号です。

GENERATE KEY 関数によって返された列が 255 バイトを超えているため、索引拡張子を作成できませんでした。

- *index-name* は索引拡張子名です。
- *column-name* は、GENERATE KEY 関数によって返された列名です。

ステートメントを処理できませんでした。示されている索引または索引拡張子が作成されなかったか、または表またはニックネームを変更できませんでした。

ユーザーの処置: 索引を作成する場合、索引定義から列を除去してください。表を変更する場合は、新しい列の長さを許可されている最大長まで短くしてください。索引拡張子を作成する場合、異なる GENERATE KEY 関数を指定するか、または列を除去するよう関数を再定義してください。

sqlcode: -20075

sqlstate: 54008

SQL20076N データベースのインスタンスについて、指定されたアクションまたは操作は有効ではありません。理由コード = *reason-code*。

説明: エラーがインスタンス・レベルで検出されました。指定された機能エリアがインストールされていなかったか、指定された機能エリアがそのインスタンスに対して有効でなかったため、要求された操作を完了できません。

理由コードのリストおよびインスタンス・レベルで有効にできる関連する機能エリアは、以下のとおりです。

1. 単一ステートメント内の複数のデータ・ソースに対する分散要求操作を実行する機能。

ユーザーの処置: 要求されたアクションまたは操作のインスタンスを有効にします。まず、指定された機能エリアがない場合、それをインストールします。次に、指定された機能エリアを有効にします。有効にするための手順は、*reason-code* によって異なります。

1. フェデレーテッド・サーバーの場合は、DBM 変数 <FEDERATED> を YES に設定して、データベース・マネージャーを再始動します。

sqlcode: -20076

sqlstate: 0A502

SQL20077N データ・リンク・タイプ属性を持つ構造化タイプ・オブジェクトは構成できません。

説明: データ・リンクまたは Reference タイプ属性、あるいはその両方を持つ構造化タイプのコンストラクターを呼び出そうとしました。この機能は現在サポートされていません。6.1 またはそれ以前のバージョンでは、Reference タイプ属性を持つ構造化タイプ・オブジェクトの場合にもこのエラーが発生することがあります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを行うことによってエラーを訂正することができます。

1. このタイプのコンストラクターの呼び出しをプログラムから除去します。
2. データ・リンク (あるいは Reference) ・タイプ属性を構造化タイプの定義から除去します。(そのタイプに従属している表があると、可能ではない場合もあります。)

sqlcode: -20077

sqlstate: 428ED

SQL20078N タイプ *object-type* の階層オブジェクト *object-name* を操作 *operation-type* で処理できません。

説明: 操作 *operation-type* はタイプ *object-type* の *object-name* という名前の階層オブジェクトを使用して試行されました。この操作は、階層オブジェクトの処理をサポートしません。

ステートメントを処理できませんでした。

ユーザーの処置: 正しいオブジェクト名が使用されたかどうか確認してください。オブジェクト・タイプ TABLE または VIEW の場合、オブジェクトは表またはビュー階層の副表の名前でなければなりません。場合によっては、オブジェクトで明確にルート表を指定しなければなりません。索引タイプのオブジェクトの場合、名前は副表で作成された名前にしてください。

sqlcode: -20078

sqlstate: 42858

SQL20080N メソッド本体が存在しているため、*method-name* のメソッド指定をドロップできません。

説明: メソッド本体をドロップしなければ、メソッド指定をドロップすることはできませんが、メソッド指定 *method-name* にはメソッド本体がまだ存在しています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 同じメソッド指定で DROP METHOD ステートメントを使用してメソッド本体をドロップした後、もう一度 ALTER TYPE ステートメントを出してメソッド指定をドロップしてください。

sqlcode: -20080

sqlstate: 428ER

SQL20081N LANGUAGE *language-type* メソッド指定 *method-name* に対して、メソッド本体を定義することはできません。

説明: メソッド指定 *method-name* が、LANGUAGE *language-type* で定義されています。LANGUAGE が SQL であれば、メソッド本体は SQL 制御ステートメントでなければなりません。その他の言語の場合、EXTERNAL 節を指定しなければなりません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: メソッド指定の LANGUAGE に一致するよう、メソッド本体を変更してください。

sqlcode: -20081

sqlstate: 428ES

SQL20082N 式の動的タイプ *expression-type-id* は、**TREAT** 指定のターゲット・データ・タイプ *target-type-id* のサブタイプではありません。

説明: TREAT 指定に指定されている式の結果の動的データ・タイプは *expression-type-id* です。示されているターゲット・データ・タイプ *target-type-id* は *expression-type-id* の適正サブタイプですが、これは許可されていません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: TREAT 指定の *target-type-id* を *expression-type-id* のスーパータイプに変更するか、あるいは結果の動的データ・タイプが *target-type-id* のサブタイプになるよう、式を変更してください。

expression-type-id および *target-type-id* のデータ・タイプ名を判別するには、以下の照会を使用してください。

```
SELECT TYPEID, TYPESCHEMA, TYPENAME
FROM SYSCAT.DATATYPES
WHERE TYPEID IN INTEGER(
    expression-type-id),
    INTEGER(
    target-type-id
)
```

sqlcode: -20082

sqlstate: 0D000

SQL20083N *routine-type routine-id* によって返された値のデータ・タイプが、**RESULT** として指定されているデータ・タイプに一致していません。

説明: メソッド *routine-id* が SELF AS RESULT を指定しているため、返される値のデータ・タイプは、メソッドを呼び出すために使用されているサブジェクト・データ・タイプと同じでなければなりません。SQL メソッド本体にある、または外部メソッドのタイプの TO SQL トランスフォーム関数にある RETURN ステートメントによって、誤ったデータ・タイプが生じました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: メソッドまたはトランスフォーム関数の RETURN ステートメントを変更して、戻り値のデータ・タイプが常に、メソッドを呼び出すためのサブジェクト・タイプになることを確認してください。

routine-id に関連するルーチン名を判別するには、以下の照会を使用してください。

```
SELECT FUNCSHEMA, FUNCNAME,
    SPECIFICNAME
FROM SYSCAT.FUNCTIONS
WHERE FUNCID = INTEGER(
    routine-id
)
```

sqlcode: -20083

sqlstate: 2200G

SQL20084N *routine-type routine-name* が、既存のメソッドとのオーバーライド・リレーションシップを定義しています。

説明: 以下の条件すべてが真であれば、サブジェクト・タイプ T のメソッド MT は、サブジェクト・タイプ S の別のメソッド MS をオーバーライドするよう定義されています。

- MT および MS が、同じ非修飾名と同じパラメーター数を持っている
- T が S の適正サブタイプである
- MT の非サブジェクト・パラメーター・タイプが、対応する MS の非サブジェクト・パラメーター・タイプと同じである (ここで“同じ”とは、長さや精度ではなく、VARCHAR のような基本タイプのことを指しています。)

関数とメソッドをオーバーライド・リレーションシップにすることはできません。つまり、関数が、最初のパラメーターがサブジェクト S のメソッドである場合、スーパータイプ S の別のメソッドをオーバーライドすることはできず、サブタイプ S の別のメソッドによってオーバーライドされることはありません。

さらに、次のものに対するオーバーライド・リレーションシップはサポートされていません。

- 表および行メソッド
- PARAMETER STYLE JAVA の外部メソッド
- システム生成の mutator と observer メソッド

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 定義されているルーチンを変更して、*routine-name* とは異なるルーチン名を使用させるか、あるいはルーチンのパラメーターを変更してください。

sqlcode: -20084

sqlstate: 42745

SQL20085N PARAMETER STYLE JAVA で定義されたルーチンは、パラメーター・タイプまたは戻りタイプとして構造化タイプ *type-name* を持つことができません。

説明: ルーチンは PARAMETER STYLE JAVA で定義されていますが、パラメーター・タイプまたは戻りタイプが構造化タイプ *type-name* で定義されています。これは、この DB2 バージョンではサポートされていません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ルーチンのパラメーター・スタイルを変更するか、あるいは構造化タイプをルーチン定義から除去してください。

sqlcode: -20085

sqlstate: 429B8

SQL20086N 列の構造化タイプ値の長さがシステム制限を超えています。

説明: 構造化タイプ列の長さが、全体のサイズ (インスタンスの記述子データも含む) で 1 ギガバイトを超えています。この列は、直接挿入または更新されている列であるか、または生成されている列の場合もあります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 列に割り当てる構造化タイプ値のサイズを小さくしてください。

sqlcode: -20086

sqlstate: 54049

SQL20087N DEFAULT または NULL を属性割り当てに使用することはできません。

説明: 構造化タイプ列に属性の値を設定するため、UPDATE ステートメントが属性割り当てを使用しています。この割り当てステートメントの形式は、割り当ての右側にキーワード DEFAULT または NULL を使用することを許可していません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 属性割り当ての右側に式を指定するか、または属性割り当て構文を使用しないように割り当てを変更してください。

sqlcode: -20087

sqlstate: 428B9

SQL20089N 同じタイプ階層で、メソッドと構造化タイプを同じ名前にはできません。

説明: 指定されたメソッド名は、構造化タイプのスーパータイプまたはサブタイプのいずれかに定義されている構造化タイプの名前と同じです。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 異なる名前をメソッドに指定してください。

sqlcode: -20089

sqlstate: 42746

SQL20090W タイプ DATALINK の属性 *attribute-name* を持つ構造化タイプの使用は、型付き表または型付きビューのタイプに制限されています。

説明: 属性 *attribute-name* は、タイプ DATALINK で、または DATALINK に基づく特殊タイプで定義されています。このような属性を含む構造化タイプは、表またはビューのタイプとしてのみ使用できます。表またはビューの列のタイプとして使用されている場合、NULL 値しか割り当てることができません。

ステートメントは処理を続行します。

ユーザーの処置: 構造化タイプ使用の意図を検討してください。このタイプが列データ・タイプとして使用される場合、属性 *attribute-name* を構造化タイプから除去するか、あるいはデータ・リンク以外のデータ・タイプを属性に使用してください。

sqlcode: +20090

sqlstate: 01641

SQL20092N 表またはビューが LIKE 節で指定されており、このオブジェクトはこのコンテキストでは使用できないため、ステートメントが失敗しました。

説明: CREATE GLOBAL TEMPORARY TABLE ステートメントまたは DECLARE GLOBAL TEMPORARY TABLE ステートメントの LIKE 節に、IMPLICITLY HIDDEN として定義された列を持つ表の名前が指定されています。作成済み一時表および宣言済み一時表では暗黙の非表示属性はサポートされないため、この表は LIKE 節では指定できません。

ユーザーの処置: 暗黙の非表示列が定義されていない表の名前を指定します。

IMPLICITLY HIDDEN として定義された列が存在する作成済み一時表または宣言済み一時表を指定するには、AS (全選択) オプションを使用し、その表のこれらの列

を明示的に指定します。そのようにすると、IMPLICITLY HIDDEN 属性は定義中の列にコピーされません。

sqlcode: -20092

sqlstate: 560AE

SQL20093N 表 *table-name* をマテリアライズ照会表に変換できないか、マテリアライズ照会表をこの表に変換できません。理由コード = *reason-code*。

説明: 表をマテリアライズ照会表から DEFINITION ONLY に変更したり、または通常表をマテリアライズ照会表に変換するために ALTER TABLE ステートメントが使用されています。以下の理由で、この ALTER TABLE ステートメントが失敗しました。

1

表は型付き表または階層表です。

2

この表はマテリアライズ照会表ではありませんが、DEFINITION ONLY が指定されました。

3

この表は複製されたマテリアライズ照会表ですが、DEFINITION ONLY が指定されました。

4

表に少なくとも 1 つのトリガーが定義されています。

5

表に少なくとも 1 つのチェック制約が定義されています。

6

表に少なくとも 1 つのユニーク制約またはユニーク索引が定義されています。

7

表に少なくとも 1 つの参照制約が定義されています。

8

この表は、既存のマテリアライズ照会表の定義で参照されています。

9

表は、全選択で直接または間接的に (たとえばビューを経由して) 参照されています。

10

この表はすでにマテリアライズ照会表です。

11

既存の表の列数が、全選択の選択リストに定義されている列数に一致していません。

12

既存の表の列のデータ・タイプが、全選択の選択リストで対応する列に一致していません。

13

既存の表の列の列名が、全選択の選択リストで対応する列名に一致していません。

14

既存の表の列の NULL 可能特性が、全選択の選択リストの中の、対応する列の NULL 可能特性と一致していません。

15

同じ ALTER TABLE ステートメントに別の表変更がある場合、変換を行うことはできません。

16

この表は、照会最適化対応の既存のビューの定義で参照されています。

17

表は保護されている表です。

18

全選択は、キャッシングが許可されていないニックネームを参照します。

19

表が、システム期間テンポラル表、または履歴表です。

20

セキュリティー管理者により、表に許可またはマスクが定義されています。

ユーザーの処置: 理由コードに基づいたアクションは、以下のとおりです。

1

この表は、マテリアライズ照会表に変換できません。代わりに新しいマテリアライズ照会表を作成してください。

2

この表を変換する必要はありません。アクションは不要です。

3

複製された表は、マテリアライズ照会表にしかできません。代わりに、新しい表を作成してください。	NULL 可能特性が一致しないかぎり、この表をマテリアライズ照会表に変換できません。代わりに新しいマテリアライズ表を作成してください。
4 トリガーをドロップして、もう一度 ALTER TABLE ステートメントを試みてください。	15 SET MATERIALIZED QUERY AS 節を含まない ALTER TABLE ステートメントで、他の表変更を実行してください。
5 チェック制約をドロップして、もう一度 ALTER TABLE ステートメントを試みてください。	16 この表を参照する照会最適化対応のビューを無効にしてから、ALTER TABLE ステートメントを再試行してください。
6 ユニーク制約およびユニーク索引をドロップして、もう一度 ALTER TABLE ステートメントを試みてください。	17 表から保護を除去するか、またはそれをマテリアライズ照会表に変換しないようにします。
7 参照制約をドロップして、もう一度 ALTER TABLE ステートメントを試みてください。	18 ALTER TABLE ステートメントで指定された全選択を訂正して、キャッシングが許可されていないニックネームを参照しないようにします。
8 この表を参照するマテリアライズ照会表をドロップして、ALTER TABLE ステートメントを再試行してください。	19 表名を訂正してシステム期間テンポラル表または履歴表ではない表を指定するか、または DROP VERSIONING 文節を指定する ALTER TABLE ステートメントを使用してシステム期間テンポラル表を変更してください。
9 マテリアライズ照会表が、その表自身を照会することはできません。全選択を修正して、変更されている表への直接または間接的な参照を除去してください。	20 許可とマスクを除去するか、またはそれをマテリアライズ照会表に変換しないようにします。
10 この表はすでにマテリアライズ照会表であるため、この操作は許可されていません。	sqlcode: -20093
11 全選択を変更して、正しい列数を選択リストに組み込んでください。	sqlstate: 428EW
12 結果の列データ・タイプが対応する既存の列のデータ・タイプに一致するよう、全選択を変更してください。	SQL20094N 列 <i>column-name</i> が生成列であるか、データ・タイプ DB2SECURITYLABEL で定義されていて、BEFORE トリガー <i>trigger-name</i> で使用できないため、ステートメントが失敗しました。
13 結果の列名が、対応する既存の列の列名に一致するよう、全選択を変更してください。	説明: 示された列は以下のいずれかであるため、BEFORE UPDATE トリガーの列名リストに指定すること、あるいは BEFORE トリガーに設定することができません。
14	<ul style="list-style-type: none"> • 行開始列 • 行終了列 • トランザクション開始 ID 列

- 生成された式列
- データ・タイプ DB2SECURITYLABEL で定義された列

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 列名リスト、または生成列の新規遷移変数を設定する SET 割り当てステートメントからこの列を除去し、ステートメントを再サブミットします。

sqlcode: -20094

sqlstate: 42989

SQL20102N ルーチン *routine-name* の CREATE または ALTER ステートメントが、このルーチンに許可されていない *option-name* オプションを指定しました。

説明: ルーチン *routine-name* を作成または変更するときに、オプション *option-name* が指定されました。このルーチンの他の特性により、このオプションはこのルーチンには適用されません。ソース化プロシージャの場合、指定できるのは ALTER PARAMETER だけです。また、ALTER PARAMETER はソース化プロシージャに対してのみ指定できます。

ユーザーの処置: ALTER ステートメントの場合、正しいルーチンが指定されていることを確認してください。または、失敗したオプションを除去して、ステートメントを再発行してください。

sqlcode: -20102

sqlstate: 42849

SQL20108N 結果セットには、ストアード・プロシージャ *procedure-name* によってオープンされたカーソル *cursor-name* の位置 *position-number* にサポートされていないデータ・タイプが含まれています。

説明: 列の少なくとも 1 つ、列 *position-number* に DRDA アプリケーション・リクエスター (クライアント) または DRDA アプリケーション・サーバー (サーバー) のいずれかにサポートされていないデータ・タイプが含まれているため、*procedure-name* で示されているストアード・プロシージャは、*cursor-name* で示されている照会結果セットの少なくとも 1 つを返すことができません。このようなストアード・プロシージャへの呼び出しは失敗します。

ユーザーの処置: サーバーのストアード・プロシージャ *procedure-name* のカーソル *cursor-name* のための OPEN ステートメント (およびその後の FETCH ステートメント) を変更して、列 *position-number* でサポートされていないデータ・タイプを選択しないようにしてく

ださい。ストアード・プロシージャを呼び出したクライアント・アプリケーションは、ストアード・プロシージャの変更を反映するように変更しなければならない場合があります。

sqlcode: -20108

sqlstate: 56084

SQL20109W DB2 デバッガー・サポートでエラーが発生しました。理由コード: *reason-code*

説明: デバッガー・サポートで、デバッグを無効にするエラー状況になりましたが、通常の実行には影響ありません。以下が理由コードのリストです。

1. デバッガー・サポートがインストールされていません。
2. デバッガー表のデバッガー・クライアントの IP アドレスに構文エラーがあります。
3. デバッガー・バックエンドとデバッガー・クライアントとの通信でタイムアウトが発生しました。
4. デバッガー表 DB2DBG.ROUTINE_DEBUG にアクセスしているときに、問題が発生しました。

ユーザーの処置:

1. DB2 サーバー・マシンのデバッガー・オプションがインストールされているかどうか確認してください。
2. デバッガー表の IP アドレスが正しい構文になっていることを確認してください。
3. クライアントのデバッガー・デーモンが開始され、クライアントとサーバーのポートが一致していることを確認してください。
4. デバッガー表を正しいレイアウトで作成したことを確認してください。

sqlcode: +20109

sqlstate: 01637

SQL20111N このコンテキストでは SAVEPOINT、RELEASE SAVEPOINT、または ROLLBACK TO SAVEPOINT ステートメントを発行できません。理由コード = *reason-code*。

説明: 以下の理由コードによって示されている制限に違反しているため、ステートメントを処理できません。

1. セーブポイントをトリガー内で出すことはできません。
2. セーブポイントをグローバル・トランザクション内で出すことはできません。

SQL20112N

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: トリガーまたはグローバル・トランザクションにある SAVEPOINT、RELEASE SAVEPOINT、または ROLLBACK TO SAVEPOINT ステートメントを除去してください。

sqlcode: -20111

sqlstate: 3B503

SQL20112N セーブポイントがすでに存在し、ネストされたセーブポイントはサポートされていないため、セーブポイントを設定することができません。

説明: セーブポイントは、作業単位の中の特定の時点におけるデータとスキーマの状態を示す名前付きエンティティです。セーブポイントは、いくつかの方法で使用できます。例えば、データベースをセーブポイントまでロールバックできます。セーブポイントは、SAVEPOINT ステートメントを使用してトランザクションの中に設定できます。環境によっては、同じトランザクションの中にセーブポイントを複数またはネストさせて設定することもできます。

このメッセージは、以下の理由のために SAVEPOINT ステートメントまたは ATOMIC コンパウンド SQL ステートメントでエラーが発生したときに返される場合があります。

- ネストされたセーブポイントを設定しようとしたが、セーブポイントが既に存在し、この環境ではネストされたセーブポイントがサポートされていない。
- ネストされたセーブポイントをサポートしないフェデレーテッド・データ・ソースに、ネストされたセーブポイントを設定しようとした。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの方法で、このエラーに対応します。

- 新しいセーブポイントを設定しようとする前に既存のセーブポイントを解放します。
- 既存のセーブポイントを再設定するには、以下の手順に従います。
 1. RELEASE SAVEPOINT ステートメントを使用して既存のセーブポイントを解放します。
 2. SAVEPOINT ステートメントを使用してセーブポイントを再作成します。
- ATOMIC コンパウンド SQL の場合: コンパウンド・ステートメントの終わりの後にセーブポイントを設定します。

sqlcode: -20112

sqlstate: 3B002

SQL20113N SELF AS RESULT で定義されたメソッド *method-id* から NULL を返すことはできません。

説明: メソッド ID *method-id* のメソッドが SELF AS RESULT で定義されています。このメソッドの呼び出しが構造化タイプの NULL ではないインスタンスを使用していたため、NULL インスタンスを返すことはできません。

ユーザーの処置: メソッドの戻り値として NULL が返されないう、メソッド設定を変更してください。1 つの方法として、返される構造化タイプの属性をすべて NULL に変更することが可能です。障害のあったメソッドの名前を判別するには、以下の照会を使用してください。

```
SELECT FUNCSCHEMA, FUNCNAME,  
       SPECIFICNAME  
FROM SYSCAT.FUNCTIONS  
WHERE FUNCID = method-id
```

sqlcode: -20113

sqlstate: 22004

SQL20114W 表 *table-name* の列 *column-name* の長さは、USER デフォルト値の定義された長さに対して十分ではありません。

説明: 列 *column-name* が、128 バイトに満たない長さで定義されています。この列に節 DEFAULT USER が指定されました。USER 特殊レジスターが VARCHAR(128) と定義されているため、列の長さを超えるユーザー ID を持つユーザーが *table-name* にデフォルト値を割り当てようとした場合、エラーが発生します。ユーザー ID が列の長さを超えているユーザーは、この列を挿入、あるいは列をデフォルト値に更新することができません。

ユーザーの処置: システム標準によって、列の長さを超える ID が許可されていない場合、この警告を無視できます。この警告が出されないようにするには、列の長さを少なくとも 128 バイトにしなければなりません。表をドロップしてから再作成することによって、またデータ・タイプが VARCHAR であれば、ALTER TABLE で列の長さを大きくすることによって、この列の長さを変更できます。

sqlcode: +20114

sqlstate: 01642

SQL20115N トランスフォーム・グループ *group-name* で、*routine-type routine-name* を *transform-type* トランスフォーム関数として使用することはできません。

説明: *routine-type* が FUNCTION であれば、*routine-name* によって定義されている関数は組み込み関数であるため、これをトランスフォーム関数として使用することはできません。*routine-type* が METHOD であれば、*routine-name* によって定義されているメソッドは、メソッドであるため、これをトランスフォーム関数として使用することはできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: トランスフォーム・グループ *group-name* の *transform-type* トランスフォーム関数として、異なる関数を指定してください。

sqlcode: -20115

sqlstate: 428EX

SQL20116N 検索ターゲット *parameter-name* のデータ・タイプが、索引拡張子 *index-extension-name* に指定されているソース・キーのデータ・タイプに一致していません。

説明: 検索ターゲットが組み込みまたは特殊データ・タイプである場合、そのタイプは、索引拡張子に指定されているソース・キーのデータ・タイプに一致していなければなりません。検索ターゲットのデータ・タイプが構造化タイプであれば、索引拡張子のソース・キーのデータ・タイプと同じ構造化タイプ階層になければなりません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 索引拡張子のソース・キーに一致するデータ・タイプで検索ターゲットを指定してください。

sqlcode: -20116

sqlstate: 428EY

SQL20117N OLAP 関数のウィンドウ指定は無効です。理由コード = *reason-code*。

説明: OLAP 関数呼び出しのウィンドウ指定 (OVER 節) が正しく指定されていません。*reason-code* が、誤った指定を示しています。

- 1 ウィンドウ指定で、ORDER BY なしで RANGE または ROWS が指定されています。
- 2 RANGE が指定されていますが、ウィンドウ ORDER BY 節に複数の *sort-key-expression* が入っています。

- 3 RANGE が指定されていますが、ウィンドウ ORDER BY 節の *sort-key-expression* のデータ・タイプを持つ減算式に、範囲値のデータ・タイプを使用することができません。

- 4 CURRENT ROW の後に UNBOUNDED PRECEDING が、あるいは CURRENT ROW の前に UNBOUNDED FOLLOWING が指定されています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ウィンドウ指定を変更して、*reason-code* によって示されている無効な指定を訂正してください。

- 1 RANGE または ROWS を指定しているウィンドウ指定ごとにウィンドウ ORDER BY 節を追加します。
- 2 RANGE を備えたウィンドウ指定が、ウィンドウ ORDER BY 節ごとに *sort-key-expression* を 1 つずつ持つようにします。
- 3 RANGE を備えたウィンドウ指定ごとに、ウィンドウ ORDER BY 節の *sort-key-expression* から範囲値 (数値タイプまたは日付時刻タイプでなければなりません) を減算できることを確認してください。日付時刻 *sort-key-expression* の場合、範囲値は、適切な精度および位取りを持つ特定の日付時刻期間 DECIMAL タイプでなければなりません。
- 4 BETWEEN および CURRENT ROW を使用したウィンドウの仕様で、UNBOUNDED PRECEDING が AND CURRENT ROW または UNBOUNDED FOLLOWING の前、CURRENT ROW AND の後に指定されていることを確認してください。

sqlcode: -20117

sqlstate: 428EZ

SQL20118N 構造化タイプ *type-name* で、属性の数が許可されている最大数を超えています。最大数は *max-value* です。

説明: 構造化タイプ *type-name* の定義で、構造化タイプごとに許可されている属性 (継承属性を含む) の最大数を超えています。継承属性を含む属性の最大数は *max-value* です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 構造化タイプの属性の数が制限を超えないようにしてください。

SQL20119N

sqlcode: -20118

sqlstate: 54050

SQL20119N ROW 関数は、少なくとも 2 つの列を定義していなければなりません。

説明: RETURNS 節に ROW を指定する関数は、少なくとも 2 つの列がある列リストを備えていなければなりません。

ユーザーの処置: RETURNS 節から ROW キーワードを除去してスカラー関数にするか、または RETURNS 節の列リストに複数の列を指定してください。

sqlcode: -20119

sqlstate: 428F0

SQL20120N SQL TABLE 関数は表結果を返さなければなりません。

説明: RETURNS 節に TABLE を指定する SQL 関数は、表である結果を返さなければなりません。スカラー全選択の場合は例外ですが、スカラー式は SQL TABLE 関数の結果として返されません。

ユーザーの処置: RETURNS 節から TABLE キーワードを除去してスカラー関数にするか、または TABLE 関数本体の RETURNS ステートメントに全選択を指定してください。

sqlcode: -20120

sqlstate: 428F1

SQL20121N WITH RETURN または SCROLL はカーソル *cursor-name* にいずれか 1 つだけ指定できます。

説明: WITH RETURN と SCROLL の両方がカーソル *cursor-name* に指定されましたが、これは許されていません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: DECLARE CURSOR ステートメントを変更して、NO SCROLL を指定 (または SCROLL キーワードを除去) するか、WITH RETURN 節を除去してください。

sqlcode: -20121

sqlstate: 428F3

SQL20123N 両方向スクロール・カーソルに対して戻された結果セットが、1 行目より前に位置付けられていないため、ストアード・プロシージャ *procedure* への呼び出しは失敗しました。

説明: 両方向スクロールの結果セットがストアード・プロシージャ *procedure* への CALL によって戻され、1 つ以上のカーソルが 1 行目より前に位置付けられていません。

ストアード・プロシージャへの CALL は失敗しました。このストアード・プロシージャに定義されたすべての結果セットは、呼び出し元に戻る前にクローズされました。両方向スクロール・カーソルは、結果セットから FETCH するために使用できません。このストアード・プロシージャによって行われたアクションはロールバックされず、エラーがストアード・プロシージャの実行の終わりに検出されたため、このストアード・プロシージャによって開始された外部アクションは完了しました。

ユーザーの処置: 呼び出し元に戻る前に、結果セットカーソルが 1 行目より前に位置付けられるように、ストアード・プロシージャの内容を変更してください。

sqlcode: -20123

sqlstate: 560B1

SQL20128N カーソル *cursor-name* は両方向スクロールですが、結果表には表関数からの出力を組み込むことができません。

説明: カーソル *cursor-name* は両方向スクロールになるよう定義されていますが、結果表には表関数からの出力が組み込まれません。この組み合わせはサポートされません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 両方向スクロールにならないようにカーソルの定義を変更するか、または結果表に表関数からの出力が組み込まれないことを確認してください。

sqlcode: -20128

sqlstate: 428F6

SQL20131N タイプ *object-type* のオブジェクト番号 *object-number* が、オブジェクトのリストに複数回指定されました。

説明: タイプ *object-type* のオブジェクト名のリストに、オブジェクト番号 *object-number* が複数回指定されました。ステートメントの操作をオブジェクトで複数回実行することはできません。

ユーザーの処置: リスト内の重複したオブジェクトを訂正し、重複するオカレンスを取り除いてください。(MDC の場合、オブジェクト・タイプは“dimension”となります。)

sqlcode: -20131

sqlstate: 42713

SQL20133N 操作 *operation-name* は外部ルーチン *routine-name* に対して実行できません。操作は SQL ルーチンでのみ実行可能です。

説明: 操作 *operation-name* を外部ルーチン *routine-name* に対して実行しようとした。しかし、この操作は SQL ルーチンに対してのみ実行が可能です。操作は正常に完了しませんでした。

ユーザーの処置: 指定した名前が SQL ルーチンを識別することを確認してください。

sqlcode: -20133

sqlstate: 428F7

SQL20134N ルーチン *routine-name* の SQL アーカイブ (SAR) ファイルがサーバーで作成できませんでした。

説明: DB2 が指定されたルーチンのライブラリーまたはバインド・ファイルを見つけられないため、ルーチン *routine-name* の SQL アーカイブ (SAR) の作成が失敗しました。バインド・ファイルは、DB2 バージョン 7.1、フィックスパック 2 以降を使用して作成された SQL ルーチンでのみ使用できます。

ユーザーの処置: DB2 バージョン 7.1、フィックスパック 2 以降を使用して、サーバーにプロシーチャーを再作成し、操作をやり直してください。

sqlcode: -20134

sqlstate: 55045

SQL20135N 指定された SQL アーカイブは、ターゲットの環境に一致しません。理由コード = *reason-code*。

説明: 指定された SQL アーカイブが、以下のいずれかの理由でターゲット環境に適合しません。

- 1 ターゲット環境のオペレーティング・システムが、SQL アーカイブが作成されたオペレーティング・システムと異なります。
- 2 ターゲット環境のデータベース・タイプおよびレベルが、SQL アーカイブが作成されたデータベース・タイプおよびレベルと異なります。

ユーザーの処置: SQL アーカイブが作成された環境がターゲット環境と一致しているかを確認して、コマンドを再発行してください。環境が一致しない場合は、ターゲット環境を使用して SQL ルーチンを手操作で作成する必要があります。

sqlcode: -20135

sqlstate: 55046

SQL20136N ルーチン *routine-name* (特定名 *specific-name*) が、フェデレーテッド・オブジェクトにアクセスしようとした。

説明: SQL ステートメントは、1 つ以上のフェデレーテッド・オブジェクトにアクセスしようとした外部関数またはメソッドです。このステートメントは、ルーチン *routine-name* (特定名 *specific-name*) から実行されます。外部関数またはメソッドからフェデレーテッド・オブジェクトにアクセスすることは、現在サポートされていません。

ユーザーの処置: ルーチンからフェデレーテッド・オブジェクトへの参照を除去してください。

sqlcode: -20136

sqlstate: 55047

SQL20138N ルーチン *routine-name* (特定名 *specific-name*) は **MODIFIES SQL DATA** (SQL データの変更) と定義されていないため、ステートメントは説明されない可能性があります。

説明: ルーチン *routine-name* (特定名 *specific-name*) は **CONTAINS SQL** (SQL を含む) または **READS SQL DATA** (SQL データの読み取り) と定義されていますが、SQL ステートメントを **EXPLAIN** しようとした。SQL ステートメントを説明するには、**EXPLAIN** 表への書き込みが必要ですが、これは **MODIFIES SQL DATA** (SQL データの変更) ルーチンでしか許可されません。

ユーザーの処置: **CONTAINS SQL** (SQL を含む) または **READS SQL DATA** (SQL データの読み取り) と定義されているルーチンから SQL ステートメントの **EXPLAIN** を試行しないでください。

sqlcode: -20138

sqlstate: 42985

SQL20139N 直前のステートメントが失敗したか割り込まれたため、SQL ステートメントはルーチン *routine-name* (特定名 *specific-name*) で発行されない可能性があります。

説明: ルーチン *routine-name* (特定名 *specific-name*)、またはネストされたルーチンの実行中、ステートメントが失敗してロールバックが必要であるか、割り込みが発生しました。データベース・マネージャーが必要なリカバリーを実行できるように、最外部のステートメントから呼び出されるすべてのルーチンが実行を完了し、制御が最外部ステートメントに戻されることが必要です。このリカバリーが完了するまで、SQL ステートメントは発行されない可能性があります。

ユーザーの処置: ルーチンは実行を継続します。ルーチンはこの後の SQL ステートメントを実行せず、呼び出し元のステートメントにできるだけ速やかに制御を戻す必要があります。

割り込みの初期障害のリカバリーは、すべてのルーチンが完了した時点で、データベース・マネージャーにより自動的に実行されます。

sqlcode: -20139

sqlstate: 51038

SQL20140W **VALUE COMPRESSION** がこの表に対して非アクティブになっているため、**COMPRESS** 列属性は無視されました。

説明: 以下の状態のいずれかが発生しました。

1. **VALUE COMPRESS** が表に対して非活動状態であるため、列に指定された **COMPRESS SYSTEM DEFAULT** が無視された。
2. **DEACTIVATED VALUE COMPRESSION** が指定され、列が **COMPRESS SYSTEM DEFAULT** とともに定義された。

ユーザーの処置: 列に指定された **COMPRESS** を許可するには、表を変更し、表の **VALUE COMPRESSION** をアクティブ化してください。

sqlcode: +20140

sqlstate: 01648

SQL20142N シーケンス *sequence-name* を指定されているようには使用できません。

説明: *sequence-name* が、使用されないコンテキストで参照されました。 *sequence-name* は、ID 列用のシステムで生成されたシーケンスです。これらのシーケンスは、**COMMENT ON SEQUENCE**、**DROP SEQUENCE**、**GRANT** または **REVOKE** ステートメン

ト、あるいは **NEXT VALUE** か **PREVIOUS VALUE** 式では参照されません。

ユーザーの処置: このコンテキストに、ユーザー定義のシーケンス・オブジェクトの名前を指定してください。

sqlcode: -20142

sqlstate: 428FB

SQL20143N **ENCRYPTION PASSWORD** 値が設定されていないため、暗号化または暗号化解除関数が失敗しました。

説明: **ENCRYPTION PASSWORD** 値が設定されていません。

ユーザーの処置: **SET ENCRYPTION PASSWORD** ステートメントを発行して、**ENCRYPTION PASSWORD** 値を設定してください。パスワードの長さは最小 6 バイトから最大 127 バイトまでです。

sqlcode: -20143

sqlstate: 51039

SQL20144N 指定されたパスワードの長さが 6 バイト未満か、または 127 バイトを超えていたため、暗号化パスワードが無効です。

説明: データは 6 バイトから 127 バイトの長さのパスワードで暗号化されなければなりません。

ユーザーの処置: パスワード長が 6 バイトから 127 バイトの範囲にあることを確認してください。

sqlcode: -20144

sqlstate: 428FC

SQL20145N 暗号化解除関数が失敗しました。暗号化解除に使用されたパスワードが、データの暗号化に使用されたパスワードと一致しません。

説明: データは、暗号化に使用されたものと同じパスワードを使用して暗号化解除されなければなりません。

ユーザーの処置: データの暗号化と暗号化解除に同じパスワードが使用されているかを確認してください。

sqlcode: -20145

sqlstate: 428FD

SQL20146N 暗号化解除関数が失敗しました。データは暗号化されていません。

説明: データは **ENCRYPT** 関数の結果でなければなりません。

ユーザーの処置: データ・タイプが ENCRYPT 関数の結果であることを確認してください。

sqlcode: -20146

sqlstate: 428FE

SQL20147N ENCRYPT 関数が失敗しました。複数回の暗号化はサポートされていません。

説明: すでに暗号化されたデータを再び暗号化することはできません。

ユーザーの処置: データが暗号化されていないことを確認してください。

sqlcode: -20147

sqlstate: 55048

SQL20148N ルーチン *routine-name* (特定名 *specific-name*) は、コンパウンド本体の最後の SQL ステートメントとして RETURN ステートメントを持っています。

説明: RETURN ステートメントは、SQL ROW または TABLE 関数でコンパウンド本体の最後の SQL ステートメントでなければなりません。ルーチン本体内では、他の RETURN ステートメントは許可されていません。

ユーザーの処置: RETURN ステートメントが 1 つのみで、そのステートメントがコンパウンド本体の最後の SQL ステートメントであることを確認してください。

sqlcode: -20148

sqlstate: 429BD

SQL20149W バッファース・プール操作は完了しましたが、データベースの次回再始動時までは有効になりません。

説明: バッファース・プールは正常に作成または変更されましたが、変更は即時に有効になりません。変更は、データベースが再始動したときに有効になります。

以下のいずれかの理由で、変更は据え置かれました。

- DEFERRED オプションが指定された。
- 変更が指定され、操作によって NUMBLOCKPAGES または BLOCKSIZE のいずれかが変更された場合、そのような変更はすべて常に据え置かれるため、要求が据え置かれた。
- 変更が指定され、ブロック・ベース領域の以前の変更がまだ有効になっておらず (データベースの再始動が行われていない)、新しく提示されたバッファース・プールのサイズがバッファース・プールのブロック領域の

現行サイズより小さい場合、ブロック領域に対する変更が有効になるときにその変更も有効になるように、変更を据え置く必要がある。

ユーザーの処置: 次のデータベースの再始動時に変更が有効となるために、アクションを行う必要はありません。

sqlcode: +20149

sqlstate: 01649

SQL20150N バッファース・プールのブロック・ページ数が、このバッファース・プールのサイズには大きすぎます。

説明: NUMBLOCKPAGES で指定されたブロック・ページ数を、SIZE で指定されたバッファース・プールのページ数の 98 パーセントより大きくしないでください。

ユーザーの処置: NUMBLOCKPAGES をゼロに設定することにより、このバッファース・プールのブロック・ベースの入出力を無効にするか、NUMBLOCKPAGES の値を SIZE の値の 98 パーセントより大きくしないようにしてください。

sqlcode: -20150

sqlstate: 54052

SQL20151N BLOCKSIZE に指定された値が、有効な範囲内にありません。

説明: BLOCKSIZE の値の有効範囲は 2 から 256 の間です。

ユーザーの処置: BLOCKSIZE の値を、2 以上、256 以下に変更してください。最適な値は、エクステント・サイズです。

sqlcode: -20151

sqlstate: 54053

SQL20152N 指定されたバッファース・プールは、現在ブロック・ベースではありません。

説明: バッファース・プールのブロック・エリアで使用するページ数を指定せずに、BLOCKSIZE オプションが使用されました。

ユーザーの処置: BLOCKSIZE オプションと共に、NUMBLOCKPAGES の値を指定してください。

sqlcode: -20152

sqlstate: 428FF

SQL20153N データベースの分割イメージが延期状態になっています。

説明: データベースの分割イメージが延期状態にある間は使用できません。

ユーザーの処置: このデータベースの分割イメージの入出力を再開するには、以下の db2inidb コマンドの 1 つを発行します。

- db2inidb <db-name> as mirror
- db2inidb <db-name> as snapshot
- db2inidb <db-name> as standby

DB2 pureCluster 環境では、このコマンドは任意のメンバーから発行可能であり、このコマンドを発行することが必要なのは 1 回だけです。

パーティション・データベース環境では、各データベース・パーティションで db2inidb コマンドを実行する必要があります。各データベース・パーティションで並行してコマンドを実行できます。

sqlcode: -20153

sqlstate: 55040

SQL20154N 行に対してターゲット表を決定できないため、要求されたビュー *view-name* への挿入または更新操作は許可されません。理由コード = *reason-code*。

説明: 指定したビューに UNION ALL 照会が含まれています。 *reason-code* は、指定した行が以下のいずれかであることを示します。

1. 基礎となる基本表のチェック制約を満たしていない。
2. 複数の基礎となる基本表のすべてのチェック制約を満たしている。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: データ・ソースの他の特定の制限により、行の挿入が妨げられている可能性もあります。

ユーザーの処置: 行セットをパーティションする、基礎となる基本表で使用されているチェック制約が、挿入される行のセットをカバーしていることを確認してください。さらに、更新により任意の基礎表から別の表に行が移動される場合、UNION ALL で全選択に定義されたビューに WITH ROW MOVEMENT も指定されていることを確認してください。たとえば、チェック制約 (T1.c1 in (1,2)) on T1、および (T2.c1 in (2,3)) on T2、およびビュー V1 を T1 と T2 の union として指定。

1. 行 c1 = 4 は、基礎となる基本表のチェック制約を満たしていない。
2. 行 c1 = 2 は、基礎となる基本表のチェック制約を満たしている。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: 理由が不明な場合には、問題を切り分けて要求失敗の原因となったデータ・ソースを突き止め、そのデータ・ソースのオブジェクト定義と更新制限を調べてください。

sqlcode: -20154

sqlstate: 23513

SQL20155N 指定されたイベント・モニターのターゲット表が無効です。理由コード = *reason-code*。

説明: CREATE EVENT MONITOR ステートメントの処理中、またはイベント・モニターのアクティブ化中に、ターゲット表が無効であると判別されました。理由コードは、どのような問題なのかをより詳細に示しています。

1. 少なくとも 1 つの列名が、イベント・モニターのデータ・エレメント ID と一致しない。
2. 少なくとも 1 つの列に、イベント・モニターのデータ・エレメント ID のデータ・タイプと互換性のないデータ・タイプがある。
3. 少なくとも 1 つの列名が、イベント・モニターのデータ・エレメント ID と一致するが、そのエレメントはターゲット表で許可されていない。
4. 表の行サイズが、表スペースのページ・サイズに対して大きすぎる。
5. 必須列がない。
6. Unicode データベース以外のデータベースの場合には、CCSID UNICODE で表を宣言しないでください。
7. 表はパーティション化されています。
8. イベント・モニターの出力の保管用に指定された表の名前は、既に別のイベント・モニターで使用されています。
9. 現行リリースでサポートされていない論理データ・グループに関するイベント・モニター・ターゲット表があります。

ユーザーの処置: 詳細については、管理通知ログをチェックし、表の定義を訂正してください。

sqlcode: -20155

sqlstate: 55049

SQL20156W イベント・モニターは正常にアクティブ化されましたが、一部のモニター情報が失われている可能性があります。

説明: イベント・モニターは正常にアクティブ化されましたが、以下のいずれかの理由により、イベント・モニターのいくつかの情報が脱落した可能性があります。

- 列のデータ・タイプが、イベント・モニター・エレメント ID を保留するのに必要なデータ・タイプよりも小さい。このデータは切り捨てられます。
- ターゲット表が SYSCAT.EVENTTABLES で見つかったが、表がデータベースに存在しない。対応する表のモニター情報は記録されません。
- ターゲット表が SYSCAT.EVENTTABLES で見つかったが、表がすべてのデータベース・パーティションに存在しない。一部のパーティションではモニター情報が記録されません。
- ファイルへの書き込みを行う統計イベント・モニターのバッファー・サイズが小さすぎて、最大のレコードが入りません。

ユーザーの処置: 詳細情報については管理通知ログを確認してください。これが統計イベント・モニターである場合は、バッファー・サイズを確認します。小さすぎる場合は、バッファー・サイズを少なくとも 4 に設定してイベント・モニターを再作成してください。その他のタイプのイベント・モニターについては、必要に応じて、すべてのターゲット表を作成するためにイベント・モニターを再作成します。

sqlcode: +20156

sqlstate: 01651

SQL20157N 許可 ID *authorization-ID* のユーザーは、静止状態のインスタンスが静止モード *quiesce-mode* にあるときに、そのインスタンスへのアタッチに失敗したか、静止状態のデータベースへの接続またはそのインスタンス内にあるデータベースへの接続に失敗しました。

説明: 指定された許可 ID には、静止状態のインスタンスが QUIESCE RESTRICTED ACCESS モードにある場合に、そのインスタンスにアタッチしたり、そのインスタンス内のデータベースに接続したりするための権限がありません。インスタンスへのアタッチまたはデータベースへの接続を可能にするには、許可 ID が以下のいずれかの基準を満たす必要があります。

- SYSADM, SYSCTRL, または SYSMANT 権限を保持する
- QUIESCE INSTANCE または START DATABASE MANAGER コマンド (あるいは db2InstanceQuiesce

API または db2InstanceStart API) の USER オプションを使って指定されたユーザーである

- QUIESCE INSTANCE または START DATABASE MANAGER コマンド (あるいは db2InstanceQuiesce API または db2InstanceStart API) の GROUP オプションを使って指定されたグループのメンバーである

静止状態のデータベースが QUIESCE DATABASE モードにある場合、ユーザーが静止状態のデータベースに正常に接続するためには、許可 ID が上記のいずれかの基準を満たしているか、または DBADM 権限または QUIESCE_CONNECT 特権を保持している必要があります。

静止状態のインスタンス内のデータベースが QUIESCE INSTANCE モードにある場合、ユーザーが静止状態のインスタンス内のデータベースに正常に接続するためには、許可 ID が上記のいずれかの基準を満たしているか、または DBADM 権限を保持している必要があります。

インスタンスが QUIESCE INSTANCE モードにある場合、ユーザーが静止状態のインスタンスに正常にアタッチするためには、許可 ID が上記のいずれかの基準を満たしている必要があります。

ユーザーの処置: 静止状態のデータベース、および静止状態のインスタンス内にあるデータベースに正常に接続したいとき、また静止状態のインスタンスにアタッチしたいときには、以下のいずれかのアクションを実行します。

- データベースに接続するには、データベースが静止解除されるのを待ちます。
- インスタンスへのアタッチ、またインスタンス内のデータベースへの接続を行うには、インスタンスが静止解除されるのを待ちます。
- 十分な権限を持つ許可 ID を使ってデータベースへの接続、またはインスタンスへのアタッチを再試行します。

sqlcode: -20157

sqlstate: 08004

SQL20158N DB2 Data Links Manager は、この DB2 コピー・バージョンではサポートされていません。

説明: DB2 Data Links Manager はこの DB2 コピー・バージョンではサポートされていませんが、以下のいずれかのアクションを実行しようとしていました:

- Data Links 対応データベースを対象とするデータベース・バックアップ・イメージのリストア。

SQL20159W

- DATALINK データ・タイプを使用するデータベースのアップグレード。
- DATALINK データ・タイプを使用するデータベース・オブジェクトの作成。DATALINK データ・タイプを使用するデータベース・オブジェクトとしては、表、ビュー、関数、メソッド、特殊タイプ、および構造化データ・タイプが含まれます。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのアクションを行ってください。

- Data Links をサポートする古いリリースの DB2 コピーでデータベース・バックアップ・イメージを RESTORE した後、Data Links を使用不可に設定して、データベースをバックアップします。次に、データベースのアップグレード先となる DB2 コピー・バージョンを使って RESTORE DATABASE コマンドを再発行します。
- Data Links をサポートする古いリリースの DB2 コピーを使用して Data Links を使用不可に設定した後、UPGRADE DATABASE コマンドを再発行します。
- DATALINK データ・タイプへのすべての参照を除去した後、データベース・オブジェクトを作成するステートメントを再発行します。

sqlcode: -20158

sqlstate: 42997

SQL20159W ステートメント・コンテキストにより、分離節は無視されます。

説明: インライン SQL として処理されるコンパウンド・ステートメントに含まれるステートメントで分離節が指定されています。分離節は無視され、デフォルト分離レベルが、コンパウンド・ステートメント内のすべてのステートメントで使用されます。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。この警告を回避するには、分離節を除去してください。

sqlcode: +20159

sqlstate: 01652

SQL20160W 許可は **USER** *userid* に対して付与されました。グループは、許可名が 8 バイトより長いために認識されませんでした。

説明: 許可名の長さが 8 バイトを超えています。特権は、一致する名前があるシステムで定義されたグループを認識せずに、許可名 *userid* でユーザーに認可されています。処理を続行します。

ユーザーの処置: 認可がユーザーに対してのものである場合、アクションは不要です。認可がグループに対して

のものである場合、8 バイトを超えるグループ名はサポートされていないため、代替のグループ名を選択する必要があります。この警告メッセージを防ぐには、許可名の前に **USER** キーワードを指定してください。

sqlcode: +20160

sqlstate: 01653

SQL20161W 列名 *column-name* は、イベント・モニター表には無効な列です。

説明: INCLUDES または EXCLUDES 節に指定された列名が、作成しているイベント・モニター表のどの有効な列とも一致しません。

ユーザーの処置: 指定した列名を確認して、訂正してください。

sqlcode: -20161

sqlstate: 428AA

SQL20165N FROM 節内の SQL データ変更ステートメントは、それが指定されるコンテキスト内では無効です。

説明: SQL データ変更ステートメントは特定のコンテキスト内の FROM 節に指定できます。SQL データ変更ステートメントは、以下で使用される FROM 節の唯一の表参照である必要があります。

- SELECT ステートメントの外部全選択
- SELECT INTO ステートメント
- 共通表式の外部全選択
- 割り当てステートメントの唯一の全選択

照会の他の部分で入力変数が使用されている場合、FROM 節の複数の行 INSERT に USING DESCRIPTOR 節を含めることはできません。FROM 節の複数の行 INSERT ステートメントは NOT ATOMIC を指定できません。XQuery ステートメント内の SQL 全選択に、FROM 節内の SQL データ変更ステートメントを含めることはできません。グローバル変数定義の DEFAULT 節内の SQL 全選択に、FROM 節内の SQL データ変更ステートメントを含めることはできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: FROM 節内の SQL データ変更ステートメントが、サポートされるコンテキストで使用され、FROM 節の唯一の表参照となるように、ステートメントを変更してください。

sqlcode: -20165

sqlstate: 428FL

SQL20166N SELECT 節内の SQL データ変更ステートメントが、対称でないビュー、または対称なビューとして定義できなかったビュー *view-name* を指定しました。

説明: SELECT ステートメント内の SQL データ変更ステートメントのターゲット・ビューは WITH CASCADED CHECK OPTION で定義される必要があります。あるいは、ビュー定義の全選択 (または参照ビューのビュー定義の全選択) が WITH CASCADED CHECK OPTION を使用して定義可能である必要があります。

対称ビューは WITH CASCADED CHECK OPTION を使用して暗黙的または明示的に定義されたビューです。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 指定したビューで SELECT ステートメント内の SQL データ変更ステートメントを使用しないでください。

sqlcode: -20166

sqlstate: 428FM

SQL20167N 共有メモリーの設定が、要求を処理するのに十分な大きさではありません。

説明: 以下のいずれかのリソース要求に対して、共有メモリー設定のメモリーが不十分です。

- FCM 接続項目
- FCM メッセージ・アンカー
- FCM 要求ブロック

ユーザーの処置: 要求を再試行してください。エラーが続く場合は、インスタンスを停止および再始動し、(DB2 によって自動的に更新される) 共有メモリー設定サイズ拡大を有効にして、要求を再試行してください。

sqlcode: -20167

sqlstate: 57011

SQL20168N ALTER BUFFERPOOL ステートメントは現在実行中です。

説明: ALTER 操作が進行中の場合は、バッファー・プールをドロップまたは変更することはできません。

ユーザーの処置: ALTER 操作が完了するまで待機してください。進行中の ALTER 操作の進行を確認するには、スナップショット・モニターを使用してください。

sqlcode: -20168

sqlstate: 55051

SQL20169W バッファー・プールが開始されていません。

説明: ステートメントは成功しましたが、バッファー・プールが開始されてから有効になります。

ユーザーの処置: ステートメントは正常に完了しました。データベースがアクティブ化されたときに有効になります。これは、すべてのアプリケーションが切断された後に発生します。即時にステートメントを有効にするには、バッファー・プールが開始されたときに再サブミットしてください。バッファー・プールを開始するには、IMMEDIATE オプションを使用してバッファー・プールをドロップおよび再作成する方法が可能な場合があります。

sqlcode: +20169

sqlstate: 01654

SQL20170N 指定したアクションを行うための十分なスペースが、表スペース *tablespace-name* ありません。理由コード = *reason-code*。

説明: DROP、REDUCE、RESIZE コンテナ・アクションのうち 1 つ以上を使用してスペースを表スペースから除去すると、その結果は以下のシナリオのいずれかになります。

- 1 除去中のスペース量が、スペース量の上限基準点を超えています。
- 2 除去中のスペース量によって、表スペースのエクステントは必要な 5 つのエクステントより少なくなります。

ユーザーの処置:

- 1 スナップショット・モニターを使用して、表スペースで使用できるページ数と、表スペースの上限基準点を調べてください。これらの値の差が、除去できるページの最大数です。
- 2 スナップショット・モニターを使用して、表スペースで使用できるページ数と、表スペースのエクステント・サイズを調べてください。表スペースで使用できるエクステント数は、使用できるページをエクステント・サイズで割った数と等しくなります。表スペースには、少なくとも 5 つのエクステント分の使用できるページがなければなりません。

sqlcode: -20170

sqlstate: 57059

SQL20173W イベント・モニターが正常に作成されましたが、少なくとも 1 つのイベント・モニター・ターゲット表がすでに存在していません。

説明: イベント・モニターを作成中に、データベース・マネージャーが 1 つ以上のターゲット表を作成しようとしたのですが、それらの名前の表はすでに存在していることが判別しました。イベント・モニターは正常に作成されましたが、ターゲット表は同じ名前のある表を置換せず、作成されませんでした。イベント・モニターがアクティブ化されると、これらの表の使用を試みます。アクティブ化処理でこれらの表が適切でないと判断されると、イベント・モニターのアクティブ化で失敗する可能性があります。

ユーザーの処置: 詳細情報については管理通知ログをチェックしてください。必要であれば、すべてのターゲット表をドロップし、すべてのターゲット表を作成するイベント・モニターを再作成してください。

sqlcode: +20173

sqlstate: 01655

SQL20178N ビュー *view-name* には、既に **INSTEAD OF trigger** トリガーが定義されています。

説明: ビュー *view-name* には、既に **INSTEAD OF** トリガーが指定された操作 (**UPDATE**, **DELETE**, **INSERT**) で定義されています。ビューの操作ごとに 1 つの **INSTEAD OF** トリガーのみを定義できます。

ステートメントは処理できません。 **INSTEAD OF** トリガーは作成されませんでした。

ユーザーの処置: 新規 **INSTEAD OF** トリガーが必要であれば、既存のトリガーをドロップしてから、新規トリガーを作成してください。

sqlcode: -20178

sqlstate: 428FP

SQL20179N ビュー *view-name* の定義方法が理由で、**INSTEAD OF** トリガーを作成できません。

説明: **INSTEAD OF** トリガーは以下では定義できません。

- **WITH CHECK OPTION** を使用して定義されたビュー
- 上記のようなビューが直接的または間接的に定義されたビュー
- 上記のようなビューが直接的または間接的に定義されたビュー

- **unfenced** ニックネームを参照するビューで、**Database Partitioning Feature** が有効になっている

INSTEAD OF UPDATE トリガーは以下では定義できません。

- **WITH ROW MOVEMENT** 節で定義されたビューにネストされたビュー
- ビューは **INSTEAD OF** トリガーのターゲット・ビューである可能性がある。あるいは、トリガーのターゲット・ビューに直接または間接的に依存するビューである可能性がある。
- ステートメントは処理できません。 **INSTEAD OF** トリガーは作成されませんでした。

ユーザーの処置:

- ビューが **WITH CHECK OPTION** を使用して定義されている場合、**WITH CHECK OPTION** 節を除去してください。
- ビューが **WITH ROW MOVEMENT** 節を使用して定義されたビューにネストされている場合、**WITH ROW MOVEMENT** 節を除去してください。
- ビューが **unfenced** ニックネームを参照している場合、別のビューを指定してください。

sqlcode: -20179

sqlstate: ビューの定義方法が原因で、**INSTEAD OF** トリガーを作成できません

SQL20180N 表 *table-name* の列 *column-name* を指定どおりに変更することができません。

説明: 列 *column-name* は、以下のいずれかの理由で変更できません。

- 表が履歴表として定義されている場合、**ALTER TABLE** に **ADD COLUMN** を指定できません。
- 表が履歴表として定義されている場合、**ALTER TABLE** に **ALTER COLUMN** を指定できません。
- 履歴表の列に対して **ALTER TABLE** を指定する場合、**ALTER COLUMN** で **SET GENERATED** を指定できません。
- 既に生成列であるか定義済みデフォルトがある列に対して **ALTER TABLE** を指定する場合、**ALTER COLUMN** で **SET GENERATED AS** を指定できません。
- 表が履歴表として定義されている場合、**ALTER TABLE** に **DROP COLUMN** を指定できません。
- **BUSINESS_TIME** 期間の一部として定義された列に対して **ALTER TABLE** を指定する場合、**DROP COLUMN** で **DROP NOT NULL** を指定できません。

- システム期間テンポラル表で行開始または行終了として定義された列に対して ALTER TABLE を指定する場合、DROP COLUMN で DROP GENERATED を指定できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: この列の名前を変更/ドロップが可能な列に変更し、必要な属性を指定して表を再作成します。

sqlcode: -20180

sqlstate: 428FR

SQL20183N 表 *table-name* は指定された表パーティション操作と互換性がありません。

説明: 表 *table-name* の PARTITIONING 節が、以下の理由で無効です。

ADD PARTITION BY が ALTER TABLE ステートメント、CREATE INDEX ステートメントまたは CREATE TABLE ステートメントで指定されましたが、その表はすでにパーティション化された表です。

ADD PARTITION、ALTER PARTITION、DROP PARTITION、または DROP DISTRIBUTION が ALTER TABLE ステートメントで指定されましたが、その表はパーティション化された表ではありません。その表はマテリアライズ照会表であるか、またはマテリアライズ照会表がこの表で定義されています。

HASH パーティションの ADD PARTITION が ALTER TABLE ステートメントで指定されましたが、その表はハッシュを使用してパーティション化されていません。

RANGE パーティションの DROP PARTITION が ALTER TABLE ステートメントで指定されましたが、PRESERVE ROWS 節が使用されました。PRESERVE ROWS 節は、HASH パーティションを持つパーティション表にのみ有効です。

ユーザーの処置: そのステートメントを有効なステートメントに変更するか、別の表を指定してからそのステートメントを再発行してください。

sqlcode: -20183

sqlstate: 428FT

SQL20188N *name* によって識別される主キーまたはユニーク・キーは、ORGANIZE BY 節の列のサブセットです。

説明: 主キーまたはユニーク・キーのすべての列が、表の ORGANIZE BY 節に組み込まれています。この場合、この表のページの各ブロックに 1 つの行しか含まれず、そのブロックの残りのスペースがすべて無駄にな

るため、これは許可されていません。

指定された場合、*name* は主キーまたはユニーク制約の制約名です。制約名が指定されなかった場合は、*name* が 3 つのピリオドが後に続く主キーまたはユニーク制約節に指定された最初の列名になります。ユニーク索引が作成される場合、*name* がそのユニーク索引の名前になります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: キーがディメンションのサブセットにならないように、主キーまたはユニーク・キーの定義、可能であれば、ユニーク索引定義または ORGANIZE BY 節を変更してください。

sqlcode: -20188

sqlstate: 429BE

SQL20189W メモリー不足のため、次回データベースを始動するまでバッファ・プール操作 (CREATE/ALTER) は有効になりません。

説明: CREATE または ALTER BUFFERPOOL ステートメントが発行されて、正常に完了しましたが、メモリー不足のため、作成/変更は DEFERRED (延期) されました。この変更は、データベースの次回始動時に有効になります。

ユーザーの処置: バッファ・プールのアクティブ化またはサイズ変更を、次の始動まで待ちたくない場合は、メモリー・リソースを解放し、(同じサイズが異なるサイズで) 再試行することができます。削減できるメモリー・リソースには、他のバッファ・プール、データベース・ヒープ、カタログ・キャッシュ、パッケージ・キャッシュ、およびユーティリティ・ヒープなどがあります。これらは、リソースに応じ、ALTER/DROP BUFFERPOOL または UPDATE DATABASE CONFIGURATION コマンドを使って削減できます。今後、バッファ・プール・メモリーの動的割り振りのための余分なメモリーを予約するためには、DATABASE_MEMORY データベース構成パラメーターを増やすことができます。

再試行しない場合:

- 失敗したのが ALTER BUFFERPOOL の場合は、バッファ・プールの現在のランタイム・サイズで実行を続けます。バッファ・プールの現在のランタイム・サイズは、データベース・モニターを使って確認できます。
- 失敗したのが CREATE BUFFERPOOL の場合は、バッファ・プールで作成される表スペースは、一時的に (次の始動まで)、一致するページ・サイズを持つ、隠れたバッファ・プールに入れられます。

SQL20190N

隠れたバッファ・プールは小さいため、この結果、性能が低下する可能性があります。

再試行する場合:

1. ALTER BUFFERPOOL の場合、コマンドを再サブミットしてください。
2. CREATE BUFFERPOOL の場合、バッファ・プールをドロップして、コマンドを再サブミットしてください。

sqlcode: +20189

sqlstate: 01657

SQL20190N データの不整合の可能性があるため、フェデレーテッド挿入、更新、または削除操作はコンパイルできません。

説明: データ・ソースがアプリケーション savepoint サポートを提供しておらず、サーバー・オプション 'iud_app_svpt_enforce' が 'Y' に設定されている場合、フェデレーテッド挿入、更新、または削除操作はプリコンパイル中にブロックされます。これにより、フェデレーテッド挿入、更新、または削除処理中にエラーを検出した場合、ランタイム実行時に発生する可能性のある、データ不整合の発生が回避されます。

ユーザーの処置: 可能な解決方法は、以下のとおりです。

- サーバー・オプション 'iud_app_svpt_enforce' を 'N' に変更する。
- 挿入、更新、または削除を直接データ・ソースに適用する。

sqlcode: -20190

sqlstate: 0A503

SQL20191N 動的に準備された CALL ステートメントの INOUT パラメーターの場合、同じホスト変数を USING 節と INTO 節の両方に使用する必要があります。

説明: CALL ステートメントでは、INOUT パラメーターは単一ホスト変数に対応している必要があります。動的に準備された CALL ステートメントを実行する場合は、同じホスト変数を EXECUTE ステートメントの USING 節と INTO 節の両方に指定する必要があります。

ユーザーの処置: INOUT パラメーターのパラメーター・マーカに対応するホスト変数を指定する場合は、EXECUTE ステートメントの USING 節と INTO 節の両方に同じホスト変数を使用してください。SQLDA を

使って INOUT パラメーターのパラメーター・マーカに対応するホスト変数を指定する場合は、対応する SQLVAR の SQLDATA ポインターが同じホスト変数を指している必要があります。

sqlcode: -20191

sqlstate: 560BB

SQL20192N 指定されたモードは、パーティション・データベース環境でしかサポートされていません。

説明: RECOMMEND PARTITIONINGS または EVALUATE PARTITIONINGS がパーティション・データベース環境で呼び出されませんでした。これら 2 つのモードは、パーティション・データベース環境でのみサポートされています。

ユーザーの処置: パーティション・データベース環境で RECOMMEND PARTITIONINGS または EVALUATE PARTITIONINGS を呼び出してください。

sqlcode: -20192

sqlstate: 56038

SQL20193N ファイル *file-name* にアクセス中にエラーが発生しました。理由コード: *reason-code*

説明: サーバー上のファイル *file-name* にアクセスしようとしたが、エラーが発生しました。理由コード 4 から 10 の場合、*file-name* は DB2_UTIL_MSGPATH レジストリー変数で指定されたディレクトリー内にあるか、またはインスタンスの一時ディレクトリーであるディレクトリー内にある可能性があります。検出された指定エラーは、以下の理由コードによって示されます。

- 1 ファイル・フォーマットのエラー。
- 2 通信エラー。
- 3 メモリー割り振りエラー。
- 4 DB2_UTIL_MSGPATH レジストリー変数により示されたディレクトリー・パスが存在しません。
- 5 ファイルが存在しません。
- 6 fenced ユーザー ID がファイルを作成できません (ディレクトリーへの実行アクセスがありません)。
- 7 fenced ユーザー ID がファイルを読み取れません (ディレクトリーへの読み取りアクセスがありません)。

- 8 fenced ユーザー ID がファイルへの書き込みができません (ディレクトリーへの書き込みアクセスがありません)。
- 9 ディスク・スペースがありません (ディスクが満杯です)。
- 10 ファイルは除去できません。

ユーザーの処置: 理由コードの情報を使用してファイルをアクセス可能にする方法を判断し、ステートメントを再サブミットしてください。

sqlcode: -20193

sqlstate: 560BC

SQL20194N バッファー・プール *bufferpool-name* は、データベース・パーティション *dbpartitionnum* に存在しません。

説明: ALTER BUFFERPOOL ステートメントは、バッファー・プール *bufferpool-name* を指定していますが、これはデータベース・パーティション *dbpartitionnum* に存在しません。

ユーザーの処置: ALTER DATABASE PARTITION GROUP ステートメントを使って、データベース・パーティション *dbpartitionnum* を、すでにバッファー・プール *bufferpool-name* が定義されているデータベース・パーティション・グループに追加します。バッファー・プールが特定のデータベース・パーティション・グループと関連付けられていない場合は、そのデータベース・パーティションを任意のデータベース・パーティション・グループに追加するか、このデータベース・パーティションのために新しいデータベース・パーティション・グループを作成します。ALTER BUFFERPOOL ステートメントを再度発行します。

sqlcode: -20194

sqlstate: 53040

SQL20195N パスの名前変更構成ファイル *config-file* の行番号 *line-number* を処理中に、エラーを検出しました。理由コード = *reason-code*。

説明: 現在のクラッシュまたはロールフォワード・リカバリー処理中に、パスの名前変更構成ファイル *config-file* が、コンテナの名前変更で使用されています。しかし、このファイルのステートメントを処理している間に、*line-number* 行目でエラーが検出され、それによりリカバリー処理の進行が妨げられました。このエラーの説明は、以下の理由コードで示されています。

1. 構文が無効である。

2. コンテナ・パスの長さがコンテナ・パスに許可されている最大長を超えている。
3. 指定されたコンテナ・パスが直前の行にすでにリストされている。
4. データベース・パスの長さがデータベース・パスに許可されている最大長を超えている。
5. 指定されたデータベース・パスが直前の行にすでにリストされている。
6. データベース・パスは、絶対パスでなければならない。
7. データベース・パスが誤って指定されている。
8. ワイルドカード文字 ("*") が間違って使用されています。

ユーザーの処置: 下記の手順に従って対応する変更を構成ファイルに加えてから、コマンドを再発行してください。

1. 構文エラーを訂正する。
2. 短いコンテナ・パスを指定する。
3. ファイルから重複するコンテナ・パスを除去する。
4. 短いデータベース・パスを指定する。
5. ファイルから重複するデータベース・パスを除去する。
6. 相対パスではなく、絶対パスでデータベース・パスを指定する。
7. ドライブ名の後にコロンを付ける形式でデータベース・パスを指定する (例えば C:;)。
8. ワイルドカード文字を使用している場合、以前のパスと新しいパスの両方で最後の文字である必要があります。

sqlcode: -20195

sqlstate: 08504

SQL20196N FROM SQL 関数またはメソッドから戻される 1 つまたは複数の組み込みタイプが、TO SQL 関数またはメソッドのパラメーターである、対応する組み込みタイプと一致しません。

説明: FROM SQL トランスフォーム関数またはメソッドから戻される組み込みタイプは、対応する TO SQL トランスフォーム関数またはメソッドのパラメーター・リストにあるタイプと一致している必要があります。

ユーザーの処置: 別の FROM SQL トランスフォーム関数またはメソッドか、TO SQL トランスフォーム関数またはメソッドを選択するか、FROM SQL トランスフォーム関数またはメソッドか TO SQL トランスフォー

SQL20197N

△関数またはメソッドを変更して、FROM SQL 関数またはメソッドから戻される各組み込みタイプが、TO SQL トランスフォーム関数またはメソッドのパラメーターである、対応する組み込みタイプと一致することを確認してください。

sqlcode: -20196

sqlstate: 428FU

SQL20197N *method-name* をオーバーライド・メソッドとして定義することはできません。理由コード *reason-code*

説明: *method-name* をオーバーライド・メソッドとして定義しようとしていました。このメソッドと元のメソッドの間のオーバーライド・リレーションシップは、*reason-code* によって指定された以下のいずれかの理由により作成できません。

- 1 同じ名前を持つ元のメソッドが見つからない。
- 2 元のメソッドとオーバーライド・メソッドの持つパラメーターの数が同じではない。
- 3 オーバーライド・メソッドのパラメーターのデータ・タイプが、元のメソッドの対応するパラメーターのデータ・タイプと一致しない。
- 4 オーバーライド・メソッドのパラメーターのパラメーター名が、元のメソッドの対応するパラメーターのパラメーター名と一致しない。
- 5 オーバーライド・メソッドのパラメーターのロケーター指示が、元のメソッドの対応するパラメーターのロケーター指示と一致しない。
- 6 オーバーライド・メソッドのパラメーターの FOR BIT DATA 指示が、元のメソッドの対応するパラメーターの FOR BIT DATA 指示と一致しない。
- 7 オーバーライド・メソッドの RETURNS 節に、AS LOCATOR 節として CAST FROM 節または FOR BIT DATA 節が含まれています。
- 8 次の継承されたメソッド属性の 1 つが指定されている: SELF AS RESULT、SQL ルーチン特性、または外部ルーチン特性。
- 9 オーバーライド・メソッドの戻りタイプが、元のメソッドの戻りタイプと一致しない。
- 10 オーバーライド・メソッドの戻りタイプが、以下のどちらのサブタイプでもない構造化タイプである。
 - 元のメソッドの戻りタイプ。
 - すでに元のメソッドをオーバーライドしているすべてのメソッドの各戻りタイプ。

ユーザーの処置: 次のように、*reason-code* によって指定された理由に基づいてメソッド定義を変更してください。

- 1 構造化タイプのスーパータイプに対する既存のメソッドを識別するメソッド名を使用する。
- 2 元のメソッドと同じ数のパラメーターをオーバーライド・メソッドに定義する。
- 3 元のメソッドの対応するパラメーターのデータ・タイプと一致するように、データ・タイプを変更する。
- 4 元のメソッドの対応するパラメーターの名前と一致するように、パラメーター名を変更する。
- 5 元のメソッドの対応するパラメーターのロケーター指示と一致するように、ロケーター指示を変更する。
- 6 元のメソッドの対応するパラメーターの FOR BIT DATA 指示と一致するように、FOR BIT DATA 指示を変更する。
- 7 オーバーライド・メソッドに対する AS LOCATOR 節、CAST FROM 節、および FOR BIT DATA 節を除去する。
- 8 SELF AS RESULT メソッド属性と、SQL ルーチン特性または外部ルーチン特性を除去する。
- 9 元のメソッドの戻りタイプと一致するように、戻りタイプを変更する。
- 10 元のメソッドと、元のメソッドをすでにオーバーライドしているすべてのメソッドのサブタイプになるように、戻りタイプを変更する。

sqlcode: -20197

sqlstate: 428FV

SQL20198N メソッド *method-name* は、自分自身を再帰呼び出ししています。

説明: メソッドが自分自身を再帰的に呼び出そうとしました。再帰の性質は、直接または間接の場合がありません。

ユーザーの処置: メソッドの定義を変更してください。

sqlcode: -20198

sqlstate: 55054

SQL20199N *tblspace-id* にある表 *table-id* の索引 *index-id* の索引拡張子によって使用されているキー・トランスフォーム表関数が、重複する行を生成しました。

説明: 索引 *index-id* によって使用されている索引拡張子の GENERATE USING 節で指定されたキー・トランスフォーム表関数が、重複する行を生成しました。キー・トランスフォーム表関数の呼び出しの場合、重複する行は作成されません。このエラーは、表スペース *tblspace-id* にある表 *table-id* の索引 *index-id* のキー値を挿入または更新しているときに発生します。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 重複する行が作成されないよう、索引 *index-id* の索引拡張子によって使用されているキー・トランスフォーム表関数のコードを変更しなければなりません。

索引名を判別するには、以下の照会を使用してください。

```
SELECT IID, INDSHEMA, INDNAME
FROM SYSCAT.INDEXES AS I,
     SYSCAT.TABLES AS T
WHERE IID = <index-id>
      AND TABLEID = <table-id>
      AND TBSPACEID = <tblspace-id>
      AND T.TBASCHEMA = I.TBASCHEMA
      AND T.TABNAME = I.TABNAME
```

sqlcode: -20199

sqlstate: 22526

SQL20200N *url* が見つからなかったため、*jar-id* のインストールまたは置換が失敗しました。

説明: jar インストールまたは置換プロシージャで指定された URL が、有効な jar ファイルを表していませんでした。

ユーザーの処置: 有効な jar ファイルを識別する URL で、jar インストールまたは置換プロシージャを再実行してください。

sqlcode: -20200

sqlstate: 46001

SQL20201N jar 名が無効であるため、*jar-id* のインストール、置換または除去が失敗しました。

説明: jar インストール、置換または除去プロシージャに、無効な jar 名が指定されました。たとえば、jar ID が不適切なフォーマットであるか、置換または除去の対象として存在しないか、あるいはすでに存在するためにインストールできない可能性があります。

ユーザーの処置: jar id が正しいフォーマットであることを確認してください。jar id が存在する場合、インストールする前にそれを除去するようお勧めします。除去または置換プロシージャの場合は、jar id が存在することを確認してください。

sqlcode: -20201

sqlstate: 46002

SQL20202N class がルーチン *routine-name* (特定名 *specific-name*) によって使用中であるため、*jar-id* の置換または除去が失敗しました。

説明: jar ファイル内で指定されているクラスが定義済みプロシージャによって現在使用されているか、または置換 jar ファイルにプロシージャが定義されている指定のクラスが入っていません。

ユーザーの処置: ドロップされるクラスを参照しているすべてのプロシージャがドロップされていることを確認し、置換または除去プロシージャを再サブミットしてください。

sqlcode: -20202

sqlstate: 46003

SQL20203N ユーザー定義関数またはプロシージャ *function-name* に、無効なシグニチャーのある Java メソッドがあります。

説明: 関数またはプロシージャを実装するために使用される java メソッドのシグニチャーが無効でした。たとえば、メソッドが対応する create ステートメントのパラメーターに、マッピング可能でないパラメーターを持っているか、またはプロシージャのメソッドが戻り値を指定している可能性があります。

ユーザーの処置: Java メソッドに一致するパラメーターを指定して、対応する CREATE ステートメントを再発行するか、またはパラメーターまたは Java メソッドの戻り値を訂正してクラスを再作成してください。

sqlcode: -20203

sqlstate: 46007

SQL20204N ユーザー定義関数またはプロシージャ *function-name* が単一の Java メソッドにマッピングできませんでした。

説明: 示されている関数またはプロシージャが一致する Java メソッドを見つけられなかったか、または複数の一致する Java メソッドを見つけました。

ユーザーの処置: Java メソッド、あるいは対応する

SQL20205N

create ステートメントを訂正して、関数またはプロシージャ呼び出しが 1 つの Java メソッドに解決されるようにしてください。

sqlcode: -20204

sqlstate: 46008

SQL20205N ユーザー定義関数またはプロシージャ *function-name* に、メソッドに渡すことができなかった NULL 値を持つ入力引数があります。

説明: "CALLED ON NULL INPUT" で作成された関数、またはプロシージャが NULL 値を持つ入力パラメータを持っていますが、この引数の Java データ・タイプは NULL 値をサポートしていません。NULL 値をサポートしていない Java データ・タイプの例は BOOLEAN、BYTE、SHORT、INT、LONG、または DOUBLE です。

ユーザーの処置: メソッドが NULL 値で呼び出される場合は、入力 Java タイプが NULL 値を受け入れ可能であることを確認してください。関数の場合、"RETURNS NULL ON NULL INPUT" で関数を作成することができます。

sqlcode: -20205

sqlstate: 39004

SQL20206W プロシージャ *function-name* が返した結果セットが多すぎます。

説明: 示されているプロシージャが、CREATE PROCEDURE ステートメントで指定された数よりも多い結果セットを返しました。

ユーザーの処置: 返される結果セットが少なくなるようにプロシージャを変更するか、またはこのプロシージャをドロップして再作成し、適切な数の結果セットを指定してください。

sqlcode: +20206

sqlstate: 0100E

SQL20207N *jar-id* の jar インストールまたは除去プロシージャが、デプロイメント記述子の使用を指定しました。

説明: jar インストールまたは置換プロシージャの DEPLOY または UNDEPLOY パラメーターが非ゼロでした。このパラメーターはサポートされていないので、ゼロにしなければなりません。

ユーザーの処置: DEPLOY または UNDEPLOY パラメ

ーターをゼロに設定して、プロシージャを再実行してください。

sqlcode: -20207

sqlstate: 46501

SQL20208N 表 *table-name* を作成できません。理由コード = *reason-code*。

説明: 以下の理由コードによって示されている制限を違反している、表を作成できません。

1. ステージング表の定義に使用される表が、REFRESH DEFERRED オプションを指定したマテリアライズ照会表ではない。
2. ステージング表の定義に使用される表には、すでに関連するステージング表がある。
3. CREATE TABLE ステートメントが、カタログされていないデータベース・パーティションから発行された場合、ニックネームを参照するマテリアライズ照会表は作成されません。
4. 保護された表、保護された表に依存したビュー、またはキャッシングが許可されていないニックネームを参照するマテリアライズ照会表は作成できません。
5. セキュリティー・ポリシーを、マテリアライズ照会表またはステージング表に追加できませんでした。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 理由コードに対応するアクションは、以下のとおりです。

1. ステージング表を定義するには、REFRESHED DEFERRED オプションを使ってマテリアライズ照会表を指定する。
2. ステージング表と関連しないマテリアライズ照会表を指定する。
3. カタログ・データベース・パーティションから CREATE TABLE ステートメントを発行する。
4. CREATE TABLE ステートメントで指定された全選択を訂正して、キャッシングが許可されていないニックネームを参照しないようにします。
5. SECURITY POLICY 節を CREATE TABLE ステートメントから除去してください。

sqlcode:-20208

sqlstate:428FG

SQL20209N *option-type* オプションは、表 *table-name* には無効です。理由コード *reason-code*

説明: 以下の理由コードが示す理由により、指定されたオプションは無効です。

1

SET INTEGRITY ペンディング・アクセスなし状態の表で READ ACCESS オプションを指定することはできない。

2

表にチェックされていない整合性タイプがある場合は、FULL ACCESS オプションは無効である。

3

FULL ACCESS オプションは、通常のデータ移動なしの状態の表またはデタッチされた表に対してのみ有効である。

4

表が通常のデータ移動なしの状態でない場合は、FULL ACCESS オプションを IMMEDIATE UNCHECKED オプションとともに指定することはできない。

5

ステージング表でない表で PRUNE オプションは無効である。

6

PRUNE および INCREMENTAL オプションを同時に指定することはできない。

7

データ・パーティションの関係する操作のために表が整合性チェックを必要とする場合は、ALL オプションを IMMEDIATE UNCHECKED オプションとともに指定することはできない。

8

以下の場合、ALL または GENERATED COLUMN オプションを IMMEDIATE UNCHECKED オプションと一緒に指定することはできない。すなわち、表のデータベース・パーティション・キー、表パーティション・キー、マルチディメンション・クラスタリング・キー、または範囲クラスタリング・キーの参照先が、ALTER TABLE ステートメントにより変更されている式を持つ生成列である場合。または、接続されたデータ・パーティションが表に含まれている場合。

9

ALLOW READ ACCESS オプションまたは ALLOW WRITE ACCESS オプションのいずれも、次のものには指定できない。すなわち、すべての行に対して ID 列値を生成させる表、完全に更新されることになるマテリアライズ照会表、その生成列または ID 列値を計算させることになる、ロード済みの表。

10

ALLOW QUERY OPTIMIZATION USING REFRESH DEFERRED TABLES オプションは、REFRESH DEFERRED マテリアライズ照会表でのみ指定できる。

11

このオプションは、テキスト形式で維持されるサマリー表では無効である。

12

このオプションは、テキスト形式で維持されるステージング表では無効である。

13

SET INTEGRITY ステートメントに複数のターゲット表があり、その中のいずれかのターゲット表が、アタッチされたデータ・パーティションと非パーティション・ユーザー索引の両方を持つパーティション表である場合、ALL オプションに IMMEDIATE UNCHECKED オプションを指定することはできません。

14

指定された表がシステム期間テンポラル表である場合、SET INTEGRITY ステートメントの中で GENERATE IDENTITY オプションを指定することはできません。

15

表がシステム期間テンポラル表である場合、FORCE GENERATED オプションは指定できません。

16

表がシステム期間テンポラル表である場合、FOR EXCEPTION 節は指定できません。

ユーザーの処置:

1

READ ACCESS オプションを指定しない。

2

- 3 FULL ACCESS オプションを IMMEDIATE CHECKED オプションとともに使用する。または ALL を整合性オプションとして IMMEDIATE UNCHECKED オプションとともに指定する。
- 4 FULL ACCESS オプションを IMMEDIATE CHECKED オプションとともに使用する。
- 5 FULL ACCESS オプションを IMMEDIATE UNCHECKED オプションなしで使用する。
- 6 ステージング表でない表をステートメントから除去する。
- 7 PRUNE または INCREMENTAL のいずれか 1 つを指定する。
- 8 ALL オプションを指定する代わりに、IMMEDIATE UNCHECKED オプションによって検査対象から外す integrity-options を明示的に指定する。次いでもう 1 つの SET INTEGRITY ステートメントを IMMEDIATE CHECKED オプションを指定して発行し、表のデータ・パーティションの整合性を検査する。
- 9 IMMEDIATE UNCHECKED オプションによって検査対象から外す integrity-options から、ALL または GENERATED COLUMN オプションを省略する。次いでもう 1 つの SET INTEGRITY ステートメントを IMMEDIATE CHECKED オプションと FORCE GENERATED オプションを指定して発行し、新しい式に基づいて生成列値を再計算する。表内のデータが新しい生成列式を間違いなく満たす場合は、FORCE GENERATED オプションを省略できる。
- 10 ALLOW NO ACCESS オプションを表に指定する。
- 11 ALLOW QUERY OPTIMIZATION USING REFRESH DEFERRED TABLES オプションを除去する。
- 12 テキスト形式で維持されるサマリー表をステートメントから除去する。
- 13 テキスト形式で維持されるステージング表をステートメントから除去するか、IMMEDIATE CHECKED オプションを指定する。
- 14 サポートされるオプションとターゲット表の組み合わせを指定して SET INTEGRITY ステートメントを再発行する。例えば、SET INTEGRITY ステートメントを発行するときに、ALL と IMMEDIATE UNCHECKED の各オプションを指定し、影響を受けるパーティション表だけをターゲットとして指定する。あるいは SET INTEGRITY ステートメントを発行するときに、代わりに IMMEDIATE CHECKED オプションと複数のターゲット表を指定する。
- 15 システム期間テンポラル表に NOT INCREMENTAL オプションが指定されている場合、GENERATE IDENTITY オプションを省く。
- 16 表がシステム期間テンポラル表である場合、FORCE GENERATED オプションを除去する。
- 17 表がシステム期間テンポラル表である場合、FOR EXCEPTION 節を除去する。

sqlcode: -20209

sqlstate: 428FH

SQL20211N ORDER BY または FETCH FIRST n ROWS ONLY の指定が無効です。

説明: ORDER BY または FETCH FIRST n ROWS ONLY は以下においては使用できません。

- ビューの外部全選択
- SQL 表関数の RETURN ステートメントにおける外部全選択
- マテリアライズ照会表の定義
- 括弧で囲まれていない副選択

ユーザーの処置: 以下のケースでは、次のようにしてください。

subselect

ORDER BY または FETCH FIRST n ROWS ONLY を含む副選択を括弧で囲んでください。

FETCH FIRST n ROWS ONLY

where 節の述部とともに ROW_NUMBER() OVER() 節を使用してください。例:

```
SELECT name FROM
  (SELECT
    ROW_NUMBER() OVER() AS m, name
  FROM emp
  ) AS e
WHERE m < 10
```

ORDER BY

ビュー、マテリアライズ照会表、または SQL 表関数を代わりに使って、照会で ORDER BY を使用してください。

sqlcode: -20211

sqlstate: 428FJ

SQL20212N ユーザー定義ルーチン *function-name* が Java クラス *class-name* を JAR *JAR-name* からロードしようとして例外を検出しました。オリジナル例外 *underlying-exception*。

説明: ClassNotFoundException が発生しました。

ClassNotFoundException は、クラスが見つからなかった原因をさらに詳しく説明するオリジナルの Java 例外を参照している可能性があります。たとえば、基となる例外は、JAR ファイルの読み取り試行中に発生した入出力エラーか、またはデータ・ディクショナリーから JAR を読み取り中に発生した SQL エラーである可能性があります。以下のトークンのうち、SQLCA 制限内に収まるだけのトークンが戻されます。

function-name は、実行により ClassNotFoundException を検出した外部 Java 関数またはプロシーチャーの特定名を識別します。

class-name は、定義の見つからない Java クラスを識別します。

JAR-name は、識別されたクラスを含むことを予期されている、インストール済み JAR を任意で識別します。外部 Java 関数またはプロシーチャーがインストール済み JAR に含まれるよう定義されていないかぎり、(none) が指定されます。

underlying-exception には、この ClassNotFoundException の結果として発生した、基となる例外の toString() が任意で含まれます。基となる例外がない場合は、(none) が指定されます。

ユーザーの処置: ALTER PROCEDURE を実行して、

クラスの場所を指定したり、指定された JAR またはシステム・クラスパスにクラスがあることを確認したり、*underlying-exception* によって報告された条件を訂正します。

sqlcode: -20212

sqlstate: 46103

SQL20223N ENCRYPT または DECRYPT 関数が失敗しました。暗号化機能は使用できません。

説明: 暗号化または暗号化解除要求を実行するための暗号化機能が使用できません。

ユーザーの処置: 暗号化機能がインストールされていない場合は、ENCRYPT または DECRYPT 関数を使用する前にインストールしてください。暗号化機能がインストールされている場合は、それが正しく機能していることを確認してください。

sqlcode: -20223

sqlstate: 560BF

SQL20225W バッファース・プール操作 (DROP) は、バッファース・プールが使用中のため、データベースの次回再始動時まで有効になりません。

説明: DROP BUFFERPOOL ステートメントが発行されて、正常に完了しましたが、表スペースがこのバッファース・プールをまだ使用しています。表スペースを他のバッファース・プールに再割り当てることはできますが、データベースを再始動するまでは、表スペースの再割り当ては有効になりません。この操作を確定する前に問題の表スペースがドロップされると、その時点で、メモリーからバッファース・プールが削除されます。このバッファース・プールは、次にデータベースを再始動するまでメモリー内に残るので、その他のバッファース・プールを作成または変更を行うと、そのことでこのバッファース・プールが再利用される場合は、その作成または変更操作は据え置かれます。

ユーザーの処置: メモリーからバッファース・プールを削除するには、データベースを再始動してください。

sqlcode: 20225

sqlstate: 01657

SQL20227N 式 *expression* の引数 *number* に必須の節がありません。

説明: *expression* 式の *number* 番の引数には節を指定する必要があります。 *expression* が XMLATTRIBUTES の場合、XML 属性名を指定する AS 節が必要です。

SQL20230N

expression が XMLFOREST の場合、XML 要素名を指定する AS 節が必要です。ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 引数に必要な節を指定して、ステートメントを訂正してください。

sqlcode: -20227

sqlstate: 42633

SQL20230N プロシージャ名が CALL ステートメントのホスト変数で指定されておらず、引数が USING DESCRIPTOR 節で指定されていない可能性があります。

説明: プロシージャ名は、CALL ステートメントの ID として指定する必要があるため、引数を明白に指定しなくてはなりません。ホスト変数はプロシージャ名に使用されない可能性があります。USING DESCRIPTOR 節が引数の指定に使用されない可能性があります。

ユーザーの処置: CALL ステートメントは、プロシージャ名の ID を指定するため、引数を明白にリストするために書き直す必要があります。プロシージャ名または引数のいずれかが実行時まで識別されない場合は、動的に準備された CALL ステートメントを使用してください。

V8 以前のリリースからマイグレーションされたアプリケーションの場合、CALL_RESOLUTION DEFERRED プリコンパイル・オプションは動的に準備された CALL ステートメントを使用するためにアプリケーションが書き直されるまで使用できます。

sqlcode: -20230

sqlstate: 42601

SQL20238N 表 *table-name* は、CCSID UNICODE として定義されており、SQL 関数または SQL メソッドで使用することができません。

説明: 非 Unicode データベースでは、ASCII コード化スキームを使用した表だけが SQL 関数または SQL メソッドの内部で参照される可能性があります。表 *table-name* が CCSID UNICODE として定義されているため、SQL 関数または SQL メソッドで使用されない可能性があります。

ユーザーの処置: CCSID UNICODE 表を SQL 関数または SQL メソッドで使用しないでください。

sqlcode: -20238

sqlstate: 560C0

SQL20239N Unicode コード化スキームで作成された表を型付き表にはできません。また、GRAPHIC タイプ、XML タイプ、またはユーザー定義タイプをその中で使用することもできません。

説明: 非 Unicode データベースでは、Unicode コード化スキームで作成された表を型付き表にはできませんし、GRAPHIC タイプ、XML タイプ、またはユーザー定義タイプで定義された列には含まれません。

ユーザーの処置: CCSID UNICODE 節、GRAPHIC タイプ、XML タイプ、またはユーザー定義タイプを表定義から除去してください。

sqlcode: -20239

sqlstate: 560C1

SQL20240N タイプ DB2SECURITYLABEL の列 *column-name* の指定が無効です。理由コード: *reason-code*

説明: タイプ DB2SECURITYLABEL の列に関して、CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントでの属性の指定は、以下の理由で無効となる場合があります。

4

作成済み一時表または宣言済み一時表に関するセキュリティー・ラベル列を定義することはできません。

10

タイプ DB2SECURITYLABEL の列は生成された列として定義できません。

ユーザーの処置: タイプ DB2SECURITYLABEL の列の指定を訂正してから、ステートメントを再サブミットしてください。

sqlcode: -20240

sqlstate: 42963

SQL20241N ドロップされた表 *table-name* に対する履歴ファイル項目の書き込みが失敗しました。

説明: ドロップされた表のリカバリーは、ドロップされた表 *table-name* が常駐する表スペースで可能です。表スペースがドロップされた表のリカバリーを可能にすると、履歴ファイル項目が、表のドロップの一部として作成されます。この履歴ファイルには、ドロップされた表のリカバリー中に役立つデータが含まれます。ドロップされた表に新規履歴ファイル項目を書き込むことはでき

ませんでした。その結果、表のドロップを完了できませんでした。

履歴ファイルがあるファイル・システム全体に、このような失敗の原因があると考えられます。

ユーザーの処置: 履歴ファイルがデータベース・マネージャによる書き込みができるかどうか確認してください。ドロップされた表のリカバリーが必要ない場合は、この機能を無効にし、DROP TABLE ステートメントを再発行してください。

sqlcode: -20241

sqlstate: 560C2

SQL20242N TABLESAMPLE 節で指定されたサンプルのサイズは無効です。

説明: TABLESAMPLE 節で指定されたサンプルのサイズは、100 以下の正の数値である必要があります。

このステートメントは処理されませんでした。

ユーザーの処置: TABLESAMPLE 節で指定されたサンプルのサイズを、100 以下の正の数値に変更してください。

sqlcode: -20242

sqlstate: 2202H

SQL20243N ビュー *view-name* は MERGE ステートメントのターゲットですが、*operation* 操作の INSTEAD OF トリガーが欠落しています。

説明: ビュー *view-name* は、MERGE ステートメントの直接または間接ターゲットで、INSTEAD OF トリガーをターゲットように定義していますが、すべての操作に対して、INSTEAD OF トリガーを定義しているわけではありません。 *operation* 操作に対するトリガーはありません。

ユーザーの処置: ビュー *view-name* に、UPDATE、DELETE、および INSERT 操作に対する INSTEAD OF トリガーを作成するか、またはビューに対するすべての INSTEAD OF トリガーをドロップしてください。

sqlcode: -20243

sqlstate: 428FZ

SQL20247N 表 *table-name* をパーティション化することができず、この表にはデータ・タイプ DATALINK の列が含まれています。

説明: データ・タイプ DATALINK の列が含まれるパ

ーティション表を作成するという方法で、表 *table-name* の作成または変更が試みられました。表をパーティション化することと、表にこうした列を含めることの両方を行うことはできません。

ユーザーの処置: 表を作成または変更してパーティション化するか、またはデータ・タイプ DATALINK の列を含めるかのいずれかを行ってください。しかし両方を行うことはできません。

sqlcode: -20247

sqlstate: 429BH

SQL20249N パッケージ *package-name* を明示的に再バインドする必要があります。

説明: パッケージ *package-name* には再バインドする必要があるセクションが含まれています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: REBIND コマンドまたは BIND コマンドを使って、パッケージを明示的に再バインドしてください。関数およびデータ・タイプの解決方法を保持するには、REBIND コマンドで RESOLVE CONSERVATIVE オプションを指定してください。

sqlcode: -20249

sqlstate: 560C5

SQL20250N データ・パーティションの数が表の表スペースの数を超過しています。

説明: パーティション化された表が NO CYCLE で定義されましたが、指定した表パーティションの数に対して十分な表スペースが定義されていません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: CREATE TABLE ステートメントで、表に対して追加の表スペースを指定するか、表の NO CYCLE の指定を除去してください。

sqlcode: -20250

sqlstate: 428G1

SQL20251N 最後のデータ・パーティションを表 *table-name* からデータタッチすることはできません。

説明: ALTER TABLE ステートメントの結果、最後に残ったデータ・パーティションは表からデータタッチされません。この操作は許可されていません。パーティション化された表には、標準のまたは接続されている状況にある、少なくとも 1 つのデータ・パーティションがなければなりません。パーティション化された表は、データ

SQL20253N

チされた状況にあるデータ・パーティションのみを持つことはできません。パーティションの状況を判別するには、カタログ・ビュー SYSCAT.DATAPARTITIONS を照会してください。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ALTER TABLE ステートメントにより、表内に少なくとも 1 つのデータ・パーティションが残ることを確認してください。

sqlcode: -20251

sqlstate: 428G2

SQL20253N 競合する削除規則のマルチ・リレーションシップにより、BEFORE トリガーまたは生成列が定義されている表を、少なくとも 1 つの上位表に連結削除することになるため、BEFORE トリガーまたは生成列 *name* を作成または変更できません。制約 *constraint-name1* および *constraint-name2* 削除規則間に競合があります。理由コード = *reason-code*。

説明: CREATE TRIGGER、CREATE TABLE、または ALTER TABLE ステートメントの BEFORE トリガーまたは生成列 *name* の定義は、次の *reason-code* で指定された理由により、無効です。

1. 制約 *constraint-name1* の削除規則を実行すると、BEFORE トリガー *name* および BEFORE トリガーの本文が、制約 *constraint-name2* の外部キーの一部である列を変更、または、制約 *constraint-name2* の外部キーの一部である生成列が参照する列を変更する。
2. 制約 *constraint-name1* の削除規則を実行すると、生成列 *name* および制約 *constraint-name2* の外部キーの一部である生成列自体の更新が発生する。
3. BEFORE トリガーまたは生成列、*name* を追加すると、制約 *constraint-name1* と *constraint-name2* を実行を実行するとき両方が同じ列を更新する。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 理由コードに対応するアクションは、以下のとおりです。

1. 制約 *constraint-name1* の削除規則の実行時に BEFORE トリガーを発生しないよう BEFORE トリガー定義を変更するか、または制約 *constraint-name2* の外部キーの一部である列を変更せず、かつ制約 *constraint-name2* の外部キーの一部である生成列が参照する列を変更しないよう BEFORE トリガーの本文を変更してください。

2. 制約 *constraint-name1* の削除規則の実行時に生成列が更新されないよう生成列式を変更、または、制約 *constraint-name2* の外部キーが生成列を含まないように変更してください。
3. 制約 *constraint-name1* と *constraint-name2* の両方の実行時に同じ列を更新しないよう BEFORE トリガー定義または生成列式を変更してください。

sqlcode: -20253

sqlstate: 42915

SQL20254N 外部キー *name* は、表 *table-name* を RESTRICT または SET NULL のいずれかの削除規則が含まれるサイクルにより、このキー自身に連結削除することになるため無効です。理由コード = *reason-code*。

説明: 参照サイクルに RESTRICT または SET NULL の削除規則が含まれないようにしてください。

CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントの外部キー *name* に指定された削除規則は、次の *reason-code* で指定された理由により、無効です。

1. 指定された削除規則が RESTRICT または SET NULL であり、参照リレーションシップにより、表 *table-name* が表自身に連結削除される。
2. 指定された削除規則が CASCADE でありながら、参照リレーションシップは、RESTRICT または SET NULL のいずれかの削除規則が含まれるサイクルによって表 *table-name* が表自身に連結削除される。

FOREIGN KEY 節で指定すると、*name* は制約名になります。制約名を指定しなかった場合、*name* は FOREIGN KEY 節の列リストで指定された、3 つのピリオドが後に続く最初の列名になります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 理由コードに対応するアクションは、以下のとおりです。

1. 削除規則を CASCADE または NO ACTION に変更するか、あるいは CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントから特定の FOREIGN KEY 節を取り除いてください。
2. 削除規則を NO ACTION、RESTRICT、または SET NULL に変更するか、または CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントから特定の FOREIGN KEY 節を取り除いてください。

sqlcode: -20254

sqlstate: 42915

SQL20255N 外部キー *name* は、下層表 *descendent-table-name* を、競合する削除規則とのマルチ・リレーションシップにより、下層表の上位表 *ancestor-table-name* に連結削除することになるため、無効です。下層表の制約 *constraint-name1* および *constraint-name2* の削除規則間に競合があります。理由コード = *reason-code*。

説明: CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントの外部キー *name* に指定された参照制約は、次の *reason-code* で指定された理由により、無効です。

1. リレーションシップが自己参照で、RESTRICT または SET NULL の削除規則により指定されており、表が CASCADE 削除規則とのリレーションシップにある従属表である。
2. リレーションシップが CASCADE 削除規則により指定されており、RESTRICT または SET NULL 削除規則との自己参照リレーションシップが表にすでに存在する。
3. 外部キーは、既存リレーションシップの外部キーとオーバーラップしており、これらの削除規則が同じでないか、またはどちらかが SET NULL である。
4. リレーションシップが CASCADE 削除規則で指定されており、この規則によって、少なくとも 2 つのリレーションシップにオーバーラップする外部キーがあり、これらの削除規則が同じではなく、いずれかが SET NULL である複数のリレーションシップを介して、下層表がその上位表に連結削除される。
5. 競合する参照制約の少なくとも 1 つが SET NULL 削除規則で指定されており、その外部キー定義がパーティション・キーまたは MDC 表のディメンションのいずれかとオーバーラップしている。
6. リレーションシップが CASCADE 削除規則で指定されており、この規則によって、少なくともリレーションシップのいずれかが SET NULL の削除規則に指定されており、オーバーラップする外部キーがあり、外部キー定義がパーティション・キーまたは MDC 表のディメンションとオーバーラップしている複数のリレーションシップを介して、下層表がその上位表に連結削除される。
7. BEFORE トリガーと生成列では、新規の参照制約定義が既存の参照制約と競合する。
8. BEFORE トリガーと生成列では、新規の参照制約により、連結削除されたグラフで別の競合する参照制約の共存が発生する。

FOREIGN KEY 節で指定すると、*name* は制約名になります。制約名を指定しなかった場合、*name* は FOREIGN KEY 節のリストで指定された、3 つのピ

リオドが後に続く最初の列名になります。同一の規則が *constraint-name1* および *constraint-name2* に適用されません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 理由コードに対応するアクションは、以下のとおりです。

1. 削除規則を CASCADE または NO ACTION に変更するか、あるいは CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントから特定の FOREIGN KEY 節を取り除いてください。
2. 削除規則を NO ACTION、RESTRICT、または SET NULL に変更するか、または CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントから特定の FOREIGN KEY 節を取り除いてください。
3. 既存の外部キー定義にすでに含まれている外部キー定義に列を定義しないようにするか、または既存の参照制約の削除規則が SET NULL でない場合は、新規参照制約の削除規則を同じになるように変更してください。
4. 削除規則を NO ACTION、RESTRICT、または SET NULL に変更するか、または CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントから特定の FOREIGN KEY 節を取り除いてください。
5. 既存のパーティション・キー定義にすでに含まれている外部キー定義に列を指定しないようにするか、または CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントから特定の FOREIGN KEY 節を取り除いてください。
6. 削除規則を NO ACTION、RESTRICT、または SET NULL に変更するか、または CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントから特定の FOREIGN KEY 節を取り除いてください。
7. 削除規則を NO ACTION に変更するか、参照制約で発生するトリガーを除去するか、または、新規の参照制約を作成しないでください。
8. 削除規則を NO ACTION、RESTRICT、または SET NULL に変更するか、または ALTER TABLE ステートメントから特定の FOREIGN KEY 節を取り除いてください。

sqlcode: -20255

sqlstate: 42915

SQL20256N 外部キー *name* は、2 つの表 *table-name1* と *table-name2* を、CASCADE リレーションシップにより同一の上位表 *ancestor-table-name* に連結削除される一方で、相互に連結削除することになるため、

無効です。理由コード = *reason-code*。

説明: 2つの表が CASCADE リレーションシップによって同じ表に連結削除される場合、それぞれのパスの最後のリレーションシップの削除規則が RESTRICT または SET NULL である 2つの表を相互に連結削除しないようにしてください。CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントの FOREIGN KEY 節内に指定された削除規則が、次の *reason-code* で指定される理由により無効です。

1. リレーションシップが RESTRICT または SET NULL 削除規則により指定されており、2つの表が相互に連結削除される。
2. リレーションシップが CASCADE 削除規則により指定されており、それぞれのパスの最後のリレーションシップの削除規則が RESTRICT または SET NULL である 2つの表を相互に連結削除する。ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 理由コードに対応するアクションは、以下のとおりです。

1. 削除規則を CASCADE または NO ACTION に変更するか、あるいは CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントから特定の FOREIGN KEY 節を取り除いてください。
2. 削除規則を NO ACTION、RESTRICT、または SET NULL に変更するか、または CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントから特定の FOREIGN KEY 節を取り除いてください。

sqlcode: -20256

sqlstate: 42915

SQL20257N 全選択中の SQL データ変更ステートメントのターゲット・ビュー *viewname* に INSTEAD OF トリガーが定義されている場合、FINAL TABLE は無効です。

説明: 全選択には、SQL データ変更操作に INSTEAD OF トリガーを定義されたビューをターゲットとする INSERT または UPDATE ステートメントなどがあります。INSTEAD OF トリガーでの FINAL TABLE の結果を戻すことはできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: FINAL TABLE を NEW TABLE に変更するか、または INSTEAD OF トリガーをドロップします。

sqlcode: -20257

sqlstate: 428G3

SQL20258N INPUT SEQUENCE 配列の使用が無効です。

説明: ORDER BY 節は INPUT SEQUENCE を指定しているのに対して、全選択の FROM 節は INSERT ステートメントを指定していません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 全選択の FROM 節が INSERT ステートメントを指定する場合は、INPUT SEQUENCE を使用してください。

sqlcode: -20258

sqlstate: 428G4

SQL20259N 全選択の FROM 節中のデータ変更ステートメントのターゲットから、列 *column-name* を選択できません。

説明: この照会の選択リストに指定できない列を選択しました。NEW TABLE または FINAL TABLE を使って FROM 節に指定された INSERT または UPDATE ステートメントのターゲットであるビューまたは全選択内の列が、この列のベースになっています。選択する列のベースは、以下のとおりです。

- 副照会
- SQL データの読み取りまたは変更を行う関数。
- 決定論的 (Deterministic) であるかまたは外部アクションをとまなう関数。
- OLAP 関数。
- シーケンスの次の値。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 選択リストを変更して、列を除去してください。

sqlcode: -20259

sqlstate: 428G6

SQL20260N UPDATE ステートメントの割り当て節は、INCLUDE 列以外の 1 つ以上の列を指定する必要があります。

説明: UPDATE ステートメントに INCLUDE 列を指定しましたが、INCLUDE 列に対してしか割り当ては行われていません。UPDATE ステートメント内の割り当てのうちの少なくとも 1 つは、UPDATE ステートメントのターゲットの列に対するものでなければなりません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: UPDATE ステートメントのターゲット

トの列に対する割り当てを指定するようにステートメントを変更してください。

sqlcode: -20260

sqlstate: 428G5

SQL20261N UNION ALL ビュー *view-name* 内の表 *table-name* への行移動は無効です。

説明: 表 *table-name* 上のチェック制約が原因で、更新済みの行が拒否されました。 *view-name* の別の基礎表にその行を挿入しようとしたときは、表 *table-name* はその行を受け入れました。移動される行の宛先表は、元の表と同じであってはなりません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ターゲット表での *before update* トリガーと *before insert* トリガーの相互作用を確認してください。行移動を実行すると、DB2 では最初に更新前トリガーが実行されて、それによって行が修正されることがあります。次に、拒否された行は *before insert* トリガーによって処理される可能性があり、その場合、ターゲット表のチェック制約であらためて受け入れられるようにその行が再び修正されることになります。

このように処置されないように、トリガーを変更してください。

sqlcode: -20261

sqlstate: 23524

SQL20262N ビュー *view-name* での WITH ROW MOVEMENT の使用は無効です。理由コード = *reason-code*。

説明: ビュー *view-name* は、WITH ROW MOVEMENT 節を使って定義されています。以下のうちの 1 つが原因で、この節をビューで用いることはできません。

1. そのビューの最も外側の全選択が UNION ALL ではない。
2. そのビューには、最も外側の全選択のもの以外のネストされた UNION ALL 操作が入っている。
3. すべてのビュー列が更新可能というわけではない。
4. ビューの 2 つの列が、基本表の同一列をベースにしている。
5. 基本ビューのうちの 1 つで、INSTEAD OF UPDATE トリガーが定義されている。
6. そのビューに、システム期間テンポラル表またはアプリケーション期間テンポラル表への参照が含まれている。

ビューを作成できません。

ユーザーの処置: 理由コードに応じて、以下の処置を行ってください。

1. WITH ROW MOVEMENT 節を省略します。これは、UNION ALL のないビューには適用されません。
2. 最も外側の全選択でのみ UNION ALL が出現するように、ビュー本体を書き直してください。
3. ビュー定義から更新できない列を省略してください。
4. 基本表の各列が、ビュー定義内で 1 回のみ参照されるように、ビュー本体を書き直します。
5. 新たに定義したビュー上で、WITH ROW MOVEMENT 節を省略して、INSTEAD OF UPDATE トリガーを使用してください。
6. システム期間テンポラル表またはアプリケーション・テンポラル表への参照を除去します。

sqlcode: -20262

sqlstate: 429BJ

SQL20263N ビュー *view-name2* は、WITH ROW MOVEMENT を使って定義されているので、ビュー *view-name1* の更新の試みは無効です。

説明: *view-name1* を更新する試みは失敗しました。これには、WITH ROW MOVEMENT 節を指定して定義されているビュー *view-name2* が関与した UNION ALL 操作が直接的または間接的に組み込まれているからです。

ステートメントは実行できません。

ユーザーの処置: ビュー *view-name2* をドロップし、WITH ROW MOVEMENT 節を使わないで再作成してください。

sqlcode: -20263

sqlstate: 429BK

SQL20264N 表 *table-name* では、許可 ID *auth-id* には列 *column-name* への *access-type* アクセスがありません。

説明: *table-name* という名前の表にアクセスする際に、許可 ID *auth-id* は *access-type* のアクセスを列 *column-name* に対して試行しています。許可 ID には、その方法で列にアクセスするために必要な LBAC 信用証明情報がありません。

生成列を作成している場合、生成式に列を含めるには、列を読み取るための LBAC 信用証明情報が必要です。

ユーザーの処置: SECADM 権限を持つユーザーに連絡して、列 *column-name* への *access-type* アクセスを許可する許可 ID *authid* LBAC 信用証明情報を付与するよう依頼してください。

sqlcode: -20264

sqlstate: 42512

SQL20267N 関数 *function-name* (特定の *specific-name*) は、SQL データを修正しますが、正しくないコンテキストで起動されました。理由コード = *reason-code*。

説明: 特定名 *specific-name* を使った関数 *function-name* は、MODIFIES SQL DATA プロパティを使って定義されています。このプロパティをもつ関数を使えるのは、選択ステートメント、共通表式、副選択である RETURN ステートメント、SELECT INTO ステートメント、または SET ステートメント内の行全選択内の最後の表参照としてのみです。また、表関数に対するどの引数も、表関数と同じ FROM 節内の表参照と相互に関連付けられていなければならない、さらにどの表参照も、表関数内のいずれかの引数と相互に関連付けられていなければならない。引数が表参照と相互に関連付けられるのは、その表参照の列である場合です。

理由コード:

1. 表関数の後に表参照が続いています。
2. 最も外側の副選択中で表関数が参照されていません。
3. 関数の引数によって参照されていない表参照が、表関数の前に置かれています。
4. ビュー定義の本体内で表関数が使われています。
5. 表関数が XQuery コンテキスト内の全選択で使用されています。
6. 表関数が OUTER JOIN 演算子によって参照されています。あるいは、他の明示的な結合の中でネストされています (中間結合表節を使用して)。
7. プロシージャ定義のグローバル変数またはパラメーターに関するデフォルト節で関数が参照されています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置:

1. 表関数が、FROM 節の最後の表参照になるように、照会を書き直してください。
2. 最も外側の副選択内に入るように表関数を移動してください。

3. 表関数内で相互に関連付けられていない表参照を除去するか、または表参照と相互に関連付けられている引数を表関数の中に組み込んでください。
4. ビュー定義の本体から表関数を除去してください。
5. XQuery コンテキスト内の全選択から表関数を除去してください。
6. OUTER JOIN 演算子を除去するか、またはネストされた明示的な結合内には表関数を置かないにします。
7. プロシージャ定義のグローバル変数またはパラメーターに関するデフォルト節から関数を除去します。

理由コード 1、2、および 3 の場合、共通表式を使って照会を書き直して、表関数の呼び出しを個別化することができます。例えば:

```
SELECT c1 FROM
  (SELECT c1 FROM t1, t2,
   TABLE(tf1(t1.c1) AS tf), t3)
  AS x, t4
```

上記を次のように書き直すことができます。

```
WITH cte1 AS (SELECT c1 FROM t1,
  TABLE(tf1(t1.c1)) AS tf),
  x AS (SELECT c1 FROM t2, cte1, t3)
  SELECT c1 FROM x, t4;
```

sqlcode: -20267

sqlstate: 429BL

SQL20268N 照合は適用できませんでした。理由コード = *reason-code*。

説明: 照合は理由コード *reason-code* で適用できませんでした。理由コードおよびその意味は以下のとおりです。

- 1 照合を適用した結果が 32,742 バイトより大きくなりました。
- 2 照合は関数 LOCATE、POSITION、および POSSTR に適用できません。
- 3 照合は LIKE 述部または %WLDCRD 関数に適用できません。
- 4 照合は FOR BIT DATA ストリングに適用できません。

ユーザーの処置: それぞれの理由コードごとに以下のようになります。

- 1 生成された照合キーはソース・ストリングよりも長く、選択した照合に依存しています。ソース・ストリングの長さを減らすか、あるいは異なる照合を選択してください。

- 2 関数を省略するか、あるいは UCA 以外の照合を指定してください。
- 3 関数を省略するか、あるいは UCA 以外の照合を指定してください。
- 4 FOR BIT DATA ストリングを使用しないでください。

sqlcode: -20268

sqlstate: 429BM

SQL20269N 強制されている参照制約の中でニックネーム *nickname* を参照することはできません。

説明: CREATE TABLE ステートメントの参照制約が無効です。その制約定義で ENFORCED が指定されていますが、ニックネームが参照されています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: NOT ENFORCED を指定するように参照制約を変更するか、またはニックネームへの参照を削除してください。

sqlcode: -20269

sqlstate: 428G7

SQL20271W 名前 *name* のステートメントの中の位置 *number* にある名前は、切り捨てられました。

説明: 示されているステートメントの中の 1 つ以上の名前が切り捨てられました。切り捨てられた最初の名前は、名前 *name* および順序位置 *number* で識別されるものです。準備済み照会の describe output を実行している場合、この順序位置は、その照会の選択リスト列に対する相対値です。CALL ステートメントの describe output を実行している場合、この順序位置は、その CALL の解決先プロシーチャーの OUT または INOUT パラメーターに対する相対値です。CALL ステートメントの describe input を実行している場合、この順序位置は、その CALL の解決先プロシーチャーの IN または INOUT パラメーターに対する相対値です。

列名、パラメーター名、ユーザー定義タイプ名、またはユーザー定義タイプ・スキーマ名が長すぎるか、またはコード・ページ変換後の結果が長すぎます。

SQLDA 構造を使用する場合、列名、パラメーター名、ユーザー定義タイプ名、およびユーザー定義タイプ・スキーマ名の長さが制限されることに注意してください。

ユーザーの処置: 正確な名前またはスキーマを指定することが必要な場合は、

1. サポートされている最大長を超えて拡張されることのないようなコード・ページの指定されているクライアントを使用してください。
2. 列名の場合、列の名前がもっと短くなるように表、ビュー、またはニックネームを変更してください。
3. パラメーター名の場合、パラメーターの名前がもっと短くなるようにプロシーチャーを変更してください。
4. ユーザー定義タイプ名またはユーザー定義タイプ・スキーマ名の場合、ユーザー定義タイプの名前がもっと短くなるようにユーザー定義タイプをドロップおよび再作成してください。
5. スキーマ名の場合、表、ビュー、プロシーチャー、またはユーザー定義タイプを変更してください。

sqlcode: +20271

sqlstate: 01665

SQL20273N データベースはフェデレーション可能になっていないので、ニックネーム統計を更新できません。

説明: エラーがインスタンス・レベルで検出されました。このインスタンスのフェデレーションは有効になっていないので、要求された操作を完了できません。

ユーザーの処置: DBM 変数 FEDERATED を YES に設定してから、データベース・マネージャーを再始動してください。

sqlcode: -20273

sqlstate: 55056

SQL20274W 一部のニックネーム統計を更新できません。

説明: DB2 は、ニックネームに対して照会を実行して統計を収集できないか、または DB2 は、フェデレーテッド・データベース・システムのカタログに更新結果を書き込めないかのどちらかです。

ユーザーの処置: ログ・ファイルのパスを指定していた場合、ニックネーム統計の更新エラーはログ・ファイルに一覧で示されています。

sqlcode: +20274

sqlstate: 550C8

SQL20275N XML 名 *xml-name* は無効。理由コード = *reason-code*。

説明: 以下の理由コードで示されている制約に対する違反のため、ステートメントを処理できません。

SQL20276N

1. xmlns が属性名として、またはエレメントまたは属性の名前の接頭部として使用された。
2. 修飾名中の名前空間接頭部は、その有効範囲内で宣言されていない。
3. エレメントまたは属性の名前は XML QName ではない。
4. XML 処理命令の名前が XML NCName ではない。
5. XML 処理命令の名前には「xml」を含めることができない (大/小文字のいずれの組み合わせでも)。
6. XMLTABLE、XMLQUERY、または XMLEXISTS 式の引数の名前が XML NCName ではない。

ユーザーの処置: XML 名を訂正して、ステートメントを再サブミットしてください。

sqlcode: -20275

sqlstate: 42634

SQL20276N XML 名前空間接頭部

xml-namespace-prefix は無効です。理由コード = *reason-code*。

説明: 以下の理由コードで示されている制約に対する違反のため、ステートメントを処理できません。

1. 名前空間接頭部は XML NCName ではありません。
2. xml または xmlns を名前空間接頭部として再宣言することはできません。
3. 重複する名前空間接頭部が宣言されました。

ユーザーの処置: XML 名前空間接頭部を訂正して、ステートメントを再サブミットしてください。

sqlcode: -20276

sqlstate: 42635

SQL20277W コード・ページ *source-code-page* からコード・ページ *target-code-page* への変換を実行中に、文字が切り捨てられました。ターゲット域の最大サイズは、*max-len* でした。ソース・ストリングの長さは *source-len* で、その 16 進数表記は *string* でした。

説明: SQL ステートメントの実行中に、コード・ページ変換処理の結果が、ターゲット・オブジェクトの最大サイズより大きなストリングになりました。ターゲット領域に入るよう、文字が切り捨てられました。

ユーザーの処置: 切り捨てにより予期しない結果になった場合には、ターゲット列を長くしてからステートメントを再び発行してください。

sqlcode: +20277

sqlstate: 01004

SQL20278W 照会の処理の最適化にビュー *viewname* を使用することはできません。

説明: ビューが照会内で直接参照されない場合にはビュー上の統計を最適化に使用することを禁止するエレメントが、ビューの全選択に組み込まれています。全選択中のそのようなエレメントには次のものがあります。

- 集約関数
- 別個の操作
- SET 操作 (UNION、EXCEPT、または INTERSECT)

照会の最適化を有効にするためのビューの変更は正常に完了します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。ビューを直接参照しない照会の最適化がビューの目的であれば、ビューをドロップするか、または最適化を無効にすることができます。また、最適化の妨げとなるエレメントの除去のために、ビューの全選択を定義することを検討してみることができます。

sqlcode: +20278

sqlstate: 01667

SQL20279N ビュー *view-name* を照会の最適化に使用できません。理由コード = *reason-code*。

説明: ビューでは ENABLE QUERY OPTIMIZATION オプションは許可されません。この機能の利点を活用する一連の照会に対して全選択が適合していないからです。ステートメントは次の理由のいずれかで失敗しました。

1. ビューは、既存のマテリアライズ照会を直接または間接に参照している。
2. ビューは、型付きビューである。
3. ビューが外部アクションを含む関数を参照している。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 理由コードに基づいたアクションは、以下のとおりです。

1. マテリアライズ照会表への参照を除去してください。
2. 型付きビュー上で統計を指定する手段はありません。型付きビューではない似通ったビューを定義すれば、統計を使った最適化を有効にすることができます。
3. ビュー照会から、外部アクションを含む関数への参照をすべて除去してください。

sqlcode: -20279

sqlstate: 428G8

SQL20280W *log-file-path* ファイルの作成または書き込みの許可が不十分です。

説明: ステートメントは正常に完了しましたが、ユーザーは、指定したログ・ファイル *log-file-path* の作成や書き込みの許可を受けていません。

ユーザーの処置: ログ・ファイルに詳細を書き込むには、指定したログ・ファイル・パスへの書き込みアクセス権を持っていることを確認してください。または、ログ・ファイル・パスを省略してください。

sqlcode: -20280

sqlcode: 42501

SQL20282N .NET プロシージャまたはユーザー定義関数 *name*、特定名 *specific-name* で、.NET クラス *class* をロードできませんでした。理由コード *reason-code*

説明: CREATE PROCEDURE あるいは CREATE FUNCTION ステートメントの EXTERNAL NAME 節に指定された .NET クラスをロードできませんでした。理由コードには、以下のものがあります。

1. .NET ルーチンのアセンブリーが見つかりませんでした。
2. 指定されたアセンブリーの中にクラスが見つかりませんでした。
3. データベース・カタログの中で指定されたタイプに合致するタイプのメソッドが、指定されたクラスの中に見つかりませんでした。

ユーザーの処置:

1. ファイル拡張子も含め、正しいアセンブリー・ファイルを指定してください。絶対パスを指定しない場合は、アセンブリーのインスタンスのうち PATH の中で検出される最初のインスタンスがロードされるため、システム PATH の中にそのアセンブリーのインスタンスが 1 つだけ存在することを確認してください。
2. 応答 1 での記述に従って、アセンブリーが正しく指定されていることを確認してください。クラス名が大/小文字の区別も含めて正確に指定されていること、また指定されたアセンブリーの中にそれが存在していることを確認してください。
3. 応答 2 での記述に従って、クラスが正しく指定されていることを確認してください。メソッド名が大/小文字の区別も含めて正確に指定されていること、ま

た指定されたクラスの中に "public static void" メソッドとしてそれが存在していることを確認してください。

sqlcode: -20282

sqlstate: 42724

SQL20284N フェデレーテッド・データ・ソース *server-name* 用のプランを作成できません。理由 = *reason-code*。

説明: フェデレーテッド・アクセス・プランの立案中に、以下の理由コードに示されているとおり、述部が欠落しているか、または照会構文上の問題が原因で、1 つ以上のデータ・ソースの照会フラグメントを処理できません。

1. 必要な述部が欠落しています。
2. データ・ソースで処理できる述部が、OR 演算子または BETWEEN 述部を使って別の述部に結合されています。

ユーザーの処置: このデータ・ソースのフェデレーションの資料を参照してください。必要に応じて照会構文を訂正して、ステートメントを再サブミットしてください。理由コードに対応するアクションは、以下のとおりです。

1. 欠落した述部を付け加えてください。
2. OR 演算子ではなく AND 演算子を使って、データ・ソースの述部どうしが互いに隔絶されるようにステートメント構文を変更してください。

sqlcode: -20284

sqlcode: 429BO

SQL20285N *table-name* という名前の表にデタッチされた従属物があるか、非同期パーティションのデタッチ操作が完了していないため、このステートメントまたはコマンドは許可されていません。理由コード = *reason-code*。

説明: 以前に発行された、データ・パーティションをデタッチした ALTER TABLE ステートメントが原因で、このステートメントまたはコマンドは許可されていません。具体的な状態は、理由コード *reason-code* に基づいて説明されます。

理由コード 1

この表はデタッチ操作のターゲット表で、この表にはデタッチされた従属物があります。デタッチされた従属物の整合性を保つには、この表

の現在の内容に合わせてその従属物を増分的に保守することが必要です。このステートメントまたはコマンドを実行すると、デタッチされた従属物を増分的に保守できなくなる可能性があるため、このステートメントまたはコマンドは許可されていません。

理由コード 2

表はデタッチ操作のターゲット表であり、非同期パーティション・デタッチ・タスクが完了していないため、使用可能ではありません。

理由コード 3

表はデタッチ操作のソース表であり、論理的にデタッチされたパーティションを持っていません。非同期パーティション・デタッチ・タスクが完了していないため、このステートメントまたはコマンドは許可されていません。

ユーザーの処置: 理由コードに基づいて、以下のアクションを行ってください。

理由コード 1

ステートメントまたはコマンドを発行する前に、デタッチされた従属物を保守するには、以下のステップを実行します。

1. SYSCAT.TABDETACHEDDEP 表を照会して、表のデタッチされた従属物を特定します。
2. デタッチされた従属物に対して SET INTEGRITY ステートメントを IMMEDIATE CHECKED オプション付きで発行します。
3. ステートメントまたはコマンドを再発行してください。

デタッチされた従属物を保守しないで即時にステートメントまたはコマンドを発行するには、以下のステップを実行します。

1. 表に対して SET INTEGRITY ステートメントを FULL ACCESS オプション付きで発行して、デタッチされたプロパティをリセットします。
2. ステートメントまたはコマンドを再発行してください。

注: 2 番目に挙げた一連のステップを実行する場合、デタッチされた従属物の残りについては、後続の SET INTEGRITY ステートメントで完全な整合性処理が必要になります。

表のデタッチされた従属物を特定するには、次の照会を発行します。ここで、<schema-name>

と <table-name> を、トークン *table-name* に関するメッセージで返された値に置換します。

```
SELECT DEPTABSHEMA, DEPTABNAME
FROM SYSCAT.TABDETACHEDDEP
WHERE TABSCHEMA=<schema-name> AND
TABNAME=<table-name>
```

理由コード 2

以下のステップを実行してください。

1. 非同期のパーティション・デタッチ・タスクが完了するのを待ってください。
2. ステートメントまたはコマンドを再発行してください。

理由コード 3

以下のステップを実行してください。

1. 非同期のパーティション・デタッチ・タスクが完了するのを待ってください。
2. 表に、論理的にデタッチされたパーティションがないことを確認してください。
3. ステートメントまたはコマンドを再発行してください。

すべての論理的にデタッチされたパーティションを見つけるには、次の照会を発行します。ここで、<schema-name> と <table-name> を、トークン *table-name* に関するメッセージで返された値に置換します。

```
SELECT DATAPARTITIONNAME
FROM SYSCAT.DATAPARTITIONS
WHERE TABSCHEMA=<schema-name> AND
TABNAME=<table-name> AND
STATUS='L'
```

非同期パーティション・デタッチ・タスクの進行状況をモニターするには、LIST UTILITIES コマンドを使用して、トークン *table-name* のメッセージで返されるような表の非修飾名を含む記述を探します。

sqlcode: -20285

sqlstate: 55057

SQL20287W 指定されたキャッシュ・ステートメントの環境は、現在の環境とは違うものです。現在の環境を使用して、指定された SQL ステートメントを最適化しなおします。

説明: 前に REOPT ONCE を指定して再最適化されたステートメントの Explain のために Explain 機能が呼び出されましたが、現在の環境は、キャッシュに入っているステートメントが当初コンパイルされた環境とは異なっています。現在の環境を使用して、指定されたステー

トメントを最適化しなおします。

ステートメントは処理されます。

ユーザーの処置: プランがキャッシュに入っているプランと一致するために、オリジナルのステートメントが再最適化され、キャッシュに入れられた際の環境に一致する環境で、EXPLAIN を再発行してください。

sqlcode: -20287

sqlstate: 01671

SQL20288N タイプ *object-type* のオブジェクト *object-name* の統計データを更新できませんでした。理由コード = *reason-code*。

説明: 理由コードによって示される理由により、RUNSTATS または UPDATE のターゲット・オブジェクトの統計データを設定できませんでした。可能性のある理由コードは、以下のとおりです。

1. そのターゲット・オブジェクト・タイプで統計データがサポートされていない。
2. 指定された RUNSTATS オプションをビューに対して使用することは禁止されている。
3. ターゲット・オブジェクト・タイプの特定の統計に対する更新はサポートされていない。データ・ページ統計は、XML パス索引には適用できません。更新できない特定の統計の詳細については、「SQL リファレンス」の SYSSTAT.INDEXES カタログ・ビューの説明を参照してください。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置:

1. RUNSTATS または UPDATE のターゲットとして指定されたオブジェクト名について、統計が可能であることを確認してください。
2. 最適化対応のビューに対して禁止されている RUNSTATS オプションを除去してください。
3. ターゲット・オブジェクト・タイプの統計が更新可能であることを確認してください。

sqlcode: -20288

sqlstate: 428DY

SQL20289N 関数 *function-name* に対して使用されている文字列の単位 *unit* が無効です。

説明: ステートメントは、関数に提供されるデータのタイプに無効な文字列の単位を使用して組み込み関数を呼び出しました。これは、以下の理由で発生する可能性があります。

1. 非文字列・データが明示的な文字列の長さの単位 *unit* を使用して LENGTH 関数に指定された。非文字列・データに、文字列の単位を指定することはできません。
2. ビット・データまたはバイナリー・データが OCTETS 以外の文字列の単位を使用して指定された。ビット・データまたはバイナリー・文字列・データでは、CODEUNITS16 または CODEUNITS32 は無効です。
3. OCTETS がグラフィック・データとともに使用されており、*start* パラメーターが奇数ではないか、または *length* パラメーターが偶数ではない。
4. OCTETS がグラフィック・データとともに使用されており、*start* パラメーターが奇数ではない。
5. OCTETS がグラフィック・データとともに使用されており、*code-units* パラメーターが偶数ではない。

ステートメントは実行できません。

ユーザーの処置: 関数の呼び出しを変更して無効な文字列の長さの単位を除去するか、処理中のデータ・タイプおよび値に対して有効な単位に変更してください。

sqlcode: -20289

sqlstate: 428GC

SQL20290N SQL ステートメントは、パーティション *partition-number* で実行できないルーチン *routine-name* (特定名 *specific-name*) を参照します。

説明: ルーチン *routine-name* (特定名 *specific-name*) が、無効なパーティション番号 *partition-number* で呼び出されました。

ユーザーの処置: 現行パーティションでルーチンを実行するには、パーティション番号のパラメーターに -1 を指定します。

sqlcode: -20290

sqlstate: 560CA

SQL20296N ALTER TABLE ステートメントを実行すると、表 *table-name* の一部の物理属性が変更されることとなりますが、この表にはデータタッチされたパーティションがあり、これらのデータタッチされたパーティションに合わせて増分的に保守する必要がある従属表があるため、このステートメントの実行は許可されていません。

説明: 表にはデータタッチされたパーティションがあり、これらのデータタッチされたパーティションに合わせて増分的

に保守する必要のある従属表があります。表の何らかの物理属性を変更すると従属表の増分保守が無効になる恐れがあるため、そのような変更は許可されていません。制限を受ける物理属性の変更としては、列の追加、列の変更、あるいは以下のいずれかの値の変更が含まれるかもしれません。すなわち、DATA CAPTURE、VALUE COMPRESSION、APPEND、COMPACT、LOGGED、ACTIVATE NOT LOGGED INITIALLY です。

ユーザーの処置: 失敗した ALTER TABLE ステートメントを再発行する前に、増分保守の必要な従属表を識別し、それらの従属表に対して SET INTEGRITY ステートメントを、IMMEDIATE CHECKED オプション付きで実行します。

増分保守が必要な従属表を識別するために以下の照会を使用できます。ここで <schema name> は table-name の修飾子であり、<table name> は table-name の表名の部分です。

```
WITH
DEP_CNT(TOTAL_DEP) AS (SELECT COUNT(*) FROM
  SYSCAT.TABDEP),
DEP_TAB(SCHEMA, NAME, TYPE, PROPERTY, REFRESH,
  STATUS, CONST_CHECKED, LEVEL) AS
(SELECT TABLES.TABSHEMA, TABLES.TABNAME,
  TABLES.TYPE, TABLES.PROPERTY,
  TABLES.REFRESH, TABLES.STATUS,
  TABLES.CONST_CHECKED, 0
FROM SYSCAT.TABLES TABLES
WHERE TABLES.TABSHEMA='<schema name>'
AND TABLES.TABNAME='<table name>'
UNION ALL
SELECT TABDEP.TABSHEMA, TABDEP.TABNAME,
  TABDEP.DTYPE, TABLES.PROPERTY,
  TABLES.REFRESH, TABLES.STATUS,
  TABLES.CONST_CHECKED,
  DEP_TAB.LEVEL + 1
FROM SYSCAT.TABDEP TABDEP, DEP_TAB,
  SYSCAT.TABLES TABLES
WHERE TABDEP.DTYPE IN ('S', 'V', 'W', 'T')
AND TABDEP.BSCHEMA = DEP_TAB.SCHEMA
AND TABDEP.BNAME = DEP_TAB.NAME
AND TABLES.TABSHEMA = TABDEP.TABSHEMA
AND TABLES.TABNAME = TABDEP.TABNAME
AND DEP_TAB.LEVEL < (SELECT
  DEP_CNT.TOTAL_DEP FROM DEP_CNT))
SELECT DISTINCT * FROM
(SELECT DEP_TAB.SCHEMA, DEP_TAB.NAME
FROM DEP_TAB
WHERE STATUS='C'
AND (DEP_TAB.TYPE = 'S'
AND DEP_TAB.REFRESH = 'I'
AND SUBSTR(DEP_TAB.CONST_CHECKED,5,1)<>'F'
OR DEP_TAB.TYPE = 'T'
AND SUBSTR(DEP_TAB.PROPERTY,2,1) = 'Y'
AND SUBSTR(DEP_TAB.CONST_CHECKED,7,1)<>'F')
) X;
```

sqlcode: -20296

sqlstate: 55057

SQL20301W 表スペース *tablespace-name1* のプリフェッチ・サイズは *tablespace-name2* と同じではありません。

説明: パーティション化された表によって使用されるすべてのデータ表スペースは、照会のパフォーマンスを最適化するために同じプリフェッチ・サイズであることが必要です。

パーティション化された表によって使用されるすべてのデータ・テーブル・スペースのプリフェッチ・サイズが同じであるようにすると、照会のパフォーマンスは通常向上します。これにより、オプティマイザーは代替照会プランのコストをより正確に見積もることが可能になり、その結果、最適なプランをより効果的に選択できるようになります。プリフェッチ・サイズが大きく異なると、代替照会プランのコストを正確に見積もるオプティマイザーの機能は低下します。オプティマイザーは、最も頻繁に出現するプリフェッチ・サイズを選出して、代替照会プランのコストを計算します。

ユーザーの処置: 表スペースのプリフェッチ・サイズは、SYSCAT.TABLESPACES に示されています。表 'table-name' によって使用されるすべてのデータ・テーブル・スペース、および対応するプリフェッチ・サイズを検索するには、次の照会を発行してください。

```
SELECT
  SUBSTR(DATAPARTITIONNAME,1,15)
  DATAPARTITIONNAME,
  SUBSTR(TBSPACE,1,15) TBSPACE,
  SYSCAT.DATAPARTITIONS.TBSPACEID TBSPACEID,
  PREFETCHSIZE
FROM
  SYSCAT.TABLESPACES,
  SYSCAT.DATAPARTITIONS
WHERE
  SYSCAT.TABLESPACES.TBSPACEID =
  SYSCAT.DATAPARTITIONS.TBSPACEID
AND TABNAME = 'table-name'
```

表によって使用されるすべての表スペースのプリフェッチ・サイズを一致させるために、この警告の原因となった発行済みステートメントに応じて、以下のオプションを使用できます。

- 表スペースを変更して、プリフェッチ・サイズがその表の他の表スペースと一致するように設定します。
- CREATE TABLE ステートメントを発行した場合、その表を除去してから、互換性のある表スペースのセットを使用して表を再作成します。
- ALTER TABLE ステートメントに ADD PARTITION 節を使用して発行した場合、新規に追加されたパーティションをデタッチしてから、互換性のある表スペース内のパーティションを使用して ALTER TABLE ステートメントを再サブミットします。

- ALTER TABLE ステートメントに ATTACH 節を使用して発行した場合、新規にアタッチされたパーティションをデタッチしてから、互換性のある表スペース内の表を使用して ALTER TABLE ステートメントを再サブミットします。

sqlcode: +20301

sqlstate: 01674

SQL20302W IN または LONG IN 節に、必要以上の数の表スペースが指定されました。余分な表スペースは無視されます。

説明: 作成する表がパーティション表でない場合、IN または LONG IN 節に複数の表スペースが指定されています。最初に指定された表スペースは、表データまたは長いデータの保管に使用されます。非パーティション表では、IN または LONG IN 節に 1 つの表スペースだけを指定する必要があります。

作成する表がパーティション表の場合、IN または LONG IN 節に指定された表スペースの数がその表に定義されたパーティションの数よりも多くなっています。パーティションを通常のデータと同じ表スペースに長いデータを使用して作成されたパーティション化された表に追加するとき、ADD PARTITION 節内に指定された LONG IN 節は無視されます。

ステートメントは正常に処理されましたが、追加の表スペースは無視されました。

ユーザーの処置: ありません。

sqlcode: +20302

sqlstate: 01675

SQL20303N ユニーク・パーティション索引には、パーティション表のすべてのパーティション列が含まれている必要があります。

説明: パーティション化された表にユニーク・パーティション索引を作成するには、索引キーにすべてのパーティション列が含まれている必要があります。

ユーザーの処置: すべてのパーティション列が索引キーに指定されていることを確認してください。

sqlcode: -20303

sqlstate: 42990

SQL20304N XMLPATTERN 節またはデータ・タイプ XML の列が関係する無効な索引定義。理由コード = reason-code。

説明: データ・タイプ XML で定義された列が、索引

の列に組み込まれています (または欠落しています)。この索引定義は、考えられる以下のいずれかの理由コードのため無効です。

1

データ・タイプ XML で定義されている指定された列が 1 つありますが、それぞれの XML 値に対して生成する索引キーを指定するための XMLPATTERN 節が定義から欠落しています。

2

XMLPATTERN 節は存在していますが、複数の索引列が指定されています。

3

索引は UNIQUE として定義されており、XMLPATTERN には、descendant 軸、descendant-or-self 軸、「//」、xml-wildcards、node()、または processing-instruction() が含まれています。

4

XMLPATTERN 節は存在していますが、指定された単一の索引列はデータ・タイプ XML で定義されていません。

5

XMLPATTERN 節に指定されたパス式は、'/' または '/' で開始しません。

6

パターン式には、'/' の後に名前テストまたは種類テストが含まれません。

7

パターン式が、軸ステップ内にサポートされない軸を使用しています。サポートされるフォワード軸は、child、attribute、descendant、self、および descendant-or-self だけです。

8

パターン式が、無効な種類テスト、またはパターン式でサポートされる有効な名前テストまたは種類テストではない構文を指定しています。

9

パターン式は述部 (大括弧で囲まれた式) を指定していますが、XMLPATTERN 節ではパターン式で述部はサポートされていません。

10

パターン式に、先行する理由コードが適用されない、XMLPATTERN 節でサポートされていない他の XQuery 構文が含まれます。

11

z/OS データベース・サーバーで、関数が含まれていないときにパターン式内のステップ数が限度の 50 ステップを超えているか、関数が含まれているときに 44 ステップを超えていません。

12

パターン式内の関数の引数が、構文で指定された要件に従っていないか、索引データ・タイプが正しくありません。

ユーザーの処置:

1

XMLPATTERN 節を指定してください。

2

索引を XML データのキーとするつもりの場合、データ・タイプ XML で定義された列を 1 つだけ指定するようにしてください。そうでない場合は、XMLPATTERN 節を除去してください。

3

UNIQUE の指定を除去するか、XMLPATTERN 定義を変更して、descendant 軸、descendant-or-self 軸、「//」、xml-wildcards、node()、または processing-instruction() を除去してください。

4

XMLPATTERN 節を除去するか、または指定の列をデータ・タイプ XML で定義された単一の列に変更してください。

5

パターン式が '/' または '// から開始することを確認してください。 '/' または '// がその省略形となっている XQuery 構文は、CREATE INDEX ステートメントの XMLPATTERN 節でサポートされていません。

6

名前テストまたは種類テストを '/' に続くパターン式に追加します。

7

パターン式からリバー軸を除去します。たとえば、親軸をパターン式で使用することはできません。

8

CREATE INDEX ステートメントの

XMLPATTERN 節の構文仕様に一致しない、種類テストまたは名前テストのパターン式を調べます。サポートされない構文を訂正または除去します。

9

XMLPATTERN 節のパターン式から述部を除去します。

10

パターン式を変更して、CREATE INDEX ステートメントの XMLPATTERN 節でサポートされていない構文を除去します。パターン式にアスタリスク (*) が含まれる場合、パターン式内の名前テストがワイルドカードを正しく使用していることを確認してください。 QName と共に使用される場合、ワイルドカード文字の前または後にコロンが必要です。コロンがないと、それは乗算演算子となります。アスタリスクはパターン式内で乗算演算子として使用することはできません。さらに、XMLPATTERN 節に他の XQuery 演算子、XQuery 関数、または XQuery FLWR 式 (for, let, where, return) が含まれないことも確認してください。

11

パターン式内のステップの数を減らします。XML 文書内で索引付けが必要な値が 50 より多いステップを必要とする場合、索引は作成できません。

12

パターン式に含まれている関数の引数が CREATE INDEX ステートメントの XMLPATTERN 節の構文仕様と一致するかどうかを確認し、索引付けされる値のデータ・タイプを確認します。また、指定した関数が XMLPATTERN 節でサポートされていることも確認します。サポートされない構文を訂正または除去します。

sqlcode: -20304

sqlstate: 429BS

SQL20305N XML 値を挿入または更新することができません。この値が、表 *table-name* の *index-id* で識別される索引を挿入または更新するときエラーが検出されたためです。理由コード = *reason-code*。XML スキーマに関連した理由コードの場合、XML スキーマ ID = *xml-schema-id* および XML スキーマ・データ・タイプ = *xml-schema-data-type*。

説明: 以下の理由コードのいずれかが原因で、このステートメントは続行できず、表および索引は未変更のままとなります。スキーマ・データ・タイプおよびスキーマ ID は、すべての理由コードには適用されません。詳細については、特定の理由コードを参照してください。

1

挿入または更新しようとしている XML 値の中の少なくとも 1 つの XML ノード値が、識別されている索引によって課されている長さ制約を超えています。XML 列の索引は、特定の長さが指定された SQL タイプ VARCHAR を使用するように定義されています。1 つ以上の XMLPATTERN 結果値の長さが、VARCHAR データ・タイプのユーザー指定の長さ制約を超えています。

2

バージョン 9.5 以前の DB2 データベース・サーバーの場合、挿入または更新の対象となる XML 値の中の少なくとも 1 つの XML ノード値が、ここに示されている索引によって索引付けできないリスト・データ・タイプのノードです。リスト・データ・タイプのノードは、索引内でサポートされていません。

3

バージョン 9.5 以前の DB2 データベース・サーバーの場合、少なくとも 1 つの XML ノード値が、有効な XML 値であるものの、サポートされる範囲外の値であるため、スキーマ・データ・タイプにキャストできません。DB2 インフォメーション・センターで、『XML データに対する索引のデータ・タイプ変換』を参照してください。

4

少なくとも 1 つの XML ノード値は、XML 値として有効であるものの、サポート範囲外の値であるために、指定された索引の索引データ・タイプにキャストできません。DB2 イン

フォメーション・センターで、『XML データに対する索引のデータ・タイプ変換』を参照してください。

5

少なくとも 1 つの XML ノード値が、識別された索引のターゲット索引データ・タイプに対して無効な XML 値であり、索引定義は無効な XML 値がエラー (REJECT INVALID VALUES) を戻すことを指定しています。DB2 インフォメーション・センターで、『無効な XML 値』を参照してください。

ユーザーの処置: 索引名および XML パターン節を判別してください。

索引名 (<index-name>,<index-schema>) は、index-id を使用した以下の照会を発行することで、SYSCAT.INDEXES から入手できます。

```
SELECT INDNAME,INDSCHEMA
FROM SYSCAT.INDEXES
WHERE IID =index-id AND
      TABSCHEMA = 'schema' AND TABNAME = 'table-name'
```

索引名 (<index-name>,<index-schema>) が見つかった後に、以下の照会を発行することにより、その索引名を使用して索引データ・タイプおよび XML パターンを SYSCAT.INDEXES から取得できます。

```
SELECT DATATYPE, PATTERN
FROM SYSCAT.INDEXXMLPATTERNS
WHERE INDSCHEMA = 'index-schema' AND
      INDNAME = 'index-name'
```

<xml-schema-id> が "*N" ではない場合、<xml-schema-id> を使用して以下の照会を発行することにより、識別されたスキーマ・データ・タイプを踏む XML スキーマの名前を取得します。

```
SELECT OBJECTNAME
FROM SYSCAT.XSROBJECTS
WHERE OBJECTID = 'xml-schema-id'
```

1

XML パターンを使用して、一致する XML ノードのセットを識別し、どのストリング値が索引によって指定された長さ制約を超えているかを判別してください。この XML パターンに fn:upper-case 関数が含まれている場合には、特定の言語において大文字変換を行った後のストリング値が、索引で指定された長さ制約を超えている可能性があります。

2

バージョン 9.5 以前の DB2 データベース・サーバーの場合、XML スキーマ名と XML パターンを使用して、一致する XML ノードのセッ

トを識別し、対応するスキーマ内にある識別されたスキーマ・データ・タイプ *xml-schema-data-type* を検査して、それと比較してください。どのノード値がリスト・データ・タイプのノードかを判別します。

3

バージョン 9.5 以前の DB2 データベース・サーバーの場合、XML スキーマ名と XML パターンを使用して、一致する XML ノードのセットを検索し、対応するスキーマ内にある識別されたスキーマ・データ・タイプ *xml-schema-data-type* を検査して、それと比較してください。どのノード値が、XML スキーマ・データ・タイプ用にサポートされる値の範囲を超えているかを判別します。

4

XML パターンを使用して、一致する XML ノードのセットを識別し、識別された索引のために指定されたデータ・タイプを検査して、それと比較してください。どのノード値が、索引データ・タイプ用にサポートされる値の範囲を超えているかを判別します。

5

XML パターンを使用して、一致する XML ノードのセットを識別し、作成中の索引のために指定されたデータ・タイプを検査して、それと比較してください。どのノード値が索引データ・タイプに対して無効かを判別します。

問題のトラブルシューティングを行う方法についての情報は、DB2 インフォメーション・センターの『XML 索引付けの一般的な問題』を参照してください。ロード・ユーティリティーによりエラー・メッセージが出された場合は、追加の情報について DB2 インフォメーション・センターの『XML データのロード時の索引付けエラーの解決』を参照してください。

sqlcode: -20305

sqlstate: 23525

SQL20306N XML 列の索引を作成することができません。索引への XML 値の挿入中にエラーが検出されたためです。理由コード = *reason-code*。XML スキーマに関連した理由コードの場合、XML スキーマ ID = *xml-schema-id* および XML スキーマ・データ・タイプ = *xml-schema-data-type*。

説明: 以下の理由コードのいずれかが原因で、このステ

ートメントは続行できず、表は未変更のままとなります。スキーマ・データ・タイプおよびスキーマ ID は、すべての理由コードには適用されません。

1

挿入または更新しようとしている XML 値の中の少なくとも 1 つの XML ノード値が、作成しようとしている索引によって課されている長さ制約を超えています。XML 列の索引は、特定の長さが指定された SQL タイプ VARCHAR を使用するように定義されています。1 つ以上の XML パターン結果値の長さが、VARCHAR データ・タイプのユーザー指定の長さ制約を超えています。

2

バージョン 9.5 以前の DB2 データベース・サーバーの場合、索引の作成時に索引に挿入される XML 値の中の少なくとも 1 つの XML ノード値が、指定された索引によって索引付けできないリスト・データ・タイプのノードです。リスト・データ・タイプのノードは、索引内でサポートされていません。

3

バージョン 9.5 以前の DB2 データベース・サーバーの場合、少なくとも 1 つの XML ノード値が、有効な XML 値であるものの、サポートされる範囲外の値であるため、スキーマ・データ・タイプにキャストできません。DB2 インフォメーション・センターで、『XML データに対する索引のデータ・タイプ変換』を参照してください。

4

少なくとも 1 つの XML ノード値は、XML 値として有効であるものの、サポート範囲外の値であるために、指定された索引の索引データ・タイプにキャストできません。DB2 インフォメーション・センターで、『XML データに対する索引のデータ・タイプ変換』を参照してください。

5

少なくとも 1 つの XML ノード値が、識別された索引のターゲット索引データ・タイプに対して無効な XML 値であり、索引定義は無効な XML 値がエラー (REJECT INVALID VALUES) を戻すことを指定しています。DB2 インフォメーション・センターで、『無効な XML 値』を参照してください。

ユーザーの処置: 索引定義から XML パターン節を判別してください。

<xml-schema-id> が "*"N" ではない場合、
<xml-schema-id> を使用して以下の照会を発行することにより、識別されたスキーマ・データ・タイプを踏む XML スキーマの名前を取得します。

```
SELECT OBJECTNAME
FROM SYSCAT.XSROBJECTS
WHERE OBJECTID = 'xml-schema-id'
```

1

XML パターンを使用して、一致する XML ノードのセットを識別し、どのストリング値が索引によって指定された長さ制約を超えているかを判別してください。この XML パターンに `fn:upper-case` 関数が含まれている場合には、特定の言語において大文字変換を行った後のストリング値が、索引で指定された長さ制約を超えている可能性があります。

2

バージョン 9.5 以前の DB2 データベース・サーバーの場合、XML パターンを使用して、一致する XML ノードのセットを識別し、対応するスキーマ内にある識別されたスキーマ・データ・タイプ `xml-schema-data-type` を検査して、それと比較してください。どのノード値がリスト・データ・タイプのノードかを判別します。

3

バージョン 9.5 以前の DB2 データベース・サーバーの場合、XML パターンを使用して、一致する XML ノードのセットを検索し、対応するスキーマ内にある識別されたスキーマ・データ・タイプ `xml-schema-data-type` を検査して、それと比較してください。どのノード値が、XML スキーマ・データ・タイプ用にサポートされる値の範囲を超えているかを判別します。

4

XML パターンを使用して、一致する XML ノードのセットを識別し、索引のために指定されたデータ・タイプを検査して、それと比較してください。どのノード値が、索引データ・タイプ用にサポートされる値の範囲を超えているかを判別します。

5

XML パターンを使用して、一致する XML ノードのセットを識別し、索引のために指定されたデータ・タイプを検査して、それと比較してください。どのノード値が索引データ・タイプに対して無効かを判別します。

索引がパーティション化されている場合、新しくアタッチされたパーティション (つまり

SYSDATAPARTITIONS カタログ表の STATUS 列の値が 'A' であるパーティション) が存在するならば、索引データ・タイプに対して無効なノード値が見つからない可能性があります。このような場合、新しくアタッチされたパーティションをオンラインにするために、`SET INTEGRITY` ステートメントを実行してください。他の制約に違反するために、無効なノード値が `SET INTEGRITY` ステートメントによって除去される可能性があります。このため、ステートメントを再び発行してください。ステートメントを再び処理できなくなったら、索引データ・タイプに対して無効なノード値を調べてください。

問題のトラブルシューティングを行う方法についての情報は、DB2 インフォメーション・センターの『XML 索引付けの一般的な問題』を参照してください。

sqlcode: -20306

sqlstate: 23526

SQL20307N 表 `source-tablename` を表 `target-tablename` に接続することができません。理由コード = `reason-code`。

説明: ターゲット表の特性は、`ALTER TABLE...ATTACH` ステートメントでのソース表の特性と十分に一致しません。 `reason-code` は、ミスマッチのタイプを示しています。

1

ソースおよびターゲット表の列 (SYSCAT.TABLES 内の COLCOUNT 列) の数が一致しません。

2

ソース表とターゲット表の圧縮節が一致しません。この不一致には、2 つの可能性がありません。つまり、`VALUE COMPRESSION` と `COMPRESSION SYSTEM DEFAULT` が一致しない場合と、`COMPRESS YES STATIC` と `COMPRESS YES ADAPTIVE` が一致しない場合です。

3

表の `APPEND` モードが一致しません。

4

ソースおよびターゲット表のコード・ページが一致しません。

5

- ソース表が、複数のデータ・パーティション、または ATTACHED または DETACHED データ・パーティションのあるパーティション化された表です。パーティション化されたソース表をアタッチできるのは、データ・パーティションが 1 つだけあり、ATTACHED または DETACHED データ・パーティションはない場合だけです。
- 6 ソース表が、システム表、ビュー、MQT、型付き表、ORGANIZED BY KEY SEQUENCE 表、作成済み一時表、宣言済み一時表、システム期間テンポラル表、または履歴表です。ソース表は、ここに挙げたどの表にも該当しない基本表でなければなりません。
- 7 ターゲット表とソース表が同じです。表をそれ自体にアタッチすることはできません。
- 8 NOT LOGGED INITIALLY 節が、ソース表またはターゲット表の両方ではなく、どちらかに対して指定されていました。
- 9 DATA CAPTURE CHANGES 節が、ソース表またはターゲット表の両方ではなく、どちらかに対して指定されていました。
- 10 表の分散節が一致しません。分散キーは、ソース表とターゲット表とで同じであることが必要です。
- 11 表の ORGANIZE BY DIMENSIONS 節が一致しません。ORGANIZE BY DIMENSIONS 節が指定された表が 1 つだけであるか、または編成ディメンションが異なっています。
- 15 表に対するセキュリティ保護が同じではありません。表が異なるセキュリティ・ポリシーによって保護されています。
- 16 圧縮節 (COMPRESS NO または COMPRESS YES) が一致しません。
- 17 ソース表には、ターゲット・パーティション表の索引と互換性のある索引がありません。ターゲット表の索引は、ユニーク索引であるか、または REJECT INVALID VALUES 節を指定して XML 列に対して定義された索引です。
- 18 ソース表には、パーティション表の索引と互換性のある索引がありません。また、ALTER TABLE ステートメントで REQUIRE MATCHING INDEXES 節が指定されていません。
- 19 アタッチされているソース表の XML 列のレコード・フォーマットが、ターゲット・パーティション表のレコード・フォーマットと互換性はありません。
- 20 ソース表の行アクセス制御がアクティブになっていますが、ターゲット表の行アクセス制御はアクティブになっていません。
- 21 ソース表の列アクセス制御がアクティブになっていて、少なくとも 1 つの列マスクが使用可能ですが、ターゲット表の列アクセス制御はアクティブになっていません。
- 99 ターゲット表が LARGE 表スペースに変換された表スペース内に存在して、その索引はまだ大きな RID をサポートするように再編成または再ビルドされていません。
- ユーザーの処置:** ターゲット表の特性と一致するようにソース表を変更するか、またはソース・テーブルの特性と一致するようにターゲット表を変更して、表間のミスマッチを訂正します。
- 理由コード 4、5、6、および 11 の場合、互換性のために、ソース表の特性もターゲット表の特性も簡単には変更できません。(理由コード 5 では、*source-tablename* がパーティション化されているので、厳密に 1 つの明確な (アタッチされてもデタッチされてもいない) データ・パーティションが必要です。)
- 互換性のために、ソース表またはターゲット表のいずれかの特性を変更するのが困難である場合には、ターゲット表と互換性のある表を新規作成して、*source-tablename* からこの新しい表にデータをコピーすることができません。互換性のあるソース表の作成について詳しくは、DB2 インフォメーション・センターのタスク「新規ソース表の作成」を参照してください。
- 1

次のステートメントを使用して、1 つ以上の列が不足している表に列を追加できます。

```
ALTER TABLE ... ADD COLUMN ... DEFAULT ...
```

追加された列のデフォルト値は、列が既に存在する表での列のデフォルト値と同じであることを確認してください。列が既に存在する表の列に対して、

SYSCAT.COLUMNS.IMPLICITVALUE を照会します。値が NULL ではない場合、ALTER TABLE ADD COLUMN ステートメントのデフォルトの節を使用して、デフォルト値が SYSCAT.COLUMNS.IMPLICITVALUE 内の値と一致するように設定します。

注: 列を追加できるのは、表の最後の既存列の後だけです。欠落している列が最後の列ではない場合、新規のソース表を作成してください。

またはその代わりに、次の方法で、追加の列を持つ表から列をドロップすることもできます。

```
ALTER TABLE ... DROP COLUMN ....
```

2

複数の値圧縮値の間の調和を実現するには、以下のいずれかのステートメントを使用します。

```
ALTER TABLE ... ACTIVATE VALUE COMPRESSION
ALTER TABLE ... DEACTIVATE VALUE
COMPRESSION
```

行圧縮の調和を実現するには、以下のいずれかのステートメントを使用します。

```
ALTER TABLE ... COMPRESS YES
ALTER TABLE ... COMPRESS NO
```

アダプティブ圧縮の調和を実現するには、以下のいずれかのステートメントを使用します。

```
ALTER TABLE ... COMPRESS YES ADAPTIVE
ALTER TABLE ... COMPRESS YES STATIC
```

3

付加モードの調和を実現するには、以下のいずれかのステートメントを使用します。

```
ALTER TABLE ... APPEND ON
ALTER TABLE ... APPEND OFF
```

4

新しいソース表を作成してください。互換性のあるソース表の作成について詳しくは、DB2 インフォメーション・センターのタスク「新規ソース表の作成」を参照してください。

5

次のステートメントを使用して、表示可能な単一のデータ・パーティションが残るまでソース表からデータ・パーティションをデタッチします。

```
ALTER TABLE ... DETACH PARTITION
```

必要な set integrity ステートメントを入れてください。または、新しいソース表を作成してください。互換性のあるソース表の作成について詳しくは、DB2 インフォメーション・センターのタスク「新規ソース表の作成」を参照してください。

6

許可されないタイプのものではない新規のソース表を作成します。互換性のあるソース表の作成について詳しくは、DB2 インフォメーション・センターのタスク「新規ソース表の作成」を参照してください。

7

ソースまたはターゲット表として使用する適正な表を判別します。

8

COMMIT ステートメントを入力して、最初に記録されていない表を記録されるようにするか、または次のステートメントを入力して、記録されている表を最初に記録されないようにします。

```
ALTER TABLE .... ACTIVATE NOT LOGGED
INITIALLY
```

9

データ・キャプチャー変更がオンになっていない表でデータ・キャプチャー変更を有効にするには、次のステートメントを実行します。

```
ALTER TABLE ... DATA CAPTURE CHANGES
```

データ・キャプチャー変更がオンになっている表でデータ・キャプチャー変更を無効にするには、次のステートメントを実行します。

```
ALTER TABLE ... DATA CAPTURE NONE
```

10

複数のデータベース・パーティションに及ぶ表の分散キーを変更できないため、この場合は新規のソース表を作成することが推奨されます。単一パーティション・データベースの表で分散キーを変更するには、次のステートメントを実行します。

ALTER TABLE ... DROP DISTRIBUTION

ALTER TABLE ... ADD DISTRIBUTION
(key-specification)

11

ORGANIZE BY DIMENSIONS 節に関連してターゲット表と一致する新規のソース表を作成します。互換性のあるソース表の作成について詳しくは、DB2 インフォメーション・センターのタスク「新規ソース表の作成」を参照してください。

15

2 つの表は、同じセキュリティー・ポリシーによって保護されていること、タイプ SYSPROC.DB2SECURITYLABEL として定義された同じ列があること、および同じセットの保護された列があることが必要です。

16

ALTER TABLE *tablename* COMPRESS [YES | NO] を使用して、ソース表とターゲット表の COMPRESS 属性が一致するようにします。

17

ソース表に互換性のある索引が存在しないターゲット・パーティション表の索引のリストを見つけるには、管理通知ログを参照してください。ターゲット・パーティション表と互換性のあるユニーク索引または XML 索引をソース表に作成します。

18

以下のいずれかを実行します。

- ソース表に互換性のある索引が存在しないターゲット表における索引のリストを見つけるには、管理通知ログを参照してください。欠落している索引をソース表に作成して、要求を再実行します。
- REQUIRE MATCHING INDEXES 節を ALTER TABLE ステートメントから除去して、要求を再実行します。

19

ソース表の XML レコード・フォーマットを更新して、ターゲット表のレコード・フォーマットと一致するようにします。表の XML レコード・フォーマットを更新するには、いくつかの方法があります。次の 2 つの方法のいずれを使用しても、表の XML レコード・フォーマットを更新できます。

- ADMIN_MOVE_TABLE プロシージャを使用して、表に対してオンライン表移動を実行します。

- 以下のステップを実行します。

1. EXPORT コマンドを使用して、表データのコピーを作成します。
2. TRUNCATE ステートメントを使用して、表からすべての行を削除し、表に割り振られたストレージを解放します。
3. LOAD コマンドを使用して、表にデータを追加します。

20

アタッチ先の表に必須アクセス制御があることを確認するか、アタッチ元の表のアクセス制御を非アクティブにします。

21

アタッチ先の表に必須アクセス制御があることを確認するか、アタッチ元の表のアクセス制御を非アクティブにします。

99

コマンド REORG INDEXES ALL FOR TABLE *target-tablename* ALLOW NO ACCESS を発行することにより、ターゲット表の索引を変換して大きな RID をサポートするようにします。

sqlcode: -20307

sqlstate: 428GE

SQL20308N STRIP WHITESPACE オプションを使用した構文解析は、1000 バイト長を超える空白文字だけのテキスト・ノード・ストリング値が入力に含まれている場合には許可されません。

説明: STRIP WHITESPACE オプションを付けて XML の構文解析を行う際、空白文字だけで構成されていて、長さが 1000 バイトを超えるテキスト・ノード・ストリングが検出されると、失敗します。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: PRESERVE WHITESPACE オプションを使用するか、またはストリング値が空白文字だけで構成されているテキスト・ノードから 1000 バイトを超過する分の空白文字を除去するように入力を変更します。

sqlcode: -20308

sqlstate: 54059

SQL20309N エラー・トレラントな

nested-table-expression の使用が無効です。

説明: エラー・トレラントな `nested-table-expression` (`RETURN DATA UNTIL` 節を指定した `nested-table-expression`) を以下の場所で参照することはできません。

- `materialized-query-definition` の `fullselect`。
- 同じステートメント。または挿入、更新、削除操作を含むコンパウンド・ステートメント。
- 位置指定 `DELETE` ステートメントまたは位置指定 `UPDATE` ステートメントのカーソルの `SELECT` ステートメント。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: `nested-table-expression` の `RETURN DATA UNTIL` 節を除去して、ステートメントを再サブミットしてください。

sqlcode: -20309

sqlstate: 428GG

SQL20316N コンパイル環境が無効です。理由コード = *reason-code*。

説明: 提供されたコンパイル環境は、付随する理由コードに指定されている理由により無効です。

1. 提供されたコンパイル環境のフォーマットは正しくありません。
2. 提供されたコンパイル環境のバージョンはサポートされていません。
3. 提供されたコンパイル環境のサイズは無効です。
4. 提供されたコンパイル環境で使用されるコード・ページはこのデータベースと互換性がありません。

ステートメントは実行できません。

ユーザーの処置: 理由コードに基づいたアクションは、以下のとおりです。

1. コンパイル環境を再び獲得し、使用する前にいかなる変更も行わないようにしてください。
2. 互換性のあるソフトウェアのレベルを使用してコンパイル環境を再び獲得してください。
3. コンパイル環境を再び獲得し、使用する前にいかなる変更も行わないようにしてください。
4. このコード・ページと同じコード・ページを持つデータベースを使用してコンパイル環境を再び獲得してください。

sqlcode: -20316

sqlstate: 51040

SQL20317N この操作は、コマンドまたはステートメントの実行対象となるデータベースに少なくとも 1 つのストレージ・グループが定義されている場合にのみサポートされるため、コマンドまたはステートメントは失敗しました。

説明: 自動ストレージにより、表スペースのストレージ管理が単純化されます。ストレージ・グループを作成するとき、ユーザーは、データベース・マネージャーがデータを配置するストレージ・パスを指定します。データベースにストレージ・グループを作成すると、そのデータベースには常にデフォルトのストレージ・グループが存在するようになります。自動ストレージ表スペースを作成してデータを設定すると、デフォルトまたは指定のストレージ・グループを使用するために、それらの自動ストレージ表スペースのコンテナとスペース割り振りがデータベース・マネージャーによって管理されます。

ストレージ・グループを必要とするアクションを、ストレージ・グループが定義されていないデータベースに対して実行しようとする、このメッセージが返されません。そのようなアクションの例を以下に挙げます。

- 自動ストレージ表スペースを作成する
- 自動ストレージを使用するよう表スペースを変更する
- `USING AUTOMATIC STORAGE` 節を指定して `SET TABLESPACE CONTAINERS` コマンドを実行することにより、リストア操作のために自動ストレージを使用する
- データベースからストレージ・パスをドロップする

バージョン 10 より前のバージョンの DB2 データベースの場合:

バージョン 10 より前の DB2 データベースでは、表スペースで自動ストレージを使用できるようにするには、自動ストレージを使用するようにそのデータベースを定義する必要があります。自動ストレージを必要とするアクションを、自動ストレージが有効になっていないデータベースで実行しようとする、バージョン 10 より前の DB2 データベース・サーバーによってこのメッセージが返されます。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの方法で、このメッセージに応答します。

- このデータベースで自動ストレージ機能を使用するには、以下のアクションのいずれか 1 つを実行してください。

SQL20318N

- バージョン 10 より前の DB2 データベース・サーバーの場合: 自動ストレージを使用するようデータベースを変換する。
- DB2 バージョン 10 以降の場合: 少なくとも 1 つのストレージ・グループを作成する。
- 自動ストレージで管理されない表スペースを作成するには、CREATE TABLESPACE ステートメントで次のいずれかの節を使用します。
 - MANAGED BY SYSTEM
 - MANAGED BY DATABASE
- 自動ストレージを使用せずにリストア操作を実行するには、USING AUTOMATIC STORAGE 節を指定せずに SET TABLESPACE CONTAINERS コマンドを呼び出します。

sqlcode: -20317

sqlstate: 55060

SQL20318N このタイプの表スペースではこの変更は許可されないため、ALTER TABLESPACE ステートメントは失敗しました。表スペース名: *tablespace-name*。表スペースのタイプ: *tablespace-type*。非互換の節: *clause*。

説明: 以下の操作は、対応する示された表スペースのタイプと非互換です。

- MANAGED BY AUTOMATIC STORAGE として定義された表スペースのコンテナは、データベース・マネージャーによって管理されます。つまり、データベース・マネージャーは、自動的に既存のコンテナを拡張するか、または表スペースが関連付けられたストレージ・グループに定義されたストレージ・パスに基づいて新規コンテナを作成します。MANAGED BY AUTOMATIC STORAGE として定義された表スペースのコンテナは、ALTER TABLESPACE ステートメントでは変更できません。
- DMS または SMS 表スペースでは、DATA TAG、OVERHEAD、または TRANSFERRATE 節に INHERIT オプションを指定することはできません。
- DMS または SMS 表スペースでは、節「USING STOGROUP」は使用できません。
- TEMPORARY 自動ストレージ表スペースでは、STOGROUP は変更できません。
- TEMPORARY 表スペースまたはシステム・カタログ表スペースでは、DATA TAG は設定できません。

ユーザーの処置: ALTER TABLESPACE ステートメントを書き換えて、表スペースのタイプと互換性がある操作が実行されるようにします。

sqlcode: -20318

sqlstate: 42858

SQL20319N SET TABLESPACE CONTAINERS コマンドは、自動ストレージ表スペースに対して実行できません。

説明: 自動ストレージ表スペースに関連したコンテナはデータベースの制御下にあり、SET TABLESPACE CONTAINERS コマンドを使用して再定義できません。

ユーザーの処置: データベース内の自動ストレージ表スペースすべてに新規パス・セットを指定するには、RESTORE DATABASE コマンドの ON オプションを使用して、1 つ以上のパスを指定してください。

sqlcode: -20319

sqlstate: 55061

SQL20320N 表スペースに指定された最大サイズは無効です。

説明: CREATE TABLESPACE または ALTER TABLESPACE ステートメントに指定された最大サイズは無効です。表スペースを作成している場合、最大サイズは指定の初期サイズ以上でなければなりません。既存の表スペースを変更している場合、最大サイズは表スペースの現行サイズ以上でなければなりません。

ユーザーの処置: このメッセージの「説明」に記載したように、より大きな値を最大サイズに指定してください。

sqlcode: -20320

sqlstate: 560B0

SQL20321N データベースにストレージ・グループがない場合はストレージ・パスを指定できないため、コマンドは失敗しました。

説明: バックアップ・イメージのデータベースではストレージ・グループが定義されていませんが、ストレージ・パスが次のいずれかの方法で提供されています。

- ストレージ・パスは RESTORE DATABASE API の呼び出しに組み込まれている。
- ストレージ・パスは、RESTORE DATABASE コマンドの ON オプションによって指定されている。
- ストレージ・パスは SET STOGROUP PATHS コマンドによって指定されている。

バージョン 10 より前のバージョンの DB2 データベースの場合:

バージョン 10 より前は、ストレージ・パスを指定するためには、バックアップ・イメージ内の DB2 データベースが、自動ストレージを使用するように定義されていなければなりません。バージョン 10 より前の DB2 データベース・サーバーで、自動ストレージを必要とするアクションを、自動ストレージが有効になっていないデータベースのバックアップ・イメージで実行しようとすると、このメッセージが返されます。

ユーザーの処置: 適切な処置を取って問題を解決してください。

- RESTORE DATABASE API を呼び出すときはストレージ・パスを組み込まない。
- RESTORE DATABASE コマンドの ON オプションを指定しない。
- SET STOGROUP PATHS コマンドを指定しない。

sqlcode: -20321

sqlstate: 55062

SQL20322N 提供されるデータベース名は *server-name* (アプリケーションの接続先データベースの名前) と一致しません。

説明: データベース名は *server-name* (アプリケーションの現在の接続先データベースの名前) と一致しません。データベース名は、明示的に指定されたものか、指定したデータベース別名により判別されたもののいずれかです。

ユーザーの処置: 現在接続しているデータベースを変更するつもりの場合、ステートメントからデータベース名を除去するか、または正しい名前を指定してください。現在接続しているデータベースではなく、特定の名前を持つデータベースを変更するつもりの場合、ステートメントを再サブミットする前に、現行のデータベースから切断し、指定のデータベースに接続してください。データベースをバックアップまたは復元する場合、そのデータベースに接続して、正しいデータベース名またはデータベース別名を指定してください。

sqlcode: -20322

sqlstate: 42961

SQL20323N ストレージ・パス *storage-path* がストレージ・グループに既に存在するか、または 2 回以上指定されています。

説明: 追加されているストレージ・パスがストレージ・グループに既に存在するか、または提供されているリスト内で重複しています。

ユーザーの処置: コマンドまたはステートメントからパ

スを除去し、コマンドまたはステートメントを再サブミットしてください。

sqlcode: -20323

sqlstate: 42748

SQL20324N 操作 *operation* はすでに進行中です。

説明: 操作 *operation* はすでにこのトランザクションで発行されているか、まだコミットされていない別のトランザクションの一部として発行されています。

ユーザーの処置: 未解決操作を含むトランザクションをコミットしてから、ステートメントを再発行してください。

sqlcode: -20324

sqlstate: 25502

SQL20325N 表スペース *tablespace-name* にコンテナを追加、拡張、または設定すると、最大サイズ *max-size* を超過します。

説明: 表スペース *tablespace-name* の AUTORESIZE は YES に設定され、最大サイズも定義されています。しかし、ALTER TABLESPACE ステートメントによって表スペースに追加される、または TABLESPACE CONTAINERS コマンドによって設定されるスペースの量は、この最大サイズより大きな表スペースのサイズになります。

ユーザーの処置: ALTER TABLESPACE ステートメントを実行している場合、ステートメントを再サブミットする前に、表スペースの現行サイズと追加されているスペースの量を足したもの以上になるように表スペースの MAXSIZE を増やしてください。あるいは、表スペースの AUTORESIZE を NO に設定してください。自動サイズ変更を無効にすると、MAXSIZE および INCREASESIZE の現行値は失われます。

SET TABLESPACE CONTAINERS コマンドを実行している場合、表スペースの最大サイズ以下の合計サイズを持つコンテナのセットを指定します。

sqlcode: -20325

sqlstate: 54047

SQL20326N *string* で終了する XML 要素名、属性名、名前空間接頭部、または URI が、1000 バイトの制限を超えています。

説明: システムは、要素名、属性名、名前空間接頭部、または URI を処理して、ストリングの内部 ID を生成しようとしています。UTF-8 で表現すると、ストリングの長さが、1000 バイトというストリングに対する制

SQL20327N

限を超えています。 *string* の値は、制限を超えているストリングの末尾の文字群を示します。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: より短い要素名、属性名、名前空間接頭部、または URI を使用して、操作を再試行してください。

sqlcode: -20326

sqlstate: 54057

SQL20327N XML パスの内部表記が 125 レベルの制限を超えています。

説明: システムは XML パスの内部表現を生成しようとしています。このパスは、構文解析中または妥当性検査中の XML 文書の中、あるいは構成される XML 値の中に存在しているものかもしれません。文書のネストが深すぎて、限界に達しています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 文書または構成される XML 値で、使用する要素および属性のレベルの数を減らしてください。

sqlcode: -20327

sqlstate: 54058

SQL20328N ターゲット名前空間が *namespace* で、スキーマ・ロケーションが *location* の文書は、すでに *schema-name* で識別される XML スキーマに追加されています。

説明: このエラーは、XSR_ADDSCHEMADOC ストアード・プロシージャの呼び出し中に発生する可能性があります。1 つの XML スキーマの中に、*targetnamespace* と *schemalocation* が同一の文書が 2 つあってはなりません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 追加しようとしている文書の名前空間または *schemalocation* のいずれかを変更してください。

sqlcode: -20328

sqlstate: 42749

SQL20329N 1 つ以上の XML スキーマ文書が欠落しているために、XML スキーマの完全性検査が失敗しました。欠落している XML スキーマ文書の 1 つは、*uri* という *uri-type* によって識別されます。

説明: 完全な XML スキーマには複数の XML スキーマ文書が必要なのに、少なくとも 1 つの XML スキーマ

マ文書が XML スキーマ・リポジトリから欠落している、ということが XML スキーマ登録完了処理によって判別されました。欠落している XML スキーマ文書は、*targetnamespace* または *schemalocation* のいずれかの *uri-type*、および名前空間または XML スキーマ・ロケーションの値 *uri* によって識別されます。欠落している XML スキーマ文書への参照は、XML スキーマに定義されている XML スキーマ文書の 1 つに含まれている可能性があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: XML スキーマの XML スキーマ文書のうち欠落しているものを XML スキーマ・リポジトリに追加してください。 *uri* の *uri-type* で識別される文書を追加する必要があります。

sqlcode: -20329

sqlstate: 428GI

SQL20330N XML *uri-type1 uri1* および XML *uri-type2 uri2* で識別される *xsrobject-type* が XML スキーマ・リポジトリにありません。

説明: ステートメントまたはコマンドを処理するために XML スキーマ・リポジトリの XROBJECT を使用することが必要でしたが、これが見つかりませんでした。

xsrobject-type が XMLSCHEMA の場合、XML 値の妥当性検査を行うために XML スキーマが必要です。

uri-type1 は NAMESPACE です。XML スキーマのターゲット名前空間 *uri1* は、ACCORDING TO XMLSCHEMA URI 節を使用するステートメントで明示的に識別されている、あるいは XML 値の中で識別される可能性があります。オプションの LOCATION 節も指定されている場合、*uri-type2* は LOCATION であり、*uri2* はこの値を示します。LOCATION 節が指定されていない場合、これは空ストリングです。

xsrobject-type が EXTERNAL ENTITY の場合、XML 値の構文解析または妥当性検査を行うために XML 外部エンティティが必要です。外部エンティティの識別は、SYSTEM ID の *uri-type1* とシステム ID の *uri1*、および PUBLIC ID の *uri-type2* と公開 ID の *uri2* に基づいたものとなります。*uri2* が空の場合、使用できる公開 ID はありませんでした。

ステートメントまたはコマンドが処理されません。

ユーザーの処置: XML 値を処理する前に、*uri1* および *uri2* によって示される XML スキーマまたは XML 外部エンティティを登録してください。

sqlcode: -20330

sqlstate: 22532, 4274A

SQL20331N XML コメント値 *string* は無効です。

説明: XML コメントに 2 つの隣接ハイフンを含めたり、末尾をハイフンにしたりすることはできません。

ユーザーの処置: XML コメントの値が有効であることを確認してください。

sqlcode: -20331

sqlstate: 2200S

SQL20332N XML 処理命令値 *string* は無効です。

説明: XML 処理命令にサブストリング「?>」を含めることはできません。

ユーザーの処置: XML 処理命令の値が有効であることを確認してください。

sqlcode: -20332

sqlstate: 2200T

SQL20333N データ・ソース *data-source* で整合性制約に違反したため、操作を実行できませんでした。関連テキストとトークンは *tokens* です。

説明: 挿入、更新、または削除操作がフェデレーテッド・データ・ソースで定義された整合性制約に違反しました。違反はデータ・ソースでのトリガーの対話が原因の可能性があります。

ステートメントは実行できませんでした。オブジェクト表の内容は変更されません。

データ・ソースの中には、違反された制約に関する特定の情報を提供しないものや、db2diag ログ・ファイルに詳細な情報を提供するものがあります。

ユーザーの処置: 操作によって参照されたオブジェクトに関する制約を調べ、違反の原因を判別してください。違反された制約に関する詳細について、db2diag ログ・ファイルを調べてください。

sqlcode: -20333

sqlstate: 23527

SQL20334N Web サービス・データ・ソース *tokens* から SOAP Fault を受け取りました。関連テキストとトークンは *text-and-tokens* です。

説明: Simple Object Access Protocol (SOAP) を使用している Web サービス・データ・ソース *data-source-name* が、フェデレーテッド・サーバーに SOAP Fault を送信しました。このエラー状態に関する詳細情報が *tokens* に示されます。

ユーザーの処置: *tokens* で提供される情報を使用して、データ・ソース *data-source-name* の SOAP Fault の根本原因を識別して訂正してください。

sqlcode: -20334

sqlstate: 560CB

SQL20335N XML *uri-type1 uri1* および *uri-type2 uri2* によって識別される複数の *xsobject-type* が XML スキーマ・リポジトリ内に存在しています。

説明: XML スキーマまたは外部エンティティの識別に使用される URI に一致する、複数の登録済み XSOBJECT があります。

xsobject-type が XMLSCHEMA である場合、XML スキーマの識別は、NAMESPACE の *uri-type1* と XML スキーマのターゲット名前空間の *uri1*、および LOCATION の *uri-type2* と XML スキーマ・ロケーションの *uri2* に基づいたものとなります。*uri2* が空の場合、スキーマ・ロケーションは指定されていませんでした。

xsobject-type が EXTERNAL ENTITY である場合、外部エンティティの識別は、SYSTEM ID の *uri-type1* とシステム ID の *uri1*、および PUBLIC ID の *uri-type2* と公開 ID の *uri2* に基づいたものとなります。*uri2* が空の場合、公開 ID は指定されていませんでした。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: *uri1* および *uri2* の両方が示されている場合、XML スキーマ・リポジトリからタイプ *xsobject-type* の重複する XSOBJECT をドロップしてください。XML スキーマの場合であれば、これらの XML スキーマの一方に XMLSCHEMA ID を明示的に指定してください。スキーマ・ロケーション (*uri2*) が空の場合は、XML スキーマを固有に識別するために XMLSCHEMA URI および LOCATION を明示的に指定することもできます。

sqlcode: -20335

sqlstate: 22533, 4274B

SQL20336N データ・タイプ *source-data-type* を持つ値を、タイプ *target-data-type* に XMLCAST できません。

説明: ステートメントに、データ・タイプ *target-data-type* にキャストされるデータ・タイプ *source-data-type* を持つ最初のオペランドが指定された CAST が入っています。このキャストはサポートされていません。

ユーザーの処置: キャストがサポートされるよう、ソースまたはターゲットのいずれかのデータ・タイプを変更してください。事前定義されたデータ・タイプについては、SQL リファレンスを参照してください。ユーザー定義特殊タイプの入ったキャストの場合、キャストは基本データ・タイプとユーザー定義の異なるタイプ間、または基本データ・タイプにプロモート可能なデータ・タイプから、ユーザー定義特殊タイプに対してのみ行われます。

sqlcode: -20336

sqlstate: 42846

SQL20337N BY REF 節が指定されていないか、または使用法が誤っています。理由コード = *reason-code*

説明: 以下に、*reason-code* が取り得る値に基づいてエラーを説明します。

1. XMLQUERY、XMLEXISTS、または XMLTABLE 関数の引数の対応するデータ・タイプが XML 以外のもの場合、BY REF 節を指定することはできません。このエラーは、BY REF 節が XMLTABLE 列の定義内で発行され、列のタイプが XML でない場合にも起きることがあります。
2. XMLTABLE 節がデータ・タイプ XML の列を定義する場合は、BY REF 節を指定する必要があります。
3. XML シーケンスを戻す XMLQUERY 関数内では BY REF 節を指定する必要があります。BY REF 節は、RETURNING SEQUENCE 節に続けて、または PASSING 節内で明示的に指定できます。

ユーザーの処置: *reason-code* に基づいて、以下のアクションを取ってください。

1. XML 以外のデータ・タイプに関連している場合は BY REF 節を除去する。
2. XMLTABLE 関数のデータ・タイプ引数が XML の場合は、BY REF 節を指定する。
3. RETURNING SEQUENCE キーワードに続けて BY REF 節を指定するか、または PASSING BY REF 節を指定する。

sqlcode: -20337

sqlstate: 42636

SQL20338N XMLCAST 指定のソース・オペランドまたはターゲット・オペランドの一方のデータ・タイプは XML でなければなりません。

説明: XMLCAST 指定には、データ・タイプが XML のオペランドが 1 つ必要です。XMLCAST 操作は、XML タイプ値から SQL タイプ値に向けて、または SQL タイプ値から XML タイプ値に向けて実行することができます。ソース・オペランドとターゲット・オペランドが両方とも XML の場合、XMLCAST 指定はこれを受け入れるものの、実際のキャスト操作は実行されません。

ユーザーの処置: 両方のオペランドが XML 以外の SQL データ・タイプである場合は、CAST 指定を使用してください。そうでない場合は、少なくとも 1 つのオペランドが XML データ・タイプになるように、XMLCAST 指定を変更してください。

sqlcode: -20338

sqlstate: 42815

SQL20339N XML スキーマ *xmlschema-name* は、操作 *operation* を実行できる正しい状態ではありません。

説明: XML スキーマ ID *xmlschema-name* により識別された XML スキーマは正しい状態でないため、これに対して *operation* で指定された操作を実行することができません。たとえば、XML スキーマがすでに完成しているのに、操作が追加の XML スキーマ文書を追加しようとする場合などです。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: XML スキーマの現在の状態を検査して、その XML スキーマに有効な操作を判別してください。XML スキーマが完成している場合、それ以上の XML スキーマ文書を追加することはできません。

sqlcode: -20339

sqlstate: 55063

SQL20340N XML スキーマ *xmlschema-name* に含まれている最低 1 つの XML スキーマ文書 (コンポーネント ID *component-id*) は、同じ *namespace* という名前空間に属している他の XML スキーマ文書に **include または **redefine** で接続していません。**

説明: ID *xmlschema-name* により識別される XML スキーマには、名前空間 *namespace* 内の複数の XML スキーマ文書が含まれています。これらの XML スキーマ文書のうち少なくとも 1 つは、include または redefine を使用して同じ名前空間内の他の XML スキーマ文書に接続していません。このような XML スキーマ文書の 1 つは、XML スキーマ・リポジトリの中で、コンポーネント ID *component-id* によって識別されます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 名前空間内のすべての XML スキーマ文書が include または redefine を使用して接続するように、XML スキーマ文書を訂正してください。名前空間の中で接続していない、特に言及されている XML スキーマ文書の詳細を調べるため、*component-id* を使用して SYSCAT.XSROBJECTCOMPONENTS を照会することができます。

sqlcode: -20340

sqlstate: 22534

SQL20341W *auth-ID* がすでにデータベース・オブジェクトの所有者であるため、転送操作は無視されました。

説明: TRANSFER ステートメントは、データベース・オブジェクトを許可 ID *auth-ID* に転送するよう指定していました。許可 ID はすでにデータベース・オブジェクトの所有者です。データベース・オブジェクトを転送する必要はありません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

sqlcode: +20341

sqlstate: 01676

SQL20342N *auth-ID* は、タイプ *object-type* のオブジェクト *object-name* を所有するために必要な 1 つ以上の特権 *privilege-list* をこのオブジェクトに対して持っていません。

説明: TRANSFER ステートメントが、オブジェクトの所有者になるために必要な特権を持たない許可 ID *auth-ID* に、オブジェクトの所有権を転送しようとした。オブジェクト *object-name* に対する特権 *privilege-list* は、欠落している特権です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 転送するオブジェクト *object-name* の所有者になるために必要なすべての特権 (*privilege-list* に示されている) を、許可 ID *auth-ID* に付与してください。

sqlcode: -20342

sqlstate: 42514

SQL20344N *object-name2* が関係した従属関係が原因で、所有権転送 *object-name1* が失敗しました。理由コード = *reason-code*。

説明: 以下の理由コードによって示されているとおり、従属関係が原因で所有権転送が失敗しました。

- 1 表階層 *object-name2* 内の表 *object-name1* は副表なので、転送できない。
- 2 ビュー階層 *object-name2* 内のビュー *object-name1* はサブビューなので、転送できない。
- 3 索引を定義している表 *object-name2* は宣言されたグローバル一時表であるので、索引 *object-name1* を転送できない。
- 4 メソッド本体または機能 *object-name1* は、ユーザー定義タイプ *object-name2* の作成時に自動的に生成されたので転送できない。
- 5 パッケージ *object-name1* は、SQL プロシージャ *object-name2* に依存するために転送できない。
- 6 イベント・モニター *object-name1* はアクティブであるため転送できない。

ユーザーの処置: 理由コードに対応するアクションは、以下のとおりです。

- 1 表階層全体を転送する。
- 2 ビュー階層全体を転送する。
- 3 宣言されたグローバル一時表をドロップする。
- 4 このメソッドまたは機能を作成したタイプをドロップする。
- 5 SQL プロシージャを転送する。
- 6 イベント・モニターの状態を非アクティブに設定する。

sqlcode: -20344

sqlstate: 429BT

SQL20345N XML 値が、単一のルート要素を持つ整形形式文書になっていません。

説明: XML 値が整形形式文書ではありません。表内に保管される、または妥当性検査される XML 値は、単一のルート要素を持つ整形形式 XML 文書でなければなりません。XML 値の文書ノードにはテキスト・ノードの子を含めないでください。ただし、コメント・ノードまたは処理命令ノードの子を含めることは可能です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: XML 値を保管または妥当性検査するには、それが単一のルート要素を持つ整形形式文書となるよう、XML 値を変更する必要があります。文書が整形形式である場合、XML 値の文書ノードに子として含まれるのが単一の要素ノードのみであり、テキスト・ノードの子が含まれていないことを確認してください。そうで

SQL20346N

ない場合、XML 値を保管または妥当性検査しないでください。

sqlcode: -20345

sqlstate: 2200L

SQL20346N XML スキーマ *xmlschema-id* には、名前空間 *namespace-uri* 内の、*element-local-name* という名前のグローバル要素が含まれていません。

説明: 妥当性検査の操作は、名前空間 *namespace-uri* 内の明示的なエレメント・ローカル名 *element-local-name* が、妥当性検査対象の XML 文書のルート要素であると指定していました。しかし、SQL ID *xmlschema-id* の XML スキーマは、名前空間 *namespace-uri* 内の *element-local-name* をグローバル要素として宣言していません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 妥当性検査対象の XML スキーマおよび XML 文書にとって、名前空間 *namespace-uri* 内の要素ローカル名 *element-local-name* が正しいものであることを確認してください。要素ローカル名、名前空間、または XML スキーマを変更して、妥当性検査を再試行してください。

sqlcode: -20346

sqlstate: 22535

SQL20347N XML 値には、名前空間 *namespace-uri* 内の *element-local-name* という名前のルート要素が含まれていません。

説明: XML 文書のルート要素が、妥当性検査用に指定された名前空間 *namespace-uri* 内の必須要素ローカル名 *element-local-name* と一致していません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ルート要素が、指定された要素ローカル名および名前空間と一致する XML 値を指定してください。XML 値が正しい場合は、指定された要素ローカル名または名前空間を変更してください。

sqlcode: -20347

sqlstate: 22536

SQL20349N プラグイン *plugin-name* 用のユーザー・マッピング・リポジトリのユーザー・マッピングにアクセスできません。理由コード *reason-code*

説明: プラグイン *plugin-name* 用のユーザー・マッピング・リポジトリのユーザー・マッピングにアクセス

できません。エラーの原因は、*reason-code* に示されています。

1

ユーザー・マッピング・プラグインがロードできない。

2

ユーザー・マッピング・プラグインが報告したユーザー・マッピング・プラグイン API のバージョンは、フェデレーションがサポートするバージョンとの互換性がない。

3

ユーザー・マッピング・リポジトリへの接続が確立できないか、または接続要求がタイムアウトになった。

4

ユーザー・マッピング項目が、ユーザー・マッピング・リポジトリ上で見つからない。

5

ユーザー・マッピング・リポジトリのユーザー・マッピング項目の処理中に、暗号化解除エラーが発生した。

6

ユーザー・マッピング・リポジトリからの切断が失敗した。

7

無効なパラメーターがユーザー・マッピング・プラグインに渡された。

8

ユーザー・マッピング・プラグインの無許可呼び出しが検出された。

9

ユーザー・マッピング・プラグインの終了が失敗しました。

10

予期しないエラーが検出されました。

ユーザーの処置: ユーザー・マッピング・プラグインの詳細については、フェデレーションの資料を参照してください。アクションは次のように *reason-code* に基づいています。

1

ユーザー・マッピング・プラグインが存在しており、正しい位置にあることを確認してください。

2

ユーザー・マッピング・プラグインがフェデレーションのサポートするバージョンのユーザー・マッピング・プラグイン API を使用していること、およびユーザー・マッピング・プラグインが正しいバージョン番号を報告していることを確認してください。

3

ユーザー・マッピング・リポジトリが稼働中であること、およびユーザー・マッピング・プラグインのリポジトリ接続パラメーターが正しいことを確認してください。

4

ユーザー・マッピング・リポジトリ上で、対応するユーザー・マッピング項目を作成してください。

5

ユーザー・マッピング・プラグインに暗号化解除ロジックが正しくインプリメントされていることを確認してください。

6

ユーザー・マッピング・リポジトリとネットワークが稼働中であるかどうかを確認してください。

7

ユーザー・マッピング・プラグインに渡されたすべてのパラメーター値が正しいことを確認してください。

8

フェデレーションにユーザー・マッピング・プラグインを呼び出す権限があることを確認してください。

9

プラグイン・レベルのグローバル・リソースを解放できるかどうか確認してください。

10

プラグインがこのエラーを定義済みエラーの 1 つにマップすることを確認してください。エラーのトレース情報を db2diag ログ・ファイルから入手できる場合があります。

sqlcode: -20349

sqlstate: 429BU

SQL20350N プラグイン *plugin-name* 用のユーザー・マッピング・リポジトリで認証が失敗しました。

説明: ユーザー・マッピング・リポジトリでの認証が失敗したため、プラグイン *plugin-name* 用のユーザー・マッピング・リポジトリのユーザー・マッピングにアクセスできません。

ユーザーの処置: ユーザー・マッピング・プラグインの詳細については、フェデレーションの資料を参照してください。プラグインのリポジトリ接続信用証明情報パラメーターを訂正してください。

sqlcode: -20350

sqlstate: 42516

SQL20351W すでにプラグインが定義されているラッパー *wrapper-name* のサーバーについて、ラッパー・オプションが無視されました。

説明: サーバーに指定された既存の DB2_UM_PLUGIN 関連オプションは、対応するラッパーの DB2_UM_PLUGIN 関連オプションを作成または変更しても、上書きされません。

ユーザーの処置: サーバーに指定済みの DB2_UM_PLUGIN 関連オプションを変更するには、サーバー・オプションを直接変更してください。

sqlcode: +20351

sqlstate: 01677

SQL20352W ユーザー・マッピングへの変更はフェデレーテッド・カタログ表だけに適用され、外部ユーザー・マッピング・リポジトリには適用されません。

説明: DB2_UM_PLUGIN オプションがサーバーに対して設定されています。このサーバーのユーザー・マッピングは外部ユーザー・マッピング・リポジトリから読み取られますが、CREATE USER MAPPING、ALTER USER MAPPING、および DROP (USER MAPPING) ステートメントはフェデレーテッド・カタログ表内のユーザー・マッピングにしか影響を与えません。

ユーザーの処置: 外部ユーザー・マッピング・リポジトリへの別のインターフェースを使用して、ユーザー・マッピングを作成、変更、またはドロップしてください。

sqlcode: +20352

sqlstate: 01678

SQL20353N 比較が伴う操作で、データ・タイプ *type-name* として定義されたオペランド *name* を使用することはできません。

説明: 比較を伴う操作において、データ・タイプ *type-name* として定義された、*name* によって識別される値を使用することは許可されていません。以下では、結果が *type-name* データ・タイプとなる式は許可されていません。

- SELECT DISTINCT ステートメント
- GROUP BY 節
- ORDER BY 節
- DISTINCT を持つ集約関数
- UNION ALL 以外のセット演算子の SELECT または VALUES ステートメント

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: データ・タイプ *type-name* では、要求された処理はサポートされていません。この値のデータ・タイプは、CAST または他の関数を使用して、サポートされるデータ・タイプに変更することができるかもしれません。

sqlcode: -20353

sqlstate: 42818

SQL20354N 表 *table-name* の行変更タイム・スタンプ列の指定が無効です。

説明: 以下の理由のいずれかで、行変更タイム・スタンプ列の指定が無効です。行変更タイム・スタンプ列では、以下を行うことはできません。

- 主キーの列にする。
- 外部キーの列にする。
- 関数的依存関係 DEPENDS ON 節の列にする。
- データベース・パーティション・キーの列にする。
- 一時表に対して定義する。

ステートメントは実行できません。

ユーザーの処置: 構文を訂正して、ステートメントを再サブミットしてください。

sqlcode: -20354

sqlstate: 429BV

SQL20356N 表 *table-name* を切り捨てることができません。理由として、表の DELETE トリガーが存在するか、またはこの表が参照制約において親となっています。

説明: 次のいずれかの理由により、TRUNCATE ステートメントを処理できませんでした:

- TRUNCATE ステートメントの結果として、DELETE トリガーがアクティブ化されます。ただし、RESTRICT WHEN DELETE TRIGGERS が (暗黙的または明示的に) ステートメントで指定されています。切り捨て対象の表に DELETE トリガーが存在する場合にこの状況が発生する可能性があり、TRUNCATE ステートメントの結果としてトリガーがアクティブ化されます。
- 切り捨てられる表は、参照制約における親表となっています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: DELETE トリガーが存在するためにステートメントが失敗した場合は、IGNORE DELETE TRIGGERS 節を TRUNCATE ステートメントで指定してください。参照制約のためにステートメントが失敗した場合は、ALTER TABLE ステートメントを使って参照制約をドロップした後、TRUNCATE ステートメントを再発行してください。

sqlcode: -20356

sqlstate: 428GJ

SQL20357N 1 つ以上のフェデレーテッド 1 フェーズ・コミット・データ・ソース・サイトで、コミットまたはロールバック処理が失敗しました。この結果、トランザクションの結果はすべてのサイトで一貫性のあるものとはなっていない可能性があります。後続の SQL ステートメントは処理できません。理由コード *reason-code*

説明: フェデレーテッド・サーバーがトランザクションのコミットまたはロールバックの要求を送信しましたが、要求を完了できないフェデレーテッド 1 フェーズ・コミット・データ・ソース・サイトが 1 つ以上あります。サーバー障害、通信リンク障害、または他の障害が原因かもしれません。トランザクションのコミットまたはロールバックは不完全です。

理由コードは具体的な状況を示しています。

1. コミット障害に更新フェデレーテッド・データ・ソースは関係していない。
2. コミット障害に更新フェデレーテッド・データ・ソースが関係している。
3. ロールバック障害に更新フェデレーテッド・データ・ソースは関係していない。
4. ロールバック障害に更新フェデレーテッド・データ・ソースが関係している。

5. フェデレーテッド・サーバーで db2fmp 処理が異常終了したために、コミット処理またはロールバック処理がエラー '-430' を検出しました。

ユーザーの処置: 詳細については管理通知ログをチェックしてください。フェデレーテッド 1 フェーズ・コミット・データ・ソース・サイトで手動で補正処置を適用することが必要な場合があります。システム管理者に連絡して援助を求める必要がある場合があります。

理由 5 の場合、フェデレーテッド・サーバーからアプリケーションを切断してください (例えば、'connect reset' clp コマンドを発行して再接続する)。

sqlcode: -20357

sqlstate: 40003

SQL20358N コミット処理またはロールバック処理がエラーを検出しました。一部のフェデレーテッド 2 フェーズ・コミット・データ・ソース・サイトでのトランザクションが未確定の可能性があり、後続の SQL ステートメントは処理できません。理由コード *reason-code*

説明: フェデレーテッド・サーバーがトランザクションのコミットまたはロールバックの要求を送信しましたが、要求を完了できないフェデレーテッド 2 フェーズ・コミット・データ・ソース・サイトが 1 つ以上あります。サーバー障害、通信リンク障害、または他の障害が原因かもしれません。トランザクションは、フェデレーテッド 2 フェーズ・コミット・データ・ソース・サイトで未確定の可能性があり、後続の SQL ステートメントは処理できません。

理由コードは具体的な状況を示しています。

1. フェデレーテッド・データ・ソース・サイトからのコミット確認通知の欠落。
2. フェデレーテッド・データ・ソース・サイトからの異常終了確認通知の欠落。
3. ロールバック処理がエラーを検出しました。トランザクションは、フェデレーテッド 2 フェーズ・コミット・データ・ソース・サイトで未確定の可能性があり、後続の SQL ステートメントは処理できません。
4. フェデレーテッド・サーバーで db2fmp 処理が異常終了したために、コミット処理またはロールバック処理がエラー '-430' を検出しました。

ユーザーの処置: エラーの原因を判別してください。最も一般的なエラーの原因は、フェデレーテッド・サーバー障害、フェデレーテッド・データ・ソース・サイト障害、または接続障害なので、システム管理者に連絡して援助を求める必要があります。フェデレーテッド・サーバー障害の場合、RESTART DATABASE コマンドはこのトランザクションのコミット処理またはロールバ

ック処理を完了します。フェデレーテッド・データ・ソース・サイト障害の場合は、障害が発生したデータ・ソースを再始動してください。接続障害の場合は、ネットワーク管理者または通信の専門家、もしくは両者に連絡して、問題の原因を判別してください。

理由 3 の場合、フェデレーテッド・データ・ソース・サイトの未確定トランザクションと考えられるものをチェックして、存在する場合には、それを手動で解決してください。

理由 4 の場合、フェデレーテッド・サーバーからアプリケーションを切断してください (例えば、'connect reset' clp コマンドを発行して再接続する)。

sqlcode: -20358

sqlstate: 08007

SQL20360W 指定された許可 ID には、トラステッド接続を確立できません。

説明: 指定された許可 ID には、トラステッド接続を確立できません。対応するトラステッド・コンテキストが現在定義されていないか、またはサーバーがトラステッド・コンテキストをサポートしていません。

トラステッド接続の作成が失敗し、通常接続が作成されました。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: フェデレーテッド要求時にこのメッセージが戻される場合、フェデレーテッド・データベースとリモート・サーバーとの間のトラステッド接続の作成が失敗し、代わりに通常接続が作成されました。

ユーザーの処置: サーバーがトラステッド・コンテキストをサポートしていることと、トラステッド・コンテキストが正しく定義されていることを確認し、トラステッド接続の再確立を試行してください。

フェデレーテッド・システム・ユーザー: リモート・サーバーがトラステッド・コンテキストをサポートしていることと、トラステッド・コンテキストがリモート・サーバーで正しく定義されていることを確認してください。

sqlcode: +20360

sqlstate: 01679

SQL20361N トラステッド・コンテキスト *context-name* 内の、許可 ID *authorization-name* を使用するユーザー切り替え要求は、理由コード *reason-code* のために失敗しました。

説明: トラステッド・コンテキスト *context-name* 内のユーザー切り替え要求が失敗しました。トラステッド接続は未接続状態です。

ユーザーの処置: 許可 ID *authorization-name* および理由コード *reason-code* に関する以下の説明に基づいて、必要なアクションを判別してください。

- 1 許可 ID は、トラステッド・コンテキストで許可されたユーザーではありません。トラステッド・コンテキスト定義の説明に従って、トラステッド・コンテキストで許可されたユーザーの許可 ID を提供してください。
- 2 ユーザー切り替え要求に認証トークンが含まれていませんでした。許可 ID 用の認証トークンを提供してください。
- 3 トラステッド・コンテキスト・オブジェクトが無効であるか、ドロップされたか、またはそのシステム許可 ID が変更されています。トラステッド接続を確立した許可 ID だけが許可されます。この許可 ID を指定してください。

sqlcode: -20361

sqlstate: 42517

SQL20362N 値 *value* を持つ属性 *attribute-name* はトラステッド・コンテキスト *context-name* の定義の一部ではないため、ドロップまたは変更することができません。

説明: 属性 *attribute-name* がトラステッド・コンテキストに指定されましたが、トラステッド・コンテキストはこの名前属性を使用して定義されていません。ステートメントを処理できませんでした。

ユーザーの処置: サポートされない属性の名前を除去して、ステートメントを再発行してください。

sqlcode: -20362

sqlstate: 4274C

SQL20363N 値 *value* を持つ属性 *attribute-name* は、トラステッド・コンテキスト *context-name* に固有ではありません。

説明: トラステッド・コンテキスト *context-name* の作成または変更中に、重複値 *value* が *attribute-name* 属性に対して指定されました。属性名と値の各組は、トラステッド・コンテキストに対して固有でなければなりません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 固有でない *attribute-name* の指定は除去して、ステートメントを再発行してください。

sqlcode: -20363

sqlstate: 4274D

SQL20364N ステートメントの中の位置 *number* にある名前 *name* の ID が長すぎます。

説明: 宛先バッファーに収めるのに記述ステートメントのうち少なくとも 1 つの ID が長すぎます。長すぎる名前のうち最初のもので、名前 *name* および順序位置番号によって示されます。準備済み照会の describe output を実行している場合、この順序位置は、その照会の選択リスト列に対する相対値です。CALL ステートメントの describe output を実行している場合、この順序位置は、その CALL の解決先プロシーチャーの OUT または INOUT パラメーターに対する相対値です。CALL ステートメントの describe input を実行している場合、この順序位置は、その CALL の解決先プロシーチャーの IN または INOUT パラメーターに対する相対値です。

列名、パラメーター名、ユーザー定義タイプ名、またはユーザー定義タイプ・スキーマ名が長すぎるか、またはコード・ページ変換後の結果が長すぎます。SQLDA 構造を使用するとき、列名、パラメーター名、ユーザー定義タイプ名、およびユーザー定義タイプ・スキーマ名の長さが制限されることに注意してください。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを実行します。

1. サポートされている最大長を超えて拡張されることのないようなコード・ページの指定されているクライアントを使用してください。
2. 列名の場合、列の名前がもっと短くなるように表、ビュー、またはニックネームを変更してください。
3. パラメーター名の場合、パラメーターの名前がもっと短くなるようにプロシーチャーを変更してください。
4. ユーザー定義タイプ名またはユーザー定義タイプ・スキーマ名の場合、ユーザー定義タイプの名前がもっと短くなるようにユーザー定義タイプをドロップおよび再作成してください。
5. スキーマ名の場合、表、ビュー、プロシーチャー、またはユーザー定義タイプを変更してください。

sqlcode: -20364

sqlstate: 42622

SQL20365W DECFLOAT に関わる算術演算または関数で、シグナル NaN が検出されました

説明: DECFLOAT 列または値を含む式、算術演算、または関数で、シグナル NaN (sNaN) が検出されました。結果は NaN です。

ユーザーの処置: 警告が戻されないようにするには、シ

グナル NaN を含むタプルを検出し、それを照会から除外します。

sqlcode: +20365

sqlstate: 01565

SQL20371W トラストド・コンテキスト *context-name* は、ステートメントで指定された一部の (すべてではない) 許可 ID で使用できなくなっています。

説明: *context-name* の ALTER TRUSTED CONTEXT ステートメントに複数の許可 ID または PUBLIC が指定された DROP USE FOR 節が含まれていますが、1 つ以上の許可 ID がトラストド・コンテキストを使用するように定義されていませんでした。1 つ以上のユーザーがトラストド・コンテキストの定義から除去されましたが、1 つ以上の他のユーザーはこれまでこのトラストド・コンテキストを使用することを許可されていませんでした。

ステートメントは処理されました。

ユーザーの処置: トラストド・コンテキストが、意図されたすべての許可 ID で使用できなくなっていることを確認してください。

sqlcode: +20371

sqlstate: 01682

SQL20372N トラストド・コンテキスト *context-name* で、他のトラストド・コンテキストに指定済みの許可 ID *authorization-name* が指定されました。

説明: *context-name* の CREATE TRUSTED CONTEXT または ALTER TRUSTED CONTEXT ステートメントにより SYSTEM AUTHID *authorization-name* が指定されましたが、この許可 ID は別のトラストド・コンテキストを使用するように定義済みです。トラストド・コンテキストに対して SYSTEM AUTHID として定義されたシステム許可 ID は、他のトラストド・コンテキストに SYSTEM AUTHID として関連付けることはできません。

以下の照会を使用して、この許可 ID をすでに使用しているトラストド・コンテキストを判別してください。

```
SELECT CONTEXTNAME FROM SYSCAT.CONTEXTS
WHERE SYSTEMAUTHID = <authorization-name>
```

ステートメントを処理できませんでした。

ユーザーの処置: 許可 ID をトラストド・コンテキストのシステム許可 ID に変更し、CREATE または ALTER ステートメントを再発行してください。

sqlcode: -20372

sqlstate: 428GL

SQL20373N CREATE TRUSTED CONTEXT または ALTER TRUSTED CONTEXT ステートメントで *authorization-name* が複数回指定されているか、またはトラストド・コンテキストがすでにこの許可 ID または PUBLIC によって使用されるように定義済みです。

説明: ステートメントの指定では *authorization-name* によるトラストド・コンテキストの使用が許可されていますが、指定された許可 ID または PUBLIC はトラストド・コンテキストを使用するようにすでに定義されているか、またはこの許可 ID がステートメント内で複数回指定されています。許可 ID または PUBLIC はトラストド・コンテキストの使用が事前に許可されていなくてはならず、トラストド・コンテキストに対してステートメント内では一度しか指定できません。

ステートメントを処理できませんでした。

ユーザーの処置: 許可 ID または PUBLIC が複数回指定されている場合は、*authorization-name* の余分の指定を除去して、ステートメントを再発行してください。

ALTER TRUSTED CONTEXT ステートメントに ADD USE FOR 節が含まれており、トラストド・コンテキストがその許可 ID または PUBLIC によって使用されるようにすでに定義されている場合は、指定されたユーザーの使用特性をこのトラストド・コンテキストを使用するように再定義する代わりに REPLACE USE FOR 節を使用してください。

sqlcode: -20373

sqlstate: 428GM

SQL20374N *context-name* の ALTER TRUSTED CONTEXT ステートメントで *authorization-name* が指定されていますが、トラストド・コンテキストは現在この許可 ID または PUBLIC によって使用されるように定義されていません。

説明: *context-name* への ALTER TRUSTED CONTEXT ステートメントで、*authorization-name* がトラストド・コンテキストを使用する権限を置換または削除しようとしたますが、指定された許可 ID または PUBLIC は現在トラストド・コンテキストを使用するように定義されていません。

ステートメントを処理できませんでした。

ユーザーの処置: ALTER TRUSTED CONTEXT ステートメントに REPLACE USE FOR 節が含まれており、ト

SQL20377N

ラストッド・コンテキストがその許可 ID または PUBLIC によって使用されるように定義されていない場合は、指定されたユーザーによって使用されるようにトラステッド・コンテキストを定義する代わりに、ADD USE FOR 節を使用してください。ALTER TRUSTED CONTEXT ステートメントに DROP USE FOR 節が含まれている場合、指定された許可 ID または PUBLIC はいずれも現在トラステッド・コンテキストを使用するように定義されていません。

sqlcode: -20374

sqlstate: 428GN

SQL20377N スtring *start-string* で始まる SQL/XML 式または関数引数の中で、正しくない XML 文字 *hex-char* が検出されました。

説明: SQL/XML 式または関数は、引数の 1 つの SQL スtring 値を XML スtring に変換しようとしたが、String には、正しい XML 1.0 文字ではない Unicode コード・ポイント *hex-char* の文字が含まれています。文字は、String *start-string* で始まる String 内に含まれています。 *hex-char* の値は、正しくない文字を「#xH」の形式の Unicode コード・ポイントの形で表しています。ここで H は、1 つ以上の 16 進文字です。以下の Unicode 文字のセット (正規表現を使用して定義) が許可されています。#x9 | #xA | #xD | [#x20-#xD7FF] | [#xE000-#xFFFF] | [#x10000-#x10FFFF]。このエラーを検出する可能性がある SQL/XML 式または関数の例として、XMLCAST、XMLELEMENT、XMLFOREST、XMLAGG、XMLDOCUMENT、XMLTEXT、XMLATTRIBUTES、XMLQUERY、または XMLTABLE などがあります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 正しくない文字 *hex-char* を除去するか、それを許可されている文字で置き換えてください。

sqlcode: -20377

sqlstate: 0N002

SQL20379N 許可 ID は、自分の SECADM 権限を使用して、オブジェクトの所有権を自分自身に転送することはできません。

説明: SECADM 権限を持つ許可 ID は、自分が所有していないオブジェクトの所有権を自分自身に転送することはできません。ただし、オブジェクトの所有権を別の許可 ID に転送することはできます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: オブジェクトの新規所有者として別の

許可 ID を選択してください。

sqlcode: -20379

sqlstate: 42502

SQL20383W RETURN DATA UNTIL 節に指定されているとおり、エラーが検出されて許容されました。

説明: RETURN DATA UNTIL 節で指定されているとおりのエラーが少なくとも 1 つ検出されて許容されました。照会の実行は継続しました。照会の結果は、エラーが生じなかった場合の結果とは異なる可能性があります。

ユーザーの処置: 照会結果が完全ではない可能性があることに注意してください。適切な場合は、許容されたエラーの原因を確認して、状況を訂正してください。

sqlcode: +20383

sqlstate: 02506

SQL20384W 指定されたロケールはサポートされていません。メッセージは、英語ロケールで戻されました。

説明: 指定されたロケールはデータベース・マネージャーによってサポートされていません。

ユーザーの処置: 「管理ガイド:プランニング」で『サポートされているテリトリー・コードおよびコード・ページ』を参照するか、または DB2 InfoCenter でサポートされるサーバー言語および対応するロケール値を参照してください。

sqlcode: +20384

sqlstate: 01684

SQL20386N DECLARE CURSOR ステートメント内で XQuery 式を指定することはできません。

説明: DECLARE CURSOR ステートメントで、FOR キーワードに続けて直接に XQuery 式を指定することはできません。XQuery 式は、準備済みステートメント名を使用した場合に限り、カーソルに関連付けることができます。

ユーザーの処置: XQuery 式を DECLARE CURSOR ステートメントから除去して、それをステートメント名で置き換えてください。同じステートメント名を使って PREPARE ステートメントを発行し、XQuery 式を準備してください。

sqlcode: -20386

sqlstate: 42637

SQL20387N セキュリティー・ラベル・コンポーネント *component-name* に対して指定されたエレメントが複数あります。

説明: セキュリティー・ラベルは、タイプ ARRAY のコンポーネントに対して複数のエレメントを持つことができません。

ユーザーの処置: セキュリティー・ラベル・コンポーネント *component-name* に 1 つのエレメントのみを指定してください。

sqlcode: -20387

sqlstate: 428GP

SQL20388N セキュリティー・ラベル・コンポーネント *component-name* に対して指定されたエレメントが多すぎます。

説明: タイプ SET または TREE のセキュリティー・ラベル・コンポーネントは、64 までのエレメントしか持つことができません。セキュリティー・ラベル・コンポーネント *component-name* に対してこの数を超えるエレメントが指定されています。

タイプ ARRAY のセキュリティー・ラベル・コンポーネントに関しては、エレメントの最大数は 65 535 です。ALTER SECURITY LABEL COMPONENT ステートメントを介してエレメントを追加する場合、DB2 はエンコードされた値を特定の方法でそれぞれの新規エレメントに割り当てるため、実際の上限はこの最大数より小さいかもしれません。

ユーザーの処置: TREE および SET セキュリティー・ラベル・コンポーネントに関しては、エレメントを除去して、64 個以下になるようにしてください。ARRAY セキュリティー・コンポーネントに関しては、最大数にまだ達していない場合、コンポーネントをドロップし、必要なすべてのエレメントを指定してコンポーネントを再作成してください。

sqlcode: -20388

sqlstate: 54061

SQL20389N コンポーネント・エレメント *element* は、セキュリティー・ラベル・コンポーネント *component-name* に定義されていません。

説明: コンポーネント・エレメント *element* は、セキュリティー・ラベル・コンポーネント *component-name* の定義内に存在していません。

ユーザーの処置: コンポーネントに有効なエレメントを

指定してください。以下の照会をサブミットして、セキュリティー・ラベル・コンポーネントの有効なエレメントをリストできます。

```
SELECT ELEMENTVALUE FROM
  SYSCAT.SECLABELCOMPONENTELEMENTS
WHERE COMPID=(SELECT COMPID FROM
  SYSCAT.SECLABELCOMPONENTS
WHERE COMPNAME = component-name)
```

スカラー関数 SECLABEL の実行中にこのエラーを受け取る場合、セキュリティー・ラベル・ストリングも確認して、値が、そのコンポーネントがセキュリティー・ポリシー内でリストされているのと同じ順序でリストされていることを確認してください。

sqlcode: -20389

sqlstate: 4274F

SQL20390N セキュリティー・ラベル・コンポーネント *component-name* は、セキュリティー・ポリシー *security-policy* に定義されていないので、そのコンポーネントをセキュリティー・ラベル *security-label* で使用することはできません。

説明: セキュリティー・ラベルには、ラベルがその一部となっているセキュリティー・ポリシーで定義されたコンポーネントの値だけを含めることができます。セキュリティー・ラベル・コンポーネント *component-name* は、セキュリティー・ポリシー *security-policy* の一部ではありません。セキュリティー・ラベル *security-label* はそのセキュリティー・ポリシーの一部なので、コンポーネント *component-name* をそのセキュリティー・ラベル内で使用することはできません。

ユーザーの処置: セキュリティー・ポリシー *security-policy* の一部であるセキュリティー・ラベル・コンポーネントを指定してください。以下の照会を実行して、セキュリティー・ポリシーの一部であるセキュリティー・ラベル・コンポーネントをリストできます。

```
SELECT COMPNAME FROM
  SYSCAT.SECURITYLABELCOMPONENTS
WHERE COMPID=(SELECT COMPID FROM
  SYSCAT.SECURITYPOLICYCOMPONENTRULES
WHERE SECPOLICYID = (SELECT
  SECPOLICYID FROM
  SYSCAT.SECURITYPOLICIES
WHERE SECPOLICYNAME =
  '<security-policy>'))
```

sqlcode: -20390

sqlstate: 4274G

SQL20391N 表に関連付けられたセキュリティ・ポリシーがないため、列 *column-name* にラベル・ベースのアクセス制御を適用することができません。

説明: SECURED WITH 節を列 *column-name* と共に使用する、またはそれをデータ・タイプ

DB2SECURITYLABEL で定義するには、セキュリティ・ポリシーを表に関連付ける必要があります。

ユーザーの処置: CREATE TABLE ステートメントの SECURITY POLICY 節、または ALTER TABLE ステートメントの ADD SECURITY POLICY 節を使用して、表にセキュリティ・ポリシーを追加してください。

sqlcode: -20391

sqlstate: 55064

SQL20392N 表 *table* には、すでにセキュリティ・ポリシーがあります。

説明: 表は最大で 1 つのセキュリティ・ポリシーしか持つことができません。一度関連付けると、表のセキュリティ・ポリシーは変更できません。

ユーザーの処置: 別のセキュリティ・ポリシーを表に割り当てないでください。

sqlcode: -20392

sqlstate: 55065

SQL20393N セキュリティ・ポリシー *security-policy* 内のコンポーネントの最大数を超過しています。

説明: セキュリティ・ポリシーは最大で 16 のコンポーネントを持つことができます。

ユーザーの処置: セキュリティ・ポリシー *security-policy* に対して指定したコンポーネントの数を減らしてください。

sqlcode: -20393

sqlstate: 54062

SQL20394N セキュリティ・ポリシー *policy-name* に使用されるルール・セットに、アクセス・ルール *access-rule* は存在していません。

説明: GRANT EXEMPTION ステートメントまたは REVOKE EXEMPTION ステートメントに指定されたアクセス規則 *access-rule* は、セキュリティ・ポリシー *policy-name* によって使用される LBAC 規則セットの一部ではありません。

ユーザーの処置: 指定されたアクセス規則が、指定されたセキュリティ・ポリシーで使用される規則セットに対して存在していません。

sqlcode: -20394

sqlstate: 4274H

SQL20395N セキュリティ・ラベル *security-label1* を GRANT すると、許可 ID *authorization-name* にも付与されたセキュリティ・ラベル *security-label2* と競合することになります。

説明: ユーザー、グループ、またはロールが、2 つの別々のラベル (一方は WRITE アクセス用、もう一方は READ アクセス用) を付与されている場合、それらのラベルは以下の規則を満たしていなければなりません。

1. タイプ ARRAY のセキュリティ・ラベル・コンポーネントの場合、両方のセキュリティ・ラベルで値を同じにすることが必要。
2. タイプ SET のセキュリティ・ラベル・コンポーネントの場合、WRITE アクセスで使用されるセキュリティ・ラベルに指定する値を、READ アクセスで使用されるセキュリティ・ラベルに指定する値のサブセットにすることが必要。
3. タイプ TREE のセキュリティ・ラベル・コンポーネントの場合、値を同じにすること、あるいは WRITE アクセスで使用されるセキュリティ・ラベルに指定する値を、READ アクセスで使用されるセキュリティ・ラベルのサブツリー値の 1 つにすることのどちらかが必要。

ユーザーの処置: 異なるセキュリティ・ラベルを付与するか、または付与するセキュリティ・ラベルに対して以下の変更の 1 つを加えてください。

1. タイプ ARRAY のセキュリティ・ラベル・コンポーネントの場合には必ず、両方のセキュリティ・ラベルに付ける値を同じにする。
2. タイプ SET のセキュリティ・ラベル・コンポーネントの場合には必ず、WRITE アクセスで使用されるセキュリティ・ラベルに指定する値を、READ アクセスで使用されるセキュリティ・ラベルに指定する値のサブセットにする。
3. タイプ TREE のセキュリティ・ラベル・コンポーネントの場合には必ず、値を同じにするか、または WRITE アクセスで使用されるセキュリティ・ラベルに指定する値を、READ アクセスで使用されるセキュリティ・ラベルのサブツリー値の 1 つにする。

sqlcode: -20395

sqlstate: 428GQ

SQL20396N セキュリティー・ポリシー *policy-name* について、*security-label-name* という名前のセキュリティ・ラベルが見つかりません。

説明: セキュリティー・ポリシー *policy-name* について、*security-label-name* という名前のセキュリティ・ラベルが見つかりません。これは組み込み関数 SECLABEL_BY_NAME の実行の失敗の原因となりました。

ユーザーの処置: *security-label-name* のスペルをチェックしてください。正しいセキュリティ・ポリシー名を使用していることを確認してください。

sqlcode: -20396

sqlstate: 4274I

SQL20397W ルーチン *routine-name* の実行が完了しましたが、実行中に少なくとも 1 つのエラー *error-code* が検出されました。詳細情報が入手可能です。

説明: ルーチン *routine-name* の実行が完了しました。要求された関数の内部実行時に、少なくとも 1 つのエラーが検出されました。検出された最後のエラーは *error-code* です。検出されたエラーに関する詳細情報が入手可能です。

ADMIN_CMD ルーチンの場合は、出力パラメーターおよび結果セットにデータが追加されています (出力パラメーターおよび結果セットがある場合)。

ユーザーの処置: 検出されたエラーの詳細情報を入手するには、出力パラメーターおよび結果セットを検索してください (出力パラメーターおよび結果セットがある場合)。実行中にメッセージ・ファイルが生成された場合、その内容を調べて、エラー状態を解決してください。適切な場合は、ルーチンを再呼び出ししてください。

sqlcode: +20397

sqlstate: 01H52

SQL20401N MQT または *object-name* という名前のステージング表が表に依存しているので、その表はセキュリティ・ポリシーによって保護することができません。

説明: マテリアライズ照会表 (MQT) またはステージング表が従属する表であるため、その表を LBAC によって保護することはできません。

ユーザーの処置: 必要であれば、MQT またはステージ

ング表 *object-name* をドロップし、ステートメントを再サブミットしてください。

sqlcode: -20401

sqlstate: 55067

SQL20402N 許可 ID *auth-id* には、*operation-name* 操作を表 *table-name* に対して実行するための LBAC 信用証明情報がありません。

説明: 許可 ID *auth-id* は、操作 *operation-name* を表 *table-name* に対して実行することが許可されていません。ユーザーは適切なセキュリティ・ラベルまたは免除証明書あるいはその両方を持っていないければ、保護表で行を挿入、更新、または削除すること、または表を保護表に変更することが許可されていません。

ユーザーの処置: データベース・セキュリティ管理者に依頼して、挿入、更新、または削除操作ができるように必要なセキュリティ・ラベルまたは免除を許可 ID *auth-id* に付与してもらってください。表を変更して保護表にするには、WRITE アクセスのセキュリティ・ラベルを付与されることが必要です。

sqlcode: -20402

sqlstate: 42519

SQL20403N 許可 ID *auth-id* はすでに *access-type* アクセス用のセキュリティ・ラベル (*security-label*) を持っています。

説明: それぞれの許可 ID は、WRITE アクセスおよび READ アクセス用にそれぞれ最大 1 つのセキュリティ・ラベルしか持つことができません。セキュリティ・ラベル *security-label* はすでに *access-type* アクセス用の許可 ID *auth-id* に付与されています。

ユーザーの処置: *access-type* アクセスに使用されるセキュリティ・ラベルを変更する場合、まず REVOKE SECURITY LABEL ステートメントを使用して、許可 ID *auth-id* からセキュリティ・ラベル *security-label* を取り消してください。

sqlcode: -20403

sqlstate: 428GR

SQL20404N セキュリティー・ラベル・オブジェクト *policy-name.object-name* は、現在使用中のため、ドロップできません。理由コード *reason-code*

説明: セキュリティー・ラベル・オブジェクト *object-name* がドロップできませんでした。ドロップできなかった理由は、以下のように理由コード *reason-code* で指定されます。

SQL20405N

- 1 つ以上のユーザー、グループ、または役割に付与されています。
- 1 つ以上の列を保護するのに使用中です。

ユーザーの処置: 理由コードに対応するユーザー応答は、以下のとおりです。

1. このセキュリティ・ポリシーのこのセキュリティ・ラベルを付与されたすべてのユーザー、グループ、または役割から、このラベルを取り消します。以下の照会を使用して、このラベルで認められたすべてのユーザーを検出することができます。

```
SELECT GRANTEE FROM SYSCAT.SECURITYLABELACCESS
WHERE SECLABELID = (SELECT SECLABELID FROM
SYSCAT.SECURITYLABELS
WHERE SECLABELNAME = '<object-name>' AND
SECPOLICYID = (SELECT SECPOLICYID FROM
SYSCAT.SECURITYPOLICIES
WHERE SECPOLICYNAME = '<policy-name>' ) )
```

2. このセキュリティ・ラベルを使用して列を保護するすべての表に対して、表を変更してこのセキュリティ・ラベルをドロップするか、表をドロップしてください。以下の照会を使用して、保護されるすべての表およびこのラベルを使用して保護されるすべての列を検出することができます。

```
SELECT TABNAME, COLNAME FROM SYSCAT.COLUMNS
WHERE SECLABELNAME = '<object-name>' AND
TABNAME = (SELECT TABNAME FROM
SYSCAT.TABLES
WHERE SECPOLICYID = (SELECT SECPOLICYID FROM
SYSCAT.SECURITYPOLICIES
WHERE SECPOLICYNAME = '<policy-name>' ) )
```

sqlcode: -20404

sqlstate: 42893

SQL20405N セキュリティ・ポリシー・オブジェクト *object-name* は、現在使用中のため、ドロップできません。理由コード *reason-code*

説明: セキュリティ・オブジェクト *object-name* がドロップできませんでした。ドロップできなかった理由は、以下のように理由コード *reason-code* で指定されます。

1. 1 つ以上の表を保護するのに使用されています。
2. それを使用する 1 つ以上のセキュリティ・ラベルがあります。
3. その規則の 1 つ以上に対して 1 つ以上の免除が与えられています。

ユーザーの処置: 理由コードに対応するユーザー応答は、以下のとおりです。

1. ALTER TABLE ステートメントを使用して、セキュリティ・ポリシーによって保護されている表から

そのセキュリティ・ポリシーを除去してください。以下の照会を使用して、このセキュリティ・ポリシーによって保護されているすべての表を検出することができます。

```
SELECT TABNAME FROM SYSCAT.TABLES
WHERE SECPOLICYID=(SELECT SECPOLICYID FROM
SYSCAT.SECURITYPOLICIES
WHERE SECPOLICYNAME = '<object-name>' )
```

2. このセキュリティ・ポリシーの一部であるすべてのセキュリティ・ラベルをドロップしてください。以下の照会を使用して、このセキュリティ・ポリシーに属するすべてのセキュリティ・ラベルを検出することができます。

```
SELECT SECLABELNAME FROM SYSCAT.SECURITYLABELS
WHERE SECPOLICYID=(SELECT SECPOLICYID FROM
SYSCAT.SECURITYPOLICIES
WHERE SECPOLICYNAME = '<object-name>' )
```

3. すべてのユーザーから、このセキュリティ・ポリシーによって使用される規則に付与されているすべての免除を取り消してください。以下の照会を使用して、このセキュリティ・ポリシーによって使用される規則に関する免除を付与されているすべてのユーザーを検出することができます。

```
SELECT GRANTEE, ACCESSRULENAME FROM
SYSCAT.SECURITYPOLICYEXEMPTIONS
WHERE SECPOLICYID=(SELECT SECPOLICYID FROM
SYSCAT.SECURITYPOLICIES
WHERE SECPOLICYNAME = '<object-name>' )
```

sqlcode: -20405

sqlstate: 42893

SQL20406N セキュリティ・ラベル・コンポーネント・オブジェクト *object-name* は、セキュリティ・ポリシーの一部であるため、ドロップできません。

説明: セキュリティ・ラベル・コンポーネント・オブジェクト *object-name* は、1 つ以上のセキュリティ・ポリシーから参照されているため、ドロップできませんでした。

ユーザーの処置: このセキュリティ・コンポーネントを参照するすべてのセキュリティ・ポリシーをドロップしてください。以下の照会を使用して、このセキュリティ・コンポーネントを参照するすべてのセキュリティ・ポリシーを検出することができます。

```
SELECT SECPOLICYNAME FROM SYSCAT.SECURITYPOLICIES
WHERE SECPOLICYID = (SELECT SECPOLICYID FROM
SYSCAT.SECURITYPOLICYCOMPONENTRULES
WHERE COMPID = (SELECT COMPID FROM
SYSCAT.SECURITYLABELCOMPONENTS
WHERE COMPNAME = '<object-name>' ) )
```

sqlcode: -20406

sqlstate: 42893

SQL20408N 表 *source-tablename* を表 *target-tablename* に接続することができません。ソース表の列 *source-columnname* とターゲット表のそれに関連する列 *target-columnname* が一致しないためです。理由コード = *reason-code*。

説明: ターゲット表列の属性が、ALTER TABLE ... ATTACH PARTITION ステートメント内のソース表にある対応する列 (序数位置で位置合わせされる) の属性と一致しません。 *reason-code* は、不一致のタイプおよび SYSCAT.COLUMNS ビューのどの列で表属性を検出すべきかを示します。

互換性のために、ソース表またはターゲット表のいずれかの特性を変更するのが困難または不可能である場合には、ターゲット表と互換性のある表を新規作成して、*source-tablename* からこの新しい表にデータをコピーすることができます。互換性のあるソース表の作成について詳しくは、DB2 インフォメーション・センターのタスク「新規ソース表の作成」を参照してください。

1

列のデータ・タイプ (TYPENAME) が一致していません。

2

列の NULL 可能性 (NULLS) が一致していません。

3

列の暗黙的なデフォルト値 (IMPLICITVALUE) は互換性がありません。

ターゲット表列とソース表列の両方が暗黙的なデフォルトを持っている場合 (IMPLICITVALUE が NULL でない場合)、その暗黙的なデフォルトは正確に一致していなければなりません。 IMPLICITVALUE 内の値を解釈する方法について詳しくは、「SQL リファレンス」を参照してください。

4

列のコード・ページ (COMPOSITE_CODEPAGE) が一致していません。

5

システム圧縮のデフォルト節 (COMPRESS) が一致していません。

6

source-columnname を保護するソース表のセキュリティ・ラベルは、 *target-columnname* を保護するターゲット表のセキュリティ・ラベルと異なります。これら 2 つの表には同じセットの保護される列が存在する必要があり、対応する列の各対は同じセキュリティ・ラベルで保護されている必要があります。

7

列の行変更タイム・スタンプ属性が一致していません。

8

構造化、XML、または LOB データ・タイプの場合、列のインライン長 (INLINE LENGTH) が一致しません。

9

ソース表の *source-columnname* に対する列マスクが存在し、それが使用可能である場合、ターゲット表の *target-columnname* に対する列マスクも存在し、使用可能でなければなりません。

10

列の ROW BEGIN システム生成属性が一致していません。

11

列の ROW END システム生成属性が一致していません。

12

列の TRANSCATION START ID システム生成属性が一致していません。

ユーザーの処置: 表の不一致を訂正してください。

1

データ・タイプの不一致を訂正するには、以下のステートメントを発行します。

```
ALTER TABLE ... ALTER COLUMN ...
SET DATA TYPE ...
```

2

以下のステートメントのいずれかを発行して、表のいずれかと一致しない列の NULL 可能性を変更してください。

```
ALTER TABLE... ALTER COLUMN...
DROP NOT NULL ALTER TABLE...
ALTER COLUMN... SET NOT NULL
```

3

新しいソース表を作成してください。互換性のあるソース表の作成について詳しくは、DB2 インフォメーション・センターのタスク「新規ソース表の作成」を参照してください。

4

新しいソース表を作成してください。互換性のあるソース表の作成について詳しくは、DB2 インフォメーション・センターのタスク「新規ソース表の作成」を参照してください。

5

列のシステム圧縮を変更するには、以下のステートメントのいずれかを発行して不一致を訂正します。

```
ALTER TABLE ... ALTER COLUMN ...
  COMPRESS SYSTEM DEFAULT
ALTER TABLE ... ALTER COLUMN ...
  COMPRESS OFF
```

6

列のセキュリティ保護を変更するには、以下のステートメントのいずれかを発行してください。

```
ALTER TABLE ... ALTER COLUMN ...
  SECURED WITH ... ALTER TABLE ...
  ALTER COLUMN ...
  DROP COLUMN SECURITY
```

7

ターゲット表の `target-columnname` が行変更タイム・スタンプ列として定義されている場合、`source-columnname` も行変更タイム・スタンプ列として定義されていなければなりません。

8

以下のステートメントを発行することにより、一致しない列のインライン長を変更してください:

```
ALTER TABLE ... ALTER COLUMN ...
  SET INLINE LENGTH ...
```

9

次のステートメントを発行して列 `target-columnname` に対するマスクを作成および使用可能化した後、ALTER を再試行します。

```
CREATE MASK ON target-table...
  FOR target-columnname... ENABLE
```

10

ターゲット表の `target-columnname` が ROW BEGIN システム生成列として定義されている

場合、`source-columnname` も ROW BEGIN システム生成列として定義されていなければなりません。

11

ターゲット表の `target-columnname` が ROW END システム生成列として定義されている場合、`source-columnname` も ROW END システム生成列として定義されていなければなりません。

12

ターゲット表の `target-columnname` が TRANSACTION START ID システム生成列として定義されている場合、`source-columnname` も TRANSACTION START ID システム生成列として定義されていなければなりません。

sqlcode: -20408

sqlstate: 428GE

SQL20409N XML 文書または構成される XML 値に、内部 ID の制限を超える XML ノードの組み合わせが含まれています。

説明: XML 値の各 XML ノードと関連付ける必要のある内部 ID は、XML ノードのレベルの数とこれらのレベル内の下位ノードを組み合わせると ID がオーバーフローするため、生成することができません。

ユーザーの処置: 文書または構成される XML 値で、XML ノードのレベルの数または下位ノードの数 (特に、XML ノードのより深いレベルにおいて) を減らしてください。

sqlcode: -20409

sqlstate: 560CG

SQL20410N XML 値にある XML ノードの下位ノード数が *limit-number* 下位ノードの制限を超えています。

説明: 式は、*limit-number* 下位ノードの制限を超える多くの下位ノードを持つ XML ノードで XML 値を生成しました。

ユーザーの処置: XML 値を生成する式を書き直して、下位ノードの数が制限を超えないようにしてください。

sqlcode: -20410

sqlstate: 560CH

SQL20412N XML 値のシリアライゼーションの結果
は、ターゲット・エンコード方式で表示できない文字となりました。

説明: XML データのシリアライゼーションでは、ソース UTF-8 エンコード方式以外のエンコード方式に変換する必要が生じることがあります。ターゲット・エンコードで表示できない文字がソース・エンコードに存在する場合、コード・ページ変換は XML シリアライゼーションの結果で許可されない置換文字を生成します。

ユーザーの処置: XML 値のすべての文字が表示できるターゲット・エンコード方式を選択してください。すべての文字を表示できる Unicode エンコード方式を推奨します。

sqlcode: -20412

sqlstate: 2200W

SQL20413N 組み込み機能 SECLABEL_TO_CHAR
は、許可 ID *auth-id* で READ アクセスのためのセキュリティ・ラベルが取り消されたために、実行できませんでした。

説明: 組み込み機能 SECLABEL_TO_CHAR を実行するには、READ アクセス用のセキュリティ・ラベルが許可 ID に必要です。READ アクセスのためのセキュリティ・ラベルは、許可 ID *auth-id* から取り消されています。

ユーザーの処置: データベース・セキュリティ管理者または SECADM 権限のあるユーザーに連絡して、セキュリティ・ラベルを再付与するように依頼してください。

sqlcode: -20413

sqlstate: 42520

SQL20414N *authority-or-privilege* 権限または特権を、
許可 ID *authorization-ID* に付与できません。

説明: GRANT ステートメントは権限または特権を、その権限または特権を受け取ることが許可されていない許可名に対して付与することを試行しました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 異なる権限または特権を付与するか、またはその権限または特権を受け取ることのできる許可 ID にそれを付与してください。

sqlcode: -20414

sqlstate: 42521

SQL20415N UNION ALL ビューに対する更新、削除、または挿入は、基礎表の 1 つが保護されているために失敗しました。

説明: UNION ALL ビュー内での更新、削除、および挿入は、そのビューが 1 つ以上の保護表に対して作成されたものである場合、許可されません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: UNION ALL ビュー内で、更新、削除、または挿入を行わないでください。

sqlcode: -20415

sqlstate: 429BZ

SQL20416N 提供された値 (*seclabel*) をセキュリティ・ラベルに変換できませんでした。ポリシー ID が *policy-id* のセキュリティ・ポリシーのラベルは、*correct-length* 文字の長さであることが必要です。その値は、*value-length* 文字の長さです。

説明: INSERT または UPDATE ステートメントは、タイプ DB2SECURITYLABEL の列に対して値を指定します。その値は、表を保護するセキュリティ・ポリシーの一部であるセキュリティ・ラベルとして適切な長さではないために、有効なセキュリティ・ラベルに変換できません。 *seclabel* 値が *N の場合、実際の値は db2diag ログ・ファイルに書き込まれています。

ユーザーの処置: 挿入または更新ステートメントを確認し、セキュリティ・ラベル列に設定されている値が表を保護するセキュリティ・ポリシーに対して有効であるようにしてください。ターゲット表と同じセキュリティ・ポリシーで保護されていない表から SELECT を実行すると、無効な値が生成されることもあります。セキュリティ・ラベルをコピーできるのは、同じセキュリティ・ポリシーで保護された表の間だけです。特定のポリシー ID のセキュリティ・ポリシー名を取得するには、この SQL 照会を使用してください。 *policy-id* は、エラー・メッセージに示されているポリシー ID 番号に置き換えてください。

```
SELECT SECPOLICYNAME
      FROM SYSCAT.SECURITYPOLICIES
      WHERE SECPOLICYID = policy-id
```

sqlcode: -20416

sqlstate: 23523

SQL20417W SQL のコンパイルは、データ・ソース *data-source-name* に接続しないで完了しました。接続エラー *error-text* が検出されました。

説明: フェデレーテッド・サーバーは、データ・ソースがどのフィーチャーをサポートするかを判別する SQL コンパイルの際にデータ・ソース *data-source-name* に接続できませんでした。SQL 照会にはデフォルトの設定値を使用してコンパイルされています。コンパイル時にリモート・サーバーの機能が正しく判別されていないので、実行時にエラーを受け取ることがあります。

error-text には、検出された接続エラーを示す情報が含まれています。

ユーザーの処置: データ・ソースが使用できる場合にステートメントの再コンパイルまたはパッケージのバインドを実行するか、またはエラー・トレラントなネストされた表の式が SQL ステートメントで使用されている場合には、コンパイルの直後にパッケージを実行してコンパイル時と実行時の間に接続状態が変化する可能性を小さくします。必要であれば、*error-text* 内の情報を使用して、データ・ソースに接続する際のエラーを解決してください。データ・ソース・サーバーへの接続をテストする方法については、インフォメーション・センターで「接続サーバーのテスト」を検索してください。

sqlcode: +20417

sqlstate: 01689

SQL20418N データベース・パーティション・グループは、既にバッファ・プールに割り当てられています。

説明: 追加しようとしたデータベース・パーティションが、すでにバッファ・プールに割り当てられていました。

ユーザーの処置: 別のデータベース・パーティション・グループを選択して、もう一度やり直してください。

sqlcode: -20418

sqlstate: 4274J

SQL20419N 表 *table-name* では、許可 ID *auth-id* にはセキュリティ・ラベル *security-label-name* を使用して列 *column-name* を保護するための LBAC 信用証明情報がありません。

説明: ユーザーは、セキュリティ・ラベルによって保護された列に書き込むことを許可する LBAC 信用証明情報がなければ、セキュリティ・ラベルを使用して列を保護することができません。許可 ID *auth-id* には、

セキュリティ・ラベル *security-label-name* によって保護されたデータに対する書き込みアクセスを許可する LBAC 信用証明情報がないので、それを使用して表 *table-name* の列 *column-name* を保護することはできません。

ユーザーの処置: データベース・セキュリティ管理者に、セキュリティ・ラベル *security-label-name* によって保護された列への書き込みアクセスを許可する、許可 ID *authid* の LBAC 信用証明情報の付与を依頼してください。

sqlcode: -20419

sqlstate: 42522

SQL20420N 表 *table-name* では、許可 ID *auth-id* にはセキュリティ・ラベル *security-label-name* を列 *column-name* から除去するための LBAC 信用証明情報がありません。

説明: 列を保護しているセキュリティ・ラベルの除去または取り替えを可能にするには、許可 ID に列に対する読み取りと書き込みの両方を許可する LBAC 信用証明情報があることが必要です。許可 ID *auth-id* には、セキュリティ・ラベル *security-label-name* で保護された列に対する読み取りと書き込みの両方を許可する LBAC 信用証明情報がないので、そのセキュリティ・ラベルの除去または取り替えができません。

ユーザーの処置: データベース・セキュリティ管理者に、セキュリティ・ラベル *security-label-name* によって保護された列への読み取りアクセスおよび書き込みアクセスの両方を許可する、許可 ID *authid* の LBAC 信用証明情報の付与を依頼してください。

sqlcode: -20420

sqlstate: 42522

SQL20421N 表 *table-name* は、セキュリティ・ポリシーによって保護されていません。

説明: セキュリティ・ポリシーによって保護されていない表からセキュリティ・ポリシーを除去することはできません。

ユーザーの処置: セキュリティ・ポリシーによって保護されている表を指定してください。

sqlcode: -20421

sqlstate: 428GT

SQL20422N 表 *table-name* が非表示の列だけになってしまうため、ステートメントが失敗しました。

説明: CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントが、すべての列が暗黙非表示と見なされている表 *table-name* を作成または変更しようとした。これは、次のような場合に発生します。

- CREATE TABLE ステートメントがすべての列の定義の一部として IMPLICITLY HIDDEN を指定したとき。
- ALTER TABLE ステートメントが非表示ではない列を暗黙非表示に変更したとき。

非表示ではない列として定義される列が少なくとも 1 つ含まれるように列定義を変更します。

ユーザーの処置: 表定義に暗黙非表示として定義されていない列が少なくとも 1 つ含まれていることを確認してください。

sqlcode: -20422

sqlstate: 428GU

SQL20423N サーバー *server-name* で索引 *index-name* を使用してテキスト検索処理中に、エラーが発生しました。エラー・メッセージは *text-search-error-msg* です。

説明: *text-search-error-msg* で説明されているエラーは、テキスト検索索引 *index-name* を使用したテキスト検索関数の処理中に発生しました。

ユーザーの処置: *text-search-error-msg* を使用して、エラーの原因を判別してください。エラー・メッセージが切り捨てられている場合、db2diag ログ・ファイルで完全なメッセージを参照できます。

text-search-error-msg の最初の語はエラー ID です。エラー ID が「CIE」で始まる場合、db2ts コマンドを使用して、詳細情報を入手します (例、db2ts help *error-identifier*)。

エラー ID が「CIE」で始まっていない場合、DB2 テキスト検索の資料を使用して、*text-search-error-msg* についての詳細情報を入手します。

sqlcode: -20423

sqlstate: 38H10

SQL20424N テキスト検索サポートを使用できません。理由コード = *reason-code*。

説明: テキスト検索を使用しようとしてエラーが発生しました。

エラーに関するさらに詳しい情報が理由コードによって示されます。

11

検索サーバーとのソケット通信に失敗しました。

12

検索システム操作中にリカバリー不能エラーが発生しました。

ユーザーの処置: テキスト検索インスタンス・サービスを再始動して、操作を再試行してください。エラーが再び発生する場合、システム管理者に連絡して、テキスト検索のサポートがインストールされていて、正しく構成され、システムで始動されていることを確認してください。

sqlcode: -20424

sqlstate: 38H11

SQL20425N *table-name* という名前の表にある *column-name* という名前の列がテキスト検索関数の引数として指定されましたが、指定された列にはアクティブなテキスト検索索引が存在しないため、ステートメントは失敗しました。

説明:

1. CONTAINS または SCORE などのテキスト検索関数が引数として列を指定しましたが、テキスト検索索引がこの列に存在しません。
2. テキスト検索索引が非アクティブです。
3. テキスト検索索引が無効です。例えば、基礎となる基本表がドロップされて再作成された場合などに、テキスト検索索引が自動的に無効にされることがあります。
4. 照会で、異なるタイプのテキスト検索索引を組み合わせで使用しています。

指定された列に対してテキスト検索処理を実行できません。

ユーザーの処置:

1. テキスト検索でデータベースが使用可能であること、および指定された列にテキスト検索索引が作成されていることを確認してください。
2. ALTER INDEX コマンドを ACTIVATE オプション付きで実行し、テキスト索引をアクティブ化してください。
3. 無効なテキスト検索索引が表列に存在する場合、そのテキスト索引をドロップして、新しいものを作成してください。

SQL20426N

4. 照会で複数のテキスト検索索引を組み合わせて使用している場合、すべての索引がアクティブで、同じタイプであることを確認してください。

sqlcode: -20425

sqlstate: 38H12

SQL20426N 矛盾するテキスト検索管理プロシージャまたはコマンドが同じ索引で実行されています。

説明: 2 つ以上の矛盾する管理プロシージャまたはコマンドが同じ索引で実行されています。

ユーザーの処置: 現在実行中のプロシージャまたはコマンドが完了してから、管理プロシージャまたはコマンドを呼び出してください。試行された操作が DISABLE である場合、この操作を後で再試行するか、またはコマンドの FORCE オプションを使用してください。

sqlcode: -20426

sqlstate: 38H13

SQL20427N テキスト検索管理プロシージャまたはコマンドでエラーが発生しました。エラー・メッセージは *text-search-error-msg* です。

説明: テキスト検索管理操作が、エラー・メッセージ *text-search-error-msg* で失敗しました。

ユーザーの処置: エラー・メッセージ *text-search-error-msg* を使用して、エラーの原因を判別してください。メッセージが切り捨てられている場合は、db2diag ログ・ファイルを参照することができます。

text-search-error-msg の最初の語はエラー ID です。エラー ID が「CIE」で始まる場合、db2ts コマンドを使用して、詳細情報を入手します (例、db2ts help *error-identifier*)。

エラー ID が「CIE」で始まっていない場合、DB2 テキスト検索の資料を使用して、*text-search-error-msg* についての詳細情報を入手します。

sqlcode: -20427

sqlstate: 38H14

SQL20428N ACCORDING TO XMLSCHEMA 節で指定した URI は空ストリングです。

説明: URI キーワードの後に指定されたターゲット名前空間 URI または LOCATION キーワードの後に指定されたスキーマ・ロケーション URI が空ストリングです。

ユーザーの処置: ACCORDING TO XMLSCHEMA 節のすべてのターゲット名前空間 URI およびすべてのスキーマ・ロケーション URI が空ストリングではない有効な URI であることを確認してください。

sqlcode: -20428

sqlstate: 428GV

SQL20429N このデータベースの FOR BIT DATA でないストリングの XML 操作 *operation-name* は許可されません。

説明: FOR BIT DATA でないため、指定した操作をこのストリングで実行することはできません。

operation-name は、XMLPARSE であるか、別の禁止された操作であるかのいずれかです。

ユーザーの処置: データベース構成パラメーター ENABLE_XMLCHAR が NO に設定されています。FOR BIT DATA でないストリングの XMLPARSE を許可するには、ENABLE_XMLCHAR を YES に設定してください。データベースが Unicode でなく、このデータベース・コード・ページで表示できない文字が構文解析されている XML 値に含まれている場合、文字の置換が発生する可能性があることに注意してください。

別の方法としては、タイプ XML のホスト変数、式、またはパラメーター・マーカを使用してステートメントを変更します。

sqlcode: -20429

sqlstate: 428GW

SQL20430N このコンテキストでは、グローバル変数 *variable-name* を設定または参照できません。

説明: コンテキストによっては、グローバル変数を設定できない場合、または参照できない場合があります。このメッセージは以下の状況で返されることがあります。

- ステートメントが、以下のコンテキストのいずれかで、名前付きグローバル変数の設定を試行しました。
 - コンパウンド SQL (インライン) ステートメント
 - 本体がコンパウンド SQL (コンパイル済み) ステートメントでない関数
 - メソッド
 - 本体がコンパウンド SQL (コンパイル済み) ステートメントでないトリガー
- AUTONOMOUS として定義されたプロシージャでグローバル変数が参照されている

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: サポートされない設定、またはグロー

バル変数の参照を除去してください。

sqlcode: -20430

sqlstate: 428GX

SQL20431N この表指定子について、**ROW CHANGE TIMESTAMP FOR** *table-designator* を戻すことはできません。

説明: **ROW CHANGE TIMESTAMP FOR** *table-designator* 式は、行変更タイム・スタンプ列として定義された列のない表には有効ではありません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメントから **ROW CHANGE TIMESTAMP FOR** 式を除去するか、表を変更して行変更タイム・スタンプ列を追加してください。

sqlcode: -20431

sqlstate: 55068

SQL20432N 更新 XML スキーマと互換性のない *enclosing-schema-component* に囲まれているか、これによって参照された *schema-component* が、オリジナル XML スキーマに含まれています。この非互換性の理由は以下のとおりです。 *reason-code* (*reason-string*)。

説明: 別の既存の XML スキーマを更新するよう指定された XML スキーマは、互換性のある XML スキーマ更新の基準に適合しません。更新 XML スキーマと互換性のないエレメント、属性、またはタイプ *enclosing-schema-component* に囲まれているか、これによって参照されたエレメント、属性、または型付き *schema-component* が、オリジナル XML スキーマに含まれています。この非互換性の具体的な理由は、*reason-code* (*reason-string*) で示されます。

1 (ATTRIBUTE CONTENT)

複合タイプ内で宣言または参照された属性が除去されたか、内容モデルの一部としていくつかの必須属性が追加されました。値 *schema-component* はオリジナル XML スキーマの囲んでいる複合タイプの名前で、値 *enclosing-schema-component* は複合タイプを参照するエレメントの名前です。無名複合タイプの場合、値 *schema-component* は空になります。

2 (ELEMENT CONTENT)

複合タイプ内で宣言または参照されたエレメントが除去されたか、内容モデルの一部としていくつかの必須エレメントが追加されました。値

schema-component はオリジナル XML スキーマの囲んでいる複合タイプの名前で、値 *enclosing-schema-component* は複合タイプを参照するエレメントの名前です。無名複合タイプの場合、値 *schema-component* は空になります。

3 (FACET CONFLICT)

単純タイプのファセット値が、単純タイプの値の範囲と互換性のない方法で変更されました。値 *schema-component* はオリジナル XML スキーマのこのファセットを定義する単純タイプの名前で、値 *enclosing-schema-component* は単純タイプを参照するエレメントまたは属性の名前です。無名単純タイプの場合、値 *schema-component* は空になります。

4 (INCOMPATIBLE TYPE)

インスタンス文書妥当性検査が失敗するような方法で、または単純タイプのアノテーションの変更のために互換性がなくなるような方法で、エレメントまたは属性のタイプが変更されました。値 *schema-component* はオリジナル XML スキーマのタイプ名で、値 *enclosing-schema-component* はそのタイプを参照するエレメントまたは属性の名前です。無名タイプの場合、値 *schema-component* は空になります。

5 (MIXED INTO NOT MIXED CONTENT)

オリジナル XML スキーマで混合と宣言された複合タイプの内容モデルが、更新 XML スキーマで非混合内容に変更されました。値 *schema-component* はオリジナル XML スキーマの複合タイプの名前で、値 *enclosing-schema-component* は複合タイプを参照するエレメントの名前です。無名複合タイプの場合、値 *schema-component* は空になります。

6 (NILABLE INTO NOT NILABLE)

オリジナル XML スキーマで、エレメント宣言の *nullable* 属性がオンにされましたが、更新 XML スキーマではオフになりました。値 *schema-component* はオリジナル XML スキーマのエレメントの名前で、値 *enclosing-schema-component* は空です。

7 (REMOVED ELEMENT)

schema-component で宣言されたグローバル・エレメントは更新 XML スキーマから除去されたか、抽象化されました。値 *enclosing-schema-component* は空です。

8 (REMOVED TYPE)

オリジナル XML スキーマには別のタイプから派生した *schema-component* のグローバル・タイプが含まれており、そのグローバル・タイプは更新 XML スキーマから除去されました。値 *enclosing-schema-component* は空です。

9 (SIMPLE TO COMPLEX)

オリジナル XML スキーマの単純内容を含む複合タイプを、更新 XML スキーマで複合内容を含むよう再定義することができませんでした。値 *schema-component* はオリジナル XML スキーマの複合タイプの名前で、値 *enclosing-schema-component* は複合タイプを参照するエレメントの名前です。無名複合タイプの場合、値 *schema-component* は空になります。

10 (SIMPLE CONTENT)

オリジナル XML スキーマで定義された単純タイプは、更新 XML スキーマと異なる基本タイプを持ちます。値 *schema-component* はオリジナル XML スキーマの単純タイプ名で、値 *enclosing-schema-component* はその単純タイプを参照するエレメントまたは属性の名前です。無名单純タイプの場合、値 *schema-component* は空になります。

ユーザーの処置: 上記の説明と *reason-code* (*reason-string*) を比較して、非互換性の原因を特定してください。次に問題を訂正し、コマンドを再サブミットして、XML スキーマを更新してください。

sqlcode: -20432

sqlstate: 22538

SQL20435N SELECT 節に ARRAY_AGG 関数が組み込まれています。同じ SELECT 節の中の ARRAY_AGG、LISTAGG、XMLAGG、および XMLGROUP 関数のすべての呼び出しの順序は同じではありません。

説明: SELECT 節に ARRAY_AGG が組み込まれていて、以下のいずれかの条件が存在しています。

- ARRAY_AGG 関数呼び出しに ORDER BY 節が組み込まれていて、指定されたソート・キーが、同じ SELECT 節の中の ARRAY_AGG、LISTAGG、XMLAGG、または XMLGROUP 関数呼び出しの少なくとも 1 つのオカレンスのソート・キーとは異なっています。
- ARRAY_AGG 関数呼び出しに ORDER BY 節が組み込まれておらず、指定されたソート・キーが、同じ SELECT 節の中の

ARRAY_AGG、LISTAGG、XMLAGG、または XMLGROUP 関数のすべての呼び出しで同じというわけではありません。

ユーザーの処置: ソート・キーが同一になるように変更するか、1 つを除くすべての関数呼び出しでソート・キー指定を除去します。

sqlcode: -20435

sqlstate: 428GZ

SQL20436N 配列に指定されたデータ・タイプが無効です。

説明: CREATE TYPE ステートメントの配列、配列コンストラクター、UNNEST に対する引数、ARRAY_AGG に対する引数、または ARRAY_AGG のターゲットに指定されたデータ・タイプが無効です。データ・タイプの指定には、次の制約が適用されます。

- 以下のデータ・タイプはサポートされていません。
 - LONG VARCHAR
 - LONG VARGRAPHIC
 - REFERENCE
 - XML
 - BOOLEAN (バージョン 9.7.5 より前)
 - 行データ・タイプおよび配列データ・タイプ以外のユーザー定義データ・タイプ
- 連想配列の添字データ・タイプは、INTEGER または VARCHAR でなければなりません。
- UNNEST に対する引数を、ネストされた配列にすることはできません。
- ARRAY_AGG に対する引数および ARRAY_AGG のターゲットとして、ネストされた配列を指定することはできません。
- ARRAY_AGG のターゲットとして、ネストされた配列を指定することはできません。
- ARRAY タイプまたは ROW タイプを他の ARRAY タイプの要素としてネストすることはできませんが、超えてはならない最大ネスト・レベルがあります。

ユーザーの処置: CREATE TYPE (配列) ステートメント、配列コンストラクター、UNNEST に対する引数、ARRAY_AGG に対する引数、または ARRAY_AGG のターゲットに指定されたデータ・タイプがサポートされていることを確認してください。

sqlcode: -20436

sqlstate: 429C2

SQL20437N データ・タイプが ARRAY ではないオブジェクトに配列索引の操作を適用することはできません。

説明: object[array index] という形式の配列索引操作は、タイプが ARRAY でないオブジェクトには適用できません。

ユーザーの処置: タイプ ARRAY 用に変数またはパラメーターを変更してください。

sqlcode: -20437

sqlstate: 428H0

SQL20438N 配列索引式のデータ・タイプを配列索引タイプに割り当てることはできません。

説明: object[array_index] という形式の式において、オブジェクトが通常の配列である場合、配列索引式のタイプは INTEGER に割り当て可能でなければなりません。オブジェクトが連想配列である場合、配列索引式のタイプは配列索引のデータ・タイプ (INTEGER または VARCHAR) に割り当て可能でなければなりません。

ユーザーの処置: 配列索引式のデータ・タイプを、サポートされるものに変更してください。

sqlcode: -20438

sqlstate: 428H1

SQL20439N 配列索引の値 value が範囲外であるか、または存在しません。

説明: 配列エレメント指定の配列索引の値または TRIM_ARRAY の 2 番目の引数が範囲外であるか、NULL 値です。連想配列の配列エレメント指定で配列索引が指定され、それが配列索引データ・タイプとして有効である場合、配列索引値 value を持つエレメントはこの配列の中に存在しません。

ユーザーの処置: 連想配列の場合:

- NULL 値ではない値を指定します。
- 配列索引データ・タイプが整数である場合は、整数の範囲内にある数値を値として指定します。
- 配列内に存在する配列索引値を指定します。

通常の配列の場合:

- この値が、割り当てステートメントの対象である配列エレメント指定で使われる配列索引である場合は、NULL 値ではなく、1 以上の値で、配列に定義された最大カーディナリティーより大きくない値に変更してください。
- この値が、式に含まれる配列エレメント指定で使われる配列索引である場合、または TRIM_ARRAY 関数

の 2 番目の引数である場合には、0 以上の値で、配列のカーディナリティーより大きくない値に変更してください。

sqlcode: -20439

sqlstate: 2202E

SQL20440N カーディナリティー cardinality の配列値が長すぎます。許可される最大カーディナリティーは max-cardinality です。

説明: 配列値は、そのカーディナリティー cardinality から最大カーディナリティー max-cardinality への切り捨てが必要とされる値でした。システム (組み込み) キャストまたは調整関数は、なんらかの方法で値をトランスフォームするために呼び出されました。この値が使用されている場所では、切り捨てが許されていません。

トランスフォームされる配列値は、以下のいずれかです。

- ストアード・プロシージャ呼び出しに対する引数
- ARRAY_AGG 関数への呼び出しの結果
- SET ステートメントの右辺で使われる配列コンストラクターの結果
- キャスト関数に対する引数

ユーザーの処置: SQL ステートメントを調べて、トランスフォーメーションが行われる場所を判別してください。トランスフォーメーションに対する入力長が長すぎるか、またはターゲットが短すぎます。入力のカーディナリティーを明示的に削減するか、ターゲットがサポートできるカーディナリティーを増やしてください。

sqlcode: -20440

sqlstate: 2202F

SQL20441N データ・タイプ type-name は、使用されているコンテキストではサポートされません。

説明: データ・タイプは、以下のようなさまざまなコンテキストで指定できます。

- SQL 関数のパラメーター:
 - モジュールで定義
 - コンパウンド SQL (コンパイル済み) ステートメントを使用して、モジュールで定義されない関数本体として
- SQL 関数の戻りタイプ:
 - モジュールで定義

SQL20442N

- コンパウンド SQL (コンパイル済み) ステートメントを使用して、モジュールで定義されない関数本体として
- SQL プロシージャのパラメーター
- SQL 関数で宣言されるローカル変数:
 - モジュールで定義
 - コンパウンド SQL (コンパイル済み) ステートメントを使用して、モジュールで定義されない関数本体として
- SQL プロシージャで宣言されるローカル変数
- トリガーで宣言されるローカル変数 (コンパウンド SQL (コンパイル済み) ステートメントを使ってトリガー本体として)
- コンパウンド SQL (コンパイル済み) ステートメント内の SQL ステートメントの式
- グローバル変数

無効なコンテキストには、次のようなものがあります。

- 外部ルーチンでのパラメーターまたは変数
- コンパウンド SQL (インライン) ステートメントによって定義された関数本体を持つ関数の戻りタイプ
- 表の列
- SQL PL コンテキスト外の SQL ステートメントのデータ・タイプ
- SQL PL コンテキスト外で参照されるグローバル変数 (モジュール変数を含む)
- SQL PL コンテキスト外から呼び出されるプロシージャまたは関数の入力/出力パラメーター
- パーティション・データベース環境 (DPF) または対称型マルチプロセッサ (SMP) 環境において、ネストされたタイプ内に定義されているオブジェクトを参照できるのは、トップレベルの SET および CALL ステートメントのみです。副照会は、ネストされたタイプのオブジェクトを参照できません。

ユーザーの処置: サポートされるコンテキストの最新リストと、このデータ・タイプの使用上の制約事項については、資料を参照してください。サポートされないコンテキストで使われているデータ・タイプをすべて除去してください。

コマンド・インターフェースからのルーチン参照でデータ・タイプを参照している場合には、SQL PL コンテキストの内部からルーチン呼び出すか、指定されたデータ・タイプのグローバル変数をルーチン引数として提供してください。

sqlcode: -20441

sqlstate: 428H2

SQL20442N 配列値を表示するのに十分な大きさのストレージがありません。

説明: 配列値を表示するのに必要なメモリーの量がシステムに許可された最大値を超えています。

ユーザーの処置: 可能な解決方法は、以下のとおりです。

- 配列値の作成を試行しているステートメントを訂正する
- 配列エレメントの数または一部のエレメントのサイズを削減する
- APPLHEAPSZ または APPL_MEMORY の値を増やす (AUTOMATIC に設定されていない場合)
- システムで使用できる物理メモリーの量を増やす

sqlcode: -20442

sqlstate: 57011

SQL20443N 属性 *attribute-name* の値は *length* 以下でなければなりません。

説明: トラストッド・コンテキストまたはワークロード定義に指定された属性が長すぎます。属性 *attribute-name* が指定されましたが、値が最大長 *length* を超えました。

ユーザーの処置: 長さが *length* 以下の有効な値を指定してください。

sqlcode: -20443

sqlstate: 42907

SQL20445N 指定したセキュリティー・ラベルの名前 *name* が無効です。

説明: セキュリティー・ラベル名は、それが指定されたコンテキストで、既存のセキュリティー・ポリシー名によって明示的に修飾されていなければなりません。

ユーザーの処置: 既存のセキュリティー・ポリシー名によって明示的に修飾されたセキュリティー・ラベル名を提供してください。

sqlcode: -20445

sqlstate: 42704

SQL20447N 書式制御ストリング *format-string* は、*function-name* 関数には無効です。

説明: 書式制御ストリング *format-string* は、*function-name* という関数では無効です。

関数の呼び出しに TO_CHAR、TO_DATE、または

TO_TIMESTAMP という名前が使用された場合でも、*function-name* として識別される関数に使用できるのは VARCHAR_FORMAT または TIMESTAMP_FORMAT です。

このメッセージは、書式制御ストリングの引数に次のいずれかの問題がある場合に戻されます。

1. サポートされない書式制御エレメントがある。
2. 書式に書式制御エレメントが含まれないか、空ストリングであるか、またはすべてブランクである。
3. 書式制御エレメントが複数回にわたって指定されている。
4. 書式制御ストリングの引数の長さが、許容される最大長を超えている。
5. サポートされない区切り文字がある。
6. 書式制御エレメントの数が多すぎる。
7. 接頭部または接尾部の書式制御エレメントが、ストリング内の間違った場所で指定されている (詳しくは DECFLOAT_FORMAT および VARCHAR_FORMAT を参照)。
8. 同じコンポーネントを表す複数の書式制御エレメントが存在する。例えば、TIMESTAMP_FORMAT 関数の YYYY および YY (年を示す書式制御エレメント) を両方とも書式制御ストリングで指定することはできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 書式制御ストリングの引数を変更して、*function-name* 関数を再び呼び出します。

有効な書式制御ストリング引数について、詳しくは、DB2 インフォメーション・センターの SQL リファレンスで *function-name* 関数について参照してください。

sqlcode: -20447

sqlstate: 22007

SQL20448N **TIMESTAMP_FORMAT** 関数では、書式制御ストリング *format-string* を使用して *string-expression* を解釈できません。

説明: *string-expression* および *format-string* を使って TIMESTAMP_FORMAT 関数が呼び出されました。関数の呼び出しに使用された名前は、TO_DATE または TO_TIMESTAMP の可能性もあります。タイム・スタンプ値の生成のために、書式制御ストリング *format-string* を使って値 *string-expression* を解釈することができません。このエラーは、次のいずれかの理由で発生する可能性があります。

- 指定された書式制御ストリングに対して *string-expression* が短すぎる

- 指定された書式制御ストリングに対して *string-expression* が長すぎる
- 書式制御ストリングで指定されたテンプレートに *string-expression* が準拠しない。例えば:
 - 書式制御ストリング内の対応する書式制御エレメントに対して *string-expression* で指定された桁数が多すぎる (例えば、92007 は YYYY の有効な値ではない)
 - 書式制御ストリング内の対応する書式制御エレメントに対して、*string-expression* 内の値が無効 (例えば、45 は DD の有効な値ではない)

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: TIMESTAMP_FORMAT 関数の書式制御ストリング引数を変更してください。詳しくは、「SQL リファレンス」の TIMESTAMP_FORMAT 関数を参照してください。

sqlcode: -20448

sqlstate: 22007

SQL20449N ツリー・エレメント *element-value* は、この指定場所では無効です。

説明: ツリー・エレメント *element-value* はツリーに存在するエレメントですが、ステートメント内のこの指定場所では無効です。ツリー・コンポーネントのツリー構造を維持する必要があります。

例えば ALTER SECURITY LABEL COMPONENT ステートメントにおいて、ADD ELEMENT 節の OVER 節で指定された *element-name* が、UNDER キーワードの直後に指定されたツリー・エレメントの直接の子エレメントではありません。

ユーザーの処置: ツリー構造を維持する有効なツリー・エレメントを指定してください。例えば、UNDER キーワードの直後に指定されたツリー・エレメントの直接の子エレメントである既存のツリー・エレメントだけを指定します。

sqlcode: -20449

sqlstate: 428H3

SQL20450N 階層照会の中で再帰の限度を超えました。

説明: CONNECT BY 節を使った階層照会は、再帰の深さ 64 レベルに制限されています。照会はこのレベルを超過しました。

ユーザーの処置: START WITH および CONNECT BY 節が正しいかどうか検証してください。64 レベルより深い再帰が予想される場合には、再帰共通表式を使って照会を書き直してください。再帰共通表式では任意の深

SQL20451N

さの再帰がサポートされます。

sqlcode: -20450

sqlstate: 54066

SQL20451N 階層照会で循環が検出されました。

説明: CONNECT BY 節を使った階層照会で、CONNECT BY 検索条件のもとで、それ自身の直接または間接の親である行が見つかりました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: CONNECT BY 節が正しいかどうか検証します。その際、特に PRIOR 演算子を注意深く調べてください。

- 循環が予想されない場合には、CONNECT BY 節で指定された検索条件に基づいて、FROM 節によって提供される結果表に循環データが含まれるかどうか検証してください。
- 循環が予想される場合には、NOCYCLE キーワードを CONNECT BY 節に追加します。例えば:

```
SELECT PK FROM T START WITH PK = 5
CONNECT BY NOCYCLE PRIOR PK = FK
```

sqlcode: -20451

sqlstate: 560CO

SQL20452N 階層照会の構成 *name* がコンテキスト外で使用されています。

説明: 以下のいずれかの構成が、階層照会のコンテキスト外で検出されました。

- LEVEL 疑似列
- PRIOR または CONNECT_BY_ROOT 単項演算子
- SYS_CONNECT_BY_PATH() 関数
- ORDER SIBLINGS BY 節

その理由は、以下のいずれかの可能性があります。

- *name* が指定されている副選択の中に CONNECT BY 節が存在しない。 *name* は相関できないことに注意してください。
- ORDER SIBLINGS BY が指定されたが、階層照会によって提供された部分的順序を破棄する DISTINCT、GROUP BY、または HAVING 節が存在する
- *name* のいずれかの引数が集約関数または OLAP 関数である
- *name* 自体が、階層照会の構成の引数である
- PRIOR が CONNECT BY 節のコンテキスト外で指定されている

- WHERE 節の暗黙的な結合述部で *name* が指定された
- START WITH 節で *name* が指定された

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置:

- 階層照会を意図していない場合、*name* が LEVEL であれば、*name* に一致する列または変数が存在するかどうか、および照会内で解決可能かどうかを検証してください。これらの ID は、通常の ID の解決が失敗した場合にのみ疑似列と見なされます。
- *name* を含んでいる副選択の中に CONNECT BY 節があることを確認します
- 集約関数と階層照会を組み合わせるときには、集約関数への引数として *name* を使用することを考慮してください (その逆ではありません)。例えば、CONNECT_BY_ROOT MAX(*name*) ではなく MAX(CONNECT_BY_ROOT *name*) を使用します。
- 照会から *name* を除去します。

sqlcode: -20452

sqlstate: 428H4

SQL20453N タスク *task-name* は現在実行中のため、削除できません。

説明: タスク *task-name* は現在実行中のため、これを削除する試行が失敗しました。

ユーザーの処置: タスクが完了するまで待ち、SYSPROC.ADMIN_TASK_REMOVE プロシージャを使ってタスクを削除してください。タスクの実行状況を確認するには、SYSTOOLS.ADMIN_TASK_STATUS ビューを使用できます。

sqlcode: -20453

sqlstate: 5UA01

SQL20454N 外部結合の演算子の使用が無効です。理由コード = *reason-code*。

説明: "(+)" として指定される外部結合演算子が、SQL ステートメント内で誤って使用されました。無効な使用の意味は、理由コード *reason-code* で説明されています。

- 1 FROM 節内で JOIN 構文を使用する副選択の中で外部結合演算子が使用されています。
- 2 別の副選択への相関参照を持つ AND 要因の中で外部結合演算子が使用されています。

- 3 AND 要因の中で、複数の表参照から得られる列に対して外部結合演算子が使用されています。
- 4 3 つ以上の表参照から得られる列を参照する AND 要因の中で外部結合演算子が使用されています。
- 5 AND 要因の中の NULL プロデューサーに関するいくつかの列参照で、外部結合演算子が欠落しています。
- 6 ただ 1 つの表参照からの列参照による AND 要因において外部結合演算子が指定されていません。同じ NULL プロデューサー表参照を使って外部結合を実行する AND 要因は他に存在しません。
- 7 複数の外部結合の中で同じ表参照が NULL プロデューサーとして使用されています。
- 8 循環を形成する別々の外部結合の中で同じ表参照が NULL プロデューサーおよび外部表として使用されています。
- 9 列の名前ではない ID とともに外部結合演算子が使用されています。ID はグローバル変数、ローカル変数、遷移変数、またはパラメーター名である可能性があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 外部結合演算子を使用する代わりに、FROM 節内で明示的な OUTER JOIN 構文を使用してください。あるいは、理由コードに応じて、外部結合演算子の無効な使用を修正または除去することもできます。

sqlcode: -20454

sqlstate: 428H5

SQL20456N ROW CHANGE TIMESTAMP および GENERATED BY DEFAULT と定義されている列に対して、DEFAULT と明示的な値の両方を指定することはできないため、複数行の挿入操作または更新操作が失敗しました。

説明: 複数行データの挿入操作または更新操作において、ROW CHANGE TIMESTAMP 属性と GENERATED BY DEFAULT 属性の両方を使って定義された列のいくつかの行に DEFAULT を指定し、他の行に明示的な値を指定した状態で、行の挿入または更新が試行されました。

ユーザーの処置: ステートメントを修正して、列のすべての行に対して DEFAULT だけを指定するか、列のすべての行に対して明示的な値を提供してください。あるいは、

この操作に 2 つのステートメントを使用し、1 つのステートメントでは列値を DEFAULT に設定して、もう 1 つのステートメントでは明示的な値に列値を設定することもできます。

sqlcode: -20456

sqlstate: 560CP

SQL20457N プロシージャ *procedure-name* は、パラメーター *number* の、サポートされないバージョン *version* を検出しました。

説明: 序数位置 *number* のパラメーターに指定されているバージョン *version* は、プロシージャ *procedure-name* によってサポートされていません。

ユーザーの処置: プロシージャを呼び出して、パラメーターのサポートされているバージョン番号を指定します。パラメーターのサポートされている最高のバージョン番号は、プロシージャを呼び出し、そのパラメーターに NULL 値を指定することによって入手できます。

sqlcode: -20457

sqlstate: 38554

SQL20458W プロシージャ *procedure-name* は、パラメーター *number1* の内部パラメーター処理エラーを検出しました。パラメーター *number2* の値には、エラーに関するさらに詳しい情報が含まれています。

説明: プロシージャ *procedure-name* の呼び出しの、序数位置 *number1* のパラメーターの形式または内容が無効です。序数位置 *number2* に指定された出力パラメーターに、このエラーへの対処方法に関する情報が含まれています。

ユーザーの処置: 序数位置 *number2* に指定された出力パラメーターの情報を参考にして、パラメーター値の形式または内容を訂正し、プロシージャを再び呼び出してください。

sqlcode: +20458

sqlstate: 01H54

SQL20459W プロシージャ *procedure-name* は、内部処理エラーを検出しました。パラメーター *number* の値には、エラーに関するさらに詳しい情報が含まれています。

説明: プロシージャ *procedure-name* が要求を処理しているときに、エラーが生じました。序数位置 *number* に指定された出力パラメーターに、このエラーへの対処方法に関する情報が含まれています。

SQL20460W

ユーザーの処置: 序数位置 *number* に指定された出力パラメーターの情報を参考にして、エラーを訂正し、再びプロシージャーを呼び出してください。

sqlcode: +20459

sqlstate: 01H55

SQL20460W このプロシージャー *procedure-name* は、パラメーター *number* に関して、指定されたバージョン *version2* よりも高位のバージョンである *version1* をサポートしません。

説明: 序数位置 *number* のパラメーターに関して、より高位のバージョン *version1* が、プロシージャー *procedure-name* によってサポートされています。指定されたバージョン *version2* は、このパラメーターに関してサポートされません。

ユーザーの処置: 新しいバージョンのパラメーターでサポートされる追加フィーチャーについての詳細情報は、資料で確認してください。それらの追加フィーチャーを利用するには、最新のバージョンにアップグレードしてください。

sqlcode: +20460

sqlstate: 01H56

SQL20461W プロシージャー *procedure-name* は、パラメーター *number* で指定されたロケール *locale2* ではなく、別のロケール *locale1* に出力を戻しました。

説明: 序数位置 *number* のパラメーターに指定されたロケール *locale2* は、プロシージャー *procedure-name* の出力には使用できませんでした。出力は、ロケール *locale1* を使って戻されました。

ユーザーの処置: 指定のロケール *locale2* のサーバーにメッセージ・ファイル・サポートをインストールするか、またはサポートされるロケールを指定してください。

sqlcode: +20461

sqlstate: 01H57

SQL20462W 行変更特殊列を返すことができません。理由コード = *reason-code*。

説明: 準備属性として WITH ROW CHANGE COLUMNS ALWAYS DISTINCT が指定されていますが、データベース・マネージャーは行変更特殊列を返すことができません。

ステートメントは正常に準備されています。

ユーザーの処置: 行変更特殊列が必要な場合は、以下の *reason-code* 値からアクションを判別してください。

- 1 準備された SELECT ステートメントは、行変更列に対して適格ではありません。例えば、GROUP BY、結合、または UNION が含まれています。行変更特殊列のリターンをサポートするように SELECT ステートメントを変更してください。
- 2 AS ROW CHANGE TIMESTAMP と定義された列が表に存在しません。AS ROW CHANGE TIMESTAMP 属性が定義された列を持つように表を変更してください。
- 3 AS ROW CHANGE TIMESTAMP と定義された列が表に追加されていますが、表の再編成がまだ行われていません。表を再編成してください。

sqlcode: +20462

sqlstate: 0168T

SQL20464N SECADM 権限を *authorization-ID* から取り消そうとしましたが、これは SECADM 権限を持つユーザー・タイプの唯一の外部許可 ID であるため、操作が拒否されました。

説明: ユーザー・タイプの少なくとも 1 つの外部許可 ID が SECADM 権限を保持する必要がありますが、REVOKE ステートメントは、この権限を持つユーザー・タイプの最後の許可 ID から権限を取り消そうとしています。ステートメントは実行できません。SECADM 権限は取り消されません。

ユーザーの処置: SECADM 権限を *authorization-ID* から取り消すことができるようにするには、ユーザー・タイプの別の外部許可 ID に SECADM 権限を付与してください。

sqlcode: -20464

sqlstate: 42523

SQL20465N バイナリー XML 値は不完全であるか、位置 *position* に 16 進データ *text* で始まる識別不能データを含んでいます。理由コード = *reason-code*。

説明: バイナリー XML 値の処理中にエラーが発生しました。 *position* バイトにある 16 進の XML データの先頭 8 バイトは *text* です。識別不能なデータがバイナリー XML データの末尾の 8 バイトの中にある場合は、位置 *position* からバイナリー XML データの末尾

までのデータのみが表示されます。理由コードは具体的な問題を示しています。

1. 指定された XDBX データが不完全です。
2. 挿入操作に XML シーケンスが指定されていますが、これはサポートされていません。
3. 挿入操作に指定された XDBX データに、サポートされないタグが含まれています。
4. 参照されたストリング ID は、事前に定義されていません。
5. 指定された長さが正しくありません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: XML データの問題を修正するか、またはデータ転送にテキスト形式 XML フォーマットを使用するようにアプリケーションを変更してください。

sqlcode: -20465

sqlstate: 22541

SQL20467N 照会に対する単一値として式を計算することができないので、ステートメントは実行されませんでした。無効な式は、ステートメント内の構文要素 *text* の付近にあります。

説明: 構文要素 *text* の付近にあるステートメント内の式は、単一値の結果になる必要があります、以下の要素のいずれかで構成されていなければなりません。

- 定数
- 特殊レジスター
- パラメーター・マーカー
- 変数
- 外部アクションを伴わない deterministic 関数
- 上記のいずれかの要素をオペランドとする式

式には、以下の要素のいずれも組み込むことができません。

- 列名
- 非 deterministic 関数
- 外部アクションを伴う関数
- 上記のいずれかの要素をオペランドとする式

ユーザーの処置: 組み込むことのできない要素をすべて除去するように式を変更した後に、ステートメントを再び実行してください。

sqlcode: -20467

sqlstate: 428H7

SQL20469N 理由コード *reason-code* のため、表 *table-name* の行または列のアクセス制御の活動化に失敗しました。

説明: 表 *table-name* について、行のアクセス制御を明示的または暗黙的に活動化できないか、または列のアクセス制御を明示的に活動化できません。理由は以下のいずれかです。

37

トリガー *object-name* が表に対して定義されているが、そのトリガーはセキュアなものとして定義されていません。

38

表にビューが定義され、トリガー *object-name* がそのビューに対して定義されているが、そのトリガーはセキュアなものとして定義されていません。

40

表は、型付き表またはカタログ表のいずれかです。

41

表はマテリアライズ照会表によって参照されており、マテリアライズ照会表は NOT SECURED 属性が指定されている関数を参照しています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: エラーを修正し、表の行または列のアクセス制御の活動化を再試行してください。

sqlcode: -20469

sqlstate: 55019

SQL20470N *object-type1* の *object-name1* がセキュアなものとして定義されておらず、*object-type2* の *object-name2* がそれに依存しているため、CREATE または ALTER ステートメントが失敗しました。

説明: *object-type1* の *object-name1* は、*object-type2* の *objectname2* が行または列のアクセス制御のためにそれに依存しているため、セキュアなものとして定義されている必要があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 行の許可やマスクがオブジェクトに依存しているか、あるいは行または列のアクセス制御がアクティブ化されている表を参照するマテリアライズ照会表がオブジェクトに依存している場合は、そのオブジェ

SQL20471N

クトをセキュアな状態に保つ必要があります。
CREATE または ALTER ステートメントを完了させるには、従属オブジェクトを、それが不要であることを確認した上でドロップしてください。

sqlcode: -20470

sqlstate: 428H8

SQL20471N INSERT または UPDATE ステートメントは、結果の行が行の許可を満たさないため失敗しました。

説明: INSERT または UPDATE 操作のオブジェクトに対して、行アクセス制御が行われています。表内の行に対するすべての INSERT または UPDATE の試行は、結果の行がその表に定義されている行の許可に適合するようにチェックされます。

ステートメントは処理できません。 INSERT または UPDATE 操作は実行されず、表の内容は変更されません。

ユーザーの処置: 行の許可の定義を調べて、要求された INSERT または UPDATE 操作が失敗した理由を判別してください。これは、データ固有の条件である可能性があります。

sqlcode: -20471

sqlstate: 22542

SQL20472N 許可またはマスク object-name の ALTER ステートメントは、理由コード reason-code のために失敗しました。

説明: 次のいずれかの理由により、ALTER MASK または ALTER PERMISSION ステートメントを処理できませんでした。

1

デフォルトの行の許可を変更できません。

2

オブジェクトが無効であるため、ENABLE を指定できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置:

1

変更可能な行の許可または列マスクの名前を指定します。

2

無効な状態の場合、行の許可または列マスクを使用不可にし、それをドロップしてから再作成します。

sqlcode: -20472

sqlstate: 428H9

SQL20473N NOT SECURE オプションを指定して作成された関数 function-name が失敗しました。その関数は、表に対して列アクセス制御が活動化された、列マスクを持つ列 column-name を参照しました。

説明: 非セキュア関数の入力引数は、表に対する列アクセス制御が活動化された、列マスクの定義されている列を参照してはなりません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置:

- 関数への入力引数として、そのような列を参照しないでください。
- 列マスクを使用不可にするかドロップしてから、関数を再び呼び出してください。

sqlcode: -20473

sqlstate: 428HA

SQL20474N CREATE PERMISSION または CREATE MASK ステートメントは、理由コード reason-code のために、オブジェクト・タイプ object-type のデータベース・オブジェクト object-name で失敗しました。

説明: CREATE PERMISSION または CREATE MASK ステートメントは、CREATE PERMISSION または CREATE MASK ステートメント内の定義が以下を参照しているため、処理できませんでした。

1

行の許可または列マスクが定義されている表。

2

表関数。

3

セキュアでないユーザー定義関数。

4

deterministic ではないとして定義されている関数、または外部アクションを持つように定義されている関数。

5	OLAP 仕様。	34	列マスクが定義されている列のデータ・タイプとは異なる、戻り式のデータ・タイプ。
6	XMLEXISTS 述部。	35	列マスクが定義されている列の長さ属性とは異なる、戻り式の長さ属性。
7	ROW CHANGE 式。	36	列マスクが定義されている列の NULL 属性とは異なる、戻り式の NULL 属性。
8	シーケンス参照。	37	列マスクが定義されている列の対応する属性とは異なる、サブタイプまたはコード化スキーム。
9	作成済みまたは宣言済み一時表。	38	カバールされている属性以外の戻り式の属性。
10	XML 列のために暗黙的に作成された表。	51	生成された列を定義する式で、列が参照されている。
11	SELECT 節にある * または name.*。	52	セキュリティ・ラベル列を含む表に対して行の許可を作成することはできません。
12	FIELDPROC を使用して定義されている列。		
13	複数のコード化スキーム処理を必要とする言語エレメント。		
14	ダッシュ (-) を含む通常の SQL ID。		
16	期間の指定を含む行の許可または列マスク。		
17	履歴表または期間内に定義された表を参照している行の許可または列マスク。		
18	SELECT 節の指定のない集約関数。		
19	ニックネーム。		
20	メソッド。		
21	疑似列。		
22	XMLQUERY スカラー関数。		
33			

SQL20475N 指定された列に対して列マスクが既に定義されているため、CREATE MASK ステートメントは失敗しました。列名: *column-name*。表名: *table-name*。既存のマスク名: *mask-name*。

説明: 1 つの列に対して 1 つのマスクしか定義できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置:

1. DROP MASK SQL ステートメントを実行して、既存の列マスクをドロップします。
2. その後、CREATE MASK ステートメントを再び実行して新しい列マスクを作成します。

SQL20476N

sqlcode: -20475

sqlstate: 428HC

SQL20476N 関数 *function-name* の呼び出しで、無効な書式制御ストリング *format-string* が使用されました。

説明: 無効な書式制御ストリングが *function-name* 関数に指定されました。関数の呼び出しに TO_CHAR または TO_NUMBER という名前が使用される場合でも、*function-name* の値は VARCHAR_FORMAT または DECFLOAT_FORMAT のいずれかです。

VARCHAR_FORMAT 関数のための有効な書式制御ストリングは、以下のものでなければなりません。

- 254 バイトを超えない、データ・タイプの実際の長さがある
- サポートされる書式制御エレメントだけを含んでいる
- 結果として生成されるストリングの実際の長さが、結果の長さ属性を超えない

DECFLOAT_FORMAT 関数のための有効な書式制御ストリングは、以下のものでなければなりません。

- 254 バイトを超えない、データ・タイプの実際の長さがある
- 少なくとも 1 つの書式制御エレメントを含む
- サポートされる書式制御エレメントだけを含んでいる

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: *function-name* 関数の書式制御ストリング引数を変更してください。詳しくは、「SQL リファレンス」の該当する関数の説明を参照してください。

sqlcode: -20476

sqlstate: 22018

SQL20477N 関数 *function-name* は、書式制御ストリング *format-string* を使用して引数 *string-expression* を解釈できません。

説明: 関数 *function-name* が *format-string* および *string-expression* を使って呼び出されました。関数の呼び出しに使用された名前が TO_NUMBER であっても、*function-name* の値は DECFLOAT_FORMAT になります。DECFLOAT(34) 値を生成するために、書式制御ストリング *format-string* を使って引数 *string-expression* の値を解釈することができません。

このエラーは、次のいずれかの理由で発生する可能性があります。

- 指定された書式制御ストリングに対して *string-expression* が長すぎる

- 書式制御ストリングで指定されたテンプレートに *string-expression* が準拠しない。例えば:

- 書式制御ストリング内の対応する書式制御エレメントに対して *string-expression* で指定された桁数が多すぎる (例えば、1234 は 999 の有効な値ではない)
- 書式制御ストリング内の対応する書式制御エレメントに対して、*string-expression* 内の値が無効 (例えば、\$ は S の有効な値ではない)

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 関数 *function-name* の引数を、有効な値に変更します。詳しくは、「SQL リファレンス」の該当する関数の説明を参照してください。

sqlcode: -20477

sqlstate: 22018

SQL20478N 列マスク *mask-name* が列 *column-name* に定義されていますが、列マスクを適用できないか、または失敗したステートメントと列マスクが競合しているため、ステートメントは失敗しました。理由コード *reason-code*

説明: 列マスクへの参照がサポートされていません。エラーの原因は、以下の理由コードによって説明されています。

1

選択の結果表は、EXCEPT ALL を含むセット演算、または INTERSECT ALL セット演算子から派生しています。選択リストの列を参照しないように照会を変更するか、またはこのコンテキストでセット演算を使用しないでください。

4

mask-name マスクで参照されている *column-name* 列と同じ表内の各列は、GROUP BY 節の中でも単純な列参照として参照されていなければなりません。そのような列は、GROUP BY 節のグループ化式の中で参照されてはなりません。選択リスト内で列を参照しないように照会を変更するか、または *mask-name* マスクで参照されている同じ表の各列について、単純な列参照だけを含むように GROUP BY 節を変更してください。

22

列 *column-name* は、ステートメント内の表関数または行関数への入力です。関数の結果への

参照には、列マスク *mask-name* が関数の入力に適用されることを必要とするものと、列マスクを必要としないものがあります。指定された列が表関数または行関数への入力である場合には、関数の結果へのすべての参照のマスク要件が同じである必要があります。

30

INSERT または UPDATE 操作は、*column-name* に対する列マスク *mask-name* から返されるマスク値を使用します。マスク値を返すのに使用された列マスク定義の THEN または ELSE 節で指定された式が、列 *column-name* への単純参照ではありません。指定された INSERT または UPDATE 操作では、列マスク定義内の戻り式は、マスクが定義されている列への単純参照でなければなりません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置:

- INSERT または UPDATE 操作にある列への参照を取り除いてから、操作を再試行してください。
- セキュリティー管理者に連絡して、列マスク定義内の戻り式の変更を依頼してください。

sqlcode: -20478

sqlstate: 428HD

SQL20479N 表 *table-name* は行または列のアクセス制御定義の一部になっているため、その表に対する ALTER または RENAME ステートメントが失敗しました。理由コード *reason-code*

説明: ALTER または RENAME ステートメントの表 *table-name* を、指定どおりに変更することができません。理由は以下のいずれかです。

1

1 つ以上の列マスクまたは行の許可の定義で、表が参照されています。

2

1 つ以上の列マスクまたは行の許可の定義で、表内の列が参照されています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置:

- 許可またはマスクをドロップし、変更または名前変更の操作が完了した後に、それらを再作成してください。
- 表で、行と列のアクセス制御保護がない表のウィンドウがないようにするため、許可またはマスクが行レベルで定義された表を一時的にプロテクトすることを考慮してください。

sqlcode: -20479

sqlstate: 42917

SQL20480W 新しく定義されたオブジェクト

object-name は無効とマーク付けされません。その理由は、そこで参照されるオブジェクト *object-name2* が未定義または無効であるため、または定義者にアクセス権限がないためです。

説明: オブジェクト *object-name* は正常に定義されましたが、無効とマーク付けされました。*object-name2* (アプリケーション・サーバーで定義されていないオブジェクト、または無効な状態にあるオブジェクト) を参照する場合であっても、または定義者にそのオブジェクトのアクセス権限がない場合でも、ビュー、トリガー、SQL プロシージャ、SQL 関数などのオブジェクトを正常に定義することができます。無効なオブジェクトに対しては、次のアクセス時に暗黙的に妥当性再検査が自動実行されます。または、プロシージャ SYSPROC.ADMIN_REVALIDATE_DB_OBJECTS を使って明示的に実行することもできます。

ユーザーの処置: *object-name2* を定義または有効化する必要がある場合には、このオブジェクトを作成または妥当性再検査した後、*object-name* を再定義してください。*object-name* が正常に妥当性再検査されるようになるため、このオブジェクトに初めてアクセスする前に、このオブジェクトで参照されるすべてのオブジェクトが有効であること、および定義者がそれらにアクセスする特権を持っていることを確認してください。

sqlcode: +20480

sqlstate: 0168Y

SQL20481N オブジェクト *object-name* を作成または妥当性再検査すると、無効な直接/間接の自己参照が発生する可能性があります。

説明: 作成または置換されようとしているオブジェクトの定義には、自分自身への直接または間接的な参照が含まれています。この自己参照は、定義の中で明示的に行われる場合と、(このオブジェクトを明示的または暗黙的に参照する別のオブジェクトを参照することによって)

SQL20482N

暗黙的に行われる場合があります。オブジェクト定義の中に有効な自己参照を含めることができるのは、CREATE SCHEMA ステートメントを使ってそれを作成する場合のみです。このようなオブジェクトを置換または妥当性再検査できるのは、新しい定義に自己参照が含まれない場合のみです。

ユーザーの処置: 自己参照を除去するか、CREATE SCHEMA ステートメントを使って有効な自己参照を持つオブジェクトを作成してください。

sqlcode: -20481

sqlstate: 429C3

SQL20482N 妥当性再検査の対象として指定されたすべてのオブジェクトに対する妥当性再検査が失敗しました。1 つのオブジェクト *object-name1* がオブジェクト *object-name2* を参照しているため、これを妥当性再検査できませんでした。

説明: SYSPROC.ADMIN_REVALIDATE_DB_OBJECTS プロシージャで妥当性再検査の対象として指定されたすべてのオブジェクトを正常に妥当性再検査できませんでした。理由は、それらによって参照される少なくとも 1 つのオブジェクトが存在しないか、引き続き無効であるためです。存在しない、または引き続き無効であるオブジェクト *object-name2* を参照している 1 つのオブジェクト *object-name1* を妥当性再検査できませんでした。

ユーザーの処置: 存在すべきオブジェクトをすべて作成してください。また、妥当性再検査されるオブジェクトによって参照される、引き続き無効なオブジェクトをすべて修正してください。無効なオブジェクトについての情報は SYSCAT.INVALIDOBJECTS カタログ・ビューに含まれています。

sqlcode: -20482

sqlstate: 429C4

SQL20483N ルーチン *routine-name* を呼び出す際の名前付き引数 *parameter-name* の使用が無効です。理由コード: *reason_code*

説明: このエラーは、以下の理由で発生する可能性があります。

1

routine-name のプロシージャ呼び出しに含まれる名前付き引数 *parameter-name* は、プロシージャ定義の中に存在しません。プロシージャ定義内に存在する名前に *parameter-name*

を変更してください。この理由コードは、バージョン 9.7 フィックスパック 1 以降には適用されません。

2

routine-name のルーチン呼び出しに含まれる名前付き引数 *parameter-name* の後に、1 つ以上の無名引数があります。名前付き引数の後に続くすべての引数もまた、名前付きでなければなりません。名前付き引数の後のすべての引数が名前付きになるよう、ルーチン呼び出しを変更してください。

3

routine-name のルーチン呼び出しで、名前付き引数 *parameter-name* が複数回にわたって (明示的または暗黙的に) 指定されています。引数 *parameter-name* の参照が 1 度だけとなるように、ルーチン呼び出しを変更してください。

4

アンカタログされたルーチン *routine-name* のプロシージャ呼び出しで、名前付き引数 *parameter-name* が使用されています。アンカタログされたプロシージャでは、名前付きパラメーターはサポートされません。名前付き引数が含まれないように、プロシージャ呼び出しを変更してください。

5

routine-name の関数呼び出しで、名前付き引数 *parameter-name* が指定されており、少なくとも 2 つの候補関数の対応するパラメーターの順位位置が異なっています。この引数名および関連付けられている候補関数のセットを使って関数解決を続行することはできません。関数呼び出しをより特定化して候補関数のセットが少なくなるように変更してください。または SQL パスを調整するか、関数定義を置換することにより、検討される候補関数のセットを変更してください。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: SQL ステートメント内のルーチン呼び出しを訂正してください。

sqlcode: -20483

sqlstate: 4274K

SQL20484N ルーチン *routine-name* の呼び出しで、**DEFAULT** を使って定義されていないパラメーター *parameter-name* が省略されています。

説明: プロシージャ呼び出しでパラメーター値が省略されています。**DEFAULT** 値を持つようパラメーターが定義されていない限り、これは無効です。ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: プロシージャ呼び出しを訂正して、省略されたパラメーターにパラメーター値を指定してください。

sqlcode: -20484

sqlstate: 428HF

SQL20485N ルーチン *routine-name* に対する **CREATE** ステートメントにおいて、**DEFAULT** 付きで定義済みのパラメーターの後に、**DEFAULT** なしのパラメーターが定義されています。

説明: プロシージャ *routine-name* の作成中に、**DEFAULT** 値が定義されたパラメーター指定の後に、**DEFAULT** 値が定義されていないパラメーターが指定されています。**DEFAULT** が定義されていないすべてのパラメーターは、**DEFAULT** 値が定義されたパラメーターの前に指定される必要があります。ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: **DEFAULT** 値を使って定義された最初のパラメーターの後に続くすべてのパラメーターに対して、**DEFAULT** 値を指定してください。または、**DEFAULT** 値を使って定義されたすべてのパラメーターが **DEFAULT** 値なしで定義されたすべてのパラメーターの後に配置されるよう、パラメーター・リストを再配列してください。

sqlcode: -20485

sqlstate: 428HG

SQL20490N 表 *table-name* に **VERSIONING** 節が指定されましたが、この表をシステム期間テンポラル表として使用することができないため、ステートメントが失敗しました。理由コード *reason-code*

説明: **CREATE** または **ALTER TABLE** ステートメントが表をシステム期間テンポラル表にすることを試みましたが、次に示す理由コードのため、表定義が無効です。

1

表が既にシステム期間テンポラル表または履歴表として定義されています。

2

表には、**SYSTEM_TIME** 期間または **transaction-start-ID** 列がありません。システム期間テンポラル表には、**SYSTEM_TIME** 期間と **transaction-start-ID** 列がなければなりません。

3

この表はマテリアライズ照会表です。

4

DB2 for z/OS サーバーにおいて、表で列マスクまたは行の許可が定義されています。

5

transaction-start-ID 列は、表内の **SYSTEM_TIME** 期間の **row-begin** 列および **row-end** 列と同じデータ・タイプ、長さ、精度、および位取りで定義されている必要があります。

6

表または関連した履歴表で **NOT LOGGED INITIALLY** 属性がアクティブ化されています。

7

表にセキュリティ・ポリシーが関連付けられています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 構文を訂正して、ステートメントを再サブミットしてください。

sqlcode: -20490

sqlstate: 428HM

SQL20491N 期間 *period-name* の指定が無効なため、ステートメントが失敗しました。理由コード *reason-code*

説明: 次に示す理由コードのため、**CREATE** または **ALTER** ステートメント内の期間属性の仕様が無効です。

1

期間の **row-begin** 列名は **row-end** 列名と同じであってはなりません。

2

SQL20494N

期間の中の列の名前は、表の別の期間の定義に使用されている列と同じ名前であってはなりません。

3

row-begin 列と row-end 列とで、データ・タイプ、長さ、精度、および位取りが同じでなければなりません。

4

row-begin 列に指定されたタイム・スタンプのタイプは、row-end 列に指定されたタイム・スタンプのタイプと同じでなければなりません。

5

BUSINESS_TIME 期間では、列は、GENERATED 節を使って定義された列であってはなりません。

6

SYSTEM_TIME 期間では、row-begin 列は ROW-BEGIN として定義され、row-end 列は ROW-END として定義される必要があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 構文を訂正して、ステートメントを再サブミットしてください。

sqlcode: -20491

sqlstate: 428HN

SQL20494N 公開別名 *name* の修飾に使用できるのは **SYSPUBLIC** だけです。スキーマ名 *schema-name* は使用できません。

説明: 公開別名として修飾名が指定されましたが、修飾子が **SYSPUBLIC** ではありません。

ユーザーの処置: 2 部構成の名前を 1 部構成の名前に変更するか、修飾子 **SYSPUBLIC** を指定してください。公開別名を意図していないにもかかわらずステートメントで **PUBLIC** が指定された場合には、キーワード **PUBLIC** を除去してください。

sqlcode: -20494

sqlstate: 428EK

SQL20495N モジュール初期化プロシージャ **SYS_INIT** の定義が無効です。理由コード *rc*。

説明: 初期化プロシージャ定義が無効な理由として、次のような可能性があります。

1

SYS_INIT プロシージャ定義にパラメーターが含まれている。

2

SYS_INIT プロシージャ定義が結果セットを戻す。

3

SYS_INIT プロシージャを公開できない。

ユーザーの処置: 有効な構文に従うよう、初期化プロシージャの定義を変更してください。

sqlcode: -20495

sqlstate: 428HP

SQL20496N ルーチン *name* はルーチン・プロトタイプであるため、呼び出すことができません。

説明: ルーチン *name* はモジュール内でプロトタイプとして定義されていますが、完全にはインプリメントされていません。指定されたルーチン名のルーチン・プロトタイプがモジュール内に見つかりましたが、ルーチン本体がありません。ルーチン定義が未完成であるため、これを呼び出すことができません。

ユーザーの処置: モジュールを変更して、ルーチン定義の全体を追加します。もう一度やり直してください。

sqlcode: -20496

sqlstate: 55019

SQL20498N 次のフィールドに指定されたデータ・タイプはサポートされていません。field-name 指定されたデータ・タイプは *type-name* です。

説明: **CREATE TYPE** ステートメント内の行に指定されたデータ・タイプが無効です。データ・タイプの指定には、次の制約が適用されます。

- 以下のデータ・タイプはサポートされていません。
 - XML
 - LONG VARCHAR
 - LONG VARGRAPHIC
 - 上記のいずれかのタイプに基づくユーザー定義タイプ
 - REF (OID 列名参照)
 - BOOLEAN (バージョン 9.7.5 より前)
 - CURSOR
 - SYSPROC.DB2SECURITYLABEL
 - ユーザー定義の構造化データ・タイプ

- 行データ・タイプでサポートされないデータ・タイプの表列または変数のアンカー
- 緩やかに型付けされたカーソルの行のアンカー
- ARRAY タイプまたは ROW タイプを他の ROW タイプのフィールド・タイプの要素としてネストすることはできますが、最大ネスト・レベルを超えてはなりません。

ユーザーの処置: CREATE TYPE (行) ステートメントのフィールド、あるいはアンカー表またはアンカー・ビューの列で定義されたフィールドに指定されたデータ・タイプがサポートされていることを確認してください。

sqlcode: -20498

sqlstate: 429C5

SQL20499N データ・タイプ *typename* は、*keywords* 述部のオペランドとしては無効です。

説明: *keywords* で示される述部では、述部のオペランドとしてデータ・タイプ *typename* がサポートされません。

ユーザーの処置: 述部でサポートされるデータ・タイプを持つようにオペランドを変更するか、無効なオペランド・データ・タイプの述部を除去します。

sqlcode: -20499

sqlstate: 428HQ

第 21 章 SQL20500 - SQL20999

SQL20500N 値のリストにおける行データ・タイプの値の使用が無効です。

説明: リスト内での行タイプの使用が無効です。

次のようなリストで行変数を使用することは無効です。

- 更新操作の代入節または割り当てステートメントのためのソース変数リスト。
- 単純な割り当てステートメント用、または SELECT INTO、FETCH、VALUES INTO ステートメント内の割り当てステートメント用のターゲット変数リスト。
- 挿入操作の VALUES 節内の 1 行を表す式リスト。

ステートメントは実行できません。

ユーザーの処置: リストに行変数が含まれないようにステートメントを書き直すか、単一行変数値を持つリストに置き換えてください。

sqlcode: -20500

sqlstate: 428HR

SQL20501N 指定されたセクションが見つからないため、**Explain** 機能が失敗しました。理由コード = *reason-code*。

説明: アクセス・プラン情報をセクションから得るために **Explain** 機能が呼び出されましたが、指定されたセクションが見つかりませんでした。理由コードは以下のとおりです。

1

指定された実行可能 ID で示されるセクションは、指定されたソース・ロケーションに見つかりませんでした。

2

指定されたアクティビティ情報で示されるセクションは、指定されたアクティビティ・イベント・モニター内に見つかりませんでした。

3

指定されたパッケージおよびセクション情報で示されるセクションは、カタログ内に見つかりませんでした。

4

セクションはアクティビティ・イベント・モニターによってキャプチャーされませんでした。

ユーザーの処置: 理由コードに対応するユーザー応答は、以下のとおりです。

1

実行可能 ID およびセクションのソース・ロケーションが正しく指定されたことを確認します。指定された実行可能 ID を持つセクションがソース・ロケーションに引き続き存在することを確認してください。ソース・ロケーションがメモリー内のパッケージ・キャッシュであれば、セクションがキャッシュから既に除去された可能性があり、その場合は、これ以上のアクションを実行できません。

2

指定されたアクティビティ情報が正しいこと、および指定されたアクティビティ・イベント・モニターによってキャプチャーされるアクティビティに対応していることを確認します。

3

指定されたパッケージおよびセクション情報が、カタログ内のセクションに対応していることを確認してください。

4

ワークロード管理オブジェクトに対する COLLECT ACTIVITY WITH DETAILS、SECTION 節を使用して、該当するアクティビティに関するセクション収集が有効になっていることを確認します。詳しくはインフォメーション・センターを参照してください。

sqlcode: -20501

sqlstate: 4274L

SQL20502N 指定されたアクティビティ・イベント・モニター *evmon_name* は表書き込みイベント・モニターでないため、**Explain** 機能が失敗しました。

説明: アクティビティ・イベント・モニターによってキャプチャーされるセクションからアクセス・プラン情

SQL20503N

報を得るために、**Explain** 機能が呼び出されました。イベント・モニターの種類は表書き込みイベント・モニターでなければなりません。セクションのソース・ロケーションとして指定されたアクティビティー・イベント・モニターは、表書き込みイベント・モニターではありません。

ユーザーの処置: 表書き込みアクティビティー・イベント・モニターの名前を指定してください。表書き込みイベント・モニターを作成するには **CREATE EVENT MONITOR ...WRITE TO TABLE** ステートメントを使用できます。

sqlcode: -20502

sqlstate: 55074

SQL20503N 指定されたセクションに対して、**Explain** 機能はサポートされていません。理由コード = *reason-code*。

説明: アクセス・プラン情報をセクションから得るために **Explain** 機能が呼び出されましたが、このセクションではこの操作がサポートされていません。理由コードは以下のとおりです。

1. 入力として指定されたセクションは、DB2 バージョン 9.7 より前のリリースでキャプチャーされました。DB2 V9.7 より前のリリースでキャプチャーされたセクションに対して **Explain** 機能を使用することはできません。
2. 入力として指定されたセクションは、現在の DB2 バージョンより前のリリースでキャプチャーされました。そのリリースのセクションに対して **Explain** 機能はもはやサポートされません。
3. 入力として指定されたセクションは、現在の DB2 バージョンより後のリリースでキャプチャーされました。現在のリリースより後のリリースでキャプチャーされたセクションに対して **Explain** 機能を使用することはできません。
4. 入力として指定されたセクションは、有効なセクションとして認識されません。
5. セクションにはアクセス・プラン情報が含まれていません。(DDL などの) ステートメントのセクションには、アクセス・プランを含まないものもあります。これらのセクションに対して **Explain** 機能を使用することはできません。
6. ステートメントが無効であるため、セクションが存在しません。パッケージがバインドされたときにステートメントにエラーがありました。
7. ステートメントが増分バインド・ステートメントであるため、セクションが存在しません。増分バインド・ス

テートメントの場合、カタログにセクションが保管されません。これらのステートメントは、アプリケーション・プロセスの実行中にバインドされます。

ユーザーの処置: 理由コードに対応するユーザー応答は、以下のとおりです。

1. 有効なリリースでキャプチャーされたセクションを指定して、**Explain** 機能を呼び出してください。
2. 有効なリリースでキャプチャーされたセクションを指定して、**Explain** 機能を呼び出してください。
3. 有効なリリースでキャプチャーされたセクションを指定して、**Explain** 機能を呼び出してください。
4. 有効なセクションを入力に指定して **Explain** 機能を呼び出してください。
5. アクセス・プラン情報を含むセクションを指定して、**Explain** 機能を呼び出してください。
6. このデータベース・サーバーでステートメントが実行されることになっている場合は、見つかった問題を訂正し、**ACTION REPLACE** オプションを使って **PRECOMPILE** または **BIND** コマンドを再発行します。問題を訂正した後、**Explain** 機能を再実行してください。
7. 増分バインド・ステートメントのセクションに対して **Explain** 機能を使用するには、動的ステートメントと同様の手順に従います。つまり、バインド後にパッケージ・キャッシュ内でステートメントを識別し、ステートメントのセクションに対応する実行可能 ID を指定して **Explain** 機能を呼び出します。

sqlcode: -20503

sqlstate: 55075

SQL20504N 使用されているコンテキストで、アンカー・データ・タイプのターゲット・オブジェクトはサポートされていません。

説明: アンカー・データ・タイプは、以下の任意のオブジェクトを参照できます。

- グローバル変数
- SQL 変数 (ただし別の SQL 変数用のみ)
- モジュール変数
- 表列
- ビュー列
- 表の行
- ビュー内の行
- 強く型付けされたカーソル・データ・タイプを持つカーソル変数に関連した行定義

- 弱く型付けされたカーソル・データ・タイプを持つ変数に関連した行定義 (ただし、その定義に使われる CONSTANT 節では、すべての結果列を指名する選択ステートメントが指定される)

アンカー・データ・タイプで参照できないオブジェクトには、例えば次のものがあります。

- ニックネーム
- ニックネーム内の列
- 型付き表
- 型付き表の列
- 型付きビュー
- 型付きビュー内の列
- 宣言済みのグローバル一時表
- 宣言済みのグローバル一時表内の列
- 弱く型付けされたカーソルに関連した行定義
- データベース・コード・ページまたはデータベース照合とは異なるコード・ページまたは照合を持つオブジェクト

サポートされるオブジェクト参照の詳細なリストについては、資料を参照してください。

ユーザーの処置: 上記以外のコンテキスト、または資料で説明されている以外のコンテキストで使われるアンカー・データ・タイプ参照を、すべて除去してください。

sqlcode: -20504

sqlstate: 428HS

SQL20505N 連想配列の UNNEST と共に WITH ORDINALITY 節を指定することは無効です。

説明: UNNEST 表関数の引数が連想配列である場合、WITH ORDINALITY 節を指定することはできません。連想配列は、順序位置に従って編成されません。

ユーザーの処置: WITH ORDINALITY 節を除去するか、UNNEST 関数の引数を通常の配列に変更します。ステートメントを再試行します。

sqlcode: -20505

sqlstate: 428HT

SQL20506N カーソル・コンストラクター値が別の有効範囲に割り当てられていたため、カーソル変数を現在の有効範囲内の OPEN ステートメントで使用できませんでした。

説明: カーソル・コンストラクター値がカーソル変数に割り当てられている有効範囲の外にある OPEN ステートメントでカーソル変数は使用できません。

トメントでカーソル変数は使用できません。

ユーザーの処置: カーソル変数を、カーソル・コンストラクターがカーソル変数に割り当てられているのと同じ有効範囲内にある OPEN ステートメントで使用してください。

sqlcode: -20506

sqlstate: 51044

SQL20507N OPEN または FETCH ステートメントで使われているカーソル変数に関連した照会には、同じカーソルを使用する別のカーソル操作を再帰的に呼び出します。

説明: OPEN または FETCH ステートメントで使用されているカーソル変数に関連した照会に、カーソル変数を引数として渡される関数の呼び出しが含まれていません。そして、そのカーソル引数は、関数内でいくつかのカーソル操作を実行するために使用されます。照会が、カーソル操作で指定されたものと同じ変数名を指定する場合、または同じカーソルを参照するカーソル変数を指定する場合、関数は同じカーソルに対して再帰的に操作を行うこととなります。そのような再帰的カーソル操作はサポートされていません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: OPEN または FETCH ステートメントで使われるカーソル変数に関連した照会を変更してください。こうして、カーソル変数の引数を受け取る関数が、OPEN または FETCH ステートメントと同じカーソルを参照しない別のカーソル変数を使用するようにします。ステートメントを再試行します。

sqlcode: -20507

sqlstate: 24525

SQL20508N オブジェクト *object-name* の妥当性再検査でエラーが発生しました。失敗した操作は *operation*、SQLCODE *sqlcode*、SQLSTATE *sqlstate*、メッセージ・トークンは *token-list* です。

説明: SYSPROC.ADMIN_REVALIDATE_DB_OBJECTS プロシージャによるステートメント *operation* の処理が失敗しました。この処理中にエラーが発生しました。SQLCODE、SQLSTATE、およびメッセージ・トークン・リスト (各トークンは縦線によって区切られています) が提供されます。メッセージ・トークンは切り捨てられる可能性があります。エラーの詳細な説明として、*sqlcode* に対応するメッセージを参照してください。

ユーザーの処置: 失敗した SQL ステートメントの SQLCODE に関連するメッセージをチェックしてください。

SQL20509N

い。メッセージで提案されているアクションに従ってください。

sqlcode: -20508

sqlstate: 5UA03

SQL20509N モジュール別名 *alias-name* を DDL ステートメントのターゲット・モジュールとして使用することはできません。

説明: ALTER MODULE ステートメント、COMMENT ステートメント、および DROP ステートメントでは、別名によって参照されるモジュールを変更、コメント追加、またはドロップする目的で、モジュール別名 *alias-name* をターゲット・モジュールとして指定することはできません。

ユーザーの処置: 別名 *alias-name* で参照されるモジュール名を指定して、SQL ステートメントを再びサブミットします。

sqlcode: -20509

sqlstate: 560CT

SQL20510N コンパウンド SQL (コンパイル済み) ステートメントを使用するコンテキストが無効です。

説明: コンパウンド SQL (コンパイル済み) ステートメントは、以下のようなコンテキストで使用できます。

- スタンドアロン・ステートメントとして
- SQL プロシージャの本体として
- SQL スカラー関数の本体として
- トリガーが以下を使用して定義されていない場合のトリガーの本体として
 - FOR EACH STATEMENT 節
 - REFERENCING OLD TABLE 節
 - REFERENCING NEW TABLE 節

ユーザーの処置: 次の 1 つを実行し、要求を再試行してください。

- 無効なコンパウンド SQL (コンパイル済み) ステートメントを除去する。
- 無効なコンパウンド SQL (コンパイル済み) ステートメントを、コンパウンド SQL (インライン) ステートメントに置き換える。
- トリガー定義の中で使われる場合、トリガー定義を変更して、コンパウンド SQL (コンパイル済み) ステートメントの使用を制限している節を除去してください。

sqlcode: -20510

sqlstate: 429C6

SQL20511N メッセージ・バッファの使用可能なスペースが十分でないため、メッセージ・バッファにデータを入れようとして失敗しました。メッセージ・バッファ名: *buffer-name*。

説明: バッファ内での使用可能な空きスペースがデータに対して小さすぎるため、メッセージ・バッファにデータを入れようとして失敗しました。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの方法で、このメッセージに応答します。

- DBMS_OUTPUT バッファの場合は、以下のいずれかのアクションを実行してください:
 - DBMS_OUTPUT.GET_LINE プロシージャまたは DBMS_OUTPUT.GET_LINES プロシージャを呼び出すことにより、ローカル・メッセージ・バッファからデータを取り出してスペースを解放します。
 - DBMS_OUTPUT.ENABLE プロシージャを使用して、バッファのサイズを増やします。
- DBMS_PIPE バッファの場合、DBMS_OUTPUT.SEND_MESSAGE 関数を呼び出すことにより、パイプを介してメッセージ・バッファの内容を送信します。
- UTL_TCP.READ_LINE バッファの場合、送信側から送られる 1 行ごとのデータ量を減らします。

sqlcode: -20511

sqlstate: 5UA0P

SQL20512N DBMS_ALERT.REGISTER プロシージャには、事前に登録されているアラートがありません。

説明: 現在のセッションの DBMS_ALERT.REGISTER プロシージャには、事前に登録されているアラートがありません。

ユーザーの処置: DBMS_ALERT.REGISTER プロシージャを呼び出してアラートを登録します。

sqlcode: -20512

sqlstate: 5UA04

SQL20513N UTL_FILE のプロシージャ *procedure-name* は、ファイル *file-name* の削除または名前変更で失敗しました。オペレーティング・システム・エラー = *error-text*。

説明: モジュール UTL_FILE 内のプロシージャ *procedure-name* は、指定されたファイル *file-name* の削除または名前変更に失敗し、オペレーティング・システムから *error-text* というエラーを受け取りました。

ユーザーの処置: エラー状態の詳細は、システム・エラー「*error-text*」に示されています。適切な対応として、以下を行うことができます: プロシージャの引数が有効であることを確認する。ファイル *file-name* が存在し、その属性が適切であることを確認する。ファイル *file-name* を名前変更する場合、ターゲット・ファイルがまだ存在しないことを確認するか、OVERRIDE パラメーターを TRUE に設定する。

sqlcode: -20513

sqlstate: 5UA0C、5UA0D

SQL20514N UTL_SMTP モジュール・ルーチンで SMTP サーバー・エラーが検出されました。SMTP エラー・コード = *error-code*。

説明: UTL_SMTP モジュール・ルーチンが一時的または永続的な SMTP サーバー・エラーを検出しました。

ユーザーの処置: エラー・コード *error-code* は、検出された特定の SMTP エラーの詳細を示しています。エラー・コード値が 400 から 499 の範囲に入っている場合、そのエラーは一時的エラーであり、同じ要求を後で正常に実行できる可能性があります。エラー・コード値が 500 から 599 の範囲に入っている場合、そのエラーは永続エラーであり、正確なエラー・コードに基づいてエラー状態の解決方法を判断できる可能性があります。SMTP サーバーの担当者に連絡して SMTP サーバーのエラーを修正するよう依頼する必要があるかもしれません。または別の SMTP サーバーを選択することもできます。

sqlcode: -20514

sqlstate: 5UA0E、5UA0F

SQL20515N 動的ステートメント名をカーソル値コンストラクターで使用することはできません。

説明: 次のようなカーソル値コンストラクターの中で、動的ステートメント名が指定されています。

- カーソル値コンストラクターのパラメーター・リストで 1 つ以上の名前付きパラメーターも指定されている。
- 強く型付けされたカーソル・データ・タイプの変数に割り当てられている。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 次の 1 つを実行し、要求を再試行してください。

- 動的ステートメント名を SELECT ステートメントに置き換えます。
- カーソル値コンストラクターからパラメーター・リストを除去します。
- カーソル変数を、弱く型付けされたカーソル・データ・タイプに変更します。

sqlcode: -20515

sqlstate: 428HU

SQL20516W ステートメントは正常にコンパイルされましたが、このステートメント用のアクセス・プランを保持できませんでした。理由コード = *reason-code*。

説明: BIND、REBIND、または PRECOMPILE の実行中にステートメントが正常にコンパイルされましたが、以前のアクセス・プランを保持できませんでした。理由コードは以下のとおりです。

101

DB2 バージョン 9.7 より前のバージョンでパッケージが最後にバインドまたは再バインドされました。DB2 バージョン 9.7 より前のバージョンで生成されたセクションのアクセス・プランを保持することはできません。

102

インストール済みバージョンより前の DB2 バージョンでパッケージが最後にバインドまたは再バインドされましたが、そのバージョンのアクセス・プランはこのインストール済みバージョンで保持できません。

103

インストール済みバージョンより後の DB2 バージョンでパッケージが最後にバインドまたは再バインドされましたが、より新しいバージョンのアクセス・プランは古い DB2 バージョンで保持できない場合があります。インストール済み DB2 バージョンを、以前のフィックスバック・レベルまたは DB2 バージョンに復帰させた場合に、これが発生する可能性があります。

104

パッケージ内のセクションが有効なセクションとして認識されません。

105

既存のパッケージの中に照会が見つかりませんでした。新しいステートメントが導入されたか、ステートメント・テキストが変更されたか、または新しいホスト変数がソース・ファイル内で作成された可能性があります。

106

照会の内部表記の変更によって、以前のアクセス・プランがもはや適用されなくなりました。例えば、次のような変更が発生した可能性があります: 参照されるデータベース・オブジェクトの変更、データベース・マネージャーの構成の変更、DB2 SQL 照会コンパイラーの変更。

107

照会のコンパイル環境が変化したため、照会コンパイラーは同じアクセス・プランを生成できなくなりました。これに該当する例として、もはや存在しない索引に以前のアクセス・プランがアクセスする場合があります。または、以前とは異なる最適化レベルで照会がコンパイルされ、以前に選択されたアクセス・プラン・ストラテジーが新しい最適化レベルで許可されない場合もあります。

ユーザーの処置: ほとんどの状況で、この警告は無視できます。それは、通常の、予期されるデータベース・オブジェクトの変更やデータベース構成の変更の結果として以前のアクセス・プランの保持に失敗した可能性があるためです。状況によっては、照会のパフォーマンスを監視するか Explain 機能を使用することにより、アクセス・プランを調べて、同じ照会に対して以前に生成されたアクセス・プランと比べることもできます。その後、照会のパフォーマンスを調整および監視する適切な手順に従って、照会のパフォーマンスが良好であることを確認したり、必要に応じてパフォーマンスを改善することができます。この警告が戻されるのを防ぐには、理由コードに基づいて以下のいずれかのアクションを実行してください。

101

BIND、REBIND、または PRECOMPILE コマンドのアクセス・プラン再使用オプションを有効にする前に、DB2 バージョン 9.7 以降の DB2 バージョンでパッケージをバインドまたは再バインドします。

102

BIND、REBIND、または PRECOMPILE コマンドのアクセス・プラン再使用オプションを有効にする前に、インストール済み DB2 バージョンでパッケージをバインドまたは再バインドします。

103

BIND、REBIND、または PRECOMPILE コマンドのアクセス・プラン再使用オプションを有効にする前に、インストール済み DB2 バージョンで (または、インストール済み DB2 バージョンにおいてアクセス・プラン再使用がサポートされるアクセス・プランを持つ DB2 バージョンで) パッケージをバインドまたは再バインドします。

104

この予期しない結果を報告するために、DB2 サービス担当員に連絡して、db2diag.log ファイルおよび (DIAGPATH データベース・マネージャー構成パラメーターで指定された) 診断ディレクトリー・パスの内容を提出します。

105

この照会に関する既存のアクセス・プランを保持する必要がある場合には、照会を再フォーマットまたは変更しないでください。または、新しいホスト変数を参照してください。あるいは、新しいアクセス・プランが適切であることを確認することができます。

106

この照会に関する既存のアクセス・プランを保持する必要がある場合には、参照されるデータベース・オブジェクトまたはデータベース・マネージャー構成を変更しないでください (データベース・マネージャー・コードの変更が原因でアクセス・プランを再使用できなくなる場合もあります)。あるいは、照会のパフォーマンスを調整および監視する適切な手順に従って、照会が期待どおりに実行されることを確認することもできます。

107

この照会に関する既存のアクセス・プランを保持する必要がある場合には、参照されるデータベース・オブジェクト、データベース・マネージャー構成、または最適化オプションを変更しないでください。あるいは、照会のパフォーマンスを調整および監視する適切な手順に従って、照会が期待どおりに実行されることを確認できます。Explain 診断機能を使用して、以前のアクセス・プランが保持されなかった理由を調べることもできます。

sqlcode: +20516

sqlstate: 01602

SQL20518N UTL_SMTP モジュール・ルーチン
routine_name の呼び出しの順序が正しくないため、操作は無効です。

説明: SMTP プロトコルでは、特定の順序で操作を実行する必要があります。ルーチン *routine-name* が呼び出されましたが、SMTP プロトコルでは、このルーチンが実行しようとした操作が正常に完了するには、その前に別の操作を実行しなければなりません。例えば UTL_SMTP.WRITE_DATA ルーチンは、UTL_SMTP.OPEN_DATA ルーチンが正常に完了した後で呼び出されなければならず、UTL_SMTP.RCPT ルーチンは、UTL_SMTP.MAIL ルーチンが正常に完了した後で呼び出されなければなりません。

ユーザーの処置: SMTP プロトコルを参照して、UTL_SMTP モジュール・ルーチンが正しい順序で呼び出されるようにしてください。

sqlcode: -20518

sqlstate: 5UA0N

SQL20519N ローカル・メッセージ・バッファ内にアンパックするデータがありません。

説明: いずれかの DBMS_PIPE.UNPACK_MESSAGE プロシージャを呼び出して、ローカル・メッセージ・バッファから次のデータ項目を受け取り、そのデータを変数に割り当てることができます。このメッセージは、ローカル・メッセージ・バッファ内に受け取るデータがない場合に戻されます。

ユーザーの処置: アプリケーション・ロジックを変更して、いずれかの DBMS_PIPE.UNPACK_MESSAGE プロシージャを呼び出す前に、DBMS_PIPE.NEXT_TYPE() がゼロ以外の値を戻すかどうか検査してください。

sqlcode: -20519

sqlstate: 55019

SQL20521N *string* の付近の条件付きコンパイル・ディレクティブの処理中にエラーが発生しました。理由コード = *rc*。

説明: SQL コンパイラは、条件付きコンパイル・ディレクティブが含まれるステートメントを処理していました。トークン *string* 内に指定されたステートメント・テキスト、またはその付近でエラーが発生しました。考えられる理由が、理由コードで示されます。

1

選択ディレクティブ内のグローバル変数参照が、有効なデータ・タイプではありません。有

効なデータ・タイプは、BOOLEAN、INTEGER、または VARCHAR です。

2

選択ディレクティブ内のグローバル変数参照が、定数として定義されていません。

3

選択ディレクティブ内のグローバル変数参照が定数として定義されていますが、これは式の評価を必要としています。

4

BOOLEAN、INTEGER、または VARCHAR のいずれの定数でもない定数が見つかりました。

5

検索条件として、サポートされていない式または述部が指定されています。

6

無効な条件付きコンパイル・ディレクティブが指定されました。単一の下線文字 (またはドル記号) が接頭部として使用されていますが、その後続く文字が、サポートされる条件付きコンパイル・ディレクティブと一致しません。

7

条件付きコンパイル・ディレクティブがサポートされていないコンテキストで、条件付きコンパイル・ディレクティブが指定されました。

8

選択ディレクティブのコード・フラグメントで、新しい選択ディレクティブが指定されています。選択ディレクティブのネストはサポートされていません。

9

選択ディレクティブのキーワードの指定が正しくありません。必須のキーワードが欠落しているか、キーワードが間違った順番で使用されています。

10

SQL_CCFLAGS データベース構成パラメータの値が有効でないため、照会ディレクティブを処理できませんでした。

ユーザーの処置: 理由コードに基づいて、エラーを訂正してください。

1

選択ディレクティブのグローバル変数参照を変更または除去するか、グローバル変数を置き換えて、サポートされるデータ・タイプを持つものとなるようにしてください。

2

選択ディレクティブのグローバル変数参照を変更または除去するか、グローバル変数を置き換えて、CONSTANT 節を使用して定義されたものとなるようにしてください。

3

選択ディレクティブのグローバル変数参照を変更または除去するか、グローバル変数を置き換えて、単純なりテラル値を含む CONSTANT 節を使用して定義されたものとなるようにしてください。

4

定数を BOOLEAN、INTEGER、または VARCHAR の定数に置き換えてください。

5

検索条件に式が含まれず、基本述部か NULL 述部のみが使用されるようにしてください。サポートされていない式や述部を除去してください。

6

条件付きコンパイルの接頭部文字は、サポートされているディレクティブと共にのみ使用するようにしてください。照会ディレクティブを意図していた場合、接頭部文字は二重にしなければなりません。条件付きコンパイルの使用を意図していなかった場合は、ID を二重引用符で区切るか、ID から下線文字 (ドル記号) を除去する必要があります。

7

コンパイル・ディレクティブを使用するコンテキストが有効であることを確認してください。有効なコンテキストには、SQL プロシージャ定義、コンパイル済み SQL 関数定義、コンパイル済みトリガー定義、および PL/SQL パッケージ定義があります。

8

既に開始している選択ディレクティブが終了する前に、他の選択ディレクティブを開始しないようにしてください。ネストのない分離した選択ディレクティブを使用するか、追加の _ELSEIF ブロックまたは _ELSE ブロックを使

用して、コンパイル用に選択するコード・フラグメントを決定してください。

9

選択ディレクティブの構文を確認して、_IF および _ELSEIF それぞれの後に、対応する _THEN キーワードが続くようにしてください。さらに、必ず選択ディレクティブが _END キーワードで終わるようにしてください。

10

以下のステップを実行してください。

1. [オプション] CURRENT SQL_CCFLAGS 特殊レジスターを使用して、SQL_CCFLAGS データベース構成パラメーターを一時的にオーバーライドします。
2. SQL_CCFLAGS データベース構成パラメーターを有効な値に設定します。

sqlcode: -20521

sqlstate: 428HV

SQL20522N WITHOUT OVERLAPS 節の指定が無効なため、ステートメントが失敗しました。
理由コード *reason-code*

説明: WITHOUT OVERLAPS 節の仕様が、以下のいずれかの理由により無効です。

1

表パーティション・キーに BUSINESS_TIME 期間の開始列または終了列が含まれる場合には、パーティション化索引で BUSINESS_TIME WITHOUT OVERLAPS を指定してはなりません。

2

指定された期間の列を、制約節の中に指定することはできません。

3

DB2 Database for Linux, UNIX, and Windows サーバーでは、WITHOUT OVERLAPS は、CREATE INDEX ステートメント内にも、なおかつ索引が UNIQUE として定義される場合にのみ指定できます。DB2 for z/OS では、索引が UNIQUE または UNIQUE WHERE NOT NULL として定義される場合に、WITHOUT OVERLAPS は CREATE INDEX または ALTER INDEX ステートメント内にも指定できます。

4

表分散キーに BUSINESS_TIME 期間の開始列または終了列が含まれる場合には、ユニーク索引で BUSINESS_TIME WITHOUT OVERLAPS を指定することはできません。

5

指定された期間の列を、索引の仕様で指定することはできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 構文を訂正して、ステートメントを再サブミットしてください。

sqlcode: -20522

sqlstate: 428HW

SQL20523N 表 *table-name* が履歴表として指定されましたが、表定義が履歴表としては無効でした。理由コード *reason-code*

説明: CREATE または ALTER ステートメント内で履歴表として指定された表について、次に示す理由コードのため、表定義が無効です。

1

表は、既存のシステム期間テンポラル表、履歴表、宣言済みグローバル一時表、作成済みグローバル一時表、マテリアライズ照会表、型付き表、またはビューであってはなりません。表は、DB2 for z/OS サーバーではさらに補助表、クローン表、クローンが定義されている表、または XML 列用に暗黙的に作成された表であってもなりません。

2

DB2 for z/OS サーバーでは、表は未完成の表定義を持ってはなりません。

3

DB2 for z/OS サーバーでは、その表は表スペース内の唯一の表であってはなりません。

4

表には、ID 列、行変更タイム・スタンプ列、row-begin 列、row-end 列、transaction-start-ID 列、または生成された式列が含まれてはなりません。

5

表に期間定義を含めることはできません。

6

いずれかの参照整合性制約に関係している表は使用できません。

7

履歴表には、システム期間テンポラル表として使用される表と同じ数の列が、同じ順序で含まれている必要があります。

8

表には、セキュリティー・ラベル列を含めることも、セキュリティー・ポリシーを関連付けることもできません。

9

DB2 for z/OS サーバーでは、システム期間テンポラル表の 1 つの列が ROWID として定義されている場合には、対応する履歴列が、同じ生成属性 (GENERATED ALWAYS または GENERATED BY DEFAULT) を持つ ROWID として定義されている必要があります。

10

システム期間テンポラル表の対応する列と、関連付けられた履歴表は、以下の同じ属性を持っている必要があります。

- 名前
- データ・タイプ
- 長さ (インライン LOB の長さ、精度、および位取りを含む)
- NULL 属性
- 非表示属性
- フィールド・プロシージャ (DB2 for z/OS のみ)
- サブタイプ (FOR BIT、SBCS、または MIXED DATA 属性) および CCSID

11

DB2 for z/OS サーバーにおいて、表には列マスキングも行の許可も定義されてはなりません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 構文を訂正して、ステートメントを再サブミットしてください。

sqlcode: -20523

sqlstate: 428HX

SQL20524N 期間 *period-name* に関して、期間の指定または期間節が無効であるため、ステートメントが失敗しました。理由コード *reason-code*

説明: 次に示す理由コードのため、期間の指定または期間節が無効です。

1

表参照に対して期間名が複数回指定されました。

2

SYSTEM_TIME 期間が指定されましたが、表はシステム期間テンポラル表ではありません。

3

各式は、以下を持つ値を返さなければなりません。

- 日付データ・タイプ
- タイム・スタンプ・データ・タイプ
- 日付またはタイム・スタンプのストリング表現のための有効なデータ・タイプ

さらに、以下のサポートされているオペランドを含めることができます。

- 定数
- 特殊レジスター
- 変数 (ホスト変数、SQL パラメーター、または SQL 変数)
- パラメーター・マーカー
- 引数がサポートされるオペランドである組み込みスカラー関数 (ただし、ネストしている関数呼び出しやユーザー定義関数は使用できません)
- キャスト・オペランドがサポートされるオペランドである CAST 仕様
- 算術演算子およびオペランドを使用する式

4

DB2 for LUW サーバーの場合、期間の指定がビューと共に指定され、そのビュー定義に、NO SQL 以外のデータ指示を伴うコンパイル済み関数または外部関数が含まれています。

5

DB2 for z/OS サーバーの場合、式にタイム・ゾーンを含めることはできず、期間の列の精度よりも高い精度を式が持つことはできません。

6

FOR SYSTEM_TIME が指定されましたが、CURRENT TEMPORAL SYSTEM_TIME 特殊レジスターの値は NULL ではなく、SYSTIMESENSITIVE バインド・オプションが YES に設定されています。

7

FOR BUSINESS_TIME が指定されましたが、CURRENT TEMPORAL BUSINESS_TIME 特殊レジスターの値は NULL ではなく、BUSTIMESENSITIVE バインド・オプションが YES に設定されています。

8

アプリケーション期間テンポラル表ではない表に対して期間節が指定されたか、またはビュー定義の最外部の FROM 節でアプリケーション期間テンポラル表が参照されていないビューに対して期間節が指定されたか、あるいは instead of トリガーがビューに定義されました。

9

期間の指定または期間節がニックネームまたはリモート・オブジェクトに対して指定されました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 構文を訂正して、ステートメントを再サブミットしてください。

sqlcode: -20524

sqlstate: 428HY

SQL20525N 表 *table-name* のタイプが正しくないため、この表に対して要求されたアクションは無効です。理由コード *reason-code*

説明: 次に示す理由コードにより、表を指定されたとおりに使用することができません。

1

ADD PERIOD 節を含む ALTER TABLE ステートメントが指定されましたが、表は履歴表であり、履歴表には期間を定義できません。

2

DROP PERIOD 節を含む ALTER TABLE ステートメントが指定されましたが、表はシステム期間テンポラル表であり、期間をドロップすることはできません。

3

ALTER VERSIONING 節を含む ALTER TABLE ステートメントが指定されましたが、表はシステム期間テンポラル表ではありません。

4

- 5 DROP VERSIONING 節を含む ALTER TABLE ステートメントが指定されましたが、表はシステム期間テンポラル表ではありません。
- 6 RESTRICT キーワード付きの DROP VERSIONING 節を含む ALTER TABLE ステートメントが指定されましたが、表内の行の履歴バージョンを参照するトリガー、関数、プロシージャ、ビュー、またはマテリアライズ照会表がある場合には、システム・データ・バージョン管理をドロップすることはできません。
- 7 システム期間テンポラル表または履歴表に対し、DROP PARTITION 節を含む ALTER TABLE ステートメントが指定されました。
- 8 DB2 for z/OS で、システム期間テンポラル表または履歴表に対し、ROTATE PARTITION 節を含む ALTER TABLE ステートメントが指定されました。
- 9 DB2 for z/OS で、システム期間テンポラル表または履歴表である表に対し、ADD CLONE 節が指定された ALTER TABLE ステートメントが指定されました。
- 10 TRUNCATE ステートメントが表の切り捨てを試行しましたが、表はシステム期間テンポラル表です。
- 11 DB2 for z/OS で、ALTER TABLESPACE ステートメントが、システム期間テンポラル表または履歴表を含む表スペースの CCSID の変更を試行しました。
- 12 CREATE または ALTER TABLE ステートメントが、親表または子表のいずれかが履歴表であるような参照制約の定義を試行しました。
- 13 DB2 for Linux, UNIX, and Windows で、システム期間テンポラル表に、DETACH PARTITION 節を含む ALTER TABLE ステートメントが指定されました。
- 16 履歴表に対し、ADD COLUMN 節を含む ALTER TABLE ステートメントが指定されました。
- 17 システム期間テンポラル表に生成列を追加する ALTER TABLE ステートメントが指定されました。
- 18 DB2 for Linux, UNIX, and Windows で、システム期間テンポラル表または履歴表に対し、ACTIVATE NOT LOGGED INITIALLY を含む ALTER TABLE ステートメントが指定されました。
- DB2 for Linux, UNIX, and Windows で、システム期間テンポラル表または履歴表に対し、ADD SECURITY POLICY を含む ALTER TABLE ステートメントが指定されました。
- ステートメントは処理できません。
- ユーザーの処置:** アクションが有効な表の名前を指定するか、または表に対して別のアクションを指定するように、ステートメントを変更してください。
- sqlcode:** -20525
- sqlstate:** 428HZ
-
- SQL20526N** 変数 *variable-name* は、割り当ての順序が定義されていない 2 つ以上の代入のターゲットです。
- 説明:** この変数は、割り当ての順序が定義されていない 2 つ以上の代入のターゲットです。変数の複数の代入は、変数の SET ステートメントの左辺にある変数が、変数の SET ステートメントの右辺にある関数に対する出力パラメーターとしても使用されている場合に場合に生じることがあります。
- 次の例では、関数 *my_function* が 1 つの OUT パラメーターとともに宣言されたと想定します。例では、*my_variable* という変数が、2 つの代入のターゲットになっています。
- ```
CREATE VARIABLE my_variable INTEGER;
SET my_variable = my_function(my_variable);
```
- ユーザーの処置:** 1 つ以上の変数参照を、別の変数に変更してください。
- sqlcode:** -20526
- sqlstate:** 42810

**SQL20527N** 参照されている期間 *period-name* が表 *table-name* にある期間ではないため、ステートメントが失敗しました。

**説明:** 指定された *period-name* の名前を持つ期間が、表 *table-name* にありません。

ステートメントは処理できません。

**ユーザーの処置:** 期間名と表名が (必要な修飾子があればそれも含めて) SQL ステートメントに正しく指定されていることを確認してください。ステートメントを再サブミットしてください。

**sqlcode:** -20527

**sqlstate:** 4274M

**SQL20528N** データ変更操作のターゲットは表 *table-name* で、それには期間 *period-name* が含まれています。変更しようとした行は別のトランザクションによっても変更されていたため、データ変更操作は失敗しました。

**説明:** 表 *table-name* はシステム期間テンポラル表です。この表には、期間 *period-name* が含まれています。要求されたデータ変更操作は、別のトランザクションによって変更された行を変更しようとしたため、この結果、履歴表の関連行の行開始列の値が、終了列の値よりも大きいという状態が生じた可能性があります。これは、以下のいずれかの理由によるものと考えられます。

- 失敗したステートメントのトランザクションが開始した後、別のトランザクションが行を更新または挿入した。その結果、行開始列のタイム・スタンプが、失敗したステートメントが同じ行を更新または削除した時点で使用したはずの値より新しい値になった。
- システム期間テンポラル表にデータがロードされ、行開始列に生成値をオーバーライドする値がロードされた。行開始列にロードされた値は、失敗したトランザクションが使用したはずのタイム・スタンプよりも後の時点のものであった。

要求された操作は実行できません。

**ユーザーの処置:** ステートメントを再試行してください。影響を受ける値がユニークになるように調整されるようにするため、*sysstime\_period\_adj* 構成パラメーターを設定することができます。システム管理者に連絡してください。

**sqlcode:** -20528

**sqlstate:** 57062

**SQL20530N** 難読化されたステートメントは無効です。理由コード = *rc*。

**説明:** WRAPPED 節が含まれているデータ定義ステートメントの処理中にエラーが発生しました。次のような理由が考えられます。

1

サポートされないプラットフォームまたはバージョンでステートメントがラップされました。

2

ステートメントの難読化された部分が壊れています。

**ユーザーの処置:** サポートされるプラットフォームでステートメントがラップされたこと、およびステートメントが壊れていないことを確認してください。

**sqlcode:** -20530

**sqlstate:** 42638

**SQL20531N** バイナリー XML 値で指定されたバージョン番号 *flowed-version* はサポートされていません。サポートされる最高バージョンは *highest-version* です。

**説明:** 指定されたバージョンは、バイナリー XML フォーマットをサポートしていません。サポートされる最高バージョンの値が 0 (ゼロ) である場合は、プラットフォームがバイナリー XML フォーマットをサポートしていないことを示しています。指定されたバージョン番号の値が \*N である場合は、サーバーがバイナリー XML フォーマットを読み取れなかったため、バージョンを判別できないことを示しています。

**ユーザーの処置:** バイナリー XML フォーマットをサポートするサーバーを使用してください。

**sqlcode:** -20531

**sqlstate:** 22544

**SQL20532N** コマンドまたは API 関数は使用されなくなったものであるため、コマンドまたは API ファンクション呼び出しが失敗しました。コマンドまたは API 関数名: *command-or-function-name*。

**説明:** 使用されなくなったコマンドの実行や API 関数の呼び出しを試行すると、このメッセージが返されません。

**ユーザーの処置:** DB2 インフォメーション・センターで関連情報を参照し、他のコマンドまたは API 関数を

使用して同じタスクを実行する方法を判別してください。

同じタスクを実行する別のコマンドまたは API 関数を使用するように、自動化されたスクリプトおよびアプリケーションを更新してください。

**sqlcode:** -20532

**sqlstate:** 560CZ

---

**SQL20533N** 型付き相関節でサポートされないデータ・タイプが指定されたため、SELECT ステートメントが失敗しました。サポートされないデータ・タイプを持つ列:  
*column-name*。

**説明:** SELECT ステートメントの副選択にある型付き相関節は、汎用表関数によって生成される表の外観と内容を定義するために使用されます。

型付き相関節に指定されたデータ・タイプがサポートされない場合に、このメッセージが返されます。

**ユーザーの処置:** サポートされるデータ・タイプだけを型付き相関節に指定して、SELECT ステートメントを再び実行してください。

**sqlcode:** -20533

**sqlstate:** 429BB

---

**SQL20534W** スキーマ *schema-name* には、属性 *data-capture-option1* を持つ 1 つ以上の表が含まれていますが、この属性はスキーマ属性 *data-capture-option2* とは異なっています。

**説明:** スキーマ内の 1 つ以上の表の DATA CAPTURE 設定が、スキーマ・レベルの設定と異なっています。

表の DATA CAPTURE 属性の設定は、スキーマ・レベルの設定からは独立しているため、表とスキーマ・レベルとで異なる DATA CAPTURE 属性を設定することができます。

DATA CAPTURE 属性がスキーマ・レベルで設定された後、新たに作成される表は、表レベルの指定がなければスキーマ・レベルの設定を継承します。

**ユーザーの処置:** DATA CAPTURE 属性が CHANGES に設定されている表のリストを検索するには、以下の照会を実行します。

```
SELECT TABNAME, TABSCHEMA FROM SYSCAT.TABLES
WHERE TYPE IN ('T','S','L')
AND DATACAPTURE <> 'N'
```

DATA CAPTURE 属性が NONE に設定されている表のリストを検索するには、以下の照会を実行します。

```
SELECT TABNAME, TABSCHEMA FROM SYSCAT.TABLES
WHERE TYPE IN ('T','S','L')
AND DATACAPTURE = 'N'
```

**sqlcode:** +20534

**sqlstate:** 01696

---

**SQL20535N** データ変更操作 *operation* は、*period-name* に関係する暗黙的または明示的な期間指定のため、ターゲット・オブジェクト *object-name* ではサポートされません。理由コード: *reason-code*

**説明:** このデータ変更操作は、操作のターゲットがテンポラル表を参照しており、期間指定が指定されていたため、サポートされません。期間指定は、特殊レジスターによって暗黙的に指定されていたか、またはターゲットとして指定された全選択内に明示的に指定されていたかのどちらかです。示された理由コードから、以下のように詳細な情報が得られます。

1

CURRENT TEMPORAL SYSTEM\_TIME 特殊レジスターにヌル以外の値が入っており、データ変更操作のターゲットが (直接的または間接的に) システム期間テンポラル表です。システム期間テンポラル表のデータは、期間指定が有効である場合は変更できません。データ変更ステートメントのターゲットは、以下のいずれかです。

- システム期間テンポラル表
- FROM 節でシステム期間テンポラル表を (直接的または間接的に) 参照する外部全選択を使用して定義されたビューで、データ変更操作に対して定義された INSTEAD OF トリガーを持たないビュー
- FROM 節でシステム期間テンポラル表を (直接的または間接的に) 参照する全選択

2

CURRENT TEMPORAL SYSTEM\_TIME 特殊レジスターにヌル以外の値が入っており、データ変更ステートメントのターゲットが、WITH CHECK OPTION を指定して定義されたビューです。このビュー定義に、以下の構文要素のいずれかを含む WHERE 節が含まれているため、データ変更ステートメントは処理できません。

- システム期間テンポラル表を (直接的または間接的に) 参照する副照会

- 関連付けられたパッケージを持つ SQL ルーチンの呼び出し
- NO SQL 以外のデータ・アクセス標識を持つ外部ルーチンの呼び出し

3

データ変更ステートメントのターゲットが、SYSTEM\_TIME の期間指定が後に続く FROM 節で、ビューを参照する全選択として指定されています。参照されているビューは、WITH CHECK OPTION を指定して定義されています。このビュー定義に、以下の構文要素のいずれかを含む WHERE 節が含まれているため、データ変更ステートメントは処理できません。

- システム期間テンポラル表を (直接的または間接的に) 参照する副照会
- 関連付けられたパッケージを持つ SQL ルーチンの呼び出し
- NO SQL 以外のデータ・アクセス標識を持つ外部ルーチンの呼び出し

4

CURRENT TEMPORAL BUSINESS\_TIME 特殊レジスターにヌル以外の値が入っており、データ変更ステートメントのターゲットが、WITH CHECK OPTION を指定して定義されたビューです。このビュー定義に、以下の構文要素のいずれかを含む WHERE 節が含まれているため、データ変更ステートメントは処理できません。

- アプリケーション期間テンポラル表を (直接的または間接的に) 参照する副照会
- 関連付けられたパッケージを持つ SQL ルーチンの呼び出し
- NO SQL 以外のデータ・アクセス標識を持つ外部ルーチンの呼び出し

5

データ変更ステートメントのターゲットが、BUSINESS\_TIME の期間指定が後に続く FROM 節で、ビューを参照する全選択として指定されています。参照されているビューは、WITH CHECK OPTION を指定して定義されています。このビュー定義に、以下の構文要素のいずれかを含む WHERE 節が含まれているため、データ変更ステートメントは処理できません。

- アプリケーション期間テンポラル表を (直接的または間接的に) 参照する副照会

- 関連付けられたパッケージを持つ SQL ルーチンの呼び出し
- NO SQL 以外のデータ・アクセス標識を持つ外部ルーチンの呼び出し

ステートメントは処理できません。

**ユーザーの処置:** 理由コードに応じて適切な処置を行ってください。

1

CURRENT TEMPORAL SYSTEM\_TIME 特殊レジスターにヌル値を設定し、データ変更操作を再度試行します。CURRENT TEMPORAL SYSTEM\_TIME 特殊レジスターの設定の影響を受けるべきではないアプリケーション・パッケージにステートメントが含まれている場合には、SYSTIMESENSITIVE NO を使用してパッケージをバインドしてください。

2

CURRENT TEMPORAL SYSTEM\_TIME 特殊レジスターにヌル値を設定し、データ変更操作を再度試行します。CURRENT TEMPORAL SYSTEM\_TIME 特殊レジスターの設定の影響を受けるべきではないアプリケーション・パッケージにステートメントが含まれている場合には、SYSTIMESENSITIVE NO を使用してパッケージをバインドしてください。また、データ変更の関連チェックが不要な場合は、WITH CHECK OPTION なしで定義された別のビューを使用してビューの参照を置き換える方法も、代替方法として考えられます。

3

データ変更操作のターゲット全選択の期間指定を除去します。また、データ変更の関連チェックが不要な場合は、WITH CHECK OPTION なしで定義された別のビューを使用してビューの参照を置き換える方法も、代替方法として考えられます。

4

CURRENT TEMPORAL BUSINESS\_TIME 特殊レジスターにヌル値を設定し、データ変更操作を再度試行します。CURRENT TEMPORAL BUSINESS\_TIME 特殊レジスターの設定の影響を受けるべきではないアプリケーション・パッケージにステートメントが含まれている場合には、BUSTIMESENSITIVE NO を使用してパッケージをバインドしてください。

5

データ変更操作のターゲット全選択の期間指定を除去し、全選択の WHERE 節に明示的な述部を使用して、データ変更操作のターゲット行を指定します。

sqlcode: -20535

sqlstate: 51046

---

**SQL20536N** この操作はテキスト索引が関与しているため、処理できません。理由コード = *reason-code*。

**説明:** この操作は、テキスト索引を直接ターゲットとしているか、または操作の結果に依存するテキスト索引を持っているかのいずれかです。テキスト索引のため、操作を続行できません。具体的な理由は、理由コードによって示されます。

1. 操作がドロップするように要求した表に、テキスト索引が存在しています。
2. テキスト索引が RUNSTATS コマンドのターゲットになっています。
3. テキスト索引が REORG コマンドのターゲットになっています。

**ユーザーの処置:**

1. 表をドロップする必要がある場合には、まず表にあるテキスト索引をドロップしてください。
2. テキスト索引への参照を RUNSTATS コマンドから取り除いてください。テキスト索引では統計を収集できません。
3. テキスト索引への参照を REORG コマンドから取り除いてください。テキスト索引を再編成することはできません。

---

**SQL20537W** 一連のホスト変数配列および標識配列における最小配列サイズ *minimum-array-size* を、取り出し可能な最大行数として使用して、ホスト変数配列内への複数行の取り出しを続行できます。

**説明:** COMPATIBILITY\_MODE ORA プリコンパイル・オプションにより、FETCH ステートメント内でホスト変数配列および標識配列の使用が可能になり、単一の FETCH ステートメントを使用して配列要素内に複数の行を取り出すことができます。取り出し可能な行数は、配列のサイズで決まります。ホスト変数宣言セクションで各配列を宣言する際は通常、同じサイズを使用します。

このメッセージは、COMPATIBILITY\_MODE ORA プリコンパイル・オプションを使用し、FETCH ステートメント内に指定されたホスト変数配列および標識配列を異

なる配列サイズで宣言している場合に戻されます。ホスト変数配列とインディケータ配列のセットに関する最小配列サイズが、フェッチ可能な最大行数として使用されます。ホスト変数配列および標識配列に入るデータは、最小配列サイズまでに限られます。

**ユーザーの処置:** この警告がプリコンパイル中に戻されないようにするには、ホスト変数宣言セクションで宣言されて、FETCH ステートメントで使用されるホスト変数配列および標識配列を変更して、すべての配列サイズを同一にします。

sqlcode: +20537

sqlstate: 01697

---

**SQL20538W** *table-name* という表の許可またはマスクが変更されました。この変更を加えた場合、データのセキュリティを保つために、この表に基づくマテリアライズ照会表 (MQT) の許可またはマスクを変更しなければならぬ可能性があります。

**説明:** 表 *table-name* の許可またはマスクが作成、変更、またはドロップされました。この表に基づく MQT が最低 1 つあり、マスクまたは許可 (デフォルト許可以外のもの) を使用してアクセス制御されています。MQT には、基本表 *table-name* のデータが含まれています。データ・セキュリティを保つには、MQT の基本表に加えられたアクセス制御の変更を、MQT の許可およびマスクに反映する必要があります。

**ユーザーの処置:** 表 *table-name* に基づく各 MQT の許可とマスクが、基本表 *table-name* のアクセス制御と一貫していることを確認してください。

sqlcode: +20538

sqlstate: 01698

---

**SQL20539N** 節のキーワードで負の値または NULL 値が使用されているため、照会が失敗しました。

**説明:** 照会に OFFSET 節も含めることで、指定された行番号から行の取り出しを開始することができます。照会に FETCH FIRST 節または LIMIT 節 (関連した OFFSET 節の有無を問わず) を含めると、照会に戻される行の数を制御できます。これらの節の行数値を式として指定することができますが、この式は、照会のオープン時に評価され、結果として照会では正の数値定数にならなければなりません。

指摘された節に指定されている式では、負の値または NULL 値が戻されます。

## SQL20540N

**ユーザーの処置:** 正数を戻すように式を変更し、照会を再発行してください。

**sqlcode:** -20539

**sqlstate:** 2201W、2201X

---

**SQL20540N** プロシージャを実行する自律型トランザクションが、異常終了しました。ルーチン名: *routine-name*。特定名: *specific-name*。理由コード: *reason-code*

**説明:** プロシージャを AUTONOMOUS として定義することで、別個の自律型トランザクション内でその実行が行われるようにすることができます。プロシージャの実行によってエラーが発生する際、そのエラーでは、プロシージャを終了し、親トランザクションすなわち呼び出し側トランザクションをロールバックせずに自律型トランザクションをロールバックしなければならなかった可能性があります。このメッセージは、一般にトランザクションのロールバックを引き起こすエラーにより、自律型プロシージャが終了した際に戻されます。この場合、自律型プロシージャの自律型トランザクションがロールバックされますが、呼び出し側トランザクションに影響を及ぼすことなく行われます。このメッセージの理由コードとして、自律型プロシージャを終了した SQLCODE が考えられます。

**ユーザーの処置:** 理由コードの SQLCODE に関連付けられたメッセージを確認し、自律型プロシージャが終了した理由を突き止めるためにその情報を利用します。自律型プロシージャまたは呼び出し側アプリケーション内の問題を修正し、プロシージャを再実行します。

---

**SQL20542N** クライアント・リルートによるシームレス・フェイルオーバーの最大試行回数を越えたため、ステートメントは実行されませんでした。

**説明:** データベース・サーバーへの接続が失われると、自動クライアント・リルート (ACR) により、代替サーバーを使用したデータベースへの再接続が試みられた後に、実行環境が再構成されます。シームレスな自動クライアント・リルート機能を使用している場合、再接続およびフェイルオーバーは、データベース・アプリケーションに認識されません。シームレスにフェイルオーバーを行う最初の試みが失敗すると、フェイルオーバーに成功するか、またはフェイルオーバーの最大試行回数に達するまで、ACR によって繰り返しフェイルオーバーが試みられます。

このメッセージは、最大許容試行回数よりも多くのシームレス・フェイルオーバーの実行が ACR によって試みられた際に戻されます。

このメッセージが戻されると、データベース接続はオープン状態です。

**ユーザーの処置:** ステートメントを再び実行します。

エラーが続く場合は、以下に示すトラブルシューティングの手順に従ってください。

1. クライアントおよびサーバーの診断ログから情報を収集します。
2. データベース・サーバーへの接続が失われている原因を調べます。

**sqlcode:** -20542

**sqlstate:** 54068

---

**SQL20547N** 割り当て先が読み取り専用のグローバル変数であるため、ステートメントは失敗しました。変数名: *variable-name*。

**説明:** 適切な書き込み権限があれば、グローバル変数をさまざまな SQL ステートメントで割り当て先として汎用的に使用できます。ただし、一部のグローバル変数の定義によって、これらの変数は読み取り専用になります。これは、一部の組み込みグローバル変数の他、CONSTANT 節を使用して定義されたユーザー定義グローバル変数にも当てはまります。

読み取り専用のグローバル変数を SQL ステートメントで割り当て先として使用することはできません。

**ユーザーの処置:** 読み取り専用のグローバル変数を参照しないように、ターゲット変数の名前を変更してください。

**sqlcode:** -20547

**sqlstate:** 428I3

---

## 第 22 章 SQL21000 - SQL21499

**SQL21000N** テキスト検索オプションがインストールされていないか、あるいは正しく構成されていません。

**説明:**

1. DB2 Text Search または DB2 Net Search Extender がこのサーバーにインストールされていないか、または正しく構成されていません。  
CONTAINS、SCORE、NUMBEROFMATCHES などのテキスト検索関数や DESCRIBE TEXT SEARCH INDEXES コマンドを使用するには、いずれかのテキスト検索フィーチャーをシステムに正しく構成して、開始しておく必要があります。
2. DB2 pureCluster 環境では DB2 Text Search はサポートされていません。

**ユーザーの処置:**

1. DB2 Text Search または DB2 Net Search Extender が正しくインストールされて構成されていること、およびデータベースがテキスト検索対応であることを確認してください。
2. DB2 Text Search を使用するために、DB2 pureCluster フィーチャーを使用不可にしてください。

**sqlcode:** -21000

**sqlstate:** 42724

---

**SQL21002N** スナップショットのバックアップに失敗しました。バックアップ対象のデータベースはロー・ログを使用するよう構成されていますが、スナップショット・バックアップではロー・ログがサポートされていません。

**説明:** データベース・ロギングにロー・デバイスを使用するデータベースに対しては、スナップショット・バックアップを実行できません。

スナップショットのバックアップに失敗しました。

**ユーザーの処置:** 次の 2 つの選択肢があります。

- データベース・ロギングのためにロー・デバイスを使用するデータベースに対してスナップショット・バックアップを実行することはできませんが、データベー

ス・ロギングのためにロー・デバイスを使用するデータベースに対して従来のバックアップを実行することは可能です。

- ロー・デバイスではなくファイル・パスを参照するようデータベース・ログ・パスを再構成した後、スナップショット・バックアップを実行できます。



---

## 第 23 章 SQL22000 - SQL22499

---

**SQL22000W** オブジェクト *object-name* に対して要求された構成が見つかりません。 *object-type* に対してデフォルト構成を戻します。

**説明:** このオブジェクトは、そのオブジェクト独自の特定の構成を持っていないため、そのオブジェクト・タイプに対してデフォルト構成が戻されます。

**ユーザーの処置:** デフォルト構成の振る舞いが正しい場合、アクションは不要です。

---

**SQL22001W** オブジェクト *object-name* のデフォルト構成が見つかりません。 *object-type* に対してインストール構成を戻します。

**説明:** このオブジェクトは、そのオブジェクト独自の特定の構成を持っていないため、そのオブジェクト・タイプに対してインストール構成が戻されます。

**ユーザーの処置:** インストール構成の振る舞いが正しい場合、アクションは不要です。

---

**SQL22004N** 指定されたオブジェクトに対して要求された構成が見つかりません。 *object-name* に対してデフォルト構成を戻します。

**説明:** このオブジェクトは、そのオブジェクト独自の特定の構成を持っていないため、そのオブジェクト・タイプに対してデフォルト構成が戻されます。

**ユーザーの処置:** デフォルト構成の振る舞いが正しい場合、アクションは不要です。

---

**SQL22005N** 指定されたオブジェクトのデフォルト構成が見つからないため、*object-name* のインストール構成を戻します。

**説明:** このオブジェクトは、そのオブジェクト独自の特定の構成を持っていないため、そのオブジェクト・タイプに対してインストール構成が戻されます。

**ユーザーの処置:** インストール構成の振る舞いが正しい場合、アクションは不要です。

---

**SQL22006N** *object-action-or-contact-name* が存在しないため、更新できません。

**説明:** API が、存在しないエレメントの構成の更新を要求されました。

**ユーザーの処置:** このエレメントを作成してから、API

呼び出しを再発行してください。

---

**SQL22007N** 指定されたヘルス・インディケーターの ID または名前 *Health-Indicator-name* が無効です。

**説明:** 要求されたアクションは、有効なヘルス・インディケーターにしか実行できません。指定されたヘルス・インディケーターは存在しません。

**ユーザーの処置:** 正しい ID または名前を判別して、要求を再サブミットしてください。

---

**SQL22008N** パラメーター *parameter-name* の値 *parameter-value* のフォーマット、タイプ、または値が正しくありません。

**説明:** このパラメーターに対して指定された値が受け入れ可能なフォーマット、タイプ、または値でないため、要求されたアクションは実行できません。

**ユーザーの処置:** このパラメーターの正しいフォーマット、タイプ、または値を判別して、要求を再サブミットしてください。

---

**SQL22009N** このインスタンスのヘルス連絡先情報がありません。

**説明:** このインスタンスのヘルス連絡先情報がありません。

**ユーザーの処置:** 現在の連絡先情報が正しい場合、アクションは不要です。

---

**SQL22010N** パラメーター *parameter-name* の値 *parameter-value* がこのパラメーターの受け入れ可能範囲内にありません。この値は、*parameter-max-value* より大きいか、*parameter-min-value* より小さいか、またはその両方です。

**説明:** このパラメーターに指定された値が受け入れ可能範囲内の値でないため、要求されたアクションは実行できません。

**ユーザーの処置:** このパラメーターに許容値を指定して要求を再サブミットしてください。

---

**SQL22011W** *object-name-or-type* の構成が見つかりません。

## SQL22012W

**説明:** オブジェクトまたはオブジェクト・タイプがそれ自身の特定の構成またはデフォルトの構成を持っていません。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。

---

### SQL22012W 暗黙的なインスタンス・アタッチが失敗しました。

**説明:** 明示的なインスタンス・アタッチメントが存在せず、デフォルト・インスタンスへの暗黙的なアタッチメントが失敗しました。 コマンドを実行できません。

**ユーザーの処置:** DB2 が開始されていて、環境変数が正しく設定されていることを確認してください。

---

### SQL22013N すでに存在するため、obj-act-contact を追加できません。

**説明:** API はすでに存在するアクションまたは通知を追加するよう要求されました。

**ユーザーの処置:** 既存のアクションと通知を変更または削除してください。

---

### SQL22014W ヘルス・モニターは、ヘルス関連のデータを戻しませんでした。

**説明:** このインスタンスのヘルス・データが存在しないか、またはヘルス・モニターがオフになっています。

**ユーザーの処置:** このインスタンス上でヘルス・モニターが実行されていることを確認してください。

---

### SQL22015N 指定されたヘルス・インディケーターの ID または名前 *Health-Indicator-name* は、このオブジェクト・タイプには無効です。

**説明:** このオブジェクト・タイプには、指定されたヘルス・インディケーターは存在しません。

**ユーザーの処置:** オブジェクト・タイプと ID または名前を確認してから、要求を再サブミットしてください。

---

### SQL22016N ヘルス・モニターから、ヘルス・インディケーター *Health-Indicator-name* の推奨値が戻されませんでした。理由コード = *reason-code*。

**説明:** ヘルス・モニターが推奨値を戻すことができませんでした。理由コードに対応する説明は、以下のとおりです。

1. ヘルス・インディケーターがアラート状態でない。
2. ヘルス・インディケーターがまだ評価されていない。

3. ヘルス・インディケーターが使用不可になっている。

**ユーザーの処置:** 理由コードに対応するアクションは、以下のとおりです。

1. ヘルス・インディケーターがアラート状態であることを確認します。問題は既に解決している場合もあります。ヘルス・インディケーターは、アラート状態と通常の状態との間で変動することがあります。インディケーターが変動する場合には、ヘルス・インディケーターの感度の設定値が低すぎて、ヘルス・インディケーターがシステムの使用状況の変化に反応している可能性があります。その場合には、UPDATE ALERT CONFIGURATION コマンドを使用することにより、感度を高く設定することを考慮してください。
2. ヘルス・インディケーターが評価されるようにするため、少なくともそのヘルス・インディケーターの 1 回のリフレッシュ・インターバルが完全に経過するまで待ちます。要求を再サブミットしてください。
3. UPDATE ALERT CONFIGURATION コマンドを使用することによって、ヘルス・インディケーターを使用可能にします。ヘルス・インディケーターが評価されるまで待つてから、要求を再サブミットしてください。

問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

---

### SQL22017N ヘルス・モニターで推奨値を生成中に、軽度のエラーが発生しました。 **SQLCODE** = *sqlcode*

**説明:** ヘルス・モニターが指定されたヘルス・インディケーターの推奨値を取り出そうとして、軽度のエラーが検出されました。

**ユーザーの処置:** SQLCODE に示されているとおりにエラーを訂正してください。推奨要求を再サブミットしてください。

問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

---

### SQL22018W このヘルス・インディケーターのコレクション・データを取り出すことができませんでした。

**説明:** コレクション・データは、データベース中の表の中に格納されます。表にアクセスできなかったため、または表がオリジナルの定義から変更されていて該当する列が存在しないため、表データを取り出すことができませんでした。

**ユーザーの処置:** 問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

---

**SQL22019N** 予期しないエラーが発生したため、ヘルス・モニターの処理が停止されました。理由コード = *reason-code*。

**ユーザーの処置:** 問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

---

**SQL22020N** 共有メモリー・セグメントの上限値に達したため、ヘルス・モニターの処理が停止されました。現在のサイズは *size* です。

**ユーザーの処置:** 問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

---

**SQL22021N** 自動化はオフです。

**説明:** 自動化スイッチが現在オフになっているため、必要なユーティリティを実行できません。

**ユーザーの処置:** 以下のいずれかを実行してください。

- ヘルス・モニターから提供される推奨に従って、問題を解決してください。
- 対応する自動化スイッチをオンにしてください。

---

**SQL22022N** 保守ウィンドウの期間が短すぎるため、保守活動を実行できません。

**説明:** 自動保守構成の中で定義されている保守ウィンドウの期間が不十分であるため、必要なユーティリティを実行できません。

**ユーザーの処置:** 以下のいずれかを実行してください。

- ヘルス・モニターから提供される推奨に従って、問題を解決してください。
- 対応する自動保守アクティビティの保守ウィンドウの期間を長くしてください。

---

**SQL22025N** *reorgchk* ストアード・プロシージャに無効な入力引数が指定されました。

**説明:** ストアード・プロシージャの最初の引数には 'T' と 'S' のみがサポートされます。最初の引数に 'T' が指定される場合、ストアード・プロシージャへの 2 番目の引数は <schema.table-name> という形式の完全修飾表名でなければなりません。

**ユーザーの処置:** 有効な入力引数を使用して再サブミットしてください。

---

**SQL22200N** DB2 Administration Server を停止できません。

**説明:** DB2 Administration Server は、現在クライアントからの要求を少なくとも 1 つ処理中であるため、停止できません。

**ユーザーの処置:** DB2ADMIN STOP コマンドを /FORCE オプションを指定して発行し、DB2 Administration Server が現在処理しているすべての要求を取り消して、DB2 Administration Server を停止します。

---

**SQL22201N** DB2 Administration Server は、ホスト *hostname* でユーザー *authorization-ID* の認証に失敗しました。理由コード *reason-code*

**説明:** DB2 Administration Server は、次の理由により、ユーザー *authorization-ID* を認証できませんでした。

1. ユーザー ID またはパスワードが無効です。
2. パスワードの期限が切れています。
3. ユーザー・アカウントが無効になっています。
4. ユーザー・アカウントが制限されています。
5. DB2 Administration Server は、ルート・ユーザーとしてサブミットされた要求を処理できません。
6. 許可に失敗しました。

**ユーザーの処置:** 理由コードに応じて、以下の処置を行ってください。

1. ホスト *hostname* に有効なユーザー ID とパスワードが指定されていることを確認します。
2. ホスト *hostname* 上でユーザー *authorization-ID* のパスワードを変更します。操作については、システム管理者に連絡してください。パスワードが変更されたら、再度要求を実行してください。
3. アカウントをアンロックするには、システム管理者に連絡してください。
4. アカウントに対する制限事項については、システム管理者に連絡してください。
5. ルート以外のユーザーとして要求を再サブミットしてください。
6. 内部認証エラーが発生しました。

提案されたソリューションの試行後もこのメッセージを受け取る場合は、IBM サポートに連絡してください。

**SQL22202W DB2 Administration Server を静止できません。理由コード *reason-code***

**説明:** 以下のいずれかの理由により、DB2 Administration Server の静止操作が失敗しました。

1. DB2 Administration Server がすでに静止されています。
2. DB2 Administration Server が現在 DB2 クライアントの代わりに要求を処理中です。

**ユーザーの処置:** 失敗の理由に応じて、以下のいずれかを実行してください。

1. アクションは不要です。
2. DB2 Administration Server が要求の処理を終了するまで待機するか、またはforce オプションを指定して静止要求を再サブミットします。静止を強制した場合、現在処理中の要求はすべて終了されます。

**SQL22203W DB2 Administration Server の静止を解除できません。理由コード *reason-code***

**説明:** 以下のいずれかの理由により、DB2 Administration Server の静止解除操作が失敗しました。

1. The DB2 Administration Server が静止されていません。
2. 少なくとも 1 つの管理要求の処理が進行中です。

**ユーザーの処置:** 失敗の理由に応じて、以下のいずれかを実行してください。

1. アクションは不要です。
2. DB2 Administration Server がすべての管理要求の処理を完了するまで待機するか、またはforce オプションを指定して静止解除要求を再サブミットします。静止解除操作を強制した場合、管理要求と並行して通常要求を処理できるため、これにより管理要求が正常に完了しない場合があります。

**SQL22204N DB2 Administration Server は、要求実行中に、重大でないエラーを検出しました。**

**説明:** DB2 Administration Server が要求を処理中、重大でないエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:** 追加情報については DB2 Administration Server の First Failure Data Capture Log を参照してください。

トレースがアクティブな場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトから、独立トレース機能を呼び出してください。以下の必須情報を用意して、IBM サポートに連絡してください。

- 問題の説明
- SQLCODE またはメッセージ番号

- SQLCA の内容 (ある場合)
- トレース・ファイル (可能であれば)

**SQL22205C DB2 Administration Server は、要求実行中に、予期しないエラーを検出しました。**

**説明:** DB2 Administration Server が要求を処理中に、予期しないエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:** 追加情報については DB2 Administration Server の First Failure Data Capture Log を参照してください。

トレースがアクティブな場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトから、独立トレース機能を呼び出してください。以下の必須情報を用意して、IBM サポートに連絡してください。

- 問題の説明
- SQLCODE またはメッセージ番号
- SQLCA の内容 (ある場合)
- トレース・ファイル (可能であれば)

**SQL22206N メッセージ・キューのアクセス中にエラーが発生しました。理由コード *reason-code***

**説明:** メッセージ・キューに対して、予期しないエラーまたは悪いメッセージを受信しました。以下が理由コードのリストです。

1. メッセージ・キューを作成できません。メッセージ・キューの許容数に達しました。
2. メッセージ・キューからの読み取り中に、エラーが発生しました。
3. メッセージ・キューへの書き込み中に、エラーが発生しました。
4. メッセージ・キューから、無効なメッセージを受け取りました。
5. メッセージ・キューのオープン中に、エラーが発生しました。
6. メッセージ・キューのクローズ中に、エラーが発生しました。
7. メッセージ・キューの照会中に、エラーが発生しました。
8. メッセージ・キューの削除中に、エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:** メッセージ・キューの許容数に達していないことを確認してください。必要に応じて、使用中のメッセージ・キューの数を少なくし、要求を再サブミットしてください。

提案されたソリューションの試行後もこのエラー・メッ

ページを受け取る場合は、IBM サポートに連絡してください。

---

**SQL22207N DB2 Administration Server ホスト**  
*hostname* スクリプトを実行できません。  
 理由コード *reason-code*

**説明:** 以下のいずれかの理由により、DB2 Administration Server はスクリプトの実行に失敗しました。

1. ユーザーは既存のスクリプトを指定しましたが、そのスクリプトが存在しません。
2. スクリプトの作業ディレクトリーが無効です。
3. ステートメントの終了文字が見つからなかったため、スクリプトの最後の行の実行が失敗しました。
4. スクリプトの実行中に、システム・エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:** 失敗の理由に応じて、以下のいずれかを実行してください。

1. 指定したスクリプトが、指定されたパスのホスト *hostname* に存在することを確認します。
2. 作業ディレクトリーがホスト *hostname* で有効であることを確認します。
3. スクリプトの内容を確認して、要求を再サブミットします。
4. 追加情報については DB2 Administration Server の First Failure Data Capture Log を参照してください。

提案されたソリューションを試行した後もこのエラー・メッセージを受け取る場合は、DB2 Administration Server の First Failure Data Capture Log で追加情報を確認するか、または IBM サポートまでご連絡ください。

---

**SQL22208N DB2 Administration Server は、ホスト**  
*hostname* のライブラリー/クラス  
*library-name* で、関数/方式 *function-name*  
 の実行に失敗しました。理由コード  
*reason-code*

**説明:** 以下のいずれかの理由により、DB2 Administration Server は、ライブラリー/クラスで関数/メソッドを実行中にエラーを検出しました。

1. ライブラリー/クラス *library-name* が見つかりませんでした。
2. 関数/方式 *function-name* がライブラリー/クラス *library-name* に見つかりませんでした。
3. DB2 Administration Server で呼び出された関数/メソッドのバージョンがサポートされていません。

**ユーザーの処置:** 失敗の理由に応じて、以下のいずれかを実行してください。

1. ライブラリー *library-name* がホスト *hostname* に存在することを確認します。
2. 追加情報については DB2 Administration Server の First Failure Data Capture Log を参照してください。トレースがアクティブな場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトから、独立トレース機能呼び出ししてください。以下の必須情報を用意して、IBM サポートに連絡してください。
  - 問題の説明
  - SQLCODE またはメッセージ番号
  - SQLCA の内容 (ある場合)
  - トレース・ファイル (可能であれば)
3. 理由コード 2 の応答を参照。

---

**SQL22209N DB2 Administration Server は、ホスト**  
*hostname* で予期しない Java エラーを検出しました。

**説明:** DB2 Administration Server が Java インタープリターを開始、または Java インタープリターとの通信を試行中に、エラーが発生しました。問題の原因として、以下のことが考えられます。

1. ホスト *hostname* 上の Java が正しく構成またはインストールされていません。
2. DB2 Administration Server の *jdk\_path* 構成パラメーターが正しく設定されていません。

**ユーザーの処置:** 以下を試行してください。

1. ホスト *hostname* のシステム管理者に連絡して、Java が正しくインストールされて、構成されていることを確認します。
2. DB2 Administration Server の *jdk\_path* 構成パラメーターが正しく設定されていることを確認します。*jdk\_path* 構成パラメーターは、CLP を使って表示できます。このパラメーターは、Java がホスト *hostname* 上でインストールされているロケーションを示している必要があります。

提案されたソリューションの試行後もこのエラー・メッセージを受け取る場合は、IBM お客様サポートに連絡してください。

---

**SQL22210N DB2 Administration Server は、静止中、**  
 指定された要求を実行できません。

**説明:** DB2 Administration Server は現在静止されているため、要求の実行に失敗しました。DB2 Administration Server の静止中は、管理要求しか実行できません。

## SQL22211N

**ユーザーの処置:** DB2 Administration Server が静止されていないときに、再度要求を実行してください。  
DB2 Administration Server がいつ静止解除されるかについては、データベース管理者に連絡してください。

---

### SQL22211N DB2 Administration Server 構成パラメーター *parameter-token* の設定中または検索中にエラーが発生しました。理由コード *reason-code*

**説明:** DB2 Administration Server の構成を更新中または読み取り中に、以下のエラーが発生しました。

1. 構成パラメーターが不明です。
2. 構成パラメーター値が正しい範囲内にありません。
3. DB2 Administration Server の構成パラメーターを更新中に、システム・エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:** 理由コードに応じて、次のことを確認してください。

1. 構成パラメーターが存在している。
2. 構成パラメーターに対して指定された値が正しい範囲内にある。構成パラメーターの記述については、「DB2 管理ガイド: パフォーマンス」の中で、許可可能値の範囲の記述を参照してください。
3. DB2 Administration Server の First Failure Data Capture Log で追加情報を確認するか、または IBM サポートまで連絡してください。

---

### SQL22212N DB2 Administration Server 通信エラーが検出されました。クライアント・システム : *client-ip-address*。サーバー・システム *server-ip-address*。

**説明:** DB2 Administration Server 通信エラーが検出されました。可能性のある原因は、以下のとおりです。

1. サーバー・システムのサーバーの DB2 Administration Server がシステム管理者によってシャットダウンされた。
2. サーバー・システムの DB2 Administration Server が、内部エラーまたはシステム・エラーにより終了した。
3. DB2 Administration Server がサーバー・システムにインストールされていない。
4. DB2 Administration Server はクライアント・システムで正しくカタログされていない。
5. クライアント・システムまたはサーバー・システムの通信サブシステムが正しく構成されていないか、または正常に開始されていない。
6. ネットワーク・エラーが原因で接続が切断された。

7. DB2 Administration Server における内部エラーにより、接続が切断された。

**ユーザーの処置:** 以下のことを検証してください。

1. DB2 Administration Server がシャットダウンされていない。
2. DB2 Administration Server が終了されていない。
3. DB2 Administration Server がサーバー・システムにインストールされている。
4. リモート DB2 Administration Server がクライアント・システムで正しくカタログされている。
5. クライアント・システムとサーバー・システム両方の通信サブシステムが正しく構成され、開始されている。
6. ネットワークが正しく実行されている。
7. 検証するものはありません。

問題が続く場合は、ネットワーク管理者または IBM サポートまで連絡してください。

---

### SQL22213N DB2ADMIN 処理が正常に行われました。スケジューラーが正常に開始されています。

**説明:** DB2ADMIN コマンドは正常に DB2 Administration Server を開始しましたが、DB2 Administration Server はスケジューラーを開始できませんでした。

**ユーザーの処置:** 以下のアクションを実行してください。

- ツール・カタログ・データベースの構成パラメーターが正しい値に設定されていることを確認します。ツール・カタログ・データベースの構成方法については、「DB2 管理ガイド」の DB2 Administration Server に関する項を参照してください。
- ツール・カタログ・データベースを含んでいるデータベース・マネージャーが開始済みであることを確認します。
- ツール・カタログ・データベースがツール・カタログ・インスタンスに対してリモートである場合、スケジューラーのユーザー ID とパスワードが正しく設定されていることを確認してください。スケジューラーのユーザー ID には、ツール・カタログ・データベースに対する SYSADM 権限が必要です。スケジューラーのユーザー ID とパスワードは、`db2admin setschedid` コマンドを使って変更できます。
- ツール・カタログ・データベースが別のスケジューラーに使用されていないことを確認してください。

推奨されるアクションを実行した後、DB2 Administration Server を停止して再始動します。推奨アクションを実行した後も引き続きこのエラー・メッセージを受け取る場合は、IBM サポートに連絡してください。

---

**SQL22214N** 管理ノード *node-name* は、DB2 ノード・ディレクトリーに存在しません。

**説明:** 管理ノード *node-name* は無効です。このノード名は、DB2 ノード・ディレクトリーに存在しません。

**ユーザーの処置:** LIST ADMIN NODE DIRECTORY コマンドを使って、ノード名 *node-name* が管理ノード・ディレクトリーに正しくカタログされていることを確認してください。この管理ノードが管理ノード・ディレクトリーにリストされていない場合は、CATALOG ADMIN ... NODE コマンドをサブミットして、この管理ノードをカタログに入れてください。提案されたソリューションの試行後もこのエラー・メッセージを受け取る場合は、IBM お客様サポートに連絡してください。

---

**SQL22215W** DB2 Administration Server 構成パラメーターが正常に更新されました。

**説明:** 構成パラメーターは正常に更新されましたが、変更を有効にするためには、DB2 Administration Server を再始動する必要があります。

**ユーザーの処置:** 変更を有効にするために、DB2 Administration Server を再始動してください。

---

**SQL22216N** 拡張コンソール操作を実行中に、エラーが発生しました。理由コード = *reason-code*。

**説明:** この操作を実行中に、予期しないエラーが発生しました。可能性のある理由コードは、以下のとおりです。

- 1 コンソールのアクティブ化に使用されたコンソール名の長さが 8 文字を超えている。
- 2 発行されたオペレーター・コマンドが、許可されている 126 文字を超えている。
- 3 アクティブ化要求に対して、発行者がリソース名 MVS.MCSOPER.\* (この場合、\* はコンソールの名前) に対する読み取り権限を持っていない。
- 4 アクティブ化要求に対して、コンソールがすでにアクティブであった。

**ユーザーの処置:** 理由コードに対応するアクションは、以下のとおりです。

- 1 コンソール名として指定されたユーザー名が 8 文字を超えているかを確認する。
- 2 オペレーター・コマンドの長さが 126 文字を超えているか確認する。
- 3 リソース MVS.MCSOPER.\* (この場合、\* はコンソールの名前) に対して必要な読み取り権限を提供する。
- 4 アクティブ化しようとしている拡張コンソールがアクティブ化されていないことを確認する。

---

**SQL22220N** DB2 Administration Server がスクリプト・エラーを検出しました。スクリプト・エラー・コード *error-code*。

**説明:** DB2 Administration Server がスクリプトを実行中、エラーを検出しました。スクリプトは終了されました。エラー・コード *error-code*。

**ユーザーの処置:** スクリプトが正しいことを確認してください。

提案されたソリューションを試行した後もこのエラー・メッセージを受け取る場合は、DB2 Administration Server の First Failure Data Capture Log で追加情報を確認するか、または IBM サポートまでご連絡ください。

---

**SQL22221N** スケジューラーが非アクティブです。理由コード *reason-code*

**説明:** 次の 1 つ以上の理由でスケジューラーがアクティブでないので、スケジューラーは要求を処理できませんでした。

1. スケジューラーが有効になっていない。
2. スケジューラーが正しく構成されていない。

**ユーザーの処置:** 以下のことを確認してください。

1. スケジューラーが有効になっていることを確認してください。スケジューラーは、SCHED\_ENABLE DB2 Administration Server 構成パラメーターを使って有効になります。GET ADMIN CONFIGURATION コマンドを使って DB2 Administration Server の構成パラメーターを表示して、SCHED\_ENABLE パラメーターの現在の設定を確認してください。構成パラメーターの値を変更するには、UPDATE ADMIN CONFIGURATION コマンドを使用します。
2. スケジューラーが正しく構成されていることを確認します。スケジューラーを構成するには、「DB2 管理ガイド」の DB2 Administration Server に関する項を参照してください。

## SQL22222N

提案されたソリューションを試行した後もこのエラー・メッセージを受け取る場合は、DB2 Administration Server の First Failure Data Capture Log で追加情報を確認するか、または IBM サポートまでご連絡ください。

---

### SQL22222N スケジューラーに対するログオン・ユーザー・アカウントが無効です。

**説明:** ツール・カタログ・データベースが DB2 Administration Server に対してリモートである場合、スケジューラーにはツール・カタログ・データベースに接続するための有効なログオン・アカウントが必要です。このエラーは、そのアカウントがセットアップされていないか、またはログオン・ユーザー・アカウントに有効な DB2 ユーザー ID が入っていないことが原因で発生しました。

**ユーザーの処置:** ログオン・ユーザー・アカウントがセットアップされている場合は、そのアカウントが有効な DB2 ユーザー ID を使用していることを確認してください。以下のコマンドを使用して、スケジューラーのログオン・ユーザー・アカウントをセットアップすることができます。

```
DB2ADMIN SETSCHEDID <userid> <password>
```

---

### SQL22223N インスタンス *instance-name* がホスト *hostname* に存在しません。

**説明:** 要求に指定されたインスタンス *instance-name* がホストに存在しないため、ホスト *hostname* 上の DB2 Administration Server は要求の実行に失敗しました。

**ユーザーの処置:** 以下のことを検証してください。

- インスタンス *instance-name* に対応する、ローカル・ノード・ディレクトリーにあるノード項目のリモート・インスタンス・フィールドは正しいです。
- インスタンス *instance-name* はホスト *hostname* に存在します。

提案されたソリューションを試行した後もこのエラー・メッセージを受け取る場合は、DB2 Administration Server の First Failure Data Capture Log で追加情報を確認するか、または IBM サポートまでご連絡ください。

---

### SQL22230N データ・セット *dataset* がシステムで見つかりません。

**説明:** 次のいずれかの理由が考えられます。

1. データ・セットがカタログされていない。
2. データ・セットが置かれているボリュームがマウントされていない。

3. このデータ・セットがカタログに指定されたボリューム上に存在しない。
4. この操作に必要なデータ・セットまたは PDS/E メンバー名が指定されていない。
5. データ・セットまたは PDS/E メンバー名に、無効文字が含まれているか、またはシステムで許可されている最大長を超えている。

この最初の 3 つの理由の詳細については、MVS システム・メッセージの IGW01021T、IGW01508T、および IGW01511E を参照してください。

**ユーザーの処置:** データ・セットの名前が正しく入力されており、データ・セットがカタログされており、そのデータ・セットが置かれているボリュームがシステムにマウントされていることを確認してください。

---

### SQL22231N 要求された操作は、データ・セット *dataset* ではサポートされていません。

**説明:** 指定されたデータ・セットの特定のプロパティーのため、要求された操作でこのデータ・セットを使用できません。適用できないレコード・フォーマットまたはデータ・セット・タイプなどが考えられます。たとえば、メンバー名が PS データ・セットに対して指定できないなど。

**ユーザーの処置:** データ・セットに対して、選択された操作に適切なプロパティーが設定されていることを確認してください。追加情報については DB2 Administration Server (DAS) の First Failure Data Capture Log を参照してください。

---

### SQL22232N ジョブ ID *jobid* が、ジョブ入力サブシステム (JES) に見つかりませんでした。

**説明:** 次のような理由が考えられます。

1. 指定されたジョブ ID を持つジョブが JES にサブミットされていない。
2. 指定されたジョブ ID を持つジョブが JES からパーージされている。

**ユーザーの処置:** このジョブ ID が、JES にサブミットされたジョブに属しており、まだパーージされていないことを確認してください。

---

### SQL22236N ファイル入出力エラーが発生しました。 理由コード *reason-code*

**説明:** ファイル・システムにアクセス中に、エラーが発生しました。理由コードは、以下の通りです。

1. 無効なディレクトリーが指定されました。
2. 存在しないファイルをオープンしようとしてしました。

3. 既存ファイルを作成しようとした。

**ユーザーの処置:** 理由コードに基づいたアクションは、以下のとおりです。

1. 有効なディレクトリーを指定します。
2. 存在するファイルを指定します。
3. すでに存在しないファイルを指定します。

---

**SQL22237N** パス *path* に対する操作中にファイル・システムのエラーが発生しました。理由コード = *reason-code*。

**説明:** ファイル・システムにアクセス中に、エラーが発生しました。理由コードに対応する説明は、以下のとおりです。

- 1 指定されたパスはすでに存在しています。
- 2 指定したパスは存在しません。
- 3 現在は読み取り専用になっているファイルまたはディレクトリーを指定して変更しようとした。
- 4 現在別のアプリケーションで使用中のファイルまたはディレクトリーを指定して変更または削除しようとした。
- 5 指定したファイルまたはディレクトリーにはアクセスできません。
- 6 指定したパスまたは装置は使用できません。
- 7 指定した空でないディレクトリーは、不適切なコンテキスト中で指定されています。たとえば、空でないディレクトリーを非再帰的に削除しようとしています。
- 8 指定したパスは、ディレクトリーを参照していません。
- 9 指定したパスは無効です。
- 10 指定したパス名は長すぎます。
- 11 ファイル・システム上で使用できるスペースがもうありません。
- 12 開くことができるファイルの最大数に達しました。
- 13 指定したファイルの終わりに達しました。
- 14 物理的入出力エラーが発生しました。
- 15 不明のエラーが発生しました
- 16 新しいディレクトリー名を持つディレクトリーはすでに存在します。

**ユーザーの処置:** 理由コードに対応するユーザー応答は、以下のとおりです。

- 1 存在しないパスを指定してください。
- 2 存在するパスを指定してください。
- 3 指定したファイルまたはディレクトリーが読み取り専用でないことを確認してください。
- 4 指定したファイルまたはディレクトリーが別のアプリケーションで使用中でないことを確認してください。
- 5 指定したファイルまたはディレクトリーに現行ユーザーからアクセスできることを確認してください。
- 6 指定したパスまたは装置は現在も使用できることを確認してください。
- 7 指定したディレクトリーが空であることを確認してください。
- 8 指定したパスは、ディレクトリーを参照していることを確認してください。
- 9 指定したパスは有効であることを確認してください。
- 10 指定したパスが、特定のオペレーティング・システム上のパス名の上限度内であることを確認してください。
- 11 ファイル・システム上で使用できるスペースがあることを確認してください。
- 12 1 つ以上のファイルをクローズしてから、操作をやり直してください。
- 13 ファイル・マークを越えて読み取りまたはシークを操作で行おうとしていないことを確認してください。
- 14 操作を再試行してください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。
- 15 操作を再試行してください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。
- 16 存在しないディレクトリー名を指定してください。

---

**SQL22245N** JCL の生成に失敗しました。理由 (コード [, トークン]) = *reason-code*

**説明:** JCL 生成は、以下の理由コードに示される理由により失敗しました。

- 01 予約済み JCL スケルトン・パラメーター &JOB を持つカードが見つからないか、メイン JCL スケルトンの中の誤った場所に置かれています。このカードは、メイン JCL スケルトンの中で、TEMPLATE カードの後にある、最初の非コメント・カードでなければなりません。

- 02** 予約済み JCL スケルトン・パラメーターの使用が誤りです。このメッセージの中のトークンに、問題の原因となったパラメーターの名前が含まれています。
- 03** メイン JCL スケルトンに、予期されているより多くの、予約済み JCL スケルトン・パラメーター &CTLSTMT が指定されています。このメッセージの中のトークンは、&CTLSTMT パラメーターの予期する数に設定されています。
- 04** メイン JCL スケルトンに、予期されているより多くの、予約済み JCL スケルトン・パラメーター &STEPLIB のオカレンスがあります。このメッセージの中のトークンは、&STEPLIB パラメーターの予期する数に設定されています。
- 05** メイン JCL スケルトンが、TEMPLATE ステートメントで開始されていません。このステートメントは、メイン JCL スケルトンの中で最初の非コメント・ステートメントでなければなりません。
- 06** JCL スケルトンの中のジョブ名またはステップ名に、ジョブまたはステップの順序付けに必要な JCL スケルトン組み込み関数 &SEQ が含まれていません。JCL スケルトン組み込み関数 &SEQ を JCL スケルトンのジョブ名またはステップ名に指定してください。このメッセージの中のトークンに、誤った JCL ステートメントのフラグメントが含まれています。
- 07** キーワード JOB が、//JOB-statement に対する、JCL スケルトンの中の最初の非コメント・ステートメントに見つかりません。コメント化されているか、または誤ってタイプされているか、または区切りスペース (特にキーワードの後) が抜けている可能性があります。
- 08** メイン JCL スケルトンは完了していないか、または構造に誤りがあります。特にインストリーム JCL プロシーチャーがこの JCL スケルトンで使用されている場合、必須の標準 JCL ステートメントがコメント化されているか、欠落しているか、または誤った位置に指定されている可能性があります。
- 09** JCL スケルトンの中のジョブ名、ステップ名、または DD 名の構文が無効です。この理由としては、名前フィールドの長さが誤りであるか、またはフィールドに英数字以外の文字が含まれていることが考えられます。このメッセージの中のトークンに、誤った JCL ステートメントのフラグメントが含まれています。
- 10** JCL スケルトンの中でアンパーサンド記号が誤って使用されています。JCL スケルトンに、1 つ以上の孤立したアンパーサンド記号が含まれています。アンパーサンド記号は、JCL スケルトン・パラメーターの最初の記号であり、ID と一緒に使用しなければなりません。このメッセージの中のトークンに、誤った JCL ステートメントのフラグメントが含まれています。
- 11** 予約済み JCL スケルトン・パラメーター &OBJECT が、JCL スケルトンに見つかりません。
- 12** ユーザー定義 JCL スケルトン・パラメーターは、JCL スケルトンに指定できません。このメッセージの中のトークンに、問題の原因となった JCL スケルトン・パラメーターの名前が含まれています。
- 13** 予約済み JCL スケルトン・パラメーターは、JCL スケルトンに指定できません。このメッセージの中のトークンに、問題の原因となった予約済み JCL スケルトン・パラメーターの名前が含まれています。
- 14** 生成された JCL は長すぎて、バッファを割り振れません。このメッセージの中のトークンに、問題の原因となった要求サイズが含まれています。この問題を回避するには、処理オブジェクトとして選択したデータベース・オブジェクトの数を減らしてください。

**ユーザーの処置:** 提供された説明に応じて、問題を訂正してください。問題が続く場合は、データベース管理者または IBM サポートに連絡してください。

---

#### SQL22247N 既知のディスカバリー操作が失敗しました。

**説明:** ターゲット DB2 Administration Server でディスカバリーが無効になっています。

**ユーザーの処置:** DB2 Administration Server で DISCOVER 構成パラメーターの値を変更して、ディスカバリーを有効にしてください。既知のディスカバリーだけを有効にしたい場合は、値を KNOWN に変更してください。既知と検索両方のディスカバリーを有効にしたい場合は、値を SEARCH に変更してください。構成パラメーターの値を変更するには、UPDATE ADMIN CONFIGURATION コマンドを使用します。

---

**SQL22250N 使用法: DASMIGR は、DB2 Administration Server をマイグレーションするユーティリティです。このユーティリティを起動した DB2 コピーの下で**

実行するようにマイグレーションします。

**説明:** DASMIGR コマンド構文は、以下のとおりです。

```
DASMIGR [-h | -p [DAS Profile Path]]
```

コマンド・オプションは以下のとおりです。

- h** このメッセージを印刷します。
- p** DAS 作業ディレクトリーを、現在の DB2 コピーのインストール・ディレクトリーに移動します。

#### DAS プロファイル・パス

DAS 作業ディレクトリーの移動先のデフォルト・ロケーションをオーバーライドします。このオプションは、**-p** オプションが指定されている場合のみ有効です。

例:

```
dasmigr -p "C:¥DB2 PROFILES"
```

**ユーザーの処置:** 有効なコマンド・オプションの 1 つを指定して DASMIGR コマンドを発行してください。

**SQL22251N** *source-dasname* から *target-dasname* への DB2 Administration Server のマイグレーションが失敗しました。理由コード *reason-code*

**説明:** DB2 Administration Server *source-dasname* は、次のいずれかの理由によりマイグレーションできませんでした。

1. ツール・カタログ・データベースがターゲット DB2 Administration Server に作成されていない。
2. ツール・カタログ・データベースがターゲット DB2 Administration Server で正しく構成されていない。

**ユーザーの処置:** ターゲット DB2 Administration Server *target-dasname* で以下のことを試行してください。

1. ツール・カタログ・データベースが存在していることを確認する。
2. TOOLSCAT\_DB および TOOLSCAT\_SCHEMA DB2 Administration Server 構成パラメーターが正しいことを確認する。これらのパラメーターは、ツール・カタログ・データベースの名前とスキーマに設定されている必要があります。GET ADMIN CONFIGURATION コマンドを使って、TOOLSCAT\_DB と TOOLSCAT\_SCHEMA の現在の設定値を表示してください。DB2 Administration Server 構成パラメーターの値を変更するには、UPDATE ADMIN CONFIGURATION コマンドを使用します。

提案されたソリューションの試行後もこのエラー・メッセージを受け取る場合は、IBM お客様サポートに連絡してください。

**SQL22252N** DAS マイグレーションは理由コード *reason-code* で失敗しました。

**説明:** DB2 Administration Server をマイグレーション中にエラーが発生しました。理由コードは以下のとおりです。

1. マイグレーションを完了するために使用できるシステム・リソースが不十分でした。
2. DB2 Administration Server の構成パラメーターが有効なツール・カタログを示していません。
3. マイグレーション中に重大ではないエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**

1. DAS マイグレーションのために使用できるシステム・リソースが十分であることを確認してください。
2. ツール・カタログが作成されており、DB2 Administration Server の構成パラメーターで正しく示されていることを確認してください。
3. 追加情報については DB2 Administration Server の First Failure Data Capture Log を参照してください。

**SQL22255W** 使用法: **dasauto [-hl-?] -onl-off**

**説明:** 間違った引数が入力されました。このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

**-hl-?** 使用情報を表示する

**-onl-off** DB2 Administration Server の自動開始を有効または無効にする

**ユーザーの処置:** 次のようにコマンドを入力し直してください。

```
dasauto [-hl-?] -onl-off
```

**SQL22256W** **dasauto** コマンドが成功しました。

**説明:** すべての処理が正常に完了しました。

**ユーザーの処置:** これ以上のアクションは不要です。

**SQL22260I** DB2 Administration Server が正常に更新されました。

**SQL22261N DB2 Administration Server 更新コマンド**において、予期しないエラーが検出されました。

**説明:** DB2 Administration Server を更新しようとして、予期しないエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:** IBM サポートに連絡して、可能であればトレース・ファイルを提供してください。

**SQL22262N メジャー・リリース間の DB2 Administration Server の更新はサポートされていません。**

**説明:** DB2 のマイナー・リリース間でのみ、DB2 Administration Server を更新できます。

**ユーザーの処置:** DB2 Administration Server マイグレーション・コマンド (dasmigr) を使用して、メジャー・リリース間の更新を行なってください。

**SQL22263I DB2 Administration Server が正常にマイグレーションされました。**

**SQL22264N DB2 Administration Server マイグレーション・コマンドにおいて、予期しないエラーが検出されました。**

**説明:** DB2 Administration Server をマイグレーションしようとして、予期しないエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:** IBM サポートに連絡して、可能であればトレース・ファイルを提供してください。

**SQL22265N マイナー・リリース間の DB2 Administration Server のマイグレーションはサポートされていません。**

**説明:** DB2 のメジャー・リリース間でのみ、DB2 Administration Server をマイグレーションできます。

**ユーザーの処置:** DB2 Administration Server 更新コマンド (dasupdt) を使用して、マイナー・リリース間の更新を行なってください。

**SQL22266N DB2 Administration Server は現行の DB2 コピーにすでにインストールされています。**

**説明:** DB2 Administration Server は、DB2 Administration Server 更新コマンドが実行された DB2 コピーの下にすでにインストールされています。

**ユーザーの処置:** DB2 Administration Server の移動元となる DB2 コピーから、DB2 Administration Server 更新コマンドを実行してください。

**SQL22267W 使用法: DASUPDT は、DB2 Administration Server を更新するユーティリティです。このユーティリティを起動した DB2 コピーの下で実行するように移行します。**

**説明:** DASUPDT コマンド構文は、以下のとおりです。

```
DASUPDT [-h | -p [DAS Profile Path]]
```

コマンド・オプションは以下のとおりです。

- h** このメッセージを印刷します。
- p** DAS 作業ディレクトリーを、現在の DB2 コピーのインストール・ディレクトリーに移動します。

#### DAS プロファイル・パス

DAS 作業ディレクトリーの移動先のデフォルト・ロケーションをオーバーライドします。このオプションは、-p オプションが指定されている場合のみ有効です。

例:

```
dasupdt -p "C:\DB2 PROFILES"
```

**ユーザーの処置:** 有効なコマンド・オプションの 1 つを指定して DASUPDAT コマンドを発行してください。

**SQL22270N 名前 name の連絡先または連絡先グループを連絡先リストに追加できません。**

**説明:** この連絡先または連絡先グループは、すでに連絡先リストに存在します。

**ユーザーの処置:** ユニーク名を使って、新しい連絡先または連絡先グループを作成してください。

**SQL22271N 名前 name の連絡先または連絡先グループの情報が見つかりません。**

**説明:** この連絡先または連絡先グループは、連絡先リストに見つかりませんでした。

**ユーザーの処置:** 名前をチェックおよび訂正して、もう一度やり直してください。

**SQL22272N キー key を持つレコードは挿入できません。**

**説明:** システムはレコードを挿入しようとしていましたが、新規レコードのキー key はすでにシステムに存在します。

**ユーザーの処置:** システムから重複を除去するか、または別のキーを使って新規レコードを挿入してください。

**SQL22273N** キー *key* を持つレコードが見つかりませんでした。

**説明:** キー *key* を持つレコードは、このレコードが存在しないため見つかりませんでした。

**ユーザーの処置:** キーをチェックおよび訂正して、もう一度やり直してください。

**SQL22280N** スケジューラーが静止されているため、このアクションは実行できません。

**説明:** スケジューラーが再度アクティブ化されるまでは、アクションを実行できません。

**ユーザーの処置:** スケジューラーをアクティブ化してください。

**SQL22281N** スケジューラーはすでにアクティブです。

**説明:** スケジューラーはすでにアクティブなので、アクティブ化できません。

**ユーザーの処置:** これ以上のアクションは不要です。

**SQL22282N** スケジューラーは、ツール・カタログ・データベースにアクセスできません。理由コード = *reason-code*、**SQLCODE** *sqlcode*。

**説明:** 以下の理由コード *reason-code* によって指定された理由により、スケジューラーがツール・カタログ・データベースにアクセスできないため、スケジューラー関数を処理できません。

1. 指定されたユーザー ID またはパスワードが誤りである。
2. DB2 Administration Server 構成パラメーターのツール・カタログ・データベース構成が誤りである。以下の 1 つ以上の DB2 Administration Server 構成パラメーターが誤りである。
  - TOOLSCAT\_DB
  - TOOLSCAT\_SCHEMA
3. ツール・カタログ・データベースは、すでに同じシステム上の別のスケジューラーによって使用されている。
4. ツール・カタログ・データベースは、通信プロトコルとして TCP/IP を介してしてサポートされていない。
5. 予期しないエラー。詳しくは、SQLCODE *sqlcode* を参照してください。

**ユーザーの処置:** 理由コードに対応するアクションは、以下のとおりです。

1. ユーザー ID とパスワードをチェックして、再試行してください。
2. DB2 Administration Server TOOLSCAT\_DB および TOOLSCAT\_SCHEMA 構成パラメーターが正しく設定されていることを確認してください。GET ADMIN CONFIGURATION コマンドを使って、TOOLSCAT\_DB と TOOLSCAT\_SCHEMA の現在の設定値を表示してください。DB2 Administration Server 構成パラメーターの値を変更するには、UPDATE ADMIN CONFIGURATION コマンドを使用します。提案されたソリューションの試行後もこのエラー・メッセージを受け取る場合は、IBM お客様サポートに連絡してください。
3. システム管理者に連絡してください。
4. 以下を試行してください。
  - ツール・カタログ・データベースがスケジューラーに対してローカルである場合は、DB2 Administration Server 構成パラメーター *toolscat\_inst* によって指定されているインスタンスが TCP/IP 通信を使用するようセットアップしてください。
  - ツール・カタログ・データベースがスケジューラーに対してリモートの場合は、*toolscat\_db admin* 構成パラメーターによって使用されるノードが通信プロトコルとして TCP/IP をサポートしていることを確認してください。
5. 追加情報については DB2 Administration Server の First Failure Data Capture Log を参照してください。

提案されたソリューションを実行したあともこのメッセージを受け取る場合は、IBM お客様サポートに連絡してください。

**SQL22283N** タスク *taskid.suffix* がツール・カタログ・データベースに存在しません。

**説明:** スケジューラーは、ツール・カタログ・データベースからタスクを検索できません。タスクは、ツール・カタログ・データベースから除去されているか、または存在していなかった可能性があります。

**ユーザーの処置:** タスク・センターを使って、タスクが存在しているかチェックしてください。

**SQL22284N** タスク *taskid.suffix* はスケジュールされていません。

**説明:** 要求アクション「スケジュールされたタスクを今実行する」は、このタスクが現在実行するようスケジュールされていないために実行できません。

**ユーザーの処置:** 以下のいずれかを実行してください。

## SQL22285N

- 代わりに「今実行する」を実行する
- このタスクのスケジュールをすべてアクティブ化し、再度「Run a scheduled task now」を実行する。

---

**SQL22285N** スケジューラーは、パーティション番号 *partition-number* のパーティション・データベースから、対応するホスト名を取得できません。

**説明:** 要求されたパーティション番号は、このパーティション・データベースに存在しません。

**ユーザーの処置:** LIST DBPARTITIONNUMS コマンドを使ってノードのリストを表示し、このパーティション番号が存在するか確認してください。

---

**SQL22286N** 必須タスクを実行できません。

**説明:** 予期しないエラーが発生したため、スケジューラーはタスクの実行に失敗しました。

**ユーザーの処置:** 追加情報については DB2 Administration Server の First Failure Data Capture Log を参照してください。

トレースがアクティブな場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトから、独立トレース機能呼び出してください。

---

**SQL22287N** ユーザー *userid* には、タスク *taskid.suffix* を実行する許可がありません。

**説明:** ユーザーにタスクを実行する権限がないために、タスクは実行されませんでした。

**ユーザーの処置:** ユーザーがタスクを実行できるようにするには、タスクの所有者がユーザーに実行許可を付与する必要があります。

---

**SQL22295N** ポート *port-number* を使って、ホスト *host-name* の SMTP サーバーと正常に通信できません。理由コード = *reason-code*。

**説明:** ポート *port-number* を使用する、ホスト *host-name* の SMTP サーバーは、メールを送信するためのプロトコルのネゴシエーションに失敗しました。このエラーの説明は、以下の理由コードで示されています。

1. ポート *port-number* の *host-name* で実行されている SMTP サーバーがなかった。
2. SMTP サーバーとの通信中に、予期しないエラーが検出された。

**ユーザーの処置:**

1. SMTP サーバー名が正しく指定されており、サービス・ファイルに指定されている SMTP ポートが SMTP サーバーによって使用されているポート番号に対応していることを確認してください。
2. オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトから独立トレース機能呼び出してください。問題が解決されない場合は、IBM サポートに連絡してください。

**sqlcode:** -22295

**sqlstate:** 08001

---

**SQL22296N** 受信側アドレスが無効なため、SMTP プロトコルを使ってメールを送信できません。

**説明:** SMTP サーバーは、指定されたすべての受信側に対するメール送信プロトコルを正常にネゴシエーションできませんでした。

**ユーザーの処置:** 受信側アドレスが正しく指定されていることを確認してください。

SMTP サーバーが受信側アドレスに到達できないときにも、このエラーが戻されることがあります。他のメール・クライアントを使い、同じ SMTP サーバーを使用する受信側にメールを送信することにより、独立して検査することができます。これが成功した場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトから独立トレース機能呼び出してください。問題が解決されない場合は、IBM サポートに連絡してください。

---

**SQL22297I** DB2 Administration Server が再始動するまで構成変更は反映されません。

**説明:** DB2 Administration Server は正常に構成されましたが、変更はすぐに有効にはなりません。変更は、DB2 Administration Server を再始動すると有効になります。

**ユーザーの処置:** 次回 DB2 Administration Server を再始動したときに変更を有効にする場合は、何のアクションも必要ありません。

---

**SQL22400N** 関数または機能の名前 *function-or-feature-name* が無効です。

**説明:** 関数または機能の名前 *function-or-feature-name* が無効です。有効な関数名および機能名については、DB2 のドキュメンテーションを参照してください。

**ユーザーの処置:** 有効な関数名または機能名を指定して、要求を再試行してください。

**sqlcode:** -22400

sqlstate: 5U001

---

**SQL22401N エージェント ID *agent-ID* のアプリケーションが存在しません。**

**説明:** エージェント ID *agent-ID* のアプリケーションは現在存在しません。アクティブなデータベース・アプリケーションをすべて表示するには、LIST APPLICATIONS コマンドを使用します。

**ユーザーの処置:** アクティブなアプリケーションのエージェント ID を指定して、要求を再試行してください。

sqlcode: -22401

sqlstate: 5U002

---

**SQL22402N アクティビティ・モニター・レポートが見つかりません。**

**説明:** 指定されたレポート ID またはレポート・タイプが無効であるため、アクティビティ・モニター・レポートが見つかりません。

**ユーザーの処置:** 有効なレポート ID または有効なレポート・タイプを指定して、要求を再試行してください。

sqlcode: -22402

sqlstate: 5U003

---

**SQL22403N モニター・タスク *monitoring-task-name* の保管またはドロップ中に指定された 1 つ以上の値が無効です。理由コード: *code***

**説明:** 理由コード *code* で示される理由のため、モニター・タスク *monitoring-task-name* の保管中に指定された 1 つ以上の値が無効です。可能性のある理由コードは、以下のとおりです。

- アクション・モード *action-mode* が無効です。
- 指定されたモニター・タスク名 *monitoring-task-name* が無効であるため、そのモニター・タスクの作成要求が失敗しました。
- 指定されたモニター・タスク名 *monitoring-task-name* と同じ名前の別のモニター・タスクが検出されたため、そのモニター・タスクの作成要求が失敗しました。
- アプリケーション・ロック・チェーンの使用可能性に対して指定された値が無効であるため、モニター・タスクの保管要求が失敗しました。
- モニター・タスクの保管要求が失敗しました。関連するレポートが存在しないため、*report-IDs* のうちの 1 つ以上のレポート ID が無効です。

- 指定されたモニター・タスク ID *monitoring-task-ID* が無効であるため、そのモニター・タスクの変更またはドロップ要求が失敗しました。関連するモニター・タスクが存在しないか、または組み込みモニター・タスクです。組み込みモニター・タスクは、変更したりドロップしたりできません。

**ユーザーの処置:** 理由コードに対応するアクションは、以下のとおりです。

- 新しいモニター・タスクを作成するには、アクション・モード C を指定します。既存のモニター・タスクを変更するには、アクション・モード M を指定します。要求を再試行してください。
- モニター・タスクの名前としてヌルまたはブランクを指定することはできず、128 文字を超える名前も指定できません。有効なモニター・タスク名を指定してから、要求を再試行してください。
- モニター・タスクの名前はユニークでなければなりません。新しいモニター・タスクのためのユニークな名前を指定して、要求を再試行してください。
- このモニター・タスクでアプリケーション・ロック・チェーンを使用可能にするには 'Y' を指定します。そうでない場合は 'N' を指定します。要求を再試行してください。
- 存在するアクティビティ・モニター・レポートの ID を 1 つ以上指定してから、要求を再試行してください。
- 既存のユーザー定義モニター・タスク ID を指定してから、要求を再試行してください。

sqlcode: -22403

sqlstate: 5U004

---

**SQL22404N 関数または機能 *function-or-feature-name* のためのデータベース・オブジェクトを作成またはドロップする際に指定されたアクション・モード *action-mode* が無効です。**

**説明:** アクション・モード *action-mode* が無効です。*function-or-feature-name* のデータベース・オブジェクトを作成するには、アクション・モード C を指定します。*function-or-feature-name* のデータベース・オブジェクトをドロップするには、アクション・モード D を指定します。

**ユーザーの処置:** 有効なアクション・モードを指定してから、要求を再試行してください。

sqlcode: -22404

sqlstate: 5U005

## SQL22405N

---

**SQL22405N** アクティビティ・モニターは、モニター・スイッチ *monitor-switch* がデータベース・マネージャー・レベルでオンになっていないため、必要なスナップショット・データを収集できません。

**説明:** アクティビティ・モニターは、モニター・スイッチ *monitor-switch* がデータベース・マネージャー・レベルでオンになっていないため、必要なスナップショット・データを収集できません。

**ユーザーの処置:** モニター・スイッチ・データベース・マネージャー構成パラメーターを使用することによって、指定されたモニター・スイッチをオンにしてから、要求を再試行してください。

**sqlcode:** -22405

**sqlstate:** 5U006

---

## 第 24 章 SQL27500 - SQL27999

---

**SQL27902N** ロードの再始動/終了は、ロード・ペンディング状態にない表では許可されません。

**説明:** 再始動または終了は必要ありません。ロード・ユーティリティの再始動および終了モードは、以前に失敗/割り込みのあったロード操作を再開または取り消すために使用されます。これらは、以前にロード操作が失敗している表で、その表がロード・ペンディング状態にある場合にのみサポートされます。ロード・ペンディングでない表では、ロード・ユーティリティの挿入モードと置換モードだけがサポートされます。

**ユーザーの処置:** 入力ソースの内容を表に移植するには、挿入モードか置換モードを使ってロード・コマンドを再発行してください。現在の表の状態を確認するには、ロード照会ユーティリティを使用できます。

---

**SQL27903I** *agenttype* がパーティション *partitionnumber* で *timestamp* に開始されました。

**説明:** これは、DB2 エージェントが指定されたパーティションで開始されようとしていることを示す通知メッセージです。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。

---

**SQL27904I** 入力ファイルが見つかりませんでした。標準入力を入力として使用します。

**説明:** これは、DB2 エージェントが指定されたパーティションで開始されようとしていることを示す通知メッセージです。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。

---

**SQL27907I** 最大入力レコード長 *record-length*。

**説明:** これは、ロード操作に対して使用されるレコード長を示す通知メッセージです。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。

---

**SQL27908I** ユーティリティはチェック・レベル *check-level* で実行されています。

**説明:** これは、切り捨てチェックが使用可能になっているかどうかを示す通知メッセージです。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。

---

**SQL27909I** 区切り文字のないレコードを *numberofrecords* 個トレース中です。

**説明:** これは、最初の *numofrecords* 個のレコードに対してトレースが使用可能になっていることを示す通知メッセージです。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。

---

**SQL27910I** スtring区切り文字は *chardel*、列区切り文字は *coldel*、小数点は *decept* です。区切り文字のあるレコードを *numofrecords* 個トレース中です。

**説明:** これは、String、列、および小数点に対してどの区切り文字が使用されているかを示す通知メッセージです。さらに、このメッセージは、最初の *numofrecords* 個のレコードに対してトレースが使用可能になっていることも示しています。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。

---

**SQL27911I** 入力パーティション化マップ・ファイル *filename* を読み取り用に正常にオープンしました。

**説明:** この通知メッセージは、入力パーティション化マップ・ファイルが読み取り用に正常にオープンされたことを示しています。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。

---

**SQL27912I** 入力パーティション・マップの読み取りが進行中です。

**説明:** この通知メッセージは、入力パーティション化マップ・ファイルの読み取りが進行中であることを示しています。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。

---

**SQL27913I** 入力パーティション・マップを正常に読み取りました。

**説明:** この通知メッセージは、入力パーティション化マップ・ファイルが正常に読み取られたことを示しています。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。

---

**SQL27914I** 操作モードは *mode* です。

## SQL27915I

説明: この通知メッセージは、パーティション・エージェントの操作モードを示しています。

次の 2 つの操作モードがあります。

- PARTITION
- ANALYZE

ユーザーの処置: アクションは不要です。

---

**SQL27915I** 出力パーティション・マップ・ファイルが使用されていません。

説明: これは、出力パーティション・マップ・ファイルが使用されていないことを示す通知メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

---

**SQL27916I** 出力パーティション・マップ・ファイル *filename* を正常にオープンしました。

説明: これは、出力パーティション・マップ・ファイルが正常にオープンされたことを示す通知メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

---

**SQL27918I** 分散ファイル名: *filename*。

説明: これは、ユーティリティで使われる分散ファイルの名前を示す通知メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

---

**SQL27919I** 分散ファイル *filename* を書き込み用に正常にオープンしました。

説明: この通知メッセージは、分散ファイルが書き込み用に正常にオープンされたことを示しています。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

---

**SQL27920I** このユーティリティは *numkeys* パーティション・キーを使用しています。

説明: この通知メッセージは、ユーティリティで使われているパーティション・キーの数を示しています。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

---

**SQL27921I** *keyname* 開始:*index* 長さ:*length* 位置:*position* タイプ:*type*。

説明: この通知メッセージは、パーティション・キーの属性を記述しています。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

---

**SQL27922I** 実行タイプが **ANALYZE** であるため、出力データ・ファイルは作成されません。

説明: これは、操作モードが ANALYZE であるため、出力データ・ファイルが作成されないことを示す通知メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

---

**SQL27926I** パーティション *partitionnum* の出力データは、標準出力に送られます。

説明: これは、パーティション *partitionnum* の出力データが標準出力に送られることを示す通知メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

---

**SQL27927I** *numofrecords* 個のレコード (または行) を処理しました。

説明: これは、*numofrecords* レコード (または行) が処理されたことを示す通知メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

---

**SQL27928I** レコード番号 *num* を処理中です。

説明: これは、どのレコードが処理されているかを示す通知メッセージです。このメッセージは、TRACE オプションが指定されている場合のみ報告されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

---

**SQL27929I** ハッシュ関数がパーティション番号を返しました: *hexvalue* (16 進) *decvalue* (10 進)

説明: この通知メッセージは、ハッシュ関数の結果を 16 進数フォーマットと 10 進数フォーマットの両方で報告します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

---

**SQL27930N** パーティション中に理由コード *reason-code* およびパーティション関連レコード番号 *rec-num* でレコードが拒否されました。

説明: レコードが属するパーティションを判別しているとき、レコードがロード中に拒否されました。'dumpfile' ロード修飾子が指定されていた場合は、パーティション相対ダンプ・ファイルの中の、このメッセージにリストしているパーティション相対レコード番号 *rec-num* のところに、拒否されたレコードを見つけることができます。

*reason-code* で指定されるエラーの説明は、以下のとおりです。

1. パーティション列のデータ・タイプのストリング表記が無効です。構文が無効か、または値が範囲外のいずれかです。
2. パーティション・キーに対応する列の値がレコードの最初の 32KB に含まれていません。
3. レコードが空 (すべてスペース文字) です。
4. レコード長が予定した長さとは一致しません。
5. レコードが不完全です。
6. 生成された列の値を処理中にエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:** *reason-code* に対応するアクションは、以下のとおりです。

1. ストリング表示またはデータ・タイプが正しいことを確認します。
2. パーティション・キーを含む列の値がレコードの最初の 32KB に含まれている必要があります。
3. レコードが空である可能性がある場合は、データが正確であるか確認します。
4. レコード長が予定した長さより長くないか、または短くないことを確認します。
5. 入力データ・ファイルが完全であることを確認します。
6. 生成された列の値が正しく、準拠していることを確認します。

---

**SQL27931I** 出力パーティション・マップをファイル *filename* に書き込み中です。

**説明:** これは、出力パーティション化マップが *filename* に書き込まれていることを示す通知メッセージです。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。

---

**SQL27932I** 分散マップを *filename* に書き込み中です。

**説明:** これは、分散マップが *filename* に書き込まれていることを示す通知メッセージです。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。

---

**SQL27935I** *agenttype* は、パーティション *partitionnumber* で *timestamp* に終了しました。

**説明:** これは、DB2 エージェントが指定されたパーティションでの操作を完了したことを示す通知メッセージです。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。

---

**SQL27936I** 経過時間: *hr* 時間、*min* 分、*sec* 秒。

**説明:** これは、合計経過時間を報告する通知メッセージです。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。

---

**SQL27937I** スループット: *throughput* レコード / 秒

**説明:** これは、指定された DB2 エージェントのスループットを示す通知メッセージです。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。

---

**SQL27939I** 出力パーティションのレコード数: パーティション番号 *partitionnum*。レコード・カウント: *numofrecords*。

**説明:** この通知メッセージは、指定されたパーティションに対して処理されたレコードの数を示しています。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。

---

**SQL27941I** プログラムが異常終了しました。

**説明:** この通知メッセージは、ユーティリティ・プログラムが異常終了したことを示しています。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。

---

**SQL27942I** 警告メッセージが *number-of-warnings* 個と拒否レコードが *number-of-rejected-records* 個あります。

**説明:** この通知メッセージは、操作中に *number-of-warnings* 個の警告メッセージと *number-of-rejected-records* 個の拒否レコードを検出したことを報告しています。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。

---

**SQL27945I** キー索引: *index*。データ: *data1 data2 data3 data4 data5*。

**説明:** この通知メッセージは、指定されたパーティション化キーの属性を報告しています。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。

---

**SQL27947I** 構成ファイルの行 *linenum* に指定された入力データ・ファイルは無視されます。

**説明:** 構成ファイルの行 *linenum* に指定された入力データ・ファイルは無視されます。コマンド行オプションが指定されている場合は使用されますが、指定されていない場合は、構成ファイルの中の 1 つ目の入力デー

## SQL27948I

タ・ファイルの指定が使用されます。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。

---

**SQL27948I** 構成ファイルの行 *linenum* に指定された出力データ・ファイルは無視されます。

**説明:** 構成ファイルの行 *linenum* に指定された出力データ・ファイルは無視されます。 コマンド行オプションが指定されている場合は使用されますが、指定されていない場合は、構成ファイルの中の 1 つ目の出力データの指定が使用されます。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。

---

**SQL27949I** 構成ファイルの行 *linenum* に指定された分散データ・ファイルは無視されます。

**説明:** 構成ファイルの行 *linenum* に指定された分散ファイルは無視されます。 コマンド行オプションを指定すれば使用できますが、指定しない場合、構成ファイルにある分散ファイルの最初の指定を使用します。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。

---

**SQL27950I** 入力データ・ファイルのタイプは *filetype* です。

**説明:** これは、入力データのフォーマットが *filetype* であることを示す通知メッセージです。

- 0-ASC
- 1-DEL
- 2-BIN
- 3-CUR

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。

---

**SQL27951I** バイナリー数または区切り付き入力データ・ファイルである場合、**NEWLINE** フラグは無視されます。

**説明:** この通知メッセージは、バイナリーまたは区切り文字付き入力データ・ファイルについて **NEWLINE** フラグが無視されることを報告しています。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。

---

**SQL27952I** **NEWLINE** フラグがオンになっています。

**説明:** この通知メッセージは、**NEWLINE** フラグが有効であることを報告しています。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。

---

**SQL27953I** 使用法: **db2split** [-c *configuration-file-name*] [-d *distribution-file-name*] [-i *input-file-name*] [-o *output-file-name*] [-h *help message*]

**説明:**

- c オプションはユーザー指定の構成ファイルを使用して、このプログラムを実行します。
- d オプションは、分散ファイルを指定します。
- i オプションは、入力ファイルを指定します。
- o オプションは、出力ファイルを指定します。
- h オプションはヘルプ・メッセージを生成しません。

---

**SQL27959N** パーティション・データベース構成オプション *option-name* が無効です。理由コード = *reason-code*。

**説明:** エラー・メッセージの中で示されているパーティション・データベース構成オプションは、誤って指定されているか、または指定されている他のロード・オプションの 1 つと互換性のないものです。

可能性のある理由コードは、以下のとおりです。

- 1 パーティション・データベース構成オプションは非パーティション・データベース環境、または **DB2\_PARTITIONEDLOAD\_DEFAULT** レジストリー変数が **OFF** に設定されているときには指定できません。
- 2 パーティション・データベース構成オプションを複数回指定することはできません。
- 3 **db2Load** API に渡された **piPartLoadInfoIn** 入力構造で、無効なポインターが検出されました。
- 4 **db2Load** API に渡された **poPartLoadInfoOut** 出力構造で、無効なポインターが検出されました。
- 5 **MODE** オプションに指定する引数は、以下のいずれかでなければなりません。
  - **PARTITION\_AND\_LOAD**
  - **PARTITION\_ONLY**
  - **LOAD\_ONLY**
  - **LOAD\_ONLY\_VERIFY\_PART**
  - **ANALYZE**
- 6 パーティション・エージェントの最大数は、1 つのクラスターで許可されるパーティションの最大数より小か等しくなければなりません。
- 7 パーティション・リストのパーティション数の

- 最大数は、1 つのクラスターで許可されるパーティションの最大数より小か等しくなければなりません。
- 8 ISOLATE\_PART\_ERRS オプションに指定する引数は、以下のいずれかでなければなりません。
- SETUP\_ERRS\_ONLY
  - LOAD\_ERRS\_ONLY
  - SETUP\_AND\_LOAD\_ERRS
  - NO\_ISOLATION
- 9 STATUS\_INTERVAL オプションに指定する値は、1 から 4000 の範囲内でなければなりません。
- 10 最大ポート番号は、最小ポート番号より大か等しくなければなりません。
- 11 CHECK\_TRUNCATION、NEWLINE、および OMIT\_HEADER オプションには TRUE または FALSE の引数しか指定できません。
- 12 RUN\_STAT\_DBPARTNUM に指定する引数は、有効なパーティション番号でなければなりません。
- 13 モードが ANALYZE の場合は、MAP\_FILE\_OUTPUT オプションを指定する必要があります。
- 14 モードが PARTITION\_ONLY または LOAD\_ONLY の場合は、リモート・クライアントが使用されており、PART\_FILE\_LOCATION オプションを指定する必要があります。モードが PARTITION\_ONLY または LOAD\_ONLY で、ファイル・タイプが CURSOR の場合は、PART\_FILE\_LOCATION オプションを使用し、ファイル名を指定する必要があります。
- 15 ロード・アクションの RESTART と TERMINATE は、モードが PARTITION\_AND\_LOAD、LOAD\_ONLY、または LOAD\_ONLY\_VERIFY\_PART の場合にのみ使用できます。
- 16 FILE\_TRANSFER\_CMD オプションも指定されていないかぎり、HOSTNAME オプションは指定できません。
- 17 パーティションの分離エラー・モードである LOAD\_ERRS\_ONLY と SETUP\_AND\_LOAD\_ERRS は、ロード・コマンドの ALLOW READ ACCESS または COPY YES オプションの両方が使用される場合、使用できません。

- 18 LOAD\_ONLY と LOAD\_ONLY\_VERIFY\_PART モードは、ロード・コマンドの CLIENT オプションと互換性がありません。

**ユーザーの処置:** 正しいパーティション・データベース構成オプションを使って LOAD コマンドを再サブミットしてください。

---

**SQL27960N** ファイル・タイプが CURSOR の場合、PART\_FILE\_LOCATION は完全修飾基本ファイル名を指定する必要があります。

**説明:** タイプ CURSOR の入力ファイルからロードしている場合、PART\_FILE\_LOCATION オプションは、ディレクトリーではなく、完全修飾基本ファイル名を指定する必要があります。

**ユーザーの処置:** PART\_FILE\_LOCATION パーティション・データベース構成オプションに正しい引数を指定して、LOAD コマンドを再サブミットしてください。

---

**SQL27961N** モードが ANALYZE でない限り、ROWCOUNT をパーティション・データベース環境に指定することはできません。

**説明:** ロード・コマンドの ROWCOUNT オプションは、モードが ANALYZE である場合を除き、サポートされていません。

**ユーザーの処置:** ROWCOUNT オプションを指定せずに、ロード・コマンドを再サブミットしてください。

---

**SQL27965N** DB2\_LOAD\_COPY\_NO\_OVERRIDE レジストリー変数の値 *value* は無効です。

**説明:** リカバリーの可能性を決める COPY NO プロパティを指定した LOAD が発行されましたが、DB2\_LOAD\_COPY\_NO\_OVERRIDE レジストリー変数は無効です。

**ユーザーの処置:** DB2 インフォメーション・センターでレジストリー変数の詳細を確かめるか、または、このレジストリー変数の設定を解除して、リカバリーの可能性を決める COPY NO を指定した LOAD のオーバーライドを停止してください。

---

**SQL27966W** DB2\_LOAD\_COPY\_NO\_OVERRIDE レジストリー変数の値 *value* は、LOAD に指定されている COPY NO パラメーターをオーバーライドします。

**説明:** リカバリーの可能性を決める COPY NO パラメーターを指定した LOAD コマンドが発行されましたが、DB2\_LOAD\_COPY\_NO\_OVERRIDE レジストリー変数はこのパラメーターをオーバーライドします。

**ユーザーの処置:** DB2 インフォメーション・センターで DB2\_LOAD\_COPY\_NO\_OVERRIDE レジストリー変数の詳細を確かめるか、または、このレジストリー変数の設定を解除して、リカバリーの可能性を決める COPY NO を指定した LOAD のオーバーライドを停止してください。

---

**SQL27967W LOAD 中のリカバリーの可能性を決める COPY NO パラメーターは、HADR 環境内で NONRECOVERABLE に変換されました。**

**説明:** LOAD 中のリカバリーの可能性を決める COPY NO パラメーターは、NONRECOVERABLE に変換されました。これが発生したのは、LOAD が HADR 環境で発行され、しかも DB2\_LOAD\_COPY\_NO\_OVERRIDE レジストリー変数が設定されていないためです。

**ユーザーの処置:** COPY NO ロード・パラメーターは、HADR 環境では無効です。COPY NO パラメーターをオーバーライドするように DB2\_LOAD\_COPY\_NO\_OVERRIDE レジストリー変数を設定することができますが、COPY NO パラメーターが NONRECOVERABLE に変換されるのを容認してもかまいません。

---

**SQL27970N 互換性のないインポート・オプションの組み合わせが指定されました。理由コード = reason-code。**

**説明:** 互換性のないインポート・オプションの組み合わせがユーザーにより指定されました。

コマンドは処理されません。

*reason-code* で指定されるエラーの説明は、以下のとおりです。

1. SKIPCOUNT および RESTARTCOUNT オプションは同時に指定できません。
2. オンライン・インポート・モード (ALLOW WRITE ACCESS) は REPLACE、CREATE および REPLACE\_CREATE インポート・オプションと互換性がありません。
3. オンライン・インポート・モード (ALLOW WRITE ACCESS) はバッファ挿入を使用してインポート・コマンドに指定されました。
4. オンライン・インポート・モード (ALLOW WRITE ACCESS) はビューに挿入するインポート・コマンドに指定されました。
5. オンライン・インポート・モード (ALLOW WRITE ACCESS) は表ロック・サイズを使用してターゲット表に指定されました。

6. コミット・カウント AUTOMATIC はバッファ挿入を使用してインポート・コマンドに指定されました。
7. コミット・カウント AUTOMATIC がインポート・コマンドに指定されましたが、サーバーはこのオプションをサポートしません。自動コミット・カウントをサポートするサーバーは DB2 UDB for Linux, Unix, and Windows V8.1 フィックスパック 4 以上です。
8. オンライン・インポート・モード (ALLOW WRITE ACCESS) がインポート・コマンドに指定されましたが、サーバーはこのオプションをサポートしません。オンライン・インポートをサポートするサーバーは Linux、Unix、Windows、System z および System i です。

**ユーザーの処置:** 理由コードに対応するアクションは、以下のとおりです。

1. SKIPCOUNT または RESTARTCOUNT オプションのいずれかを使用して、コマンドを再実行してください。
2. ALLOW WRITE ACCESS を指定せずに、あるいは INSERT または INSERT\_UPDATE インポート・オプションを使用して、コマンドを再実行してください。
3. ALLOW WRITE ACCESS を指定せずに、または INSERT BUF オプションを使用せずにインポート・パッケージ (bind files db2uimtb.bnd and db2uimpb.bnd) を再バインドして、コマンドを再実行してください。
4. ALLOW WRITE ACCESS を指定せずに、コマンドを再実行してください。
5. ALLOW WRITE ACCESS を指定せずに、あるいは LOCKSIZE ROW を使用して表を変更して、コマンドを再実行してください。
6. 自動コミット・カウントを指定せずに、または INSERT BUF オプションを使用せずにインポート・パッケージ (bind files db2uimtb.bnd and db2uimpb.bnd) を再バインドして、コマンドを再実行してください。
7. 非互換サーバーではこのコマンド・オプションを使用しないでください。
8. 非互換サーバーではこのコマンド・オプションを使用しないでください。

---

**SQL27971N インポート・ユーティリティの開始以降、ターゲット表が変更されました。**

**説明:** このメッセージは、いくつかの理由で戻される可能性があります。例えば、オンライン・インポートの実

行中に、アプリケーションがターゲット表をドロップして同じ名前の表を新規作成した場合、このメッセージが戻されることがあります。

ユーティリティは処理を停止します。

**ユーザーの処置:** 必要に応じて、操作をやり直してください。

**SQL27972N** *first-failed-row* から開始し *last-failed-row* で終了する行の範囲が、入力ファイルから表に挿入されませんでした。SQLCODE = *sqlcode*

**説明:** アトミック・コンパウンド・データベース操作が入力ファイルからのデータ読み取りの行シーケンスの挿入に失敗しました。入力ファイルの 1 つ以上のフィールドが、データベース内の挿入先のフィールドと互換でない可能性があります。

入力データの次の行から処理が継続されます。

**ユーザーの処置:** 入力ファイルとデータベースの内容を調べてください。必要に応じて、データベースまたは入力ファイルを変更して、もう一度やり直してください。

**SQL27980W** ユーティリティはターゲット表またはソース表内で接続されたか、またはデータタッチされたデータ・パーティションを検出しました。

**説明:** データ・パーティションの一部が接続された状態またはデータタッチされた状態になっています。ユーティリティは、これらのデータ・パーティションを不明と見なします。これらのデータ・パーティションに属する入力ソース・レコードは、インポート・ユーティリティまたはロード・ユーティリティによってリジェクトされます。ロード・ユーティリティによってリジェクトされた行は、例外表 (指定されていた場合) からリカバリーできます。エクスポート・ユーティリティは、これらのデータ・パーティション中に存在する可能性のあるデータを処理しません。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。

**SQL27981W** ユーティリティはターゲット表またはソース表内で接続されたか、またはデータタッチされたデータ・パーティションがあるかどうかを検査できませんでした。

**説明:** データ・パーティションの一部が接続された状態またはデータタッチされた状態になっている可能性がありますが、ユーティリティが確認できませんでした。ユーティリティは、これらのデータ・パーティションを不明と見なします。これらのデータ・パーティションに属

する入力ソース・レコードは、インポート・ユーティリティまたはロード・ユーティリティによってリジェクトされます。ロード・ユーティリティによってリジェクトされた行は、例外表 (指定されていた場合) からリカバリーできます。エクスポート・ユーティリティは、これらのデータ・パーティション中に存在する可能性のあるデータを処理しません。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。

**SQL27982N** ベンダー・ロード API (*sqlvltid*) はサポートされなくなりました。

**説明:** ベンダー・ロード API (*sqlvltid*) はサポートされなくなりました。サポートされる一括ローダーは、DB2 ロード・ユーティリティのみです。DB2 ロード・ユーティリティは、*db2Load* API を介して実行できます。

**ユーザーの処置:** *sqlvltid* API か、またはこの API を呼び出すアプリケーションを使用しないでください。

**SQL27983N** LOAD ユーティリティは索引を再ビルドできません。

**説明:** LOAD ターゲット表にはデータタッチされたデータ・パーティションがあり、そのデータタッチされたデータ・パーティションに関して増分的にリフレッシュされていない従属マテリアライズ照会表または従属ステージング表があります。この条件では、挿入モードまたは再始動モードで実行している LOAD ユーティリティはユニーク索引を再ビルドできません。

**ユーザーの処置:** 従属マテリアライズ照会表または従属ステージング表がリフレッシュされるまで、LOAD 挿入を使用した索引付けモードの REBUILD を指定しないでください。別の LOAD 索引付けモードを使用するか、または SET INTEGRITY ステートメントに IMMEDIATE CHECKED オプションを指定して実行し、データタッチされたデータ・パーティションに関して、従属マテリアライズ照会表または従属ステージング表を保守してください。LOAD の再開によって索引を増分的に保守できない場合、従属マテリアライズ照会表または従属ステージング表をリフレッシュできるようにするには、その前に、以前に失敗した LOAD 操作を終了しなければなりません。

**SQL27984W** export コマンドが正常に完了しました。エクスポート中に、一部の再作成情報は PC/IXF ファイルに保管されませんでした。このファイルをインポート CREATE モードで使用することはサポートされません。理由コード = *reason-code*

**説明:** 理由コード:

## SQL27985N • SQL27990W

- 1 索引列の名前に 16 進値の 0x2B または 0x2D が含まれるため、索引情報が保管されませんでした。
- 2 再作成で XML 列定義が保管されませんでした。
- 3 MDC キー定義が保管されませんでした。
- 4 表パーティション・キー定義が保管されませんでした。
- 5 コード・ページ変換のために索引名が切り捨てられました。
- 6 保護された表はサポートされていません。
- 7 'SELECT \* FROM <TABLE-NAME>' 以外のアクション・ストリングはサポートされていません。
- 8 メソッド N はサポートされていません。
- 9 列名が PC/IXF 形式には長すぎます。長さに合わせて切り捨てられました。
- 10 UDT 名が PC/IXF 形式には長すぎます。長さに合わせて切り捨てられました。
- 11 コード・ページ変換のために型付き表情報が切り捨てられました。
- 12 UDT に関連付けられたスキーマが PC/IXF 形式には長すぎます。長さに合わせて切り捨てられました。
- 13 10 進浮動小数点の列定義は再作成用に保管されません。

**ユーザーの処置:** エクスポート時にデータへの影響はありませんでしたが、このファイルをインポート CREATE 操作に使用して表を再作成することはできません。一部の情報が欠落することになるためです。理由コード 1、3、4、5、7、8、9、および 11 の場合、ユーザーはファイル・タイプ修飾子 FORCECREATE を使用することによって、このファイルを使用した CREATE 操作を強制的に実行することができます。理由コード 2、6、10、12、13 の場合、ユーザーは、db2look ツールを使って表情報を抽出し、インポート INSERT または REPLACE 操作を実行できます。

---

**SQL27985N** オートローダー実行可能プログラム (db2atld) はサポートされなくなりました。

**説明:** オートローダー実行可能プログラム (db2atld) はサポートされなくなりました。サポートされる一括ローダーは、ロード・ユーティリティーのみです。ロード・ユーティリティーは db2Load API、LOAD CLP コマンド、または SYSPROC.ADMIN\_CMD ストアード・プロ

シージャーを介して実行されます。

**ユーザーの処置:** db2atld 実行可能プログラムを使用しないでください。

---

**SQL27986W** エクスポート中に、PC/IXF ファイルで列名が切り捨てられました。このファイルを **Method N** を使用したインポートで使用することはサポートされません。

**説明:** エクスポート時にデータへの影響はありませんでしたが、このファイルを Method N でのインポートに使用することはできません。一部の列情報が欠落することになるためです。

**ユーザーの処置:** インポートに Method N を使用しない場合、アクションは必要ありません。Method N を使用する場合は、明示的に短い列名を指定して、Method N を使用して再びエクスポートをしてください。PC/IXF ファイルに短い列名が入っても、これによって既存の表へのデータのインポートに影響することはありません。代わりに、オリジナル表の列をより短い名前に変更して、再びデータをエクスポートすることもできます。

**sqlcode:** +27986

**sqlstate:** 5U036

---

**SQL27987N** この PC/IXF ファイルを **Method N** を使用したインポートで使用することはサポートされていません。

**説明:** エクスポート時にデータへの影響はありませんでしたが、このファイルを Method N を使用したインポートに使用することはできません。一部の列情報が欠落することになるためです。

**ユーザーの処置:** N 以外の別の Method を使用してインポートしてください。別の方法としては、明示的に短い列名を指定して、Method N を使用して再びエクスポートしてください。PC/IXF ファイルに短い列名が入っても、これによって既存の表へのデータのインポートに影響することはありません。代わりに、オリジナル表の列をより短い名前に変更して、再びデータをエクスポートすることもできます。

**sqlcode:** -27987

**sqlstate:** 5U015

---

**SQL27990W** ロード中、少なくとも 1 行が誤ったパーティションにあることが検出されました。

**説明:** LOAD\_ONLY\_VERIFY\_PART モードでロード・ユーティリティーを使ってパーティション・データベースをロードしているときに、誤ったパーティションにあることが検出された入力ファイルの行はすべて破棄され

ます。"dumpfile" 修飾子が指定されている場合は、破棄された行はダンプ・ファイルに保管されます。このメッセージは、複数のパーティション違反がある場合でも、1つのロード・ジョブの1つのパーティションに対して1回しか表示されません。

**ユーザーの処置:** 廃棄された行がダンプ・ファイルに保管された場合は、単に MODE オプションを PARTITION\_AND\_LOAD に設定して別のロード・コマンドを発行することにより、その行を正しいパーティションにロードすることができます

---

#### SQL27991W ロード・コマンドに指定されたパーティション・エージェントの数が多すぎます。

**説明:** ロード・コマンドの PARTITIONING\_DBPARTNUMS パーティション・データベース構成オプションに指定されたパーティション・エージェントの数が多すぎます。MAX\_NUM\_PART\_AGENTS ロード・オプションにより最大数のパーティション・エージェントが指定されています。この数が指定されていない場合は、デフォルトで 25 になります。

**ユーザーの処置:** 正しい数のパーティション・エージェントを指定してコマンドを再サブミットしてください。または、PARTITIONING\_DBPARTNUMS オプションを省略すると、ロード・ユーティリティが自動的にパーティション・エージェントの適切な数を選択します。

---

#### SQL27992N データ・ファイルには有効なパーティション・マップが入っていますが、ロード・モードが LOAD\_ONLY ではありません。

**説明:** ロードは、ファイルの先頭に有効なパーティション・マップを検出しました。指定されたロード・モードによって、ユーティリティはこれをユーザー・データとして扱うため、その結果予期しない結果となる可能性があります。

**ユーザーの処置:** ファイル内のデータがすでにパーティション化されているために、データ・ファイルがパーティション・マップ・ヘッダーで開始されている場合は、LOAD\_ONLY モードでファイルをロードしてください。この場合は、OUTPUT\_DBPARTNUMS オプションを使ってデータのロード先である単一パーティションを指定することも必要です。

ロードによってファイルの先頭に検出されたパーティション・マップが実際にユーザー・データである場合は、IGNOREHEADER 修飾子を使用してパーティション・マップの検出を使用不可にし、そのデータ・ファイル全体をロードしてください。

---

#### SQL27993W ロード・ユーティリティの STATISTICS USE PROFILE オプションが指定されましたが、統計プロファイルが存在しません。

**説明:** カタログ表 SYSIBM.SYSTABLES の中に統計プロファイルが存在しません。ロードを実行するには、その前に統計プロファイルを作成する必要があります。

ロード・ユーティリティの処理が続行されます。

**ユーザーの処置:** 統計プロファイルを作成するには、RUNSTATS ユーティリティの SET PROFILE または PROFILE ONLY オプションを使用します。このユーティリティのオプションについては、RUNSTATS のドキュメンテーションを参照してください。

---

#### SQL27994W 特殊レジスターのデフォルトの列はターゲット列よりも短いです。ロードによってこの列 (column-num) に対応する列が切り捨てられる場合があります。

**説明:** 列 *column-num* に節 SESSION\_USER、CURRENT\_USER、SYSTEM\_USER、または CURRENT\_SCHEMA が指定されましたが、この列は 128 バイト未満の長さで定義されたか (SESSION\_USER のみ)、またはコード・ページの変換の後この列に挿入された列の値がターゲットの長さを超過している可能性があります。ロードを行うと列の値が切り捨てられる場合があります。

**ユーザーの処置:** システム標準によって、列の長さを超える ID (SESSION\_USER) が許可されていない場合、この警告を無視できます。この警告が出されないようにするには、列の長さを少なくとも 128 バイトにしなければなりません。コード・ページの変換によってこのレジスターのデフォルトの列が大きくなった場合、列を長くしてその肥大化に対応してください。

---

#### SQL27999N リモート・ターゲット (ニックネーム) への要求された IMPORT 操作を実行できません。理由コード = reason-code。

**説明:** 要求された IMPORT 操作のターゲットはリモート・データベースに存在し、ニックネームによってローカルで参照されます。IMPORT コマンドに指定されたオプションは、操作を可能にするために必要な制約を満たしません。操作は拒否されます。

理由コードに対応する説明は、以下のとおりです。

1

ニックネーム上の操作を管理するフェデレーテッド・ラッパーは非リレーショナルです。リレーショナル・ラッパーによって管理されるニック

- クネームのみサポートされます。 ODBC ラッパーもサポートされません。
- 2 DATALINK SPECIFICATION 節が指定されましたが、サポートされていません。
- 3 サポートされない次のファイル・タイプ修飾子のいずれかが指定されました: indexif または indexschema。
- 4 dldelfiletype 修飾子 (非サポート) が指定されました。
- 5 サポートされない次のファイル・タイプ修飾子のいずれかが指定されました: nodefaults または usedefaults。
- 6 no\_type\_idfiletype 修飾子 (非サポート) が指定されました。
- 7 サポートされない次のファイル・タイプ修飾子のいずれかが指定されました:  
generatedignore、generatedmissing、  
identityignore、identitymissing、  
periodignore、periodmissing、  
transactoidignore、または transactionidmissing。
- 8 COMMITCOUNT 節が指定されなかったか、COMMITCOUNT 節の値に AUTOMATIC が指定されました。COMMITCOUNT 節を使用する場合は、ゼロ以外の数値を指定する必要があります。
- 9 ALLOW WRITE ACCESS 節 (必須) が指定されませんでした。
- 10 サポートされないファイル・タイプが指定されました。サポートされるファイル・タイプは IXF、ASC、または DEL のみです。
- 11 サポートされないインポート・アクションが指定されました。サポートされるアクションは INSERT INTO または INSERT\_UPDATE INTO のみです。
- 12 ターゲット表にサポートされない次の列タイプが含まれます: LOB 列、XML 列、生成列、データ・リンク列。またはターゲット表が階層表 (型付き表) になっています。
- 13 サポートされない lobsinfile ファイル・タイプ修飾子が指定されました。
- 14 リモート・ターゲットが表でないか、十分な特権がないためにユーティリティーがニックネームにアクセスできません。インポート操作は、ニックネームが表に対して定義されていて、かつ PASSTHRU 特権がユーザーに付与されている場合にのみ可能です。
- 15 必要なストアード・プロシージャがターゲット・データベースに存在しません。ターゲット・データベースに対して db2updv8 ユーティリティー・プログラムを実行してストアード・プロシージャを作成します。
- ユーザーの処置:** 指定されたオプションを訂正して、IMPORT コマンドを再試行してください。

---

## 第 25 章 SQL29000 - SQL29499

---

**SQL29000N** DYN\_QUERY\_MGMT に指定されている値が無効です。DB2 Query Patroller はこのサーバーにインストールされていません。

**説明:** データベース構成パラメーター DYN\_QUERY\_MGMT を ENABLE に更新しようとしたが、DB2 Query Patroller がインストールされていないため、更新に失敗しました。

**ユーザーの処置:** DB2 Query Patroller サーバーをインストールしてください。

---

**SQL29001N** このデータベース・クライアント・レベルには、実行している DB2 Query Patroller サーバーのレベルとの互換性はありません。

**説明:** クライアント・コードとサーバー・コードに互換性はありません。

---

**SQL29002N** DB2 Query Patroller はこのサーバーにインストールされていません。

**説明:** DB2 Query Patroller サーバー表がサーバーに存在しません。

**ユーザーの処置:** DB2 Query Patroller サーバーをインストールしてください。

---

**SQL29003N** DB2 Query Patroller は Java クラス *class-name* をロードできませんでした。理由コード: *reason-code*

**説明:** Java クラス *class-name* のロードを試みているときにエラーが起きました。理由コードには、以下のものがあります。

1 クラスが CLASSPATH で見つからない。

**ユーザーの処置:** *class-name* が CLASSPATH にインストールされていることを確認してください。

---

**SQL29004N** DB2 Query Patroller クラス *class-name* は、シグニチャー *signature* の方式 *method-name* を呼び出すことができません。

**説明:** Java 方式 *method-name* が見つかりません。

**ユーザーの処置:** 正しいバージョンの DB2 Query

Patroller クライアントがインストールされていることを確認してください。

---

**SQL29005N** ユーザー *user-ID* には、有効な Query Patroller サブミッター・プロファイルがありません。

**説明:** ユーザー *user-ID* には、Query Patroller の有効なサブミッター・プロファイルがありません。以下の理由のいずれかにより、発生している可能性があります。

1. ユーザーにサブミッター・プロファイルがない可能性があります。
2. ユーザーに所属するユーザーまたはグループ、あるいはその両方のサブミッター・プロファイルが一時停止している可能性がある。

**ユーザーの処置:** データベース管理者に、サブミッター・プロファイルを作成するか、またはサブミッター・プロファイルを再アクティブ化するよう要求してください。

---

**SQL29006N** Java 例外 *exception-string* が検出されました。

**説明:** Java 例外 *exception-string* が起きました。

**ユーザーの処置:** 問題が続く場合、技術サービス担当者に連絡してください。

---

**SQL29007N** クエリー・コントローラーと通信できません。

**説明:** クエリー・コントローラーが実行中でないか、または通信がタイムアウトになっています。

**ユーザーの処置:** データベース管理者に、クエリー・コントローラーを開始するよう要求してください。

---

**SQL29008N** ジョブ・シーケンス番号の生成でエラーが発生しました。

**説明:** ジョブ・シーケンス番号の生成中にエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:** 問題が続く場合、技術サービス担当者に連絡してください。

---

**SQL29009N** 照会が拒否されました。理由コード *reason-code*

**説明:** 照会が拒否されました。理由コードは以下のとおりです。

1. DB2 ではこの照会の結果セットを生成できません。または、照会にホスト変数、パラメーター・マーカ、特殊レジスター、作成済み一時表、宣言済み一時表、セッション変数、IDENTITY\_VAL\_LOCAL 関数、NEXT VALUE 式、または PREVIOUS VALUE 式が含まれています。照会が実際に実行される時に、状態が無効である可能性があるため、照会の保留またはバックグラウンドでの実行ができません。
2. 照会は DB2 表を更新しますが、照会が実際に実行される時に状態がもう有効ではない可能性があるため、照会の保留またはバックグラウンドでの実行ができません。
3. 照会にはネストしたルーチンが含まれるため、照会は待機されません。
4. 照会にはネストしたルーチンが含まれるため、保留またはバックグラウンドでの実行ができません。
5. DB2 によって、この照会を待機することはできません。照会に配列の挿入が含まれる場合、これが発生する可能性があります。
6. DB2 では、コンセントレーターがオンのときに照会をキューに入れることはできません。
7. DB2 では、照会で REOPT ALWAYS オプションが有効になっている場合に照会をキューに入れることはできません。

**ユーザーの処置:** データベース管理者に連絡して理由コードを検査し、該当するコストしきい値を必要に応じて増やしてください。

---

#### SQL29010N 照会サブミットが取り消されました。

**説明:** ユーザーが照会サブミットを取り消しました。サブミットされた照会はありません。

---

#### SQL29011I 照会 *query-ID* はバックグラウンドで実行されます。

**説明:** ユーザーは、照会をバックグラウンドで実行する選択をしました。

---

#### SQL29012N 照会 *query-ID* が打ち切られました。

**説明:** 照会 *query-ID* が打ち切られました。

**説明:** クエリー・パトローラー・センターを起動するか、または qp コマンドを発行して照会が打ち切られた理由を判別してください。

---

#### SQL29013I 照会 *query-ID* は保留されています。

**説明:** 照会は Query Patroller によって保留状態になっています。

**ユーザーの処置:** データベース管理者に連絡し、照会を開放してください。

---

#### SQL29014N DB2 レジストリー変数 *registry-variable* に指定されている値は無効です。

**説明:** *registry-variable* による以下の制限のため、*registry-variable* に指定されている値は無効です。

##### DQP\_NTIER

値は OFF、RUN[:timeout]、または CHECK[:timeout] のいずれかでなければなりません。

##### DQP\_LAST\_RESULT\_DEST

32 文字を超える長さは許可されていません。

##### DQP\_TRACEFILE

256 文字を超える長さは許可されていません。

**ユーザーの処置:** db2set コマンドで DB2 レジストリー変数 *registry-variable* の値を訂正し、照会を再サブミットしてください。

---

#### SQL29015N ジョブを取り消しているときにエラーが検出されました。理由コード = *reason-code*。

**説明:** ジョブのキャンセルを試みているときに、エラーが検出されました。理由コードは SQL または DB2 メッセージをマップしています。

**ユーザーの処置:** 理由コードを調べ、エラーを訂正し、操作を再試行してください。

---

#### SQL29016N クライアント上のデータ・ソースは、DB2 Query Patroller サーバー上のデータ・ソースに一致していません。

**説明:** クライアントが接続されているデータ・ソースは、DB2 Query Patroller サーバーによって使用されているデータ・ソースに一致していません。

**ユーザーの処置:** DB2 Query Patroller サーバー上の DB2DBDFT プロファイル変数が、クライアント・データ・ソース名に一致していることを確認してください。

---

#### SQL29017N 照会 *query-id* が取り消されました。

**説明:** ユーザーが照会を取り消しました。

---

**SQL29018N DB2 Query Patroller クライアントがインストールされていません。**

**説明:** ユーザーは、データベース構成パラメーター DYN\_QUERY\_MGMT を使用可能にしたデータベースを照会しています。しかし、DB2 Query Patroller のクライアント・コードがクライアント・マシンにインストールされていません。

**ユーザーの処置:** DB2 Query Patroller QueryEnabler コンポーネントをインストールしてください。

---

**SQL29019N ジョブは、DB2 Query Patroller サーバーにスケジュールされています。**

**説明:** ジョブは、DB2 Query Patroller サーバーにスケジュールされています。

**ユーザーの処置:** ありません。

---

**SQL29020N 内部エラーが発生しました。エラー = *error*。**

**説明:** 内部処理中にエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:** IBM サポートに連絡して、db2diag ログ・ファイルおよび qpdiag.log ファイルを提供してください。

---

**SQL29021N ユーザー *user-ID* は一時停止されています。**

**説明:** ユーザー *user-ID* は、データベースへの照会のサブミットを一時停止しています。

**ユーザーの処置:** データベース管理者に連絡し、サブミッター・プロファイルを再アクティブ化してください。



## 第 26 章 SQL30000 - SQL30499

**SQL30000N** 後続のコマンドまたは SQL ステートメントの正常な実行に影響を与えない分散プロトコル・エラーのために実行が失敗しました: 理由コード *reason-code(subcode)* (*text*).

**説明:** 現在の環境コマンドまたは SQL ステートメントの正常な実行を妨げるシステム・エラーが発生しました。このメッセージ (SQLCODE) は、ステートメントのコンパイル時、または実行時に出されます。

コマンドまたはステートメントは処理できません。現在のトランザクションはロールバックされず、アプリケーションはリモート・データベースに接続されたままです。

**ユーザーの処置:** メッセージ番号と理由コードを記録してください。可能であれば、SQLCA からすべてのエラー情報を記録してください。アプリケーションを再実行してください。

十分なメモリー・リソースがあってもこの問題が続く場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトで、独立トレース機能呼び出ししてください。

必要な情報は以下のとおりです。

- 問題の説明
- SQLCODE と理由コード
- SQLCA の内容 (ある場合)
- トレース・ファイル (可能であれば)

**sqlcode:** -30000

**sqlstate:** 58008

**SQL30002N** 一連のステートメントの前の条件により、SQL ステートメントを実行できません。

**説明:** SQL ステートメントは PREPARE にチェーンされていましたが、PREPARE ステートメントが、プログラムまたはエンド・ユーザーがチェーン・ステートメントを再発行する必要がある、または異なる SQL 要求を発行する必要がある警告 SQLCODE を受け取りました。このエラーは、クライアント/サーバー環境でのみ発生します。

- DRDA を使用している分散クライアントが OPEN ステートメントを PREPARE に連結しましたが、PREPARE ステートメントが SQLCODE +1140 を受け取りました。

ステートメントはチェーンして実行されません。

**ユーザーの処置:** ステートメントを別の要求としてもう一度送信する必要があります。

**sqlcode:** -30002

**sqlstate:** 57057

**SQL30005N** サーバーでサポートされていない機能のため、実行できませんでした: ロケーション *location* 製品 ID *pppvrrm* 理由コード *reason-code(subcode)*。

**説明:** SQL ステートメントが要求機能をサポートしていないサーバーにルーティングされているため、現行の SQL ステートメントを実行できませんでした。このエラーが、この先の SQL ステートメントの実行完了を妨げることはありません。

ステートメントは実行できません。SQLCA はフォーマット済みです。

**ユーザーの処置:** この SQL コードをプロンプトする SQL ステートメントを分析する際は支援用の DBA に通知してください。

*location* は、要求機能の実行に必要なデータベース・プロトコルをサポートできなかったサーバーの名前を示します。製品 ID の形式は <pppvrrm> です。英数字で 8 バイトのフィールドで、機能をサポートできなかった製品を示します。*ppp* は特定のデータベース製品を示します。*vv* は、製品のバージョンを示します。*rr* は、製品のリリースを示します。*m* は、製品の修正レベルを示します。

*pppvrrm* として可能性のある値は、以下のとおりです。

|            |                                                                                              |
|------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>ppp</b> | zOS の場合は DSN、VM/VSE の場合は ARI、Linux/Unix/Windows の場合は SQL、System i の場合は QSQ、Java の場合は JCC です。 |
| <b>vv</b>  | バージョン番号                                                                                      |
| <b>rr</b>  | リリース・レベル                                                                                     |
| <b>m</b>   | 修正レベル                                                                                        |

サポート外の機能を確認し、問題を訂正してください。サポート外の機能とその理由については、指定された *reason-code* を参照してください。*reason-code* として可能な値と、各コードが対応する機能は以下のとおりです。

## SQL30020N

|      |                      |
|------|----------------------|
| 0010 | LONG_STMTS           |
| 0020 | LONG255_IDS          |
| 0030 | EXTENDED_DESCRIBE    |
| 0040 | EXTENDED_DIAGNOSTICS |
| 0050 | KEEP_DYNAMIC         |
| 0060 | MULTI_ROW_FETCH      |
| 0070 | MULTI_ROW_INSERT     |
| 0080 | SQL_CANCEL           |
| 0090 | SCROLLABLE_CURSORS   |
| 0100 | CURSOR_ATTRIBUTES    |
| 0110 | MONITORING           |
| 0120 | SELECT_WITH_INSERT   |
| 0130 | DATA_ENCRYPTION      |
| 0140 | PACKAGE_PATH         |
| 0150 | 2PC_INCOMPATIBILITY  |

最後に、*subcode* 値を使用してさらに問題を調べることもできます。非ゼロの場合、*subcode* は 1 バイト・コードで作られ、ネットワークにおけるエラーの検出方法を示します。

- '01x' の場合は、リクエスターとして作用するローカル DB2 がエラーを検出します。ロケーションと PRDID はエラーのあるサーバーを示します。
- '02x' の場合は、サーバーがエラーを検出します。ロケーションと PRDID はローカル DB2 サーバーのロケーションとレベルを示します。
- '03x' の場合は、中間サーバー (ホップ・サイト) がエラーを検出し、エラーの発生したサーバーがそのエラー、そのロケーション、および PRDID によって特定されます。
- '04x' の場合は、中間サーバー (ホップ・サイト) がエラーを検出し、エラーの発生したサーバーがそのエラー、そのロケーション、および PRDID によって特定されます。
- '05x' の場合は、中間サーバー (ホップ・サイト) がエラーを検出しました。SYNCLLOG マッピング・エラー。エンド・サーバーの IPv6 アドレスを IPv4 アドレスにマップできません。

sqlcode: -30005

sqlstate: 56072

---

**SQL30020N** 後続のコマンドおよび SQL ステートメントの正常な実行に影響を与える通信データ・ストリームの構文エラーのために、コマンドまたは SQL ステートメントの実行が失敗しました: 理由コード *reason-code(subcode)*。

**説明:** コマンドまたはステートメントは処理できません。現在のトランザクションはロールバックされ、アプリケーションはリモート・データベースから切断されません。

いくつかの考えられる理由コードは以下のとおりです。

### 121C

ユーザーが、要求したコマンドを実行する権限を持っていないことを示しています。

### 124C

この要求の DRDA データ・ストリームには構文エラーがあります。

### 1232

永続エラーのために、コマンドが完了できませんでした。ほとんどの場合、サーバーは異常終了の処理に入ります。

### 1254

クライアントから送信されたコマンドにより、クライアントに戻す、設計済みメッセージのないリモート・サーバーで、非設計済みの、インプリメンテーション特有の条件が作成されました。

リモート・サーバーが DB2 UDB for OS/390、z/OS の場合は、コンソール・ログにこのエラーの情報がないか確認してください。

リモート・サーバーが DB2 UDB for System i の場合は、通常、エラーを判別するためには、サーバー・ジョブのジョブ・ログまたは FFDC (First Failure Data Capture) スプール・ファイル、あるいはその両方が必要です。

リモート・サーバーが DB2 Database for Linux, UNIX, and Windows の場合は、リモート・データベース・サーバーの管理通知ログにこのエラーに関する情報がないか確認してください。

### 220A

ターゲット・サーバーが、無効なデータ記述を受け取りました。ユーザー SQLDA を指定した場合は、フィールドが正しく初期化されていることを確認してください。また、その長さ

が、使用するデータ・タイプの最大許容長を超えていないことを確認してください。

下位レベル・クライアントを持つゲートウェイ・サーバー環境で DB2 Connect 製品を使用している場合、アプリケーションのホスト変数および照会した表の列の記述が一致しないときに、このエラーが発生する可能性があります。

#### ユーザーの処置:

- 理由コード 121C の場合、DBA に連絡して、要求されたコマンドを実行する権限があるかどうかを確認してください。
- 理由コード 220A の場合、SQLDA を直接プログラムするには、フィールドが正しく初期化されており、その長さが、使用するデータ・タイプの最大許容長を超えていないことを確認してください。DB2 Connect を「説明」に書かれているとおりに使用している場合、アプリケーション・ホスト変数と表の列の記述が一致しているかどうか確認してください。
- 理由コード 124C の場合、ストアード・プロシージャの実行が共通して問題となっています。これに当てはまる場合は、ストアード・プロシージャのパラメーターが正しく定義されているかどうか (タイプと長さが、対応する表の列のタイプと一致しているかどうか) を確認してください。

問題を解決できない場合は (または、このメッセージに記載されていない理由コードを受け取った場合は)、DBA に連絡して以下の作業手順を確認してください。

- <http://www.ibm.com/software/data/support/> を検索して、直面している状況を扱った APAR がいないか確認する。
- リモート・データベースに接続して、アプリケーションを再実行する。以下の情報を記録して、IBM サポートに連絡します。
  - DB2 for z/OS Data Server の場合は、独立トレース機能呼び出し、このシナリオを再試行してトレース情報を収集します。z/OS トレース、z/OS コンソール・ログ、DB2 Connect Server からの db2support 出力、およびこのアプリケーションがある IBM データ・サーバー・クライアントからの db2support 出力 (DB2 Connect Server と共存していない場合) を提出します。
  - DB2 for System i Data Server の場合は、障害の発生した DRDA サーバー・ジョブによって生成されたすべての FFDC データ、DB2 Connect Server からの db2support 出力、およびこのアプリケーションがある IBM データ・サーバー・クライアントからの db2support 出力 (DB2 Connect Server と共存していない場合) を収集します。

- 問題の説明
- SQLCODE と理由コード
- SQLCA の内容 (可能な場合)
- IBM データ・サーバー・クライアントおよび DB2 Connect Server トレース・ファイル (可能な場合)。

sqlcode: -30020

sqlstate: 58009

---

**SQL30021N** 後続のコマンドおよび SQL ステートメントの正常な実行に影響を与える分散プロトコル・エラーのために実行が失敗しました。レベル *level* のマネージャー *manager* はサポートされていません。

**説明:** アプリケーションのリモート・データベースへの正常な接続を妨げるシステム・エラーが発生しました。このメッセージ (SQLCODE) は、SQL CONNECT ステートメントに対して発生します。 *manager* と *level* は、クライアントとサーバー間の非互換性を識別するための数値です。

コマンドは処理されません。

**ユーザーの処置:** メッセージ番号、 *manager*、 *level* の値を記録してください。可能であれば、SQLCA からすべてのエラー情報を記録してください。もう一度、リモート・データベースへの接続を試みてください。

問題が続く場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトで、独立トレース機能呼び出ししてください。その後で、サービス担当者に以下の情報を渡してください。

- 問題の説明
- SQLCODE と理由コード
- SQLCA の内容 (ある場合)
- トレース・ファイル (可能であれば)

sqlcode: -30021

sqlstate: 58010

---

**SQL30040N** リソースが使用できないために、実行が失敗しました。後続のコマンドまたは SQL ステートメントの正常な実行には影響ありません。理由 *reason*、リソース・タイプ *resource-type*、リソース名 *resource-name*、製品 ID *product-ID*。

**説明:** 示されたリソースが足りないため、アプリケーションがコマンドまたは SQL ステートメントを実行できません。現在のトランザクションはロールバックされ

## SQL30041N

ず、アプリケーションはリモート・データベースに接続されたままです。

コマンドは処理されません。

**ユーザーの処置:** 示されたリソースのサイズを増やして、コマンドを再サブミットしてください。

**sqlcode:** -30040

**sqlstate:** 57012

---

**SQL30041N** リソースが使用できないために、実行が失敗しました。後続のコマンドまたは SQL ステートメントの正常な実行に影響があります。理由 *reason*、リソース・タイプ *resource-type*、リソース名 *resource-name*、製品 ID *product-ID*。

**説明:** リモート・データベースでリソースが使用できないために、アプリケーションがコマンドまたは SQL ステートメントを処理できません。SQLCODE はステートメントのコンパイルまたは実行時に出力されます。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合: この状態はデータ・ソースによっても検出できます。

*resource-name* が「暗号化」または「暗号解読」の場合には、パスワードの暗号化または暗号解読のユーザー出口が使用できないか、またはエラーを含んでいます。

コマンドまたはステートメントは処理できません。

**ユーザーの処置:** リモート・データベースのシステム環境を調べてください。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合:

- パスワードの暗号化または暗号解読のユーザー出口が失敗した場合、*reason* はユーザー出口が呼び出されたときにフェデレーテッド・サーバーが受け取った整数値です。暗号化および暗号解読がフェデレーテッド・サーバーによってリンク・エディットされたときにエラーが発生していないかどうかを確認してください。

ユーザーが提供したユーザー出口を使用している場合には、ユーザー出口のソース・コードを調べて *reason* の返された原因を判別してください。ユーザー出口のソース・コードでエラーが見つかった場合、そのエラーを修正してフェデレーテッド・サーバーでオブジェクト・コードをリンク・エディットし、失敗したコマンドまたはステートメントを再発行してください。

- その他の場合には、問題を分離して要求失敗の原因となったデータ・ソースを突き止め、データ・ソースの問題を訂正し、失敗したコマンドまたはステートメントを再発行してください。

**sqlcode:** -30041

**sqlstate:** 57013

---

**SQL30050N** バインドの進行中の *number* コマンドまたは SQL ステートメントは無効です。

**説明:** アプリケーションが、進行中のプリコンパイル/バインド時には無効なコマンドまたは SQL ステートメントを発行しようとしています。<number> は、エラーのあるコマンドまたは SQL ステートメントを識別する数値です。

コマンドまたはステートメントは処理できません。

**ユーザーの処置:** アプリケーションがデータベース・マネージャーのプリコンパイラー/バインド・プログラムでない場合は、コマンドおよび SQL ステートメントを発行する前に、バインドがアクティブでないことを確認してください。

アプリケーションがデータベース・マネージャーのプリコンパイラー/バインド・プログラムの場合、メッセージ番号 (SQLCODE) と <number> の値を記録しておいてください。可能であれば、SQLCA からすべてのエラー情報を記録してください。もう一度バインド操作を行ってください。

十分なメモリー・リソースがあってもこの問題が続く場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトで、独立トレース機能呼び出してください。

技術サービス担当者に以下の情報を報告してください。

必要な情報は以下のとおりです。

- 問題の説明
- SQLCODE と理由コード
- SQLCA の内容 (ある場合)
- トレース・ファイル (可能であれば)

**sqlcode:** -30050

**sqlstate:** 58011

---

**SQL30051N** 指定したパッケージ名と整合性トークンを持つバインド処理がアクティブではありません。

**説明:** プリコンパイル/バインドがアクティブでない場合に、プリコンパイル/バインド操作を発行しようとしたか、またはアクティブなプリコンパイル/バインド操作中に、無効なパッケージ名と整合性トークンのいずれか、またはその両方の使用が試みられました。

コマンドまたはステートメントは処理できません。

**ユーザーの処置:** アプリケーションがデータベース・マネージャーのプリコンパイラー/バインド・プログラムでない場合、プリコンパイル/バインドがバインド操作の前

にアクティブになっており、正しい情報がバインド操作に渡されていることを確認してください。

アプリケーションがデータベース・マネージャーのプリコンパイラ/バインド・プログラムの場合は、メッセージ番号 (SQLCODE) と、可能であれば、SQLCA からのすべてのエラー情報を記録してください。もう一度やり直してください。

十分なメモリー・リソースがあってもこの問題が続く場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトで、独立トレース機能を呼び出してください。

技術サービス担当者に以下の情報を報告してください。

必要な情報は以下のとおりです。

- 問題の説明
- SQLCODE と理由コード
- SQLCA の内容 (ある場合)
- トレース・ファイル (可能であれば)

sqlcode: -30051

sqlstate: 58012

#### SQL30052N プログラム準備の前提事項に誤りがあります。

**説明:** コンパイルされている SQL ステートメントが、プリコンパイラによって認識されないために、データベースによって処理されません。

ステートメントは処理できません。

**ユーザーの処置:** ステートメントが正しいことを確認して、もう一度やり直してください。問題が続く場合は、プログラムからそのステートメントを取り除いてください。

sqlcode: -30052

sqlstate: 42932

#### SQL30053N OWNER の値が、リモート・データベースでの許可チェックに合格しませんでした。

**説明:** プリコンパイル/バインドの OWNER オプションに指定した値が、リモート・データベースでの許可チェックで拒否されました。この SQLCODE はプリコンパイル/バインド中に出されます。これは、データベース・マネージャーのプリコンパイラ/バインド・プログラムからは出されません。

プリコンパイル/バインド操作は処理されません。

**ユーザーの処置:** OWNER オプションに指定した ID を使用する権限を持っていることを確認するか、また

は OWNER オプションを使用しないでください。

sqlcode: -30053

sqlstate: 42506

#### SQL30060N authorization-ID は、操作 operation を実行する特権を持っていません。

**説明:** 許可 ID <authorization-ID> が適切な許可を付与せずに、示されている <operation> を実行しようとしてしました。SQLCODE はステートメントのコンパイルまたは実行時に出されます。

ステートメントは処理できません。

**ユーザーの処置:** <authorization-ID> が、必須の処理の実行に必要な許可を付与されていることを確認してください。

sqlcode: -30060

sqlstate: 08004

#### SQL30061N データベース別名またはデータベース名 name が、リモート・ノードで見つかりません。

**説明:** データベース名は、リモート・データベース・ノードでの既存のデータベースではありません。

ステートメントは処理できません。

**ユーザーの処置:** 正しいデータベース名または別名でコマンドを再サブミットしてください。

フェデレーテッド・システム・ユーザーの場合:

SYSCAT.SERVERS の項目が、データ・ソースのデータベース名を正しく指定しているかどうかチェックしてください。

sqlcode: -30061

sqlstate: 08004

#### SQL30070N command-identifier コマンドはサポートされていません。

**説明:** リモート・データベースが、認識できないコマンドを受け取りました。現在の環境コマンドまたは SQL ステートメントは正常に処理されず、後続のコマンドまたは SQL ステートメントも正常に処理されません。

現在のトランザクションはロールバックされ、アプリケーションはリモート・データベースから切断されます。ステートメントは処理できません。

**ユーザーの処置:** メッセージ番号 (SQLCODE) とコマンド ID を記録してください。可能であれば、SQLCA からすべてのエラー情報を記録してください。リモー

## SQL30071N

ト・データベースに接続して、アプリケーションを再実行してください。

十分なメモリー・リソースがあってもこの問題が続く場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトで、独立トレース機能を呼び出してください。

技術サービス担当者に以下の情報を報告してください。

必要な情報は以下のとおりです。

- 問題の説明
- SQLCODE とコマンド ID
- SQLCA の内容 (ある場合)
- トレース・ファイル (可能であれば)

sqlcode: -30070

sqlstate: 58014

---

## SQL30071N *object-identifier* オブジェクトはサポートされていません。

**説明:** リモート・データベースが、認識できないデータを受け取りました。現在の環境コマンドまたは SQL ステートメントは正常に処理されず、後続のコマンドまたは SQL ステートメントも正常に処理されません。

現在のトランザクションはロールバックされ、アプリケーションはリモート・データベースから切断されます。コマンドは処理されません。

**ユーザーの処置:** メッセージ番号 (SQLCODE) とオブジェクト ID を記録してください。可能であれば、SQLCA からすべてのエラー情報を記録してください。リモート・データベースに接続して、アプリケーションを再実行してください。

メモリー・リソースが十分にあってもこの問題が発生する場合には、以下の情報が必要になります。

トレースがアクティブな場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトから、独立トレース機能を呼び出してください。

技術サービス担当者に以下の情報を報告してください。

必要な情報は以下のとおりです。

- 問題の説明
- SQLCODE とオブジェクト ID
- SQLCA の内容 (ある場合)
- トレース・ファイル (可能であれば)

sqlcode: -30071

sqlstate: 58015

---

## SQL30072N *parameter-identifier* パラメーターはサポートされていません。

**説明:** リモート・データベースが、認識できないデータを受け取りました。現在の環境コマンドまたは SQL ステートメントは正常に処理されず、後続のコマンドまたは SQL ステートメントも正常に処理されません。

コマンドは処理されません。現在のトランザクションはロールバックされ、アプリケーションはリモート・データベースから切断されます。

**ユーザーの処置:** メッセージ番号 (SQLCODE) とパラメーター ID を記録してください。可能であれば、SQLCA からすべてのエラー情報を記録してください。リモート・データベースに接続して、アプリケーションを再実行してください。

十分なメモリー・リソースがあってもこの問題が続く場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトで、独立トレース機能を呼び出してください。

技術サービス担当者に以下の情報を報告してください。

必要な情報は以下のとおりです。

- 問題の説明
- SQLCODE とパラメーター ID
- SQLCA の内容 (ある場合)
- トレース・ファイル (可能であれば)

sqlcode: -30072

sqlstate: 58016

---

## SQL30073N *parameter-identifier* パラメーターの値 *value* はサポートされていません。

**説明:** リモート・データベースが、認識できないデータを受け取りました。現在の環境コマンドまたは SQL ステートメントは正常に処理されず、後続のコマンドまたは SQL ステートメントも正常に処理されません。

現在のトランザクションはロールバックされ、アプリケーションはリモート・データベースから切断されます。コマンドは処理されません。

**ユーザーの処置:** メッセージ番号 (SQLCODE) とパラメーター ID を記録してください。可能であれば、SQLCA からすべてのエラー情報を記録してください。リモート・データベースに接続して、アプリケーションを再実行してください。

メモリー・リソースが十分にあってもこの問題が発生する場合には、以下の情報が必要になります。

トレースがアクティブな場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトから、独立トレース機能

を呼び出してください。技術サービス担当者に以下の情報を報告してください。

必要な情報は以下のとおりです。

- 問題の説明
- SQLCODE、パラメーター ID、および値
- SQLCA の内容 (ある場合)
- トレース・ファイル (可能であれば)

パラメーター ID の中には以下の入ったものがあります。

**002F** ターゲット・サーバーが、アプリケーション・リクエスターの要求するデータ・タイプをサポートしていません。たとえば、DB2 Connect が DB2 2.3 への接続に使用されている場合、適切な PTF が DB2 2.3 に適用されていないかぎり、このエラーが返されます。サーバーのレベルが、リクエスターによってサポートされていることを確認してください。

#### 119C, 119D, 119E

ターゲット・サーバーが、アプリケーション・リクエスターの要求する CCSID をサポートしていません。リクエスターの使用する CCSID が、サーバーによってサポートされていることを確認してください。

- 119C - 1 バイトの CCSID を検証します。
- 119D - 2 バイトの CCSID を検証します。
- 119E - 混合バイトの CCSID を検証します。

**sqlcode:** -30073

**sqlstate:** 58017

---

**SQL30074N** *reply-identifier* 応答はサポートされていません。

**説明:** クライアントが、認識できない応答を受け取りました。現在の環境コマンドまたは SQL ステートメントは正常に処理されず、後続のコマンドまたは SQL ステートメントも正常に処理されません。

現在のトランザクションはロールバックされ、アプリケーションはリモート・データベースから切断されます。ステートメントは処理できません。

**ユーザーの処置:** メッセージ番号 (SQLCODE) と応答 ID を記録してください。可能であれば、SQLCA からすべてのエラー情報を記録してください。リモート・データベースに接続して、アプリケーションを再実行してください。

十分なメモリー・リソースがあってもこの問題が続く場

合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトで、独立トレース機能呼び出してください。

技術サービス担当者に以下の情報を報告してください。

必要な情報は以下のとおりです。

- 問題の説明
- SQLCODE と応答 ID
- SQLCA の内容 (ある場合)
- トレース・ファイル (可能であれば)

**sqlcode:** -30074

**sqlstate:** 58018

---

**SQL30080N** リモート・データベースとのデータの送受信で、通信エラー *reason-code* が発生しました。

**説明:** *reason-code* には、コミュニケーション・マネージャーによって報告されたオリジナルのエラー・コードが入っています。

APPC エラー・コードの場合、形式は、*pppp-sssssss-dddddddd* で、*pppp* は 1 次戻りコード、*sssssss* は 2 次戻りコード、*dddddddd* はセンス・データです。これらのエラー・コードの値は、16 進数表記で行なわれます。1 次エラー・コードと 2 次エラー・コードには、データベース・サーバーとの対話が割り振られなかったことを示す、0003-00000004 および 0003-00000005 が入っています。センス・データは、APPC ALLOCATE エラーに対してのみ表示されます。

コマンドは処理されません。データベースへの接続が失敗するか、またはデータベースに接続されている現在のトランザクションがロールバックされ、アプリケーションがデータベースから切り離されます。

APPC 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの説明については、「*IBM Communications Manager 1.0 APPC Programming Guide and Reference (SC31-6160)*」を参照してください。APPC センス・データの詳細については、「*IBM Communications Manager 1.0 Problem Determination Guide (SC31-6156)*」を参照してください。

**ユーザーの処置:** データベース・マネージャーとコミュニケーション・マネージャーの両方が、データベース・サーバーで始動していること、およびすべてのコミュニケーション・マネージャー構成パラメーターが正しいことを確認してください。

**注:** メッセージに組み込まれた理由コードが 0003-084C0001 の場合、サーバーではないワークステーションにリモート接続しようとしたことが、このメッセージの原因の 1 つと考えられます。リモート・ワーク

## SQL30081N

ステーションがサーバーであることを確認してください。それがサーバーでない場合は、データベース・マネージャーをサーバーとしてインストールしてください。

sqlcode: -30080

sqlstate: 08001

---

**SQL30081N** 通信エラーが検出されました。使用された通信プロトコル: *protocol*。使用している通信 API: *interface*。エラーが検出されたロケーション: *location*。エラーを検出した通信関数: *function*。プロトコル固有エラー・コード: *rc1*、*rc2*、*rc3*。

**説明:** 通信サブシステムによって、エラーが検出されました。

以下は、トークン値の説明です。

*protocol*、*location*

エラーが見つかったノードを一意的に特定する通信プロトコルおよび情報。エラー発生時に *location* 情報を使用できない場合、*location* トークンは空のままです。有効なトークン値は以下のとおりです。

- *protocol* が TCP/IP の場合、*location* は IPv4 または IPv6 のアドレスです。
- *protocol* が APPC の場合、*location* は完全修飾 LU 名 (*networkID.LUname*) です。
- *protocol* が MQ の場合、*location* は MQ キュー名です。
- *protocol* が SOAP、SSL、SOCKS、HTTP の場合、*location* はドット表記による Internet アドレスです。

*interface*

上記のリスト項目のプロトコル・サービスを呼び出すために使用したアプリケーション・プログラミング・インターフェース。有効なトークン値は、SOCKETS、SOCKS、CPI-C、MQI-CLIENT、GSKit、HTTP です。

*function*

エラー・コードを戻した通信サブシステム関数の名前。

*protocol* が TCP/IP の場合:

- 理由コード *rc1*、*rc2*、*rc3* は、以下を表わします。
  - *rc1* が存在する場合、TCP/IP 関数によって戻される *errno* がこれに入ります。Windows では、これは WSA *errno* です。

- 存在する場合、*rc2* には、TCP/IP ネーム・レゾリューション関数により戻された *h\_errno* の値が入っています。Windows では、これは WSA エラー番号です。
- *rc3* が存在し、"0" が含まれている場合、リモート側は接続を終了します。エラーをクライアントで受信した場合は、リモート側がサーバーまたはゲートウェイである可能性があります。エラーをゲートウェイで受信した場合、リモート側がクライアントまたはサーバーである可能性があります。
- *protocol* = TCP/IP、*rc1*=\*、*rc2*=\*、および *rc3*=0 の場合、以下の原因が考えられます。
  - サーバーのデータベース・エージェントが、システム管理者によって強制的にオフにされました。
  - システムでメモリー制限に達したために、データベース・エージェントが、サーバーで始動できませんでした。
  - 接続は、TCP/IP レベルでリモート・サーバーによってクローズされたと考えられます。
  - 主要データベース・マネージャー処理の異常終了のために、サーバーのデータベース・エージェントが終了しました。
- Windows で、*protocol* = TCP/IP、*function* = WSStartup、および *rc1* = 0 の場合、*rc2* には DB2 が要求した Windows Sockets 仕様のバージョン・レベルが入っていて、*rc3* には、Windows Sockets DLL がサポートしている Windows Sockets 仕様のバージョン・レベルが入っています。原因: バージョン・レベルが一致していません。
- *protocol* = TCP/IP、*function* = connect、*rc1* = ECONNREFUSED/WSAECONNREFUSED、AIX (79)、Windows (10061)、linux (111)、SUN (146)、HP (239) の場合、接続は拒否されました。可能性のある理由は、以下のとおりです。
  - リモート・データベース・サーバーが、クライアントで正しくカタログされていない。クライアント・ゲートウェイ・サーバーのシナリオでは、ホスト項目がゲートウェイで正しくカタログされていることを確認してください。
  - サーバーのデータベース・マネージャー構成ファイルが、正しい通信パラメーターで適切に構成されていない。SVCENAME データベース・マネージャー構成パラメーターが TCP/IP サービス名またはポート番号を使って適切に構成されており、このポート番号が固有であることを確認してください。データベース・マネージャー構成パラメーターが、サーバーで更新された場合は、変更を反映するために、データベース・マネージャーの停止と再始動を行う必要があります。指定された TCP/IP サービス名また

はポート番号が、サーバーとクライアントとで一致していない可能性があります。サービス・ファイルを確認して、サービス名が正しいポート番号をマップされていることを確認してください。これを確認するには、サービス・ファイルを調べるか、コマンド "netstat -a" を実行して出力を検査することができます。

- リモート・データベース・サーバーのファイアウォールが作動したため、接続を確立できませんでした。クライアントからの接続要求を受け入れるよう、ファイアウォールが正しく構成されていることを確認してください。
- サーバーの DB2COMM 環境変数に、クライアントが使用する通信プロトコルが指定されていない。TCPIP が指定されているか確認します。db2set を発行して、既に設定されているプロトコルを確認してください。値を設定するにはコマンド "db2set DB2COMM = TCPIP" を実行します。
- サーバーのデータベース・マネージャーが始動していないか、または正常に始動していないか、またはダウンしている。サーバーから返されることになっていたのは SQL1063N であり、SQL5043N ではありません。コマンド "db2start" を発行する前に、コマンド "db2 update dbm cfg using diaglevel 4" を使ってデータベース・マネージャー構成パラメーター DIAGLEVEL を 4 に設定すると、どのプロトコルが正常に開始したかについての詳細情報を管理通知ログから入手できます。管理通知ログをチェックしてください。
- サーバーがあまりにビジーであるため、現時点では着信接続のボリュームを処理できない可能性があります。
- ネットワーク障害。この場合は、ネットワーク管理者に連絡してください。DB2 の問題ではないことを検証するために、プロトコル・テスター pctl を使用してテストできます。
- *protocol = TCP/IP, function = connect, rc1 = ETIMEDOUT/WSAETIMEDOUT, AIX (78), Windows (10060), linux (110), SUN (145), HP (238) の場合、接続が確立する前に、接続がタイムアウトになりました。可能性のある理由は、以下のとおりです。*

  - 間違ったホスト名または IP アドレスが、クライアントまたはゲートウェイ、あるいはこの両方のノード・ディレクトリーのホスト名フィールドにカタログされていた。
  - ネットワークの速度が遅い、またはサーバーがあまりにビジーであるために適切な時間内に接続要求に応答できない。ご使用のシステムの TCP 接続タイムアウト値または

DB2TCP\_CLIENT\_CONTIMEOUT 値、あるいはその両方の調整が必要である可能性があります。

- *protocol = TCP/IP, function = recv, rc1 = ECONNRESET/WSAECONNRESET, AIX (73), Windows (10054), linux (104), SUN (131), HP (232) の場合、接続はリモート側の「強制」または「打ち切り」クローズの実行によってリセットされました。可能性のある理由は、以下のとおりです。*
    - 接続は、TCP/IP レベル (例えば、ファイアウォールでの問題、電源障害、ネットワーク障害) でリモート・ゲートウェイまたはサーバーによってクローズされたと考えられる。
    - クライアント・サイドの接続プールが有効であり、接続障害を処理していない。失敗を受け取ったときにデータベース接続中で接続プールが有効であれば接続を再試行するように、アプリケーションをコーディングしてください。
    - ホスト・マシンのスレッド・タイムアウトが原因である可能性がある。ホストのシステム・ログに IDTHTOIN メッセージがあるか確認してください。該当する場合は、設定を調整してください。この設定を調整できなければ、ゲートウェイの接続プールを使用不可にするか、すべてのオブジェクト (アプリケーションが操作を完了したときの WITH HOLD カーソルなど) が適切にクローズされていることを確認してください。
    - サーバーのデータベース・エージェントが、データベース管理者によって強制的にオフにされました。
    - 主要データベース・マネージャー処理の異常終了のために、サーバーのデータベース・エージェントが終了しました。
- *protocol = TCP/IP, function = recv, rc1 = ETIMEDOUT/WSAETIMEDOUT, AIX (78), Windows (10060), linux (110), SUN (145), HP (238) の場合、リモート・システムが応答に失敗したため、接続がドロップされました。可能性のある理由は、以下のとおりです。*
    - アプリケーションが照会タイムアウト値を設定した、または明示的な取り消し要求があったため、CLI アプリケーションから SQLCancel() が呼び出されました。アプリケーションが設定した照会タイムアウト値を調整してください。この調整が不可能である場合は、db2cli.ini ファイルの QueryTimeoutInterval 設定を調整してください。db2cli.ini ファイルで QueryTimeoutInterval=0 (タイムアウトなし) を使用し、QueryTimeout がアプリケーション障害の原因であるかどうかをテストします。このシナリオの場合、既存の接続に障害があると思われます。

- ネットワークの速度が遅い、またはサーバーがあまりにビジーであるために適切な時間内に `recv` 要求に回答できない。ご使用のシステムの TCP `recv` タイムアウト値の調整が必要である可能性があります。
- `protocol = TCP/IP, function = selectForConnectTimeout, rc1 = EINPROGRESS/0, AIX (55), Windows (0), linux (115), SUN (150), HP (245)` の場合、接続要求は正常に完了する前にタイムアウトになりました。可能性のある理由は、以下のとおりです。
  - システム接続のタイムアウトまたは `DB2TCP_CLIENT_CONTIMEOUT` で設定されたタイムアウト値のいずれかが原因でタイムアウトになった。これらの値を調整してみてください。
- `protocol = TCP/IP, function = selectForRecvTimeout` であり、`rc1` が関係しない場合、`recv` 要求は正常に完了する前にタイムアウトになりました。可能性のある理由は、以下のとおりです。
  - システム `recv` タイムアウトまたは `DB2TCP_CLIENT_RCVTIMEOUT` で設定されたタイムアウト値のいずれかが原因でタイムアウトになった。これらの値を調整してみてください。

TCP/IP エラーと原因は上に挙げたものすべてではありません。特定の TCP/IP 通信エラー・コードの詳細については、DB2 インフォメーション・センターで「-30081 errors」などの語句を使って検索してください。

`protocol` が APPC の場合

- `rc1` には、CPI-C 関数からの戻りコードが入ります。
- `rc2` が存在する場合、CPI-C 関数呼び出しからのグローバル `errno` 値がこれに入ります。
- `rc3` は適用外です。

`protocol` が MQ の場合

- `rc1` には、関数の完了コードが入ります (警告なら 1、エラーなら 2)。
- `rc2` には、MQ 固有のエラー・コードが入ります。
- `rc3` は、MQ では使用されません。

`protocol` が SOAP の場合、`rc1` には、SOAP 通信関数からの戻りコードが入ります。

`protocol` が SSL の場合、`rc1` には、Secure Sockets Layer (GSKit) からの戻りコードが入ります。

`protocol` が SOCKS の場合

- `rc1` には、SOCKS プロキシ・サーバーからの戻りコードが入ります。

- `rc2` には、プロトコルのバージョン (4 または 5) が入ります。
- `rc3` には、使用済み (SOCKS v5) 認証方式が入ります。

`protocol` が HTTP の場合、`rc1` にはリモート HTTP サーバーからの HTTP 戻りコードが入ります。

**ユーザーの処置:** 戻された理由コードとトークン値の組み合わせによって明らかになった問題を訂正してください。

**sqlcode:** -30081

**sqlstate:** 08001, 5UA0G, 5UA0H

---

**SQL30082N セキュリティー処理は、理由 *reason-code* (*reason-string*) により失敗しました。**

**説明:** セキュリティー処理中にエラーが発生しました。セキュリティー・エラーの原因は、*reason-code* および対応する *reason-string* 値によって記述されています。

理由コードのリストおよび対応する理由のストリングは、以下のとおりです。

#### 0 (NOT SPECIFIED)

特定のセキュリティー・エラーは指定されません。

#### 1 (PASSWORD EXPIRED)

要求に指定されたパスワードの有効期限が切れています。

#### 2 (PASSWORD INVALID)

要求に指定されたパスワードが無効です。

#### 3 (PASSWORD MISSING)

要求にパスワードが組み込まれていません。

#### 4 (PROTOCOL VIOLATION)

要求がセキュリティー・プロトコルに違反しています。

#### 5 (USERID MISSING)

要求にユーザー ID が組み込まれていません。

#### 6 (USERID INVALID)

要求に指定されたユーザー ID が無効です。

#### 7 (USERID REVOKED)

要求に指定されたユーザー ID が取り消されています。

#### 8 (GROUP INVALID)

要求で指定されたグループが無効です。

**9 (USERID REVOKED IN GROUP)**

要求に指定されたユーザー ID がグループ内で取り消されています。

**10 (USERID NOT IN GROUP)**

要求で指定されたユーザー ID がグループ内にありません。

**11 (USERID NOT AUTHORIZED AT REMOTE LU)**

要求に指定されたユーザー ID がリモート LU で許可されていません。

**12 (USERID NOT AUTHORIZED FROM LOCAL LU)**

要求に指定されたユーザー ID はローカル LU から来る時に、リモート LU で許可されていません。

**13 (USERID NOT AUTHORIZED TO TP)**

要求に指定されたユーザー ID がトランザクション・プログラムへのアクセスで許可されていません。

**14 (INSTALLATION EXIT FAILED)**

インストール・システム出口が正常に実行されていません。

**15 (PROCESSING FAILURE)**

サーバーでのセキュリティ処理が失敗しました。

**16 (NEW PASSWORD INVALID)**

パスワード変更要求で指定されたパスワードは、サーバーの要件に合致しませんでした。

**17 (UNSUPPORTED FUNCTION)**

クライアントの指定したセキュリティ機構は、このサーバーでは無効です。いくつかの典型例をあげます。

- クライアントが、パスワードの変更関数をサポートしていないサーバーに、新しいパスワードの値を送信しました。
- クライアントが、パスワードの暗号化をサポートしていないサーバーに `SERVER_ENCRYPT` 認証情報を送信しました。認証タイプのカatalog情報はサーバーとクライアントで同じでなければなりません。
- クライアントが、ユーザー ID だけでは認証をサポートしていないサーバーにユーザー ID (パスワードなし) を送信しました。
- クライアントが認証タイプを指定しておらず、サーバーがサポートされたタイプで応答

していません。これには、クライアントが選択できない複数のタイプをサーバーが戻すことが含まれている可能性があります。

- CLIENT AUTHENTICATION タイプは、「IBM Data Server Driver for ODBC and CLI」および「IBM Data Server Driver Package」ではサポートされていません。

**18 (NAMED PIPE ACCESS DENIED)**

セキュリティ違反のため、Named PIPE にアクセスできません。

**19 (USERID DISABLED または RESTRICTED)**

ユーザー ID が無効になっているか、あるいは今回のオペレーティング環境にはアクセスできないよう使用制限されています。

**20 (MUTUAL AUTHENTICATION FAILED)**

接続中のサーバーが、相互認証チェックの受け渡しに失敗しました。サーバーが偽であるか、または送り返されてきたチケットが損傷を受けています。

**21 (RESOURCE TEMPORARILY UNAVAILABLE)**

リソースが一時的に使用できなくなっているため、サーバーでのセキュリティ処理が終了しました。例えば AIX では、有効なユーザー・ライセンスがないと思われます。

**24 (USERNAME AND/OR PASSWORD INVALID)**

指定されたユーザー名または指定されたパスワード、あるいはその両方が無効です。具体的な原因は、以下のとおりです。

1. 最近 `db2ckpw` などの DB2 のクリティカルなファイルに対する許可を変更したか、新しいフィックスパックに移行した場合には、インスタンスを更新する `db2iupdt` コマンドが実行されていない可能性があります。
2. 使用したユーザー名の形式が無効である可能性があります。例えば、UNIX および Linux プラットフォームでは、ユーザー名はすべて小文字でなければなりません。
3. Catalog情報の指定に誤りがある可能性があります。例えば、正しい認証タイプが指定されていないか、あるいはローカル・システムでリモート・サーバーがCatalogされていない可能性があります (該当する場合)。認証に関する詳細については、DB2 インフォメーション・センター (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/>)

db2luw/v9) で、"authentication" などの用語を使用して検索してください。

#### 25 (CONNECTION DISALLOWED)

セキュリティ・プラグインが接続を許可しませんでした。

#### 26 (UNEXPECTED SERVER ERROR)

サーバー・セキュリティ・プラグインが、予期しないエラーを検出しました。サーバー上の管理通知ログ・ファイルには、より具体的な問題情報が含まれています。以下のような事例が、問題の原因となる場合があります。

- セキュリティ・サービスが開始していない。
- DB2 サービスを開始するユーザー ID に管理者特権がない。

#### 27 (INVALID SERVER CREDENTIAL)

サーバー・セキュリティ・プラグインが無効なサーバー証明書を検出しました。

#### 28 (EXPIRED SERVER CREDENTIAL)

サーバー・セキュリティ・プラグインが期限切れのサーバー証明書を検出しました。

#### 29 (INVALID CLIENT SECURITY TOKEN)

サーバー・セキュリティ・プラグインが、クライアントによって送信された無効なセキュリティ・トークンを検出しました。

#### 30 (CLIENT PLUGIN MISSING API)

クライアント・セキュリティ・プラグインに、必要とされる API が含まれていません。

#### 31 (WRONG CLIENT PLUGIN TYPE)

クライアント・セキュリティ・プラグインのプラグイン・タイプが間違っています。

#### 32 (UNKNOWN CLIENT GSS-API PLUGIN)

クライアント・セキュリティ・プラグインには、データベースへの接続に使用可能な対応する GSS-API セキュリティ・プラグインがありません。

#### 33 (UNABLE TO LOAD CLIENT PLUGIN)

クライアント・セキュリティ・プラグインがロードできません。

#### 34 (INVALID CLIENT PLUGIN NAME)

クライアント・セキュリティ・プラグイン名が無効です。

#### 35 (INCOMPATIBLE CLIENT PLUGIN API VERSION)

クライアント・セキュリティ・プラグインは、DB2 と互換性のない API バージョンをレポートします。

#### 36 (UNEXPECTED CLIENT ERROR)

クライアント・セキュリティ・プラグインが、予期しないエラーを検出しました。

#### 37 (INVALID SERVER PRINCIPAL NAME)

サーバー・セキュリティ・プラグインが、無効なプリンシパル名を検出しました。

#### 38 (INVALID CLIENT CREDENTIAL)

クライアント・セキュリティ・プラグインが、無効なサーバー証明書を検出しました。

#### 39 (EXPIRED CLIENT CREDENTIAL)

クライアント・セキュリティ・プラグインが、期限切れのサーバー証明書を検出しました。

#### 40 (INVALID SERVER SECURITY TOKEN)

クライアント・セキュリティ・プラグインが、サーバーによって送信された無効なセキュリティ・トークンを検出しました。

#### 41 (SWITCH USER INVALID)

クライアントは、トラステッド接続を要求してトラステッド接続内のユーザーを切り替えるように構成されています。トラステッド接続が確立されていないので、ユーザー切り替え要求は無効です。

#### 42 (ROOT CAPABILITY REQUIRED)

ローカル・クライアントまたはサーバーのパスワードを使用した認証は、現在は使用できません。

#### 43 (NON-DB2 QUERY MANAGER PRODUCT DISALLOWED CONNECTION)

DB2 ではない照会マネージャー製品が接続を許可しませんでした。

**ユーザーの処置:** 適切なユーザー ID またはパスワード (あるいはこの両方) が提供されたことを確認してください。

ユーザー ID が使用できず、特定のワークステーションへのアクセスに制限があるか、あるいは一定の時間処理に制限があります。

- サポートされている認証タイプを指定して、コマンドを再試行します。カタログ情報に正しい認証タイプが指定されているかどうかを確認してください。認証に関する詳細については、DB2 インフォメーション・センター (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2luw/v9>) で、"authentication" などの用語を使用して検索してください。
- 20
- サーバーに対する認証メカニズムが開始済みかどうかを確認してから、やり直してください。
- 24
- このメッセージ内に前述した特定の問題の原因を解決する方法は、以下のとおりです。
1. DB2IUPDT <InstName> を実行して、インスタンスを更新します。
  2. 作成されたユーザー名が有効であることを確認します。DB2 汎用命名規則を復習してください。
  3. カタログ情報が正しいことを確認します。
- 25
- 接続に使用されたデータベース名、またはこのデータベースへの接続に使用された TCP/IP アドレスを変更します。
- 26
- 管理通知ログのプラグイン・エラー・メッセージ・テキストに示された問題を解決してください。セキュリティ・プラグインの使用、セキュリティ・プラグインの例、および追加のトラブルシューティング情報について詳しくは、DB2 インフォメーション・センター (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2luw/v9>) を「セキュリティ・プラグイン」などの語句を使用して検索してください。
- 問題を訂正することができない場合は、独立トレース機能呼び出し、独立トレース機能呼び出し、このシナリオを再試行して情報を収集し、IBM サポートに提供できるようにしてください。
- 27
- セキュリティ・プラグインの初期化時にサーバーの証明書が与えられていて、それがセキュリティ・プラグインで認識されるフォーマットになっていることを確認してください。証明書は、コンテキストの受諾に使用されるので、ACCEPT または BOTH 証明書でなければなりません。
- 28
- DBA に連絡してください。サーバー証明書は、コマンドが再サブミットされる前に更新する必要があります。その更新によって証明書のハンドルが変わる場合、db2stop および db2start が必要になります。サーバー証明書の更新方法について詳細は、セキュリティ・プラグインで使用される認証メカニズムで使用できる資料を参照してください。
- 29
- ステートメントを再サブミットしてください。問題が続く場合、クライアント・セキュリティ・プラグインが有効なセキュリティ・トークンを生成することを確認してください。
- 30
- 管理通知ログ・ファイルで、欠落している必須の API の名前を確かめてから、欠落している API をセキュリティ・プラグインに追加してください。
- 31
- 該当するデータベース・マネージャー構成パラメーター内に、正しいタイプのセキュリティ・プラグインを指定してください。例えば、ユーザー ID/パスワード・ベースのセキュリティ・プラグインを SRVCON\_GSSPLUGIN\_LIST データベース・マネージャー構成パラメーターに指定しないでください。
- 32
- データベース・サーバーがクライアント上で使用したものと一致するセキュリティ・プラグインをインストールしてください。指摘されたセキュリティ・プラグインは、client-plugin ディレクトリーに置かれていることを確認してください。
- 33
- 詳細は、クライアント上の管理通知ログ・ファイルで調べてください。管理通知ログのエラー・メッセージ・テキストに示された問題を解決してください。
- 34
- 有効なセキュリティ・プラグイン名を指定してください。その名前には、ディレクトリー・パス情報を記入してはなりません。
- 35

サポートされているバージョンの API がセキュリティ・プラグインで使用されていて、正しいバージョン番号が報告されることを確認してください。サポートされているバージョンの詳細については、DB2 インフォメーション・センター (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2luw/v9>) を参照し、「セキュリティ・プラグイン API のバージョン管理」を検索してください。

36

詳細は、クライアント上の管理通知ログ・ファイルで調べてください。管理通知ログのエラー・メッセージ・テキストに示された問題を解決してください。

37

管理通知ログ・ファイルで、プリンシパル名を確認してください。そのプリンシパル名が、セキュリティ・プラグインで認識されるフォーマットになっていることを確認してください。

38

クライアント証明書 (db2secGenerateInitialCred で生成されたものか、またはインバウンドの代行証明書として用意されたもの) が、セキュリティ・プラグインで認識されるフォーマットになっていることを確認してください。証明書は、コンテキストの開始に使用されるので、INITIATE または BOTH 証明書でなければなりません。

39

ステートメントをサブミットするユーザーは、該当する認証を取得し (または最初の証明書を再取得し) てから、そのステートメントを再サブミットする必要があります。

40

ステートメントを再サブミットしてください。問題が続く場合、サーバー・セキュリティ・プラグインが有効なセキュリティ・トークンを生成することを確認してください。

41

有効な証明書を使用してトラステッド接続を再確立してから、ユーザー切り替え要求を再サブミットする必要があります。

42

非ルート・インストールでローカル・クライアントまたはサーバー認証を使用可能にするには、システム管理者は db2rfe スクリプトを実

行する必要があります。代わりに、セキュリティ・プラグインを使用して認証を行うこともできます。

43

ご不明な点については、照会マネージャー製品の管理者にお問い合わせください。

sqlcode: -30082

sqlstate: 08001

---

**SQL30083N ユーザー ID *uid* に対するパスワードの変更試行は、セキュリティ上の理由 *reason-code* (*reason-string*) により失敗しました。**

**説明:** パスワード変更は、無効あるいは誤ったセキュリティ情報のために、拒否されました。セキュリティ・エラーの原因は、*reason-code* および対応する *reason-string* 値によって記述されています。

理由コードのリストおよび対応する理由のストリングは、以下のとおりです。

**0 (NOT SPECIFIED)**

特定のセキュリティ・エラーは指定されません。

**1 (CURRENT PASSWORD INVALID)**

要求に指定された旧パスワードが無効です。

**2 (NEW PASSWORD INVALID)**

要求に指定されたパスワードは、パスワードが変更されたシステムによって定められたパスワード規則の下では無効です。

**3 (CURRENT PASSWORD MISSING)**

要求に旧パスワードが組み込まれていません。

**4 (NEW PASSWORD MISSING)**

要求に新規パスワードが組み込まれていません。

**5 (USERID MISSING)**

要求にユーザー ID が組み込まれていません。

**6 (USERID INVALID)**

要求に指定されたユーザー ID が無効です。

**7 (USERID REVOKED)**

要求に指定されたユーザー ID が取り消されています。取り消されたユーザー ID に対して、パスワードを変更することはできません。

**14 (INSTALLATION EXIT FAILED)**

インストール・セキュリティ出口が失敗しました。

**15 (PROCESSING FAILURE)**

サーバーでのセキュリティー処理が失敗しました。

**17 (UNSUPPORTED FUNCTION)**

パスワード変更機能は、システムによってサポートされていないか、ユーザー・アカウント制限のために現時点ではサポートされません。

**19 (USERID DISABLED または RESTRICTED)**

ユーザー ID が無効になっているか、あるいは今回のオペレーティング環境にはアクセスできないよう使用制限されています。

**23 (DCS 項目内の CHGPWD\_SDN は構成されていません。)**

SNA を介して接続されたホスト・システムで MVS パスワードを変更するには、,,,,,CHGPWD\_SDN パラメーター・ストリングを使って DCS データベースをカタログしなければなりません。,,,,,CHGPWD\_SDN パラメーター・ストリングは、Password Expiration Management (PEM) の記号宛先名を識別します。

**24 (USERNAME AND/OR PASSWORD INVALID)**

指定されたユーザー名または指定されたパスワード、あるいはその両方が無効です。

**ユーザーの処置:** 正しいユーザー ID と、現行パスワードおよび新規パスワードが提供されていることを確認してください。

ユーザー ID が使用できず、特定のワークステーションへのアクセスに制限があるか、あるいは一定の時間処理に制限があります。

特定の理由コードに関する解説を以下に述べます。

**14** 発生した問題の詳細記述に関しては、インスタンス・サブディレクトリー (通常は "db2") の db2pem.log ファイルをチェックしてください。

**23** 「DB2 Connect ユーザーズ・ガイド」に指定されているとおり、,,,,,CHGPWD\_SDN パラメーターを使って DCS データベースをカタログします。

sqlcode: -30083

sqlstate: 08001

**SQL30090N** 操作がアプリケーション実行環境で無効です。理由コード = *reason-code*。

**説明:** 操作がアプリケーション実行環境で無効です。たとえば、ステートメントまたは API の特殊制約事項を持つアプリケーションでは操作が無効な可能性があります。そのアプリケーションは、XA 分散トランザク

ション処理環境で操作するものや、CICS や、CONNECT タイプ 2 接続設定で操作するものや、あるいはフェデレーテッド・システムの機能を使用して複数の異機種データ・ソースを更新するものです。操作は拒否されます。

可能性のある理由コードは、以下のとおりです。

**01**

データの変更を行う SQL 要求 (INSERT または CREATE など) が読み取り専用データベースに対して発行されたか、または読み取り専用データベースに対してストアード・プロシージャが呼び出されました。読み取り専用データベースには、以下のタイプがあります。

- 同期点マネージャーが使用されていない時、あるいは遠隔 DRDA データベースがレベル 2 DRDA プロトコルをサポートしていない時に、接続設定 SYNCPOINT TWOPHASE を持ち、非 XA/DTP 環境で実行されている作業単位で操作されるときに、DRDA を使用してアクセスされるデータベース。
- 同期点マネージャー・ゲートウェイが使用できないか、またはリモート DRDA データベースがレベル 2 DRDA プロトコルをサポートしない場合に、XA/DTP 環境の DRDA によってアクセスされるデータベース。
- SYNCPOINT ONEPHASE 接続設定が作業単位に有効なときに、最初に更新されたデータベースではないデータベース。

**02**

内部コミットを引き起こすプリコンパイル、バインド、表の再編成などの API が、CONNECT タイプ 2 の設定を持つアプリケーション、または XA/DTP 環境で操作されているアプリケーション内で発行されました。

**03**

XA/DTP 環境にいる間、ENCINA または TUXEDO トランザクション処理モニターを使用する際に、保留カーソルに対して SQL OPEN が発行されました。

**04**

XA/DTP 環境にいる間に、DISCONNECT ステートメントが発行されました。

**05**

CONNECT type 2 または XA/DTP 環境で COMMIT ステートメントを含むコンパウンド SQL ステートメントが発行されました。

06

XA/DTP 環境で SET CLIENT API が発行されました。

07

トランザクション・マネージャーによって 2 フェーズ・コミット調整が提供されていない作業単位内で、2 番目のデータベースがアクセスされています。データ整合性を確保するために、処理は許可されません。

08

並行して接続されているデータベースとは異なるソースから、コミット調整を使用するために、データベースのアクセスが試みられました。2 つのタイプの調整は混合できず、現在のデータベースに対する処理は拒否されます。

09

同期点マネージャー調整のもとにアクセスされるデータベースに対して、XA/DTP ローカル・トランザクションを実行しようとした。

10

以下のいずれかの場合に、保留カーソルに対して SQL OPEN が発行されました。

- XA/DTP 環境あるいは
- フェデレーテッド・サーバーが、2 フェーズ・コミット・データ・ソースに定義されているニックネームにアクセスしている

カーソル保留は次の環境ではサポートされません。

11

パススルーに対する操作は、サポートされていません。

12

挿入 / 更新 / 削除操作にはタイム・スタンプ列が存在しており、またデータ・ソースに対する制限のため、ユニーク索引が必要です。

データ・ソースにアクセスしている更新/削除処理に対して、

- Fujitsu RDB2 ではユニーク索引が必要です。

13

位置付けられた UPDATE あるいは DELETE 処理では、カーソルの SELECT リストに列が存在している必要がありますが、その列がカーソルの SELECT リストに存在しません。

14

更新可能カーソル、カーソル保留、および反復可能読み取りの分離レベルの組み合わせが不正です。無効な組み合わせは、以下のとおりです。

- 分離レベル反復可能読み取りと WITH HOLD カーソル
- WITH HOLD カーソルと FOR UPDATE

15

将来の利用のために予約済み

16

SYSCAT.SERVERS におけるタイプ列とプロトコル列値の組み合わせが不正です。

17

REORG ユーティリティーはニックネームに対して発行できません。

18

作業単位内の 1 つ以上のデータ・ソースが 1 フェーズ・コミットしかサポートしていないときに、複数のデータ・ソースを更新する更新要求 (または、システム・カタログ表を更新する DDL 操作) が発行されました。可能性のある理由は、以下のとおりです。

- 1 フェーズ・コミットのみサポートするデータ・ソースを更新しようとしたが、別のデータ・ソースが、同じ作業単位内にすでに存在している。
- 2 フェーズ・コミットをサポートするデータ・ソースを更新しようとしたが、1 フェーズ・コミットをサポートのみする別のデータ・ソースが同じ作業単位内にすでに存在している。
- ローカル・フェデレーテッド・サーバー表を更新しようとしたが、1 フェーズ・コミットのみサポートするデータ・ソースが同じ作業単位内で既に更新されている。
- CONNECT タイプ 2 接続設定でアプリケーションが動作しているときに、1 フェーズ・コミットをサポートするだけのデータ・ソースを更新しようとした。

19

アプリケーションのホスト変数のデータ・タイプは、パススルー・セッションのデータ・ソースでサポートされていません。

20

- 作業単位の進行中に、SET CLIENT INFORMATION が発行されました。
- 21** 指定したデータ・ソースで実行したい操作は、DB2 がデータ・ソースへのアクセスに使用するラッパーでサポートされていません。このラッパーがサポートしている操作については、資料を参照してください。
- 22** フェデレーテッド挿入、更新、削除操作、または SQL データ・アクセス指定が MODIFIES SQL DATA のフェデレーテッド・プロシージャの呼び出しは、関数、データ変更表参照、動的コンパウンド・ステートメント、トリガー、および次のアプリケーション実行環境では無効です。
- SAVEPOINT が有効になっている
  - 両方向スクロール・カーソルが使用されている
  - ターゲット・ビューに、複数の表またはニックネームが含まれている
- 23** API、データ構造、または設定がサポートされていません。
- 24** 指定されたラッパーでは、データ・タイプ・マッピングがサポートされていません。
- 25** 指定されたラッパーでは、関数マッピングがサポートされていません。
- 26** SPM が使用され、コンセントレーターが有効なトラステッド接続では、コミット/ロールバックが処理された後、アプリケーションはトラステッド・ユーザー ID のみを切り替えることができます。
- 27** 同じラッパー・ライブラリーの複数の 2 フェーズ・コミット・サーバーが同じ接続で使用されています (このような使用法はクライアント・ライブラリーで制限されている)
- 28** 同じラッパー・ライブラリーの 1 フェーズ・コミット・サーバーと 2 フェーズ・コミット・サーバーが同じ接続で混用されています (このような使用法はクライアント・ライブラリーで制限されている)
- 29** アプリケーションがストアード・プロシージャ内からユーザー切り替え要求を発行しようとした。
- ユーザーの処置:** 以下のいずれかのステップを行うことによって、問題を訂正してください。
- 理由 01、02、03、04、06、19、または 29 の場合**
- サポートされていないステートメントまたは API を除去します。
- 理由 01、02、03、04、06、または 29 に対する代替方法**
- 失敗したステートメントまたは API をサポートする別の環境でアプリケーションを実行します。
- 理由 05 の場合**
- COMMIT 要求をコンパウンド・ステートメントの外に移動します。
- 理由 07 の場合**
- EXEC SQL COMMIT または EXEC SQL ROLLBACK が、外部トランザクション・マネージャーに対する同期点要求の代わりに発行される作業単位内でアクセスされるデータベースが 1 つだけであることを確認します。作業単位内で複数のデータベースにアクセスする必要がある場合は、外部トランザクション・マネージャー製品によって提供されるコミットメント・コントロール・インターフェースを利用してください。
- 理由 08 の場合**
- 作業単位内でアクセスされているすべてのデータベースが、(CICS SYNCPOINT など) 外部トランザクション処理モニター、またはローカル COMMIT および ROLLBACK EXEC SQL など、同じタイプの要求のコミットメント制御下にあることを確認してください。
- 理由 09 の場合**
- 次のいずれかのステップを実行します。
- トランザクションを XA/DTP グローバル・トランザクションとして実行する。
  - 非 XA/DTP 環境のデータベースにアクセスする。

- トランザクションが読み取り専用の場合には、データベースの接続に対して同期点マネージャのサービスを使用しないでください。

#### 理由 10 から 17 (フェデレーテッド・サーバー・ユーザー) の場合

問題を分離して要求失敗の原因となったデータ・ソースを突き止め、そのデータ・ソースの制約事項を調べてください。

#### 理由 18 の場合

次のいずれかのステップを実行します。

- 別のデータ・ソースに対して更新をサブミットする前に、COMMIT または ROLLBACK をサブミットする。
- 複数のデータ・ソースを 1 つの作業単位内で更新する必要がある場合は、更新が必要なくすべてのデータ・ソースに対して db2\_two\_phase\_commit server オプションが 'Y' に設定されていることを確認する。
- 更新されるデータ・ソースが、1 フェーズ・コミットしかサポートしておらず、アプリケーションが CONNECT タイプ 2 接続設定で操作されている場合は、CONNECT タイプ 1 接続の設定で操作されるように、アプリケーションを変更する。

#### 理由 20 の場合

API を呼び出す前に、コミットまたはロールバックを実行します。

#### 理由 22 の場合

フェデレーテッド挿入、更新、削除操作、または SQL データ・アクセス指定が MODIFIES SQL DATA のフェデレーテッド・プロシージャの呼び出しを除去するか、以下を実行します。

- フェデレーテッド挿入、更新、または削除操作を関数、データ変更表参照、動的コンパウンド・ステートメント、またはトリガーの外で実行する
- SQL データ・アクセス指定が MODIFIES SQL DATA のフェデレーテッド・プロシージャの呼び出しを、関数、動的コンパウンド・ステートメント、またはトリガーの外部で実行する
- または、有効になっている savepoint を解放する
- 両方向スクロール・カーソルの使用を除去する

- 1 つの表またはニックネームだけを参照するように、ターゲット・ビューを再定義する
- フェデレーテッド挿入、更新、または削除操作をトリガーの外で実行する

#### 理由 23 の場合

DB2 インフォメーション・センターで、サポートされている API、データ構造、および設定のリストを参照してください。

#### 理由 24 の場合

障害の発生したステートメントが CREATE TYPE MAPPING の場合は、ステートメントを再サブミットしないでください。障害の発生したステートメントが CREATE SERVER の場合は、フェデレーション・カタログの中にサーバー・タイプのタイプ・マッピングが含まれているかどうかを調べ、それらのマッピングをドロップしてください。いずれの場合も、データ・ソースのドキュメンテーションを参照して、そのデータ・ソースでサポートされるタイプおよびタイプ・マッピングについて調べてください。

#### 理由コード 25 の場合

障害の発生したステートメントが CREATE FUNCTIONMAPPING の場合は、ステートメントを再サブミットしないでください。障害の発生したステートメントが CREATE SERVER の場合は、フェデレーション・カタログの中にサーバー・タイプの関数マッピングが含まれているかどうかを調べ、それらのマッピングをドロップしてください。いずれの場合も、データ・ソースのドキュメンテーションを参照して、そのデータ・ソースでサポートされる関数および関数マッピングについて調べてください。

#### 理由コード 26 の場合

トランザクションの間にトラステッド・ユーザー ID が切り替えられていないことを確認してください。

#### 理由コード 27 の場合

アプリケーションは、同じ接続でこのデータ・ソースの複数の 2 フェーズ・コミット・サーバーにアクセスすることはできません。別の環境でアプリケーションを実行してください。

#### 理由コード 28 の場合

アプリケーションは、2 フェーズ・コミット・サーバーへの接続がアクティブである場合、1 フェーズ・コミット・サーバーにアクセスでき

ません (その逆の場合も同様)。別の環境でアプリケーションを実行してください。

**sqlcode:** -30090

**sqlstate:** 25000

---

**SQL30101W REBIND 要求に指定された BIND オプションは、無視されます。**

**説明:** BIND オプションが REBIND 要求に指定されましたが、データベース・サーバーは、BIND オプションの再指定をサポートしていません。指定された BIND オプションは無視され、オリジナル BIND 要求のオプションが使用されます。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。これは単に警告状況です。

データベース・マネージャーが追加警告 SQLCA を戻した場合は、"sqlerrmc" トークンが、この追加 SQLCA に関する以下の情報を、以下の順序で示します。

- sqlcode (SQL 戻りコード)
- sqlstate (ユニバーサル SQL 戻りコード)
- sqlerrp (製品名)
- sqlerrmc (SQL メッセージ・トークン)

**sqlcode:** +30101

**sqlstate:** 01599

---

**SQL30104N BIND または PRECOMPILE オプション option-name、値 value-name にエラーがあります。**

**説明:** BIND または PRECOMPILE パラメーターの処理中に、BIND または PRECOMPILE オプション、あるいは値が受け入れられなかったか、またはオプションと値の組が正しくありません。

ステートメントは処理できません。

**ユーザーの処置:** コマンド・オプションおよび値を調べてエラーを判別し、コマンドを再サブミットしてください。

**sqlcode:** -30104

**sqlstate:** 56095

---

**SQL30106N 複数行の INSERT 操作で無効な入力データが検出されました。**

**説明:** 複数行の INSERT 操作の 1 行に対する入力データで、エラーが検出されました。これ以上行の挿入は行われません。ATOMIC 操作の場合、挿入された行は

すべてロールバックされます。非 ATOMIC 操作の場合、無効な入力データが含まれた行が検出される前に正常に挿入された行は、ロールバックされません。

**ユーザーの処置:** 無効な入力データの含まれた行を訂正し、挿入されなかった行に対して再度、複数行の INSERT をサブミットしてください。

**sqlcode:** -30106

**sqlstate:** 22527

---

**SQL30108N 接続は失敗しましたが、再確立されました。特殊レジスターの設定が再生された可能性があります。新規接続のホスト名または IP アドレス: host-name。新規接続のサービス名またはポート番号: service-name。理由コード: reason-code**

**説明:** ホスト名または IP アドレス host-name およびサービス名またはポート番号 service-name への接続が再確立されました。特定の特殊レジスターを除き、すべてのセッション・リソースはそれぞれの元のデフォルト値に設定されます。詳細は、「管理ガイド」を参照してください。アプリケーションは直前の COMMIT にロールバックされます。

以下の理由コードによって示されるように、元のサーバーによって、失敗した時点より前に特殊レジスターの設定が戻された可能性があります。

- 1 および 3: 失敗した時点までの特殊レジスターの設定がすべて戻されました。
- 2 および 4: 前回のコミット・ポイントまでの特殊レジスターの設定がすべて戻されました。このような設定値は、新しい接続ですべて再生されています。

以下の理由コードによって示されるように、現行グループ内、または新規グループで接続が再確立された可能性があります。

- 1 および 2: 現行グループ内で接続が再確立されました。
- 3 および 4: 新規グループで接続が再確立されました。

**ユーザーの処置:** セッション・リソースの再ビルドは、アプリケーションが担当します。アプリケーションは、ロールバックされた操作をすべて再実行する必要があります。

**sqlcode:** -30108

**sqlstate:** 08506

**SQL30109N** サーバーの現行グループ内または代替グループ内のデータベース・サーバーはすべて、元のサーバーのリリース・レベルと互換性がないリリース・レベルのものであるため、接続を再確立できませんでした。新規のホスト名または IP アドレス：  
*host-name*。新規のサーバー名またはポート番号：*service-name*。新規接続のリリース・レベル：*new-release-level*。元の接続のリリース・レベル：*old-release-level*。理由コード：*reason-code*

sqlcode: -30109

sqlstate: 08507

**説明:** サーバーの現行グループ内にある別のデータベース・サーバー、または代替グループ内のデータベース・サーバーで、接続の再確立が試みられました。理由コードは、これらのいずれかが当てはまるかを示します。

1

データベース・サーバーへの接続が失敗しましたが、当該グループ内の代替サーバーへの接続を再確立できませんでした。これは、グループ内の使用可能なサーバーの中に、初回の接続と互換性のあるリリース・レベルのものがないためです。最後に接続が試みられた、グループ内の代替サーバーのリリース・レベルは、元の接続のリリース・レベルとの互換性がありません。

2

データベース・サーバーへの接続が失敗しましたが、サーバーの代替グループ内にあるサーバーへの接続を再確立できませんでした。これは、代替グループ内の使用可能なサーバーの中に、初回の接続と互換性のあるリリース・レベルのものがないためです。最後に接続が試みられた、代替グループ内のサーバーのリリース・レベルは、元のグループにある元のサーバーのリリース・レベルとの互換性がありません。

**ユーザーの処置:** 理由コードに対応するアクションは、以下のとおりです。

1

フェイルオーバーが混合 DB2 for z/OS データ共有グループ内で発生している場合、手動でデータベースに再接続してください。フェイルオーバーが代替サーバーに対するものである場合、代替サーバーがフェイルオーバーを処理するようセットアップされているか検証してください。

2

手動でデータベースに再接続してください。

---

## 第 27 章 SQL32500 - SQL32999

---

**SQL32765W** 非 DB2 製品からの警告または通知メッセージ情報: *token-list*。

**説明:** DB2 と対話するが、DB2 の一部ではないソフトウェア製品が、警告または通知の対象となっている状態に関する情報を *token-list* で戻しています。

**ユーザーの処置:** *token-list* 内の情報と共に、報告されている状態を理解するための情報を提供している製品資料があればそれらを参考にします。

**sqlcode:** +32765

**sqlstate:** (あらゆる SQLSTATE が戻される可能性がある)

---

**SQL32766N** 非 DB2 製品からのエラー・メッセージ情報: *token-list*。

**説明:** DB2 と対話するが、DB2 の一部ではないソフトウェア製品が、エラー状態に関する情報を *token-list* で戻しています。

**ユーザーの処置:** *token-list* 内の情報と共に、このエラー状態への対処方法を判別するための情報を提供している製品資料があればそれらを参考にします。

**sqlcode:** -32766

**sqlstate:** (あらゆる SQLSTATE が戻される可能性がある)



## 第 3 部 SQLSTATE メッセージ

このセクションには、SQLSTATE とその意味がリストされています。SQLSTATE はクラス・コードによってグループ化されており、サブコードについては、対応する表をご覧ください。

表 1. SQLSTATE クラス・コード

| クラス・コード | 意味                      | サブコードについては、以下を参照してください。 |
|---------|-------------------------|-------------------------|
| 00      | 無条件正常終了                 | 882 ページの表 2             |
| 01      | 警告                      | 882 ページの表 3             |
| 02      | データなし                   | 887 ページの表 4             |
| 07      | 動的 SQL エラー              | 887 ページの表 5             |
| 08      | 接続例外                    | 888 ページの表 6             |
| 09      | トリガー・アクション例外            | 888 ページの表 7             |
| 0A      | 機能がサポートされていない           | 888 ページの表 8             |
| 0D      | ターゲット・タイプ指定が無効          | 889 ページの表 9             |
| 0F      | トークンが無効                 | 889 ページの表 11            |
| 0K      | RESIGNAL ステートメントが無効     | 889 ページの表 12            |
| 0N      | SQL/XML マッピング・エラー       | 889 ページの表 13            |
| 20      | CASE ステートメントにケースが見つからない | 891 ページの表 15            |
| 21      | カーディナリティー違反             | 891 ページの表 16            |
| 22      | データ例外                   | 891 ページの表 17            |
| 23      | 制約違反                    | 893 ページの表 18            |
| 24      | カーソル状態が無効               | 894 ページの表 19            |
| 25      | トランザクション状態が無効           | 895 ページの表 20            |
| 26      | SQL ステートメント ID が無効      | 895 ページの表 21            |
| 28      | 許可指定が無効                 | 895 ページの表 23            |
| 2D      | トランザクション終了が無効           | 895 ページの表 24            |
| 2E      | 接続名が無効                  | 896 ページの表 25            |
| 34      | カーソル名が無効                | 896 ページの表 26            |
| 36      | カーソル感度例外                | 896 ページの表 27            |
| 38      | 外部関数例外                  | 896 ページの表 28            |
| 39      | 外部関数呼び出し例外              | 898 ページの表 29            |
| 3B      | SAVEPOINT が無効           | 898 ページの表 30            |
| 40      | トランザクションのロールバック         | 898 ページの表 31            |
| 42      | 構文エラーまたはアクセス規則違反        | 899 ページの表 32            |
| 44      | WITH CHECK OPTION 違反    | 913 ページの表 33            |
| 45      | 未処理のユーザー定義例外            | 913 ページの表 34            |
| 46      | Java DDL                | 914 ページの表 35            |

表 1. SQLSTATE クラス・コード (続き)

| クラス・コード | 意味                      | サブコードについては、以下を参照してください。 |
|---------|-------------------------|-------------------------|
| 51      | アプリケーション状態が無効           | 914 ページの表 36            |
| 53      | 無効なオペランドまたは矛盾する指定       | 915 ページの表 37            |
| 54      | SQL または製品の限界を超過         | 915 ページの表 38            |
| 55      | オブジェクトが前提条件の状態にない       | 917 ページの表 39            |
| 56      | その他の SQL または製品エラー       | 919 ページの表 40            |
| 57      | リソースを使用できない、またはオペレーター介入 | 921 ページの表 41            |
| 58      | システム・エラー                | 922 ページの表 42            |
| 5U      | ユーティリティエラー              | 923 ページの表 43            |

## クラス・コード 00 無条件正常終了

表 2. クラス・コード 00: 無条件正常終了

| SQLSTATE 値 | 意味                                |
|------------|-----------------------------------|
| 00000      | 操作は正常に実行されました。警告または例外条件は発生していません。 |

## クラス・コード 01 警告

表 3. クラス・コード 01: 警告

| SQLSTATE 値 | 意味                                                       |
|------------|----------------------------------------------------------|
| 01002      | DISCONNECT エラーが発生しました。                                   |
| 01003      | NULL 値が、列関数の引数から除去されました。                                 |
| 01004      | ストリングの値をそれより短いストリング・データに代入する際に、切り捨てられました。                |
| 01005      | SQLDA の項目数が不足しています。                                      |
| 01007      | 特権が付与されていません。                                            |
| 0100C      | 1 つ以上の adhoc の結果セットが、プロシージャから返されました。                     |
| 0100D      | クローズしていたカーソルが、チェーン内の次の結果セットで再度オープンしました。                  |
| 0100E      | プロシージャは結果セットを、最大許容数を超えて生成しました。最初の整数結果セットのみが呼び出し元に戻されました。 |
| 01503      | 結果列の数が、指定されたホスト変数の数よりも大きくなっています。                         |
| 01504      | UPDATE または DELETE ステートメントに、WHERE 節がありません。                |
| 01506      | 算術演算の結果である無効な日付を訂正するため、DATE または TIMESTAMP の値が調整されました。    |
| 01509      | ユーザーの仮想計算機に十分なストレージがないため、カーソルについてはブロッキングが取り消されました。       |
| 01515      | 列の非 null 値がホスト変数の範囲外にあるため、null 値がホスト変数に割り当てられました。        |
| 01516      | 不適当な WITH GRANT OPTION が無視されました。                         |

表3. クラス・コード 01: 警告 (続き)

| SQLSTATE 値 | 意味                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 01517      | 変換できない文字を、置換文字で置き換えました。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 01519      | 数値が範囲外であるため、null 値が変数に割り当てられました。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 01524      | 列関数の結果には、算術式を評価することで発生した null 値は含まれません。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 01526      | 分離レベルがエスカレートされました。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 01527      | SET ステートメントが AS に存在しない特殊レジスターを参照しています。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 01539      | 接続は成功しましたが、SBCS 文字のみが使用できます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 01543      | 重複した制約が無視されました。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 01545      | 修飾されていない列名が、相関参照として解釈されました。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 01550      | 指定された記述を持つオブジェクトが既に存在しているため、オブジェクトが作成されませんでした。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 01560      | 冗長 GRANT は無視されます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 01562      | データベース構成ファイル内のログへの新たなパス (newlogpath) が無効です。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 01563      | ログ・ファイルへの現在のパス (logpath) が無効です。ログ・ファイル・パスはデフォルトにリセットされました。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 01564      | ゼロで割り算を行ったため、null 値がホスト変数に割り当てられました。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 01565      | 照会で検出された値 sNaN は、その照会の処理が再開される前に値 NaN に置き換えられました。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 01586      | ステートメントにより 1 つ以上の表が自動的に SET INTEGRITY ペンディング状態になりました。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 01589      | ステートメントに余分な指定があります。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 01592      | SOURCE 関数を参照する CREATE FUNCTION ステートメントが、以下のいずれかの状態になっています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 入力パラメーターの長さ、精度、または位取りが、対応するソース関数のそれよりも大きい。</li> <li>• RETURNS または CAST FROM パラメーターの長さ、精度、または位取りが、ソース関数のそれよりも小さい。</li> <li>• CREATE FUNCTION ステートメントの CAST FROM パラメーターの長さ、精度、または位取りが、RETURNS パラメーターのそれよりも大きい。</li> </ul> ランタイムに切り捨てが実行される可能性があります (また、ランタイムにエラーが発生する可能性があります)。 |
| 01594      | ALL 情報のための SQLDA の項目数が不足しています (明確に区別された名前を返すために十分な記述子がありません)。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 01595      | ビューが、既存の無効にされたビューと置き換えられました。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 01596      | 長ストリング・データ・タイプに基づいた特殊タイプに対して、比較関数が作成されませんでした。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 01598      | イベント・モニターまたは使用量リストの状態を、その現行の状態に設定しようとしてしました。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 01599      | BIND オプションが REBIND で無視されました。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 01602      | 最適化処理中に制限が検出されたため、最適化処理の結果が次善のものになる可能性があります。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |

表 3. クラス・コード 01: 警告 (続き)

| SQLSTATE 値 | 意味                                                                      |
|------------|-------------------------------------------------------------------------|
| 01603      | CHECK DATA 処理で制約違反が見つかり、それらは例外表に移動されました。                                |
| 01604      | SQL ステートメントが解釈されましたが、実行されませんでした。                                        |
| 01605      | 再帰共通表式に無限ループが入っている可能性があります。                                             |
| 01606      | ノードまたはシステム・データベース・ディレクトリーが空です。                                          |
| 01607      | 読み取り専用トランザクションにおける各メンバーの時間の差が、定義されたしきい値を超えています。                         |
| 01608      | サポートされない値が置換されました。                                                      |
| 01609      | プロシージャは結果セットを、最大許容数を超えて生成しました。最初の整数結果セットのみが呼び出し元に戻されました。                |
| 01610      | 1 つ以上の ad hoc の結果セットが、プロシージャから返されました。                                   |
| 01611      | クローズしていたカーソルが、チェーン内の次の結果セットで再度オープンしました。                                 |
| 01614      | ロケーターの数が結果セットの数を下回っています。                                                |
| 01616      | 見積もり CPU コストがリソースの限度を超過しています。                                           |
| 01618      | データベース・パーティション・グループを再配分することにより、データベース・パーティショニングを変更する必要があります。            |
| 01620      | UNION ALL の基本表の一部は、同一の表です。                                              |
| 01621      | 検索した LOB の値は変更されています。                                                   |
| 01622      | ステートメントは正常に完了しましたが、その完了後にシステム・エラーが発生しました。                               |
| 01623      | DEGREE の値は無視されます。                                                       |
| 01625      | スキーマ名が CURRENT PATH ステートメントに複数回出現します。                                   |
| 01626      | データベースにアクティブ・バッファ・プールは 1 つだけです。                                         |
| 01627      | 表が調整ペンディングまたは調整不能状態のため、DATALINK 値は無効である可能性があります。                        |
| 01632      | 同時接続の数が製品のライセンスに規定された数を超えました。                                           |
| 01633      | マテリアライズ照会表は、照会の処理を最適化するために使用することはできません。                                 |
| 01636      | 非増分データの整合性は、データベース・マネージャーによる確認がされないままになっています。                           |
| 01637      | デバッグは使用できません。                                                           |
| 01639      | フェデレーテッド・オブジェクトでは、呼び出し側がデータ・ソース・オブジェクトに対して必要な特権を持っていることが必要です。           |
| 01641      | データ・リンク・タイプ属性が、構造化タイプの使用を制限しています。                                       |
| 01642      | 列の長さは、許可されている USER デフォルト値の最大長のために十分ではありません。                             |
| 01643      | SQL ルーチンで SQLSTATE または SQLCODE 変数への割り当てが上書きされたと思われるため、ハンドラーをアクティブ化しません。 |
| 01645      | SQL プロシージャの実行可能プログラムはデータベース・カタログに保管されません。                               |

表 3. クラス・コード 01: 警告 (続き)

| SQLSTATE 値 | 意味                                                                                |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 01648      | VALUE COMPRESSION がこの表に対して非アクティブになっているため、COMPRESS 列属性は無視されました。                    |
| 01649      | バッファ・プール操作は完了しましたが、データベースの次回再始動時までは有効になりません。                                      |
| 01650      | 索引と表の統計が矛盾しています。                                                                  |
| 01651      | イベント・モニターは正常に活動化されましたが、一部のモニター情報が失われている可能性があります。                                  |
| 01652      | ステートメント・コンテキストにより、分離節は無視されます。                                                     |
| 01653      | 許可は ユーザーに対して付与されました。 グループは、許可名が 8 バイトより長いために認識されませんでした。                           |
| 01654      | バッファ・プールが開始されていません。                                                               |
| 01655      | イベント・モニターが正常に作成されましたが、少なくとも 1 つのイベント・モニター・ターゲット表がすでに存在しています。                      |
| 01657      | メモリー不足のため、バッファ・プール操作は、次回データベースの始動まで有効になりません。                                      |
| 01665      | 列名またはラベルは切り捨てられました。                                                               |
| 01667      | 照会の処理の最適化にビューを使用することはできません。                                                       |
| 01669      | リモート・カタログとローカル・カタログのスキーマに矛盾があるため、指定したニックネームの統計は完全には更新されませんでした。                    |
| 01670      | 新しい表のデフォルト PRIMARY 表スペースは存在しません。                                                  |
| 01671      | キャッシュに入っているステートメントの環境は、現在の環境とは違うものです。現在の環境を使用して、指定されたステートメントを最適化しなおします。           |
| 01674      | 表スペース属性が照会パフォーマンスに最適ではありません。                                                      |
| 01675      | 必要以上の表スペースが指定されました。余分な表スペースは無視されます。                                               |
| 01676      | 許可 ID はすでにデータベース・オブジェクトの所有者であるため、転送操作は無視されました。                                    |
| 01677      | プラグインがすでに定義されているサーバーについては、ラッパー・オプションが無視されました。                                     |
| 01678      | ユーザー・マッピングへの変更はフェデレーテッド・カタログ表だけに適用され、外部ユーザー・マッピング・リポジトリには適用されません。                 |
| 01679      | 指定された許可 ID には、トラステッド接続を確立できません。                                                   |
| 01682      | トラステッド・コンテキストは、ステートメントで指定された一部の (すべてではない) 許可 ID で使用できなくなっています。                    |
| 01684      | 指定されたロケールはサポートされていません。メッセージは、英語ロケールで戻されました。                                       |
| 01686      | 表スペースを REGULAR から LARGE に変換中です。この表スペース内の表の索引を再編成または再ビルドして、ラージ RID をサポートする必要があります。 |
| 01689      | データ・ソースに接続せずに SQL コンパイルが完了しました。                                                   |
| 0168A      | データ・ソースにあるソース・プロシージャのパッケージ本体が見つからなかったか、無効です。                                      |

表 3. クラス・コード 01: 警告 (続き)

| SQLSTATE 値 | 意味                                                                                                    |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 0168B      | 操作が部分的に成功し、部分的に失敗しました。詳しくは GET DIAGNOSTICS を使用してください。                                                 |
| 0168C      | 10 進浮動小数点演算により、不正確な結果が生成されました。                                                                        |
| 0168D      | 10 進浮動小数点演算は無効でした。                                                                                    |
| 0168E      | 10 進浮動小数点演算により、オーバーフローまたはアンダーフローが発生しました。                                                              |
| 0168F      | 10 進浮動小数点演算により、ゼロによる除算が発生しました。                                                                        |
| 0168H      | 製品は評価モードで実行されています。有効なライセンス・キーがインストールされていません。                                                          |
| 0168M      | データベース構成パラメーター DECFLT_ROUNDING を変更すると、予期しない結果が生じる可能性があります。                                            |
| 0168O      | フェデレーテッド・サーバーは、データ・ソースから不明な警告を受け取りました。                                                                |
| 0168Q      | ラッパーは、リストされている現在のデータ・ソース・サーバー・バージョンをサポートしています。それ以後のバージョンでラッパーを使用すると、エラーが発生するか、または予期しない結果が生じるおそれがあります。 |
| 0168S      | タスクは除去されませんでした。                                                                                       |
| 0168T      | WITH ROW CHANGE COLUMNS ALWAYS DISTINCT が指定されましたが、データベース・マネージャーは、固有の行変更列を返すことができません。                  |
| 0168V      | RUNSTATS に対して SYSTEM SAMPLING が指定されましたが、これは、指定された統計ビューにはサポートされません。代わりに BERNOLLI SAMPLING が実行されました。    |
| 0168Y      | 新しく定義されたオブジェクトは無効とマーク付けされます。その理由は、そこで参照されているオブジェクトが未定義または無効であるため、または定義者にアクセス権がないためです。                 |
| 01690      | 再平衡化の操作でデータを移動する必要がありませんでした。またはデータを移動中ですが、すべてのストライプ・セットで各ストレージ・パスにコンテナが存在するわけではありません。                 |
| 01691      | ストレージ・パスはドロップされませんでした。1 つ以上の自動ストレージ表スペースがパスに存在するため、ドロップ・ペンディング状態です。                                   |
| 01695      | データ変更操作の一部として、期間の値が調整されました。                                                                           |
| 01696      | スキーマ内の 1 つ以上の表の属性が、スキーマ自体の属性と異なります。                                                                   |
| 01697      | テキストなし                                                                                                |
| 01698      | マテリアライズ照会表の基礎となる表の許可またはマスクが変更された結果、マテリアライズ照会表の許可またはマスクを変更しなければならない可能性があります。                           |
| 01H51      | MQSeries Application Messaging Interface メッセージが切り捨てられました。                                             |
| 01H52      | ルーチンの実行は完了しましたが、実行中に少なくとも 1 つのエラーまたは警告が検出されました。詳細情報が入手可能です。                                           |
| 01H53      | ルーチンで警告が発生しました。詳細については、SQLCODE を参照してください。                                                             |

表 3. クラス・コード 01: 警告 (続き)

| SQLSTATE 値 | 意味                                                                                                           |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 01H54      | プロシージャーは正常に戻りましたが、パラメーターの形式または内容のエラーが検出されました。パラメーター値のエラーに関する情報は、出力パラメーターとして戻されます。                            |
| 01H55      | プロシージャーは正常に戻りましたが、内部処理エラーが検出されました。内部エラー状態に関する情報は、出力パラメーターとして戻されます。                                           |
| 01H56      | プロシージャーは正常に戻りましたが、指定より高いバージョンのパラメーターをサポートします。                                                                |
| 01H57      | プロシージャーは、指定されたロケールではなく別のロケールに出力を戻しました。                                                                       |
| 01HN0      | 有効なワークロードが無効なサービス・クラスと関連付けられています。                                                                            |
| 01HN1      | 優先順位設定がデフォルトのシステム・サービス・クラス SYSDEFAULTSYSTEMCLASS の優先順位設定より上位のサービス・クラスに割り当てられました。これは、パフォーマンスに悪影響を及ぼすおそれがあります。 |
| 01HN2      | セクション実行時統計の収集が有効にされたため、自動統計収集が無効にされました。                                                                      |
| 01HXX      | 有効な警告 SQLSTATE が、ユーザー定義関数、外部プロシージャー CALL、またはコマンド呼び出しによって返されました。                                              |

## クラス・コード 02 データなし

表 4. クラス・コード 02: データなし

| SQLSTATE 値 | 意味                                                                                                                                                                                                                                                     |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 02000      | 以下のいずれかの例外が発生しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• SELECT INTO ステートメントの結果、または INSERT ステートメントの副選択の結果が、データのない表になった。</li> <li>• 探索型の UPDATE または DELETE ステートメントで指定された行の数がゼロになった。</li> <li>• FETCH ステートメントで参照されたカーソルの位置が、結果表の最終行の後になった。</li> </ul> |
| 02501      | カーソル位置が現在行の FETCH に対して無効です。                                                                                                                                                                                                                            |
| 02502      | 削除ホールまたは更新ホールが検出されました。                                                                                                                                                                                                                                 |
| 02506      | RETURN DATA UNTIL 節に指定されているとおり、エラーが検出されて許容されました。                                                                                                                                                                                                       |

## クラス・コード 07 動的 SQL エラー

表 5. クラス・コード 07: 動的 SQL エラー

| SQLSTATE 値 | 意味                                 |
|------------|------------------------------------|
| 07001      | ホスト変数の数がパラメーター・マーカースの数として正しくありません。 |
| 07002      | 呼び出しパラメーター・リストまたは制御ブロックが無効です。      |

表 5. クラス・コード 07: 動的 SQL エラー (続き)

| SQLSTATE 値 | 意味                                                            |
|------------|---------------------------------------------------------------|
| 07003      | EXECUTE ステートメントで識別されたステートメントが、選択ステートメントであるか、または準備された状態にありません。 |
| 07004      | 動的パラメーターに USING 節または INTO 節が必要です。                             |
| 07005      | カーソルのステートメント名が、カーソルと関連付けられない準備されたステートメントを識別しました。              |
| 07006      | データ・タイプが適切でないため、入力ホスト変数を使用できません。                              |

## クラス・コード 08 接続例外

表 6. クラス・コード 08: 接続例外

| SQLSTATE 値 | 意味                                                                                                 |
|------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 08001      | アプリケーション・サーバーまたは他のサーバーに対して接続を確立できませんでした。                                                           |
| 08002      | 接続がすでに存在します。                                                                                       |
| 08003      | 接続が存在しません。                                                                                         |
| 08004      | アプリケーション・サーバーが、接続の確立を拒否しました。                                                                       |
| 08007      | 不明なトランザクション解像度です。                                                                                  |
| 08502      | トランザクション・マネージャーが使用できないため、TWOPHASE の SYNCPOINT を使用して実行中のアプリケーション処理によって発行された CONNECT ステートメントが失敗しました。 |
| 08504      | 指定されたパスの名前変更構成ファイルの処理中に、エラーが検出されました。                                                               |
| 08505      | 連続可用性環境の初期化に失敗しました。                                                                                |
| 08506      | 接続は失敗しましたが、再確立されました。                                                                               |
| 08507      | リリース・レベルが一致しないために、サーバーへの接続の再確立に失敗しました。                                                             |
| 08508      | リモート・ホストが見つかりませんでした。                                                                               |

## クラス・コード 09 トリガー・アクション

表 7. クラス・コード 09: トリガー・アクション

| SQLSTATE 値 | 意味                       |
|------------|--------------------------|
| 09000      | トリガー SQL ステートメントが失敗しました。 |

## クラス・コード 0A サポートされていない機能

表 8. クラス・コード 0A: サポートされていない機能

| SQLSTATE 値 | 意味                                   |
|------------|--------------------------------------|
| 0A001      | 処理が接続可能状態にないため、CONNECT ステートメントは無効です。 |

表 8. クラス・コード 0A: サポートされていない機能 (続き)

| SQLSTATE 値 | 意味                                                 |
|------------|----------------------------------------------------|
| 0A502      | このデータベース・インスタンスではアクションまたは操作ができません。                 |
| 0A503      | データの不整合の可能性があるため、フェデレーテッド挿入、更新、または削除操作はコンパイルできません。 |

## クラス・コード 0D ターゲット・タイプ指定が無効

表 9. クラス・コード 0D: ターゲット・タイプ指定が無効

| SQLSTATE 値 | 意味                                           |
|------------|----------------------------------------------|
| 0D000      | ターゲット構造化データ・タイプ指定は、ソース構造化データ・タイプの正しいサブタイプです。 |

## クラス・コード 0E ターゲット・タイプ指定が無効

表 10. クラス・コード 0E: スキーマ名リスト指定が無効

| SQLSTATE 値 | 意味           |
|------------|--------------|
| 0E000      | パス名リストが無効です。 |

## クラス・コード 0F 無効なトークン

表 11. クラス・コード 0F: 無効なトークン

| SQLSTATE 値 | 意味                         |
|------------|----------------------------|
| 0F001      | LOB トークン変数は、現在何も値を表していません。 |

## クラス・コード 0K RESIGNAL ステートメントが無効

表 12. クラス・コード 0K: RESIGNAL ステートメントが無効

| SQLSTATE 値 | 意味                             |
|------------|--------------------------------|
| 0K000      | RESIGNAL ステートメントがハンドラー内にありません。 |

## クラス・コード 0N SQL/XML マッピング・エラー

表 13. クラス・コード 0N: SQL/XML マッピング・エラー

| SQLSTATE 値 | 意味                      |
|------------|-------------------------|
| 0N002      | 文字を有効な XML 文字にマップできません。 |

## クラス・コード 10 XQuery エラー

表 14. クラス・コード 10: XQuery エラー

| SQLSTATE | 意味                                                                        |
|----------|---------------------------------------------------------------------------|
| 10000    | XQuery エラー。                                                               |
| 10501    | XQuery 式で、静的または動的コンテキスト・コンポーネントの割り当てが欠落しています。                             |
| 10502    | XQuery 式のプロローグでエラーが検出されました。                                               |
| 10503    | XQuery または XPath 式に重複する名前が定義されました。                                        |
| 10504    | XQuery ネーム・スペース宣言で無効な URI が指定されました。                                       |
| 10505    | XQuery 式で文字、トークン、または節が欠落しているか無効です。                                        |
| 10506    | XQuery 式は定義されていない名前を参照しています。                                              |
| 10507    | XPath または XQuery 式を処理中に入力エラーが検出されました。                                     |
| 10508    | XQuery 式に無効な名前式または内容式が含まれています。                                            |
| 10509    | サポートされていない XQuery 言語機能が指定されています。                                          |
| 10510    | キャスト式のオペランドとして、または constructor 関数の引数としてストリング・リテラルが指定されていません。              |
| 10601    | XQuery 関数または演算子を処理中に、算術計算エラーが検出されました。                                     |
| 10602    | XQuery 関数または演算子を処理中に、キャスト・エラーが検出されました。                                    |
| 10603    | XQuery 関数または演算子を処理中に、文字処理エラーが検出されました。                                     |
| 10604    | XQuery 関数の処理に文書コンテキストが提供されませんでした。                                         |
| 10605    | XQuery 関数または演算子を処理中に、日時エラーが検出されました。                                       |
| 10606    | XQuery 関数または演算子を処理するためのコンテキスト項目がありません。                                    |
| 10607    | XQuery 関数または演算子を処理中に、ネーム・スペース・エラーが検出されました。                                |
| 10608    | XQuery 関数または演算子の引数でエラーが検出されました。                                           |
| 10609    | XQuery 関数または演算子を処理中に、正規表現エラーが検出されました。                                     |
| 10610    | XQuery 関数または演算子を処理中に、タイプ・エラーが検出されました。                                     |
| 10611    | XQuery 関数または演算子を処理中に、原因不明のエラーが検出されました。                                    |
| 10701    | XQuery 更新式は、トランスフォーム式の変更節の外部で使用されます。                                      |
| 10702    | トランスフォーム式の変更節にある XQuery 式は、更新式または空のシーケンス式ではありません。                         |
| 10703    | XQuery 基本更新式のターゲット・ノードが無効です。                                              |
| 10704    | XQuery トランスフォーム式に、非互換の基本更新式が含まれます。                                        |
| 10705    | XQuery トランスフォーム式のコピー節に、単一の XML ノードではない割り当て値が含まれています。                      |
| 10706    | XQuery 置換式の置換シーケンスに無効なノードが含まれています。                                        |
| 10707    | XQuery トランスフォーム式の結果が、XQuery および XPath データ・モデルの有効なインスタンスではありません。           |
| 10708    | XQuery 更新式は、別の更新式またはエレメント・ノードの範囲内ネーム・スペースと競合する、新しいネーム・スペース・バインディングを導入します。 |
| 10709    | 空ではない接頭部を持つ QName が指定された処理命令ノードの名前変更。                                     |
| 10901    | XQuery 式の QName の長さが製品の制限を超えています。                                         |

表 14. クラス・コード 10: XQuery エラー (続き)

| SQLSTATE | 意味                                           |
|----------|----------------------------------------------|
| 10902    | XQuery 原子値が DB2 XQuery 演算子または関数の長さ制限を超えています。 |
| 10903    | 一致する XQuery ノードの数が内部制限を超えました。                |

## クラス・コード 20 CASE ステートメントにケースが見つからない

表 15. クラス・コード 20: CASE ステートメントにケースが見つからない

| SQLSTATE | 意味                            |
|----------|-------------------------------|
| 20000    | CASE ステートメント用のケースが見つかりませんでした。 |

## クラス・コード 21 カーディナリティー違反

表 16. クラス・コード 21: カーディナリティー違反

| SQLSTATE | 意味                                                       |
|----------|----------------------------------------------------------|
| 21000    | SELECT INTO の結果が複数行の結果表になったか、または基本述部の副照会の結果が複数の値になっています。 |
| 21501    | 自己参照表への複数行の INSERT は無効です。                                |
| 21502    | 主キーの複数行 UPDATE は無効です。                                    |
| 21504    | RESTRICT または SET NULL の削除規則を持つ自己参照表からの複数行 DELETE は無効です。  |
| 21505    | 行関数は 1 行のみを戻さなければなりません。                                  |
| 21506    | 表の同じ行を、更新、削除または挿入操作のうち、複数のターゲットにすることはできません。              |
| 21507    | 管理タスクに指定された SQL ステートメントの結果は、行が複数になるか、あるいは列の数が誤ったものになります。 |

## クラス・コード 22 データ例外

表 17. クラス・コード 22: データ例外

| SQLSTATE | 意味                                                                                                  |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 22001    | 文字データの右側が切り捨てられました。例えば、更新または挿入の値が、列には長すぎるストリングである、またはホスト変数が小さすぎるため、日時の値をそのホスト変数に割り当てられない、などが考えられます。 |
| 22002    | 値が NULL、または標識パラメーターがないことが見つかりました。例えば、標識変数が指定されていないため、NULL 値がホスト変数に割り当てられない、などが考えられます。               |
| 22003    | 数値が範囲を超えています。                                                                                       |
| 22004    | PARAMETER STYLE GENERAL と定義されているプロシージャから、または NULL ではない引数で呼び出されているタイプ保護メソッドから NULL 値を返すことはできません。     |

表 17. クラス・コード 22: データ例外 (続き)

| SQLSTATE 値 | 意味                                                                                 |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 22007      | 無効な日時フォーマットが検出されました。つまり、無効なストリング表現または値が指定されました。                                    |
| 22008      | 日時フィールドにオーバーフローが発生しました。例えば、日付またはタイム・スタンプの算術演算の結果が、有効な日付の範囲内でないことが考えられます。           |
| 2200G      | 最も特定のタイプが一致しません。                                                                   |
| 2200L      | XML 値が、単一のルート・エレメントを持つ整形形式文書になっていません。                                              |
| 2200M      | 値を整形形式 XML 文書として構文解析すること、または XML スキーマに従って妥当性検査することに失敗しました。                         |
| 2200S      | XML コメントは無効です。                                                                     |
| 2200T      | XML 処理命令は無効です。                                                                     |
| 2200W      | XML 値にはシリアライズできないデータが含まれています。                                                      |
| 22011      | サブストリング・エラーが発生しました。例えば、SUBSTR の引数が範囲内でないことが考えられます。                                 |
| 22012      | 0 による除算は無効です。                                                                      |
| 22018      | CAST 指定またはキャスト・スカラー関数の文字値が無効です。                                                    |
| 22019      | LIKE 述部に無効なエスケープ文字があります。                                                           |
| 2201W      | FETCH FIRST 節または LIMIT 節の行数が無効です。                                                  |
| 2201X      | 結果の OFFSET 節の行数が無効です。                                                              |
| 22021      | 文字がコード化文字セットにありません。                                                                |
| 22024      | NUL で終了する入力ホスト変数またはパラメーターに、NUL がありません。                                             |
| 22025      | LIKE 述部ストリング・パターンに、無効なエスケープ文字のオカレンスがあります。                                          |
| 2202D      | NULL インスタンスは mutator メソッドで使用されます。                                                  |
| 2202E      | 配列エレメントのエラーです。                                                                     |
| 2202F      | 配列データの右側が切り捨てられました。                                                                |
| 2202H      | TABLESAMPLE 節のサンプルのサイズは無効です。                                                       |
| 22501      | 可変長ストリングの長さコントロール・フィールドが、負の値になっているか、または最大値を超えています。                                 |
| 22504      | 混合データの値が無効です。                                                                      |
| 22506      | TOD クロックが誤動作しているか、またはオペレーティング・システムの timezone パラメーターが範囲外であるため、日時特殊レジスターに対する参照が無効です。 |
| 22522      | CCSID の値が、完全に無効であるか、データ・タイプまたはサブタイプに対して無効であるか、またはエンコード・スキーマに対して無効です。               |
| 22524      | 文字変換の結果、切り捨てになりました。                                                                |
| 22525      | データ・パーティション・キー値が無効です。                                                              |
| 22526      | キー・トランスフォーム関数が行を生成しなかったか、または重複する行を生成しました。                                          |
| 22527      | 複数行の挿入で無効な入力データが検出されました。                                                           |
| 22531      | 組み込みまたはシステム提供ルーチンの引数によってエラーが発生しました。                                                |

表 17. クラス・コード 22: データ例外 (続き)

| SQLSTATE 値 | 意味                                                                    |
|------------|-----------------------------------------------------------------------|
| 22532      | XSROBJECT が XML スキーマ・リポジトリ内で見つかりません。                                  |
| 22533      | ユニークな XSROBJECT が XML スキーマ・リポジトリ内で見つかりませんでした。                         |
| 22534      | XML スキーマ文書が、include または redefine を使用して他の XML スキーマ文書に接続していません。         |
| 22535      | XML スキーマは指定されたグローバル・エレメントを宣言していません。                                   |
| 22536      | XML 値には、必要なルート・エレメントが含まれていません。                                        |
| 22538      | XML スキーマ更新は、既存の XML スキーマと互換性がありません。                                   |
| 22541      | パイナリー XML 値に認識されないデータが含まれています。                                        |
| 225D1      | 指定された XML スキーマに対して分解は有効ではありません。                                       |
| 225D2      | XML 文書の分解中に、SQL エラーが発生しました。                                           |
| 225D3      | XML 文書の分解により、XML スキーマ・タイプにとって無効な値が検出されました。                            |
| 225D4      | XML 文書の分解により、ターゲット SQL タイプにとって無効な値が検出されました。                           |
| 225D5      | XML 文書の分解により、コンテキスト内で不明または無効な XML ノードが検出されました。                        |
| 225D6      | 指定された XML スキーマで分解をサポートするには、現行バージョンにマイグレーションする必要があります。                 |
| 225D7      | XML 文書の分解により、XML スキーマ内でグローバル・エレメント complexType ではないルート・エレメントが検出されました。 |
| 225DE      | XML スキーマについて分解を有効にすることはできません。                                         |
| 225X0      | XSLT プロセッサはエラーを戻しました。                                                 |

## クラス・コード 23 制約違反

表 18. クラス・コード 23: 制約違反

| SQLSTATE 値 | 意味                                             |
|------------|------------------------------------------------|
| 23001      | 親キーの更新または削除が、RESTRICT 更新または削除の規則によって妨げられています。  |
| 23502      | 挿入または更新の値が NULL ですが、列に NULL 値を入れることはできません。     |
| 23503      | 外部キーの挿入または更新の値が無効です。                           |
| 23504      | 親キーの更新または削除が、NO ACTION 更新または削除の規則によって妨げられています。 |
| 23505      | ユニーク索引またはユニーク制約で定められている制約に対する違反が発生しました。        |
| 23510      | RLST 表によるコマンド使用時の制約違反が発生しました。                  |
| 23511      | チェック制約が削除を制限しているため、親行を削除できません。                 |
| 23512      | 表に制約定義を満たしていない行があるため、チェック制約を追加できません。           |

表 18. クラス・コード 23: 制約違反 (続き)

| SQLSTATE 値 | 意味                                                          |
|------------|-------------------------------------------------------------|
| 23513      | INSERT または UPDATE の結果の行が、チェック制約定義に合いません。                    |
| 23514      | データ・チェック処理が制約違反を見つけました。                                     |
| 23515      | 表にある指定されたキーの値が重複しているため、ユニーク索引を作成できないか、またはユニーク制約を追加できませんでした。 |
| 23520      | 外部キーの値が、親表の親キーとすべて等しくないため、外部キーを定義できません。                     |
| 23521      | カタログ表の更新が、内部制約に違反します。                                       |
| 23522      | ID 列またはシーケンスの値の範囲を使い果たしました。                                 |
| 23523      | セキュリティ・ラベル列に無効な値が指定されています。                                  |
| 23524      | UNION ALL ビュー内の無効な行移動                                       |
| 23525      | XML 列での索引の挿入または更新中にエラーが検出されたため、XML 値を挿入または更新できませんでした。       |
| 23526      | 索引への XML 値の挿入中にエラーが検出されたため、XML 列の索引を作成することができませんでした。        |

## クラス・コード 24 無効なカーソル状態

表 19. クラス・コード 24: 無効なカーソル状態

| SQLSTATE 値 | 意味                                                           |
|------------|--------------------------------------------------------------|
| 24501      | 識別されたカーソルがオープンしていません。                                        |
| 24502      | OPEN ステートメントで識別されたカーソルが、すでにオープンしています。                        |
| 24504      | UPDATE、DELETE、SET、または GET ステートメントで識別されたカーソルが、行に位置付けられていません。  |
| 24506      | PREPARE で識別されたステートメントは、オープン・カーソルのステートメントです。                  |
| 24510      | UPDATE または DELETE 操作が削除ホールまたは更新ホールに対して試行されました。               |
| 24512      | 結果表が基本表と一致しません。                                              |
| 24513      | カーソル位置が不明のため、FETCH NEXT、PRIOR、CURRENT、または RELATIVE は許可されません。 |
| 24514      | 以前のエラーによって、このカーソルを使用できません。                                   |
| 24516      | カーソルが結果セットにすでに割り当てられています。                                    |
| 24517      | カーソルが、外部関数またはメソッドによりオープンされたままになっています。                        |
| 24525      | カーソル上での OPEN または FETCH によって、同一カーソル上で別の再帰的な操作が試行されました。        |

## クラス・コード 25 無効なトランザクション状態

表 20. クラス・コード 25: 無効なトランザクション状態

| SQLSTATE | 意味                                                 |
|----------|----------------------------------------------------|
| 25000    | 挿入、更新、または削除操作またはプロシージャ呼び出しは、それらが指定されたコンテキストでは無効です。 |
| 25001    | ステートメントは、作業単位の最初のステートメントとしてのみ許可されません。              |
| 25501    | ステートメントは、作業単位の最初のステートメントとしてのみ許可されません。              |
| 25502    | 単一トランザクションでは操作を複数回行えません。                           |

## クラス・コード 26 無効な SQL ステートメント ID

表 21. クラス・コード 26: 無効な SQL ステートメント ID

| SQLSTATE | 意味                   |
|----------|----------------------|
| 26501    | 識別されたステートメントが存在しません。 |

## クラス・コード 27 トリガー・データ変更違反

表 22. クラス・コード 27 トリガー・データ変更違反

| SQLSTATE | 意味                                        |
|----------|-------------------------------------------|
| 27000    | 同じ SQL ステートメントで、同じ表の同じ行に対する変更が複数回試行されました。 |

## クラス・コード 28 無効な許可指定

表 23. クラス・コード 28: 無効な許可指定

| SQLSTATE | 意味        |
|----------|-----------|
| 28000    | 許可名が無効です。 |

## クラス・コード 2D 無効なトランザクション終了

表 24. クラス・コード 2D: 無効なトランザクション終了

| SQLSTATE | 意味                                                  |
|----------|-----------------------------------------------------|
| 2D521    | SQL COMMIT または ROLLBACK が、現在の操作環境では無効です。            |
| 2D522    | COMMIT と ROLLBACK は、ATOMIC コンパウンド・ステートメントでは許可されません。 |
| 2D528    | 動的 COMMIT が、アプリケーション実行環境では無効です。                     |
| 2D529    | 動的 ROLLBACK が、アプリケーション実行環境では無効です。                   |

## クラス・コード 2E 無効な接続

表 25. クラス・コード 2E: 無効な接続名

| SQLSTATE | 意味        |
|----------|-----------|
| 2E000    | 接続名が無効です。 |

## クラス・コード 34 無効なカーソル名

表 26. クラス・コード 34: 無効なカーソル名

| SQLSTATE | 意味          |
|----------|-------------|
| 34000    | カーソル名が無効です。 |

## クラス・コード 36 無効なカーソル指定

表 27. クラス・コード 36: 無効なカーソル指定

| SQLSTATE | 意味                                      |
|----------|-----------------------------------------|
| 36001    | SENSITIVE カーソルは、指定した選択ステートメントには定義できません。 |

## クラス・コード 38 外部関数例外

表 28. クラス・コード 38: 外部関数例外

| SQLSTATE | 意味                                                                                                |
|----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 38XXX    | 外部ルーチンまたはトリガーにより、有効なエラー SQLSTATE が戻されました。                                                         |
| 38001    | 外部ルーチンは、SQL ステートメントの実行を許可されません。                                                                   |
| 38002    | ルーチンがデータを変更しようとしたが、このルーチンは MODIFIES SQL DATA (SQL データの変更) として定義されていません。                           |
| 38003    | ステートメントはルーチンでは許可されていません。                                                                          |
| 38004    | ルーチンがデータの読み取りを試みましたが、このルーチンは READS SQL DATA (SQL データの読み取り) として定義されていませんでした。                       |
| 38501    | ユーザー定義の関数、外部プロシージャ、またはトリガー (SIMPLE CALL または SIMPLE CALL WITH NULLS の呼び出し規約を使用) の呼び出し中にエラーが発生しました。 |
| 38502    | 外部関数は、SQL ステートメントの実行を許可されていません。                                                                   |
| 38503    | ユーザー定義関数が異常終了しました (ABEND)。                                                                        |
| 38504    | 予想されるループ状態を停止するために、ユーザーによってユーザー定義関数が中断されました。                                                      |
| 38505    | SQL ステートメントは、FINAL CALL のルーチンでは許可されません。                                                           |
| 38506    | OLE DB プロバイダーからのエラーのため、関数が失敗しました。                                                                 |

表 28. クラス・コード 38: 外部関数例外 (続き)

| SQLSTATE 値 | 意味                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 38552      | <p>SYSFUN スキーマの関数 (IBM 提供) が異常終了しました。</p> <p>メッセージ・テキストで次の理由コードの 1 つを検出することができます。</p> <p><b>01</b> 数値が範囲外</p> <p><b>02</b> ゼロによる除算</p> <p><b>03</b> 算術オーバーフローまたはアンダーフロー</p> <p><b>04</b> 無効な日付形式</p> <p><b>05</b> 無効な時刻フォーマット</p> <p><b>06</b> 無効なタイム・スタンプ・フォーマット</p> <p><b>07</b> タイム・スタンプ期間の無効な文字表示</p> <p><b>08</b> 無効なインターバル・タイプ (1、2、4、8、16、32、64、128、256 のいずれかでなければならない。)</p> <p><b>09</b> スtringが長すぎる</p> <p><b>10</b> String関数の長さまたは位置が範囲外になっている</p> <p><b>11</b> 浮動小数点数では無効な文字表示である</p> |
| 38553      | システム・スキーマ内のルーチンがエラーにより終了しました。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 38554      | プロシージャは、パラメーターのサポートされないバージョン番号を検出しました。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 38H01      | MQSeries 関数が初期化に失敗しました。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 38H02      | MQSeries Application Messaging Interface がセッションを終了できませんでした。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 38H03      | MQSeries Application Messaging Interface がメッセージを正常に処理できませんでした。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 38H04      | MQSeries Application Messaging Interface がメッセージを送信できませんでした。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 38H05      | MQSeries Application Messaging Interface がメッセージの読み取りまたは受信に失敗しました。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 38H06      | MQSeries Application Messaging Interface サブスクリプション (サブスクリプション解除) 要求が失敗しました。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 38H07      | MQSeries Application Messageing Interface が作業単位のコミットに失敗しました。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 38H08      | MQSeries Application Messaging Interface のポリシー・エラー。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 38H09      | MQSeries XA (2 フェーズ・コミット) API 呼び出しエラー。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 38H0A      | MQSeries Application Messaging Interface が作業単位をロールバックできませんでした。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 38H10      | テキスト検索処理中にエラーが発生しました。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 38H11      | テキスト検索サポートを使用できません。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 38H12      | テキスト検索索引が列に存在しないため、列でテキスト検索を使用できません。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |

表 28. クラス・コード 38: 外部関数例外 (続き)

| SQLSTATE 値 | 意味                                              |
|------------|-------------------------------------------------|
| 38H13      | 同じテキスト検索索引で、矛盾する検索サーバー管理プロシージャまたはコマンドが実行されています。 |
| 38H14      | 検索サーバー管理プロシージャまたはコマンド・エラー。                      |

## クラス・コード 39 外部関数呼び出し例外

表 29. クラス・コード 39: 外部関数呼び出し例外

| SQLSTATE 値 | 意味                                |
|------------|-----------------------------------|
| 39001      | ユーザー定義関数が無効な SQLSTATE を返しました。     |
| 39004      | IN または INOUT 引数では NULL 値は許可されません。 |
| 39501      | 引数に関連する目印が修正されました。                |

## クラス・コード 3B SAVEPOINT が無効

表 30. クラス・コード 3B: SAVEPOINT が無効

| SQLSTATE 値 | 意味                                                                                        |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| 3B001      | セーブポイントが無効です。                                                                             |
| 3B002      | セーブポイントが最大数に達しました。                                                                        |
| 3B501      | 重複するセーブポイント名が検出されました。                                                                     |
| 3B502      | RELEASE または ROLLBACK TO SAVEPOINT が指定されましたが、セーブポイントは存在しません。                               |
| 3B503      | SAVEPOINT、RELEASE SAVEPOINT、または ROLLBACK TO SAVEPOINT は、トリガーまたはグローバル・トランザクションでは許可されていません。 |

## クラス・コード 40 トランザクション・ロールバック

表 31. クラス・コード 40: トランザクション・ロールバック

| SQLSTATE 値 | 意味                                      |
|------------|-----------------------------------------|
| 40001      | 自動ロールバックでデッドロックまたはタイムアウトが発生しました。        |
| 40003      | ステートメント完了が不明です。                         |
| 40504      | システム・エラーのため、作業単位がロールバックされました。           |
| 40506      | 現在のトランザクションは、SQL エラーのためロールバックしました。      |
| 40507      | 現在のトランザクションは、索引を作成するのに失敗したためロールバックしました。 |

## クラス・コード 42 構文エラーまたはアクセス規則違反

表 32. クラス・コード 42: 構文エラーまたはアクセス規則違反

| SQLSTATE 値 | 意味                                                    |
|------------|-------------------------------------------------------|
| 42501      | 許可 ID に、識別されたオブジェクトに対して指定された操作を実行する権限がありません。          |
| 42502      | 許可 ID に、指定された操作を実行する権限がありません。                         |
| 42504      | 指定された許可名から、指定された特権、セキュリティー・ラベル、免除、または役割を取り消すことができません。 |
| 42506      | 所有者の許可が失敗しました。                                        |
| 42508      | 指定されたデータベース特権は、PUBLIC (共有) には与えられません。                 |
| 42509      | SQL ステートメントは DYNAMICRULES オプションのため許可されません。            |
| 42511      | DATALINK 値を検索できません。                                   |
| 42512      | 許可 ID には、保護された列へのアクセス権がありません。                         |
| 42514      | 許可 ID には、オブジェクトの所有権に必要な特権が与えられていません。                  |
| 42516      | ユーザー・マッピング・リポジトリーでの認証が失敗しました。                         |
| 42517      | 指定された許可 ID はトラステッド・コンテキストの使用を許可されていません。               |
| 42519      | この許可 ID は、保護表に対して操作を実行することは許可されていません。                 |
| 42520      | 許可 ID にセキュリティー・ラベルがないため、組み込み関数を実行できませんでした。            |
| 42521      | 指定された許可 ID に権限または特権を付与できません。                          |
| 42522      | 許可 ID に、列を保護したり列から保護を除去する信用証明情報がありません。                |
| 42523      | 指定された許可名から、指定された特権、セキュリティー・ラベル、または免除を取り消すことができません。    |
| 42524      | 現行セッションのユーザーにワークロード使用権限がありません。                        |
| 42601      | 文字、トークン、または節が、無効もしくは欠けています。                           |
| 42602      | 名前に無効な文字が見つかりました。                                     |
| 42603      | 未終了ストリング定数が見つかりました。                                   |
| 42604      | 無効な数値またはストリング定数が見つかりました。                              |
| 42605      | スカラー関数に指定された引数の数が無効です。                                |
| 42606      | 無効な 16 進定数が見つかりました。                                   |
| 42607      | 列関数のオペランドが無効です。                                       |
| 42608      | VALUES または割り当てステートメントでの NULL または DEFAULT の使用は無効です。    |
| 42609      | 演算子または述部のオペランドが、すべてパラメーター・マーカースです。                    |
| 42610      | パラメーター・マーカースまたは NULL 値は許可されていません。                     |
| 42611      | 列、引数、パラメーター、またはグローバル変数の定義が無効です。                       |
| 42612      | ステートメント・ストリングが、示されているコンテキストでは受け入れられない SQL ステートメントです。  |
| 42613      | 節が相互に排他的です。                                           |
| 42614      | 重複キーワードは無効です。                                         |

表 32. クラス・コード 42: 構文エラーまたはアクセス規則違反 (続き)

| SQLSTATE 値 | 意味                                                            |
|------------|---------------------------------------------------------------|
| 42615      | 無効な代替が見つかりました。                                                |
| 42616      | 無効なオプションが指定されています。                                            |
| 42617      | ステートメント・ストリングがブランクまたは空です。                                     |
| 42618      | ホスト変数は許可されていません。                                              |
| 42620      | 読み取り専用 SCROLL が UPDATE 節で指定されました。                             |
| 42621      | チェック制約が無効です。                                                  |
| 42622      | 名前またはラベルが長すぎます。                                               |
| 42623      | DEFAULT 節を指定できません。                                            |
| 42625      | CASE 式が無効です。                                                  |
| 42627      | RETURNS 節は EXPRESSION AS 節を使用して、述部を指定する前に指定する必要があります。         |
| 42628      | 複数の TO SQL または FROM SQL トランスフォーム関数が、トランスフォーム定義に定義されています。      |
| 42629      | SQL ルーチンにパラメーター名を指定しなければなりません。                                |
| 42630      | ネストされたコンパウンド・ステートメントに SQLSTATE または SQLCODE 変数宣言を指定することはできません。 |
| 42631      | SQL 関数またはメソッド内の RETURN ステートメントには、戻り値が含まれていなければなりません。          |
| 42633      | XMLATTRIBUTES または XMLFOREST の引数には AS 節が必要です。                  |
| 42634      | XML 名は無効です。                                                   |
| 42635      | XML ネーム・スペース接頭部は無効です。                                         |
| 42636      | BY REF 節が指定されていないか、または使用法が誤っています。                             |
| 42637      | DECLARE CURSOR ステートメント内で XQuery 式を指定することはできません。               |
| 42638      | 難読化されたステートメントは無効です。                                           |
| 42701      | INSERT または UPDATE 操作、あるいは SET 遷移変数ステートメントで、重複列名が検出されました。      |
| 42702      | 重複する名前があるため、列の参照が未確定です。                                       |
| 42703      | 未定義の列、属性、パラメーター名、または期間が検出されました。                               |
| 42704      | 未定義のオブジェクトまたは制約名が見つかりました。                                     |
| 42705      | 未定義のサーバー名が見つかりました。                                            |
| 42707      | ORDER BY の列名が、結果表の列を識別していません。                                 |
| 42709      | 重複する列名がキー列リストに指定されました。                                        |
| 42710      | 重複するオブジェクトまたは制約名が見つかりました。                                     |
| 42711      | オブジェクト定義または ALTER ステートメントの中で、列、期間、または属性名の重複が検出されました。          |
| 42712      | 重複する表指定子が FROM 節で見つかりました。                                     |
| 42713      | オブジェクトのリストで、重複オブジェクトが検出されました。                                 |
| 42720      | リモート・データベースのノード名が、ノードのディレクトリーに見つかりませんでした。                     |

表 32. クラス・コード 42: 構文エラーまたはアクセス規則違反 (続き)

| SQLSTATE 値 | 意味                                                                     |
|------------|------------------------------------------------------------------------|
| 42723      | 同じシグニチャーを持つルーチンが、それが定義されているスキーマ、モジュール、または複合ブロックに既に存在します。               |
| 42724      | ユーザー定義関数またはプロシージャに使用される外部プログラムにアクセスできません。                              |
| 42725      | ルーチンが、(シグニチャーまたは特定のインスタンス名を使わずに) 直接参照されましたが、そのルーチンの特定インスタンスが複数存在します。   |
| 42726      | 名前派生表に重複する名前が見つかりました。                                                  |
| 42727      | 新しい表に、デフォルト 1 次表スペースがありません。                                            |
| 42728      | メンバーの番号またはデータベース・パーティション番号のリストに、重複するメンバー番号またはデータベース・パーティション番号が検出されました。 |
| 42729      | 指定されたメンバー番号またはデータベース・パーティション番号は無効です。                                   |
| 42730      | コンテナ名が、別の表スペースによって既に使用されています。                                          |
| 42731      | コンテナ名が、この表スペースによってすでに使用されています。                                         |
| 42732      | SET CURRENT PATH ステートメントで、重複スキーマ名が見つかりました。                             |
| 42734      | 重複するパラメーター名、SQL 変数名、カーソル名、条件名、またはラベルが見つかりました。                          |
| 42735      | 表スペースのためのデータベース・パーティション・グループがバッファー・プールに定義されていません。                      |
| 42736      | LEAVE ステートメントに指定されているラベルが見つからないか、または無効です。                              |
| 42737      | 指定された条件は定義されていません。                                                     |
| 42738      | 重複する列名または無名列が、FOR ステートメントの DECLARE CURSOR ステートメントに指定されました。             |
| 42739      | 重複するトランスフォームが見つかりました。                                                  |
| 42740      | 指定されたタイプのトランスフォームが見つかりませんでした。ドロップされたトランスフォームはありません。                    |
| 42741      | トランスフォーム・グループがデータ・タイプに定義されていません。                                       |
| 42742      | 型付き表または型付きビュー階層の中に、同じタイプの副表またはサブビューがすでに存在しています。                        |
| 42743      | 索引拡張子の中に検索メソッドが見つかりません。                                                |
| 42744      | TO SQL または FROM SQL トランスフォーム関数が、トランスフォーム・グループに定義されていません。               |
| 42745      | ルーチンが、既存のメソッドとのオーバーライド・リレーションシップを定義しています。                              |
| 42746      | 同じタイプ階層で、メソッドと構造化タイプを同じ名前にすることはできません。                                  |
| 42748      | ストレージ・パスがデータベースにすでに存在するか、または 2 回以上指定されています。                            |
| 42749      | XML スキーマには、ターゲット・ネーム・スペースとスキーマ・ロケーションが同じである XML スキーマ文書がすでに存在しています。     |

表 32. クラス・コード 42: 構文エラーまたはアクセス規則違反 (続き)

| SQLSTATE 値 | 意味                                                                                                               |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4274A      | XSROBJECT が XML スキーマ・リポジトリ内で見つかりません。                                                                             |
| 4274B      | ユニークな XSROBJECT が XML スキーマ・リポジトリ内で見つかりませんでした。                                                                    |
| 4274C      | 指定された属性がトラステッド・コンテキストで見つかりませんでした。                                                                                |
| 4274D      | 指定された属性はトラステッド・コンテキストにすでに存在しています。                                                                                |
| 4274F      | セキュリティー・ラベル・コンポーネントにコンポーネント・エレメントが定義されていません。                                                                     |
| 4274G      | セキュリティー・ラベル・コンポーネントは、指定したセキュリティー・ラベルにより使用されるセキュリティー・ラベル・ポリシーで定義されていません。                                          |
| 4274H      | 指定されたアクセス規則が、指定されたセキュリティー・ポリシーに対して存在していません。                                                                      |
| 4274I      | セキュリティー・ラベルが、指定されたセキュリティー・ポリシーに対して存在していません。                                                                      |
| 4274J      | データベース・パーティション・グループはすでにこのバッファー・プールにより使用されています。                                                                   |
| 4274K      | ルーチンを呼び出す際の名前付き引数の使用が無効です。                                                                                       |
| 4274L      | 指定されたセクションが見つからないため、 <code>EXPLAIN</code> 機能が失敗しました。                                                             |
| 4274M      | 未定義の期間名が検出されました。                                                                                                 |
| 42802      | 挿入値または更新値の数が、列の数と同じではありません。                                                                                      |
| 42803      | 列がグループ列ではないため <code>SELECT</code> または <code>HAVING</code> 節での列の参照が無効であるか、または <code>GROUP BY</code> 節での列の参照が無効です。 |
| 42804      | <code>CASE</code> 式の結果式に互換性がありません。                                                                               |
| 42805      | <code>ORDER BY</code> 節の整数が、結果表の列を識別していません。                                                                      |
| 42806      | データ・タイプに互換性がないため、ホスト変数に値を割り当てられません。                                                                              |
| 42807      | データ変更ステートメントはこのオブジェクトに対して許可されていません。                                                                              |
| 42808      | <code>INSERT</code> または <code>UPDATE</code> 操作で識別された列は更新できません。                                                   |
| 42809      | 識別されたオブジェクトは、ステートメントが適用するタイプのオブジェクトではありません。                                                                      |
| 42810      | 基本表が <code>FOREIGN KEY</code> 節で識別されません。                                                                         |
| 42811      | 指定された列数が、 <code>SELECT</code> 節の列数と同じではありません。                                                                    |
| 42813      | 指定されたビューには、 <code>WITH CHECK OPTION</code> を使用できません。                                                             |
| 42814      | 表内で唯一の列であるため、その列をドロップすることはできません。                                                                                 |
| 42815      | データ・タイプ、長さ、位取り、値、または <code>CCSID</code> が無効です。                                                                   |
| 42816      | 式の日時の値または期間が無効です。                                                                                                |
| 42817      | 列に従属関係があるため、列をドロップできません。                                                                                         |
| 42818      | 演算子または関数のオペランドに互換性がないか、または比較可能ではありません。                                                                           |
| 42819      | 算術演算のオペランド、または数値を必要とする関数のオペランドが無効です。                                                                             |

表 32. クラス・コード 42: 構文エラーまたはアクセス規則違反 (続き)

| SQLSTATE 値 | 意味                                                                               |
|------------|----------------------------------------------------------------------------------|
| 42820      | 数値定数が長すぎるか、またはそのデータ・タイプの範囲内にはない値を持っています。                                         |
| 42821      | 列または変数への割り当てのデータ・タイプが、このデータ・タイプと非互換です。                                           |
| 42823      | 1 つの列しか許可されていない副照会から複数の列が返されました。                                                 |
| 42824      | LIKE のオペランドがストリングではないか、または最初のオペランドが列ではありません。                                     |
| 42825      | UNION、INTERSECT、EXCEPT、または VALUES の行に、互換性のある列がありません。                             |
| 42826      | UNION、INTERSECT、EXCEPT、または VALUES の行が、同じ数の列を持っていません。                             |
| 42827      | UPDATE または DELETE で識別された表が、カーソルによって指定された表と同じではありません。                             |
| 42828      | UPDATE または DELETE ステートメントのカーソルによって指定された表を修正できないか、またはカーソルが読み取り専用です。               |
| 42829      | カーソルによって指定された結果表を修正できないため、FOR UPDATE OF が無効です。                                   |
| 42830      | 外部キーが親キーの記述に適合しません。                                                              |
| 42831      | 主キーの列、ユニーク・キーの列、ROWID 列、行変更タイム・スタンプ列、行開始列、行終了列、またはアプリケーション期間の列では、NULL 値が許可されません。 |
| 42832      | 操作がシステム・オブジェクトでは許可されていません。                                                       |
| 42834      | 外部キーのいずれの列にも NULL 値を割り当てられないため、SET NULL は指定できません。                                |
| 42835      | 名前派生表の間では、循環参照は指定できません。                                                          |
| 42836      | 再帰的な名前派生表の指定は無効です。                                                               |
| 42837      | 列の属性が現在の列属性と非互換であるため、列を変更できません。                                                  |
| 42838      | 無効な表スペースの使用が見つかりました。                                                             |
| 42839      | 索引と長い列は、表から独立した表スペースには入れられません。                                                   |
| 42840      | 無効な AS CAST オプションの使用が見つかりました。                                                    |
| 42841      | 型なし式をユーザー定義タイプまたは参照タイプにすることはできません。                                               |
| 42842      | 指定されたオプションが、列または期間の記述と矛盾するため、列、期間、またはパラメーターの定義が無効です。                             |
| 42845      | 無効な VARIANT または EXTERNAL ACTION 関数の使用が見つかりました。                                   |
| 42846      | ソース・タイプからターゲット・タイプへのキャストはサポートされません。                                              |
| 42849      | 外部ルーチンでは指定されたオプションはサポートされていません。                                                  |
| 42852      | GRANT または REVOKE で指定された権限が無効であるか、または矛盾しています。(例えば、ビューでの GRANT ALTER など)           |
| 42853      | オプションの代替が両方とも指定されていたか、または同じオプションが複数回指定されています。                                    |

表 32. クラス・コード 42: 構文エラーまたはアクセス規則違反 (続き)

| SQLSTATE 値 | 意味                                                                                                                 |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 42854      | 選択リストの結果列データ・タイプは、型付きビューまたはマテリアライズ照会表定義に定義されているタイプと非互換です。                                                          |
| 42855      | このホスト変数に対する LOB の割り当ては許可されません。このカーソルでの、この LOB のすべてのフェッチに対するターゲット・ホスト変数は、ローケータあるいは LOB 変数である必要があります。                |
| 42858      | 操作を指定オブジェクトに適用させることができません。                                                                                         |
| 42860      | この制約は主キー、ROWID、または期間を強制しているため、この制約を除去することはできません。                                                                   |
| 42863      | REXX で未定義のホスト変数が見つかりました。                                                                                           |
| 42866      | CREATE FUNCTION ステートメントの中の CAST FROM 節または RETURNS 節に入っているデータ・タイプが、ソース関数から戻されたデータ・タイプまたは関数内の RETURN ステートメントに適合しません。 |
| 42867      | 指定されたオプションが矛盾しています。                                                                                                |
| 42872      | FETCH ステートメント節がカーソル定義と非互換です。                                                                                       |
| 42875      | CREATE SCHEMA で作成するオブジェクトには、スキーマ名と同じ修飾子を付ける必要があります。                                                                |
| 42877      | 列名は修飾できません。                                                                                                        |
| 42878      | 無効な関数またはプロシージャ名が EXTERNAL キーワードで使用されました。                                                                           |
| 42879      | CREATE FUNCTION ステートメントの 1 つ以上の入力パラメーターのデータ・タイプが、ソース関数の対応するデータ・タイプに適合しません。                                         |
| 42880      | CAST TO と CAST FROM のデータ・タイプが一致しないか、または固定ストリングが必ず切り捨てられる可能性があります。                                                  |
| 42881      | 行ベース関数の使用が無効です。                                                                                                    |
| 42882      | 特定のインスタンス名の修飾子が、関数名の修飾子と等しくありません。                                                                                  |
| 42883      | 一致するシグニチャーのルーチンが見つかりませんでした。                                                                                        |
| 42884      | 指定された名前と互換性のある引数を持つルーチンが見つかりませんでした。                                                                                |
| 42885      | CREATE FUNCTION ステートメントで指定した入力パラメーターの数が、SOURCE 節で指定した関数によって与えられた数と一致しません。                                          |
| 42886      | IN、OUT、または INOUT パラメーター属性が一致しません。                                                                                  |
| 42887      | コンテキストとの関係で関数が無効です。                                                                                                |
| 42888      | 表に主キーがありません。                                                                                                       |
| 42889      | 表にはすでに主キーがあります。                                                                                                    |
| 42890      | 列リストが参照節で指定されていますが、識別された親表が、指定された列名によるユニーク制約を持っていません。                                                              |
| 42891      | 重複する UNIQUE 制約がすでに存在します。                                                                                           |
| 42893      | 別のオブジェクトが従属しているため、オブジェクトまたは制約をドロップ、変更、または転送できないか、または権限をオブジェクトから取り消せません。                                            |
| 42894      | DEFAULT 値が無効です。                                                                                                    |

表 32. クラス・コード 42: 構文エラーまたはアクセス規則違反 (続き)

| SQLSTATE 値 | 意味                                                                                                            |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 42895      | 静的 SQL で、入力ホスト変数のデータ・タイプにプロシージャまたはユーザー定義関数のパラメーターとの互換性がないため、その入力ホスト変数は使用できません。                                |
| 42898      | 無効な相関参照または遷移表がトリガーで検出されました。                                                                                   |
| 428A0      | ユーザー定義関数が基づいているソース派生関数でエラーが発生しました。                                                                            |
| 428A1      | ホスト・ファイル変数によって参照されたファイルにアクセスできません。                                                                            |
| 428A2      | 分散キーとして使用できる列が存在しないため、複数パーティション・データベース・パーティション・グループに表を作成できません。                                                |
| 428A3      | 無効なパスがイベント・モニターに指定されています。                                                                                     |
| 428A4      | 無効な値がイベント・モニターのオプションに指定されています。                                                                                |
| 428A5      | SET INTEGRITY ステートメントに指定されている例外表が、正しい構造ではないか、あるいは生成された列、制約、またはトリガーによって定義されています。                               |
| 428A6      | SET INTEGRITY ステートメントに指定されている例外表は、チェック中の表の 1 つと同じにはできません。                                                     |
| 428A7      | チェック中の表の数が、SET INTEGRITY ステートメントに指定されている例外表の数に一致しません。                                                         |
| 428A8      | 親表または基礎表が SET INTEGRITY ペンディング状態であるときに、下層表で SET INTEGRITY ステートメントを使用して SET INTEGRITY ペンディング状態をリセットすることはできません。 |
| 428A9      | 指定されたメンバー番号またはデータベース・パーティション番号、あるいは指定された範囲のメンバー番号またはデータベース・パーティション番号は無効です。                                    |
| 428AA      | 列名が、イベント・モニター表には無効な列です。                                                                                       |
| 428B0      | ROLLUP、CUBE、または GROUPING SETS に違法なネストがあります。                                                                   |
| 428B1      | 特定のデータベース・パーティション用でない表スペース・コンテナを指定する節がないか、複数回指定されています。                                                        |
| 428B2      | コンテナのパス名が無効です。                                                                                                |
| 428B3      | 無効な SQLSTATE が指定されました。                                                                                        |
| 428B7      | SQL ステートメントで指定された数値は、有効範囲外です。                                                                                 |
| 428B0      | フェデレーテッド・データ・ソース用のプランを作成できません。                                                                                |
| 428C0      | データベース・パーティション・グループ内の唯一のデータベース・パーティションであるため、このデータベース・パーティションをドロップできません。                                       |
| 428C1      | 列のデータ・タイプまたは属性は、1 つの表につき 1 回だけ指定でき、期間は表に対して 1 度だけ指定できます。                                                      |
| 428C2      | 関数本体を調べた結果、指定された節は CREATE FUNCTION ステートメントで指定されていないことがわかりました。                                                 |
| 428C4      | 述部演算子の各サイドにあるエレメントの数が同じではありません。                                                                               |
| 428C5      | データ・ソースからのデータ・タイプについて、データ・タイプのマッピングが見つかりません。                                                                  |

表 32. クラス・コード 42: 構文エラーまたはアクセス規則違反 (続き)

| SQLSTATE 値 | 意味                                                                                                     |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 428C8      | 接続プロシージャと同じ名前のプロシージャに対するデータ定義操作は許可されていません。                                                             |
| 428C9      | INSERT または UPDATE のターゲット列として ROWID、IDENTITY、ROW-BEGIN、ROW-END、または TRANSACTION-START-ID 列を指定することはできません。 |
| 428CA      | 追加モードの表にはクラスター索引を作成できません。                                                                              |
| 428CB      | 表スペースのページ・サイズは、それに関連するバッファ・プールのページ・サイズと一致していなければなりません。                                                 |
| 428D1      | DATALINK の値によって参照されたファイルにアクセスできません。                                                                    |
| 428D4      | FOR に指定されているカーソルを OPEN、CLOSE、または FETCH ステートメントで参照することはできません。                                           |
| 428D5      | 終了ラベルが開始ラベルに一致しません。                                                                                    |
| 428D6      | UNDO は NOT ATOMIC ステートメントでは許可されていません。                                                                  |
| 428D7      | 条件値は許可されていません。                                                                                         |
| 428D8      | SQLSTATE または SQLCODE 変数の宣言あるいは使用は許可されていません。                                                            |
| 428DB      | スーパータイプ、スーパー表、またはスーパービューとしてのオブジェクトは無効です。                                                               |
| 428DC      | 関数またはメソッドは、このタイプのトランスフォームとして無効です。                                                                      |
| 428DD      | 必要なトランスフォームが定義されていません。                                                                                 |
| 428DE      | PAGESIZE 値はサポートされていません。                                                                                |
| 428DF      | CREATE CAST に指定されているデータ・タイプが無効です。                                                                      |
| 428DG      | CREATE CAST に指定されている関数が無効です。                                                                           |
| 428DH      | 操作は型付き表で無効です。                                                                                          |
| 428DJ      | 継承された列あるいは属性の、変更あるいはドロップはできません。                                                                        |
| 428DK      | 参照列の有効範囲はすでに定義されています。                                                                                  |
| 428DL      | 外部あるいはソース関数のパラメーターに、定義済みの有効範囲があります。                                                                    |
| 428DM      | 参照タイプの有効範囲表またはビューが無効です。                                                                                |
| 428DN      | SCOPE が外部関数の RETURNS 節で指定されていないか、またはソース関数の RETURNS 節で定義されているかのいずれかです。                                  |
| 428DP      | タイプは構造化タイプではありません。                                                                                     |
| 428DQ      | 副表またはサブビューに、スーパー表またはスーパービューでない別のスキーマ名を指定することはできません。                                                    |
| 428DR      | 操作は副表またはサブビューに適用されません。                                                                                 |
| 428DS      | 指定された列の索引は、副表には定義できません。                                                                                |
| 428DT      | 式のオペランドの有効な有効範囲参照タイプは無効です。                                                                             |
| 428DU      | タイプが必須タイプ階層の中に入っていません。                                                                                 |
| 428DV      | 間接参照演算子の左側オペランドが無効です。                                                                                  |
| 428DW      | オブジェクト ID 列は間接参照演算子を使用して参照できません。                                                                       |
| 428DX      | 型付き表または型付きビュー階層のルート表またはルート・ビューを定義するために、オブジェクト ID の列が必要です。                                              |

表 32. クラス・コード 42: 構文エラーまたはアクセス規則違反 (続き)

| SQLSTATE 値 | 意味                                                            |
|------------|---------------------------------------------------------------|
| 428DY      | ターゲット・オブジェクト・タイプの統計を更新できません。                                  |
| 428DZ      | オブジェクト ID 列を更新できません。                                          |
| 428E0      | 索引の定義が索引拡張子の定義と一致しません。                                        |
| 428E1      | 範囲作成関数の結果が、索引拡張子のキー変換関数の結果と矛盾していません。                          |
| 428E2      | キー・ターゲット・パラメーターの数あるいはタイプが索引拡張子のキー・トランスフォーム関数の数あるいはタイプと一致しません。 |
| 428E3      | 索引拡張子内の関数の引数が無効です。                                            |
| 428E4      | 関数は、CREATE INDEX EXTENSION ステートメントでサポートされていません。               |
| 428E5      | ユーザー定義述部で指定できるのは SELECTIVITY 節だけです。                           |
| 428E6      | ユーザー定義述部にあるメソッドの検索指数が、対応する索引拡張子の検索メソッド内の検索指数と一致しません。          |
| 428E7      | ユーザー定義の述部中の比較演算子の後に続くオペランドのタイプが RETURNS データ・タイプと一致しません。       |
| 428E8      | 検索ターゲットまたは検索指数パラメーターが、作成された関数のパラメーター名に一致しません。                 |
| 428E9      | 引数パラメーター名は同一の指数規則中で検索ターゲットおよび検索指数の両方として出現しません。                |
| 428EA      | 型付きビューの全選択は無効です。                                              |
| 428EB      | スーパービュー内の列が更新可能であるなら、そのサブビュー内のそれに対応する列を読み取り専用にはできません。         |
| 428EC      | マテリアライズ照会表に指定された全選択が無効です。                                     |
| 428ED      | データ・リンクまたは参照タイプ属性を指定した構造化タイプは構成されません。                         |
| 428EE      | オプションがこのデータ・ソースでは無効です。                                        |
| 428EF      | オプションの値はこのデータ・ソースで無効です。                                       |
| 428EG      | このデータ・ソースに必須指定のオプションが欠落しています。                                 |
| 428EH      | すでに定義済みのオプションを追加できません。                                        |
| 428EJ      | 追加されていないオプションは設定 (SET) またはドロップ (DROP) できません。                  |
| 428EK      | 宣言されたグローバル一時表の修飾子は SESSION でなければなりません。                        |
| 428EL      | トランスフォーム関数は、関数またはメソッドでの使用では無効です。                              |
| 428EM      | TRANSFORM GROUP 節が必要です。                                       |
| 428EN      | 使用されていないトランスフォーム・グループが指定されています。                               |
| 428EP      | 直接的に、または間接的に構造化タイプをそれ自身に依存させることはできません。                        |
| 428EQ      | ルーチンの戻りタイプをサブジェクト・タイプと同じにすることはできません。                          |
| 428ER      | メソッド本体をドロップする前に、メソッド指定をドロップすることはできません。                        |

表 32. クラス・コード 42: 構文エラーまたはアクセス規則違反 (続き)

| SQLSTATE 値 | 意味                                                              |
|------------|-----------------------------------------------------------------|
| 428ES      | メソッド本体が、メソッド指定の言語タイプに対応していません。                                  |
| 428EU      | TYPE または VERSION がサーバー定義に指定されていません。                             |
| 428EV      | パススルー機能は、データ・ソースのタイプのためにサポートされていません。                            |
| 428EW      | この表をマテリアライズ照会表に変換できないか、またはマテリアライズ照会表からこの表に変換できません。              |
| 428EX      | 組み込み関数またはメソッドであるため、ルーチンをトランスフォーム関数として使用できません。                   |
| 428EY      | ユーザー定義述部にある検索ターゲットのデータ・タイプが、指定された索引拡張子のソース・キーのデータ・タイプに一致していません。 |
| 428EZ      | OLAP 関数のウィンドウ指定は無効です。                                           |
| 428F0      | ROW 関数は少なくとも 2 つの列に組み込まなければなりません。                               |
| 428F1      | SQL TABLE 関数は表結果を返さなければなりません。                                   |
| 428F2      | SQL プロシージャにある RETURN ステートメントのデータ・タイプは INTEGER でなければなりません。       |
| 428F3      | SCROLL および WITH RETURN は同時に指定できません。                             |
| 428F4      | FETCH で指定された SENSITIVITY はカーソルには許可されていません。                      |
| 428F5      | ルーチンの呼び出しがあいまいです。                                               |
| 428F6      | カーソルはスクロール可能ですが、結果表には表関数からの出力が関連しません。                           |
| 428F7      | SQL ルーチンにのみ適用する操作が、外部ルーチンで行われました。                               |
| 428F9      | シーケンス式はこのコンテキストでは指定できません。                                       |
| 428FA      | 10 進数の位取りをゼロにする必要があります。                                         |
| 428FB      | シーケンス名は、ID 列用のシステムで生成されたシーケンスであってはなりません。                        |
| 428FC      | 暗号化パスワードの長さが無効です。                                               |
| 428FD      | 暗号化解除に使用されたパスワードが、データの暗号化に使用されたパスワードと一致しません。                    |
| 428FE      | データが ENCRYPT 関数の結果ではありません。                                      |
| 428FF      | バッファ・プールの指定が無効です。                                               |
| 428FG      | ステージング表またはマテリアライズ照会表の定義が無効です。                                   |
| 428FH      | SET INTEGRITY オプションが無効です                                        |
| 428FI      | ORDER OF が指定されましたが、この表指定子には ORDER BY 節がありません。                   |
| 428FJ      | ORDER BY は、ビューまたはマテリアライズ照会表の外部全選択では許可されません。                     |
| 428FL      | SQL データ変更ステートメントは、それが指定されるコンテキスト内では無効です。                        |
| 428FM      | SELECT 節内の INSERT ステートメントが、対称ビューでないビューを指定しました。                  |

表 32. クラス・コード 42: 構文エラーまたはアクセス規則違反 (続き)

| SQLSTATE 値 | 意味                                                                                                                                               |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 428FP      | サブジェクト・ビューでの各操作では、1 つの INSTEAD OF トリガーが許可されています。                                                                                                 |
| 428FQ      | INSTEAD OF トリガーが、WITH CHECK OPTION 節を使用して定義されるビュー、WITH CHECK OPTION 節で定義されるビューに定義されるビュー、または WITH ROW MOVEMENT 節で定義されるビューにネストされるビューを指定することはできません。 |
| 428FR      | 列は、指定されたようには変更できません。                                                                                                                             |
| 428FT      | 表は指定されたデータ・パーティション操作と互換性がありません。                                                                                                                  |
| 428FU      | FROM SQL トランスフォーム関数またはメソッドから戻された組み込みタイプが、TO SQL トランスフォーム関数またはメソッドの対応する組み込みタイプと一致しません。                                                            |
| 428FV      | このメソッドをオーバーライド・メソッドとして定義することはできません。                                                                                                              |
| 428FZ      | いくつかの操作に対してのみ INSTEAD OF トリガーの定義を行ったビューは、MERGE ステートメントでのターゲットとして使用することができません。                                                                    |
| 428G1      | データ・パーティションの数が表の表スペースの数を超えています。                                                                                                                  |
| 428G2      | 最後のデータ・パーティションは表からドロップできません。                                                                                                                     |
| 428G3      | 全選択中の SQL データ変更ステートメントのターゲット・ビューに INSTEAD OF トリガーが定義されている場合、FINAL TABLE は無効です。                                                                   |
| 428G4      | INPUT SEQUENCE 配列の使用が無効です。                                                                                                                       |
| 428G5      | UPDATE ステートメントの割り当て節は、INCLUDE 列以外の 1 つ以上の列を指定する必要があります。                                                                                          |
| 428G6      | 全選択の FROM 節中のデータ変更ステートメントのターゲットから選択できない列が指定されています。                                                                                               |
| 428G8      | ビューを照会の最適化に使用できません。                                                                                                                              |
| 428GA      | フェデレーテッド・オプションの追加、ドロップ、変更はできません。                                                                                                                 |
| 428GC      | 関数に対して指定されているストリングの単位が無効です。                                                                                                                      |
| 428GD      | PARTITION BY 節には 1 つの列を指定しなければならず、その列は ORGANIZE BY 節の最初の列と同じでなければなりません。                                                                          |
| 428GE      | ソース表はパーティション化されたターゲット表に接続できません。                                                                                                                  |
| 428GF      | 役割の付与は、循環が作成されることがあるので無効です。                                                                                                                      |
| 428GG      | エラー・トレラントな nested-table-expression の使用が無効です。                                                                                                     |
| 428GI      | XML スキーマ文書が欠落しているため、XML スキーマが完全ではありません。                                                                                                          |
| 428GJ      | 表を切り捨てることができません。理由として、表の DELETE トリガーが存在するか、この表はステートメントの影響を受ける参照制約の親表となっています。                                                                     |
| 428GL      | トラステッド・コンテキストに指定されたシステム許可 ID は、他のトラステッド・コンテキストですでに指定済みです。                                                                                        |
| 428GM      | トラステッド・コンテキストはこの許可 ID または PUBLIC によって使用されるように定義済みです。                                                                                             |

表 32. クラス・コード 42: 構文エラーまたはアクセス規則違反 (続き)

| SQLSTATE 値 | 意味                                                                                |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 428GN      | 指定された許可 ID または PUBLIC は、指定されたトラステッド・コンテキストでは定義されていません。                            |
| 428GO      | 列オプションは透過 DDL ステートメント内では無効です。                                                     |
| 428GP      | タイプ ARRAY のコンポーネントに対して、複数のエレメントは指定できません。                                          |
| 428GQ      | 付与されたセキュリティー・ラベルは、既に付与されている別のセキュリティー・ラベルと競合します。                                   |
| 428GR      | 同じアクセス・タイプ (READ または WRITE) を持つセキュリティー・ラベルが、すでに許可 ID に付与されています。                   |
| 428GS      | プロシージャーのために指定されたオプション値は、ソース・プロシージャーの対応するオプションと一致しません。                             |
| 428GT      | 表はセキュリティー・ポリシーで保護されていません。                                                         |
| 428GU      | 1 つの表には暗黙非表示ではない列が少なくとも 1 つ含まれていなければなりません。                                        |
| 428GV      | URI が空ストリングです。                                                                    |
| 428GX      | このコンテキストでは、グローバル変数を設定または参照できません。                                                  |
| 428GZ      | SELECT 節に含まれるソート・キーの指定されたインスタンスが、すべて同じではありません。                                    |
| 428H0      | タイプが ARRAY ではないオブジェクトに対して副索引作成操作を適用することはできません。                                    |
| 428H1      | 副索引式のデータ・タイプが、配列に対して無効です。                                                         |
| 428H2      | 使用されているコンテキストで、データ・タイプはサポートされていません。                                               |
| 428H3      | 指定された場所でツリー・エレメントが無効です。                                                           |
| 428H4      | 階層照会構成がコンテキストの外部で使用されています。                                                        |
| 428H5      | 外部結合演算子の使用が無効です。                                                                  |
| 428H7      | 照会に対する単一値として式を計算することができません。                                                       |
| 428H8      | 行レベルまたは列レベルのアクセス制御で別のオブジェクトがこのオブジェクトに依存しているため、このオブジェクトをセキュア・オブジェクトとして定義する必要があります。 |
| 428H9      | PERMISSION または MASK は変更できません。                                                     |
| 428HB      | 指定されているオブジェクトに対して許可またはマスクを作成できません。                                                |
| 428HD      | 列マスクを適用できないか、またはマスクの定義がステートメントと競合するため、ステートメントを処理できません。                            |
| 428HE      | ユーザー・マッピングまたはフェデレーテッド・サーバー・オプションが、既存のユーザー・マッピングまたはフェデレーテッド・サーバー・オプションと競合します。      |
| 428HF      | ルーチン呼び出しで、DEFAULT によって定義されていないパラメーターが省略されました。                                     |
| 428HG      | 使用されるコンテキストでは無効なオプションが、ルーチンのパラメーター定義に含まれています。                                     |
| 428HH      | ストレージ・グループに関連したストレージ・パスが少なくとも 1 つ必要であるため、ストレージ・パスのドロップが失敗しました。                    |

表 32. クラス・コード 42: 構文エラーまたはアクセス規則違反 (続き)

| SQLSTATE 値 | 意味                                                        |
|------------|-----------------------------------------------------------|
| 428HM      | CREATE または ALTER で指定されたシステム期間データ・バージョン管理節が無効です。           |
| 428HN      | 期間の指定が無効です。                                               |
| 428HP      | モジュール初期化プロシージャ SYS_INIT の定義が無効です。                         |
| 428HQ      | 述部のオペランドのデータ・タイプが無効です。                                    |
| 428HR      | 値のリストにおける行データ・タイプの値の使用方法が無効です。                            |
| 428HS      | 使用されているコンテキストで、アンカー・データ・タイプのターゲット・オブジェクトはサポートされていません。     |
| 428HT      | WITH ORDINALITY 節は、指定された UNNEST 引数には無効です。                 |
| 428HU      | カーソル値コンストラクターでの動的ステートメント名の使用は無効です。                        |
| 428HV      | 条件付きコンパイル・ディレクティブの処理中にエラーが発生しました。                         |
| 428HW      | 索引または制約の期間の指定が無効です。                                       |
| 428HX      | 履歴表に対して表が無効です。                                            |
| 428HY      | 期間の指定または期間の条件が無効です。                                       |
| 428HZ      | 表のテンポラル属性は指定された操作では無効です。                                  |
| 428I2      | 節は透過 DDL ステートメント内でサポートされません。                              |
| 428I3      | 割り当て先として指定されたグローバル変数は、読み取り専用のグローバル変数です。                   |
| 42901      | 列関数に列名がありません。                                             |
| 42903      | 集約関数または OLAP 関数の使用が無効です。                                  |
| 42904      | コンパイル・エラーのため、SQL プロシージャは作成されませんでした。                       |
| 42907      | ストリングが長すぎます。                                              |
| 42908      | 必要な列リストがステートメントにありません。                                    |
| 42910      | このステートメントは、コンパウンド・ステートメントでは許可されません。                       |
| 42911      | 10 進数の除算で、結果の位取りが負の値になるものは無効です。                           |
| 42912      | 列がカーソルの選択ステートメントの UPDATE 節で識別されていないため、この列を更新できません。        |
| 42914      | 副照会で参照された表が影響を受けるため、DELETE は無効です。                         |
| 42915      | 無効な参照制約が見つかりました。                                          |
| 42916      | 別名が反復チェーンになるため、別名を作成できません。                                |
| 42917      | オブジェクトを明示的にドロップまたは変更できません。                                |
| 42918      | 組み込みデータ・タイプ名 (例えば INTEGER) で、ユーザー定義のデータ・タイプを作成することはできません。 |
| 42919      | ネストされたコンパウンド・ステートメントは許可されていません。                           |
| 42921      | コンテナを表スペースに追加できません。                                       |
| 42925      | 再帰的名前派生表は SELECT DISTINCT を指定できません。UNION ALL の指定が必要です。    |
| 42928      | WITH EMPTY TABLE は、この表に指定できません。                           |
| 42932      | プログラム準備の前提事項に誤りがあります。                                     |

表 32. クラス・コード 42: 構文エラーまたはアクセス規則違反 (続き)

| SQLSTATE 値 | 意味                                                                        |
|------------|---------------------------------------------------------------------------|
| 42939      | 指定された ID はシステム使用のために予約されているため、この名前は使用できません。                               |
| 42961      | 指定されたサーバー名が現行のサーバーと一致しません。                                                |
| 42962      | データ・タイプが無効であるコンテキストで、列が指定されました。                                           |
| 42963      | セキュリティー・ラベル列の仕様が無効です。                                                     |
| 42968      | 現行ソフトウェア・ライセンスがないため、接続が失敗しました。                                            |
| 42969      | パッケージは作成されませんでした。                                                         |
| 42972      | 結合条件の式または MERGE ステートメントの ON 節が、複数のオペランド表の列を参照しています。                       |
| 42985      | ステートメントはルーチンでは許可されていません。                                                  |
| 42986      | サポートされないコンテキストで、名前変更操作内のソース・オブジェクトが参照されています。                              |
| 42987      | ステートメントが、プロシージャまたはトリガーで許可されていません。                                         |
| 42989      | 生成された列 (ID 列は除く) を BEFORE トリガーで使用できません。                                   |
| 42990      | キー列がパーティション・キー列のスーパーセットではないため、ユニーク索引またはユニーク制約は許可されません。                    |
| 42991      | BOOLEAN、BINARY、および VARBINARY データ・タイプは現在内部的にのみサポートされています。                  |
| 42993      | 定義された列が、ログに記録するには大きすぎます。                                                  |
| 42994      | ロー・デバイス・コンテナはサポートされていません。                                                 |
| 42995      | 要求された関数は、グローバル一時表に適用されません。                                                |
| 42997      | このバージョンの DB2 アプリケーション・リクエスト、DB2 アプリケーション・サーバー、または両者の組み合わせでは、機能はサポートされません。 |
| 429A1      | データベース・パーティション・グループが表スペースについて有効ではありません。                                   |
| 429A9      | SQL ステートメントをフェデレーテッド環境で処理できません。                                           |
| 429B2      | 構造化タイプまたは列に指定されているインライン長さの値が小さすぎます。                                       |
| 429B3      | オブジェクトが副表に定義されていない可能性があります。                                               |
| 429B4      | データ・フィルター関数は LANGUAGE SQL 関数にはなれません。                                      |
| 429B5      | 索引拡張子内のインスタンス・パラメーターのデータ・タイプが無効です。                                        |
| 429B8      | PARAMETER STYLE JAVA で定義されたルーチンは、パラメーターまたは戻りタイプとして構造化タイプを持つことができません。      |
| 429B9      | DEFAULT または NULL を属性割り当てに使用することはできません。                                    |
| 429BA      | FEDERATED キーワードは、フェデレーテッド・データベース・オブジェクトと共に使用する必要があります。                    |
| 429BB      | 列、パラメーター、または SQL 変数のデータ・タイプがサポートされていません。                                  |
| 429BC      | ALTER TABLESPACE ステートメントに、複数のコンテナ・アクションがあります。                             |
| 429BE      | 主キーまたはユニーク・キーは、DIMENSIONS 節にある列のサブセットです。                                  |

表 32. クラス・コード 42: 構文エラーまたはアクセス規則違反 (続き)

| SQLSTATE 値 | 意味                                                                |
|------------|-------------------------------------------------------------------|
| 429BG      | この機能は範囲がクラスター化された表ではサポートされません。                                    |
| 429BH      | パーティション表の定義にサポートされていない列定義が含まれており、ID 列、データ・リンク列、または XML 列の可能性がります。 |
| 429BJ      | ビューの WITH ROW MOVEMENT の使用が無効です。                                  |
| 429BK      | 基本ビューが行移動に関連しているため、ビューを更新する試みは無効です。                               |
| 429BL      | SQL データを修正する関数が不正なコンテキストで呼び出されています。                               |
| 429BM      | 照合はこのコンテキストでは使用できません。                                             |
| 429BO      | フェデレーテッド・データ・ソース用のプランを作成できません。                                    |
| 429BP      | ニックネーム列の式が無効です。                                                   |
| 429BS      | XMLPATTERN 節またはデータ・タイプ XML で定義された列が関係する無効な索引定義。                   |
| 429BT      | 従属関係が原因で所有権転送が失敗しました。                                             |
| 429BU      | プラグイン用のユーザー・マッピング・リポジトリからのユーザー・マッピングにアクセスできません。                   |
| 429BV      | ROW CHANGE TIMESTAMP 列の仕様が無効です。                                   |
| 429BZ      | UNION ALL ビューに対する更新、削除、または挿入は、基礎表の 1 つが保護されているために失敗しました。          |
| 429C0      | 照会には、示された列を使用する述部が含まれていなければなりません。                                 |
| 429C2      | それが指定されているコンテキストで、配列に指定されたデータ・タイプは無効です。                           |
| 429C3      | オブジェクトを作成または妥当性再検査した場合、無効な直接的または間接的の自己参照が発生する可能性があります。            |
| 429C4      | 妥当性再検査の対象として指定されたすべてのオブジェクトに対する妥当性再検査が失敗しました。                     |
| 429C5      | 行タイプのフィールドで、データ・タイプはサポートされていません。                                  |
| 429CA      | 指定されているコンテキストで、ANALYZE_TABLE 式はサポートされていません。                       |

## クラス・コード 44 WITH CHECK OPTION 違反

表 33. クラス・コード 44: WITH CHECK OPTION 違反

| SQLSTATE 値 | 意味                                               |
|------------|--------------------------------------------------|
| 44000      | 結果の行がビュー定義を満たしていないため、INSERT または UPDATE は許可されません。 |

## クラス・コード 45 未処理のユーザー定義例外

表 34. クラス・コード 45: 未処理のユーザー定義例外

| SQLSTATE 値 | 意味              |
|------------|-----------------|
| 45000      | 未処理のユーザー定義例外です。 |

## クラス・コード 46 Java DDL

表 35. クラス・コード 46: Java DDL

| SQLSTATE | 意味                                  |
|----------|-------------------------------------|
| 46001    | Java DDL - 無効な URL。                 |
| 46002    | Java DDL - 無効な jar 名。               |
| 46003    | Java DDL - 無効なクラスの削除。               |
| 46007    | Java DDL - 無効なシグニチャー。               |
| 46008    | Java DDL - 無効なメソッド指定。               |
| 46103    | Java ルーチンが ClassNotFound 例外を検出しました。 |
| 46501    | Java DDL - オプションのコンポーネントが設定されていません。 |

## クラス・コード 51 無効なアプリケーション状態

表 36. クラス・コード 51: 無効なアプリケーション状態

| SQLSTATE | 意味                                                                                                           |
|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 51002    | SQL ステートメントの実行要求に対応するパッケージが見つかりませんでした。                                                                       |
| 51003    | 整合性トークンが一致しません。                                                                                              |
| 51004    | SQLDA のアドレスが無効です。                                                                                            |
| 51005    | 以前のシステム・エラーによって、このエラーを使用できません。                                                                               |
| 51008    | プリコンパイルされたプログラムのリリース番号が無効です。                                                                                 |
| 51015    | バインド時にエラーが検出されたセクションを実行しようとしてしました。                                                                           |
| 51017    | ユーザーはログオンしていません。                                                                                             |
| 51018    | エラーによりアプリケーションは未接続状態のままになっています。                                                                              |
| 51021    | アプリケーション処理がロールバック操作を実行するまで、SQL ステートメントを実行できません。                                                              |
| 51022    | 接続 (現行または休止のどちらか) が CONNECT ステートメントで指定されたサーバーにすでに存在するときは、許可名を指定した CONNECT は無効です。                             |
| 51023    | データベースは、すでにデータベース・マネージャーの他のインスタンスで使用されています。                                                                  |
| 51024    | ビューの操作不能のマークが付いているため、ビューは使用できません。                                                                            |
| 51025    | XA トランザクション処理環境のアプリケーションが、SYNCPOINT TWOPHASE でバインドされていません。                                                   |
| 51026    | イベント・モニターのターゲット・バスが、すでに他のイベント・モニターによって使用されているため、イベント・モニターをオンにできません。                                          |
| 51027    | 表がユーザー保守のマテリアライズ照会表であるか、または SET INTEGRITY ペンディング状態でないため、SET INTEGRITY ステートメントの IMMEDIATE CHECKED オプションは無効です。 |
| 51028    | パッケージが操作不能とマークされているので、使用できません。                                                                               |

表 36. クラス・コード 51: 無効なアプリケーション状態 (続き)

| SQLSTATE 値 | 意味                                                                                    |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| 51030      | ALLOCATE CURSOR または ASSOCIATE LOCATORS ステートメントで参照されているプロシージャは、アプリケーション処理内で呼び出されていません。 |
| 51034      | MODIFIES SQL DATA (SQL データの変更) を使って定義されたルーチンは、そのルーチンが呼び出されたコンテキストで無効です。               |
| 51035      | 値がこのセッションでまだシーケンスについて生成されていないため、PREVIOUS VALUE 式は使用できません。                             |
| 51038      | SQL ステートメントは、このルーチンによって最早発行されない可能性があります。                                              |
| 51039      | ENCRYPTION PASSWORD 値が設定されていません。                                                      |
| 51040      | コンパイル環境が無効です。                                                                         |
| 51041      | SQL ステートメントを XA トランザクション内で発行できません。                                                    |
| 51042      | アクティブな統計イベント・モニターがないため、統計を収集できませんでした。                                                 |

## クラス・コード 53 無効なオペランドまたは矛盾する指定

表 37. クラス・コード 53: 無効なオペランドまたは矛盾する指定

| SQLSTATE 値 | 意味                                                                                |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 51044      | カーソル変数を現行の有効範囲内の OPEN ステートメントで使用することはできません。                                       |
| 51045      | この要求は読み取り専用データベースではサポートされません。                                                     |
| 51046      | 暗黙的または明示的な期間の指定のために、ターゲット・オブジェクトのデータ変更操作を行えません。                                   |
| 53038      | キーしきい値の数がゼロであるか、またはキーの列数よりも多くなっています。                                              |
| 53040      | バッファ・プールは、指定されているようには変更できません。                                                     |
| 53045      | キー制限定数のデータ・タイプが列のデータ・タイプと同じではありません。                                               |
| 53090      | コード化スキーム (ASCII、EBCDIC または Unicode) のうちの 1 つのスキームからのデータのみが、同じ SQL ステートメントで参照できます。 |
| 53091      | 指定されたコード化スキームが、含まれるオブジェクトで現在使用中のコード化スキームと同じではありません。                               |

## クラス・コード 54 SQL または製品の限界の超過

表 38. クラス・コード 54: SQL または製品の限界の超過

| SQLSTATE 値 | 意味                                              |
|------------|-------------------------------------------------|
| 54001      | ステートメントが長すぎるか、または複雑すぎます。                        |
| 54002      | ストリング定数が長すぎます。                                  |
| 54004      | ステートメントの SELECT または INSERT リストにある表名または項目が多すぎます。 |

表 38. クラス・コード 54: SQL または製品の限界の超過 (続き)

| SQLSTATE 値 | 意味                                                                  |
|------------|---------------------------------------------------------------------|
| 54006      | 連結の結果が長すぎます。                                                        |
| 54008      | キーが長すぎるか、キーの列が長すぎるか、またはキーの持っている列または期間が多すぎます。                        |
| 54010      | 表のレコード長が長すぎます。                                                      |
| 54011      | 表またはビューに指定されている列の数が多すぎます。                                           |
| 54023      | 関数またはプロシーチャーのパラメーターまたは引数の数が、限界を超えています。                              |
| 54028      | 並行 LOB ハンドルが最大数に達しました。                                              |
| 54029      | オープン・ディレクトリー・スキャンの最大数に達しました。                                        |
| 54030      | イベント・モニターの最大数がすでにアクティブです。                                           |
| 54031      | 最大数のファイルが、すでにイベント・モニターに割り当てられています。                                  |
| 54032      | 表が最大サイズに達しました。                                                      |
| 54033      | パーティション・マップの最大数に達しました。                                              |
| 54034      | 表スペースのすべてのコンテナ名を結合した長さが長すぎます。                                       |
| 54035      | 内部オブジェクトの制限を超えました。                                                  |
| 54036      | コンテナのパス名またはストレージ・パスが長すぎます。                                          |
| 54037      | 表スペースのコンテナ・マップが複雑すぎます。                                              |
| 54038      | ネストされたルーチンまたはトリガーの最大の深さを超えました。                                      |
| 54040      | 遷移変数および遷移表列に対する参照が多すぎるか、またはそれらの参照の行が長すぎます。                          |
| 54045      | タイプ階層の最大レベルを超えています。                                                 |
| 54046      | 索引拡張子内の最大許容可能パラメーター数を超えています。                                        |
| 54047      | 表スペースの最大サイズを超えました。                                                  |
| 54048      | 十分なページ・サイズの TEMPORARY 表スペースが存在しません。                                 |
| 54049      | 構造化タイプのインスタンスの長さがシステム制限を超えています。                                     |
| 54050      | 許可されている最大属性が構造化タイプで超過しています。                                         |
| 54052      | バッファ・プールのブロック・ページ数が、このバッファ・プールのサイズには大きすぎます。                         |
| 54053      | BLOCKSIZE に指定された値が、有効な範囲内にありません。                                    |
| 54054      | データ・パーティションの数、または表スペース・パーティションの数と対応するパーティション制限キーの長さとの組み合わせが超過しています。 |
| 54057      | XML エレメント名、属性名、ネーム・スペース接頭部、または URI が長すぎます。                          |
| 54058      | XML パスの内部表記が長すぎます。                                                  |
| 54059      | 空白文字のみを含むテキスト・ノード・ストリング値は、STRIP WHITESPACE 処理には長すぎます。               |
| 54061      | セキュリティー・ラベル・コンポーネントに対して指定されたエレメントが多すぎます。                            |
| 54062      | セキュリティー・ポリシー内のコンポーネントの最大数を超過しています。                                  |
| 54063      | イベント・モニターの PCTDEACTIVATE 限界に達しました。                                  |

表 38. クラス・コード 54: SQL または製品の限界の超過 (続き)

| SQLSTATE 値 | 意味                                   |
|------------|--------------------------------------|
| 54064      | カーソルの 65533 を超えるインスタンスがオープンされました。    |
| 54066      | 階層照会の中で再帰の限度を超えました。                  |
| 54067      | 接続の最大数を超えました。                        |
| 54068      | シームレスな自動クライアント・リルートのリルート再試行限度を超えました。 |

## クラス・コード 55 前提条件の状態にないオブジェクト

表 39. クラス・コード 55: 前提条件の状態にないオブジェクト

| SQLSTATE 値 | 意味                                                                   |
|------------|----------------------------------------------------------------------|
| 55001      | データベースをアップグレードする必要があります。                                             |
| 55002      | 説明表が正しく定義されていません。                                                    |
| 55006      | オブジェクトは現在使用されているため、ドロップできません。                                        |
| 55007      | オブジェクトが現在同じアプリケーション処理によって使用されているため、オブジェクトを変更できません。                   |
| 55009      | システムが、読み取り専用ファイルまたは書き込み保護ストレージ・メディアに対して書き込みを試みました。                   |
| 55011      | 仮想記憶またはデータベース・リソースを使用できません。                                          |
| 55012      | クラスタリング索引はすでに表に存在しています。                                              |
| 55019      | オブジェクトが無効な状態にあるため、操作できません。                                           |
| 55022      | ファイル・サーバーは、このデータベースに登録されていません。                                       |
| 55023      | ルーチン呼び出しエラーが発生しました。                                                  |
| 55024      | 表に関連するデータも他の表スペースにあるため、表スペースをドロップできません。                              |
| 55025      | データベースを再始動する必要があります。                                                 |
| 55026      | TEMPORARY 表スペースをドロップできません。                                           |
| 55031      | エラー・マッピング・ファイルのフォーマットに誤りがあります。                                       |
| 55032      | このアプリケーションの始動後にデータベース・マネージャーが停止されたため、CONNECT ステートメントは無効です。           |
| 55033      | イベント・モニターまたは使用量リストが作成または修正された同じ作業単位で、イベント・モニターまたは使用量リストをアクティブ化できません。 |
| 55034      | イベント・モニターが操作に対して無効な状態にあります。                                          |
| 55035      | 表は保護されているため、ドロップできません。                                               |
| 55037      | 表が複数パーティションのデータベース・パーティション・グループにあるため、分散キーをドロップできません。                 |
| 55038      | データベース・パーティション・グループがリバランスされているため、データベース・パーティション・グループを使用できません。        |
| 55039      | 表スペースの現在の状態が理由で、アクセスまたは状態遷移は許可されません。                                 |
| 55040      | データベースの分割イメージが延期状態になっています。                                           |
| 55041      | 再平衡の進行中は、コンテナを表スペースに追加できません。                                         |

表 39. クラス・コード 55: 前提条件の状態にないオブジェクト (続き)

| SQLSTATE 値 | 意味                                                                           |
|------------|------------------------------------------------------------------------------|
| 55043      | タイプに基づく型付き表または型付きビューが存在している場合、構造化タイプの属性は変更できません。                             |
| 55045      | 必要なコンポーネントがサーバーで使用できないため、ルーチンの SQL アーカイブ (SAR) ファイルを作成できません。                 |
| 55046      | 指定された SQL アーカイブは、ターゲットの環境に一致しません。                                            |
| 55047      | 外部関数またはメソッドが、フェデレーテッド・オブジェクトにアクセスしようとした。                                     |
| 55048      | 暗号化されたデータは暗号化できません。                                                          |
| 55049      | イベント・モニター表が正しく定義されていません。                                                     |
| 55051      | ALTER BUFFERPOOL ステートメントは現在実行中です。                                            |
| 55054      | このメソッドをオーバーライド・メソッドとして定義することはできません。                                          |
| 55056      | データベースはフェデレーション可能になっていないので、ニックネーム統計を更新できません。                                 |
| 55057      | 表にデタッチされた従属物がある間、または非同期パーティション・デタッチ・タスクが完了するまでの間は、ステートメントまたはコマンドの実行が許可されません。 |
| 55060      | このデータベースで定義されているストレージ・グループがありません。                                            |
| 55061      | 自動ストレージ表スペースでは表スペース・ストレージは変更できません。                                           |
| 55062      | このデータベースに定義されているストレージ・グループがないため、ストレージ・パスを提供できません。                            |
| 55063      | XML スキーマは操作を実行できる正しい状態ではありません。                                               |
| 55064      | 表にセキュリティー・ポリシーがないため、ラベル・ベースのアクセス制御を列に適用できません。                                |
| 55065      | 表は最大で 1 つのセキュリティー・ポリシーしか持つことができません。                                          |
| 55066      | ID はまだラージ RID をサポートしていないため、表は新規ページを割り振ることができません。                             |
| 55067      | MQT またはステージング表が従属する表であるため、その表を保護表にすることはできません。                                |
| 55068      | 行変更タイム・スタンプ式は、表に行変更タイム・スタンプがないために使用できません。                                    |
| 55069      | fenced として定義されたラッパーを使用するソース化プロシージャの作成または呼び出しはサポートされていません。                    |
| 55070      | 管理タスク表が正しく定義されていません。                                                         |
| 55071      | データベース・パーティションが追加されているため、要求を実行できません。                                         |
| 55072      | 両立しないコマンドが既に進行中なので、データベース・パーティションを追加できません。                                   |
| 55073      | ストレージ・パスがドロップ・ペンディング状態であるため、要求が失敗しました。                                       |
| 55074      | 指定されたアクティビティー・イベント・モニターは表書き込みイベント・モニターでないため、Explain 機能が失敗しました。               |
| 55075      | 指定されたセクションに対して、Explain 機能はサポートされていません。                                       |

表 39. クラス・コード 55: 前提条件の状態にないオブジェクト (続き)

| SQLSTATE 値 | 意味                                                                                    |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| 55076      | データベース・パーティション・フィーチャーが使用可能である場合には、フェデレーションは XML データに対してサポートされません。                     |
| 55077      | インスタンス内のすべてのアプリケーションで新しいデータベース・パーティション・サーバーが認識されるまで、データベース・パーティション・グループ上での操作は実行できません。 |

## クラス・コード 56 その他の SQL または製品エラー

表 40. クラス・コード 56: その他の SQL または製品エラー

| SQLSTATE 値 | 意味                                                                            |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 56016      | データ・パーティションに指定された範囲は無効です。                                                     |
| 56023      | リモート・オブジェクトへの無効な参照が検出されました。                                                   |
| 56031      | 混合データと DBCS データが、このシステムではサポートされていないため、節またはスカラー関数が無効です。                        |
| 56033      | 長ストリング列の挿入または更新値は、ホスト変数または NULL である必要があります。                                   |
| 56038      | この環境ではサポートされない要求機能です。                                                         |
| 56072      | サポートのない下位レベルのサーバー機能により、実行できませんでした。これは、後続の SQL ステートメントの実行には影響しません。             |
| 56084      | 選択リストまたは入力リスト内で、サポートされない SQLTYPE が検出されました。                                    |
| 56090      | 索引または表の変更は許可されていません。                                                          |
| 56091      | コンバウンド SQL ステートメントを実行した結果、複数のエラーが発生しました。                                      |
| 56092      | 許可名が、ユーザー ID、グループ ID、または役割を一意的に識別しないので、許可のタイプを判別できません。                        |
| 56095      | BIND オプションが無効です。                                                              |
| 56097      | LONG VARCHAR および LONG VARGRAPHIC フィールドは、DEVICE 上にビルドされる TABLESPACE では許可されません。 |
| 56098      | 暗黙的な再バインド、再コンパイル、または妥当性再検査中にエラーが発生しました。                                       |
| 56099      | REAL データ・タイプはターゲット・データベースによってサポートされていません。                                     |
| 560A0      | LOB 値におけるアクションが失敗しました。                                                        |
| 560AA      | このデータ・タイプ、節、またはスカラー関数の使用は、Unicode データベースでのみサポートされています。                        |
| 560AC      | ラッパー定義は、データ・ソースの指定されたタイプまたはバージョンに使用できません。                                     |
| 560AE      | 指定された表またはビューは、LIKE 節で許可されていません。                                               |
| 560AF      | ゲートウェイ・コンセントレーターを使用している場合、PREPARE ステートメントはサポートされていません。                        |

表 40. クラス・コード 56: その他の SQL または製品エラー (続き)

| SQLSTATE 値 | 意味                                                                               |
|------------|----------------------------------------------------------------------------------|
| 560B0      | 新しいサイズ値は、表スペース・コンテナのサイズ変更には無効です。                                                 |
| 560B1      | ストアード・プロシージャのカーソル指定が無効です。                                                        |
| 560B7      | 複数行 INSERT の場合、シーケンス式の使用は各行について同じでなければなりません。                                     |
| 560BB      | 動的に準備された CALL ステートメントの INOUT パラメーターの場合、同じホスト変数を USING 節と INTO 節の両方に使用する必要があります。  |
| 560BC      | ファイルにアクセス中にエラーが発生しました。                                                           |
| 560BD      | フェデレーテッド・サーバーは、データ・ソースから予期しないエラー・コードを受け取りました。                                    |
| 560BF      | 暗号化機能は使用できません。                                                                   |
| 560C0      | Unicode コード化スキームで作成された表を SQL 関数または SQL メソッドで使用することはできません。                        |
| 560C1      | Unicode コード化スキームで作成された表を型付き表にはできません。また、GRAPHIC タイプまたはユーザー定義タイプをその中で使用することもできません。 |
| 560C2      | ドロップされた表に対する履歴ファイル項目の書き込みが失敗しました。                                                |
| 560C3      | AFTER トリガーが INSERT ステートメント用に挿入される行を修正できません。                                      |
| 560C5      | 正常に実行するためには、パッケージを再バインドする必要があります。                                                |
| 560C6      | 参照制約が全選択内の SQL データ変更ステートメントにより修正される行を修正できません。                                    |
| 560C8      | 一部のニックネーム統計を更新できません。                                                             |
| 560C9      | 指定されたステートメントは Explain できません。                                                     |
| 560CB      | フェデレーテッド・サーバーは Web サービス・データ・ソースから SOAP Fault を受け取りました。                           |
| 560CD      | アラート構成設定値の検索時に指定した 1 つ以上の値が無効です。                                                 |
| 560CE      | 最新のコミットまたはロールバック操作のために SQL 変数を参照用に使用できません。                                       |
| 560CF      | 表スペースを LARGE 表スペースに変換できません。                                                      |
| 560CG      | XML 値に、内部 ID の制限を超える XML ノードの組み合わせが含まれています。                                      |
| 560CH      | XML 値にある XML ノードに関する下位ノードの最大数を超過しています。                                           |
| 560CI      | クライアントに戻すよう指定された結果セットが無効です。                                                      |
| 560CJ      | 表スペースは、IBMCATGROUP データベース・パーティション・グループに作成する必要があります。                              |
| 560CL      | ソース化プロシージャの作成または変更はこのデータ・ソースでサポートされていません。                                        |
| 560CN      | ラッパーには、フェデレーテッド・サーバーにインストール済みの DB2 のリリースとの互換性がありません。                             |
| 560CO      | 階層照会で循環が検出されました。                                                                 |

表 40. クラス・コード 56: その他の SQL または製品エラー (続き)

| SQLSTATE 値 | 意味                                                                                                                  |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 560CP      | ROW CHANGE TIMESTAMP および GENERATED BY DEFAULT と定義されている列に対して、DEFAULT と明示的な値の両方を指定することはできないため、複数行の挿入操作または更新操作が失敗しました。 |
| 560CS      | イベント・モニターが開始していない、あるいは完全再始動機能付きで開始していない可能性があります。                                                                    |
| 560CT      | DDL ステートメントのターゲット・モジュールとしてモジュール名を指定する際に、モジュールの別名を使用することはできません。                                                      |
| 560CW      | クラスター・キャッシング・ファシリティ (CF) が置かれているホストでは操作を実行できません。                                                                    |
| 560CZ      | 現在使用されていないコマンド、API 関数、または SQL ステートメントが指定されました。                                                                      |
| 560D0      | 無効なオブジェクトを暗黙的に再度妥当性検査できません。                                                                                         |

## クラス・コード 57 リソースを使用できない、またはオペレーター介入

表 41. クラス・コード 57: リソースを使用できない、またはオペレーター介入

| SQLSTATE 値 | 意味                                                      |
|------------|---------------------------------------------------------|
| 57001      | 1 次索引がないため、その表は使用できません。                                 |
| 57003      | 指定されたバッファ・プールはアクティブではありません。                             |
| 57007      | DROP または ALTER がベンディングであるため、オブジェクトを使用できません。             |
| 57009      | 仮想記憶またはデータベース・リソースが一時的に使用できなくなっています。                    |
| 57011      | 仮想記憶またはデータベース・リソースを使用できません。                             |
| 57012      | 非データベース・リソースを使用できません。これは、以降のステートメントの正常な実行には影響しません。      |
| 57013      | 非データベース・リソースを使用できません。これは、以降のステートメントの正常な実行に影響する可能性があります。 |
| 57014      | 要求にしたがって処理が取り消されました。                                    |
| 57016      | 表スペースがアクティブではないので、アクセスできません。                            |
| 57017      | 文字変換が定義されていません。                                         |
| 57019      | リソースに問題があるため、ステートメントが失敗しました。                            |
| 57020      | データベースの入っているドライブが、ロックされています。                            |
| 57021      | 入出力装置が作動可能になっていません。                                     |
| 57022      | ステートメントの許可 ID が適切な DB スペースを所有していないため、表が作成されませんでした。      |
| 57030      | アプリケーション・サーバーへの接続が、インストール先定義の限界を超えている可能性があります。          |
| 57032      | 並行処理できる最大数のデータベースが、すでに始動しています。                          |
| 57033      | 自動ロールバックなしで、デッドロックまたはタイムアウトが発生しました。                     |

表 41. クラス・コード 57: リソースを使用できない、またはオペレーター介入 (続き)

| SQLSTATE 値 | 意味                                                          |
|------------|-------------------------------------------------------------|
| 57036      | このトランザクション・ログは、現在のデータベースにはありません。                            |
| 57046      | データベースまたはインスタンスが静止しているので、新しいトランザクションが開始できません。               |
| 57047      | ディレクトリーがアクセス不能のため、内部データベース・ファイルを作成できません。                    |
| 57048      | ストレージ・グループまたは表スペースへのアクセス中にエラーが発生しました。                       |
| 57049      | オペレーティング・システム処理限界に達しました。                                    |
| 57050      | ファイル・サーバーは現在使用できません。                                        |
| 57051      | 見積もり CPU コストがリソースの限度を超過しています。                               |
| 57052      | そのデータベース・パーティションは、すべての TEMPORARY 表スペースについてコンテナがないため使用できません。 |
| 57053      | 操作が競合するため、この表に対してこの操作を実行することはできません。                         |
| 57055      | 使用できる TEMPORARY 表スペースのページ・サイズが不足しています。                      |
| 57056      | データベースが NO PACKAGE LOCK モードであるため、パッケージは使用できません。             |
| 57057      | SQL ステートメントの一連の DRDA での前の条件のため、SQL ステートメントは実行されません。         |
| 57059      | 指定したアクションを行うための十分なスペースが、表スペースにありません。                        |
| 57060      | 転送が使用できないため、ステートメントは処理できません。                                |
| 57061      | メンバーの現在の状態では、ステートメントの処理を行えません。                              |
| 57062      | データ変更操作の一部としての期間の調整は許可されていません。                              |
| 57063      | 別のメンバーのエラーのため、現在のメンバーでデータ変更ステートメントを処理することはできません。            |
| 57064      | フェデレーテッド・データ・ソースへの接続では、複数のアクティブ・ステートメントはサポートされていません。        |

## クラス・コード 58 システム・エラー

表 42. クラス・コード 58: システム・エラー

| SQLSTATE 値 | 意味                                                                         |
|------------|----------------------------------------------------------------------------|
| 58004      | システム・エラー (必ずしも後続の SQL ステートメントの正常な実行を妨げるものではありません) が発生しました。                 |
| 58005      | システム・エラー (後続の SQL ステートメントの正常な実行を妨げます) が発生しました。                             |
| 58008      | 分散プロトコル・エラーのため、実行が失敗しました。このエラーは、後続の DDM コマンドまたは SQL ステートメントの正常な実行には影響しません。 |
| 58009      | 会話の割り振り解除の原因となる分散プロトコル・エラーのため、実行が失敗しました。                                   |

表 42. クラス・コード 58: システム・エラー (続き)

| SQLSTATE 値 | 意味                                                                         |
|------------|----------------------------------------------------------------------------|
| 58010      | 分散プロトコル・エラーのため、実行が失敗しました。このエラーは、後続の DDM コマンドまたは SQL ステートメントの正常な実行に影響を与えます。 |
| 58011      | バインド処理の進行中は、DDM コマンドは無効です。                                                 |
| 58012      | 指定したパッケージ名と整合性トークンを持つバインド処理がアクティブではありません。                                  |
| 58014      | DDM コマンドはサポートされていません。                                                      |
| 58015      | DDM オブジェクトはサポートされていません。                                                    |
| 58016      | DDM パラメーターはサポートされていません。                                                    |
| 58017      | DDM パラメーターの値がサポートされていません。                                                  |
| 58018      | DDM 応答メッセージがサポートされていません。                                                   |
| 58023      | システム・エラーのため、現行プログラムが取り消されました。                                              |
| 58024      | 基礎オペレーティング・システムでエラーが発生しました。指定された条件: UTL_FILE.INVALID_OPERATION。            |
| 58030      | 入出力エラーが発生しました。                                                             |
| 58031      | システム・エラーのため、接続が失敗しました。                                                     |
| 58032      | fenced モードのユーザー定義関数に処理を使用できません。                                            |
| 58034      | DMS 表スペース内のオブジェクトについてページを検索しているときに、エラーが検出されました。                            |
| 58035      | DMS 表スペース内のオブジェクトのためにページを解放している間に、エラーが検出されました。                             |
| 58036      | 指定された内部ストレージ・グループまたは表スペース ID が存在しません。                                      |
| 58038      | クラスター・マネージャー・エラーのために、実行が失敗しました。このエラーは、後続の SQL ステートメントの正常な実行には影響しません。       |

## クラス・コード 5U ユーティリティー

表 43. クラス・コード 5U: ユーティリティー

| SQLSTATE 値 | 意味                                                  |
|------------|-----------------------------------------------------|
| 5U001      | 指定された関数または機能はサポートされていません。                           |
| 5U002      | 指定されたアプリケーションは現在存在しません。                             |
| 5U003      | アクティビティ・モニター・レポートが見つかりません。                          |
| 5U004      | モニター・タスクの保管中に指定された 1 つ以上の値が無効です。                    |
| 5U005      | 指定されたアクション・モードが無効です。                                |
| 5U006      | 必要なモニター・スイッチがオンになっていません。                            |
| 5U007      | CLP エラーが戻されました。詳細については、CLP メッセージ資料を参照してください。        |
| 5U008      | ユーティリティー操作 ID が無効です。                                |
| 5U009      | ストレージ・パスの最大数に達しました。                                 |
| 5U010      | 非カタログ・データベース・パーティション上でのリストア操作には、自動ストレージ・パスを指定できません。 |

表 43. クラス・コード 5U: ユーティリティ (続き)

| SQLSTATE 値 | 意味                                                                                                                |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5U011      | リストア操作には自動ストレージ・パスを指定する必要があります。                                                                                   |
| 5U012      | パスでのデータベース・パーティション式の使用法が無効であるか間違っています。                                                                            |
| 5U013      | データベース・パーティションが使用できないため、リストアを継続できません。                                                                             |
| 5U014      | 許可 ID に、LOAD コマンドを表に対して実行するために必要な LBAC 信用証明情報がありません。                                                              |
| 5U015      | メソッド N を使用するインポートでは、PC/IXF ファイルはサポートされていません。                                                                      |
| 5U016      | この時には、識別されたアクティビティをキャンセルできません。                                                                                    |
| 5U017      | 1 つのデータベースまたはサービス・スーパークラスに対して 1 つの作業アクション・セットだけを定義できます。                                                           |
| 5U018      | マッピング作業アクションに指定されるサービス・サブクラスは、デフォルトのサービス・サブクラスであることはできません。                                                        |
| 5U019      | FROM および TO パラメーターに指定された範囲が無効です。                                                                                  |
| 5U020      | 無効になっているか、あるいはデータベースへのアクセスが許可されていないため、ワークロードはその要求を処理できません。                                                        |
| 5U021      | アプリケーション処理がコミットまたはロールバック操作を実行するまで、SQL ステートメントを実行できません。                                                            |
| 5U022      | 最後の接続属性をワークロードの定義からドロップすることはできません。                                                                                |
| 5U023      | ワークロードは無効になっていないか、またはアクティブなワークロード・オカレンスがあるために、ドロップできません。                                                          |
| 5U024      | 同じタイプのイベント・モニターが既にアクティブであるために、イベント・モニターはアクティブにされません。                                                              |
| 5U025      | しきい値は、無効になっていないか、空ではないキューがあるか、またはアクティビティがしきい値の制御下で実行しているために、ドロップできません。                                            |
| 5U026      | しきい値を超えました。実行は停止しました。                                                                                             |
| 5U027      | データベースまたはサービス・スーパークラスで、サービス・クラスの最大数を超えました。                                                                        |
| 5U028      | サービス・クラスが無効であるために、要求を実行できませんでした。                                                                                  |
| 5U029      | デフォルトのサービス・クラスの下にサービス・サブクラスを作成できません。                                                                              |
| 5U030      | 外部ワークロード・マネージャーとの通信中にエラーが発生しました。                                                                                  |
| 5U031      | サービス・クラスは、サブクラス、関連ワークロード、作業アクション・セット、作業アクション、接続、アクティビティ、またはしきい値があるため、または無効になっていないかデフォルトのサービス・クラスであるために、ドロップできません。 |
| 5U032      | デフォルトのサービス・クラスは指定されているようには変更できません。                                                                                |
| 5U033      | PREVENT EXECUTION 作業アクションがアクティビティに適用されているので、アクティビティは実行されませんでした。                                                   |
| 5U034      | 指定された作業アクション・タイプは、作業アクションに対して無効です。                                                                                |

表 43. クラス・コード 5U: ユーティリティ (続き)

| SQLSTATE 値 | 意味                                                                                  |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 5U035      | アクティビティーが存在しません。                                                                    |
| 5U036      | エクスポート中に、列名が PC/IXF ファイル内で切り捨てられました。                                                |
| 5U037      | 制約事項に違反しているため、しきい値を作成できませんでした。                                                      |
| 5U038      | 一致する定義を持つしきい値が既に存在しているため、しきい値は作成されませんでした。                                           |
| 5U039      | 接続属性に対する接続属性値が既に存在するか、または重複が検出されました。                                                |
| 5U040      | 指定された接続属性値は、接続属性に対して定義されていないのでドロップできません。                                            |
| 5U041      | 指定されたオブジェクトで監査ポリシーがすでに使用中です。                                                        |
| 5U042      | 監査ポリシーが指定されたオブジェクトと関連付けられていません。                                                     |
| 5U043      | 指定された節は、サービス・スーパークラスではサポートされていません。                                                  |
| 5U044      | 指定された節は、サービス・サブクラスではサポートされていません。                                                    |
| 5U045      | 参照されたサービス・クラスは既にドロップされているため、要求を完了できません。                                             |
| 5U046      | ルーチンの少なくとも 1 つの入力パラメーターが無効であるため、指定されたサービス・サブクラスにアクティビティーをマップできません。                  |
| 5U047      | 再編成操作に指定されたオプションが無効です。                                                              |
| 5U048      | SYSINSTALLOBJECTS プロシージャが Explain 表のマイグレーションに失敗しました。                                |
| 5U049      | ロード・ユーティリティに指定されたオプションは、指定されたロード操作でサポートされていません。                                     |
| 5U050      | 操作がタイムアウトになったため、指定された構成パラメーターを更新できませんでした。                                           |
| 5U051      | 指定されたデータベース構成パラメーターを指定された値まで増加させるようにとの要求を満たすだけの使用可能メモリーが、クラスター・キャッシング・ファシリティにありません。 |
| 5U052      | 同じ構成パラメーターに対する別の更新要求が現在進行中のため、指定された構成パラメーターを更新できませんでした。                             |
| 5U053      | 指定されたグローバル・データベース構成パラメーターの更新操作を、指定されたメンバーで適用することができませんでした。                          |
| 5U054      | データベース・マネージャー構成ファイルに無効値があります。                                                       |
| 5U055      | バックアップ・ユーティリティが 1 つ以上の DB2 メンバーの必要な情報およびメタデータを収集できなかったため、バックアップ操作が失敗しました。           |
| 5U056      | クラスター・マネージャー・エラーのため、実行が失敗しました。手動クリーンアップを行うまで、このデータベースに対する SQL ステートメントは失敗することになります。  |
| 5U057      | ストレージ・グループの現在の状態が理由で、ストレージ・グループ・パスのリダイレクトは許可されません。                                  |
| 5U0ZZ      | ルーチンがエラーを検出しました。詳細については、SQLCODE を参照してください。                                          |
| 5UA01      | タスクは現在実行中なので除去できません。                                                                |

表 43. クラス・コード 5U: ユーティリティ (続き)

| SQLSTATE 値 | 意味                                                                                   |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 5UA03      | オブジェクトの明示的な妥当性再検査中にエラーが発生しました。                                                       |
| 5UA04      | DBMS_ALERT.REGISTER プロシージャには、事前に登録されているアラートがありません。                                   |
| 5UA05      | 無効なファイル名が UTL_FILE モジュール・ルーチンに指定されました。指定された条件: UTL_FILE.INVALID_FILENAME。            |
| 5UA06      | 無効なパスが UTL_FILE モジュール・ルーチンに指定されました。指定された条件: UTL_FILE.INVALID_PATH。                   |
| 5UA07      | 無効なファイル・ハンドルが UTL_FILE モジュール・ルーチンに指定されました。指定された条件: UTL_FILE.INVALID_FILEHANDLE。      |
| 5UA08      | 無効なモードが UTL_FILE.FOPEN 関数に指定されました。指定された条件: UTL_FILE.INVALID_MODE。                    |
| 5UA09      | 無効な最大行サイズが UTL_FILE.FOPEN 関数に指定されました。指定された条件: UTL_FILE.INVALID_MAXLINESIZE。          |
| 5UA0A      | UTL_FILE モジュール・ルーチンが読み取りエラーを検出しました。指定された条件: UTL_FILE.READ_ERROR。                     |
| 5UA0B      | UTL_FILE モジュール・ルーチンが書き込みエラーを検出しました。指定された条件: UTL_FILE.WRITE_ERROR。                    |
| 5UA0C      | UTL_FILE.FREMOVE プロシージャが、指定されたファイルを削除できませんでした。指定された条件: UTL_FILE.DELETE_FAILED。       |
| 5UA0D      | UTL_FILE.FRENAME プロシージャが、指定されたファイルの名前を変更できませんでした。指定された条件: UTL_FILE.RENAME_FAILED。    |
| 5UA0E      | UTL_SMTP モジュール・ルーチンが一時的な SMTP サーバー・エラーを検出しました。指定された条件: UTL_SMTP.TRANSIENT_ERROR。     |
| 5UA0F      | UTL_SMTP モジュール・ルーチンが永続的な SMTP サーバー・エラーを検出しました。指定された条件: UTL_SMTP.PERMANENT_ERROR。     |
| 5UA0G      | TCP タイムアウトが発生しました。指定された条件: UTL_TCP.TRANSFER_TIMEOUT。                                 |
| 5UA0H      | TCP/IP ネットワーク・エラー。指定された条件: UTL_TCP.NETWORK_ERROR。                                    |
| 5UA0I      | データ・タイプ、長さ、位取り、値、または CCSID が UTL_TCP ルーチンに対して無効です。指定された条件: UTL_TCP.BAD_ARGUMENT。     |
| 5UA0J      | データ・タイプ、長さ、位取り、値、または CCSID が DBMS_LOB ルーチンに対して無効です。指定された条件: DBMS_LOB.INVALID_ARGVAL。 |
| 5UA0K      | UTL_FILE モジュール・ルーチンの実行時にファイルへのアクセスが拒否されました。指定された条件: UTL_FILE.ACCESS_DENIED。          |
| 5UA0L      | UTL_FILE モジュールで、内部エラー、メモリー不足、またはシステム・エラーが発生しました。指定された条件: UTL_FILE.INTERNAL_ERROR。    |
| 5UA0M      | エラーが発生したため、ADMIN_MOVE_TABLE プロシージャが終了しました。                                           |
| 5UA0N      | UTL_SMTP モジュール・ルーチンの呼び出しの順序が正しくないため、操作は無効です。指定された条件: UTL_SMTP.INVALID_OPERATION。     |
| 5UA0O      | WRAP 関数または CREATE_WRAPPED プロシージャに対する引数が無効です。                                         |

表 43. クラス・コード 5U: ユーティリティー (続き)

| SQLSTATE | 意味                                                         |
|----------|------------------------------------------------------------|
| 5UA0P    | メッセージ・バッファのサイズを超えました。指定された条件:<br>UTL_TCP.BUFFER_TOO_SMALL。 |



## 第 4 部 通信エラー (メッセージ SQL30081N)

アプリケーションでエラー・メッセージ SQL30081N (sqlcode -30081) が戻される場合、通信エラーが検出されたことを意味します。通信サブシステムによって検出された実際のエラーは、-30081 エラー・メッセージのエラー・トークン・リストで戻されます。

以下のセクションに、戻される可能性がある通信エラーがリストされています。

エラー・コードはプロトコルによって次のようにグループ化されています。

- 『TCP/IP』
- 935 ページの『SOAP』
- 936 ページの『MQ』
- 936 ページの『SSL』
- 937 ページの『SOCKS』
- 938 ページの『HTTP』

### TCP/IP

UNIX 環境で TCP/IP を使用する際に、ユーザーが最も頻繁に検出する可能性があるエラー番号 (*errno*) が以下の表にリストされています。これは、エラーをすべて示したリストでは *ありません*。Errnos は、`/usr/include/sys/errno.h` ファイルで見つかります。Linux では、*errno* は `/usr/include/asm/errno.h` で見つけることができます。オペレーティング・システムごとの *errno* 番号が記載されています。

表 44. UNIX の TCP/IP *errno*。

| Errno  | AIX® の<br>errno 番号 | HP-UX の<br>errno 番号 | Solaris の<br>errno 番号 | Linux の<br>errno 番号 | 説明                             |
|--------|--------------------|---------------------|-----------------------|---------------------|--------------------------------|
| EINTR  | 4                  | 4                   | 4                     | 4                   | 指定された関数がシグナルにより割り込みを受けました。     |
| EBADF  | 9                  | 9                   | 9                     | 9                   | ソケットが不正です。ソケットは破損している可能性があります。 |
| EAGAIN | 11                 | 11                  | 11                    | 11                  | 一時的にリソースは利用不能です。               |

表 44. UNIX の TCP/IP errno。 (続き)

| Errno         | AIX® の<br>errno 番号 | HP-UX の<br>errno 番号 | Solaris の<br>errno 番号 | Linux の<br>errno 番号 | 説明                                                                                                                     |
|---------------|--------------------|---------------------|-----------------------|---------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| EFAULT        | 14                 | 14                  | 14                    | 14                  | アドレスが不正です。<br><br>接続時に、アドレスが不正です。<br><br>受信時に、存在しない処理アドレス・スペースで、または処理アドレス・スペースの保護されている部分でデータを受信するように指示されました。バッファが無効です。 |
| EBUSY         | 16                 | 16                  | 16                    | 16                  | リソースは使用中です。                                                                                                            |
| EINVAL        | 22                 | 22                  | 22                    | 22                  | 指定された関数に渡された引数が無効か、ソケットがクローズされています。これは、メモリーの上書き、バッファのオーバーフロー問題が生じた場合に戻されます。                                            |
| ENFILE        | 23                 | 23                  | 23                    | 23                  | システムで開いているファイルが多すぎます。                                                                                                  |
| EMFILE        | 24                 | 24                  | 24                    | 24                  | プロセスごとのファイル記述子表はいっぱいです。このプロセスのファイル記述子またはソケットの数を超過しました。                                                                 |
| ENOSPC        | 28                 | 28                  | 28                    | 28                  | デバイスまたはシステム表にスペースが残っていません。                                                                                             |
| EPIPE         | 32                 | 32                  | 32                    | 32                  | パイプ接続が切れています。                                                                                                          |
| EWOULDBLOCK   | 54                 | 246                 | 11                    | 11                  | 接続機能において、TCP/UDP 一時ポートに割り振られる範囲がすべて使用されています。(プラットフォームによっては、EAGAIN と同じエラー番号が戻されます。)                                     |
| ENOTSOCK      | 57                 | 216                 | 95                    | 88                  | 非ソケットでソケット操作が実行されました。                                                                                                  |
| ENOPROTOPT    | 61                 | 220                 | 99                    | 92                  | オプションが不明です。                                                                                                            |
| EADDRINUSE    | 67                 | 226                 | 125                   | 98                  | 指定されたアドレスは既に使用中です。接続を確立した以前の処理が異常終了したか、正しくクリーンアップされなかった可能性があります。                                                       |
| EADDRNOTAVAIL | 68                 | 227                 | 126                   | 99                  | 指定されたホスト名または IP アドレスはローカル・マシンから使用できません。                                                                                |

表 44. UNIX の TCP/IP *errno*。(続き)

| Errno        | AIX® の<br>errno 番号 | HP-UX の<br>errno 番号 | Solaris の<br>errno 番号 | Linux の<br>errno 番号 | 説明                                                                                                                                                                               |
|--------------|--------------------|---------------------|-----------------------|---------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ENETDOWN     | 69                 | 228                 | 127                   | 100                 | ネットワークはダウンしています。                                                                                                                                                                 |
| ENETUNREACH  | 70                 | 229                 | 128                   | 101                 | 使用できるネットワークまたはホストへの経路がありません。                                                                                                                                                     |
| ENETRESET    | 71                 | 230                 | 129                   | 102                 | ネットワークによってリセット時に接続がドロップされました。                                                                                                                                                    |
| ECONNRESET   | 73                 | 232                 | 131                   | 104                 | パートナーによって接続がリセットされました。                                                                                                                                                           |
| ENOBUFS      | 74                 | 233                 | 132                   | 105                 | 呼び出しを完了するためにシステムで使用できるメモリーまたはリソースが不足しています。                                                                                                                                       |
| EISCONN      | 75                 | 234                 | 133                   | 106                 | ソケットはすでに接続されています。                                                                                                                                                                |
| ENOTCONN     | 76                 | 235                 | 134                   | 107                 | ソケットが接続されていません。                                                                                                                                                                  |
| ETIMEDOUT    | 78                 | 238                 | 145                   | 110                 | 接続はタイムアウトになりました。                                                                                                                                                                 |
| ECONNREFUSED | 79                 | 239                 | 146                   | 111                 | 接続は拒否されました。データベースへの接続を試みている場合には、サーバーのデータベース・マネージャーおよび TCP/IP プロトコル・サポートが正常に開始されたことを確認してください。<br><br>SOCKS プロトコル・サポートを使用している場合には、SOCKS サーバーの TCP/IP プロトコル・サポートも正常に開始されるようにしてください。 |
| EHOSTDOWN    | 80                 | 241                 | 147                   | 112                 | ホストがダウンしています。                                                                                                                                                                    |
| EHOSTUNREACH | 81                 | 242                 | 148                   | 113                 | ホストへの経路は存在しません。                                                                                                                                                                  |

UNIX の TCP/IP 通信エラーについて詳細は、適切なオペレーティング・システムのテクニカル解説書を参照してください。以下のコマンドを発行することもできます。

```
man function-name
```

*function-name* は、エラーを戻した関数の名前を表します。特定の関数によって戻されるエラーに関する追加情報は、マニュアル・ページに記載されています。

Windows オペレーティング・システム上で TCP/IP を使用する際に、ユーザーが最も頻繁に検出する可能性があるエラー・コードを以下のリストに示します。これは、エラーをすべて示したリストでは ありません。戻されたエラーは、`winsock2.h` ファイルで検出できます。開発環境がインストールされていない場合、このファイルはシステムにインストールされていない可能性があります。特定の関数によって戻されるエラーに関する詳細情報は、Windows Sockets 2 Application Programming Interface に記述されています。この仕様のコピーは、次の Web サイトから入手できます。<http://www.sockets.com/winsock2.htm>

- **WSAEINTR (10004)**: 割り込まれた関数呼び出し。ブロッキング操作が割り込まれました。
- **WSAEFAULT (10014)**: アドレスが不正です。関数呼び出しの際に、システムが無効なポインター・アドレスを検出しました。このエラーは、アプリケーションが無効なポインター値を渡す場合、またはバッファの長さが小さすぎる場合に発生します。
- **WSAEINVAL (10022)**: 関数に渡された引数が無効です。このエラーは、ソケットが有効でなくなった、またはソケットの現在の状態が、呼び出される TCP 関数と互換性がない (例えば、データベースに接続する前に SQL ステートメントを発行しようとするときなど) ことを意味する場合もあります。
- **WSAEMFILE (10024)**: オープンされているファイルが多すぎます。オープンされているソケットが多すぎます。各インプリメンテーションでは、使用可能なソケット・ハンドルの最大数が、グローバルに、またはプロセスごとに、あるいはスレッドごとに定められています。
- **WSAEWOULDBLOCK (10035)**: 一時的にリソースは利用不能です。このエラーは、即時に完了できない非ブロッキング・ソケットでの操作から戻されます。
- **WSAEINPROGRESS (10036)**: ブロッキング Windows Sockets 操作が進行中です。Windows Sockets では、タスク (またはスレッド) ごとに、未解決のブロッキング操作は 1 つしか許されません。そして、他の関数呼び出しが行われた場合、その関数は **WSAEINPROGRESS** で失敗します。
- **WSAENOTSOCK (10038)**: 非ソケットでソケット操作が実行されました。操作がソケットでないものに対して試行されました。ソケット・パラメーターが正しいソケットを参照しなかったか、`select()` に関する `fd_set` のメンバーが無効でした。
- **WSAENOPROTOOPT (10042)**: プロトコル・オプションが不正です。 `getsockopt()` または `setsockopt()` 呼び出しで、不明、無効、またはサポートされないオプションまたはレベルが指定されました。
- **WSAEADDRINUSE (10048)**: アドレスがすでに使用されています。通常は、各ソケット・アドレス (プロトコル/IP アドレス/ポート) は 1 箇所でのみ使用できます。このエラーが発生するのは、アプリケーションがソケットを IP アドレス/ポートに `bind()` しようとし、その IP アドレス/ポートが既存のソケット用にすでに使用されている場合や、ソケットが適切にクローズされていなかったり、クローズの過程の途中であったりする場合です。
- **WSAEADDRNOTAVAIL (10049)**: 要求されたアドレスを割り当てることができません。要求されたアドレスはこのコンテキストでは正しくありません。通常、これはローカル・マシンに有効でないアドレスに対して `bind()` を試行した結果です。さらにこれは、リモート・アドレスまたはポートがリモート・マシンに関して正しくないときの、`connect()`、`sendto()` の結果である場合もあります。

- WSAENETDOWN (10050): ネットワークはダウンしています。ソケット操作が非活動のネットワークに遭遇しました。これはネットワーク・システムの深刻な障害 (WinSock DLL が暴走するプロトコル・スタックなど) や、ネットワーク・インターフェースまたはローカル・ネットワーク自体の深刻な障害を示している可能性があります。
- WSAENETUNREACH (10051): ネットワークが到達不能です。到達不能のネットワークに対してソケット操作が試行されました。これは普通、ローカル・ソフトウェアからリモート・ホストに到達するための経路がわからないことを意味します。
- WSAENETRESET (10052): リセット時にネットワークが接続をドロップしました。操作の進行中に「キープアライブ」アクティビティーが障害を検出したために、接続が切れました。すでに失敗した接続上で SO\_KEEPALIVE をセットしようとした場合に、stsocketp() によってこのエラーが戻されることもあります。
- WSAECONNABORTED (10053): ソフトウェアが接続を打ち切りました。ユーザーのマシンのソフトウェアが、確立された接続を打ち切りました。おそらく、データ伝送タイムアウトかプロトコル・エラーによるものです。
- WSAECONNRESET (10054): 接続が切断されました。リモート・ピアにより、既存の接続が強制クローズされました。これは通常は、リモート・マシンのピア・アプリケーションが突然停止したか、マシンがリポートされたか、あるいはピア・アプリケーションがリモート・ソケットで「ハード・クローズ」を使用した結果として生じます。また、このエラーは、1 つ以上の操作の進行中に、「キープアライブ」アクティビティーが障害を検出したために、接続が切れた結果として生じることもあります。進行中の操作は WSAENETRESET で失敗します。後続の操作は WSAECONNRESET で失敗します。
- WSAENOBUFS (10055): バッファ・スペースは使用可能ではありません。システムでバッファ・スペースが不足したか、またはキューがいっぱいになったために、ソケット上の操作が実行できませんでした。<sup>1</sup>
- WSAEISCONN (10056): ソケットはすでに接続されています。すでに接続されているソケットで接続要求が行われました。
- WSAENOTCONN (10057): ソケットは接続されていません。
- WSAETIMEDOUT (10060): 接続がタイムアウトになりました。一定時間がたっても接続の相手側が適切に応答しなかったために接続の試行が失敗したか、リモート・ノードが応答しなかったために確立された接続が失敗しました。応答がなかったのは、ネットワーク障害またはリモート・システムの障害が原因である可能性があります。
- WSAECONNREFUSED (10061): 接続は拒否されました。ターゲット・マシンがアクティブに拒否したため、接続できませんでした。これは通常、リモート・ホスト上の非アクティブなサービスに接続を試みた (例えば、実行しているサーバー・アプリケーションがないサービスなど) 結果として生じます。インスタンスへのアタッチまたはデータベースへの接続を試みる場合には、データベース・マネージャーと、サーバーでの TCP/IP プロトコル・サポートが正常に開始されたことを確認してください。このエラーは、ターゲット・マシンのファイアウォールが接続を拒否した場合にも生じることがあります。問題を解決するためには、接続要求を受け入れるよう、ファイアウォールが正しく構成されていることを確認してください。

- WSAEHOSTUNREACH (10065): ホストへの経路がありません。現在到達不能のマシンに対してソケット操作が試行されました。
- WSASYSNOTREADY (10091): 基礎ネットワーク・サブシステムは、ネットワーク通信をする用意ができていません。このエラーは、ネットワーク・サービスの提供に使用される基礎システムが使用不可能な状態になっているために Windows Sockets インプリメンテーションがこの時点では機能しない場合、WSAStartup() によって戻されます。適切な Windows Sockets DLL が現行パスに入っており、複数の WinSock インプリメンテーションを同時に使用していないことを確認してください。システムに複数の WinSock DLL がある場合には、パス内で最初のもので、現在ロードされているネットワーク・サブシステムに適したものであること、また、すべての必要なコンポーネントが現在インストール済みで正しく構成されていることを確認してください。
- WSAVERNOTSUPPORTED (10092): 要求されている Windows Sockets API サポートのバージョンは、この特定の Windows Sockets インプリメンテーションでは提供されていません。古い Windows Sockets DLL ファイルにアクセスしていないことを確認してください。
- WSANOTINITIALISED (10093): アプリケーションが WSAStartup() を呼び出していないか、WSAStartup() が失敗しました。現在アクティブ・タスクが所有していないソケットにアプリケーションがアクセスしている (タスク間でソケットの共有を試みているなど) か、WSACleanup() の呼び出し回数が多すぎました。あるいは、接続が終了しました。
- WSA\_E\_NO\_MORE (10110), WSAENOMORE (10102): 使用可能なデータがもうありません。Windows Sockets バージョン 2 では、WSAENOMORE と WSA\_E\_NO\_MORE とで競合するエラー・コードが定義されています。エラー・コード WSAENOMORE は将来のバージョンで取り除かれる予定であり、WSA\_E\_NO\_MORE だけが残されます。
- WSAHOST\_NOT\_FOUND (11001): ホストは見つかりません。
- WSATRY\_AGAIN (11002): ホストは見つかりません。ローカル・マシンがネーム・サーバーから応答を受信しなかったため、ネーム・サーバーからホスト名の IP アドレスを検索する要求は失敗しました。
- WSANO\_DATA (11004): 有効な名前で、要求されたタイプのデータ・レコードはありません。ネーム・サーバーまたはホスト・ファイルはホスト名を認識しません。または、サービス・ファイルではサービス名は指定されていません。

注:

1. WSAENOBUFFS (10055) エラー・コードは、使用可能な TCP ポートがない場合にも生成される場合があります。Windows のレジストリー変数 **MaxUserPort** を更新して、より多くのポートにアクセスすることができます。Windows のレジストリー変数の設定に関する詳細は、「Microsoft サポート オンライン」Web サイト (<http://support.microsoft.com/>) で確認することができます。

Windows での TCP/IP 通信エラーの詳細については、Windows Sockets の文書を参照してください。

## SOAP

SOAP を使用する際に発生するプロトコル・エラーを以下にリストします。括弧内の数字は、戻りコードに対応する定義された数を示します。

- SOAP\_UNEXPECTED\_NULL (38301): SOAP 通信関数への入力の 1 つ (SOAP アクション、SOAP エンドポイント、または SOAP 本文) が NULL でした。
- HTTP\_INITSOCKET (38303): ソケットの初期化エラー。
- HTTP\_ERROR\_UNKNOWN\_PROTOCOL (38304): URL で使用されるプロトコルが不明です。
- HTTP\_INVALID\_URL (38305): URL の構文が無効です。
- HTTP\_ERROR\_CREATE\_SOCKET (38306): ソケットの作成エラー。
- HTTP\_ERROR\_BIND\_SOCKET (38307): ソケットのバインド・エラー (バインド関数)。
- HTTP\_ERROR\_RESOLVE\_HOSTNAME (38308): 指定されたホスト名を解決できませんでした。
- HTTP\_ERROR\_SOCKET\_CONNECT (38309): ソケットへの接続エラー。
- HTTP\_ERROR\_GET\_PROTO (38310): TCP プロトコル名を取得できませんでした (getprotobyname 関数)。
- HTTP\_ERROR\_SET\_SOCKETOPT (38311): ソケット・オプションの設定エラー (setsockopt 関数)。
- HTTP\_ERROR\_UNEXPECTED\_RETURN (38312): 予期しない HTTP 戻りコード。
- HTTP\_ERROR\_RETURN\_CONTENTTYPE (38313): 予期しない HTTP コンテンツ・タイプ・ヘッダー属性値。
- SOAP\_SAX\_INIT (38314): SAX パーサーの初期化エラー。
- SOAP\_SAX\_CREATE\_PARSER (38315): SAX パーサーの作成エラー。
- SOAP\_SAX\_CREATE\_HANDLER (38316): SAX パーサー・ハンドラーの作成エラー。
- SOAP\_SAX\_ERROR (38317): SOAP の XML 構文解析中に例外が発生しました。
- SOAP\_SAX\_OUTENCODING (38318): XML メッセージのコード・ページ変換中にエラーが発生しました。
- HTTP\_ERROR\_WRITE\_SOCKET (39820): ソケットへの書き込みエラー。
- HTTP\_ERROR\_READ\_SOCKET (38322): ソケットからの読み取りエラー。
- HTTP\_ERROR\_SELECT\_WAITREAD (38323): select 関数でソケット・エラーが発生しました。
- SOAP\_ERROR\_XML\_SERIALIZE (38324): XML SOAP メッセージの書き込みエラー。
- SOAP\_ERROR\_NO\_NS\_END (38325): ネーム・スペースの処理エラー。
- SOAP\_ERROR\_FAULT (38326): Web サービスから SOAP の問題が戻されました。

## MQ

MQ を使用する際に発生するプロトコル・エラー・コードのいくつかを以下にリストします。このリストにすべてが掲載されているわけではありません。括弧内の数字は、戻りコードに対応する定義された数を示します。詳細については、MQ のプロトコルの資料を参照してください。

- MQRC\_CHAR\_ATTR\_LENGTH\_ERROR (2006)
- MQRC\_CONNECTION\_BROKEN (2009)
- MQRC\_HANDLE\_NOT\_AVAILABLE (2017)
- MQRC\_HCONN\_ERROR (2018)
- MQRC\_HOBJ\_ERROR (2019)
- MQRC\_MSG\_TOO\_BIG\_FOR\_Q (2030)
- MQRC\_MSG\_TOO\_BIG\_FOR\_Q\_MGR (2031)
- MQRC\_NO\_MSG\_AVAILABLE (2033)
- MQRC\_OBJECT\_CHANGES (2041)
- MQRC\_Q\_FULL (2053)
- MQRC\_Q\_SPACE\_NOT\_AVAILABLE (2056)
- MQRC\_Q\_MGR\_NAME\_ERROR (2058)
- MQRC\_Q\_MGR\_NOT\_AVAILABLE (2059)
- MQRC\_UNKNOWN\_OBJECT\_NAME (2085)

## SSL

Secure Sockets Layer (SSL) の使用時に、SSL サポート・ソフトウェア GSKit によってエラーが検出される場合があります。検出されるエラーを以下にリストします。

- 4: メモリー不足です。
- 6: 指定されたキー・ラベルがキー・ファイルで見つかりませんでした。
- 7: パートナーから証明書を受け取っていません。
- 8: 証明書の検証中にエラーが発生しました。
- 102: キー・ファイルの読み取り中に入出力エラーが発生しました。
- 103: キー・ファイルの形式が無効です。キー・ファイルを再度作成してください。
- 104: キー・ファイルに重複したキーがあります。
- 105: キー・ファイルに重複したラベルがあります。
- 106: キー・ファイルのパスワードが無効か、キー・ファイルが破損しています。
- 107: キー・ファイルのデフォルト・キーの証明書が有効期限切れです。
- 108: GSKit ライブラリーのロード中にエラーが発生しました。GSKit が正しくインストールされていることを確認してください。
- 201: キー・ファイルのパスワードが指定されていません。
- 202: キー・ファイルのオープン中にエラーが発生しました。キー・ファイルのパスが正しいことを確認してください。
- 401: システム日付が無効な値に設定されています。

- 403: 必要な証明書をパートナーから受け取っていません。
- 404: 必要な証明書をパートナーから受け取りましたが、証明書の形式が間違っています。
- 405: 受け取った証明書はサポートされないタイプです。
- 406: パートナーとの通信中に、入出力エラーが発生しました。
- 407: 指定されたクライアント証明書ラベルがキー・ファイルで見つかりませんでした。
- 408: キー・ファイルに提供されたパスワードが正しくありません。
- 409: キーの長さが無効です (長すぎます)。
- 410: 無効な形式の SSL メッセージをパートナーから受け取りました。
- 412: サポートされないプロトコルまたは証明書タイプをパートナーから受け取りました。
- 413: 受け取った証明書に無効なシグニチャーが含まれています。
- 414: 無効な形式の証明書をパートナーから受け取りました。
- 415: 無効な SSL プロトコルをパートナーから受け取りました。
- 417: 自己署名証明書が無効です。
- 420: パートナーは SSL プロトコルが完了する前に通信ソケットをクローズしました。
- 428: 指定されたキーには秘密鍵が含まれていませんでした。

## SOCKS

SOCKS プロトコルの使用時に、以下のエラーが検出される場合があります。

- 01: 一般的な SOCKS サーバー障害
- 02: Socks サーバーで定義されているルール・セットでは接続が許可されていません
- 03: 宛先ネットワークに到達できません
- 04: 宛先ホストに到達できません
- 05: リモート・ホストによって接続が拒否されました
- 06: TTL の有効期限が切れました (リモート・ホストが離れすぎています)
- 07: コマンドがサポートされていません。(内部エラー)
- 08: アドレス・タイプがサポートされていません。(内部エラー)
- 91: 要求が拒否されたか失敗しました。ユーザーまたはソース・プログラムは Proxy サーバーへのアクセスを許可されていません。
- 92: SOCKS サーバーが "identd" (IDENT サーバー) と接触できなかったため、要求が拒否されました。
- 93: クライアント・プログラムと identd が異なるユーザー ID を報告しているため、要求は拒否されました。

以下の値によって、使用される認証方式を識別できます。

- 00: 認証なし。
- 01: GSSAPI
- 02: USERNAME/PASSWORD

- FF: 受け入れ可能な方式は検出されませんでした。

## HTTP

HTTP プロトコルの使用時に発生する最も一般的なエラーを以下に示します。

- 400: 不正な要求
- 401: 許可されません。
- 403: 禁止
- 404: 見つかりません
- 407: Proxy 認証が必要です
- 408: 要求がタイムアウトになりました
- 413: 要求エンティティーが大きすぎます
- 414: 要求 URL が長すぎます
- 502: ゲートウェイが不正です。サーバーまたは Proxy が別のサーバー (または Proxy) から無効な応答を受け取ったことを示します。
- 503: サービスを利用できません。一時的なりソース不足です。
- 504: ゲートウェイがタイムアウトになりました。
- 505: HTTP のバージョンがサポートされていません。

---

## 第 5 部 付録



---

## 付録 A. DB2 技術情報の概説

DB2 技術情報は、さまざまな方法でアクセスすることが可能な、各種形式で入手できます。

DB2 技術情報は、以下のツールと方法を介して利用できます。

- DB2インフォメーション・センター
  - トピック (タスク、概念、およびリファレンス・トピック)
  - サンプル・プログラム
  - チュートリアル
- DB2 資料
  - PDF ファイル (ダウンロード可能)
  - PDF ファイル (DB2 PDF DVD に含まれる)
  - 印刷資料
- コマンド行ヘルプ
  - コマンド・ヘルプ
  - メッセージ・ヘルプ

**注:** DB2 インフォメーション・センターのトピックは、PDF やハードコピー資料よりも頻繁に更新されます。最新の情報を入手するには、資料の更新が発行されたときにそれをインストールするか、[ibm.com](http://ibm.com) にある DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

技術資料、ホワイト・ペーパー、IBM Redbooks® 資料などのその他の DB2 技術情報には、オンライン ([ibm.com](http://ibm.com)) でアクセスできます。DB2 Information Management ソフトウェア・ライブラリー・サイト (<http://www.ibm.com/software/data/sw-library/>) にアクセスしてください。

### 資料についてのフィードバック

DB2 の資料についてのお客様からの貴重なご意見をお待ちしています。DB2 の資料を改善するための提案については、[db2docs@ca.ibm.com](mailto:db2docs@ca.ibm.com) まで E メールを送信してください。DB2 の資料チームは、お客様からのフィードバックすべてに目を通しますが、直接お客様に返答することはありません。お客様が関心をお持ちの内容について、可能な限り具体的な例を提供してください。特定のトピックまたはヘルプ・ファイルについてのフィードバックを提供する場合は、そのトピック・タイトルおよび URL を含めてください。

DB2 お客様サポートに連絡する場合には、この E メール・アドレスを使用しないでください。資料を参照しても、DB2 の技術的な問題が解決しない場合は、お近くの IBM サービス・センターにお問い合わせください。

## DB2 テクニカル・ライブラリー (ハードコピーまたは PDF 形式)

以下の表は、IBM Publications Center ([www.ibm.com/e-business/linkweb/publications/servlet/pbi.wss](http://www.ibm.com/e-business/linkweb/publications/servlet/pbi.wss)) から利用できる DB2 ライブラリーについて説明しています。英語および翻訳された DB2 バージョン 10.1 のマニュアル (PDF 形式) は、[www.ibm.com/support/docview.wss?rs=71&uid=swg2700947](http://www.ibm.com/support/docview.wss?rs=71&uid=swg2700947) からダウンロードできます。

この表には印刷資料が入手可能かどうかを示されていますが、国または地域によっては入手できない場合があります。

資料番号は、資料が更新される度に大きくなります。資料を参照する際は、以下にリストされている最新版であることを確認してください。

注: DB2 インフォメーション・センターは、PDF やハードコピー資料よりも頻繁に更新されます。

表 45. DB2 の技術情報

| 資料名                                            | 資料番号         | 印刷資料が入手可能かどうか | 最終更新       |
|------------------------------------------------|--------------|---------------|------------|
| 管理 API リファレンス                                  | SA88-4671-00 | 入手可能          | 2012 年 4 月 |
| 管理ルーチンおよびビュー                                   | SA88-4672-00 | 入手不可          | 2012 年 4 月 |
| コール・レベル・イン<br>ターフェース ガイドお<br>よびリファレンス 第 1<br>巻 | SA88-4676-00 | 入手可能          | 2012 年 4 月 |
| コール・レベル・イン<br>ターフェース ガイドお<br>よびリファレンス 第 2<br>巻 | SA88-4677-00 | 入手可能          | 2012 年 4 月 |
| コマンド・リファレン<br>ス                                | SA88-4673-00 | 入手可能          | 2012 年 4 月 |
| データベース: 管理の<br>概念および構成リファ<br>レンス               | SA88-4662-00 | 入手可能          | 2012 年 4 月 |
| データ移動ユーティリ<br>ティー ガイドおよびリ<br>ファレンス             | SA88-4693-00 | 入手可能          | 2012 年 4 月 |
| データベースのモニタ<br>リング ガイドおよびリ<br>ファレンス             | SA88-4663-00 | 入手可能          | 2012 年 4 月 |
| データ・リカバリーと<br>高可用性 ガイドおよび<br>リファレンス            | SA88-4694-00 | 入手可能          | 2012 年 4 月 |
| データベース・セキュ<br>リティー・ガイド                         | SA88-4695-00 | 入手可能          | 2012 年 4 月 |

表 45. DB2 の技術情報 (続き)

| 資料名                                           | 資料番号         | 印刷資料が入手可能かどうか | 最終更新       |
|-----------------------------------------------|--------------|---------------|------------|
| DB2 ワークロード管理ガイドおよびリファレンス                      | SA88-4685-00 | 入手可能          | 2012 年 4 月 |
| ADO.NET および OLE DB アプリケーションの開発                | SA88-4665-00 | 入手可能          | 2012 年 4 月 |
| 組み込み SQL アプリケーションの開発                          | SA88-4666-00 | 入手可能          | 2012 年 4 月 |
| Java アプリケーションの開発                              | SA88-4669-00 | 入手可能          | 2012 年 4 月 |
| Perl、PHP、Python および Ruby on Rails アプリケーションの開発 | SA88-4670-00 | 入手不可          | 2012 年 4 月 |
| SQL および外部ルーチンの開発                              | SA88-4667-00 | 入手可能          | 2012 年 4 月 |
| データベース・アプリケーション開発の基礎                          | GI88-4279-00 | 入手可能          | 2012 年 4 月 |
| DB2 インストールおよび管理 概説 (Linux および Windows 版)      | GI88-4280-00 | 入手可能          | 2012 年 4 月 |
| グローバル化・ローカライゼーション・ガイド                         | SA88-4696-00 | 入手可能          | 2012 年 4 月 |
| DB2 サーバー機能 インストール                             | GA88-4679-00 | 入手可能          | 2012 年 4 月 |
| IBM データ・サーバー・クライアント機能 インストール                  | GA88-4680-00 | 入手不可          | 2012 年 4 月 |
| メッセージ・リファレンス 第 1 巻                            | SA88-4688-00 | 入手不可          | 2012 年 4 月 |
| メッセージ・リファレンス 第 2 巻                            | SA88-4689-00 | 入手不可          | 2012 年 4 月 |
| Net Search Extender 管理およびユーザズ・ガイド             | SA88-4691-00 | 入手不可          | 2012 年 4 月 |
| パーティションおよびクラスタリングのガイド                         | SA88-4697-00 | 入手可能          | 2012 年 4 月 |
| pureXML ガイド                                   | SA88-4686-00 | 入手可能          | 2012 年 4 月 |
| Spatial Extender ユーザズ・ガイドおよびリファレンス            | SA88-4690-00 | 入手不可          | 2012 年 4 月 |

表 45. DB2 の技術情報 (続き)

| 資料名                                               | 資料番号         | 印刷資料が入手可能<br>かどうか | 最終更新       |
|---------------------------------------------------|--------------|-------------------|------------|
| SQL プロシージャ言語:<br>アプリケーション<br>のイネーブルメントお<br>よびサポート | SA88-4668-00 | 入手可能              | 2012 年 4 月 |
| SQL リファレンス 第<br>1 巻                               | SA88-4674-00 | 入手可能              | 2012 年 4 月 |
| SQL リファレンス 第<br>2 巻                               | SA88-4675-00 | 入手可能              | 2012 年 4 月 |
| Text Search ガイド                                   | SA88-4692-00 | 入手可能              | 2012 年 4 月 |
| 問題判別およびデータ<br>ベース・パフォーマンス<br>のチューニング              | SA88-4664-00 | 入手可能              | 2012 年 4 月 |
| DB2 バージョン 10.1<br>へのアップグレード                       | SA88-4678-00 | 入手可能              | 2012 年 4 月 |
| DB2 バージョン 10.1<br>の新機能                            | SA88-4684-00 | 入手可能              | 2012 年 4 月 |
| XQuery リファレンス                                     | SA88-4687-00 | 入手不可              | 2012 年 4 月 |

表 46. DB2 Connect 固有の技術情報

| 資料名                                             | 資料番号         | 印刷資料が入手可能<br>かどうか | 最終更新       |
|-------------------------------------------------|--------------|-------------------|------------|
| DB2 Connect Personal<br>Edition インストールお<br>よび構成 | SA88-4681-00 | 入手可能              | 2012 年 4 月 |
| DB2 Connect サーバー<br>機能 インストールおよ<br>び構成          | SA88-4682-00 | 入手可能              | 2012 年 4 月 |
| DB2 Connect ユーザー<br>ズ・ガイド                       | SA88-4683-00 | 入手可能              | 2012 年 4 月 |

## コマンド行プロセッサから SQL 状態ヘルプを表示する

DB2 製品は、SQL ステートメントの結果の原因になったと考えられる条件の SQLSTATE 値を戻します。SQLSTATE ヘルプは、SQL 状態および SQL 状態クラス・コードの意味を説明します。

### 手順

SQL 状態ヘルプを開始するには、コマンド行プロセッサを開いて以下のように入力します。

```
? sqlstate または ? class code
```

ここで、*sqlstate* は有効な 5 桁の SQL 状態を、*class code* は SQL 状態の最初の 2 桁を表します。

例えば、? 08003 を指定すると SQL 状態 08003 のヘルプが表示され、? 08 を指定するとクラス・コード 08 のヘルプが表示されます。

---

## 異なるバージョンの DB2 インフォメーション・センターへのアクセス

他のバージョンの DB2 製品の資料は、ibm.com® のそれぞれのインフォメーション・センターにあります。

### このタスクについて

DB2 バージョン 10.1 のトピックを扱っている DB2 インフォメーション・センターの URL は、<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2luw/v10r1> です。

DB2 バージョン 9.8 のトピックを扱っている DB2 インフォメーション・センターの URL は、<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2luw/v9r8/> です。

DB2 バージョン 9.7 のトピックを扱っている DB2 インフォメーション・センターの URL は、<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2luw/v9r7/> です。

DB2 バージョン 9.5 のトピックを扱っている DB2 インフォメーション・センターの URL は、<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2luw/v9r5> です。

DB2 バージョン 9.1 のトピックを扱っている DB2 インフォメーション・センターの URL は、<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2luw/v9/> です。

DB2 バージョン 8 のトピックについては、DB2 インフォメーション・センターの URL (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2luw/v8/>) を参照してください。

---

## コンピューターまたはイントラネット・サーバーにインストールされた DB2 インフォメーション・センターの更新

ローカルにインストールした DB2 インフォメーション・センターは、定期的に更新する必要があります。

### 始める前に

DB2 バージョン 10.1 インフォメーション・センターが既にインストール済みである必要があります。詳しくは、「DB2 サーバー機能 インストール」の『DB2 セットアップ・ウィザードによる DB2 インフォメーション・センターのインストール』のトピックを参照してください。インフォメーション・センターのインストールに適用されるすべての前提条件と制約事項は、インフォメーション・センターの更新にも適用されます。

### このタスクについて

既存の DB2 インフォメーション・センターは、自動で更新することも手動で更新することもできます。

- 自動更新は、既存のインフォメーション・センターのフィーチャーと言語を更新します。自動更新を使用すると、手動更新と比べて、更新中にインフォメーション

ン・センターが使用できなくなる時間が短くなるというメリットがあります。さらに、自動更新は、定期的に行う他のバッチ・ジョブの一部として実行されるように設定することができます。

- 手動更新は、既存のインフォメーション・センターのフィーチャーと言語の更新に使用できます。自動更新は更新処理中のダウン時間を減らすことができますが、フィーチャーまたは言語を追加する場合は手動処理を使用する必要があります。例えば、ローカルのインフォメーション・センターが最初は英語とフランス語でインストールされており、その後ドイツ語もインストールすることにした場合、手動更新でドイツ語をインストールし、同時に、既存のインフォメーション・センターのフィーチャーおよび言語を更新できます。しかし、手動更新ではインフォメーション・センターを手動で停止、更新、再始動する必要があります。更新処理の間はずっと、インフォメーション・センターは使用できなくなります。自動更新処理では、インフォメーション・センターは、更新を行った後に、インフォメーション・センターを再始動するための停止が発生するだけで済みます。

このトピックでは、自動更新のプロセスを詳しく説明しています。手動更新の手順については、『コンピューターまたはイントラネット・サーバーにインストールされた DB2 インフォメーション・センターの手動更新』のトピックを参照してください。

## 手順

コンピューターまたはイントラネット・サーバーにインストールされている DB2 インフォメーション・センターを自動更新する手順を以下に示します。

1. Linux オペレーティング・システムの場合、次のようにします。
  - a. インフォメーション・センターがインストールされているパスにナビゲートします。デフォルトでは、DB2 インフォメーション・センターは、`/opt/ibm/db2ic/V10.1` ディレクトリーにインストールされています。
  - b. インストール・ディレクトリーから `doc/bin` ディレクトリーにナビゲートします。
  - c. 次のように `update-ic` スクリプトを実行します。

```
update-ic
```
2. Windows オペレーティング・システムの場合、次のようにします。
  - a. コマンド・ウィンドウを開きます。
  - b. インフォメーション・センターがインストールされているパスにナビゲートします。デフォルトでは、DB2 インフォメーション・センターは、`<Program Files>¥IBM¥DB2 Information Center¥バージョン 10.1` ディレクトリーにインストールされています (`<Program Files>` は「Program Files」ディレクトリーのロケーション)。
  - c. インストール・ディレクトリーから `doc¥bin` ディレクトリーにナビゲートします。
  - d. 次のように `update-ic.bat` ファイルを実行します。

```
update-ic.bat
```

## タスクの結果

DB2 インフォメーション・センターが自動的に再始動します。更新が入手可能な場合、インフォメーション・センターに、更新された新しいトピックが表示されます。インフォメーション・センターの更新が入手可能でなかった場合、メッセージがログに追加されます。ログ・ファイルは、`doc\%eclipse%configuration` ディレクトリにあります。ログ・ファイル名はランダムに生成された名前です。例えば、`1239053440785.log` のようになります。

---

## コンピューターまたはイントラネット・サーバーにインストールされた DB2 インフォメーション・センターの手動更新

DB2 インフォメーション・センターをローカルにインストールしている場合は、IBM から資料の更新を入手してインストールすることができます。

### このタスクについて

ローカルにインストールされた *DB2* インフォメーション・センター を手動で更新するには、以下のことを行う必要があります。

1. コンピューター上の *DB2* インフォメーション・センター を停止し、インフォメーション・センターをスタンドアロン・モードで再始動します。インフォメーション・センターをスタンドアロン・モードで実行すると、ネットワーク上の他のユーザーがそのインフォメーション・センターにアクセスできなくなります。これで、更新を適用できるようになります。*DB2* インフォメーション・センターのワークステーション・バージョンは、常にスタンドアロン・モードで実行されます。を参照してください。
2. 「更新」機能を使用することにより、どんな更新が利用できるかを確認します。インストールしなければならない更新がある場合は、「更新」機能を使用してそれを入手およびインストールできます。

**注:** ご使用の環境において、インターネットに接続されていないマシンに *DB2* インフォメーション・センター の更新をインストールする必要がある場合、インターネットに接続されていて *DB2* インフォメーション・センター がインストールされているマシンを使用して、更新サイトをローカル・ファイル・システムにミラーリングしてください。ネットワーク上の多数のユーザーが資料の更新をインストールする場合にも、更新サイトをローカルにミラーリングして、更新サイト用のプロキシを作成することにより、個々のユーザーが更新を実行するのに要する時間を短縮できます。

更新パッケージが入手可能な場合、「更新」機能を使用してパッケージを入手します。ただし、「更新」機能は、スタンドアロン・モードでのみ使用できます。

3. スタンドアロンのインフォメーション・センターを停止し、コンピューター上の *DB2* インフォメーション・センター を再開します。

**注:** Windows 2008、Windows Vista (およびそれ以上) では、このセクションの後の部分でリストされているコマンドは管理者として実行する必要があります。完全な管理者特権でコマンド・プロンプトまたはグラフィカル・ツールを開くには、ショートカットを右クリックしてから、「管理者として実行」を選択します。

## 手順

コンピューターまたはイントラネット・サーバーにインストール済みの DB2 インフォメーション・センターを更新するには、以下のようにします。

1. DB2 インフォメーション・センターを停止します。
    - Windows では、「スタート」 > 「コントロール パネル」 > 「管理ツール」 > 「サービス」をクリックします。次に、「DB2 インフォメーション・センター」サービスを右クリックして「停止」を選択します。
    - Linux では、以下のコマンドを入力します。

```
/etc/init.d/db2icdv10 stop
```
  2. インフォメーション・センターをスタンドアロン・モードで開始します。
    - Windows の場合:
      - a. コマンド・ウィンドウを開きます。
      - b. インフォメーション・センターがインストールされているパスにナビゲートします。デフォルトでは、DB2 インフォメーション・センターは、`Program_Files\IBM\DB2 Information Center\バージョン 10.1` ディレクトリーにインストールされています (`Program_Files` は Program Files ディレクトリーのロケーション)。
      - c. インストール・ディレクトリーから `doc\bin` ディレクトリーにナビゲートします。
      - d. 次のように `help_start.bat` ファイルを実行します。

```
help_start.bat
```
    - Linux の場合:
      - a. インフォメーション・センターがインストールされているパスにナビゲートします。デフォルトでは、DB2 インフォメーション・センターは、`/opt/ibm/db2ic/V10.1` ディレクトリーにインストールされています。
      - b. インストール・ディレクトリーから `doc/bin` ディレクトリーにナビゲートします。
      - c. 次のように `help_start` スクリプトを実行します。

```
help_start
```
- システムのデフォルト Web ブラウザーが開き、スタンドアロンのインフォメーション・センターが表示されます。
3. 「更新」ボタン (🔄) をクリックします。(ブラウザーで JavaScript が有効になっている必要があります。) インフォメーション・センターの右側のパネルで、「更新の検索」をクリックします。既存の文書に対する更新のリストが表示されます。
  4. インストール・プロセスを開始するには、インストールする更新をチェックして選択し、「更新のインストール」をクリックします。
  5. インストール・プロセスが完了したら、「完了」をクリックします。
  6. 次のようにして、スタンドアロンのインフォメーション・センターを停止します。
    - Windows の場合は、インストール・ディレクトリーの `doc\bin` ディレクトリーにナビゲートしてから、次のように `help_end.bat` ファイルを実行します。

help\_end.bat

注: help\_end バッチ・ファイルには、help\_start バッチ・ファイルを使用して開始したプロセスを安全に停止するのに必要なコマンドが含まれています。help\_start.bat は、Ctrl-C や他の方法を使用して停止しないでください。

- Linux の場合は、インストール・ディレクトリーの doc/bin ディレクトリーにナビゲートしてから、次のように help\_end スクリプトを実行します。

help\_end

注: help\_end スクリプトには、help\_start スクリプトを使用して開始したプロセスを安全に停止するのに必要なコマンドが含まれています。他の方法を使用して、help\_start スクリプトを停止しないでください。

#### 7. DB2 インフォメーション・センター を再開します。

- Windows では、「スタート」 > 「コントロール パネル」 > 「管理ツール」 > 「サービス」をクリックします。次に、「DB2 インフォメーション・センター」サービスを右クリックして「開始」を選択します。
- Linux では、以下のコマンドを入力します。

```
/etc/init.d/db2icdv10 start
```

## タスクの結果

更新された DB2 インフォメーション・センター に、更新された新しいトピックが表示されます。

---

## DB2 チュートリアル

DB2 チュートリアルは、DB2 データベース製品のさまざまな機能について学習するための支援となります。この演習をとおして段階的に学習することができます。

### はじめに

インフォメーション・センター (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2luw/v10r1/>) から、このチュートリアルの XHTML 版を表示できます。

演習の中で、サンプル・データまたはサンプル・コードを使用する場合があります。個々のタスクの前提条件については、チュートリアルを参照してください。

### DB2 チュートリアル

チュートリアルを表示するには、タイトルをクリックします。

「*pureXML* ガイド」の『**pureXML**®』

XML データを保管し、ネイティブ XML データ・ストアに対して基本的な操作を実行できるように、DB2 データベースをセットアップします。

---

## DB2 トラブルシューティング情報

DB2 データベース製品を使用する際に役立つ、トラブルシューティングおよび問題判別に関する広範囲な情報を利用できます。

## DB2 の資料

トラブルシューティング情報は、「問題判別およびデータベース・パフォーマンスのチューニング」または *DB2* インフォメーション・センターの『データベースの基本』セクションにあります。ここには、以下の情報が記載されています。

- *DB2* 診断ツールおよびユーティリティーを使用した、問題の切り分け方法および識別方法に関する情報。
- 最も一般的な問題のうち、いくつかの解決方法。
- *DB2* データベース製品で発生する可能性のある、その他の問題の解決に役立つアドバイス。

## IBM サポート・ポータル

現在問題が発生していて、考えられる原因とソリューションを見つけるには、IBM サポート・ポータルを参照してください。Technical Support サイトには、最新の *DB2* 資料、TechNotes、プログラム診断依頼書 (APAR またはバグ修正)、フィックスパック、およびその他のリソースへのリンクが用意されています。この知識ベースを活用して、問題に対する有効なソリューションを探し出すことができます。

IBM サポート・ポータル ([http://www.ibm.com/support/entry/portal/Overview/Software/Information\\_Management/DB2\\_for\\_Linux,\\_UNIX\\_and\\_Windows](http://www.ibm.com/support/entry/portal/Overview/Software/Information_Management/DB2_for_Linux,_UNIX_and_Windows)) にアクセスしてください。

---

## ご利用条件

これらの資料は、以下の条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

**適用度:** これらのご利用条件は、IBM Web サイトのあらゆるご利用条件に追加で適用されるものです。

**個人使用:** これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布 (頒布、送信を含む) または表示 (上映を含む) することはできません。

**商業的使用:** これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

**権利:** ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

**IBM® の商標:** IBM、IBM ロゴおよび [ibm.com](http://www.ibm.com) は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。



---

## 付録 B. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。IBM 以外の製品に関する情報は、本書の最初の発行時点で入手可能な情報に基づいており、変更される場合があります。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510  
東京都中央区日本橋箱崎町19番21号  
日本アイ・ビー・エム株式会社  
法務・知的財産  
知的財産権ライセンス渉外

**以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。** IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Canada Limited  
U59/3600  
3600 Steeles Avenue East  
Markham, Ontario L3R 9Z7  
CANADA

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確証できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、

利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。サンプル・プログラムは、現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる種類の保証も提供されません。IBM は、これらのサンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても責任を負いません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生した創作物には、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。© Copyright IBM Corp. \_年を入れる\_. All rights reserved.

## 商標

IBM、IBM ロゴおよび [ibm.com](http://ibm.com) は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

以下は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

- Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。
- Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。
- インテル、Intel、Intel ロゴ、Intel Inside、Intel Inside ロゴ、Celeron、Intel SpeedStep、Itanium、Pentium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Microsoft、Windows、Windows NT、および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。



---

## 索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

### [カ行]

更新

DB2 インフォメーション・センター 945, 947

ご利用条件

資料 950

### [サ行]

資料

印刷 942

概要 941

使用に関するご利用条件 950

PDF ファイル 942

### [タ行]

チュートリアル

トラブルシューティング 950

問題判別 950

リスト 949

pureXML 949

特記事項 953

トラブルシューティング

オンライン情報 950

チュートリアル 950

### [ハ行]

ヘルプ

SQL ステートメント 944

### [マ行]

メッセージ 1, 929

問題判別

チュートリアル 950

利用できる情報 950

## D

DB2 インフォメーション・センター

更新 945, 947

バージョン 945

## I

IBM Data Server

メッセージ 1, 929

## S

SQL ステートメント

ヘルプ

表示 944







Printed in Japan

SA88-4689-00



日本アイ・ビー・エム株式会社  
〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19-21

Spine information:

IBM DB2 10.1 for Linux, UNIX, and Windows

メッセージ・リファレンス 第 2 巻

